新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟建設工事

平成25年度

新潟市建築部公共建築第1課

発注図

GEN	総合										
01	図面表	05	特記仕様書（1）	09	特記仕様書（5）・室内遮音音響工事関連特記仕様書	13	現況地盤レベル図				
02	設計概要、面積表、附近見取図・案内図	06	特記仕様書（2）	10	配置図						
03	工事区分表（1）	07	特記仕様書（3）	11	建物求積図・求積表						
04	工事区分表（2）	08	特記仕様書（4）	12	仮設計画図						
A	建築工事（意匠）			B	建築工事（構造）			G	建築工事（外構）		
01	仕上表（共通事項）	46	部分詳細図（3）	01	構造仕様書	46	鉄骨詳細図（1）	01	現況平面図		
02	仕上表（1）	47	部分詳細図（4）	02	鉄筋コンクリート配筋規準図（1）	47	鉄骨詳細図（2）	02	外構計画高平面図		
03	仕上表（2）	48	部分詳細図（5）	03	鉄筋コンクリート配筋規準図（2）	48	鉄骨詳細図（3）	03	外構標準断面図－1		
04	仕上表（3）	49	部分詳細図（6）	04	鉄筋コンクリート配筋規準図（3）	49	鉄骨詳細図（4）	04	外構標準断面図－2		
05	1階平面図	50	部分詳細図（7）	05	鉄骨規準図（1）	50	（無線鉄塔）軸組図	05	横断面図－1		
06	2階平面図	51	部分詳細図（8）	06	鉄骨規準図（2）	51	（無線鉄塔）伏図、部材リスト	06	横断面図－2		
07	3階平面図	52	部分詳細図（9）	07	鉄骨規準図（3）	52	（無線鉄塔）溶接規準図、継手詳細図	07	横断面図－3		
08	4階平面図	53	部分詳細図（10）	08	想定地層断面図、ボーリング調査位置図	53	（無線鉄塔）鉄骨詳細図（脚部）	08	施設平面図－1		
09	5階平面図	54	部分詳細図（11）	09	ボーリング柱状図（1）	54	（無線鉄塔）鉄骨詳細図（中間～頂部）	09	施設平面図－2		
10	屋上平面図	55	部分詳細図（12）	10	ボーリング柱状図（2）	55	（無線鉄塔）鉄骨平面詳細図（1）（伏詳細）	10	施設構造図－1		
11	場外離着陸場平面図・詳細図	56	部分詳細図（13）	11	地盤改良配置図、地盤改良特記仕様書	56	（無線鉄塔）鉄骨平面詳細図（2）	11	施設構造図－2		
12	ピット平面図	57	部分詳細図（14）	12	杭・基礎伏図、基礎スラブ伏図・免震材料配置図	57	（無線鉄塔）鉄骨平面詳細図（3）	12	施設構造図－3		
13	免震層平面図	58	部分詳細図（15）	13	ピット伏図、1階床梁伏図	58	（無線鉄塔）階段、ラック詳細図	13	庁舎棟正面部詳細図		
14	立面図（1）	59	部分詳細図（16）	14	2階、3階床梁伏図	59	梁貫通孔補強要領、1階梁貫通伏図	14	入口歩道部詳細図		
15	立面図（2）	60	部分詳細図（17）	15	4階、5階床梁伏図	60	2階、3階梁貫通伏図	15	庁舎棟正面部擁壁詳細図		
16	断面図（1）	61	部分詳細図（18）	16	R階、HP階床梁伏図	61	4階梁貫通伏図	16	駐輪場（2）（3）周辺詳細図		
17	断面図（2）	62	部分詳細図（19）	17	軸組図（1）	62		17	西駐車場部詳細図		
18	1階天井伏図	63	部分詳細図（20）	18	軸組図（2）	63		18	補助訓練棟周辺部詳細図		
19	2階天井伏図	64	ホースリフター詳細図	19	軸組図（3）	64		19	屋外訓練場詳細図		
20	3階天井伏図	65	展開図（1）	20	軸組図（4）	65		20	雨水排水施設平面図		
21	4階天井伏図	66	展開図（2）	21	基礎リスト	66		21	雨水排水施設展開図－1		
22	5階天井伏図	67	展開図（3）	22	マットスラブリスト、擁壁リスト	67		22	雨水排水施設展開図－2		
23	建具表（共通事項）	68	展開図（4）	23	免震材料特記仕様書、免震材料リスト（1）	68		23	雨水排水施設展開図－3		
24	建具表（1）	69	展開図（5）	24	免震材料リスト（2）	69		24	雨水排水施設詳細図－1		
25	建具表（2）	70	展開図（6）	25	免震材料基礎リスト	70		25	雨水排水施設詳細図－2		
26	建具表（3）	71	展開図（7）	26	柱芯線図、柱脚リスト	71		26	雨水排水施設詳細図－3		
27	建具表（4）	72	展開図（8）	27	柱リスト	72		27	雨水排水施設構造図－1		
28	建具姿図（1）	73	展開図（9）	28	大梁リスト（1）	73		28	雨水排水施設構造図－2		
29	建具姿図（2）	74	展開図（10）	29	大梁リスト（2）	74		29	雨水排水施設構造図－3		
30	建具姿図（3）	75	展開図（11）	30	プレストレストコンクリート工事特記仕様書	75		30	貯留槽・油水分離槽配置計画図		
31	矩計図（1）	76	展開図（12）	31	プレストレストコンクリート梁キープラン、PC梁リスト	76		31	油水分離槽 3連式（600×600×H1200）構造図		
32	矩計図（2）	77	展開図（13）	32	プレストレストコンクリート断面配線図（1）	77		32	油水分離槽 4槽式（600×1200×1500）構造図		
33	エントランス廻り詳細図（1）	78	展開図（14）	33	プレストレストコンクリート断面配線図（2）	78		33	欠番		
34	エントランス廻り詳細図（2）	79	展開図（15）	34	プレストレストコンクリート梁端部詳細図（1）	79		34	耐震性貯留槽　根切り図		
35	1階東側廻り詳細図	80	展開図（16）	35	プレストレストコンクリート梁端部詳細図（2）	80		35	耐震性貯留槽　本体組立図		
36	通用口廻り詳細図	81	展開図（17）	36	プレストレストコンクリート梁端部詳細図（3）	81		36	耐震性貯留槽　埋設図		
37	吹抜1廻り詳細図	82	展開図（18）	37	小梁リスト、各部配筋図	82		37	欠番		
38	吹抜2廻り詳細図	83	展開図（19）	38	床版リスト、壁リスト	83		38	欠番		
39	屋上（5階）廻り詳細図	84	欠番	39	矩形配筋詳細図	84		39	非常発電機用　地下オイルタンク地盤改良図		
40	無線鉄塔詳細図	85	欠番	40	柱梁接合部配筋詳細図（1）	85		40	欠番		
41	階段1詳細図	86	昇降機仕様書・詳細図	41	柱梁接合部配筋詳細図（2）	86		41	外部サイン（1）		
42	階段2詳細図	87	欠番	42	柱梁接合部配筋詳細図（3）	87		42	外部サイン（2）		
43	階段3詳細図	88		43	各部配筋詳細図	88		43			
44	部分詳細図（1）	89		44	階段詳細図	89		44			
45	部分詳細図（2）	90		45	鉄骨部材リスト、鉄骨各部要領図			45			

改20130208	安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第129267号　高田　茂	新潟市建築部公共建築第1課	工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟建設工事	図名 図面表 年月日 2013.03.01	縮尺 / 図面番号 GEN-01

設計概要（共通）

1．一般事項

工事名称	新潟市消防局・中央消防署庁舎　庁舎棟建設工事		発注者	新潟市

敷地	敷地位置	新潟県新潟市中央区鐘木257番1		
	用途地域	・第一種低層住専　・第二種低層住専　・第一種中高層住専 ・第二種中高層住専　・第一種住居　・第二種住居　・準住居 ・近隣商業　・商業　・準工業　・工業　・工業専用　⊙指定なし		
	防火地域	・防火　・準防火　⊙法22条の地域　・指定なし ・2つの地域にわたる場合　（防火　㎡　準防火　㎡）		
	その他の指定（都市計画）	・美観地区　・風致地区（国立公園）　・駐車場整備地区 ・土地区画整理事業地区　・宅地造成工事規制区域　・砂防区域 ・総合的設計による一団地　・特定街区　⊙その他(市街化調整区域)		
道路	道路巾員	前面 53 m 県道曽野木一日市線	法42条(1) 項	（1）号道路
	壁面線後退			

面積	敷地面積	16,520.60 ㎡（ 4997.48 坪）		
		2つの地域にわたる場合（ ㎡ ㎡）		
		申請部分	申請以外の部分	合計
	建築面積	3000.66 ㎡	0 ㎡	3000.66 ㎡
	延べ面積 イ.建物全体	9852.58 ㎡	0 ㎡	9852.58 ㎡
	延べ面積 ロ.自動車車庫等の部分	955.66 ㎡	0 ㎡	955.66 ㎡
	延べ面積 ハ.蓄電池の設置部分	12.82 ㎡	0 ㎡	12.82 ㎡
	延べ面積 ニ.自家発電設備の設置部分	98.52 ㎡	33.78 ㎡	132.30 ㎡

工事概要	工事種別	⊙新築　・増築　・別棟増築　・増改築　・改築　・移転 ・用途変更　・大規模の修繕　・大規模の模様替え	
	主要用途	消防局・消防署・訓練棟	
	駐車場等	申請部分	179 台
		申請以外の部分	0 台
	建築物	1）（　）棟（　）造 2）（　）棟（　）造	※下記「建築物概要（棟別）」による。
	工作物	1）（ 庁舎照線鉄塔 ）（ 1 ）ヵ所 2）塀、門扉等　一式	
	外構	1）外構　一式 2）屋外排水設備　一式	
	造園	~~1）樹木　一式~~　※別途工事 ~~2）移設樹木　一式~~	
	解体	~~1）既存施設　解体一式　イ.便所　ロ.倉庫　ハ.遊具基礎　ニ.（　）棟~~ ~~2）樹木　伐採伐根　一式~~　※別途工事	
	工期予定	着工 平成25年 10月 日	竣工 平成27年 11月 日
形態規制	高度地区	~~内容:高さ規制~~　⊙高度地区の該当なし	
	高度利用地区	~~内容:容積率規制　%以上~~　⊙高度利用地区の該当なし	
	斜線制限	道路斜線・隣地境界斜線・北側斜線	
	日影規制	⊙日影による中高層の高さの制限に関わる対象区域外の区域	
	建ぺい率	3000.66 ／ 16520.60 ×100 ＝ 18.16 % ≦ 許容 60 %	
	容積率	(ｲ) 9852.58㎡x　1／5＝1970.51㎡ ≧ (ﾛ) 955.66㎡ (ｲ) 9852.58㎡x　1／50＝　197.051㎡ ≧ (ﾊ)　12.82㎡ (ｲ) 9852.58㎡x1／100＝　98.52㎡ ＜ (ﾆ) 132.30㎡故に、98.52㎡ →容積対象面積＝(ｲ) －((ﾛ) ＋ (ﾊ) ＋ (ﾆ))＝8785.58㎡ 8785.58／16520.60　×100 ＝　53.17%≦許容　200 %	

2．建築物概要（棟別）　※が本工事対象

棟名	庁舎棟※	別練棟 主訓練棟A塔	別練棟 補助訓練棟B塔	別練棟 補助訓練棟C塔
建物用途	消防署	消防訓練施設	同左	同左
工事種別	新築	新築	同左	同左
構造・規模	鉄筋コンクリート造5階建て（一部鉄骨鉄筋コンクリート造、鉄骨造、プレストレスコンクリート造）	鉄筋コンクリート造6階建て	鉄筋コンクリート造平屋建て	同左
基礎・杭	杭基礎	同左	同左	同左
屋根	外断熱アスファルト防水の上押えコンクリート	改質アスファルト防水の上押えコンクリート	押えコンクリートの上高強度ウレタン塗膜防水（粗面仕上）	同左
外壁	アルミスパンドレル(コンクリート下地、内断熱)	コンクリート打放補修の上撥水剤塗布	同左	同左
軒裏	アルミパネル	なし	なし	なし
建築面積	2213.31 m	248.92 ㎡	144.65 ㎡	76.30 ㎡
延べ面積	8321.15 ㎡	993.51 ㎡	139.20 ㎡	64.80 ㎡

各階床面積 階	庁舎棟※ ㎡（ 坪）	階高m	階別用途	主訓練棟A塔 ㎡（ 坪）	階高m	階別用途	補助訓練棟B塔 ㎡（ 坪）	階高m	階別用途	補助訓練棟C塔 ㎡（ 坪）	階高m	階別用途
6F				199.50㎡(60.34坪)	3.65	消防訓練施設						
5F	482.56 ㎡(145.97坪)	6.7m	庁舎	199.50㎡(60.34坪)	3.50	同上						
4F	1884.94 ㎡(570.19坪)	6.0m	同上	187.97㎡(56.86坪)	3.50	同上						
3F	1884.30 ㎡(570.00坪)	6.0m	同上	165.58㎡(50.08坪)	3.50	同上						
2F	1968.96 ㎡(595.61坪)	4.8m	同上	17.86㎡(5.40坪)	3.50	同上						
1F	2100.39 ㎡(635.36坪)	6.5m	同上	223.10㎡(67.48坪)	3.50	同上	139.20㎡(42.10坪)		消防訓練施設	64.80 ㎡(19.60坪)		消防訓練施設
合計	8321.15 ㎡(2517.14坪)			993.51㎡(300.53坪)			139.20㎡(42.10坪)			64.80 ㎡(19.60坪)		

高さ	庁舎棟※	主訓練棟A塔	補助訓練棟B塔	補助訓練棟C塔
最高の高さ	35.47m(設計GLから36.05m)	23.09m(設計GLから23.59m)	10.01m(設計GLから10.51m)	9.99m(設計GLから10.49m)
最高の軒の高さ	34.87m(設計GLから35.45m)	21.24m(設計GLから21.74m)	7.01m(設計GLから7.51m)	6.99(設計GLから7.49m)
前面道路の中心高と基準GLとの関係	設計GL＝TP＋0.6＝前面道路の中心高＋0.33	同左	同左	同左

棟名	広報車車庫	廃棄物保管庫	駐輪場（1）	駐輪場（2）	庇(車椅子用駐車場)※
建物用途	自動車車庫	廃棄物保管庫	バイク駐車場	自転車駐車場	自動車駐車場
工事種別	新築	同左	同左	同左	同左
構造・規模	鉄骨造平屋建て	鉄筋コンクリート造2階建て	アルミニウム合金押出形材架構	同左	鉄骨造平屋建て
基礎・杭	杭基礎	杭基礎	コンクリート基礎	同左	コンクリート基礎
屋根	折板葺(カラーガルバリウム鋼板t=0.8)	押えコンクリートの上ウレタン塗膜防水	折板葺(カラーガルバリウム鋼板 t ＝0.6)	同左	折板葺（カラーガルバリウム鋼板t=0.8）
外壁	押出し成形セメント板　t=60 防水系複層仕上塗材E	コンクリート打放補修の上撥水剤塗布	なし	なし	なし
軒裏	なし	なし	なし	なし	折板葺（カラーガルバリウム鋼板t=0.8）
建築面積	216.00 ㎡	25.20 ㎡	23.33 ㎡	12.67 ㎡	40.28 ㎡

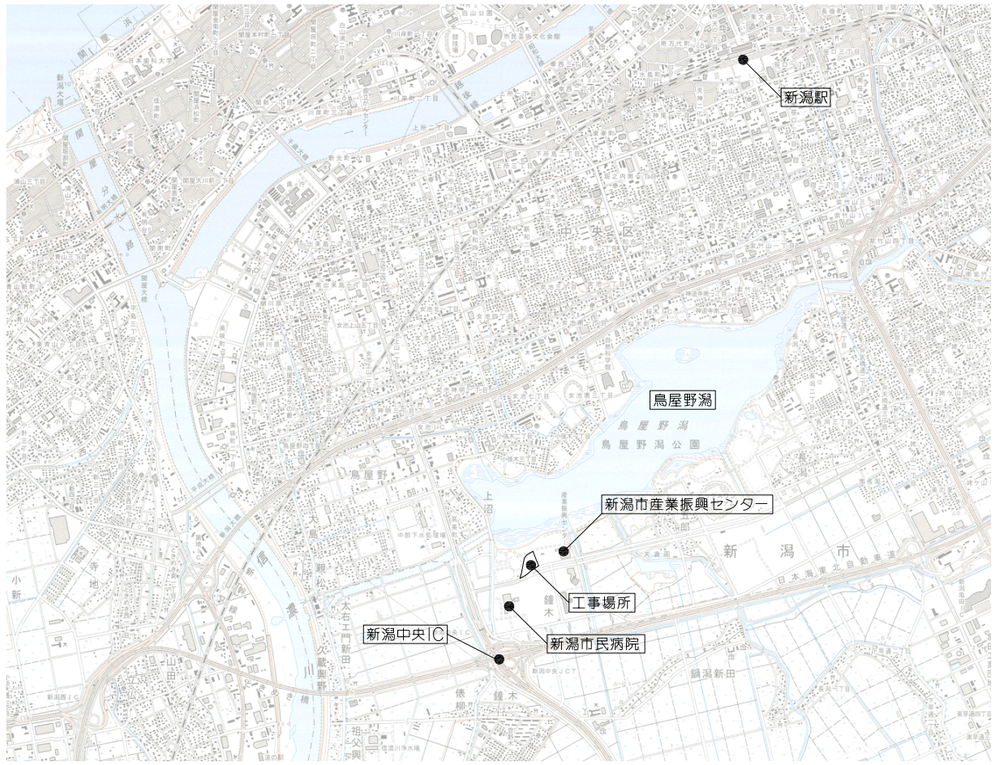
各階床面積 階	広報車車庫 ㎡（ 坪）	階高m	階別用途	廃棄物保管庫 ㎡（ 坪）	階高m	階別用途	駐輪場（1） ㎡（ 坪）	階高m	階別用途	駐輪場（2） ㎡（ 坪）	階高m	階別用途	庇(車椅子用駐車場)※ ㎡（ 坪）	階高m	階別用途
2F				12.62㎡ (3.81坪)	3.0 m	ガスボンベ室									
1F	216.00㎡ (65.34坪)	－	自動車車庫	25.20㎡ (7.62坪)	3.0 m	廃棄物保管庫	23.33 ㎡ (7.05坪)	－	自転車駐車場	12.67 ㎡ (3.83坪)	－	自転車駐車場	44.10 ㎡ (13.34坪)	－	自動車駐車場
合計	216.00㎡ (65.34坪)	－		37.82㎡ (11.44坪)			23.33 ㎡ (7.05坪)			12.67㎡ (3.83坪)			44.10 m (13.34坪)		

高さ	広報車車庫	廃棄物保管庫	駐輪場（1）	駐輪場（2）	庇(車椅子用駐車場)※
最高の高さ	5.33m(設計GLから5.83m)	6.79m(設計GLから7.29m)	2.50m(設計GLから3.00m)	同左	3.77m(設計GLから4.45m)
最高の軒の高さ	4.58m(設計GLから5.08m)	6.09m(設計GLから6.59m)	2.39m(設計GLから2.89m)	同左	3.50m(設計GLから4.18m)
前面道路の中心高と基準GLとの関係	設計GL＝TP＋0.6＝前面道路の中心高＋0.33	同左	同左	同左	同左

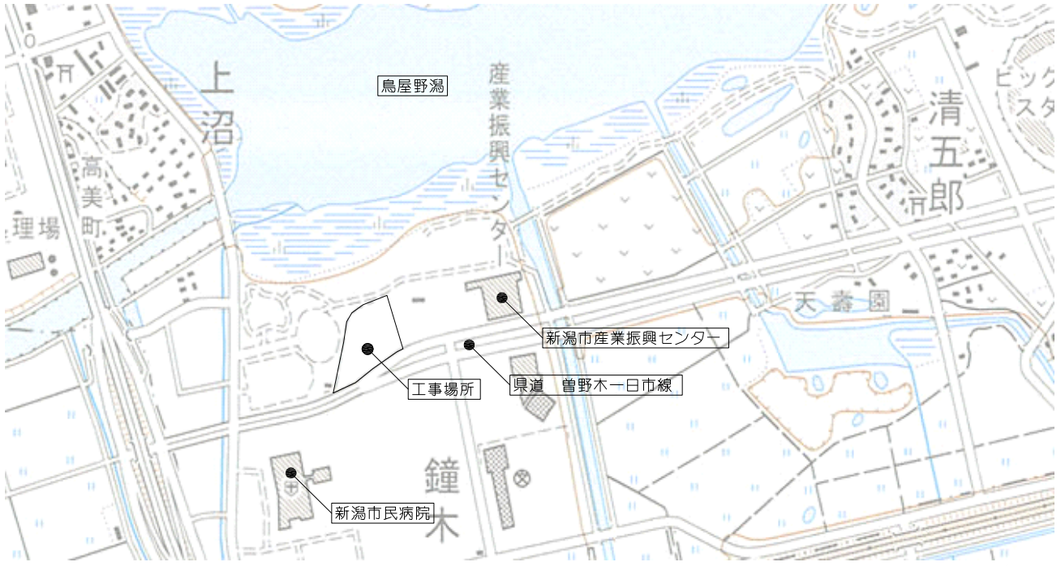
建築設備の種類	⊙給水	⊙排水	⊙電気	⊙ガス	⊙換気	⊙空調	⊙避雷針	⊙昇降機	⊙非常用照明	・非常用エレベーター	・機械排煙	・浄化槽
消防設備の種類	⊙火災報知設備	⊙非常警報	⊙誘導灯	⊙漏電警報	⊙屋内消火栓	・スプリンクラー	⊙連結送水管	・消防用水利	・屋外消火栓	⊙非常コンセント	・化学消火	⊙窒素ガス消火

3.その他（増・改築経歴等）	1996年まで遊園地（とやのレイクランド）として利用。その後駐車場として利用。

4．附近見取図・案内図



S=1/20000



S=1/5000

改2013.03.22
改2013.01.22

一級建築士　国土交通大臣登録　第201358号　村松　弘治

一級建築士　国土交通大臣登録　第269262号　楠木　賢一

安井・太陽設計共同体
管理建築士一級建築士第129267号　高田　茂

新潟市建築部公共建築第1課

工事名	図名	年月日	縮尺	図面番号
新潟市消防局・中央消防署庁舎　庁舎棟建設工事	設計概要、面積表、付近見取図・案内図 計通-A-01	2013.03.01	A1:1/、A3:1/	GEN-02

工事区分表（1）（共通）

工事区分表（1）

1）工事区分は○印がついたものを適用する。
2）付属棟は次の各棟を指す。「訓練棟」「広報車車庫」「廃棄物保管庫」「駐車場（1）」「駐車場（2）」

項　目	細　　目	庁舎棟	外構	付属棟（別途）	植栽（別途）		別途
1　仮　設	電力引込み工事（負担金を含む）	○					
	給水引込み工事（負担金を含む）	○					
	下水接続工事（負担金を含む）	○					
	ガス引込み工事（負担金を含む）	○					
	引込み以降の電力、給水、ガス工事	○		○	○		
	着工より引渡までの電力使用料金（基本料金を含む）	○		○	○		
	着工より引渡までの給水使用料金（基本料金を含む）	○		○	○		
	着工より引渡までの下水使用料金（基本料金を含む）	○		○	○		
	着工より引渡までのガス使用料金（基本料金を含む）	○		○	○		
	電話引込み工事、使用料金（基本料金を含む）	○		○	○		
	工事上各種申請届出費用	○		○	○		
	仮囲い	○					
	ガードマン	○					○
2　本設・引込み及び接続	電力工事	○					
	給水引込み工事	○					
	排水本管接続工事	○					
	ガス引込み工事	○					
	電話引込み工事（配管）	○					
	本受電以降の工事中の基本料金	○		○			○
	試運転調整用使用料金（電力、給水、排水、ガス等）	○		○			○
3　建築・工作物	庁舎	○					
	車椅子用駐車場（庇含む）	○					
	訓練棟A			○			
	訓練棟B			○			
	訓練棟C			○			
	廃棄物保管庫（2階ガスガバナー置場）			○			
	広報車車庫			○			
	駐輪場（1）			○			
	駐輪場（2）			○			
	駐輪場（3）屋根なし		○				
	自家給油所（オイルタンク、コンクリート壁含む）			○			
	耐震性雨水貯留槽		○				
	車椅子駐車場および庇	○					
	庁舎エントランス～車椅子駐車場廻り歩道舗装		○				
	旗竿（基礎含む）、懸垂幕架台（基礎含む）		○				
	掲示板＋電光掲示板設置壁面（基礎含む）		○				
	電光掲示板（既存移設工事）						○
	門扉（南側歩行者出入口）		○				
	門扉（東側：2ヶ所）		○				
	フェンス新設		○				
	既存フェンスネット交換、しのび返し新設		○				
	水避フェンス		○				
	ガードポール		○				
	車止め		○				
	私設消火栓（訓練用）	○					
	駐車場、敷地内通路（植栽ブロック、舗装、白線引き）		○				
	産業振興センター駐車場区画、通路変更工事（白線引き）						○
	訓練場		○				
	地盤改良工事　（静的締固め砂杭工法）	○					
	地盤改良工事　（深層混合処理工法）		○	○			

項　目	細　　目	庁舎棟	外構	付属棟（別途）	植栽（別途）		別途
4　雨水排水工事	庁舎建物内排水（第1桝まで）	○					
	庁舎南側車庫前排水溝	○					
	付属棟建物内排水（第1桝まで）			○			
	第1桝以降の排水管、側溝		○				
	敷地内雨水勾配、敷地高低調整工事		○				
5　植栽工事	敷地内植栽全般				○		
	庁舎建物外周植栽				○		
	駐車場植栽ブロック芝生張り				○		
6　電気設備工事	敷地内外灯	○					
	庁舎エントランス、車椅子駐車場、アプローチ廻り外灯	○					
	庁舎～付属棟、工作物への電源関係配管配線	○		○			
	庁舎～付属棟、工作物への弱電関係配管配線	○		○			
7　ガス設備工事	第一ガスガバナー工事（廃棄物保管庫2階）	○					
	第二ガスガバナー工事（庁舎2階）	○					
8　給排水設備工事	敷地内散水栓	○					
	敷地内消火設備	○		○			
	マンホールポンプ						○
	同上電源送り	○					
9　撤去解体工事	敷地内既存舗装						○
	既存便所（1）、スチールゲート、スロープ（タイル、コンクリート）						○
	既存便所（2）、仮設資材						○
	既存浄化槽コンクリート躯体・既存ポンプ小屋						○
	既存フェンス補修	○					
	既存フェンスネット（門扉共）撤去						○
	既存駐車場内外灯（既存コンクリート柱）　撤去移設	○					
	既存ハンドホール、既存マンホールポンプ、既存汚水槽						○
	既存フェンス基礎、既存土間コンクリート、既存水道メーター						○
	既存車両乗入口車止め（2ヶ所）						○
	敷地内既存遊具基礎						○
	敷地外既存遊具基礎						○
10　敷地外工事	南側道路中央分離帯切り下げ工事						○
	同上関係諸官庁協議、申請手続き						○
	南側道路歩道切り下げ工事						○

別途工事項目一覧表

項　目	細　　目			
1　家具・什器関係	家具・什器			
	パーティション関係			
	消防関係家具・備品（防火衣ロッカー、ベット等）			
	倉庫内棚関係（造付、図示以外の棚）			
	傘立て			
	分別ボックス、ゴミ箱、灰皿スタンド			
	カウンター（置式）			
	造作家具（局長室　収納1）			
	造作棚（署長室　収納2）			
	棚（倉庫（消防局）、倉庫（中央消防署）、食料備蓄庫、救急用備品庫			
	、清掃用具庫、消耗品倉庫、資機材庫（局・署兼用））			
	回転式防火衣掛けロッカー（防火衣着装室　）			
	多目的収納棚（救急備品庫）			
	多目的収納棚（資機材庫）			
	多目的収納棚（油庫）			
	多目的収納棚（ホース格納庫）			
	可動書架（書庫　棚、レール）			
	脱衣棚			
	下足箱			
	製股用ロッカー			
	棚（SK）			
	ビジュアルサイン（屋内、エントランス模名称サイン）			
2　備品関係	寝具関係、防火衣、雨具、活動用靴、長靴等			
	資機材関係、備蓄品関係			
	トレーニング機器			
	訓練用備品、訓練用道具（移動可能なもの、消耗品等）			
	自動販売機、給茶器、家電（冷蔵庫、電子レンジ等）			
	厨房内調理機器、食器関係			
	パソコン、プリンター、コピー、FAX（複合機）等			
	消火器（床置きトレイ）			
	時計、すのこ、灰皿			
3　実験関係	実験分析機器・器具（鑑識・鑑定室、調査実験分析室他）			
	実験用機器（消防設備自習室：消火ポンプ等）			
4　展示関係	展示品			
	展示用家具、什器			
	モニター視聴用椅子			
	体験学習用機器			
5　指令通信関係	指令システム関連工事（コンピュータ室機器含む）			
	画像伝送システム移設工事（大型アンテナ含む）			
	各施設無線設備撤去移設工事			
	NTT万代橋ビル設備関連工事			
	防災情報盤関係工事（1階消防署事務室）			
	市災害対策本部対応工事（3階講堂）			
	電話交換機、電話機器一式			
	LAN関係機器、システム一式			
	コンピューター、サーバー関係機器、システム一式			
	指令管制システム、コンピューター機器架台（床固定）			
	パラボラアンテナ260MHz空中線（無指向性アンテナ）本体・取付下地			
	ヘリコプターテレビ伝送システム本体及び設置架台			
6　既存移設工事	既存庁舎消防車移設工事			
	既存庁舎電光掲示板移設工事			
	既存庁舎懸架装置移設工事			
	既存庁舎家具・什器・備品等移設工事（引越）			
7　その他	電波障害対策費			
	地中障害撤去費			
	近隣対策費			
	インフラ関係負担金			
	敷地外工事			

追記事項

工事区分表（2）（共通）

工事区分表（2）

1）項目は番号に○印がついたものを適用する。
2）特記事項は ⊙印がついたものを適用する。
⊙印の付かない場合は、✱印の付いたものを適用する。
⊙印と✱印の付いた場合は、共に適用する。

項目	細目	建築	衛生	空調	電気	ガス	昇降機	別途
①仮　設	電力引込み工事（負担金を含む）	✱	⊙	⊙	⊙	⊙	⊙	⊙
	給水引込み工事（負担金を含む）	✱	⊙	⊙	⊙	⊙	⊙	⊙
	下水接続工事（負担金を含む）	✱	⊙	⊙	⊙	⊙	⊙	⊙
	ガス引込み工事（負担金を含む）	✱	⊙	⊙	⊙	⊙	⊙	⊙
	引込み以降の電力、給水、ガス工事	✱	⊙	⊙	⊙	⊙	⊙	⊙
	着工より引渡までの電力使用料金（基本料金を含む）	✱	⊙	⊙	⊙	⊙	⊙	⊙
	着工より引渡までの給水使用料金（基本料金を含む）	✱	⊙	⊙	⊙	⊙	⊙	⊙
	着工より引渡までの下水使用料金（基本料金を含む）	✱	⊙	⊙	⊙	⊙	⊙	⊙
	着工より引渡までのガス使用料金（基本料金を含む）	✱	⊙	⊙	⊙	⊙	⊙	⊙
	電話引込み工事、使用料金（基本料金を含む）	✱	⊙	⊙	⊙	⊙	⊙	⊙
	工事上各種申請届出費用　（竣工まで）	✱	⊙	⊙	⊙	⊙	⊙	⊙
	仮囲い	✱	・	・	・	・	・	・
	ガードマン	✱	・	・	・	・	・	⊙
②本般・引込み及び接続	電力工事	・	・	・	✱	・	・	・
	給水引込み工事	・	✱	・	・	・	・	・
	排水本管接続工事（区分は8による）	・	✱	・	・	・	・	⊙
	ガス引込み工事	・	✱	・	・	⊙	・	・
	電話引込み工事（配管）	・	・	・	✱	・	・	・
	本受電以降の工事中の基本料金	✱	⊙	⊙	⊙	⊙	⊙	⊙
	試運転調整用使用料金（電力、給水、排水、ガス等）	✱	⊙	⊙	⊙	⊙	⊙	⊙
③電気室・機械室等	配管・配線ピット及び蓋取付	✱	・	・	・	・	・	・
	コンクリート基礎及び仕上（床上）	✱	・	・	・	・	・	・
	四上基礎の補強	✱	・	・	・	・	・	・
	同上のアンカーボルト施工	・	✱	✱	✱	✱	✱	⊙
	機器搬出入用据付フック（補強共）	✱	・	・	・	・	・	・
	搬出入用マシンハッチ	✱	・	・	・	・	・	・
	機械室排水側溝及び蓋	✱	・	・	・	・	・	・
	室内金属屋根	✱	・	・	・	・	・	・
④発電機室他	配管・配線ピット及び蓋取付	✱	・	・	・	・	・	・
	コンクリート基礎及び仕上（床上）	✱	・	・	・	・	・	・
	四上基礎の補強	✱	・	・	・	・	・	・
	同上のアンカーボルト施工	・	・	・	✱	・	・	・
	機器搬出入用据付フック（補強共）	✱	・	・	・	・	・	・
	搬出入用マシンハッチ	✱	・	・	・	・	・	・
	発電機煙道、排気管	・	・	・	✱	・	・	・
	発電機煙突	✱	・	・	⊙	・	・	・
	発電機用オイルタンク	・	⊙	・	✱	・	・	・
	地中オイルタンク用外部・乾燥砂又は基礎防油堤（溝油防止塗装共）	✱	⊙	・	・	・	・	・
	同上マンホール類	・	⊙	・	✱	・	・	・
	発電機用オイルタンク地盤改良	⊙	・	・	・	・	・	・
	オイル供給配管、通気管、検知管、注油口	・	⊙	・	✱	・	・	・
	通常換気設備	・	・	✱	・	・	・	・
	発電機運転用換気設備	・	・	✱	・	・	・	・
	発電装置排気設備	・	・	✱	⊙	・	・	・
	発電機本体・発電機用サービスタンク	・	・	✱	⊙	・	・	・
⑤コンクリート製汚水槽・雑排水槽	槽本体防水仕上（配筋共）	✱	・	・	・	・	・	・
	防水防臭型マンホール、タラップ	✱	・	・	・	・	・	・
	釜場、隔壁用通気管、連通管、人通孔	✱	・	・	・	・	・	・
	満水警報	・	・	⊙	✱	・	・	・
	排水ポンプの制御（ユニット盤を除く）	・	・	⊙	✱	・	・	・
	ポンプピット用通気管、ベントキャップ	・	✱	・	・	・	・	・
	排水ポンプユニット盤	・	✱	・	・	・	・	・
	排水ポンプユニット盤一次側電源供給	・	・	・	✱	・	・	・
	排水ポンプユニット盤二次側電源供給及びレベルスイッチ配管配線	・	✱	⊙	・	・	・	・
⑥湧水槽	ポンプピット、隔壁用連通管、通気管、人通孔、釜場	✱	・	・	・	・	・	・
	マンホール、タラップ	✱	・	・	・	・	・	・
	ポンプピット用通気管、ベントキャップ	・	✱	・	・	・	・	・
	満水警報	・	・	⊙	✱	・	・	・
	排水ポンプの制御（ユニット盤を除く）	・	・	⊙	✱	・	・	・
	排水ポンプユニット盤	・	✱	・	・	・	・	・

項目	細目	建築	衛生	空調	電気	ガス	昇降機	別途
	排水ポンプユニット盤一次側電源供給	・	・	・	✱	・	・	・
	排水ポンプユニット盤二次側電源供給及びレベルスイッチ配管配線	・	✱	⊙	・	・	・	・
⑦コンクリート製消火ポンプ水源消防用水（防火水槽）	槽本体防水仕上	✱	・	・	・			
	釜場、隔壁用連通管、通気管、人通孔	✱	・	・	・	・	・	・
	防水防臭型マンホール、タラップ	✱	・	・	・	・	・	・
	ポンプピット用通気管、ベントキャップ	・	✱	・	・	・	・	・
	満減水警報（消火ポンプ水源）	・	・	⊙	✱	・	・	・
	~~満減水警報（消防用水）~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~	~~✱~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~
	補給水供給	・	✱	・	・	・	・	・
⑧排水経路及び外構工事	雨水排水経路	✱	・	・	・	・	・	・
	~~雨水調整池（仕上共）~~	~~✱~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~
	~~雨水調整槽より雨水貯留槽への配管~~	~~✱~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~
	排水槽よりのポンプアップ配管	・	✱	・	・	・	・	・
	汚水、雑排水経路（マンホール、化粧マンホール共）	・	✱	・	・	・	・	・
	~~同上化粧マンホールの仕上材貼り~~	~~✱~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~
	~~沈下的止用排水桝~~	~~✱~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~
	~~同上マンホール、点検蓋~~	~~✱~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~
	~~同上インパート施工防水モルタル仕上共~~	~~・~~	~~✱~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~
	~~沈下対策用コンクリート桝（仕上共、給水、消火用）~~	~~・~~	~~✱~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~
	~~同上用マンホール、点検蓋~~	~~・~~	~~✱~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~
	~~下水道本管への接続（雨水）~~	~~✱~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~
	下水道本管への接続（汚水）	・	✱	・	・	・	⊙	
	集水桝への接続	✱	・	・	・	・	・	・
	電力・電話引込み柱又はボックス（マンホール、化粧マンホール共）	・	・	・	✱	・	・	・
	~~同上用化粧マンホールの仕上材貼り~~	~~✱~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~
	~~地下二重壁内の排水配管~~	~~✱~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~
	~~コンクリート製給排気シャフトの排水配管~~	~~✱~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~
	~~玄関マットの排水管~~	~~✱~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~
	屋内排水のマンホール（コンクリート製以外）	・	✱	・	・	・	・	・
	屋内排水のマンホール（コンクリート製）	✱	⊙	・	・	・	・	・
⑨厨　房	グリーストラップ	・	✱	・	・	・	・	・
	排水側溝及び蓋	✱	・	・	・	・	・	・
	厨房機器、給排水器具類及び設置、取付	・	✱	・	・	・	・	⊙
	厨房機器、給排水器具への接続配管	・	✱	・	・	・	・	・
	厨房機器、給排水器具接続一次側電源供給	・	・	・	✱	・	・	・
	厨房機器の二次側電気配管配線	・	✱	・	・	・	・	・
	フード及び幕板	・	・	✱	・	・	・	・
	~~フード消火設備、及び二次側配管配線~~	~~・~~	~~✱~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~
	室内床防水押えコンクリート	✱	・	・	・	・	・	・
	~~冷蔵庫、冷凍庫用蓋板~~	~~✱~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~
	~~フード消火設備の一次側電源供給~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~	~~✱~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~
	~~フード消火設備の作動警報~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~	~~✱~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~
	~~フード消火設備とガス遮断弁との連動~~	~~・~~	~~✱~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~
⑩壁、床スリーブ箱入れ	RC造（開口）	✱	⊙	⊙	⊙	⊙	・	・
	同上補強	✱	・	・	・	・	・	・
	ＡＬＣ板、ブロック等（開口及び開口補強）	✱	・	・	・	・	・	・
	工場製作間仕切壁（開口及び開口補強）	✱	・	・	・	・	・	・
	~~軽量鉄骨、木造等（開口及び開口補強）~~							
⑪梁貫通スリーブ	RC造梁貫通スリーブ	✱	✱	✱	✱	✱	・	・
	同上補強	✱	・	・	・	・	・	・
	S造、SRC造梁貫通スリーブ及び補強	✱	・	・	・	・	・	・
	スリーブ穴埋め（必要部）	✱	✱	✱	✱	✱	・	・
	PC造梁貫通スリーブ及び補強	✱	・	・	・	・	・	・
	RC造スリーブ、箱入れ部穴埋め	✱	✱	✱	✱	✱	・	・
⑫天　井	機器、器具の取付用開口	✱	⊙	⊙	⊙	⊙	・	・
	同上補強	✱	・	・	・	・	・	・
⑬点検口	床、壁、天井の点検口　（マンホール含む）	✱	・	・	・	・	・	・
⑭ガラリ	外部給排気ガラリ（防鳥網、ダクト接続金物共）	✱	・	・	・	・	・	・
	同上接続ボックス	・	・	✱	・	・	・	・
	同上用防火ダンパ（ＦＤ）	・	・	✱	・	・	・	・
	ドアガラリ　（防虫ネット共）	✱	・	・	・	・	・	・
	~~内部けターンガラリ（開口補強）（図示範囲のみ建築工事）~~	~~✱~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~
	~~同上化粧グリル（開口補強）~~	~~✱~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~

項目	細目	建築	衛生	空調	電気	ガス	昇降機	別途
⑮カーテン　ブラインド	カーテン、ブラインド、暗幕	✱	・	・	・	・	・	⊙
	電動カーテンボックス、ブラインドボックス（レール共）	✱	・	・	・	・	・	
	~~電動カーテン類の操作盤、コントロールパネル~~	~~✱~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~
	~~コントロールパネル以降の二次側配管配線~~	~~✱~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~
	~~電動カーテン類の一次側電源供給~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~	~~✱~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~
⑯化学物質の測定	内装施工後の室内空気質測定	✱	・	・	・	・	・	・
⑰防火戸	煙感連動用レリーズ取付	・	・	・	✱	・	・	・
	レリーズ取付下地補強	✱	・	・	・	・	・	・
	連動制御盤及び配管配線	・	・	・	✱	・	・	・
⑱防火シャッター	煙感連動用シャッター、レリーズ取付	✱	・	・	・	・	・	・
	一次側電源供給	・	・	・	✱	・	・	・
	スイッチ及び配管配線	✱	・	・	・	・	・	・
	連動制御盤及び配管配線	・	・	・	✱	・	・	・
19可動防煙垂壁	煙感用可動防煙垂壁、レリーズ取付	✱	・	・	・	・	・	・
	一次側電源供給	・	・	・	✱	・	・	・
	連動制御盤及び配管配線	・	・	・	✱	・	・	・
⑳自動扉	電動装置、検知装置その他二次側配管配線	✱	・	・	・	・	・	・
	一次側電源供給	・	・	・	✱	・	・	・
	誘導、作動チャイム	✱	・	・	・	・	・	・
㉑電気錠	電気錠、建具内配管、通電蝶番	✱	・	・	・	・	・	・
	制御盤　（監視盤）	✱	・	・	⊙	・	・	・
	一次側電源供給	・	・	・	✱	・	・	・
	二次側配管配線	✱	・	・	⊙	・	・	・
	リミットスイッチより監視盤までの配管配線	・	・	・	⊙	・	・	・
㉒便所、湯沸室その他水廻り	洗面器カウンター及び切込み	✱	・	・	・	・	・	・
	同上鏡（大鏡・子鏡）	✱	⊙	・	・	・	・	・
	鏡（壁掛け洗面台の場合）	・	✱	・	・	・	・	・
	洗面器パック	✱	・	・	・	・	・	・
	感知フラッシュバルブ、自動水栓の電源供給	・	・	・	✱	・	・	・
	流し類 ~~（水栓共）~~（流し台、吊り戸棚）	✱	・	・	・	・	・	・
	~~同上水栓（住宅用）~~	~~✱~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~
	同上水栓 ~~（その他）~~	・	✱	・	・	・	・	・
	同上水切台（側面ふさぎ共）	✱	・	・	・	・	・	・
	バスユニット、~~シャワーユニット~~	✱	・	・	・	・	・	・
	洗面化粧台	✱	⊙	・	・	・	・	・
	洗濯機パン	✱	・	・	・	・	・	・
	電気湯沸器、電気温水器、電磁ヒータ	・	✱	・	・	・	・	・
	同上用電源供給	・	・	・	✱	・	・	・
	~~集中方式自動フラッシュバルブ制御盤以降の二次側配管配線~~	~~・~~	~~✱~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~
	~~同上制御盤への一次側電源供給~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~	~~✱~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~
	身体障害者用手摺類	✱	・	・	・	・	・	・
	ベビーベッド	✱	・	・	・	・	・	・
	ベビーホルダー	✱	・	・	・	・	・	・
	ペーパーホルダー	・	✱	・	・	・	・	・
	多目的WCユニット（衛生陶器、金物、手摺、水栓、ライニング含む）	⊙	・	・	・	・	・	・
	レンジフード	・	・	⊙	・	・	・	・
23空調・換気	~~ファンコイルユニット等ベリカウンター~~	~~✱~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~
	~~同上用吹出口（スイッチボックスを含むけターンスリット共）~~	~~✱~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~
	~~同上用吸出口のダクト接続~~	~~・~~	~~・~~	~~✱~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~
	~~ファンコイルのスイッチ及び配管配線工事~~	~~・~~	~~・~~	~~✱~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~
	~~同上用一次側電源供給~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~	~~✱~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~
	パッケージエアコンのスイッチ及び配管配線	・	・	✱	・	・	・	・
	パッケージ室内外機間の配管配線工事	・	・	✱	・	・	・	・
	同上室内機、室外機への一次側電源供給	・	・	・	✱	・	・	・
	全熱交換器ユニットのスイッチ、配管配線	・	・	✱	・	・	・	・
	同上電源供給	・	・	・	✱	・	・	・
	換気扇用穴明補強、枠取付	✱	・	⊙	・	・	・	・
	換気扇及び取付	・	・	✱	・	・	・	・
	換気扇スイッチ及び配管配線	・	・	・	✱	・	・	・
	換気扇用サーモスタット（単相機器）	・	・	⊙	✱	・	・	・
24中央監視室（防災センター）	OAフロアー	✱	・	・	・	・	・	・
	総合盤（各種制御盤組込用）	・	・	✱	✱	・	・	・
	同上幕板	✱	・	・	・	・	・	・

項目	細目	建築	衛生	空調	電気	ガス	昇降機	別途
	OAフロアー内チャンネルベース	・	・	✱	✱	・	・	・
	総合盤内制御盤取付調整	✱	✱	✱	✱	・	✱	・
	中央監視設備	・	・	✱	✱	・	・	・
25制御関係	動力制御盤（電気設備工事外）の取付、及び二次側配管配線	✱	✱	✱	・	・	・	・
	制御盤への一次側電源供給	・	・	・	✱	・	・	・
	空調自動制御盤用電源配管配線	・	・	✱	・	・	・	・
	空調自動制御盤以降二次側配管配線	・	・	✱	・	・	・	・
	中央監視盤よりRS盤までの配管配線	・	・	⊙	✱	・	・	・
	ＲＳ盤より空調自動制御盤・動力制御盤までの配管配線	・	・	✱	✱	・	・	・
26消火関係	各種消火栓格納箱の壁開口及び補強	✱	・	・	・	・	・	・
	消火栓	・	✱	・	・	・	・	・
	消火栓組込の総合盤取付用箱加工	・	✱	・	・	・	・	・
	総合盤の取付	・	✱	・	✱	・	・	・
	~~石貼消火栓格納箱の石貼り~~	~~✱~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~
	~~採水口、送水口用自立型取付盤~~	~~✱~~	~~✱~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~
	~~送水口用バルブボックス~~	~~・~~	~~✱~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~
	消火ポンプ起動制御盤	・	✱	・	・	・	・	・
	起動制御盤以降二次側配管配線	・	✱	・	・	・	・	・
	起動制御盤への電源送り	・	・	・	✱	・	・	・
	起動制御盤よりの移報用配管配線・警報表示	・	・	・	✱	・	・	・
	アラーム弁・ポンプ起動制御盤間の配管配線	・	✱	・	✱	・	・	・
	屋内消火ポンプ起動押釦の取付及び配管配線	・	・	・	✱	・	・	・
	屋内消火ポンプ位置表示灯、始動表示灯及び配管配線	・	・	・	✱	・	・	・
	消火器ボックス	✱	・	・	・	・	・	・
	消火器（床置消火器設置台含む）	・	・	・	・	・	・	⊙
	ガス緊急遮断弁及び制御盤、遠隔操作盤工業用ガス検知器	・	・	・	・	✱	・	・
	同上制御盤一次側電源供給及び移報表示	・	・	・	✱	・	・	・
	同上制御盤以降二次側の配管配線	・	・	・	・	✱	・	・
	消防法準拠のガス漏れ警報設備	・	・	・	✱	・	・	・
	ガス連動遮断弁の操作、制御用配管配線	・	・	⊙	・	✱	・	・
	ガス連動遮断弁及び制御盤、ガス漏れ警報器	・	・	・	⊙	✱	・	・
	同上二次側配管配線	・	・	⊙	・	✱	・	・
	同上移報表示	・	・	⊙	✱	・	・	・
27昇降機	機械室床開口及び補強	✱	・	・	・	・	・	・
	機械室床かさ上コンクリート打及び仕上	✱	・	・	・	・	・	・
	機械室天井フック	✱	・	・	・	・	・	・
	中間ビーム、ブラケット、ビーム受鉄骨柱	✱	・	・	・	・	・	・
	昇降路内ピット防水及び排水桝	✱	・	・	・	・	・	・
	昇降路内支持材	✱	・	・	・	・	✱	・
	昇降路出入口扉、三方枠、幕板	・	・	・	・	・	✱	・
	入口扉、ホール釦、インジケーター等の開口	✱	・	・	・	・	・	・
	機械室制御盤までの一次側電源及び接地線供給と接続まで	・	・	・	✱	・	・	・
	制御盤以降の二次側電気工事	・	・	・	・	・	✱	・
	昇降路内の各種機器・配管配線	・	・	・	・	・	✱	・
	昇降機用インターホン取付、調整	・	・	・	・	・	✱	・
	昇降路外の各種配管配線	・	・	・	✱	・	・	・
	~~機械室内部の換気設備~~	~~・~~	~~・~~	~~✱~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~
	~~換気用サーモスタット取付~~	~~・~~	~~・~~	~~✱~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~
	昇降路点検タラップ	✱	・	・	・	・	・	・
	~~エレベーター、エスカレーター監視盤~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~	~~✱~~	~~・~~
	~~監視盤～制御盤間の監視・制御用の配管配線~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~	~~✱~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~
	~~エスカレーター下面照明器具~~	~~・~~	~~・~~	~~✱~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~
	~~エスカレーター三角安全板~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~	~~✱~~	~~・~~
	~~非常用エレベーター附室内・避難室内板~~	~~✱~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~	~~・~~
28その他								

・昇降機設備工事は建築工事に含まれるため、昇降機欄の上記区分は建築工事内の見積区分と読み替えること。

安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第129267号　高田　茂	新潟市建築部公共建築第1課	工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎　庁舎棟建設工事	図名 工事区分表（2） 年月日 2013.03.01	縮尺 / 図面番号 GEN-04

新潟市消防局・中央消防署庁舎　庁舎棟建設工事

仕　様　書

Ⅰ 共通仕様

1.本共通仕様及び特記仕様に記載されてない事項は、「国土交通省大臣官房官庁営繕部監修　公共建築工事標準仕様書（建築工事編）平成22年版」（以下「標仕」という。）による。

2.標仕に用いられている用語を次のとおり読み替える。
(1)「契約書」を「新潟市契約規則による帳票規定(昭和41年4月1日訓令第9号)別記様式第6号の2の工事請負契約約款、及びその他の関連要綱」（以下「約款等」という。)に読み替える。
(2)「監督職員」を「監督員」に読み替える。
(3)「特記仕様書」を「特記仕様」に読み替える。

3.次の各号に該当する標仕の項目について、標仕の規定を別表に置き換えて適用する。
(1)　1章　1.1.2用語の定義の(1)及び(21)
(2)　〃　1.4.2材料の品質等の(a)及び(b)
(3)　〃　1.4.4材料の検査等の(a)
(4)　〃　1.6.1工事検査の(b)及び(d)

4.次に掲げる標仕の規定は、適用しない。
1章 1.1.2　用語の定義の(22)
〃 1.6.2　技術検査

別　表（建築工事）

号	項 目	置き換え後の標仕の規定
	1章　一般共通事項	
(1)	1.1.2　用語の定義	(1)「監督員」とは、約款第10条の規定により請負者に通知された者をいう。
		(21)「工事検査」とは、約款に規定する次の各事項の確認をするために発注者又は検査職員が行う検査をいい、工事の施工体制、施工状況、出来形、品質及び出来ばえの検査を含む。 ①工事の完成(約款第32条) ②部分払の請求に係る出来形部分又は部分払指定工事材料等(約款第38条) ③部分引渡しの指定部分に係る工事の完成(約款第39条) ④契約の解除時における出来形部分(約款第48条) ⑤その他　新潟市請負工事検査要綱第5条に定める検査(新潟市請負工事検査要綱第5条)
(2)	1.4.2　材料の品質等	(a)工事に使用する材料は「建築材料・設備機材等品質性能評価事業　建築材料等評価名簿（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修）契約時の最新版」の名簿に記載されている品目については、当該名簿に記載されている材料又は製造所の製品とするほか、設計図書に定める品質及び性能を有する新品とする。ただし、仮設に使用する材料は、新品でなくてもよい。
		(b)使用する材料が、設計図書に定める品質及び性能を有することの証明となる資料を監督員に提出する。 ただし、JIS又はJASのマーク表示のある材料を使用する場合及びあらかじめ監督員の承諾を受けた場合(次の(1)から(3)のいずれかに該当する材料を使用する場合は、あらかじめ監督員の承諾を受けたとみなすことができる。)は、資料の提出を省略することができる。 (1)建築基準法その他の認定品で、マーク等の確認ができる材料 (2)建築材料・設備機材等品質性能評価事業　建築材料等評価名簿に記載されている材料又は製造所の製品（特記で標仕の規定に基づく品質及び性能以外を規定した場合を除く.) (3)特記により指定された材料又は製造者の製品
(3)	1.4.4　材料の検査等	(a)現場に搬入した材料は、種別ごとに監督員の検査を受ける。 ただし、次の(1)若しくは(2)に該当する場合またはあらかじめ監督員の承諾を受けた場合は、この限りでない。 (1)工事完成検査時または工事写真で、JIS若しくはJASのマークを確認できる場合 (2)建築基準法その他の認定品と指定された材料で、工事完成検査時または工事写真で品質、性能を証明するマーク等を確認できる場合
(4)	1.6.1　工事検査	(b)約款に規定する部分払を請求する場合は、当該請求に係る出来形部分等の算出方法について監督員の指示を受けるものとする。 (d)新潟市請負工事検査要綱第5条に定める検査を受けるものとする。

改20130208

Ⅱ 特記仕様

1.項目は、番号に ○印の付いたものを適用する。
2.特記事項は、⊙印の付いたものを適用する。
⊙印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。
⊙印と⊛印の付いた場合は、共に適用する。
3.特記事項に記載の(　.　.　)内の表示番号は、標仕の当該項目、当該図または当該表を示す。
なお、(参考　.　.　)は標仕の各部配筋参考図を表す。
4.　製造所名は、五十音順とし「株式会社」等の記載は省略する。また（　）内は製品名を示す。

章	項　目	特　記　事　項

① 一般共通事項

①工事実績情報の登録
別添の特記仕様書による。 (1.1.4)

②概成工期
※無し　⊙有(工期　平成27年5月29日) (1.2.1)
4、5階指令システム関連室及び鉄塔

③品質計画等
建築基準法に基づき指定する条件 (1.2.2)
⊙地区の区分に応じた風速（Vo（m／sec））⊙30　・32
⊙地表面粗度区分　・Ⅰ　・Ⅱ ⊙Ⅲ　・Ⅳ
⊙多雪地域の指定　積雪区分　建告示第1455号　別表（30）

④監理技術者の要件
※次に掲げる基準を全て満たす監理技術者を専任で配置できること。
1　建築工事の施工に関し、10年以上の実務経験を有すること。
2　建築工事に係る監理技術者証を有するものであること。

⑤電気保安技術者
⊙要（電気主任技術者　）　・不要 (1.3.3)

⑥発生材の処理等
産業廃棄物処理計画書を作成，提出し監督員の承諾を受ける。 (1.3.8)

⑦特別な材料の工法

⑧技　能　士 (1.5.2)

適用工事種別	技能検定の職種
鉄筋工事	⊙鉄筋施工(鉄筋組立て作業)
コンクリート工事	⊙型枠施工
鉄骨工事	⊙とび
ブロック.ALCパネル工事	⊙ブロック建築　・ALCパネル施工
防水工事	⊙アスファルト防水工事作業　⊙塗膜防水工事作業
	・合成ゴム系シート防水工事作業　⊙シーリング防水工事作業
石工事	・石材施工（石張り施工）
タイル工事	⊙タイル張り
木工事	⊙建築大工
屋根及びとい工事	⊙建築板金（内外装板金作業）　・スレート施工
金属工事	⊙内装仕上げ施工（鋼製下地工事作業）
左官工事	⊙左官
建具工事	⊙サッシ施工　⊙ガラス施工　⊙フィルム施工
カーテンウォール工事	⊙カーテンウォール施工~~(PC)~~ ⊙サッシ施工　⊙ガラス施工
塗装工事	⊙塗装（建築塗装作業）
内装工事	⊙プラスチック系床仕上げ工事作業　⊛畳製作作業
	⊙ボード仕上げ工事作業　⊙表装（壁装作業）
植栽工事	・造園

⑨見本施工
※実施しない　・実施する(　) (1.5.5)

⑩化学物質の濃度測定
24追加特記　1室内空気有機化学物質低減対策による。 (1.5.9)

⑪完成図等
⊛下記のものを作成し提出する。なお、作成方法・部数等は、監督員の指示による。
・案内図及び配置図　・平面図　・立面図　・断面図 (1.7.1~1.7.3)
・仕上表　・矩計図　・断面詳細図（階段詳細図含む）⊙設計図面全て
⊙建物の保全に関する説明書(取扱説明書を含む.)
⊙室内空気汚染に関する台帳整備
⊙室内空気測定調査報告書
⊛CADデータ　・原図　⊙陽画複写図　3 部
⊙その他監督員が指定した図面

⑫施工図等の取扱
施工図等の著作権に係わる当該建築物に限る使用権は、発注者に委譲するものとする。

⑬工事完成写真
工事完了後整理のうえ監督員に提出する。　※提出部数　3 部
⊙写真の電子データ提出

⑭特別完成写真
写真専門業者の撮影した外観カラー写真　3 部提出する。
大きさ ⊛キャビネ　・半紙　⊙写真の電子データの提出

⑮工事施工状況写真
※工事施工状況写真の撮影は、工事に係る材料、施工及び品質管理の状況が確認できるように行うものとし、「国土交通省大臣官房官庁営繕部監修　工事写真の撮り方 改訂第3版 建築編」を参考に、撮影計画書を作成して、監督員に提出する。
ただし、あらかじめ監督員の承諾を受けた場合は、撮影計画書の作成を省略できる
※提出部数 1 部

⑯設備工事との取合い
図示による。

2 仮設工事

1 監督員事務所等
・監督員事務所　・10　・20　・35　・65　・　㎡程度を設ける。 (2.3.1)
・仮設事務所の中に監督員用空間を　㎡程度確保する。

②監督員用備品等
監督員用備品として、下記のものを工事期間中常備する。 (2.3.1)
⊙保護帽 5 ケ（新潟市章及び新潟市を記入）
⊙雨具　5 着　⊙長靴　5 足　⊙安全帯 5 組

③工 事 用 水
構内既存の施設　※利用できない　・利用できる（※有償　・無償）

④工事用電力
構内既存の施設　※利用できない　・利用できる（※有償　・無償）

⑤仮設建物等
現場事務所.倉庫.下小屋等の仮設建物の位置はあらかじめ監督員の承諾を受ける。

⑥外部足場
※枠組足場　・その他（　）
足場は，「「手すり先行工法に関するガイドラインについて」」（厚生労働省基発第0424001号平成21年4月24日）の「手すり先行工法等に関するガイドライン」により，「働きやすい安心感のある足場に関する基準」に適合する手すり，中さん及び幅木の機能を有する足場とし，足場の組立て，解体又は変更の作業は，「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」の2の（2）手すり据置方式又は（3）手すり先行専用足場方式により行うこと。

③ 土工事

①埋戻し及び盛土
・A種　※B種　・C種　・D種　・建設汚泥から再生した処理土 (3.2.3)(表3.2.1)

②建設発生土の処理
・構内指示の場所（・敷き均し　・堆積） (3.2.5)
⊙構外搬出適切処理(指定場所：自由処分とする)
・処分地未特定のため、場内仮置きとし契約後変更とする

④ 地業工事

①試験 (4.2.1~4.2.4)
試験杭
位置、本数及び寸法　※図示　・監督員の指示による
杭の載荷試験　・鉛直載荷試験　・水平載荷試験
試験位置　※図示　載荷荷重　N/mm^2
地盤の載荷試験　※平板載荷試験　・
試験位置　※図示　載荷荷重　N/mm^2

②既製コンクリート杭地業 (4.3.1)(4.3.2)
種類
⊙遠心力高強度プレストレストコンクリートくい（PHC杭）(強度105N/mm2)
⊙外殻鋼管付きコンクリートくい（SC杭）(鋼管材質　SKK490)
・プレストレスト鉄筋コンクリートくい（PRC杭）
⊙寸法、継手、性能等（詳細は構造図による。）

	杭径（mm）	杭長(m)及び種別	継手箇所数	長期設計支持力(kN/本)	セット数等
試験杭					位置は図示
本　杭					

先端部形状　※開放形　・閉そく平たん形 (4.3.2)
施工法 (4.3.3~4.3.5)
⊙特定埋込み杭工法(建築基準法に基づく埋込杭工法とし、杭材料は指定又は認定条件に適合するもの)
・セメントミルク工法　支持地盤への掘削深さ　・1.5m程度　・
支持地盤への根入れ深さ　・1m以上　・
・打込み工法
水平方向の位置ずれ精度　⊙100mm以下　・　mm以下
杭の継手　※アーク溶接（　）⊙無溶接継手 (4.3.6)
杭頭の処理 ※切断しない　・ (4.3.7)

3 場所打ちコンクリート杭地業
コンクリートの種別及び設計基準強度 (4.5.3)(表4.5.1)
（　）種かつ（　）N/mm^2以上
セメントの種類　※高炉セメントB種　・ (4.5.3)
掘削工法　・アースドリル工法(※安定液使用　・無水掘削) (4.5.4)
・リバース工法
・オールケーシング工法(孔内の水張　※行う　・行わない)
・場所打ち鋼管コンクリート杭工法 (4.5.5)
・拡底杭工法（※安定液使用　・　）
孔壁測定　・行う　・行わない (4.5.4~4.5.5)

④砂利地業
※再生クラッシャラン　・切込み砂利及び切込み砕石 (4.6.2)

⑤床下防湿層
施工箇所　※建物内の土間スラブ及び土間コンクリート下（ピット下を除く） (4.6.5)
・図示による

⑤ 鉄筋工事

①鉄筋の種別
⊙構造仕様書　B−01　による。 (5.2.1)(表5.2.1)

種類の記号	呼 び 径 (mm)	備　考
・SD345		異形鉄筋
・SD295A		異形鉄筋
・		

②鉄筋の継手
⊙構造仕様書　B−01　による。
呼び名19mm以上の柱、梁の主筋　※ガス圧接　・重ね継手 (5.3.4)
継手位置　※各部配筋参考図による　・図示

③鉄筋の最少かぶり厚さ
最小かぶり厚さは目地底から算定する (5.3.5)
・耐久性上不利な箇所の鉄筋の最小かぶり厚さは下表による

施工箇所	表5.3.6の値に加える寸法(mm)
柱、梁、壁及び庇などの外気に接する打放し面	※10　・

④帯　筋
※H形(ロは除く) ⊙溶接閉鎖型（フラッシュバット溶接） (参考2.2)

⑤最上階柱頭補強
※行う　・行わない　⊙図示 (参考2.1)

⑥壁開口部の補強
一般壁　※A形　・B形　・図示 (参考4.4)
耐震壁　※図示

⑦梁貫通孔の補強形式
⊛H形　・MH形　・M形 (参考7.1)
⊙既製品(建築基準法による指定又は認定を受けたもの)

⑧圧接完了後の抜取試験
⊛超音波探傷試験　・引張試験 (5.4.9)
⊙構造仕様書　B−01　による。

⑥ コンクリート工事

①普通コンクリートの設計基準強度
⊙構造仕様書　B−01　による。 (6.1.4)

設計基準強度 Fc(N/mm^2)	施　工　箇　所	スランプ
※21	・	・
・24	・	・
・18	・	・
	・	・

⊛構造体コンクリート：発注強度＝設計基準強度(Fc)＋構造体強度補正値(S)

②レディーミクストコンクリートの種別
※Ⅰ類　・Ⅱ 類 (6.1.5)(表6.1.1)
※Ⅰ類については、「全国生コンクリート品質管理監査会議」が策定した「全国統一品質管理監査基準」に基づく品質確保の確認結果等を参考にし、JISA5308(レディーミクストコンクリート)に適合するものを用いるものとする。

③セメントの種類
※普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA種 (6.3.2)(6.13.2)(表6.3.1)
・高炉セメントB種（　）
普通ポルトランドの品質は、JISR5210に示された規定の他、次の規定の全てに適合するものとする。ただし、無筋コンクリートに用いる場合を除く。

水和熱	7d	——	測定値を報告する。
	28d	——	測定値を報告する。
全アルカリ		0.75%以下	算出は、JISR5210ポルトランドセメント(低アルカリ形による。)
塩化物イオン		0.035%以下	

③−2単位水量の確認
※打ち込み当初（強度ごと）　・打ち込み中150m^3に1回 (6.5.1)(6.4.4)

④骨材の品質
アルカリシリカ反応性による区分 (6.3.3)(6.5.4)
⊙A
・B（※コンクリート中のアルカリ総量Rt=3.0kg/m^3以下）

⑤混和材料の種別
※混和剤　・混和材 (6.3.5)(6.4.8)

⑥無筋コンクリート
※下記のコンクリートは無筋コンクリートとして扱う。
・建物内土間コンクリート、ポーチ、犬走り、機械架台　・

⑦型枠
外部に面するコンクリート打放し仕上げ（仕上塗材、塗装等の仕上げを行う場合を含む。）の打増し厚さ　※20mm　・図示 (6.9.2)
ひび割れ誘発目地　※図示　・監督員の指示による

⑧コンクリート躯体表面の処理
外装タイル後張り面の躯体表面の処理 (6.9.3)(11.3.3)(15.2.4)
MCR工法又は15.2.4.(C)による目荒らし工法とする。なお、目荒らし工法の場合は、モルタルの接着に適した粗面に仕上げる工法を、1.2.2施工計画」による品質計画で定める。また、粗面の状態は、監督員の承諾を受ける。
適用範囲は11章タイル工事3コンクリート素地面の処理による。
コンクリートの増打ち厚さ　※20mm　・

⑨コンクリート打放し仕上げ
⊙構造仕様書　B−01　による。
厚さは合板の厚さとする。 (表6.2.3)

種　別	コーン穴の仕上げ面	厚さ	施工箇所
⊙A種	⊙面うち　・面と同一	※12mm　・15mm	車椅子駐車場自立壁、てすり壁、EV2廊下側
⊙B種	・面うち　⊙面と同一	※12mm　・15mm	上記以外打放面及び塗装下地面
⊙C種	.	⊙12mm	上記以外

⑩寒中コンクリート
⊙適用する　※適用しない (6.12.1)
適用期間はJASS5による。

⑦ 鉄骨工事

①鉄骨の製作工場
・監督員の承諾する製作工場 (7.1.3)
⊙建築基準法第77条の45第1項に基づき国土交通大臣から性能評価機関として認可を受けた（株）日本鉄骨評価センター又は（社）全国鐵構工業協会の「鉄骨製作工場の性能評価基準」に定める「 M グレード」として国土交通大臣から認定を受けた工場又は同等以上の能力のある工場
ただし、無線鉄塔の鉄骨製作工場は　H　グレード以上とする。

②施工管理技術者
※適用する　・適用しない (7.1.3)(7.1.4)

③鋼 材
⊙構造仕様書　B−01　による。
鋼材の材質 (7.2.1)(表7.2.1)

種類の記号	使 用 箇 所	規格等
		※JIS規格による
		※JIS規格による

④高力ボルト
⊛トルシア形高力ボルト・JIS形高力ボルト⊙溶融亜鉛めっき高力ボルト (7.2.2)

⑤工作図
高力ボルト及び普通ボルトの縁端距離.ボルト間隔.ゲージ等 (7.3.2)
※国土交通省大臣官房官庁営繕部「建築鉄骨設計基準」による。
⊙図示

⑥開先形状
※国土交通省大臣官房官庁営繕部「建築鉄骨設計基準」による。
⊙図示 (7.6.4)

⑦スカラップ
※図示による　・監督員の指示による (7.6.7)

⑧溶接部の試験
⊙構造仕様書　B−01　による。
AOQL　※4.0%　・2.5% (7.6.11)
検査水準　※第6水準　・図示 (7.6.11)(表7.6.2)

試験の種別	試験箇所	試験方法
・超音波探傷試験		※標仕7.6.11(b)による
		・図示
・放射線試験		
・マクロ試験		

⑨デッキプレートの溶接
・焼抜き栓溶接　・アークスポット溶接 (7.7.8)
・隅肉溶接　・

⑩耐火被覆 (7.9.2~7.9.7)

種　別		所要性能及び適用構造区分
⊙耐火材吹付け	・乾式吹付けロックウール ⊙半乾式吹付けロックウール	庇支持鉄骨部材（耐火2時間） 1階通用口鉄骨（耐火2時間） 5階吹抜2屋根支持鉄骨（耐火1時間）
	・湿式吹付けロックウール	
・耐火板張り		
・耐火材巻付け		
・ラス張りモルタル塗り		
⊙発泡型耐火塗料塗り　上塗層：ウレタン塗装		5階吹抜2鉄骨柱（耐火1時間）

⑪アンカーボルトの保持及び埋込み工法
⊙構造仕様書　B−01　による。
※構造用アンカーボルト(形状、寸法は図示による。) (7.10.3)
・建方用アンカーボルト(・A種　※B種　・C種) (表7.10.1)

⑫柱底均しモルタル
※A種　・B種 (表7.10.2)

⑬錆止め塗料塗り
※A種　・B種 (表18.3.1)

⑧ コンクリートブロック・ALCパネル・押出成形セメント板工事

1 建築用コンクリートブロック
補強コンクリートブロック造 (8.2.2)

断面形状及び圧縮強さによる区分	厚さ(mm)	適用箇所
※空洞ブロック16		
・空洞ブロック16−W		

2 鉄筋の加工及び組立
※図示　・監督員の指示による (8.2.5)

③ALCパネル
(8.4.2~8.4.5)(表8.4.2)(表8.4.3)

種 類	単位荷重(N/㎡)	厚さ(mm)	取付け工法種別等
・外壁パネル	・1180・1960	・100	・A種　・B種　・C種
※平パネル		・120	
・意匠パネル		・	
⊙間仕切パネル	⊙2200	・80・100	・B種　⊙C種　・D種　・E種
※平パネル		⊙150	
・屋根パネル	・980	・100	※標仕8.4.5による
・床パネル	・2350・3530	・100・150	耐火性能・有り(・1時間・2時間)

安 井 ・ 太 陽 設 計 共 同 体 管理建築士一級建築士第129267号　高田　茂	新 潟 市 建 築 部 公 共 建 築 第 1 課	工 事 名 新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟建設工事	図　名 特記仕様書（1） 年 月 日　2013.03.01　縮　尺　図面番号　GEN-05

⑧ 押出成形セメント板・ALCパネル工事

④押出成形セメント板（ECP）　(8.5.2～8.5.4)(表8.5.1)(表8.5.2)

施工箇所	表面形状	厚さ(mm)	幅(mm)	工法	耐火性能
○外壁パネル	※フラットパネル	100,75	600	○A種	※有り（1時間）
	・デザインパネル	75	600	・B種	・無し
	・タイルベースパネル				
・間仕切壁パネル	※フラットパネル			・B種	※無し
	・デザインパネル			・C種	・有り（　）
	・タイルベースパネル				

⑨ 防水工事

①アスファルト防水　(9.2.2)(9.2.3)(表9.2.3)～(表9.2.8)

種別	施工箇所
○A I－2	4階屋上及び5階屋上
・A－2	
・D－2	
・B I－2	
○E－1	1階車庫、ポーチ、風除室、WC（男）2、WC（女）、救急消毒室、2階厨房

アスファルト　※3種　・　(9.2.2)
断熱工法の断熱材　厚さ(mm)　※25mm　○図示　(9.2.2)
材質　※押出法ポリスチレンフォーム3種bスキン層付　・図示
乾式保護材の材料　(9.2.2)

種類		寸法(mm)：厚さ×幅	適用
※押出成形セメント板（窯業系パネル）	※Ⅰ類	※　15×303	※無石綿に限る
	・Ⅱ類	・　×	
・金属複合板		※　12×	

2 改質アスファルトシート防水　(9.3.2)(9.3.3)(表9.3.1)

種別	施工箇所
・AS－1	
・AS－2	

③合成高分子系ルーフィングシート防水　(9.4.2)(9.4.3)(表9.4.1)

種別	厚さ	施工箇所	仕上塗料塗り	使用分類
・S－F2			・シルバー	○非歩行
○外断熱シート防水	10mm	階段1・2カーテンウォール上部	○カラー	・軽歩行

PCコンクリート部材下地　(9.4.4)
目地処理(接着工法)　※図示
入隅部の増張り(S－F1、S－F2工法の場合)　※行わない　・行う(幅　mm程度)

④塗膜防水　(9.5.2)(9.5.3)(表9.5.1)(表9.5.2)

種別	施工箇所	備考
・X－1		仕上塗料塗り
○X－2	4階屋上及び5階屋上設備取出口、屋外機RC基礎	・シルバー　○カラー
	ヘリポート乗降水桝	

種別X－1の脱気装置
○設ける　材質　※製造所標準仕様　・(　)
設置数量　※製造所指定数量　・(　㎡当たり1箇所)

⑤シーリング　下表以外は標仕表9.6.1による　(9.6.2)(表9.6.1)

施工箇所	シーリング材の種類(記号)

接着性試験　(9.6.5)
○行う　※簡易接着性試験　・引張接着性試験(施工部位　　)
・行わない

⑥防水の保証等
※防水工事は、新潟市防水工事業協会員の施工の場合、防水施工業者、請負者、新潟市防水工事業協会及び新潟県防水工事業協同組合との4者連名の保証書を提出する。
協会員以外で新潟県防水工事業協同組合員の施工の場合、防水施工業者、請負者及び新潟県防水工事業協同組合との3者連名の保証書を提出する。
新潟県防水工事業協同組合員以外の施工で、市が認めた場合は、防水施工業者、請負者及び製造所との3者連名の保証書を提出する。

工法種別		施工箇所	保証期間
○A I－2	工法	施工箇所全て	10年間
○X－2	工法	施工箇所全て	10年間
○外断熱シート防水	工法	施工箇所全て	10年間
○E－1	工法	施工箇所全て	10年間

⑩ 石工事

1 天然石張り　石の品質　(10.2.1)
床用石材　※2等品　・1等品(施工場所　　)
壁及びその他の石材　※1等品　・2等品(施工場所　　)
石の種類・表面仕上げ　(10.2.1)(表10.2.1)(表10.2.2)

施工箇所	種類	産地・名称	厚さ(mm)	仕上げの種類

2 テラゾ張り　種石の種類　※大理石　・　(10.2.1)
表面仕上げ　※本磨き　・　(表10.2.2)
3 床及び階段の石張り　床石張りの石裏面処理　・行う　(10.6.2)
屋内のワックス掛け　・行う　(10.1.5)

⑪ タイル工事

① 陶磁器質タイル　タイルの種類　(11.2.1)

施工場所・用途	形状寸法(mm)	耐凍害性 あり	耐凍害性 なし	うわぐすり 施釉	うわぐすり 無釉	役物 あり	役物 なし	色 標準	色 特注	備考
風除室・ポーチ	300×300	・	○	・	○	・	○	○	・	Ⅰ類
		・	・	・	・	・	・	・	・	
		・	・	・	・	・	・	・	・	
		・	・	・	・	・	・	・	・	
		・	・	・	・	・	・	・	・	
WCおだれタイル	900×550	・	・	○	・	・	○	○	・	ステアタイト乗敷質
救急消毒室　壁	100×100	○	・	○	・	・	○	○	・	Ⅰ乗 抗菌 t8.5mm

役物：標準的な曲がり（小口、標準、二丁、屏風）の役物は一体成形とする
タイルの見本焼き　※行わない　・行う（※外装タイル　・　）

⑪ タイル工事

2 壁タイル張り工法　内装タイル　・壁タイル接着剤張り　・改良積上げ張り　(11.3.3)(表11.3.2)
外装タイル　・密着張り　・マスク張り
下地モルタル塗り　※標仕15.2.2～15.2.5
タイルの試験張り　※行わない　・行う（※外装タイル　・　）

3 コンクリート素地面の処理　※MCR工法又は目荒らし工法(ポリマーセメントモルタル下地)　(11.3.3)
施工範囲　※図示

4 陶磁器質タイル型枠先付け工法　(11.2.2)(11.4.2)(表11.4.1)

適用タイル	種別	タイル型枠先付面のせき板
・小口タイル	※タイルシート法	※標仕6.9.3[材料](b)(2)又は金属製タイル先付け用パネル
・二丁掛タイル	・目地鋼工法	
・大形タイル	・桟木法	

⑫ 木工事

①木材の品質　※標仕12.2.1による　(12.2.1)
保存処理木材の適用箇所　※12.2.1(b)による
・市販品

②樹種　・標仕表12.2.3による　(12.2.1)
○標仕表12.2.3によるほか、樹種のうち杉は「越後杉ブランド」を使用する
○代用樹種を適用しない箇所（**調整　杉（不燃木材）**）

③集成材　(12.2.2)

品名	規格・品質	芯材の樹種	化粧単板の樹種
※集成材	※一般材	※たも・なら・しおじ	
・構造用集成材	※1級・2級	・	
・造作用集成材	※1級・2級	・	
・化粧ばり造作用集成材	※1級・2級	・	

④接着剤　接着剤に含まれる可塑剤は、難揮発性のものとする。　(12.2.6)

5 防腐・防蟻処理　防腐処理　※行う(適用範囲　※標仕12.2.8(c)による　・図示)　(12.2.8)
防蟻処理　・行う(適用範囲　　)　(12.2.9)
防腐防蟻処理は、クロルピリホス等を含有しない非有機リン系の表面処理用木材保存剤とし、種類及び品質等が確認できる資料を監督員に提出し承諾を受ける。

防腐・防蟻処理の方法
工場における加圧式とし、十分に乾燥を行う。
ただし、現場における加工が生じた場合には、加工した箇所に対し、現場にて表面処理用木材保存剤を塗布することとする。

⑬ 屋根及びひさし工事

1 長尺金属板葺　(13.2.2)(13.2.3)(表13.2.1)

屋根葺形式	長尺金属板の種類	板厚(mm)
	※塗装溶融55%アルミニウム亜鉛合金めっき鋼板	※0.4
	・	・
	・	

②折板葺　(13.3.2)(13.3.3)(表13.2.1)

形式	※重ね形　○はぜ締め形　・たん合形
形状(mm)	山高(160)山ピッチ(500)　板厚　※0.6　○0.8
材料(規格等)	※塗装溶融55%アルミニウム亜鉛合金めっき鋼板 ・
軒先面戸板	※有り　○無し
断熱材	※有り（種別　厚　mm）　○無し
耐火性能	※30分耐火　○無し

③とい　材種　※配管用鋼管　・硬質塩化ビニル管　(13.5.2)(表13.5.1)
・リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管　○アルミ型材管
鋼管製といの防露　※標仕表13.5.4による　○ステンレス管
掃除口　○有り　・無し
公共建築協会発行「建築工事標準詳細図　最新版」5－31－4,7,11、5－32－1,2に準じる。

⑭ 金属工事

①あと施工アンカーの引抜き耐力試験　※適用する。　(14.1.3)

②ステンレスの表面仕上げ　(14.2.1)

種類	施工箇所
※HL程度	下記以外の見え掛かり全て
○No2B程度	
・鏡面仕上げ	
○SSV	エントランスホール受付袖壁
○No2D	ハニカム底用ボルト・ナット

③アルミニウム及びアルミニウム合金の表面処理　(14.2.1)(表14.2.1)

種別	色合い	施工箇所
○B－1種	無着色	アルミハニカム庇
○B－2種	・ブラウン系 ○ブラック ・ステンカラー	サッシ廻り外装パネル
○フッ素樹脂焼付塗装（F－BE）		エントランス外装

④鉄鋼の亜鉛めっき　(14.2.3)(表14.2.2)

表面処理法	種別	施工箇所
溶融亜鉛めっき	○A種(板厚6.0mm以上)	外部鉄骨部材　t＝6.0以上
	○B種(板厚3.2mm以上)	外部鉄骨部材　t＝3.2以上
	○C種(板厚1.6mm以上)	外部鉄骨部材　t＝1.6以上
電気亜鉛めっき	○D種	ボルト乗等で溶融亜鉛メッキの困難な箇所
	○E種	D、F種以外で記している以外の箇所
	○F種	押出成形セメント板下地の箇所

特記なき外部鉄部はすべて溶融亜鉛メッキとし、
アルミスパンドレルやアルミパネル等の外装下地内鉄部も同様とする。

⑮ 金属工事

⑤軽量鉄骨天井下地　屋外の場合の形式及び寸法　(14.4.3)(表14.4.2)
※下記以外は、標仕14.4.3及び表14.4.2による

下地材の間隔(mm) 野縁受、吊りボルト、インサート 中央部	周辺部	野縁	施工箇所
900以下	150以下	300以下	1階：ホースタワー室（風圧力2000N/㎡使用）

ただし、建築基準法に基づき指定する条件により、定まる風圧力に対応した工法を、標仕1.2.2[施工計画書]による品質計画で定める。

ふところが3mを超える場合の補強　※図示　・　(14.4.4)
(仕上表、天井伏図、部分詳細図（20）D－20－2による)

⑥金属成形板張り　(14.6.2)(表14.2.1)

形状	製法	材種	寸法(mm)	厚さ(mm)	表面処理	色合い
スパンドレル(A)：表面処理B－1	○スパンドレル形	○押出し	※アルミニウム製 ・	110	13	○B－1種　無着色(マットシルバー)
スパンドレル(B)：表面処理B－2		・ロール		120	13	○B－2種　○ブラック
	○パネル形	※プレス		図示	2.5、2	・
		○カット		図示	3	

伸縮調整継手　※設けない　○設ける（施工箇所は図示）　(14.6.3)
伸縮調整継手は空目地とし、アルミ押出型材製し形見切縁とする。
外部の金属床型板張下地はすべてシステム下地とする。（下地仕様はA－4了図D－4－3に準ずる）

⑦アルミニウム製笠木　オープン形式アルミニウム製笠木の種類　(14.7.2～3)(表14.2.1)(表14.7.1)

種類	呼称肉厚(mm)	表面処理及び色合い		固定間隔・方法
・250形	1.6以上	※A－1又はB－1種(無着色)		建築基準法に基づき指定する条件により定める
○275形	1.9以上	・B－2種	・ブラウン系	
○300形	1.8以上		・ブラック	
○350形	2.0以上		・ステンカラー	
○350形以上	3.0以上			

コーナー部及び突当たり部等の役物は笠木本体製造所の仕様による。

⑧手すり及びタラップ　(14.2.1)(14.8.2～3)(表14.2.2)

種類	材料の種別	表面処理
○手すり	※ステンレスsus304	※HL程度　・鏡面程度　・
	○鉄	亜鉛めっき　外部　※C種　○B種（手すりAのみ） 内部　※E種　○錆止塗装（屋内手すり）
○タラップ	※ステンレスsus304	※研磨なし　・
	・鉄	亜鉛めっき　内外部　※C種　・

⑮ 左官工事

①床コンクリートの直均し仕上げ　下表以外は標仕表6.2.4及び標仕15.3.2による　(表6.2.4)(15.3.1)(15.3.2)

施工箇所	平たんさ(mm)	備考
フリーアクセスフロア(パネル構法)範囲	1mにつき10以下	塗料塗りの場合も含む
フリーアクセスフロア(溝構法)範囲	3mにつき7以下	

②仕上塗材仕上げ　(15.5.2)(表15.5.1)

種類	呼び名	仕上げの形状等
・薄付け仕上塗材	・外装薄塗材E	・砂壁状　・着色骨材砂壁状
	・内装薄塗材E ・	砂壁状じゅらく
○複層仕上塗材	○複層塗材CE（不燃）（仕上げアクリル系）	・ゆず肌　・凸部処理　※凹凸模様
	・複層塗材E	耐候性　※3種　・2種　・1種
	・複層塗材RE	上塗材
	・複層塗材RS	溶媒　※水系　・溶剤系
	・防水形複層塗材E	樹脂　※アクリル系　・フッ素系
	・防水形複層塗材RS	・ポリウレタン系
	・防水形複層塗材RF（仕上げフッ素系）	外観　※つやあり　・つやなし
	○防水型複層塗材RE（仕上アクリル） ・	・メタリック 防水形の増塗材　※行う

防火材料の指定　※屋内の壁、天井の仕上げ材は防火材料とする。　(15.5.2)

⑯ 建具工事

1 見本の製作等　・特殊な建具の仮組等（建具番号　　）　(16.1.4)

②防犯建物部品　※適用する（適用部品及び適用位置は図示による）　(16.1.6)

③アルミニウム製建具　外部に面する建具の性能値等　(16.2.2)(16.2.4)(表16.2.1)

種別	耐風圧性	気密性	水密性	枠見込み(mm)	施工箇所
・A種	S－4	○A－3	○W－4	○70　－　－	建具表による
※B種	S－5	○A－4	○W－5	○100	建具表による
・C種	S－6	A－4	W－5	・100	

表面処理　(16.2.4)(表14.2.1)

施工箇所	種別	色合い等
外部建具	※B－1種	無着色
	○B－2種	標準色（※ブラウン系○ブラック・ステンカラー）
	・	・
内部建具	※C－1種又はB－1種	無着色
	・C－2種又はB－2種	標準色（※ブラウン系・ブラック・ステンカラー）

④網戸　防虫網　(16.2.3)
網の種別　※合成樹脂製　・ガラス繊維入り合成樹脂製　・ステンレス(SUS316)製
形式　○外部可動式　○固定式　○図示　建具表による

⑤鋼製建具（標準型鋼製建具を含む）　簡易気密型ドアセットの性能の適用　(16.3.2)(16.3.6)(表16.3.1)
※適用する(適用箇所は建具表による)　・適用しない
外部に面する建具の耐風圧性　(16.3.2)(表16.2.1)
・S－4　○S－5　・S－6
鋼板類の厚さ（1枚の戸の有効間口幅950mm又は有効高さ2,100mmを超える場合）
※下表以外は表16.3.2による　(16.3.4)(表16.3.2)

区分		使用箇所	厚さ(mm)
窓	枠類	外部の下枠、水切り板	2.3
出入口	枠類	外部に面するスイングドアの建具	2.3
	戸	中骨	2.3

・図示

⑥鋼製軽量建具（標準型鋼製軽量建具を含む）　簡易気密型ドアセットの性能の適用　(16.4.2)(16.4.6)(表16.3.1)
・適用する（適用箇所は建具表による）

⑦ステンレス製建具　簡易気密型ドアセットの性能の適用　(16.5.2)(表16.3.1)
○適用する（適用箇所は建具表による）
外部に面する建具の耐風圧性　(16.5.2)(表16.2.1)
・S－4　○S－5　・S－6
表面仕上げ　※HL仕上げ　・鏡面仕上げ　(16.5.4)
曲げ加工　※普通曲げ　○角出し曲げ　(16.5.5)

⑧木製建具　かまち戸の樹種　かまち（**たも**）　鏡板（**たも**）　(16.6.2)
ふすまの上張り　※新鳥の子又はビニル紙程度　・鳥の子　(表16.6.3)
ふすまの縁の仕上げ　○塗り縁　・生地縁　(表16.6.9)

⑨建具用金物　マスターキー　※製作する（5本）　・製作しない　(16.7.4)
鍵札数量　○錠前1組に2枚とする　・錠前1組に　枚とする
○錠前　ティンプルキー鍵等（防犯建物部品）
○レバーハンドル　ステンレス製

⑩自動ドア開閉装置　(16.8.2)(16.8.3)(表16.8.3)

開閉方法	センサーの種類
※スライディングドア ・スイングドア	・マットスイッチ　・電子マットスイッチ　・タッチスイッチ　※光線スイッチ ・音波スイッチ　・ペダルスイッチ　・熱線スイッチ　・光電スイッチ ・押しボタンスイッチ・多機能便所スイッチ

凍結防止措置　※行わない　○行う（　　）　(16.8.3)
SSDW－01:センサーは外部側はエンジンボックス埋込とし、風除室側及びポーチ側は天井埋込とする。
SSDW－02:センサーはポーチ側をエンジンボックス埋込とし、風除室側は天井埋込とする。
SSDW－03:センサーはエントランスホール側をエンジンボックス埋込とし、風除室側は天井埋込とする。

⑪自閉式上吊り引戸装置　※適用する（適用建具及び適用位置は図示による）　(16.9.1)

⑫重量シャッター　外部に面するシャッターの耐風圧強度（1451）N/㎡　(16.10.2)
開閉機能　※上部電動式（手動併用）　○上部手動式　(16.10.2)(表16.10.1)
危害防止装置　※障害物感知装置（自動閉鎖型）　(16.10.2)
一般重量シャッターのシャッターケース　※設ける　○設けない　(16.10.2)

⑬軽量シャッター　開閉形式　※手動式　・上部電動式（手動併用）　(16.11.2)
外部に面するシャッターの耐風圧強度（1200）N/㎡　(16.11.2)
スラット　厚さ(mm)　○0.5　・0.6　・0.8　・1.0　(表16.11.2)
材質　※塗装溶融亜鉛めっき鋼板又は鋼帯　○SUS304　(16.11.3)
形状　※インターロッキング形　・オーバーラップ形　(16.11.4)
ガイドレール等　※鋼板製　・ステンレス製SUS304(厚さ1.5mm)　(表16.11.2)
シャッターケース　厚さ(mm)　○0.4　・0.8　・　(表16.11.2)

⑭オーバーヘッドドア　(16.12.2)(16.12.3)

セクション材料	開閉方式	収納形式	ガイドレール
※スチールタイプ	※バランス式	○スタンダード形	・溶融亜鉛メッキ鋼板
○アルミニウムタイプ	○チェーン式	・ローヘッド形	※ステンレス鋼板(SUS304)
・ファイバーグラスタイプ	・電動式	・ハイリフト形	
		・バーチカル形	

耐風圧性能による区分　・50　・75　・100　・125　○156kgf/㎡　(16.12.2)
○明窓アクリル付　○一部水圧開閉装置付き

⑮ガラス　下記以外は、建具表による　(16.13.2)
・合わせガラス
特性による種類　※Ⅱ－1類
○強化ガラス

材料板ガラスによる種類	特性による種類
○フロート強化ガラス	Ⅲ類（曲面はⅠ類）
・型板ガラス	

・熱線吸収板ガラス

材料板ガラスによる種類	色調
・熱線吸収フロート板ガラス ・熱線吸収網入り磨き板ガラス	・ブルー　・グレー　・ブロンズ　・グリーン

○複層ガラス

品質	断熱性、日射遮へい性による区分
○断熱複層ガラス	※U3－1　・U3－2　○U1
○日射熱遮へい複層ガラス	・E4　○E5

・熱線反射板ガラス

品質	反射皮膜面	材料板ガラスの種類	映像調整
※熱線反射ガラス ・高性能熱線反射ガラス	※内面　・外面 ・内面	・フロート板ガラス ・熱線吸収フロート板ガラス ・強化ガラス ・倍強度ガラス	※行わない ・行う

・倍強度ガラス

材料板ガラスによる種類の名称	色調
※フロート倍強度ガラス	
・熱線吸収倍強度ガラス	・グレー　・ブルー　・ブロンズ　・

⑯ガラス留め材　ガラス留め材　(16.13.2)(表9.6.1)

建具の種類	材種
アルミニウム製	・シーリング材　※ガスケット（FIX部はシーリング材）
鋼製及び軽量鋼製	※シーリング材
ステンレス製	※シーリング材

ただし、防火区画等に用いる場合は建築基準法に基づく規定に定められたもの又は認定を受けた条件による。

※20121218
※20130208

安井・太陽設計共同体	新潟市建築部公共建築第1課	工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟建設工事	図名 特記仕様書（2）
管理建築士一級建築士第129267号　高田　茂			年月日 2013.03.01　縮尺　図面番号 GEN-06

16 建具工事

⑰ガラスブロック積み

(16.13.5)

寸法(mm)		表面形状		性能等	
呼び寸法	厚さ	色　調	パターン	防火性能	耐火性能
190×190	95	※クリア ・	**透光半透視**	※無し ・	※無し ・

壁用金属枠及び補強材

壁用金属枠の種類	規格及び補強材等
※アルミニウム製	・標仕16.2.3のアルミニウム製建具の材料による
・	・

<追記>⊙床（天井）用金属枠及び補強材　ステンレス製FB　図示
⊙ガラスブロックおよび下地は床積載荷重1,800N/㎡以上を満足すること。

化粧目地モルタルの色　※モルタル色　・

シーリング材料

下記以外は標仕表9.6.1による　(16.13.5)(9.6.2)(表9.6.1)

被着体の組合せ	シーリング材の種別		
	記号	主成分による区分	耐久性による区分

ただし、防火区画等に用いる場合は建築基準法に基づく規定に定められたもの又は、認定を受けた条件による。

⑱ガラス用フィルム

名　称	種類	張り面	性能値
㊟ガラス飛散防止フィルム	第2種	※内張り　・外張り	飛散防止率　D1
⊙低反射フィルム張		**⊙両面張り**	**飛散防止　厚み：128μm 可視光線反射率3% 可視光線透過率92%　程度**

品質　JISA5759による

※フィルム表面保護のために、保護層（ハードコート）を有すること。

※フィルム施工業者については、予め実績又は資格等の資料を提出し監督員の確認後、承諾を受けること。

18 塗装工事

①材料　※屋内の壁及び天井仕上げ材は、防火材料とする。(18.1.3)

②素地ごしらえ　せっこうボード及びその他のボード面の継ぎ目処理工法の場合　(18.2.7)(表18.2.7)
種別　※B種　・A種（施工場所：　）

③塗装業者　※日本塗装工業会の会員　・監督員の承諾する業者

19 内装工事

①接着剤　※接着剤に含まれる可塑材は、難揮発性とする。
(19.2.2)(19.3.3)(19.5.6)(19.7.2)(19.8.2)

②ビニル床シート張り

(19.2.2)

種　類	JISの記号	色　柄	厚さ(mm)
㊟発泡層のないもの	㊟NC　・	※無地　・マーブル柄	※2.5 **(特記ある場合はノンスリップ)**
⊙発泡層のあるもの		※柄物　・無地	**7.0(運動用弾性長尺シート)(織布積層発泡層付き)**
・発泡層のないもの	・NF	**柄物**	**2.0（ノンワックスタイプ）**

工法　※熱溶接工法　・突付け（施工箇所　）(19.2.3)
接着剤の種別　㊟一般の床　⊙　便所等多湿部

③ビニル床タイル張り

(19.2.2)

種　類	JISの記号	厚さ(mm)	備　考
※コンポジションビニル床タイル(半硬質)	CT	※2.0	
・コンポジションビニル床タイル(軟　質)	CTS	・	
・ホモジニアスビニル床タイル	HT	・	
・置敷きビニル床タイル	HTL	・	

接着剤の種別　※一般の床　・　便所等多湿部

4 誘導用、注意喚起用床材

視覚障害者用タイル　(19.2.2)

適用箇所	種　類	寸　法(mm)	形　状
屋　内	・塩化ビニル系	※300×300　・	ブロックパターン
	・レジンコンクリート系	※300×300　・	JIST9251
	・磁器又はせっ器タイル	・300×300	による
屋　外	・コンクリート系	※300×300×60・300×300×30	色彩は黄色と
	・磁器又はせっ器タイル	・300×300	する

⑤ビニル幅木

高さ(mm)　※60　・75　・100　(19.2.2)

⑥帯電防止床タイル張り

(19.2.2)

	種　類	厚さ(mm)	性　能
VT（E）一体型	⊙コンポジションビニル床タイル	※2.0　・	体積抵抗値(JISK6911による) 1.0×10^{9} Ω以下、又は、
VT（E）置敷	⊙ホモジニアスビニル床タイル	※4.0又は4.5	漏洩抵抗値(JISA1454による) 1.0×10^{10}Ω未満
	・	・	
	・	・	

7カーペット敷き

防炎性能は、消防法で定める防炎性能を有し、消防庁長官の防炎表示の登録を受けたものとする。(19.3.2)

・織じゅうたん　(19.3.3)(19.3.4)(表19.3.1)

種別	織り方	パイル形状	帯電性	色・柄等
・A種	・ウィルトンカーペット	・カットパイル	人体帯電圧	※単一色(無地)
・B種	・ダブルフェースカーペット	・ループパイル	※3kV以下	・柄物(標準品)
・C種	・アキスミンスターカーペット	・カット.ループ併用	・	

・タフテッドカーペット　(19.3.3)(19.3.4)(表19.3.2)

パイル形状	パイル長(mm)	工　法	帯電性
・カットパイル	※5.0～7.0　・	※全面接着工法	人体帯電圧
・マルチレベルループ	※4.0～6.0　・	・グリッパー工法	※3Kv以下
・レベルループパイル	※4.0		・
・カット.ループ併用	・		

・タイルカーペット　(19.3.3)

種　別	パイル形状	電気抵抗値(Ω)	施　工　箇　所
※第一種	※ループパイル	※適用しない	
・	・カットパイル	・10^{9}Ω以下	

⑧合成樹脂塗り床

(19.4.2)(表19.4.1～表19.4.7)

	種　別	仕上げの種類
塗床A	⊙弾性ウレタン塗り床材	※平滑仕上　・防滑仕上　・つや消し仕上げ
塗床B	⊙エポキシ樹脂塗り床材	㊟薄膜流し展べ仕上げ
		・厚膜流し展べ仕上げ（※平滑　・防滑）
		・樹脂モルタル仕上げ（※平滑　・防滑）
		・防滑仕上げ
塗床C		**⊙抗菌剤配合厚膜型エポキシ樹脂系塗床材 防滑工法、抗菌、耐熱水、耐薬品**

9 床用塗料塗り

材　質　ウレタン樹脂系塗料　（※標準色　・　）
仕上種別　※平滑仕上げ　・防滑仕上げ
塗布量　プライマー塗のうえ主剤2回塗りとし、総塗布量は0.5Kg/㎡以上とする。

⑩防塵用塗料塗り

材　質　水性アクリル系塗料　（※標準色　・　）
仕上種別　コーティング(ローラー刷毛塗り)
塗布量　主剤2回りとし、総塗布量は0.25Kg/㎡以上とする。

⑪フローリング張り

(19.5.2～19.5.7)(表19.5.1～表19.5.4)

品　名	樹　種	等　級	板　厚	工　法	仕上塗装
⊙フローリングボード	⊙なら ・	・ ・	※15 ・	⊙釘留め工法 ⊙接着工法	⊙塗装品 ・無塗装品
・フローリングブロック	・なら ・	・ ・	※15 ・	・モルタル埋込工法 ・接着工法	・ ・
・天然木化粧複合フローリング	・ ・	※C種 .	・ ・	※釘留め工法 ・接着工法	※塗装品 ・無塗装品
・	・	・	・	・	・

⑫畳敷き

(19.6.2)(表19.6.1)

適用箇所	畳　の　種　別
標仕表12.5.1による床組	・A種　・B種　・C種　・D種(※KT－Ⅲ・　)
ポリスチレンフォーム床下地	・C種　・D種(※KT－ Ⅲ　・　)

※建材畳D種 Ⅲ 型とする。
※畳表は、JAS2等品以上とし、畳裏に表示する。

⑬せっこうボードその他のボード張り

(19.7.2)(表19.7.1)

種　類	JISの記号	厚さ(mm)・規格等
・硬質木毛セメント板	HW	・15　・20　・25
・普通木毛セメント板	NW	・15　・20　・25
⊙けい酸カルシウム板	0.8FK	⊙ 8 ⊙ 6　タイプ2(無石綿)
⊙ロックウール化粧吸音板	DR	※フラットタイプ(㊟9.0　⊙12.0　・　) ・凹凸タイプ(※12.0　・15.0)　((個)不燃)
⊙せっこうボード	GB－R	⊙9.5（準不燃）　⊙12.5（不燃）**⊙15.0（不燃）**
⊙不燃積層せっこうボード	GB－NC	9.5(不燃)　化粧無(下地張り用) 化粧有(トラバーチン模様)
⊙シージングせっこうボード	GB－S	・9.5（準不燃）　⊙12.5（準不燃）
⊙強化せっこうボード	GB－F	⊙12.5（不燃）　⊙15.0（不燃）**⊙21.0（不燃）**
・難燃合板		
<追記> ⊙化粧けい酸カルシウム板		**⊙6.0（不燃）**
⊙普通硬質せっこうボード	**GB－R－H**	**⊙9.5（不燃）**
⊙メラミン不燃化粧板		**⊙3.0（不燃）**
⊙アルミ積層複合板		**⊙4.0（不燃）**
⊙不燃吸音せっこうボード		**⊙9.5（不燃）貫通部形状スクエアタイプ10x10開口率7%程度**

軽量鉄骨下地ボード遮音壁の遮音シール材　(19.7.2)(表9.6.1)
※適用する　・適用しない

⊙せっこうボードの目地処理　(表19.7.5)

目地処理の処理	施　工　箇　所
⊙継目処理工法	**全ての範囲**
・突付け工法	
・目透し工法	

⑭吸音材

(表19.7.1)

種　類	記　号	厚さ(mm)
⊙ロックウール吸音ボード1号	RW－B	※25　・
㊟グラスウール吸音ボード2号32K	GW－B	㊟25　**⊙ 50**
24K		・　**⊙ 50**
96K		**⊙20　⊙25**

⑮壁紙張り

(19.8.2)

施工箇所	壁紙の種類					防火性能の級別	備　考
	紙製	織物	ビニル	化学繊維	無機質		
休憩室（和室）	・	・	・	・	⊙	※不燃・準不燃・難燃	
移動間仕切り（C）	・	・	⊙	・	・	※不燃・準不燃・難燃	
	・	・	・	・	・	※不燃・準不燃・難燃	

素地ごしらえ　(19.8.3)(表18.2.4)(表18.2.5)(表18.2.7)
モルタル.コンクリート面　※B種　・A種（施工箇所：　）
せっこうボード面　※B種　・A種（施工箇所：　）

⑯断熱材

発泡剤による種別　※A種（現場発泡の場合はA種1）　(19.9.2)(19.9.3)

種　類		施工箇所	厚さ(mm)	品質等
⊙押出法ポリスチレンフォーム保温板	※2種b	※一般部 **（下記以外の部分）** **（1階スラブ下）** **（屋根）**	※25 **⊙35** **⊙50** **⊙60**	
	※3種b（スキン層付け）	㊟接地部分 **⊙場外離着陸場**	※25 **⊙35（接地部分）** **⊙20（場外離着陸場）**	
⊙現場発泡断熱材		㊟断熱材補修部分	40	難燃性を有するもの
		⊙一般部 ・	※15 **⊙40**	**A種ノンフロン**
・断熱材兼用型枠		・壁(図示の範囲) ・	※40以下 ・	断熱抵抗 ＝厚さ/熱伝導率 =0.676以上(t.㎡.kl/w)
		製造所　建設技術評価｢建築物の断熱材兼用型枠工法の開発｣において、評価を取得したもの		

20 ユニット及びその他工事

①基本要求品質

特記以外の建物内部に使用するユニット及びその他工事の既製品等の品質、又は製品を構成する材料のホルムアルデヒドの放散量はF☆☆☆☆を基本とする。なお該当する材料等がない場合において、F☆☆☆☆以外の材料等を使用する場合は監督員の承諾を受けること。(20.1.2)

②耐震スリット

方　向	表面仕上げ	耐火性能	防水性能
⊙垂直方向 ⊙水平方向	※完全(全貫通型)スリット	⊙耐火型	⊙有り ・無し

	目　地　材	目地寸法(mm)
内壁（幅×深さ）	シーリング材（見え掛かりのみ）	※20×10　**⊙構造図による**
外壁（幅×深さ）	シーリング材（内外とも）	※20×10　**⊙構造図による**

③フリーアクセス

⊙ウィスカ対策を施す。　(20.2.2)

	施工箇所（平面図、仕上表による）	構　法	仕上り高(mm)	適用地震時水平力	耐荷重性能 注(1)	表面仕上げ材 注(2)
OA－A ・スチール製 ・500mm角	**事務室関係**	⊙パネル構法 ・溝構法	⊙100 ※50未満	・1.0G ⊙0.6G	⊙3,000N ・5,000N	⊙帯電防止床タイル**(置式)** ・タイルカーペット
OA－B ・鋳鉄製 ・500mm角 空調用吹き出しパネル（開孔調整機能付）および空調用吹出し口専用パネルはアルミダイキャスト製とする。	**4階指令管制コンピューター室関係5階無線機室**	⊙パネル構法 ・溝構法	⊙500 ⊙300 ※50未満	⊙1.0G ・0.6G	・3,000N ⊙5,000N **(終局荷重15000N以上とする)**	⊙帯電防止床タイル**(一体型)** ・タイルカーペット

注1：耐荷重性能5,000Nについては、国土交通省の建設技術評価「耐震型フリーアクセスフロアの開発」において評価を取得したもの又は同等のものとする。
注2：表面仕上げ材の品質・規格等は、19章内装工事による。

スロープ及びボーダー
※製造所の標準仕様（ただし、構成材は標仕20.2.2(a)(2)による）
・図示

コンセント等の取付け対応
仕様　※製造所の標準仕様（コンセント本体は別途工事）
コンセントの箇所数　※10～15㎡に1箇所程度

配線用取出しパネル
フリーアクセス全体面積に対する設置割合　※20～30%
配線取り出し開口　※40mm×80mm程度の開口

空調用吹き出しパネル
※無し
⊙有り（※固定式　⊙可変式　：施工箇所は図示）
⊙開孔調整機能付は、予備16ヵ所を見込む。
⊙開孔調整機能付の開孔率は50%程度とする。
（OA－Bアルミダイキャスト製500mm角とする）
⊙OAフロア空調用吹出し口専用パネル　開孔φ200mm程度
（OA－Bアルミダイキャスト製500mm角とする）

4　可動間仕切り

(20.2.3)

構造形式	パネル部の総厚さ(mm)	表面材種 厚さ(mm)	仕上げ	遮音性(JISによる記号)
※パネル式 ・スタッド式 ・スタッドパネル式		※鋼板 (※0.6　・0.8) ・	※メラミン樹脂又はアクリル樹脂焼き付け ・	・有り

不燃材料の認定　・有り

⑤移動間仕切り

(20.2.4)

	遮音性能による区分	厚さ(mm)	表面材	表面仕上げ	操作方法	防火性能
	・一般タイプ	・	※鋼板	・焼付け塗装	・手動式　・電動式 ・部分電動式	
移動間仕切り（A）	⊙遮音タイプ（注1）	⊙100	㊟鋼板	⊙焼付け塗装	⊙手動式　・電動式 ・部分電動式	**不燃**
移動間仕切り（B）		⊙ 60				
移動間仕切り（C）		⊙ 60	**⊙せっこうボード**	**⊙ビニル壁紙**		**－**

注1：JISA1416による試験方法において、中心周波数500Hzの音の透過損失が36dB以上の性能を有するものとする。
注2：表面仕上げの壁紙張りの品質は19章内装工事 15壁紙張りによる。
パネル圧接装置操作方法　※製造所標準仕様　・

⊙移動ガラス間仕切り　図示

⑥トイレブース

表面仕上げ材　⊙メラミン樹脂系化粧板（標準色　アルミ製コーナーエッジ付き）(20.2.5)
・ポリエステル樹脂系化粧板
脚部　※幅木タイプ　・支柱タイプ
ドアエッジ　※フラット形　・曲面形
※ブース間は天井まで間仕切りを上げる

⑦階段滑止め

材　種　※ステンレス(SUS304)　・アルミ　(20.2.6)
形　状　㊟ビニルタイヤ入り　**（屋内）**
両端フラットエンド　※有り（ステンレス製　※ビニル製）　・無し
⊙ビニルタイヤ無し　**（屋外）**
幅(mm)　⊙30　・35　・40　・
取付け方法　※接着工法　・埋め込み工法

⑧階段手すり

種　別	施工箇所
※集成材クリアラッカー仕上げ(市販品) 径　⊙38mm　・45mm　・60mm	階段1、2、3手摺
・ビニル製手すり(幅　約40mm)	

⑨黒板及びホワイトボード

(20.2.8)

種　類		寸法(mm)	備　考
・黒板	※焼付け		※平面　・曲面　・スクリーン付引分
⊙ホワイトボード	※ほうろう	2700x1000	※平面　・曲面　・スクリーン付引分

10ブラインド（別途工事）

(20.2.12)

形　式	種　類	スラットの材質	スラットの幅(mm)
※横形	※ギア式　・コード式 ・操作棒式	※アルミニウム合金 ・	※25
・縦形	・1本操作コード ※2本操作コード	・アルミスラット ・クロススラット	・80 ・100

⑪ブラインドボックス及びカーテンボックス

㊟市販品（アルミニウム製　押出し型材）

使用区分	溝幅×深さ(mm)
⊙横形ブラインド	※90×150　⊙120×150　・
・縦形ブラインド	※120×80　・150×80　・
・カーテン（又はレース共）	※150×80　・180×80　・
⊙カーテン+横形ブラインド	※180×150　・

色彩　・B－1　⊙B－2（・ブラウン系　⊙ブラック　・ステンカラー）
⊙図示　**局長室（木製）**

12ロールスクリーン（別途工事）

(20.2.13)

操作方法	スクリーンの種類	品　質　等
⊙プルコード式(ストッパー付き)	⊙無地	**防炎　生地：ガラス繊維平織りメッシュ（黒）**
・ワンタッチチェーン式	・柄物	
・チェーン式	・遮光タイプ	
・電動式	・	

⑬カーテン及びカーテンレール（カーテンは別途工事）

カーテン　(20.2.14)

施工箇所	形式		装置			名称・品質	ひだの種類	備　考
	片引	引分	電動	ひも引	手引			
救急消毒室	⊙	・	・	・	⊙	**防炎、抗菌、防水**	**プレーンひだ**	**シャワーカーテン**
署長室・局長室	・	⊙	・	・	⊙	**防炎**	**箱ひだ**	**レースカーテン共**
救急救護訓練室	・	⊙	・	・	⊙	**防炎、暗幕**	**箱ひだ**	
清掃員控室	⊙	・	・	・	⊙	**防炎**	**プレーンひだ**	

カーテンレール　(20.2.14)
材種　※アルミニウム製　・ステンレス製
形式　⊙片引き　⊙引分け（※暗幕用は300mm以上の召合せの重ね掛けとする）
1組の本数　⊙シングル　⊙ダブル **（署長室・局長室）**　・図示

⑭ピクチャーレール

レール　材質　アルミニウム製（シルバー）
形式　先付け天井埋込型（見切縁兼用）**（A－59図D－16－10）**、
先付け天井埋込型、壁付型（設置場所は天井伏図による）
ランナー　材質　本体：真鍮製　フック：ステンレス製（可動式）
耐荷重　~~25kg程度/個~~　**30kg以上/個**
個数　~~2個/レール1m~~　**3個/レール1m**

⑮天井点検口

目地形状	適用箇所	寸法（mm）
⊙額縁タイプ	下記以外全て	㊟450×450 **（外枠目地、内枠額縁タイプ）**
・目地タイプ	※図示 ・天井仕上げ材がDRの範囲	⊙600×600 **（外枠目地、内枠額縁タイプ）**

⑯床点検口

防水密閉型張物モルタル充填用

本体の材質	目地の材質	適用箇所	寸法（mm）
※アルミ製	※アルミ　・ステンレス　・黄銅	下記以外全て	※600×600
⊙ステンレス製	⊙ステンレス	**全て**	**⊙600×600**

17積雪表示板（別途工事）

※塩化ビニル製（白）、ステンレスナット(10mm)4本詰め、文字入れ共　**⊙図示**
取付け場所（⊙図示　・監督員の指示による　）
寸法　180×160×5

設計積雪量
下記の積雪量をこえるときは
雪下ろしが必要です
設計積雪量　**1.0m**
設　計　者　株式会社○○設計事務所
施　工　者　○○建設株式会社
竣工年月日　平成○○年○○月

（160mm × 180mm）

18室名札（別途工事）

材種　※塩化ビニール製　・アクリル樹脂製　**⊙図示**
寸法　※260×80×5　**⊙図示**
受金具　・ステンレス(SUS304)　**⊙図示**
形式　・突出型　ケ所　・面付型　ケ所　※文字書込み　・文字彫込み　**⊙図示**

⑲かぎ箱

市販品
形　式　・30組用　・60組用　⊙120組用　・

20くつふきマット

市販品
材　質　・塩化ビニル製(コイル状　ステンレス製受枠)
・ビニル製(ステンレス製受枠)
・硬質アルミニウム製（受枠とも）
・ステンレス製（受枠とも）

㉑流し台ユニット

ホルムアルデヒドの放散量　※規制対象外　・第三種

	種　類	寸法(L=mm)	適　用　内　容	規格・品質等
流し台1～3	⊙流し台	※1200　・1500　⊙図示	トラップ付き	・優良住宅部品
	⊙コンロ台	※600　・700　⊙　図示	バックガード　※有り	(セクショナルキッチン　型)
	⊙つり戸棚	※1200　・900　⊙図示		⊙市販品　I
	・水切り棚	※1200　・900	ステンレス製　※1段式	※市販品
	⊙寸法、仕様・姿図は図示			
救急消毒室　流し台	**⊙流し台**	**W900xD450xH850**	**一槽水切付き流し台、ステンレス製、オーバーフロー、排水トラップ付、バックガード付、スノコ付、市販品**	
	⊙つり戸棚	**W900xD350xH900**	**ステンレス製、引違**	**⊙市販品**
	⊙水切り棚	**※1200　⊙900**	**ステンレス製　2段式**	**※市販品**

㉒屋内掲示板

枠の材質　※アルミニウム製　**⊙なし**
表面の材質　※特殊発砲ビニール張り　**⊙掲示板用合成ゴム500x500xt9mm**

㉓洗面カウンター

材　種　・メラミン樹脂化粧板張り（芯材：集成材）⊙人工大理石（品質　※図示）
奥行き(mm)　・約450　⊙約600
ステンレス製　市販品　W900xD350xH900

24敷地境界石標

・かこう岩（文字記号等入り）
※コンクリートブロック製の市販品程度

㉕収納・収納家具

使用する材料のホルムアルデヒド放散量及び放出量の規格は、合板類は、JASで定める等級F☆☆☆☆のものとし、ミディアムデンシティファイバーボード及びパーティクルボードは、JISで定める等級F☆☆☆☆のものとする。

改20121227
改20130208

安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第129267号　高田　茂	新潟市建築部公共建築第1課	工事名：新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟建設工事	図名：特記仕様書（3） 年月日 2013.01.15 / 2013.03.01　縮尺　図面番号 GEN-07

21 排水工事

①排水管

排水管用材料 (21.2.1)(表21.2.1)(21.3.3)

	種　類	管の種類	管形状（接合方法）
A 建築工事（意匠）	※遠心力鉄筋コンクリート管	※外圧管（※1種　・2種）	B形（ゴム接合）
	⊙硬質塩化ビニル管	※VP　・VU ・RS−VP　・RS−VU	
G 建築工事（外構）	※遠心力鉄筋コンクリート管	※外圧管（※1種　・2種）	B形（ゴム接合）
	⊙硬質塩化ビニル管	◉VP　⊙VU　・HT ・RS−VP　・RS−VU	
	⊙遠心BOXカルバート		

②排水桝及びふた

鋳鉄製マンホール ふた (21.2.2)

種　類		適用荷重
・水封形	◉密閉形(テーパー・パッキン式)	・T−2用
・簡易気密形(パッキン式)	・中ふた付密閉形	・T−6用
		⊙T−20用

⊙備考　専用開閉ハンドル　5ヶ

グレーチングふた (21.2.2)

種別	材　質	形　式	種　類	適用荷重	メンバーピッチ	上面形状
A（A 建築工事（意匠））	・鋼製 ⊙ステンレス製	◉受枠付き ⊙ボルト固定 ・図示	⊙溝ふた用 ⊙桝ふた用 ・かさ上げ用 ・U字溝用	⊙歩行用 ・T−2用 ・T−6用 ・T−14用 ・T−20用	※細目 ・普通目	※凹凸形 ・平形
B	⊙鋼製 ・ステンレス製	◉受枠付き ⊙ボルト固定	⊙溝ふた用 ⊙桝ふた用	⊙T−20用	※細目 ⊙普通目	※凹凸形 ・平形
C	・鋼製 ⊙ステンレス製	◉受枠付き ⊙ボルト固定	⊙溝ふた用 ・桝ふた用	⊙歩行用	※細目 ・普通目	※凹凸形 ⊙平形
（G 建築工事（外構））	・鋼製 ・ステンレス製	◉受枠付き ⊙ボルト固定 ・⊙図示	⊙桝ふた用 ⊙かさ上げ用	・T−6用 ⊙T−25用	※細目	※平形

⊙備考　専用開閉ハンドル　5ヶ

③埋戻し土

※B種　・建設汚泥から再生した処理土 (21.2.3)

22 舗装工事

①盛土に用いる材料

・A種　⊙B種　・C種　・D種 (22.2.3)(表3.2.1)

2 凍上抑制層の材料

※再生クラッシャーラン　・クラッシャーラン　切り込み砂利 (22.2.3)

3 路床安定処理

※添加材料による安定処理 (22.2.2)(22.2.3)(表22.2.2)

種　類　・普通ポルトランドセメント　・フライアッシュセメントB種
　・高炉セメントB種　・生石灰(　　)　・消石灰(　　)

添加量　kg／m³(目標CBR　※5　・　)

・ジオテキスタイルによる安定処理

ジオテキスタイルの品質

単位面積質量	60g/㎡以上	厚さ(mm)　0.5〜1.0
引張り強さ	98N/5cm（10kgf/5cm）以上	
透水計数	0.15cm/sec以上	

④路床の試験

⊙支持力試験を行う（※乱した土　⊙乱さない土） (22.2.5)

・路床締固め度の試験を行う

・砂の粒度試験を行う

⑤路盤材料

◉再生クラッシャーラン(RC−40) (22.3.3)(表22.3.3)

・クラッシャーラン(C−40)又はクラッシャーラン鉄鋼ｽﾗｸﾞ(CS−40)

・粒度調整砕石

⑥路盤の締固め度試験

◉行う (22.3.5)

⑦アスファルト舗装

(22.4.2)(表22.4.1)

舗装の種類	車道部の基層	カラー舗装の種類
◉アスファルト舗装	※無し　⊙有り	※顔料混入加熱アスファルト混合物
・カラー舗装	※無し　・有り	・

カラー舗装の着色骨材　・有色骨材（焼成）　・着色骨材（樹脂被覆）

アスファルト　※再生アスファルト　・スレートアスファルト (22.4.3)

加熱アスファルト混合物等の種類 (22.4.4)(表22.4.6)

区分	・一般地域	※寒冷地域
表層	※密粒度アスファルト混合物(13) ・粒度アスファルト混合物(13)	◉密粒度アスファルト混合物(13F) ・細粒度ギャップアスファルト混合物(13F)
基層	⊙粗粒度アスファルト混合物(20)	

シールコート　◉行わない　・行う(施工範囲：　　) (22.4.5)

アスファルト混合物の抽出試験　※行わない　⊙行う (22.4.6)

⑧コンクリート舗装

早強セメント　◉使用しない　・使用する (22.5.3)

注入材料　◉低弾性タイプ　・高弾性タイプ (22.5.3)(表22.5.3)

溶接金網　◉有り　・無し (22.5.3)(22.5.4)

9 カラー舗装

(22.6.2)(表22.6.1)

	舗装の種類	部位	厚さ
※加熱系	・アスファルト混合物 ・石油樹脂系混合物	・車道	・
・常温系	・樹脂系混合物　・塗布工法 ・ニート工法	・歩道	・

アスファルト混合物の抽出試験　※行わない　・行う (22.6.6)

10 透水性アスファルト舗装

アスファルト混合物の抽出試験　※行わない　・行う (22.7.6)

厚さ試験　※行わない　・行う

11 排水性アスファルト舗装

排水性舗装用アスファルト混合物 (22.8.3)(表22.8.2)

※ポリマー改質アスファルトⅡ種　・ポリマー改質アスファルトⅠ種

アスファルト混合物の抽出試験　※行わない　・行う (22.8.6)

12 ブロック系舗装

・コンクリート平板舗装 (22.9.2)(22.9.3)

種　類		寸法(mm)	厚さ(mm)	目地材
※普通平板(N) ・洗出平板(W)	・カラー平板(C) ・擬石平板(S)	※300角	※60	※砂 ・モルタル

・インターロッキングブロック舗装 (22.9.2)(22.9.3)

種　類	曲げ強度	厚さ(mm)	表面加工及び色彩等
※普通タイプ ⊙誘導、注意喚起用タイプ	5.0N/mm2以上	車道部◉80・ 歩道部◉60・	◉標準タイプ ・表面化粧タイプ 誘導、注意喚起用は黄色とする
⊙透水性タイプ	3.0N/mm²以上		
⊙植生タイプ	4.0N/mm²以上	◉80　・100	

・舗石舗装 (22.9.3)

種　類	厚さ(mm)	施工方法	基　層
※小舗石（花崗岩） ・御影石調タイル	※80〜100 ⊙20	※うろこ張り ⊙接着剤張り	◉コンクリート舗装 ・アスファルト舗装

13 区画線

路面表示用塗料

規格番号	種　類	施工時の条件	適用	寸法(mm)		適用
JIS K 5665	・1種	常温	液状	幅　◉150	・	◉白 ・黄
	・2種	加熱				
	◉3種1号	溶融	粉体状	厚さ　◉1.0		

揮発性有機溶剤の含有率は、塗料総質量に対して5%以下とする。

23 植栽工事

1 土壌の酸度,水溶性塩類(EC)の試験

※行う (23.1.3)

2 樹木の植栽基盤整備

芝及び地被類 (23.2.2)(23.2.3)(表23.2.1)(表23.2.2)

適　用	有効土層の厚さ(mm)	工　法	整備範囲
※行う　・行わない	※20　・	※B種　・	※植栽範囲　・図示

樹木 (23.2.2)(23.2.3)(表23.2.1)(表23.2.2)

樹木の樹高(m)	有効土層の厚さ(cm)	工法	整備範囲
・12以上	※100　・	※A種	※葉張りの範囲
・7以上〜12未満	※80　・	・B種	ただし、低木は植栽範囲
・3以上〜7未満	※60　・	・C種	・図示
・3未満	※50　・	・D種	

工法D種以外の工法で、現状地盤高と計画地盤高が同一でない場合は、計画地盤高からを有効土層とする。ただし、計画地盤高が現状地盤高より高い場合は、計画地盤高まで植込み用土で盛土を行う。

3 植込み用土

※現場発生土の良質土　・客土（※畑土　・黒土） (23.2.3)

4 土壌改良材

※適用する (23.2.3)(23.2.4)

施工箇所　※植栽範囲　・図示

5 支　柱　材

※防腐処理杉丸太　・杉の焼き丸太　・竹 (23.3.2)

6 幹巻き用材料

※幹巻き用テープ　・わら及びこも (23.3.2)

7 芝　張　り

種類　※こうらい芝　・野芝 (23.4.2)

8 枯補償及び枯損処理

期間　※引渡しの日から1年間 (23.3.4)(23.3.6)(23.4.7)(23.5.5)

・　年間　・　年　月　日迄

9 屋上緑化システム

土壌層　※改良土　・人工軽量土 (23.5.2)(23.5.3)

厚さ　mm

保水排水層　・軽量骨材層（厚さ　mm）　・板状成形品 (23.5.3)

※「屋根ふき材及び屋外に面する帳壁の風圧に対する構造体力上の安全性を確かめるための構造計算の基準を定める件」(平成12年5月31日付け 建設省告示第1458号)による風圧力に対応した固定工法を標仕1.2.2[施工計画書]による品質計画で定める

24 追加特記

①室内空気有機化学物質低減対策

1）建築材料等の選択

※　建築材料は「☆☆☆☆を基準とするほか、ホルムアルデヒド以外の物質(別表Aの物質)の発散が極めて少ない材料を選定する。

なお、該当する材料等がない場合において、「☆☆☆又はその同等品(旧JAS及び旧JISにおけるFc₀、E₀のものを含む。)を使用する場合は、建築基準法の規定により使用面積制限計算書等を監督員に提出し、監督員の承諾を受けること。

※　塗料及び接着剤はトルエン、キシレン及びエチルベンゼンを含有しないか、トルエン等の含有量が極めて少ない規格品とする。

※　防腐・防蟻剤はクロルピリオス、ダイヤジノン及びフェノルカプルを含有しない非有機リン系の薬剤とし、加圧式防腐、防蟻処理等は工場で行い、十分乾燥した後で現場に搬入したものを使用する。

※　壁紙用接着剤は、フタル酸ジ−n−ブチル及びフタル酸ジ−2−エチルヘキシル等を含有しない難揮発性の可塑剤を使用しているものを使用する。

※　選定した使用材料については室別かつ部位別に使用材料台帳を作成する。

1)の使用面積材料制限計算書の代用を可とする。

2）施工中の安全管理

※　施工に先立ち、工法、材料等を確認し、指針値に関し意見等のある場合は申し出る。

※　施工中も強い臭気等に注意する。

※　接着剤及び塗料の塗布に当たっては、使用方法及び塗布量を十分に管理し、適切な乾燥時間をとるものとする。また、施工時、施工後の通風、換気を十分に行い室内に発散した化学物質等を室外に放出させること。

※　接着剤及び塗料の使用済み缶等は、速やか に場外に搬出させること。

3）測定時期

※　測定時期は、本工事のほか関連設備工事とも施工終了後とする。内装又は塗装等の施工が終了し、その後十分な換気が行われていること、及び中央式空気調和設備のように換気を行いながら空気調和を行う設備がある場合は設備の試運転が終了していることとする。

※　測定時期の決定は、測定結果が基準値・指針値を超えた場合に、8)の措置を講じる時間を見込むこと。

※　大規模改造等改修工事の場合は、着手前に監督員の指定する一室について、4)の別表A、Bの物質測定を行うものとし、施工終了後も同様とする。

※　改築等新営工事の場合は、完成後に監督員の指定する一室について、4)の別表A、Bの13物質測定を行うものとし、施工後も同様とする。

4）測定対象物質　別表A

	基準値ppm	μg/m3
※　ホルムアルデヒド	0.08	100
※　トルエン	0.07	260
※　キシレン	0.20	870
※　パラジクロロベンゼン	0.04	240
※　スチレン	0.05	220
※　エチルベンゼン	0.88	3800

測定対象物質　別表B

	基準値ppm	μg/m3
※　クロルピリボス	0.000007	0.1
※　フタル酸ジ−n−ブチル	0.02	220
※　テトラデカン	0.04	330
※　フタル酸ジ−2−エチルヘキシル	0.0076	120
※　ダイアジノン	0.00002	0.29
※　フェノフカルフ	0.0038	33
※　アセトアルデヒド	数値を確認する。	

5）測定室

・　改修工事の事前及び施工後(13物質)測定室数　1室(監督員の指定した室)

・　改築等新営工事の施工後(13物質)測定室数　1室(監督員の指定した室)

※　施工後（別表A6物質）測定室数（　35　）~~室(監督員の指定した室)~~
仕上表に「測」印の室

6）測定方法

測定機器

※　最新の『厚生労働省「室内空気測定のガイドライン」、学校にあっては文部科学省学校環境衛生基準』(以下「基準等」という。)に認められている測定機器

測定要領

※　最新の基準等の測定方法

7）測定結果の分析

※　測定対象化学物質を採取した検体を分析機関に依頼する。

測定方法及び検体の種別ごとに、分析機関が異なることも認めるものとする。

8）測定結果が指針値を超えた場合の措置

※　測定結果が4)の基準値、指針値を超えている場合は、原因究明とともに換気通風又は低減物質の付与等の措置を講じ、再度測定を行い基準値以内であることの確認を、関連請負者が連携して行う。

9）報告書の提出

※　完了検査日までに報告書を提出する。

・　部分使用の承諾をする場合は、使用日の前日までにする。

10）その他

※　建築材料等の選択、測定方法等で下記によりがたい場合は監督員と協議を行う。

※　関連の各請負者の役割分担は、別表Cによる。

別表C

発注工事種別	役割分担区分					
	空気調査	測定報告	材料選定	台帳作成	台帳まとめ	改善措置
⊙建築工事	○	○	○	○	○	○
・電気設備工事			○	○		○
・給排水衛生設備工事			○	○		○
・冷暖房換気設備工事			○	○		○
・　　工事						
・　　工事						

②環境技術の適正化

※　工事の施工に当たっては、地球環境保全のため、新潟市環境基本計画及び新潟市公共工事環境配慮指針などにより省エネルギー、資源等に関する技術の適用に努める。

③ユニバーサルデザイン

※　工事の施工に当たっては、「新潟市公共建築物ユニバーサルデザインガイドライン」の考え方に基づき施工に努める。

25 アスベスト含有建設資材に関する特記事項

1 アスベスト含有建材の処理

施工調査 [公共建築改修工事標準仕様書　9.1.1]

分析によるアスベスト含有の調査　・行う　・行わない

アスベスト粉じん濃度測定　・行う　・行わない

測定方法　※JIS K 3850−1空気中の繊維状粒子測定方法−第1部：光学顕微鏡法及び走査電子顕微鏡法」による位相差・分散顕微鏡法による。

測定機関　※厚生労働省新潟労働局に登録されている作業環境測定機関とする。

2 アスベスト含有吹付け材の除去

除去工法 [9.1.3]

※「改修標仕」9.1.3による。

・

除去したアスベスト含有吹付け材の処理 [9.1.3]

※密封処理(二重袋梱包)

・セメント固化

3 アスベスト含有保温材等の除去

除去工法 [9.1.4]

※粉じん飛散抑制剤等による湿潤化の後、手ばらしで行う。

・掻き落し・破砕・切断等による除去を行う。

※[9.1.3アスベスト含有吹付け材の除去]により、作業場を隔離する。

4 アスベスト含有成形板の除去

養生等 [9.1.5]

建物内部で除去を行う場合、除去作業場所と他の場所を隔てるため、開閉部位(出入口、換気口、窓等)は閉とし、ガラスの破損箇所等で開となっている部位を養生シート等で覆べ。

アスベスト成形板の種類

材料名	使用部位	厚さ(mm)	備考

足配

カーテンウォール工事

①メタルカーテンウォール

設計図書による規定の他、特記無き事項は（社）日本建築学会JASS14による。

耐風圧性能 (17.1.3)

性能値　※建築基準法施行令第87条及び建設省告示第1454号に定められた風圧力に対して安全であること。

・正圧　N/m²以上及び負圧　N/m²以上に対して安全であること。

主要部材のたわみ

支点間距離（h）	たわみ量	状　態
※4m以下	※±（1/150）×h かつ絶対量20mm以下	※各部の破損、残留変形有害な変形が起こらないこと。
・4mを超える	・	

耐震性能 (17.1.3)

設計用震度　水平方向（Kₕ）　※1.0　⊙0.5

垂直方向（Kᵥ）　※0.5　⊙1.0

建物の構造種別	層間変位量（h=支点間距離）	状　態
鉄骨造	※±（1/100）×h以上 ・	※部材の脱落、ガラスの破損及び主要部材に有害な歪みが起こらない。
鉄筋コンクリート造 鉄骨鉄筋コンクリート造	◉±（1/200）×h以上 ・±（1/250）×h以上	かつ、1/250でシーリングの補修不要。 シーリングは補修程度

水密性　・W−4　⊙W−5　・

気密性　・A−3　⊙A−4　・

耐火性能　※適用しない　・適用する（　　時間、施工箇所：図示）

耐湿度差性　・

遮音性　・

断熱性　・

映像調整　※行わない　・行う（建具表による。）

（映像調整を行う場合はガラス厚10mm以上とする。）

製造所、性能の確認方法及び判定方法が確認できる適切な資料を提出し監理者の承諾を受ける。 (17.1.3)

カーテンウォールに使用する金属材料の種類 (17.2.2)

種　類	規格等
※アルミニウム製 ・	※標仕16.2.3のアルミニウム製建具の材料による。 ・

カーテンウォール方式

⊙方立方式

・バックマリオン方式（・単純2辺支持構法　・SSG構法）

・スパンドレル方式

・パネル方式

・小型パネル組み合わせ方式（・ノックダウン方式　・ユニット方式）

シーリング材及びガラス取付け材料 (9.6.2)（17.2.2）（表9.6.1）

下記以外は標仕表9.6.1による。

被着体の組合せ		シーリング材の種別		
		記　号	主成分による区分	耐久性による区分
金属	ガラス			
	石、タイル			
ガラス	ガラス			

構造用ガスケット　※適用しない (17.2.2)

断熱材　※適用しない (17.2.2)

・適用する（種類：　厚さ（mm）　：施工個所※図示　）

製品の寸法許容差　※標仕表17.2.1による。 (17.2.3)（表17.2.1）

・製造所標準製作規定寸法許容差による。

アルミニウムの表面処理 (17.2.3)（表14.2.1）

種　別	色彩等
・A−1種　・B−1種	無着色
・A−2種　⊙B−2種	※ブラウン系　⊙ブラック　・ステンカラー　・
・着色塗膜　塗装材料（　　）焼付け方法（　　）コート（　　）ベーク	

製品検査　⊙要　・不要

部位（基準部位（仮組））

9 防水工事

⊙機械固定式合成高分子系ルーフィングシート防水

施工箇所：1階通用口風除室屋根

断熱材：変成ウレタン硬質イソシアヌレートボード　t=50mm

屋根耐火30分　10年保障付き

14 金属工事

Ⓔ金属成形板張り

形　状	製法	材　種	寸法(mm)	厚さ(mm)	表面処理	色合い	防火性能
スチールパネル	曲げ	スチール	図示	1.6	A−BE	指定色	−
アルミ複層複合板	カット	アルミ	図示	4.0	フッ素（両面）	標準色	不燃

15 左官工事

②仕上塗材仕上げ

断熱モルタル

施工箇所：室内柱型　サッシ側

仕様：左官系無機質断熱材の上、左官系無機質断熱材用仕上材の上EP−G

左官系無機質断熱材：断熱・結露防止材　再乳化形粉末樹脂混入タイプ　塗厚7〜10mm

左官系無機質断熱材用仕上材：下地調整材　セメント砂

18 塗装工事

⊙RC保護塗装クリヤー

施工箇所：外部RC（A）（B）打放面

仕様　：浸透性吸水防止剤、RC保護塗装（コンクリート打放し保護工法）

19 内装工事

15 壁紙張り

粘着材付ケイカル板［略号：NSケイカル板］

施工箇所：食堂

仕様：不燃

・コンクリート表面硬化剤塗布

施工箇所：仕上表による

仕様：合金骨材配合強靭床仕上材　コンクリート四時散布工法（コンクリート打設四時施工）

8kg散布工法　標準色（グレー）

・浴室用天井材

施工箇所：ホースタワー室

仕様：市販品　材質：アルミ製、表面仕上：焼付塗装、不燃性断熱材5mm程度接着、

幅200mm程度、目地なし、不燃固定品

・不燃吹付断熱材

施工箇所：1F車庫天井スラブおよび梁および壁立ち下がり部（断熱補強）（図示）

仕様：軽量骨材混入セメントモルタル塗り（不燃固定品）現場発泡断熱材　t40mm施工面へプライマー処理の上吹付　t20mm

20 ユニット及びその他工事

⊙風向指示器

本体アルミ製（既製品）可倒式　図示

⊙アルミルーバー

設置箇所：1階エントランスホール天井
アルミ押出型材製　既製品　W15xH100@100

・目隠しルーバー

設置箇所：屋上
アルミ製　フォーミング型　既製品

⊙高断熱ポリスチレンフォーム＋防振ゴム浮床下地

該当箇所：2階応急救護訓練室
許容搭載荷重：800kg/㎡程度
サイズ：950x950x t50mm程度

⊙GW防振浮床下地

該当箇所：2階トレーニングルーム、3階講堂（会議室を含む）
図示　<A−54図>

⊙雨衣掛、防火衣掛

該当箇所：雨衣掛：1階雨衣掛スペース、防火衣掛：4階作戦本部室
仕様　：SUS　HL　座付回転式（既製品）　耐荷重：5kgf/フック1個あたり程度
座H=60mm程度

該当箇所	[L座長さmm（フック数）x本数] x カ所
1階雨衣掛スペース	[L450（3）x 1本＋L600（4）x 3本] x 2ヶ所
	[L600（4）x 2本] x 2ヶ所
4階作戦本部室	[L600（4）x 3本] x 1ヶ所
	[L600（4）x 2本] x 1ヶ所

⊙洗濯機パン

該当箇所：1階洗濯室、救急消毒室、男性浴室前室、洗濯室（女）、
仕様　：ポリプロピレン製　W740×D640×H60程度 樹脂製横引き排水トラップ共

⊙床下配線用点検口

該当箇所：4階廊下1（平面図による）
仕様　：ステンレス製（規制品）ボルト固定式　モルタル充填用　密閉型（防水型）
施錠型　専用開閉ハンドル共
耐荷重　：歩行用
サイズ　：500x500mm,600x600mm
モルタル充填のうえ、廊下1床仕上材張り

⊙多目的WC

該当箇所：1階多目的WC
多目的WC（システムトイレ）一式（オストメイト付：1ヵ所）
腰掛式壁掛便器、自動フラッシュバルブ（再生水使用）、タッチスイッチ式、
専用洗浄便座（瞬間湯沸式・擬音装置付）
洗面器・手洗器（電気温水器）：セルフリム（ボール）、自動水洗
固定式背もたれ
可動式手摺（安全ロック付き）、L型手摺
棚付二連紙巻器（アルミ製・ワンハンドカット）
チャームボックス（アルミ製）
汚物流し、自動フラッシュバルブ、タッチスイッチ付水栓（混合水栓シャワーヘッド付）、
水石鹸供給栓、電気温水器（3L）、紙巻き器
呼出ボタン

収納式多目的シート　折畳み時：W738×D240×H1538程度、使用時：W738×D1285×H583程度
色：ホワイト、材質：ABS樹脂、ウレタンレザー、スチール
化粧鏡（洗面器x 1ヵ所、汚物流しx 1ヵ所）W5000×H1000x t10程度（鏡:W500×H997x t5）
防錆型鏡、固定金具材質：ステンレス製
ベビーチェア　収納式、折畳み時：W286×D98×H1150程度、使用時：W286×D280×H1150程度
色：ホワイト、材質：ABS樹脂、スチール（防錆塗装）
ベビーシート　収納式、折畳み時：W777×D100×H1376程度、使用時：W777×D627×H1192程度
色：ホワイト、材質：ABS樹脂、スチール（防錆塗装）
フィッティングボード　収納式、折畳み時：W472×D75×H450程度、使用時：W472×D448×H63程度
色：ホワイト、材質：ABS樹脂

⊙ユニットバス

該当箇所：1階：男性浴室脱衣室1,2（2ヶ所）、女性脱衣室（1ヶ所）
4階：脱衣室1（1ヶ所）、脱衣室2（1ヶ所）　計5ヶ所
サイズ：1418（内寸法：D1400×W1800×H2000）
浴槽（275L）、カウンター一体型水栓、床排水口（トラップ、ヘアキャッチャ付）
、開き扉W700、照明、化粧鏡、収納棚、タオル掛け、450角天井点検口
、握りバー、換気設備付
仕様材質　床：FRPブレス成形品（岩肌又は割石模様付）
壁：塩化ビニル樹脂金属積層板（JISK6774、不燃認定品）
（壁裏面補強：石膏ボードt9.5、準不燃認定品）
天井：塩化ビニル樹脂金属積層板（JISK6744、不燃認定品）
（壁裏面補強：石膏ボードt9.5、準不燃認定品）
排水トラップ：ABS樹脂製、排水能力60L/分以上、封水深さ50mm以上
接続口50A
浴槽：FRP製（不飽和ポリエステル樹脂、炭酸カルシウム充填材、ガラス繊維）
（不透明、成形方法：プレス成形、ハンドレイ成形）
開き扉：アルミ製フレーム、フラッシュパネル化粧板面材、樹脂製レバーハンドル
施・解錠機構付（非常解錠機構付）錠、ガラリ開口付
換気設備：AC100V、50／60Hz共用、二重断熱構造、
適用パイプ呼径100、着脱可能換気グリル、結露受付

⊙塗膜防水A、B

塗膜防水A
水槽用エチレン酢ビ樹脂系塗膜防水

上塗：ポリマーセメント系防水層保護材
中塗：変性変性エチレン酢酸ビニル樹脂共重合樹脂
＋アルミナ系セラミックス及び遷移金属配合特殊調合骨材
下塗：プライマー
施工箇所：消火水槽・雨水貯留槽・雑用水受水槽

塗膜防水B
塗布型ライニング工法D1種　エポキシ樹脂＋補強材2プライ積層　t1.30以上
施工箇所：緊急排水槽、、緊急排水槽オーバーフロー

⊙緩降機

該当箇所：3階消防局事務室（1ヶ所）
本機ロープ長さ　約13.0m　（スチール格納箱付き）
取付金具　壁固定収納タイプ　アーム長さ　約800mm
仕様説明板、避難器具表示板とも
「国家検定合格品」とする。

外装二次部材の設計条件

1.適用範囲
構造躯体を除く外装材（建具を含む）
2.荷重条件
・構造仕様書の層間変形角および設計条件下で、部材の脱落、各部の破損、残留変形、ガラスの破損、有害な歪みが起こらないこと。
層間変形角1/250でシーリングの補修が不要なこと。

室内音響特記仕様書

1．適用範囲
本特記仕様書は、本施設の施工にあたり、所期の音響性能の実現するのに必要な遮音構造、吸音構造、設備材料機器の選定、施工方法等の音響に関連する工事について規定する。
対象工事請負者は、本施設の設計図書の音響上の特徴、機能、性能を十分把握し、監督員ならびに、建築音響コンサルタントなどの専門的意見を反映した施工図、施工要領書の作成と施工をおこない、目標とする音響性能を実現する。

2．共通事項
応急救護訓練室、講堂に関連する全ての工事を含む。

（1）工事に先立ち、施工図、施工要領書（工程、施工管理体制、工法、作業手順、材料、施工精度、検査、補正など補正など記載）を作成し監督員の承諾を受ける。
施工図、施工要領書には関連他工事との取合部を詳細に記載する。
（2）空調など設備騒音等の定常的な騒音に対しての室内許容騒音値（NC−値）が示されている諸室は、施工に先立ち下記を提出し、監督員の承諾を受ける。
・空調、換気運転騒音計算書
・機器据付防振材料計算書
（3）材料の選定は見本により選定する。
（4）応急救護訓練室、講堂は外気に通じる開口部が極めて少ないので内部に使用する機材、資材の換気に対する養生を十分に行う。

2.1音響性能、データの提出
監督員の指示する応急救護訓練室、講堂に使用する材料については、音響性能を示す技術資料等を提出すること。
音響性能を示す既存のデータ等のないもので、特に必要と認められるものについては、音響性能試験（JIS等による）の実施、試験結果の提出をもとめる。

使用材料等の音響試験の例

（1）ガラス及び乾式構造による界壁の音響透過損失　（JIS A 1416に定める音響透過損失試験結果）
（2）防音建具（扉、窓、シャッター）の音響透過損失　（JIS A 1416に定める音響透過損失試験結果）
（3）内装材の吸音率　（JIS A 1409に定める残響室法吸音率試験結果）
（4）客席椅子の吸音力　（JIS A 1409に定める残響室法吸音率試験結果）
（5）消音器などの消音性能　（無響音風洞試験室による試験結果）

2.2音響測定
建設工事において、完成時に、設計で意図した性能が得られていることを確認するのため、建築音響コンサルタントなどの音響専門機関による音響測定を行う。
各関連工事請負者は、これに協力すること。

2.3室内遮音音響工事請負者
室内遮音音響工事請負者は、遮音防振等対策工事についてはすべて責任施工とする。

3.音響工事
3.1遮音　防振
応急救護訓練室、講堂は遮音用二重壁・二重床構造、遮音層を持つ浮き構造、防音扉・窓、床の防振構造等を採用している。
その施工については、工事着手前に、設計図書に基づき施工図、施工要領書を作成し、監督員の承諾を得ること。

（1）材料：材料およびその厚さ、密度等は、必ず指定されたものを使用すること。
また、監督員に見本を提出し承諾を得ること。

（2）隙間の防止と気密性：遮音性能を確保するために、ボードと躯体の間、遮音層を貫通する吊りボルト、支持金物等との取合い部についてはロックウールの充填とモルタル詰め、石膏ボードや鉛板貼り及びシーリングにより隙間をなくすこと。

（3）防音建具：製作図、施工要領諸書を作成し、監督員の承諾を得ること。
防音建具の製造精度は共通仕様書の鋼製建具に準ずる、取り付けにあたっては躯体等の遮音構造との間に隙間が出来ないように、モルタル詰めや、グラスウール、ロックウール充填を十分に行うこと。
また、戸と枠周辺の戸当たりゴム、召し合わせ部のエアタイトゴムの調整を念入りに行ない、隙間がないようにする。

（4）浮き構造：浮き構造の施工については、施工図、施工要領書、防振計算書を提出し監督員の承認を得ること。
・防振支持系の固有振動数は、固定荷重の状態で天井は10Hz、防振床は20Hz以下を目標とし、各防振ゴムには、均等に正規の荷重がかかるように配置を調整をする。
・浮き構造体は、躯体側からの支持、躯体側との接触を無くし、浮き構造体（その遮音層も含む）と躯体間の振動（固体音）伝搬を遮断すること。
・浮き構造及び浮き構造遮音層を貫通する支持金物、ダクトや配管類は、遮音層との間の隙間を埋めるとともに、躯体と浮き構造の間で、ダクトや配管等に振動（固体音）伝搬を遮断する装置（キャンバスコネクション、ゴム製製可とう管等）を使用し、浮き構造体としての　　遮音性能を確保する。

（5）主要諸室間の遮音性能（500Hzの値）

応急救護訓練室	1Fエントランス	65dB以上
応急救護訓練室	ロビー	50dB以上
応急救護訓練室	廊下（2）	45dB以上
応急救護訓練室	鑑識・鑑定室	70dB以上
応急救護訓練室	3F外来者打ち合わせスペース	65dB以上
講堂	外来者打ち合わせスペース	65dB以上
講堂	廊下	45dB以上
講堂	2F食堂	60dB以上
講堂	4F指令課事務室	60dB以上

3.2室内音響
応急救護訓練室、講堂は適正な室内の響きの長さを確保するように室形、内装仕上げ材（下地軸組）の仕様、配置について、工事着手前に、施工図施工要領書を作成し、監督員の承諾を得ること。

（1）材料：材料及びその厚さ、密度等は、必ず指定されたものを使用すること。
監督員に見本を提出し承諾を得ること。
下記材料の選定、施工については、十分に注意する。

・グラスウール、ロックウール等の吸音材は、JISA6301　吸音材料のJISA6301　吸音材料の規定に合格したものを使用する。
・吸音材の被覆、塗装、有孔板等の表面仕上げ材の塗装等の処理については、あらかじめ監督員の承諾を得ること。

（2）内装及びその下地の構造：内装材及びその下地材は、音によってびりつきが生じない施工方法を採用すること。

3.3設備工事
（1）躯体及び遮音壁の貫通処理
・遮音層（構造）の貫通は出来る限り行わないことを原則とする。
・ダクトや配管等が遮音層（構造）を貫通する場合は、必要な遮音性能を確保するために、ダクトや配管等と遮音構造の間に出来る隙間については、ロックウールの充填とモルタル詰め、石膏ボードや鉛板貼り及びシーリングにより隙間をなくすこと。
また、遮音壁貫通箇所周辺のダクトに遮音外装を施す。その範囲は監督員の指示による。
・浮き構造遮音層を貫通する部分については、躯体と浮き構造遮音層の間のダクトや配管等に振動（固体音）を遮断する装置（キャンバスコネクション、ゴム製可撓管等）を使用し、躯体と浮き構造体の振動（固体音伝搬）を遮断する。

（2）給排水衛生設備
応急救護訓練室、講堂に近傍の給水管、排水管などはその流水音が固体伝搬音室内で聞こえることもある。
従って、給水管や配水管は、建物躯体に直接固定せずに、緩衝材を巻いてから埋め込む。

4．音響調整工事
（1）防音建具調整工事
所定の遮音性能が発揮されない場合、調整工事を行う。
（2）浮き構造、浮き床構造、遮音壁調整工事
遮音仕様構造を採用している部位で、所定の遮音性能が発揮されない場合、振動絶縁処理、隙間による音洩れ等の調整のため、内装を一時的に撤去するなど施工不良部分について再工事をする。
（3）空調設備調整工事
測定した諸室で室内許容騒音値を満たしていない場合、風量やドラフト調整を実施する。
（4）上記の事項以外についても、所定の音響性能を確保するため必要な調整工事は監督員と協議のうえ実施する。

5．完成時の音響測定
建物全体が完成し、主要諸室の別途発注工事も完成し運用可能な状態になった時点で、竣工検査の一環として、応急救護訓練室、講堂など主要諸室の音響性能を確認するために総合的な音響測定を実施する

測定に際して、監督員の指示のもと各工事請負者の立ち会い、測定対象物の運転操作および測定業務に対する協力をする。

やむをえない場合監督員と協議の上、下記の状態で音響性能が完成時と同等と確認された時点で測定を実施する。

（1）全ての養生シート、養生材、残材等が室内にないこと。
（2）空調換気設備の性能調整・騒音対策が完了していること。
（3）精度ある測定を行うため、測定対象室付近で騒音・振動の発生する作業は行わない。

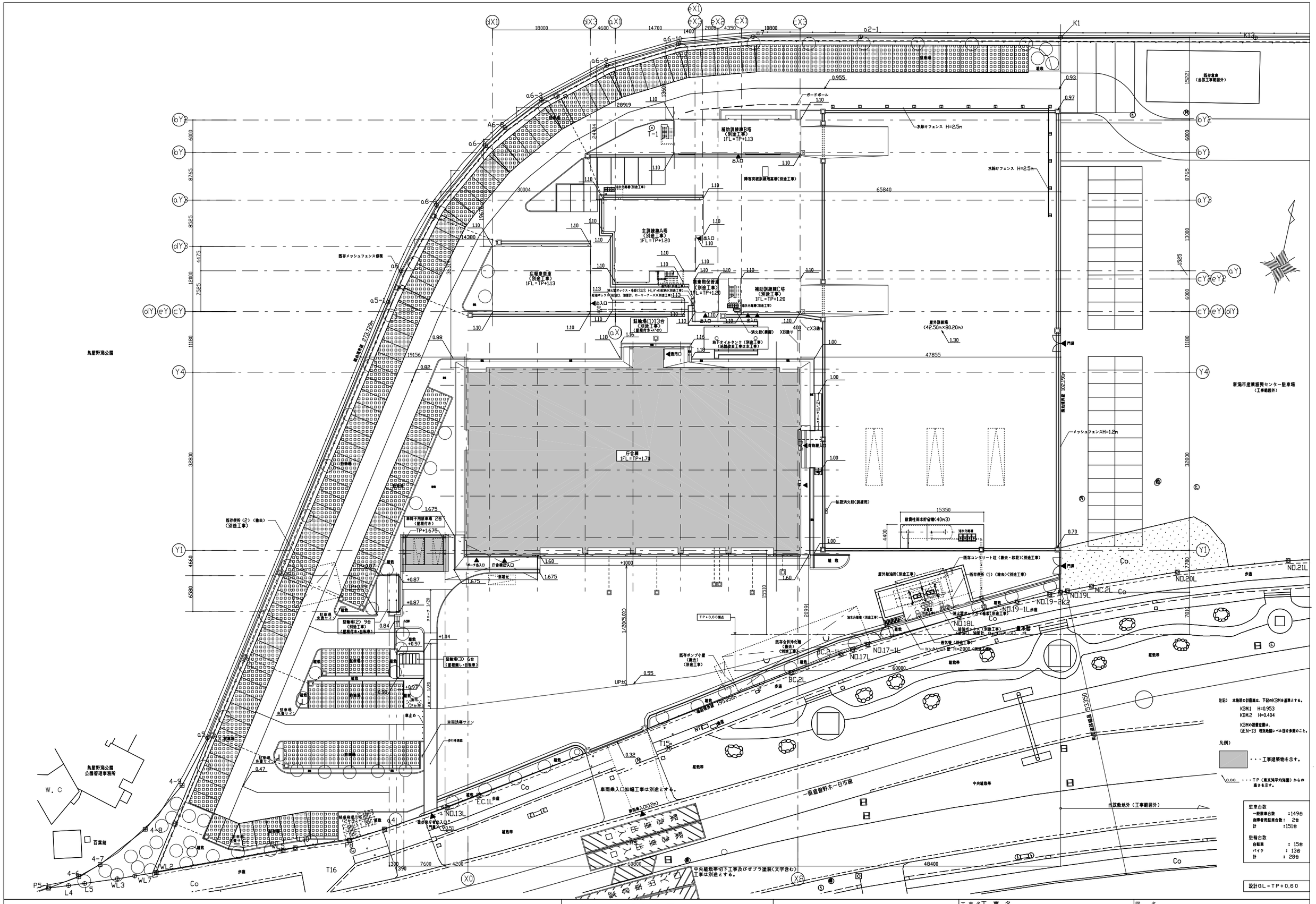
5.1遮音性能の測定
測定方法は、JIS　A1417に準ずる。

（1）室間の遮音性能（平均音圧レベル差）
対象室：応急救護訓練室、講堂
測定場所：（5）主要室間の遮音性能目標値で示す場所
（2）出入口扉、間仕切り壁などの特定場所間音圧レベル差
対象室：応急救護訓練室、講堂
測定場所：応急救護訓練室、講堂廻りの防音扉

5.2残響時間　周波数特性の測定
対象室：応急救護訓練室、講堂
測定点：室内5点
測定周波数：中心周波数63～8000Hzの1/1オクターブ帯域ごと

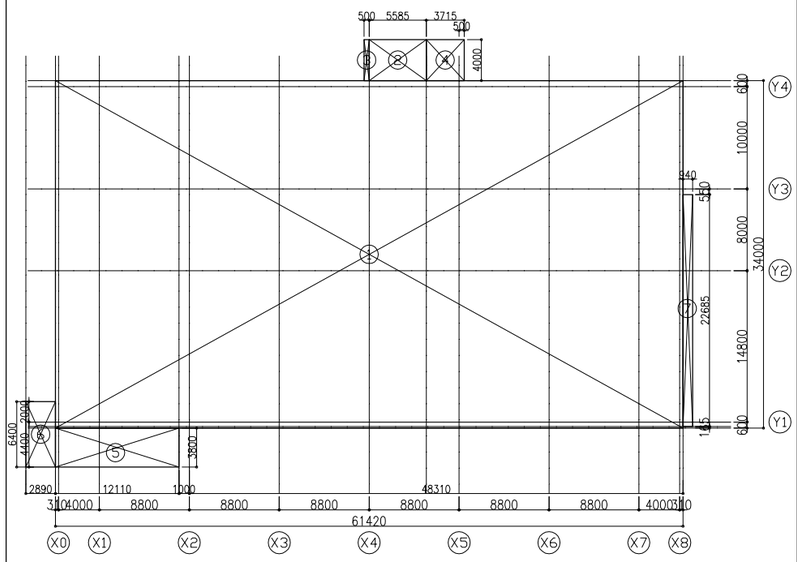
5.3空調・換気設備等の運転騒音
測定条件：建物全館の空調・換気設備を運転した状態。個別空調機、全熱交換
換気設備等がある場合は弱運転の状態。
測定点　：室代表点3点

安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第129267号　高田　茂	新潟市建築部公共建築第1課	工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟建設工事	図名 特記仕様書（5）・室内遮音音響工事関連特記仕様書
			年月日 2013.01.22 / 2013.02.01　縮尺　図面番号 GEN-09



安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第129267号 高田 茂	新潟市建築部公共建築第1課	工事名 工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟建設工事	図名 配置図
		年月日 2013.03.01	縮尺 A1:1/300 A3:1/600
			図面番号 GEN-10

■庁舎　建築面積求積図



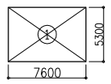
平面図

建築面積

建築面積

番号	計算式			計(㎡)
1	61.420	×	34.000	2,088.280000
2	5.585	×	4.000	22.340000
3	0.500	×	4.000	2.000000
4	3.715	×	4.000	14.860000
5	12.110	×	3.800	46.018000
6	2.890	×	6.400	18.496000
7	0.940	×	22.685	21.323900
計			1 +2+3+4+5	2,213.317900
			面積	2,213.31

■車椅子駐車場　建築面積

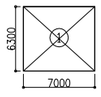


建築面積求積図

建築面積　（車椅子駐車場）

番号	計算式			計(㎡)
1	7.600	×	5.300	40.280000
			面積	40.28

床面積



床面積求積図

床面積　（車椅子駐車場）

番号	計算式			計(㎡)
1	7.000	×	6.300	44.100000
計			1	44.100000
			面積	44.10

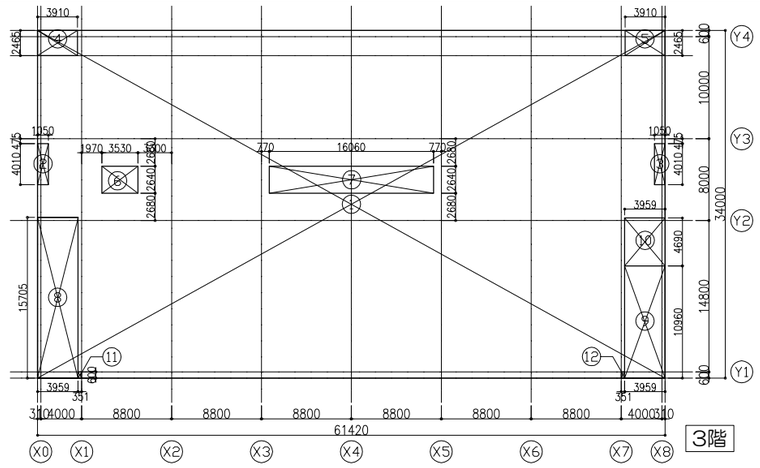
延べ面積

計算式	計(㎡)
車椅子駐車場	44.10

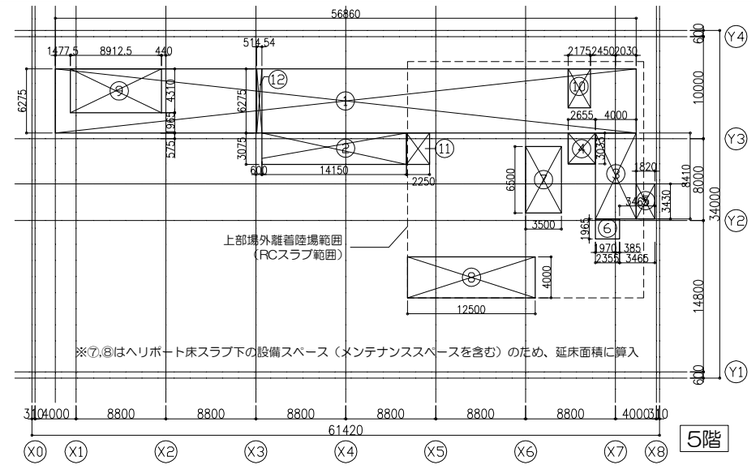
【車庫部分】

番号	計算式			計(㎡)
1	7.000	×	6.300	44.100000
計			1	44.100000
			面積	44.10

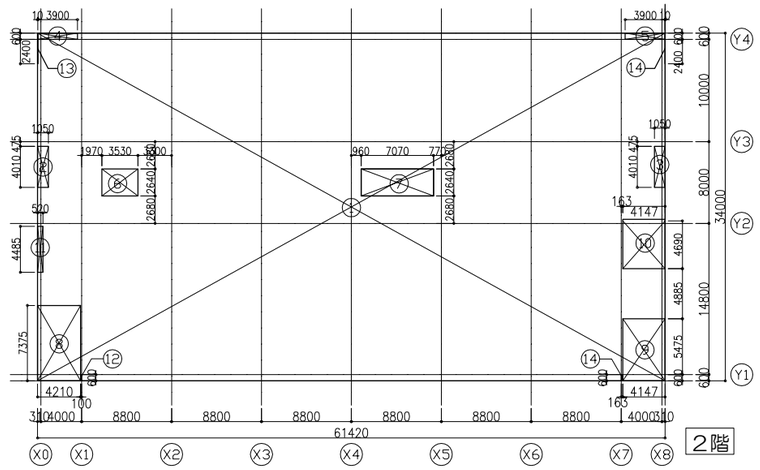
床面積求積図



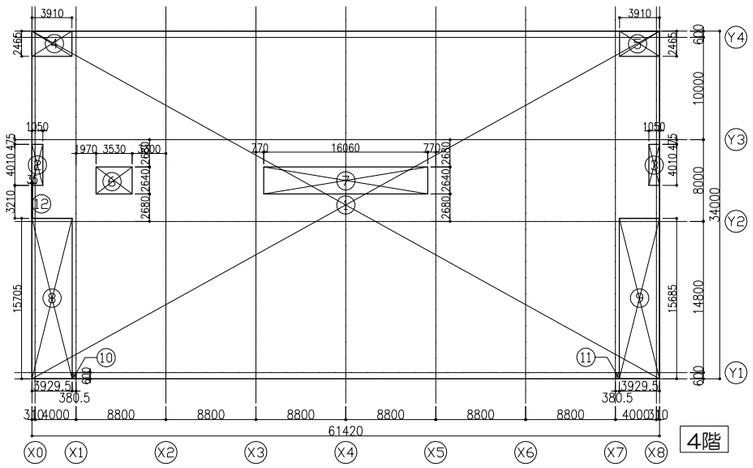
3階



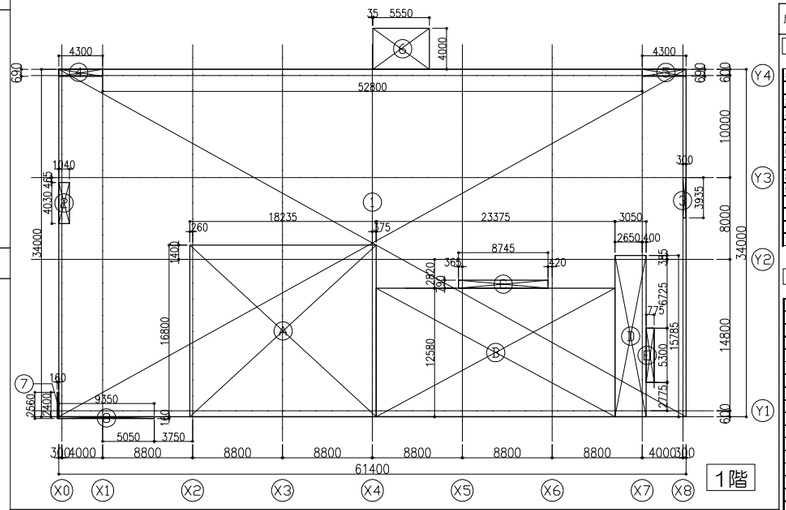
5階



2階



4階



1階

駐車場部分　床面積

【庁舎】

番号	計算式			計(㎡)
A	18.235	×	16.800	306.348000
B	23.375	×	12.580	294.057500
C	8.745	×	0.790	6.908550
D	3.050	×	15.785	48.144250
E	0.775	×	5.300	4.107500
計			A+B+C+D+E	659.565800
			面積	659.56

床面積求積表【庁舎】

3階

（3階）

番号	計算式			計(㎡)
1	61.420	×	34.000	2,088.280000
2	1.050	×	4.010	4.210500
3	1.050	×	4.010	4.210500
4	3.910	×	2.465	9.638150
5	3.910	×	2.465	9.638150
6	3.530	×	2.640	9.319200
7	16.060	×	2.640	42.398400
8	3.959	×	15.705	62.176095
9	3.959	×	10.960	43.390640
10	3.959	×	4.690	18.567710
11	0.351	×	0.600	0.210600
12	0.351	×	0.600	0.210600
計	1−(2+3+4+5+6+7+8+9+10+11+12)			1,884.309455
			面積	1884.30

5階

（5階）

番号	計算式			計(㎡)
1	56.860	×	6.275	356.796500
2	14.150	×	3.075	43.511250
3	4.000	×	8.410	33.640000
4	2.655	×	3.033	8.052615
5	1.820	×	3.430	6.242600
6	2.355	×	1.965	4.627575
7	3.500	×	6.500	22.750000
8	12.500	×	4.000	50.000000
9	8.913	×	4.310	38.412875
10	2.175	×	3.830	8.330250
11	2.250	×	3.075	6.918750
12	0.515	×	6.275	3.228739
計	1+2+3+4+5+6+7+8+11−(9+10+12)			482.567427
			面積	482.56

2階

（2階）

番号	計算式			計(㎡)
1	61.420	×	34.000	2,088.280000
2	1.050	×	4.010	4.210500
3	1.050	×	4.010	4.210500
4	3.900	×	0.600	2.340000
5	3.900	×	0.600	2.340000
6	3.530	×	2.640	9.319200
7	7.070	×	2.640	18.664800
8	4.210	×	7.375	31.048750
9	4.147	×	6.075	25.194404
10	4.147	×	4.690	19.450495
11	0.520	×	4.485	2.332200
12	0.100	×	0.600	0.060000
13	0.163	×	0.600	0.097800
14	0.010	×	2.400	0.024000
15	0.010	×	2.400	0.024000
計	1−(2+3+4+5+6+7+8+9+10+11+12+13+14+15)			1,968.963351
			面積	1968.96

4階

（4階）

番号	計算式			計(㎡)
1	61.420	×	34.000	2,088.280000
2	1.050	×	4.010	4.210500
3	1.050	×	4.010	4.210500
4	3.910	×	2.465	9.638150
5	3.910	×	2.465	9.638150
6	3.530	×	2.640	9.319200
7	16.060	×	2.640	42.398400
8	3.930	×	15.705	61.712798
9	3.930	×	15.685	61.634208
10	0.381	×	0.600	0.228300
11	0.381	×	0.600	0.228300
12	0.035	×	3.210	0.112350
計	1−(2+3+4+5+6+7+8+9+10+11+12)			1,884.949145
			面積	1884.94

1階

（1階）

番号	計算式			計(㎡)
1	61.400	×	34.000	2,087.600000
2	1.040	×	4.030	4.191200
3	0.300	×	3.935	1.180500
4	4.300	×	0.690	2.967000
5	4.300	×	0.690	2.967000
6	5.550	×	4.000	22.200000
7	0.160	×	2.560	0.409600
8	9.350	×	0.160	1.496000
計	1−(2+3)−(4+5)+6+7+8			2,100.3999
			面積	2,100.39

延べ面積

計算式	計(㎡)
1階+2階+3階+4階+5階	8,321.15

改2013.01.22
改2012.11.20

1級建築士　国土交通大臣登録　第269262号　楠木　賢一

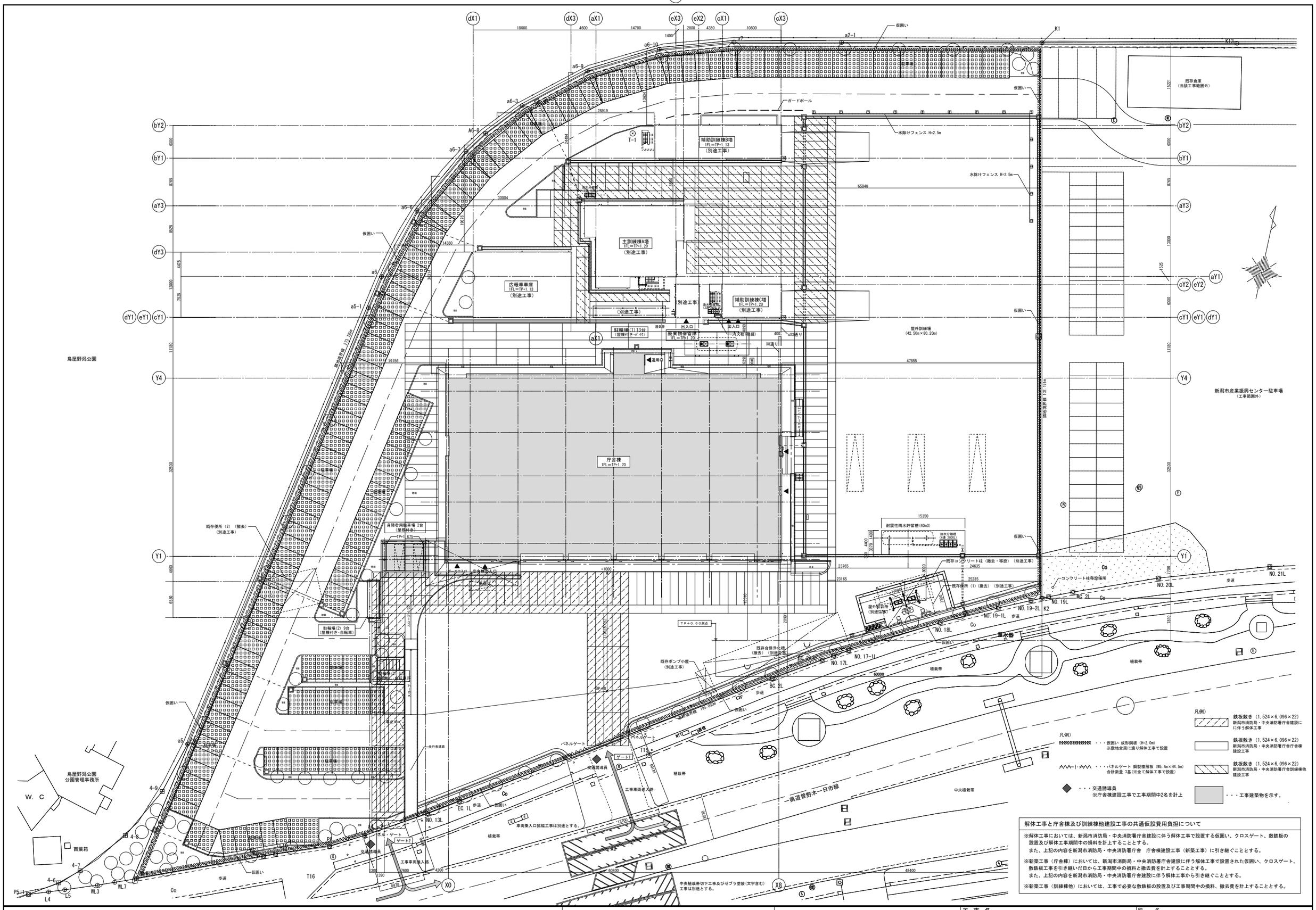
安井・太陽設計共同体
管理建築士一級建築士第129267号　高田　茂

新潟市建築部公共建築第1課

工事名　新潟市消防局・中央消防署庁舎　庁舎棟建設工事

図名　建物求積図・求積表　計通-A-02

年月日 2013.03.01　縮尺 A1:1／300、A3:1／600　図面番号 GEN-11



解体工事と庁舎棟及び訓練棟他建設工事の共通仮設費用負担について

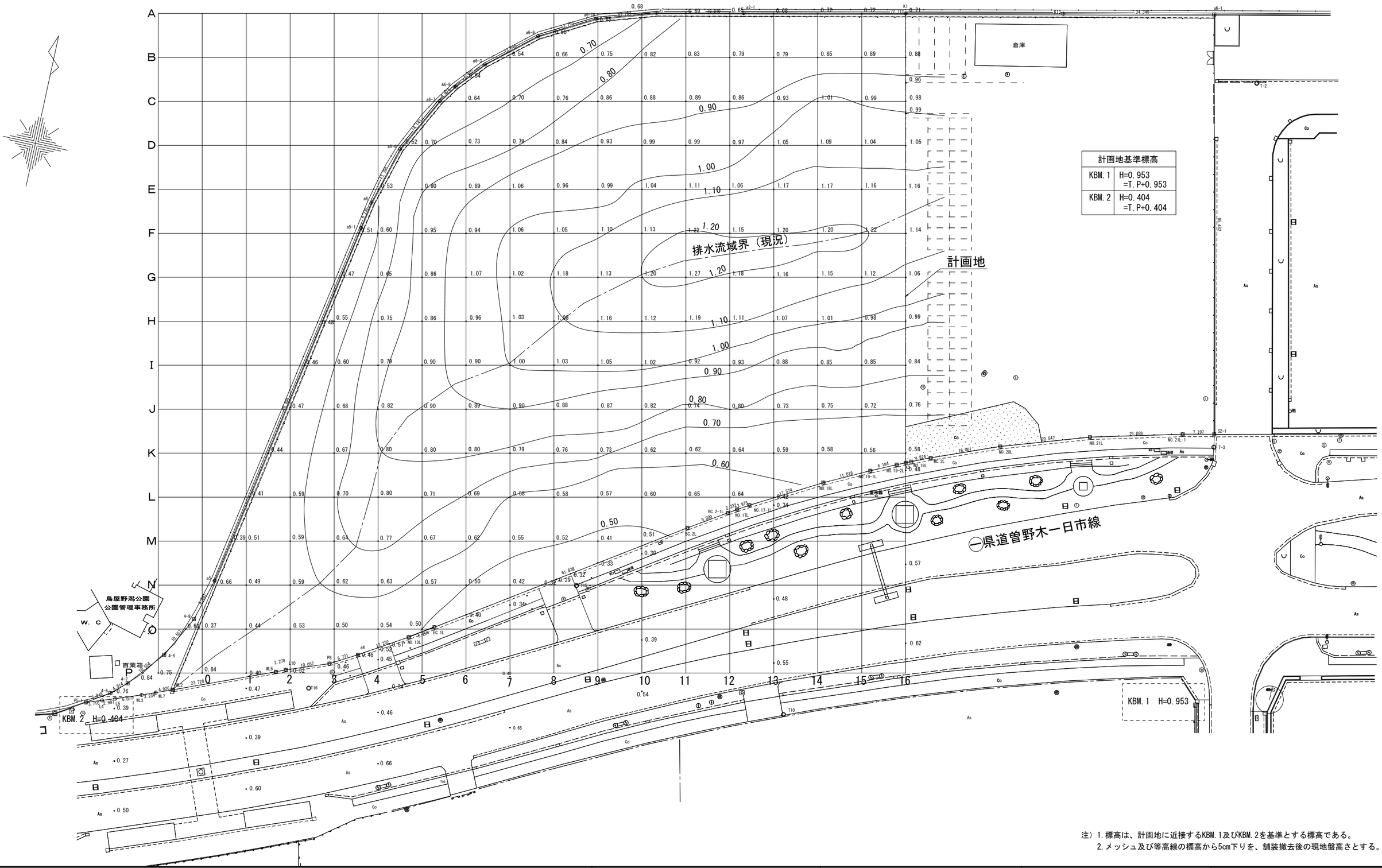
※解体工事においては、新潟市消防局・中央消防署庁舎建設に伴う解体工事で設置する仮囲い、クロスゲート、敷鉄板の設置及び解体工事期間中の損料を計上することとする。
また、上記の内容を新潟市消防局・中央消防署庁舎　庁舎棟建設工事（新築工事）に引き継ぐこととする。

※新築工事（庁舎棟）においては、新潟市消防局・中央消防署庁舎建設に伴う解体工事で設置された仮囲い、クロスゲート、敷鉄板工事を引き継いだ日から工事期間中の損料と撤去費を計上することとする。
また、上記の内容を新潟市消防局・中央消防署庁舎建設に伴う解体工事から引き継ぐこととする。

※新築工事（訓練棟他）においては、工事で必要な敷鉄板の設置及び工事期間中の損料、撤去費を計上することとする。

安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第129267号　高田　茂	新潟市建築部公共建築第１課	工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎　庁舎棟建設工事	図名 仮設計画図
		年月日 2013.03.01	縮尺 1:300(A1),1:600(A3)
		図面番号	GEN-12

現況地盤レベル図 S=1:400



注）1.標高は、計画地に近接するKBM.1及びKBM.2を基準とする標高である。
2.メッシュ及び等高線の標高から5cm下りを、舗装撤去後の現地盤高さとする。

安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第129267号 高田 茂	新潟市建築部公共建築第１課	工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟 建設 工事	現況地盤レベル図	
		年月日 2012.11	縮尺 S=1:400 (A1)S=1:800(A3)	図面番号 GEN-13

共通事項

1 各項目の※及び・の適用は特記仕様書と同じとする。
2 （0－00－0）内の数字は、公共建築協会発行「建築工事標準詳細図　最新版」の詳細番号を示す。（平成22年版）
3 （D－0－0）の数字は、「部分詳細図」の詳細番号を示す。
4 特記以外の木部は、EP－G（水系）をする。ただし、和室廻りは塗装無とする。
5 特記以外の外部鉄部は、溶融亜鉛メッキ着とする。
6 特記以外の内部鉄部、亜鉛メッキ面は、SOP塗（F☆☆☆☆）とする。
7 室名欄に「測」印のある室は、特記仕様書の「室内空気中の化学物質の濃度測定」を行う対象室を示し、（　）内数値は、測定個所数を示す。
8 記号は下記による。

区分	略号	新JIS略号	材料名称　［　］は新JISでの名称を示す
下地略号	RC（　）		（　　）は共仕表6.2.3による
	CB		コンクリートブロック積み
	ALC		軽量気泡コンクリートパネル
	ECP		押出成形セメント板
	LGS		軽量鉄骨下地
	W		木（木造下地）
	ST		スチール
	SUS		ステンレス
	AL		アルミニウム
	MO		モルタルコテ押え
	WM		防水モルタルコテ押え
	UF（W）		木製ユニット床組
	UF（S）		鋼製ユニット床組
	OA		フリーアクセスフロア（OAフロア）
	PF		ポリエチレンフォーム床下地（床下地のみ）
床材略号	NC	FS	ビニル床シート　［複層ビニル床シート］
	CT	KT	ビニル床タイル（半硬質）　［コンポジションビニル床タイル］
	CTS		ビニル床タイル（軟質）
	HT	FT	ホモジニアスビニル床タイル　［複層ビニル床タイル］
	VT（E）	KT(E)	帯電防止ビニル床タイル　［帯電防止コンポジションビニル床タイル］
	Ca		カーペット
	TCa		タイルカーペット
巾木略号	VB		ビニル幅木
	WB		木製幅木
ボード類略号	GB－R		せっこうボード
	GB－NC		不燃積層せっこうボード（化粧無し：下地張り用）
	GB－NC（T）		不燃積層せっこうボード（化粧有り：トラバーチン模様）
	GB－D（W）		化粧せっこうボード（木目）
	GB－D（T）	GB－D	化粧せっこうボード（トラバーチン模様）
	GB－S		不燃シージングせっこうボード（不燃耐水せっこうボード）
	GB－F		強化せっこうボード
	ケイカル板		けい酸カルシウム板（タイプ2）
	ケイカル板（P）		吸音用穴あき無石綿セメントけい酸カルシウム板
	DR		ロックウール化粧吸音板（フラットタイプ）
	DR（凹凸）		ロックウール化粧吸音板（凹凸タイプ）
	DR（軒天）		ロックウール化粧吸音板（軒天井用：フラットタイプ）
	DR（軒天凹凸）		ロックウール化粧吸音板（軒天井用：凹凸タイプ）
	PF板		押出法ポリスチレンフォーム保温板
	RW	RW－B	ロックウールガラスクロス張り
	GW	GW－B	グラスウールガラスクロス張り
仕上略号（塗装）	SOP		合成樹脂調合ペイント塗り
	EP		合成樹脂エマルションペイント塗り
	EP－T		合成樹脂エマルションペイント模様塗料塗り
	EP－G		つや有合成樹脂エマルションペイント塗り
	EP－G（水系）		つや有合成樹脂エマルションペイント塗り（屋内水系塗料塗り）
	EP－M		多彩模様塗料塗り
	VE		塩化ビニル樹脂エナメル塗り
	AE		アクリル樹脂エナメル塗り
	FE		フタル酸樹脂エナメル塗り
	2－FUE	DP－A	常温乾燥形ふっ素樹脂エナメル塗り［耐候性塗料塗り（フッ素樹脂塗料）］
	2－UE	DP－B	2液型ポリウレタンエナメル塗り　［耐候性塗料塗り（アクリルシリコン樹脂塗料）］
	2－ASE	DP－C	アクリルシリコン樹脂エナメル塗り［耐候性塗料塗り（ポリウレタン樹脂塗料）］
	CL		クリヤーラッカー塗り
	AC		アクリル樹脂ワニス塗り（アクリル樹脂クリヤー塗り）
	UC		ウレタン樹脂ワニス塗り
	OS		油性ステイン塗り
	AIP		アルミニウムペイント
	2－XE		2液形エポキシ樹脂塗料
	2－FUC		常温乾燥形ふっ素樹脂クリアー
仕上略号（鋼材）	HL		ヘアライン仕上
	SSE		エッチング仕上
	SSV		バイブレーション仕上
	SSM		鏡面仕上（#800以上）
	SSB		ショットブラスト仕上
	BC		硫化イブシ仕上
	A－BE		アクリル樹脂焼付
	F－BE		フッ素樹脂焼付
	U－BE		ウレタン樹脂焼付
	M－BE		メラミン樹脂焼付
	NS		粘着剤付シート貼り
天井見切縁 カーテンブラインドボックス略号	V		塩ビ製（既製品）
	AL		アルミニウム製（A－BE、指定色）
	ST		スチール、t=1.6mmSOP
	W		木製（OSCL）　天井見切り：特記なきは、形35x35mm
	PR		ピクチャーレール（既製品：アルミ　）
			耐荷重：30kg以上
防水略号（防水）	A		アスファルト防水
	S		合成樹脂シート防水
	P		合成樹脂塗膜防水

外部仕上げ

床

種別	施工箇所
⊙コンクリート直均し仕上げ（1－01－3）	1階通用口前面、1階荷物搬入口前面、および下記以外の部分
⊙磁器質タイル（1－01－5）	1階風除室・ポーチ前面庇下部
・コニットタイル（1－01－6）	
・RC　増打厚さ（10mm）	
・天然石（ひき石）（1－01－9）	
・	

壁、柱、梁
※RC（B）増打厚さ20mm（2－02－8～12
※出隅面取り：（20）mm　⊙出隅角面取：（20×20mm）のうえ
・複層塗材（　）　・外装薄塗材（　）　・AE塗り　・塗装なし
⊙ アルミスパンドレル　⊙ 防水形複層塗材REアクリル　上塗りDP－A
・磁器質タイル窓着張り（2－01－4）
・磁器質タイルマスク張り（2－01－7）
⊙ ケイカル板ｔ8＋8mm DP－A　（適用口外部）
継目処理は目透し工法（2－03－14）とし、横目地部分は（2－03－11）としガラス繊維補強とする。

腰
※壁、柱、梁に同じとする。
・

屋根
※下地RCのうえ
・アスファルト防水（A－2）、ポリエチレンフィルム厚さ0.15mm、
保護コンクリート厚さ80mm直均し仕上げ、伸縮調整目地
※アスファルト防水（AI－2）、PF板厚さ（※25mm⊙　60　）mm
フラットヤーンクロス（70g／m²程度）
保護コンクリート厚さ80mm（溶接金網入り）直均し仕上げ、伸縮調整目地
・アスファルト防水（D－2）

軒天
⊙1階通用口：ケイカル板t6＋6mm DP－A、
継目処理は（3－01－4）に準じ、継目部分は（2－03－11）としガラス繊維補強とする。
⊙東西外壁竪上部：RC（B）DP－A

庇

施工箇所	1階エントランス、東西面外壁、車庫前
上端	アルミハニカム　F－BE
はな	アルミ押出型材　F－BE
下端	アルミハニカム　F－BE

外部詳細

⊙屋上パラペット	・コンクリート笠木：断熱防水（5－01－3） ・コンクリート笠木（5－02－3） ⊙アルミニウム笠木：断熱防水（5－01－7） ・アルミニウム笠木（5－02－7）	
⊙塔屋取合い	⊙コンクリート笠木・（5－01－2） ⊙アルミニウム笠木（5－01－6）	
・屋上点検口	（5－21－1：ステンレス製ふた）	共通：防水立上り部 ・（　）
⊙屋上換気塔	（5－21－2）　OA・EA塔1、2	
⊙屋上管類貫通部	（5－22－1）	
⊙屋上基礎	⊙コンクリート笠木（5－22－2）・アルミ笠木（5－22－3）	
・煙突	※成型パイプ（7－21－1）径＝（　）mm 天板（※無　・有（　））　耐酸耐熱塗料なし	
⊙雨とい及び ルーフドレン	◉鋼管とい（5－32－1）径＝（図示）mm　⊙横型（5階屋上）⊙立て型 ⊙アルミ製（5階屋上）　⊙ステンレス製（底縦樋）	
⊙タラップ	⊙標準型（8－31－1）　・はしご型（8－31－2）　⊙安全ガード型（8－31－3）	
・懸垂幕受け金物	・回転型（8－32－1）　・固定型（8－32－2）	
⊙屋上手すり	※（5－23－1）　⊙図示	
⊙看板、サイン	（図示　）	
・くつふきマット	・排水なし（8－21－1）　※排水つき（8－21－2） ・泥だまり、排水つき（8－21－3）	
・くつ洗い流し	・一槽型（8－22－1）　・二槽型（8－22－2）	

<追記事項>

下地略号

LGS（N）	軽量鉄骨壁下地　窒素ガス消火設備1000Pa耐風仕様
LGS　A	軽量鉄骨天井下地　耐震用天井
LGS　B	軽量鉄骨天井下地　クリップボルト止め天井
LGS　C	軽量鉄骨天井下地　耐風圧天井　2000N/㎡仕様

床材略号

塗床A	弾性ウレタン塗り床材
塗床B,塗床C	エポキシ樹脂塗り床材
硬化用塗布	合金骨材配合強靱床仕上材
~~NF~~	~~ビニル床シート（ノンワックスタイプ）~~
VT（E）（OA－A）	帯電防止床タイル（置式）
~~VT（E）（OA－B）~~	~~帯電防止床タイル（置式）~~
VT（E）一体型（OA－B）	帯電防止床タイル（一体型）

巾木略号

ボード類略号

GB－R－H	普通硬質せっこうボード
ケイカル板	けい酸カルシウム板　t＝6.0
NSケイカル板	粘着剤付シート貼りけい酸カルシウム板　t=6.0
化粧ケイカル板	化粧けい酸カルシウム板
GW敷込	グラスウール　32kg/m3 t=25　（特記なき場合）
GW*敷込	グラスウール　32kg/m3 t=50　（特記なき場合）
GW充填	グラスウール　24kg/m3 t=50　（特記なき場合）
GW*充填	グラスウール　32kg/m3 t=50　（特記なき場合）
GW張り	グラスウール　32kg/m3 t=25　（特記なき場合）
GB（吸音）	不燃吸音せっこうボード t=9.5

天井見切縁

S	スチール　PL　t＝1.2mm　SOP　（D－20－1）

内部仕上げ

床
（1）特記以外の下地及び詳細番号は下記による。

仕上げ種別	詳細番号
NC、CT	（1－01－4：t＝10）RC
磁器質タイル	（1－01－5または6）
カーペット・タイルカーペット	（　　）RC
たたみ	（1－02－3）　（D－14－14）
天然木化粧複合フローリング	（1－02－8）
RC、床用塗料、防塵用塗料	（1－01－3：t＝10）RC
モルタル、防水モルタル	（1－01－1）防水モルタル厚（※15・30）

（2）表記なきレベルは、FL±0とする。
（3）屋内のRC機械基礎は、床と同等の仕上を行う。
（4）テッキプレートを用いたスラブに防水を行う場合は、テッキプレートに穴明（6φ@300×600）を行う。
（5）浮床などのグラスウールは96kg/m³とする。
（6）異なる床仕上げの取合いで、畳縁が無い場合はステンレスFB見切ｔ=3mmを設置する。
（7）塗膜防水の上、仕上材による仕上げの指示がある場合は、保護コンクリートｔ＝50の上、仕上げとする。
（8）屋内防水指示のある室の周囲壁面はRCを立ち上げ防水層を巻き上げる。
（9）床の防振
・厨房の下部に居室がある場合は、厨房の床防水の上に
（・RC浮床構造　・　防振床二重床（軽量衝撃音レベル等級LL50相当品）
※設計図による　・　　）を設ける。範囲は設計図による。
・食堂の床などで下部に居室がある場合は、軽量床衝撃音対策として、
（・　防振床二重床（軽量衝撃音レベル等級LL50相当品）　※設計図による　・　　）を設ける。
範囲は設計図による。
⊙歩行など衝撃を伴う屋上の下部に、会議室・役員室など重要な部屋がある場合は
屋上機器の設置に伴い防振処置を講じること。（機械設備工事）

幅木
（1）特記以外の下地及び詳細番号は下記による。

仕上げ種別	高さ（mm）	詳細番号
VB	※60　・75	（2－11－1）（2－11－9）
WB（樹種　※杉　・　　）	※60　・	（2－11－4）：CL仕上げ
NC（ビニール床シート巻上げ）	※60　・	（2－11－2）

（2）幅木防塵塗装で、壁下地がLGSの場合、コンクリートを幅木高さまで立ち上げる。

柱　壁
（1）特記以外の下地及び詳細番号は下記による。

仕上げ種別	詳細番号
ボード張り（RCまたはCB下地）	（GL工法：接着材＝11～13mm）（2－03－06）（1枚張り）
ボード張り（軽量鉄骨壁下地：一般壁）	（2－22－1）（2－24－5～7：継目処理の場合）
ボード張り（軽量鉄骨壁下地：遮音壁）	（2－23－1）（2－24－5～7：継目処理の場合）
陶器質タイル（RC又はCB下地）	（2－01－2）
モルタル	（2－02－13）
吸音材張り（RCまたはCB下地）	（2－02－14）

（2）特記以外のボード類は下記による。

種別	厚さ（mm）	備考
GB－R	12.5	塗装仕上げ及び、壁紙張りの場合は継目処理（2－03－6）（2－03－10） ただし、仕上げ等行わない場合は突き付け（2－03－9）（2－03－13）とする。 （二重張りは特記無き限り下張りは上張りと同一ボードとする）
ケイカル板	8	突付（~~V目地）（2－03－17：下地張りはGB（S））~~ ~~（2－03－12：下地張りは　⊙GB（S）　ケイカル板）~~ 特記なきかざり、継目処理（2－03－11）とし、ガラス繊維補強とする。 （下地張りは　⊙GB（S）⊙ケイカル板）
<追記> GB－S	12.5	特記なきかざり、下地張りはGB－R　t＝12.5mm （2－03－10）（2－03－15）
GB－F	12.5	特記なきかざり、二重張り（下張りは上張りと同一ボード）とする
化粧ケイカル板	6.0	特記なきかざり、目地シーリング工法（下地張りはGB－S）

（3）コンクリート打放しの出隅面取りは10mmとする。（梁型とも）
（4）下り壁（3－12－1：※塩ビ製見切縁・アルミ製見切縁）の仕上げは壁と同じとする。
（5）ボード壁とRC又はCB壁との取合いは（2－24－4,－7：継目処理の場合　塩ビ製見切縁）とする。
（6）ボード壁とサッシ取合いは（2－24－8）とする。
（7）押入（6－46－1）の壁はGB－R厚さ12.5mm塗装なし突き付けとする。
（8）タイルを、軽量鉄骨壁下地のボード面に接着張りを行う場合のボードは、下地張りをGB－S、上張りをケイカル板（突付け）とする。（2－03－13）
（9）防水を行う室内のRC壁は、20mm増打とする。
（10）常時開放式防火戸の戸袋内側は、特記なき限り塗装仕上とする。
（11）外壁面に誘発目地を設ける場合は、内壁面にも同箇所に設け、内外共シールを行う。
（12）アルミカーテンウォールのスパンドレル部にケイカル板を裏打する場合は、AE仕上とする。
（13）塗装下地用クロスの塗料は、専用塗料で防火一級認定品とする。
（14）特記なき限り壁に取付いた柱型は、壁仕上に従う。
（15）階段及び避難経路に使用する押出成型セメント板・ALC版等、乾式下地のボード貼は、LGS工法（ロッキング対応）とする。
（16）単板練付は、0.3mm以上とし、特記なき限りポリウレタン樹脂クリヤー塗装とする。
（17）耐火、遮音壁以外のボード類は、天井仕上面より100mm上まで貼る。

天井
（1）軽量鉄骨天井下地は（3－21－1）（3－21－2）（3－21－3）（3－41）（3－42）とする。
（2）特記以外のボード類は下記による。

種別	厚さ（mm）	詳細番号
DR	◉9　⊙12	（3－01－4）
DR（凹凸）	※12　・15	（3－01－4）
ケイカル板	⊙6　・（　）	（3－01－2）
GB－NC	⊙9.5　・12.5　・（　）	（3－01－2）
GB－D	12.5	下地は製造所の仕様とする
RW又はGW張り	25	（3－01－12）
<追記>		
GB－NC(T)	⊙9.5	（3－01－2）
GB－R	⊙12.5 特記なき限り、下地張りは GB－NC　t＝9.5mm	（3－01－4） 継目は（2－03－10）とし ガラス繊維補強とする。

（3）押入（6－46－1）の天井はGB－R厚さ12.5mm塗装なし突き付けとする。
（4）壁～天井の取合いは天井付き目地
（3－11－3、4、7、8：※塩ビ製見切縁　⊙アルミ製見切縁）とする。
（5）DRの下張りは（※GB－NC　・GB－R）厚さ9.5mmとする。
（6）GB－NC（T）の大きさ　※910×455mm　・910×910mm
（7）塗装仕上げ及び壁紙張りの場合はGB－R厚さ12.5mm（継目処理）とする。
（・3－01－7、⊙3－01－8）
（8）外部のDR（軒天）の下地張りはGB－S厚さ12.5mmとする。
（9）特記なき限り天井より突出した梁型は天井仕上に、壁に取付いた梁型は壁仕上に従う。
（10）照明ボックス部は、熟抜穴φ20防虫網付@600を設ける。
（11）厨房等の天井でケイカル板2枚貼の目地部はシーリングを施すものとする。
<追記>
・ケイカル板ｔ6＋6mm　継目処理は（3－01－4）に準じ、継目部分は（2－03－11）とし、ガラス繊維補強とする。
・DR*は、DR t12mm+GB－NC t9.5mmとする。

内部詳細

⊙断熱材	種　別　※PF板打ち込み　・現場発泡断熱材　⊙PF板後張り 窓まわりなどの補修材は現場発泡断熱材とする。 施工範囲　外壁　※内面がGB－R張り（GL工法）の床面から梁型下端まで （階段は除く）の部分（7－01－2） ⊙図示　（7－01－1） スラブ　・土層接地スラブ下面および図示の範囲（7－01－2） （ただし、屋根スラブ下面を除く） ⊙図示　（7－01－1）
⊙雨といおよび掃除口	※鋼管とい（5－32－1および2） ・
⊙カーテンボックス及びブランドボックス	◉アルミニウム製（3－31－3）　⊙木製（3－32－1）図示　⊙図示 特記なき限り　W＝120　H＝80
⊙階段手すり	・ビニル床タイル（7－12－5～7：通しのFBは38×9.0とする） ※集成材（7－12－2～4,－8）　⊙図示
・落下防止手すり	・（　　）　・図示
・トラフ	・ビニル床タイル（1－21－4）　・しま鋼板SOP（1－21－3）
⊙トイレブース	※既製品（隅での補強が必要な場合は製造所の仕様による）（ブースの間仕切は天井まで）
⊙肢体不自由者用便所手すり	固定手摺（A）（6－23－1,－2）（6－24－1） 可動手摺　（既製品：取り付けは6－27－5に準ずる）
・便所防水	※塗膜防水（1－31－2）
⊙流し台およびコンロ台	（6－11）⊙図示
⊙流し上部水切り	⊙奥行き55mm（6－11－3）　・奥行き（　　mm）（6－11－4）
⊙つり戸だな	（6－11－5）⊙図示
・フード	（6－11－2）
⊙和室出入口	※（6－42）　・（6－41－　）　・（　　）
⊙押入	（6－46－1　※天袋なし　・天袋あり）
⊙浴室	（6－31－1　※防水あり　・防水なし）　⊙ユニットバス（既製品） ただし、浴槽およびバランス釜は別途とする。
⊙脱衣箱	（6－32－1）⊙図示
・くつふきマット	・排水なし（8－21－1）　※排水つき（8－21－2） ・泥だまり、排水つき（8－21－3）
⊙タラップ	※標準型（8－31－1）
⊙郵便受け（新聞受け）	※既製品　（　　程度）　⊙図示
⊙表示標識	⊙（図示　）　⊙各階案内板　⊙室名札 ⊙ピクトグラフ　⊙階段表示板 既製品　⊙誘導標識
⊙屋内掲示板	既製品（アルミ枠）⊙図示

遮音性能
外部からの遮音
⊙外部からの音に対する室内遮音レベルは、（※45　・　）dBA以下を目標とする。
⊙工事着手後、騒音源が見渡せる位置で外部騒音の測定を行い、外装の検討に反映させる。
⊙完成時の騒音測定は窓から1m離れた位置とし、建物の高さに応じて（4（1～4階））フロアを測定する。
室内間仕切りの遮音
・テナント間間仕切りの遮音性能はRr－（※50　・　）以上とする。また、サッシ取り合い部、柱取り合い部、窓廻り上下階区画部の遮音性能確保に注意する。
・（　　）間間仕切りの遮音性能は、独立スタッド型のRr－（※50　・　）以上とする。
⊙居室と便所、居室とEVシャフト間の間仕切りの遮音性能は、独立スタッド型のRr－（※55）以上とする。
⊙遮音上重要な壁には原則としてコンセントボックス、ペーパーホルダーなどによる切込みをつくらない。
やむを得ず配する場合
にはスチール捨てボックス（アンダックスコート吹付け）を先付してその中に設置すること。
また遮音壁との間の隙間はシール材にて置くこと。
⊙鉄骨造耐火被覆材に取り付く乾式遮音間仕切壁については、梁下に先付けチャンネル材を通しで取付け、遮音壁を取り付ける。耐火被覆材は湿式材またはこれに代わる充填性のよい被覆材とする。
◉外部に設置する設備機器類の給排気騒音値は、隣接境界線上で騒音規制法に定める規定値以下とする。
⊙2階応急救護訓練室、3階講堂の室内騒音レベルは、室内遮音音響工事関連特記仕様書による。

防火材料（国土交通大臣認定品）

石膏ボード（t=12.5,　15.0）		不燃	NM－8612（社団法人 石膏ボード工業会）
石膏ボード・化粧石膏ボード（t=9.5）	［不燃積層板］	不燃	NM－8613（社団法人 石膏ボード工業会）
化粧石膏ボード（t=9.5,　12.5,　15.0）		不燃	NM－8614（社団法人 石膏ボード工業会）
強化石膏ボード（t=12.5,　15.0,　21.0）		不燃	NM－8615（社団法人 石膏ボード工業会）
ロックウール吸音板（岩綿吸音板）		不燃	NM－8599
吹付岩綿		不燃	NM－8601
グラスウール保温板		不燃	NM－8605（硝子繊維協会）
繊維混入けい酸カルシウム板		不燃	NM－8578
天然木練付化粧けい酸カルシウム板		不燃	NM－8040（同等品）
塗料		不燃	NM－8585（社団法人 日本塗料工業会）
塗料		準不燃	QM－9816（社団法人 日本塗料工業会）
塗料		難燃	RM－9364（社団法人 日本塗料工業会）
防火壁装材料		不燃	NM－9895（同等品）
防火壁装材料		準不燃	QM－9502（同等品）
防火壁装材料		難燃	RM－9216（同等品）
石膏ボード（t=9.5）		準不燃	QM－9820（社団法人 石膏ボード工業会）
化粧石膏吸音ボード		準不燃	QM－9822（社団法人 石膏ボード工業会）
化粧石膏ボード（t=9.5）		準不燃	QM－9824（社団法人 石膏ボード工業会）
耐水石膏ボード（t=12.5,　15.0）		準不燃	QM－9826（社団法人 石膏ボード工業会）
普通木片セメント板		準不燃	QM－9705（同等品）
硬質木片セメント板		準不燃	QM－9706（同等品）
木毛セメント板		準不燃	QM－9701（全国木質セメント板工業組合）
<追記事項>			
普通硬質石膏ボード（t=9.5,　12.5）		不燃	NM－9645（同等品）
GB－D（孔あきタイプ）（t=9.5）		不燃	NM－0879（同等品）
化粧ケイカル板　（t＝6.0）		不燃	NM－3073（同等品）
複層仕上塗材（複合型化粧用仕上材）CE,Si		不燃	NM－8573
複層仕上塗材（複合型化粧用仕上材）CE,Si		準不燃	QM－9813
複層仕上塗材（複合型化粧用仕上材）CE,Si		難燃	RM－9363
不燃耐水石膏ボード（t=12.5,　15.0）		不燃	NM－9639（同等品）
不燃吸音石膏ボード（t=9.5）		不燃	NM－0879（同等品）
不燃吸付断熱材		不燃	NM－2935,2132（同等品）

<追記事項>
・OAフロア下のスラブは全て防塵用塗料を施す。
・壁、天井のGW張りは、特記なき限り、ガラスクロスピン押さえとする。消火ポンプ室のみ黒色とする。
・耐火または遮音間仕切り壁位置は平面図による。
・室名欄の★印は、居室を示す。
・室名欄（窒素ガス消火）は、該当室が窒素ガス消火（衛生設備工事）であることを示す。
ガス噴射時1000paのガス圧（耐風圧）が発生するため、LGS下地を耐風仕様とする。
・内装材はすべてF☆☆☆☆とする。
・特記なき限りEP,EP－Gは不燃塗料とする。

2012.11.28.水
2012.12.03.水
2012.12.27.水

一級建築士　国土交通大臣登録　第269262号　楠木　賢一

安井・太陽設計共同体
管理建築士一級建築士第129267号　高田　茂

新潟市建築部公共建築第1課

工事名　新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟建設工事

図名　仕上表（共通事項）　計通-A-04
年月日　2013.03.01　縮尺　図面番号　A-01

階	室名	天井高 H (FL+)	床 下地 防水	床 仕上	床 FL	巾木 特記なき限り H=60	壁 下地	壁 仕上	天井 下地	天井 仕上	付属品 天井見切縁	付属品 BB	備考	別途工事
1階	風除室	3000	MO	磁器質タイル 300x300		SUS HL	LGS	GB-R t=12.5 + GB-R-H t=9.5 EP-G	LGS B	アルミ積層複合板	AL		衝突防止シール(ガラス面)、掲示板、定礎、	
			A			H=100							積雪表示板	インターホン(電気設備工事)
	ポーチ	3000	MO	磁器質タイル 300x300		SUS HL	RC	RC(A)化粧打放しコンクリート	LGS B	アルミ積層複合板	AL		衝突防止シール(ガラス面)、新聞受け	傘立
			A			H=100	LGS	GB-R t=12.5 + GB-R-H t=9.5 EP-G						
	エントランスホール	4000	MO	NC		SUS HL	LGS	FL+3000まで GB-R t=12.5+GB-R-H t=9.5 EP-G	LGS B	GB-R+EP	AL		展示ケース、消火器ボックス	受付椅子、サイン
	測(1)					H=100	LGS	FL+3000以上 GB(吸音) EP					消火栓、コーナーガード	
								一部GB-R + GWt25 + GB(吸音) EP						
													GWt25はガラスクロス張	
	受付コーナー	3000	MO	NC		SUS HL	LGS	GB-R+EP-G	LGS B	GB-R+EP	AL		消火器ボックス	サイン、カウンター(置式)
						H=100		GB-F+EP-G						
	受付	3000	MO	NC		SUS HL	LGS	GB-R t=12.5 + GB-R-H t=9.5 EP-G<D-9-1>	LGS B	GB-R+EP			受付カウンター、下り天井	受付椅子、ロールスクリーン 、サイン
						H=100								
	EVホール1	4200	MO	磁器質タイル 300x300		SUS HL H=100	LGS	GB-R+EP-G	LGS B	GB-R+EP	V		コーナーガード	サイン
	前室2、3	3000	RC	NC		VB	LGS	GB-R+EP-G RC(B)+EP-G	LGS B	GB-NC(T)				
	廊下1	3000	RC	NC		VB	LGS	GB-R+EP-G	LGS B	GB-R+EP	V			消火栓(衛生設備工事)、サイン
						H=100								
	廊下2・EVホール2	3000	RC	コンクリート表面		床材塗上	LGS	GB-R+EP-G GB-F+EP-G	LGS B	GB-NC(T)	V		サイン、コーナーガード、消火器ボックス、	下足箱、消火栓(衛生設備工事)
	前室4			硬化剤塗布		H=100	RC	RC(A)化粧打放しコンクリート(EV2)					プリンター置場、LGS間仕切壁足元CON H=100立上	プリンター
	荷物搬入口風除室	3000	MO	コンクリート表面		壁同材	RC	RC(A)化粧打放しコンクリート	LGS B	ケイカル板+EP-G 2階スラブ面断熱施工	V		免震層点検用マンンハッチ、天井フック(点検口内)	
				硬化剤塗布			LGS	GB-R + GB-F EP-*G					LGS間仕切壁足元CON H=100立上	
	通用口風除室	3000	MO	コンクリート表面		SUS HL	LGS	GB-S+ケイカル板 + EP-G	LGS B	ケイカル板t6+6+EP-G	AL			傘立
				硬化剤塗布		H=100		(縦目地のみ:目透し工法(2-03-14))						
	雨衣掛スペース	3000	MO	コンクリート表面		SUS HL	LGS	GB-S+ケイカル板 + EP-G	LGS	ケイカル板+EP-G	V		雨衣掛フック	
				硬化剤塗布		H=100								
	前室1(X1通り)	3000	MO	NC		VB	LGS	GB-R+EP-G	LGS	GB-NC(T)	V			
							RC	RC(B) + EP-G						
	機械室(X1通り)	直天	RC	塗床A		床材塗上	LGS	GB-R GW充填 GW張り	RC	GW張り			機械基礎	
							RC	RC(B) GW張り						
	ポンプ室	直天	RC	塗床A		床材塗上	RC	RC(B) H2100以上GW張り	RC	GW張り			機械基礎	
							LGS	GB-R素地 H2100以上GW張り GB-F素地 H2100以上GW張り						
	消火ポンプ室	3000	RC	塗床A		床材塗上	RC	RC(B) H2100以上GW張り	LGS	ケイカル板+EP-G	V		機械基礎	
		(一部 2700)					LGS	GB-R素地 H2100以上GW張り						
	倉庫	3000	RC	CT		VB	RC	GB-R(GL工法)+EP-G	LGS	GB-NC(T)	V			
							LGS	GB-R+EP-G GB-F+EP-G						
	EPS	-	RC	防塵塗床		-	LGS	GB-F素地	-	直天				
							RC	RC(B)素地						
	中央消防署事務室 ★	3000	OA	VT(E)(OA-A H=100)	±0	VB	LGS	GB-R+EP-G	LGS B	GB-NC(T)	V	AL	受付カウンター、サイン	棚、机、椅子、ローパーティション、受付カウンター上部ロールスクリーン
	(外来者打合(相談)スペースを含む) 測(2)				-100		RC	GB-R(GL工法)+EP 柱含む				B-2	掲示板	情報盤、窓下収納(天板)
	署長室 ★	3000	OA	VT(E)(OA-A H=100)	±0	WB(タモ)+CL	LGS	GB-R+EP-G GW充填(遮音)	LGS	GB-NC(T) 天井内GW敷込	V	AL	ピクチャーレール、カーテンレール	洗面化粧台(衛生設備工事)、造付棚、カーテン
	測(1)				-100		RC	GB-R(GL工法)+EP 柱含む				B-2	木巾木(D-16-17)	
	湯沸室	2600	RC	NC		床材巻上	LGS	GB-R+EP-G	LGS	GB-NC(T)	V		流し台(L1800)、吊り戸棚、	棚、冷蔵庫、ポット、
	外来者打合室★	2400	MO	CT		VB	LGS	GB-R+EP-G GW充填(遮音)	LGS	GB-NC(T) 天井内GW敷込	V	AL		机、椅子、ブラインド
	測(1)						RC	RC(B) + EP-G				B-2		
	階段3	-	MO	NC		VB	LGS	GB-R+EP-G	-	階段段板裏(RC(B)のうえEP)			手摺	
						H=100	RC	RC(B) + EP-G						
	多目的WC	2600	RC	NC		床材巻上	LGS	GB-S+EP-G GW充填(遮音)	LGS	GB-NC(T) 天井内GW敷込	V		ライニング、大便器、汚物流し、手洗い、洗面器、フィッティングボード、ベビーシート、多目的シート、ベビーチェア、L型手摺、可動式手摺	
	WC(男)1	2600	RC	NC		床材巻上	LGS	GB-S+EP-G GW充填(遮音)	LGS	GB-NC(T) 天井内GW敷込	V		ブース、ライニング、洗面カウンター、汚垂タイル	洗面器(衛生設備工事)
							RC	GB-S(GL工法)+EP-G					L型手摺、小便器手摺	
	WC(女)1	2600	RC	NC		床材巻上	LGS	GB-S+EP-G GW充填(遮音)	LGS	GB-NC(T) 天井内GW敷込	V		ブース、ライニング、洗面カウンター	洗面器(衛生設備工事)
							RC	GB-S(GL工法)+EP-G					L型手摺	
	WC(男)2	2400	RC	NC		床材巻上	LGS	GB-S+EP-G GW充填(遮音)	LGS	GB-NC(T) 天井内GW敷込 2階スラブ面断熱施工	V		ライニング、洗面カウンター	洗面器(衛生設備工事)
						H=300	LGS	GB-F+GB-S+EP-G GW充填(遮音)						
							RC	GB-S(GL工法)+EP-G						
	WC(女)2	2400	RC	NC		床材巻上	LGS	GB-S+EP-G GW充填(遮音)	LGS	GB-NC(T) 天井内GW敷込 2階スラブ面断熱施工	V		ライニング、洗面カウンター	洗面器(衛生設備工事)
						H=300	RC	GB-S(GL工法)+EP-G						
	WC(男)3	2600	RC	NC		床材巻上	LGS	GB-S+EP-G GW充填(遮音)	LGS	GB-NC(T)) 天井内GW敷込	V		ブース、ライニング、洗面カウンター、汚垂タイル	洗面器(衛生設備工事)
							LGS	GB-F+GB-S+EP-G GW充填(遮音)					L型手摺、小便器手摺	
							RC	RC(B) + EP-G						

階	室名	天井高 H (FL+)	床 下地 防水	床 仕上	床 FL	巾木 特記なき限り H=60	壁 下地	壁 仕上	天井 下地	天井 仕上	付属品 天井見切縁	付属品 BB	備考	別途工事
	SK	2600	MO	NC		床材巻上	LGS	GB-S + EP-G GW充填(遮音)	LGS	GB-NC(T) 天井内GW敷込	V		ライニング、モップ掛フック	棚
	車庫	直天	RC	コンクリート表面	-100 ～0	壁材	RC	FL+600までRC(B)素地	RC	2階スラブ面断熱施工 (不燃吹付断熱材)	V		壁、柱コーナーガード、SUS流し台、下流、	鏡(衛生設備工事)
			A	硬化剤塗布			RC	FL+600以上RC(B)素地 一部EP-G					ライニング	タイヤ置場棚、サイン
							ALC	FL+600以上ALC 複層塗材CEアクリル	RC	大梁下:RC(B) + EP			ガソリントラップ、 排水溝、ガードポスト、	
							RC	柱:RC(B)素地					防火衣洗濯脱水機・乾燥機置場、	防火衣洗濯脱水機・乾燥機、薬剤投入機
	資機材庫	2700	RC	塗床B	-80	床材塗上	RC	RC(B) 素地	LGS B	ケイカル板+EP-G 天井内GW敷込、 2階スラブ面断熱施工	V			棚
						H=300 RC面目地(BB)	RC ALC	FL+600までRC(B) 素地 FL+600以上ALC 複層塗材CEアクリ						
	防火衣着装室	2700	RC	コンクリート表面		床材塗上	LGS	GB-R+EP-G	LGS B	ケイカル板+EP-G 天井内GW敷込、 2階スラブ面断熱施工	V			保冷機、 回転式防火衣掛けロッカー
	測(1)			硬化剤塗布		H=100	RC	RC(B) + EP-G		一部ガラスブロック			LGS間仕切壁足元CON H=100立上	
	乾燥室	2700	RC	NC		VB	LGS	GB-S + EP-G GB-F + EP-G	LGS B	ケイカル板+EP-G 天井内GW敷込、 2階スラブ面断熱施工	V			棚、物干し竿
							RC	RC (B)+EP-G						
	洗濯室	2700	RC	NC		VB	LGS	GB-S + EP-G	LGS	ケイカル板+EP-G 天井内GW敷込	V		洗濯機パン、ライニング	棚
	洗濯乾燥室	2700	RC	NC		VB	LGS	GB-S + EP-G	LGS	ケイカル板+EP-G 天井内GW敷込	V		物干し金物(ハンガーパイプ)	
							RC	GB-S (GL工法)+ EP-G						
	酸素ボンベ庫	2700	RC	コンクリート表面		床材塗上	RC	RC(B) + EP-G	LGS B	ケイカル板+EP-G 天井内GW敷込	V		LGS間仕切壁足元CON H=100立上	酸素ボンベ棚
	(高圧ガス保安法)		RC	硬化剤塗布		H=100								
	救急備品庫	2700	RC	コンクリート表面		床材塗上	LGS	GB-R+ EP-G GB-R+ EP-G GW充填(遮音)	LGS B	ケイカル板+EP-G 天井内GW敷込	V			棚
				硬化剤塗布		H=100	LGS	GB-F + EP-G					LGS間仕切壁足元CON H=100立上	
	救急消毒室	2700	RC	塗床C		床材塗上	LGS	GB-S+ケイカル板+磁器質タイル100角	LGS B	ケイカル板+EP-G 天井内GW敷込、 2階スラブ面断熱施工	V		ライニング、排水溝グレーチング、シャワーカーテンレール、	洗濯機、棚
			A			H=300	LGS	GB-F+ケイカル板+磁器質タイル100角					隣て、洗濯機置場、洗濯機パン、立上	カーテン
													流し台、つり戸棚、水切り棚、	
													LGS間仕切壁足元CON H=300立上	
	ホースタワー室	16000	MO	コンクリート表面		床材塗上	RC	RC(B) 素地	LGS C	浴室用天井(天井パン)	AL		ホースタワー、排水溝、 集水枡、ライニング	
		吹抜		硬化剤塗布		H=300	ALC	複層塗材CEアクリル		4階スラブ面断熱施工				
	空気充填室	2700	RC	コンクリート表面	-20	EP-G	RC ALC	FL+600までRC(B) 素地 FL+600以上ALC複層塗材CEアクリ	LGS B	ケイカル板+EP-G 天井内GW敷込、 2階スラブ面断熱施工	V		機械基礎	空気充填機1、2、ボンベ棚
	(高圧ガス保安法)			硬化剤塗布		H=600	ALC RC	H2100以上GW張り RC(B) 素地						
	油庫	2700	MO	コンクリート表面	-100	EP-G	RC ALC	FL+600までRC(B) 素地 FL+600以上ALC複層塗材CEアクリ	LGS B	ケイカル板+EP-G 天井内GW敷込、 2階スラブ面断熱施工	V		油溜釜場	棚
	(少量危険物)			硬化剤塗布		H=600	RC	RC(B) 素地						サイン
	ホース格納庫	直天		コンクリート表面		EP-G	RC	FL+600までRC(B) 素地		直天			シャッター	ホース格納棚
				硬化剤塗布		H=600	ALC	FL+600以上ALC 複層塗材CEアクリル						
	消防隊仮眠室 仮眠室M1～M17★	2700	RC	NC		VB	LGS	GB-R+EP-G GW充填(遮音)	LGS	GB-NC(T) 天井内GW敷込	V			ベッド、棚、
	測(M1:1)						RC	RC(B) +EP-G(柱)(M11)						
	消防隊仮眠室	2700	RC	NC		VB	LGS	GB-R+EP-G GW充填(遮音)	LGS	GB-NC(T) 天井内GW敷込	V	AL		ブラインド
	通路1～3						RC	GB-R(GL工法)+EP 柱含む				B-2		サイン
	救急隊仮眠室 仮眠室K1～K4★	2700	RC	NC		VB	LGS	GB-R+EP-G GW充填(遮音)	LGS	GB-NC(T) 天井内GW敷込	V			ベッド、棚、
	測(K1:1)													
	救急隊仮眠室	2700	RC	NC		VB	LGS	GB-R+EP-G GW充填(遮音)	LGS	GB-NC(T) 天井内GW敷込	V	AL		ブラインド
	通路4											B-2		サイン
	男性浴室	2400	ST	NC	200	VB	LGS	GB-R+EP-G	LGS	GB-NC(T) 天井内GW敷込	V		上框、洗濯機パン	
	前室		RC	(踏込:コンクリート表面硬化剤塗布)										
	男性浴室	2400	ST	NC	200	VB	LGS	GB-R+EP-G	LGS	GB-NC(T)	V			
	物入						RC	GB-R(GL工法)+EP-G						
	男性浴室	2400	ST	NC	200	VB	LGS	GB-R+EP-G	LGS	GB-NC(T) 天井内GW敷込	V			鏡(衛生設備工事)、脱衣棚
	脱衣室1、2												UB1418	
	女性用仮眠室	2700	RC	NC		VB	LGS	GB-R+EP-G GW充填(遮音)	LGS	GB-NC(T) 天井内GW敷込	V	AL		ブラインド
	通路5						RC	RC(B) + EP-G				B-2		サイン
	女性用仮眠室	2700	RC	NC		VB	LGS	GB-R+EP-G	LGS	GB-NC(T)	V			
	物入						RC	RC(B) + EP-G						
	女性用仮眠室 仮眠室W1、2★	2700	RC	NC		VB	LGS	GB-R+EP-G GW充填(遮音)	LGS	GB-NC(T) 天井内GW敷込	V			ベッド、棚
	測(W1:1)													
	女性用仮眠室	2400	RC	NC		VB	LGS	GB-R+EP-G GW充填(遮音)	LGS	GB-NC(T) 天井内GW敷込	V		ライニング、洗面台、鏡、	
	洗面コーナー													
	女性用仮眠室	2400	ST	NC	200	VB	LGS	GB-R+EP-G GW充填(遮音)	LGS	GB-NC(T) 天井内GW敷込	V		上框	鏡(衛生設備工事)、脱衣棚
	脱衣室		RC	踏込:NC									UB1418	
	女性用仮眠室	2400	RC	NC		VB	LGS	GB-S+EP-G GW充填(遮音) GB-F+GB-S+EP-G	LGS	GB-NC(T) 天井内GW敷込	V		ライニング、手洗、鏡、	
	WC(女)3						RC	RC(B) + EP-G						
	女性用仮眠室	2400	RC	NC		VB	LGS	GB-S+EP-G	LGS	GB-NC(T) 天井内GW敷込	V		洗濯機パン、ライニング、	棚
	洗濯室(女)						RC	GB-S(GL工法)+EP-G					物干し金物(ハンガーパイプ)	
	洗面スペース	2700	RC	コンクリート表面		床材塗上	LGS	GB-S+EP-G GW充填(遮音)	LGS	GB-NC(T) 天井内GW敷込	V		流し台(SUS HL)、鏡、ライニング	棚
				硬化剤塗布		H=100							LGS間仕切壁足元CON H=100立上	
	リネン庫1、2	2400	RC	NC		VB	LGS	GB-R+EP-G GW充填(遮音)	LGS	GB-NC(T)	V			
							RC	RC (B) + EP-G						

改2012.11.28.
改2012.12.03.
改2012.12.21.
改2013.01.22.

一級建築士 国土交通大臣登録 第269262号 楕木 賢一

安井・太陽設計共同体
管理建築士一級建築士第129267号 高田 茂

新潟市建築部公共建築第1課

工事名
新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟建設工事

図面名
仕上表(1)
年月日 2013.03.01
縮尺
図面番号 A-02
計通-A-05

階	室名	天井高 H (FL+)	床 下地 防水	床 仕上	床 FL	巾木 特記なき限り H=60	壁 下地	壁 仕上	天井 下地	天井 仕上	付属品 天井見切縁	付属品 BB	備考	別途工事
2階	書庫	3000	MO	CT		VB	LGS	GB-R＋EP-G GB-F＋EP-G	LGS	GB-NC(T)	V	AL		可動書架、可動書架レール
							RC	GB-R(GL工法)＋EP-G(柱含む)				B-2		ブラインド
	図書・資料室	3000	OA	VT(E)(OA-A H=100)		VB	LGS	GB-R＋EP-G GB-F＋EP-G	LGS	GB-NC(T)	V	AL		椅子、机、棚、ブラインド
							RC	GB-R(GL工法)＋EP-G(柱含む)				B-2		
	印刷室(通路を含む)	3000	OA	VT(E)(OA-A H=100)		VB	LGS	GB-R＋EP-G GB-F＋EP-G	LGS	GB-NC(T)	V			棚、コピー機、サイン
	消防隊仮眠室2	**2700**	RC	NC		VB	LGS	GB-R＋EP-G GW充填(遮音)	LGS	GB-NC(T) 天井内GW敷込	V	AL		ブラインド、サイン
	通路						RC	GB-R(GL工法)＋EP-G				B-2		
	消防隊仮眠室2 仮眠室1～4 ★	**2700**	RC	NC		VB	LGS	GB-R＋EP-G GW充填(遮音)	LGS	GB-NC(T) 天井内GW敷込	V			ベッド、棚
	測(仮眠室1:1)													
	通路1(踏込)	2700	RC	NC		VB	LGS	GB-R＋EP-G	LGS	GB-NC(T)	V			サイン
							LGS	GB-R＋EP-G GW充填(遮音)						
		2600	RC	板間:フローリング	100								スロープ、上框、下足箱	
			RC	スロープ:NF										
	女性用休憩室 ★	2600	RC	畳	100	雑巾摺	LGS	GB-R＋無機質壁紙 GW充填(遮音)	LGS	GB-D(W)	W	AL	押入、長押	下足箱
				板間:フローリング	0		RC	GB-R(GL工法)＋無機質壁紙(柱含む)				B-2		ブラインド
	女性用更衣室	2400	RC	NC		VB	LGS	GB-R＋EP-G	LGS	GB-NC(T)	V		洗面台、ライニング、鏡	棚
							LGS	GB-R＋EP-G GW充填(遮音)					姿見鏡(W400xH1600)	
	トレーニングルーム ★	3000	RC	運動用弾性長尺シート	0	VB		GB-R+GB-P＋EP-G		DR 天井内GW敷込	V	AL	姿見鏡(L3600xH2000)	ゴムマット
	測(1)			(GW浮床下地)	-160			GW充填(遮音)				B-2	吊フック	トレーニング器具、ブラインド
	トレーニングルーム	3000	RC	NC		VB		GB-R＋EP-G GW充填(遮音)		DR 天井内GW敷込	V			
	物入													
	倉庫(消防局)	2700	RC	CT		VB	LGS	GB-R＋EP-G GB-R＋EP-G GW充填(遮音)	LGS	GB-NC(T)	V	AL		棚、ブラインド
							RC	GB-R＋EP-G(柱含む)				B-2		
	男性用休憩室 ★	2600	RC	畳	100	雑巾摺	LGS	GB-R＋無機質壁紙 GW充填(遮音)	LGS	GB-D(W)	W	AL	押入、長押、スロープ、上框	下足箱
	(通路2)	2600	RC	板間:フローリング	0		LGS	GB-F＋無機質壁紙 GW充填(遮音)				B-2		ブラインド
	測(1)	2700	RC	踏込:NF			RC	GB-R(GL工法)＋無機質壁紙(柱含む)						サイン
			RC	スロープ:NF										
	男性用更衣室	2400	RC	NC		VB	LGS	GB-R＋EP-G GW充填(遮音) GB-F＋EP-G GW充填(遮音)	LGS	GB-NC(T)	V		姿見鏡(W400xH1600)	ロッカー
							RC	RC(B)＋EP-G(柱)						
	自動販売機コーナー	2700	RC	NC		VB	LGS	GB-R＋EP-G GB-F＋EP-G	LGS	GB-NC(T)	V			自動販売機、ゴミ箱、サイン
							LGS	GB-R-H t=9.5+GB-F t=21+EP-G GW*充填(遮音)						
							RC	RC(B)＋EP-G(柱)						
	応急救護訓練室 ★	3000	RC	運動用弾性長尺シート	0	WB+OS	LGS	【X1通り】GB-R-H t=9.5+GB-F t=21GW*充填(遮音)＋ GB-R t=15+15 GW*充填(遮音)の上、 ・FL+2100まで:ケイカル板t=6+EP-G ・FL+2100以上:綾織(染色)ガラスクロス+GW張(t=25.85kg/㎡)	LGS	浮遮音天井:GB-R t=15+15(防振吊) 天井内GW*敷込	V	AL	スクリーンボックス	机、椅子、
	測(2)		(高断熱ポリスチレンフォーム+防振ゴム浮床下地)		-160	H=100			LGS	仕上天井:DR* 天井内GW*敷込		B-2	ホワイトボード、移動間仕切り(B)、	120インチスクリーン、プロジェクター(電気設備工事別途工事)
													防音二重サッシ	
													カーテンレール	ブラインド、カーテン
							LGS	【X2通り】GB-R t=15+15 GW*充填(遮音)の上、 ・FL+2100まで:ケイカル板t=6+EP-G ・FL+2100以上:綾織(染色)ガラスクロス+GW張(t=25.85kg/㎡)						サイン
							LGS	【Y2通り側】GB-R t=15+15 GW*充填(遮音)の上、ケイカル板t=6.0+EP-G(一部NS)						
							LGS	【窓腰部】GB-R t=15+15＋EP-G GW*充填(遮音)						
	応急救護訓練室	2700	RC	NC		VB	LGS	GB-R＋EP-G GW充填(遮音) GB-R t=15+15 GW*充填(遮音)	LGS	DR* 天井内GW*敷込	V			
	前室1,2						LGS	GB-R-H t=9.5+GB-F t=21+EP-G GW*充填(遮音)						
	応急救護訓練室	3000	RC	CT		VB	LGS	GB-R＋EP-G GW充填(遮音) GB-R t=15+15 GW*充填(遮音)	LGS	DR* 天井内GW*敷込	V			
	間仕切収納													
	応急救護訓練室	3000	RC	CT		VB	LGS	GB-R＋EP-G GW充填(遮音) GB-R t=15+15 GW*充填(遮音)	LGS	DR* 天井内GW敷込	V			
	倉庫2、3							GB-R-H t=9.5+GB-F t=21+EP-G GW*充填(遮音)						
	倉庫1	3000	RC	CT		VB	LGS	GB-R＋EP-G	LGS	GB-NC(T)	V			
							LGS	GB-R-H t=9.5+GB-F t=21+EP-G GW*充填(遮音)						
	廊下2	3000	RC	NC		VB	RC LGS	GB-R(GL工法)＋EP-G(柱含む) GB-R＋EP-G	LGS	GB-NC(T)	V	AL		ブラインド
							LGS	GB-R-H t=9.5+GB-F t=21GW*充填(遮音)+EP-G				B-2		サイン
	鑑識・鑑定室 ★	2700	RC	NC(耐薬)		床材巻上	LGS	GB-R＋[化粧ケイカル板]	LGS	GB-NC(T)	V		ライニング、純水製造装置付流し台、水切り(6-11-3)	実験器具一式
	測(1)							[ ]内は天井まで(下地張り共)						消火器
	倉庫(楽器庫)	2700	RC	CT		VB	LGS	GB-R＋EP-G	LGS	GB-NC(T)	V		楽器棚	制服用ロッカー
	倉庫(中央消防署)	2700	RC	CT		VB	LGS	GB-R＋EP-G	LGS	GB-NC(T)	V	AL		棚、ブラインド
							RC	GB-R(GL工法)＋EP-G(柱含む)				B-2		
	食堂 ★	3000	RC	NC(張り分け)		WB＋CL	LGS	GB-R＋EP-G	LGS	DR 一部GB-R EP	V	AL	手洗、ライニング	自動販売機、ゴミ箱、ポット、電子レンジ(衛生設備工事)
	測(2)						LGS	GB-F＋EP-G				B-2	化粧鏡、カウンター1、カウンター2	
							LGS	一部NSケイカル板(指定柄)t=6.0						ブラインド
							RC	GB-R(GL工法)＋EP-G(柱含む)						

階	室名	天井高 H (FL+)	床 下地 防水	床 仕上	床 FL	巾木 特記なき限り H=60	壁 下地	壁 仕上	天井 下地	天井 仕上	付属品 天井見切縁	付属品 BB	備考	別途工事
2階	厨房	2700	MO	塗床B		床材塗上	LGS	GB-R＋[化粧ケイカル板] [ ]内は天井まで(下地張り共)	LGS	ケイカル板＋EP-G	AL			ライニングカウンター、
			A	コンクリート押え下地		H=200		FL+900までSUS HL t=1.5上張						排水溝、
	食料備蓄庫	2700	RC	CT		VB	LGS	GB-R＋EP-G GB-F＋EP-G	LGS	GB-NC(T)	V			棚
							RC	RC(B)＋EP-G(柱)						
	救急用備品庫	2700	RC	CT		VB	LGS	GB-R＋EP-G GB-F＋EP-G	LGS	GB-NC(T)	V			棚
							RC	RC(B)＋EP-G(柱)						
	清掃員控室 ★	2700	RC	CT		VB	LGS	GB-R＋EP-G	LGS	GB-NC(T)	V		カーテンレール	棚、机、椅子、ロッカー、カーテン
	測(1)													
	清掃用具庫	2700	RC	CT		VB	LGS	GB-R＋EP-G	LGS	GB-NC(T)	V			保冷機、 回転式防火衣掛けロッカー
	消耗品倉庫	2700	RC	CT		VB	LGS	GB-R＋EP-G	LGS	GB-NC(T)	V			棚
							LGS	GB-F＋EP-G						
	資機材庫(局・署兼用)	2700	RC	CT		VB	RC	GB-R＋EP-G GB-F＋EP-G	LGS	GB-NC(T)	V	AL		棚、ブラインド
							LGS	GB-R (GL工法)＋EP-G(柱含む)				B-2		
	前室	2700	RC	NC		VB	LGS	GB-R＋EP-G GB-F＋EP-G	LGS	GB-NC(T)	V			サイン
							RC	GB-R＋EP-G GB-R(GL工法)＋EP-G(柱)						
							ALC	GB-R＋EP-G						
	電気開閉器盤室	直天	RC	塗床A		床材塗上	RC	RC(B)素地 GW張り	RC	GW張り		AL	機械基礎	
						H=200	LGS	GB-F＋EP-G				B-2		ブラインド
	ガスガバナー室	直天	RC	塗床A		床材塗上	RC	RC(B)素地	RC	GW張り		AL	機械基礎	
						H=200	LGS	GB-F＋EP-G				B-2		ブラインド
	受水槽室	直天	RC	塗床A		床材塗上	RC	RC(B)素地 GW張り	RC	GW張り		AL	機械基礎	
						H=200	LGS	GB-R＋EP-G GB-F＋EP-G				B-2		ブラインド
3階	消防局事務室 ★	3000	OA	VT(E)(OA-A H=100)		VB	LGS	GB-R＋EP-G GB-F＋EP-G GW充填(遮音)	LGS B	GB-NC(T)	V	AL		机、椅子、棚、ブラインド
	測(2)						RC	GB-R(GL工法)＋EP-G(柱含む)				B-2	緩降機	受付カウンター、パーティション
	局長室 ★	3000	OA	VT(E)(OA-A H=100)		WB(タモ)＋CL	LGS	GB-R/GB-F＋不燃クロス張木目地 CL @900GW充填(遮音)	LGS	GB-NC(T)	W	W		机、椅子、棚、造作家具、カーテン
	測(1)						RC	GB-R(GL工法)＋EP-G(柱含む)			タモ CL			カーテンボックス、額縁、木目時、木巾木(D-16-17)
	外来者打合(相談)	3000	RC	NC		VB	LGS	GB-R＋EP-G GB-R＋EP-G GW充填(遮音)	LGS	GB-NC(T)	V	AL		洗面化粧台(衛生設備工事)
	スペース ★						LGS	GB-R-H t=9.5+GB-F t=21GW*充填(遮音)＋EP-G				B-2		移動ガラス間仕切り
	測(1)						RC	GB-R(GL工法)＋EP-G(柱含む)						ローパーティション、ブラインド
	外来者打合室 ★	3000	RC	NC		VB	LGS	GB-R＋EP-G GW充填(遮音)	LGS	GB-NC(T)	V	AL		机、椅子、ブラインド
	測(1)						RC	GB-R(GL工法)＋EP-G(柱含む)				B-2		
	講堂前室1,2,3	3000	RC	NC		WB+OS	LGS	GB-R＋EP-G GW充填(遮音)	LGS	DR* 天井内GW*敷込	V			
	講堂前室4(会議室前室)					H=100		GB-R t=15+15＋EP-G GW*充填(遮音)						
								GB-R-H t=9.5+GB-F t=21GW*充填(遮音)+EP-G						
	講堂 ★	4000	MO	運動用弾性長尺シート		WB+OS	LGS	【Y2通り側】GB-R t=15+15 GW*充填(遮音)の上、 ・FL+2100まで:ケイカル板t=6+EP-G ・FL+2100以上:GWt25+GB(吸音)EP	LGS	浮遮音天井:GB-R t=15+15(防振吊) 天井内GW*敷込	V	AL	スクリーンボックス	机、椅子
	(会議室 ★を含む)			(GW浮床下地)		H=100			LGS B	仕上天井:DR* 天井内GW*敷込		B-2	紅白幕用ピクチャーレール	可動ステージ
	測(2)												移動間仕切り(A)	200インチスクリーン、プロジェクター(電気設備工事)
							LGS	【窓腰部・柱】GB-R t=15+15＋EP-G GW*充填(遮音)						サイン、ブラインド
							LGS	【窓側下り壁】GB-R t=15+15 GW*充填(遮音)の上、GWt25+GB(吸音)EP						
							LGS	【X2通り側】GB-R t=15+15 GW*充填(遮音)の上、ケイカル板t=6.0+EP-G、一部NS(指定柄、サイン工事)						
							LGS	【X5通り側】GB-R-H t=9.5+GB-F t=21GW*充填(遮音)+GB-R t=15+15 GW*充填(遮音)の上、 ・FL+2100まで:ケイカル板t=6+EP-G ・FL+2100以上:GWt25+GB(吸音)EP						
	講堂倉庫	3000	RC	CT		VB	LGS	GB-R＋EP-G GW充填(遮音)	LGS	DR* 天井内GW*敷込	V	AL		棚、ブラインド
								GB-R t=15+15＋EP-G GW*充填(遮音)				B-2		
								GB-R-H t=9.5+GB-F t=21GW*充填(遮音)+EP-G						
							RC	GB-R(GL工法)＋EP-G(柱含む) RC打放補修 EP-G						
	講堂収納1,2,3	3000	RC	CT		VB	LGS	GB-R＋EP-G GW充填(遮音)	LGS	DR* 天井内GW*敷込	V			棚
	講堂収納4(会議室収納)							GB-R t=15+15＋EP-G GW*充填(遮音)						
								GB-R-H t=9.5+GB-F t=21GW*充填(遮音)+EP-G						
	間仕切収納	4000	RC	CT		VB	LGS	GB-R＋EP-G GW充填(遮音)	LGS	DR* 天井内GW*敷込	V			
								GB-R t=15+15＋EP-G GW*充填(遮音)						
								GB-R-H t=9.5+GB-F t=21GW*充填(遮音)+EP-G						
	洗面スペース	2700	RC	NC		VB	LGS	GB-R＋EP-G GB-F＋EP-G	LGS	GB-NC(T)	V		流し台(SUS HL)、鏡、ライニング	ロッカー
							LGS	GB-R-H t=9.5+GB-F t=21GW*充填(遮音)+EP-G						

改2012.12.03.
改2012.12.21.
改2012.12.26.
改2013.01.22.

一級建築士 国土交通大臣登録 第269262号 楕木 賢一

安井・太陽設計共同体
管理建築士一級建築士第129267号 高田 茂

新潟市建築部公共建築第1課

工事名
新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟建設工事

図面名
仕上表(2)

計通-A-06

年 月 日 2013.03.01
縮 尺
図面番号 A-03

階	室名	天井高	床				巾木	壁		天井		付属品		備考	別途工事
		H (FL+)	下地 防水	仕上		FL	特記なき限り H=60	下地	仕上	下地	仕上	天井見切線	BB		
	男性用更衣室	2700	RC	NC			VB	LGS	GB-R＋EP-G	LGS	GB-NC(T)	V	AL		ロッカー、ブラインド
								LGS	GB-R＋EP-G GW充填(遮音)				B-2		
								LGS	GB-R-H t=9.5+GB-F t=21GW*充填(遮音)+EP-G						
								RC	GB-R(GL工法)＋EP-G(柱含む)						
	通路1,2	3000	RC	NC			VB	LGS	GB-R+EP-G GB-R+EP-G GW充填(遮音)	LGS	GB-NC(T)	V			通路1:ロッカー、下足箱、サイン
								LGS	GB-F+EP-G						通路2:下足箱
	(前室1)(男性)含む		RC	板間:フローリング		100	VB	LGS	一部GB-R ＋ GWt25 ＋ GB(吸音) EP					スロープ、押入	
	(前室2)(女性)含む		RC	スロープ:NF				LGS							
	男性用休憩室 ★	2600	RC	畳		100	雑巾摺	LGS	GB-R＋無機質壁紙 GW充填(遮音)	LGS	GB-D(W)	W	AL	押入、長押	
	測(1)			板間:フローリング				RC	GB-R(GL工法)＋EP-G				B-2		ブラインド
	防火衣収納室	2700	RC	NC			VB	LGS	GB-R+EP-G GB-R+EP-G GW充填(遮音)	LGS	GB-NC(T)	V			ロッカー
	(男性)(女性)							LGS RC	GB-F+EP-G RC(B)+EP-G(柱)						
	女性用更衣室	2700	RC	NC			VB	LGS	GB-R+EP-G	LGS	GB-NC(T)	V		ライニング、洗面カウンター、化粧鏡	ロッカー
	洗面コーナー							LGS	GB-R+EP-G GW充填(遮音)						洗面器(衛生設備工事)
	女性用休憩室 ★	2600		畳		100	雑巾摺	LGS	GB-R+無機質壁紙 GW充填(遮音)	LGS	GB-D(W)	W	AL	押入、長押、	
	測(1)							RC	GB-R(GL工法)＋EP-G(柱含む)				B-2		ブラインド
4階	コンピュータ室	4000	OA	VT(E)一体型 (OA-B H=500)			EP-G	LGS	GB-R+EP-G GW充填(遮音)	LGS A	GB-NC(T)	S	AL		家具、機器一式
	(窒素ガス消火)	一部3000						LGS(N)	GB-R+EP-G				B-2		機器鉄骨架台
								LGS(N)	GB-F+EP-G GW充填(遮音)						
								RC	GB-R+EP-G(Y4通り柱)						
	直流電源装置室	4000	OA	VT(E)一体型 (OA-B H=500)			EP-G	LGS(N)	GB-R+EP-G GB-F+EP-G GW充填(遮音)	LGS A	GB-NC(T)	S			家具、機器一式
	(窒素ガス消火)							LGS RC	GB-R+EP-G(Y4通り柱) RC(B)+EP-G(Y3通り柱)						
	メンテナススペース	4000	OA	VT(E)一体型 (OA-B H=500)			VB	RC	GB-R(GL工法)＋EP-G GB-R+EP-G(Y4通り柱)	LGS	GB-NC(T)	V	AL		ブラインド
								LGS(N)	GB-R+EP-G GB-F+EP-G GW充填(遮音)				B-2		
	一次MDF室	3000	OA	VT(E)一体型 (OA-B H=500)			VB	LGS	GB-F+EP-G GB-F+EP-G GW充填(遮音)	LGS A	GB-NC(T)	S			機器鉄骨架台
								LGS(N) RC	GB-R+EP-G RC(B)+EP-G(柱)						
	消防指令管制センター★	4400	OA	VT(E)一体型 (OA-B H=500)			VB	RC	GB-R+EP-G	LGS A	DR	S	AL	天井内機器固定下地	家具、操作卓、機器一式
	測(2)	一部3000						LGS	GB-F+EP-G GB-F+EP-G GW充填(遮音)				B-2	BB:見学スペース側ガラス窓上部を含む、ブラインド	機器鉄骨架台
	会議室2★	4000	OA	VT(E)一体型 (OA-B H=500)			VB	LGS	GB-R+EP-G GW充填(遮音)	LGS A	GB-NC(T)	S	AL	移動間仕切り(C)	家具
	(消防応援指揮支援本部) (コンピューター予備室)	一部3000						LGS(N)	GB-R+EP-G				B-2		ブラインド
	(リプレイス時室素ガス消火)							LGS(N)	GB-F+EP-G GW充填(遮音)						
	測(1)							RC	GB-R+EP-G						
	指令課機材室	4000	OA	VT(E)一体型 (OA-B H=500)			VB	LGS LGS(N)	GB-R+EP-G GW充填(遮音) GB-F+EP-G GW充填(遮音)	LGS A	GB-NC(T)	S			棚
	(リプレイス時室素ガス消火)							RC	RC(B)+EP-G(柱)						
	作戦本部室★	4400	OA	VT(E)一体型 (OA-B H=500)			VB	RC	GB-R+EP-G	LGS A	DR	S	AL	天井内機器固定下地	家具
	(消防指令管制センター予備室) 測(2)	一部3000						LGS	GB-F+EP-G GB-F+EP-G GW充填(遮音)				B-2	BB:見学スペース側ガラス窓上部を含む	展示パネル、ホワイトボード、ブラインド
	見学スペース1,2	3000	OA	VT(E)一体型 (OA-B H=500)			VB	LGS	GB-R+EP-G 一部NS(指定柄、サイン工事)	LGS	GB-NC(T)	V		ガラス窓	展示パネル
		一部2100						LGS	GB-F+EP-G GW充填(遮音 一部NS(指定柄)						サイン
								RC	GB-R(GL工法)＋EP-G						
	空調機械室1～4	直天		防塵塗床		-500	床材塗上	LGS(N)	GB-R素地(GW充填) GW張り	RC	GW張り			間仕切壁足元CON SL+H=100立上床材立上	機械架台(空気調和設備工事)
	(窒素ガス消火)						H=100		GB-F素地(GW充填) GW張り						
	空調機械室5～8	直天		防塵塗床		-500	床材塗上	LGS	GB-R素地(GW充填) GW張り	RC	GW張り			間仕切壁足元CON SL+H=100立上床材立上	機械架台(空気調和設備工事)
							H=100								
	外来者打合室	3000	OA	VT(E)一体型 (OA-B H=500)			VB	LGS	GB-R+EP-G	LGS	GB-NC(T)	V			家具、ローパーティション、下足箱
	(通路含む)							LGS	GB-F+EP-G GB-F+EP-G GW充填(遮音)						
	指令課更衣室	2700	OA	VT(E)一体型 (OA-B H=500)			VB	LGS	GB-R+EP-G	LGS	GB-NC(T)	V			ロッカー
				(踏込:H=500)				LGS	GB-F+EP-G						
	機材室	3000	OA	VT(E)一体型 (OA-B H=500)			VB	LGS	GB-R+EP-G	LGS	GB-NC(T)	V			棚、家具
								LGS	GB-F+EP-G GB-F+EP-G GW充填(遮音)						
	指令課事務室 ★	3000	OA	VT(E)一体型 (OA-B H=500)			VB	LGS	GB-R+EP-G GB-F+EP-G	LGS B	GB-NC(T)	V	AL		家具、機器一式、ブラインド
	測(1)							RC	GB-R(GL工法)＋EP-G(柱含む)				B-2		設備監視盤(設備工事)
	指令課湯沸室	2600	RC	NC			床材巻上	LGS	GB-S+EP-G GW充填(遮音)	LGS	GB-NC(T)	V		ライニング、流台(L1800)、吊戸	棚、冷蔵庫、ポット
								LGS	GB-F+GB-S+EP-G GW充填(遮音)						電子レンジ(衛生設備工事) レンジフード(空気調和設備工
	男性用仮眠室 仮眠室M1～M10★	2700	RC	NC			VB	LGS	GB-R+EP-G GW充填(遮音) GB-F+EP-G GW充填(遮音)	LGS	GB-NC(T) 天井内GW敷込	V	AL	BB:仮眠室M3	ベッド、棚
	測(M1:1)							LGS(N)	GB-F+EP-G GW充填(遮音) (M1、M2)				B-2		ブラインド(仮眠室M3)
	男性用仮眠室	2700	RC	NC			VB	LGS	GB-R+EP-G GW充填(遮音) GB-F+EP-G GW充填(遮音)	LGS	GB-NC(T) 天井内GW敷込	V	AL		ブラインド
	通路1							RC	GB-R(GL工法)＋EP-G(柱含む)				B-2		
	男性用仮眠室	2700	RC	NC			VB	LGS	GB-S＋EP-G	LGS	GB-NC(T) 天井内GW敷込	V		流し台(SUS HL)、鏡、ライニング	ロッカー
	洗面スペース							LGS	GB-S+EP-G GW充填(遮音)						
	男性用仮眠室	2700	RC	NC			VB	LGS	GB-R+EP-G GB-R+EP-G GW充填(遮音)	LGS	GB-NC(T)	V		スロープ、上框	下足箱
	通路2			板間:フローリング スロープ:NF				LGS	GB-F+EP-G GW充填(遮音)						

階	室名	天井高	床			巾木	壁		天井		付属品		備考	別途工事
		H (FL+)	下地 防水	仕上	FL	特記なき限り H=60	下地	仕上	下地	仕上	天井見切線	BB		
	男性用仮眠室	2400	ST	NC	200	VB	LGS	GB-R＋EP-G	LGS	GB-NC(T)	V		上框、鏡	鏡(衛生設備工事)、脱衣棚
	脱衣室2		RC	踏込:NC			LGS	GB-R＋EP-G GW充填(遮音)					UB1418	
	女性用仮眠室 仮眠室W1、W2 ★	2700	RC	NC		VB	LGS	GB-R＋EP-G GW充填(遮音)	LGS	GB-NC(T) 天井内GW敷込	V			ベッド、棚
	測(W1:1)						LGS(N)	GB-F＋EP-G GW充填(遮音)						
	女性用仮眠室	2700	RC	NC	0	VB	LGS	GB-R+EP-G GW充填(遮音) GB-F+EP-G GW充填(遮音)	LGS	GB-NC(T) 天井内GW敷込	V	AL	ライニング、洗面カウンター(L950)	洗面器(衛生設備工事)
	通路3			板間:フローリング スロープ:NF	板間 100							B-2	スロープ、上框	ブラインド
	女性用仮眠室	2400	RC	NC		床材巻上	LGS	GB-R+EP-G GW充填(遮音)	LGS	GB-NC(T) 天井内GW敷込	V		ライニング	
	便所													
	女性用仮眠室	2400	ST	NC	200	VB	LGS	GB-R＋EP-G	LGS	GB-NC(T)	V		上框、鏡	鏡(衛生設備工事)、脱衣棚
	脱衣室1		RC	踏込:NC			LGS	GB-R＋EP-G GW充填(遮音)					UB1418	
	男性用休憩室 ★	2600	RC	畳	100	雑巾摺	LGS	GB-R＋無機質壁紙 GW充填(遮音)	LGS	GB-D(W)	W	AL	押入、長押	
	測(1)			板間:フローリング			RC	GB-R(GL工法)＋EP-G				B-2		ブラインド
	女性用休憩室 ★	2600	RC	畳	100	雑巾摺	LGS	GB-R＋無機質壁紙 GW充填(遮音) GB-F＋無機質壁紙 GW充填(遮音)	LGS	GB-D(W)	W	AL	押入、長押	
	測(1)			板間:フローリング			RC	GB-R(GL工法)＋EP-G(柱含む)				B-2		ブラインド
5階	前室1	2400	RC	NC	300	VB	LGS	GB-R＋EP-G	LGS	GB-NC(T)	V			サイン
	無線機室	直天	OA	VT(E)一体型 (OA-B H=300)	300	EP-G	LGS	GB-R＋EP-G H2100以上GW張り	RC	GW張り	V			機器鉄骨架台
	(窒素ガス消火)													
	蓄電池室	直天	RC	塗床A	1450	床材塗上	RC ALC	RC(B) 素地 H2100以上GW張り ALC素地 H2100以上GW張り	RC	GW張り			機械基礎	
						H=200	LGS	GB-F＋EP-G H2100以上GW張り						
	自家用発電機室	直天	RC	塗床A		床材塗上	RC	RC(B) 素地 H2100以上GW張り	RC	GW張り			機械基礎	
						H=200	ECP	素地 H2100以上GW張り						
							LGS	GB-F素地 H2100以上GW張り						
							RC ALC	FL+1450までRC(B) 素地/FL+1450以上ALC素地 H2100以上GW張り						
	前室2	2400	RC	NC	±0 +1450	VB	RC LGS	RC(B)素地 GB-R+EP-G	LGS	GB-NC(T)	V			
							RC ALC	FL+1450までRC(B) 素地/FL+1450以上ALC素地						
	電気室	直天	RC	VT(E)	1450	EP-G	RC	RC(B) 素地 H2100以上GW張り	RC	GW張り			機械基礎	
	(窒素ガス消火)												階段、手摺	
	窒素ボンベ庫	直天	RC	塗床A	1450	床材塗上	RC	RC(B)素地	RC	直天			機械基礎	
						H=200								
	風除室1	2700	RC	NC(ノンスリップ)	1450	VB	RC	RC(B)+EP-G	LGS	GB-NC(T)	V			サイン
							LGS	GB-R+EP-G						
	風除室2	2700	RC	NC(ノンスリップ)	1450	VB	RC	RC(B)+EP-G	LGS	GB-NC(T)	V			サイン
							LGS	GB-R ＋EP-G						
	EVホール2	2700	RC	NC(ノンスリップ)	1450	VB	RC	RC(B)+EP-G	LGS	GB-NC(T)	V			サイン
							LGS	GB-R+EP-G						
各階共通	階段1、階段2	-	MO	NC		VB	RC	RC(B)+EP-G	-	階段段板裏(コンクリートの上EP)	V			サイン
	(1～5階)	最上部2400		SUS+ゴム製ノンスリップ金物		ササラ ST+SOP	LGS	GB-R+EP-G GB-F+EP-G		最上部:GB-NC(T)			手摺	
	PS、EPS、DS	-	RC	防塵塗床		床材塗上	RC	RC(B)素地	LGS	直天			雨樋(PS内)	
	(1～5階)					壁ボード素地	LGS耐	GB-F素地					PS間仕切壁足元CON H=60立上	
						壁ボード素地	LGS遮	GB-R素地						
						-	上記以外のLGS	天下までの片面張り素地(LGS現し)						
	EVホール1	3000	RC	NC		VB	LGS	GB-R ＋EP-G	LGS B	GB-NC(T)	V			サイン
	(2～5階)	2階:2700 (一部3000)					RC	GB-R+EP-G		2階折上部(X0-X1間):GB-R t=9.5+12.5+寒冷紗尾パテしごきの上EP				
	廊下(EVホール2含む)	3000	RC	NC		VB	LGS	GB-R+EP-G 一部GB-R NS(指定柄)(EV1側)	LGS B	GB-NC(T)	V		消火器ボックス	消火栓・消火栓(送水口付)・送水口(衛生設備工事)、サイン
	(2～4階)	2階:2700 (一部3000)		4階のみ一部配線ピット: 防水PC蓋			LGS	GB-R+EP-G GW充填(遮音)		2階折上部(X7-X8間):GB- Rt=9.5+12.5+寒冷紗パテしごきの上EP			4階:床下配線用点検口	
							LGS	GB-F+EP-G GB-F+EP-G GW充填(遮音)						
							RC	RC(A)化粧打放しコンクリート(EV2)						
	WC(男)	2600	RC	NC		床材巻上	LGS	GB-S+EP-G GW充填(遮音)	LGS	GB-NC(T)	V		ブース、ライニング、洗面カウンター、汚垂タイル	洗面器(衛生設備工事)
	(2～4階)							GB-F+GB-S+EP-G GW充填(遮音)					L型手摺、小便器手摺	
	WC(女)	2600	RC	NC		床材巻上	LGS	GB-S+EP-G GW充填(遮音)	LGS	GB-NC(T)	V		ブース、ライニング、洗面カウンター	洗面器(衛生設備工事)
	(2～4階)							GB-F+GB-S+EP-G GW充填(遮音)					L型手摺	
	SK	2600	RC	NC		床材巻上	LGS	GB-R+EP-G	LGS	GB-NC(T)	V		ライニング、モップ掛フック	棚
	(1～4階)						LGS	GB-R+EP-G GW充填(遮音)						
	湯沸室	2600	RC	NC		床材巻上	LGS	GB-S+EP-G	LGS	GB-NC(T)	V		流し台(L1800)、吊り戸棚	冷蔵庫、棚
	(2～4階)							GB-S+EP-G GW充填(遮音)						
								GB-F+GB-S+EP-G GW充填(遮音)						
	EV1、EV2ピット	-	RC	ピット 防水モルタルの上			RC	ピット 防水モルタルの上	-	-				
				ポリウレタン塗装				ポリウレタン塗装						
	将来増床用デッド	直天	RC	防塵塗床		-	RC	RC(C)、断熱材現し、		-				
	スペース(2～4階)							X0・Y1'柱からX1・Y1柱まで及びX7・Y1柱からX8・Y1'柱までEP						
							LGS	GB-R 素地						
							LGS	GB-R GW充填(遮音)(3F一部)						
							LGS	GB-F 素地(2F一部)						

改2012.11.16.
改2012.12.21.
改2013.01.22.

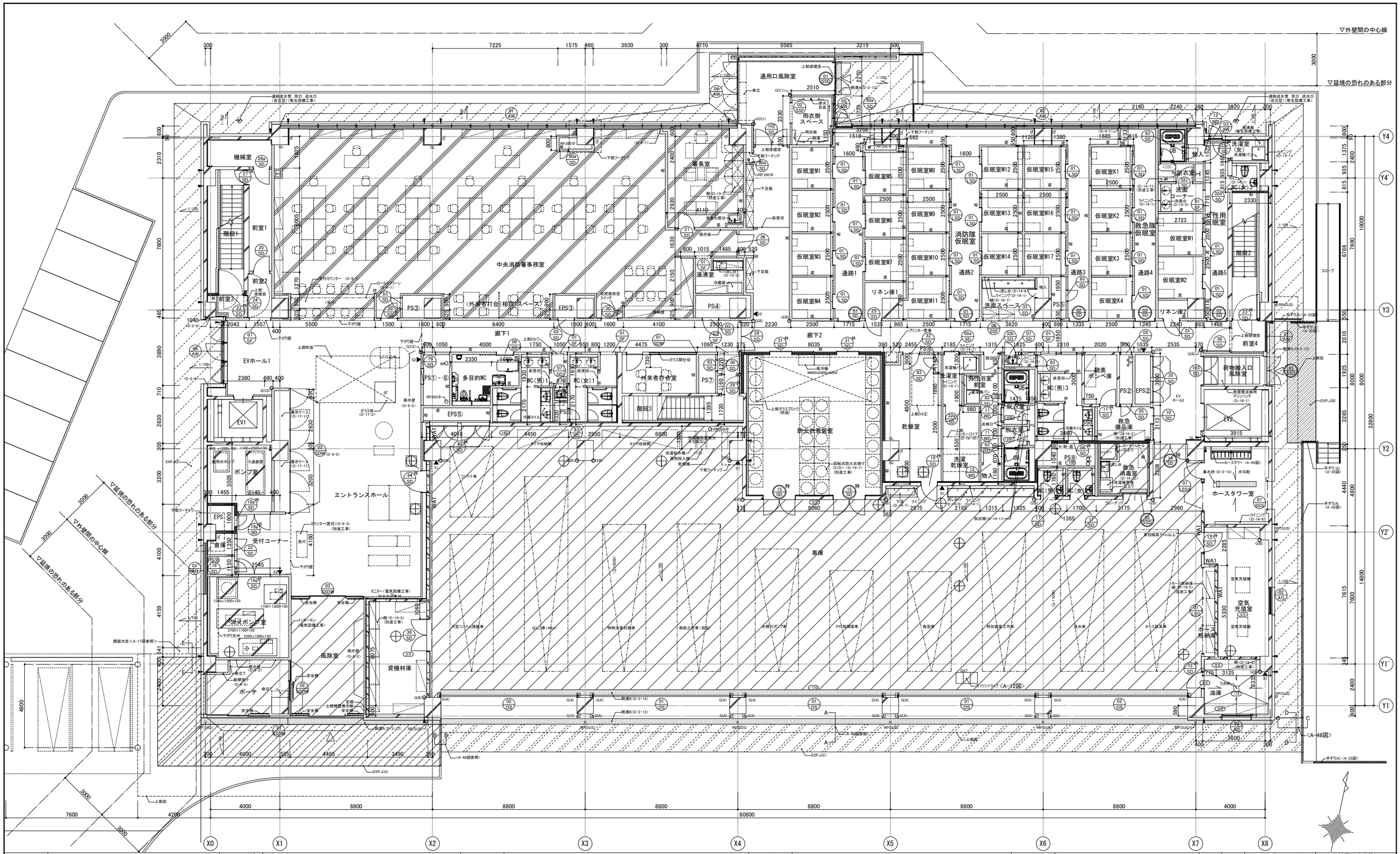
一級建築士 国土交通大臣登録 第269262号 楕木 賢一

安井・太陽設計共同体
管理建築士一級建築士第129267号 高田 茂

新潟市建築部公共建築第1課

工事名
新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟建設工事

図面名
仕上表(3)
年 月 日 2013.03.01
縮 尺
図面番号 計通-A-07
A-04



	RC壁	遮	W14:軽量鉄骨壁下地(遮音)天下まで		消火器ボックス一体型消火栓(別途:機械設備工事)		RC面取り		アスファルト防水+押えコンクリート		マンホール600Φ(防水・防臭型) / 化粧蓋付床点検口(防水・防臭型)
	WA1,WA2:ALC壁	遮	W15:軽量鉄骨壁下地(遮音)スラブ下まで		消火栓・連結送水管放水口付(別途:機械設備工事)		耐震スリットシール <D-8-7>		鋼製床組		(車庫及び車路部分にあるものはT-20とする)
	ECP	耐	W5:軽量鉄骨壁下地(耐火1時間)スラブ下まで 2-23-1		連結送水管放水口(別途:機械設備工事)		伸縮目地 W=20		防振床	〈D-○-○〉	部分詳細符号
	W1:軽量鉄骨壁下地天下まで 2-22-1	耐・遮	W6:軽量鉄骨壁下地(耐火1時間・遮音)スラブ下まで 2-23-1		消火器トレイ(床置き型)別途工事/消火器ボックス(埋込型)<D-14-19>		EXP.J(A)-跳上式歩行用/EXP.J(B)-跳上式・スライドレール付(図示)		床仕上レベル(特記なき限りFL±0)	〈A-○○図〉	図面番号(詳細図)
	W2:軽量鉄骨壁下地スラブ下まで 2-23-1	耐・遮	W13:軽量鉄骨壁下地(耐火1時間・遮音)スラブ下まで		電気錠(二重円) / 防火戸の種類 / 整理番号 / 建具番号 / 〈つずり番号〉		EXP.J(C)-スライド式(図示)		水勾配(特記なき限り1/100)	RP RP(AL) RP(SUS)	縦樋 鋼管製(特記なき限り150Φ) アルミ製(特記なき限り100Φ) ステンレス製(特記なき限り75角)
遮	W3:軽量鉄骨壁下地(遮音)天下まで 2-22-1	(耐)・遮	W7:軽量鉄骨壁下地(耐火1時間相当・遮音)スラブ下まで2-23-1		一方枠<D-14-21>		EXP.J(D)-RC躯体式(図示)		屋上コンクリート伸縮目地(5-01-2)		
遮	W4:軽量鉄骨壁下地(遮音)スラブ下まで 2-23-1	GL	RCの上 GL工法天下まで				フリーアクセスフロア		機械基礎<D-8-12>	(TR1)	ステンレスタラップ(上部デッキ付) (段数)
遮	W12:軽量鉄骨壁下地(遮音)スラブ下まで		消火栓(別途:機械設備工事)	G(A) G(B) G(C)	コーナーガード(A):A-31図による /(B):D-16-5による/(C):D-16-3による		OAコンセント	AD M	ルーフドレン 鋳鉄製 / 目皿75A		排水溝+グレーチング 特記なき限り<D-16-3>

改2013.01.22
改2012.11.30
改2012.11.16

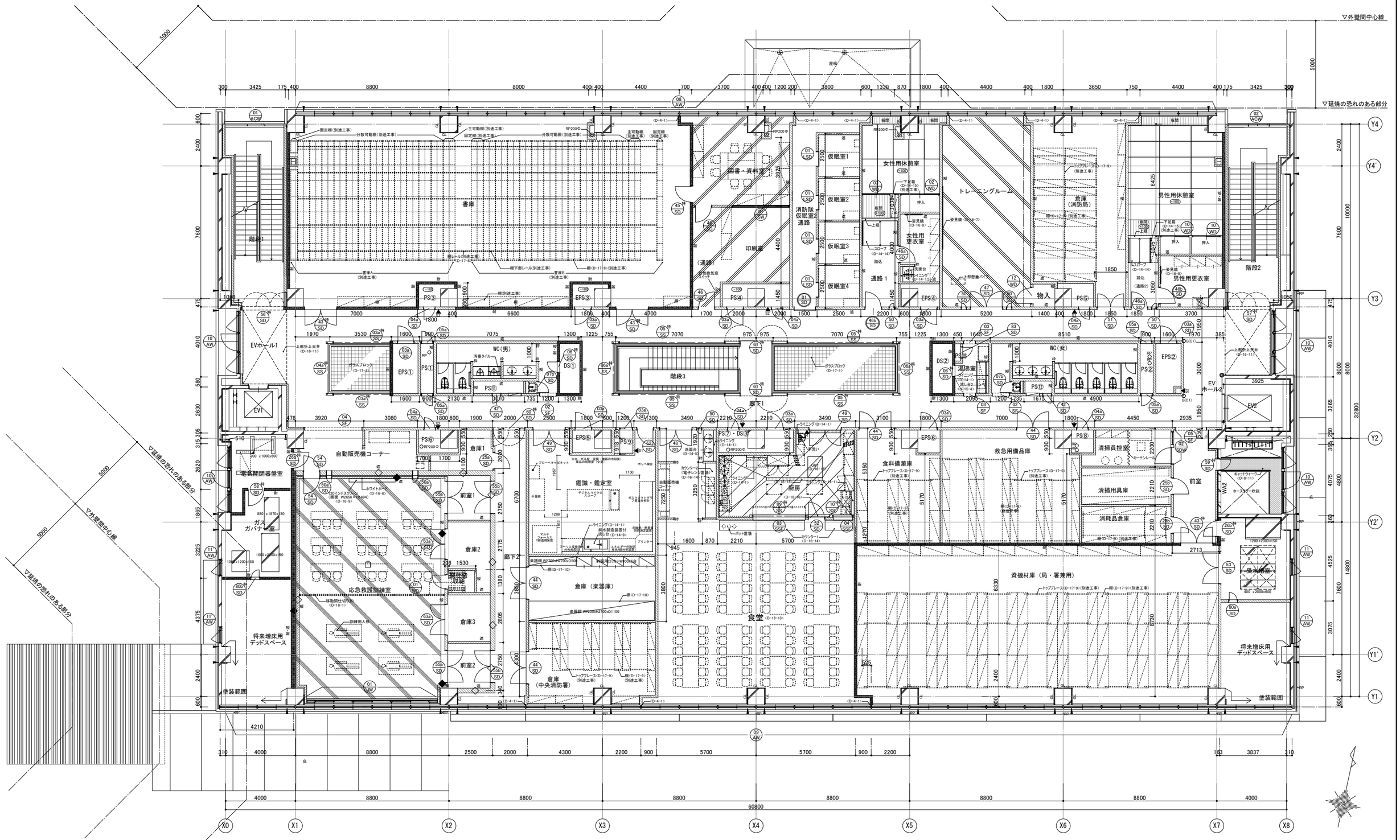
安井・太陽設計共同体
管理建築士一級建築士第 129267号 高田 茂

新潟市建築部公共建築第1課

工事名
新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟建設工事

図名 1階平面図

年月日 2013.03.01 | 縮尺 A1:1/100 A3:1/200 | 図面番号 A-05



RC壁	遮 W14:軽量鉄骨壁下地(遮音)天下まで	消火器ボックス一体型消火栓(別途:機械設備工事)	RC面取り	アスファルト防水+押えコンクリート		マンホール600Φ(防水・防臭型)	化粧蓋付床点検口(防水・防臭型)
WA1,WA2:ALC壁	遮 W15:軽量鉄骨壁下地(遮音)スラブ下まで	消火栓・連結送水管放水口付(別途:機械設備工事)	耐震スリットシール <D-8-7>	鋼製床組		(車庫及び車路部分にあるものはT-20とする)	
ECP	耐 W5 :軽量鉄骨壁下地(耐火1時間)スラブ下まで 2-23-1	連結送水管放水口(別途:機械設備工事)	伸 伸縮目地 W=20	防振床	〈D-○-○〉	部分詳細符号	
W1 :軽量鉄骨壁下地天下まで 2-22-1	耐・遮 W6 :軽量鉄骨壁下地(耐火1時間・遮音)スラブ下まで 2-23-1	消火器トレイ(床置き型)別途工事/消火器ボックス(埋込型)<D-14-19>	EXP.J(A)-跳上式歩行用/EXP.J(B)ー跳上式・スライドレール付(図示)	0000 床仕上レベル(特記なき限りFL±0)	〈A-○○図〉	図面番号(詳細図)	
W2 :軽量鉄骨壁下地スラブ下まで 2-23-1	耐・遮 W13:軽量鉄骨壁下地(耐火1時間・遮音)スラブ下まで	電気錠(二重円) 防火戸の種類 整理番号 建具番号	EXP.J(C)-スライド式(図示)	水勾配(特記なき限り1/100)	RP RP(AL) RP(SUS)	縦樋 鋼管製(特記なき限り150Φ) アルミ製(特記なき限り100Φ) ステンレス製(特記なき限り75角)	
遮 W3 :軽量鉄骨壁下地(遮音)天下まで 2-22-1	(耐)・遮 W7 :軽量鉄骨壁下地(耐火1時間相当・遮音)スラブ下まで2-23-1	〈つぎり番号	EXP.J(D)-RC躯体式(図示)	屋上コンクリート伸縮目地(5-01-2)			
遮 W4 :軽量鉄骨壁下地(遮音)スラブ下まで 2-23-1	GL RCの上 GL工法天下まで	一方枠<D-14-21>	フリーアクセスフロア	機械基礎<D-8-12>	TR1	ステンレスタラップ(上部デッキ付) (段数)	
遮 W12:軽量鉄骨壁下地(遮音)スラブ下まで	消火栓(別途:機械設備工事)	コーナーガード(A):A-31図による /(B):D-16-5による/(C):D-16-3による	OAコンセント	ルーフドレン 鋳鉄製 / 目皿75A		排水溝+グレーチング 特記なき限り<D-16-3>	

改2013.01.22

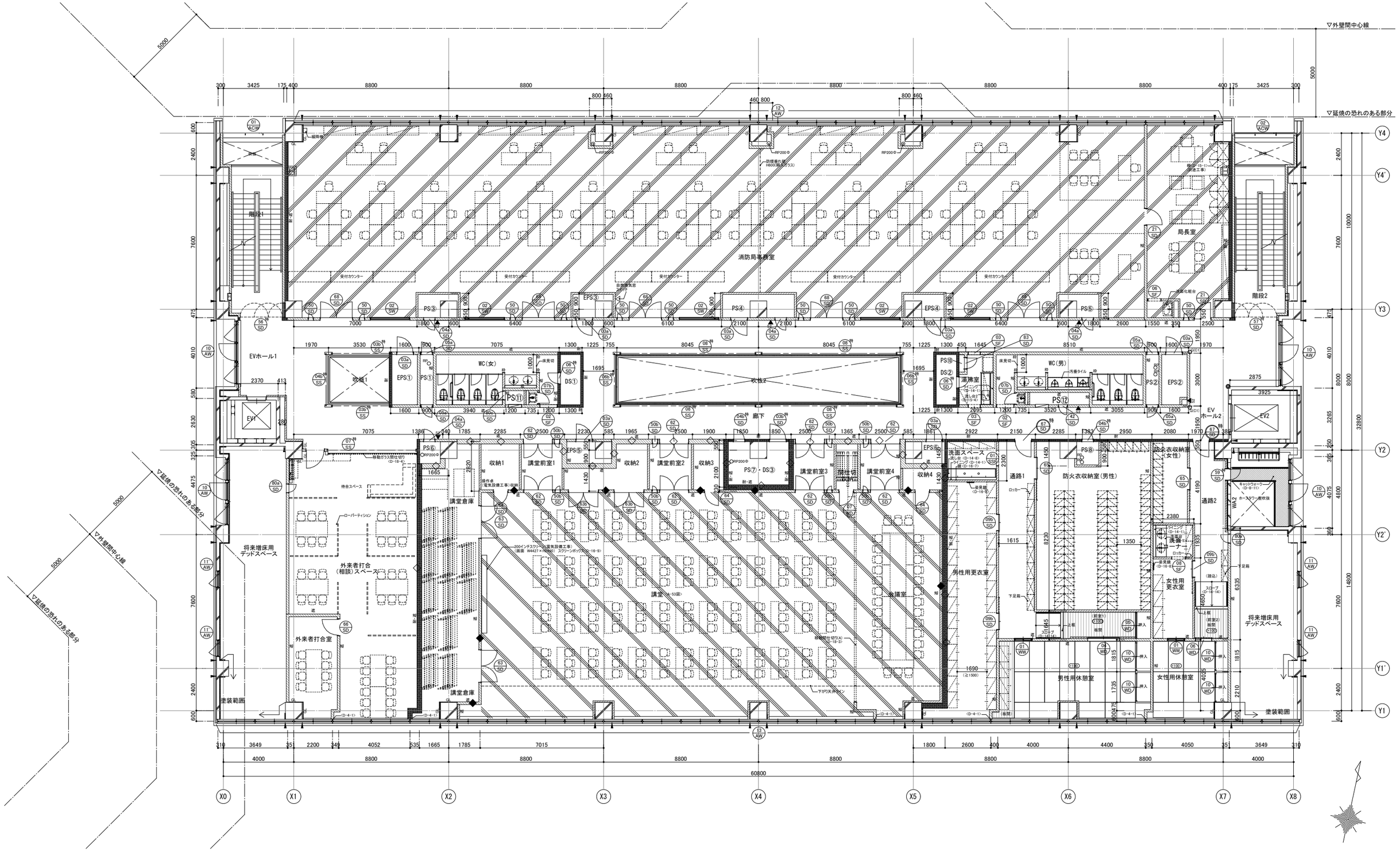
安井・太陽設計共同体
管理建築士一級建築士第 129267号 高田 茂

新潟市建築部公共建築第1課

工事名
新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟建設工事

図名 2階平面図

年月日 2013.03.01 | 縮尺 A1:1/100 A3:1/200 | 図面番号 A-06



	RC壁	遮	W14:軽量鉄骨壁下地(遮音)天下まで		消火器ボックス一体型消火栓(別途:機械設備工事)		RC面取り		アスファルト防水+押えコンクリート		マンホール600Φ(防水・防臭型) / 化粧蓋付床点検口(防水・防臭型)
	WA1,WA2:ALC壁	遮	W15:軽量鉄骨壁下地(遮音)スラブ下まで		消火栓・連結送水管放水口付(別途:機械設備工事)		耐震スリットシール <D-8-7>		鋼製床組		(車庫及び車路部分にあるものはT-20とする)
	ECP	耐	W5 :軽量鉄骨壁下地(耐火1時間)スラブ下まで 2-23-1		連結送水管放水口(別途:機械設備工事)		◁伸	伸縮目地 W=20	防振床		〈D-○-○〉 部分詳細符号
	W1 :軽量鉄骨壁下地天下まで 2-22-1	耐・遮	W6 :軽量鉄骨壁下地(耐火1時間・遮音)スラブ下まで 2-23-1	S1 S2	消火器トレイ(床置き型)別途工事/消火器ボックス(埋込型)<D-14-19>		EXP.J(A)-跳上式歩行用/EXP.J(B)ー跳上式・スライドレール付(図示)	0000	床仕上レベル(特記なき限りFL±0)		〈A-○○図〉 図面番号(詳細図)
	W2 :軽量鉄骨壁下地スラブ下まで 2-23-1	耐・遮	W13:軽量鉄骨壁下地(耐火1時間・遮音)スラブ下まで		電気錠(二重円) / 防火戸の種類 / 建具番号 / 〈つずり番号〉		EXP.J(C)-スライド式(図示)		水勾配(特記なき限り1/100)	RP RP(AL) RP(SUS)	縦樋 鋼管製(特記なき限り150Φ) アルミ製(特記なき限り100Φ) ステンレス製(特記なき限り75角)
遮	W3 :軽量鉄骨壁下地(遮音)天下まで 2-22-1	(耐)・遮	W7 :軽量鉄骨壁下地(耐火1時間相当・遮音)スラブ下まで2-23-1				EXP.J(D)-RC躯体式(図示)		屋上コンクリート伸縮目地(5-01-2)		
遮	W4 :軽量鉄骨壁下地(遮音)スラブ下まで 2-23-1	GL	RCの上 GL工法天下まで		一方枠<D-14-21>		フリーアクセスフロア		機械基礎<D-8-12>	TR	ステンレスタラップ(上部デッキ付) (段数)
遮	W12:軽量鉄骨壁下地(遮音)スラブ下まで		消火栓(別途:機械設備工事)	G(A) G(B) G(C)	コーナーガード(A):A-31図による /(B):D-16-5による/(C):D-16-3による		OAコンセント		ルーフドレン 鋳鉄製 / 目皿75A		排水溝+グレーチング 特記なき限り<D-16-3>

2013.01.22
2012.11.16

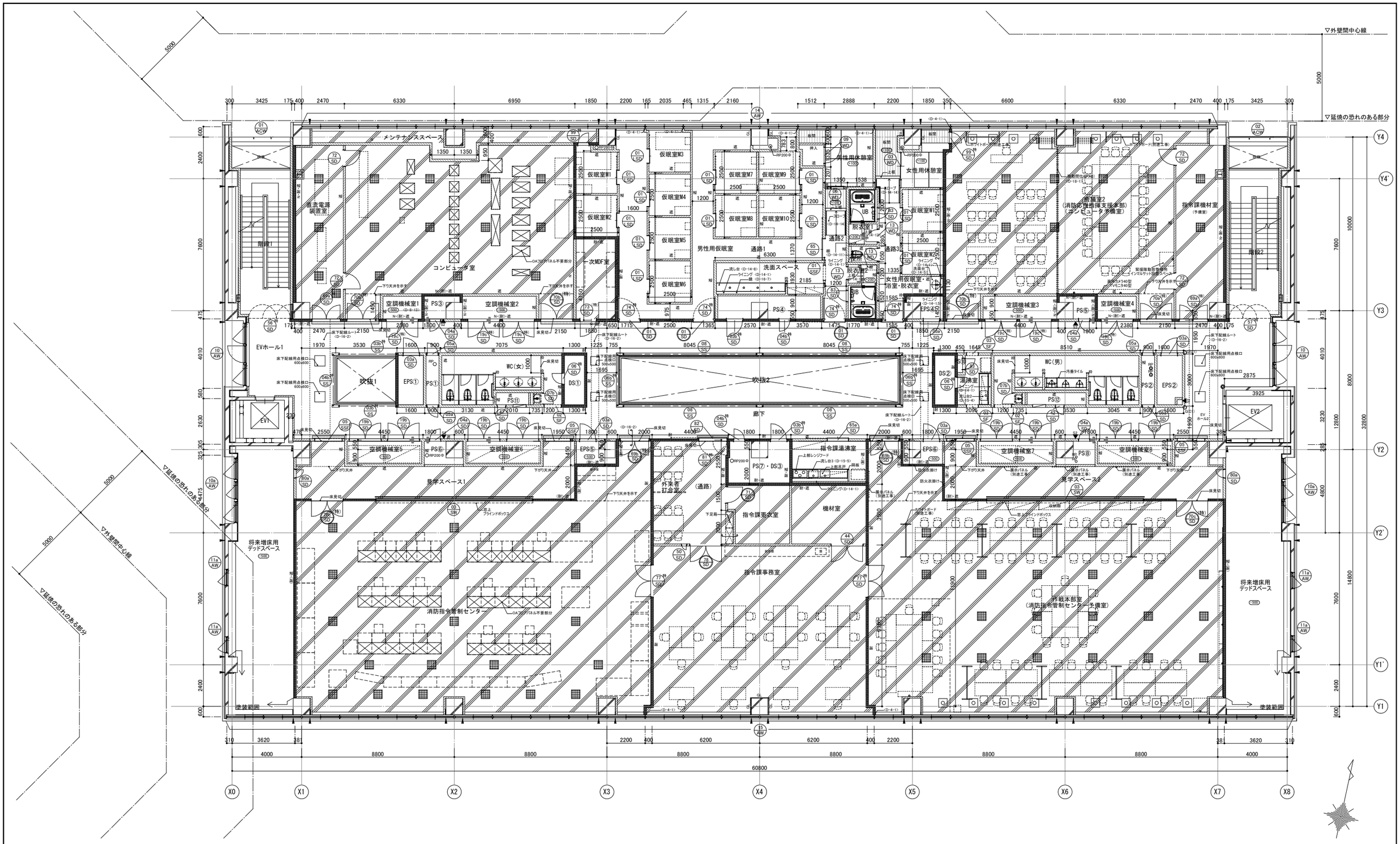
安井・太陽設計共同体
管理建築士一級建築士第 129267号 高田 茂

新潟市建築部公共建築第1課

工事名
新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟建設工事

図名 3階平面図

年月日 2013.03.01 | 縮尺 A1:1/100 A3:1/200 | 図面番号 A-07



	RC壁	耐・遮	W6：軽量鉄骨壁下地(耐火1時間・遮音)スラブ下まで 2-23-1		消火栓・連結送水管放水口付(別途：機械設備工事)		耐震スリットシール W230		鋼製床組	RD / M	ルーフドレン 鋳鉄製 / 目皿75A
	WA1,WA2：ALC壁	(耐)・遮	W7：軽量鉄骨壁下地(耐火1時間相当・遮音)スラブ下まで 2-23-1		連結送水管放水口(別途：機械設備工事)	◁伸	伸縮目地 W=20		防振床		〈D-○-○〉 部分詳細符号
	ECP	N	W8：鉄骨壁下地(窒素ガス耐圧)スラブ下まで 2-23-1		消火器トレイ(床置き型)別途工事		フリーアクセスフロア	0000	床仕上レベル(特記なき限りFL±0)		〈A-○○図〉 図面番号(詳細図)
	W1：軽量鉄骨壁下地天下まで 2-22-1	N・耐・遮	W10：鉄骨壁下地(窒素ガス耐圧・耐火1時間・遮音)スラブ下まで 2-23-1		消火器ボックス(埋込型) 〈D-14-19〉		OAコンセント		水勾配(特記なき限り1/100)	RP RP(AL) RP(SUS)	縦樋 鋼管製(特記なき限り150Φ) アルミ製(特記なき限り100Φ) ステンレス製(特記なき限り75角)
	W2：軽量鉄骨壁下地スラブ下まで 2-23-1	N・(耐)・遮	W11：鉄骨壁下地(窒素ガス耐圧・耐火1時間相当・遮音)スラブ下まで 2-23-1		電気錠(二重円)／防火戸の種類／整理番号／建具番号／〈つり番号〉		OAフロア空調用吹き出しパネル(開孔調整機能付)		屋上コンクリート伸縮目地(5-01-2)		
遮	W3：軽量鉄骨壁下地(遮音)天下まで 2-22-1	GL	RCの上 GL工法 天下まで				OAフロア空調用吹き出し口専用パネル(Φ200程度)	X×Y×H	機械基礎〈D-8-12〉		オーバーフロー管 SUS 40A
遮	W4：軽量鉄骨壁下地(遮音)スラブ下まで 2-23-1		消火栓(別途：機械設備工事)		一方枠〈D-14-21〉		OAフロアパネル不要部分		マンホール600Φ(防水・防臭型)／化粧蓋付床点検口(防水・防臭型)／(駐車場及び車路部分にあるものはT-20とする)	(TR1)	ステンレスタラップ(上部デッキ付) (段数)
耐	W5：軽量鉄骨壁下地(耐火1時間)スラブ下まで 2-23-1		消火器ボックス一体型消火栓(別途：機械設備工事)		(A):A-31図による/(B):D-16-5による/(C):D-16-3による		アスファルト防水+押えコンクリート				排水溝+グレーチング 特記なき限り〈D-16-3〉

2013.01.22
2012.11.30
2012.11.16

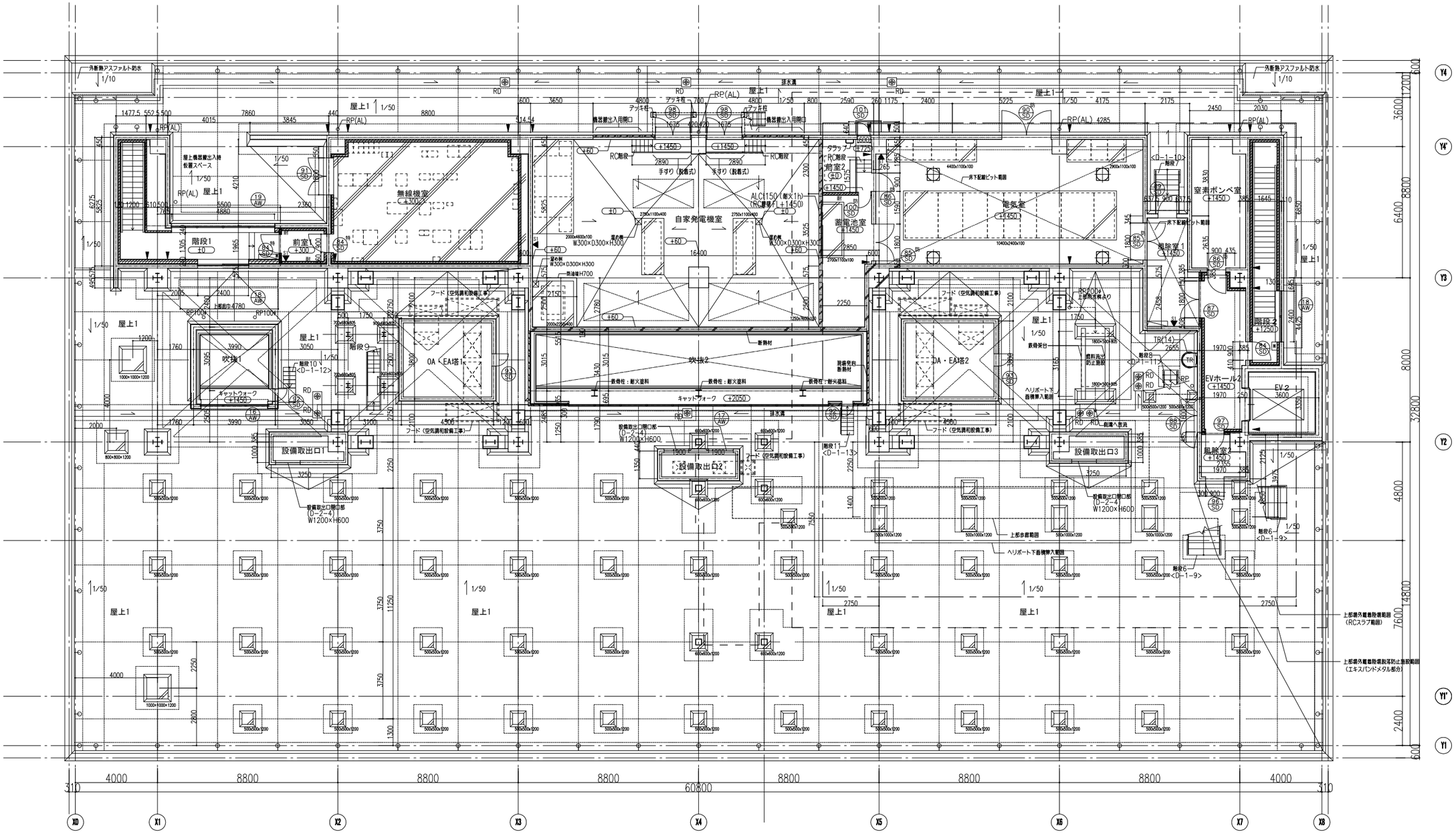
安井・太陽設計共同体
管理建築士一級建築士第 129267号 高田 茂

新潟市建築部公共建築第1課

工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟建設工事

図名 4階平面図

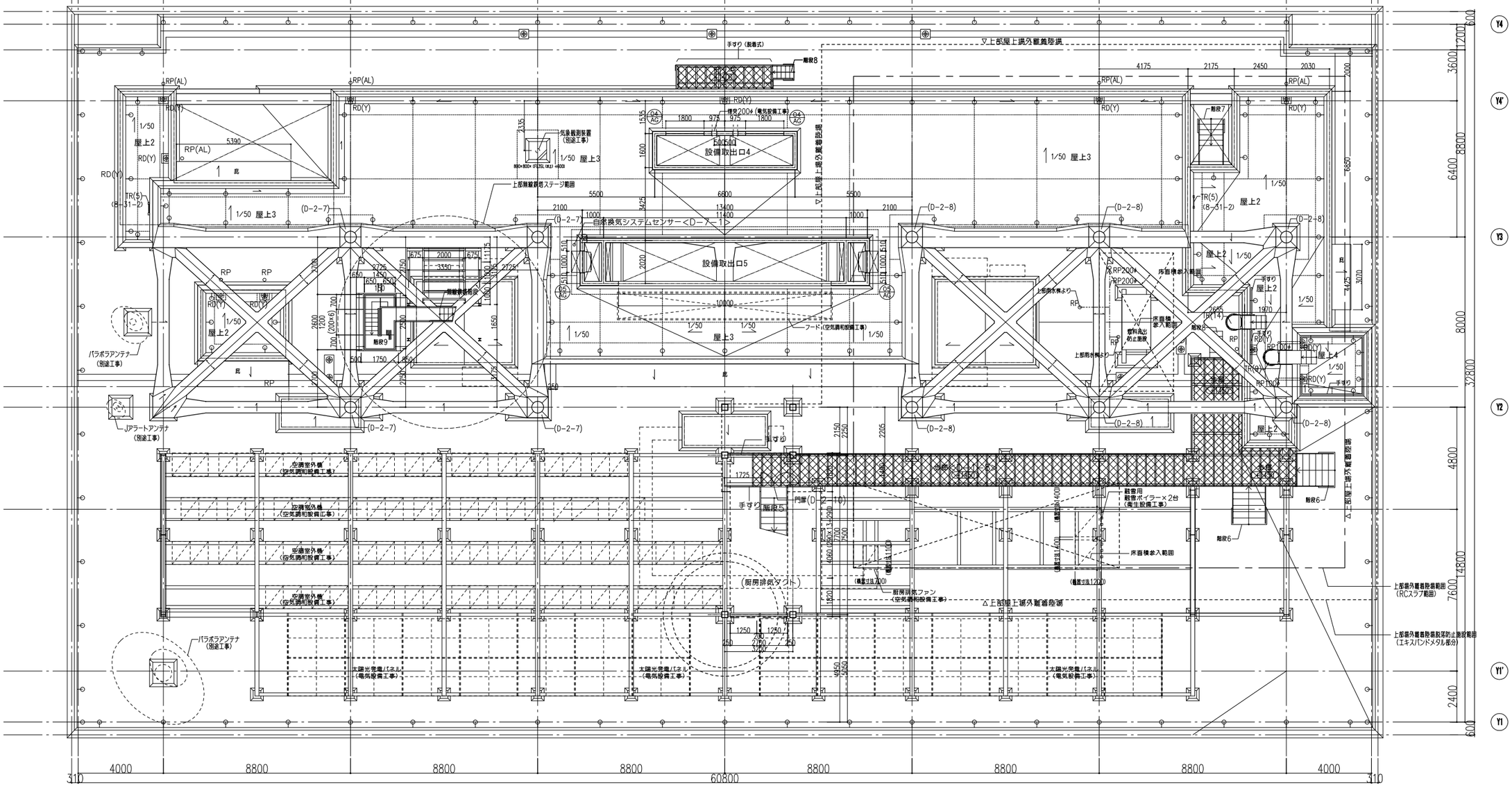
年月日 2013.01.22 | 縮尺 A1:1/100 A3:1/200 | 図面番号 A-08



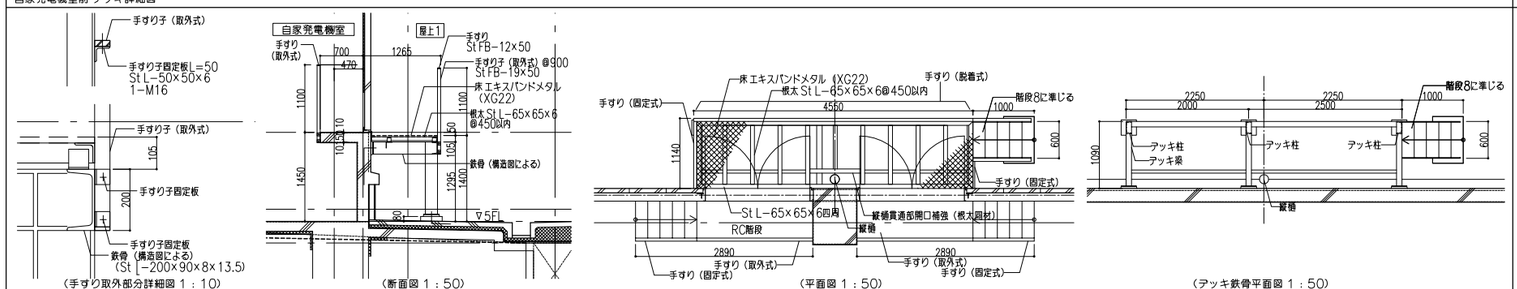
屋上1　燃料流出防止施設仕様（ガソリントラップ）仕様	
形式	フレキタイプ、床置パイプ差入型、分離式、特注サイズ
本体材質・寸法	SUS304製、2500L×1250W×1490H×t3
本体容量	3000 L
実容量	2530 L　(2060L以上とすること)
槽数	4槽
流入管・排出管口径	200A
蓋・受枠	SUS304製蓋×4枚
備考	屋上場外避難階の雨水桶を接続し屋上1側溝へ排水

	RC壁	耐・遮	W6：軽量鉄骨壁下地(耐火1時間・遮音)スラブ下まで 2-23-1		消火栓・連結送水管放水口付(別途:機械設備工事)		耐震スリットシール W230		鋼製床組		ルーフドレン 鋳鉄製 / 目皿75A
	WA1,WA2:ALC壁	(耐)・遮	W7：軽量鉄骨壁下地(耐火1時間相当・遮音)スラブ下まで 2-23-1		連結送水管放水口(別途:機械設備工事)		伸縮目地 W=20		防振床		〈D-O-O〉 部分詳細符号
	ECP	N	W8：鉄骨壁下地(窒素ガス耐圧)スラブ下まで 2-23-1		消火器トレイ(床置き型)別途工事		フリーアクセスフロア		床仕上レベル(特記なき限りFL±0)		〈A-OO図〉 図面番号(詳細図)
	W1：軽量鉄骨壁下地天下まで 2-22-1	N・耐・遮	W10：鉄骨壁下地(窒素ガス耐圧・耐火1時間・遮音)スラブ下まで 2-23-1		消火器ボックス(埋込型) 〈D-14-19〉		OAコンセント		水勾配(特記なき限り1/100)		鋼管製(特記なき限り150Φ) アルミ製(特記なき限り100Φ) ステンレス製(特記なき限り75角)
	W2：軽量鉄骨壁下地スラブ下まで 2-23-1	N・(耐)・遮	W11：鉄骨壁下地(窒素ガス耐圧・耐火1時間相当・遮音)スラブ下まで 2-23-1		電気錠(二重門)　防火戸の種類　型番号　品名番号　〈〉ページ番号		OAフロア空調用吹き出しパネル(開孔調整機能付)		腰上コンクリート伸縮目地(5-01-2)		
遮	W3：軽量鉄骨壁下地(遮音)天下まで 2-22-1	GL	RCの上 GL工法 天下まで				OAフロア空調用吹き出し口専用パネル(Φ200程度)		機械基礎〈D-8-12〉		オーバーフロー管 SUS 40A
遮	W4：軽量鉄骨壁下地(遮音)スラブ下まで 2-23-1		消火栓(別途:機械設備工事)		一方枠〈D-14-21〉		OAフロアパネル不要部分		マンホール400Φ(防水・防臭型)　化粧蓋付床点検口(防水・防臭型)		ステンレスタラップ(上部デッキ付) (段数)
耐	W5：軽量鉄骨壁下地(耐火1時間)スラブ下まで 2-23-1		消火器ボックス一体型消火栓(別途:機械設備工事)		(A)A-31図による/(B):D-16-5による/(C):D-16-3による		アスファルト防水+押えコンクリート		(駐車場及び車路部分にあるものは1-20とする)		排水溝・グレーチング 特記なき限り〈D-16-3〉

改2012.11.16 改2012.11.21 改2012.12.28 改2013.01.22	安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第129267号　高田　茂	新潟市建築部公共建築第1課	工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎　庁舎棟建設工事	図名 5階平面図 年月日 2013.03.01	縮尺 A1:1／100、A3:1／200	図面番号 A-09

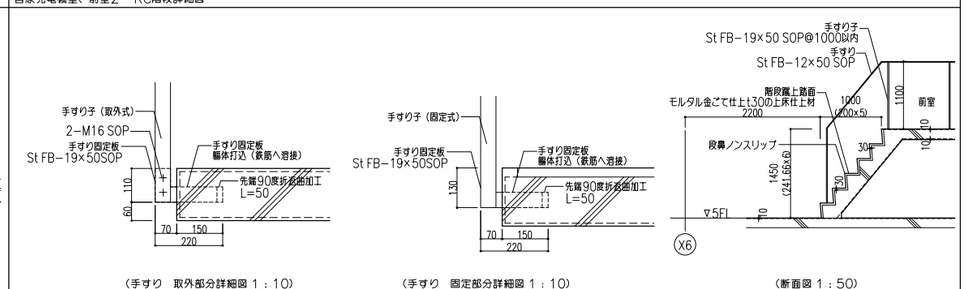


自家発電機室前 デッキ詳細図



（手すり取外部分詳細図 1：10）　（断面図 1：50）　（平面図 1：50）　（デッキ鉄骨平面図 1：50）

自家発電機室、前室2　RC階段詳細図



（手すり　取外部分詳細図 1：10）　（手すり　固定部分詳細図 1：10）　（断面図 1：50）

	RC壁	耐・遮	W6：軽量鉄骨壁下地(耐火1時間・遮音)スラブ下まで 2-23-1		消火栓・連結送水管放水口付(別途：機械設備工事)		耐震スリットシール W230		鋼製床組		ルーフドレン 鋳鉄製 / 目皿75A
	WA1,WA2：ALC壁	(耐)・遮	W7：軽量鉄骨壁下地(耐火1時間相当・遮音)スラブ下まで 2-23-1		連結送水管放水口(別途：機械設備工事)	◁伸	伸縮目地 W=20		防振床		(D-O-O) 部分詳細符号
	ECP	N	W8：鉄骨壁下地(窒素ガス耐圧)スラブ下まで 2-23-1		消火器トレイ(床置き型)別途工事		フリーアクセスフロア	0000	床仕上レベル(特記なき限りFL±0)		(A-OO図) 図面番号(詳細図)
	W1：軽量鉄骨壁下地天下まで 2-22-1	N・耐・遮	W10：鉄骨壁下地(窒素ガス耐圧・耐火1時間・遮音)スラブ下まで 2-23-1		消火器ボックス(埋込型) <D-14-19>		OAコンセント		水勾配(特記なき限り1/100)		鋼製 鋼管製(特記なき限り150Φ) アルミ製(特記なき限り100Φ) ステンレス製(特記なき限り75角)
	W2：軽量鉄骨壁下地スラブ下まで 2-23-1	N・(耐)・遮	W11：鉄骨壁下地(窒素ガス耐圧・耐火1時間相当・遮音)スラブ下まで 2-23-1		電気錠(二重内) 設備記号 設置番号 消火器番号 <ハンドル付>		OAフロア空調用吹き出し パネル(開孔調整機能付)		屋上コンクリート伸縮目地(5-01-2)		
遮	W3：軽量鉄骨壁下地(遮音)天下まで 2-22-1	GL	RCの上 GL工法 天下まで				OAフロア空調用吹き出し口専用パネル(Φ200程度)		機械基礎<D-8-12>		オーバーフロー管 SUS 40A
遮	W4：軽量鉄骨壁下地(遮音)スラブ下まで 2-23-1		消火栓(別途：機械設備工事)		一方枠<D-14-21>		OAフロアパネル不要部分		マンホール600Φ (防水・防臭型) / 化粧蓋付床点検口 (防水・防臭型)		ステンレスタラップ(上部デッキ付) (段数)
耐	W5：軽量鉄骨壁下地(耐火1時間)スラブ下まで 2-23-1		消火器ボックス一体型消火栓(別途：機械設備工事)		(A):A-31図による/(B):D-16-5による/(C):D-16-3による		アスファルト防水+押えコンクリート		(駐車場及び車路部分にあるものはT-20とする)		排水溝・グレーチング 特記なき限り<D-16-3>

改2012.11.16
改2012.11.21
改2012.12.28

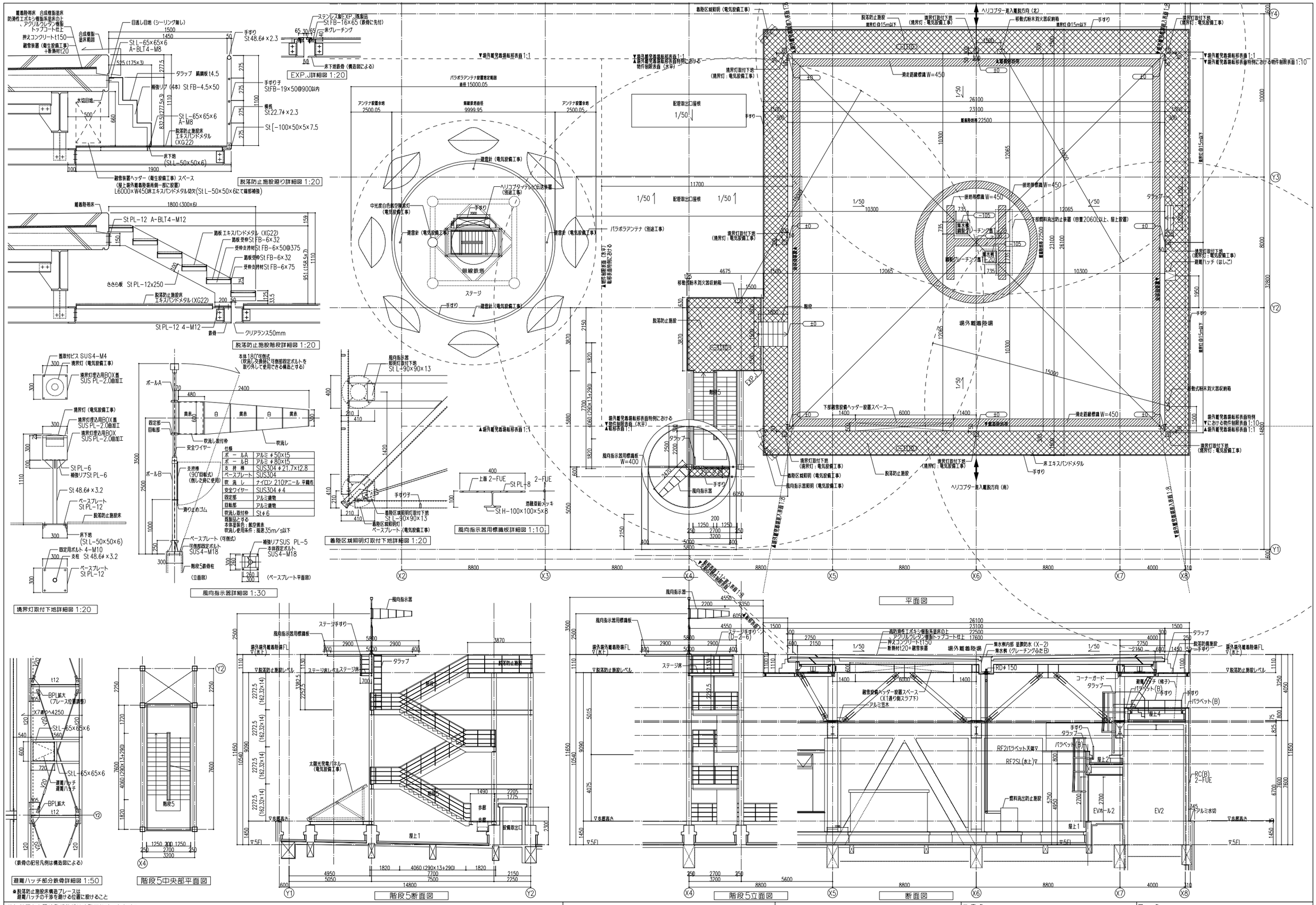
安井・太陽設計共同体
管理建築士一級建築士第129267号　高田　茂

新潟市建築部公共建築第1課

工事名：新潟市消防局・中央消防署庁舎　庁舎棟建設工事

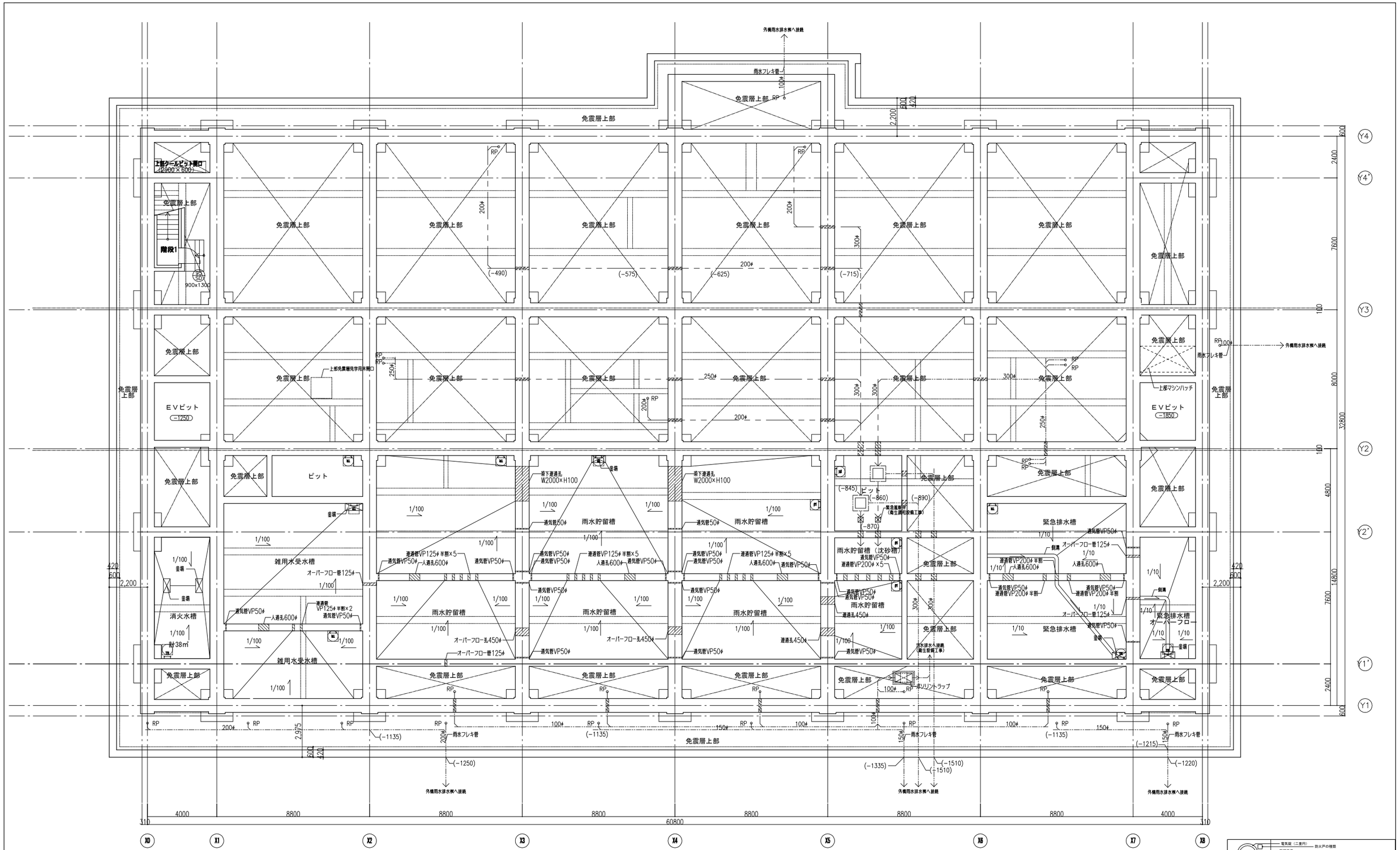
図名：屋上平面図

年月日	縮尺	図面番号
2013.03.01	A1:1/100、A3:1/200	A-10



注）特記なき限り外部鉄部は溶融亜鉛メッキとする。

安 井 ・ 太 陽 設 計 共 同 体 管理建築士一級建築士第129267号　高田　茂	新潟市建築部公共建築第1課	工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟建設工事	図名 場外離着陸場平面図・詳細図
		年月日 2012.12.21	縮尺 A1:1/100, 原本、A3:1/200, 原本/2
			図面番号 A-11



改2012.11.27

安井・太陽設計共同体
管理建築士一級建築士第129267号 高田 茂

新潟市建築部公共建築第1課

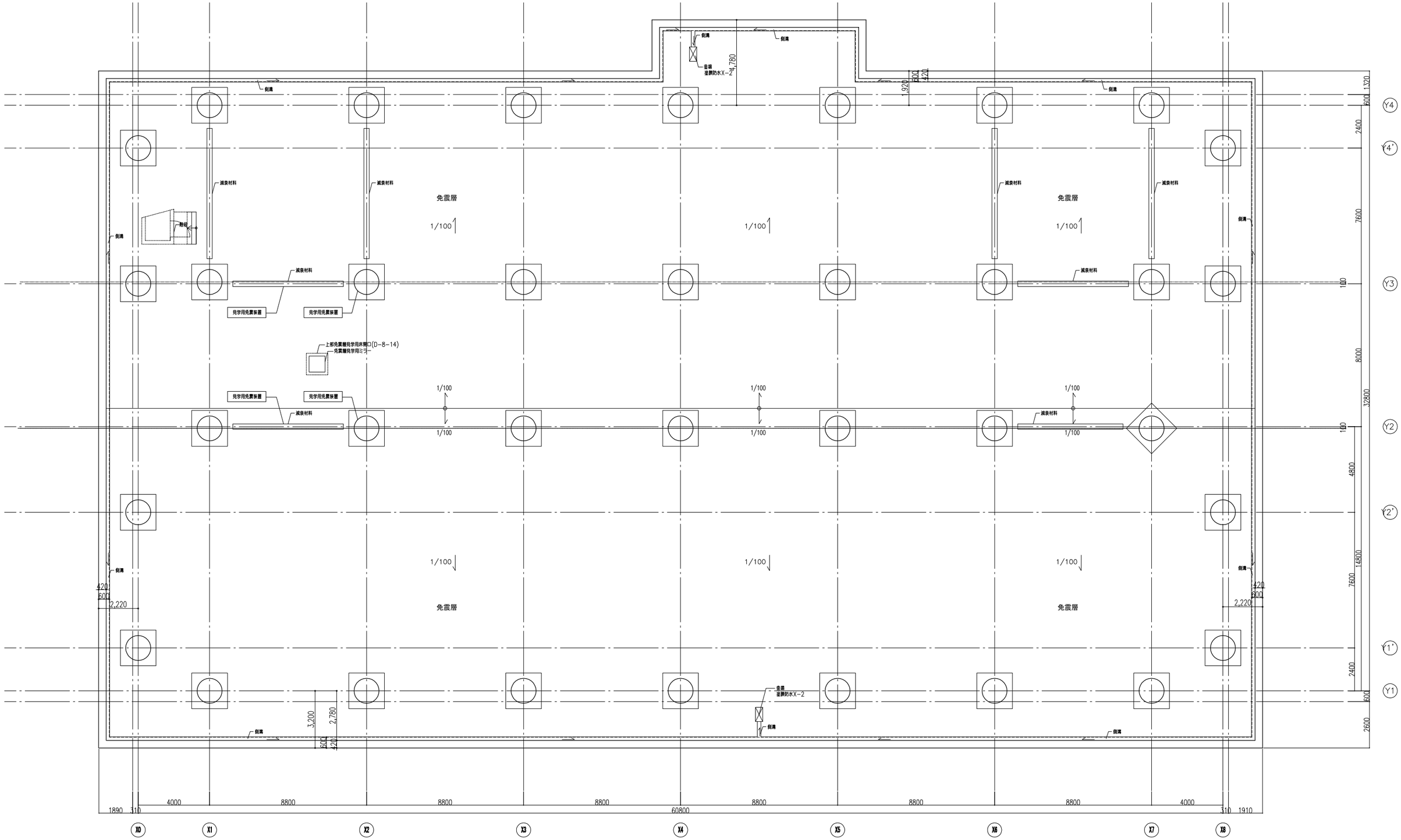
工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟建設工事

図名 ピット平面図

年月日 2013.03.01

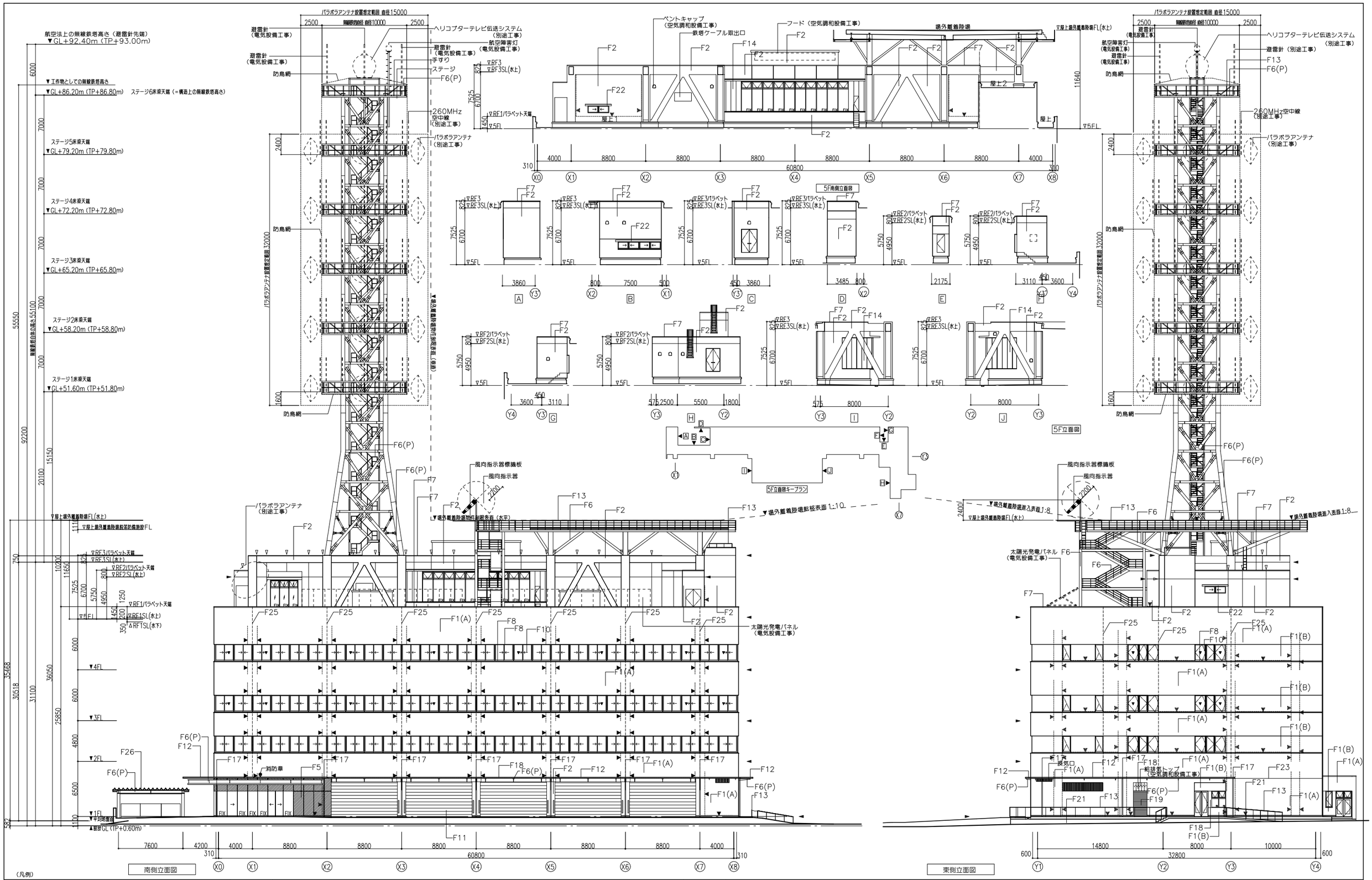
縮尺 A1:1/100, A3:1/200

図面番号 A-12



0000	床仕上レベル(特記なき限りFL±0)
←	水勾配 (特記なき限り1/100)
(D−○−○)	部分詳細符号
⊠	釜場 400 x 800 x H100

安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第129267号 高田 茂	新潟市建築部公共建築第1課	工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟建設工事	図名 免震層平面図		
			年月日 2013.03.01	縮尺 A1:1/100、A3:1/200	図面番号 A-13



（凡例）

F1(A),(B)	アルミスパンドレル(A),(B)	F6(P)、F6	スチール溶融亜鉛メッキリン酸処理、スチール溶融亜鉛メッキ	F11	オーバーヘッドドア（窓付）	F16	縦樋（アルミ）	F21	RC(B) RC保護塗装クリヤー	F23	アルミスパンドレル伸縮調整継手
F2	RC(B) 防水型複層仕上塗材REアクリル	F7	アルミ笠木	F12	アルミハニカムパネル（t＝100） F−BE	F17	庇縦樋（ステンレス）	F22	RC(B) 塗膜防水	▼	代替進入口（シール）
F3	RC(B) RC保護塗装クリヤー	F8	アルミ型材（見切線、水切など）	F13	スチール手すり 溶融亜鉛メッキ	F18	アルミパネル F−BE	F24	目隠しルーバー	►	打継目地（W20×D20、シーリング）
~~F4~~	~~押出成形セメント板リブ加工 防水型複層仕上塗材REフッ素~~	F9	アルミカーテンウォール	F14	押出成形セメント板 防水型複層仕上塗材REアクリル	F19	ステンレスシャッター	F25	アルミスパンドレル取外し目地（D−3−2）	►	誘発目地（W20×D20、シーリング）
F5	アルミカットパネル F−BE	F10	アルミサッシ	F15	アルミガラリ	~~F20~~	~~RC(B)リブ仕上げ 防水型複層仕上塗材REフッ素~~ ▨範囲	F26	折板葺	▼	耐震スリット

※外壁アルミスパンドレルに隠れるRC壁面の柱梁際から1.5m以内、壁面は及び3m以内のピッチとなるように誘発目地（W20×D20、シーリング）を入れること。

2013.01.22
2012.11.16

一級建築士 国土交通大臣登録 第269262号 楠木 賢一

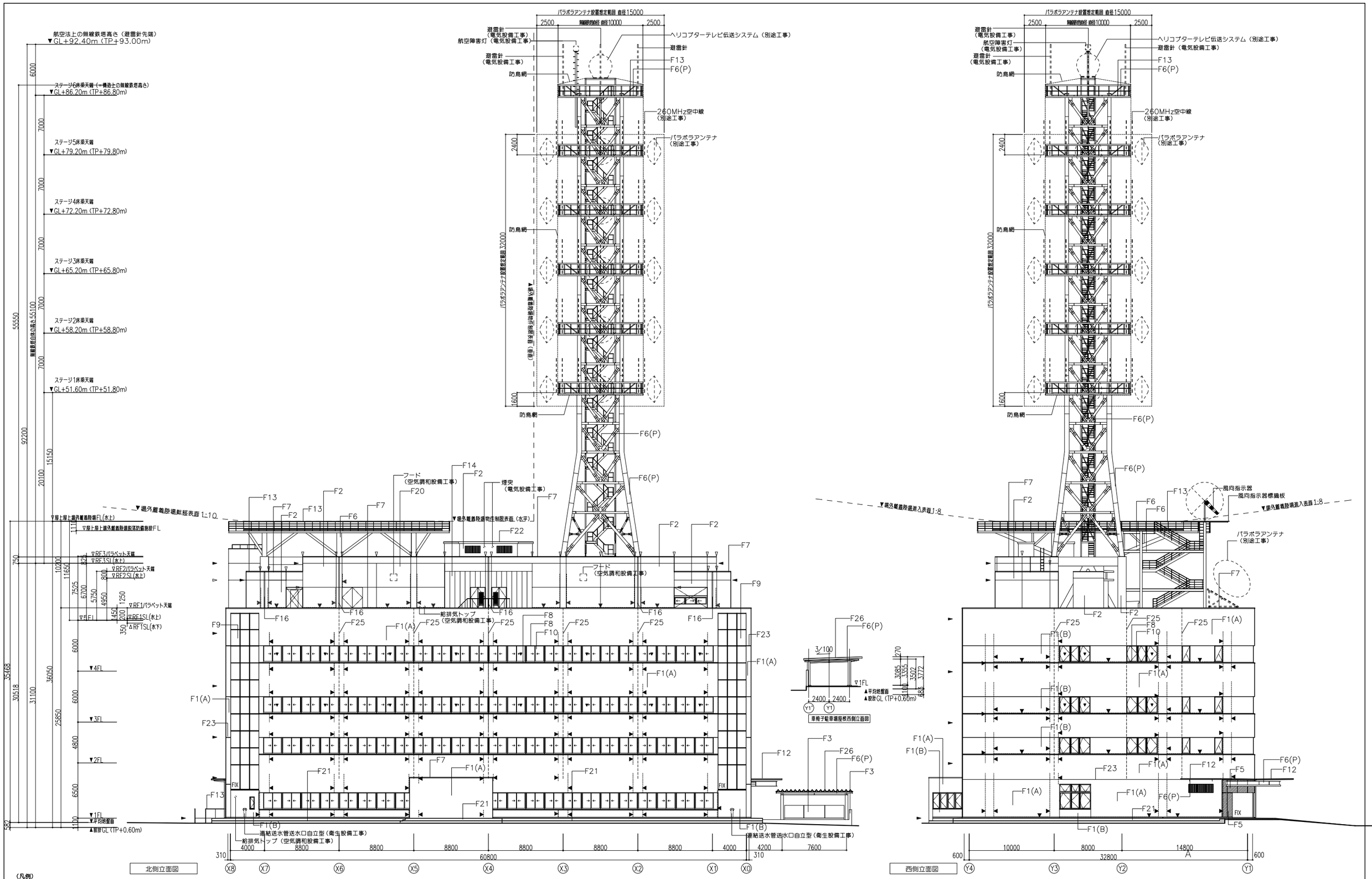
安井・太陽設計共同体
管理建築士一級建築士第129267号 高田 茂

新潟市建築部公共建築第1課

工事名：新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟建設工事

図名：庁舎棟 立面図(1)　計通-A-20

年月日：2013.01.22　縮尺：A1:1／200、A3:1／400　図面番号：A-14



（凡例）

F1(A),(B)	アルミスパンドレル(A),(B)	F6(P)、F6	スチール溶融亜鉛メッキリン酸処理、スチール溶融亜鉛メッキ	F11	オーバーヘッドドア（窓付）	F16	縦樋（アルミ）	F21	RC(B) RC保護塗装クリヤー	F23	アルミスパンドレル伸縮調整継手
F2	RC(B) 防水型複層仕上塗材REアクリル	F7	アルミ笠木	F12	アルミハニカムパネル（t＝100） F−BE	F17	庇縦樋（ステンレス）	F22	RC(B) 塗膜防水	▼	代替進入口（シール）
F3	RC(B) RC保護塗装クリヤー	F8	アルミ型材（見切線、水切など）	F13	スチール手すり 溶融亜鉛メッキ	F18	アルミパネル F−BE	F24	目隠しルーバー	►	打継目地（W20×D20、シーリング）
~~F4~~	~~押出成形セメント板リブ加工 防水型複層仕上塗材REフッ素~~	F9	アルミカーテンウォール	F14	押出成形セメント板 防水型複層仕上塗材REアクリル	F19	ステンレスシャッター	F25	アルミスパンドレル取外し目地（D−3−2）	►	誘発目地（W20×D20、シーリング）
F5	アルミカットパネル F−BE	F10	アルミサッシ	F15	アルミガラリ	~~F20~~	~~RC(B)リブ仕上げ 防水型複層仕上塗材REフッ素~~ ▨ 範囲	F26	折板葺	▼	耐震スリット

※外壁アルミスパンドレルに隠れるRC壁面の柱梁際から1.5m以内、壁面は及び3m以内のピッチとなるように誘発目地（W20×D20、シーリング）を入れること。

2013.01.22
2012.11.16

一級建築士 国土交通大臣登録 第269262号 楠木 賢一

安井・太陽設計共同体
管理建築士一級建築士第129267号 高田 茂

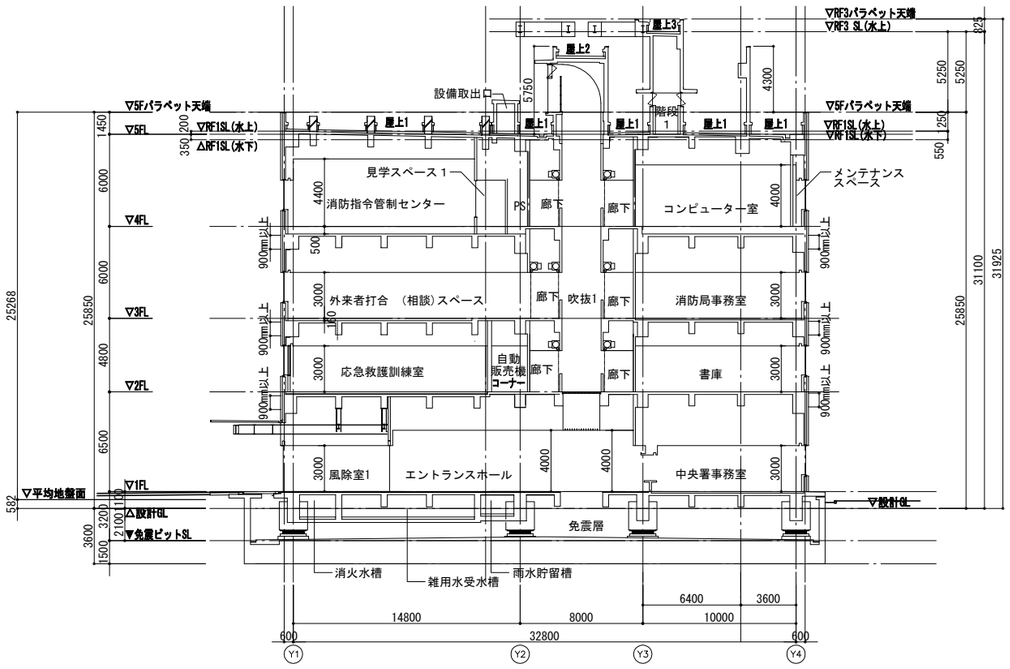
新潟市建築部公共建築第1課

工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟建設工事

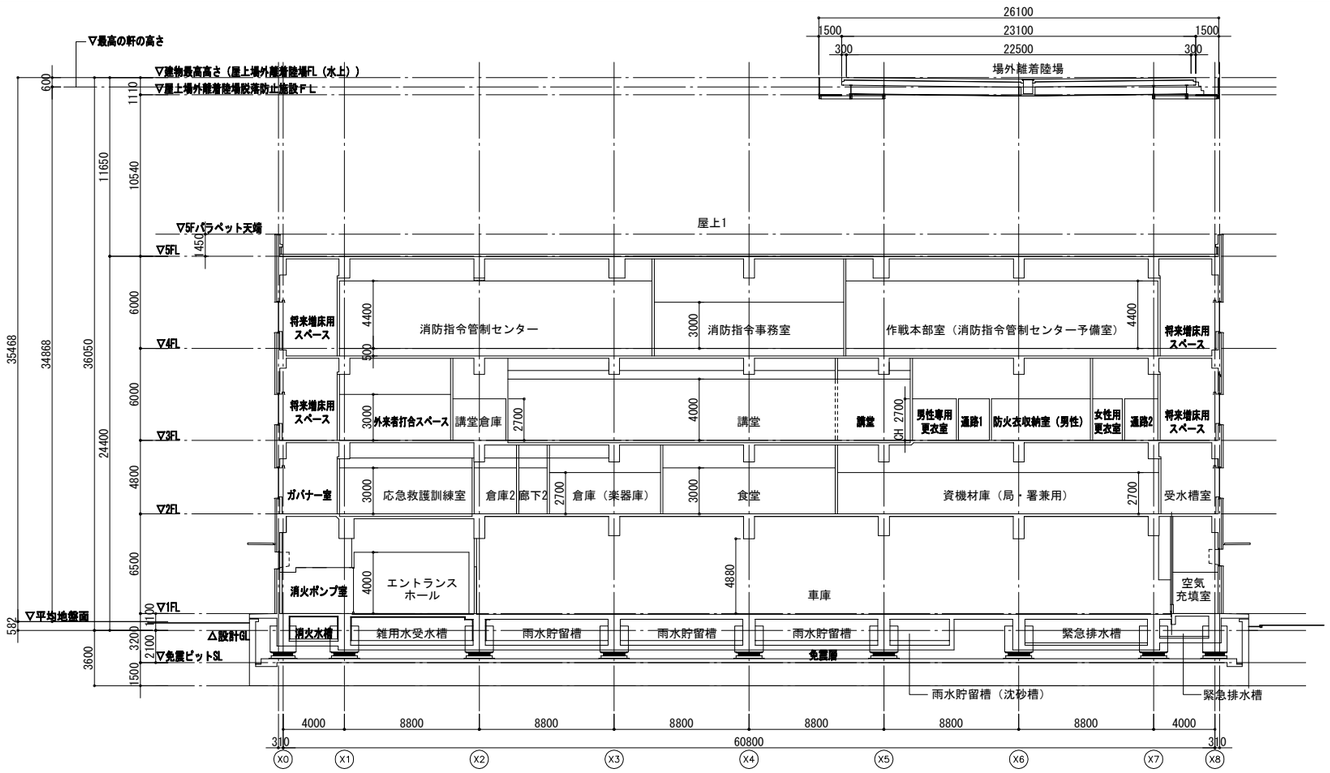
図名 庁舎棟 立面図(2)

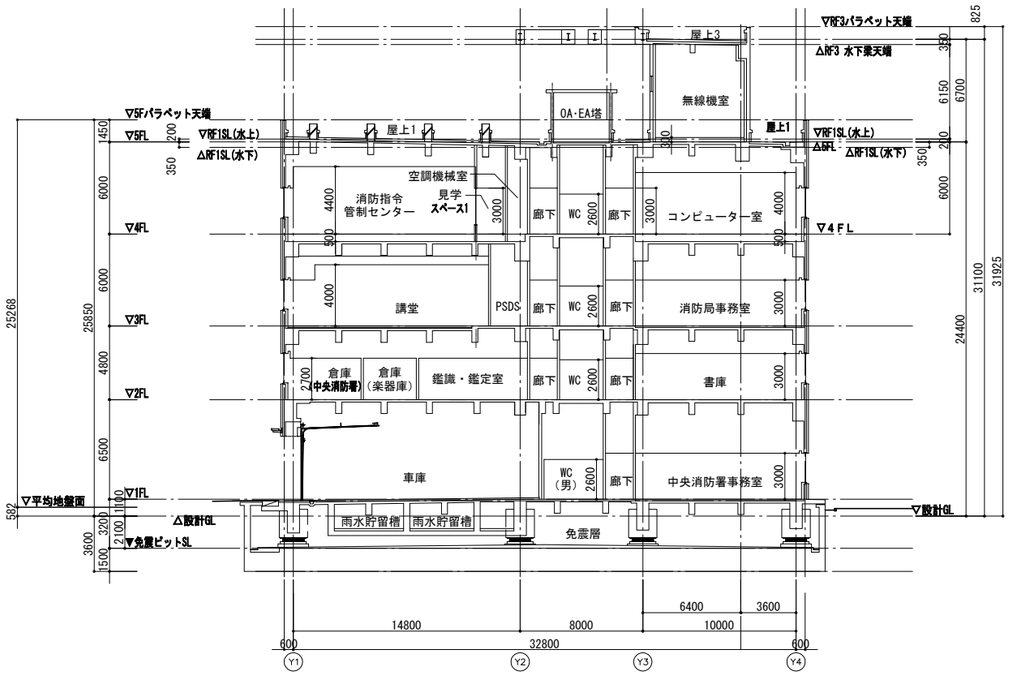
計通-A-21

年月日 2013.01.22 | 縮尺 A1:1／200、A3:1／400 | 図面番号 A-15

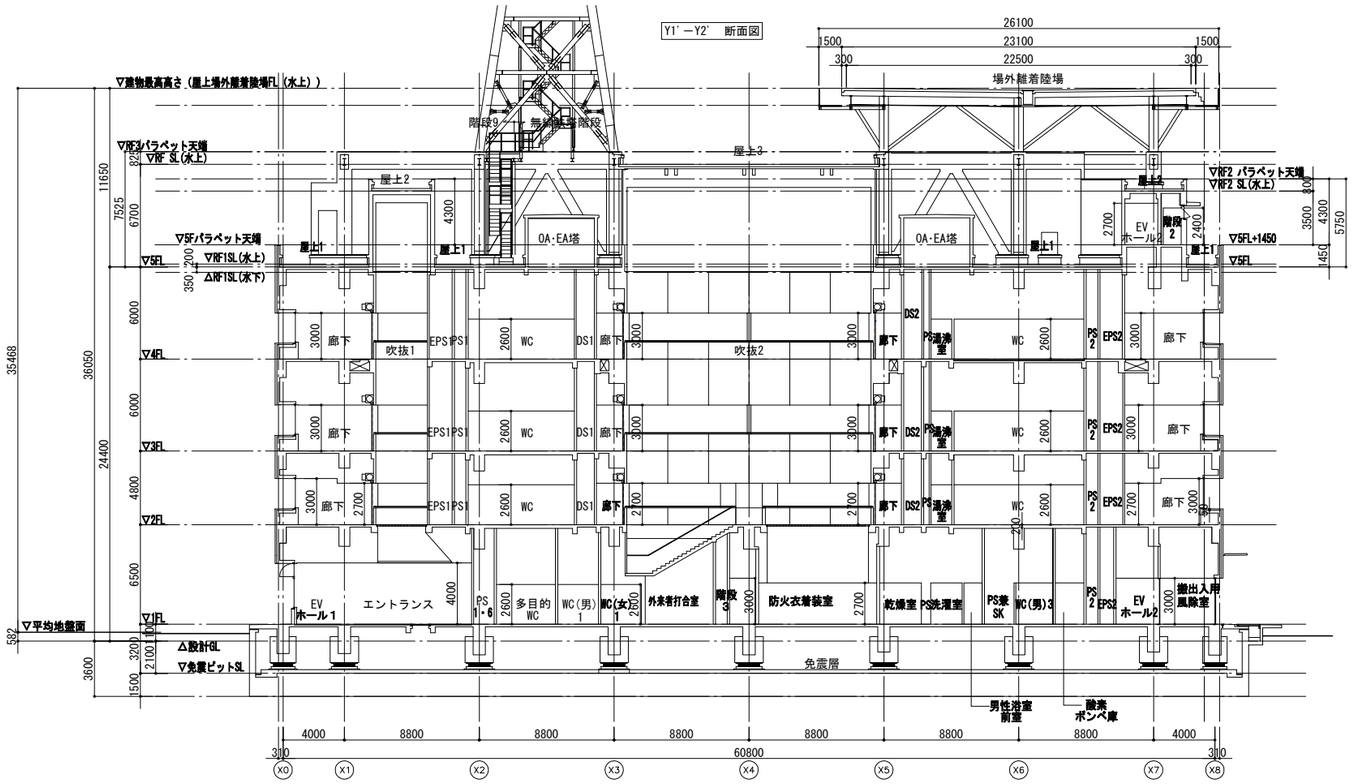


X1－X2　断面図

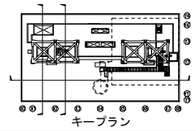




X2－X3　断面図



Y2－Y3　断面図



キープラン

設計GL＝TP+0.60m

改2013.01.22

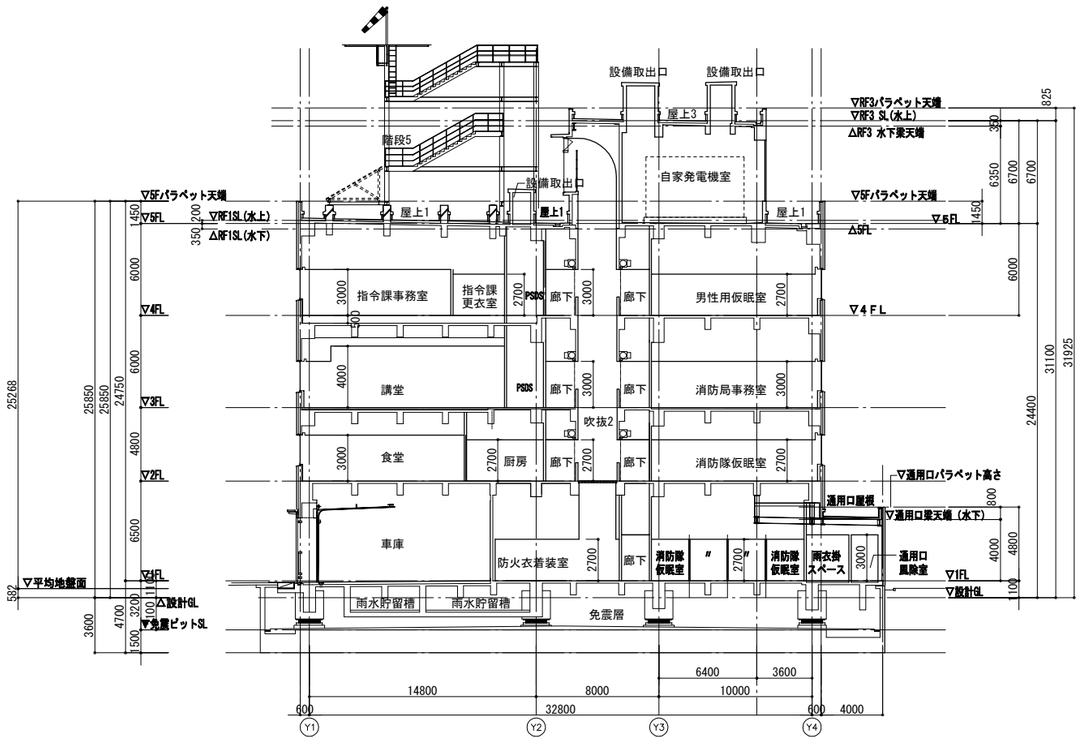
安井・太陽設計共同体
管理建築士一級建築士第129267号　高田　茂

新潟市建築部公共建築第１課

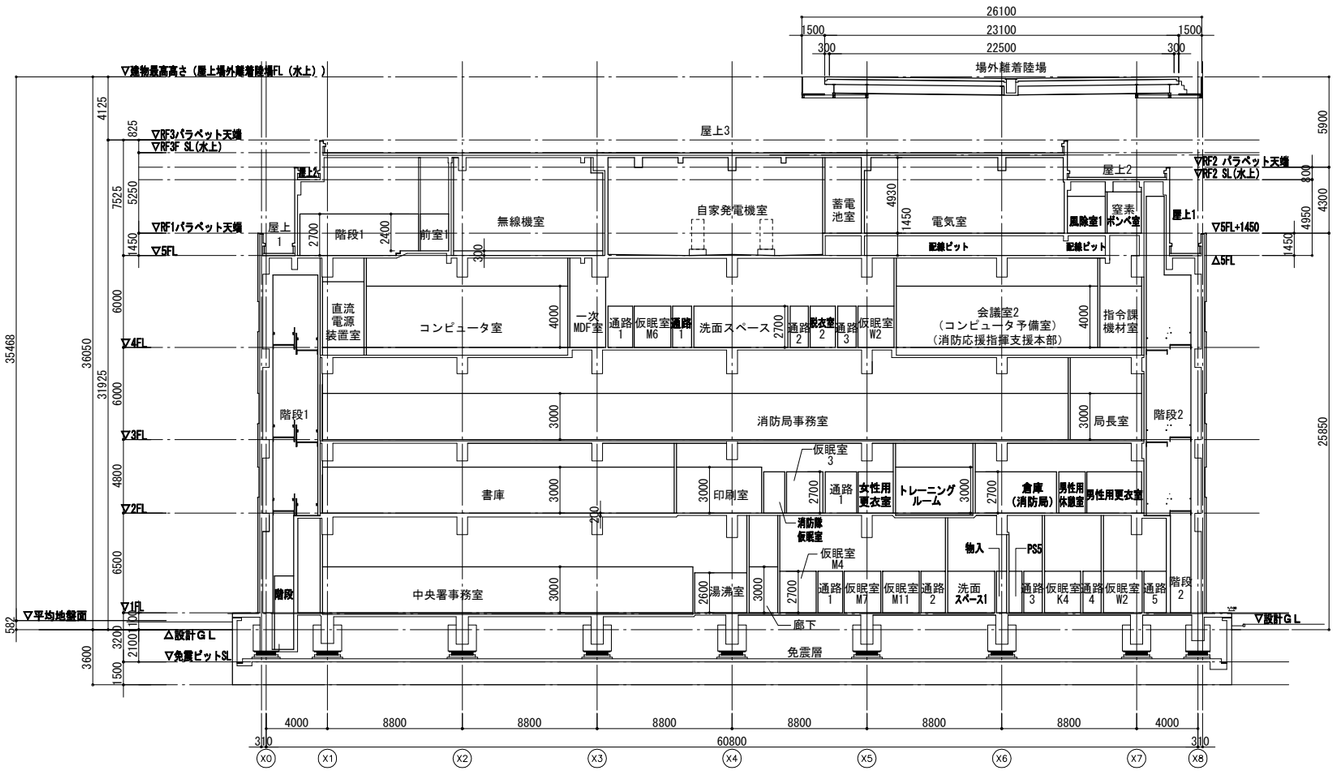
工事名
新潟市消防局・中央消防署庁舎　庁舎棟建設工事

図名
断面図（１）

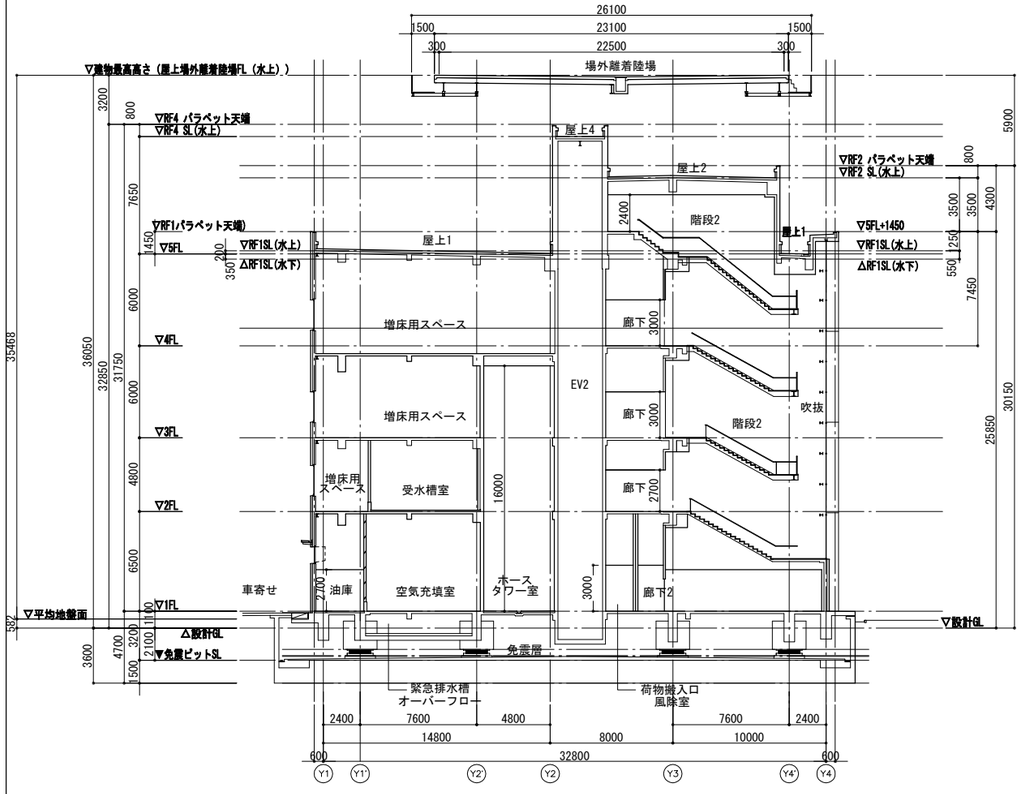
年月日 2013.03.01
縮尺 A1:1／200, A3:1／400
図面番号 A-16



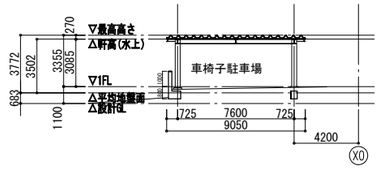
X4ーX5　断面図



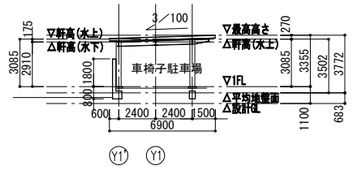
Y3ーY4　断面図



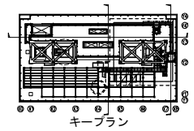
X7ーX8　断面図



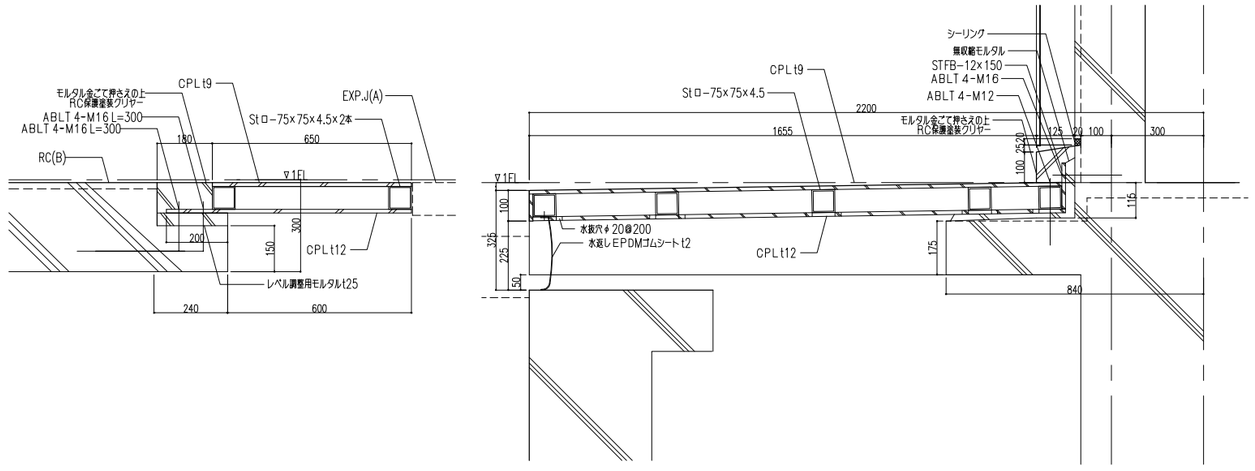
車椅子駐車場断面図



車椅子駐車場断面図



キープラン



鋼製犬走詳細図 1:10

設計ＧＬ＝ＴＰ+0.60m
防火区画に接する外壁のスパンドレル部は900mm以上とする
改2013.01.22

安井・太陽設計共同体
管理建築士一級建築士第129267号　高田　茂

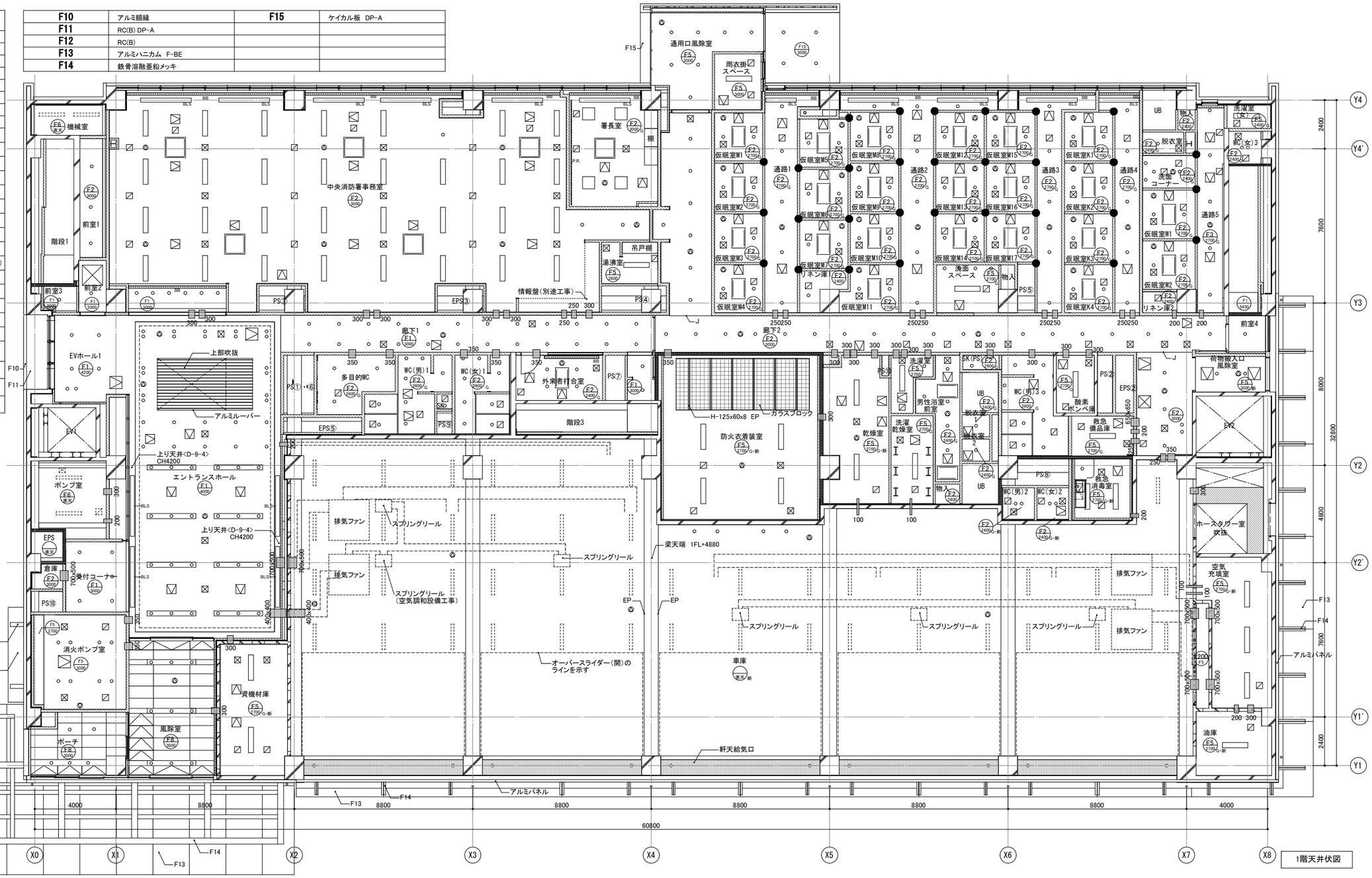
新潟市建築部公共建築第1課

工事名	新潟市消防局・中央消防署庁舎　庁舎棟建設工事
図名	断面図（２）
年月日	2013.03.01
縮尺	A1:1／200, A3:1／400
図面番号	A-17

(凡例)

F00 0000	上段:天井仕上材 下段:天井高さ
F1	GB-R・EP
F2	GB-NC(T)
F3	GB-D(W)
F4 / F4*	DR / DR*(DR t12+GB-R t9.5)
F5	ケイカル板+EP-G
F6	GW張り
F7	浴室用天井
F8	アルミ積層複合板
F9	アルミスパンドレル(B)
	天井開口SA,OA(大きさは開口リストによる)
	天井開口RA,EA(大きさは開口リストによる)
BLS	天井開口ブリーズライン(大きさは開口リストによる)
	エアコン室内機(4方向)1000x1000
	エアコン室内機(2方向)1000x650
	天井開口E(大きさは開口リストによる)
	スピーカー(φ250)
	天井点検口(大きさは開口リストによる)
BB	ブラインドボックス (3-31-1) (ブラインドは別途工事)
SB	スクリーンボックス D-16-9
P.R.	ピクチャーレール 特記なきはD-16-10
SS	シャッターレール
J	アルミジョイナー ハット型 既製品 A-BE
	軽量鉄骨壁下地 上階スラブ下まで
	LGS,ALC壁開口 WxH / LGS,ALC壁開口 Φ
G	天井内グラスウール敷込
断	上階スラブ面断熱施工
耐風	耐風圧チャンネルジョイント下地(1000Pa)

F10	アルミ額縁	F15	ケイカル板 DP-A
F11	RC(B) DP-A		
F12	RC(B)		
F13	アルミハニカム F-BE		
F14	鉄骨溶融亜鉛メッキ		



1階天井伏図

天井開口リスト(1FL)

室名	タイプ	下地補強	個数
EVホール1	E(150φ)		6
SK	E(150φ)		1
	RA・EA(300x300)	3-42-1	1
SK(PS)	E(150φ)		1
WC(女)1	E(150φ)		8
	RA・EA(300x300)	3-42-1	2
WC(女)2	E(150φ)		2
	RA・EA(300x300)	3-42-1	1
	SA・OA(300x300)	3-42-1	1
	点検口(450x450)	3-42-2	1
WC(女)3	E(150φ)		2
	RA・EA(300x300)	3-42-1	1
	SA・OA(300x300)	3-42-1	1
WC(男)1	E(150φ)		8
	RA・EA(300x300)	3-42-1	3
	点検口(450x450)	3-42-2	2
WC(男)2	E(150φ)		2
	RA・EA(300x300)	3-42-1	1
	SA・OA(300x300)	3-42-1	1
WC(男)3	E(150φ)		9
	RA・EA(300x300)	3-42-1	3
	点検口(450x450)	3-42-2	1
エントランスホール	BLS(3000x200)	3-42-1	4
	E(150φ)		52
	E(2400x250)	3-41-2	8
	SA・OA(300x300)	3-42-1	4
	スピーカー(250φ)		3
	点検口(450x450)	3-42-2	6
	点検口(600x600)	3-42-2	2
ポーチ	E(150φ)		5
	点検口(1250x450)		1
	点検口(1340x450)		2
リネン庫1	E(150φ)		1
	RA・EA(300x300)	3-42-1	1
リネン庫2	RA・EA(300x300)	3-42-1	1

天井開口リスト(1FL)

室名	タイプ	下地補強	個数
中央消防署事務室	BLS(2500x200)	3-42-1	5
	E(150φ)		9
	E(1260x250)	3-41-2	31
	RA・EA(300x300)	3-42-1	12
	SA・OA(300x300)	3-42-1	9
	スピーカー(250φ)		7
	室内機2方向(1000x1000)	3-42-1	5
	点検口(450x450)	3-42-2	12
乾燥室	E(1260x250)	3-41-2	2
	RA・EA(300x300)	3-42-1	1
	SA・OA(300x300)	3-42-1	1
	スピーカー(250φ)		1
	点検口(450x450)	3-42-2	3
仮眠室K1	E(150φ)		2
	RA・EA(300x300)	3-42-1	1
	SA・OA(300x300)	3-42-1	1
	スピーカー(250φ)		1
	室内機2方向(1000x650)	3-42-1	1
	点検口(450x450)	3-42-2	1
仮眠室K2	E(150φ)		2
	RA・EA(300x300)	3-42-1	1
	SA・OA(300x300)	3-42-1	1
	スピーカー(250φ)		1
	室内機2方向(1000x650)	3-42-1	1
	点検口(450x450)	3-42-2	1
仮眠室K3	E(150φ)		2
	RA・EA(300x300)	3-42-1	1
	SA・OA(300x300)	3-42-1	1

天井開口リスト(1FL)

室名	タイプ	下地補強	個数
仮眠室K3	スピーカー(250φ)		1
	室内機2方向(1000x650)	3-42-1	1
	点検口(450x450)	3-42-2	1
仮眠室K4	E(150φ)		2
	RA・EA(300x300)	3-42-1	1
	SA・OA(300x300)	3-42-1	1
	スピーカー(250φ)		1
	室内機2方向(1000x650)	3-42-1	1
	点検口(450x450)	3-42-2	1
仮眠室M1	E(150φ)		2
	RA・EA(300x300)	3-42-1	1
	SA・OA(300x300)	3-42-1	1
	スピーカー(250φ)		1
	室内機2方向(1000x650)	3-42-1	1
	点検口(450x450)	3-42-2	1
仮眠室M2	E(150φ)		2
	RA・EA(300x300)	3-42-1	1
	SA・OA(300x300)	3-42-1	1
	スピーカー(250φ)		1
	室内機2方向(1000x650)	3-42-1	1
	点検口(450x450)	3-42-2	1
仮眠室M3	E(150φ)		2
	RA・EA(300x300)	3-42-1	1
	SA・OA(300x300)	3-42-1	1
	スピーカー(250φ)		1
	室内機2方向(1000x650)	3-42-1	1
	点検口(450x450)	3-42-2	1
仮眠室M4	E(150φ)		2
	RA・EA(300x300)	3-42-1	1

天井開口リスト(1FL)

室名	タイプ	下地補強	個数
仮眠室M4	SA・OA(300x300)	3-42-1	1
	スピーカー(250φ)		1
	室内機2方向(1000x650)	3-42-1	1
	点検口(450x450)	3-42-2	1
仮眠室M5	E(150φ)		2
	RA・EA(300x300)	3-42-1	1
	SA・OA(300x300)	3-42-1	1
	スピーカー(250φ)		1
	室内機2方向(1000x650)	3-42-1	1
	点検口(450x450)	3-42-2	1
仮眠室M6	E(150φ)		2
	RA・EA(300x300)	3-42-1	1
	SA・OA(300x300)	3-42-1	1
	スピーカー(250φ)		1
	室内機2方向(1000x650)	3-42-1	1
	点検口(450x450)	3-42-2	1
仮眠室M7	E(150φ)		2
	RA・EA(300x300)	3-42-1	1
	SA・OA(300x300)	3-42-1	1
	スピーカー(250φ)		1
	室内機2方向(1000x650)	3-42-1	1
	点検口(450x450)	3-42-2	1
仮眠室M8	E(150φ)		2
	RA・EA(300x300)	3-42-1	1
	SA・OA(300x300)	3-42-1	1
	スピーカー(250φ)		1
	室内機2方向(1000x650)	3-42-1	1
	点検口(450x450)	3-42-2	1
仮眠室M9	E(150φ)		2

天井開口リスト(1FL)

室名	タイプ	下地補強	個数
仮眠室M9	RA・EA(300x300)	3-42-1	1
	SA・OA(300x300)	3-42-1	1
	スピーカー(250φ)		1
	室内機2方向(1000x650)	3-42-1	1
	点検口(450x450)	3-42-2	1
仮眠室M10	E(150φ)		2
	RA・EA(300x300)	3-42-1	1
	SA・OA(300x300)	3-42-1	1
	スピーカー(250φ)		1
	室内機2方向(1000x650)	3-42-1	1
	点検口(450x450)	3-42-2	1
仮眠室M11	E(150φ)		2
	RA・EA(300x300)	3-42-1	1
	SA・OA(300x300)	3-42-1	1
	スピーカー(250φ)		1
	室内機2方向(1000x650)	3-42-1	1
	点検口(450x450)	3-42-2	1
仮眠室M12	E(150φ)		2
	RA・EA(300x300)	3-42-1	1
	SA・OA(300x300)	3-42-1	1
	スピーカー(250φ)		1
	室内機2方向(1000x650)	3-42-1	1
	点検口(450x450)	3-42-2	1
仮眠室M13	E(150φ)		2
	RA・EA(300x300)	3-42-1	1
	SA・OA(300x300)	3-42-1	1
	スピーカー(250φ)		1
	室内機2方向(1000x650)	3-42-1	1
	点検口(450x450)	3-42-2	1

天井開口リスト(1FL)

室名	タイプ	下地補強	個数
仮眠室M14	E(150φ)		2
	RA・EA(300x300)	3-42-1	1
	SA・OA(300x300)	3-42-1	1
	スピーカー(250φ)		1
	室内機2方向(1000x650)	3-42-1	1
	点検口(450x450)	3-42-2	1
仮眠室M15	E(150φ)		2
	RA・EA(300x300)	3-42-1	1
	SA・OA(300x300)	3-42-1	1
	スピーカー(250φ)		1
	室内機2方向(1000x650)	3-42-1	1
	点検口(450x450)	3-42-2	1
仮眠室M16	E(150φ)		2
	RA・EA(300x300)	3-42-1	1
	SA・OA(300x300)	3-42-1	1
	スピーカー(250φ)		1
	室内機2方向(1000x650)	3-42-1	1
	点検口(450x450)	3-42-2	1
仮眠室M17	E(150φ)		2
	RA・EA(300x300)	3-42-1	1
	SA・OA(300x300)	3-42-1	1
	スピーカー(250φ)		1
	室内機2方向(1000x650)	3-42-1	1
	点検口(450x450)	3-42-2	1
仮眠室W1	E(150φ)		2
	RA・EA(300x300)	3-42-1	1
	SA・OA(300x300)	3-42-1	1
	スピーカー(250φ)		1
	点検口(450x450)	3-42-2	1
仮眠室W2	E(150φ)		2
	RA・EA(300x300)	3-42-1	1
	SA・OA(300x300)	3-42-1	1
	スピーカー(250φ)		1
	室内機2方向(1000x650)	3-42-1	1
	点検口(450x450)	3-42-2	1
前室1	E(150φ)		3
前室2	E(150φ)		1
	SA(1000x1000)		1
前室3	E(150φ)		1
前室4	E(150φ)		1
受付コーナー	E(150φ)		6
外来者打合室(プライバシー保護ブ	E(150φ)		4
	RA・EA(300x300)	3-42-1	1
	SA・OA(300x300)	3-42-1	1
	スピーカー(250φ)		1
	室内機2方向(1000x650)	3-42-1	1
	点検口(450x450)	3-42-2	1
多目的WC	E(150φ)		3
	RA・EA(300x300)	3-42-1	1
廊下1	E(150φ)		26
	SA・OA(300x300)	3-42-1	2
	スピーカー(250φ)		1
	点検口(450x450)	3-42-2	1
廊下2	E(150φ)		31
	RA・EA(300x300)	3-42-1	4
	SA・OA(300x300)	3-42-1	8

天井開口リスト(1FL)

室名	タイプ	下地補強	個数
廊下2	SA・OA(600x600)		1
	スピーカー(250φ)		4
	点検口(450x450)	3-42-2	2
	点検口(600x600)	3-42-2	1
救急備品庫	E(1260x250)	3-41-2	1
	RA・EA(300x300)	3-42-1	1
	SA・OA(300x300)	3-42-1	1
	点検口(450x450)	3-42-2	1
救急消毒室	E(150φ)		1
	E(1260x250)	3-41-2	2
	RA・EA(300x300)	3-42-1	1
	SA・OA(300x300)	3-42-1	1
	点検口(450x450)	3-42-2	2
受付コーナー	E(150φ)		3
油庫	E(1260x250)	3-41-2	1
	RA・EA(300x300)	3-42-1	1
洗濯乾燥室	E(1260x250)	3-41-2	1
	RA・EA(300x300)	3-42-1	1
	SA・OA(300x300)	3-42-1	1
	点検口(450x450)	3-42-2	1
洗濯室	E(150φ)		1
	E(1260x250)	3-41-2	1
	RA・EA(300x300)	3-42-1	1
	SA・OA(300x300)	3-42-1	1
	点検口(450x450)	3-42-2	1
洗濯室(女)	E(1260x250)	3-41-2	1
	RA・EA(300x300)	3-42-1	1
	点検口(450x450)	3-42-2	1
洗面コーナー	E(150φ)		4
	RA・EA(300x300)	3-42-1	2
洗面コーナー	スピーカー(250φ)		1

天井開口リスト(1FL)

室名	タイプ	下地補強	個数
洗面スペース	E(150φ)		4
	E(1260x250)	3-41-2	1
	RA・EA(300x300)	3-42-1	1
	点検口(450x450)	3-42-2	1
湯沸室	E(1260x250)	3-41-2	1
	RA・EA(300x300)	3-42-1	1
	SA・OA(300x300)	3-42-1	1
男性浴室 前室	E(150φ)		5
	SA・OA(300x300)	3-42-1	1
	スピーカー(250φ)		1
	室内機2方向(1000x650)	3-42-1	2
	点検口(450x450)	3-42-2	2
空気充填室	E(1260x250)	3-41-2	3
	RA・EA(300x300)	3-42-1	1
署長室	BLS(2500x200)	3-42-1	1
	E(600x600)	3-41-1	4
	RA・EA(300x300)	3-42-1	2
	SA・OA(300x300)	3-42-1	1
	スピーカー(250φ)		1
	室内機4方向(1000x1000)	3-42-1	1
	点検口(450x450)	3-42-2	2
脱衣室	E(150φ)		1
	SA・OA(300x300)	3-42-1	1
脱衣室1	E(150φ)		1
	点検口(450x450)	3-42-2	1
脱衣室2	E(150φ)		1
	点検口(450x450)	3-42-2	1
荷物搬入口風除室	E(150φ)		2

天井開口リスト(1FL)

室名	タイプ	下地補強	個数
荷物搬入口風除室	スピーカー(250φ)		1
	点検口(600x600)	3-42-2	2
資機材庫	E(1260x250)	3-41-2	2
	RA・EA(300x300)	3-42-1	2
	SA・OA(300x300)	3-42-1	2
	点検口(450x450)	3-42-2	2
車庫	E(150φ)		4
	スピーカー(250φ)		5
	スプリングリール用折上天井(800x600x600)		6
	排気ファン用折上天井(2000x2000x1000)		4
通用口風除室	E(150φ)		7
	スピーカー(250φ)		1
通路1	BLS(1500x200)	3-42-1	1
	E(150φ)		5
	RA・EA(300x300)	3-42-1	1
	スピーカー(250φ)		1
	点検口(450x450)	3-42-2	2
通路2	BLS(2500x200)	3-42-1	2
	E(150φ)		7
	RA・EA(300x300)	3-42-1	1
	スピーカー(250φ)		1
	点検口(450x450)	3-42-2	2
通路3	BLS(2500x200)	3-42-1	1
通路3	E(150φ)		5
	RA・EA(300x300)	3-42-1	1
	スピーカー(250φ)		1
	点検口(450x450)	3-42-2	1

天井開口リスト(1FL)

室名	タイプ	下地補強	個数
通路4	BLS(2000x200)	3-42-1	1
	E(150φ)		5
	RA・EA(300x300)	3-42-1	1
	スピーカー(250φ)		1
	点検口(450x450)	3-42-2	1
通路5	E(150φ)		5
	RA・EA(300x300)	3-42-1	2
	スピーカー(250φ)		1
	点検口(450x450)	3-42-2	3
酸素ボンベ庫	E(1260x250)	3-41-2	1
	RA・EA(300x300)	3-42-1	1
	SA・OA(300x300)	3-42-1	1
	点検口(450x450)	3-42-2	1
防火衣着装室	E(1260x250)	3-41-2	4
	RA・EA(300x300)	3-42-1	2
	SA・OA(300x300)	3-42-1	2
	スピーカー(250φ)		1
雨衣掛スペース	E(1260x250)	3-41-2	1
	RA・EA(300x300)	3-42-1	2
	点検口(450x450)	3-42-2	1
風除室	E(150φ)		9
	E(2400x250)	3-41-2	3
	スピーカー(250φ)		1
	点検口(1200x450)	3-42-2	4
	点検口(1800x450)		2

安井・太陽設計共同体

管理建築士一級建築士第 129267号 高田 茂

新潟市建築部公共建築第1課

工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟建設工事

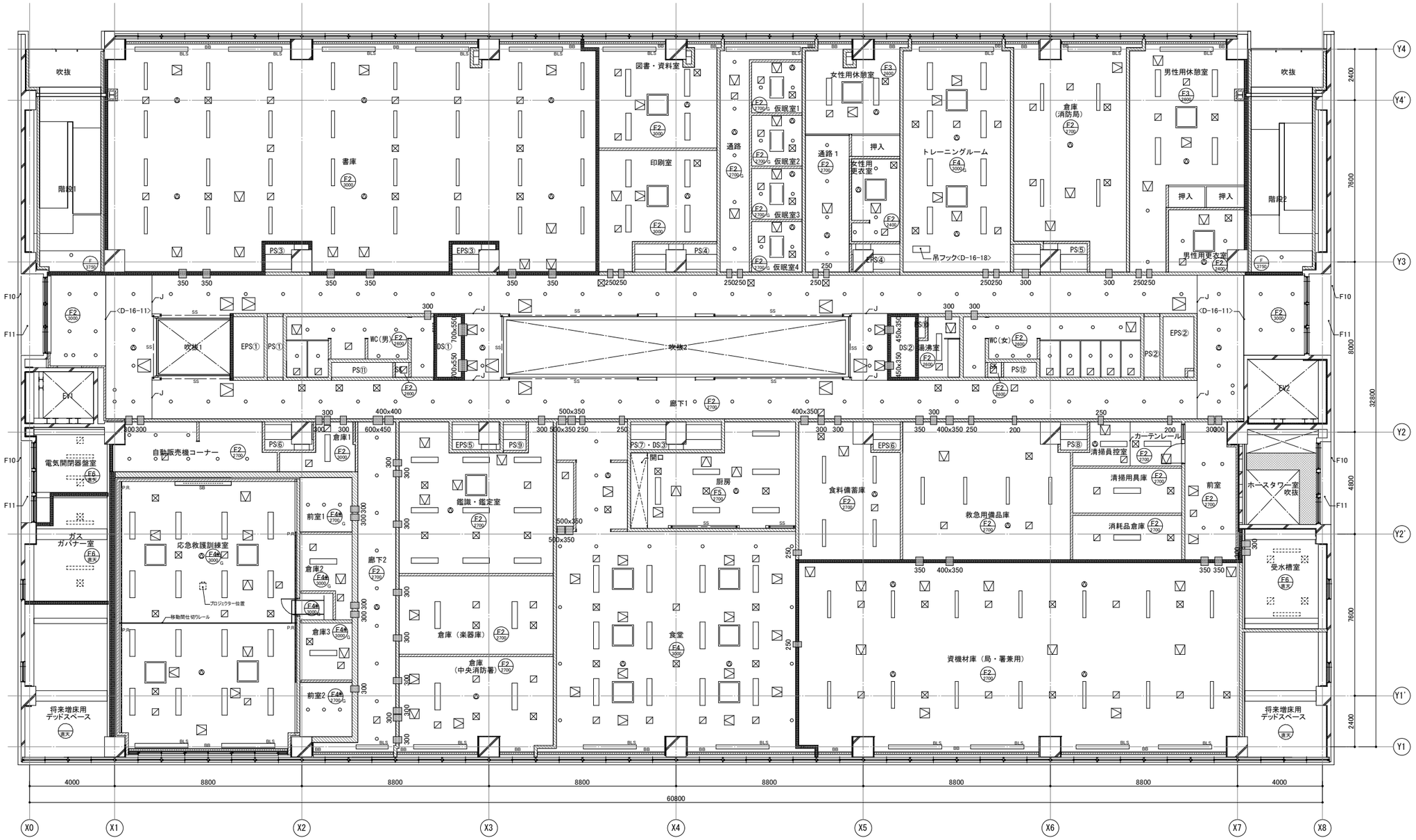
図名 1階天井伏図

年月日 2013.03.01 縮尺 A1:1/100 A3:1/200 図面番号 A-18

改2013.01.22

（凡例）

F00 / 0000	上段:天井仕上材 下段:天井高さ	
F1	GB-R・EP	
F2	GB-NC(T)	
F3	GB-D(W)	
F4 / F4*	DR	DR* (DR t12+GB-R t9.5)
F5	ケイカル板+EP-G	
F6	GW張り	
F7	浴室用天井	
F8	アルミ積層複合板	
F9	アルミスパンドレル(B)	
F10	アルミ額縁	
F11	RC(B) 2-FUE	
F12	RC(B)	
F13	アルミハニカム F-BE	
F14	鉄骨溶融亜鉛メッキ	
⊠ ⊗	天井開口SA,OA(大きさは開口リストによる)	
◪ ⊘	天井開口RA,EA(大きさは開口リストによる)	
BLS	天井開口ブリーズライン(大きさは開口リストによる)	
	エアコン室内機(4方向)1000x1000	
	エアコン室内機(2方向)1000x650	
○	天井開口E(大きさは開口リストによる)	
	スピーカー(φ250)	
	天井点検口(大きさは開口リストによる)	
BB	ブラインドボックス (3-31-1)(ブラインドは別途工事)	
SB	スクリーンボックス D-16-9	
P.R.	ピクチャーレール 特記なきはD-16-10	
SS	シャッターレール	
J	アルミジョイナー ハット型 既製品 A-BE	
●	軽量鉄骨壁下地 上階スラブ下まで	
○x○○ / ○○	LGS,ALC壁開口 WxH	LGS,ALC壁開口 Φ
G	天井内グラスウール敷込	
断	上階スラブ面断熱施工	
耐風	耐風圧チャンネルジョイント下地(1000Pa)	



2階天井伏図

天井開リスト(2FL)

室名	タイプ	下地補強	個数
EVホール1	E(150φ)		7
SK	RA・EA(300x300)	3-42-1	2
WC(女)	E(150φ)		15
	RA・EA(300x300)	3-42-1	5
	点検口(450x450)	3-42-2	1
WC(男)	E(150φ)		10
	RA・EA(300x300)	3-42-1	3
	点検口(450x450)	3-42-2	1
トレーニングルーム	BLS(3500x200)		1
	E(1260x250)	3-41-2	8
	RA・EA(300x300)	3-42-1	3
	SA・OA(300x300)	3-42-1	2
	スピーカー(250φ)		2
	室内機4方向(1000x1000)	3-42-1	2
	点検口(450x450)	3-42-2	4
仮眠室1	E(150φ)		2
	RA・EA(300x300)	3-42-1	1
	SA・OA(300x300)	3-42-1	1
	スピーカー(250φ)		1
	室内機2方向(1000x650)	3-42-1	1
	点検口(450x450)	3-42-2	1
仮眠室2	E(150φ)		2
	RA・EA(300x300)	3-42-1	1
	SA・OA(300x300)	3-42-1	1
	スピーカー(250φ)		1
	室内機2方向(1000x650)	3-42-1	1
	点検口(450x450)	3-42-2	1
仮眠室3	E(150φ)		2
	RA・EA(300x300)	3-42-1	1
	SA・OA(300x300)	3-42-1	1
	スピーカー(250φ)		1

天井開リスト(2FL)

室名	タイプ	下地補強	個数
仮眠室3	室内機2方向(1000x650)	3-42-1	1
	点検口(450x450)	3-42-2	1
仮眠室4	E(150φ)		2
	RA・EA(300x300)	3-42-1	1
	SA・OA(300x300)	3-42-1	1
	スピーカー(250φ)		1
	室内機2方向(1000x650)	3-42-1	1
	点検口(450x450)	3-42-2	1
倉庫1	E(1260x250)	3-41-2	1
	RA・EA(300x300)	3-42-1	2
倉庫2	E(1260x250)	3-41-2	1
	RA・EA(300x300)	3-42-1	2
	点検口(450x450)	3-42-2	1
倉庫3	E(1260x250)	3-41-2	1
	RA・EA(300x300)	3-42-1	1
	SA・OA(300x300)	3-42-1	1
倉庫(中央消防署)	BLS(2500x200)	3-42-1	1
	E(1260x250)	3-41-2	2
	RA・EA(300x300)	3-42-1	3
	SA・OA(300x300)	3-42-1	2
	スピーカー(250φ)		1
	点検口(450x450)	3-42-2	3
倉庫(消防局)	BLS(2500x200)	3-42-1	1
	E(1260x150)	3-41-2	4
	RA・EA(300x300)	3-42-1	3
	SA・OA(300x300)	3-42-1	2
	スピーカー(250φ)		1
	点検口(450x450)	3-42-2	3
倉庫(楽器庫)	E(1260x250)	3-41-2	2
	RA・EA(300x300)	3-42-1	2
	SA・OA(300x300)	3-42-1	2

天井開リスト(2FL)

室名	タイプ	下地補強	個数
倉庫(楽器庫)	点検口(450x450)	3-42-2	1
前室	E(150φ)		4
	RA・EA(300x300)	3-42-1	1
	点検口(450x450)	3-42-2	2
前室1	E(150φ)		3
前室2	E(150φ)		3
印刷室	E(1260x250)	3-41-2	4
	RA・EA(300x300)	3-42-1	1
	SA・OA(300x300)	3-42-1	1
	スピーカー(250φ)		1
	室内機4方向(1000x1000)	3-42-1	1
	点検口(450x450)	3-42-2	2
厨房	E(1260x250)	3-41-2	6
	SA・OA(300x300)	3-42-1	3
	スピーカー(250φ)		1
	天井開口(3550x800)		1
	点検口(450x450)	3-42-2	4
図書・資料室	BLS(2500x200)	3-42-1	1
	E(1260x250)	3-41-2	4
	RA・EA(300x300)	3-42-1	2
	SA・OA(300x300)	3-42-1	1
	スピーカー(250φ)		1
	室内機4方向(1000x1000)	3-42-1	1
	点検口(450x450)	3-42-2	1
女性用更衣室	E(150φ)		4
	RA・EA(300x300)	3-42-1	1
	SA・OA(300x300)	3-42-1	1
	スピーカー(250φ)		1
	室内機4方向(1000x1000)	3-42-1	1
	点検口(450x450)	3-42-2	1
女性用休憩室	E(1260x250)	3-41-2	2
	RA・EA(300x300)	3-42-1	1
	SA・OA(300x300)	3-42-1	1

天井開リスト(2FL)

室名	タイプ	下地補強	個数
女性用休憩室	スピーカー(250φ)		1
	室内機4方向(1000x1000)	3-42-1	1
	点検口(450x450)	3-42-2	1
廊下1	E(150φ)		76
	RA・EA(300x300)	3-42-1	2
	SA・OA(300x300)	3-42-1	8
	スピーカー(250φ)		4
	点検口(450x450)	3-42-2	4
	点検口(600x600)	3-42-2	11
廊下2	BLS(1500x200)	3-42-1	1
	E(150φ)		9
	RA・EA(300x300)	3-42-1	1
	スピーカー(250φ)		1
応急救護訓練室	BLS(2500x200)	3-42-1	2
	E(1260x250)	3-41-2	16
	RA・EA(300x300)	3-42-1	5
	SA・OA(300x300)	3-42-1	5
	スピーカー(250φ)		2
	室内機4方向(1000x1000)	3-42-1	4
	点検口(450x450)	3-42-2	8
救急用備品庫	E(1260x150)	3-41-2	4
	RA・EA(300x300)	3-42-1	2
	SA・OA(300x300)	3-42-1	1
	スピーカー(250φ)		1
	点検口(450x450)	3-42-2	1
書庫	BLS(2500x200)	3-42-1	5
	E(1260x150)	3-41-2	32
	RA・EA(300x300)	3-42-1	9
	SA・OA(300x300)	3-42-1	6
	スピーカー(250φ)		6
	点検口(450x450)	3-42-2	11
消耗品倉庫	E(1260x250)	3-41-2	1

天井開リスト(2FL)

室名	タイプ	下地補強	個数
消耗品倉庫	RA・EA(300x300)	3-42-1	1
	SA・OA(300x300)	3-42-1	1
清掃員控室	E(1260x250)	3-41-2	2
	RA・EA(300x300)	3-42-1	1
	SA・OA(300x300)	3-42-1	1
	スピーカー(250φ)		1
	点検口(450x450)	3-42-2	2
清掃用具庫	E(1260x250)	3-41-2	1
	RA・EA(300x300)	3-42-1	1
	SA・OA(300x300)	3-42-1	1
湯沸室	E(1260x250)	3-41-2	1
	RA・EA(300x300)	3-42-1	1
	点検口(450x450)	3-42-2	1
男性用休憩室	BLS(2500x200)	3-42-1	1
	E(150φ)		2
	E(1260x250)	3-41-2	4
	RA・EA(300x300)	3-42-1	2
	SA・OA(300x300)	3-42-1	1
	スピーカー(250φ)		1
	室内機4方向(1000x1000)	3-42-1	1
	点検口(450x450)	3-42-2	3
男性用更衣室	E(150φ)		2
	RA・EA(300x300)	3-42-1	1
	SA・OA(300x300)	3-42-1	1
	スピーカー(250φ)		1
	室内機4方向(1000x1000)	3-42-1	1
	点検口(450x450)	3-42-2	1
自動販売機コーナー	E(150φ)		8
	RA・EA(300x300)	3-42-1	1
資機材庫(局・署兼用)	BLS(2500x200)	3-42-1	4
	E(1260x150)	3-41-2	14
	RA・EA(300x300)	3-42-1	7

天井開リスト(2FL)

室名	タイプ	下地補強	個数
資機材庫(局・署兼用)	SA・OA(300x300)	3-42-1	6
	スピーカー(250φ)		4
	点検口(450x450)	3-42-2	11
通路	BLS(3500x200)		1
	E(150φ)		5
	RA・EA(300x300)	3-42-1	1
	スピーカー(250φ)		1
	点検口(450x450)	3-42-2	2
通路1	E(150φ)		4
	スピーカー(250φ)		1
	点検口(450x450)	3-42-2	1
鑑識・鑑定室	E(1260x250)	3-41-2	9
	RA・EA(300x300)	3-42-1	1
	SA・OA(300x300)	3-42-1	4
	スピーカー(250φ)		1
	室内機4方向(1000x1000)	3-42-1	1
	点検口(450x450)	3-42-2	4
階段1	E(150φ)		1
階段2	E(150φ)		1
食堂	BLS(2500x200)	3-42-1	2
	E(150φ)		15
	E(1260x250)	3-41-2	12
	RA・EA(300x300)	3-42-1	8
	SA・OA(300x300)	3-42-1	6
	スピーカー(250φ)		3
	室内機4方向(1000x1000)	3-42-1	6
	点検口(450x450)	3-42-2	14
食料備蓄庫	E(1260x150)	3-41-2	4
	RA・EA(300x300)	3-42-1	1
	SA・OA(300x300)	3-42-1	1
	スピーカー(250φ)		1
	点検口(450x450)	3-42-2	1

安井・太陽設計共同体

管理建築士一級建築士第 129267号 高田 茂

新潟市建築部公共建築第1課

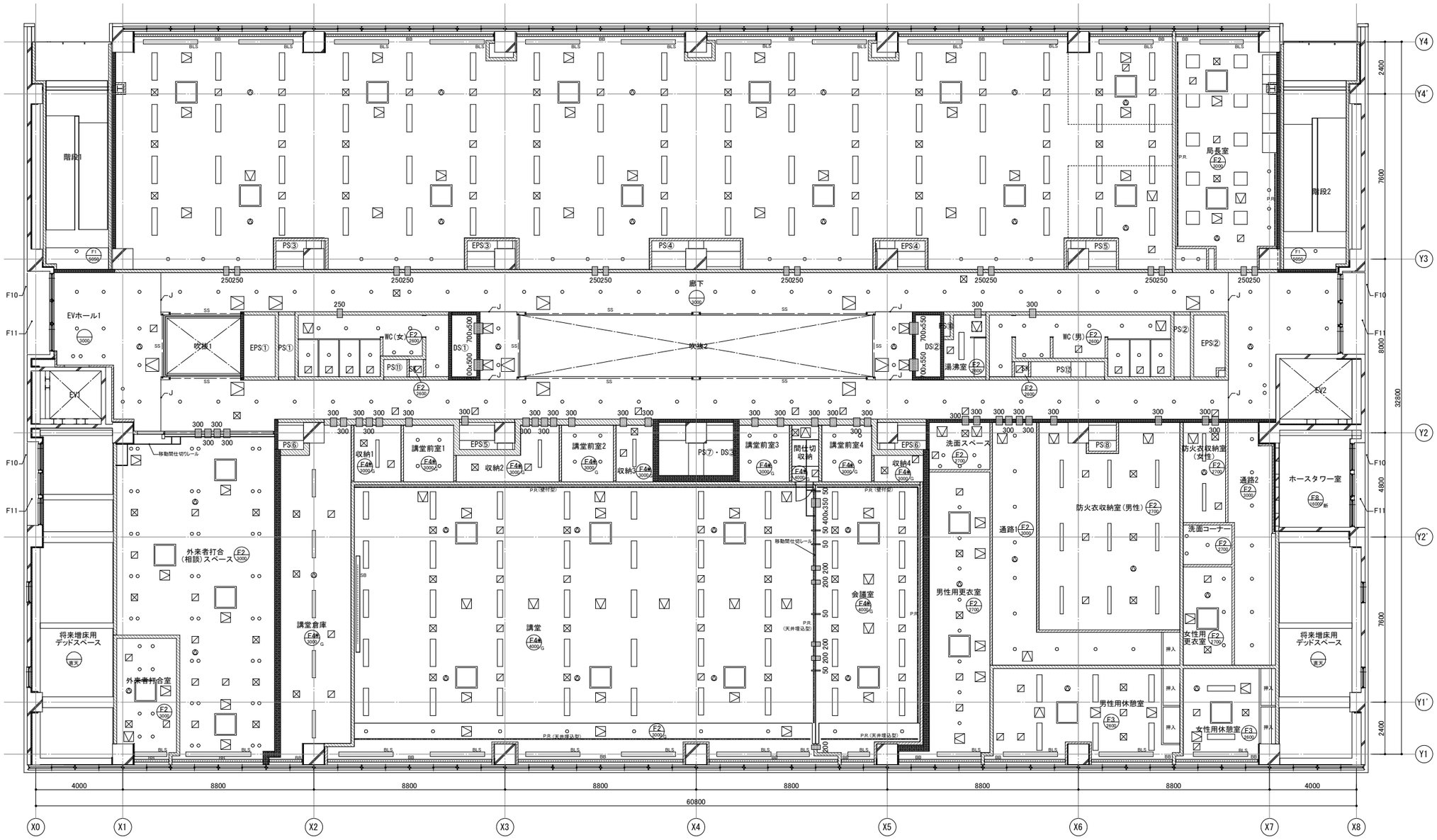
工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟建設工事

図名 2階天井伏図

年月日 2013.03.01 | 縮尺 A1:1/100 A3:1/200 | 図面番号 A-19

（凡例）

F00 / 0000	上段:天井仕上材 下段:天井高さ	
F1	GB-R・EP	
F2	GB-NC(T)	
F3	GB-D(W)	
F4 / F4*	DR	DR* (DR t12+GB-R t9.5)
F5	ケイカル板+EP-G	
F6	GW張り	
F7	浴室用天井	
F8	アルミ積層複合板	
F9	アルミスパンドレル(B)	
F10	アルミ額縁	
F11	RC(B) 2-FUE	
F12	RC(B)	
F13	アルミハニカム F-BE	
F14	鉄骨溶融亜鉛メッキ	
	天井開口SA,OA(大きさは開口リストによる)	
	天井開口RA,EA(大きさは開口リストによる)	
BLS	天井開口ブリーズライン(大きさは開口リストによる)	
	エアコン室内機(4方向)1000x1000	
	エアコン室内機(2方向)1000x650	
	天井開口E(大きさは開口リストによる)	
	スピーカー(φ250)	
	天井点検口(大きさは開口リストによる)	
BB	ブラインドボックス (3-31-1)(ブラインドは別途工事)	
SB	スクリーンボックス D-16-9	
P.R.	ピクチャーレール 特記なきはD-16-10	
SS	シャッターレール	
J	アルミジョイナー ハット型 既製品 A-BE	
	軽量鉄骨壁下地 上階スラブ下まで	
	LGS,ALC壁開口 WxH	LGS,ALC壁開口 Φ
G	天井内グラスウール敷込	
断	上階スラブ面断熱施工	
耐風	耐風圧チャンネルジョイント下地(1000Pa)	



3階天井伏図

天井開リスト(3FL)			
室名	タイプ	下地補強	個数
消防局事務室	BLS(2500x200)	3-42-1	11
	E(150φ)		17
	E(1260x250)	3-41-2	68
	RA・EA(300x300)	3-42-1	25
	SA・OA(300x300)	3-42-1	17
	スピーカー(250φ)		12
	室内機4方向(1000x1000)	3-42-1	12
	点検口(450x450)	3-42-2	24
EVホール1	E(150φ)		7
SK	RA・EA(300x300)	3-42-1	2
WC(女)	E(150φ)		12
	RA・EA(300x300)	3-42-1	4
	点検口(450x450)	3-42-2	1
WC(男)	E(150φ)		12
	RA・EA(300x300)	3-42-1	4
	点検口(450x450)	3-42-2	1
会議室	BLS(1000x200)	3-42-1	1
	E(150φ)		2
	E(1260x250)	3-41-2	10
	RA・EA(300x300)	3-42-1	4
	SA・OA(300x300)	3-42-1	4
	スピーカー(250φ)		2
	室内機4方向(1000x1000)	3-42-1	2
	点検口(450x450)	3-42-2	3
収納1	E(1260x150)	3-41-2	1
	RA・EA(300x300)	3-42-1	1
	SA・OA(300x300)	3-42-1	1
収納2	E(1260x150)	3-41-2	1
	RA・EA(300x300)	3-42-1	1
	SA・OA(300x300)	3-42-1	1
収納3	E(1260x150)	3-41-2	1
	RA・EA(300x300)	3-42-1	1
	SA・OA(300x300)	3-42-1	1

天井開リスト(3FL)			
室名	タイプ	下地補強	個数
収納4	RA・EA(300x300)	3-42-1	1
	SA・OA(300x300)	3-42-1	1
外来者打合(相談)スペース	BLS(3000x200)	3-42-1	1
	E(150φ)		42
	RA・EA(300x300)	3-42-1	7
	SA・OA(300x300)	3-42-1	6
	スピーカー(250φ)		2
	室内機4方向(1000x1000)	3-42-1	4
	点検口(450x450)	3-42-2	6
外来者打合室(プライバシー保護)	BLS(1500x200)	3-42-1	1
	E(150φ)		8
	RA・EA(300x300)	3-42-1	2
	SA・OA(300x300)	3-42-1	1
	スピーカー(250φ)		1
	室内機4方向(1000x1000)	3-42-1	1
	点検口(450x450)	3-42-2	2
女性用更衣室	E(150φ)		3
	RA・EA(300x300)	3-42-1	1
	SA・OA(300x300)	3-42-1	1
	スピーカー(250φ)		1
	室内機4方向(1000x1000)	3-42-1	1
	点検口(450x450)	3-42-2	1
女性用休憩室	BLS(2500x200)	3-42-1	1
	E(1260x250)	3-41-2	2
	RA・EA(300x300)	3-42-1	2
	SA・OA(300x300)	3-42-1	1
	スピーカー(250φ)		1
	室内機4方向(1000x1000)	3-42-1	1
	点検口(450x450)	3-42-2	2
局長室	BLS(2000x200)	3-42-1	1
	E(150φ)		4
	E(600x600)	3-41-1	10
	RA・EA(300x300)	3-42-1	3
	SA・OA(300x300)	3-42-1	2

天井開リスト(3FL)			
室名	タイプ	下地補強	個数
局長室	スピーカー(250φ)		1
	室内機4方向(1000x1000)	3-42-1	2
	点検口(450x450)	3-42-2	3
廊下	E(150φ)		76
	RA・EA(300x300)	3-42-1	8
	SA・OA(300x300)	3-42-1	3
	スピーカー(250φ)		4
	点検口(450x450)	3-42-2	4
	点検口(600x600)	3-42-2	11
洗面コーナー	E(150φ)		3
洗面スペース	E(150φ)		5
	RA・EA(300x300)	3-42-1	1
	SA・OA(300x300)	3-42-1	1
	点検口(450x450)	3-42-2	2
湯沸室	E(1260x250)	3-41-2	1
	RA・EA(300x300)	3-42-1	1
	点検口(450x450)	3-42-2	1
男性用休憩室	BLS(2500x200)	3-42-1	2
	E(1260x250)	3-41-2	6
	RA・EA(300x300)	3-42-1	4
	SA・OA(300x300)	3-42-1	2
	スピーカー(250φ)		1
	室内機4方向(1000x1000)	3-42-1	1
	点検口(450x450)	3-42-2	3
男性用更衣室	BLS(2000x200)	3-42-1	1
	E(150φ)		8
	RA・EA(300x300)	3-42-1	3
	SA・OA(300x300)	3-42-1	2
	スピーカー(250φ)		1
	室内機4方向(1000x1000)	3-42-1	2
	点検口(450x450)	3-42-2	5
講堂	BLS(1500x200)	3-42-1	1
	BLS(2500x200)	3-42-1	5
	E(150φ)		7

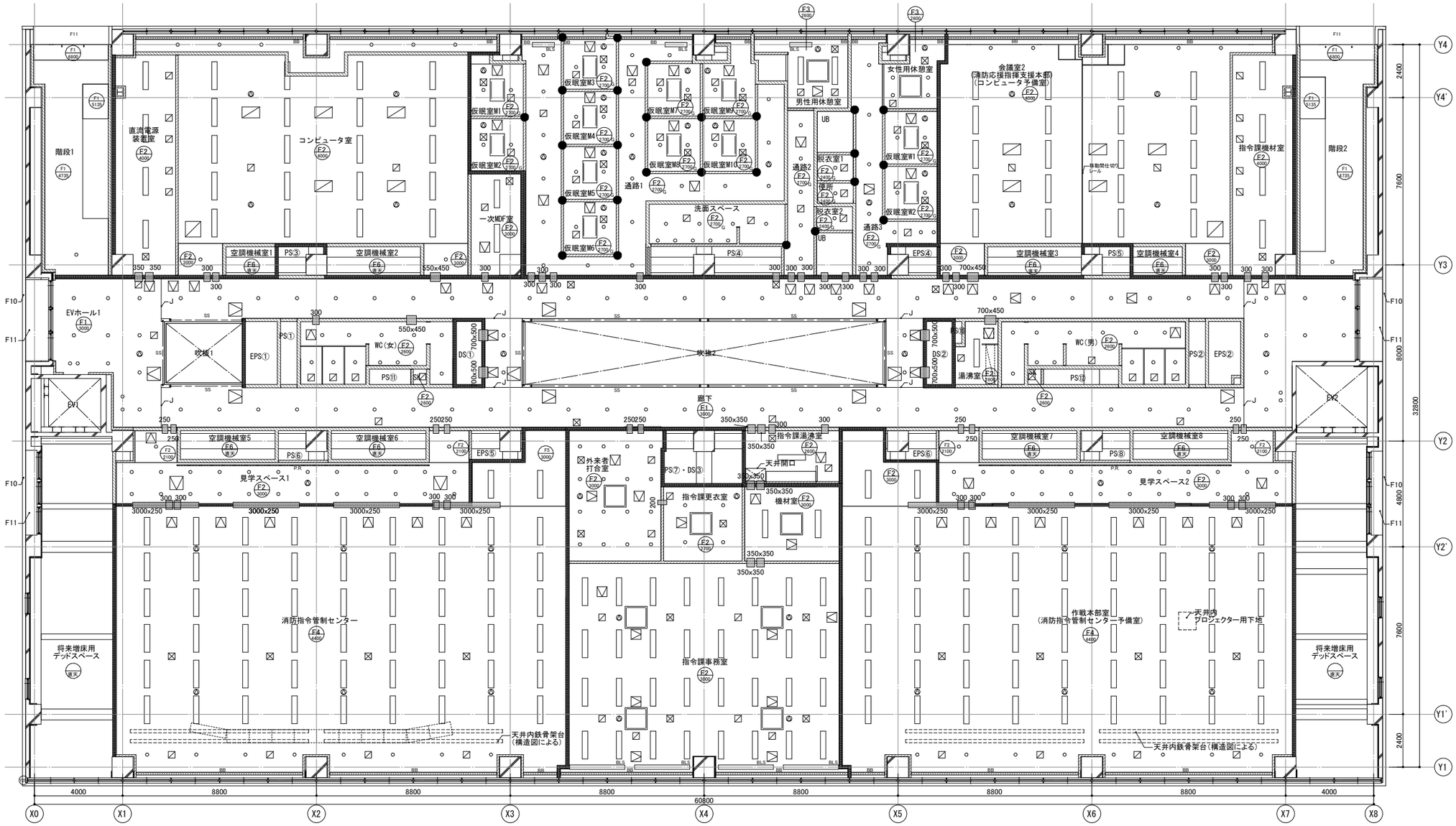
天井開リスト(3FL)			
室名	タイプ	下地補強	個数
講堂	E(1260x250)	3-41-2	35
	RA・EA(300x300)	3-42-1	9
	SA・OA(300x300)	3-42-1	11
	スピーカー(250φ)		6
	室内機4方向(1000x1000)	3-42-1	6
	点検口(450x450)	3-42-2	18
講堂倉庫	E(1260x150)	3-41-2	5
	RA・EA(300x300)	3-42-1	3
	SA・OA(300x300)	3-42-1	3
	スピーカー(250φ)		1
講堂前室1	E(150φ)		4
講堂前室2	E(150φ)		4
講堂前室3	E(150φ)		4
講堂前室4	E(150φ)		4
通路1	E(150φ)		10
	スピーカー(250φ)		1
	点検口(450x450)	3-42-2	2
通路2	E(150φ)		7
間仕切収納	RA・EA(300x300)	3-42-1	1
	SA・OA(300x300)	3-42-1	1
	点検口(450x450)	3-42-2	1
防火衣収納室(女性)	E(1260x150)	3-41-2	2
	RA・EA(300x300)	3-42-1	1
	SA・OA(300x300)	3-42-1	1
	スピーカー(250φ)		1
	点検口(450x450)	3-42-2	1
防火衣収納室(男性)	E(1260x150)	3-41-2	9
	RA・EA(300x300)	3-42-1	3
	SA・OA(300x300)	3-42-1	3
	スピーカー(250φ)		1
	点検口(450x450)	3-42-2	2

改2013.01.22	安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第 129267号 高田 茂	新潟市建築部公共建築第1課	工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟建設工事

図名	年月日	縮尺	図面番号
3階天井伏図	2013.03.01	A1:1/100 A3:1/200	A-20

(凡例)

F00 / 0000	上段:天井仕上材 下段:天井高さ	
F1	GB-R・EP	
F2	GB-NC(T)	
F3	GB-D(W)	
F4 / F4*	DR	DR* (DR t12+GB-R t9.5)
F5	ケイカル板+EP-G	
F6	GW張り	
F7	浴室用天井	
F8	アルミ積層複合板	
F9	アルミスパンドレル(B)	
F10	アルミ額縁	
F11	RC(B) 2-FUE	
F12	RC(B)	
F13	アルミハニカム F-BE	
F14	鉄骨溶融亜鉛メッキ	
	天井開口SA,OA(大きさは開口リストによる)	
	天井開口RA,EA(大きさは開口リストによる)	
BLS	天井開口ブリーズライン(大きさは開口リストによる)	
	エアコン室内機(4方向)1000x1000	
	エアコン室内機(2方向)1000x650	
	天井開口E(大きさは開口リストによる)	
	スピーカー(φ250)	
	天井点検口(大きさは開口リストによる)	
BE	ブラインドボックス (3-31-1)(ブラインドは別途工事)	
SB	スクリーンボックス D-16-9	
P.R.	ピクチャーレール 特記なきはD-16-10	
SS	シャッターレール	
J	アルミジョイナー ハット型 既製品 A-BE	
	軽量鉄骨壁下地 上階スラブ下まで	
	LGS,ALC壁開口 WxH / LGS,ALC壁開口 Φ	
G	天井内グラスウール敷込	
断	上階スラブ面断熱施工	
耐風	耐風圧チャンネルジョイント下地(1000Pa)	



4階天井伏図

天井開口リスト(4FL)			
室名	タイプ	下地補強	個数
EVホール1	E(150φ)		7
SK	RA・EA(300x300)	3-42-1	2
WC(女)	E(150φ)		12
	RA・EA(300x300)	3-42-1	3
	点検口(450x450)	3-42-2	1
WC(男)	E(150φ)		12
	RA・EA(300x300)	3-42-1	4
	点検口(450x450)	3-42-2	1
コンピュータ室	E(150φ)		2
	E(1260x250)	3-41-2	19
	RA・EA(300x300)	3-42-1	2
	RA・EA(700x700)	3-42-1	1
	RA・EA(800x500)	3-42-1	5
	スピーカー(250φ)		4
一次MDF室	E(1260x250)	3-41-2	2
	RA・EA(300x300)	3-42-1	1
	SA・OA(300x300)	3-42-1	1
	点検口(450x450)	3-42-2	1
仮眠室M1	E(150φ)		2
	RA・EA(300x300)	3-42-1	1
	SA・OA(300x300)	3-42-1	1
	スピーカー(250φ)		1
	室内機2方向(1000x650)	3-42-1	1
	点検口(450x450)	3-42-2	1
仮眠室M2	E(150φ)		2
	RA・EA(300x300)	3-42-1	1
	SA・OA(300x300)	3-42-1	1
	スピーカー(250φ)		1
	室内機2方向(1000x650)	3-42-1	1
	点検口(450x450)	3-42-2	1
仮眠室M3	E(150φ)		2
	RA・EA(300x300)	3-42-1	1
	SA・OA(300x300)	3-42-1	1
	スピーカー(250φ)		1
	室内機2方向(1000x650)	3-42-1	1
	点検口(450x450)	3-42-2	1
仮眠室M4	E(150φ)		2

天井開口リスト(4FL)			
室名	タイプ	下地補強	個数
仮眠室M4	RA・EA(300x300)	3-42-1	1
	SA・OA(300x300)	3-42-1	1
	スピーカー(250φ)		1
	室内機2方向(1000x650)	3-42-1	1
	点検口(450x450)	3-42-2	1
仮眠室M5	E(150φ)		2
	RA・EA(300x300)	3-42-1	1
	SA・OA(300x300)	3-42-1	1
	スピーカー(250φ)		1
	室内機2方向(1000x650)	3-42-1	1
	点検口(450x450)	3-42-2	1
仮眠室M6	E(150φ)		2
	RA・EA(300x300)	3-42-1	1
	SA・OA(300x300)	3-42-1	1
	スピーカー(250φ)		1
	室内機2方向(1000x650)	3-42-1	1
	点検口(450x450)	3-42-2	1
仮眠室M7	E(150φ)		2
	RA・EA(300x300)	3-42-1	1
	SA・OA(300x300)	3-42-1	1
	スピーカー(250φ)		1
	室内機2方向(1000x650)	3-42-1	1
	点検口(450x450)	3-42-2	1
仮眠室M8	E(150φ)		2
	RA・EA(300x300)	3-42-1	1
	SA・OA(300x300)	3-42-1	1
	スピーカー(250φ)		1
	室内機2方向(1000x650)	3-42-1	1
	点検口(450x450)	3-42-2	1
仮眠室M9	E(150φ)		2
	RA・EA(300x300)	3-42-1	1
	SA・OA(300x300)	3-42-1	1
	スピーカー(250φ)		1
	室内機2方向(1000x650)	3-42-1	1
	点検口(450x450)	3-42-2	1
仮眠室M10	E(150φ)		2

天井開口リスト(4FL)			
室名	タイプ	下地補強	個数
仮眠室M10	RA・EA(300x300)	3-42-1	1
	SA・OA(300x300)	3-42-1	1
	スピーカー(250φ)		1
	室内機2方向(1000x650)	3-42-1	1
	点検口(450x450)	3-42-2	1
仮眠室W1	E(150φ)		1
	RA・EA(300x300)	3-42-1	1
	SA・OA(300x300)	3-42-1	1
	スピーカー(250φ)		1
	室内機2方向(1000x650)	3-42-1	1
	点検口(450x450)	3-42-2	1
仮眠室W2	E(150φ)		2
	RA・EA(300x300)	3-42-1	1
	SA・OA(300x300)	3-42-1	1
	スピーカー(250φ)		1
	室内機2方向(1000x650)	3-42-1	1
	点検口(450x450)	3-42-2	1
会議室2(消防応援指揮支援本部)	E(150φ)		5
	E(1260x250)	3-41-2	20
	RA・EA(300x300)	3-42-1	2
	RA・EA(700x700)	3-42-1	1
	RA・EA(800x500)	3-42-1	5
	スピーカー(250φ)		4
作戦本部室(消防指令管制センター)	E(150φ)		8
	E(1260x250)	3-41-2	56
	RA・EA(300x300)	3-42-1	4
	SA・OA(300x300)	3-42-1	4
	スピーカー(250φ)		6
	点検口(450x450)	3-42-2	6
便所	E(150φ)		1
	RA・EA(300x300)	3-42-1	1
外来者打合室	E(150φ)		16
	RA・EA(300x300)	3-42-1	2
	SA・OA(300x300)	3-42-1	2
	スピーカー(250φ)		1
	室内機4方向(1000x1000)	3-42-1	1

天井開口リスト(4FL)			
室名	タイプ	下地補強	個数
外来者打合室	点検口(450x450)	3-42-2	3
女性用休憩室	E(150φ)		4
	RA・EA(300x300)	3-42-1	1
	SA・OA(300x300)	3-42-1	1
	スピーカー(250φ)		1
	室内機4方向(1000x1000)	3-42-1	1
廊下	E(150φ)		76
	RA・EA(300x300)	3-42-1	6
	SA・OA(300x300)	3-42-1	4
	スピーカー(250φ)		4
	点検口(450x450)	3-42-2	21
	点検口(660x600)	3-42-2	10
指令課事務室	BLS(2500x200)	3-42-1	4
	E(1260x250)	3-41-2	32
	RA・EA(300x300)	3-42-1	6
	SA・OA(300x300)	3-42-1	4
	スピーカー(250φ)		4
	室内機4方向(1000x1000)	3-42-1	4
指令課更衣室	E(150φ)		4
	RA・EA(300x300)	3-42-1	1
	SA・OA(300x300)	3-42-1	1
	スピーカー(250φ)		1
	室内機4方向(1000x1000)	3-42-1	1
	点検口(450x450)	3-42-2	1
指令課機材室	E(1260x250)	3-41-2	4
	RA・EA(300x300)	3-42-1	5
	SA・OA(300x300)	3-42-1	1
指令課湯沸室	E(1260x250)	3-41-2	1
	RA・EA(300x300)	3-42-1	1
	SA・OA(300x300)	3-42-1	1
	天井開口(900x600)		1
	点検口(450x450)	3-42-2	1
機材室	E(1260x250)	3-41-2	2
	室内機4方向(1000x1000)	3-42-1	1
	点検口(450x450)	3-42-2	2
洗面スペース	E(150φ)		9

天井開口リスト(4FL)			
室名	タイプ	下地補強	個数
洗面スペース	RA・EA(300x300)	3-42-1	2
消防指令管制センター	E(150φ)		8
	E(1260x250)	3-41-2	56
	RA・EA(300x300)	3-42-1	4
	SA・OA(300x300)	3-42-1	4
	スピーカー(250φ)		6
	点検口(450x450)	3-42-2	6
湯沸室	E(1260x250)	3-41-2	1
	RA・EA(300x300)	3-42-1	1
	点検口(450x450)	3-42-2	1
男性用休憩室	BLS(1000x200)	3-42-1	1
	E(1260x250)	3-41-2	2
	RA・EA(300x300)	3-42-1	2
	SA・OA(300x300)	3-42-1	1
	スピーカー(250φ)		1
	室内機4方向(1000x1000)	3-42-1	1
直流電源装置室	E(1260x250)	3-41-2	4
	RA・EA(300x300)	3-42-1	5
	SA・OA(300x300)	3-42-1	1
脱衣室1	E(150φ)		1
	RA・EA(300x300)	3-42-1	1
脱衣室2	E(150φ)		1
	RA・EA(300x300)	3-42-1	1
見学スペース1	E(150φ)		26
	スピーカー(250φ)		1
	点検口(450x450)	3-42-2	1
	点検口(600x600)	3-42-2	2
見学スペース2	E(150φ)		26
	スピーカー(250φ)		1
	点検口(450x450)	3-42-2	2
通路1	BLS(1000x200)	3-42-1	2
	E(150φ)		19
	RA・EA(300x300)	3-42-1	2
	スピーカー(250φ)		3
	点検口(450x450)	3-42-2	4
通路2	E(150φ)		5

天井開口リスト(4FL)			
室名	タイプ	下地補強	個数
通路2	RA・EA(300x300)	3-42-1	1
	点検口(450x450)	3-42-2	1
通路3	E(150φ)		8
	RA・EA(300x300)	3-42-1	1
	スピーカー(250φ)		1
	点検口(450x450)	3-42-2	1
階段1	E(150φ)		1
階段2	E(150φ)		1

改2013.01.22

安井・太陽設計共同体
管理建築士一級建築士第 129267号 高田 茂

新潟市建築部公共建築第1課

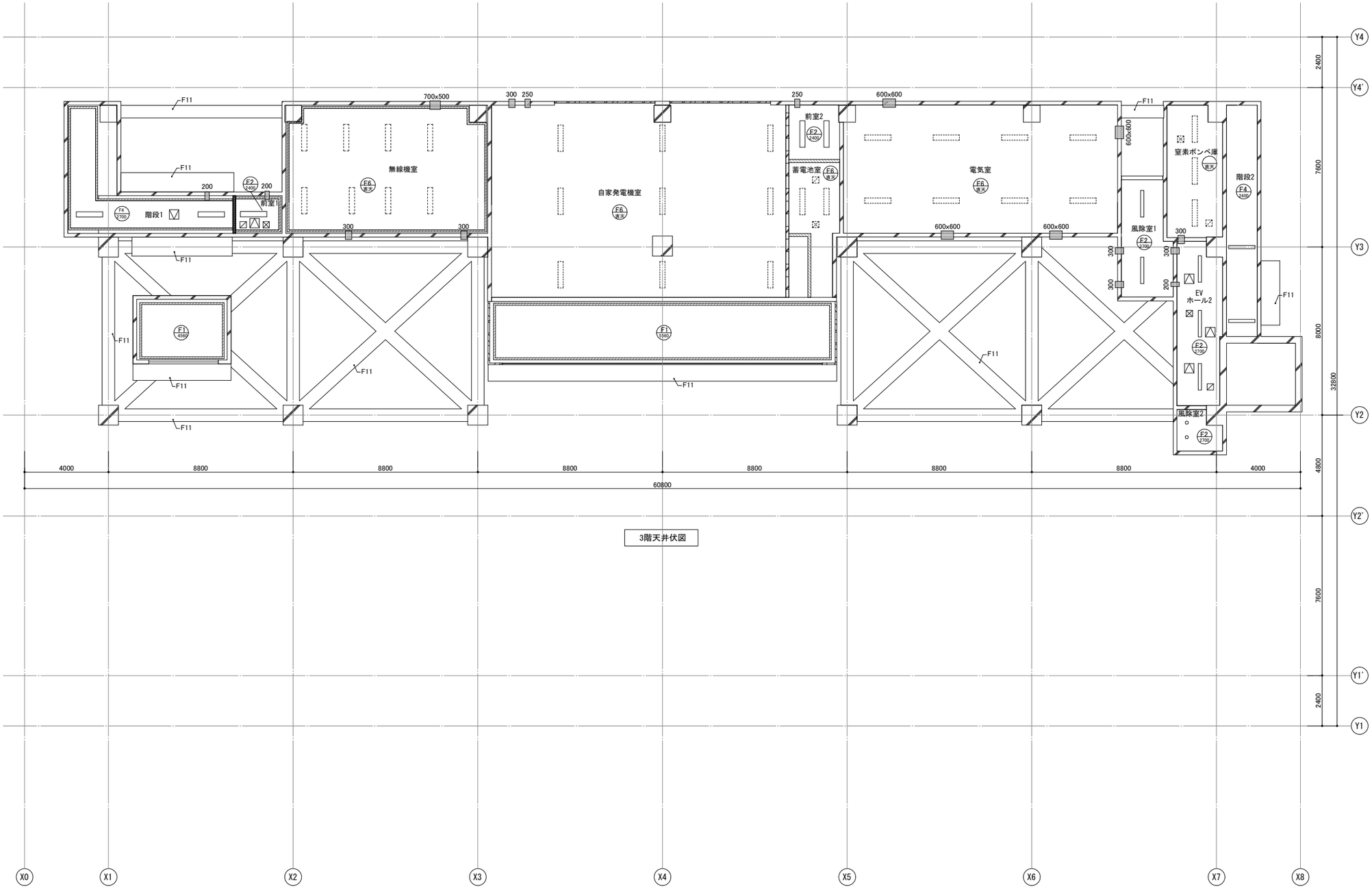
工事名
新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟建設工事

図 名 4階天井伏図

年 月 日 2013.01.22 | 縮 尺 A1:1/100 A3:1/200 | 図面番号 A-21

（凡例）

F00 / 0000	上段：天井仕上材 下段：天井高さ	
F1	GB-R・EP	
F2	GB-NC(T)	
F3	GB-D(W)	
F4 / F4*	DR	DR* （DR t12+GB-R t9.5）
F5	ケイカル板+EP-G	
F6	GW張り	
F7	浴室用天井	
F8	アルミ積層複合板	
F9	アルミスパンドレル（B）	
F10	アルミ額縁	
F11	RC(B) 2-FUE	
F12	RC(B)	
F13	アルミハニカム F-BE	
F14	鉄骨溶融亜鉛メッキ	
⊠ ⊗	天井開口SA,OA（大きさは開口リストによる）	
◪ ⊘	天井開口RA,EA（大きさは開口リストによる）	
BLS	天井開口ブリーズライン（大きさは開口リストによる）	
	エアコン室内機（4方向）1000x1000	
	エアコン室内機（2方向）1000x650	
○	天井開口E（大きさは開口リストによる）	
	スピーカー（φ250）	
	天井点検口（大きさは開口リストによる）	
BB	ブラインドボックス （3-31-1）（ブラインドは別途工事）	
SB	スクリーンボックス D-16-9	
P.R	ピクチャーレール 特記なきはD-16-10	
SS	シャッターレール	
J	アルミジョイナー ハット型 既製品 A-BE	
●	軽量鉄骨壁下地 上階スラブ下まで	
○○×○○ / ○○	LGS,ALC壁開口 WxH	LGS,ALC壁開口 Φ
G	天井内グラスウール敷込	
断	上階スラブ面断熱施工	
耐風	耐風圧チャンネルジョイント下地（1000Pa）	



3階天井伏図

天井開口リスト（5FL）

室名	タイプ	下地補強	個数
EVホール2	E（1260x150）	3-41-2	3
	RA・EA（300x300）	3-42-1	1
	SA・OA（300x300）	3-42-1	1
	点検口（450x450）	3-42-2	3
前室1	E（1260x250）	3-41-2	1
	RA・EA（300x300）	3-42-1	1
	SA・OA（300x300）	3-42-1	1
	点検口（450x450）	3-42-2	1
前室2	E（1260x250）	3-41-2	2
階段1	E（1260x250）	3-41-2	2
	点検口（450x450）	3-42-2	1
階段2	E（1260x150）	3-41-2	2
風除室1	E（1260x150）	3-41-2	2
風除室2	E（150φ）		2

2012.11.16

安井・太陽設計共同体

管理建築士一級建築士第 129267号 高田 茂

新潟市建築部公共建築第1課

工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟建設工事

図 名 5階天井伏図

年 月 日 2012.12.21

縮 尺 A1:1/100 A3:1/200

図面番号 A-22

建具表（共通事項）

■ 特記事項

A.アルミニウム製建具
1．建具の室内側枠は、アルミ若しくはスチール額縁クリップ止めとする。木額縁の場合は埋木にてビス止め部分を隠すこと。又は、アングルピース差し込みとする。
2．外部に面する建具の室外側下枠は、サッシ同材同仕上による水切り（2次排水）を設ける。
3．排水孔は最小8mm、原則として2個以上設ける。また風圧による逆流を防止のためバッフルを設ける。
4．寒冷地の排水は水箱による落下防止のために、室内側排水経路（設備ドレン管等）に接続するか十分な滞留部分を確保すること。
5．PC版に接する外部建具は2次シールガスケット方式とする。
6．外壁金属パネルは裏面に結露防止、雨音防止としてグライト t＝5.0吹付とする。耐火性能が必要な場合は、ロックウール吹付（耐火30分対応）とする。
7．アルミ材が異種金属材料やアルカリ性材料と接する場合は、接触腐食を防止する措置を適切に施すこと。
8．形式が引違、上げ下げ窓で、複層ガラスを使用する場合、枠見込は100mmする。

B.鋼製建具
1．防錆処理は、特記なき限り、内部はJISK5621（一般用さび止めペイント）、外部はJISK5625（シアナミド鉛さび止めペイント）、亜鉛めっき面はJISK5629（鉛酸カルシウムさび止めペイント）を使用する。
2．外部に面する扉はロックウール（150kg/m³品）充填とする。
~~3．PS、DSの点検口はA-T仕様とする。~~
4．機械室・発電機室等の通常運転を要する室の建具は、扉厚40mm以上（GW1.5KN/m²充填）遮音性能30−35dB（500Hz）、締付金物グレモン錠3点締、三方枠、沓摺、クロロプレンゴム入扉エッジ SUS304 t=1.5付きとする。
5．雨掛かり部分の扉外部上枠には、水切板（SUS304 厚1.5）を設ける。
6．外部建具、厨房、便所等水の掛かる扉および建具枠は下部300mmをステレス（SUS304 厚1.5）塗装仕上げとする。
7．手動引分戸（鋼製軽量建具）は閉鎖連動機構とする。
8．扉厚さは下表を参考とする。

扉大きさ	扉厚さ（mm）
3.0m²以上	45
5.0m²以上	50
5.0m²超	60

C.ステンレス製建具
1．HL・SSE・SSB・SSV仕上の場合は、合成樹脂塗料透明塗り（ツヤ消し・50μ以上）とする。

D.シャッター
1．外部シャッターには、はずれ止め装置を付けること。特に風当たりの強い箇所については強度計算を行い耐力を確かめること。
2．シャッターレール下部（床部分）は、ステンレスt=2.0以上にて塞ぐ。
3．シャッター付防火戸のオートヒンジ調整孔は見え掛りを避け、フサギ板を設ける。
4．シャッターと自動ドアが近接する場合は、各々のスイッチを同一のボックスに収納すること。

E.建具金物
1．建具金物の材質、仕上げ、機構は特記なき限り下表による。但し、見本品を提出の上、監督員の承諾を受けること。

種　類	材質、仕上、機構	備　考
丁番	ステンレス製ヘアライン仕上	
ピボットヒンジ	SS41鍛造又は亜鉛ダイキャスト 見え掛かり部分はステンレスカバー	
フロアヒンジ	フェースプレートは浅型隠ベイ型 内外共90度ストップ付 ディレイトアクション ラッチングアクション バックチェック閉扉速度調整装置付	
オートヒンジ	焼付塗装（指定色）	
ドアチェック	ディレイトアクション ラッチングアクション バックチェック閉扉速度調整装置付 アルミダイキャスト 焼付塗装（扉同色指定色）	
コンシールド型ドアチェック	スプリング油圧式、2段変速調整装置付 90度ストップ付（戸当り併用）	
錠前	シリンダー錠、バックセット75mm以上、マスターキー装置付	
握り玉	ステンレス製ヘアライン仕上 バックセット100m m、丸座100φ	
レバーハンドル	座板共ステンレス製ヘアライン仕上	
クレモンハンドル	ステンレス製ヘアライン仕上	
彫込式フランス落し	ステンレス製ヘアライン仕上	
戸当り	外部ステンレス製ヘアライン仕上ゴム付 内部ダルクローム床埋込型	

2．握り玉、レバーハンドル、押板類の取付位置は、（※FL＋1,000mm　・　）を標準とする。
3．窓専用建具には下記付属金物一式及びクレセントを含むものとする。色はサッシと同色とする。あおり止め、ストッパーは完全隠ぺい型とする。

形　式	種　類
片　開　き	丁番・締り・取手・あおり止め
両開き・親子開き	丁番・締り・取手・あおり止め・フランス落し
引違い・片引き	戸車・レール・締り
竪軸回転	ピボットヒンジ・締り・取手・あおり止め
横軸回転	ピボットヒンジ・締り・取手・アームストッパー
すべり出し	ピボットヒンジ・締り・取手・すべり出しアーム
突出し・内倒し・外倒し	丁番類・締り・取手・アームストッパー

4．外部に面する戸はドアチェックおよびあおり止めを設ける。
5．ドアチェックは室内側設置を原則とする。
6．ドアチェックは原則としてストッパー付とするが、防火戸の場合はストッパーなしとする。
7．親子及び両開き扉のドアチェックは原則として1ヶ所とするが、防火戸の場合は2ヶ所とし順位調整器付とする。
8．親子及び両開き扉は、フランス落し付、上下1ヶ所とする。
9．壁当りとなる扉にはドアチェックの有無に関わらず、全て戸当りを設ける。

10．上図のAは原則として150以上とする。

F.鍵
1．鍵はリバーシブルシリンダー、ティンブルキーとする。
2．シリンダー錠はアンチフリクション機構付とする。
3．鍵は必要により設備関係の鍵類も合わせて鍵整理保管箱に収容する。

G.ガラリ
1．原則として扉につくガラリは扉と同材同仕上とする。
2．外部に面するガラリには、ダクト接続有無に関わらずステンレス製防鳥網（SUS1.5φ 12×12）を設置する。
3．外部に面してダクトが接続されるガラリは接続枠付、水返し（ステンレス製（厚1.0以上）フラッシング）付とし、ダクトは板ゴムを会して取り付ける。また枠裏面（室内側）に結露防止材を施す。
4．外部ガラリは原則として2重ガラリ以上とする。

H.自然排煙窓
1．自然排煙窓のハンドル、オペレーター、クレセントの取付け高さはFL＋1,500mm以下とする。
2．排煙オペレーターは、ワンタッチ式もしくは煙感知器連動とし、オペレーターボックス、ケーブルは埋込、ダンパーは完全隠ぺイ式とする。
3．特記なき限り排煙オペレーターボックスは既製品とし、ボックス扉は特記仕様書による。

I.その他
1．トロ詰めモルタルは防水剤入り、無塩砂モルタルを使用する。
2．カまち戸ガラス面には衝突防止金物　SUS製鏡面仕上30φ @300を取付けること。

J.性能機能 JIS A4706（サッシ）及びJIS　A4702（ドアセット）

1.耐風圧性　　単位：Pa

等級	S−1	S−2	S−3	S−4	S−5	S−6	S−7
最大加圧圧力	800	1200	1600	2000	2400	2800	3600

2.気密性

等級	A−1	A−2	A−3	A−4
気密等級線	120等級線	30等級線	8等級線	2等級線

3.水密性　　単位：Pa

等級	W−1	W−2	W−3	W−4	W−5
圧力差	100	150	250	350	500

4.遮音性

等級	T−1	T−2	T−3	T−4
遮音性等級線	25等級線	30等級線	35等級線	40等級線

5.断熱性　　単位：m²・k/w

等級	H−1	H−2	H−3	H−4	H−5
熱貫流抵抗値	0.215	0.246	0.287	0.344	0.430

6.面内変形追随性　　単位：rad

等級	D−1	D−2	D−3
開放可能な面内変形角	1/300	1/150	1/120

7.層間変位
○印は下記性能を確保する。（H：階高）
1/300Hで各部異常なし。
1/150Hで破損脱落なし、防火性能確保。

外開き窓、外倒窓は開放角度45°以上とする。
排煙オペレータの位置は床面から0.8～1.5mの位置に設置する。

■ 建具種別

SD	鋼製扉	<追記> OS　オーバースライディングドア JW　樹脂製サッシ
LSD	軽量鋼製扉	
SSD	ステンレス製扉	
AD	アルミ製扉	
WD	木製扉	
SDW	鋼製複合扉	
SSDW	ステンレス製複合扉	
ADW	アルミ製複合扉	
SW	鋼製窓	
SSW	ステンレス製窓	
AW	アルミ製窓	
WW	木製窓	
SG	鋼製ガラリ	
SSG	ステンレス製ガラリ	
AG	アルミ製ガラリ	
WG	木製ガラリ	
SS	鋼製重量シャッター	
LSS	鋼製軽量シャッター	
RSS	グリルシャッター	
SSS	ステンレス製重量シャッター	
JD	和風建具（障子・襖）	
SF	三方枠（鋼製）	
SSF	三方枠（ステンレス製）	
SP	可動間仕切（パーティション）	

■ 仕上記号

B−1	無着色隠蔽艶化塗装（屋外）	<追記> OS　オイルステン ・他仕上記号は仕上表共通事項による。 2−FUE 常温乾燥型フッ素樹脂エナメル塗り
B−2	着色隠蔽艶化塗装（屋外）	
C−1	無着色隠蔽艶化塗装（屋内）	
C−2	着色隠蔽艶化塗装（屋内）	
SOP	合成樹脂調合ペイント	
FE	フタル酸樹脂エナメル	
VE	塩化ビニール樹脂エナメル	
EP	合成樹脂エマルジョンペイント	
CL	クリヤラッカー塗り	
HL	ヘアライン仕上	
SSE	エッチング仕上	
SSV	バイブレーション仕上	
SSM	鏡面仕上（＃800以上）	
SSB	ショットブラスト仕上	
BC	硫化イブシ仕上	
A−BE	アクリル樹脂焼付	
F−BE	フッソ樹脂焼付	
U−BE	ウレタン樹脂焼付	
M−BE	メラミン樹脂焼付	
NS	粘着剤付シート貼り	

■ 形式記号

引	引違窓	<追記> 折戸　折戸 縦回　縦軸回転窓 横回　横軸回転窓
片	片引窓・片開戸	
ハメ	ハメ殺し窓	
回	回転窓	
開	開き窓	
上	上り出し窓	
内	内倒窓	
外	外倒窓	
上	上げ下げ窓	
突	突出窓	
親	親子扉	
両	両開戸	
片引	片引戸	
引分	引分戸	
引違	引違戸	
枠	三方枠	
く	くぐり戸付	
ラ	ランマ付	
袖	袖付	
框	框戸	
フ	両面フラッシュ	

■ 材質記号

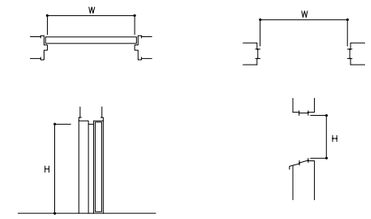
ST	鋼（スチール）
AL	アルミニウム
SUS	ステンレス
W	木

■ 性能記号

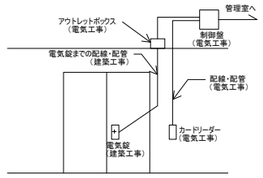
AT　気密性サッシ・ドアセット
（気密性　※A−4　・A−　）
SAT　簡易気密性ドアセット（気密性　※A−3　・A−　）
PAT　防音型ドアセット　（気密性　※A−4以上、扉内ロックウール（150kg/m³）充填、多点締りクレモン錠）

防音　防音型サッシ　（遮音性　・T−　）
断熱　断熱型サッシ・ドアセット
（断熱性　・H−　気密性　・A−　）
耐震　耐震ドアセット　（面内変形追随性　・D−　）

■ 内法寸法規定



■ 電気錠の設備工事と区分

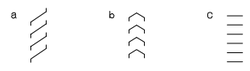


建築工事：電気錠（通電金物を含む）、電気錠からアウトレットボックス（別途）までの配線・配管（個別タイプはテンキーとも建築工事）
別途工事：アウトレットボックス以降（カードリーダー含む）

■ ガラス種別記号

PSG	フロート板ガラス
FG	型板ガラス
PWG	網入磨板ガラス
FWG	網入型板ガラス
PAG	合わせガラス
TG	強化ガラス　（飛散防止フィルム張）
HS	低強度ガラス
HG	熱線吸収ガラス
HWG	熱線吸収網入ガラス
MG	熱線反射ガラス
HMG	高性能熱線反射ガラス
WG	複層ガラス（空気層厚）（PSG＋A空気層厚＋PSG）
PGT	ガラスティッシュ入合わせガラス
GB	ガラスブロック
BHG	防犯ガラス
耐熱G	耐熱ガラス
耐熱TG	耐熱強化ガラス
低反G	低反射ガラス
<追記>	
WGe	Low−e複層ガラス（Low−e＋A空気層厚＋PSG）
WGe網	Low−e複層ガラス（Low−e＋A空気層厚＋PWG）
WG網	PSG＋A空気層厚＋PWG

■ ドアガラリ形状記号

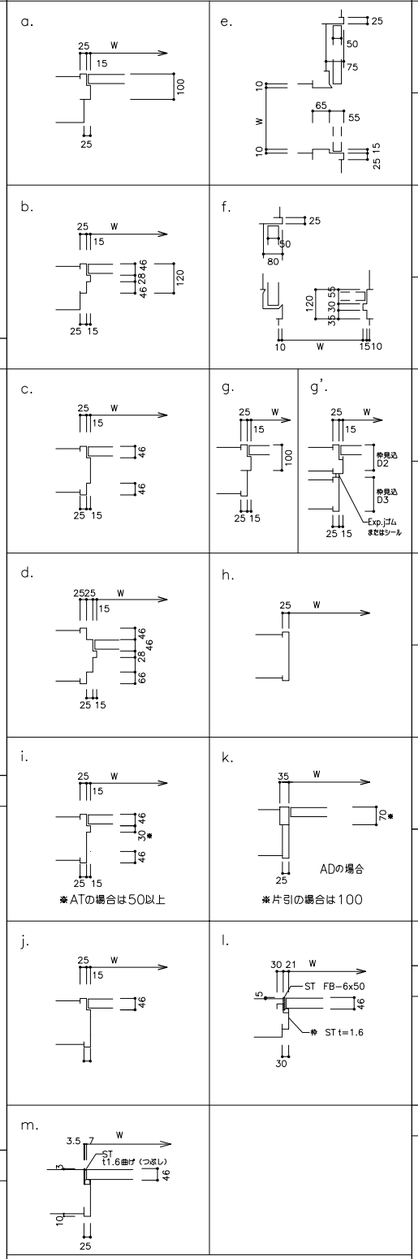


（開口率35%）　（開口率35%）

■ 防火性能記号

特	特定防火設備　（防火防煙）
防	防火設備（法2条9号の2）
不	不燃戸
<追記>	
（特）	特定防火設備相当（非防火区画、自主設置）（防火防煙）

■ 枠形状記号 ＜寸法は参考とする＞



枠見込寸法記号

D1	100mm以下	D3	201～300
D2	101～200	D4	301～400
		D5	401mm以上

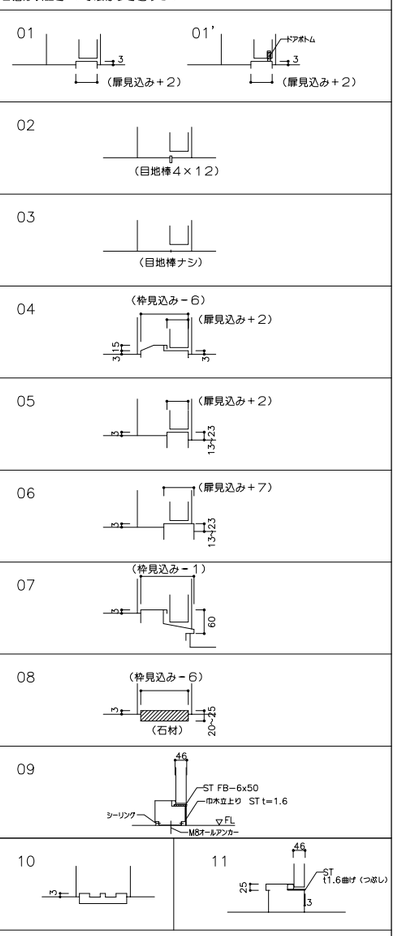
■ 建具金物［支持金物］記号

FH	フロアヒンジ
AH	オートヒンジ
PH	ピボットヒンジ
H	丁番
DH	自由丁番
HR	ハンガーレール
軸H	軸吊ヒンジ
隠H	隠し丁番

■ 建具金物［操作金物］記号

KN	握り玉
LH	レバーハンドル
HP	押棒・押板・引手
CH	ケースハンドル
FP	彫込引手（シリンダー錠カバー付）
OP	オペレーター
GH	クレモンハンドル
CR	クレセント
PP	プッシュプル開閉金物

■ 省略形状記号 ＜寸法は参考とする＞



特記なき限り、SUS（304）　t=2　HLとする

■ 建具金物［開閉金物］記号

DC	ドアチェック
DC（F）	ドアチェック（ヒューズ付）
DC（C）	コンシールド型ドアチェック
FR	フランス落し
AS	アームストッパー
DS	戸当り

■ 建具金物［施錠金物］記号

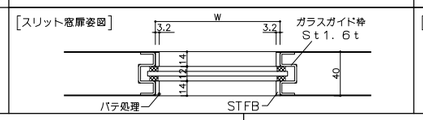
本	本締錠
ケ	ケースロック
モ	モノロック
鍵	シリンダー鍵錠
非	非常錠
電	電気錠
ク	クレモン錠
ホ	ホテルロック
分	分電盤錠

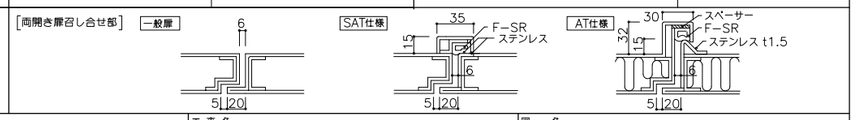
■ 建具金物［施錠機構］記号

両	両面シリンダー
片	片面シリンダー　片面サムターン
空	空錠
片ソ	片面シリンダー　片面空錠
非	非常カバー付
表	表示付きサムターン（非常時外部からの開閉機構付）
外	外付開装置付（消防用）

■ 室名表示記号

切	切抜貼
プ	プロセス印刷





2013.01.22

安井・太陽設計共同体
管理建築士一級建築士第129267号　高田　茂

新潟市建築部公共建築第1課

工事名	新潟市消防局・中央消防署庁舎　庁舎棟建設工事	図名	建具表（共通事項）
年月日 2013.03.01	縮尺 A1:1/−、A3:1/−	図面番号	A-23

種別	建具番号	取付位置	形式記号	姿図番号	数量	建具(可動部分) 見込寸法	材質	仕上	枠 形状記号	寸法 内法寸法W	内法寸法H	見込寸法T	材質	仕上	内部額縁(枠と別材の場合、表示する) 寸法	材質	仕上	沓摺膳板 形状記号	材質	仕上	ガラス 種別	厚さ	ドアガラリ 形状記号	材質	仕上	寸法W	寸法H	性能 性能記号	防火性能記号	耐風圧性	気密性	水密性	遮音性	断熱性	面内変形追随性	装置 煙感連動装置	ヒューズ装置	手動開放装置	自動ドア装置	建具金物 支持金物	操作金物	開閉金物	施錠金物	施錠機構	網戸	室名表示	備考
LSD	01	仮眠室(1階、2階、4階)	片引	29	39	40	ST	SOP	h	800	2100	D2	ST	SOP				01	SUS	HL	FG	6																	HR	HP	−	鎌	片表			換気窓付き、自閉操作付、ストッパー付
SD	01	仮眠室通路(1階、2階、4階)	片引	30	7	40	ST	SOP	h	1200	2100	D2	ST	SOP				01	SUS	HL	PSG	6																	HR	HP	−	電・鎌	片ソ			テンキー、換気窓付き、自閉操作付
SD	02	仮眠室通路(1階)	片引	30	3	40	ST	SOP	h	1100	2100	D2	ST	SOP				01	SUS	HL	PSG	6																	HR	HP	−	電・鎌	片ソ			テンキー、換気窓付き、自閉操作付
SD	03	PS、EPS(1階)、	片	10	2	40	ST	SOP	m	900	2000	D2	ST	SOP				11	ST	SOP																			隠H	FP	DC	本	片ソ			片面フラッシュ
SD	03a	PS、EPS(2～4階)	片	10	21	40	ST	SOP	m	900	2040	D2	ST	SOP				11	ST	SOP																			隠H	FP	DC	本	片ソ			片面フラッシュ
SD	03b	PS(3,4階)	片	10	3	40	ST	SOP	m	900	2040	D2	ST	SOP				11	ST	SOP									特										隠H	FP	DC	本	片ソ			片面フラッシュ
SD	04a	PS(2～4階)	片	34	14	40	ST	SOP	m	600	600	D2	ST	SOP				11	ST	SOP																			隠H	FP	DC	本	片ソ			片面フラッシュ
SD	04b	PS(3～4階)	片	34	4	40	ST	SOP	m	600	600	D2	ST	SOP				11	ST	SOP									特										隠H	FP	DC	本	片ソ			片面フラッシュ
SD	05	PS(1階)	片	10	2	40	ST	SOP	m	600	2000	D2	ST	SOP				11	ST	SOP																			隠H	FP	DC	本	片ソ			片面フラッシュ
SD	05a	PS(2～4階)	片	10	12	40	ST	SOP	m	600	2040	D2	ST	SOP				11	ST	SOP																			隠H	FP	DC	本	片ソ			片面フラッシュ
SD	06	PS⑧(1階).DS①②(2～4階)	片	34	7	20	ST	SOP	a	600	600	D1	ST	SOP				四方枠	ST	SOP									特										軸H	−	−	−	−			既製品点検口、ワンタッチ平面ハンドル付(錠付、片面フラッシュ)
SD	07	SK(1階)	片	09	2	40	ST	SOP	l	600	2100	D2	ST	SOP				01	SUS	HL			b	ST	SOP	400	200												軸H	FP	DC	本	片ソ			ガラリ有効 0.015㎡
SD	07b	SK(2～4階)	片	09	6	40	ST	SOP	l	600	2100	D2	ST	SOP				01	SUS	HL			b	ST	SOP	400	200												軸H	FP	DC	本	片ソ			ガラリ有効 0.015㎡
SD	08	1階多目的WC	片引	26	1	40	ST	SOP	h	950	2100	D2	ST	SOP				02	SUS	HL	FG	6	b	ST	SOP	750	250												HR	HP	−	鎌	片表			扉開口有効W850以上、ガラリ有効 0.050㎡
SD	09a	1階洗濯室	片引	26	1	40	ST	SOP	h	800	2100	D2	ST	SOP				01	SUS	HL	PSG	6	b	ST	SOP	600	400												HR	HP	−	鎌	片			ガラリ有効 0.070㎡
SD	09b	3階男性用更衣室、女性更衣室	片引	25	3	40	ST	SOP	h	900	2100	D2	ST	SOP				01	SUS	HL	FG	6																	HR	HP	−	鎌	片			
SD	10	1階救急備品庫	片引	24	1	40	ST	SOP	h	900	2100	D2	ST	SOP				01	SUS	HL																			HR	HP	−	鎌	片ソ			
SD	11	1階酸素ボンベ庫	片	01	1	40	ST	SOP	i	900	2100	D2	ST	SOP				01	SUS	HL									特										H	LH	DC・DS	本	片ソ			常時閉鎖式特定防火設備
SD	12	1階油庫	片	01	1	40	ST	SOP	i	900	2100	D2	ST	SOP				01	SUS	HL									特										H	LH	DC	本	片ソ			常時閉鎖式特定防火設備
SD	13	1階空気充填室	片	01	1	40	ST	SOP	i	1100	2100	D2	ST	SOP				01	SUS	HL									特										H	LH	DC・DS	本	片ソ			常時閉鎖式特定防火設備
SD	14	1階車庫(EVホール2)	両	16	1	40	ST	SOP	i	1800	2100	D2	ST	SOP				01'	SUS	HL								SAT	特		A−3		T−2						H	LH	DC・DS・FR	電・鎌・ホ	片			常時閉鎖式特定防火設備 テンキー ドアボトム機構 EVホール2からは鍵無しで出動し車庫からはテンキーで入室、可動部内部グラスウール充填
SD	15	1階防火衣着装室	両	17	2	40	ST	SOP	i	1800	2100	D2	ST	SOP				01'	SUS	HL	耐熱TG	8						SAT	特		A−3		T−2						H	PP	DC・FR	電・本・ホ	片			常時閉鎖式特定防火設備 テンキー ドアボトム機構 防火衣着装室からは鍵無しで出動し車庫からはテンキーで入室、可動部内部グラスウール充填
SD	16	1階乾燥室	片	01	1	40	ST	SOP	i	900	2100	D3	ST	SOP				01'	SUS	HL								SAT	特		A−3		T−2						H	LH	DC	本	片			常時閉鎖式特定防火設備 ドアボトム機構、可動部内部グラスウール充填
SD	17	1階WC(男)2・(女)2(車庫)	片	06	2	40	ST	SOP	i	800	2100	D2	ST	SOP				01	SUS	HL	PWG	6.8	b	ST	SOP	600	200		不										PH	LH	DC	本	表			ガラリ有効 0.015㎡
SD	18	1階PS⑩	片	10	1	40	ST	SOP	l	600	2000	D2	ST	SOP				09	SUS	HL																			軸H	LH	DC	本	片ソ			
SD	18a	1階EPS	片	10	1	40	ST	SOP	l	600	2000	D2	ST	SOP				09	SUS	HL									特										軸H	LH	DC	本	片ソ			
SD	19a	1階ポンプ室、消火ポンプ室	両	16	2	40	ST	SOP	l	1800	2100	D2	ST	SOP				04	SUS	HL								SAT	防		A−3		T−2						軸H	LH・DS・FR	DC	本	片ソ			可動部内部GW充填
SD	19b	4階空調機械室5～8	両	20	8	40	ST	SOP	m	1800	2040	D2	ST	SOP				11	ST	SOP								SAT			A−3		T−2						隠H	LH	DC・FR	本	片ソ			可動部内部GW充填
SD	19c	4階空調機械室1～4	両	20	6	40	ST	SOP	m	1800	2040	D2	ST	SOP				11	ST	SOP								SAT	(特)		A−3		T−2						隠H	LH	DC・FR	本	片ソ			可動部内部GW充填
SD	20	1階中央消防署事務室	片	02	2	40	ST	SOP	i	900	2100	D2	ST	SOP				01	SUS	HL	PSG	6																	PH	LH	DC・DS	本	片			
SD	21	1階署長室、/3階局長室	片	02	3	40	ST	SOP	i	900	2100	D2	ST	SOP				01'	SUS	HL	PSG	6						SAT			A−3		T−2						PH	LH	DC・DS	本	片			ドアボトム機構 可動部内部GW充填
SD	22	1階倉庫	片	01	1	40	ST	SOP	l	600	2100	D2	ST	SOP				01	SUS	HL																			軸H	GH	DC	本	片ソ			
SD	23	1階階段1,2	片・く	31	2	50	ST	SOP	f	1360	2100	D2	ST	SOP				01	SUS	HL									特								○	○		FH	CH						消防用ホース通過孔付き
SD	24	階段1(1階)(管理用扉)	片・框・ラ	14	1	50	ST	SOP	e	1250	3000	D2	ST	SOP				01	SUS	HL	TG	6																	AH	LH	DC・DS	−	−			飛散防止フィルム張 常時開用 欄間隠蔽式排煙オペレーター
SD	25	1階前室、リネン庫1、リネン庫2	片	01	3	40	ST	SOP	i	900	2100	D2	ST	SOP				01	SUS	HL									不										PH	PP	DC・DS	本	片			
SD	25a	2階倉庫1	片	04	1	40	ST	SOP	i	900	2100	D2	ST	SOP				01	SUS	HL			b	ST	SOP	600	200												PH	LH	DC	本	片			ガラリ有効 0.015㎡
SD	25b	2階清掃用具庫、消耗品倉庫	片	04	2	40	ST	SOP	i	900	2100	D2	ST	SOP				01	SUS	HL			b	ST	SOP	600	200												PH	LH	DC	本	片			ガラリ有効 0.025㎡
SD	26a	1階機械室	片	01	1	40	ST	SOP	i	900	2100	D2	ST	SOP				01	SUS	HL																			H	LH	DC	本	片			可動部内部GW充填
SD	26b	2階電気開閉器盤室、受水槽室	片	01	2	40	ST	SOP	i	900	2100	D2	ST	SOP				04	SUS	HL								SAT	特		A−3		T−2						H	LH	DC	本	片ソ			常時閉鎖式特定防火設備 可動部内部GW充填
SD	27	階段1(1階)	片	01	1	40	ST	SOP	i	800	2100	D2	ST	SOP				01	SUS	HL									特										H	LH	DC	本	片			常時閉鎖式特定防火設備
SD	28	1階廊下1	両・框・ラ	22	1	40	ST	SOP	i	1600	3000	D2	ST	SOP				01	SUS	HL	TG	6														○ 欄間				H	PP	DC・DS・FR	本	片			飛散防止フィルム張 欄間隠蔽式排煙オペレーター
SD	29	1階階段3	片	31	1	50	ST	SOP	f	1000	2100	D2	ST	SOP				01	SUS	HL									特								○			AH	FP	−	−	−			随時閉鎖式特定防火設備
SD	30	1階階段3(管理用扉)	片・ラ	15	1	40	ST	SOP	i	1000	3000	D2	ST	SOP				01	SUS	HL	TG	6																	H	PP	DC	−	−			飛散防止フィルム張 常時開用 欄間隠蔽式排煙オペレーター
SD	31	1階防火衣着装室	片引・ラ	28	2	55	ST	SOP	h	1250	2100	D2	ST	SOP				01	SUS	HL	PWG	6.8							特										HR	HP	DC	本	片			常時閉鎖式特定防火設備 飛散防止フィルム貼 H1000までステンレスパネル上張(両面) ガラス850x800、可動部内部GW充填
SD	32	1階乾燥室	片	02	1	40	ST	SOP	i	900	2100	D2	ST	SOP				01	SUS	HL	PSG	6																	H	LH	DC・DS	本	片			
SD	32a	1階洗濯乾燥室	片	05	1	40	ST	SOP	i	900	2100	D2	ST	SOP				01	SUS	HL	PSG	6	b	ST	SOP	700	200												H	LH	DC・DS	本	片			ガラリ有効 0.035㎡
SD	32b	1階男性浴室前室	片	05	1	40	ST	SOP	i	900	2100	D2	ST	SOP				01	SUS	HL	PSG	6	b	ST	SOP	700	400		不										H	LH	DC・DS	本	片			飛散防止フィルム張 ガラリ有効 0.070㎡
SD	32c	1階女性用仮眠室脱衣室、洗濯室(女)	片	06	2	40	ST	SOP	i	900	2100	D2	ST	SOP				01	SUS	HL	PSG	6	b	ST	SOP	700	200		不										H	LH	DC・DS	本	片			ガラリ有効 0.015㎡
SD	32d	1階WC(女)3	片	06	1	40	ST	SOP	i	700	2100	D4	ST	SOP				01	SUS	HL	FG	6	b	ST	SOP	500	200		不										PH	LH	DC・DS	本	片			ガラリ有効 0.015㎡
SD	33	1階洗面スペース1(物入)	片	01	1	40	ST	SOP	i	450	2100	D2	ST	SOP				01	SUS	HL																			軸H	FP	DC・DS	本	片ソ			
SD	35	1階EPS②	両	23	1	40	ST	SOP	m	2600	2000	D2	ST	SOP				11	ST	SOP																			隠H	FP	DC・FR	本	片ソ			W2600(1200+200+1200)、片面フラッシュ
SD	36	1階中央消防署事務室	片	02	1	40	ST	SOP	i	900	2100	D2	ST	SOP				01	SUS	HL	PSG	6																	PH	PP	DC・DS	本	片			
SD	38	階段2(1階)(管理用扉)	片・框・ラ	15	1	50	ST	SOP	f	1300	3000	D2	ST	SOP				01	SUS	HL	TG	6														○ 欄間				H	PP	DC・DS	−	−			飛散防止フィルム張 常時開用 欄間隠蔽式排煙オペレーター
SD	39	1階資機材庫	両	16	1	40	ST	SOP	i	1800	2100	D2	ST	SOP				01	SUS	HL																			H	LH	DC・FR	本	片ソ			
SD	40	1階EPS⑤	両	23	1	40	ST	SOP	i	3400	1800	D2	ST	SOP				04	SUS	HL								SAT	特		A−3		T−2						PH	LH	DC・FR	本	片ソ			常時閉鎖式特定防火設備 可動部内部GW充填 W3400(1600+200+1600)
SD	42	2～4階PS⑪⑫	片	10	5	40	ST	SOP	m	450	2040	D2	ST	SOP				11	ST	SOP																			隠H	FP	DC	本	片ソ			片面フラッシュ
SD	43	2階書庫、資機材庫(局・署兼用)	両	16	3	40	ST	SOP	i	1800	2100	D2	ST	SOP				01	SUS	HL									特										H	LH	DC・FR	本	片			常時閉鎖式特定防火設備
SD	44	2階倉庫(楽器庫)、倉庫(中央消防署)、食料備蓄庫、救急用備品庫、/4階機材室	両	16	5	40	ST	SOP	i	1800	2100	D2	ST	SOP				01	SUS	HL																			H	LH	DC・FR	本	片			

改2013.01.22

一級建築士 国土交通大臣登録 第269262号 楠木 賢一

安井・太陽設計共同体
管理建築士一級建築士第 129267号 高田 茂

新潟市建築部公共建築第1課

工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟建設工事

図名 建具表(1)

計通−A−33

年月日 2013.03.02 | 縮尺 | 図面番号 A−24

種別	建具番号	取付位置	形式記号	姿図番号	数量	建具(可動部分) 見込寸法	材質	仕上	枠 形状記号	寸法 内法寸法W	内法寸法H	見込寸法T	材質	仕上	内部額縁(枠と別材の場合、表示する) 寸法	材質	仕上	沓摺膳板 形状記号	材質	仕上	ガラス 種別	厚さ	ドアガラリ 形状記号	材質	仕上	寸法W	寸法H	性能 性能記号	防火性能記号	耐風圧性S	気密性A	水密性W	遮音性T	断熱性H	面内変形追随性D	装置 煙感連動装置	ヒューズ装置	手動開放装置	自動ドア装置	建具金物 支持金物	操作金物	開閉金物	施錠金物	施錠機構	網戸	室名表示	備考
SD	45	2階書庫	片	01	1	40	ST	SOP	i	900	2100	D2	ST	SOP				01	SUS	HL									特										H	LH	DC	本	片			常時閉鎖式特定防火設備
SD	46	2階印刷室	片	02	2	40	ST	SOP	i	900	2100	D2	ST	SOP				01	SUS	HL	PSG	6																	H	LH	DC・DS	本	片			
SD	46a	2階女性用休憩室、男性用休憩室	片	02	2	40	ST	SOP	i	900	2100	D2	ST	SOP				01	SUS	HL	PSG	6							不										H	LH	DC・DS	本	片			
SD	46b	2階通路1、男性用更衣室	片	02	2	40	ST	SOP	i	900	2100	D2	ST	SOP				01	SUS	HL	PSG	6							不										H	LH	DC・DS	電・本	片			テンキー、飛散防止フィルム張
SD	47	2階トレーニングルーム	両	17	1	40	ST	SOP	i	1800	2100	D2	ST	SOP				01'	SUS	HL	PSG	6						SAT			A-3		T-2						H	LH	DC・FR	本	片			可動部内部GW充填、ドアボトム機構
SD	48	2階食堂	両・框	21	1	40	ST	SOP	i	1800	2100	D2	ST	SOP				01	SUS	HL	TG	6																	H	LH	DC・DS・FR	本	片			飛散防止フィルム張
SD	49	2階鑑識・鑑定室、厨房	両	18	2	40	ST	SOP	i	1800	2100	D2	ST	SOP				01	SUS	HL	PSG	6																	H	LH	DC	本	片			H300までSUS巾木(両面)
SD	50	2階応急救護訓練室、食堂、通路1、トレーニングルーム、通路2、 /3階消防局事務室、局長室、講堂、通路2、/4階指令課事務室	片	33	17	40	ST	SOP	m	250	1000	D2	ST	SOP				四方枠	ST	SOP																			隠H	FP	AS	本	片ソ			通気用小窓
SD	50a	2階応急救護訓練室	片	33	2	70	ST	EP-G	g'	250	1000		ST	SOP				四方枠	ST	SOP								AT			A-4		T-4						軸H	FP	AS	本	片ソ			通気用小窓、 グラスウール充填(80kg/㎥)、ドアボトム機構
SD	50b	3階講堂前室1～4	片	33	8	40	ST	講堂側建具 EP-G 廊下側建具 SOP	i	250	1000	講堂側D2 廊下側D3	ST	SOP				四方枠	ST	SOP								SAT			A-3		T-2						軸H	FP	AS	本	片ソ			通気用小窓、可動部内部GW充填、ドアボトム機構
SD	51	2階倉庫(消防局)	両	16	1	40	ST	SOP	i	1500	2100	D2	ST	SOP				01	SUS	HL																			H	LH	DC・DS・FR	本	片			
SD	52	2階鑑識・鑑定室、厨房	片	03	2	40	ST	SOP	i	900	2100	D2	ST	SOP				01	SUS	HL	PSG	6																	H	LH	DC・DS	本	片			H300までSUS巾木(両面)
SD	53	2階受水槽室	両	16	1	40	ST	SOP	i	1800	2100	D2	ST	SOP				04	SUS	HL								SAT											H	GH	DC・FR	グ?	片ソ			可動部内部GW充填
SD	54	2階応急救護訓練室	片	02	2	40	ST	室内側建具EP-G 廊下側建具SOP	g	900	2100	D2・D3	ST	SOP				01'	SUS	HL	PSG	12						SAT			A-3		T-3						H	LH	DC	本	片			可動部内部GW充填 ドアボトム機構 エキスパンションジョイントゴムまたはシール
SD	55a	2階応急救護訓練室(前室1・2)	両	17	2	40	ST	EP-G	g	1800	2100	D2	ST	SOP				01'	SUS	HL	PSG	12						SAT			A-3		T-2						H	LH	DC・DS・FR	本	片			可動部内部GW充填 ドアボトム機構
SD	55b	2階応急救護訓練室(前室1・2)	両	17	2	40	ST	SOP	g	1800	2100	D3	ST	SOP				01'	SUS	HL	PSG	12						SAT			A-3		T-3						H	LH	DC・DS・FR	本	片			可動部内部GW充填 ドアボトム機構
SD	56	階段1(2～4階)	折戸	32	3	50	ST	SOP	f	2395	2100	D2	ST	SOP				01	SUS	HL									特							○				AH	FP	－	－	－			随時閉鎖式特定防火設備、 3枚折戸、消防用ホース通過孔付き
SD	57	階段2(2～4階)	折戸	32	3	50	ST	SOP	f	2395	2100	D2	ST	SOP				01	SUS	HL									特							○				AH	FP	－	－	－			随時閉鎖式特定防火設備 3枚折戸、消防用ホース通過孔付き
SD	58	2階ガバナー室	片	16	1	40	ST	SOP	i	900	2100	D2	ST	SOP				01	SUS	HL									特										PH	LH	DC・DS・FR	本	片			常時閉鎖式特定防火設備 可動部内部GW充填
SD	59	ホースタワー室(2階、3階)	片	01	2	40	ST	SOP	i	600	2100	D3	ST	SOP				04	SUS	HL								SAT	特		A-3								H	LH	DC	本	片ソ			常時閉鎖式特定防火設備 可動部内部GW充填
SD	60	2階廊下1(廊下2)	折戸・く	30	1	50	ST	SOP	f	1800	2100	D2	ST	SOP				01	SUS	HL									特							○	○			AH	CH	－	－	－			随時閉鎖式特定防火設備 くぐり戸w750h1800、 2枚折戸
SD	61	2階廊下1(階段3)	両	図示	2	50	ST	SOP	e	1800	2700	D2	ST	SOP				01	SUS	HL									特							○	○			AH	CH	－	－	－			随時閉鎖式特定防火設備
SD	62	3階講堂前室1～4	両	17	8	40	ST	講堂側建具EP-G 廊下側建具SOP	i	1600	2100	講堂側D2 廊下側D3	ST	SOP				01'	SUS	HL	PSG	12						SAT			A-3		T-2						PH	LH	DC・DS・FR	本	片			可動部内部GW充填 ドアボトム機構
SD	63	3階講堂(講堂倉庫)	両	19	2	40	ST	EP-G	l	1800	2100	D2	ST	SOP				01'	SUS	HL								SAT			A-3		T-2						PH	FP	DC・FR	本	片ソ			可動部内部GW充填 ドアボトム機構
SD	63a	2階応急救護訓練室(倉庫2、3)	両	19	2	40	ST	EP-G	l	1700	2100	D2	ST	SOP				02	SUS	HL																			軸H	FP	DC・FR	本	片ソ			可動部内部GW充填 アンダーカット20mm アンダーカット有効 0.030/0.015㎡
SD	63b	3階講堂(収納2)	両	19	2	40	ST	EP-G	l	1650	2100	D2	ST	SOP				02	SUS	HL																			軸H	FP	DC・FR	本	片ソ			可動部内部GW充填 アンダーカット15mm アンダーカット有効 0.020/0.010㎡
SD	64	3階講堂(収納1、3、4)	片	07	3	40	ST	EP-G	l	780	2100	D2	ST	SOP				02	SUS	HL																			軸H	FP	DC	本	片ソ			可動部内部GW充填 アンダーカット15mm
SD	65	3階防火衣収納室(男性・女性)、 /4階男性用仮眠室通路1	片引	27	3	40	ST	SOP	h	1200	2100	D2	ST	SOP				01	SUS	HL	PSG	6																	HR	HP	－	錄	片			自閉機構付、ストッパー付
SD	65a	4階指令課湯沸室	片引	26	1	40	ST	SOP	h	1200	2100	D2	ST	SOP				01	SUS	HL	PSG	6	b	ST	SOP	900	300												HR	HP	－	錄	片			自閉機構付、ストッパー付 ガラリ有効 0.070㎡
SD	66	3階外来者打合室(プライバシー保護)	片	02	1	40	ST	SOP	i	900	2100	D2	ST	SOP				01'	SUS	HL	PSG	6						SAT			A-3		T-2						PH	LH	DC・DS	本	片			可動部内部GW充填 ドアボトム機構
SD	67	3階通路1、通路2	片・框	13	2	40	ST	SOP	i	900	2100	D2	ST	SOP				01	SUS	HL	耐熱TG	5							特										PH	LH	DC	電・本	片			常時閉鎖式特定防火設備 テンキー、飛散防止フィルム張
SD	68	3階消防局事務室	両・框	21	5	40	ST	SOP	i	1800	2100	D2	ST	SOP				01	SUS	HL	TG	6																	PH	LH	DC・DS・FR	本	片			飛散防止フィルム張
SD	69a	4階直流電源装置室、指令課機材室、	両	16	2	40	ST	SOP	i	1600	2100	D2	ST	SOP				01	SUS	HL									(特)	S-2									PH	LH	DC・DS・FR	本	片			常時閉鎖式特定防火設備相当 可動部内部GW充填
SD	69b	4階消防指令管制センター、作戦本部室	両・框	21	2	40	ST	SOP	i	1600	2100	D2	ST	SOP				01	SUS	HL	耐熱TG	5							(特)										PH	LH	DC・DS・FR	電・本	片			常時閉鎖式特定防火設備相当 可動部内部GW充填 生態認証システム(作戦本部室の電気錠、生態認証システムは将来対応可能としておく)、飛散防止フィルム張
SD	70a	4階コンピュータ室、会議室2(消防応援指揮支援本部)	両	16	2	40	ST	SOP	i	1800	2100	D2	ST	SOP				01	SUS	HL									(特)	S-2									PH	LH	DC・DS・FR	本	片			常時閉鎖式特定防火設備 可動部内部GW充填
SD	70b	4階コンピュータ室、会議室2(消防応援指揮支援本部)	両	16	2	40	ST	SOP	i	1800	2100	D2	ST	SOP				01	SUS	HL									(特)	S-2									PH	LH	DC・DS・FR	電・本	片			常時閉鎖式特定防火設備相当 可動部内部GW充填 生態認証システム(会議室2の電気錠、生態認証システムは将来対応可能としておく)
SD	70c	4階消防指令管制センター、作戦本部室	両・框	21	2	40	ST	SOP	i	1800	2100	D2	ST	SOP				01	SUS	HL	耐熱TG	5							(特)										PH	LH	DC・DS・FR	電・本	片			常時閉鎖式特定防火設備相当 可動部内部GW充填 生態認証システム(作戦本部室の電気錠、生態認証システムは将来対応可能としておく)、飛散防止フィルム張
SD	71	4階指令課更衣室	片	02	1	40	ST	SOP	i	900	2100	D2	ST	SOP				01	SUS	HL	FG	6																	PH	LH	DC・DS	電・本	片			テンキー
SD	72	4階直流電源装置室、コンピュータ室、指令課機材室	片	01	4	40	ST	SOP	i	900	2100	D2	ST	SOP				01	SUS	HL																			PH	LH	DC	本	片			
SD	73	4階一次MDF室	片	01	1	40	ST	SOP	i	900	2100	D2	ST	SOP				01	SUS	HL									(特)										PH	LH	DC	本	片ソ			可動部内部GW充填
SD	74	4階通路1・通路2(男性用仮眠室)、通路3(女性用仮眠室)	片	31	4	50	ST	SOP	f	1200	2100	D2	ST	SOP				01	SUS	HL									特							○				FH	CH	－	－	－			随時閉鎖式特定防火設備
SD	77	4階指令課事務室	両・框	21	2	40	ST	SOP	i	1800	2100	D2	ST	SOP				01	SUS	HL	耐熱TG	5							特										H	LH	DC・FR	本	片			常時閉鎖式特定防火設備 飛散防止フィルム張
SD	78	4階指令課事務室	両・框	21	1	40	ST	SOP	i	1800	2100	D2	ST	SOP				01	SUS	HL	TG	6																	H	LH	DC・FR	電・本	片			生態認証システム 飛散防止フィルム張
SD	79	1階エントランスホール(PS①・⑥)	片	11	1	40	ST	SOP	m	600	2000	D2	ST	SOP				11	ST	SOP																			隠H	FP	DC	本	片ソ			片面フラッシュ 消火器ボックス埋込
SD	80a	将来増床用デッドスペース(2階～4階) 1階中央消防署事務室、廊下2、通路1	片	34	8	20	ST	SOP	a	450	450	D1	ST	SOP				四方枠	ST	SOP																			軸H	－	－	－	－			既製品点検口 ワンタッチ平面パネル付(錠付) 片面フラッシュ
SD	80b	将来増床用デッドスペース(2階)	片	34	1	40	ST	SOP	i	450	450	D1	ST	SOP				四方枠	ST	SOP									特										軸H	FP	DC	分	片ソ			四方枠(FB枠)
SD	80c	3階WC(女)	片	34	1	40	ST	SOP	l	450	450	D2	ST	SOP				四方枠	ST	SOP																			軸H	FP	DC	分	片ソ			
SD	81	4階外来者打合室	折戸	32	1	50	ST	SOP	f	1600	2100	D2	ST	SOP				01	SUS	HL									特							○				AH	CH	－	－	－			随時閉鎖式特定防火設備 くぐり戸w750h1800、2枚折戸
SD	82	4階外来者打合室(管理用扉)	片引	27	1	40	ST	SOP	h	1600	2100	D2	ST	SOP				01	SUS	HL	PSG	6																	HR	HP	－	錄	片			自閉機構付、ストッパー付
SD	83	1階男性浴室脱衣室1・2、女性用仮眠室物入、4階男性用仮眠室、通路2、女性用仮眠室、通路3、1階PS③⑤⑦⑨⑱、SK(PS)、2～4階湯沸室	片	34	14	20	ST	SOP	a	600	600	D1	ST	SOP				四方枠	ST	SOP																			軸H	－	－	－	－			既製品点検口 ワンタッチ平面パネル付(錠付) 片面フラッシュ
SD	84	5階階段1、無線機室、階段2	片	01	3	40	ST	SOP	i	900	2100	D3	ST	SOP				01	SUS	HL									特	無線機室S-2									H	LH	DC・DS	本	片			常時閉鎖式特定防火設備
SD	85	5階電気室	両	16	2	40	ST	SOP	i	1800	2400	D2	ST	SOP				01	SUS	HL									防	S-2									H	LH	DC・DS・FR	本	片			
SD	86	5階電気室、窒素ボンベ庫	片	01	2	40	ST	SOP	i	900	2100	D3	ST	SOP				01	SUS	HL									防	電気室S-2									H	LH	DC・DS	本	片			
SD	87	5階EVホール2	両	16	1	40	ST	SOP	i	1800	2100	D2	ST	SOP				01	SUS	HL																			H	LH	DC・DS・FR	本	片			
SD	88	5階EVホール2	両	16	1	50	ST	DP-A	i	1600	2700	D3	ST	DP-A				07	SUS	HL								AT			A-4								H	GH	DC・DS・FR	本	片			可動部内部GW充填
SD	89	5階風除室1	片	01	1	50	ST	DP-A	i	900	2100	D3	ST	DP-A				07	SUS	HL								AT			A-4								H	GH	DC・DS・FR	本	片			可動部内部GW充填
SD	90	5階電気室	両	16	1	50	ST	DP-A	i	2400	2400	D3	ST	DP-A				07	SUS	HL								AT	防	S-2	A-4								H	GH	DC・DS・FR	本	片			可動部内部GW充填

一級建築士 国土交通大臣登録 第269262号 楠木 賢一	安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第 129267号 高田 茂	新潟市建築部公共建築第1課	工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟建設工事	図名 建具表(2) 年月日 2013.03.01 縮尺 図面番号 A-25 計通-A-34

種別	建具番号	取付位置	形式記号	姿図番号	数量	建具(可動部分) 見込寸法	材質	仕上	枠 形状記号	寸法 内法寸法W	内法寸法H	見込寸法T	材質	仕上	内部額縁(枠と別材の場合、表示する) 寸法	材質	仕上	沓摺膳板 形状記号	材質	仕上	ガラス 種別	厚さ	ドアガラリ 形状記号	材質	仕上	寸法W	寸法H	性能 性能記号	防火性能記号	耐風圧性S	気密性A	水密性W	遮音性T	断熱性H	面内変形追随性D	装置 煙感連動装置	ヒューズ装置	手動開放装置	自動ドア装置	建具金物 支持金物	操作金物	開閉金物	施錠金物	施錠機構	網戸	室名表示	備考
SD	91	5階無線機室	両	16	1	50	ST	DP-A	i	1800	2400	D3	ST	DP-A				07	SUS	HL								AT		S-2	A-4									H	GH	DC・DS・FR	本	片			可動部内部GW充填
SD	92	5階吹抜1・2	片	01	2	40	ST	DP-A	i	600	1800	D3	ST	DP-A				07	SUS	HL								AT			A-4									H	GH	DC・DS	本	片			可動部内部GW充填
SD	93	5階設備取出口(DS・PS)(点検口)	片	01	2	40	ST	DP-A	i	600	1800	D3	ST	DP-A				07	SUS	HL								AT			A-4									H	−	−	−	片ソ			可動部内部GW充填、施錠金物ボルト3点留め
SD	94	1階エントランスホール	片	08	1	40	ST	SOP	I	1200	3000	D2	ST	SOP				01'	SUS	HL								SAT	特		A-3		T-2							軸H	FP	DC・DS	本	片			ドアボトム機構 可動部内部GW充填
SD	95	階段1(免震層)	片	01	1	40	ST	SOP	i	900	1300	D2	ST	SOP				01	SUS	HL																				H	LH	DC・DS	本	片ソ			可動部内部GW充填
SD	96	5階風除室2	片	35	1	40	ST	DP-A	i	900	2100	D3	ST	DP-A				07	SUS	HL	TG	10						AT			A-4									H	GH	DC・DS・FR	本	片			可動部内部GW充填
SD	97	5階風除室2	片	35	1	40	ST	SOP	i	900	2100	D2	ST	SOP				01	SUS	HL	WG	6+A6+5						SAT			A-4		T-2	H-2						H	LH	DC・DS・FR	本	片			可動部内部GW充填
SD	98	5階自家発電機室(外部)	両	図示	2	50	ST	DP-A	i	1675	2400	D2	ST	DP-A				07	SUS	HL			−	AL	B-1	500	1500	AT	防		A-4									H	GH	DC・DS・FR	本	片			可動部内部GW充填 竪型防水ガラリ(開口率60%) 防風板及びFD(横型回転羽根式、開口率60%)、防虫網付
SD	99	4階メンテナンススペース	片	01	2	40	ST	SOP	i	600	2100	D2	ST	SOP				01	SUS	HL									特										PH	LH	DC	本	片ソ			可動部内部GW充填
SD	100	5階蓄電池室	片	01	1	40	ST	SOP	i	600	2100	D2	ST	SOP				01	SUS	HL									防										PH	LH	DC	本	片			
SD	101	5階前室2(外部)	片	36	1	40	ST	DP-A	i	600	1100	D2	ST	DP-A				07	SUS	HL																				H	GH	DC・DS	本	片			可動部内部GW充填
SD	102	1階通用口風除室	両・框・ラ	図示	1	40	ST	SOP	i	1800	3000	D2	ST	SOP				01	SUS	HL	TG	8																		H	PP	DC・DS・FR	本	片			飛散防止フィルム貼　欄間隠蔽式排煙オペレーター H3000(2100+100+ラ800)
SD	103	1階荷物搬入風除室	両・框	図示	1	40	ST	SOP	i	1600	3000	D2	ST	SOP				01	SUS	HL	TG	8																		H	PP	DC・DS・FR	本	片			飛散防止フィルム貼
SDW	01	1階外来者打合室	片・框・ハメ	図示	1	50	ST	SOP	j	4000	2100	D2	ST	SOP				01'	SUS	HL	TG	12+A100+12						SAT			A-3		T-2							PH	LH(C)	DC(C)・DS	本	片			飛散防止フィルム張(グラデーション)、ドアボトム機構
SDW	02	2階清掃員控室	片・框・ハメ	図示	1	50	ST	SOP	j	1800	2100	D2	ST	SOP				01	SUS	HL	TG	8																		PH	LH	DC・DS	本	片			飛散防止フィルム張(グラデーション)
SDW	03	1階エントランスホール	片・框・ハメ	図示	1	図示	ST	SOP		**図示**	**図示**		ST	SOP																																		
SF	01	1階WC(男)1、(女)1、(男)3、湯沸室、女性用仮眠室洗面スペース、	枠	図示	5				h	900	2100	D2	ST	SOP				02	SUS	HL																											
SF	02	2～4階　WC(女性)、(男性)、	枠	図示	6				h	1000	2100	D2	ST	SOP				02	SUS	HL																											
SF	03	2～4階　湯沸室	枠	図示	6				h	700	2100	D2	ST	SOP				02	SUS	HL																											
SF	04	2階廊下1	枠	図示	1				h	3300	2100	D2	ST	SOP				02	SUS	HL																											
SF	05	2階廊下1	枠	図示	1				h	1800	2100	D2	ST	SOP				02	SUS	HL																											
SF	06	3階局長室	枠	図示	1				h	750	2100	D2	ST	SOP				02	SUS	HL																											
SF	07	1階EVホール1	枠	図示	2				h	1250	2400	D2	ST	SOP				03	SUS	HL																											
SF	08	3階洗面コーナー	枠	図示	1				h	800	2100	D2	ST	SOP				02	SUS	HL																											
SS	03a	2階廊下(吹抜)	手動	図示	2		ST	SOP		3235	2700	サイドレール	SUS	HL	マグサ	SUS	HL												特							○										衝突防止ストッパー付、手動開閉機構付
SS	03b	3～4階廊下(吹抜)	手動	図示	4		ST	SOP		**3345**	3000	サイドレール	SUS	HL	マグサ	SUS	HL												特							○										衝突防止ストッパー付、手動開閉機構付
SS	04a	2階廊下(吹抜)	手動	図示	1		ST	SOP		**3345**	2700	サイドレール	SUS	HL	マグサ	SUS	HL												特							○										衝突防止ストッパー付、手動開閉機構付
SS	04b	3～4階廊下(吹抜)	手動	図示	2		ST	SOP		**2880**	3000	サイドレール	SUS	HL	マグサ	SUS	HL												特							○										衝突防止ストッパー付、手動開閉機構付
SS	05	2階廊下1(吹抜)	手動	図示	4		ST	SOP		**2880**	2700	サイドレール	SUS	HL	マグサ	SUS	HL												特							○										衝突防止ストッパー付、手動開閉機構付
SS	06a	2階廊下1(吹抜)	手動	図示	2		ST	SOP		**5950**	2700	サイドレール	SUS	HL	マグサ	SUS	HL												特							○										衝突防止ストッパー付、手動開閉機構付
SS	06b	3～4階廊下(吹抜)	手動	図示	4		ST	SOP		**2880**	3000	サイドレール	SUS	HL	マグサ	SUS	HL												特							○										衝突防止ストッパー付、手動開閉機構付
SS	07	3階外来者打合室スペース	手動	−	1		ST	SOP		**2880**	3000	サイドレール	SUS	HL	マグサ	SUS	HL												特							○				PH	LH	DC・DS	本	片ソ			衝突防止ストッパー付、 手動開閉機構付、扉W1000xH2100
SS	08	3～4階廊下(吹抜)	手動	図示	8		ST	SOP		7625	3000	サイドレール	SUS	HL	マグサ	SUS	HL												特							○										衝突防止ストッパー付、手動開閉機構付
SS	09	2階厨房	手動	−	1		ST	SOP		**7820**	1100	サイドレール	SUS	HL	マグサ	SUS	HL												防							○										衝突防止ストッパー付、手動開閉機構付
SS	10	2階厨房	手動	−	1		ST	SOP		1100	1100	サイドレール	SUS	HL	マグサ	SUS	HL												防							○										衝突防止ストッパー付、手動開閉機構付
LSS	01	1階車庫(ホース格納庫)	手動	図示	1		ST	SOP		4910	2200	サイドレール	SUS	HL	マグサ	SUS	HL																														手動軽量シャッター
SSD	01	1階通用口風除室	両・框・ラ	図示	1	40	SUS	HL	i	1800	3000	D2	SUS	HL				01	SUS	HL	TG	8																		H	PP	DC・DS・FR	電・本	片			飛散防止フィルム貼、テンキー 欄間隠蔽式排煙オペレーター H3000(2100+100+ラ800)
SSD	03	1階荷物搬入風除室	両・框	図示	1	40	SUS	HL	i	1600	3000	D2	SUS	HL				01	SUS	HL	TG	8																		H	PP	DC・DS・FR	電・本	片			飛散防止フィルム貼、テンキー
SSD	05	1階救急消毒室	片引	図示	1	40	SUS	HL	h	1340	2070	D3	SUS	HL				01	SUS	HL																			○	HR	FP		電・鎌	片			ペダル式自動開閉装置(壁埋込)(光電式、足先投入式)
SSDW	01	1階風除室・ポーチ	引分、片引、ハメ	図示	1	図示	SUS	HL		**図示**	**図示**		SUS	HL							TG	12														○		○	○								パニックオープン、飛散防止フィルム張り
SSDW	02	1階風除室	片引、ハメ	図示	1	図示	SUS	HL		**図示**	**図示**		SUS	HL																						○		○	○								パニックオープン、飛散防止フィルム張り
SSDW	03	1階エントランスホール	引分、ハメ	図示	1	図示	SUS	HL		**図示**	**図示**		SUS	HL							TG	12														○		○	○								パニックオープン、飛散防止フィルム張り
SW	01	2階印刷室	ハメ	図示	1				h	3200	1000	D2	ST	SOP				四方枠	ST	SOP	PSG	6																									腰高1100
SW	02	3階消防局事務室	ハメ	図示	5				h	2200	1000	D2	ST	SOP				四方枠	ST	SOP	PSG	6																									腰高1100
SW	03	4階見学スペース1、2	ハメ	図示	2				h	9000	1600	D2	ST	SOP				四方枠	ST	SOP	TG	12																									腰高700、ガラスシール突付(上下2辺支持) 低反射フィルム張
SSF	01	3階洗面スペース /4階洗面スペース	枠		2				h	**図示**	**図示**	D2	SUS	HL				02	SUS	HL																											
SSF	02	1階雨衣掛スペース	枠		1				h	1200	2100	D2	SUS	HL				02	SUS	HL																											
SSF	03	2階厨房	枠		1				h	3000	1100	D2	SUS	HL				02	SUS	HL																											
SSF	04	2階厨房	枠		1				h	1100	1100	D2	SUS	HL				02	SUS	HL																											
SSF	05	4階見学スペース1、2	枠		4				h	1600	2100	D2	SUS	HL				02	SUS	HL																											
SSF	06	1階洗面スペース	枠		1				h	2900	2100	D2	SUS	HL				02	SUS	HL																											
SSS	01	ホースタワー室(外部)	電動		1		SUS	HL		1600	2900	サイドレール	SUS	HL	マグサ	SUS	HL																					○								電動重量シャッター
LSSS	01	ホースタワー室(車庫)	手動	図示	1		SUS	HL		**2700**	2900	サイドレール	SUS	HL	マグサ	SUS	HL				TG	10																○	H	LH	DC・DS	本	片			手動軽量シャッター(W1600) 扉一体型シャッター(扉W900xH2100)、飛散防止フィルム張

欠番　SD-34,37,41,75,76
SS-01,02
SSD-02,04
SW-04

一級建築士　国土交通大臣登録　第269262号　楠木　賢一	安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第 129267号　高田　茂	新潟市建築部公共建築第1課	工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎　庁舎棟建設工事	図名　建具表(3)　計通-A-35 年月日 2012.12.21　縮尺　図面番号 A-26

種別	建具番号	取付位置	形式記号	姿図番号	数量	建具(可動部分) 見込寸法	材質	仕上	枠 形状記号	寸法 内法寸法W	内法寸法H	見込寸法T	材質	仕上	内部額縁(枠と別材の場合、表示する) 寸法	材質	仕上	沓摺議板 形状記号	材質	仕上	ガラス 種別	厚さ	ドアガラリ 形状記号	材質	仕上	寸法W	寸法H	性能 性能記号	防火性能記号	耐風圧性	気密性	水密性	遮音性	断熱性	面内変形追随性	装置 煙感連動装置	ヒューズ装置	手動開放装置	自動ドア装置	建具金物 支持金物	操作金物	開閉金物	施錠金物	施錠機構	網戸	室名表示	備考
WD	01	2階応急救護訓練室(間仕切収納)	片		1	70	W	EP-G	I	770	3000	D2	ST FB	SOP				03	−	−																				H	FP	DC(C)	−	−			重量用丁番4ヶ所
WD	02	2階女性用休憩室(押入)	引違		1	40	W	オレフィン	h	2200	2000	D2	W	SOP				10	W	OS			c	W	SOP	400	100													−	FP	−	−	−			敷居すべり、ガラリ上下(2ヶ所)
WD	03	2階男性用休憩室、女性用休憩室、/3階男性用休憩室、女性用休憩室、/4階女性用休憩室	引違		2	40	W	オレフィン	h	1600	2000	D2	W	SOP				10	W	OS																				−	FP	−	−	−			敷居すべり
WD	04	3階男性用休憩室	引分		1	40	W	オレフィン	h	1800	2000	D2	W	SOP				10	W	OS																				−	FP	−	−	−			敷居すべり
WD	05	3階通路1	引違		1	40	W	オレフィン	h	1500	2000	D2	W	SOP				10	W	OS																				−	FP	−	−	−			敷居すべり
WD	06	3階女性用休憩室、/4階男性用休憩室	片引		2	40	W	オレフィン	h	900	2000	D2	W	SOP				10	W	OS																				−	FP	−	−	−			敷居すべり
WD	07	3階講堂(間仕切収納)	片		1	70	W	EP-G	I	780	4000	D2	ST FB	SOP				03	−	−																				H	FP	DC(C)	−	−			重量用丁番4ヶ所
WD	09	4階男性用休憩室(押入)	引違		1	40	W	オレフィン	h	900	2100	D2	W	SOP				10	W	OS			c	W	SOP	400	100													−	FP	−	−	−			
WD	10	2階男性用休憩室、3階男性用休憩室、女性用休憩室(押入)	引違		6	40	W	オレフィン	h	1600	2000	D2	W	SOP				10	W	OS			c	W	SOP	400	100													−	FP	−	−	−			敷居すべり、ガラリ上下(2ヶ所)
WD	11	1階男性浴室脱衣室	片引	26	2	40	W	メラミン化粧板	h	800	2100	D2	ST	SOP				01	W	OS			b	ST	SOP	600	200		不										HR	HP	−	鎌	片表			ガラリ有効 0.015㎡
WD	12	女性用仮眠室物入、男性浴室前室物入、2階トレーニングルーム物入	片	01	3	40	W	メラミン化粧板	i	900	2100	D2	ST	SOP				01	W	OS									不																		
WD	13	4階脱衣室1、脱衣室2、便所(女性用仮眠室)	片	06	3	40	W	メラミン化粧板	i	700	2100	D2	ST	SOP				01	SUS	HL	FG	6	b	ST	SOP	500	200		不										H	LH	DC・DS	本	表			ガラリ有効 0.015㎡
WW	01	3階男性用休憩室、女性用休憩室	引違		2	40	W	オレフォン	h	1000	1000	D2	W	SOP				10	W	OS	FG	6																		−	FP	−	−	−			敷居すべり
AW	01	1階外部(Y4通り)	引	図示	1		AL	B-2		図 示	図 示	70	AL	B-2																S-5	A-4	W-5	T-1	H-2						付属金物一式				可動式樹脂製		特記なき性能は特記仕様書による
AW	02	1階外部(Y4通り)	引+開	図示	1		AL	B-2		図 示	図 示	70	AL	B-2																S-5	A-4	W-5	T-1	H-2						付属金物一式				可動式樹脂製		特記なき性能は特記仕様書による
AW	03	1階外部(Y4通り)	開	図示	1		AL	B-2		図 示	図 示	70	AL	B-2																S-5	A-4	W-5	T-1	H-2						付属金物一式				可動式樹脂製		特記なき性能は特記仕様書による
AW	04	1階外部(通用口風除室)	開	図示	1		AL	B-2		図示	図示	70	AL	B-2																S-5	A-3	W-4		H-2						付属金物一式						
AW	05	1階外部(雨衣掛スペース)	開	図示	1		AL	B-2		図 示	図 示	70	AL	B-2																S-5	A-3	W-4	T-1	H-2						付属金物一式						特記なき性能は特記仕様書による
AW	06	1階外部(EVホール1)	縦回+開+ラ(外)	図示	1		AL	B-2		図 示	図 示	100	AL	B-2																S-5	A-4	W-5	T-1	H-2						付属金物一式				可動式樹脂製		隠蔽型オペレーター 特記なき性能は特記仕様書による
AW	07	1階外部(X8通り)	ハメ+ラ(外)	図示	1		AL	B-2		図 示	図 示	70	AL	B-2																S-5	A-3	W-4	T-1	H-2						付属金物一式						隠蔽型オペレーター 特記なき性能は特記仕様書による
AW	08	2階外部(Y4通り)	引	図示	1		AL	B-2		図 示	図 示	70	AL	B-2														一部防	S-5	A-3	W-4	T-1	H-2						付属金物一式				可動式樹脂製		スパンドレル部 防火設備対応 特記なき性能は特記仕様書による
AW	09	2階外部(Y1通り)	引	図示	1		AL	B-2		図 示	図 示	70	AL	B-2														一部防	S-5	A-3	W-4	T-1	H-2						付属金物一式				可動式樹脂製		スパンドレル部 防火設備対応 特記なき性能は特記仕様書による
AW	10	EVホール1・2(2～4階外部)、/2階外部(電気開閉器盤室、ホースタワー室吹抜)、/3階外部(将来増床用デッドスペース(X0通り)、ホースタワー室吹抜)	縦回+開	図示	10		AL	B-2		図 示	図 示	100	AL	B-2																S-5	A-4	W-5	T-1	H-2						付属金物一式				可動式樹脂製		特記なき性能は特記仕様書による 代替進入口シール(3,4階)
AW	10a	4階外部(将来増床用デッドスペース(X0通り、X8通り))	縦回	図示	2		AL	B-2		図 示	図 示	100	AL	B-2																S-5	A-4	W-5	T-1	H-3						付属金物一式				可動式樹脂製		特記なき性能は特記仕様書による 代替進入口シール(3,4階)
AW	11	2階外部(受水槽室)、/3階外部(将来増床用デッドスペース(X8通り))	辷	図示	4		AL	B-2		図 示	図 示	70	AL	B-2																S-5	A-3	W-4	T-1	H-2						付属金物一式				可動式樹脂製		特記なき性能は特記仕様書による
AW	11'	2階外部(ガスガバナー室)、/3階外部(将来増床用デッドスペース(X0通り))	辷	図示	4		AL	B-2		図 示	図 示	70	AL	B-2														防	S-5	A-3	W-4	T-1	H-2						付属金物一式				可動式樹脂製		特記なき性能は特記仕様書による
AW	11a	4階外部(将来増床用デッドスペース(X8通り))	辷	図示	2		AL	B-2		図 示	図 示	70	AL	B-2																S-5	A-3	W-4	T-2	H-3						付属金物一式				可動式樹脂製		特記なき性能は特記仕様書による
AW	11a'	4階外部(将来増床用デッドスペース(X0通り))	辷	図示	2		AL	B-2		図 示	図 示	70	AL	B-2														防	S-5	A-3	W-4	T-2	H-3						付属金物一式				可動式樹脂製		特記なき性能は特記仕様書による
AW	12	3階外部(Y4通り)	引	図示	1		AL	B-2		図 示	図 示	70	AL	B-2																S-5	A-3	W-4	T-1	H-2						付属金物一式				可動式樹脂製		特記なき性能は特記仕様書による 代替進入口シール(3,4階)
AW	13	3階外部(Y1通り)	引	図示	1		AL	B-2		図 示	図 示	70	AL	B-2														一部防	S-5	A-3	W-4	T-1	H-2						付属金物一式				可動式樹脂製		スパンドレル部 防火設備対応 特記なき性能は特記仕様書による 代替進入口シール(3,4階)
AW	14	4階外部(Y4通り)	引	図示	1		AL	B-2		図 示	図 示	70	AL	B-2														一部防	S-5	A-3	W-4	T-2	H-3						付属金物一式				可動式樹脂製		スパンドレル部 防火設備対応 特記なき性能は特記仕様書による 代替進入口シール(3,4階)
AW	15	4階外部(Y1通り)	引	図示	1		AL	B-2		図 示	図 示	70	AL	B-2														一部防	S-5	A-3	W-4	T-2	H-3						付属金物一式				可動式樹脂製		スパンドレル部 防火設備対応 特記なき性能は特記仕様書による 代替進入口シール(3,4階)
AW	16	5階外部(吹抜1)	ハメ+内	図示	1		AL	B-2		3250	4350	70	AL	B-2																S-5	A-3	W-4	T-1							付属金物一式				固定式SUS		特記なき性能は特記仕様書による 各階に電動スイッチ設置し一括操作
AW	17	5階外部(吹抜2)	ハメ+内	図示	1		AL	B-2		図 示	図 示	70	AL	B-2																S-5	A-3	W-4	T-1							付属金物一式				固定式SUS		特記なき性能は特記仕様書による 各階に電動スイッチ設置し一括操作
AW	18	5階外部(階段1、階段2)	引	図示	2		AL	B-2		2400	800	70	AL	B-2																S-5	A-3	W-4	T-1							付属金物一式				可動式SUS		
AW	19	5階外部(階段1)	引	図示	1		AL	B-2		4880	800	70	AL	B-2																S-5	A-3	W-4	T-1							付属金物一式				可動式SUS		
ACW	1	階段1	ハメ	矩計図による	1					3300	20660		AL	B-2							WGe	6+A6+8																									付属金物一式
ACW	2	階段2	ハメ	矩計図による	1					3300	20660		AL	B-2							WGe	6+A6+8																									付属金物一式
AG	01	1階外部(西面外壁)		−	1					2900	1000	100	AL	B-1																																	ダクト接続金物 縦型防水ガラリ(開口率70%)
AG	02	1階外部(南面外壁)		−	1					1500	500	100	AL	B-1																																	ダクト接続金物 縦型防水ガラリ(開口率70%)
AG	03	1階外部(東面外壁)		−	1					1600	1000	100	AL	B-1																																	ダクト接続金物 縦型防水ガラリ(開口率70%)
AG	04	R階設備取出口4		−	2					1800	800	70	AL	B-1																																	ダクト接続金物 縦型防水ガラリ(開口率30%)
AG	05	R階設備取出口5		−	2					1000	1000	70	AL	B-1																																	ダクト接続金物 縦型防水ガラリ(開口率70%) SUS水返し、SUS防虫網付
JW	01	2階応急救護訓練室	引+ハメ	図示	1		樹脂製			図 示	図 示	70	樹脂製								PSG	6								A-4		T-2	H-4													付属金物一式 外窓と合わせてT-4
OS	01	1階外部 Y1通り	手動	図示	3		AL	焼付塗装		7810	4210 (有効4149)	ガイドレール	SUS	HL																										付属金物一式						手動チェーン付バランス式、付属金物一式、チェーン掛付、1750Pa.明窓アクリル付
OS	02	1階外部 Y1通り	手動	図示	2		AL	焼付塗装		7810	4210 (有効4149)	ガイドレール	SUS	HL																																手動チェーン付バランス式、付属金物一式、チェーン掛付、1750Pa.明窓アクリル付、水圧開錠装置付

改2013.01.22

一級建築士 国土交通大臣登録 第269262号 楠木 賢一

安井・太陽設計共同体
管理建築士一級建築士第 129267号 高田 茂

新潟市建築部公共建築第1課

工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟建設工事

図名 建具表(4)

計通-A-36

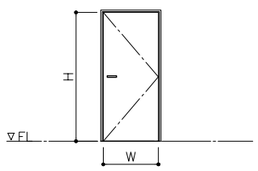
年月日 2013.03.01

縮尺

図面番号 A-27

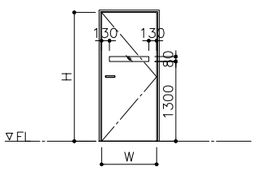
01 1:50

SD−11,12,13,16,18,18a
SD−25,26a,26b,27,33,45,59,72,73
SD−84,86,89,92,93,95,99,100
FB枠 SD−22



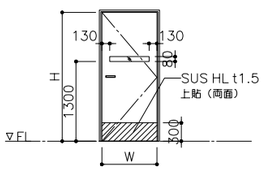
02 1:50

SD−20,21,32,36,46,46a,46b,54,66,71



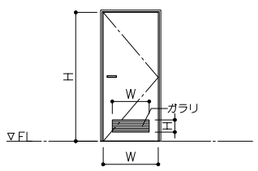
03 1:50

SD−52



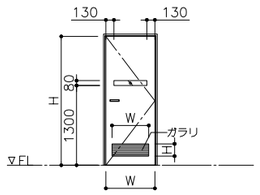
04 1:50

SD−25a,25b



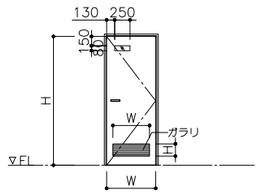
05 1:50

SD−32a,32b



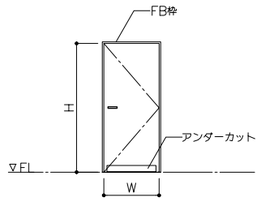
06 1:50

SD−17,32c,75,76



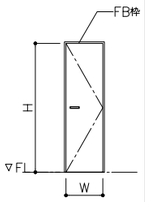
07 1:50

SD−64



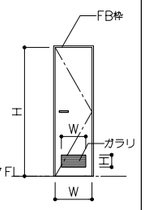
08 1:50

SD−94



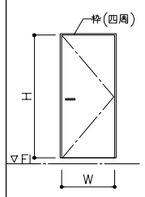
09 1:50

SD−07,07b



10 1:50

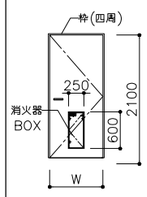
つぶし枠：
SD−03,03a,03b,05,
05a,42,79
FB枠 ：SD−18,18a



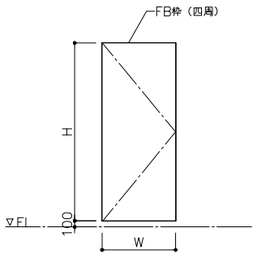
・（ ）はSD−79

11 1:50

SD−79

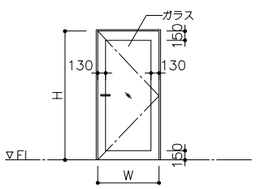


12 1:50



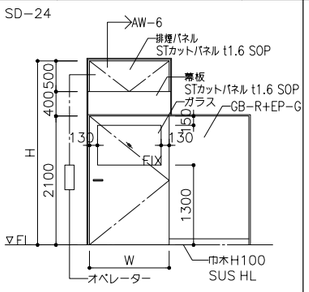
13 1:50

SD−67



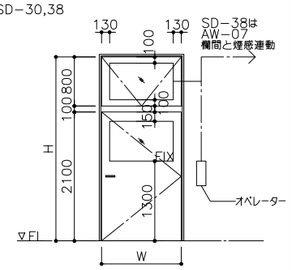
14 1:50

SD−24



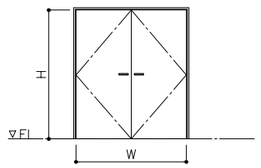
15 1:50

SD−30,38



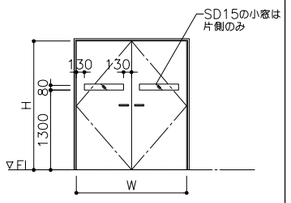
16 1:50

SD−14,39,43,44,51,53,58,69a
SD−70a,70b,85,87,88,90,91
FB枠 SD−19a



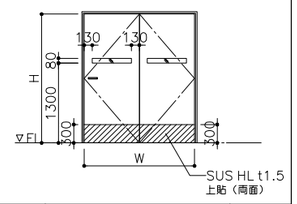
17 1:50

SD−15,47,55a,55b,62



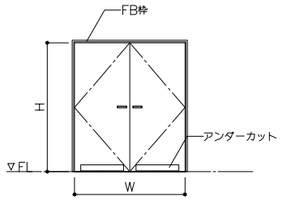
18 1:50

SD−49



19 1:50

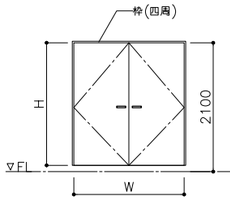
SD−63a,63b
SD−63はアンダーカットなし



※SD−63はアンダーカットなし

20 1:50

FB枠 SD−19b,19c,34

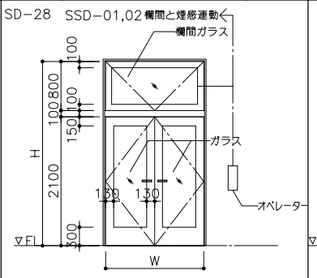


21 1:50

SD−48,68,69b,70c,77,78

22 1:50

SD−28 SSD−01,02 欄間と煙感連動

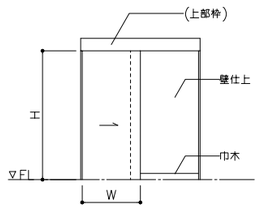


23 1:50

SD−40
FB枠SD−35

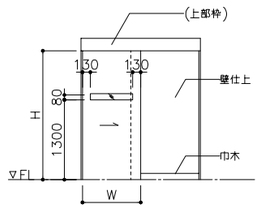
24 1:50

SD−10



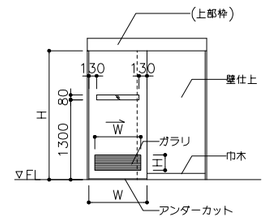
25 1:50

SD−09b,40



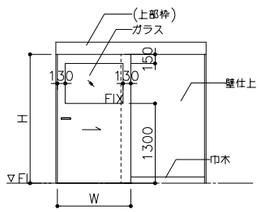
26 1:50

SD−08,09,09a,65a



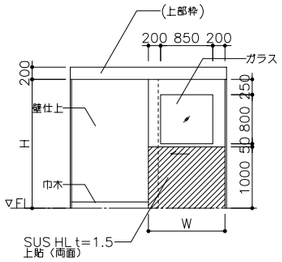
27 1:50

SD−65,82



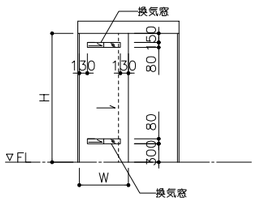
28 1:50

SD−31



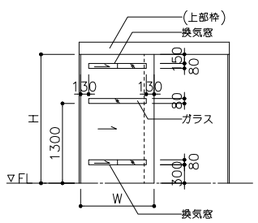
29 1:50

LSD−01



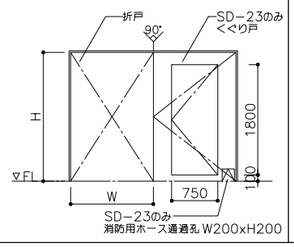
30 1:50

SD−01,02



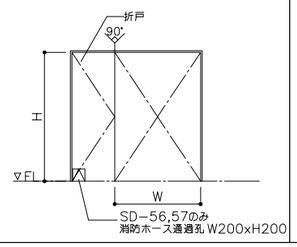
31 1:50

SD−23,29,74



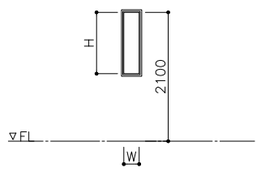
32 1:50

2枚折戸：SD−60,81
3枚折戸：SD−56,57



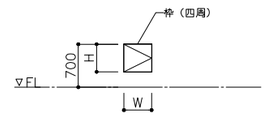
33 1:50

SD−50,50a,50b

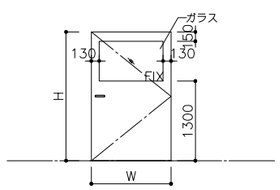


34 1:50

SD−80b,80c
つぶし枠：SD−04a,04b
つぶし枠：SD−06,80a,83

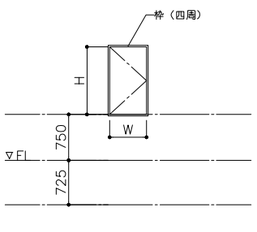


35 1:50

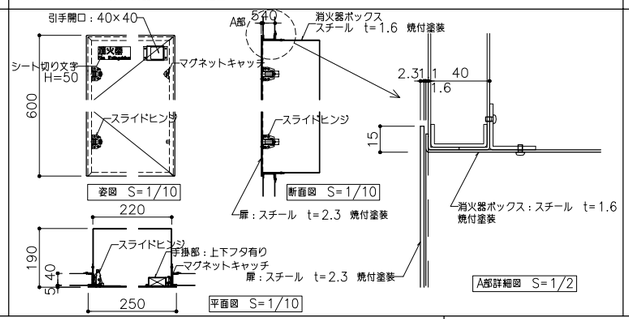


36 1:50

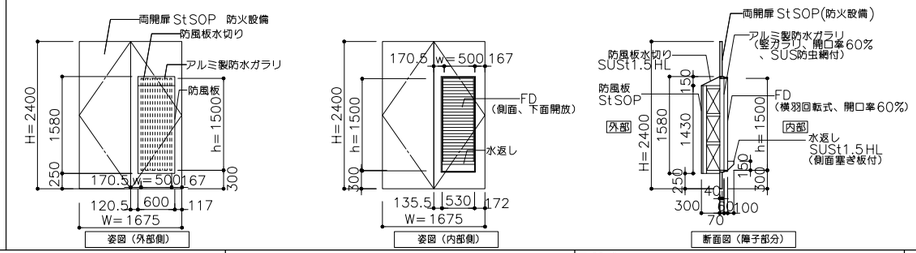
SD−101



SD−79 扉埋込み消火器ボックス詳細図



SD−98 1:50



2012.11.21

一級建築士 国土交通大臣登録 第269262号 清木 賢一

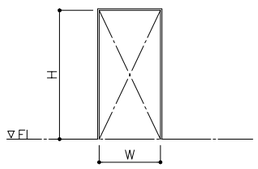
安井・太陽設計共同体
管理建築士一級建築士第129267号 高田 茂

新潟市建築部公共建築第1課

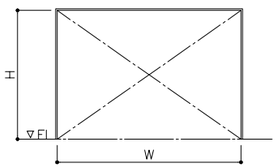
工事名
新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟建設工事

図名	計画番号
建具姿図 (1)	計画-A-37
年月日 2013.03.01 / 縮尺 A1:1/50, A3:1/100	A-28

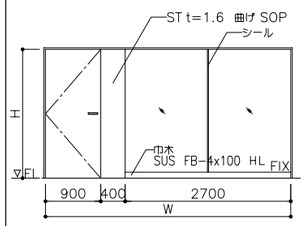
SF 1:50



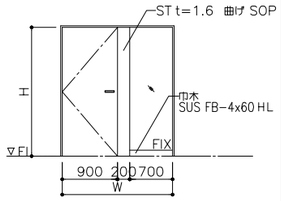
SSF 1:50



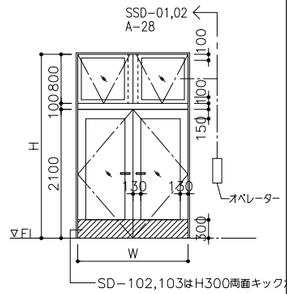
SDW−01 1:50



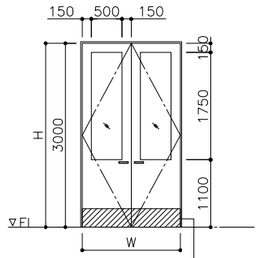
SDW−02 1:50



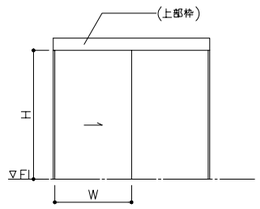
SSD−01,SD−102 1:50



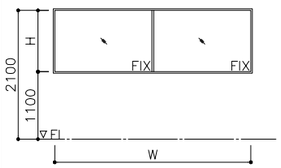
SSD−03,SD−103 1:50



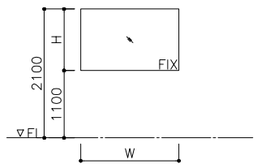
SSD−05 1:50



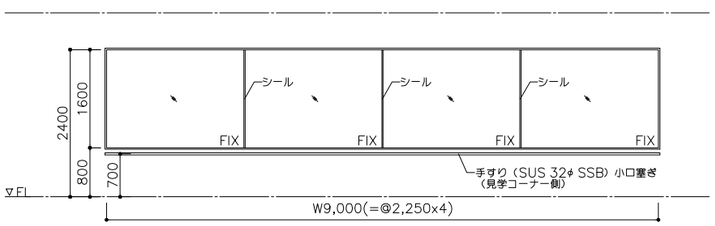
SW−01 1:50



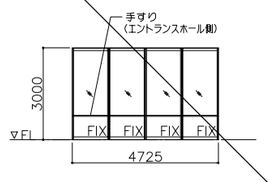
SW−02 1:50



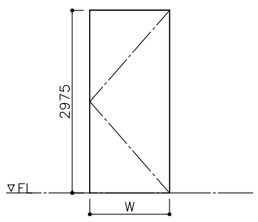
SW−03 1:50



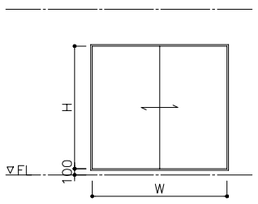
SW−04 <A−47図 D−4−5> 1:100



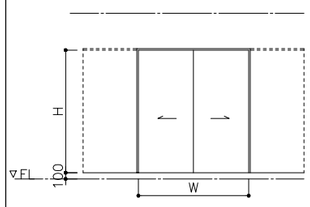
WD−01 1:50



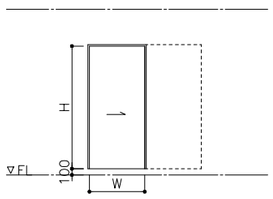
WD−02,03,05,09,10 1:50



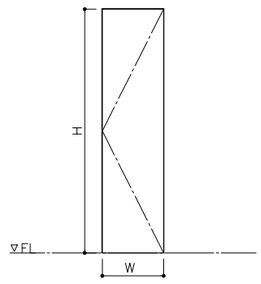
WD−04 1:50



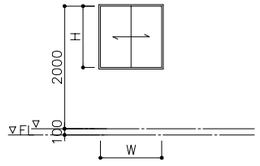
WD−06 1:50



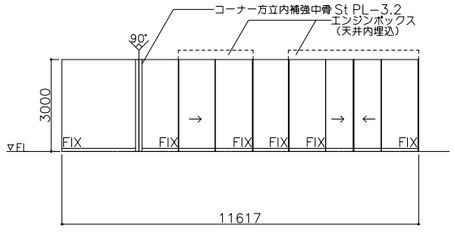
WD−07 1:50



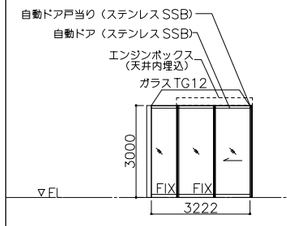
WW−01 1:50



SSDW−01 <A−47図 D−4−4> 1:100

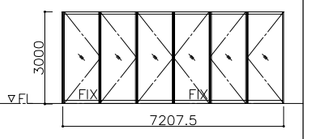


SSDW−02<A−47図 D−4−4> 1:100

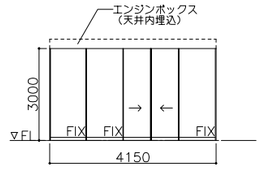


※自動ドア部分はステンレス、
その他の部分はスチールとする。

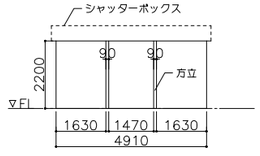
SDW−03 <A−47図 D−4−5> 1:100



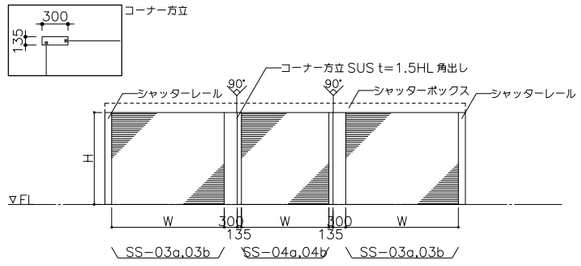
SSDW−03 <A−47図 D−4−4> 1:100



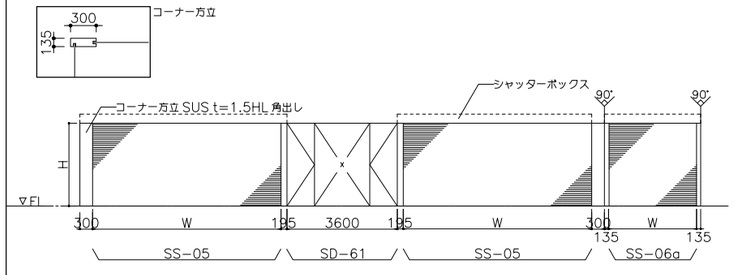
LSS−01 1:100



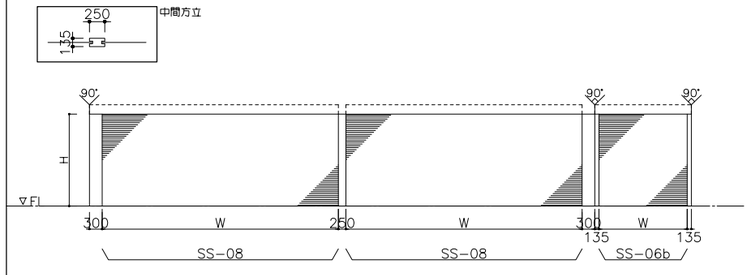
SS−03a,03b,04a,04b 1:100



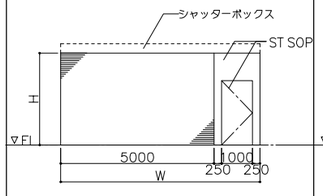
SS−05,06a SD−61



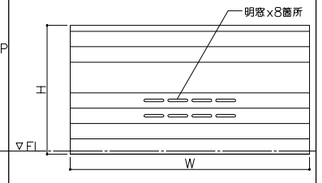
SS−06b,08



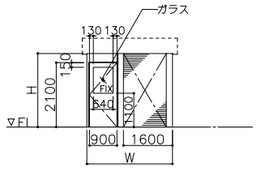
SS−07 1:100



OS−01,02 1:100



LSSS−01 1:100



改2012.11.21

一級建築士 国土交通大臣登録 第269262号 椿木 賢一

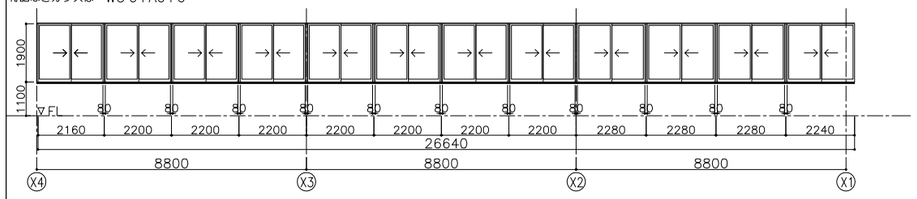
安井・太陽設計共同体
管理建築士一級建築士第129267号 高田 茂

新潟市建築部公共建築第1課

工事名	新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟建設工事
図名	建具姿図 (2)
計画−A−38	
年月日	2013.03.01
縮尺	A1:原寸、A3:原寸/2
図面番号	A−29

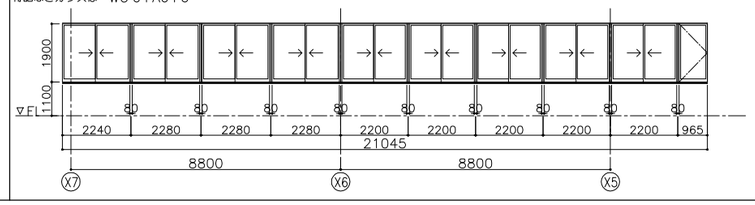
AW−01

特記なきガラスは　WG 6+A6+6



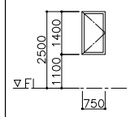
AW−02

特記なきガラスは　WG 6+A6+6



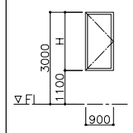
AW−03

ガラス：
WG6+A6+6



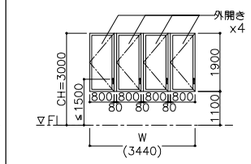
AW−05

ガラス：PSG6



AW−04

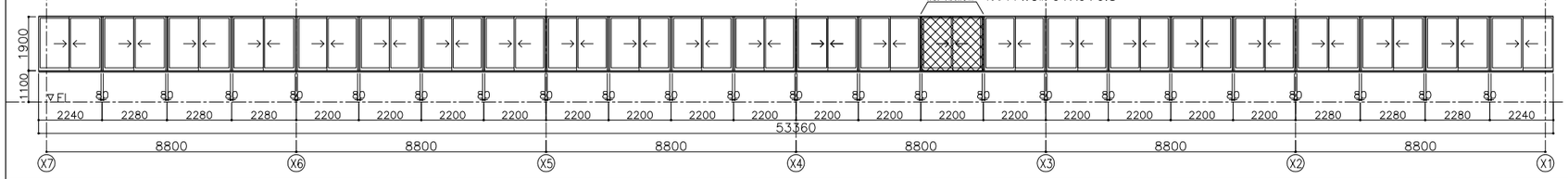
ガラス：PSG6



AW−08

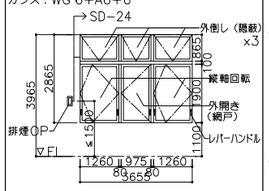
特記なきガラスは　WG 6+A6+6

防火設備部：ガラス WG網 6+A6+6.8

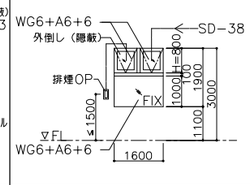


AW−06

ガラス：WG 6+A6+6



AW−07

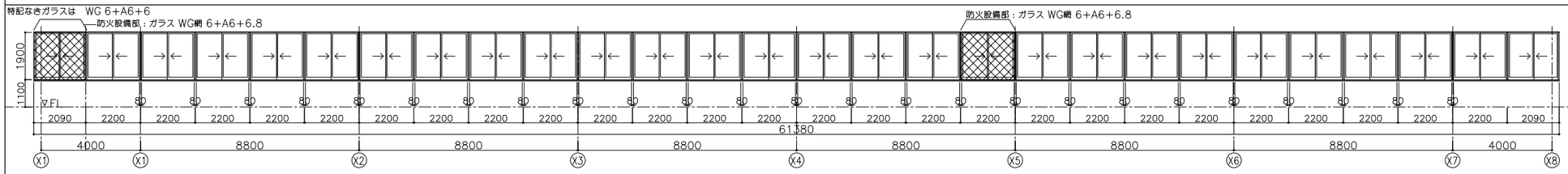


AW−09

特記なきガラスは　WG 6+A6+6

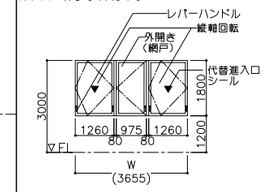
防火設備部：ガラス WG網 6+A6+6.8

防火設備部：ガラス WG網 6+A6+6.8



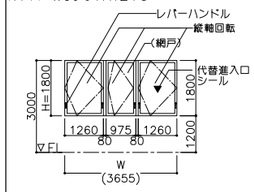
AW−10

ガラス：WG 6+A6+6



AW−10a

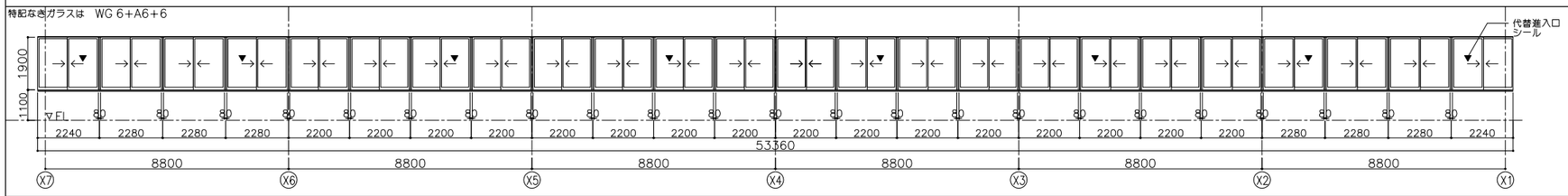
ガラス：WGe 6+A12+5



AW−12

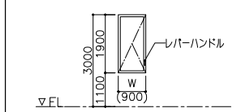
特記なきガラスは　WG 6+A6+6

代替進入口
シール



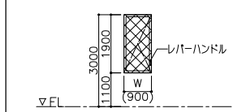
AW−11,11a

ガラス
AW−11　WGe　6+A6+5
AW−11a WGe　6+A12+5



AW−11',11a'

ガラス
AW−11', WGe網　6+A6+6.8
AW−11a', WGe網　6+A12+6.8



AW−13

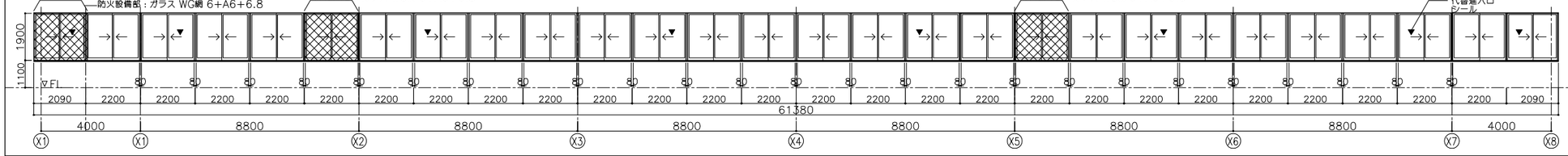
特記なきガラスは　WG 6+A6+6

防火設備部：ガラス WG網 6+A6+6.8

防火設備部：ガラス WG網 6+A6+6.8

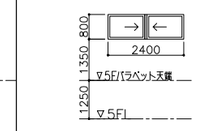
防火設備部：ガラス WG網 6+A6+6.8

代替進入口
シール



AW−18

ガラス：WG 6+A6+6



AW−19

ガラス：WG 6+A6+6

AW−14

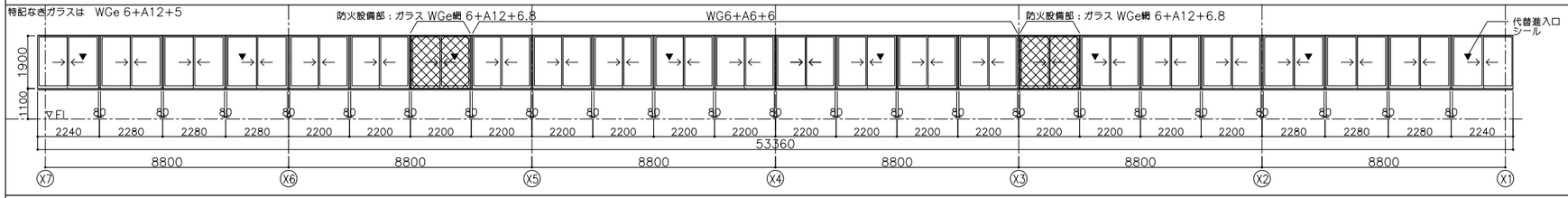
特記なきガラスは　WGe 6+A12+5

防火設備部：ガラス WGe網 6+A12+6.8

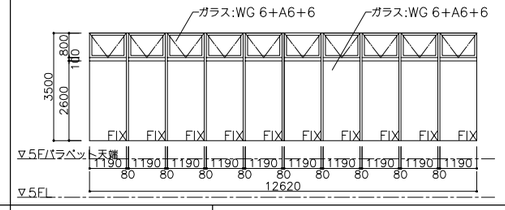
WG6+A6+6

防火設備部：ガラス WGe網 6+A12+6.8

代替進入口
シール



AW−17



AW−15

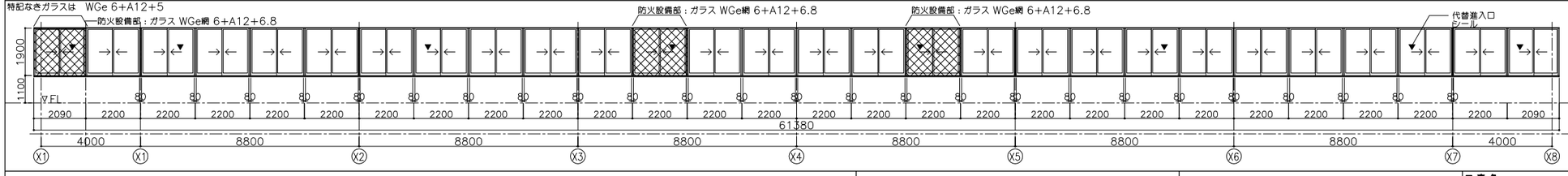
特記なきガラスは　WGe 6+A12+5

防火設備部：ガラス WGe網 6+A12+6.8

防火設備部：ガラス WGe網 6+A12+6.8

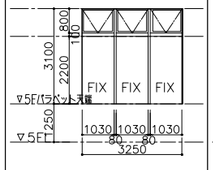
防火設備部：ガラス WGe網 6+A12+6.8

代替進入口
シール



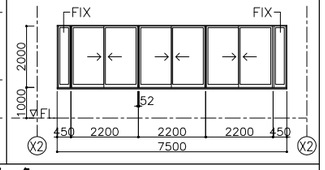
AW−16

ガラス：WG 6+A6+6



JW−01

ガラス：PSG6



2013.01.22
2012.11.21

一級建築士　国土交通大臣登録　第269262号　清木 賢一

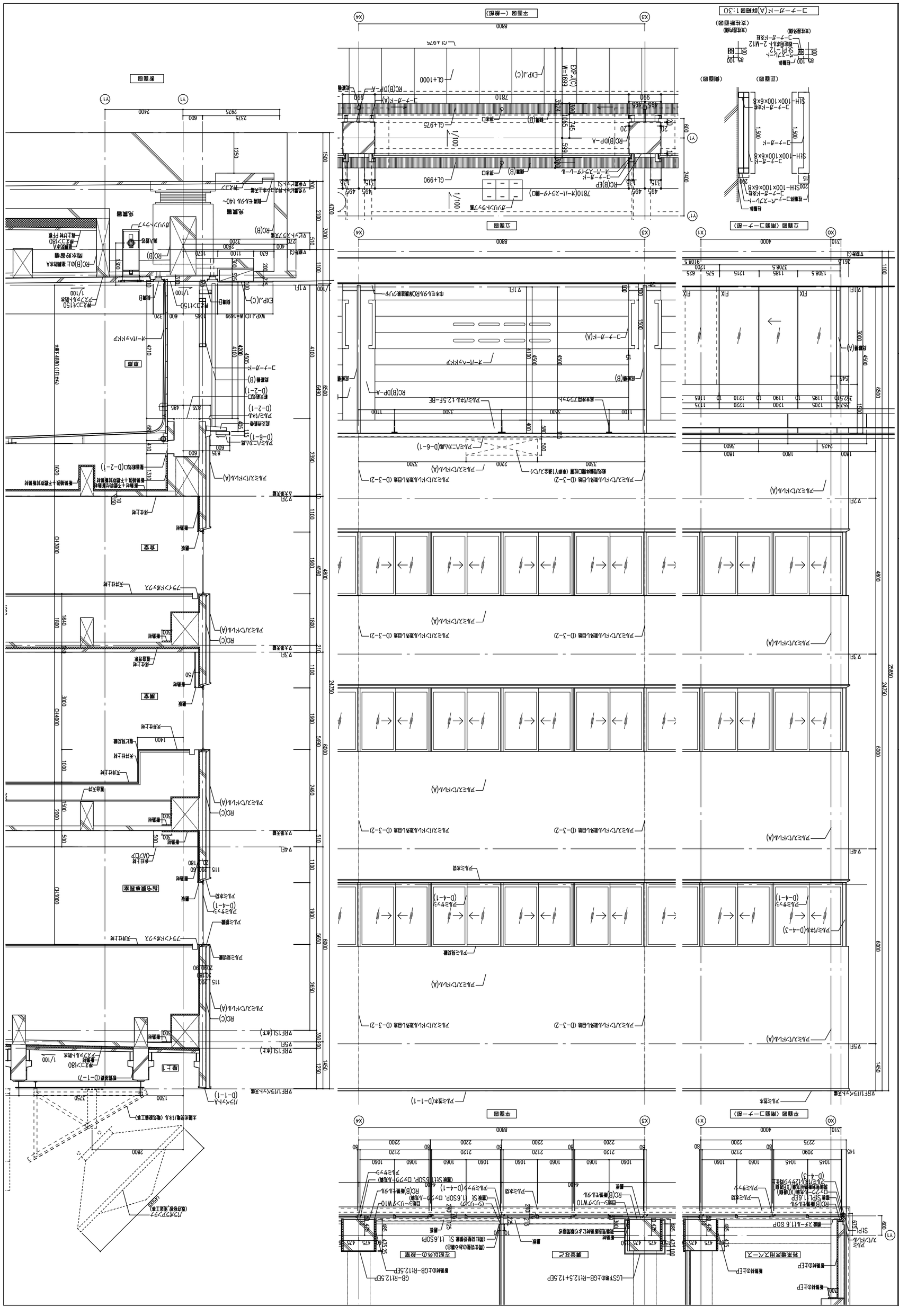
安井・太陽設計共同体
管理建築士一級建築士第129267号　高田　茂

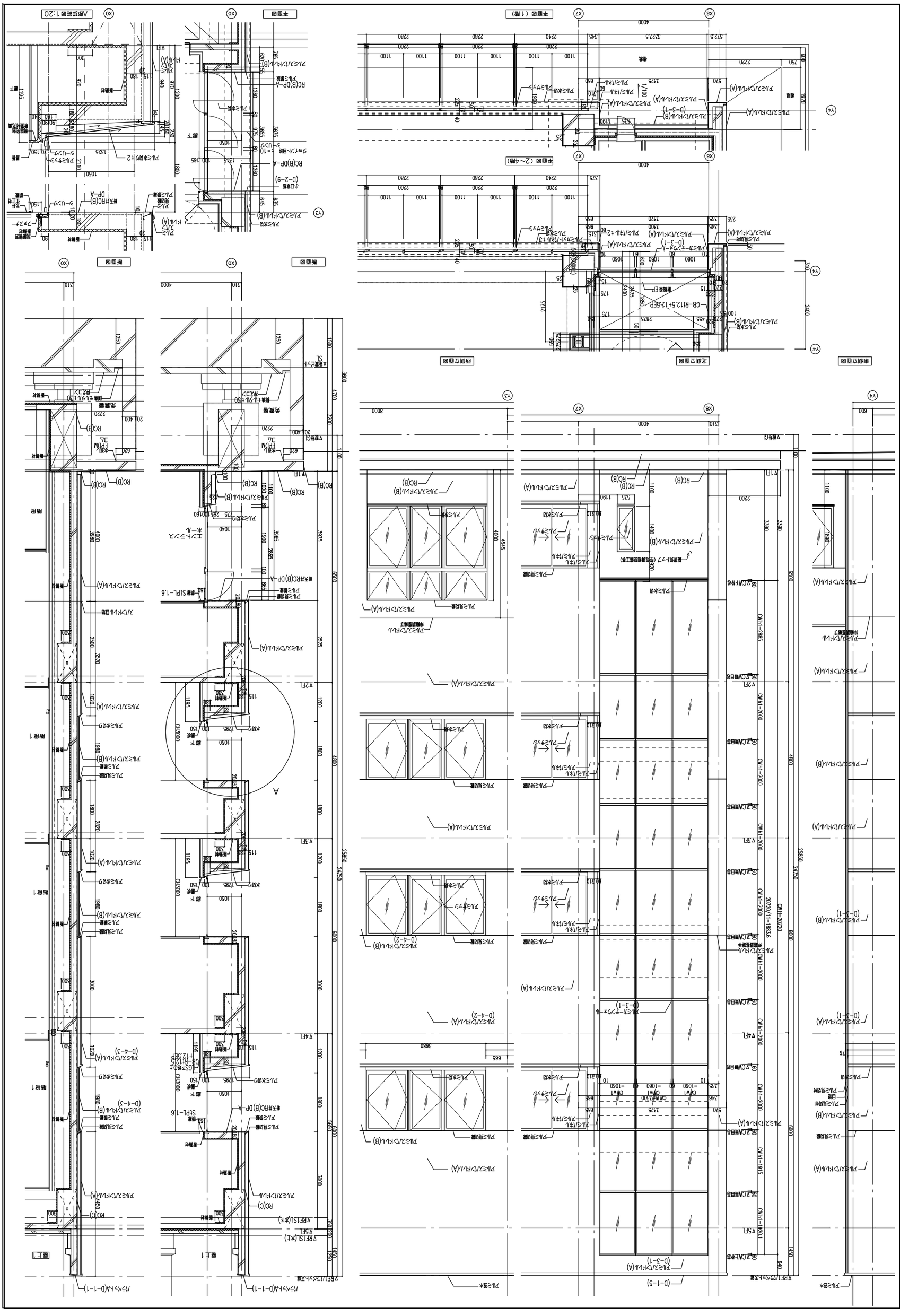
新潟市建築部公共建築第1課

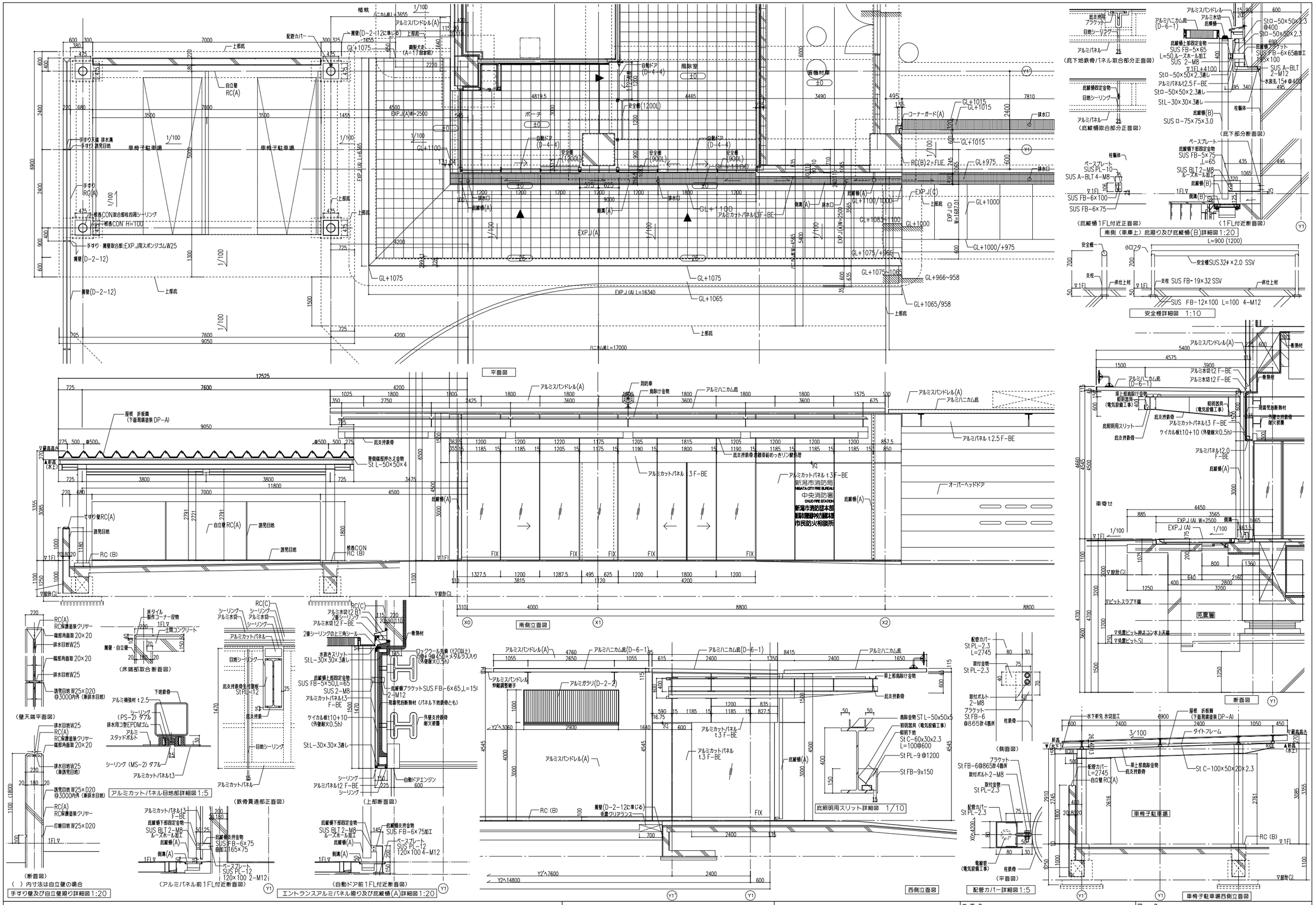
工事名
新潟市消防局・中央消防署庁舎　庁舎棟建設工事

年月日	縮尺	図面番号
2013.03.01	A1:1／100, A3:1／200	A−30

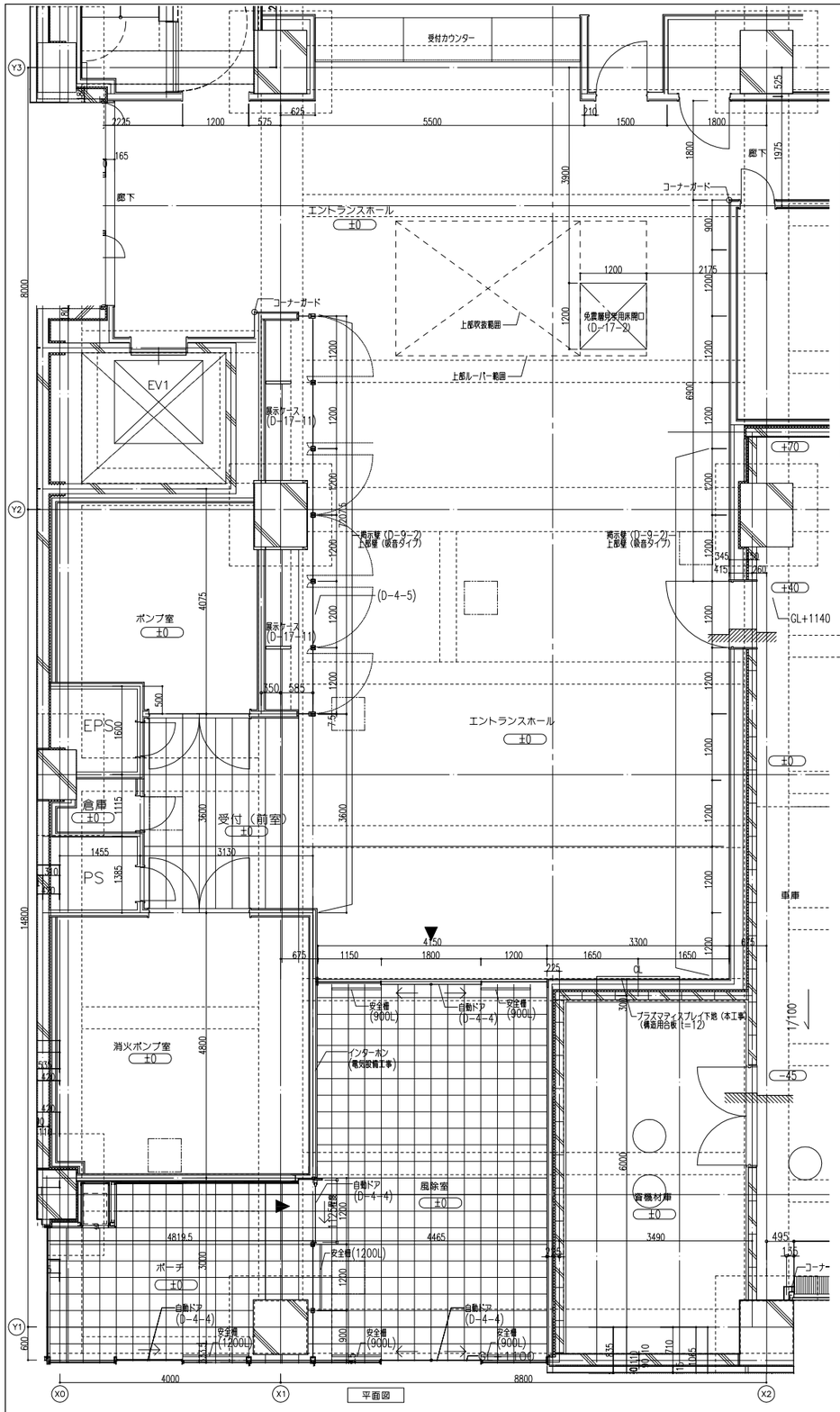
図名
建具姿図（3）
計画−A−39

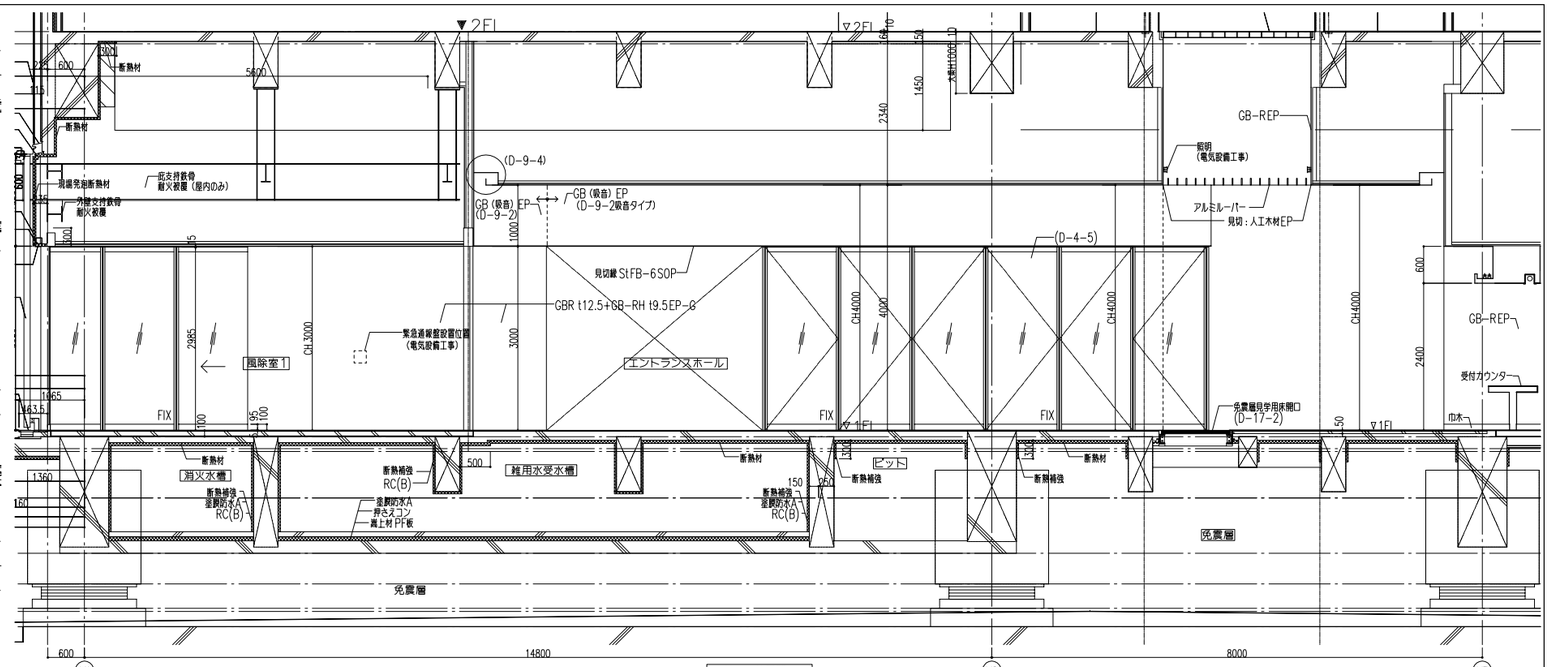

新潟市建築部公共建築第1課
安井・太陽設計共同体
庁舎棟 矩計図（1）
新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟建設工事
A-31
2013.0122

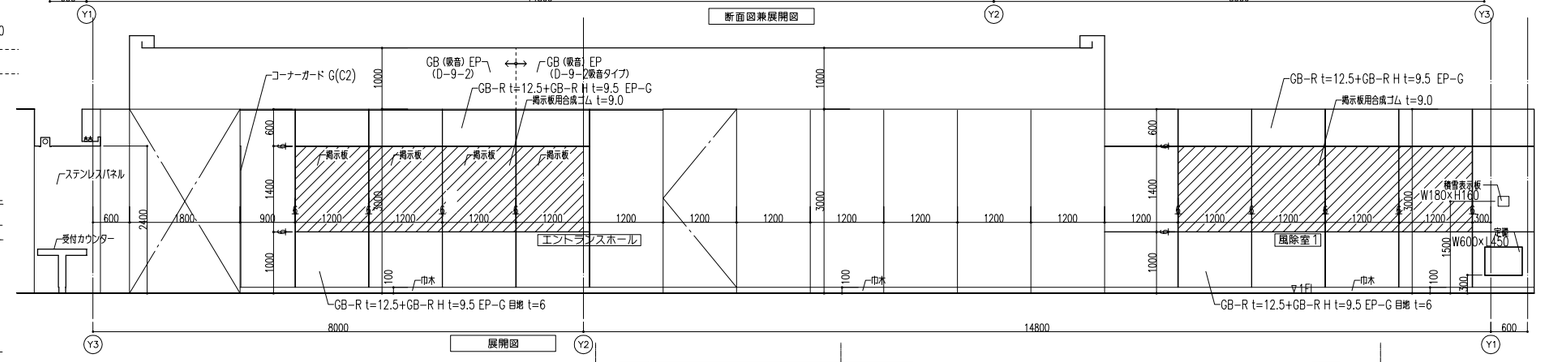

平面図（1階）
平面図（2～4階）
北側立面図
東側立面図
西側立面図
断面図
A部詳細図 1:20
矩計図（2）
工事名
新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟建設工事
新潟市建築部公共建築第1課
安井・太陽設計共同体
管理建築士一級建築士第12267号 高田 茂
2013.01.22
2012.11.21
A-32

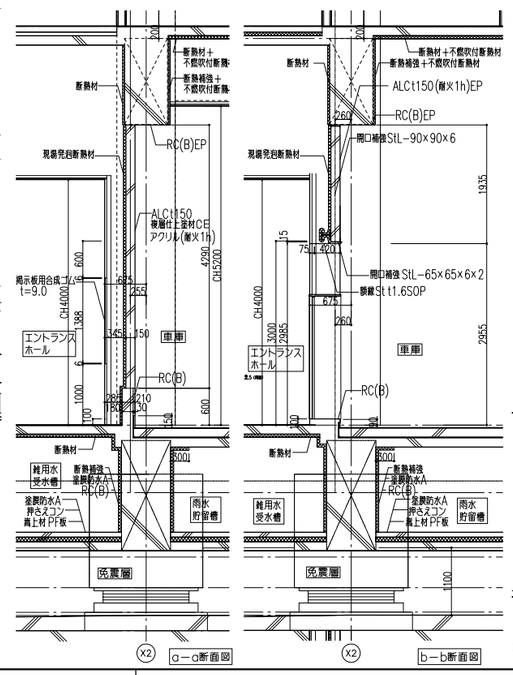


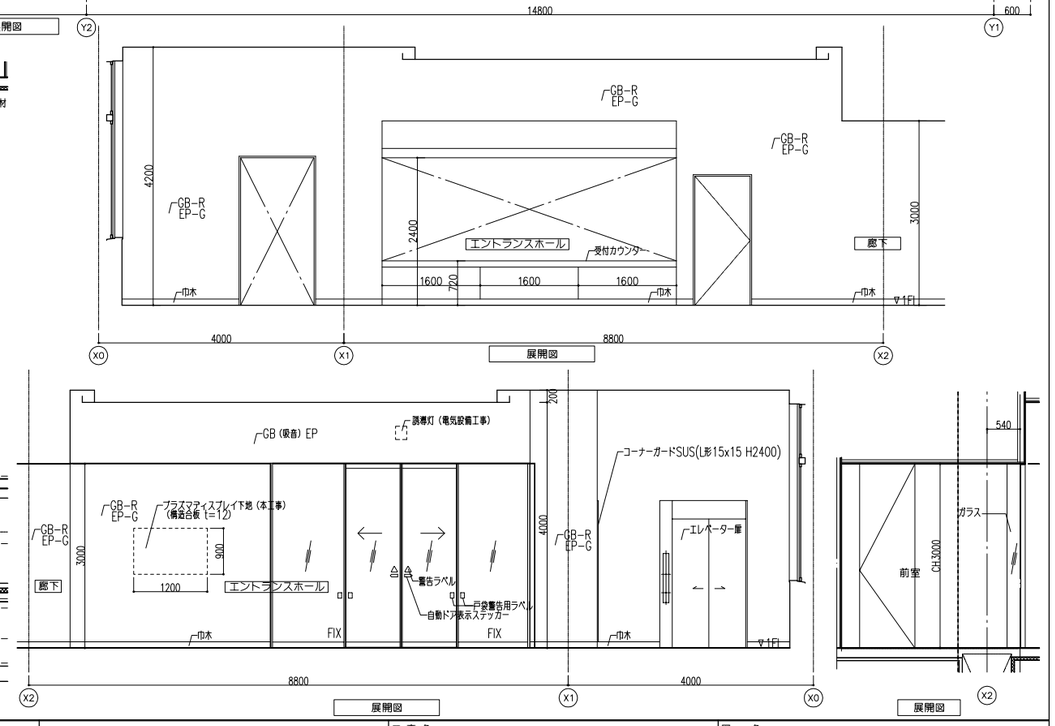
安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第129267号 高田 茂	新潟市建築部公共建築第1課	工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟建設工事	図名 エントランス廻り詳細図（1）
		年月日 2013.03.01	縮尺 A1:1/50, A3:1/100
			図面番号 A-33











2013.0122

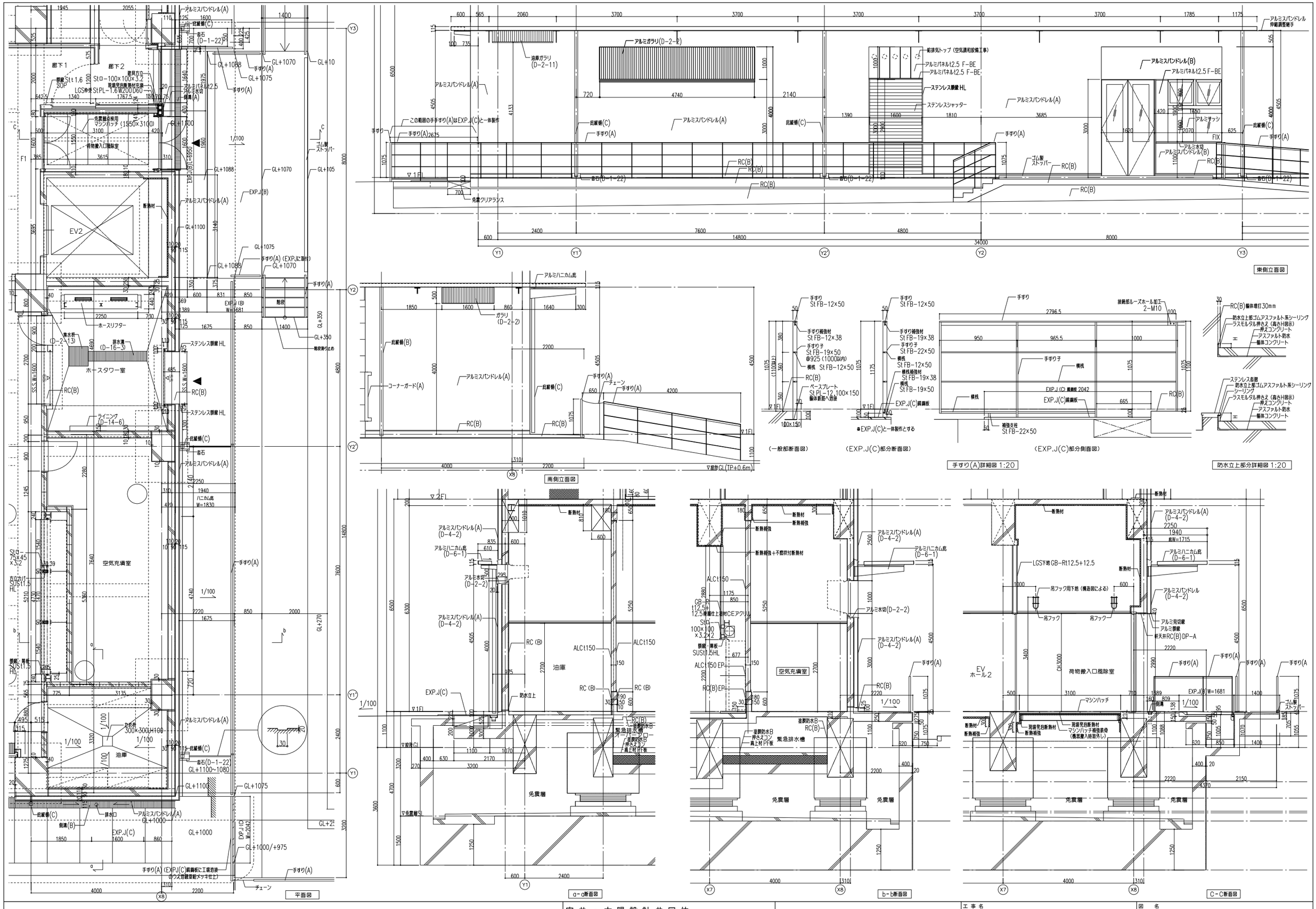
安井・太陽設計共同体
管理建築士一級建築士第129267号　高田　茂

新潟市建築部公共建築第1課

工事名：新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟建設工事

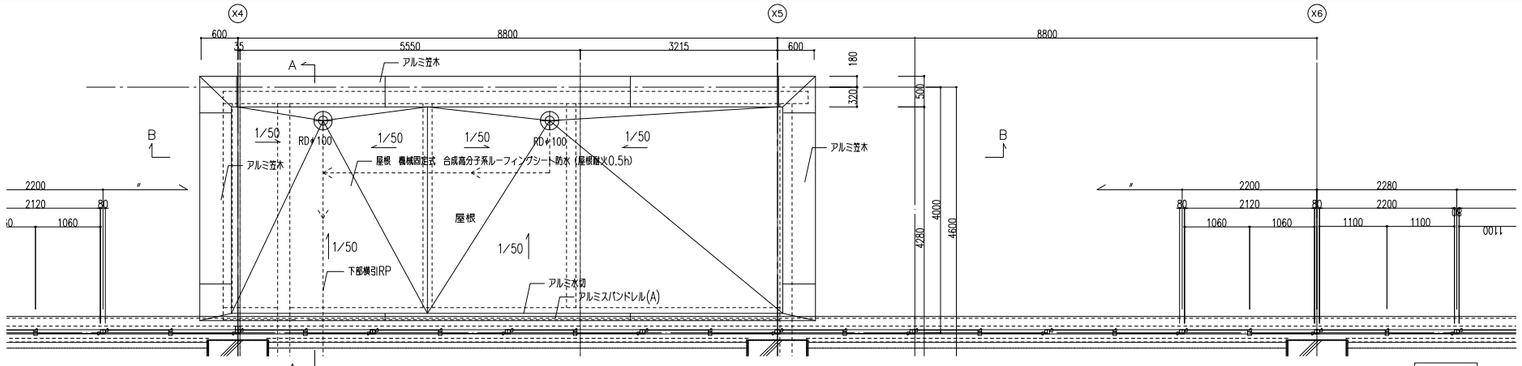
図名：エントランス廻り詳細図（2）

年月日	縮尺	図面番号
2013.03.01	A1:1／50、A3:1／100	A-34

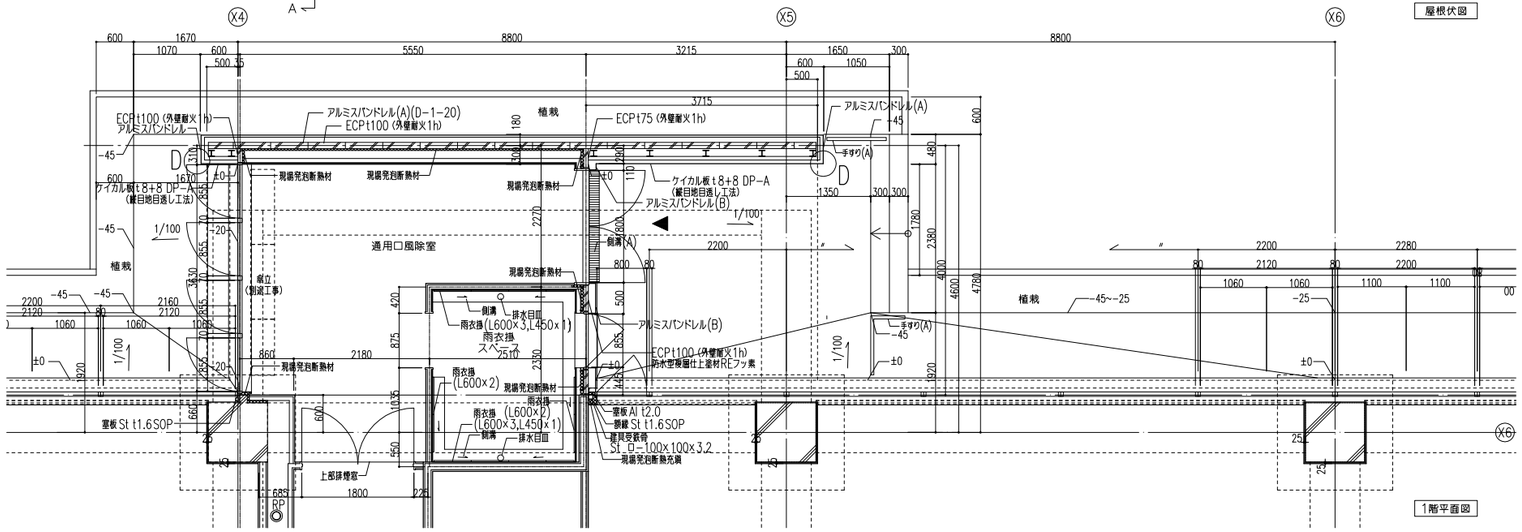


安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第129267号 高田 茂	新潟市建築部公共建築第1課	工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟建設工事	図名 1階東側廻り詳細図 年月日 2013.03.01 縮尺 A1:1/50, A3:1/100 図面番号 A-35

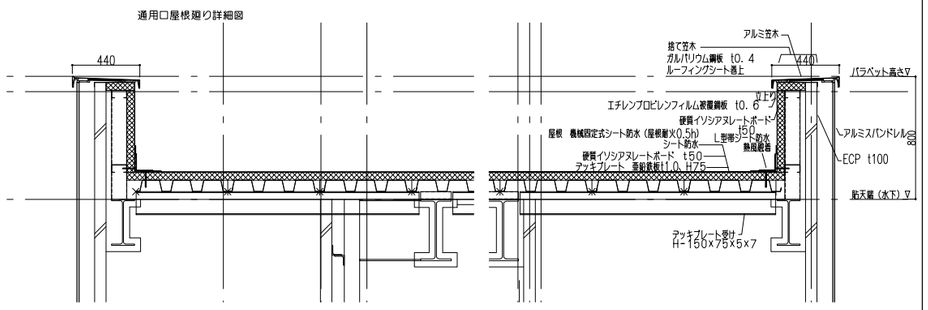
2013.01.22



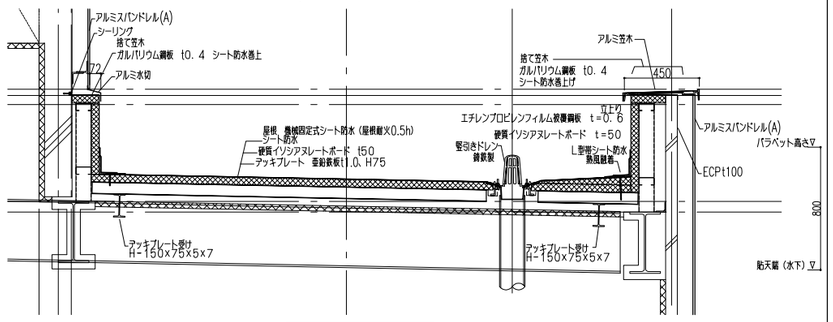
屋根伏図



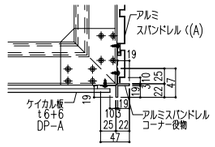
1階平面図



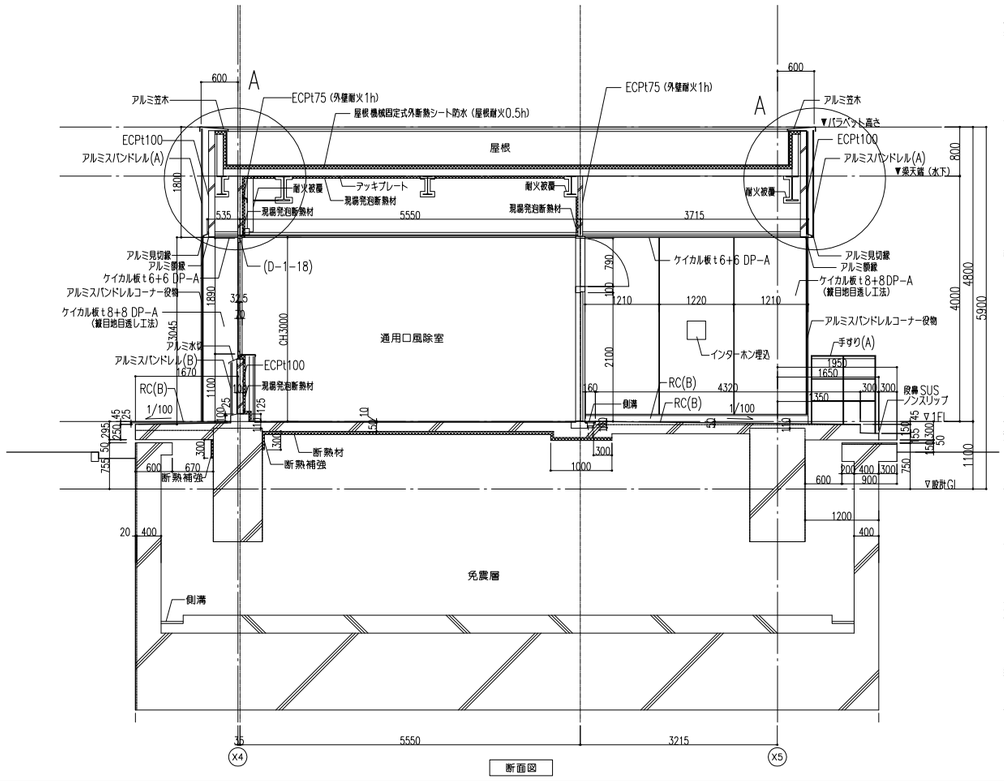
A部詳細図 1:20



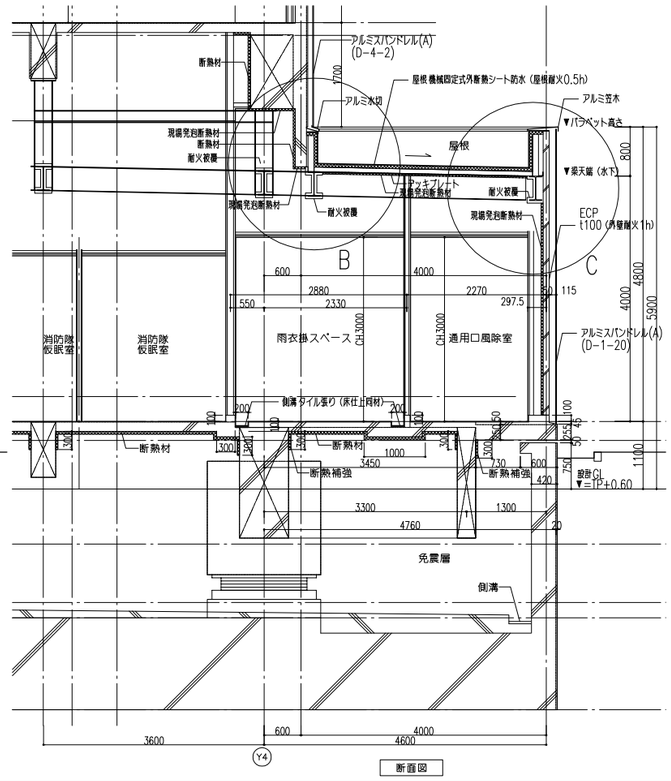
B部及びC部詳細図 1:20



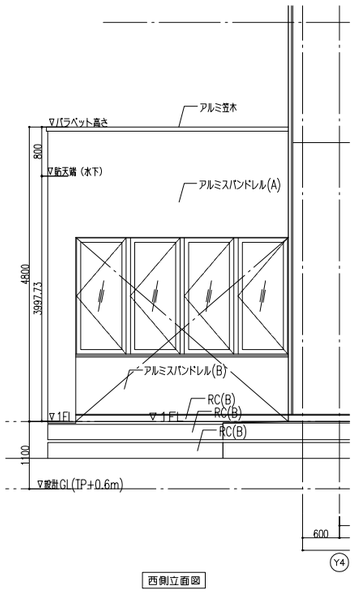
D部詳細図 1:5



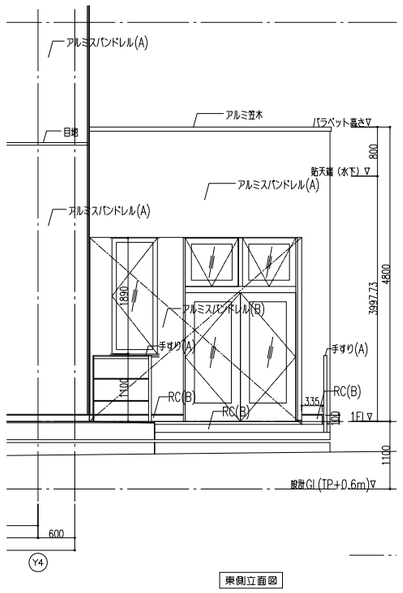
断面図



断面図

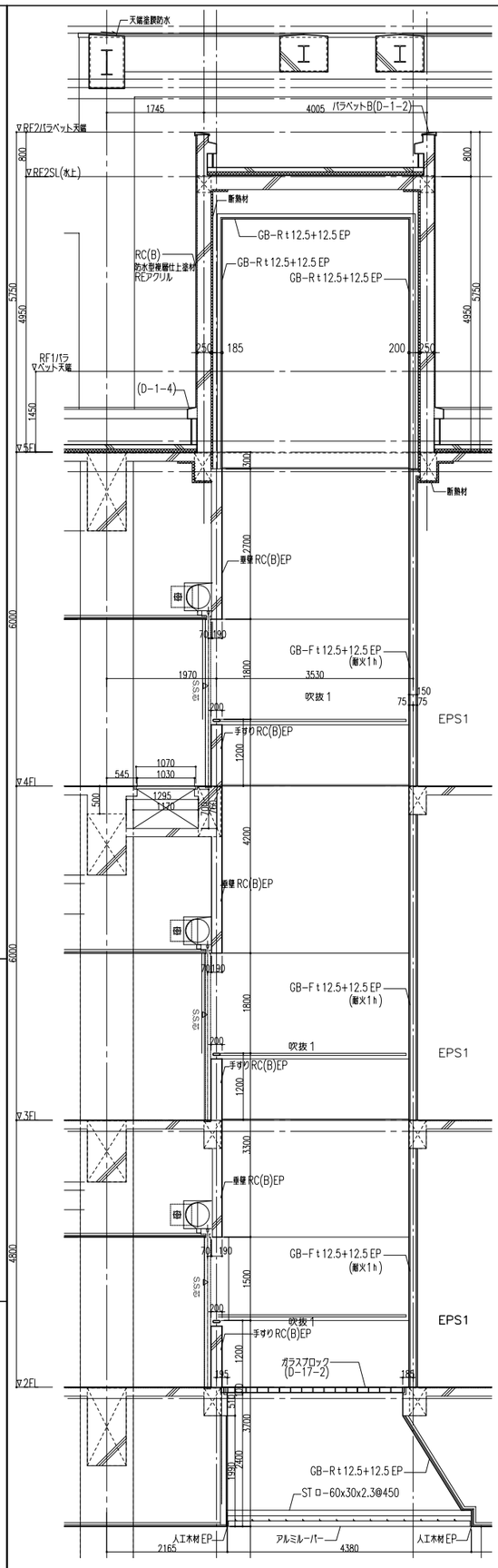


西側立面図

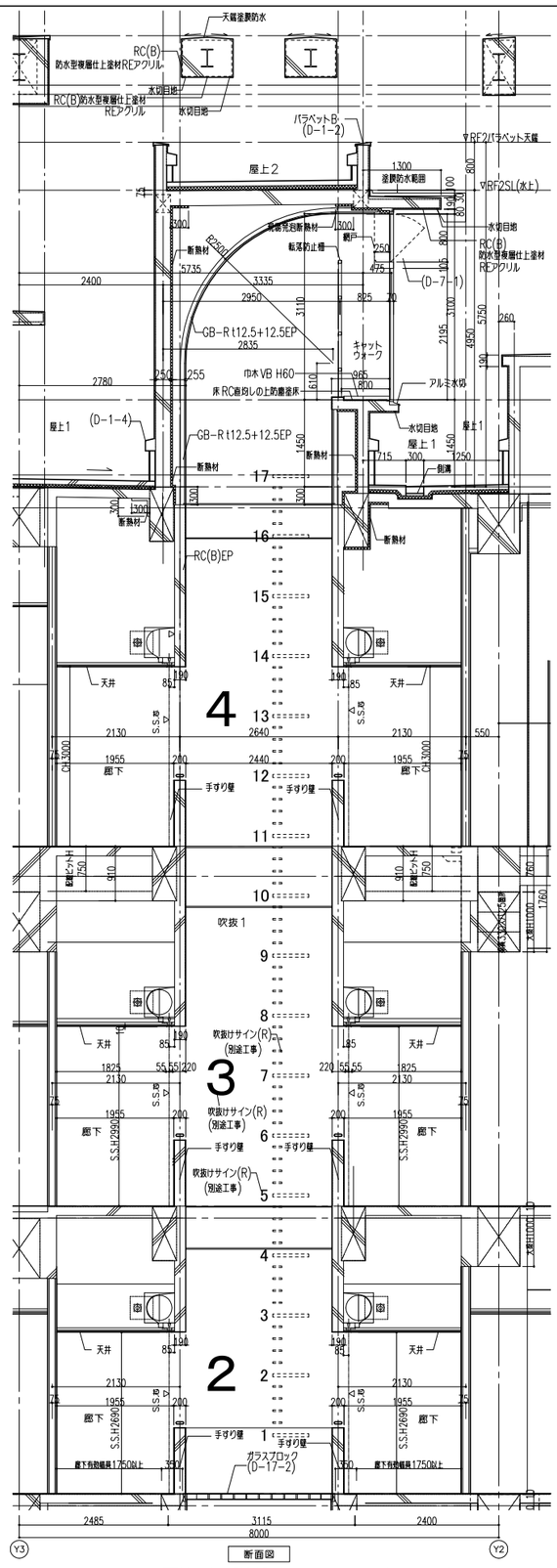


東側立面図

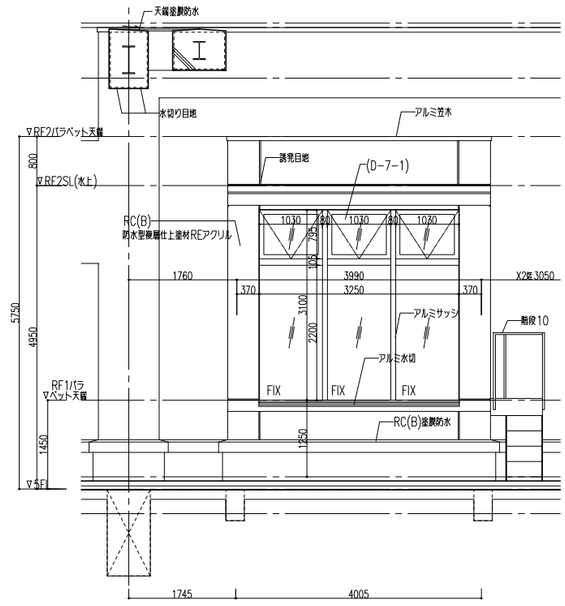
安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第129267号 高田 茂	新潟市建築部公共建築第1課	工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟建設工事	図名 通用口廻り詳細図	
			年月日 2013.03.01	縮尺 A1:1/50, A3:1/100
			図面番号	A-36



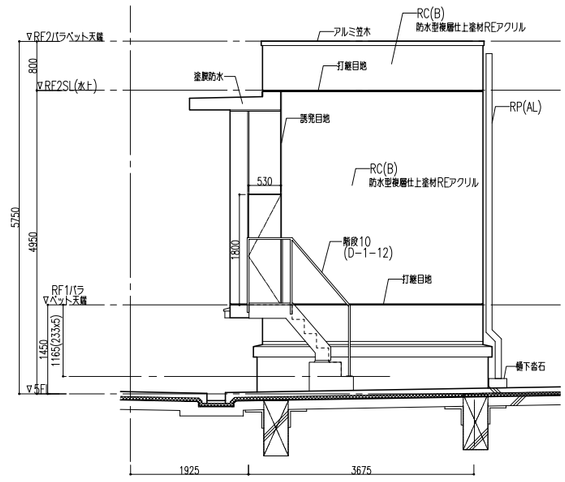
断面図



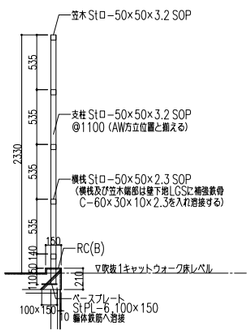
断面図



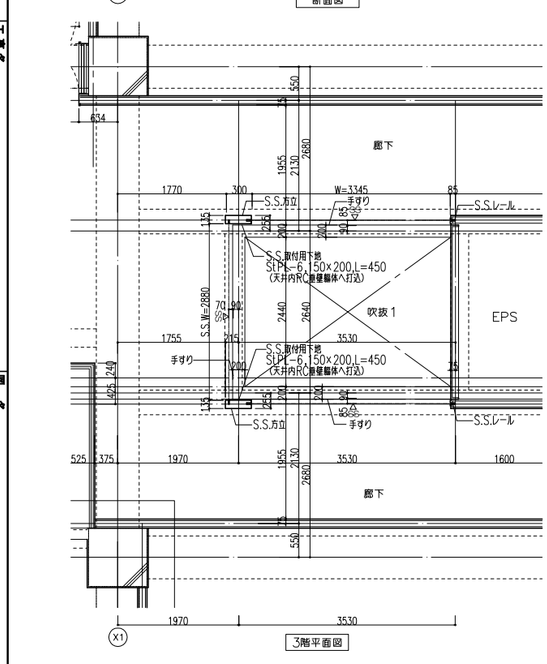
5階南側立面図



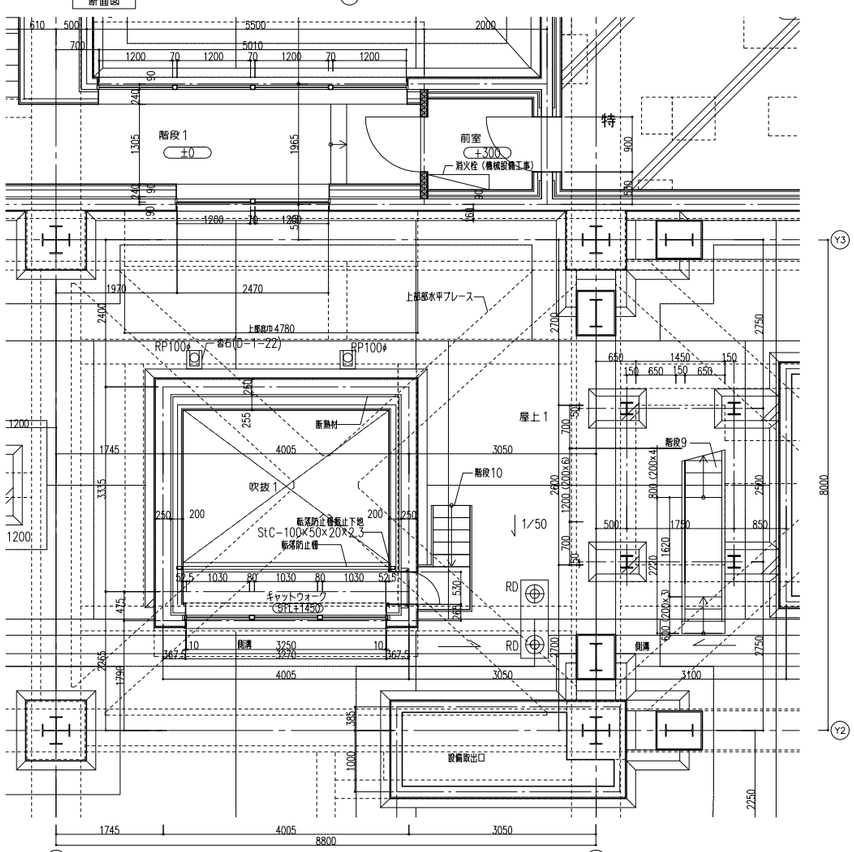
5階東側立面図



転落防止柵詳細図 1:30



3階平面図



5階平面図

安井・太陽設計共同体
管理建築士一級建築士第122637号 高田 茂

新潟市建築部公共建築第1課

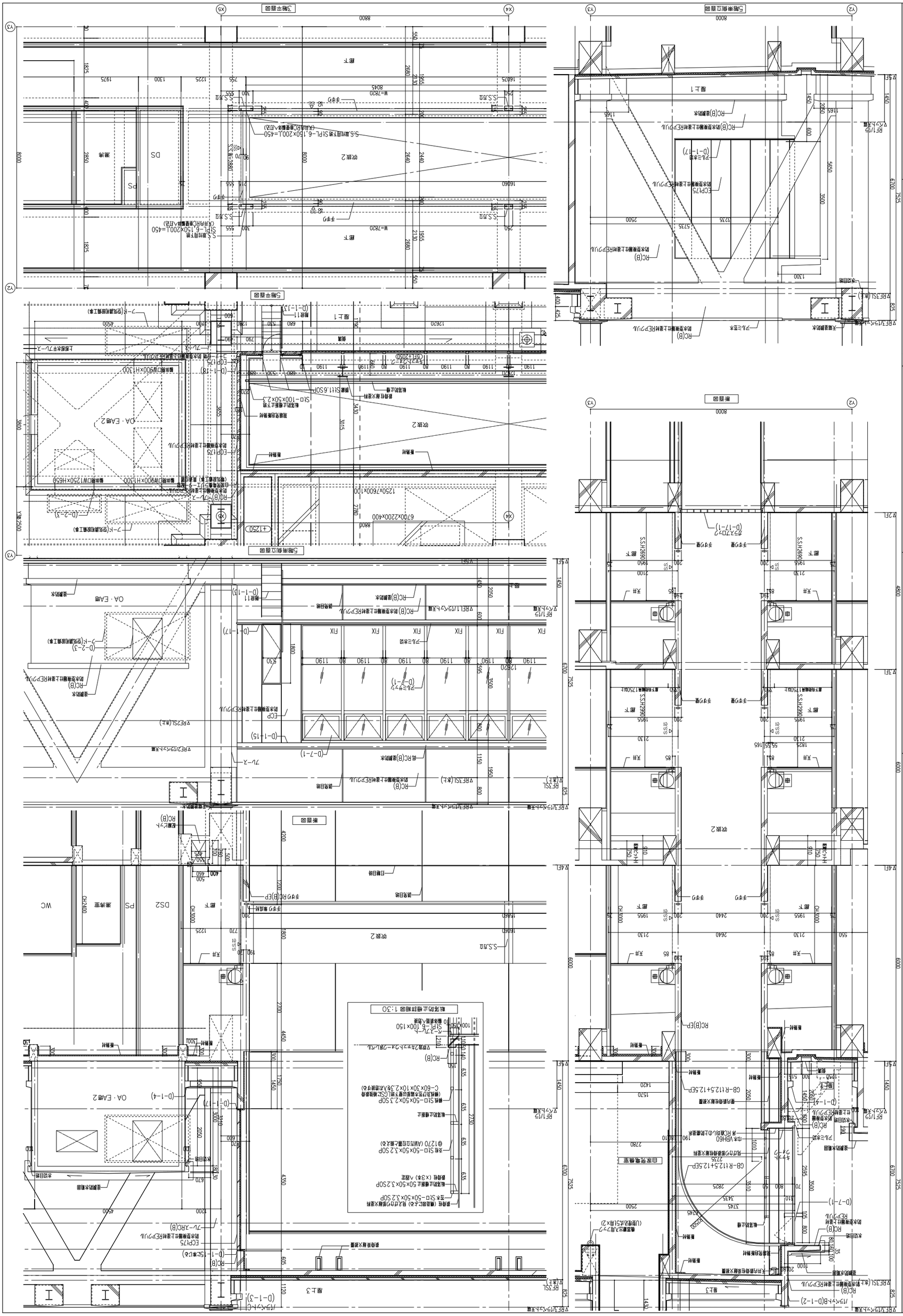
工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟建設工事

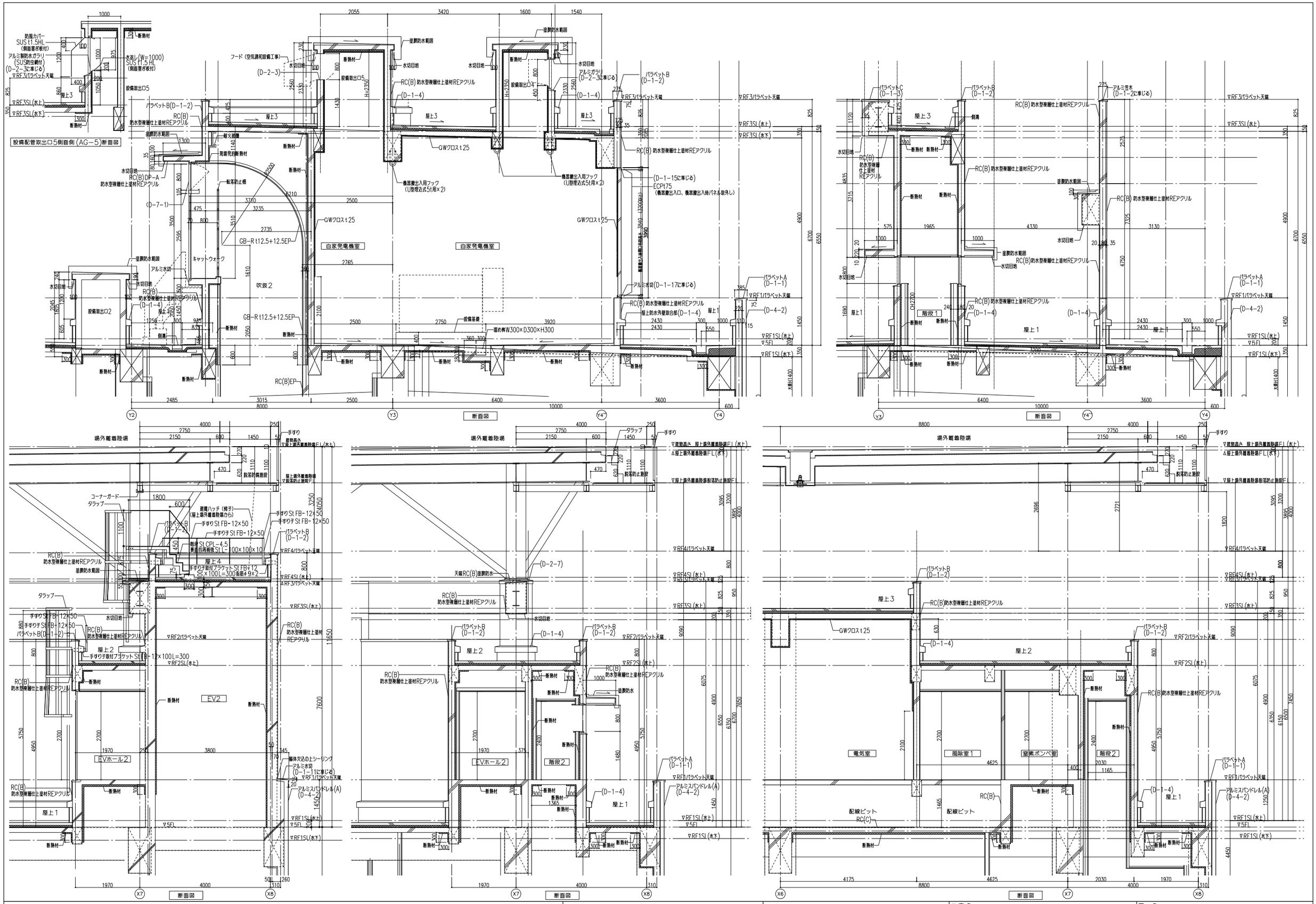
年月日 2013.03.01

図名 吹抜1廻り詳細図

縮尺 A1:1/50, A3:1/100

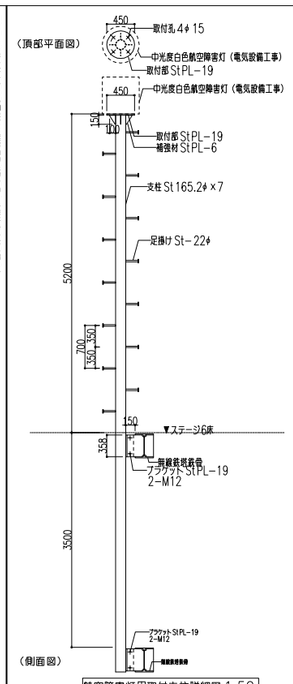
図面番号 A-37


3階平面図
5階平面図
5階南側立面図
5階東側立面図
断面図
屋上1
屋上3
吹放2
DS
PS
DS2
WC
測定室
廊下
階段
OA・EA機2
自家発電機室
敷地防止壁詳細図 1:30
新潟市建築部公共建築第1課
安井・太陽設計共同体
管理建築士一級建築士第12928号 高田 茂
新潟市消防局・中央消防署庁舎棟建設工事
吹抜2階り詳細図
A-38

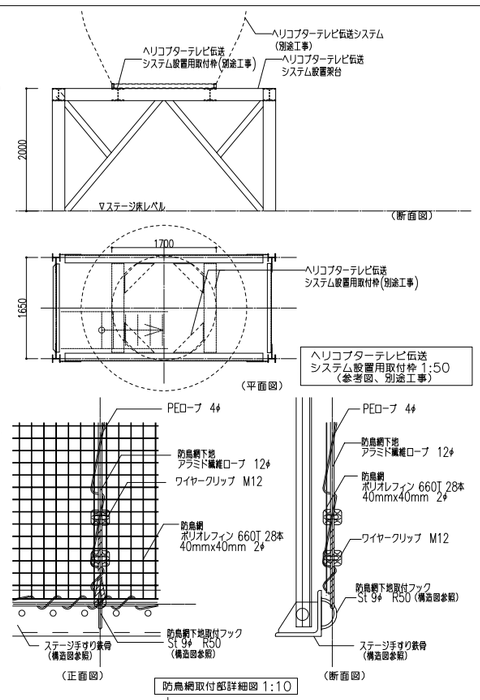


安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第129267号 高田 茂	新潟市建築部公共建築第1課	工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟建設工事	図名 屋上(5階)廻り詳細図
		年月日 2013.03.01	縮尺 A1:1／50, A3:1／100
			図面番号 A−39

アンテナや航空障害灯の設置箇所には防護柵及び昇降梯子は無線鉄塔の上下関係及び建築物所有者と協議し、必要に応じて工夫をお願いします。

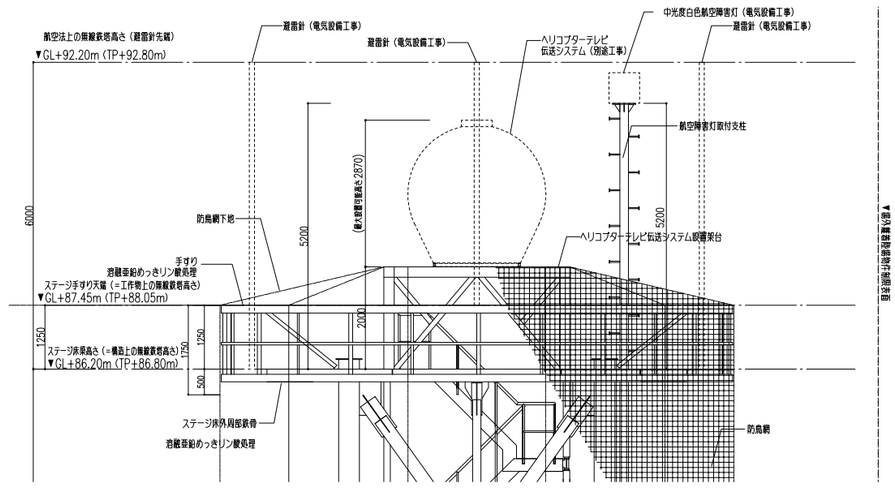


航空障害灯用取付支柱詳細図 1:50

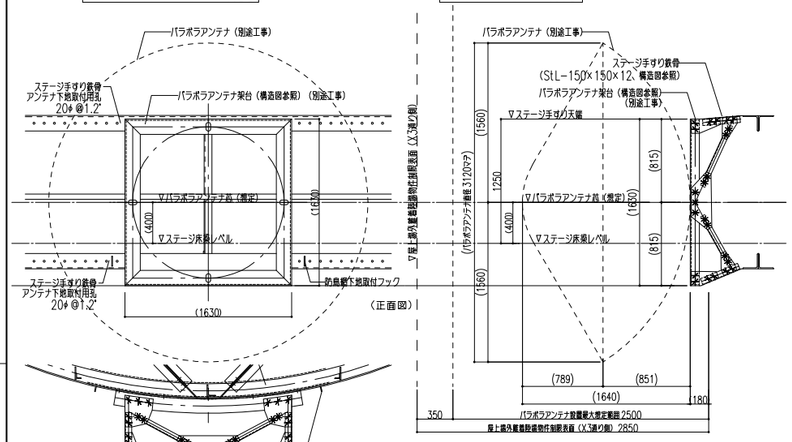


ヘリコプターテレビ伝送システム設置用取付枠 1:50
(参考図、別途工事)

防鳥網取付部詳細図 1:10

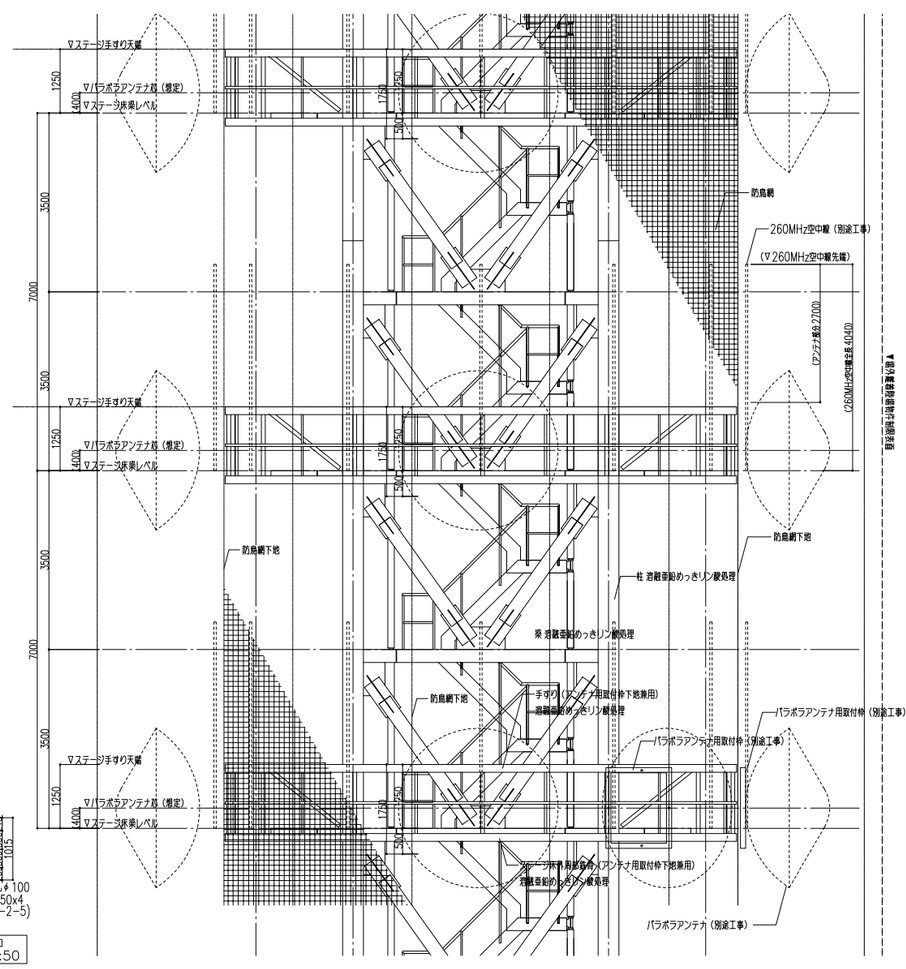


頂部立面図

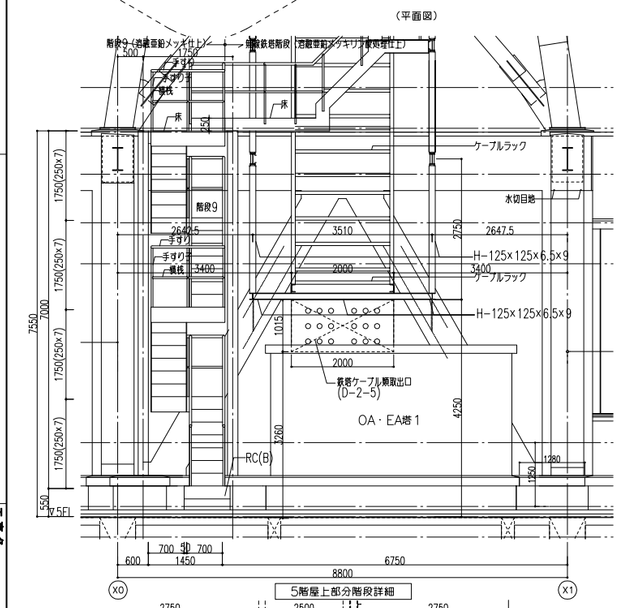


パラボラアンテナ用取付枠 1:30
(参考図、別途工事)

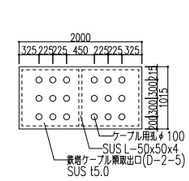
(アンテナ取付枠及び設置架台共通)
・アンテナ取付枠及び設置架台は設置するアンテナの仕様や数量にあわせて検討、製作すること
・設置するアンテナの使用及び位置に応じて、構造上の荷重条件に適合することを確認すること。



中央部立面図

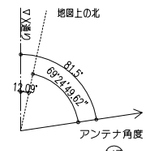


5階屋上部分階段詳細

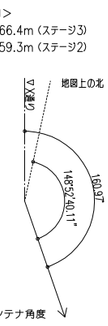


鉄塔ケーブル類取出口
ケーブル用開口詳細図 1:50
※ケーブル用孔開口処理は別途工事

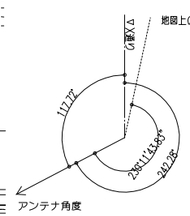
<北消防署方向>
アンテナ高さ:TP+73.4m(ステージ4)

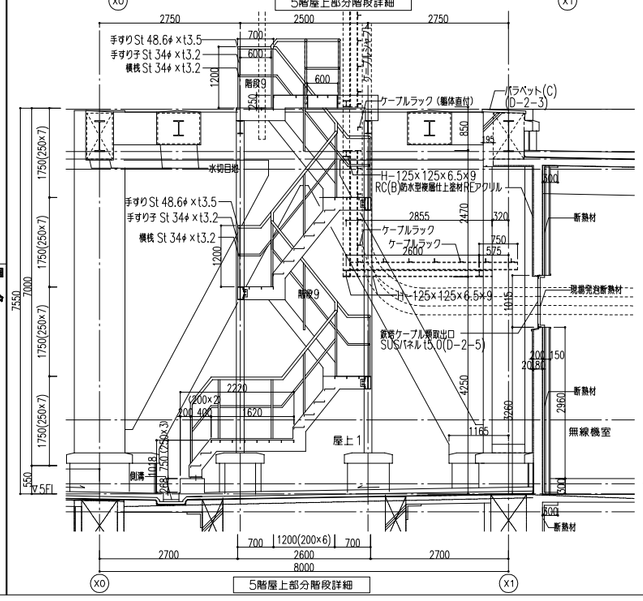


<秋葉消防署方向>
アンテナ高さ:TP+66.4m(ステージ3)
TP+59.3m(ステージ2)

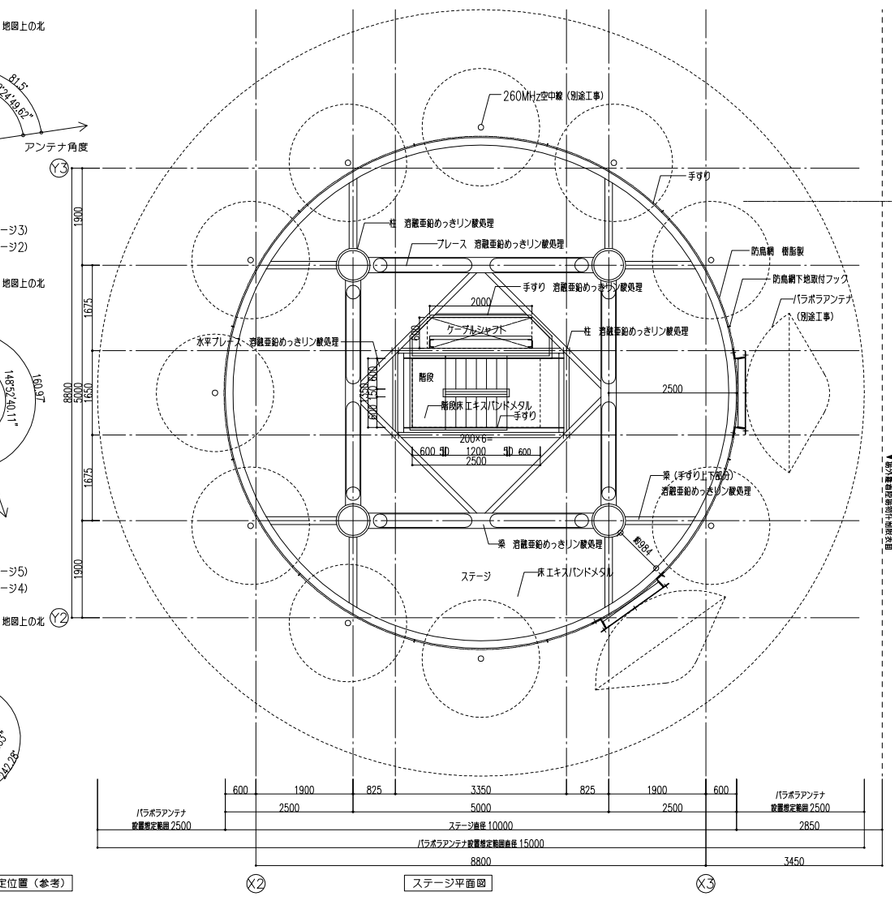


<西蒲消防署方向>
アンテナ高さ:TP+80.2m(ステージ5)
TP+73.2m(ステージ4)





5階屋上部分階段詳細



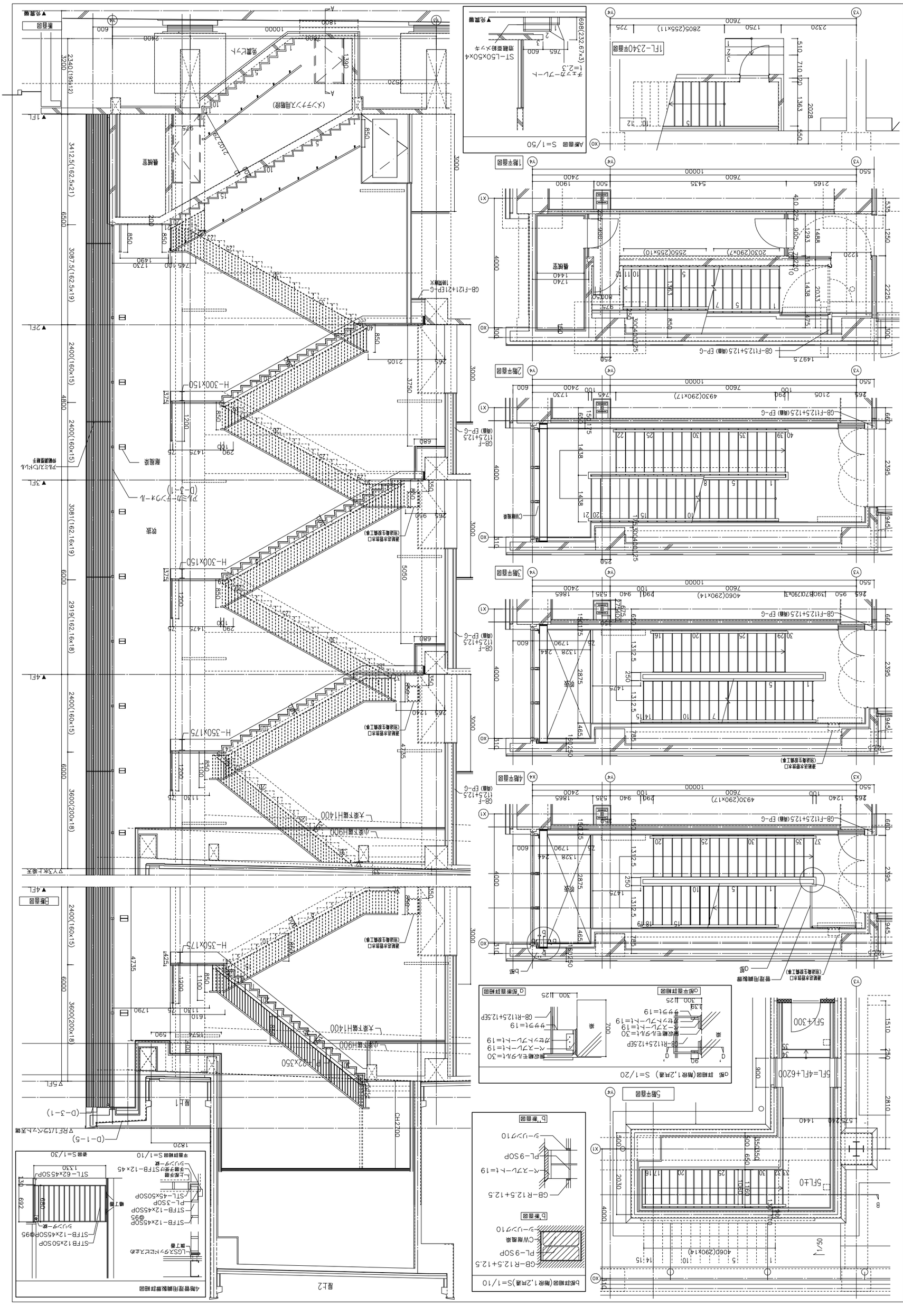
ステージ平面図

パラボラアンテナ設置想定位置(参考)

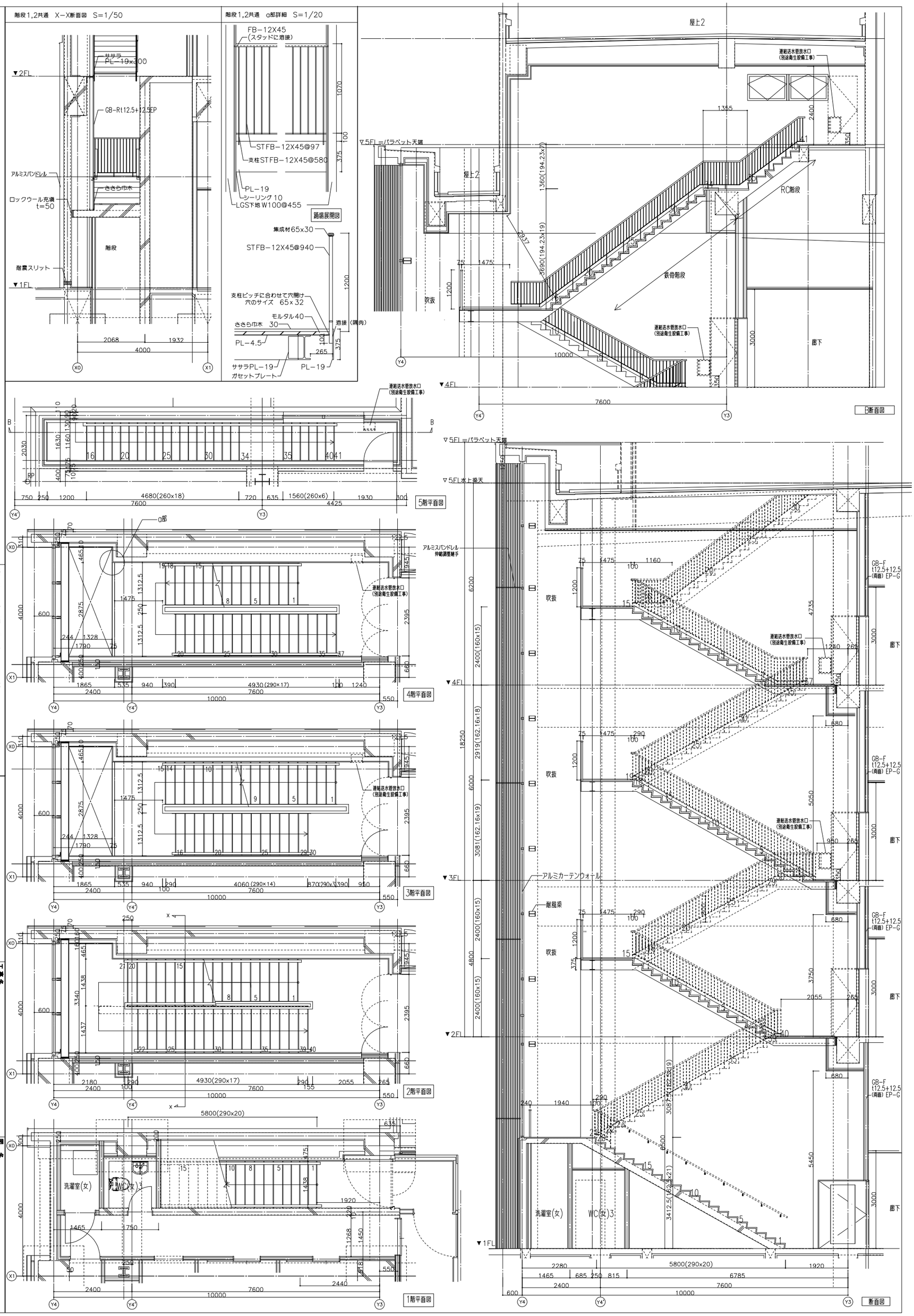
工事名	新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎模型工事
図名	無線鉄塔詳細図
年月日	2011.10.01
縮尺	A0/A1縮尺、A3/1/30、縮尺2
図面番号	A-40

安井・太陽設計共同体
管理建築士一級建築士第129267号 高田 茂

新潟市建築部公共建築第1課


1階平面図
2階平面図
3階平面図
4階平面図
5階平面図
A断面図 S=1/50
B断面図
C断面詳細図
D断詳細図(階段1,2共通)S=1/10
4階管理用鋼製扉詳図
平面詳細図S=1/10
姿図S=1/30
機械室
吹抜
(火ブチ)ス用階段)
免震ピット
B'断面図
C'断面詳細図
D断平面詳細図
階段1詳細図
1FL-2340平面図
階段1詳細図
工事名
新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟建設工事
新潟市建築部公共建築第1課
安井・太陽設計共同体
一級建築士 国土交通大臣登録 第269202号 清水 賢一
一級建築士一級建築士第129267号 高田 茂
改2013.01.22
改2012.11.26
改2012.11.21
A-41

改2013.01.22
改2012.11.26
改2012.11.21



一級建築士 国土交通大臣登録 第269252号 横木 賢一

安井・太陽設計共同体
管理建築士一級建築士第129267号 高田 茂

新潟市建築部公共建築第1課

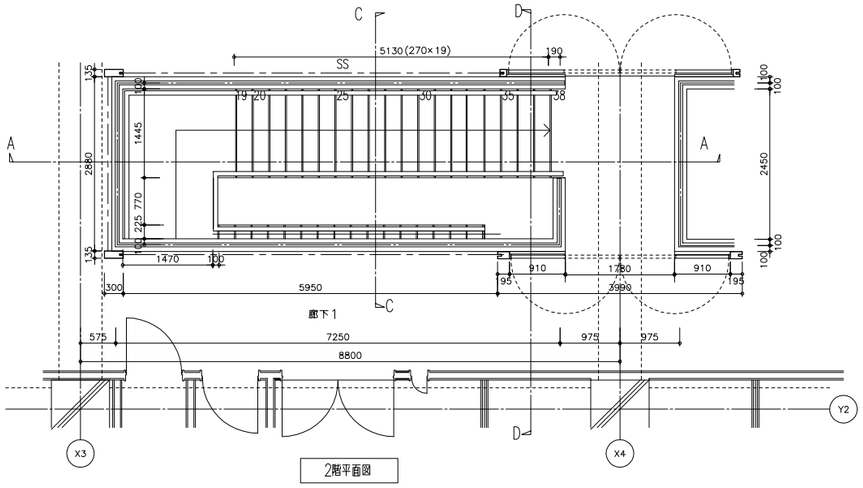
工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎建設工事

図名 階段2詳細図

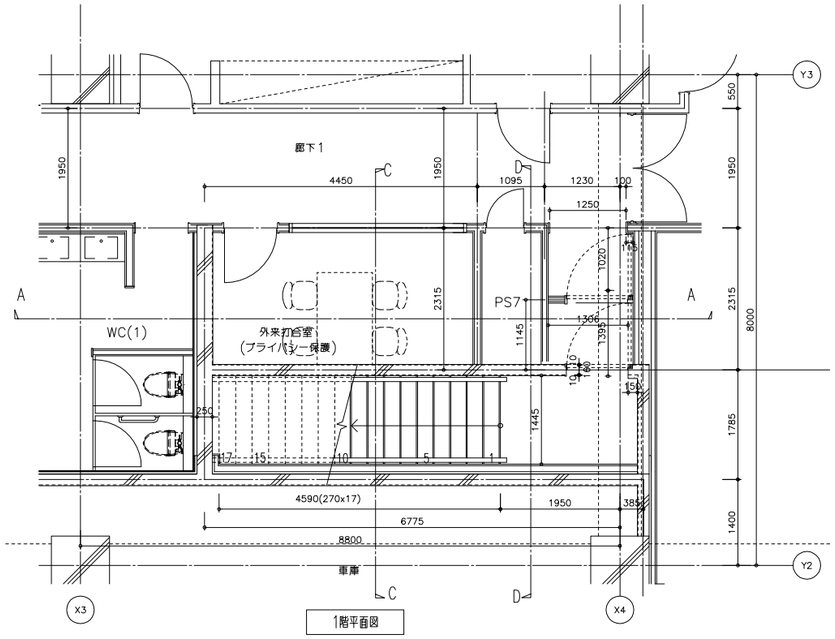
年月日 2013.01

縮尺 A1/2倍 A3/1/100

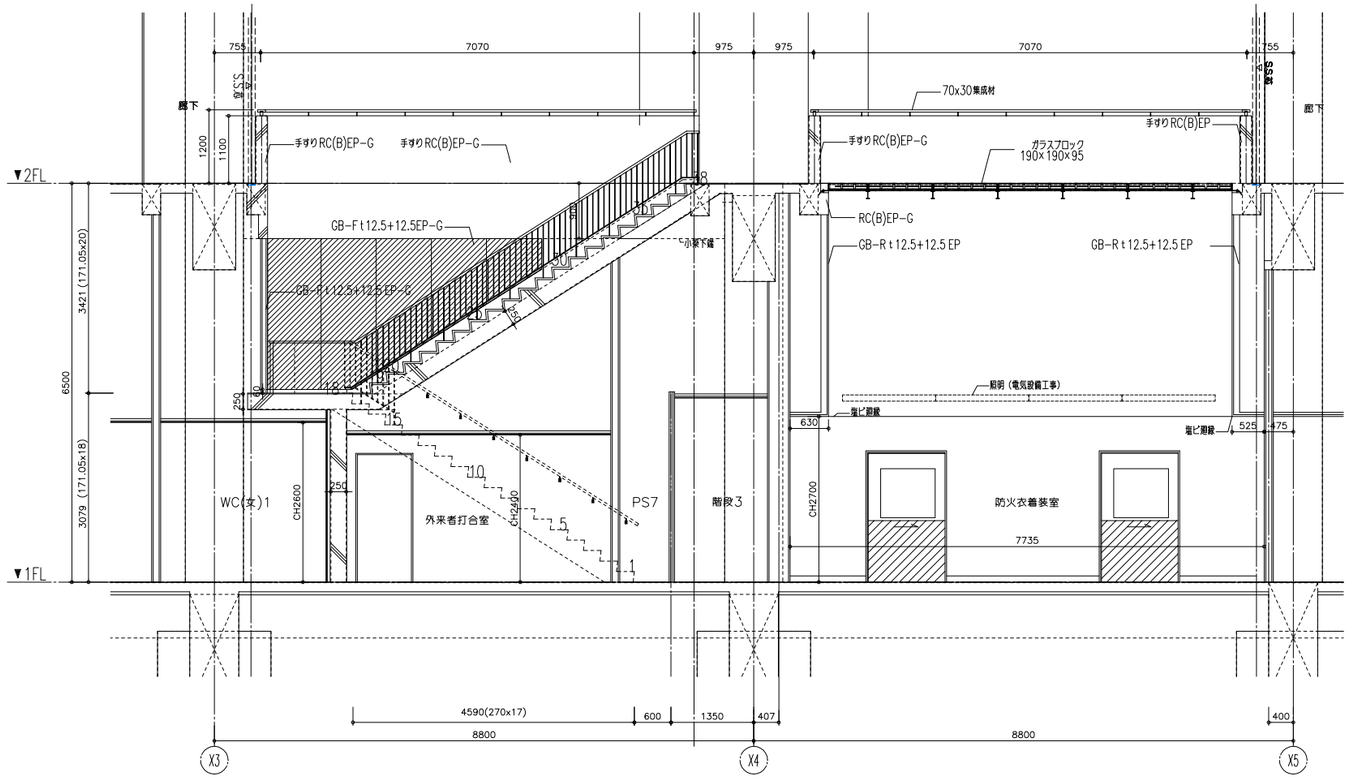
図面番号 計通-A-42
A-42



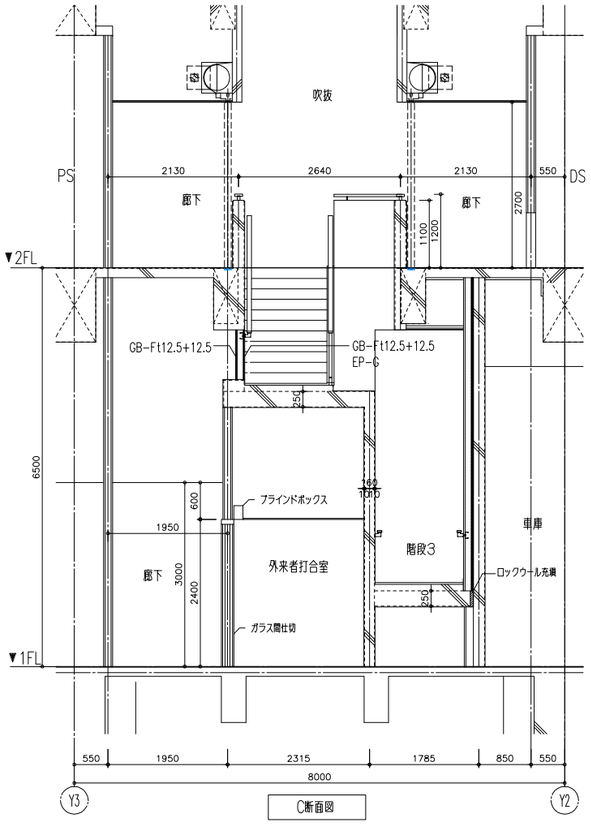
2階平面図



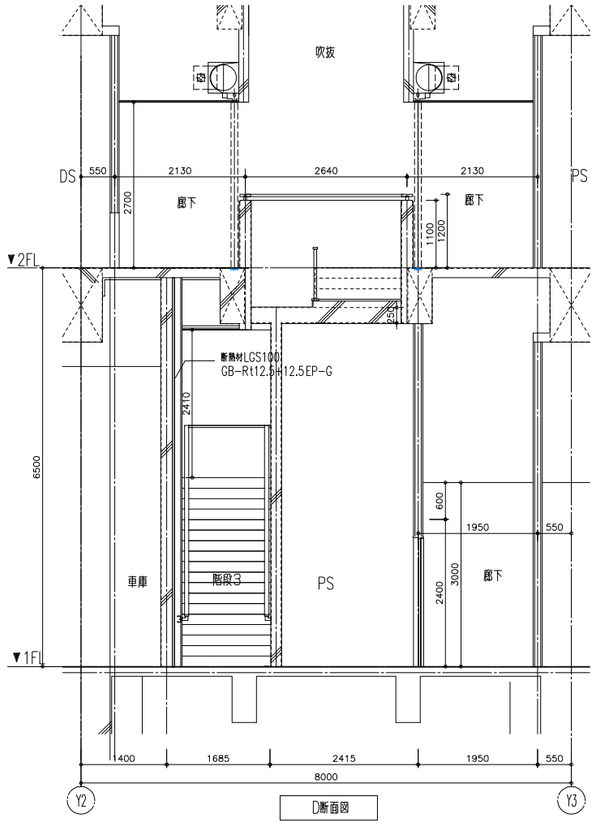
1階平面図



A断面図

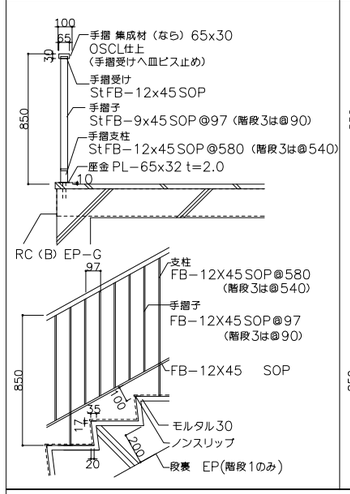


C断面図

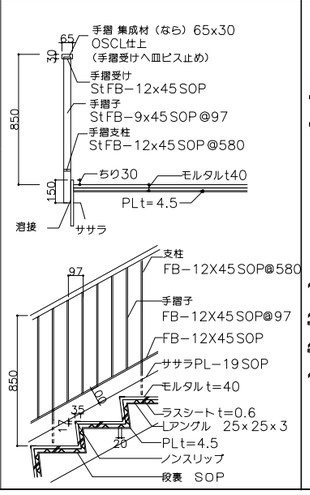


D断面図

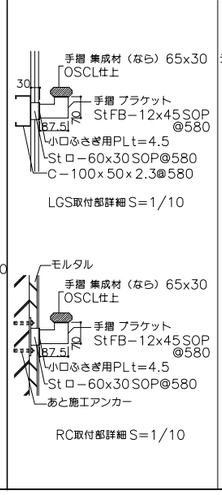
階段1,2,3手摺（内側）詳細図　RC階段部　S=1/20



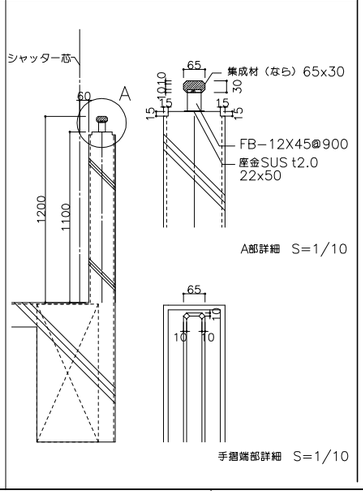
階段1,2,手摺（内側）詳細図　鉄骨階段部 S=1/20



階段1,2,3手摺（壁付け部）詳細図



吹抜手摺詳細　S=1/20,1/10



一級建築士 国土交通大臣登録 第269262号 楠木 賢一

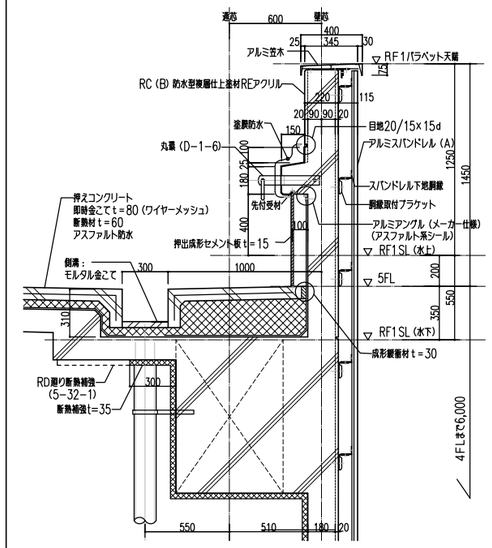
安井・太陽設計共同体
管理建築士一級建築士第129267号 高田 茂

新潟市建築部公共建築第1課

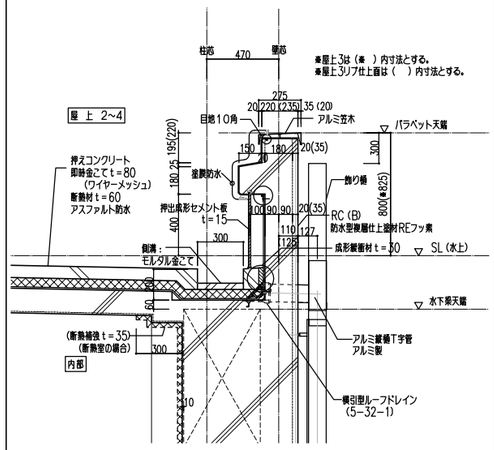
工事名
新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟建設工事

図名	階段3詳細図	計通-A-43
年月日 2013.03.01	縮尺 A1:1/50, A3:1/100	図面番号 A-43

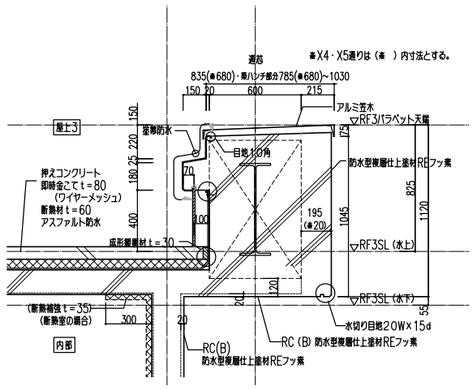
D−1−1 パラペット(A)詳細図 (屋上1) 1:20



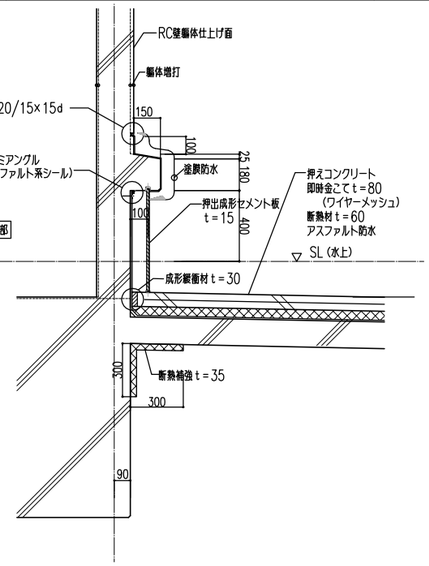
D−1−2 パラペット(B)詳細図 (屋上2,3,4) 1:20



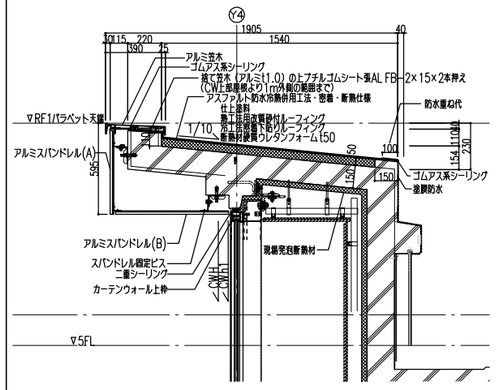
D−1−3 パラペット(C)詳細図 (鉄塔,場外離着陸場鉄塔支持部) 1:20



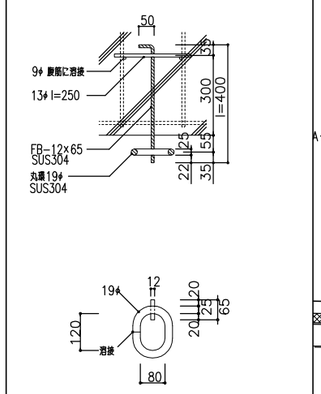
D−1−4 屋上防水立上り外壁取合部詳細図 (屋上共通) 1:20



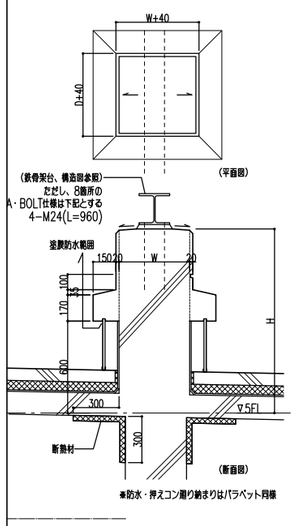
D−1−5 階段1、2上部パラペット詳細図 1:20



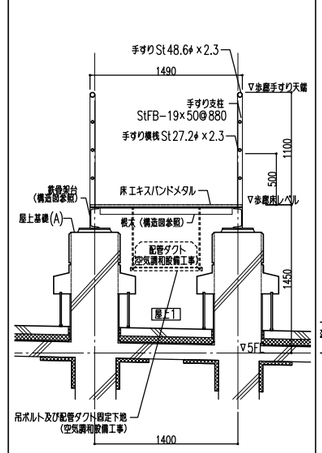
D−1−6 丸環詳細図 1:10



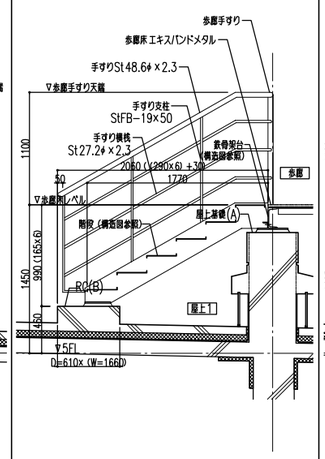
D−1−7 屋上基礎詳細図 1:20



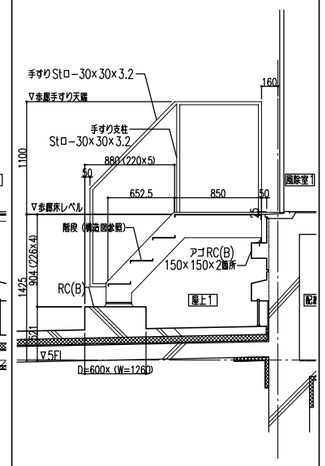
D−1−8 屋上歩廊詳細図 1:30



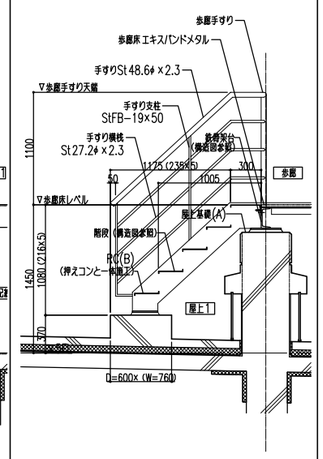
D−1−9 階段6詳細図 1:30



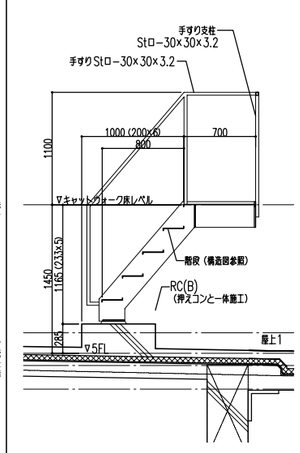
D−1−10 階段7詳細図 1:30



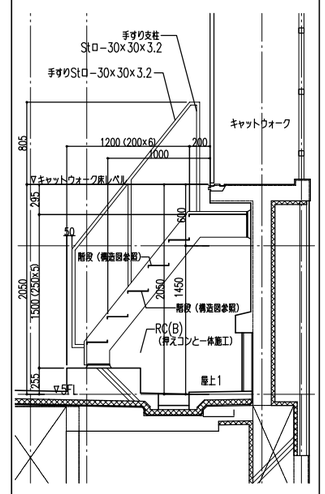
D−1−11 階段8詳細図 1:30



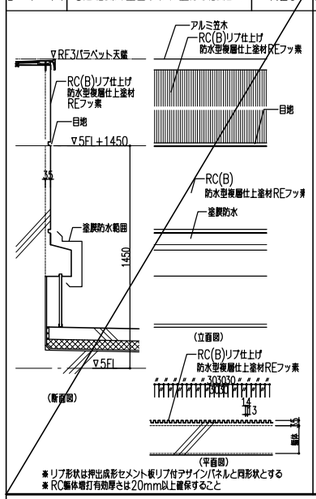
D−1−12 階段10詳細図 1:30



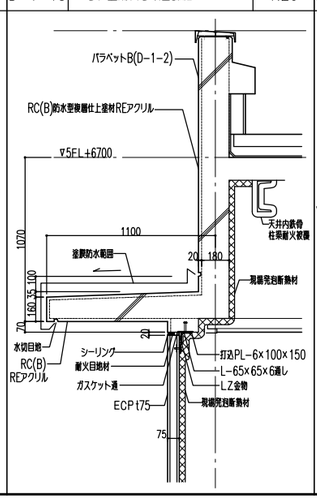
D−1−13 階段11詳細図 1:30



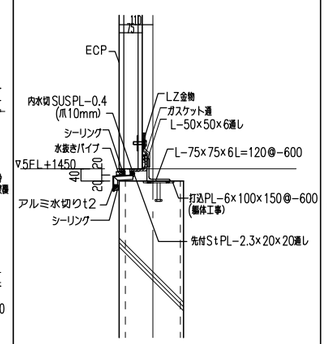
D−1−14 5階北側外壁面リブ仕上形状詳細図 1:20



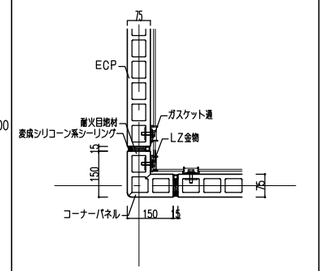
D−1−15 ECP上端RC取合詳細図 1:20



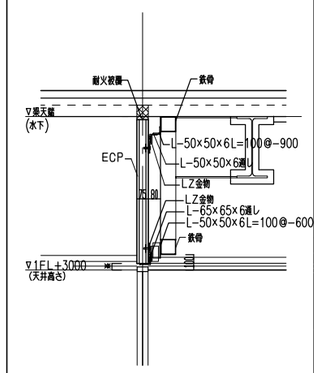
D−1−17 ECP下端RC取合詳細図 1:10



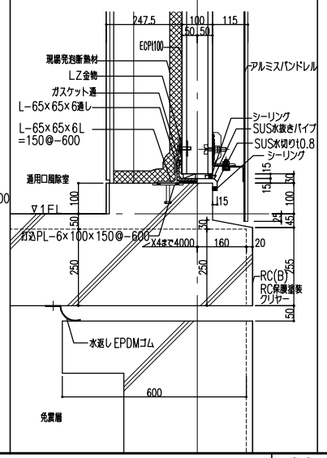
D−1−18 ECPコーナー廻り詳細図 1:10



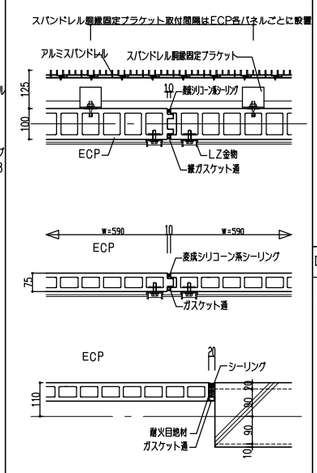
D−1−19 ECP垂壁詳細図 (1階通用口廻り) 1:10



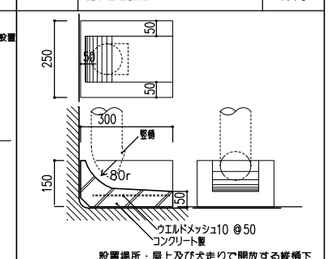
D−1−20 ECP下端詳細図 (1階通用口廻り) 1:10



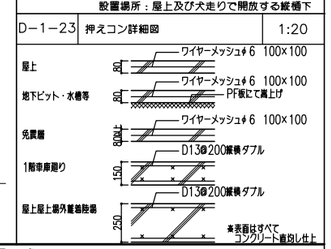
D−1−21 ECP詳細図 (平面図)
(スパンドレル取付部、一般部) 1:10



D−1−22 幅下畳石詳細図 1:10

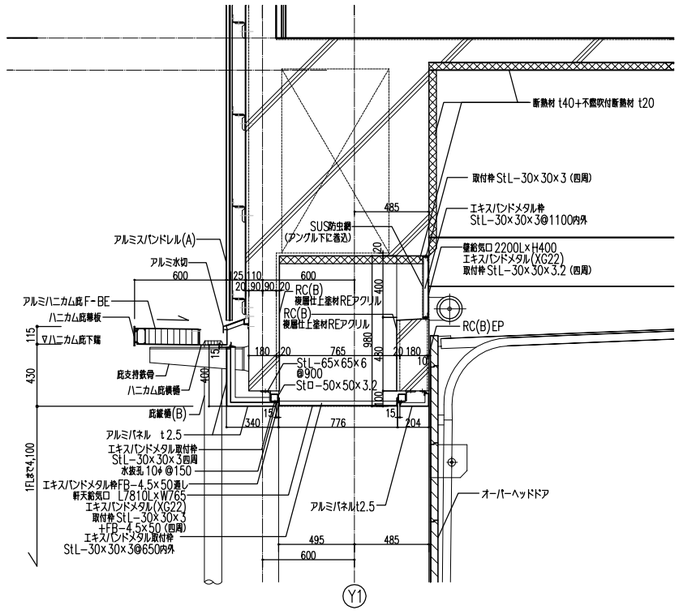


D−1−23 押えコン詳細図 1:20

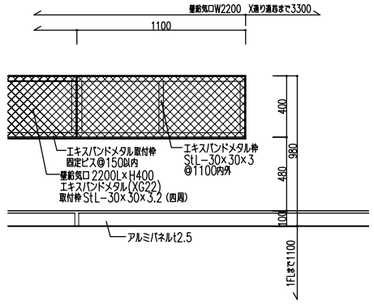


安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第129267号 高田 茂	新潟市建築部公共建築第1課	工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟建設工事	図名 部分詳細図 (1)	
			年月日 2012.12.21 / 縮尺 A1:図示 A3:図示1/2	図面番号 A-44

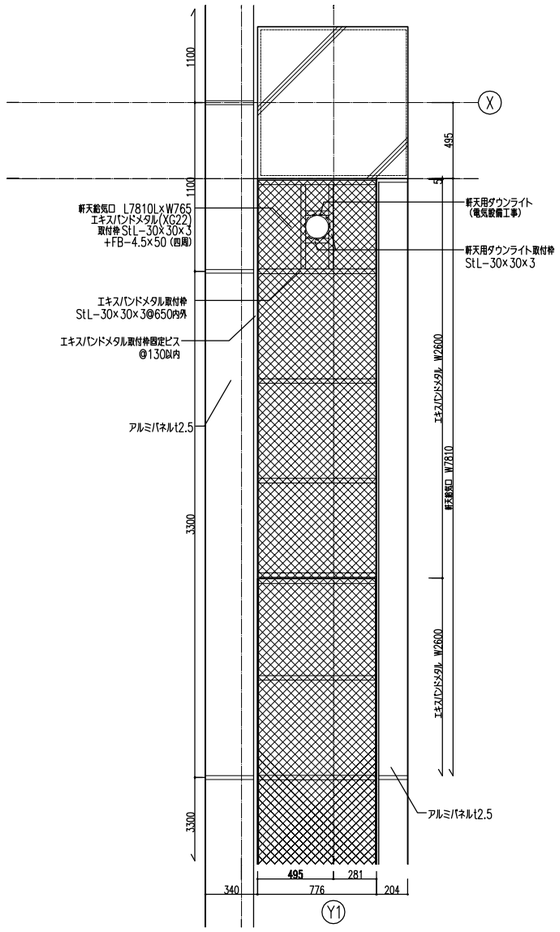
D−2−1 車庫軒天給気口及び壁給気口廻り詳細図 1:20



断面図

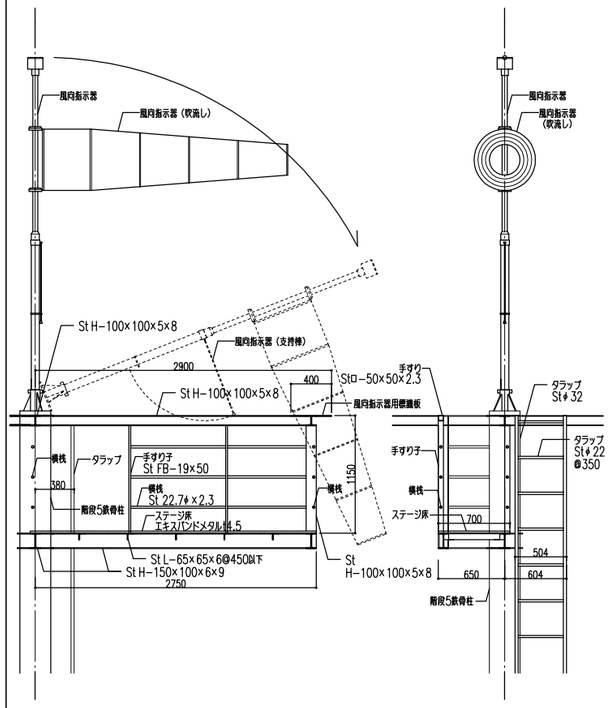


壁給気口正面図

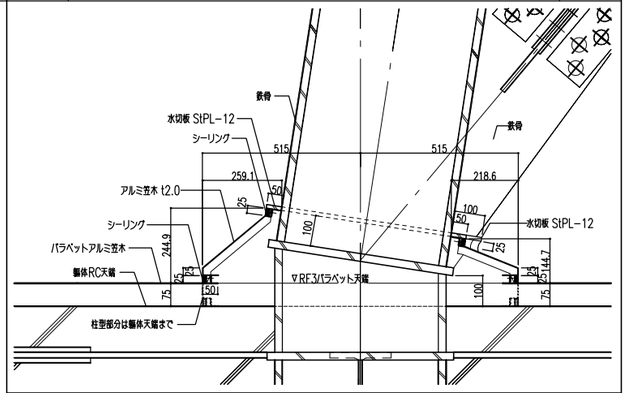


天井伏図 (軒天給気口)

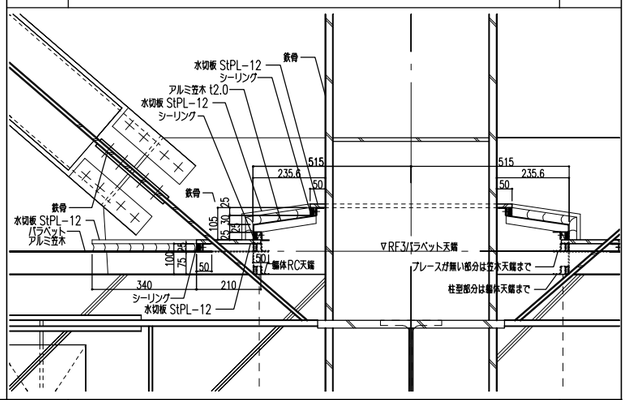
D−2−6 屋上塔外雌着陸場 ステージ詳細図 (風向指示器メンテナンス用) 1:30



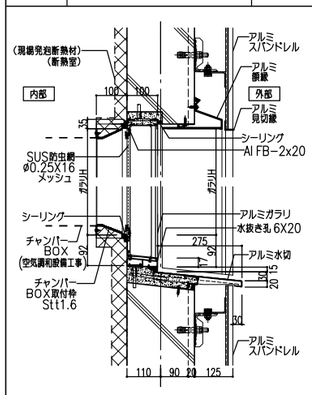
D−2−7 無線鉄塔鉄骨柱躯体取合詳細図 1:10



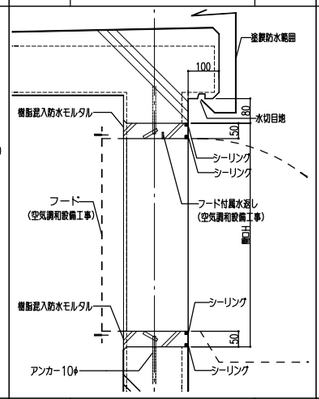
D−2−8 屋上塔外雌着陸場鉄骨柱躯体取合詳細図 1:10



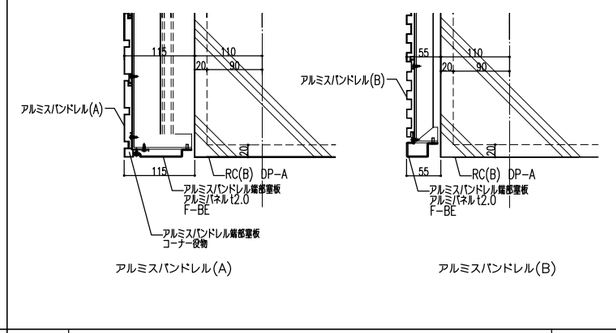
D−2−2 アルミガラリ廻り詳細図 1:10



D−2−3 設備フード取合詳細図 1:10

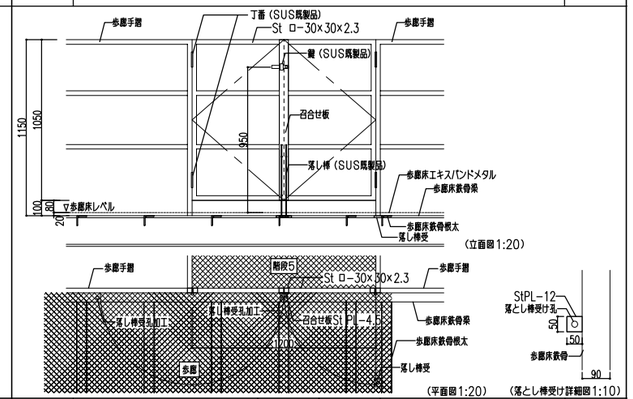


D−2−9 アルミスパンドレル小口塞板廻り詳細図 1:5

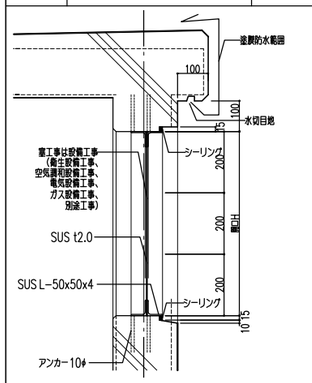


アルミスパンドレル(A)　アルミスパンドレル(B)

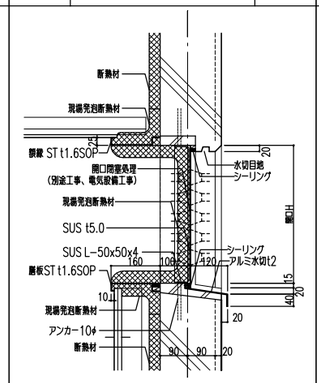
D−2−10 階段5門扉詳細図 1:10,1:20



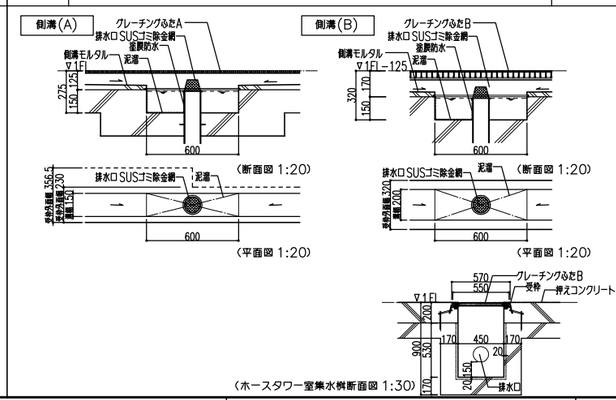
D−2−4 設備取出口開口部廻り詳細図 1:10



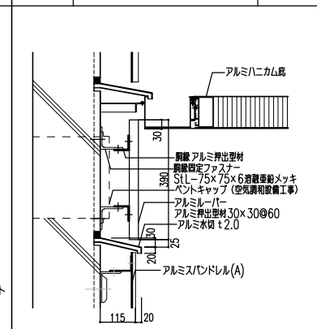
D−2−5 鉄塔ケーブル類取出口廻り詳細図 1:10



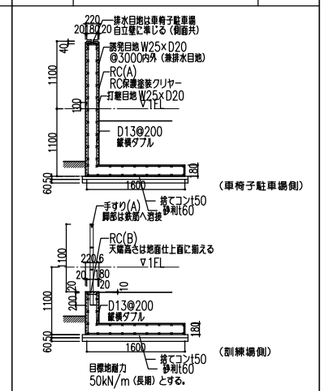
D−2−13 側溝(A),(B)排水溝廻り詳細図 1:20,1:30



D−2−11 油庫ガラリ詳細図 1:10

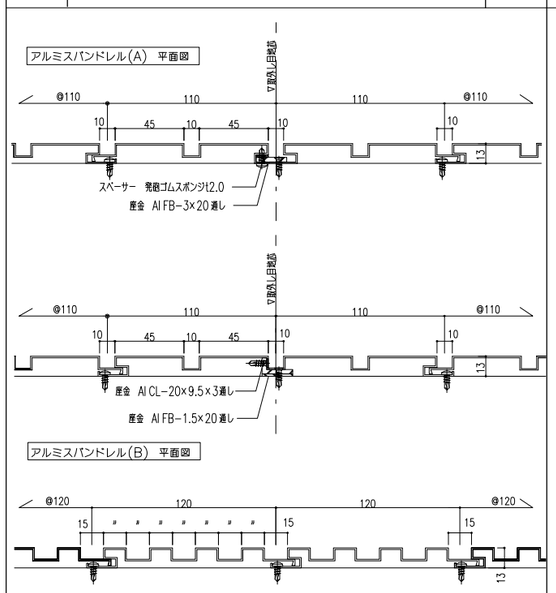


D−2−12 鞍壁詳細図 1:50



安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第129267号 高田 茂	新潟市建築部公共建築第1課	工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟建設工事	図名 部分詳細図 (2) 年月日 2012.12.21　縮尺 A1:図示 A3:図示/2　図面番号 A-45

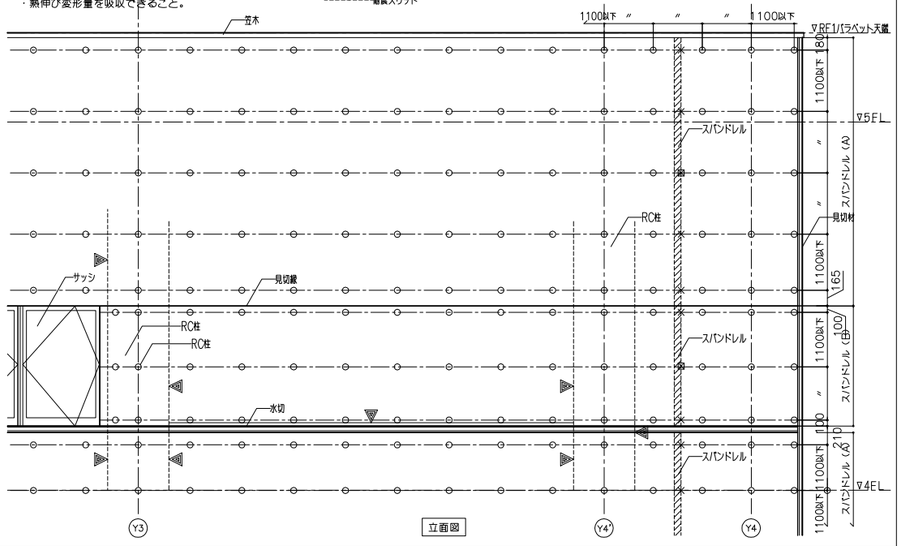
D-3-2 アルミスパンドレル及び取外し目地部詳細 1:2



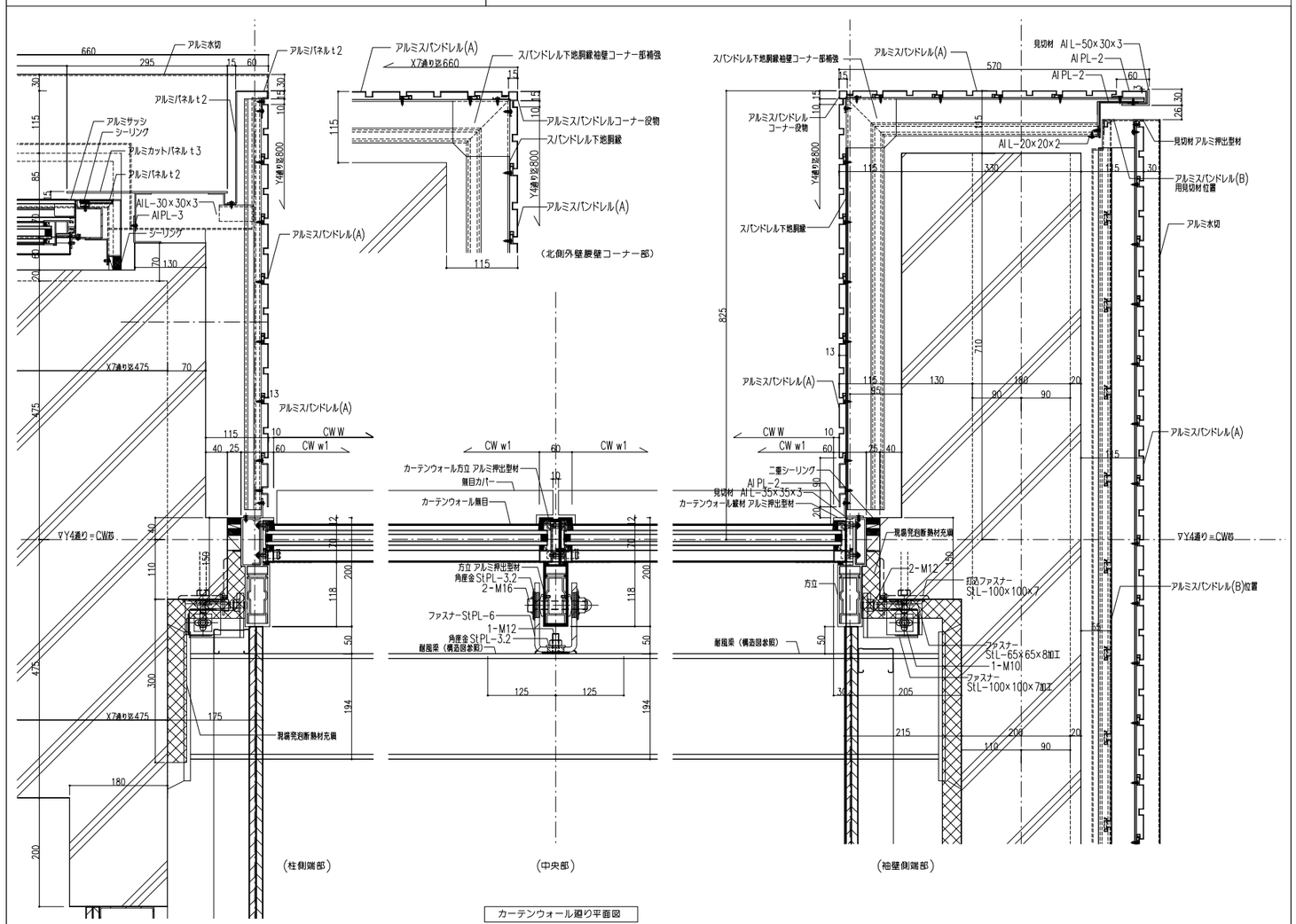
D-3-3 アルミスパンドレル下地及び固定ピス取付要領図 1:50

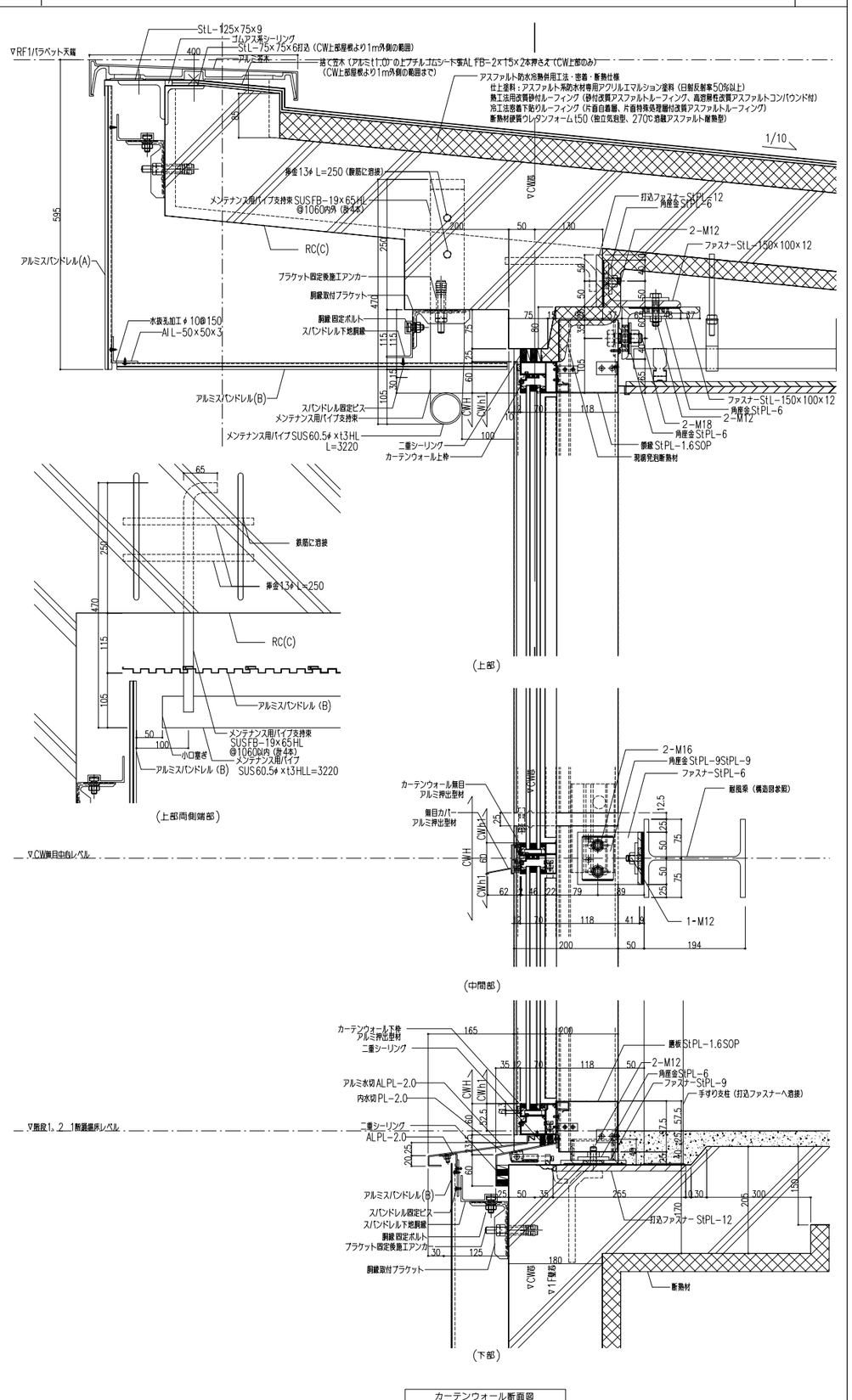
アルミスパンドレル及び下地・見切材等を含む外装システムとして以下の性能を満たすこと。
- 再現期間200年の風圧力に耐えられること。
- 層間変位角1/200で脱落、損傷しないこと。
  (耐震スリットを跨ぐ場合の変形差を吸収できること)
- 熱伸び変形量を吸収できること。

○ ブラケット(首内上下、首外ルーズホール加工)
——スパンドレル下地胴縁(首内左右スライド機構付き)
- - - 耐震スリット
× スパンドレル固定ピス位置(スパンドレル側に首内上下ルーズホール加工)
⊠ スパンドレル固定ピス位置(ルーズホール加工なし)



D-3-1 カーテンウォール詳細図(及びスパンドレルコーナー部) 1:5





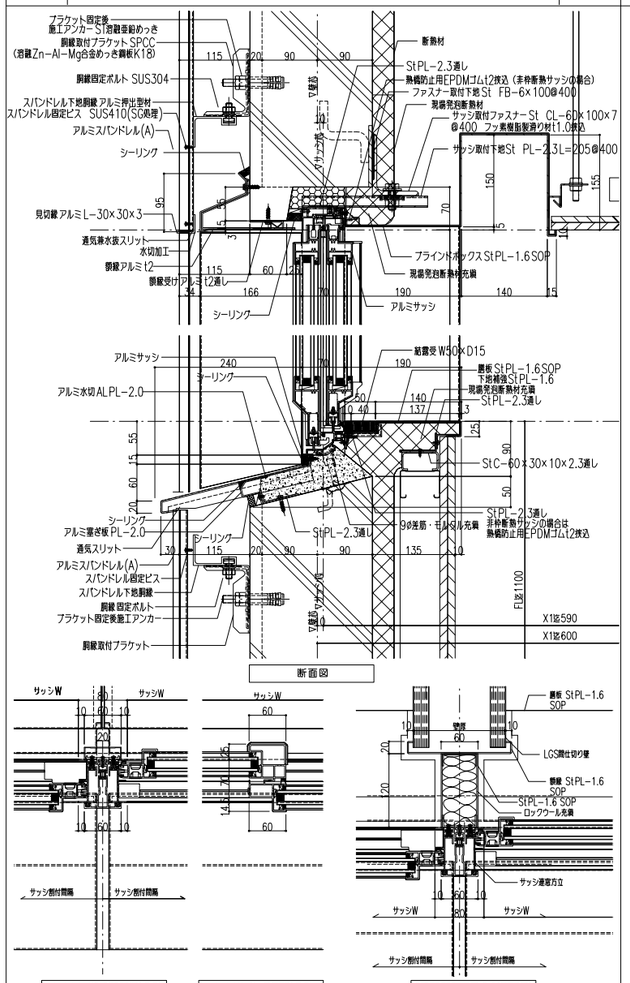
改2012.11.21

安井・太陽設計共同体
管理建築士一級建築士第129267号 高田 茂

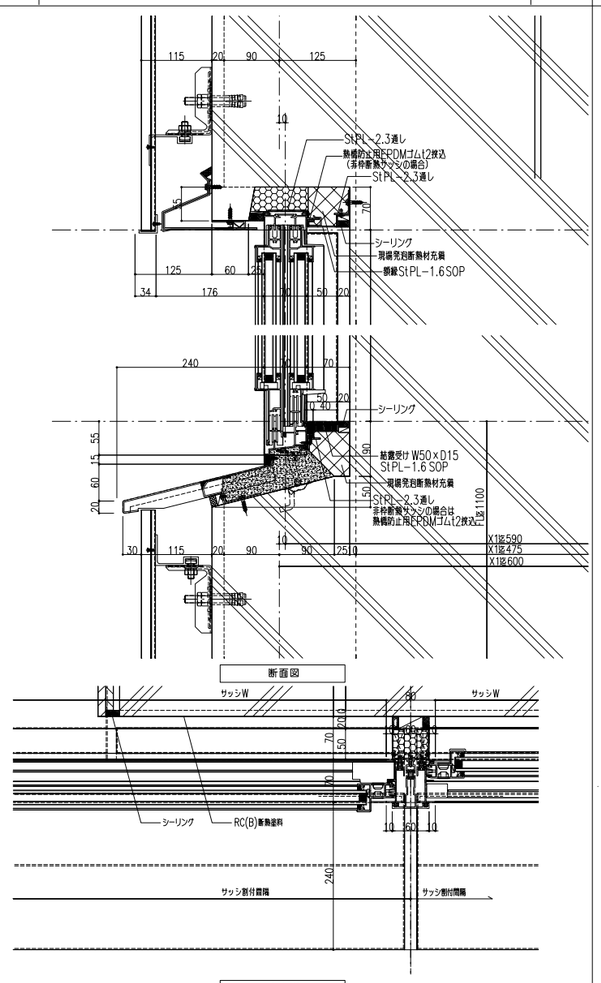
新潟市建築部公共建築第1課

工事名	図名	
新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟建設工事	部分詳細図 (3)	
年月日 2013.03.01	縮尺 A1:図示、A3:図示/2	図面番号 A-46

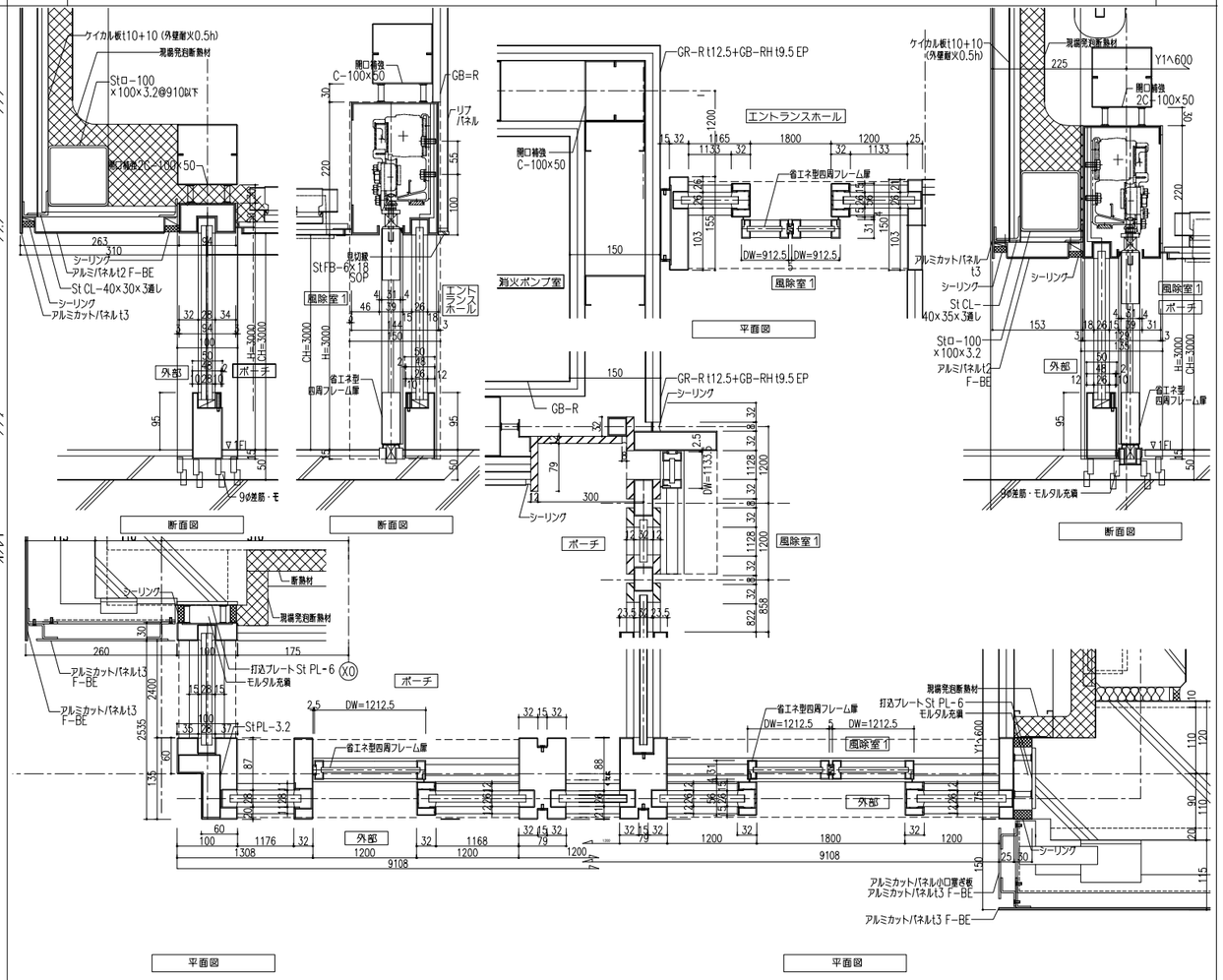
D−4−1 サッシ廻り詳細図（南北面一般部） 1:5



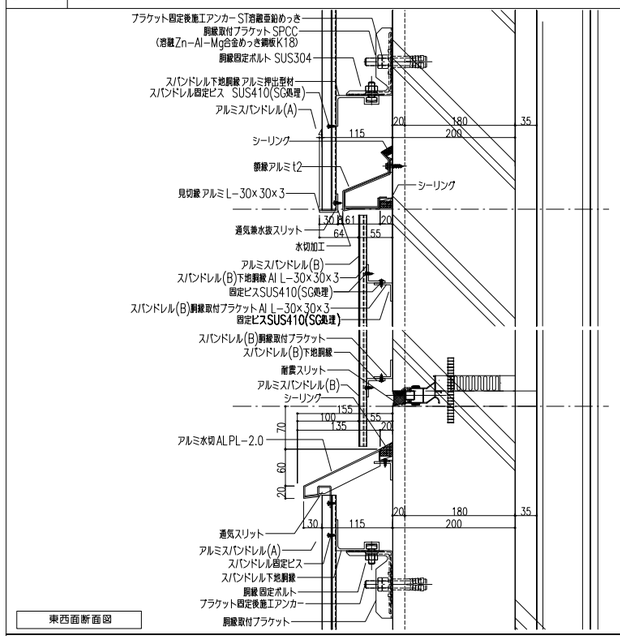
D−4−2 サッシ廻り詳細図（南北面柱取合） 1:5

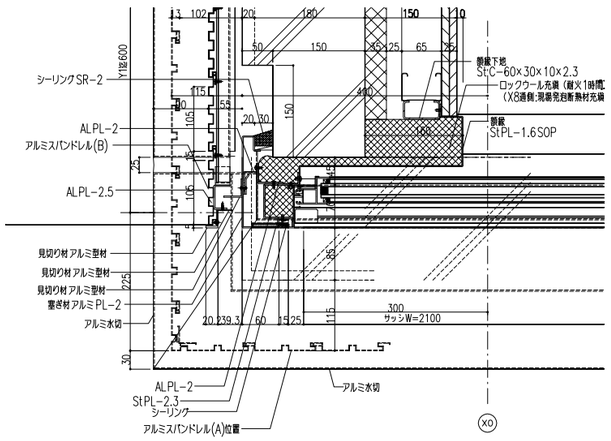


D−4−4 エントランス自動ドア廻り詳細図（SSDW−01,02,03） 1:5



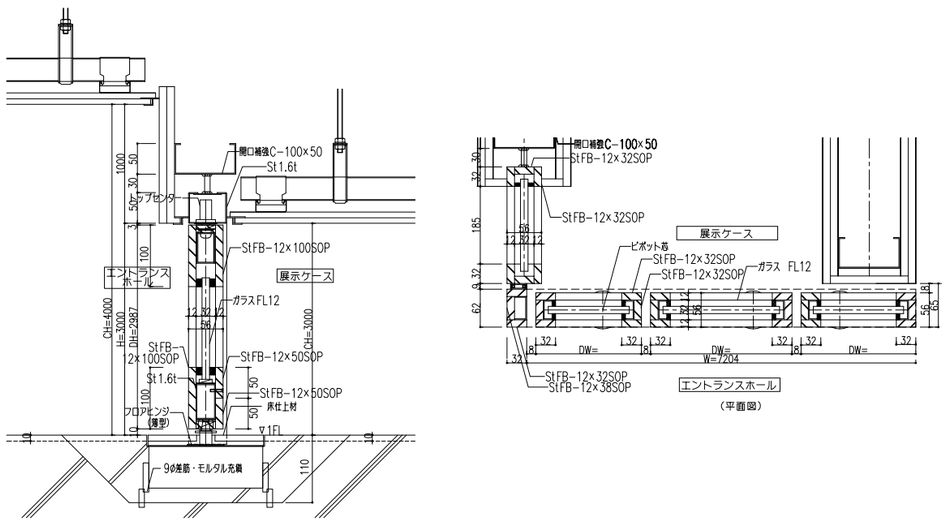
D−4−3 外壁スパンドレル廻り詳細図 1:5





【外部サッシ及びスパンドレルの層間変位追従性能は下記とする】
1/250：補修の必要無く継続使用出来る事。
1/200：主要部材に重大な変形、破損、脱落の無き事。

D−4−5 エントランスホールガラススクリーン廻り詳細図（SDW−03） 1:5



安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第129267号 高田 茂	新潟市建築部公共建築第1課	工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟建設工事	図名 部分詳細図（4）		
			年月日 2013.03.01	縮尺 A1:図示、A3:図示/2	図面番号 A−47

EXP.J(A)(B)(C)詳細図

各エキスパンションジョイント（以下EXP.J）は下記の性能を満足するものとすること。

［共通事項］

1．免震EXP.Jの変形性能は、軽微の擦り傷を除き変形量±600mmの円の範囲内で建物が動いても無損傷とする。
2．地震の最中には車両及び人員の通行は無いものとする。ただし地震終了後通常使用が可能なこと。
3．納品する免震EXP.Jは設計者立会の下、X・Y両時方向の実物可動検査を行い可動追従性能、可動時の安全性能を確認する事。
4．過去に震度6強の地震を経験した実績のある専門メーカーによる責任施工とする事。
5．EXP.Jの可動範囲内の建物躯体や仕上材、他のEXP.J、外構仕上げなどと可動時に干渉しない様に仕上げ精度に留意して施工すること。
6．固定側（建物側）のEXP.Jは本体を支持する部分は、地震時の加速度を伴った衝撃にも耐えうる様に十分な強度を持たせたSUS材とする事。（アルミ型材は不可とする。）
7．特記なき限り使用部材はSUS304材とする。強度等の関係によりSUS以外の鋼材などを使用する場合は溶融亜鉛めっき、亜鉛溶射、亜鉛アルミ溶射などの適切な防錆処理をすること。

［EXP.J(A),(B)共通事項］

1．残留変形±50mm対応とする。
2．EXP.J本体の材質は、SUS304 t=3.5とする。
3．EXP.Jは可動時に金物が突出し人体に被害を及ぼす可能性がある為、先端部はウィング式安全装置付とする。
4．可動範囲の仕上げを損傷させない仕様とする。せり上がり時の安全装置と仕上げの隙間については監督職員と設定値を決める事。
5．ウィング式安全装置の鎹番は耐久性と強度を考慮し、EXP.J本体に対し通しSUS連続鎹番とする。（部分的な取り付けは不可とする。）
6．本体皿底と躯体との接地面はSUS製の摩擦減少下地（フラット/パースノコ方式）を設ける。（地震時の加速度により急激に動いても滑り易くしておく）又、砂利等が溜まらない様にモルタル下地との間に空間を設ける構造とする。

［各部］

・EXP.J(A)　南側風除室前外構床：±600可動、歩行用、残留50mm対応、SUS t=3.5、水平浮上昇降装置付き

1．クリアランス内に安全浮上昇降装置を設置し、EXP.J本体を持ち上げて、極力水平に可動させる事により安全性を確保する事。
2．固定側も安全装置付きとし、避難時の安全にも配慮すること。
3．可動時にEXP.(C)と相互に干渉しないように調整すること。

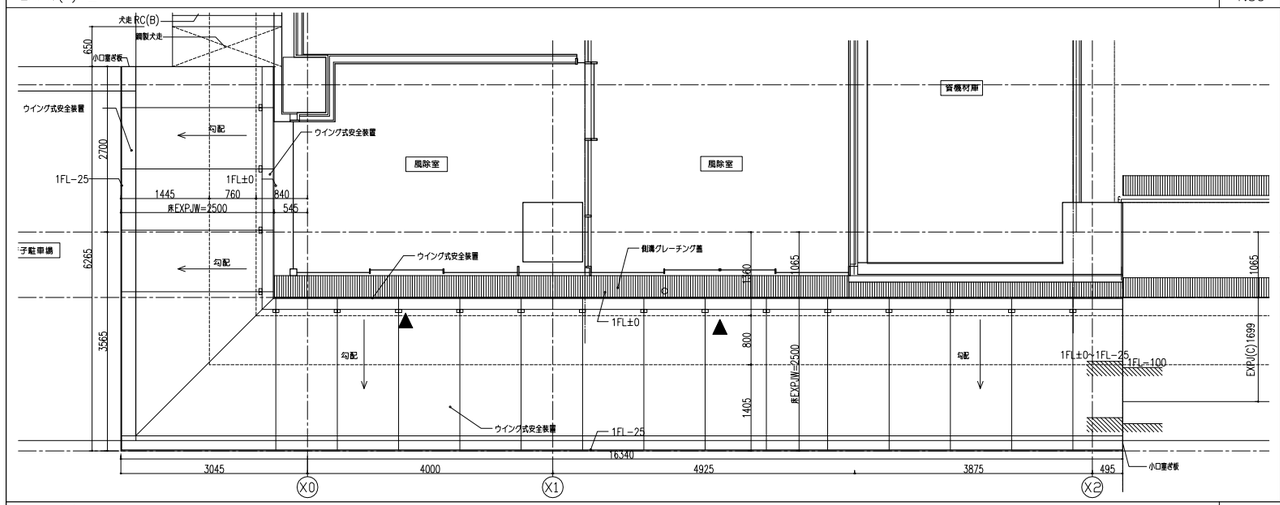
・EXP.J(B)　東側風除室前外構床：±600可動、歩行用、残留50mm対応、SUS t=3.5、Yスライドレール部防塵用クラムシャッター付き

1．スライドレールの受け側とEXP.J本体の接合部において、緩衝材として滑り支承を設置し、摩擦抵抗を低減させる事。
2．スライドレールにゴミやチリが溜まらぬよう防塵用の可動カバーを設置する事。（可動時も損傷せず、復元する事。）

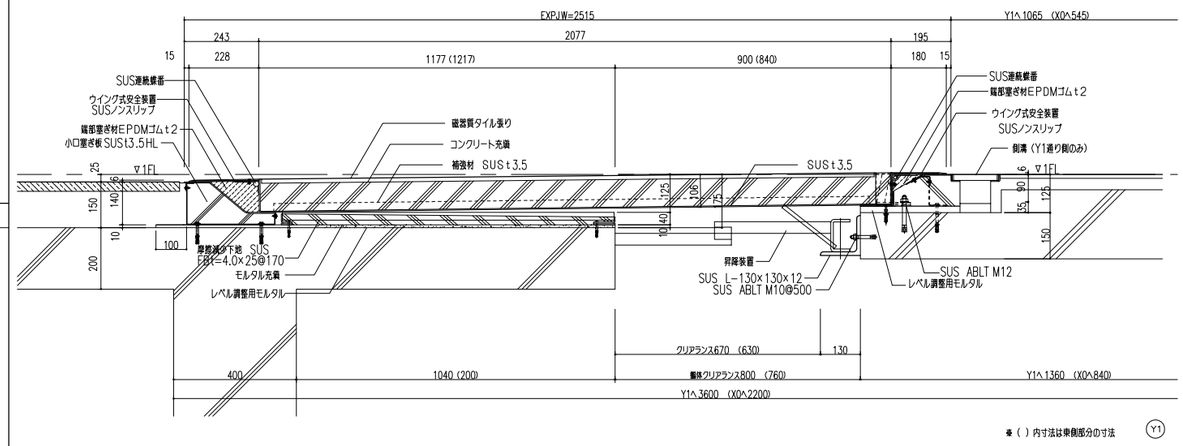
・EXP.J(C)　車庫前外構床：±600可動、耐重車両用（T−20）、残留50mm対応、St t=25、ステンレス製荷重支持材付）

1．総重量20tのはしご車を含む想定されるすべての車両の通行に支障ないこと。
2．車両の方向転換におけるタイヤの据え切り耐えること。ただし、ジョイント上及びその可動範囲にはしご車などのアウトリガーの展開は行わないものとする。
3．可動時にEXP.(A)と相互に干渉しないように調整すること。

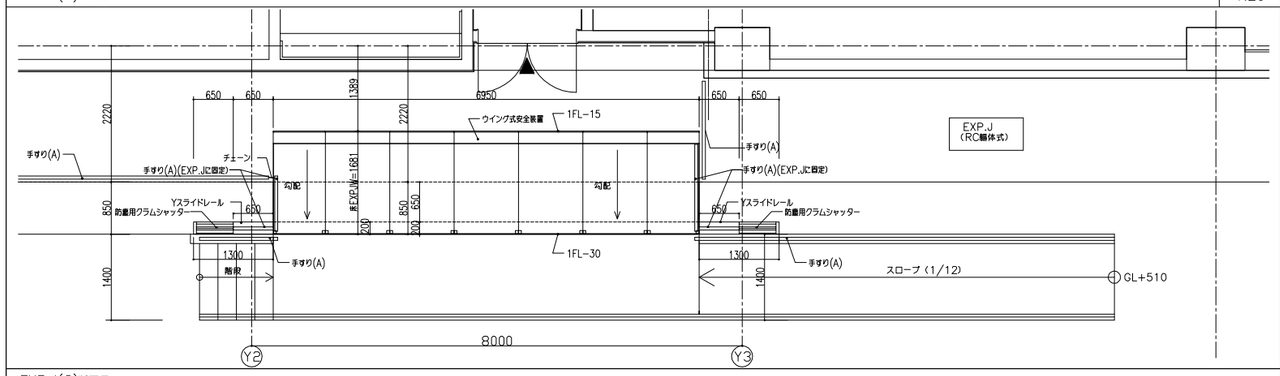
EXP.J(A)平面図　1:50



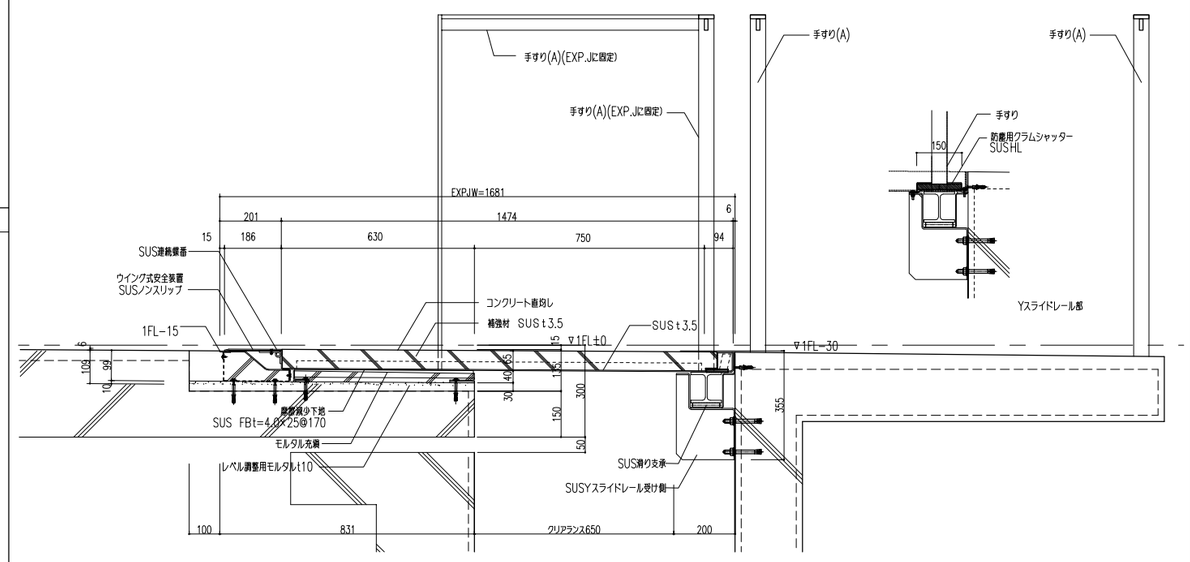
EXP.J(A)断面図　1:10



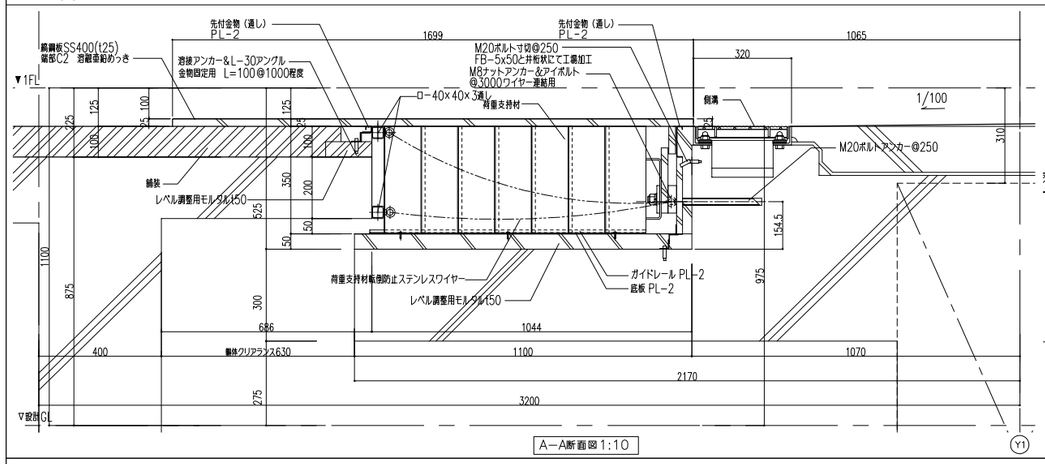
EXP.J(B)平面図　1:20



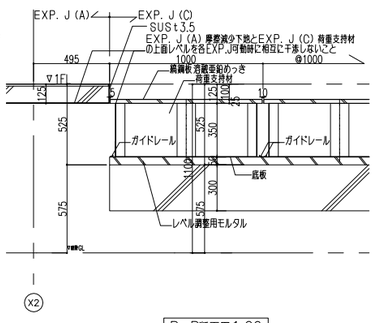
EXP.J(B)断面図　1:10



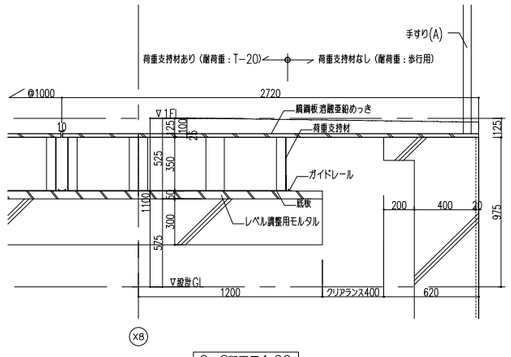
EXP.J(C)断面図　1:10,20



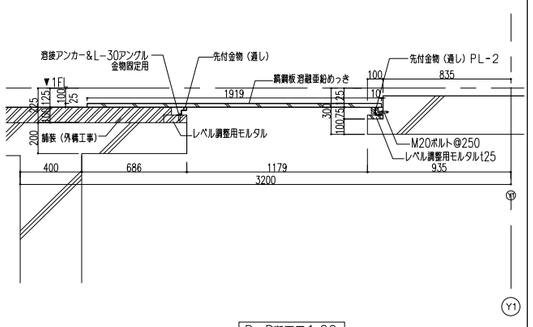
A−A断面図1:10



B−B断面図1:20

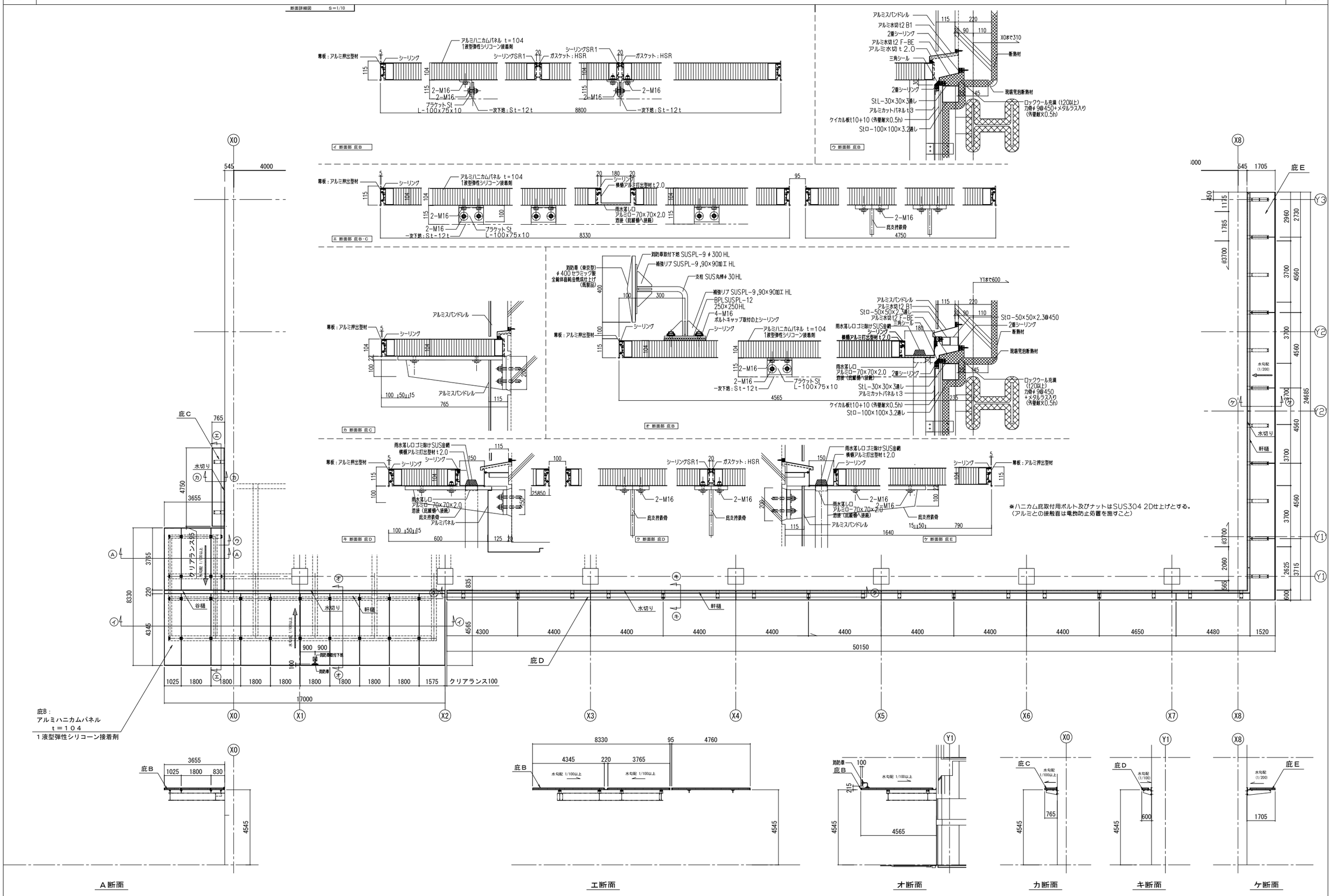


C−C断面図1:20



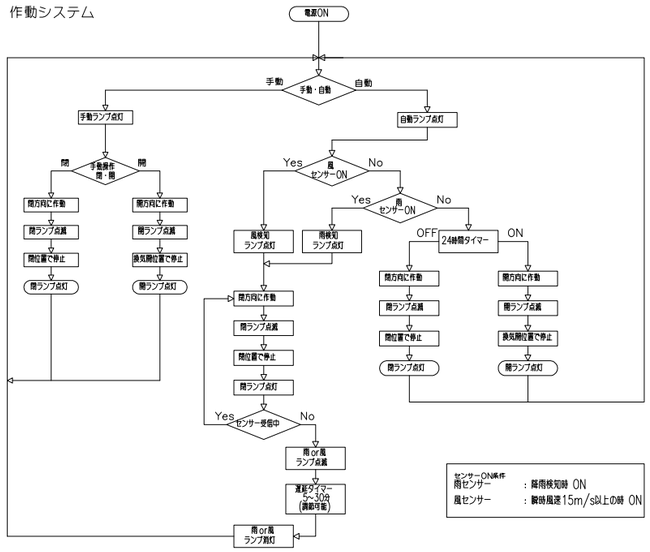
D−D断面図1:20

安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第129267号　高田　茂	新潟市建築部公共建築第1課	工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎　庁舎棟建設工事	図名 部分詳細図(5)		
			年月日 2013.03.01	縮尺 A1:図示、A3:図示/2	図面番号 A-48

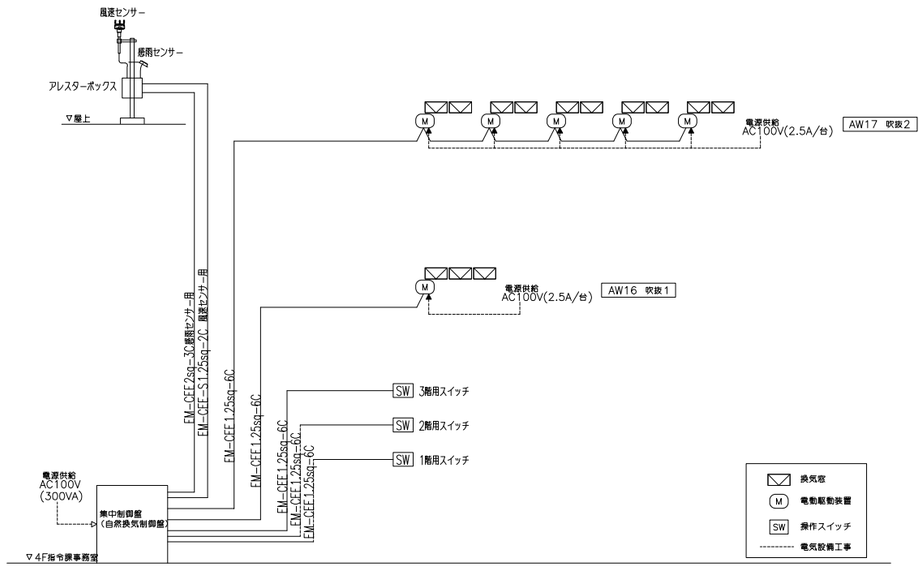


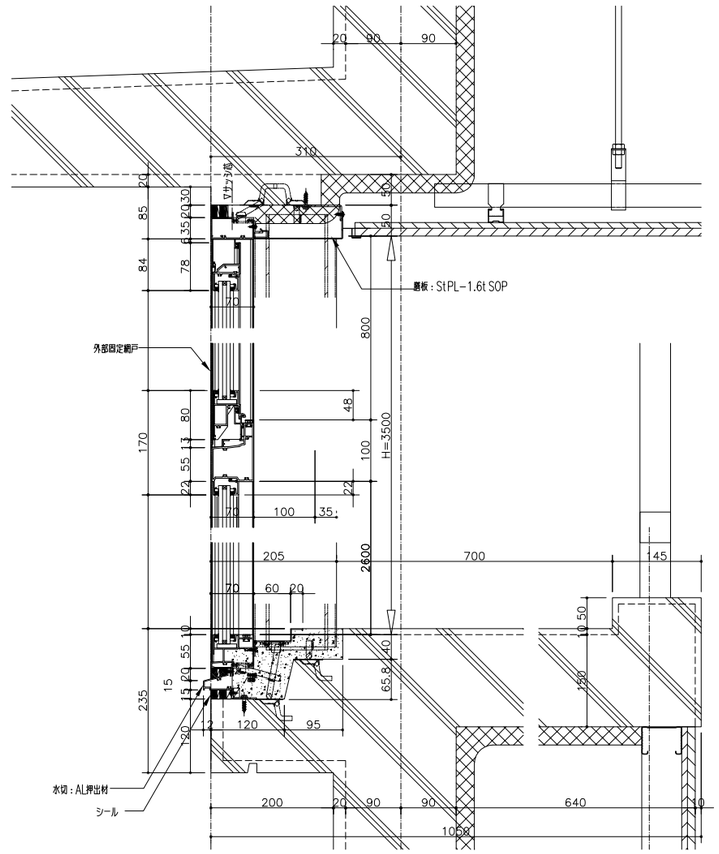
安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第129267号 高田 茂	新潟市建築部公共建築第1課	工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟建設工事	図名 部分詳細図(6) 年月日 2013.03.01	縮尺 A1:図示、A3:図示／2	図面番号 A−49

作動システム



配線系統図





断面図（AW16,17）

制御内容

システム

- 開閉操作は集中制御盤に内蔵されるタイムスケジュールと各センサーとの連携による自動運転(全窓一斉の開・閉)を行う
- 手動操作は集中制御盤のタッチパネル操作で各グループ毎の開・閉・閉鎖途中停止を可能とする
- 手動操作時は各センサーとタイムスケジュールの信号は受付けない
- 停電時(電源遮断時)は作動しない
- 4階に設置する集中制御盤の他、各階に設置した操作スイッチで各グループ毎の開・閉・閉鎖途中停止を可能とする

状態表示

- 集中制御盤は各グループ毎の開閉状態・各センサー(雨・風)の連動状況・運転状況(連動/手動)をタッチパネル上で表示を行う

風速センサー連動

- 瞬間風速15m/sを越えた場合、全窓の強制閉鎖を行い、その作動状態をタッチパネル上に表示する
  閉鎖後30分以上センサー入力が無ければ、復旧しタイムスケジュールの信号に従う

降雨センサー連動

- 降雨時(一滴でも)、全窓の強制閉鎖を行い、その作動状態をタッチパネル上に表示する
  閉鎖後30分以上センサー入力が無ければ、復旧しタイムスケジュールの信号に従う

タイムスケジュール

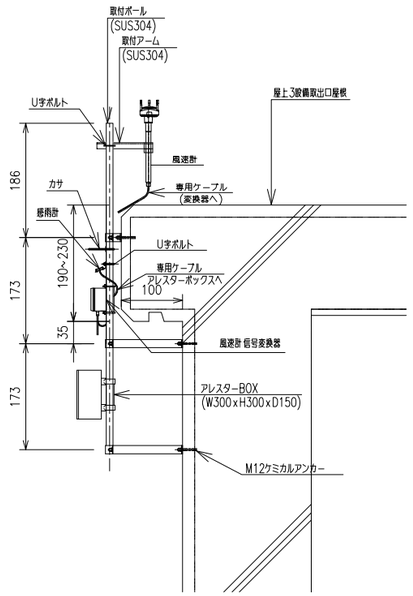
- 土曜日、日曜日は平日と別スケジュールとする

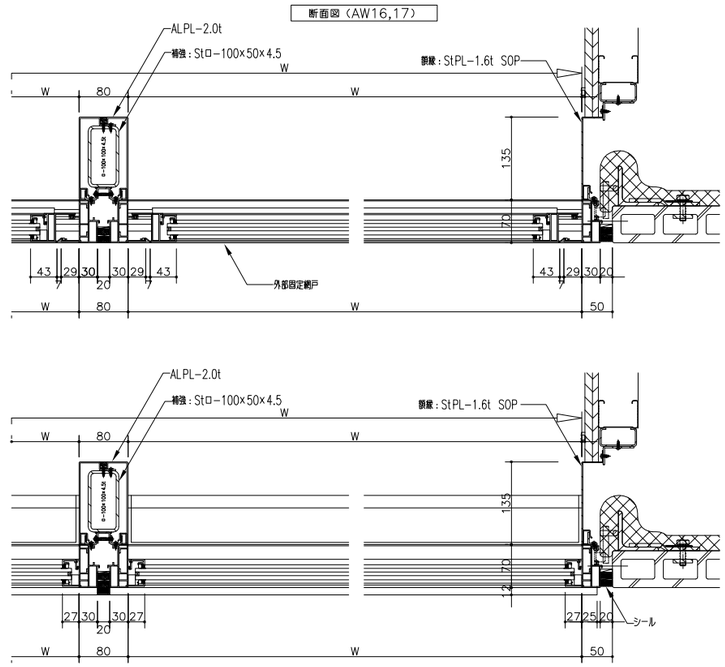
※ 管理者の判断でスケジュールをキャンセルする場合はタッチパネルにて手動で操作する

工事区分

施工内容	建築工事	電気設備工事
窓廻り換気装置の供給取付	○	
電動駆動装置の供給取付	○	
自然換気制御盤の供給取付	○	
換気装置への電源線の繋ぎ込み	○	
換気装置への信号線の繋ぎ込み	○	
各種センサーの供給・取付・結線(信号)	○	
自然換気制御盤への電源(AC100V)の供給		○
電動駆動装置への電源(AC100V)の供給		○
電源線の配管・通線・結線		○
信号線(センサー線含む)の配管	○	
信号線(センサー線含む)の通線・結線	○	
操作スイッチの供給・取付	○	
操作スイッチの配線		○
操作スイッチボックスの供給・取付		○

センサー設置詳細図（屋上3設備取出口に設置）

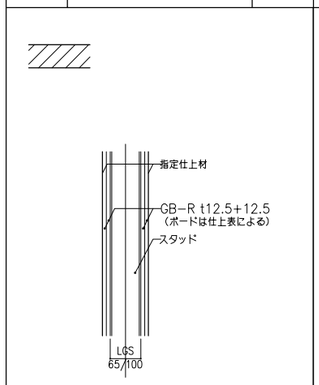




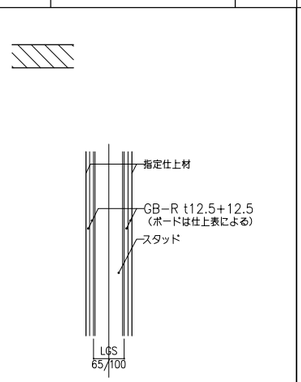
断面図（AW17）
（AW16はRC壁納まりとしこれに準じる）

安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第129267号 高田 茂	新潟市建築部公共建築第1課	工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟建設工事	図名 部分詳細図(7) 年月日 2013.03.01 / 縮尺 A1:図示、A3:図示/2 / 図面番号 A−50

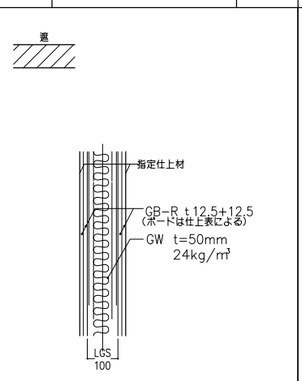
W1 軽量鉄骨壁下地天井まで 1:10



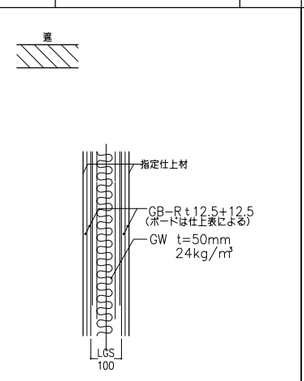
W2 軽量鉄骨壁下地スラブ下まで 1:10



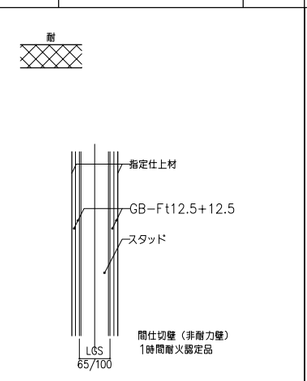
W3 軽量鉄骨壁下地（遮音）天下まで 1:10



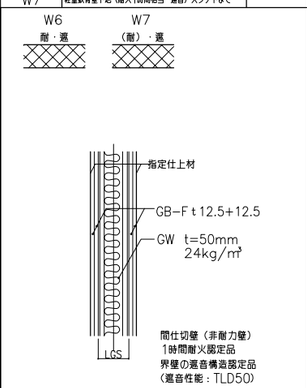
W4 軽量鉄骨壁下地（遮音）スラブ下まで 1:10



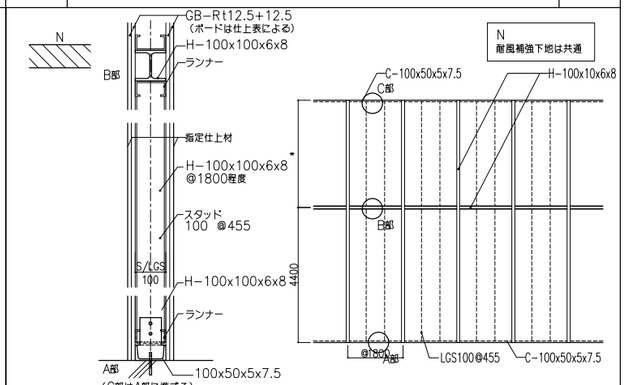
W5 軽量鉄骨壁下地（耐火）スラブ下まで 1:10



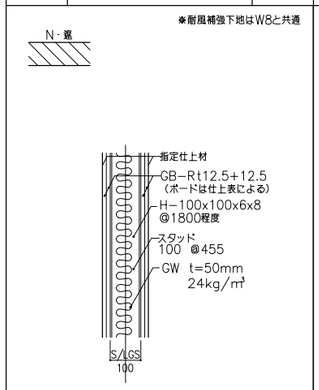
W6 W7 軽量鉄骨壁下地（耐火1時間・遮音）スラブ下まで 軽量鉄骨壁下地（耐火1時間相当・遮音）スラブ下まで 1:10



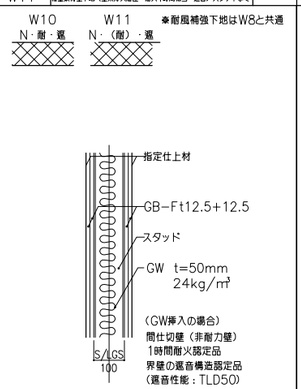
W8 軽量鉄骨壁下地（窒素ガス耐圧）スラブ下まで 1:10



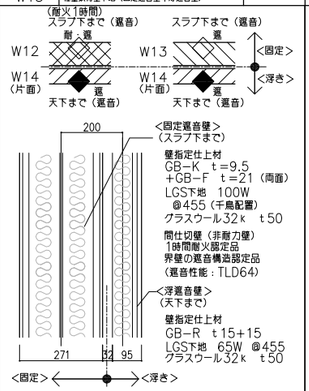
W9 軽量鉄骨壁下地（窒素ガス耐圧・遮音）スラブ下まで 1:10



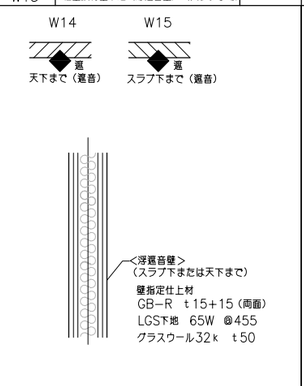
W10 W11 軽量鉄骨壁下地（窒素ガス耐圧・耐火1時間・遮音）スラブ下まで 軽量鉄骨壁下地（窒素ガス耐圧・耐火1時間相当・遮音）スラブ下まで 1:10



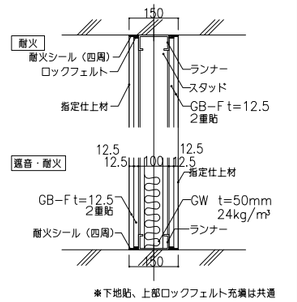
W12 W13 軽量鉄骨壁下地（固定遮音壁＋浮遮音壁）（1時間耐火） 軽量鉄骨壁下地（固定遮音壁＋浮遮音壁） 1:10



W14 W15 軽量鉄骨壁下地（浮遮音壁）（天下まで） 軽量鉄骨壁下地（浮遮音壁）（スラブまで） 1:10

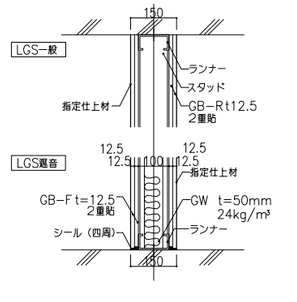


D−8−1 軽量鉄骨壁下地（耐火・遮音） 1:10



※下地貼、上部ロックフェルト充填は共通

D−8−2 軽量鉄骨壁下地（一般・遮音） 1:10



D−8−3 軽量鉄骨壁下地（共通事項）

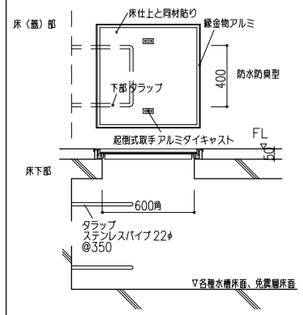
・スラブまでの遮音壁は、躯体との取り合い部は四周シールを施す。
・耐火壁は、躯体との取り合い部は四周耐火シールを施す。

D−8−4 軽量鉄骨壁下地（スタッドの高さが5.0mを超える場合）

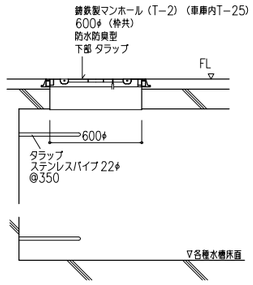
LGS張上高さ	スタッド	スタッドピッチ	1F	2F	3F	4F	5F
≦7M	100型（t＝1.0mm）	@455	◎		◎	◎	
≦8M	100型（t＝1.0mm）	@303				◎	

○ :天下まで
◎ :スラブ下まで

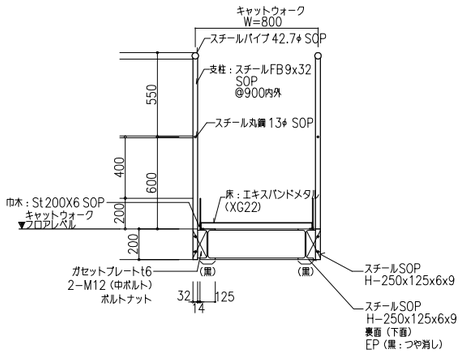
D−8−5 床下点検口 1:10



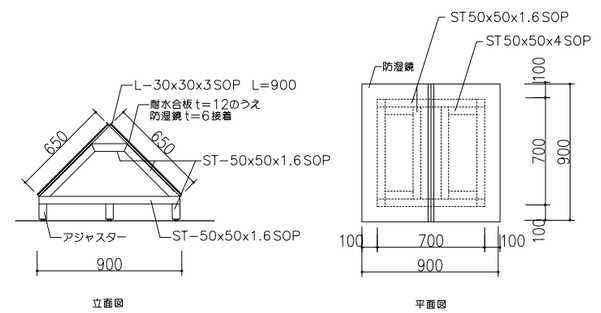
D−8−6 マンホール 1:20



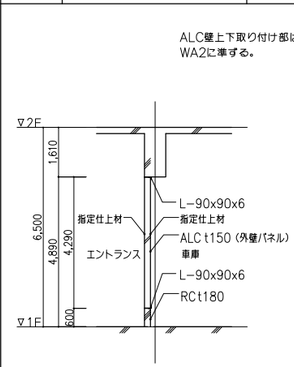
D−8−11 キャットウォーク 1:20



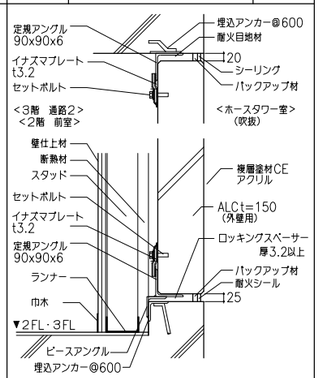
D−8−14 免震見学用ミラー 1:20



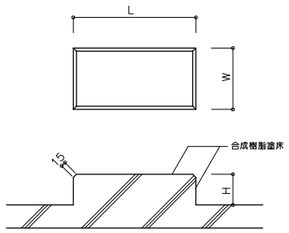
WA1 ALC壁：1階車庫廻り 1:100



WA2 ALC壁：2階・3階ホースタワー室廻り 1:10

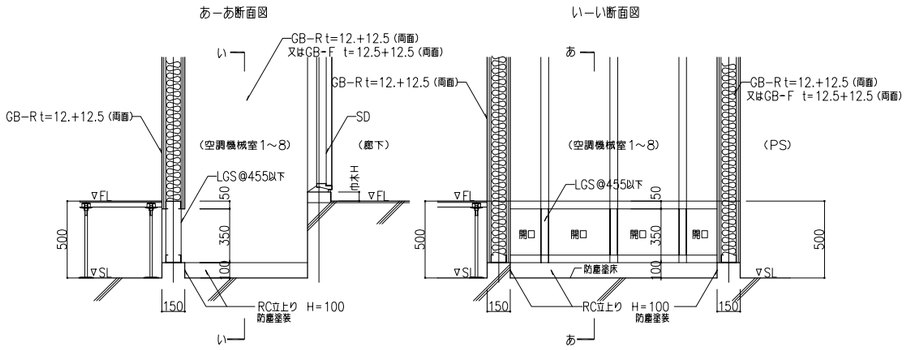


D−8−12 屋内機械基礎 1:20

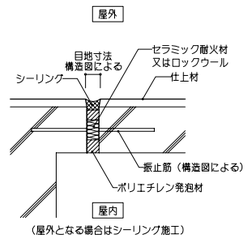


※配筋は構造図による。
※サイズは平面図による。

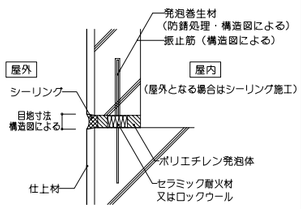
D−8−13 4階空調機械室1〜8足元廻り詳細図 1:20



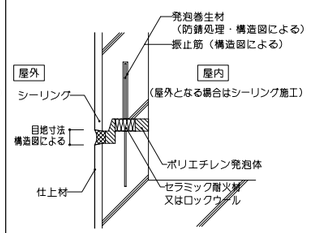
D−8−7 RC構造スリット（平面） 1:10



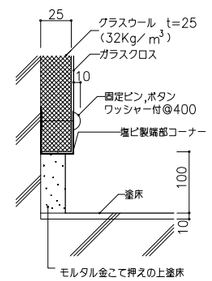
D−8−8 RC構造スリット（断面1） 1:10



D−8−9 RC構造スリット（断面2） 1:10



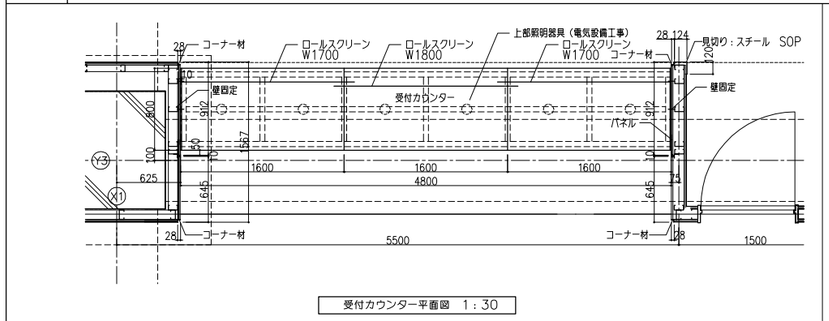
D−8−10 機械室吸音壁 巾木廻り 1:5



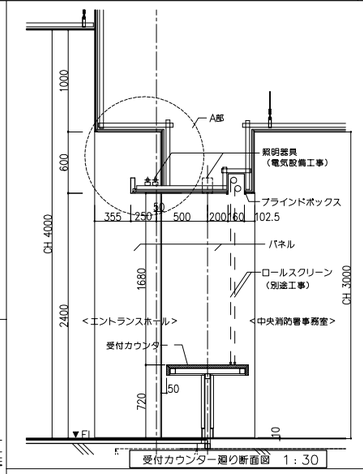
安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第129267号 高田 茂	新潟市建築部公共建築第1課	工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟建設工事	図名 部分詳細図（8） 年月日 2012.12.21 縮尺 A1:1/ A3:1/ 図面番号 A-51

D−9−1 1階 受付カウンター

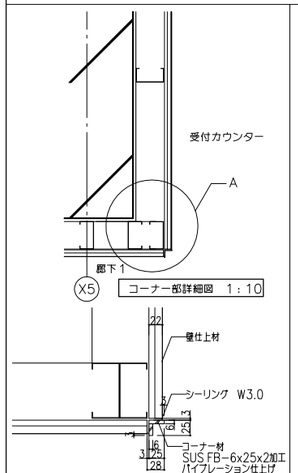
図示



受付カウンター平面図 1：30

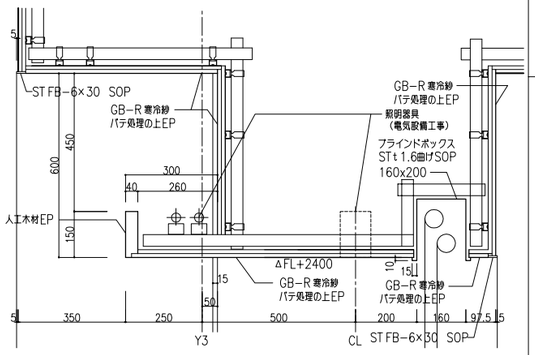


受付カウンター廻り断面図 1：30

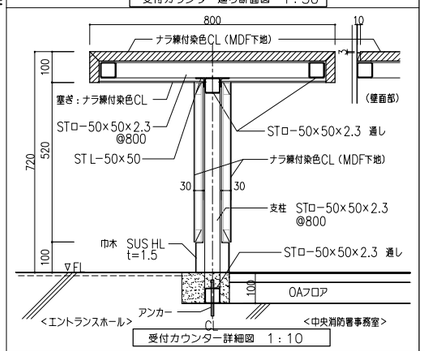


コーナー部詳細図 1：10

A部詳細図 1：5



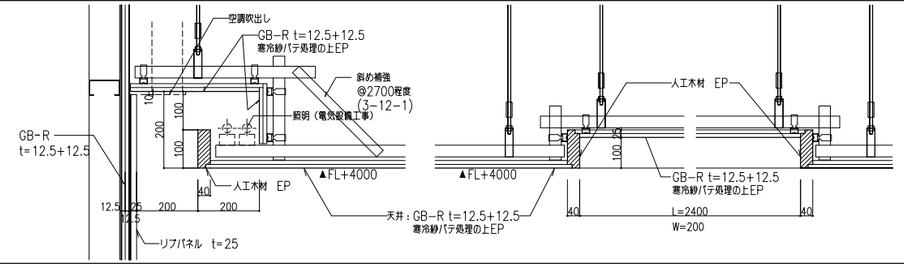
A部詳細図 1：10



受付カウンター詳細図 1：10

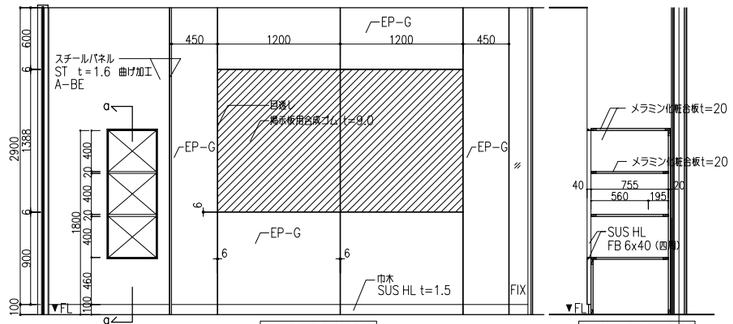
D−9−4 エントランス天井詳細図

1:10



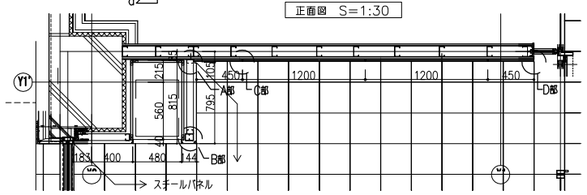
D−9−5 1階 ポーチ 新聞受け

1:30,1:5

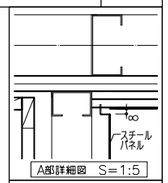


正面図 S=1:30

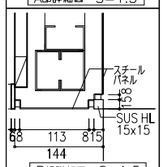
a断面図 S=1:30



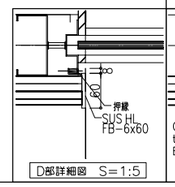
平面図 S=1:30



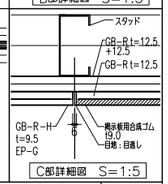
A部詳細図 S=1:5



B部詳細図 S=1:5



D部詳細図 S=1:5

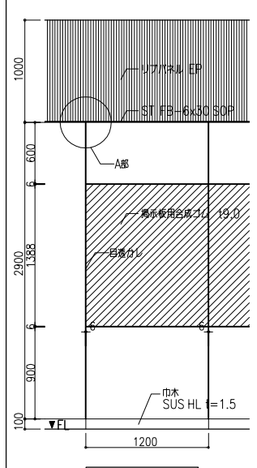


C部詳細図 S=1:5

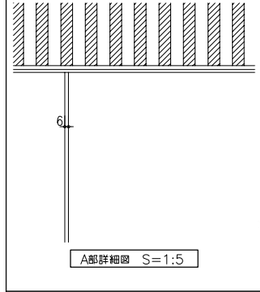
D−9−2 1階 エントランスホール 掲示板、1階 風除室 掲示板

1:5

※1階風除室はFL+3000までとする。

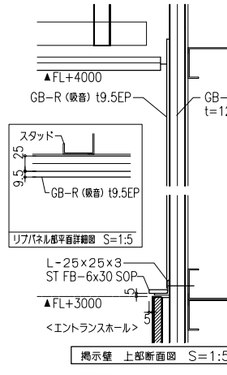


立面図 S=1:30



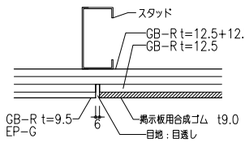
A部詳細図 S=1:5

＜FL+3000以上の部分（一般タイプ）＞

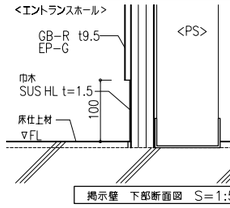


リブパネル部平面詳細図 S=1:5

掲示壁 上部断面図 S=1:5

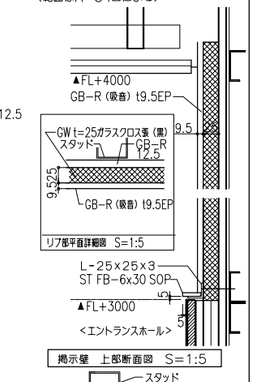


掲示壁 平面詳細図 S=1:5



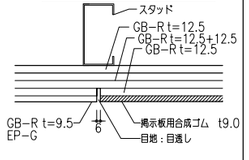
掲示壁 下部断面図 S=1:5

＜FL+3000以上の部分（吸音タイプ）＞
（範囲はA−34図による）

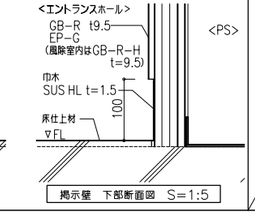


リブ部平面詳細図 S=1:5

掲示壁 上部断面図 S=1:5

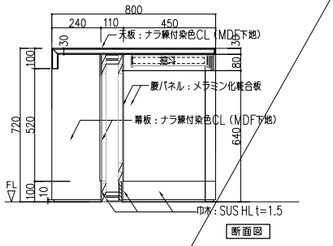


掲示壁 平面詳細図 S=1:5

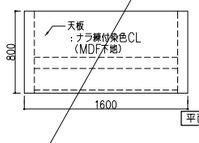


掲示壁 下部断面図 S=1:5

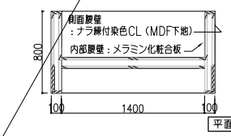
D−9−3 1階 受付カウンター（置式） （別途工事） 1:30



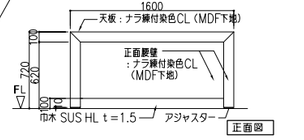
断面図



平面図



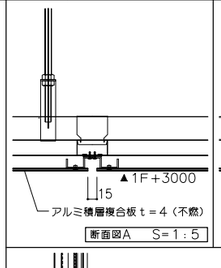
平面図



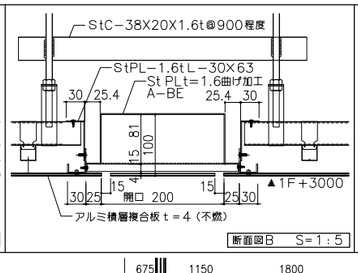
正面図

D−9−6 風除室・ポーチ天井詳細図

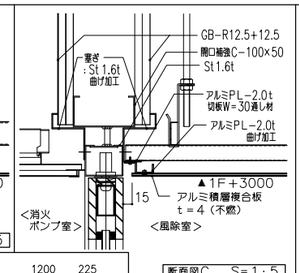
1:50,1:5



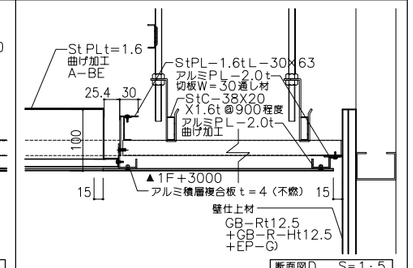
断面図A S=1:5



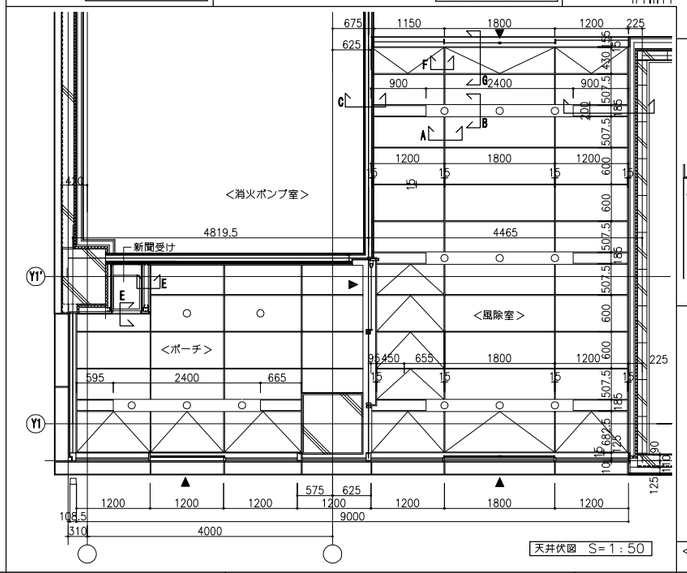
断面図B S=1:5



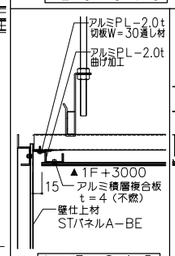
断面図C S=1:5



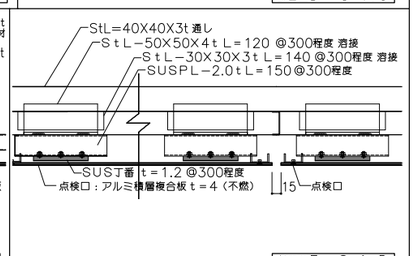
断面図D S=1:5



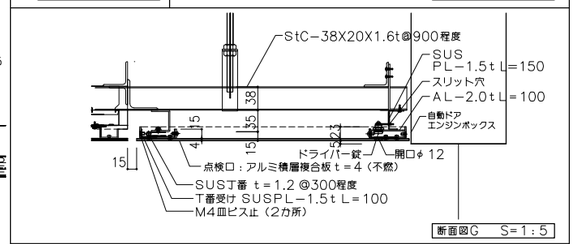
天井伏図 S=1:50



断面図E S=1:5



断面図F S=1:5



断面図G S=1:5

＜共通＞・目地15mmより見えがかりとなる下地部分はSOP塗装（黒）を施す。
・天井内Stはすべて錆止め塗装を施す。

改20121116
改20121219
改20130122

安井・太陽設計共同体
管理建築士一級建築士第129267号 高田 茂

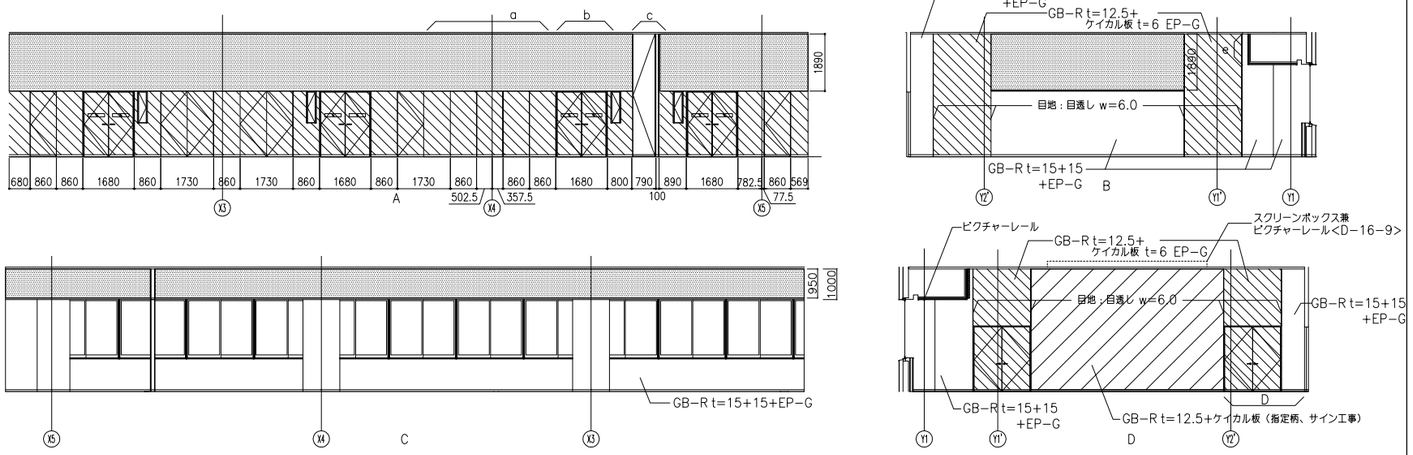
新潟市建築部公共建築第1課

工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟建設工事

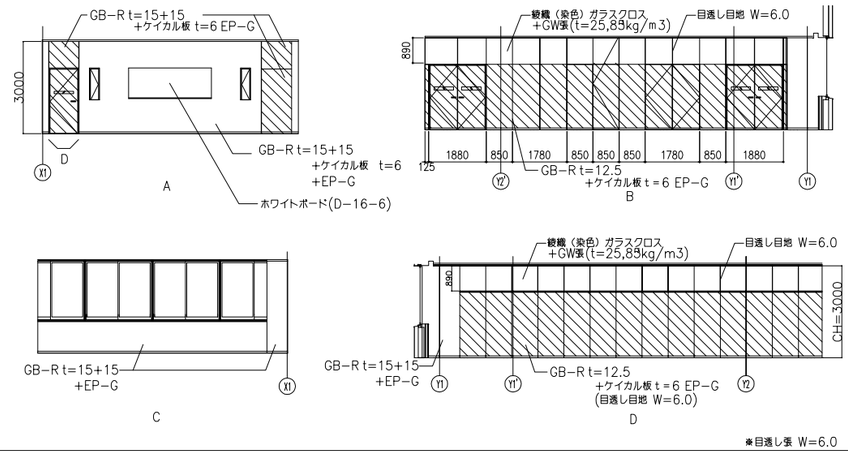
図名 部分詳細図（9）

年月日 2013.03.01 縮尺 図示 図面番号 A−52

3階講堂展開図　S=1/100

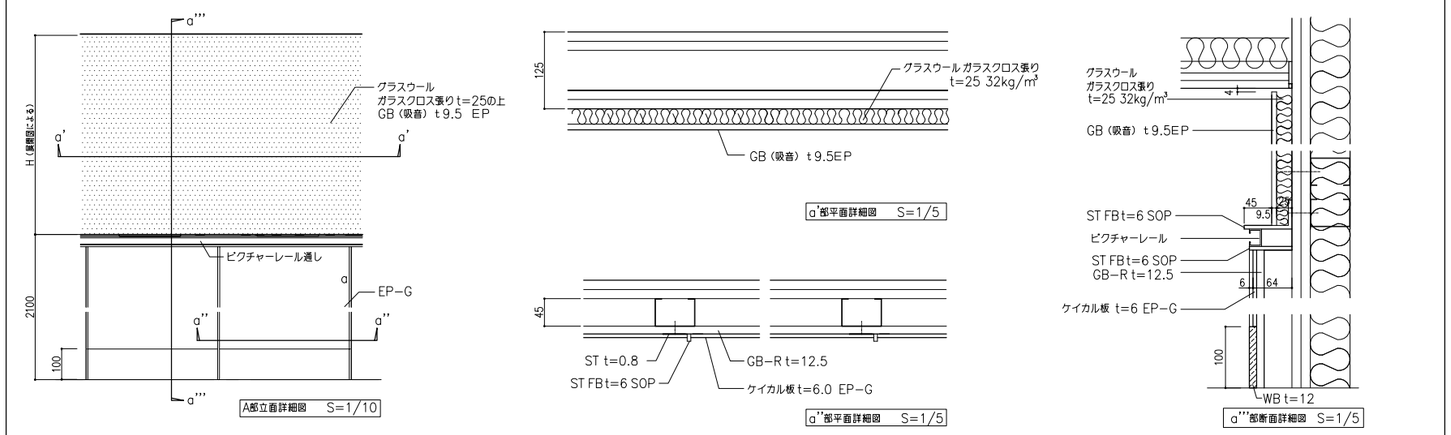


2階応急救護訓練室　S=1/100

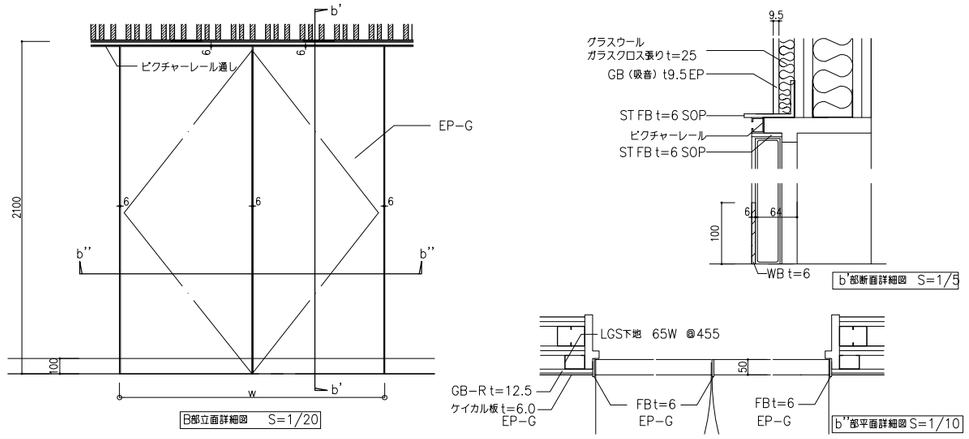


※目透し張 W=6.0

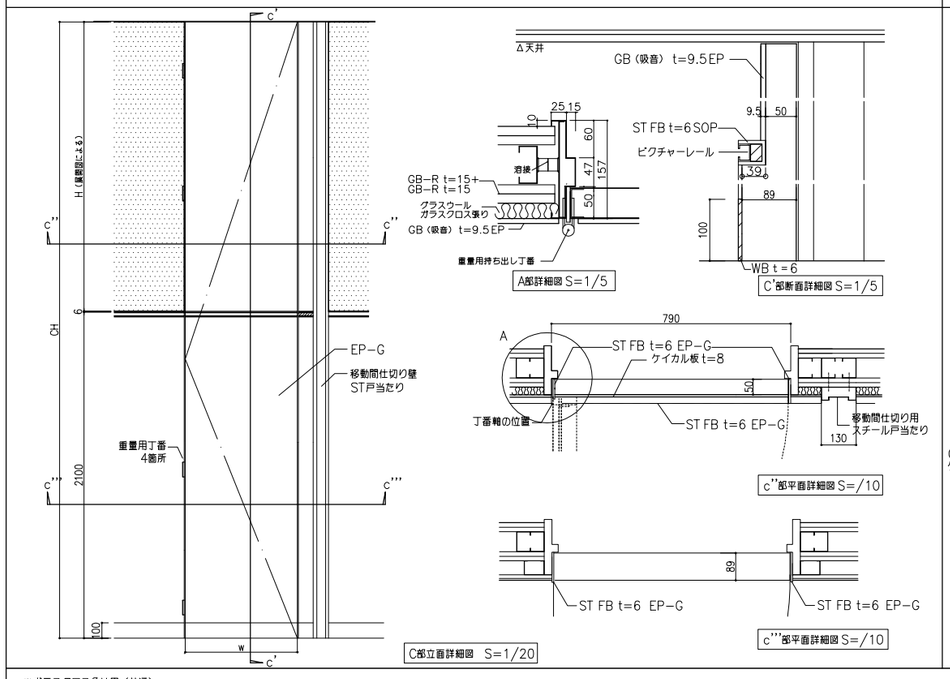
a部詳細図



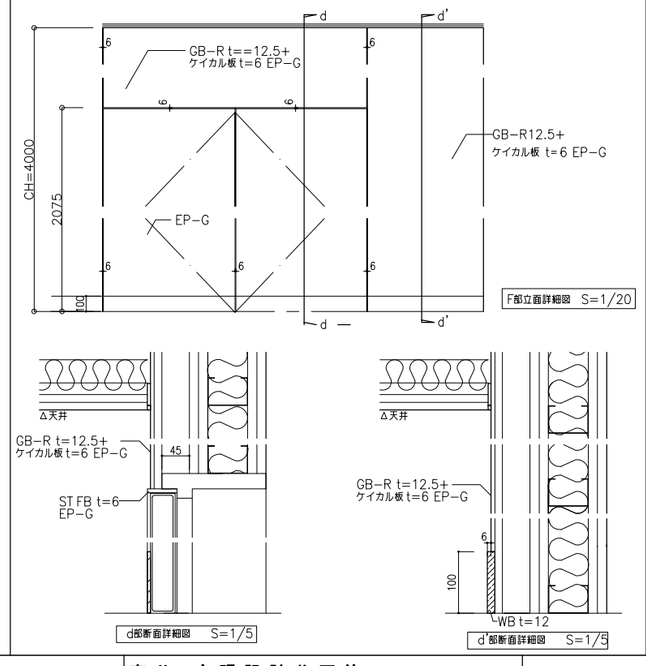
b部詳細図



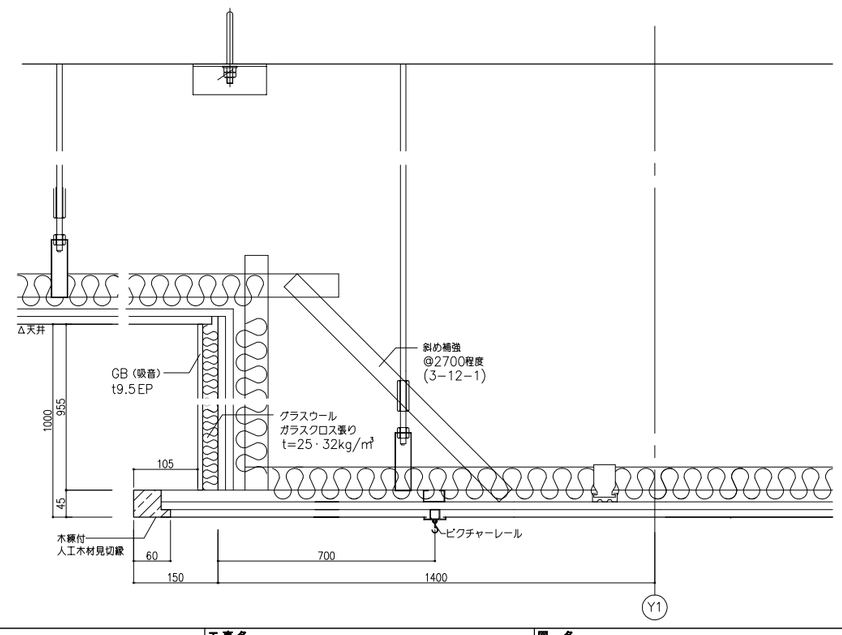
c部詳細図



d部詳細図



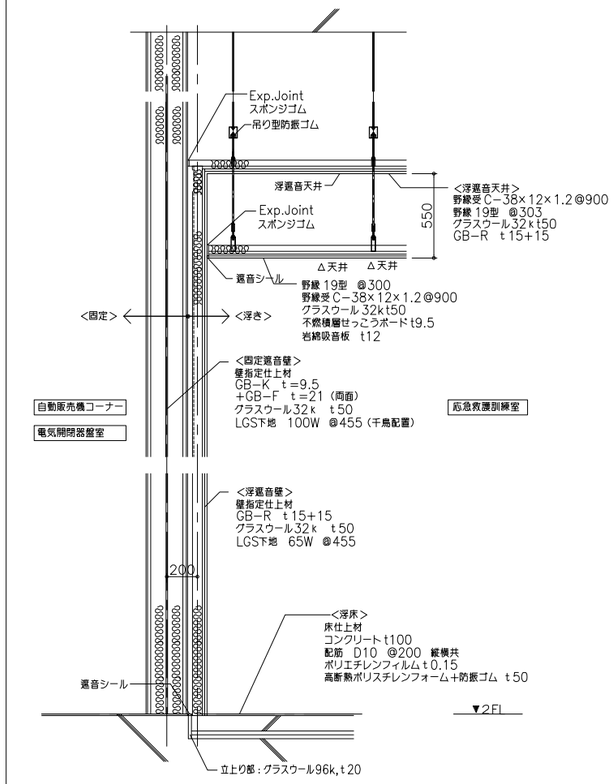
e部断面詳細図　S=1/5

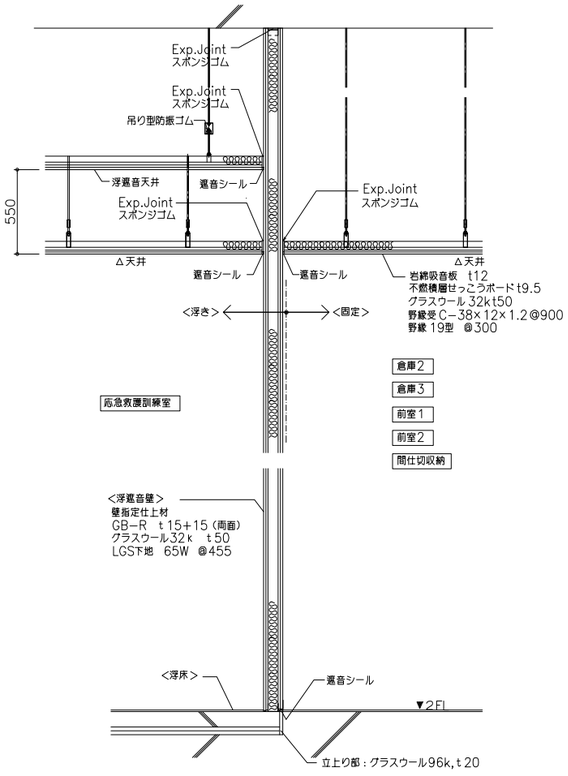


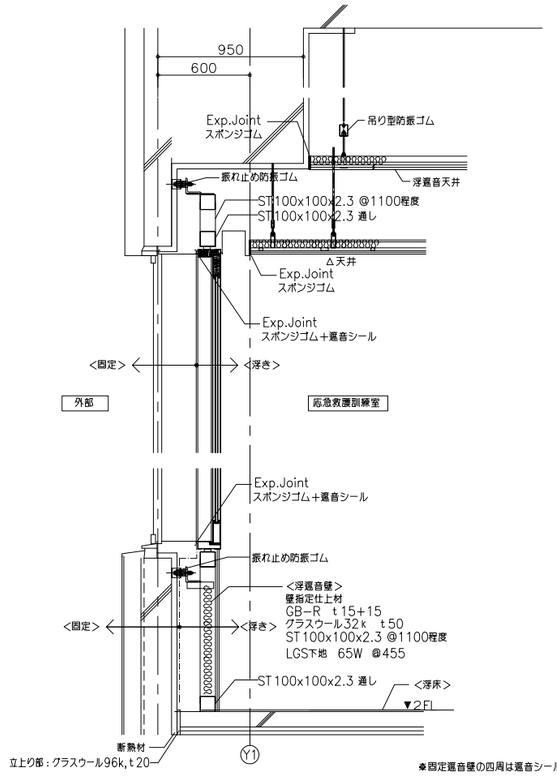
※ガラスクロス色は黒（共通）

安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第129267号 髙田 茂	新潟市建築部公共建築第1課	工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟建設工事	図名 部分詳細図(10) 年月日 2013.03.01　縮尺 A1:1/5,1/10,1/20 A3:1/10,1/20,1/40　図面番号 A−53

D−11−1　2階応急救護訓練室　床・壁・天井取り合い　1:20

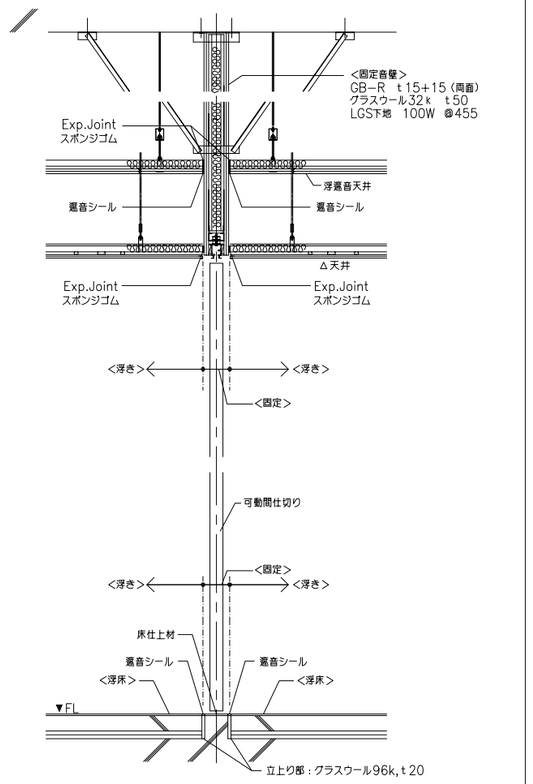




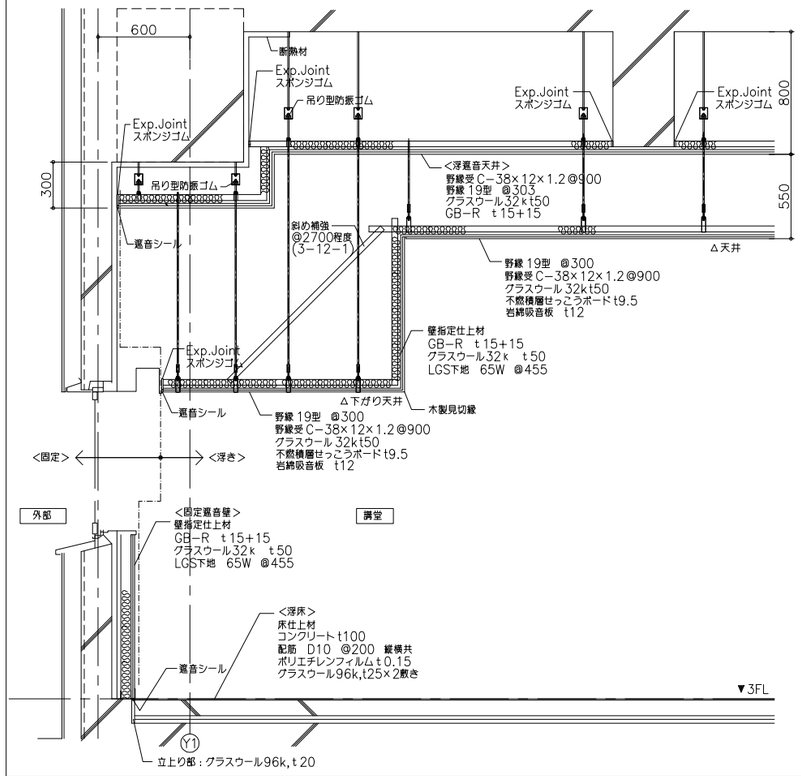


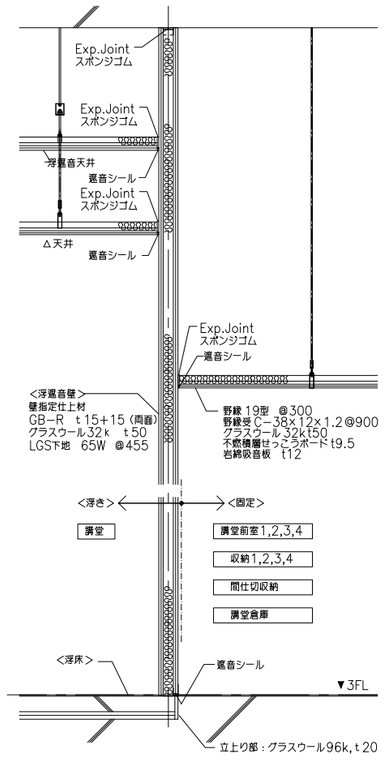
※固定遮音壁の四周は遮音シールを施す。
※浮遮音壁のExp.jには遮音シールを施す。

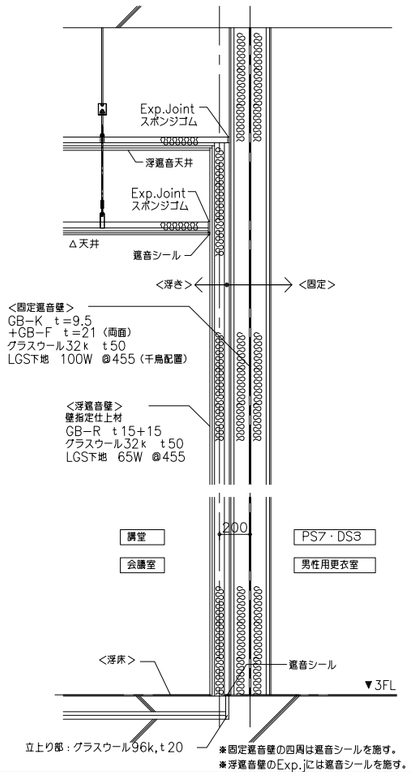
D−11−2　移動間仕切り　床・天井取り合い　1:20



D−11−3　3階講堂　床・壁・天井取り合い　1:20

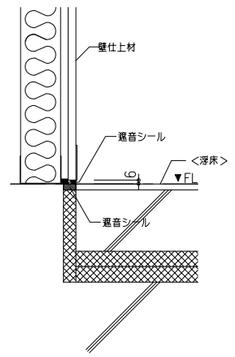




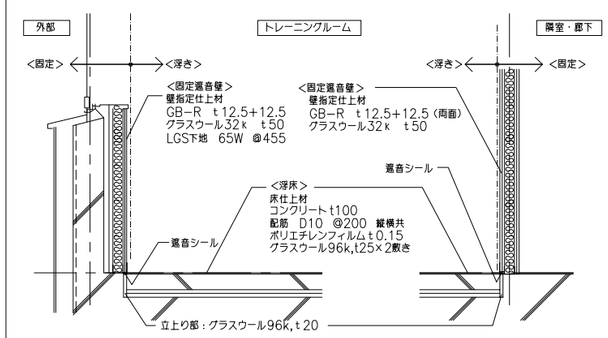


※固定遮音壁の四周は遮音シールを施す。
※浮遮音壁のExp.jには遮音シールを施す。

D−11−4　浮床・固定遮音壁取り合い　1:5

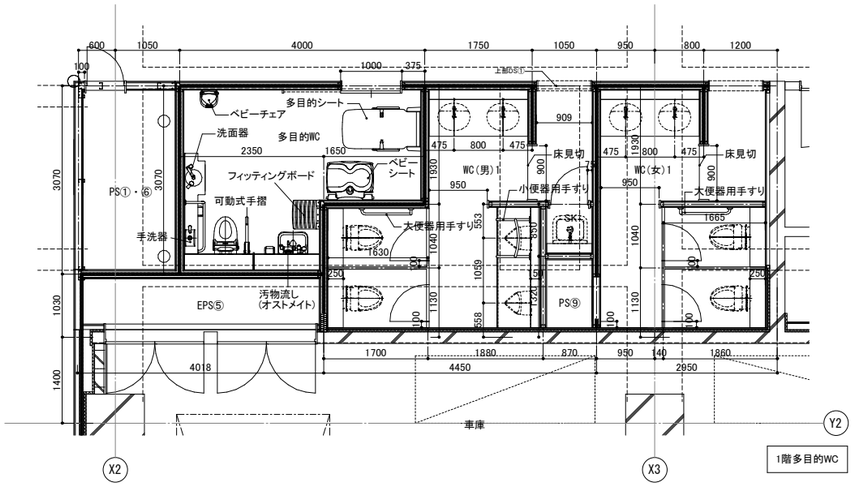


D−11−5　2階　トレーニングルーム　GW浮床下地　1:20

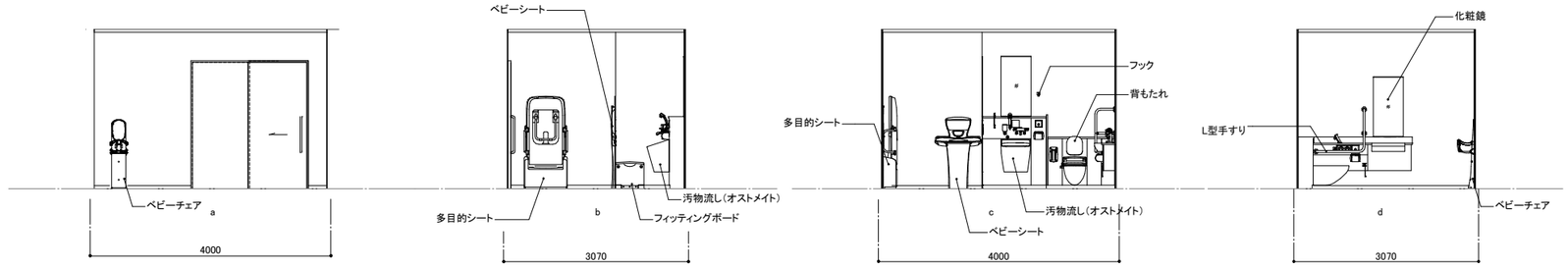


2012.12.11. 2012.12.28. 2013.01.22.	安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第129267号　高田　茂	新潟市建築部公共建築第1課	工事名：新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟建設工事

図名	年月日	縮尺	図面番号
部分詳細図 (11)	2013.03.01	A1:1/200, A3:1/400	A-54

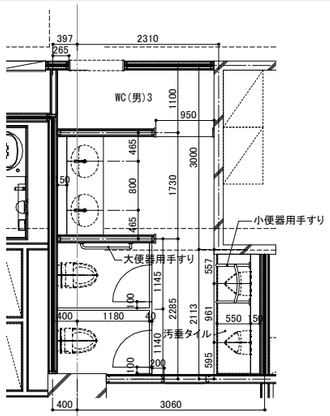


1階多目的WC

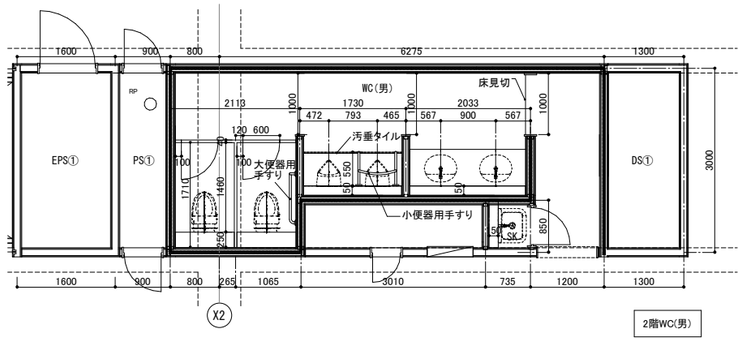


※多目的WCは衛生陶器含む全て本工事

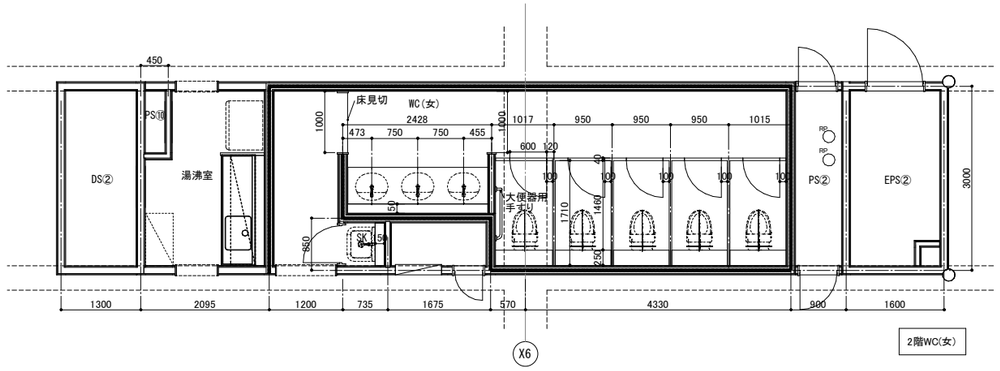
1階多目的WC展開図



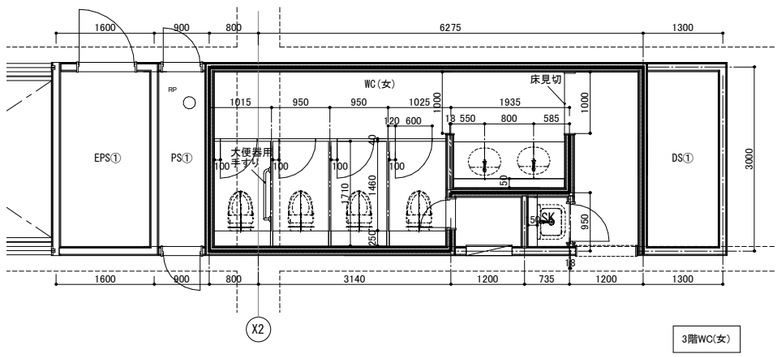
1階WC(男)3



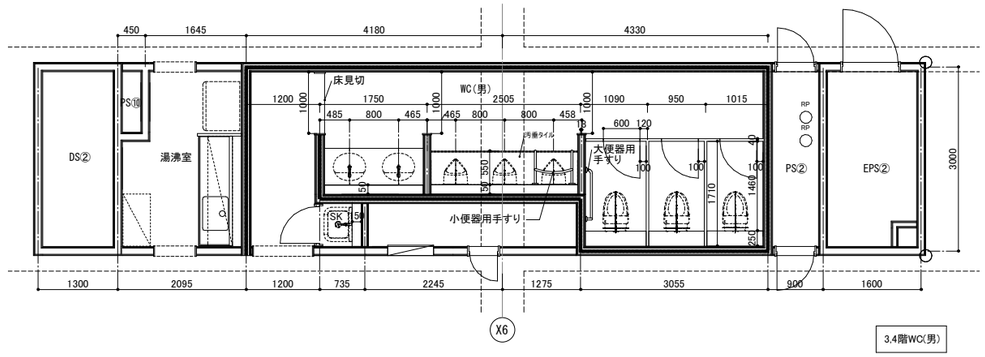
2階WC(男)



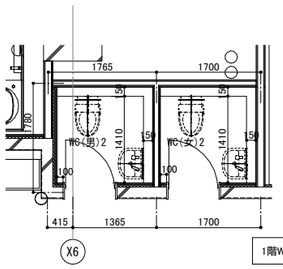
2階WC(女)



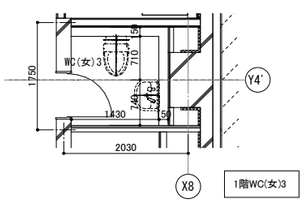
3階WC(女)



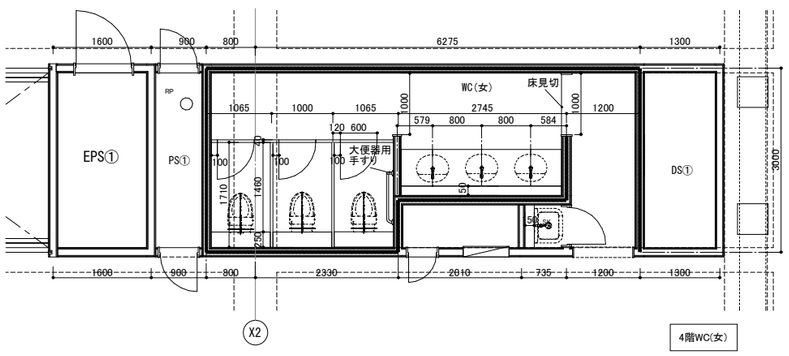
3,4階WC(男)



1階WC(男・女)2



1階WC(女)3



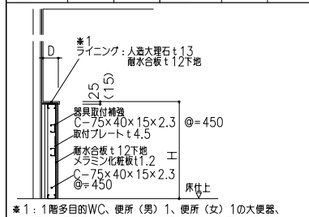
4階WC(女)

安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第 129267号 高田 茂	新潟市建築部公共建築第1課	工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟建設工事	図 名 部分詳細図(12) 年 月 日 2013.03.01 / 縮 尺 A1:1/50 A3:1/100	図面番号 A-55

安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第 129267号 高田 茂	新潟市建築部公共建築第1課	工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟建設工事	図 名 部分詳細図(13)		
			年 月 日 2013.03.01	縮 尺 A1:1/100 A3:1/200	図面番号 A-56

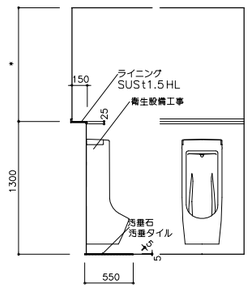
D-14-1 ライニング 1:30

	D	H		D	H
大便器	250	850	食堂手洗	150	950
＊4階女性用仮眠室便所は	D150		厨房	150	1200
小便器	150	1300	鑑識・鑑定室	150	950
便所手洗い	150	950	女性用仮眠室、更衣室洗面台	150	950
SK	150	1100			
洗濯機置場	150	1400	救急消毒室	150	1400
流し台（洗面スペース）	150	1050	流し台（湯沸室）	150	950

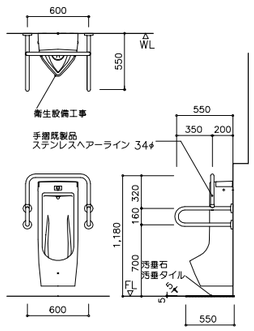


＊1：1階多目的WC、便所（男）1、便所（女）1の大便器、小便器、便所手洗い、および食堂手洗い以外のライニングの仕上げは、SUS HL t1.5曲げ加工 耐水合板t12下地
（ ）数値は、SUS HLの場合を示す。

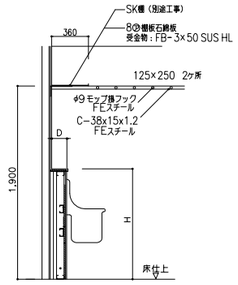
D-14-2 ライニング［小便器廻り］ 1:30



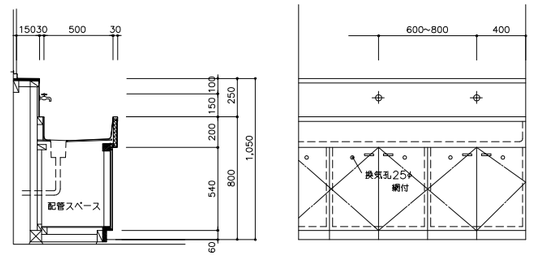
D-14-3 小便器手摺り 1:30

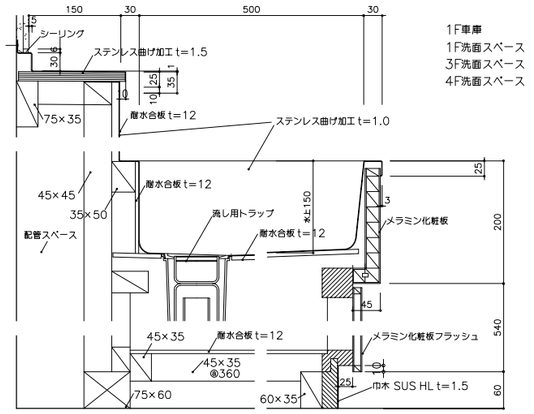


D-14-4 ライニング［SK廻り］ 1:30



D-14-8 流し台（ステンレス製洗面流し）［洗面スペース］ 1:40,1:10

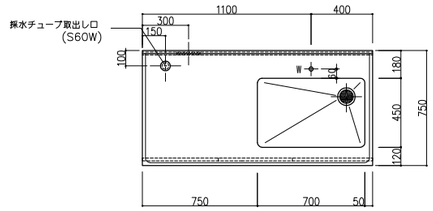


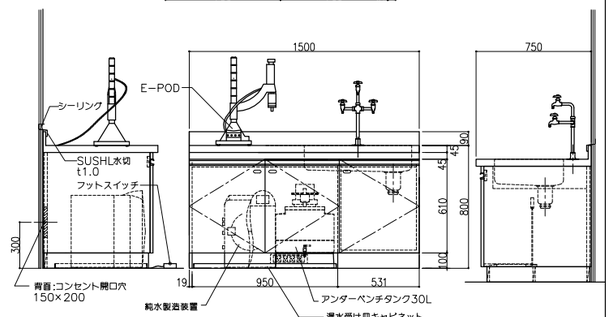


1F車庫
1F洗面スペース
3F洗面スペース
4F洗面スペース

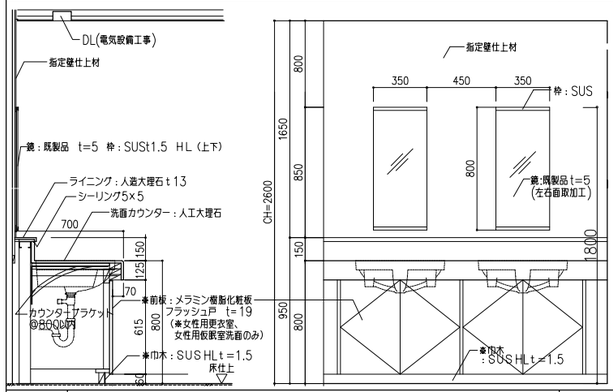
D-14-9 2階鑑識鑑定室（純水製造装置付流し台） 1:20

流し	ステンレス SUS-304 t=1.0mm	
	深さ170mm （1槽流し）	
本体主材	低圧メラミン両面化粧パーチクルボードF☆☆☆☆ t=19mm	
	木口：ポリプロピレン製	
	色：ライトグレー	
付属品	化学水栓3方口	1
	ステンレス製トラップ 目皿付き	1
	ステンレス製清水受け皿	1
	OAタップ	
	純水製造装置コニット	1式

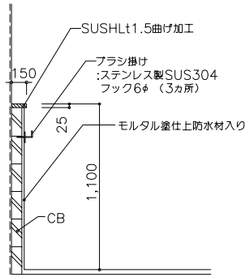




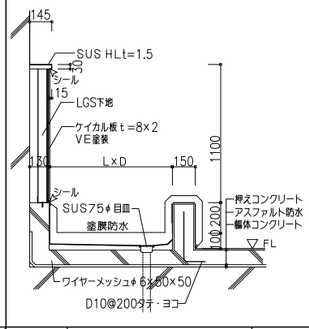
D-14-5 便所手洗い廻り、 女性用仮眠室・更衣室洗面台廻り、 食堂手洗い廻り詳細図 1:20



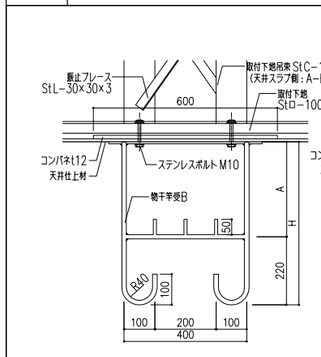
D-14-6 ライニング［1Fホースタワー室］ 1:20

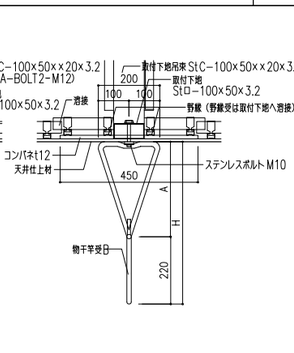


D-14-7 下流 1:20

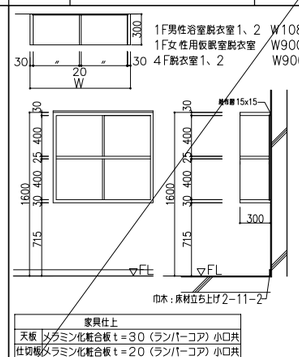


D-14-10 ハンガーパイプ 1:10



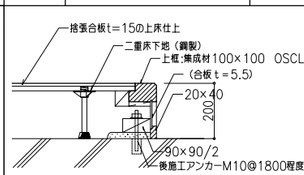


D-14-11 脱衣棚（脱衣室）（別途工事） 1:30

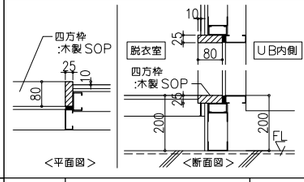


家具仕上	
天板	メラミン化粧合板 t=30（ランバーコア）小口共
仕切板	メラミン化粧合板 t=20（ランバーコア）小口共
扉板	メラミン化粧合板 t=25（ランバーコア）小口共
腰板	メラミン化粧合板 t=5

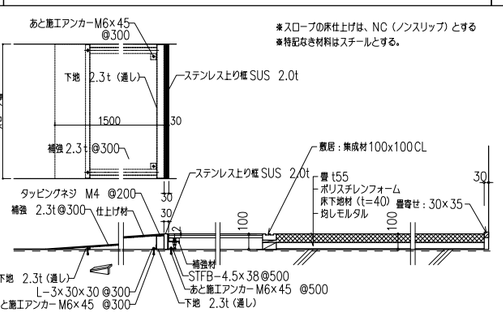
D-14-12 脱衣室床組（上框） 1:10



D-14-13 UB四方枠 1:10



D-14-14 休憩室 スロープ：上り框 1:20

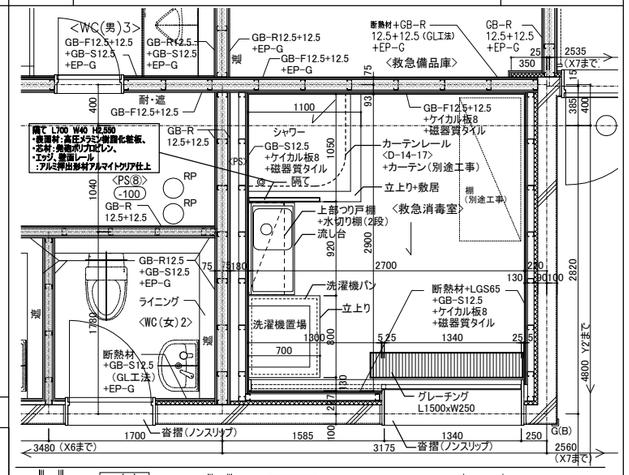


＊スロープの床仕上げは、NC（ノンスリップ）とする
＊特記なき材料はスチールとする。

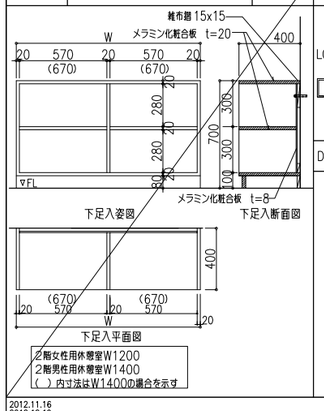
スロープ設置位置・幅

設置場所	スロープ幅（W）	設置場所	スロープ幅（W）
2階 通路1	2100mm	3階 通路2	2150mm
2階 通路2	1300mm	4階 通路2	1200mm
3階 通路1	1500mm	4階 通路3	1200mm（一部1400mm）

D-14-22 1階 WC2、救急消毒室 廻り詳細図 1：30、1:20

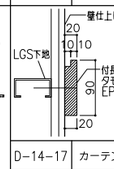


D-14-15 下足箱 （別途工事） 1:20



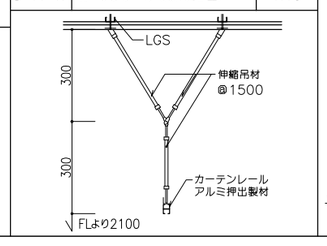
2階女性用休憩室W1200
2階男性用休憩室W1400
（ ）内寸法はW1400の場合を示す

D-14-16 休憩室 長押 1:5

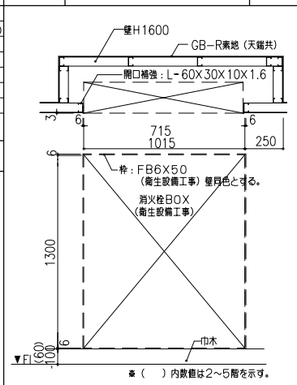


設置場所	長さ［m］（長さ内訳）
2階休憩室（男）	11.7（=6.3+1.4+4.0）
2階休憩室（女）	8.0（=4.0+4.0）
3階休憩室（男）	3.9（=3.0+0.9）
3階休憩室（女）	4.0（=4.0）
4階休憩室（男）	3.2（=3.2）
4階休憩室（女）	5.0（=2.6+2.4）

D-14-17 カーテンレール（救急消毒室） 1:10

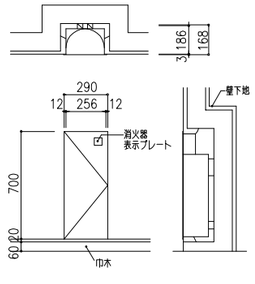


D-14-18 屋内消火栓埋め込み 1:20



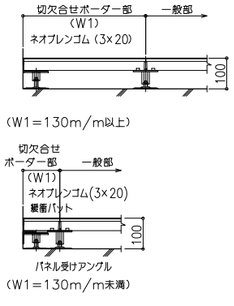
＊（ ）内数値は2～5階を示す。

D-14-19 消火器埋め込み 1:20

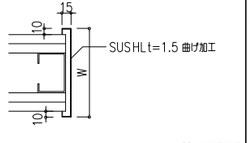


材質はスチール焼付塗装仕上（指定色）の既製品とする。

D-14-20 OAフロアポーター部 1:10

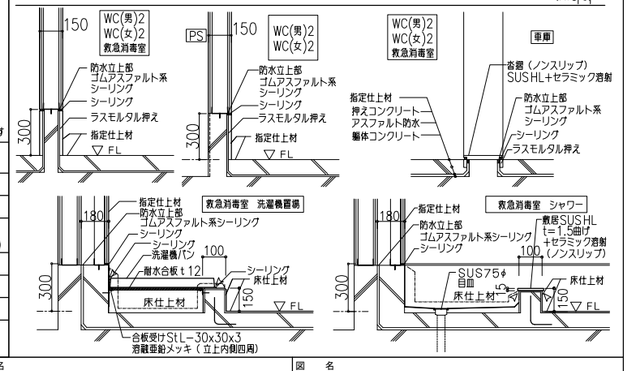


D-14-21 一方枠 1:5



Hは高さを示す

W	H	数量	設置場所
135	3000	7	1階中央消防署事務室、2階食堂
135	2700	1	2階自動販売機コーナー
135	2600	11	1階WC(男)3、2階WC(男)(女) 3階WC(男)(女)、4階WC(男)(女)
135	2400	1	2階女性用更衣室
170	3000	2	1階廊下2 Y3-Y4間
170	2700	1	4階通路3
170	2600	14	1階WC(男)1、(女)1 2～4階WC(男)、(女)



2012.11.16
2012.12.19
2013.01.22

安井・太陽設計共同体
管理建築士一級建築士第129267号 高田 茂

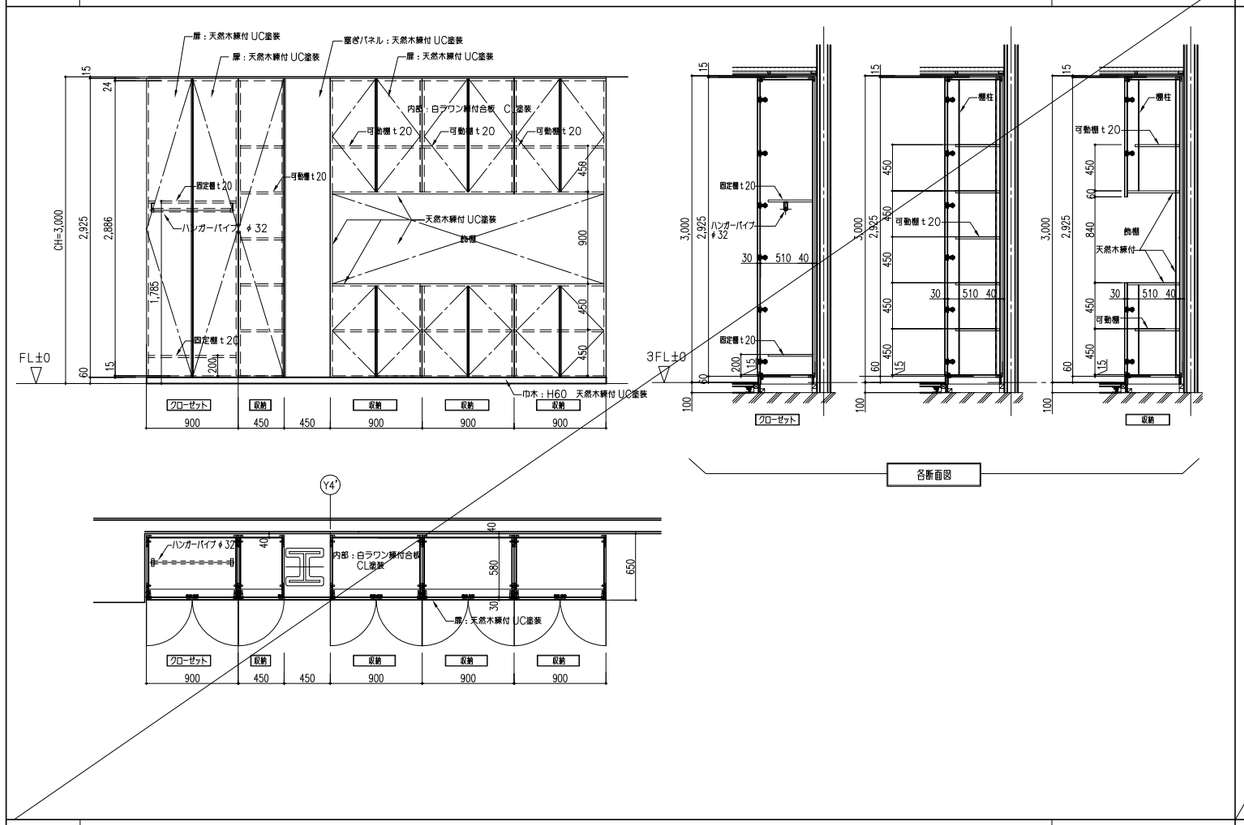
新潟市建築部公共建築第1課

工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟建設工事

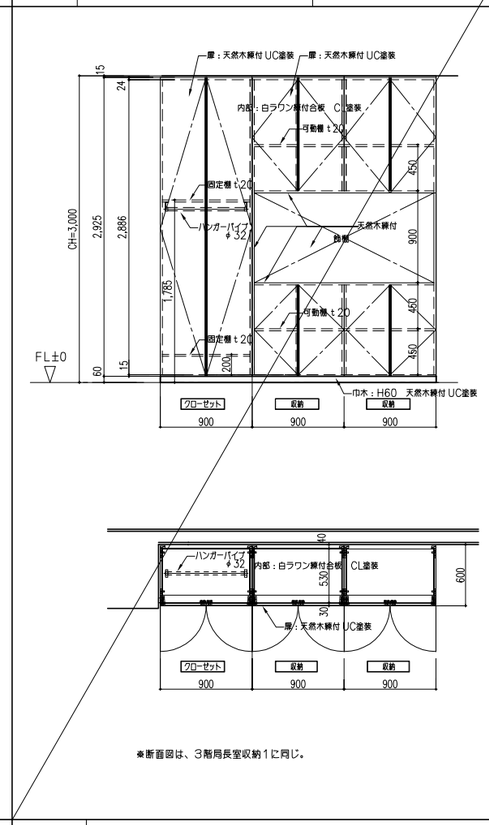
図名 部分詳細図（14）

年月日 2013.03.01 縮尺 A1:1／200、A3:1／400 図面番号 A-57

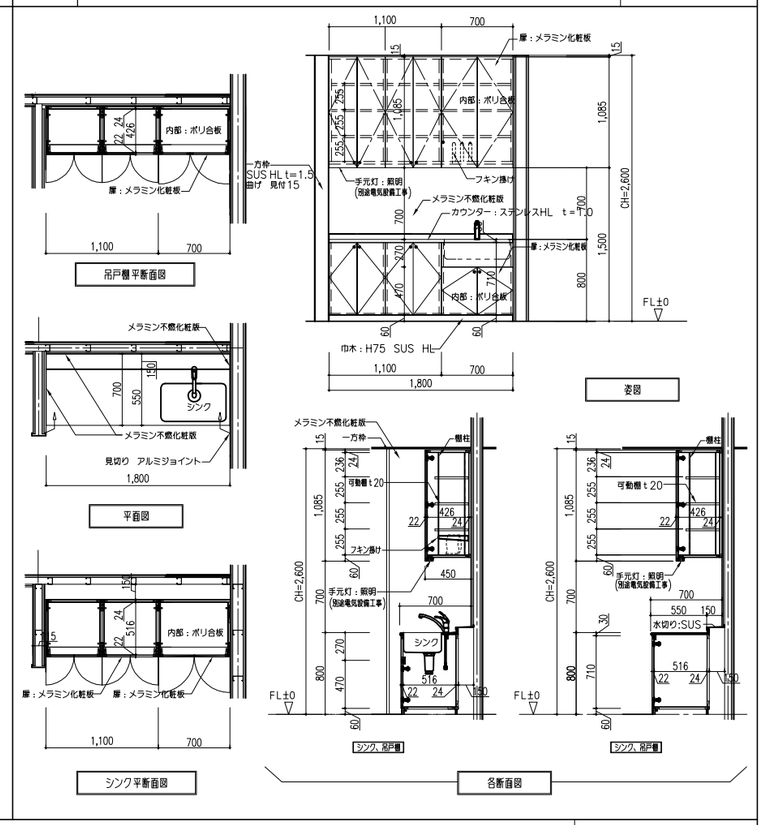
D-15-1 収納1 3階局長室 （別途工事） A1 S=1:30 A3 S=1:60



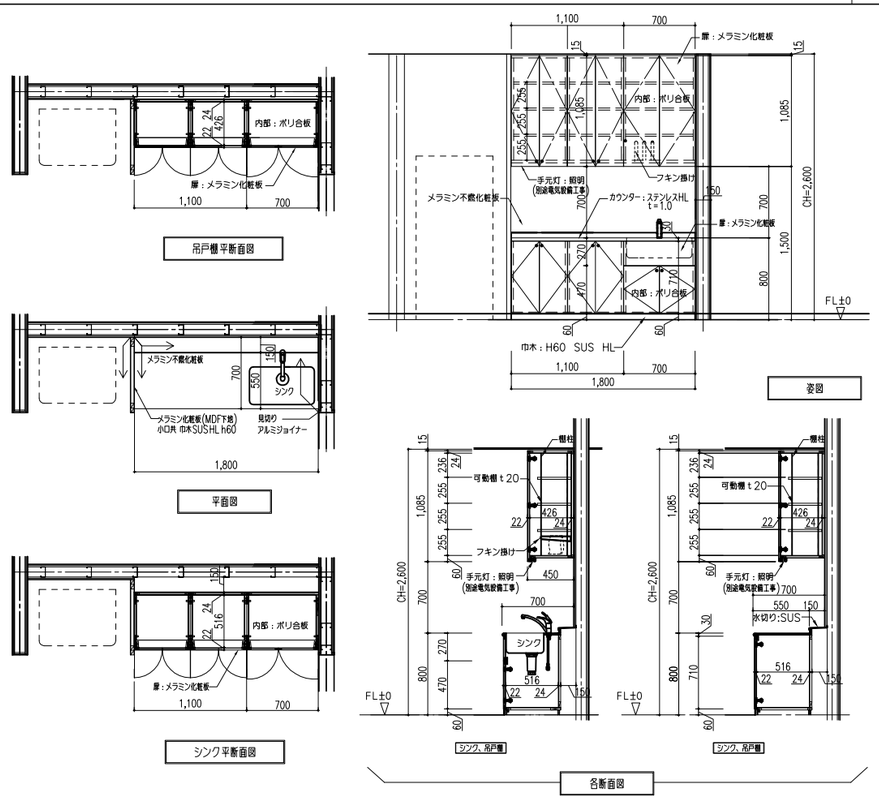
D-15-2 収納2 1階署長室 （別途工事） A1 S=1:30 A3 S=1:60



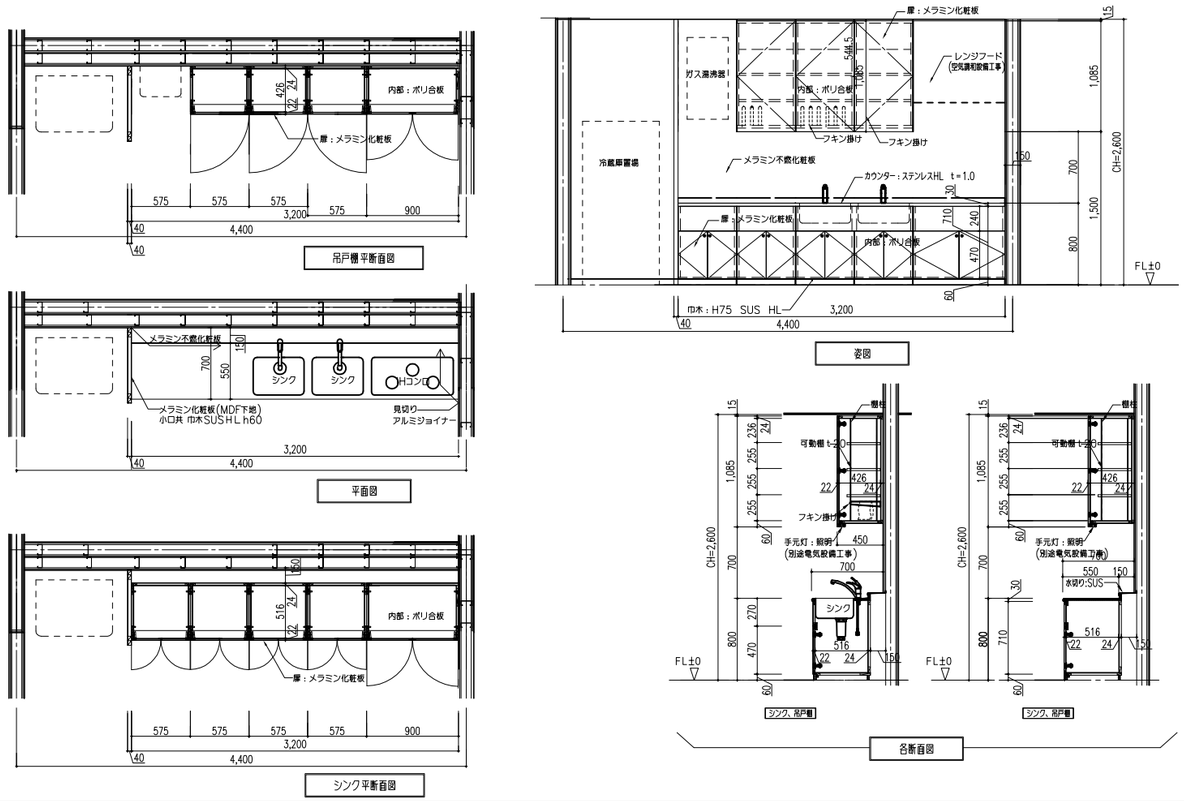
D-15-3 流し台1 （1階湯沸室） A1 S=1:30 A3 S=1:60



D-15-4 流し台2 （2～4階湯沸室） A1 S=1:30 A3 S=1:60



D-15-5 流し台3 （4階指令課湯沸室） A1 S=1:30 A3 S=1:60



2013.01.22

安井・太陽設計共同体
管理建築士一級建築士第129267号 高田 茂

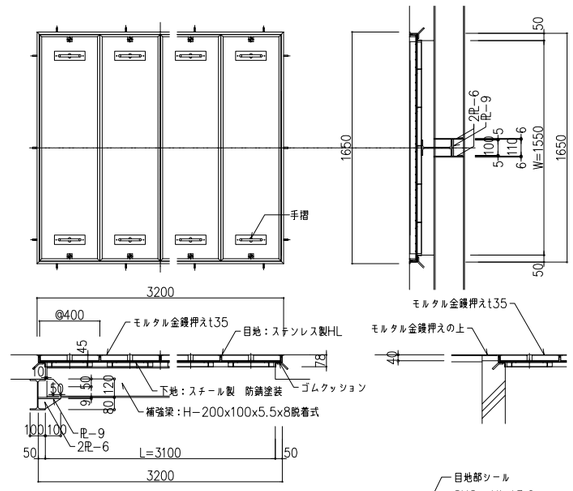
新潟市建築部公共建築第1課

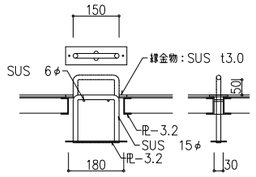
工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟建設工事

図名 部分詳細図 (15)

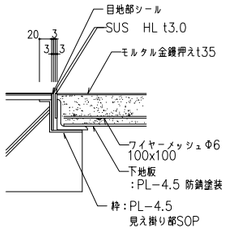
年月日 2013.03.01 縮尺 A1:1/30 A3:1/60 図面番号 A-58

D−16−1 1階 マシンハッチ 1:20



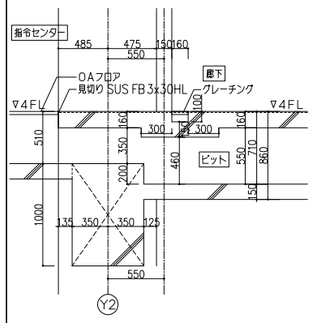


手摺金物部詳細図 1:10
耐荷重300kg/㎡

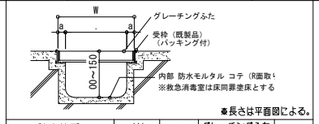


枠部詳細図 1:5

D−16−2 4F配線ピット廻り緊急排水 1:30



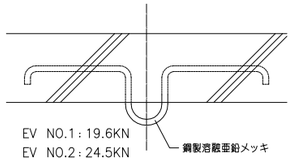
D−16−3 排水溝＋グレーチング 1:2



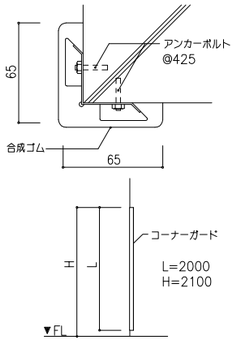
★長さは平面図による。

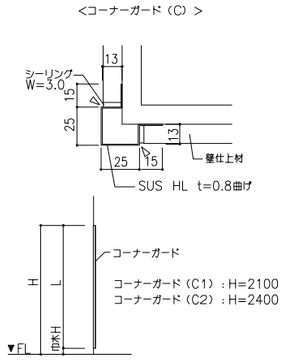
該当箇所	W	a	グレーチングふた
1階救急消毒室	250	25	A
1階ホースタワー室	300	60	B
4階廊下	150	25	C

D−16−4 吊フック 1:10

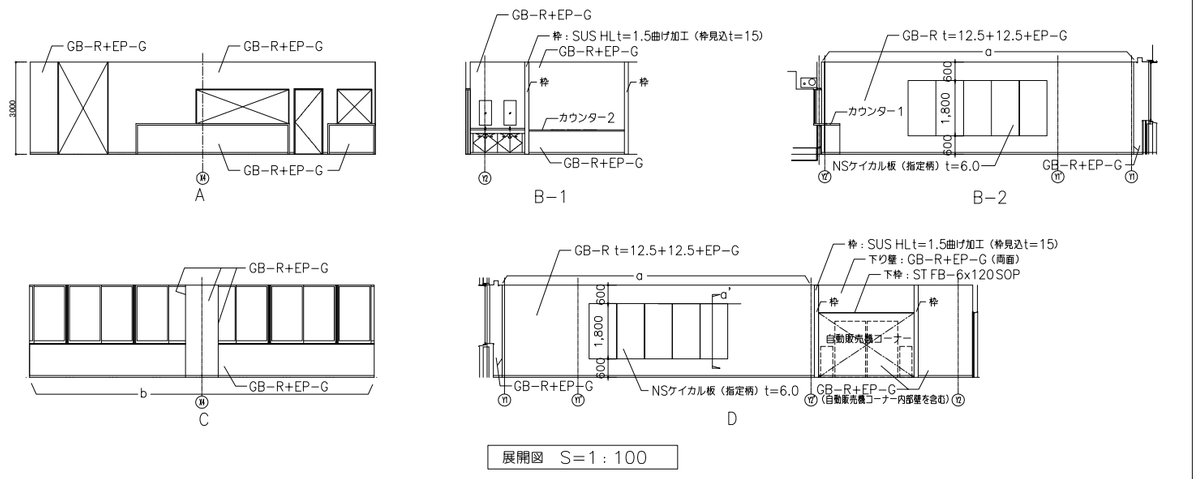


D−16−5 コーナーガード（B）（C） 1:2

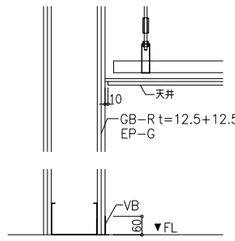




D−16−13 2階 食堂廻り詳細図 1:100,1:10

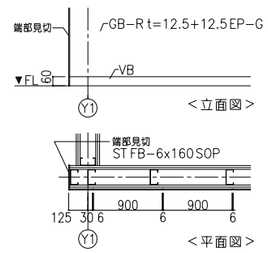


展開図 S=1：100



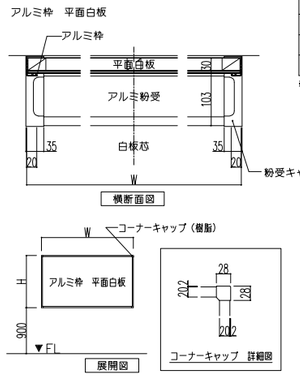
a部断面詳細図 S=1：10

a'部断面詳細図 S=1：5



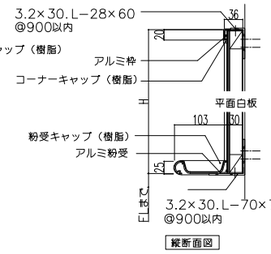
a部Y1通り端部詳細図 S=1：20

D−16−6 ホワイトボード 1:6

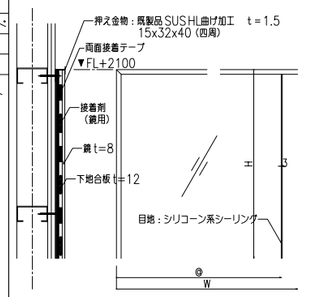


階	室名	WxH	数量	備考
2	応急救護訓練室	2700x1000	1	マルチボード
				継目有り

※マルチボードはホワイトボード（2700x1000）にマグネットシート（ホワイトボード使用＋プロジェクター投影可能シート（2700x1000）取付けにて対応

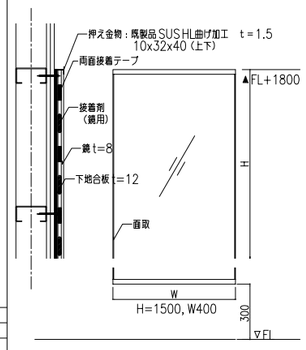


D−16−7 2階トレーニングルーム姿見鏡 1,3,4階洗面スペース 鏡 1:10

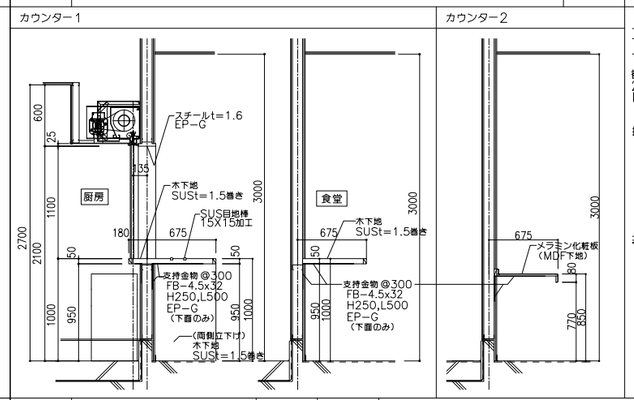


設置場所	H	W	@	数量
2階トレーニングルーム	2000	3600	1800	1
1階洗面スペース	950	3000	1500	1
3階洗面スペース	950	2700	1350	1
4階洗面スペース	950	4000	2000	1

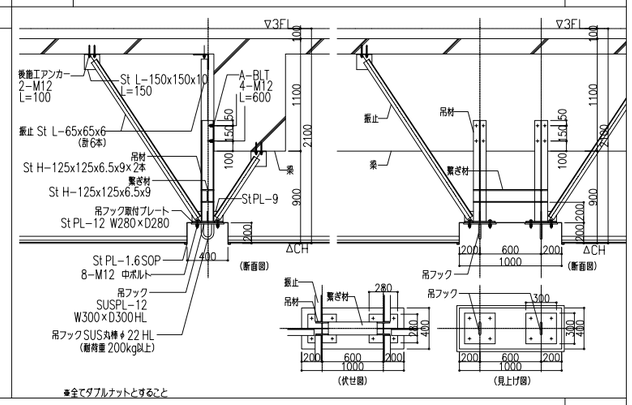
D−16−8 2〜3階 更衣室姿見鏡 1:10



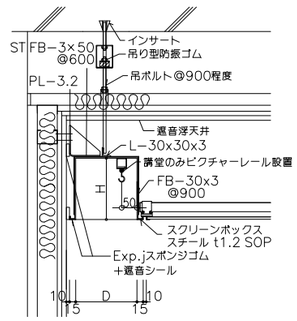
D−16−14 2階 食堂 カウンター1,カウンター2 1:30



D−16−18 2階 トレーニングルーム 吊フック詳細図 1:30

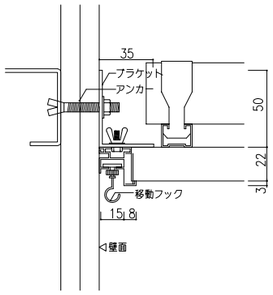


D−16−9 スクリーンボックス 1:10

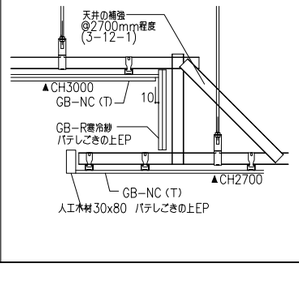


階	室名	WxDxH	数量
2	応急救護訓練室	3200x150x150	1
3	躯体	5200x200x200	1

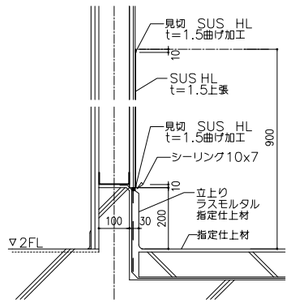
D−16−10 天井見切兼用鴨居レール 1:2



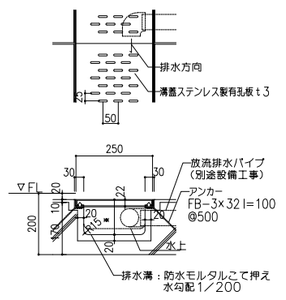
D−16−11 2階 廊下 折上げ天井 1:10



D−16−15 厨房腰部詳細 1:10

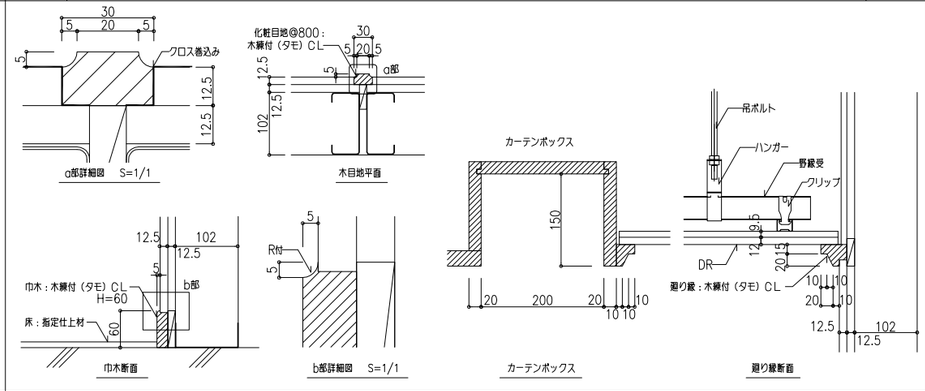


D−16−16 厨房排水 1:10



※グリストラップ蓋についても同仕様とする（表板補強有）
※グリストラップ（1−22−2）
L1:1200 W1:850 H:170

D−16−17 3階 局長室 廻縁、木目地、木巾木 ,1階著長室巾木 1:5



20121211改
20121219改

安井・太陽設計共同体
管理建築士一級建築士第129267号 高田 茂

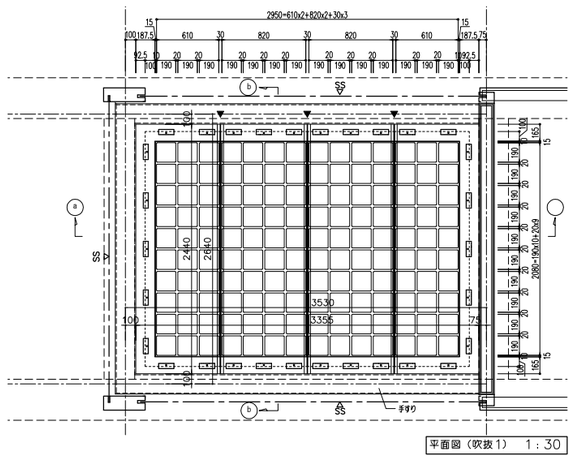
新潟市建築部公共建築第1課

工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟建設工事

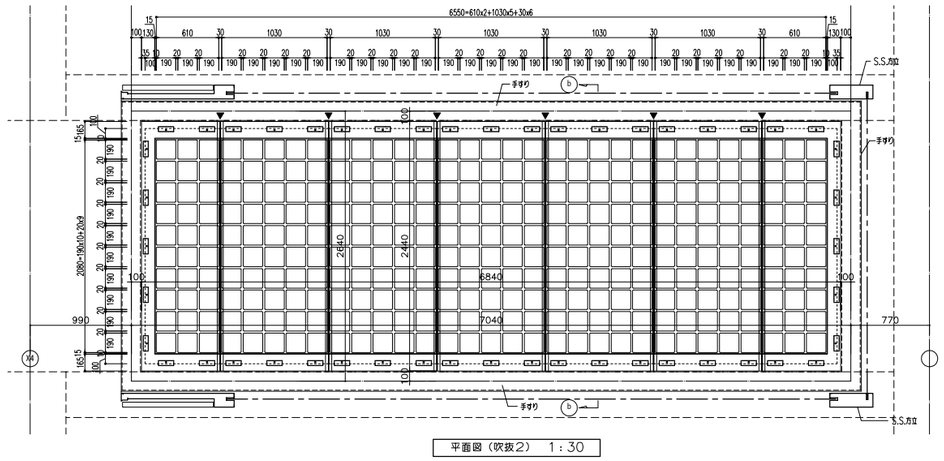
図名 部分詳細図（16）

年月日 2013.03.01 縮尺 A1:図示、A3:図示／2 図面番号 A−59

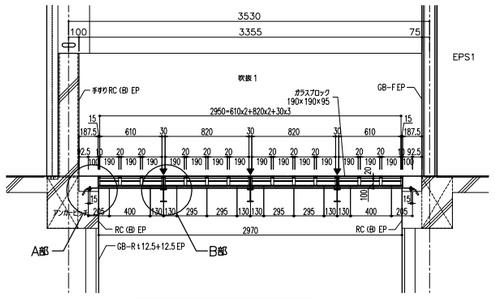
D−17−1 2階吹抜　ガラスブロック床　1:30,1:5



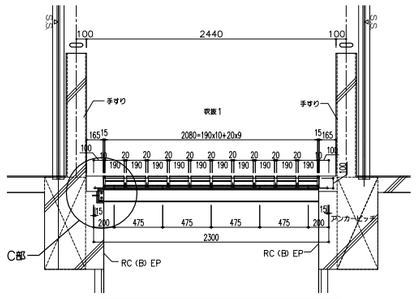
平面図（吹抜1）　1：30



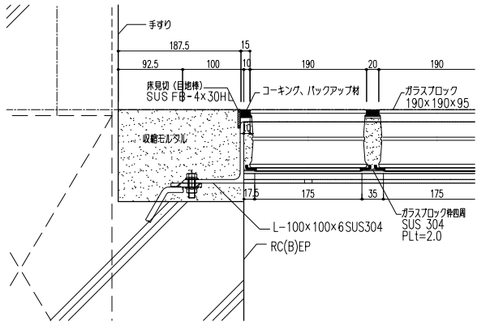
平面図（吹抜2）　1：30



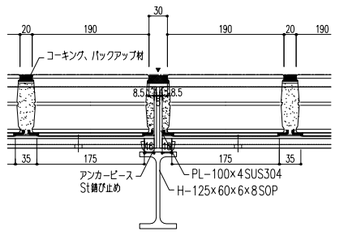
a−a断面図（吹抜1）　1：30



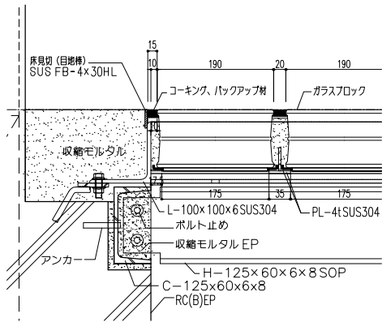
b−b断面図（吹抜1・2共通）　1：30



A部詳細図　1：5

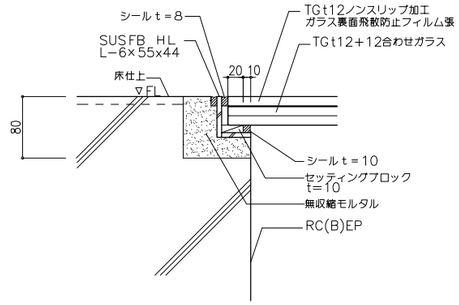


B部詳細図　1：5

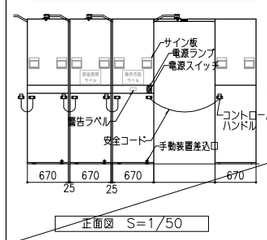


C部詳細図　1：5　※SUSは全てHLとする

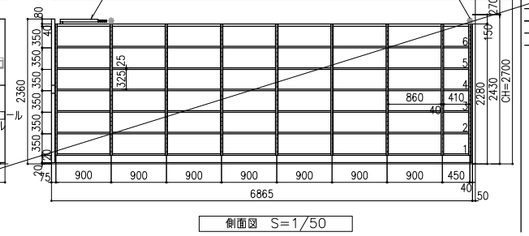
D−17−2 1階ガラス床　1:4



D−17−8 2階　書庫、棚レール　（別途工事）　1:50,1:4



正面図　S=1/50

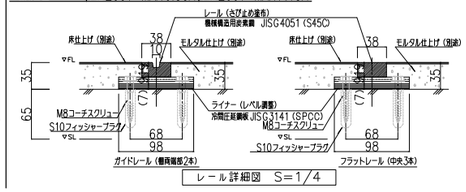


側面図　S=1/50

仕様

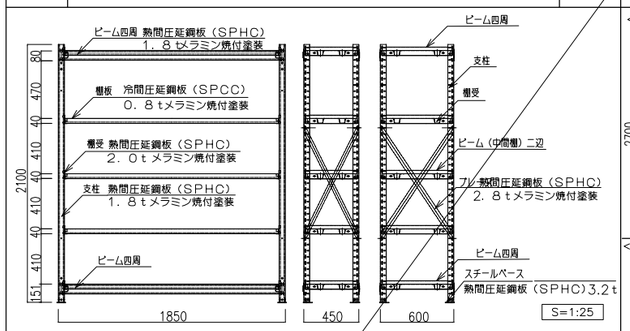
項目		書庫A	書庫B
棚のサイズ	1段高さ	有効 325 mm	
	段組	中 6 段組	
耐荷重	棚板	50 kg/枚	
	連当り	600 kg/後式連	
棚段数		W900= 1206 段 / W450= 168 段 / W600= 12 段	W900= 1,344 段 / W450= 162 段
電動機		25W×2/各可動棚	25W×2/各可動棚
床方式		モルタル埋め込み方式 深さ35mm	
電気容量		単相200V MAX6.50A	単相200V MAX7.15A

＜特記事項＞
- 観開機能
- 免震車輪（免震ゴム付車輪）
- 連入防止チェーン付
- 単式固定棚は裏板付
- 背面側板付
- F☆☆☆☆（粉体塗装仕上）

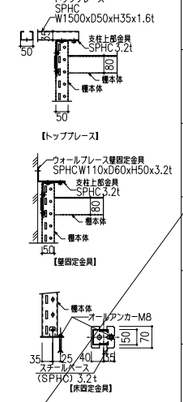


レール詳細図　S=1/4

D−17−9 棚　（別途工事）　1:25,1:10



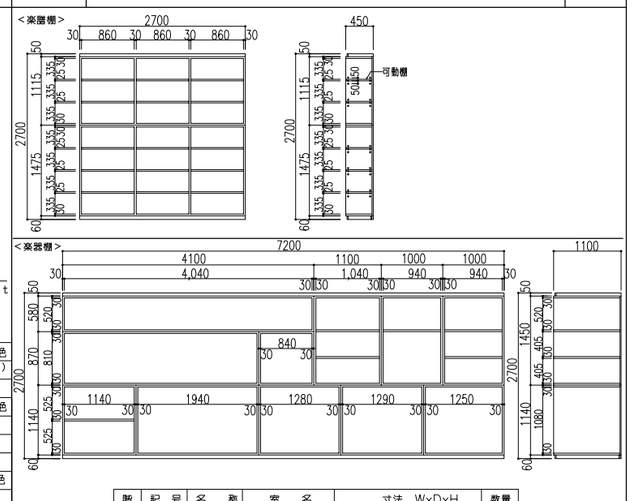
S=1:25



固定金具 取付詳細図　S=1:10

倉庫（消防局）	中量ラック　500kg／段	焼付塗装色：標準色
	H2100×W1800×D450　天地　5段　22台（基本型　10・連結型　12）	
	トップブレース、壁固定金具、床固定金具	
倉庫（中央消防署）	中量ラック　500kg／段	焼付塗装色：標準色
	H2100×W1500×D450　天地　5段　11台（基本型　10・連結型　1）	
	H2100×W1200×D450　天地　5段　8台（基本型・連結型　8　）	
	トップブレース、壁固定金具、床固定金具	
食料備蓄庫	中量ラック　500kg／段	焼付塗装色：標準色
	H2100×W1800×D600　天地　5段　8台（基本型　4・連結型　4）	
	H2100×W1200×D600　天地　5段　1台（基本型　・連結型　1）	
	トップブレース、壁固定金具、床固定金具	
救急用備品庫	中量ラック　500kg／段	焼付塗装色：標準色
	H2100×W1800×D450　天地　5段　16台（基本型　8・連結型　8）	
	H2100×W1200×D450　天地　5段　6台（基本型　・連結型　6）	
	トップブレース、壁固定金具、床固定金具	
清掃用具庫	中量ラック　500kg／段	焼付塗装色：標準色
	H2100×W1800×D450　天地　5段　4台（基本型　2・連結型　2）	
	H2100×W1200×D450　天地　5段　2台（基本型　・連結型　2）	
	トップブレース、壁固定金具、床固定金具	
消耗品倉庫	中量ラック　500kg／段	焼付塗装色：標準色
	H2100×W1800×D450　天地　5段　4台（基本型　2・連結型　2）	
	H2100×W1200×D450　天地　5段　2台（基本型　・連結型　2）	
	トップブレース、壁固定金具、床固定金具	
資機材庫（局署兼用）	中量ラック　500kg／段	焼付塗装色：標準色
	H2100×W1800×D600　天地　5段　64台（基本型　19・連結型　45）	
	トップブレース、壁固定金具、床固定金具	

D−17−10 2階楽器庫　棚　1:50

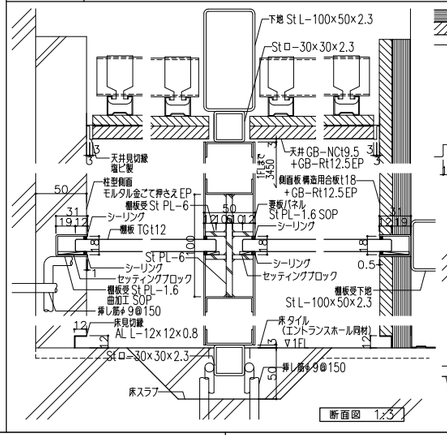


階	記号	名称	室名	寸法 WxDxH	数量
		楽器棚	倉庫（楽器庫）	2,700x450x2,700	1
		楽器棚	倉庫（楽器庫）	7,200x1,100x2,700	1

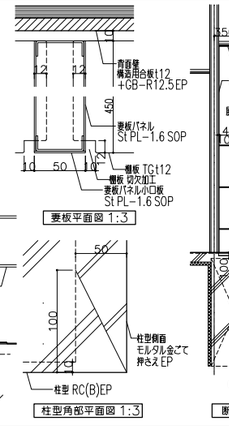
天板：メラミン化粧板　単色（合板下地貼）
側板：メラミン化粧板　単色（フラッシュ）
内部：ポリエステル化粧板　単色（フラッシュ）
内部：底面は合板下地貼
小口：エッジテープ貼

※　現場寸法及び取合い要確認の上、製作の事。
※　家具壁面固定はセットキャップビス固定とする。

D−17−11 エントランスホール　展示ケース詳細図　1:3,1:50

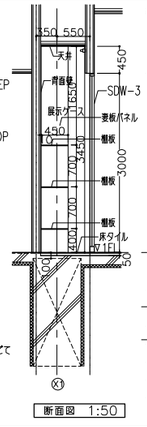


断面図　1:3

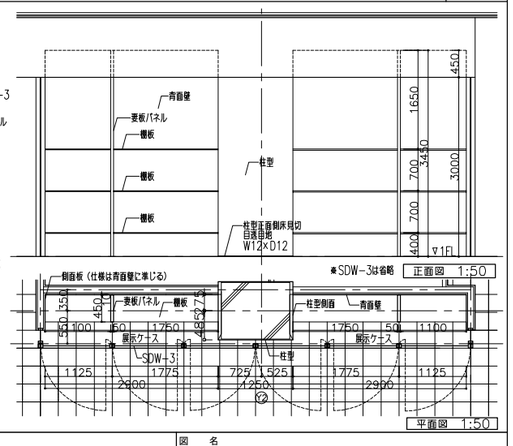


要板平面図 1:3

柱型角部平面図 1:3



断面図　1:50



平面図　1:50

改20121219
改20130122

安井・太陽設計共同体
管理建築士一級建築士第129267号　高田　茂

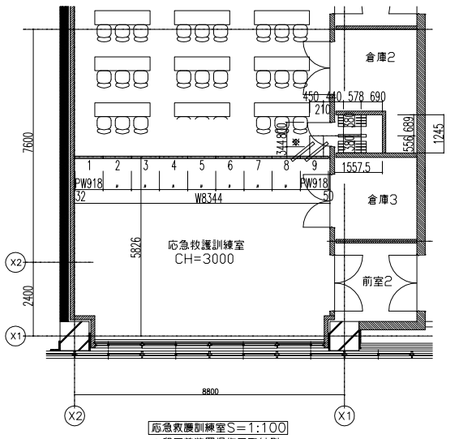
新潟市建築部公共建築第1課

工事名　新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟建設工事

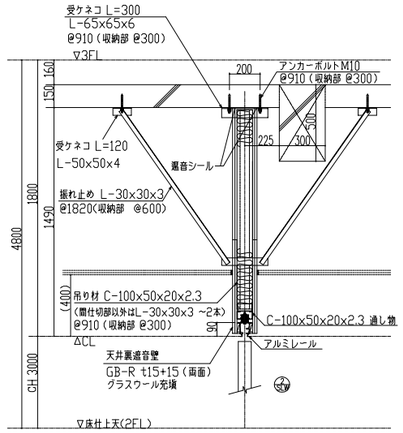
図名　部分詳細図（17）

年月日　2013.03.01　縮尺　A1:1／図示、A3:図示／2　図面番号　A-60

D−18−1 移動間仕切り（B）



応急救護訓練室S=1:100
※印圧着装置操作口取付側



応急救護訓練室　移動間仕切り
レール取付断面図　S=1:20

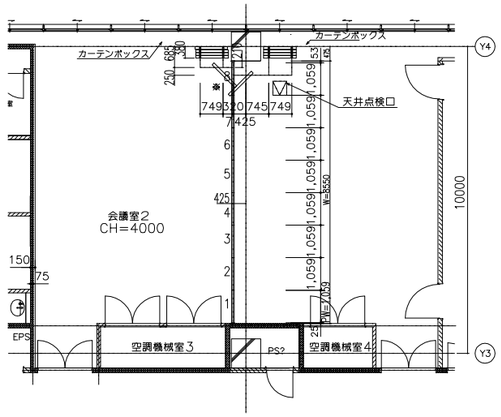
スライディングウォール厚み67mm
パネル重量110kg／枚

展開図　S=1:100

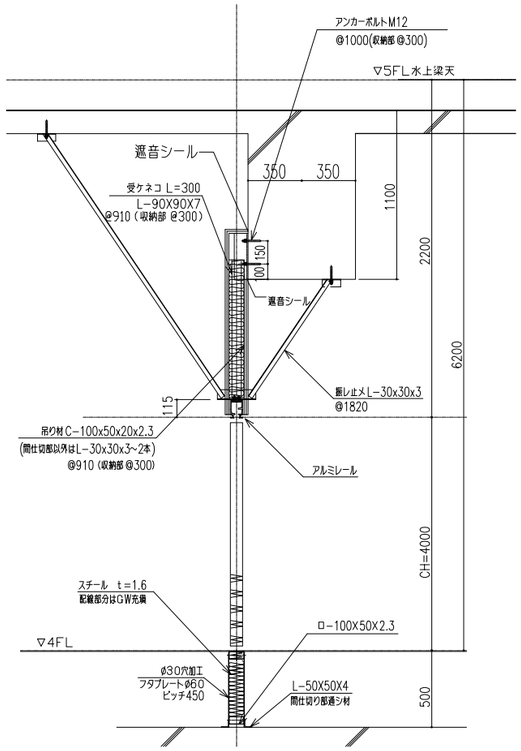
応急救護訓練室　移動間仕切　厚み67mm

レール仕様	レール	アルミ押出型材ハンガーレール(アルマイト処理)
		コーナー部 直角レール
ランナー仕様	走行輪	水平2段スライド走行輪(ベアリング内蔵)
	吊ボルト	M14
パネル仕様	表面仕上	
	表面材	電気亜鉛めっき鋼板 0.8mm(焼付塗装)
		下張り:せっこうボード 12.5mm
	充填材	グラスウール充填
	骨組	アルミフレーム＋鉄骨造
	フレーム	アルミ押出形材（アルマイト処理）
	召合せ	固定ゴム嵌合
	壁面シールド	機械駆動式
	上部シールド	機械駆動式
	下部シールド	機械駆動式
	遮音性能	音響透過損失 45dB以上／500Hz(パネル単体)
	パネル分離型構造(廃棄時分別可能)・・・環境対応型	

D−18−2 移動間仕切り（C）　1:50



会議室2　S=1:100



4階会議室2　移動間仕切り
レール取付断面図 S=1:20

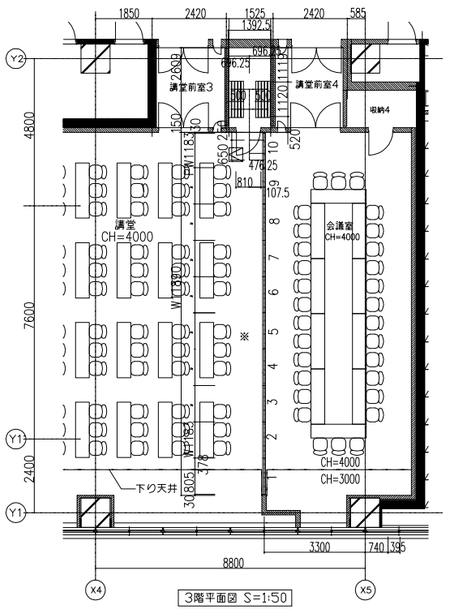
会議室2　移動間仕切り 厚み67mm

レール仕様	レール	アルミ押出型材ハンガーレール(アルマイト処理)
		コーナー部 直角レール
ランナー仕様	走行輪	水平2段スライド走行輪(ベアリング内蔵)
	吊ボルト	M14
パネル仕様	表面仕上	
	表面材	壁紙貼り（内装工事）
		下張り:せっこうボード 12.5mm
	充填材	グラスウール充填
	骨組	アルミフレーム＋鉄骨造
	フレーム	アルミ押出形材（アルマイト処理）
	召合せ	固定ゴム嵌合
	壁面シールド	機械駆動式
	上部シールド	機械駆動式
	下部シールド	機械駆動式
	遮音性能	音響透過損失 45dB以上／500Hz(パネル単体)
	パネル分離型構造(廃棄時分別可能)・・・環境対応型	

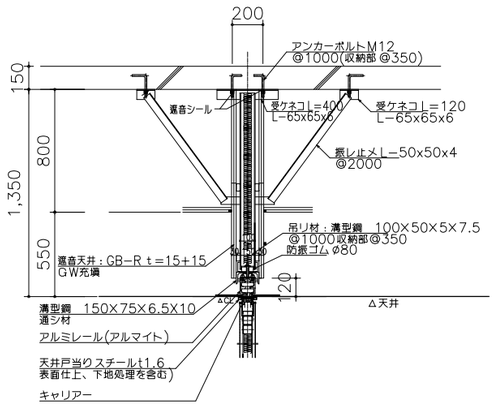
スライディングウォール厚み67mm
パネル重量128kg／枚

会議室2移動間仕切り　展開図　S=1:100

D−18−3 移動間仕切り（A）　1:50

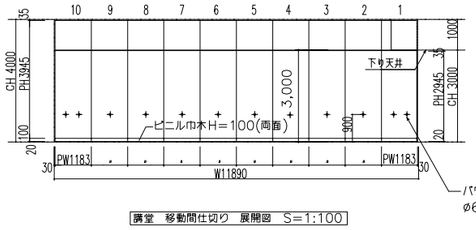


3階平面図 S=1:50



講堂　移動間仕切り　レール取付断面図　S=1:20

講堂　移動間仕切　厚み85mm　パネル重量 231kg／1面

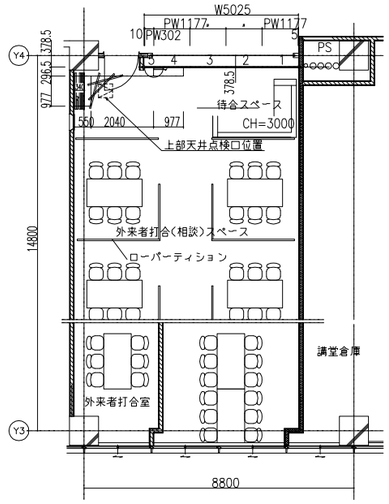


講堂　移動間仕切り　展開図　S=1:100

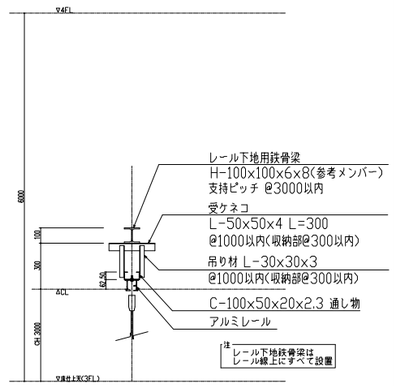
移動間仕切　厚み85mm　（遮音仕様）

レール仕様	レール	アルミ押出型材ハンガーレール(アルマイト処理)
		コーナー部 直角レール
ランナー仕様	走行輪	水平2段スライド走行輪(ベアリング内蔵)
	吊ボルト	M14
パネル仕様	表面仕上	
	表面材	電気亜鉛めっき鋼板 0.8mm(焼付塗装)
		下張り:せっこうボード 12.5mm
	充填材	グラスウール充填
	骨組	アルミフレーム＋鉄骨造
	フレーム	アルミ押出形材（アルマイト処理）
	召合せ	固定ゴム嵌合
	壁面シールド	機械駆動式
	上部シールド	機械駆動式
	下部シールド	機械駆動式
	遮音性能	音響透過損失 45dB以上／500Hz(パネル単体)
	パネル分離型構造(廃棄時分別可能)・・・環境対応型	

D−18−4 移動ガラス間仕切り　1:50,1:10

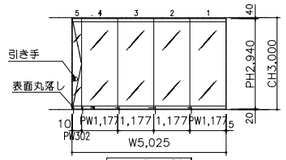


3階外来者打合（相談）スペース平面図 S=1:100



レール取付断面図　S=1:10

スライディングウォール厚み40mm
パネル重量125kg／枚



展開図S=1:50

移動間仕切　厚み40mm

レール仕様	レール	アルミ押出形材ハンガーレール(アルマイト処理)
		コーナー部 直角レール
ランナー仕様	走行輪	消音型水平2段スライド走行輪(ベアリング内蔵)
	吊ボルト	M14
パネル仕様		
	表面材	強化ガラス 12mm
		飛散防止フィルム貼(片面)
	フレーム	アルミ押出形材（アルマイト処理）
	スイープ	ナイロン(PA)
	ドア取手	ガラス用ハンドル
	固定方法	小口及び表面丸落としにて固定

改20121211

安井・太陽設計共同体
管理建築士一級建築士第129267号　高田　茂

新潟市建築部公共建築第1課

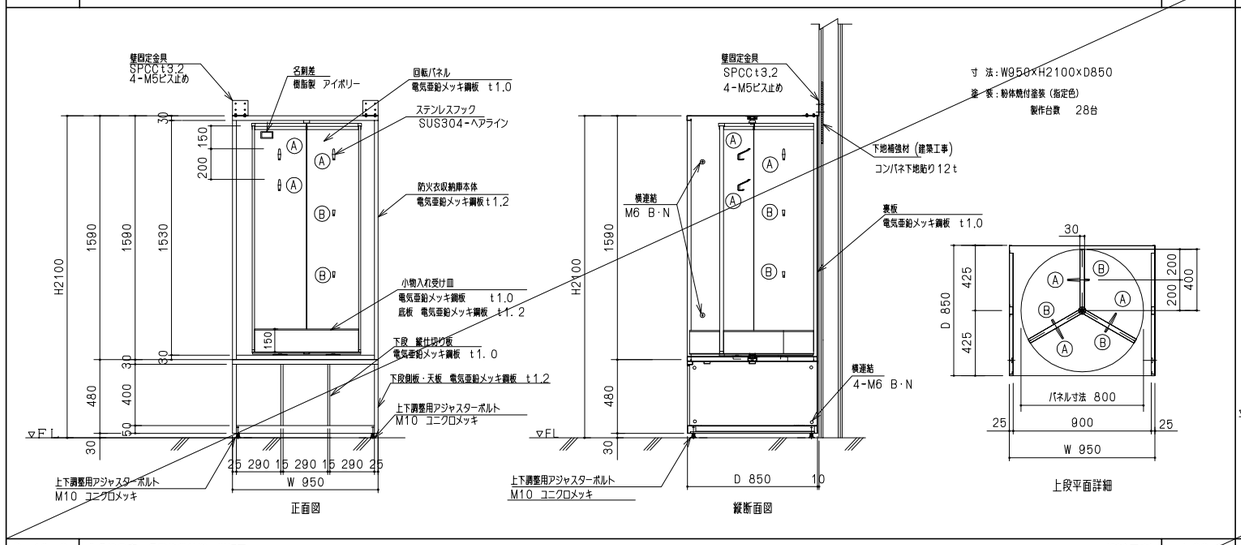
工事名
新潟市消防局・中央消防署庁舎　庁舎棟建設工事

図名
部分詳細図（18）

年月日 2013.03.01　縮尺 図示　図面番号 A-61

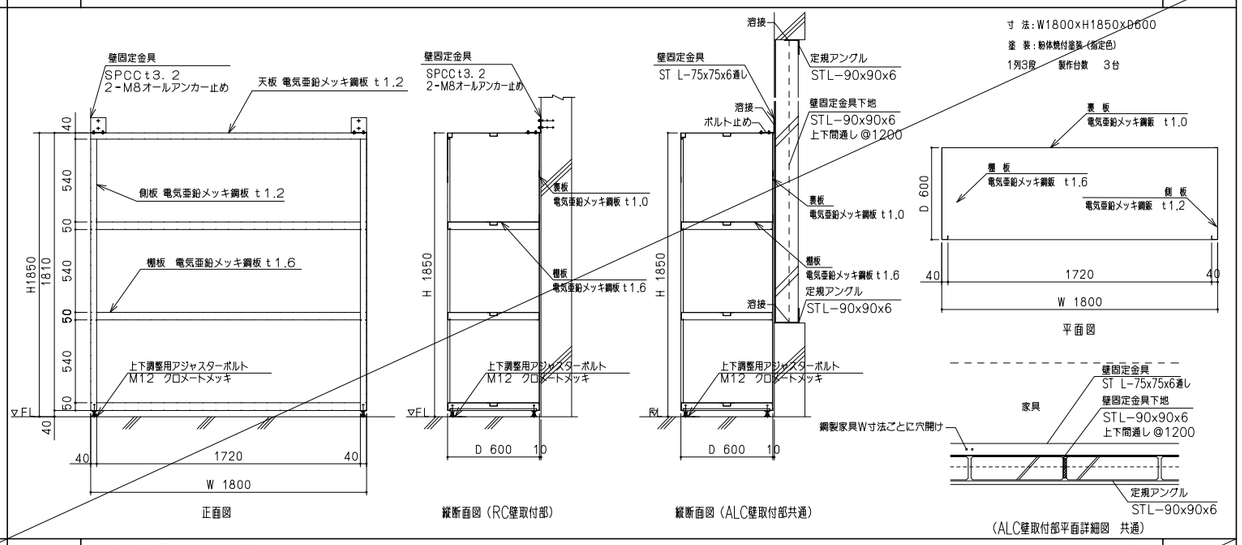
D-19-1 防火衣脱着室　回転式防火衣掛けロッカー　詳細図

（別途工事）　1:20



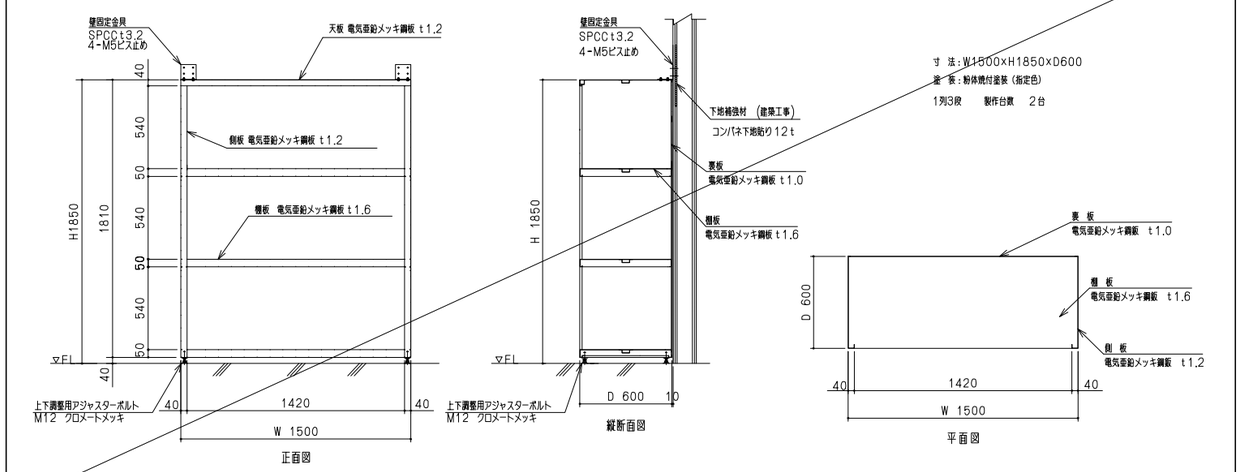
D-19-4 油庫　多目的収納棚　詳細図

（別途工事）　1:20



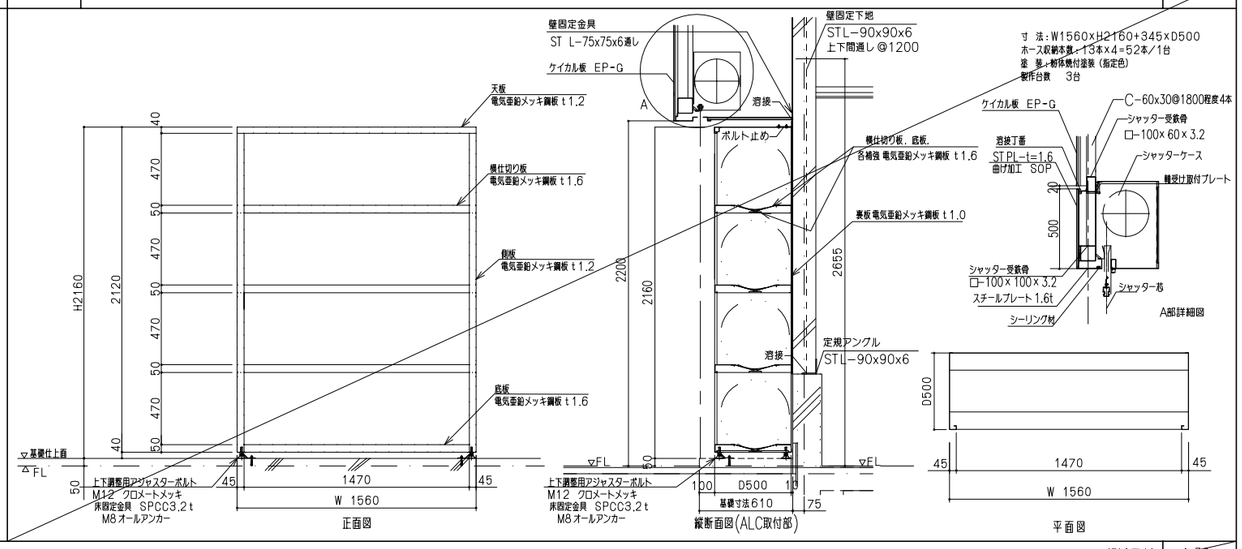
D-19-2 救急備品庫　多目的収納棚　詳細図

（別途工事）　1:20



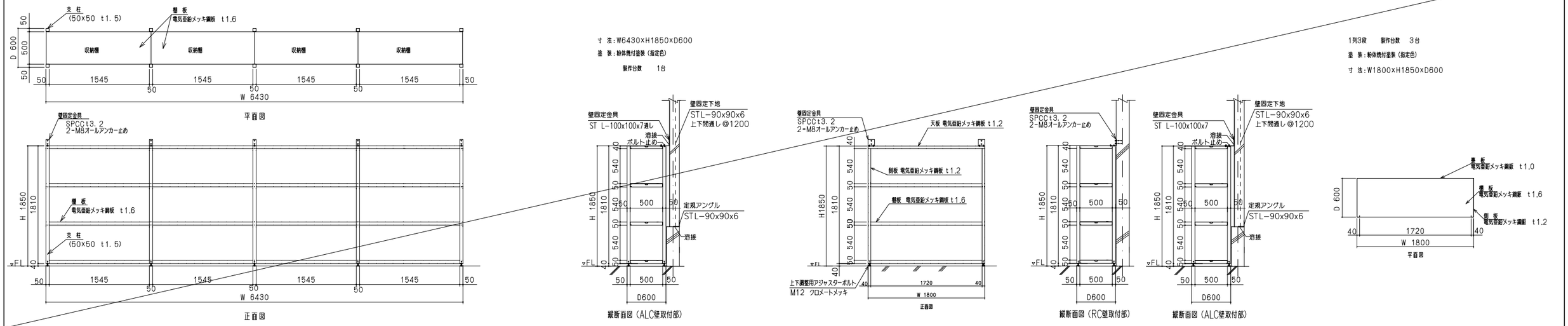
D-19-5 ホース格納庫　多目的収納棚　詳細図

（別途工事）　1:20



D-19-3 資機材庫　多目的収納棚　詳細図

（別途工事）　1:30



安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第129267号　高田　茂	新潟市建築部公共建築第1課	工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟建設工事	図名 部分詳細図(19)（別途工事）（参考図）	
			年月日 2013.03.01 / 縮尺 A1:1/20 1/30 A3:1/40 1/60	図面番号 A-62

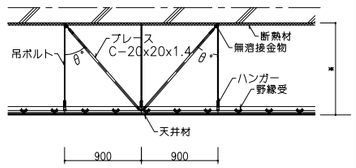
D−20−1 軽量鉄骨天井下地LGS A（耐震用天井） 1:30,1:5

■天井補強要領

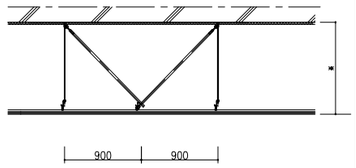
1. 地震による揺れに対し、天井及び天井に取り付く諸設備は脱落等の重大な破壊を起こさない構造とし、各部取り合いにおいて天井仕上は軽微な損傷程度となるよう天井内部において耐震補強を行う。大地震時、天井に作用する水平力は0.5G相当とする。
2. 天井構成材は、全て設定条件の荷重に基づく強度検討を行い配置すること
3. ブレース材
   天井の揺れを防止する上で、水平力に対し所定のブレース材をX・Y方向に一対ずつ固定する。取り付け位置は、上部は吊りボルトの根元・下部は野縁受材に金物及びボルト又はビスを用いて緊結する。
   ブレース材の負担面積、圧縮検討による計算結果の面積以下となるようにし、X・Y方向のブレースは可能な限り、同一直線上になるよう均等配置を行う。
4. 野縁受吊り金物（ハンガー）
   野縁受材の吊り金物は、水平力に対し嵌合部の変形による野縁受けの脱落が生じないよう開き止めのビス止めが可能な耐風圧用ハンガー等を用いる。
5. 野縁及び野縁受連結金物（クリップ）
   野縁及び野縁受連結金物（クリップ）は脱落を確実に防止するため、耐風圧仕様などに用いられるビス止め式の強固なものを用いる。
   （一般内装に使うワンタッチ式の板クリップは不可）

■天井点検口の仕様

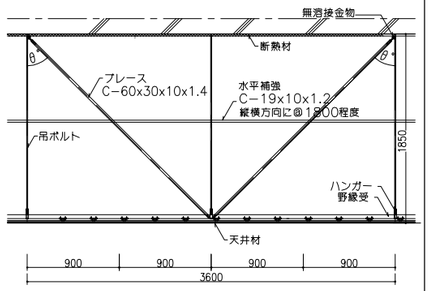
大きさ：450×450
素　材：アルミ製
仕上げ：点検口仕上材は、天井材と同材とする。
　　点検口のアルミ部分（見えがかり部）は、アクリル樹脂焼付塗装



野縁受け材方向 ブレース補強一組の要領図　1:30

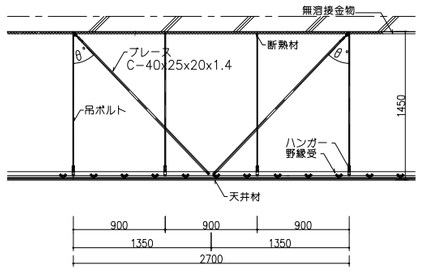


野縁受け材直交方向 ブレース補強一組の要領図　1:30



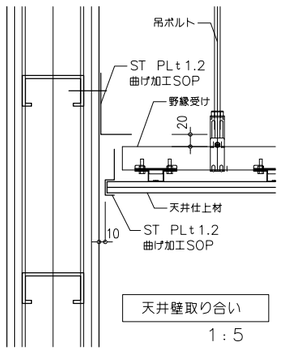
ブレース補強一組の要領図　天井ふところ1850の場合 1:30

※θ＝30〜60°とする



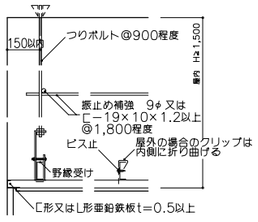
ブレース補強一組の要領図　天井ふところ1450の場合 1:30

※θ＝30〜60°とする

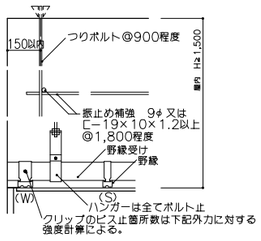


天井壁取り合い
1：5

D−20−2 軽量鉄骨天井下地LGS B（クリップ止め天井） 1:30,1:5



＜野縁が壁と直角の場合＞

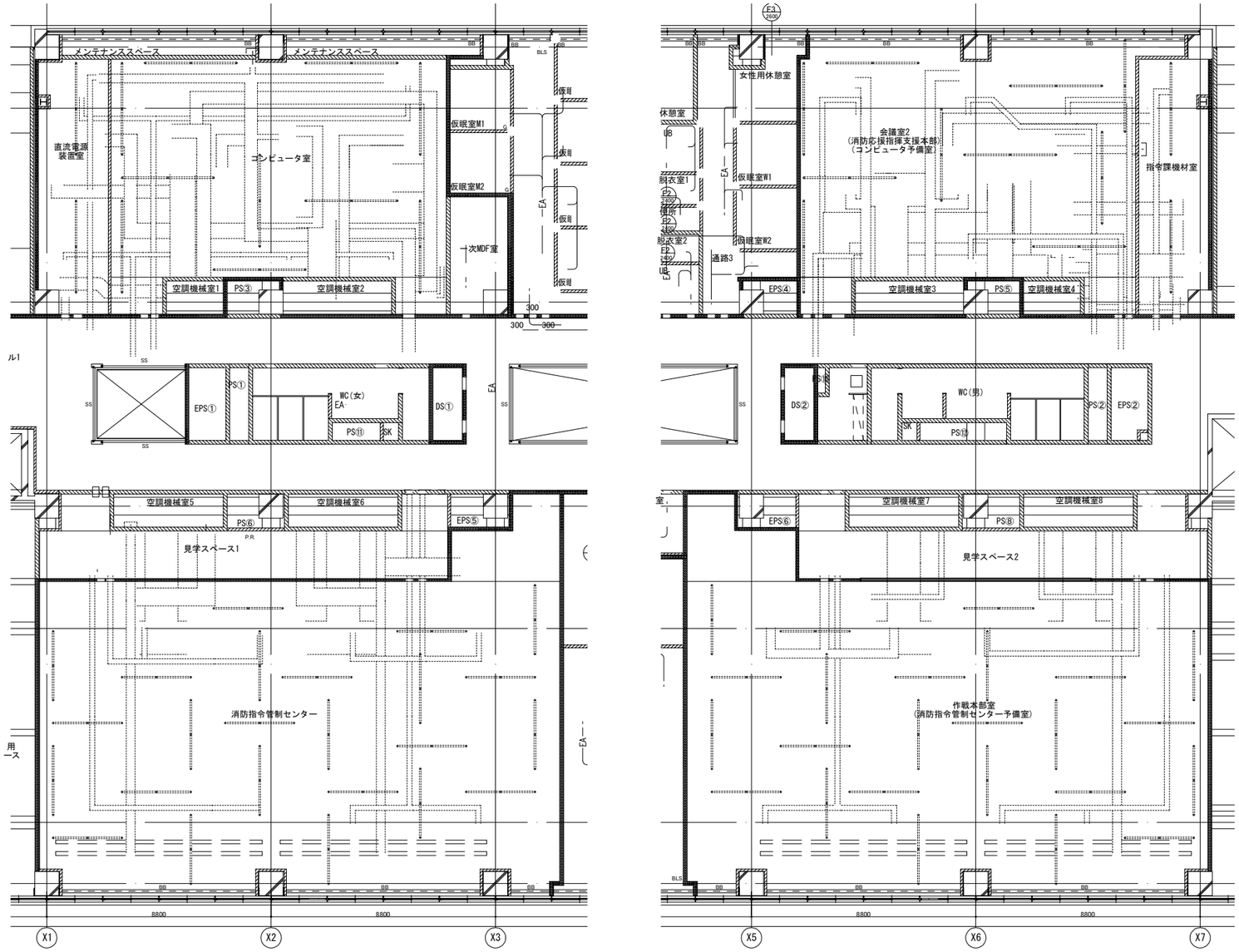


＜野縁が壁と平行の場合＞

LGS B ： 避難経路（各階廊下等）及びふところが1.5m以上の天井において、水平震度1.0G,鉛直震度1.0G相当の外力に対して天井が落下しない仕様とし、必要に応じて適宜ブレース材等を設けること。
適用する範囲:仕上表による

LGS B*： ふところが3mを超える場合はLGS Bと同仕様とするが、天下までの間仕切間が多数取付る部分は（2−22−1）の開口部補強に加え、間仕切コーナー部の軽量鉄骨壁下地を上階スラブ下までとする。
適用する範囲：仕上表、天井伏図

D−20−3 軽量鉄骨天井下地LGS A（耐震用天井）設置室天井内平面図 1:100



4階平面図

室名	天井ふところ寸法	ブレース補強箇所数
消防指令管制センター	1450	X方向12+Y方向12
作戦本部室 (消防指令管制センター予備室)	1450	X方向12+Y方向12
コンピュータ室	1850	X方向5+Y方向5
会議室2 (消防応援指揮支援本部) (コンピュータ予備室)	1850	X方向5+Y方向5

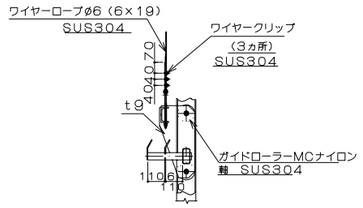
＊上記以外で仕上表天井下地欄LGS Aの対象室（4階直流電源装置室、一次MDF室、指令課機材室）も上記に準ずる。

仕様概略

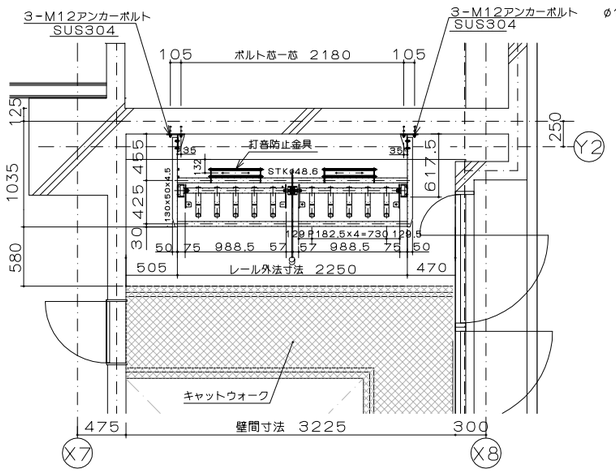
項目	仕様	各部材質及び防錆処理	
	分割昇降型	ガイドレール	耐蝕アルミ合金（A6063 T5処理） ・125×65×6（両側2本） ・80×40×4（中間2本）
台数	1基		
外形寸法	2250W×12130H	ガイドローラ	MCナイロン 軸SUS304
ホース収容本数	5本×2×2列 計20本	レールブラケット	SS材 溶融亜鉛メッキ
巻上能力	20kg×10=200kg／列	ホースハンガー	同上
作動	各列単独昇降	ウインチボックス	骨格SS材溶融亜鉛メッキ,外板SUS
昇降速度	6.5m／min 50HZ	同上内部機器	生地のまま
電動機	0.75KW ブレーキ付 2台	吊りワイヤー	2×φ6－2列 ステンレスワイヤー
電源	200V 3相 50HZ	ボルト類	オールアンカー共全てSUS304
操作回路電源	AC24V		

下記は本工事に含む
1）基礎工事
2）吊フック（1t用）工事

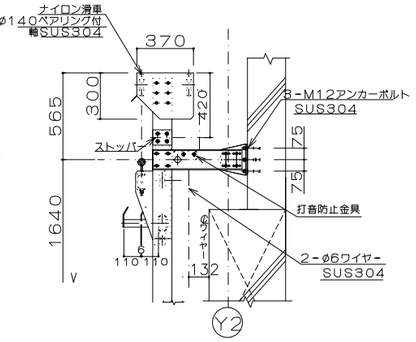
以下は電気設備工事とする
1）1次電源工事
2）2次側電線管（φ28）埋設配管工事



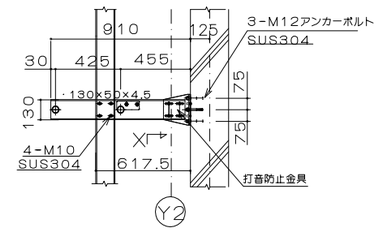
ホースハンガー詳細 S=1:20



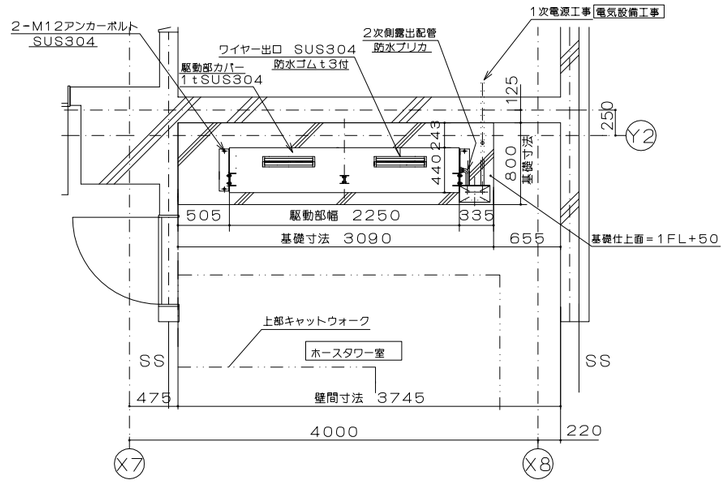
ハンガー及びレールブラケット平面 S=1:30



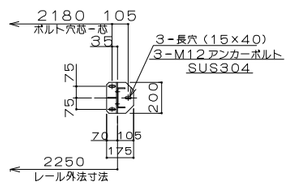
滑車ボックス詳細
S=1:20



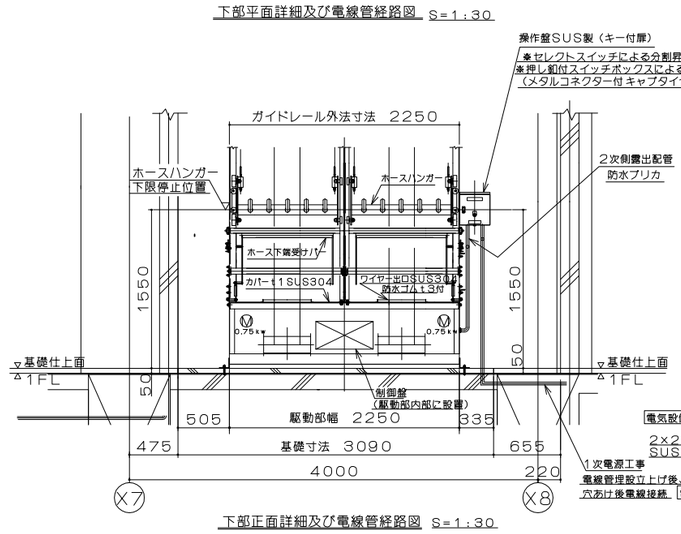
レールブラケット詳細
S=1:20



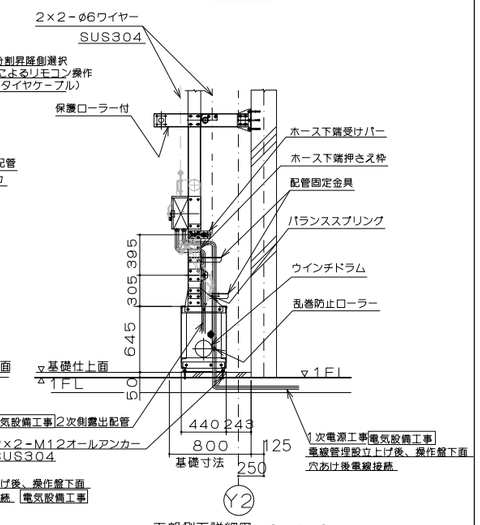
下部平面詳細及び電線管経路図 S=1:30



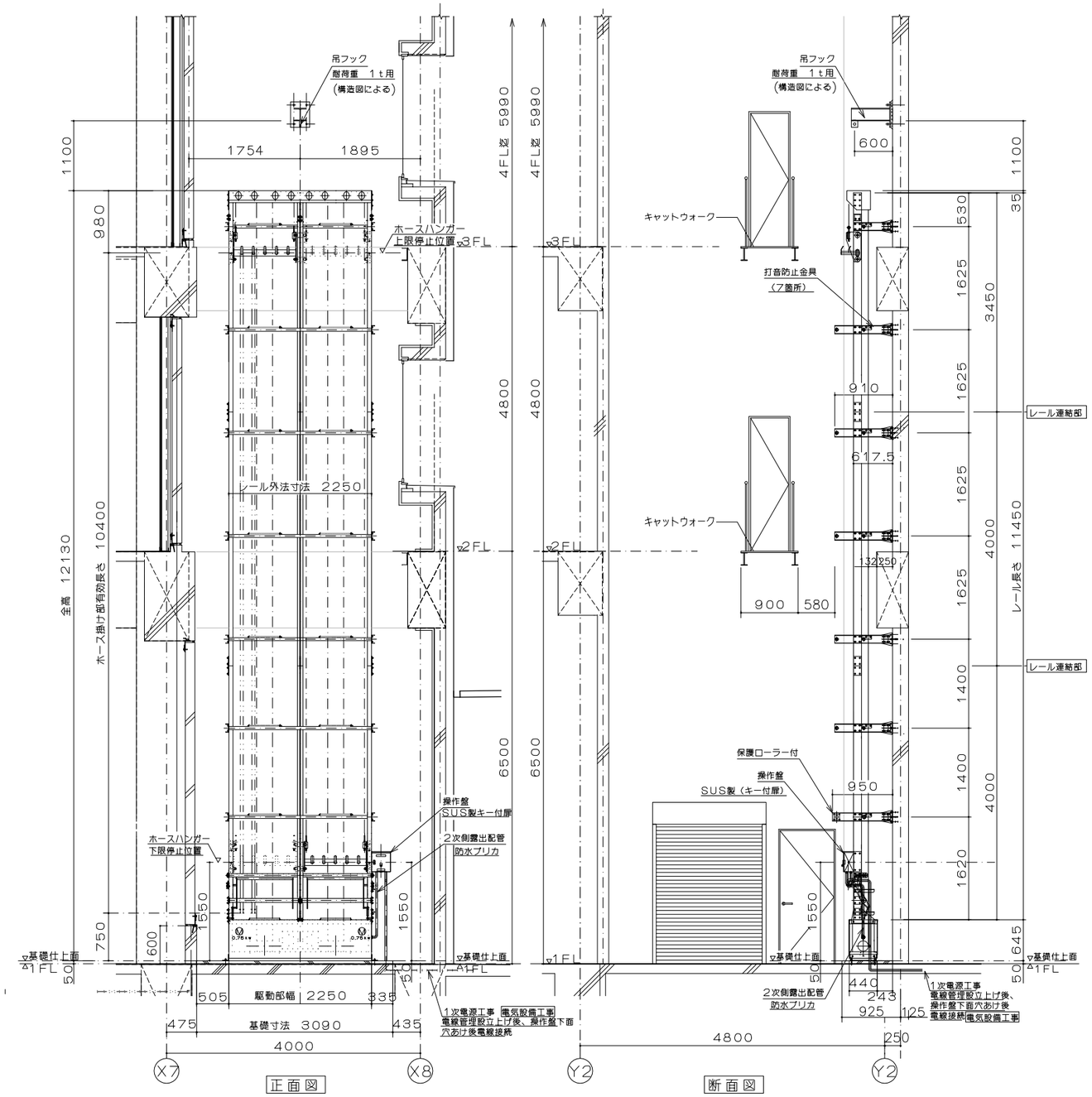
X－矢視図
S=1:20



下部正面詳細及び電線管経路図 S=1:30

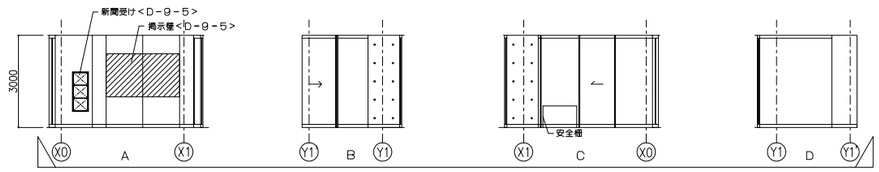


下部側面詳細図 S=1:30

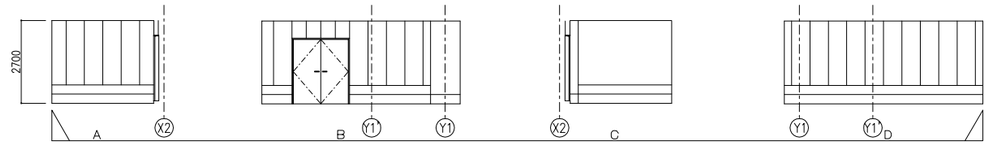


ホースリフター組立図 S=1:40

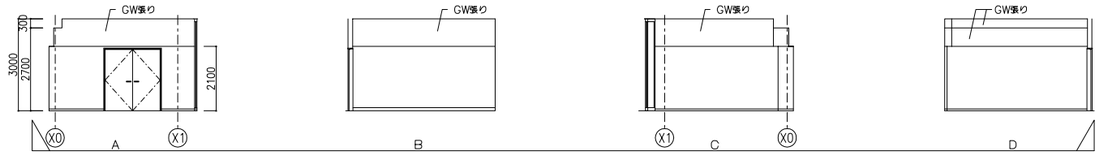
2013.01.22	安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第129267号 高田 茂	新潟市建築部公共建築第1課	工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟建設工事	図名 ホースリフター詳細図 年月日 2013.01.22 / 縮尺 / 図面番号 A-64



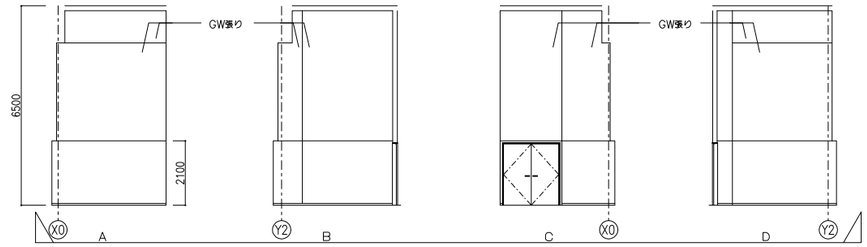
1階 ポーチ



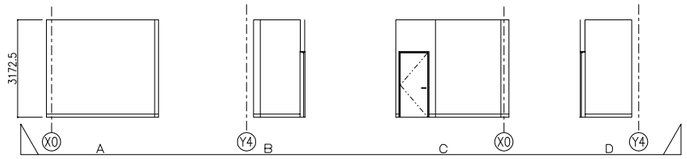
1階 資機材庫



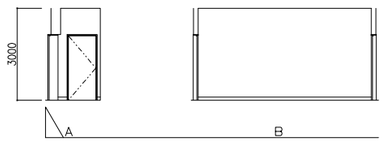
1階 消火ポンプ室



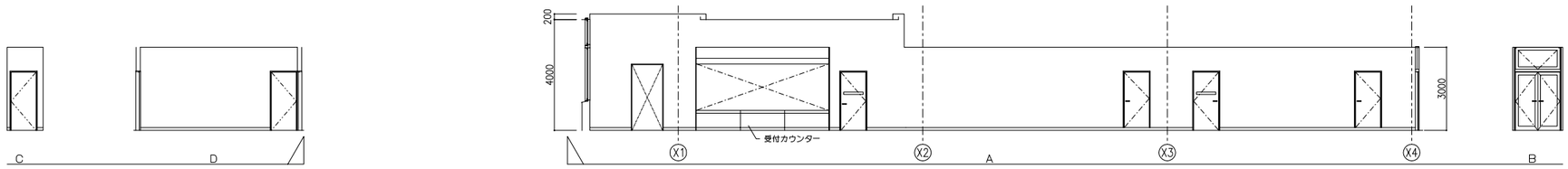
1階 ポンプ室



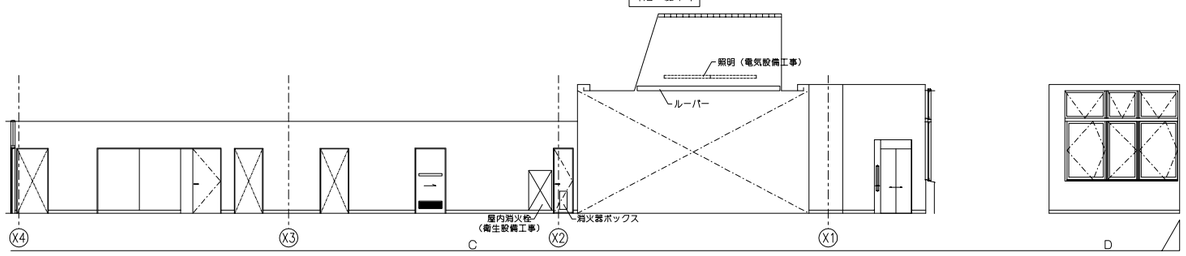
1階　機械室（X1通り）

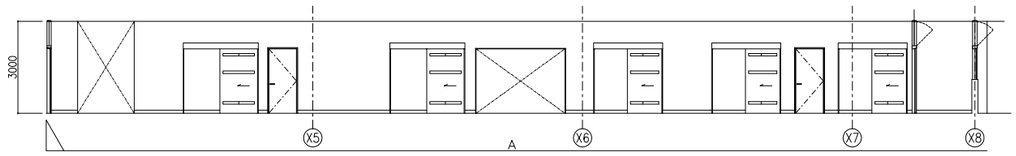


1階　前室1（X1通り）

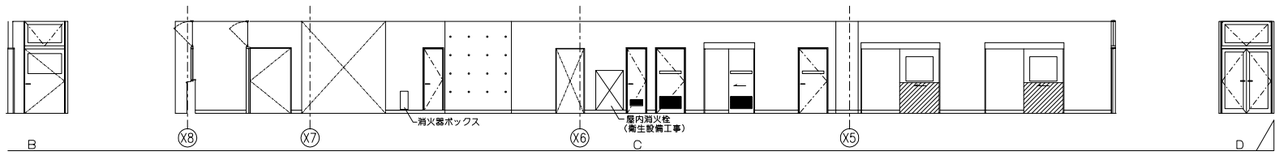


1階　廊下1

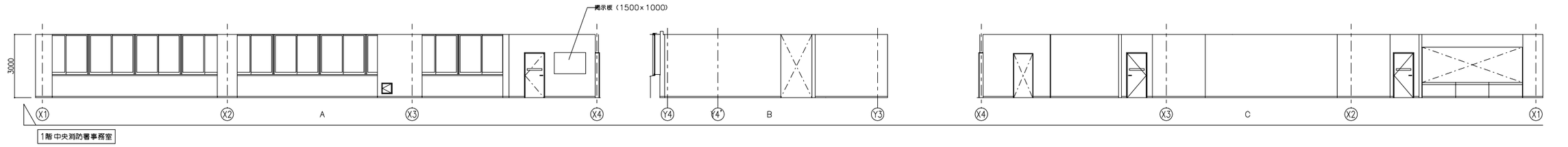




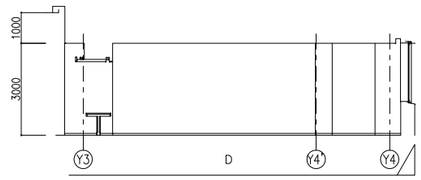
1階　廊下2

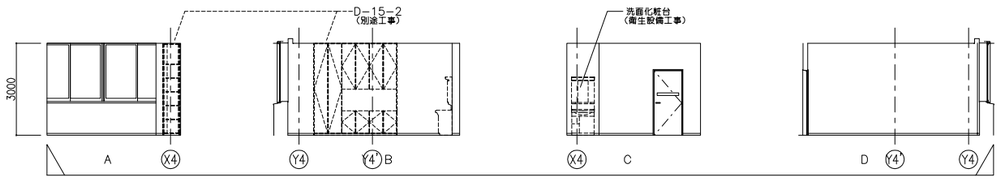


安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第129267号　高田　茂	新潟市建築部公共建築第1課	工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟建設工事	図名 展開図（1）	
			年月日 2013.03.01	縮尺 A1:1／100、A3:1/200
			図面番号 A-65	

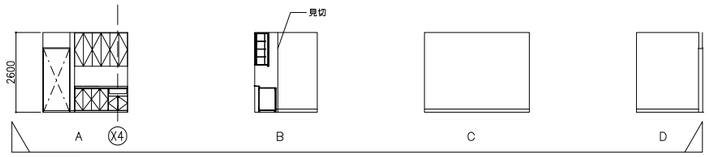


1階 中央消防署事務室

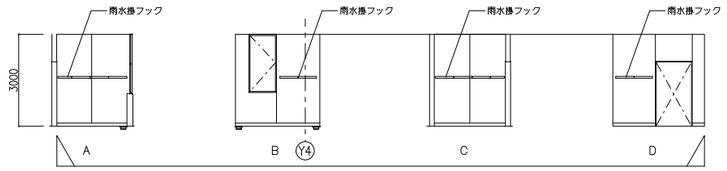




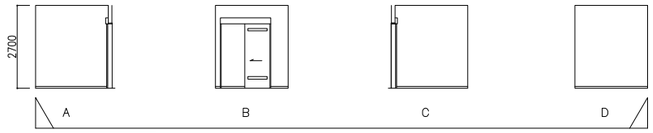
1階 署長室



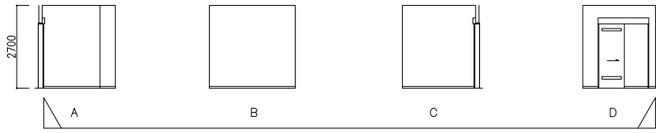
1階 湯沸室



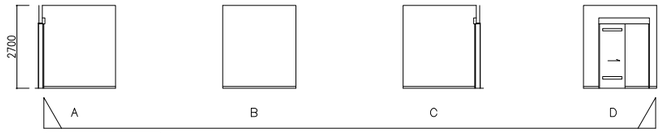
1階 雨具掛スペース



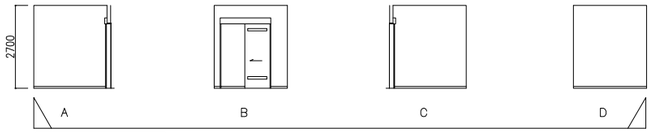
1階 仮眠室　M1～M4



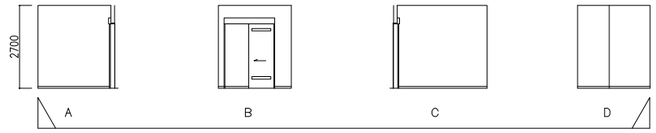
1階 仮眠室　M5



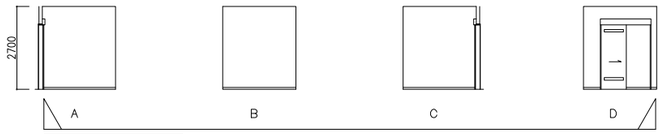
1階 仮眠室　M6,M7



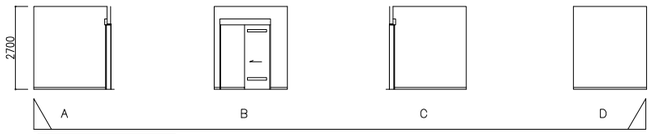
1階 仮眠室　M8～M10



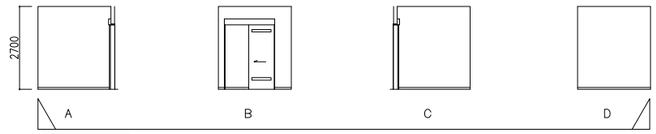
1階 仮眠室　M11



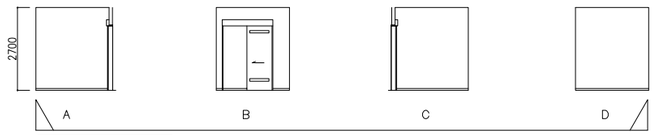
1階 仮眠室　M12～M14



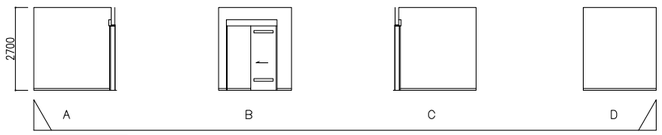
1階 仮眠室　M15～M17



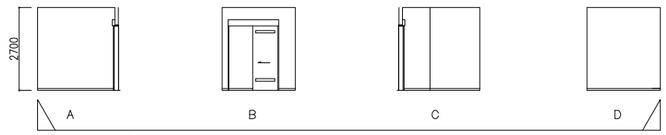
1階 仮眠室　K1



1階 仮眠室　K2,K3,K4

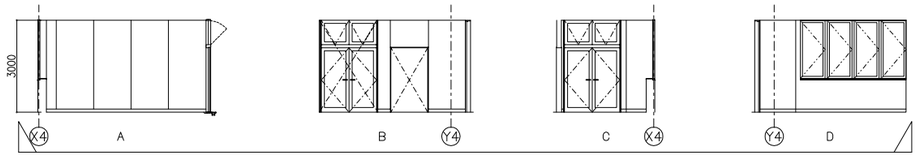


1階 仮眠室　W1

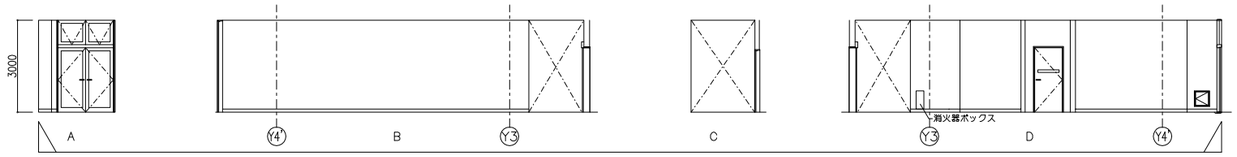


1階 仮眠室　W2

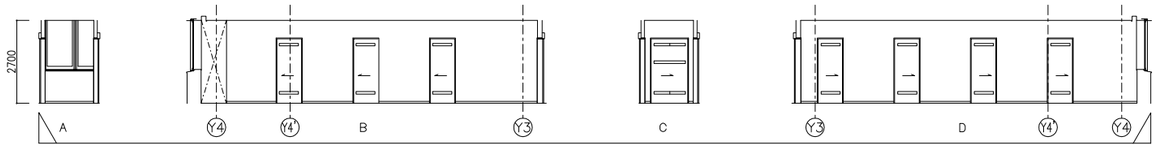
安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第129267号　高田　茂	新潟市建築部公共建築第1課	工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟建設工事	図名 展開図（2） 年月日 2013.03.01	縮尺 A1:1/100, A3:1/200
				図面番号 A-66



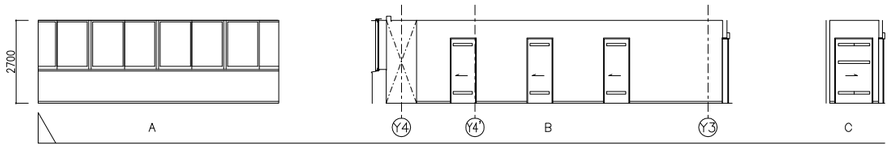
1階 通用口風除室



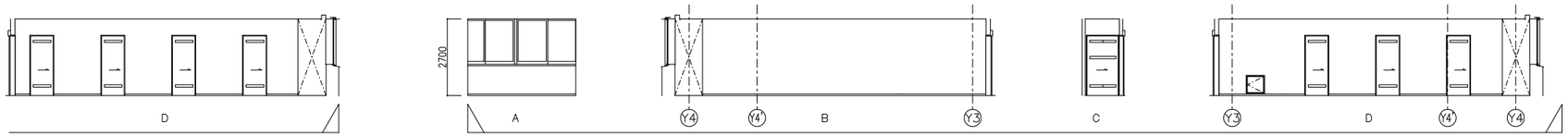
1階　廊下2　Y3-Y4間



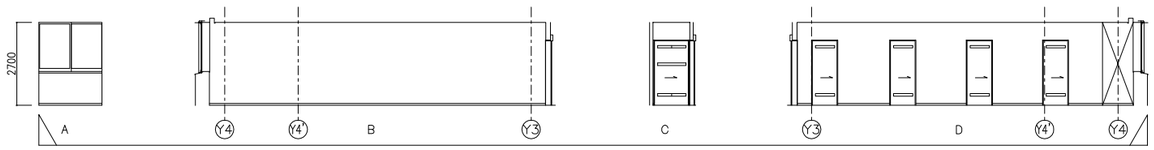
1階 通路1



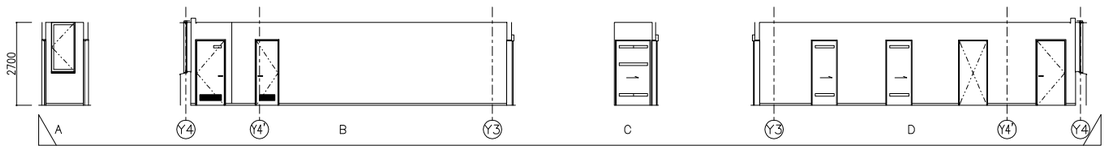
1階 通路2



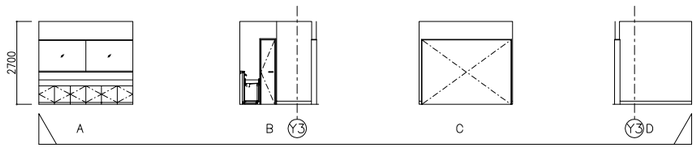
1階 通路3



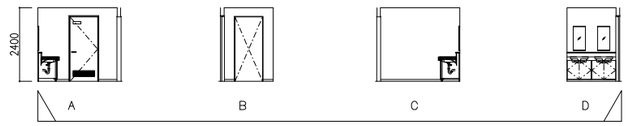
1階 通路4



1階 通路5



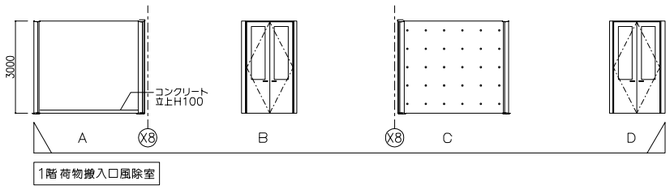
1階 洗面スペース

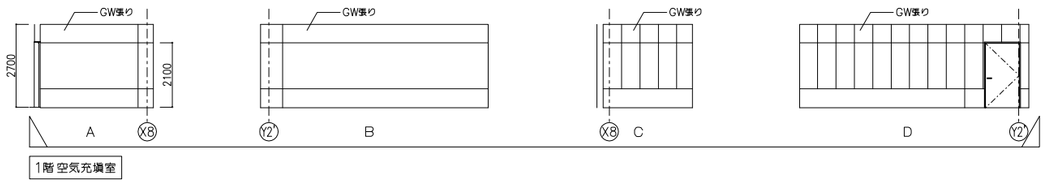


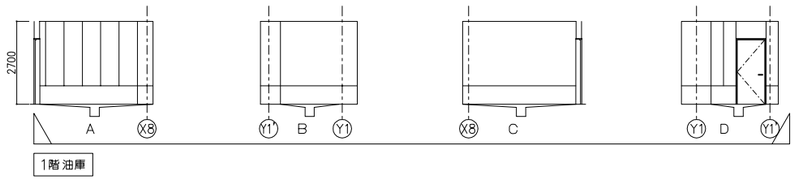
1階 洗面コーナー(女性用仮眠室)

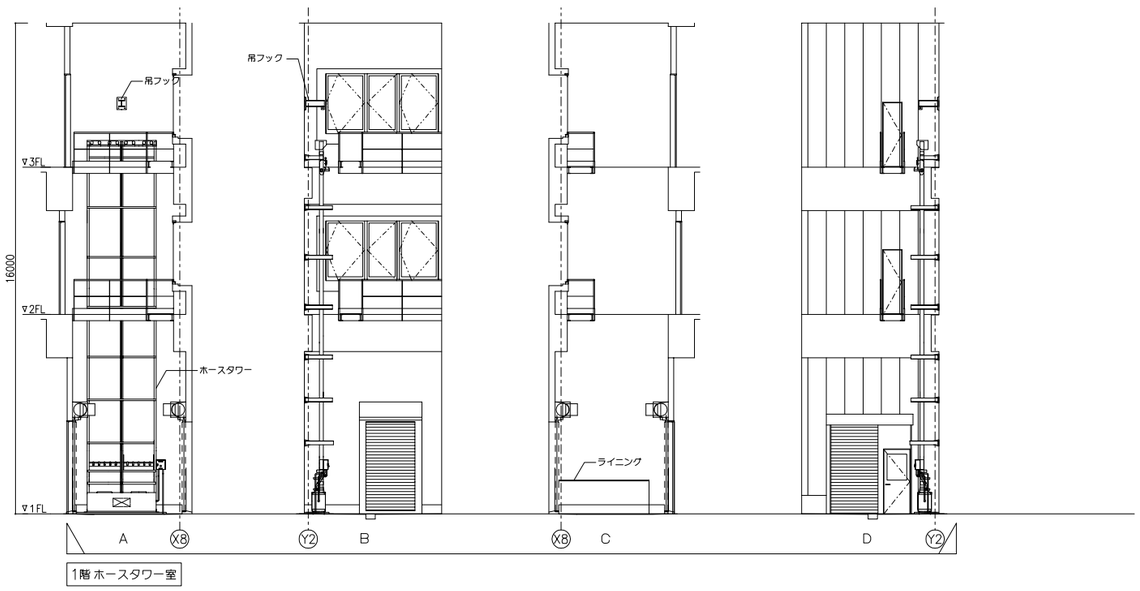
安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第129267号　高田　茂	新潟市建築部公共建築第1課	工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟建設工事	図名 展開図(3) 年月日 2013.03.01 / 縮尺 A1:1/100, A3:1/200	図面番号 A-67

安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第129267号　高田　茂	新潟市建築部公共建築第1課	工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟建設工事	図名 展開図（4） 年月日 2013.03.01	縮尺 A1:1／100、A3:1/200
				図面番号 A-68

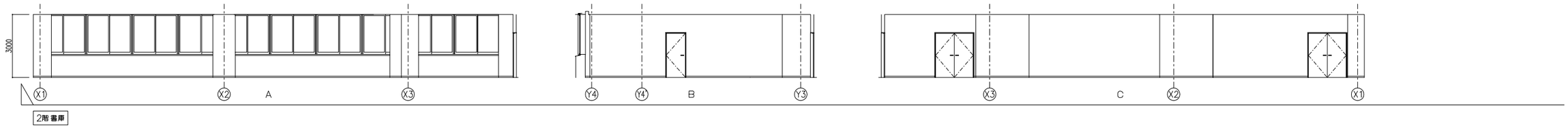




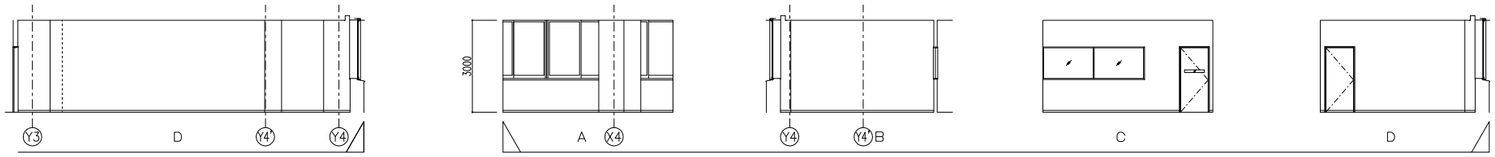




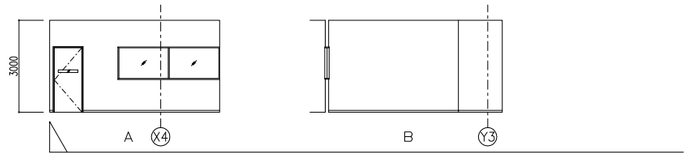
安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第129267号　高田　茂	新潟市建築部公共建築第1課	工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟建設工事	図名 展開図(5) 年月日 2013.03.01 / 縮尺 A1:1/100, A3:1/200	図面番号 A-69



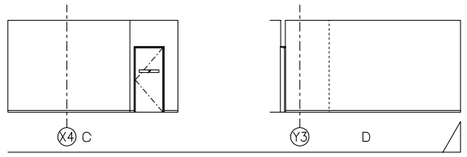
2階 書庫

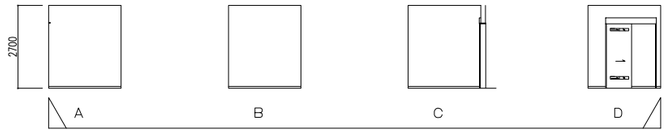


2階 図書・資料室

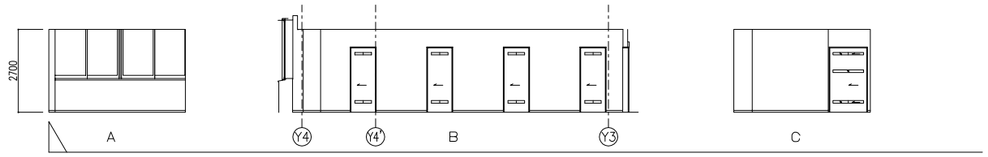


2階 印刷室

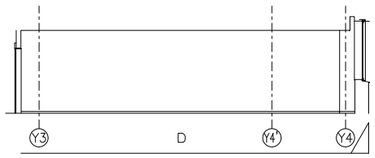


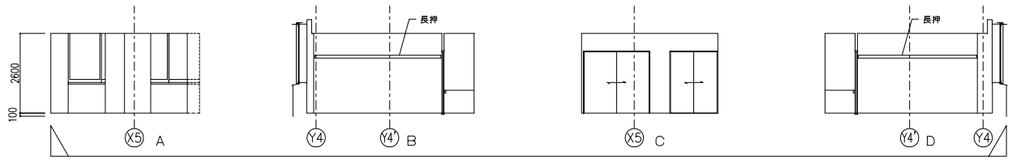


2階 仮眠室1～4

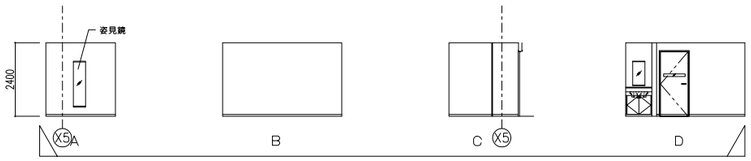


2階 消防隊仮眠室2通路

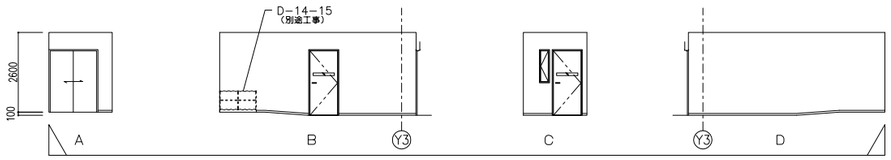




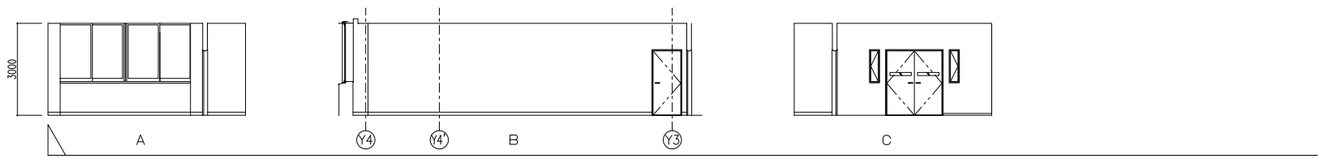
2階 女性用休憩室・押入



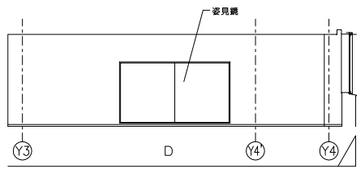
2階 女性用更衣室

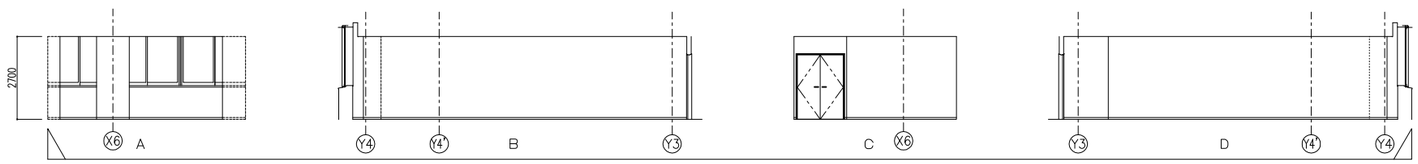


2階 通路1



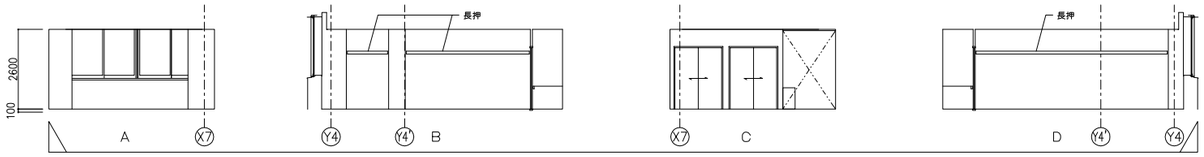
2階 トレーニングルーム・物入



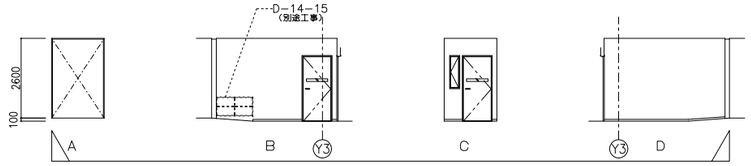


2階 倉庫（消防局）

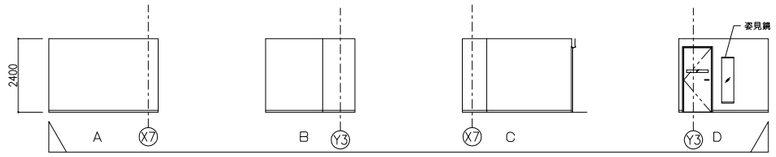
安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第129267号　高田　茂	新潟市建築部公共建築第1課	工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟建設工事	図名 展開図(6)		
			年月日 2013.03.01	縮尺 A1:1／100、A3:1/200	図面番号 A-70



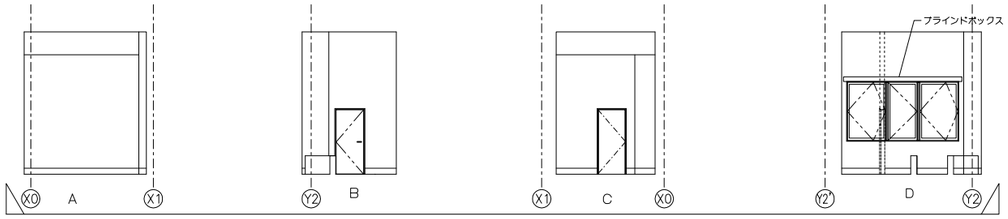
2階 男性用休憩室・押入



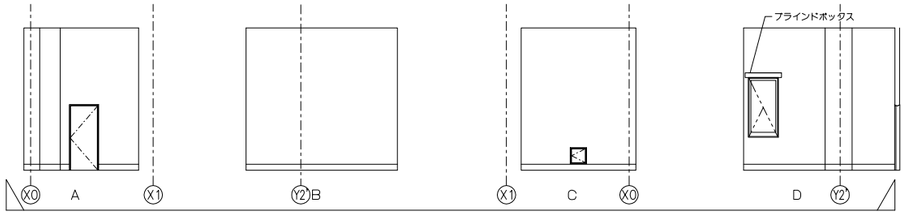
2階 男子休憩室（通路2）



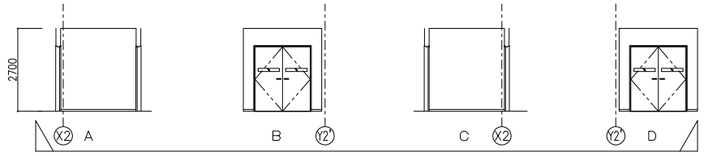
2階 男性用更衣室



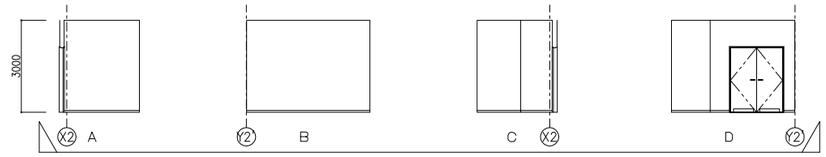
2階 電気開閉器盤室



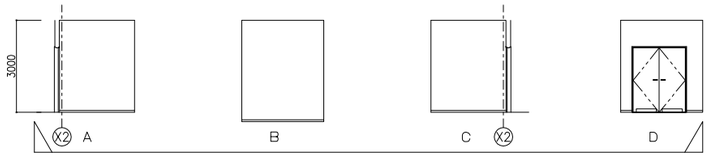
2階 ガスバーナー室



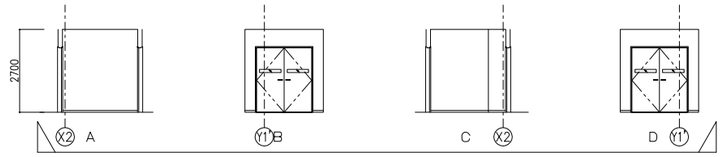
2階 応急救護訓練室　前室1



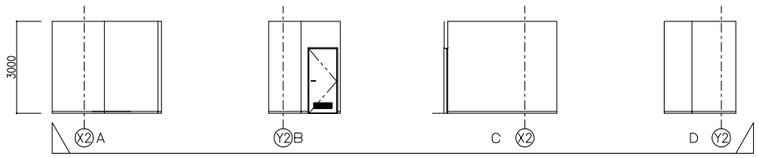
2階 応急救護訓練室　倉庫2



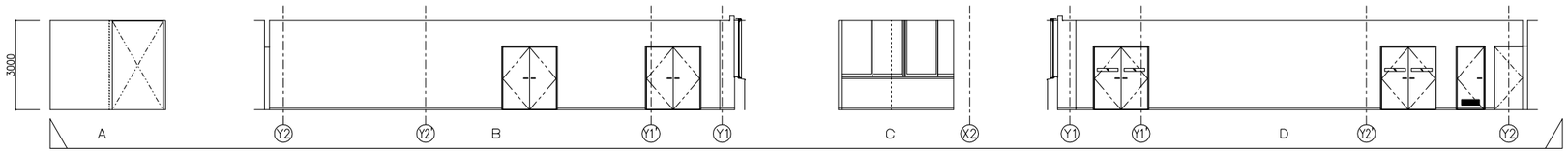
2階 応急救護訓練室　倉庫3



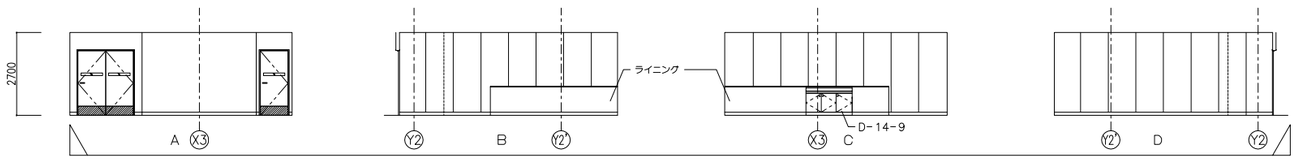
2階 応急救護訓練室　前室2



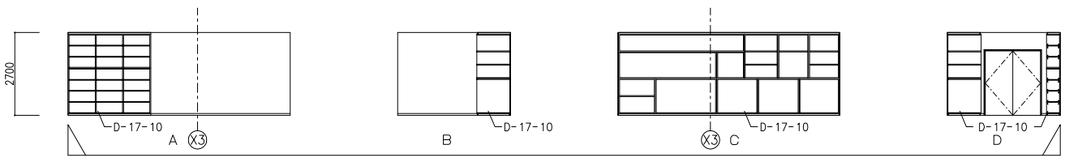
2階 倉庫1



2階 廊下2

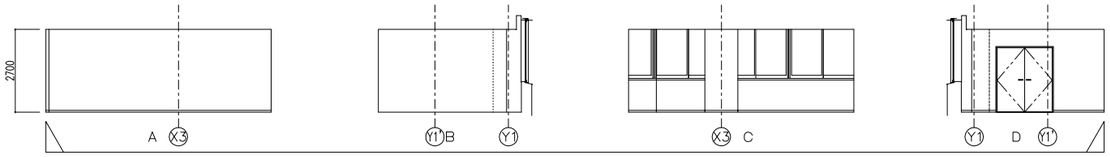


2階 鑑識・鑑定室

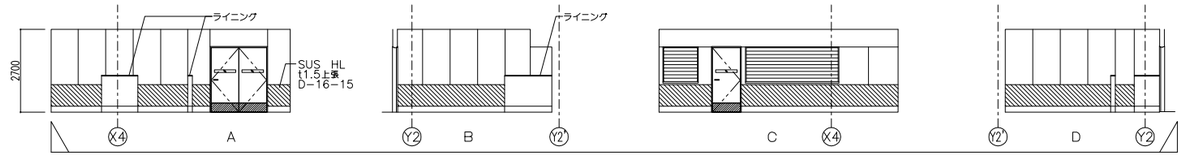


2階 倉庫（楽器庫）

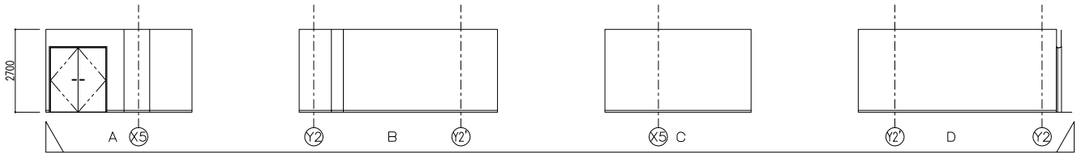
安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第129267号　高田　茂	新潟市建築部公共建築第1課	工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟建設工事	図名 展開図(7) 年月日 2013.03.01 / 縮尺 A1:1/100, A3:1/200	図面番号 A-71



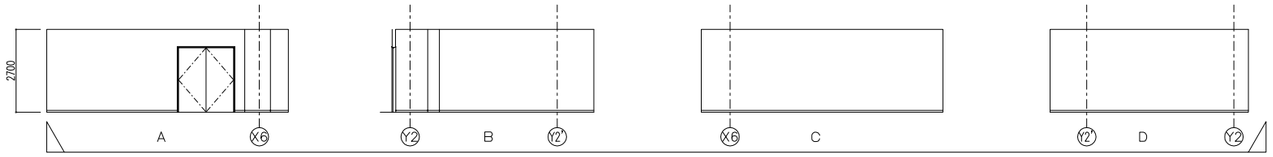
2階 倉庫（中央消防署）



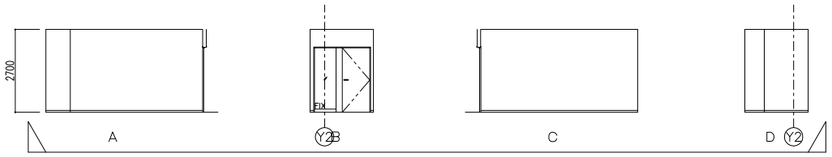
2階 厨房



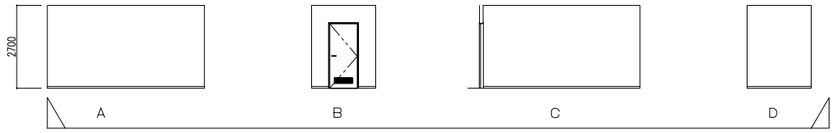
2階 食料備蓄庫



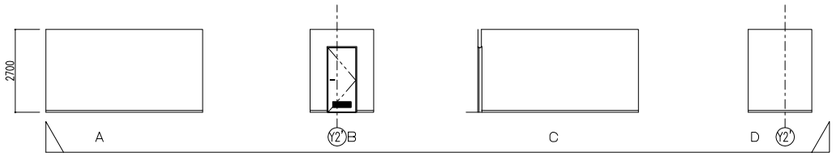
2階 救急用備品庫



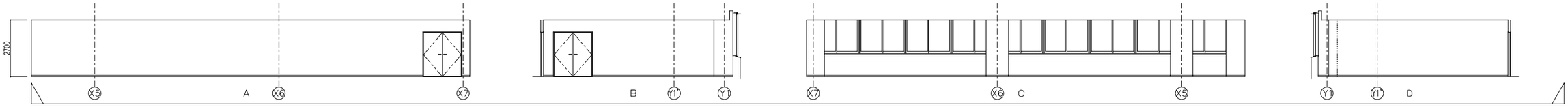
2階 清掃員控室



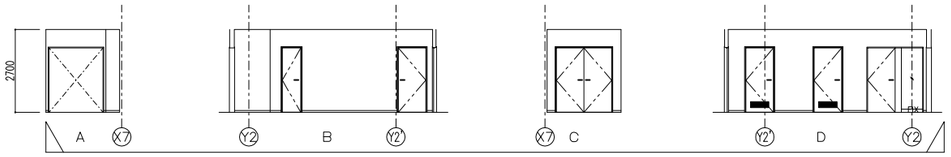
2階 清掃用具庫



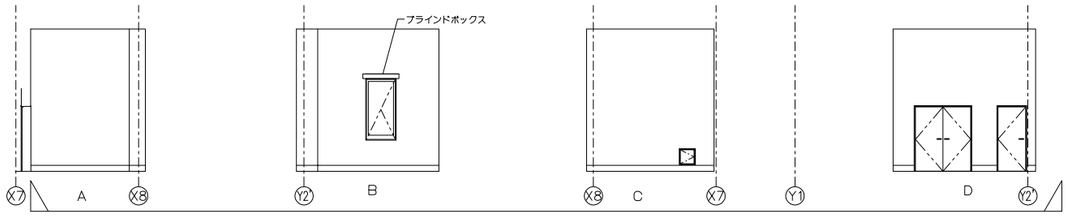
2階 消耗品倉庫



2階 資機材庫（局・署兼用）

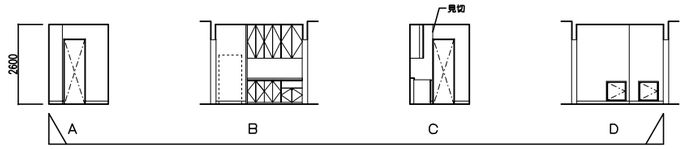


2階 前室

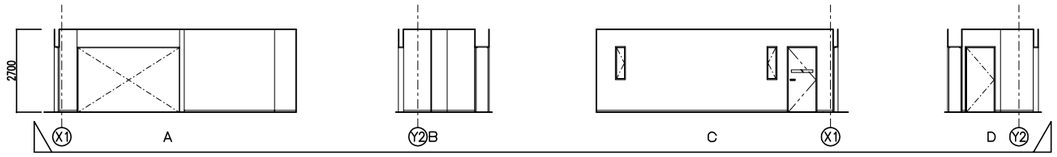


2階 受水槽室

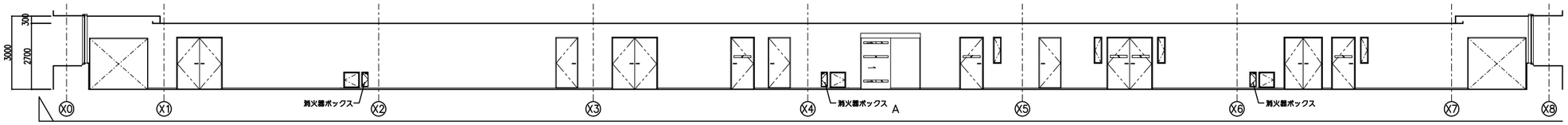
安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第129267号　高田　茂	新潟市建築部公共建築第1課	工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟建設工事	図名 展開図（8） 年月日 2013.01.22 / 縮尺 A1:1/100、A3:1/200	図面番号 A-72



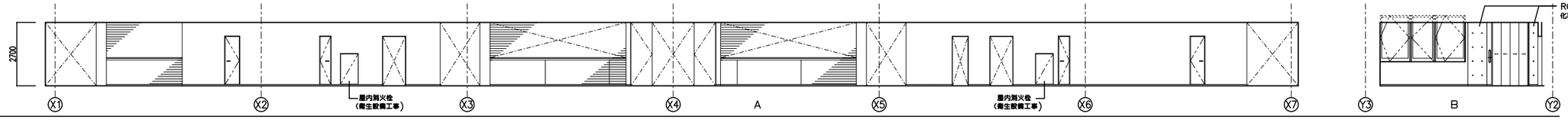
2階 湯沸室 （3階、4階同様）

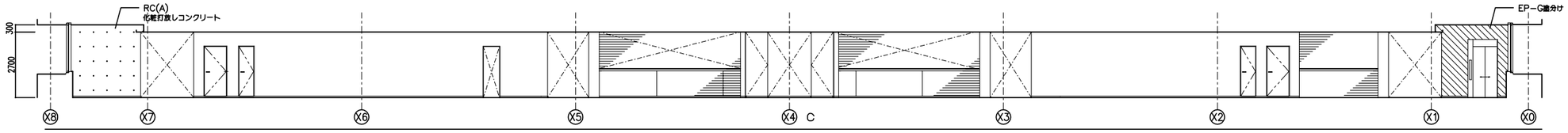


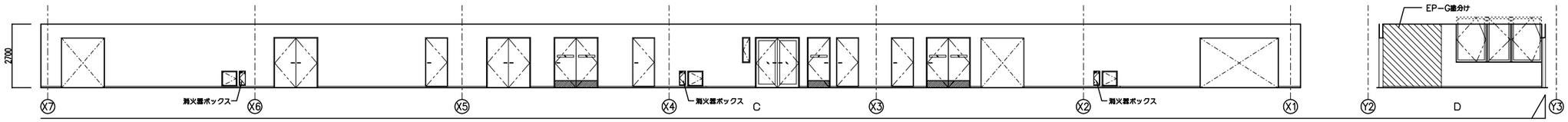
2階 自動販売機コーナー



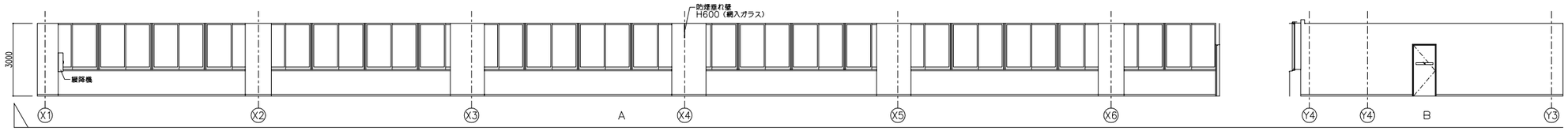
2階 廊下・ＥＶホール



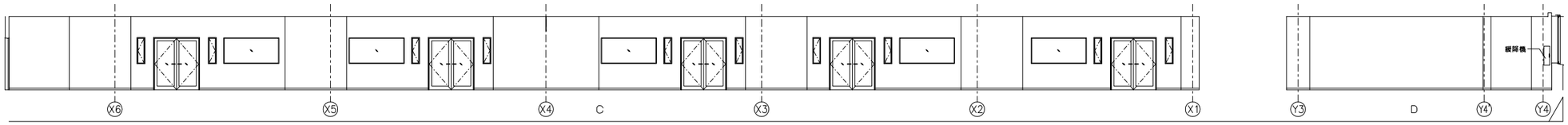


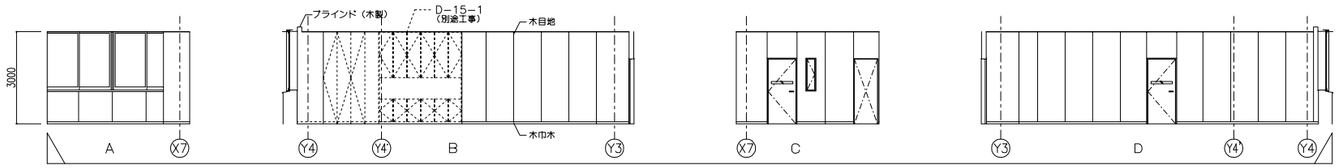


改2012.11019	安 井 ・ 太 陽 設 計 共 同 体 管理建築士一級建築士第129267号　高田　茂	新 潟 市 建 築 部 公 共 建 築 第 1 課	工 事 名 新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟建設工事	図　名 展開図（9） 年 月 日 2013.03.01 / 縮　尺 A1:1／100　A3:1/200	図面番号 A-73

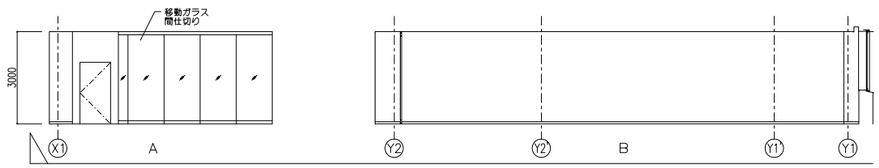


3階 消防局事務室

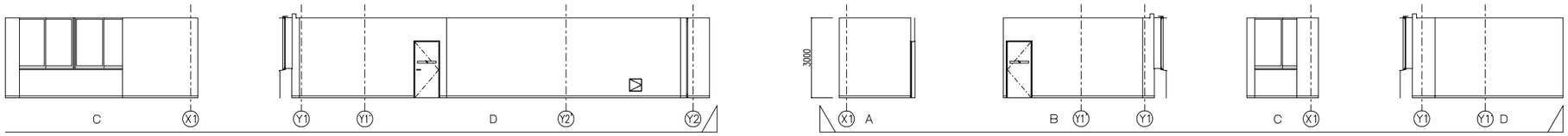




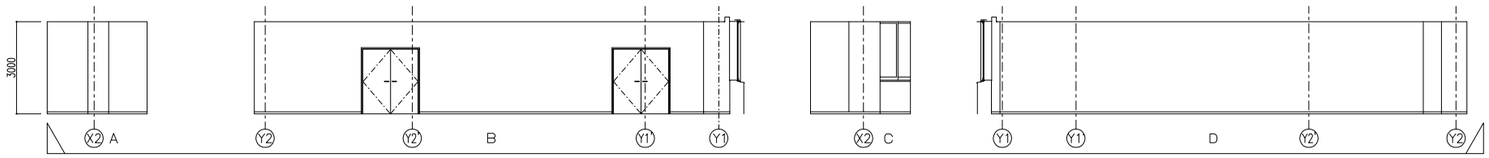
3階 局長室



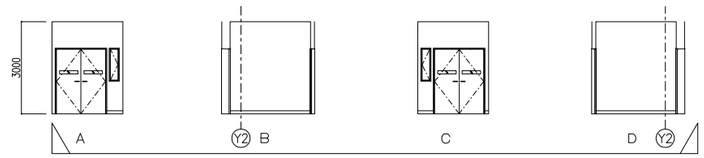
3階 外来者打合（相談）スペース



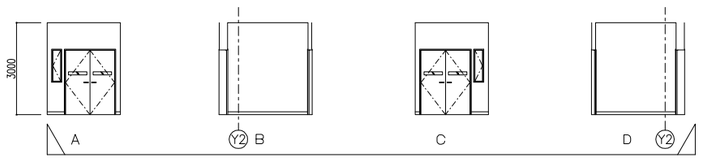
3階 外来者打合室



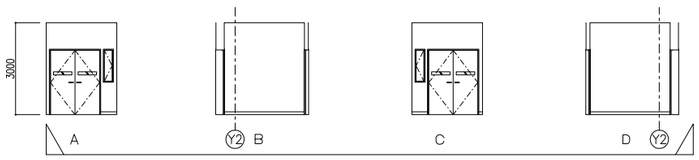
3階 講堂倉庫



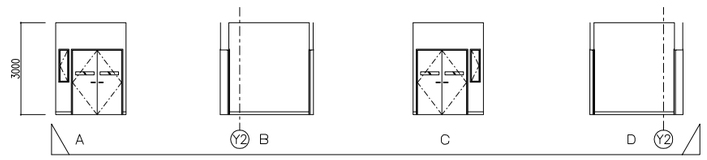
3階 講堂前室1



3階 講堂前室2

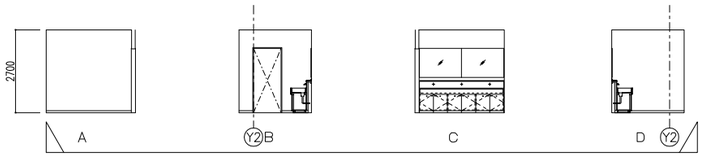


3階 講堂前室3

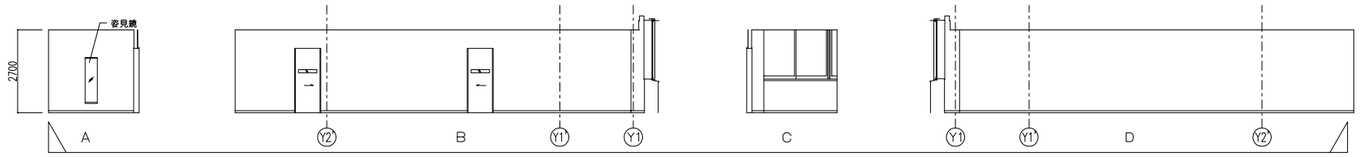


3階 講堂前室4

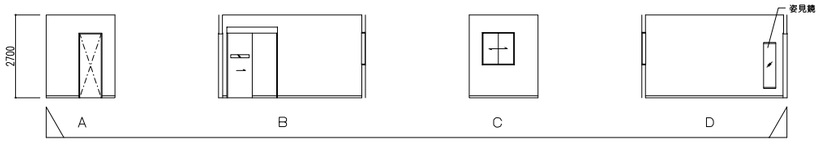
安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第129267号　高田　茂	新潟市建築部公共建築第1課	工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟建設工事	図名 展開図(10)		
			年月日 2013.03.01	縮尺 A1:1／100、A3:1/200	図面番号 A-74



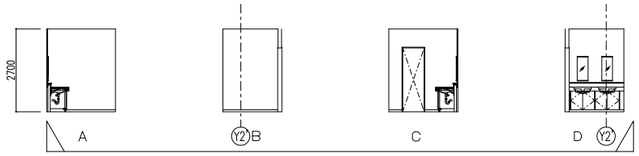
3階 洗面スペース



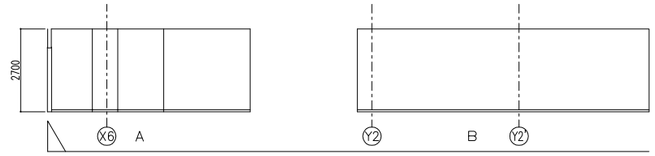
3階 男性用更衣室



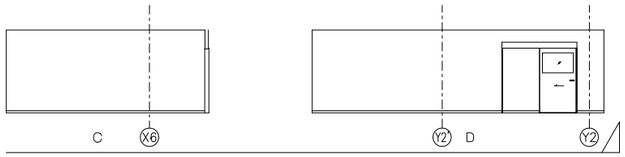
3階 女性用更衣室

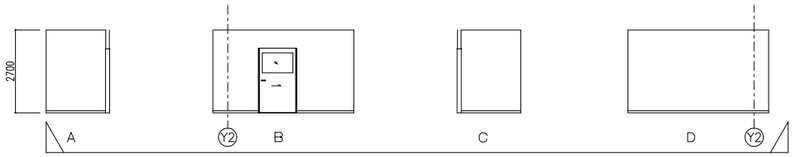


3階 女性用更衣室洗面コーナー

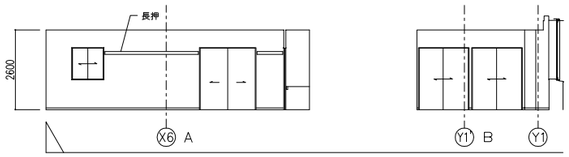


3階 防火衣収納室（男性）

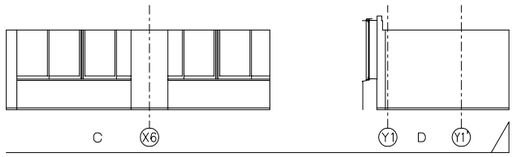


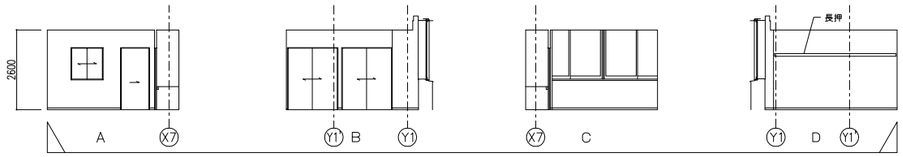


3階 防火衣収納室（女性）

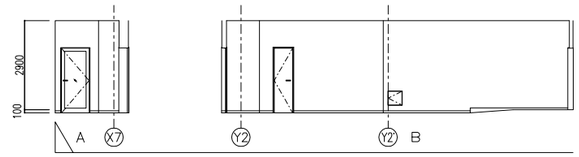


3階 男性用休憩室

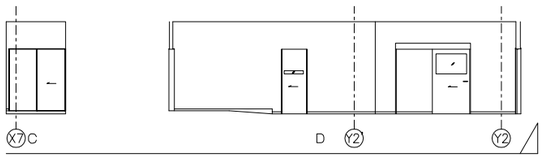


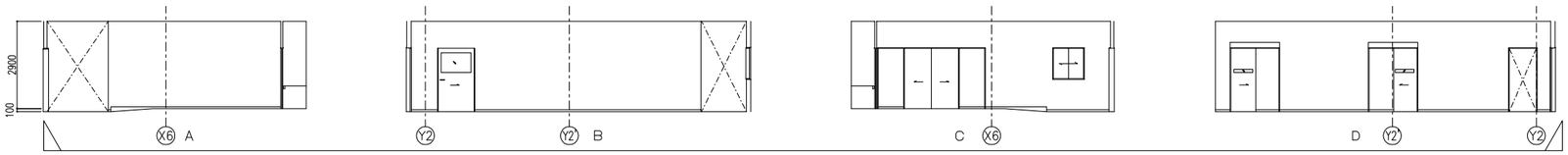


3階 女性用休憩室

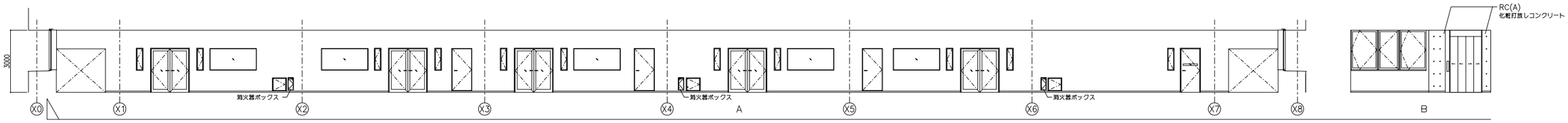


3階 通路2



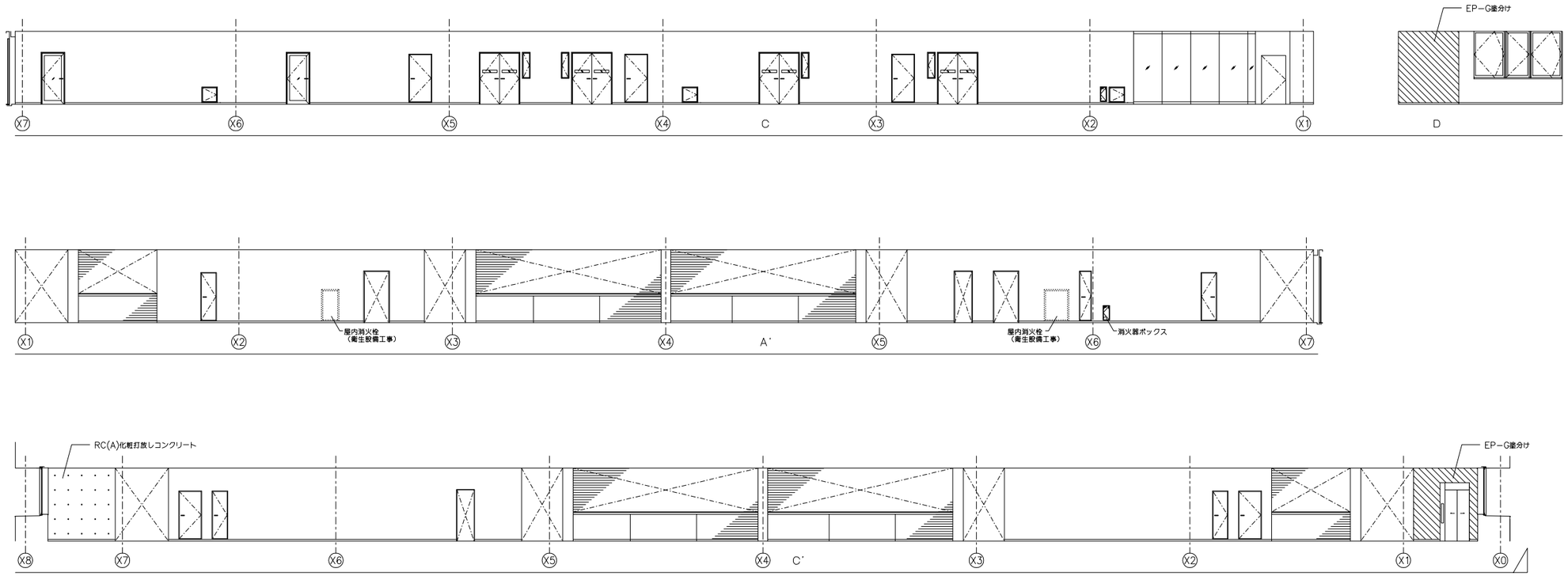


3階 通路1

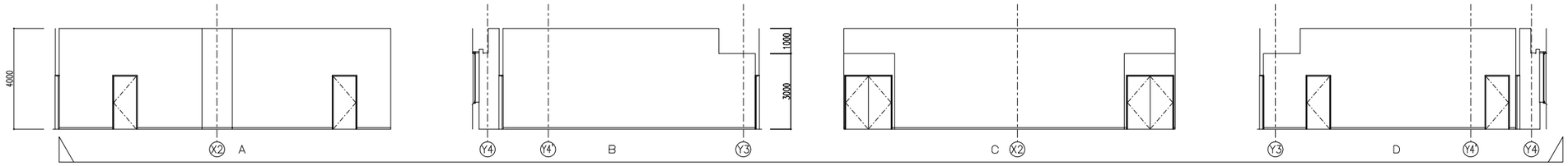


3階 廊下

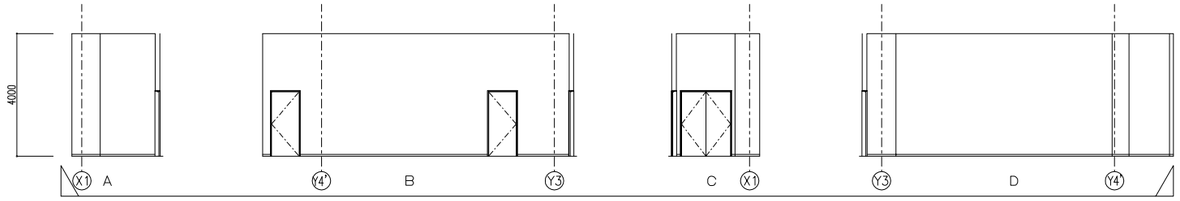
安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第129267号　高田　茂	新潟市建築部公共建築第1課	工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟建設工事	図名 展開図(11) 年月日 2013.03.01	縮尺 A1:1/100, A3:1/200
				図面番号 A-75



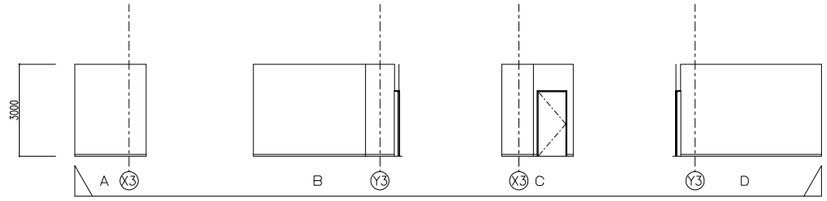
改2012.11.21	安 井 ・ 太 陽 設 計 共 同 体 管理建築士一級建築士第129267号　高田　茂	新 潟 市 建 築 部 公 共 建 築 第 1 課	工 事 名 新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟建設工事	図　名 展開図(12) 年 月 日 2013.03.01 / 縮　尺 A1:1／100、A3:1/200	図面番号 A−76



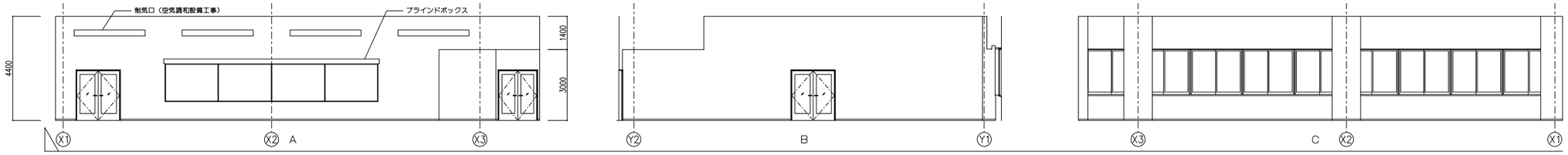
4階 コンピュータ室



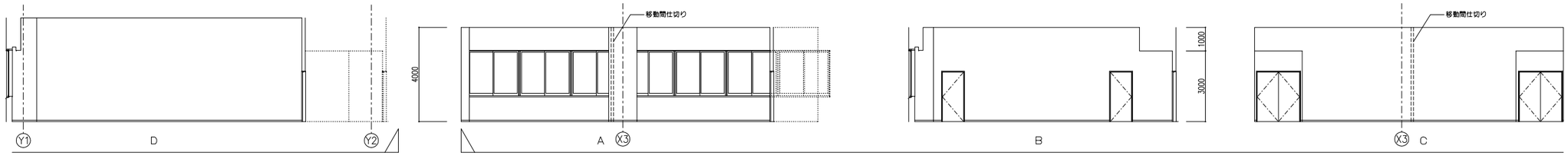
4階 直流電源装置室



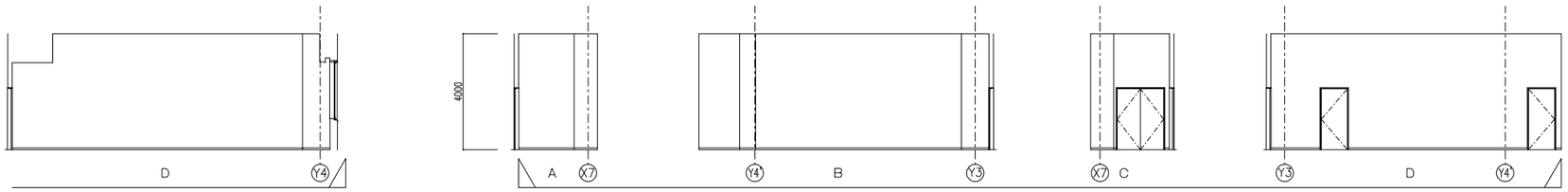
4階 一次MDF室



4階 消防指令管制センター

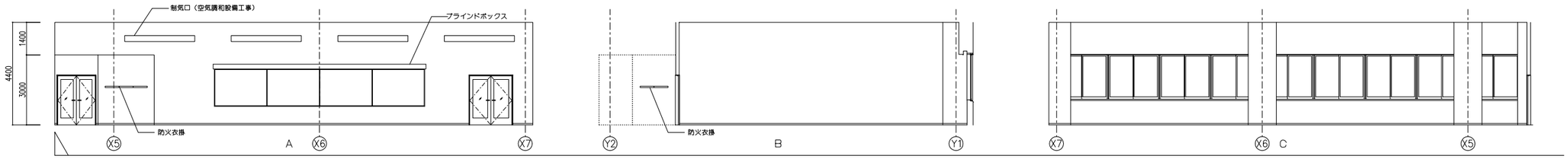


4階 会議室2

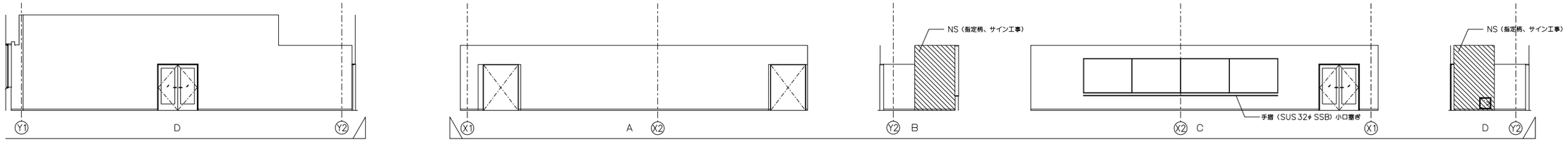


4階 指令課機材室

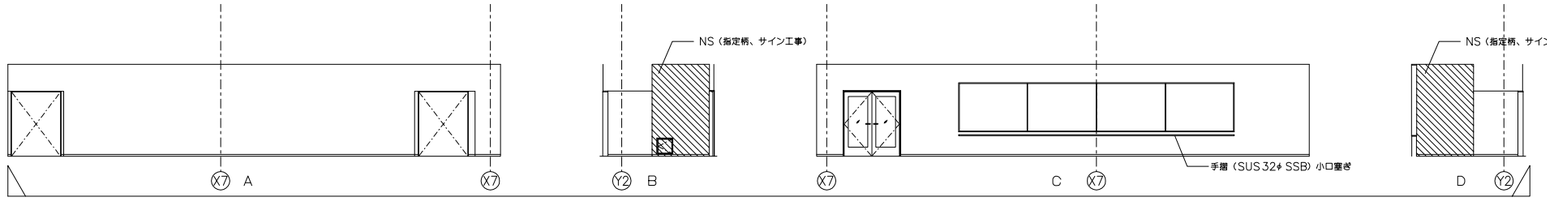
安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第129267号　高田　茂	新潟市建築部公共建築第1課	工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟建設工事	図名 展開図(13)		
			年月日 2013.03.01	縮尺 A1:1/100, A3:1/200	図面番号 A-77



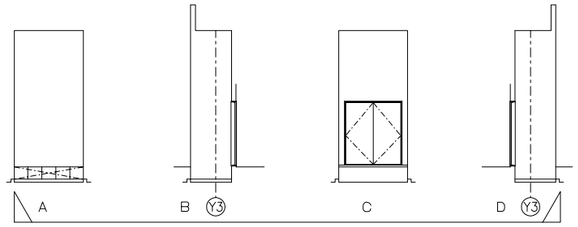
4階 作戦本部室



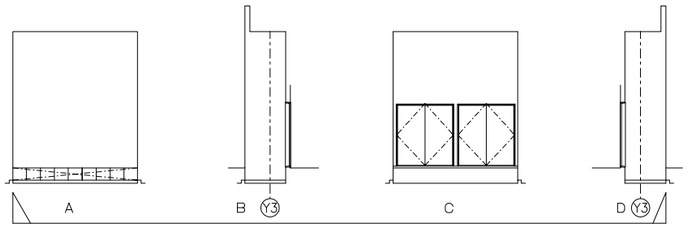
4階 見学スペース1



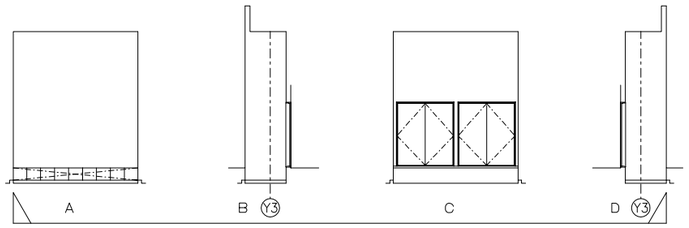
4階 見学スペース2



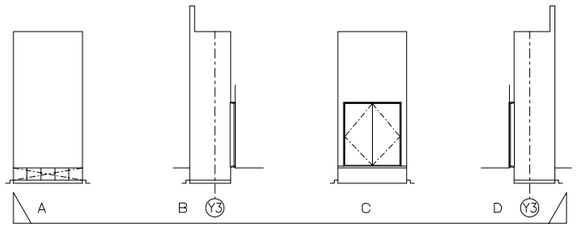
4階 空調機械室1



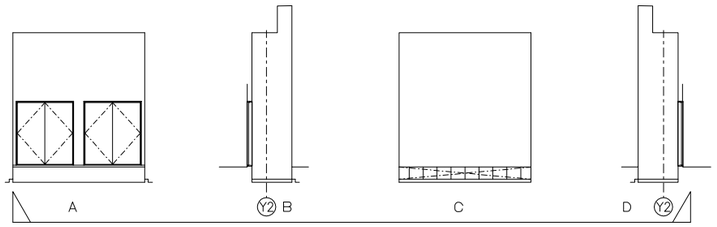
4階 空調機械室2



4階 空調機械室3

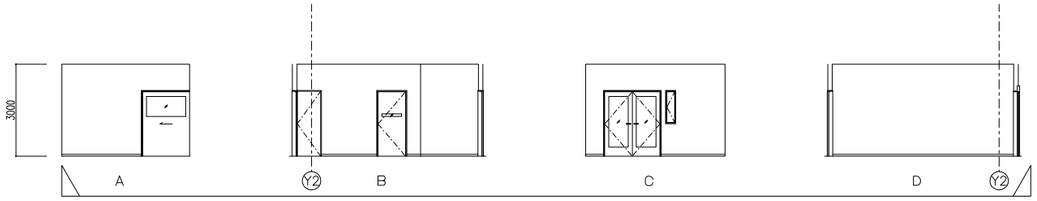


4階 空調機械室4

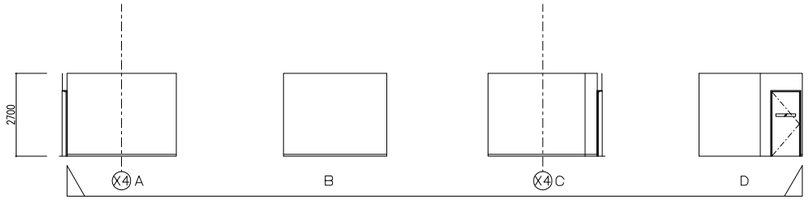


4階 空調機械室5～8

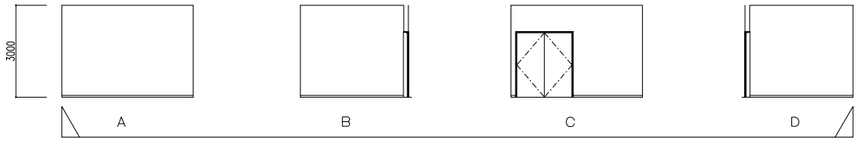
安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第129267号　高田　茂	新潟市建築部公共建築第1課	工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟建設工事	図名 展開図(14) 年月日 2013.03.01 / 縮尺 A1:1/100、A3:1/200	図面番号 A-78



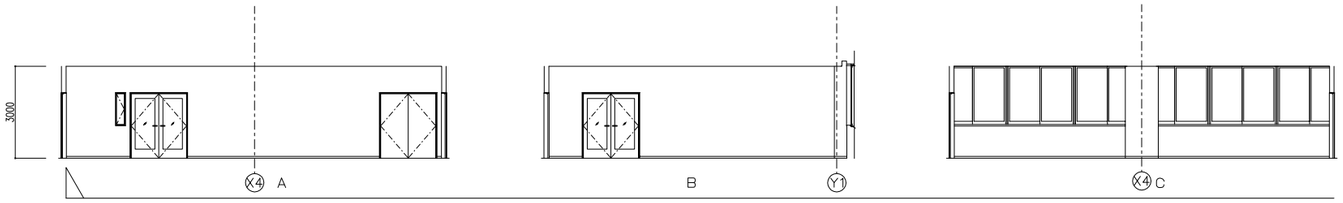
4階 外来者打合室



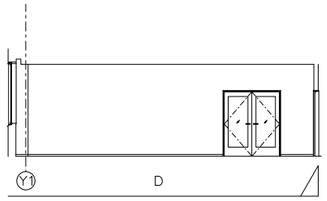
4階 指令課更衣室

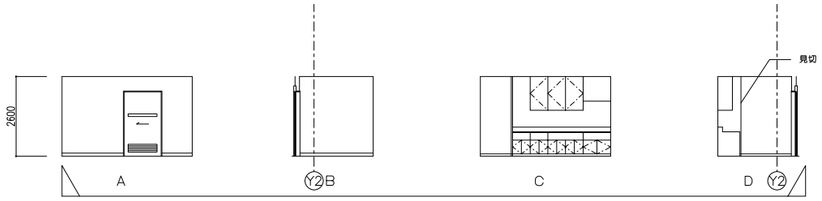


4階 機材室

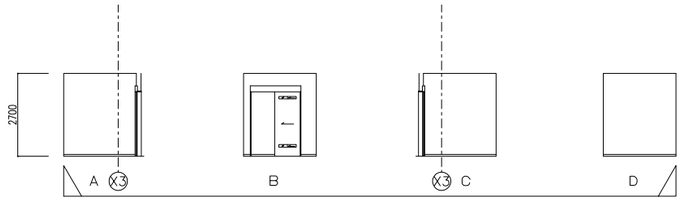


4階 指令課事務室

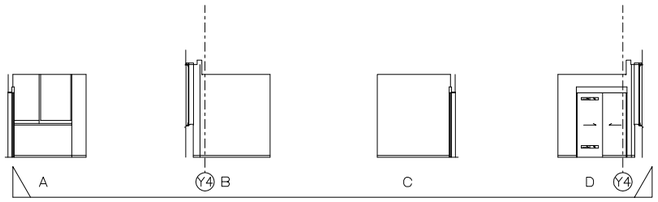




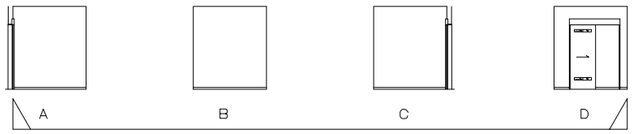
4階 指令課湯沸室



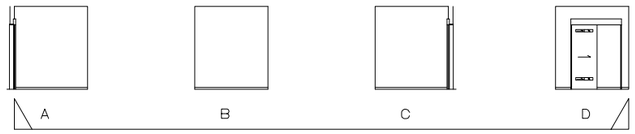
4階 男性用仮眠室 M1・M2



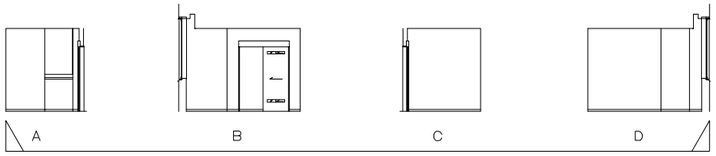
4階 男性用仮眠室 M3



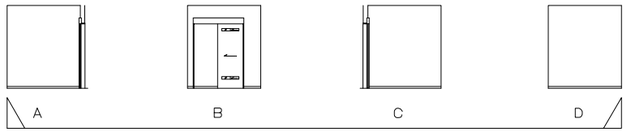
4階 男性用仮眠室 M4・M5・M6



4階 男性用仮眠室 M7・M8

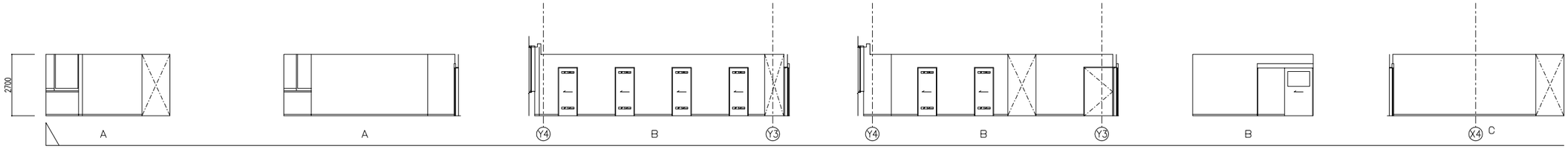


4階 男性用仮眠室 M9

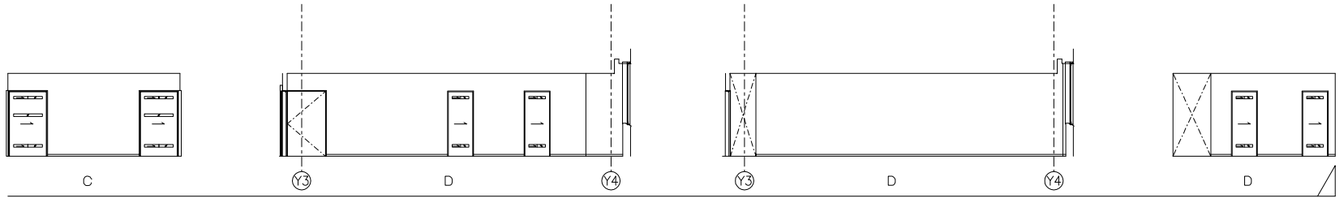


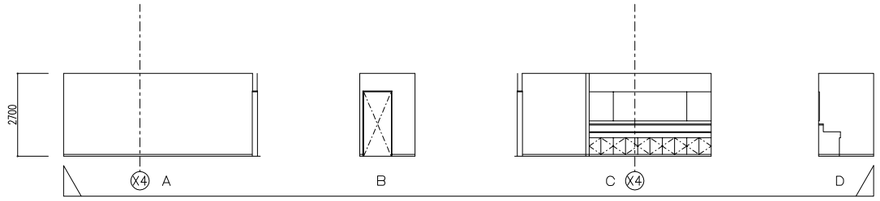
4階 男性用仮眠室 M10

安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第129267号　高田　茂	新潟市建築部公共建築第1課	工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟建設工事	図名 展開図(15)		
			年月日 2013.03.01	縮尺 A1:1/100、A3:1/200	図面番号 A-79

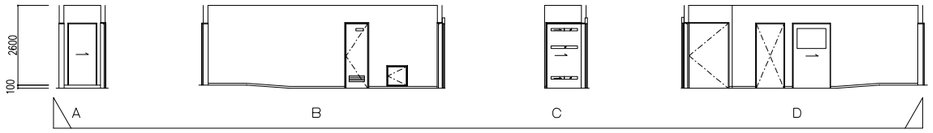


4階 通路1

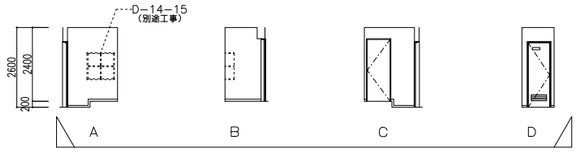




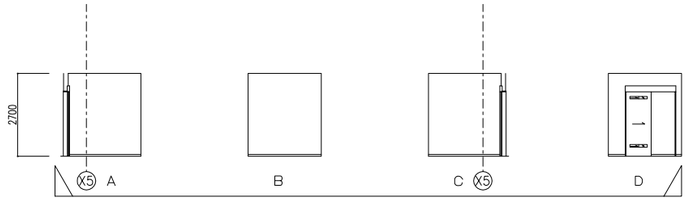
4階 洗面スペース



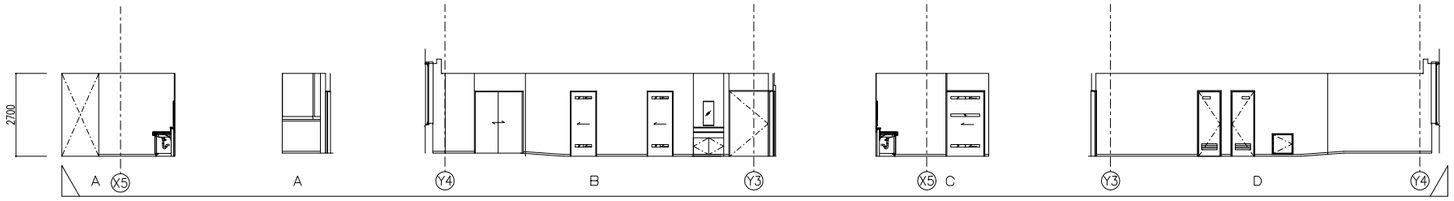
4階 通路2



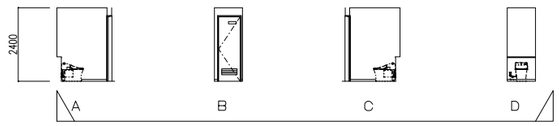
4階 脱衣室2



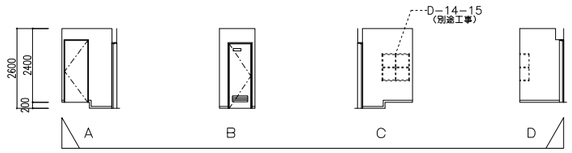
4階 女性用仮眠室W1・W2



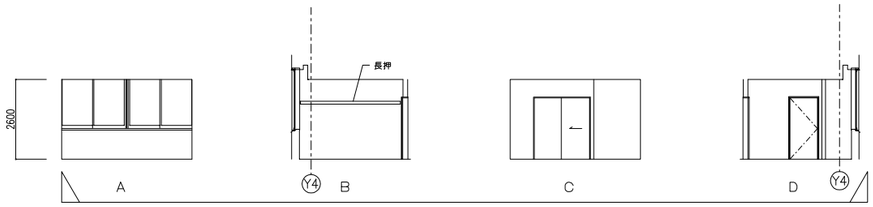
4階 通路3



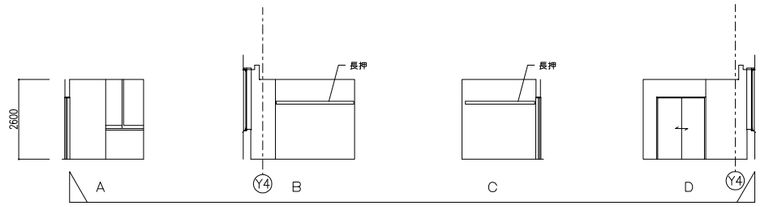
4階 便所



4階 脱衣室1

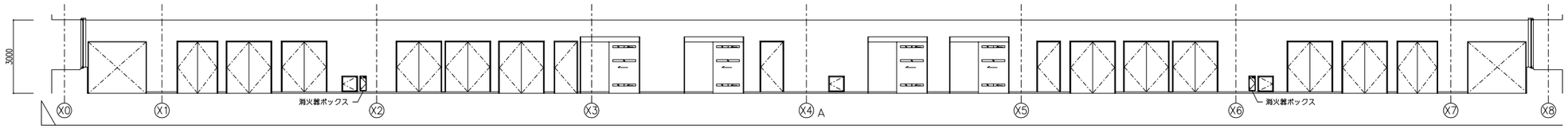


4階 男性用休憩室

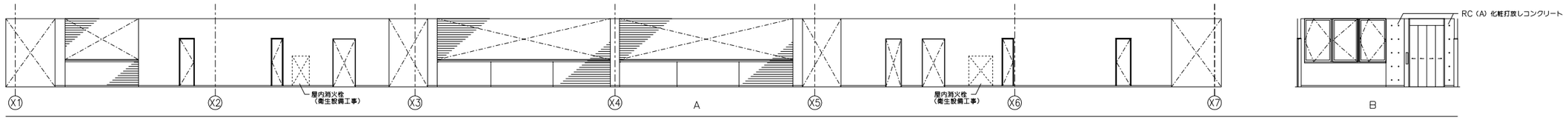


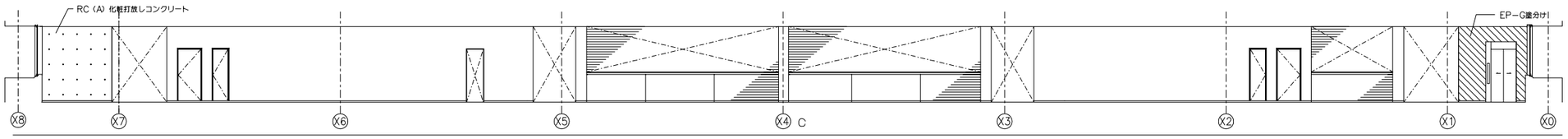
4階 女性用休憩室

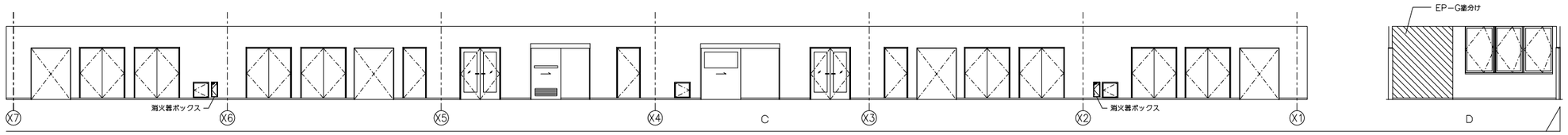
安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第129267号　高田　茂	新潟市建築部公共建築第1課	工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟建設工事	図名 展開図(16)		
			年月日 2013.03.01	縮尺 A1:1/100、A3:1/200	図面番号 A-80

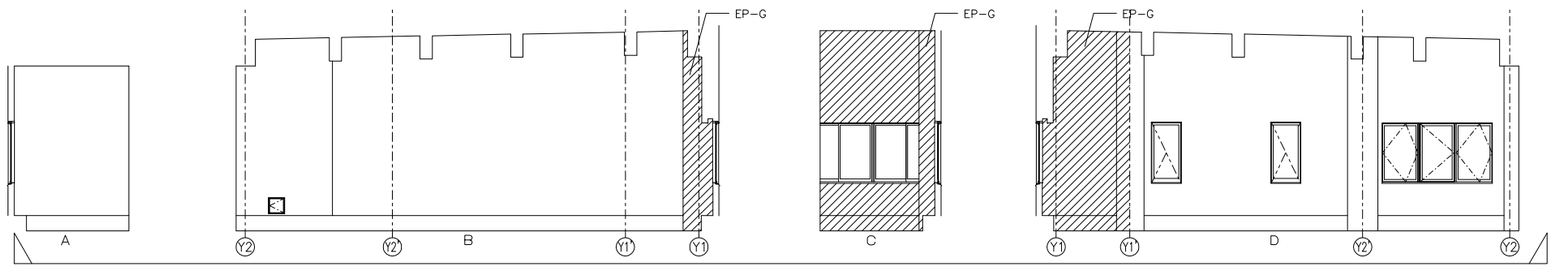


4階 廊下・EVホール





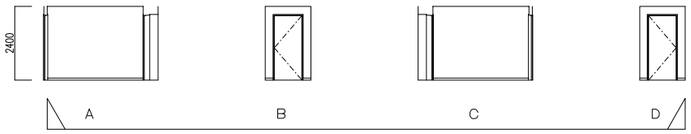




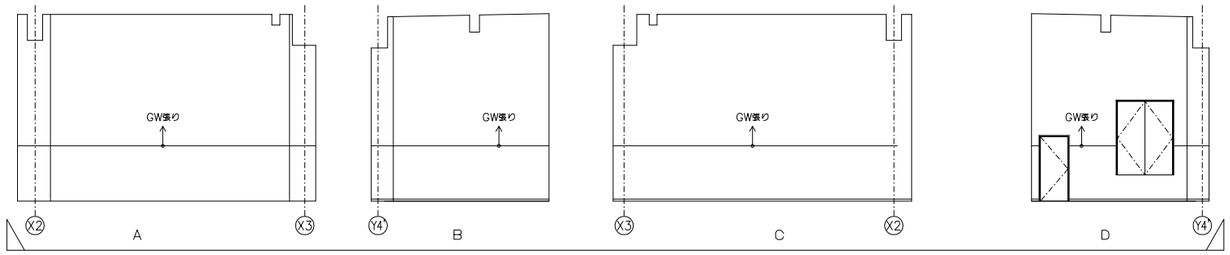
4階 将来増床用テッドスペース　(X0−X1通り間)

(X7−X8通り間は反転とする)

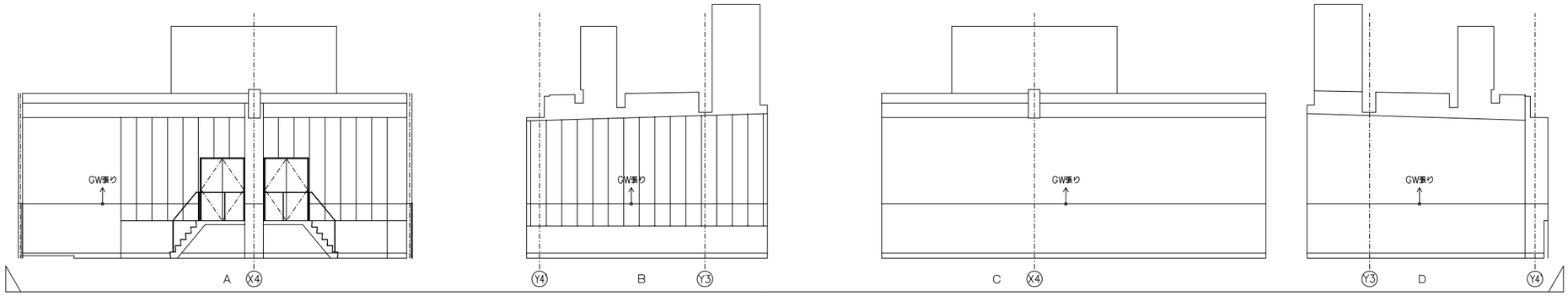
改2012.11.21	安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第129267号　高田　茂	新潟市建築部公共建築第1課	工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟建設工事	図名 展開図(17) 年月日 2013.03.01　縮尺 A1:1/100, A3:1/200　図面番号 A-81



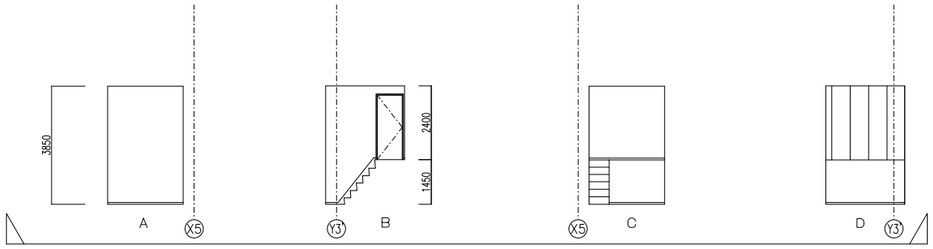
5階 前室1



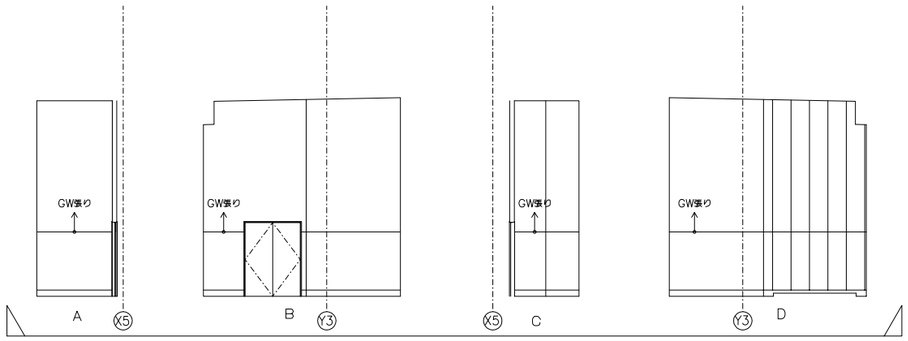
5階 無線機室



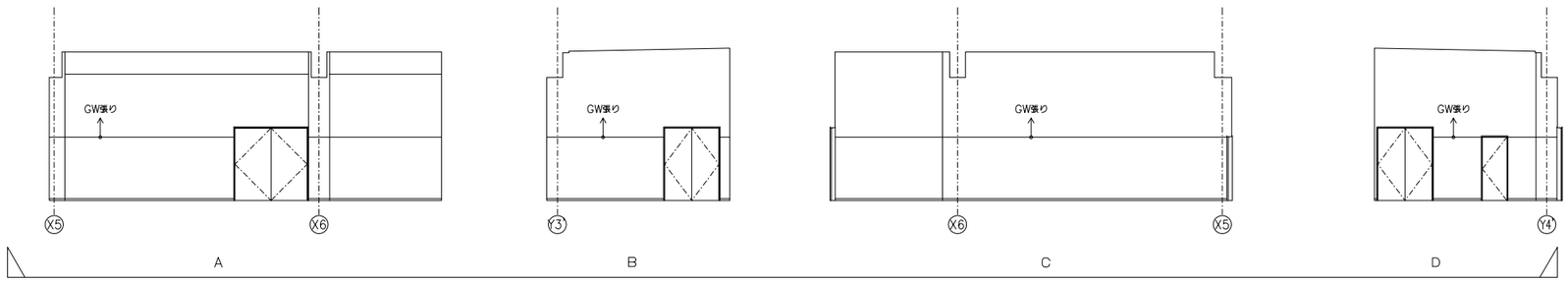
5階 自家用発電機室



5階 前室2



5階 蓄電気室



5階 電気室

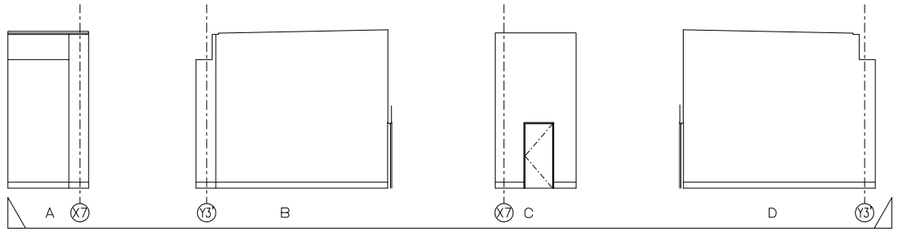
改2012.11.21

安 井 ・ 太 陽 設 計 共 同 体
管理建築士一級建築士第129267号　高田　茂

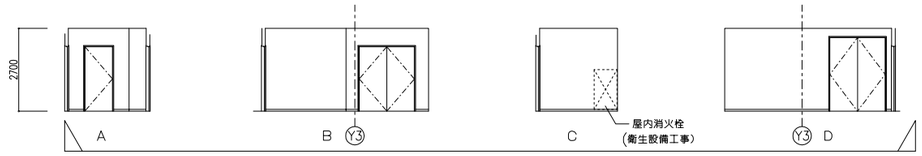
新 潟 市 建 築 部 公 共 建 築 第 1 課

工 事 名
新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟建設工事

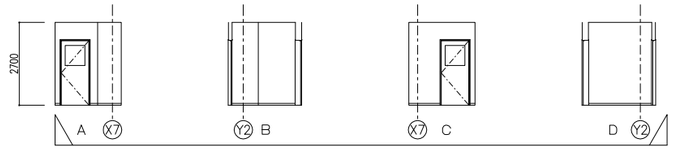
図　名		
展開図(18)		
年 月 日	縮　尺	図面番号
2013.03.01	A1:1／100, A3:1/200	A-82



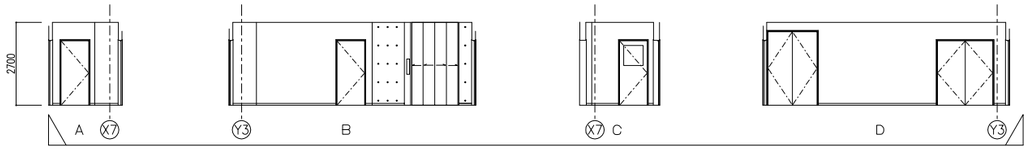
5階 窒素ボンベ庫



5階 風除室1



5階 風除室2



5階 ＥＶホール2

	安 井 ・ 太 陽 設 計 共 同 体 管理建築士一級建築士第129267号　高田　茂	新 潟 市 建 築 部 公 共 建 築 第 1 課	工 事 名 新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟建設工事	図　名 展開図(19)	
				年 月 日 2013.03.01	縮　尺 A1:1／100、A3:1/200	図面番号 A-83

エレベーター仕様

概略仕様	号機名（台数）		NO. 1　（1台）
	用途（形式）		乗用兼車いす用
	積載量（定員）		1000kg　（15人）
	速度		90m/min
	制御方式		交流インバータ制御方式
	操作方式		乗合全自動方式
	停止ケ所・出入口方向		（1～4F）　4ケ所　1方向
	かご内法（WxDxH）		1600mmX1500mmX2250mm
	出入口寸法（WxH）		1000mmX2100mm
	ドア方式		2枚戸中央開き（電動式）
	電動機出力		AC-8.7kW
	電源	動力	三相3線　200V　50Hz
		照明	単相　100V　50Hz
	管制運転	地震	有（P波+S波感知器（3段検知）リスタート機能付）
		火災	有（全自動形）
		自家発	無
		ピット浸水	有（全自動形）
	停電時自動着床装置		有
	耐震クラス		S_{09}
	かご内連絡装置		24V同時通話式インターホン
	基本仕様		ローラーガイド（かご、おもり） 照明・換気装置自動休止機能 長周期地震対策 2D多光軸（マルチビーム）ドアセフティ いたずら呼びキャンセル機能 反転時呼び一括キャンセル機能 戸開放時間自動設定 行先階取消し機能 気配りアナウンス機能 戸開走行保護装置
乗場仕様	三方枠		全階　大枠　鋼板製化粧シート貼り
	ドア		全階　鋼板製化粧シート貼り
		遮煙	全階　有
	幕板		全階　見付枠無し　鋼板製化粧シート貼り
	敷居		全階　硬質アルミ製
	乗場	ボタン	全階　抗菌凸文字ボタン（SIAA認証）
	インジケータ	インジケータ	全階　ドットデジタル
	ボタン	フェースプレート	全階　樹脂成形品
かご仕様	天井照明		中央部:非塩ビ系化粧鋼板 乳白色樹脂板付き照明（LED照明） 両側部：乳白色樹脂板付き照明（LED照明）
	換気装置		ファン
	リターンパネル		ステンレス製ヘアライン仕上
	出入口柱		ステンレス製ヘアライン仕上
	ドア		鋼板製化粧シート貼り
	幕板		鋼板製化粧シート貼り
	側板		鋼板製化粧シート貼り
	巾木		化粧鋼板
	床		合成ゴムタイル（t3）
	敷居		ステンレス製（板曲げ加工）
	操作盤	ボタン	抗菌凸文字ボタン（SIAA認証）
		インジケータ	ドットデジタル
		フェースプレート	抗菌樹脂成形品（SIAA認証・一部鋼板製）

特記事項
- BGMスピーカー付
- 100Vコンセント付
- 運転状況表示機能付（リスタート運転付、自動復旧運転、運転状況表示機能）
- 車いす兼用エレベーター仕様（かご・乗場一式）
- かご内手摺（ステンレス製バフ仕上）
- かご内鏡（フルハイトミラー、W500）
- 音声案内装置付（方向・階床・戸閉・管制運転案内）
- 防犯カメラ付（かご内カメラ）　（FA）
- 戸開延長ボタン付

レール反力リスト（地震時作用荷重）			NO. 1
	かご側	Px	7.80kN
	一般階	Py	3.90kN
	かご側	Px	9.10kN
	最上階	Py	6.50kN
	おもり側	Px	12.50kN
	一般階	Py	6.30kN
	おもり側	Px	18.10kN
	最上階	Py	11.90kN

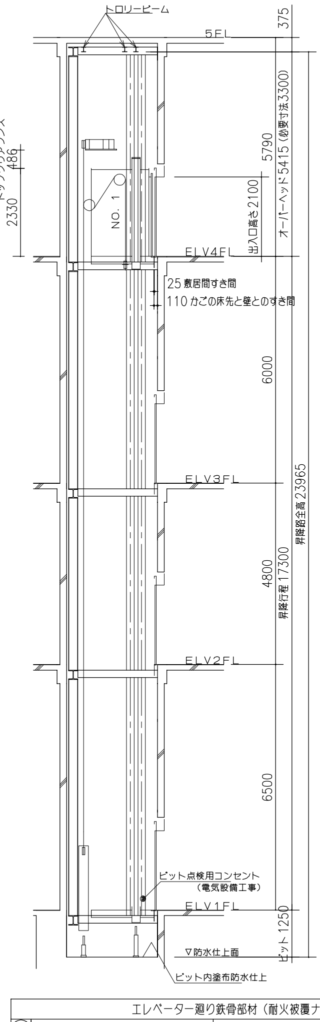
上記　荷重による柱及び梁のたわみは5mm以下となるよう選定下さい。

（1台1回線）

電源設備

号機名		NO. 1		
電源設備容量	動力	200V　8kVA		
	照明	100V　1.5kVA		
最大電流		56.7A		
動力線サイズ（mm^2）		5.5	8.0	14.0
最大引込み距離（m）		28	44	77
建屋側MCCB		50A		
接地線最小サイズ		3.5mm^2		
インターホン用配線		φ0.9×10本		
電話用配管・配線		φ19配管、電話線1P		
ピットコンセント容量		1kVA／台		

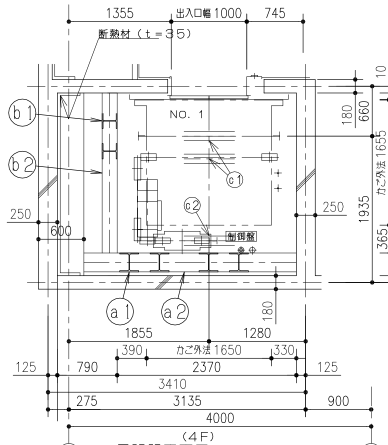
遮煙のりばドア
特定防火設備（遮煙性能付）認定品
NO. 1 適用階床：1～4F



NO. 1
昇降路縦断面図　(1/100) [1/200]
※点検用タラップはピット内に保管

NO. 1		
ピット反力		88.1kN
ピット衝撃荷重	かご側	93.0kN
	C/W側	71.3kN

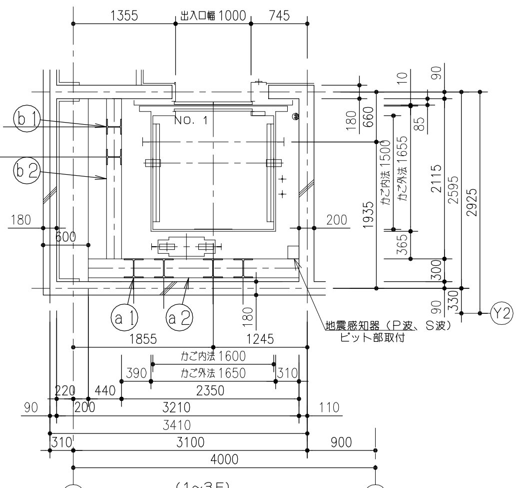
エレベーター廻り鉄骨部材（耐火被覆ナシ）		
a1	レール支持柱	H-250x250x9x14
a2	レール支持柱受梁	H-250x250x9x14
b1	レール支持柱	H-200x200x8x12
b2	レール支持柱受梁	H-200x200x8x12
c1	トロリービーム（荷重19.6kN）	H-125x125x6.5x9
c2	トロリービーム（荷重9.8kN）	H-125x125x6.5x9



（4F）
昇降路平面図　(1/50) [1/100]

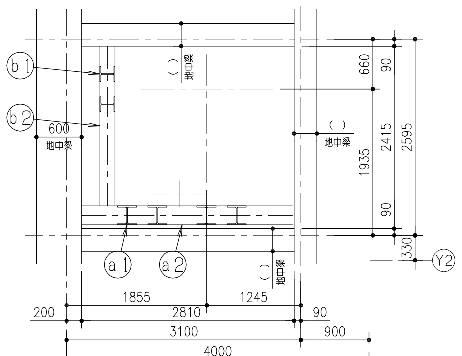
	天井フック	
⊕	電源引込み（受電盤への接続） ・動力・照明、接地線 最上階FL-1350　引出長さ　2m	（電気設備工事）
◈	配線引込み ・インターホン配線、電話線 最上階FL-650　引出長さ　1m	（電気設備工事）

天井フック荷重リスト	
荷重A	9.8kN
荷重B	19.6kN

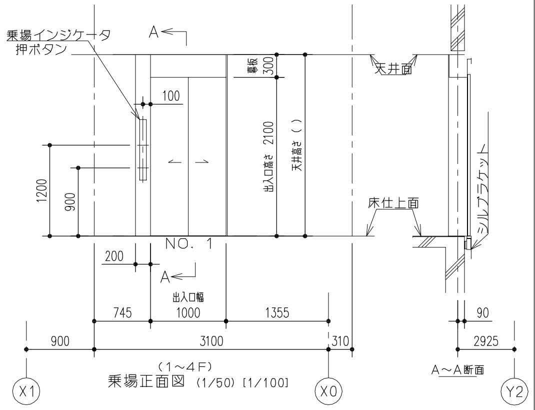


（1～3F）
昇降路平面図　(1/50) [1/100]

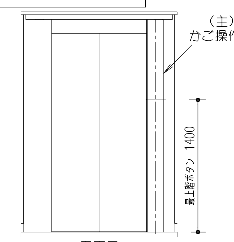
◉	ピット点検用コンセント	（電気設備工事）



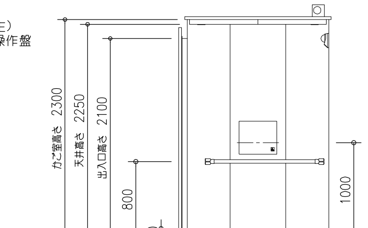
（ピット）
昇降路平面図　(1/50) [1/100]



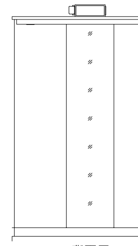
（1～4F）
乗場正面図　(1/50) [1/100]　A～A断面



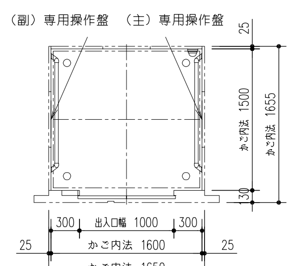
正面図



側面図



背面図



平面図

エレベーター仕様

概略仕様	号機名（台数）		NO. 2　（1台）天井トランク付
	用途（形式）		人荷共用
	積載量（定員）		1750kg　（26人）
	速度		90m/min
	制御方式		交流インバータ制御方式
	操作方式		乗合全自動方式
	停止ケ所・出入口方向		（1～5F）　5ケ所　1方向
	かご内法（WxDxH）		1500mmX2500mmX3000mm （天井トランク：1500mm x 1000mm x 1000mm）
	出入口寸法（WxH）		1500mmX2700mm
	ドア方式		4枚戸中央開き（電動式）
	電動機出力		AC-16.0kW
	電源	動力	三相3線　200V　50Hz
		照明	単相　100V　50Hz
	管制運転	地震	有（P波+S波感知器（3段検知）リスタート機能付）
		火災	有（全自動形）
		自家発	有
	停電時自動着床装置		有
	耐震クラス		S_{09}
	かご内連絡装置		24V同時通話式インターホン
乗場仕様	三方枠		全階　大枠・全傾斜　ステンレス製ヘアライン仕上
	ドア		全階　ステンレス製ヘアライン仕上
		遮煙	全階　有
	幕板		1.3.4階　見付枠無し　ステンレス製ヘアライン仕上
	敷居		全階　ステンレス製（板曲げ加工）
	乗場	ボタン	全階　凸文字付きクリックボタン
	インジケータ	インジケータ	全階　デジタル階床表示式
	ボタン	フェースプレート	全階　平板ステンレス製ヘアライン仕上
かご仕様	天井照明		乳白色樹脂成形グローブ照明
	換気装置		クロスフローファン
	リターンパネル		ステンレス製ヘアライン仕上
	出入口柱		ステンレス製ヘアライン仕上
	ドア		ステンレス製ヘアライン仕上
	幕板		ステンレス製ヘアライン仕上
	側板		ステンレス製ヘアライン仕上
	巾木		ステンレス製ヘアライン仕上
	床		合成ゴムタイル（t6）
	操作盤	ボタン	凸文字付きクリックボタン
		インジケータ	デジタル階床表示式
		フェースプレート	ステンレス製ヘアライン仕上

特記事項
- 両側セフティシュー付
- 多光軸ドアセフティ付（2D）
- BGMスピーカー付
- フック式保護マット付
- 床マット付
- 運転状況表示機能付（リスタート機能・自動復旧運転、運転状況表示機能）
- かご上トランク付（H=4000）
- かご床補強
- 戸開延長ボタン付

遮煙のりばドア
特定防火設備（遮煙性能付）認定品
NO. 2　適用階床：1～5F

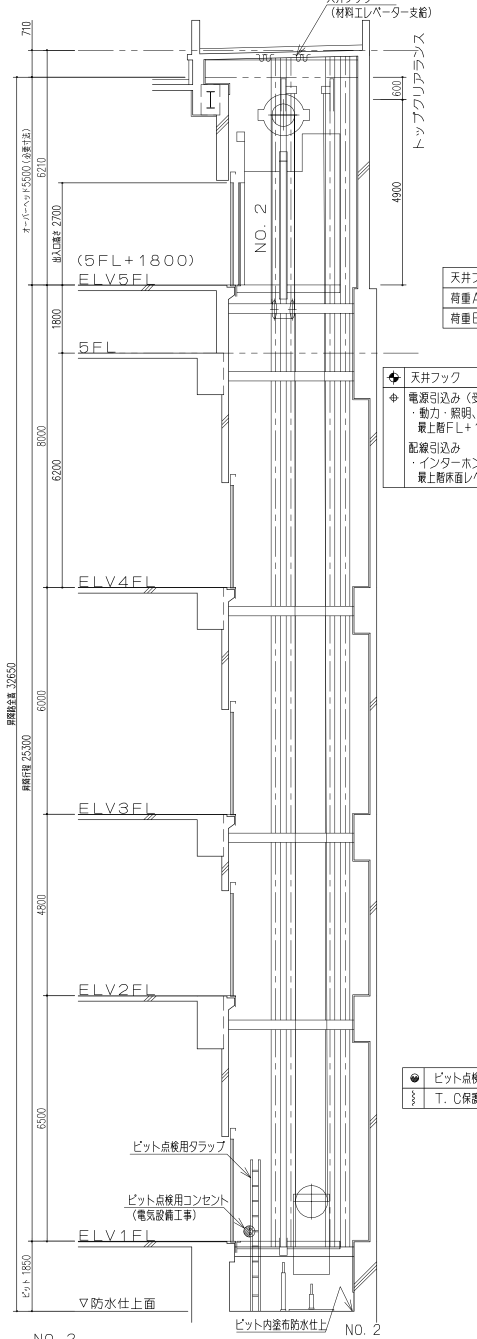
（1台1回線）

電源設備

号機名		NO. 2		
電源設備容量	動力	200V　17kVA		
	照明	100V 1.5kVA		
最大電流		123.9A		
動力線サイズ（mm^2）		14.0	22.0	38.0
最大引込み距離（m）		30	50	81
建屋側MCCB		100A		
接地線最小サイズ		5.5mm^2		
インターホン用配線		φ0.9×10本		
電話用配管・配線		φ19配管、電話線1P		
ピットコンセント容量		1kVA／台		

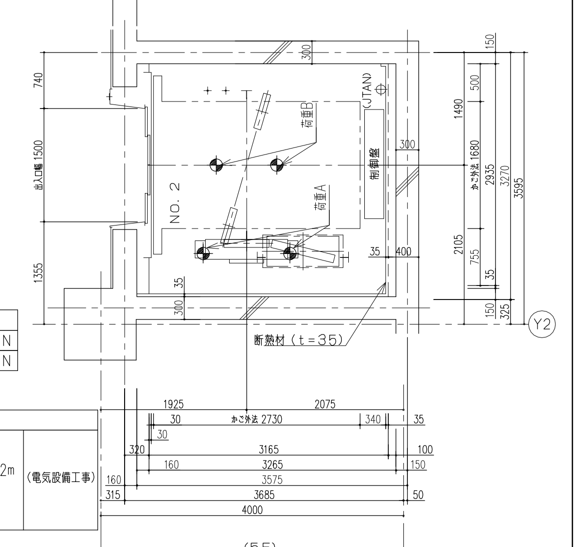
レール反力リスト（地震時作用荷重）			NO. 2
	かご側	Px	21.40kN
	一般階	Py	10.70kN
	かご側	Px	25.90kN
	最上階	Py	18.80kN
	おもり側	Px	32.10kN
		Py	16.10kN

上記　荷重による柱及び梁のたわみは5mm以下となるよう選定下さい。



NO. 2
昇降路縦断面図 (1/100) [1/200]
※ レール支持柱はL=6000以下とする

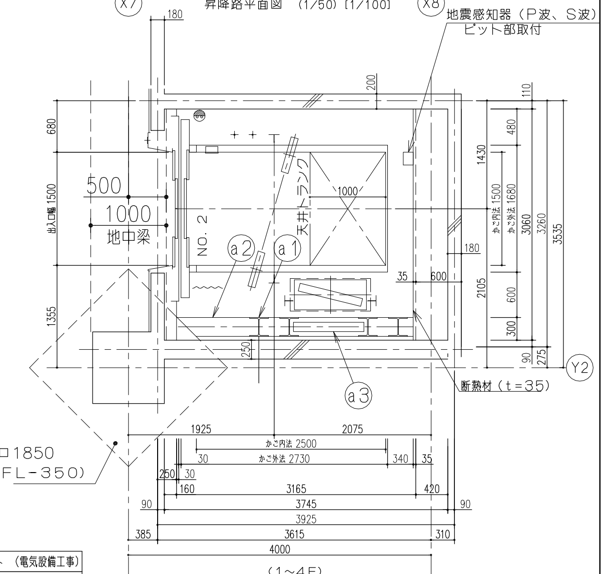
NO. 2		
ピット反力		212.4kN
ピット衝撃荷重	かご側	196.4kN
	C/W側	162.6kN



（5F）
昇降路平面図　(1/50) [1/100]

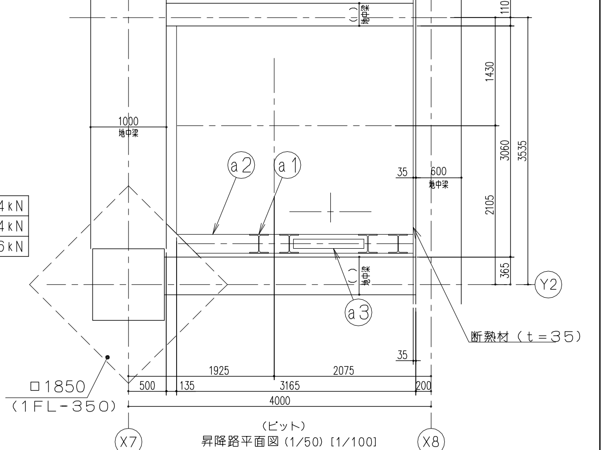
天井フック荷重リスト	
荷重A	9.8kN
荷重B	24.5kN

	天井フック	
⊕	電源引込み（受電盤への接続） ・動力・照明、接地線 最上階FL+1200　引出長さ 2m 配線引込み ・インターホン配線、電話線 最上階床面レベル　引出長さ 2m	（電気設備工事）

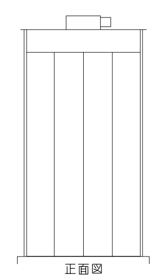


（1～4F）
昇降路平面図 (1/50) [1/100]

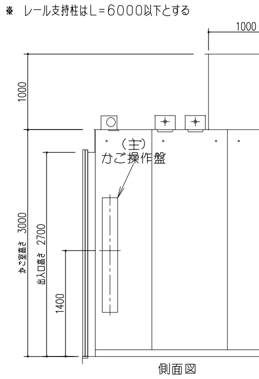
◉	ピット点検用コンセント　（電気設備工事）
⌇	T.C保護金網



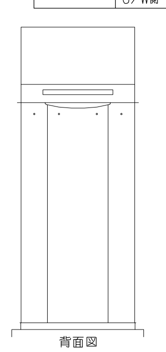
（ピット）
昇降路平面図 (1/50) [1/100]



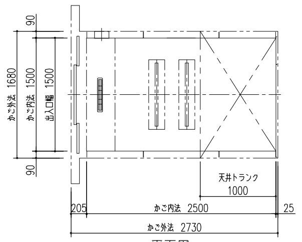
正面図



側面図

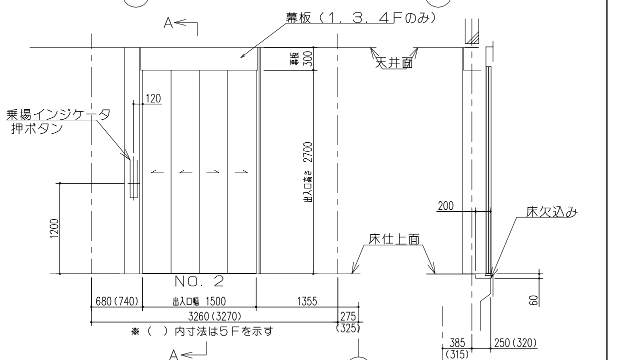


背面図



平面図

エレベーター廻り鉄骨部材（耐火被覆ナシ）		
a1	レール支持柱	H-250x250x9x14
a2	レール支持柱受梁	H-250x250x9x14
a3	レール支持柱連結材	[-125x65x6x8



※（　）内寸法は5Fを示す
（1～5F）
乗場正面図 (1/50) [1/100]　A～A断面

安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第129267号　高田　茂	新潟市建築部公共建築第1課	工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎　庁舎棟建設工事	図名 昇降機仕様書・詳細図
			年月日 2013.03.01
			縮尺 A1:1／50,100　A3:1／100,200
			図面番号 A-86

構造仕様書

Ⅰ建物構造概要

① 建物構造概要

①架構計画

階　数	地上　5　階　地下　0　階　塔屋　0　階
構造種別	地上階 ⊙鉄筋コンクリート造　・鉄骨造　⊙鉄骨鉄筋コンクリート造 （⊙一部 プレストレストコンクリート造） ヘリポート、無線鉄塔 ・鉄筋コンクリート造　⊙鉄骨造　・鉄骨鉄筋コンクリート造 （・一部　　造）
工事種別	⊙新築　・増築　・改築
構造方式	・耐震構造・制振（震）構造　⊙免震構造
架構形式	地上階 X方向　⊙ラーメン構造　・壁式構造 Y方向　⊙ラーメン構造　・壁式構造 5階架構、ヘリポート、無線鉄塔 X方向　・ラーメン構造　⊙ブレース付ラーメン構造 Y方向　・ラーメン構造　⊙ブレース付ラーメン構造

②基礎・地業

地　業　・直接基礎
⊙杭基礎　⊙既製コンクリート杭
・鋼杭
・場所打ちコンクリート杭（・拡底　・鋼管巻き）

基礎形式　⊙独立フーチング基礎　・布基礎　・べた基礎
地盤改良　⊙有り（・基礎下　・土間コンクリート下　⊙その他）

③部位別構造種別

床の構造　⊙現場打ちコンクリート造
・合成スラブ構造
・プレキャストコンクリート板
プレストレスト　・PC梁　（範囲　　）
コンクリート構造　⊙PRC梁（範囲　図示　　）

④構造設計

耐震安全性の分類　⊙Ⅰ類（Ⅰ＝1.5）・Ⅱ類（Ⅰ＝1.25）・Ⅲ類（Ⅰ＝1.0）
計算ルート　※許容応力度計算等　⊙時刻歴応答解析

X方向	・ルート（　　）	
Y方向	・ルート（　　）	

層間変形角（方向別最大値）限界耐力計算

	中地震時	大地震時	備　考
X方向	1／300	1／200	
Y方向	1／300	1／200	

② 設計条件

①主要室の積載荷重

（N/m²）

	床・小梁用	架構用	地震用	備考
事務室	2900	1800	800	
車庫	11800	4900	3900	
講堂	3500	3200	2100	
消防指令管制センター	4900	2400	1300	
屋上設備機器置場	4900	3900	2500	

②特殊荷重

⊙昇降機　（・エレベータ　2　基　・エスカレータ　基　昇降機新網図による。）
・フォークリフト
⊙重量設備機器　構造図（伏図）による

③地震荷重

地盤種別　第（・1種　・2種　⊙3種）地盤
地域係数　Z＝（・1.0　⊙0.9　・0.8）
（庁舎は災害活動拠点として1.0を採用）

④耐風設計

基準風速　30　m/sec
地表面粗度区分　（・Ⅰ　・Ⅱ　⊙Ⅲ　・Ⅳ）（工作物の無線鉄塔はⅡを採用）
速度圧　1250　N/m²

⑤積雪条件

多雪区域の指定　⊙有り　・無し
設計垂直積雪量　（　100　cm）
設計荷重　（⊙長期　30　N/m²/cm　⊙短期　30　N/m²/cm　）

⑥地下水

地下水位　設計GL　−0.60　～　−1.30 m（現場透水試験による平衡水位）
（設計用地下水位はGL−0.6mとする）

③ 地盤調査資料

①調査概要

調査年月日（平成24年　3月、平成24年　6月）
調査会社名　株式会社　東京ソイルリサーチ、株式会社　キタック
標準貫入試験（構造図による）
調査内容（⊙孔内水平載荷試験　⊙土質試験　⊙液状化の検討⊙その他）
その他の既存調査
・有り（　　）　⊙無し

Ⅱ建築工事仕様（構造関係）

① 地業工事

⊙砂利地業

※再生クラッシャラン 🅖　・切込み砂利及び切込み砕石

厚み	使　用　範　囲
㊙60	基礎下、マットスラブ下、土間コンクリート下、土に接するスラブ下

⊙捨てコンクリート地業

コンクリートの仕様　6章コンクリート工事による
厚さ及び使用範囲

厚み	使　用　範　囲
㊙50	基礎下、マットスラブ下、土間コンクリート下、土に接するスラブ下

⊙地盤改良その他

㊙改良範囲は構造図による。
工法　静的締め固め砂杭工法（液状化対策）
対象土　GL−9.0m以浅の　砂質地盤
改良体の要求性能等は構造図による。

② 鉄筋工事

⊙鉄筋の種類

種類の記号	呼び名（mm）
⊙SD295A	㊙D16以下
⊙SD345	㊙D19～D25
⊙SD390	㊙D29以上

⊙溶接金網

種類	呼び径・寸法・形状（mm）	使用箇所
⊙溶接金網	6φ−100目	㊙構造図による

⊙鉄筋の継手

継手の工法

部位	継手工法と適用径の範囲
㊙柱、梁の主筋	⊙ガス圧接（D19以上）・重ね継手　⊙機械式継手
⊙基礎、マットスラブ、土圧壁	・ガス圧接（　　） ㊙重ね継手

㊙SD490のD29以上を圧接する場合は（社）日本鉄筋継手協会「鉄筋ガス圧接工事標準仕様書」（2007年）による施工前試験を行う。
⊙ガス圧接は（社）日本鉄筋継手協会認定による「優良圧接会社」で、かつ監理者の承諾する検査会社が行うものとする。
梁柱の主筋に機械式継手を用い、鉄筋を避雷導体として利用する場合には鉄筋どうしに必要な電気的な接続を設けること。（梁は高さ20m毎に水平環状導体も設けること）
⊙柱、梁の主筋はガス圧接、機械式継手のいずれの採用も可。
・機械式継手は、日本建築センター評定取得済（継手性能A級）とする。

⊙鉄筋の定着

・定着は機械式あるいはL形定着とし、仕様は構造図による。
・機械式定着は、日本建築センターあるいは日本総合試験所などの公共機関による技術照明取得済とする。

⊙圧接完了後の試験

試験方法	ロット区分および試料数	ロット当たりの抜取個所数および抜取率	判定基準
㊙超音波探傷試験	1組の作業班が1日に施工した個所かつ200ヶ所以下を1ロットとする。	㊙30個所 ・（　　）%	JIS Z 3062による。
・引張試験		※3本 ・5本 ・（　）本	試験片の引張強さが母材の規格値以上かつ圧接面で破断しないこと。
㊙外観検査	㊙全数	㊙100%	

⊙超音波探傷検査は、（社）日本鉄筋継手協会の認定する「優良鉄筋継手部検査会社」で、かつ監理者の承諾する検査会社が行う。
なお、検査は同協会の認定する有資格者（鉄筋継手部検査技術者3種以上）にて実施する。
※引張試験は原則として公的試験所で行う。
⊙本特記仕様書と行政指導項目に相違がある場合は、行政指導項目を優先するものとする。

⊙PC鋼材

施工要領および範囲は構造図による。

種　類	記　号	呼び名	備　考
⊙PC鋼より線	SWPR7BL	12.7mm	

③ コンクリート工事

⊙コンクリートの設計基準強度、スランプ

設計基準強度 FC N/mm²	スランプ cm	種類：普通コンクリート	種類：軽量	施工場所	プレストレストコンクリート	水密コンクリート	マスコンクリート	
30	12	⊙	・	マットスラブ、基礎フーチング 擁壁	・	・	⊙	
36	18	⊙	・	1階床・梁～2階床（一部、大梁はPC造）	⊙	・	・	
33	18	⊙	・	2階柱～4階床（一部、大梁はPC造）	⊙	・	・	
30	18	⊙	・	4階柱～5階床（一部、大梁はPC造）	⊙	・	・	
27	18	⊙	・	5階柱～R階床	・	・	・	
24	18	⊙	・	上記以外の躯体	・	・	・	

プレストレストコンクリート構造の仕様は構造図による。
軽量コンクリートの種別　※1種　・2種
空気量　普通コンクリート　4.5%（寒冷地5.0%）
軽量コンクリート　5.0%（寒冷地5.5%）
単位水量の最大値　㊙185kg/m³　・175kg/m³

⊙マスコンクリート

Ⅰ）総則
（a）マスコンクリートはマット基礎（1FL以下のコンクリート）に適用する。
（b）有害な温度ひび割れを防止するために温度応力解析を行い、施工、調合計画を立案し係員の承諾を得ること。
Ⅱ）材料
（a）セメントは普通ポルトランドセメントとする。
（b）混和剤は高性能AE減水剤遅延型とする。
Ⅲ）調合
（a）スランプは12cmとする。
（b）構造体コンクリートの管理材令は91日とする。
（c）温度補正は行わない。ただし、打設条件などで、平均養生温度が15度以下となると予測される場合は、JASS5に従い温度補正を行う。
（d）単位セメント量の下限値（標準仕様書6.2.4（2）、6.15.2（b））は適用しない。
（e）調合は試し練りを行い、単位セメント量を低減できる適切な調合を選定するものとする。試し練り時には、管理材令用供試験体のほかに、弱冷期（3日）、4週用の供試験体により強度試験を行い、強度発現履歴を確認すること。
ⅳ）打設計画
（a）打設工区割りは、1回の打設量500m³ 以内を目安とし、温度応力解析を行い温度ひび割れの影響の小さい工区割りを決定し、係員の承諾を得ること。
ⅴ）施工品質管理
（a）荷あろし時のコンクリート温度上限値は35度以下を原則とし、温度応力解析の設定条件も考慮して定める。
上記以外は、公共建築工事標準仕様書のマスコンクリートの項に従う。また、JASS5を参考とする。

⊙型枠

打放し仕上げの打増し厚さ
外部に面する部分　㊙20mm　）
上記以外の柱・梁・壁（㊙10mm　）
床型枠用鋼製デッキプレートを受ける梁の側面（㊙10mm　）
せき板の種別
コンクリート型枠用合板（mm）　㊙厚12　・厚15
床型枠用鋼製デッキプレートの仕様　㊙構造図による
ひび割れ誘発目地　㊙構造図による

⊙耐震スリット

タイプ	耐火性能	防水仕様	遮音性能
㊙完全スリット（全貫通型） ・不完全スリット	㊙耐火型 ・非耐火型	㊙有り ・無し	㊙D−55

㊙設置部位は、構造図による。

④ 鉄骨工事

⊙鋼材

㊙JIS規格品または建築基準法による指定・認定を受けた構造用鋼材とする。

種　類	品　質	備　考
⊙鋼板	⊙SS400　⊙SN400B　⊙SN400C ⊙SM490A　・SM490B ⊙SN490B　⊙SN490C	
⊙H形鋼（主部材）	⊙SS400　・SS540　⊙SN400B　・ ・SM490A　・SM490B　⊙SN490B　・	
⊙その他の形鋼	⊙SS400　⊙SSC400　⊙SS540	（小梁間柱等）
・角形鋼管	・BCR295　・BCP235B　・BCP235C ・BCP325B　・BCP325C　・BCP325T ・SHC400B　・SHC490B ⊙STKR400　・STKR490	
・円形鋼管	⊙STK400　⊙STK490　・ ・STKN400W・STKN400B ・STKN490B ・SCW490−CF	
⊙デッキプレート		・黒皮 ⊙亜鉛めっき仕様
⊙ターンバックル		⊙JISA5540
⊙アンカーボルト	⊙SS400（普通ボルト） ⊙SS490（普通ボルト） ・SNR400B　⊙SCW480 ・SNR490B	建方用アンカー 構造用アンカー JSⅡ13−2004

⊙溶融亜鉛めっき

高力ボルト　1種（F8T相当）
摩擦面の処理
㊙ブラスト処理（表面粗度50μmRz以上）
⊙りん酸塩処理（※薬液処理実績と試験結果を提出し承諾を受ける）
㊙上記いずれの採用も可。

⊙アンカーボルト

構造用アンカーボルトはJSS Ⅱ13−13−2004「（社）日本鋼構造協会規格／建築構造用転造ねじアンカーボルト・ナット・座金のセット」による。
アンカーボルトの亜鉛めっき処理は電気めっきの上、締め付け後現場にて高濃度亜鉛末塗料を塗布する。
保持及び埋め込み工法
㊙構造用アンカーボルト（・A種　㊙構造図による　）
⊙建方用アンカーボルト（・A種　㊙B種　・C種）

⊙ターンバックル

ターンバックル胴　㊙割枠式　・
ターンバックルボルト　㊙羽子板ボルト　・

⊙デッキプレート

㊙床型枠用　⊙合成スラブ　・
デッキプレートの溶接工法　㊙アークススポット溶接または隅肉溶接
⊙焼抜き栓溶接（合成スラブ）
㊙合成スラブ用のデッキプレートは、亜鉛メッキ仕様とする

⊙スタッドボルト

頭つきスタッド（JISB1198）による
スタッド径と高さ　φ＝　⊙16　⊙19　・22
H＝　⊙80　⊙100　・120　・150

⊙柱底均しモルタル工法

モルタルの種類
㊙無収縮モルタル
・柱底均しモルタル
柱底均しモルタル工法
㊙A種　・B種
柱底均しモルタルの厚さ　㊙A種（※50mm　・　　）
B種（※30mm　・　　）

⊙鉄骨加工

工作図	原寸検査	開先仮付検査	製品仮組検査	製品検査	備　考
⊙要	・要	⊙要	・要	⊙要	

原寸図を作成しない場合は、型板フィルム等の確認を経て原寸検査とする。
仮組　㊙行わない　・行う
精度　㊙（社）建築学会「JASS6鉄骨工事」付則「鉄骨精度検査基準」による。
建方　㊙鉄骨工事の施工が完了した時点でJASS6　10節「工事現場施工」の施工検査を行い、監理者の検査を受ける。

⊙溶接接合

鋼材と溶接材料の組合せと溶接条件　㊙大臣認定条件による　・
開先の形状　㊙鉄骨規準図による
スカラップの形状　㊙ノンスカラップ工法　⊙改良型スカラップ工法
㊙上記いずれの採用も可。
エンドタブ、裏あて金　㊙SN−B材とし、強度区分は母材と同等とする
⊙　SS400　・SM490A
エンドタブを切除する部分　㊙全て
・見え掛り部となる部分

⊙入熱パス間温度の溶接条件

入熱、パス間温度の溶接条件　㊙大臣認定条件による　・
適用箇所　㊙柱、梁、ブレースのフランジ端部の完全溶込み溶接
・構造図による

⊙溶接技能者の技量

対象：工場溶接　工事現場溶接

溶接技能者の資格	備考
原則として溶接技能者は「AW検定」の有資格者とする。	作業姿勢や代替タブ工法については、認定された範囲を有効とする。

「AW検定」とは、建築鉄骨技量検定協議会の実施する建築鉄骨溶接技量検定をいう。
有資格者が溶接作業に従事できない場合は、「AW検定」に準じた技量付加試験を実施する。

⊙溶接部の試験

エンドタブを切除する部分　※全て

溶接分類	試験項目	検査抜取方法
工場溶接部	⊙超音波探傷	・完全溶込み溶接部の（　　）% ・標示7.6.11による手法 AOQL　※4.0%　⊙2.5% 検査水準　※第6水準　・第　水準
	⊙外観検査	⊙超音波探傷検査に準ずる ・完全溶込み溶接部の（　　）%
現場溶接部	⊙超音波探傷	⊙完全溶込み溶接部の（100）% ・標示7.6.11による手法 AOQL　※4.0%　・2.5%
	⊙外観検査	⊙超音波探傷検査に準ずる ・完全溶込み溶接部の（　　）%

㊙外観検査は平12建告1464号で指定される溶接部を対象とする。
㊙検査組織は第三者検査とし、CIW認定（C種以上）の検査会社に所属する有資格者とする。
㊙製作工場による自主検査は、超音波探傷・外観検査ともに100%とする。
浸透探傷試験又は磁粉探傷試験　㊙行わない　・行う（要領は構造図による）

⊙溶融亜鉛めっき工法

⊙屋外露出鉄骨は全て溶融亜鉛メッキとする。

亜鉛めっきの種別	材　料	適用部位
A種	最低板厚6.0mm以上の形鋼、鋼板	㊙屋外露出となる鉄部
B種	最低板厚3.2mm以上、6.0mm未満の形鋼、鋼板	・
C種	普通ボルト 最低板厚1.6mm以上、3.2mm未満の形鋼、鋼板	

㊙素地ごしらえは、JISH9124溶融亜鉛めっき作業指針による。

⑤ 免震材料

⊙免震材料

※免震材料諸元および配置等の詳細は構造図による。

特記留意事項（特記仕様書共通）
⊙　特記事項・標仕に記載のない時候はJASS5・JASS6・JASS10を参考とし、監督職員の承認を得るものとする。
⊙　構造材料はJIS規格品であり、建築基準法に基づく指定・認定を受けたものとする。

安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第129267号　高田　茂	新潟市建築部公共建築第1課	工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎　庁舎棟建設工事	図名 構造仕様書	
			年月日 2013.03.01	縮尺 / 図面番号 B−01

鉄筋コンクリート配筋規準図（１）

１　一般事項

1.鉄筋コンクリート工事における設計図書の優先順位は、下記とする。
　1）現場説明書・同質疑回答書
　2）特記仕様書
　3）設計図（本規準図、構造設計図）
　4）建築工事標準仕様書（本規準図と標準仕様書「各部配筋」の内容に食い違いがある場合は、本規準図が優先する）
2.設計図内（本規準図と構造設計図）で食い違いがある場合、または,本規準の適用に際して図面解釈上疑義が生じる場合は監理者の確認を得ること。
3.使用材料は特記仕様書による。

２　共通事項

鉄筋の表示記号

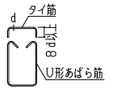
記号	●	×	⌀	●	○	⊙	⊠	◎
異形鉄筋	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32

鉄筋の折曲げ

鉄筋の折曲げ形状・寸法

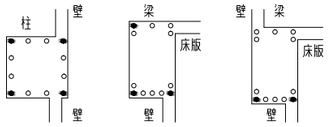
折曲げ角度	図	種　類	折曲げ内のり直径（D）
180°	d　余長 4d以上	SD295A SD295B	D16以下3d以上
135°	d　余長 6d以上	SD345	D19~D38 4d以上
90°	d　余長 8d以上	SD390	5d以上

（注）1．dは呼び名に用いた数値とする。
　2．折曲げ角度90°は、スラブ筋、壁筋の末端部またはスラブと同時に打ち込むT形およびL形梁に用いるU形あばら筋と対になるタイ筋のみに用いる（右図）。
　3．片持スラブ上端の先端と壁の自由端に用いる先端の余長は4d以上とする。



異形鉄筋の末端部

次の部分に使用する異形鉄筋の末端部にはフックを付ける。
（1）柱の四隅にある主筋（下図の ● ）で、重ね継手の場合及び最上階の柱頭にある場合
（2）梁主筋の重ね継手が、梁の出隅及び下端の両端（下図の ● ）にある場合（基礎梁を除く）



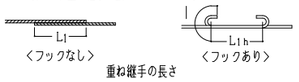
（3）煙突の鉄筋（壁の一部となる場合を含む）
（4）杭基礎のベース筋
（5）帯筋、あばら筋及び幅止め筋

（ａ）鉄筋の重ね継手
（1）径が異なる鉄筋の重ね継手の長さは、細い鉄筋の径による。
（2）鉄筋の重ね継手の長さは、下表による。

鉄筋の重ね継手の長さ

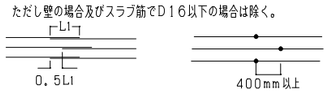
鉄筋の種　類	コンクリートの設計基準強度 Fc（N/mm²）	L1（フックなし）	L1h（フックあり）
SD295A SD295B	18	45d	35d
	21	40d	30d
	24，27	35d	25d
	30，33，36	35d	25d
SD345	18	50d	35d
	21	45d	30d
	24，27	40d	30d
	30，33，36	35d	25d
SD390	21	50d	35d
	24，27	45d	35d
	30，33，36	40d	30d

（注）1．L1，L1h：フックなし重ね継手の長さ及びフックあり重ね継手の長さ。
　2．フックありの場合のL1hは、下図に示すようにフック部分｜を含まない。
　3．軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。
　4．D29以上は、重ね継手を設けてはならない。

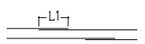


重ね継手の長さ

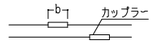
（3）主筋及び耐力壁の鉄筋の重ね継手を設ける場合にあっては、フックのありなしにかかわらず40d以上とする（軽量コンクリートを使用する場合は50d以上）。
（4）隣り合う継手の位置
ただし壁の場合及びスラブ筋でD16以下の場合は除く。



ガス圧接・アーク溶接継手のずらし方



重ね継手のずらし方



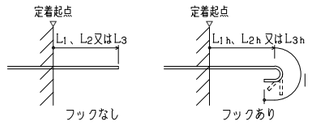
機械式継手のずらし方

（ｂ）鉄筋の定着
（1）鉄筋の定着の長さは、下表及び下図による。

鉄筋の定着の長さ

鉄筋の種　類	コンクリートの設計基準強度 Fc（N/mm²）	フックなし L1	L2	L3 小梁	L3 スラブ	フックあり L1h	L2h	L3h 小梁	L3h スラブ
SD295A SD295B	18	45d	40d	20d	10d かつ 150mm 以上	35d	30d	10d	－
	21	40d	35d			30d	25d		
	24，27	35d	30d			25d	20d		
	30，33，36	35d	30d			25d	20d		
SD345	18	50d	40d			35d	30d		
	21	45d	35d			30d	25d		
	24，27	40d	35d			30d	25d		
	30，33，36	35d	30d			25d	20d		
SD390	21	50d	40d			35d	30d		
	24，27	45d	40d			35d	30d		
	30，33，36	40d	35d			30d	25d		

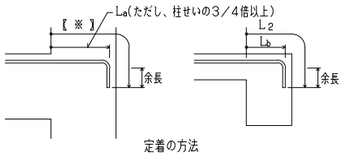
（注）1．L1，L1h：2．以外のフックなし直線定着の長さ及びフックあり直線定着の長さ。
　2．L2，L2h：割裂破壊のおそれのない箇所へのフックなし直線定着の長さ及びフックあり直線定着の長さ。
　3．L3：小梁及びスラブの下端筋のフックなし直線定着の長さ。ただし、基礎耐圧スラブ及びこれを受ける小梁は除く。
　片持小梁・片持スラブの下端筋を直線定着とする場合は25d以上とする。
　4．L3h：小梁の下端筋のフックあり直線定着の長さ。
　5．フックあり直線定着の場合は、下図に示すようにフック部分｜を含まない。
　また、中間部での折曲げは行わない。
　6．軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。



直線定着の長さ

（2）梁主筋の柱内定着長さは、フックのありなしにかかわらず40d以上とする。
（軽量コンクリートを使用する場合は50d以上とする。）

（3）梁主筋の柱内定着の方法又は、小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の方法は下図に示すように、全長をフックなし直線定着の長さとし、かつ、余長を8d、仕口面から鉄筋外面までの投影定着長さを下表に示す長さ（かつ、梁主筋の柱内定着においては、柱せいの3/4倍以上）のみ込ませる。



定着の方法

梁主筋の柱内折曲げ定着の投影定着長さ
※ フックなし直線定着長さL1と（2）に規定する定着長さ40d以上（軽量コンクリートは50d以上）のうち、大きい値を全長で確保する。

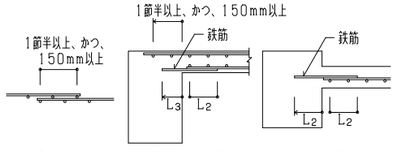
小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影定着長さ

鉄筋の投影定着の長さ

鉄筋の種　類	コンクリートの設計基準強度 Fc（N/mm²）	La	Lb
SD295A SD295B	18	20d	15d
	21	15d	15d
	24，27	15d	15d
	30，33，36	15d	15d
SD345	18	20d	20d
	21	20d	20d
	24，27	20d	15d
	30，33，36	15d	15d
SD390	21	20d	20d
	24，27	20d	20d
	30，33，36	20d	15d

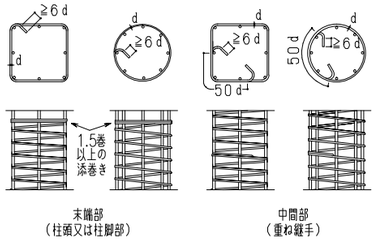
（注）1．La：梁主筋の柱内折曲げ定着の投影定着長さ。
　（基礎梁、片持ち梁及び片持ちスラブを含む。）
　2．Lb：小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影定着長さ。
　（片持ち小梁及び片持ちスラブを除く。）
　3．軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。

（4）溶接金網の継手及び定着は、下図による。



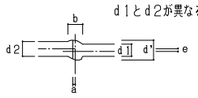
溶接金網の継手及び定着

（5）スパイラル筋の継手及び定着は、下図による。



スパイラル筋の継手及び定着

（6）圧接継手
ガス圧接をする場合、圧接部の形状はなめらかにふくらませる。
d1とd2が異なる場合は小さいほうの値をdとする。



ふくらみ	d'	≧ 1.4d
長さ	b	≧ 1.1d
芯ずれ	e	≦ 0.2d
面のずれ	a	≦ 0.25d

最小かぶり厚さ
（ａ）鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さは、下表による。
ただし、柱及び梁の主筋にD29以上を使用する場合は、主筋のかぶり厚さを径の1.5倍以上確保するように最小かぶり厚さを定める。

鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さ（単位：mm）

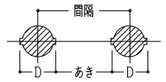
構造部分の種別				最小かぶり厚さ
土に接しない部分	スラブ，耐力壁以外の壁		仕上げあり	20
			仕上げなし	30
	柱，梁，耐力壁	屋内	仕上げあり	30
			仕上げなし	30
		屋外	仕上げあり	30
			仕上げなし	40
	擁壁，耐圧スラブ			40
土に接する部分	柱，梁，スラブ，壁			*40
	基礎，擁壁，耐圧スラブ			*60
煙突等高熱を受ける部分				60

（注）1．*印のかぶり厚さは、普通コンクリートに適用し、軽量コンクリートの場合は特記による。
　2．「仕上げあり」とは、モルタル塗り等の仕上げのあるものとし、鉄筋の耐久性上有効でない仕上げ（仕上塗材、塗装等）のものを除く。
　3．スラブ、梁、基礎及び擁壁で、直接土に接する部分のかぶり厚さには、捨コンクリートの厚さを含まない。
　4．杭基礎の場合のかぶり厚さは、杭天端からとする。
　5．塩害を受けるおそれのある部分等、耐久性上不利な箇所は、特記による。

（ｂ）柱、梁等の鉄筋の加工に用いるかぶり厚さは、最小かぶり厚さに10mmを加えた数値を標準とする。

（ｃ）鉄筋組立後のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上とする。

（ｄ）鉄筋相互のあきは下図により、次の値のうち最大のもの以上とする。
ただし、特殊な鉄筋継手の場合のあきは、特記による。
（1）粗骨材の最大寸法の1.25倍
（2）25mm
（3）隣り合う鉄筋の平均径（呼び名の数値）の1.5倍
（4）水平間隔600mm以内に棒型振動機（径45mm）が挿入できる間隔とする。



Dは、鉄筋の最大外径

鉄筋相互のあき

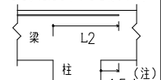
（ｅ）鉄骨鉄筋コンクリート造の場合、主筋と平行する鉄骨とのあきは、（ｄ）による。

（ｆ）貫通孔に接する鉄筋のかぶり厚さは、（ｃ）による。

（ｇ）打放し仕上げ部分で増打寸法の記入がない場合は以下による。
（1）　屋外に面する部分 20mm
（2）　上記以外の柱・梁・壁 10mm
（ただし、屋内は見え掛かり部分のみとする。）

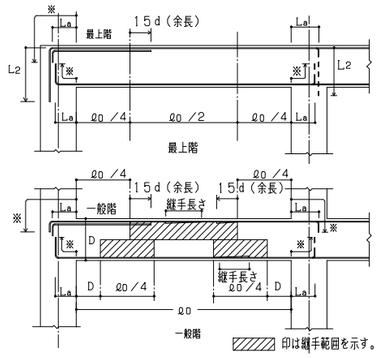
３　梁

（1）　一般事項
ａ）　継手中心位置は、次による。
　上端筋　：　中央L0/2以内
　下端筋　：柱面より梁せい（D）以上離し、L0/4を加えた範囲以内
ｂ）　継手中央部の位置、定着長さ及び余長は、（2）（3）による。
ｃ）　梁主筋は、原則として柱をまたいで引き通すものとし、引き通すことができない場合は、ｄ）により柱内に定着することができる。ただし、やむを得ず梁内に定着する場合は、下記による。
（注）上階に柱がある場合の定着長さはL2とし、15dは適用しない。

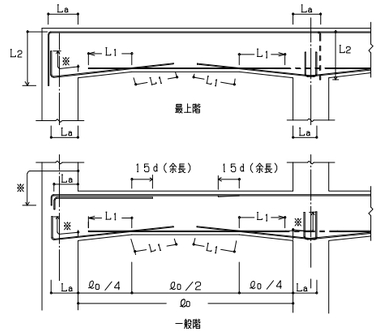


ｄ）　梁主筋を柱内に折り曲げて定着する場合は以下による。
　上端筋　：　曲げ降ろす。
　下端筋　：　曲げ上げる。ただし、やむを得ない場合は、監理者の承諾を得て曲げ降ろすことができる。
ｅ）　梁にハンチをつける場合の要領は特記による。特記がなければ1：4以下とする。

（2）　ハンチのない場合の重ね継手、定着及び余長

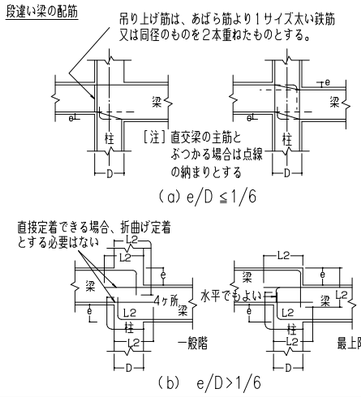


（3）　ハンチのある場合の定着及び余長

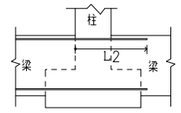


（注）　1．　2．（1）で定めた鉄筋には、フックをつける。
　　2．　　印は、継手及び余長を示す。
　　3．　梁内定着の端部下端筋が接近するときは、：＝＝＝＝ のように引通すことができる。
　　4．　梁主筋ののみ込み長さ（柱せいの3/4倍以上）。
※　フックなし定着長さL1と、定着長さ40d以上（軽量コンクリートは50d以上）のうち、大きい値を全長で確保する。

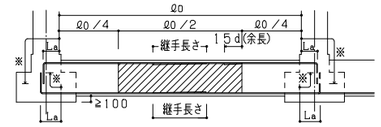
段違い梁の配筋



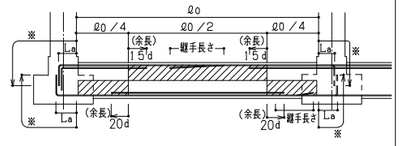
基礎梁
（1）一般事項
ａ）　上端主筋の定着は、やむを得ない場合、上向きとすることができる。
ｂ）　梁筋は原則として、柱をまたいで引き通すものとし、引き通しができない場合は、柱内に定着する。ただし、やむを得ず梁内に定着する場合は下記による。



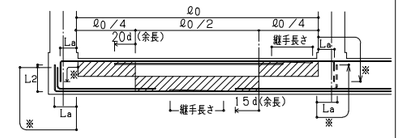
（2）独立基礎で基礎梁にスラブがつかない独立基礎の場合の主筋の継手、定着及び余長は下記による。（土間コンクリートの場合）



（3）独立基礎で基礎梁にスラブがつく独立基礎の場合の主筋の継手、定着及び余長は下記による。（構造スラブの場合）



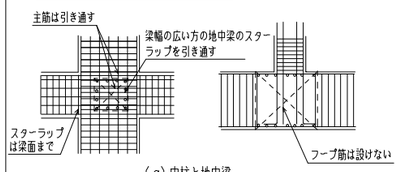
（4）連続基礎及びべた基礎の場合の主筋の継手、定着及び余長は下記による。



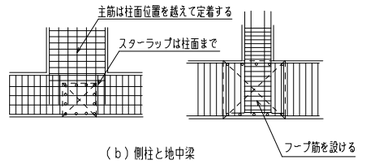
（2）～（4）の主筋の継手、定着及び余長

（注）　1．　図示のない事項は、一般梁配筋と同じ。
　　2．　　印は、継手及び余長位置を示す。
　　3．　　印は、継手範囲を示す。
　　4．　梁主筋ののみ込み長さ（柱せいの3/4倍以上）。
※　フックなし定着長さL1と、定着長さ40d以上（軽量コンクリートは50d以上）のうち、大きい値を全長で確保する。

柱幅が地中梁幅より狭い場合の仕口の配筋



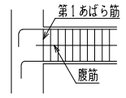
（a）中柱と地中梁

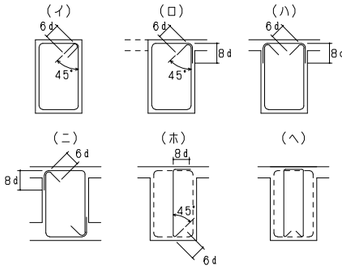


（ｂ）側柱と地中梁

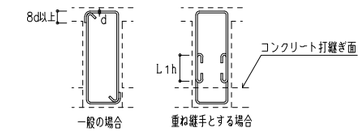
（1）　外周部柱はフープ筋を配筋し梁スターラップは柱面まで設置する。
（2）　内部の仕口は梁幅の広い梁の配筋を優先配筋し、柱フープ筋は設けない。
この場合は直交梁のスターラップは柱面まで設置する。

あばら筋
（1）あばら筋の割付けは第1あばら筋より始める。
（2）第1あばら筋はD13以上を柱面に入れる。
（3）あばら筋径およびピッチは構造図面による。
（4）あばら筋の形状





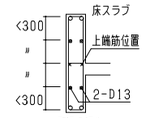
ａ）あばら筋は（イ）を標準とする。（ロ）、（ハ）および（ニ）はスラブと同時に打込むL形およびT形梁に用いることができる。
　（イ）及び（ニ）はフックを左右交互とする。
　（ロ）は、L型ではスラブの付く側にフック、T型では交互にフックとする。
ｂ）副あばら筋の場合は、（ホ）または（ヘ）とする。ただし（ホ）はスラブと同時に打込むT形およびL形梁に用いる。
ｃ）基礎梁のあばら筋組立の形及びフックの位置は、梁の上下端にスラブが付く場合で、かつ、梁せいが1.5m以上の場合は、下図によることができる。



あばら筋組立の形及びフックの位置

補助筋

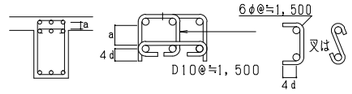
梁成(D)	腹　筋
D＜600	不要
600≦D＜900	2-D10
900≦D＜1,200	4-D10
1,200≦D	2-D13@500以下



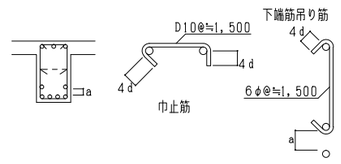
壁梁の場合

ａ）腹筋の継手位置は任意、継手長さは15cm程度、定着は3cm程度とする。
ただしD16以上の腹筋は定着L2、継手L1とする。
ｂ）幅止筋はD10@1,000程度とし、末端には90°≦θ≦135°のフックを付ける。

二段配筋



梁主筋1．5d≦a（鉄筋のあき）≦50

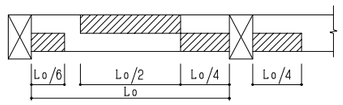


巾止筋

鉄筋コンクリート配筋規準図（２）

小梁・片持梁

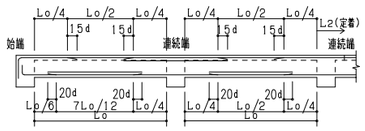
鉄筋の継手位置



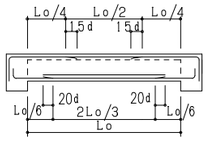
（１）▨ 印内に圧接継手、重ね継手中心位置を設けることとする。

（２） 上記指示範囲外で継ぐ場合は係員の承諾を受ける。

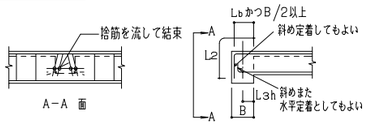
連続小梁の端部、中央の配筋



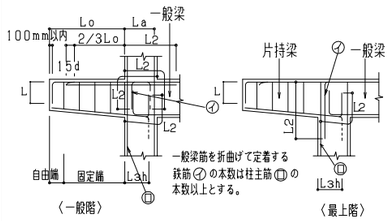
単独小梁の端部・中央の配筋



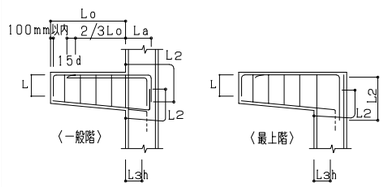
小梁終端部の定着



片持梁の配筋



（ａ）一般梁と連続する場合

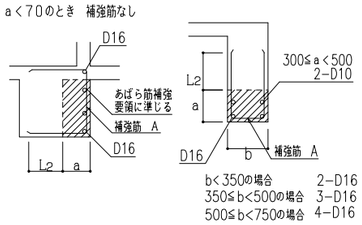


（ｂ）一般梁と連続しない場合

（注）１．先端の折曲長さLは梁せいからかぶり厚を除いた長さとする。

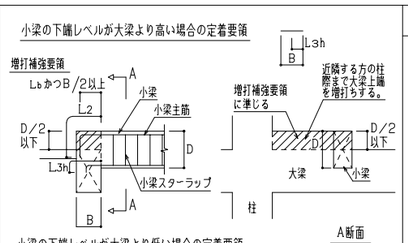
増打補強

・ａ＜70のとき　補強筋なし

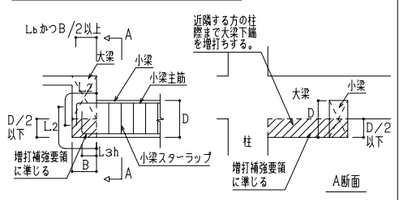


a	70≦a≦200	200＜a＜500	
補強筋 A	帯筋と同径・同材質・同ピッチ	D13@150	

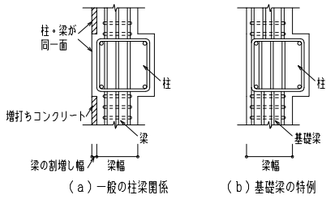
小梁の下端レベルが大梁より高い場合の定着要領



小梁の下端レベルが大梁より低い場合の定着要領



梁と柱が同一面の場合の梁断面の割増し幅



（ａ）一般の柱梁関係　　（ｂ）基礎梁の特例

梁の貫通孔補強

（１）梁貫通補強は既製品（公的機関の技術性能評価を取得したもの）によるもの、または建築構造設計基準および公共建築工事標準仕様書平成22年に準じて貫通孔補強を行うものとする。

（２）梁貫通孔は原則として、梁成の１／３以下かつ連続する場合、その中心間隔は両孔の平均孔径（ｄ）の３倍以上とする。
孔の位置は原則として、中心位置を柱面より１．５D以上はなすこと。
ただし、基礎梁及び壁付帯梁は除く。

（３）地中梁の梁貫通孔における孔の位置は上記規定の1.5Dを1.0mに読み替えるものとする。

（４）梁（小梁）面からの梁貫通孔の離隔距離は、原則として上記規定を適用しないものとする。

（５）貫通孔の上下位置は、原則として梁の中央付近とする。
梁中央付近においては梁下端より１／３Dの範囲に貫通孔を設けないこと。

（６）梁における人通孔は、原則として梁中央部に設置すること。
また、連通管、通気間は上記規定を適用しないものとし、原則としてスターラップを避けた位置に配置すること。スターラップを切断する場合には、切断するスターラップと同量の鉄筋で補強すること。

（７）孔径（ｄ）がD／10以下かつ150以下の場合は、原則として上記規定を適用しないものとする。

（８）ｄ≦150の補強筋は公共建築工事標準仕様書平成22年記載のH1による。

（９）プレストレストコンクリート梁に梁貫通孔を設ける場合の規定はプレストレストコンクリート特記仕様書による。

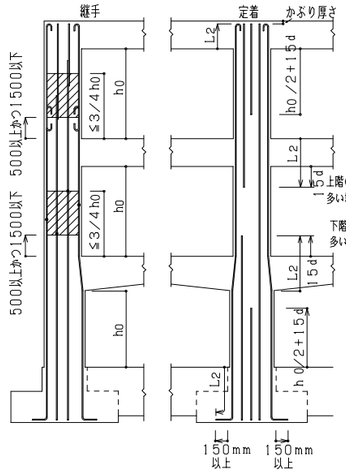
（10）貫通孔の位置は、配管の納まりなどの検討により、必要に応じて調整可能とし、計算書などに示される所定の部材耐力を確保できることが保証できれば、監督員の承諾を得て、上記規定を緩和できるものとする。

4 柱

柱主筋の継手定着、及び余長

（ａ） 継手及び圧接中心位置は、梁上端から500mm以上、1500mm以下、かつ3／4ｈo（ｈo は柱の内のり高さ）以下とする。（ ▨ 印の範囲）

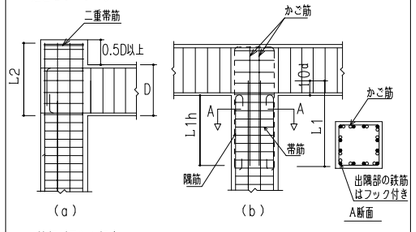
（ｂ） 重ね継手の長さはL1 ,L1hとし、定着及び余長は下記による。ただし、柱頭定着長さL2 が確保できない場合は、柱頭補強要領による。



柱の四隅にある主筋で、重ね継手の場合及び最上階の柱頭にある場合はフックをつけること。
但し、柱頭は定着長さL2を確保すること。

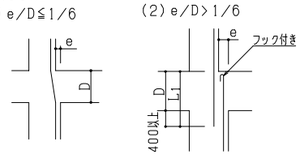
柱頭補強要領

柱頭定着長さL2が確保できない場合は下図による。
最上階の柱を梁せいDの１／2以上突出させた場合、梁の上端筋は一般階と同じ定着としてよい。

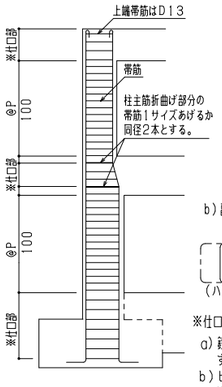


柱径が異なる場合

（１）e／D≦1／6　　（２）e／D＞1／6

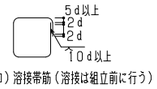


帯筋



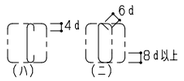
ａ）帯筋は（イ）又は（ロ）の形式とする。

（イ）両端135°折曲げ帯筋
フック位置は交互とする。



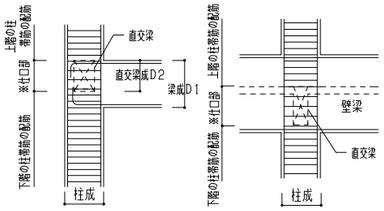
（ロ）溶接帯筋（溶接は組立前に行う）

ｂ）副帯筋は（ハ）又は（ニ）の形式とする。



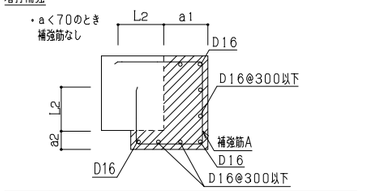
※柱口部帯筋
ａ）鉄筋径は上下帯筋の太いほうと同径とする。
ｂ）ピッチは上下帯筋間隔の狭い方の1.5倍以下として副帯筋は用いない。
ｃ）ただし、補強筋比0.2％以上を確保すること。

（１）直交方向の梁成が異なる場合　　（２）壁梁の場合



増打補強

・ａ＜70のとき
補強筋なし

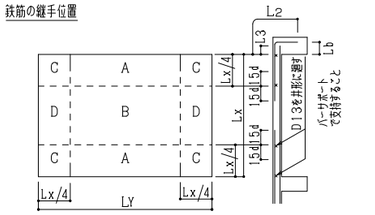


a	70≦a ≦200	200＜a≦500	
補強筋A	帯筋と同径・同材質・同ピッチ	D13@100	

ａはａ1 ,ａ2のうち大きい方の寸法を示す。

5 スラブ

鉄筋の継手位置



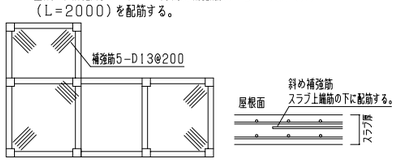
	上端筋		下端筋	
	短辺方向	長辺方向	両方向共	
標準継手位置	B, D	A, B	A, C, D	

（１）上記範囲外で鉄筋を継ぐ場合は、監理者の承諾を受けること。

（２）左右の定着長さより梁幅が大きい場合

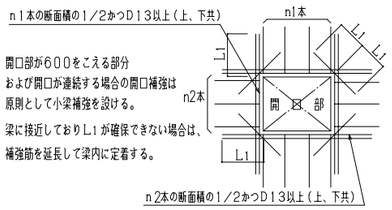
屋根スラブ

出隅・入隅部分には、45°方向に補強筋5－D13@200（L=2000）を配筋する。



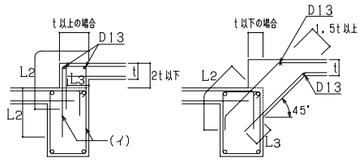
スラブ補強筋

（１）開口部最大径が700以下の場合の開口部補強



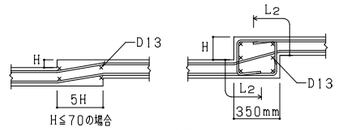
開口部が600をこえる部分
および開口が連続する場合の開口補強は
原則として小梁補強を設ける。
梁に接近しておりL1 が確保できない場合は、
補強筋を延長して梁内に定着する。

（２）スラブの高さが異なる場合の補強



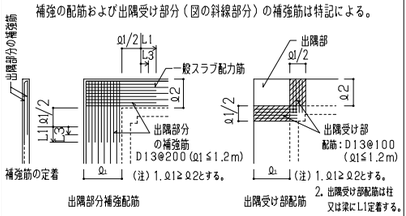
（イ）はスラブ端部上端筋と同径、同間隔とする。

（３）同一スパン内でスラブの高さが異なる場合の補強

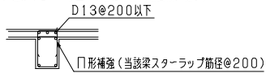


段差のあるスラブの補強配筋

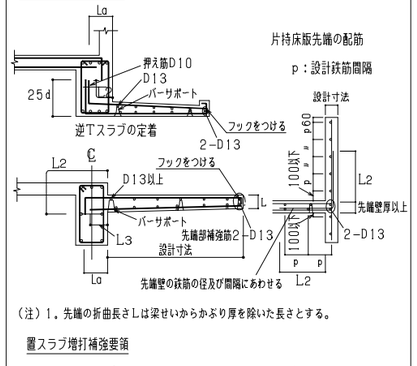
（４）片持ちスラブの出隅、入隅の補強配筋方法
補強の配筋および出隅受け部分（図の斜線部分）の補強筋は特記による。



（５）スラブ筋が上下共梁主筋より上に離れる場合の補強
（梁とスラブのレベル差が70mm以上の場合は増打補強要領に従う）

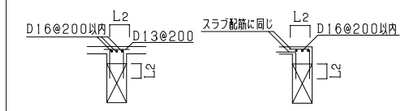


片持スラブの配筋要領



（注）１．先端の折曲長さLは梁せいからかぶり厚を除いた長さとする。

置スラブ増打補強要領

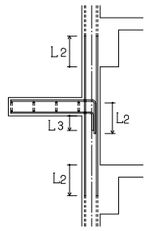


片持スラブ形階段

片持スラブ形階段の基準配筋は下図により、寸法及び配筋種別は特記による。

片持スラブ形階段の基準配筋

種別	配筋図
KA1	D13 D13 D10-300@ D10-300 t
KA2	2-D13 D13 D10-300@ D10-300@ t
KA3	D10-300@ t D13 t D13
KA4	D10-300@ t D13 t 2-D13

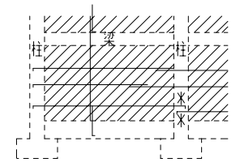


階段主筋は壁の中心線を越えてから縦に下ろす。
片持スラブ形階段配筋の定着

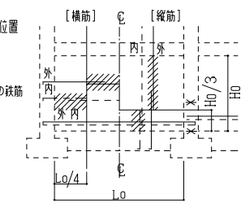
6 壁

鉄筋の継手位置

（ａ）壁筋の継手位置



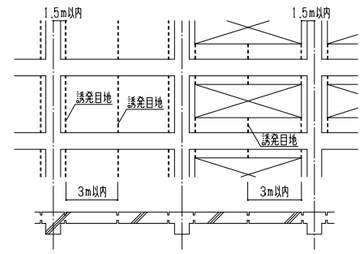
（ｂ）土圧を受ける
地下壁の壁筋の継手位置



（注） １）原則として、梁・柱の中には壁筋の継手を設けないこと。
２）横筋は、１スパンごとに柱に定着させてもよい。ただし、柱と同一面に壁がある場合は先端を90度に折り曲げて150mm以上を柱内にのみ込ませる（⊗印）。

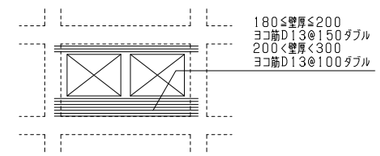
外壁

（１）柱際1.5m以内、および3.0mピッチ以内となるようにひび割れ誘発目地を設ける。目地位置については意匠図による。

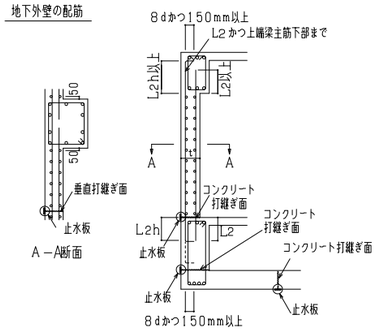


誘発目地の位置

（２）目地を設けない場合は意匠図の特記による。
ひび割れ誘発目地を設けない腰壁および垂壁は下記の配筋とする。



地下外壁の配筋



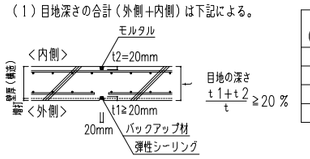
（１）地下躯体コンクリート打継部には止水板を設置する。
（２）止水板は非加硫性ブチルゴム系止水板とする。（ｔ＝7 B＝200）

鉄筋コンクリート配筋規準図（３）

ひび割れ誘発目地仕様

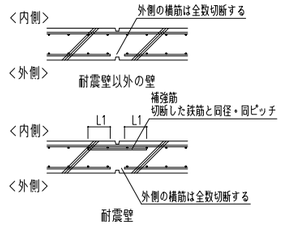
ひび割れ誘発目地の有無および耐震壁の鉄筋の切断の可否については監理者の承認を得ること。
ひび割れ誘発目地を設ける場合の目地深さ及び鉄筋切断の仕様は下記同等以上とし、監理者の承認を得たものとすること。

（１）目地深さの合計（外側＋内側）は下記による。



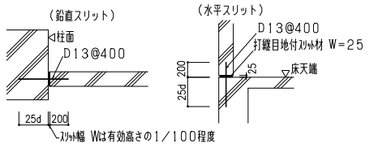
壁厚（増打含む）	t1
180	20
200	25
220	30
250	35

（２）目地位置での横筋は外側のみ全数を切断する。耐震壁については、切断した鉄筋と同径・同ピッチの添え筋を内側に配筋する。

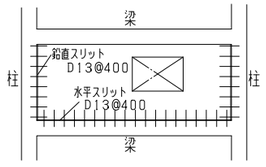


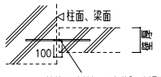
耐震スリット壁の要領

- 耐震スリット材は全貫通タイプとする。
- 鉛直スリット幅（W）は梁下有効寸法方の１／１００以上とする。
- 耐震スリット材は所定の耐火性能を有し、かつ、二次防水処理が施してあるものとする。
- 遮音性能はＤ－５０（１級）以上とする。



- スリット設置箇所は、柱際を原則とし、
- 防水立ち上がりがある場合は梁天端０～２００の範囲で、目地位置に合わせる。より３００以下にスリットを設ける。



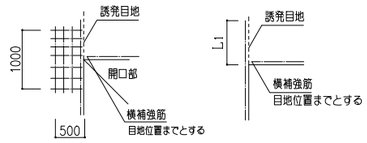


- スリット部に設備配管は干渉させないものとする。
- ３辺スリットの場合、水平スリットから鉄筋を離す為のスペーサーを配置する。
- 外壁の場合、垂直スリットと水平スリットの取合いコーナー部、スリット材のジョイント部において止水材を連続させること。
- 水平スリット取付箇所は、コンクリート面は平滑に仕上げて接着性を確保する。
- 垂直スリットにより区画され、上部から流れなくなる壁型のコンクリート打設は後打ちとするか、同時打ちの場合はサニーホース等にて上部より下部壁型に打設する。
- 垂直スリットの変形を防止するため、スリットをはさんだ柱･壁を交互に打設し、スリットの直近では棒型振動機を使用しない。
- 袖壁上部､雑部等の充填性が悪いと予想される部分には、事前に充填確認用の穿孔を行い、充填を目視にて確認する。（必要に応じて壁型の振動機を使用する。）

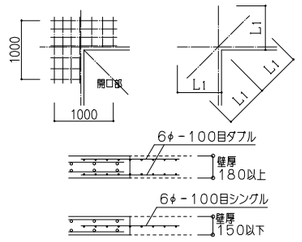
開口部

開口部に設ける目地位置は意匠図による。

（１）開口際に目地を設ける場合は以下に示す要領による。
開口補強筋は壁リストによる。

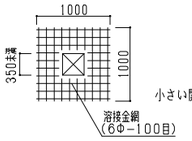


（２）開口際に誘発目地を設けない場合は以下に示す要領による。
開口補強筋は壁リストによる。



開口部補強溶接金網を上記要領で設置すること

（３）小さい開口（１５０～３５０）の補強筋はワイヤーメッシュのみとする。
１５０未満の開口については補強不要とする。

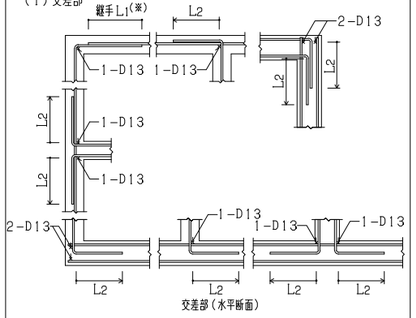


小さい開口補強（１５０≦開口＜３５０）

補強筋

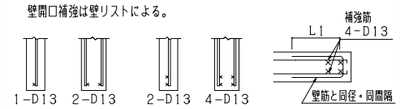
壁の交差部及び雑部の配筋は、下図による。

（１）交差部



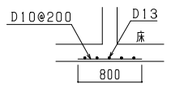
※　耐震壁の場合は、フックなし重ね継手長さL1と、重ね継手長さ４ｄ以上（軽量コンクリートは５０ｄ以上）のうち、大きい値を全長で確保する。

（２）雑部
壁開口補強は壁リストによる。

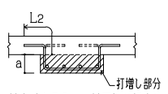


雑部（垂直及び水平断面）　外壁の雑部（垂直及び水平断面）　耐震壁および壁厚２００ｍｍ以上の壁雑部

（３）壁、ブロックが床にのる場合



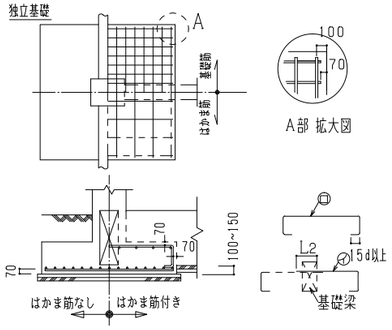
（４）壁の打増し補強



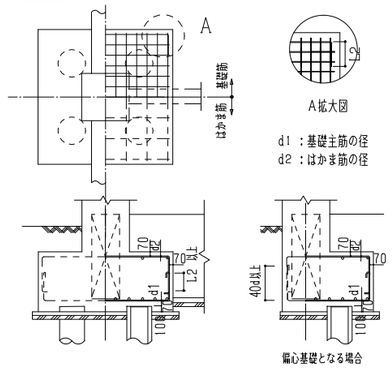
打増し厚ａが５０ｍｍ以上（１５０ｍｍ以下）の場合は、タテ・ヨコ筋とＤ１０@２００のひび割れ防止筋を配筋する。

７　基　礎

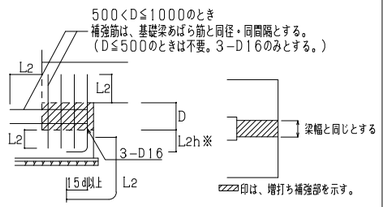
独立基礎



杭　基　礎　　既製コンクリート杭基礎の配筋



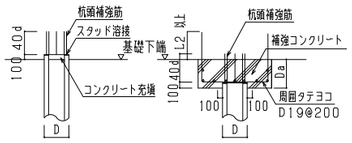
基礎と基礎梁



※L2hを確保できない場合は、全長をフックなし直線定着の長さL2 とし、
かつ、余長を８ｄ、基礎上面から鉄筋外面までの投影定着長さをLa のみ込ませる。

既製コンクリート杭頭の処理　　特記なき限り（１）の工法とする。

（１）スタッド溶接による杭頭接合工法
（財）日本建築センター、または、（財）日本建築総合試験所による技術審査証明をうけた工法とする。
（ａ）杭頭が所定の位置で止まった場合　　（ｂ）杭頭が所定の位置より深く止まった場合



Ｄは杭の径を示す。
ｄは鉄筋径を示す。

Ｄａ≦Ｄとする。Ｄａ＞Ｄの場合は、監理者の指示による。

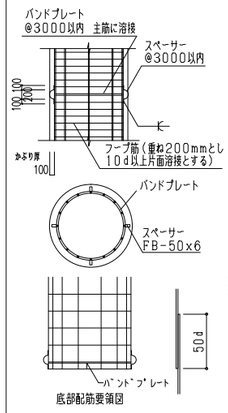
杭頭補強筋は下記とする。（ただしＰＨＣ杭Ｃ種以上の杭の場合は監理員の指示による。）

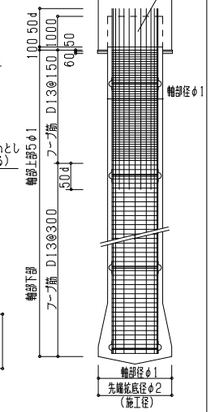
杭径	400φ	8-D16
	450φ	9-D16
	500φ	8-D19
	600φ	9-D22

杭が高止まりした場合は監理者の指示による。

場所打ちコンクリート杭の配筋

バンドプレート及びスペーサー取付要領
（杭頭部は主筋に溶接しない）





鉄筋加工

（１）かごどうしの主筋継手は重ね継手（Ｌ＝５０ｄ以上）とする。また、かご状に組立、中の主筋継手は圧接とする。
（２）主筋とフープは０．８ｍｍ以上の鉄線で要所を結束する。
（３）主筋のスペーサーは　ＦＢ－５０Ｘ６を加工し周囲４ヶ所に@３，０００以内で取り付けるただし、杭頭部の上部２段はスペーサーを同一深度に６ヶ所取り付けること。
（４）フープ筋は重ね２００ｍｍとし　１０ｄ以上溶接（片面）とする。
（５）バンドプレートは下記の材料を用いて、@３，０００以内で　杭主筋に内接する杭主筋位置に溶接する。ただし、杭頭から２φ（軸部径の２倍）以内の位置については無溶接工法とする。

杭　径	１．５ｍ以下	１．６ｍ～２．０ｍ	２．１ｍ以上
バンドプレート	FB-38X6	FB-75X6	FB-75X9

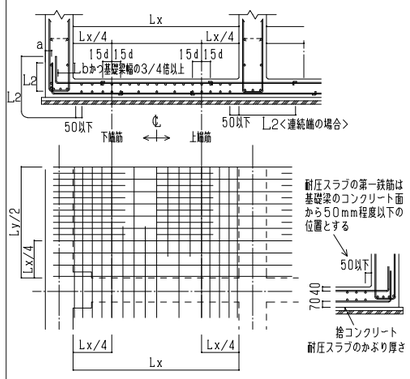
べた基礎・耐圧スラブ（構造図中ＦＳで表示されたスラブ）

（１）継手位置（区分図は５．スラブの項参照）

	上　端　筋	下　端　筋	
	両　方　向	短 辺 方 向	長 辺 方 向
標準継手位置	Ａ，Ｃ，Ｄ	Ｂ，Ｄ	Ａ，Ｂ

上記範囲以外で鉄筋を継ぐ場合は監理者の承諾を得ること。

（２）定着方法



1) 上図の鉄筋の余長部の逃げ寸法ａは１５０ｍｍ程度とする。
2) 連続雑の納まりは、上雑筋、下雑筋ともに連続して通し配筋とするか、基礎梁面より定着長さL2をとる。

地盤改良（浅層工法）

1) 転圧　：　５００ｍｍごとに十分な閉め固めをおこなう。
2) セメント系固化材の最小調合量　：　６０ｋｇ／ｍ³以上とする。
3) 品質管理は「改訂版　建築物のための改良地盤の設計および品質管理指針」（日本建築センター）による。
4) 六価クロム溶出試験により、流出量が土壌環境基準以下であることを確認する。
5) 地盤改良を行った基礎下の地業は捨てコンクリート地業とする。

８　その他

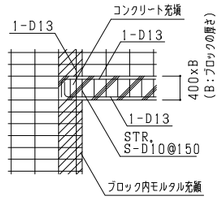
ブロック帳壁

ブロック帳壁の配筋

	縦　筋	横　筋	交差部、雑部補強筋
一般帳壁	D10－@400	D10－@400	1－D13
小壁帳壁	D13－@400	D10－@400	1－D13

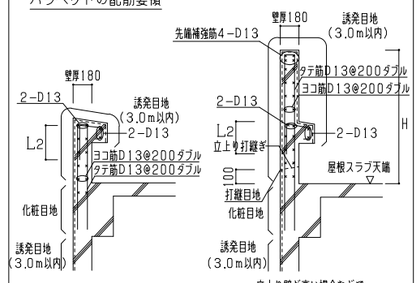
1) ブロック壁（一般帳壁）はブロック厚みの２５倍以下ごとに上下又は左右の主要な構造体で支持すること。
2) 主要構造体に１辺または隣接する２辺でしか支持されてない場合（小壁帳壁）は、その持ち出しし長さはブロック厚みの１１倍以下とする。

コンクリートブロック壁開口部補強筋（開口寸法２０００以下）



開口寸法が１０００以下の場合はまぐさは下記による。
まぐさ成２００、主筋２－Ｄ１０、スターラップ、[－Ｄ１０@２００ とする。

パラペットの配筋要領



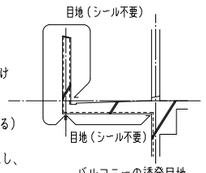
パラペットの配筋と目地

立上り壁が高い場合などで止むを得ず打継ぐ場合
Ｈ≧１５００となる場合の配筋は特記による。

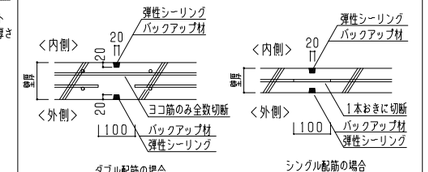
（１）立上り部のコンクリートは屋根スラブと同時打ちを原則とする。
やむ得ず打ち継ぐ場合は打継ぎ面を屋根スラブ天端から１００ｍｍ以上立ちあげて水平目地を設ける。
（２）ひび割れ誘発目地を３．０ｍ以内に設ける。
（３）誘発目地は外側のみとし、目地の深さは２０ｍｍ以上とする。
（４）立上り壁の横筋は、目地位置で外側のみ全数を切断する。

バルコニー

（１）ひび割れ誘発目地を３．０ｍ以内に設ける。
（２）手摺壁の誘発目地は両面に設け目地深さは２０ｍｍとする。
（壁厚＞２００の場合は特記による）
（３）床スラブの目地は下側のみとし、目地深さは２０ｍｍ以上とする。



バルコニーの誘発目地

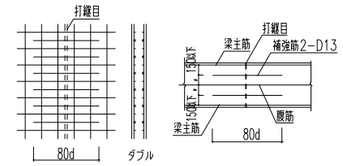


ダブル配筋の場合　　シングル配筋の場合

手摺壁の誘発目地

打継ぎ部および後打ちコンクリート部の補強

スラブ・壁・梁に打継部を設ける場合は の要領を以下にしめす。

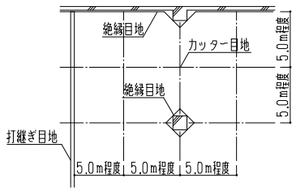


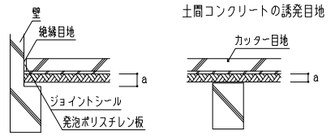
壁またはスラブの打継ぎ部
ｄは壁筋またはスラブ筋と同一径とし、
鉄筋間隔が１／２となるように補強する。

梁の打継部
補強筋は２－Ｄ１３とし、ピッチ１５０以下に配筋する。

土間コンクリート（非構造スラブ）

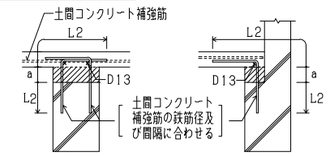
（１）スラブ厚は１５０ｍｍ以上、配筋はダブル配筋とし、ひび割れ誘発目地をタテ・ヨコとも５ｍ程度の間隔で設ける（意匠図参照）。
建物外周の腰壁際、柱まわりには絶縁目地とする。





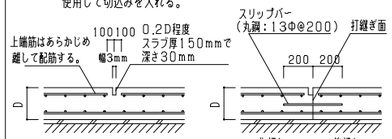
土間コンクリートと躯体の取合い（ａ＞３００の場合）

土間コンクリートの補強（ａ≦３００の場合）



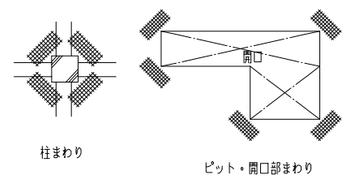
中間部　　端部

（２）目地の深さはスラブ厚の２０％程度とし、コンクリートカッターなどを使用して切込みを入れる。



カッター目地　　打継ぎ目地

（３）目地のとれない柱まわり、床開口まわり、入隅部分には補強筋を配筋する。



柱まわり　　ピット・開口部まわり

補強筋：溶接金網６Φ－１００Ｘ１００（Ｗ５００ＸＬ１０００）

鉄骨規準図　（1）　［溶接規準］

1．一般事項

1．鉄骨工事における設計図書の優先順位は、下記とする。
　1）現場説明書・同質疑回答書
　2）特記仕様書
　3）設計図(本規準図、構造設計図)
　4）建築工事標準仕様書
2．設計図内(本規準図と構造設計図)で食い違いがある場合は、原則として構造設計図を優先するが、監理者の確認を得ること。
3．使用材料は特記仕様書による。

2．共通事項

- 鉄骨製作工場は特記による(ただし、建築基準法第68条の26による認定を受けた工場とする)。
- 工事に先立ち、工場製作要領書・工作図および現場施工計画書を作成し、監理者の承諾を受ける。
- 設計図書に記載のない事項は、「JASS6」「鉄骨工事技術指針」(社団法人日本建築学会)の「最新版」による。
- 溶融亜鉛めっき高力ボルトの施工管理および締付は、溶融亜鉛めっき高力ボルト技術協会の資格認定を受けた技術者および技能者が行うこと。
- ロボット溶接を用いる場合は製作要領書にその旨（部位やオペレータの技量等）を記載し、監理者の承諾を得ること。
- 溶接は溶接管理技術者(WES8103　1級または2級)の管理のもとで行い、溶接材料(ワイヤ・ガスなど)・溶接電流・アーク電圧・溶接速度・ガス流量・パス間温度など適切な条件を選定して施工する。使用鋼材と溶接材料・溶接条件は鉄骨製作工場の認定制度のによる規定による。
- 組立て溶接は開先加工検査を終ったのち、ビードの有効長さ40mm以上（板厚が6mm以下の場合は30mm）とし、原則として開先内には行わない。
- 組立て溶接は被覆アーク溶接あるいはガスシールドアーク溶接で行う。490N/mm級以上の高引張力鋼や25mm以上の組立て溶接を被覆アーク溶接で行う場合には、低水素系溶接棒を使用する。
- 溶接は適当な治具を使用し、原則として下向きで行う。
- 溶接開先面の水分、赤錆、塗料などの溶接に有害なものは溶接前に除去する。
- 溶接棒は常に乾燥した場所に保管し、必要に応じ乾燥器に入れ乾燥させる。
- 溶接による変形や収縮については、なるべくこれを防止するよう適切な対策をたて、出来上り寸法・形状を正確に保つ。
- 隅肉溶接の端部はまわし溶接を行う。ただし、スカラップ始端(フィレット部分)の回し溶接は行わない。
- 工事現場においては母材をいためるような仮設ピースなどの取付け溶接は原則として行わない。

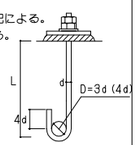
3．ボルト接合規準

- 高力ボルト摩擦面処理・スプライスプレートはショットブラストまたはサンドブラスト処理とし、鉄骨母材はグラインダーがけとする。
- 高力ボルトの符号・ピッチ・へりあき・はしあきは、下表による。ただし、引張材の接合部分においてせん断力を受けるボルトが応力方向に3本以上並ばない場合は、はしあき距離をボルト径の2.5倍以上とする。

（単位mm）

ボルト	符号	孔径	最小 へりあき e1	最小 はしあき e2	ピッチP 標準	ピッチP 最小
M16	－	18.0	22	40	60	40
M20	⊕	22.0	26	40	60	50
M22	⊕	24.0	28	40	60	55
M24	⊕	26.0	32	45	70	60

- 接合の板厚の差などにより1.0mmを超える肌すきが生じる場合、薄い方の板にフィラープレート(材質SS400)を用いる。なお、両面とも摩擦面処理を行うこと。
- 建て方用アンカーボルトの埋め込み長さは特記による。
- アンカーボルトは、上端2重ナット締めとする。形状は右図による。



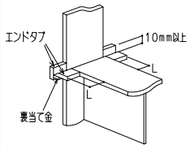
L=40d
（ ）内はd≧20の場合を示す

4．溶接接合規準

溶接接合は本規準による。適用する溶接工法は被覆アーク溶接、ガスシールドアーク半自動溶接、セルフシールドアーク半自動溶接、サブマージアーク自動溶接、および、エレクトロスラグ溶接とする。

1．完全溶込み溶接は原則として両面溶接とし、原則として裏はつりを行う。ただし、監理者の承諾を得て裏当て金を用いる方法とすることができる。

2．完全溶込み溶接および部分溶込み溶接の両端には、エンドタブを使用し、材質・形状は母材と同質・同厚・同開先のものとする。エンドタブ切断については、標準仕様書に従う。



エンドタブの長さ　単位（mm）

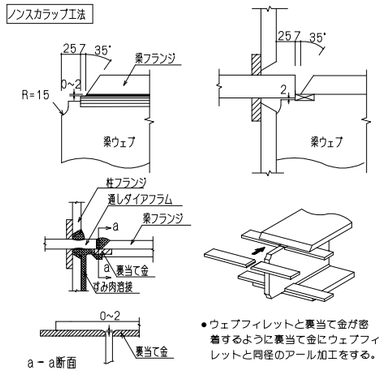
溶接工法	L
被覆アーク溶接	35 以上
半自動溶接	38 以上
自動溶接	70 以上

- エンドタブの組立溶接は裏当て金に溶接し、フランジに直接、組立溶接を行わない。

3．他のエンドタブを使用する場合は、下記資料を提出して、監理者の承諾を得ること。
　1）建築鉄骨溶接技量検定（AW検定）協議会による技術証明書
　2）第三者による100%の超音波探傷検査

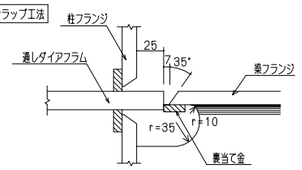
4．仕口部の梁フランジの完全溶け込み溶接は下記のノンスカラップ工法(又は改良スカラップ工法)とし、施工要領書に明記し監理者の承諾を得ること。

ノンスカラップ工法

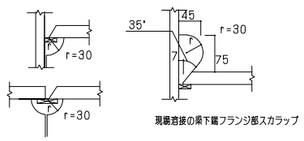


- ウェブフィレットと裏当て金が密着するように裏当て金にウェブフィレットと同径のアール加工をする。

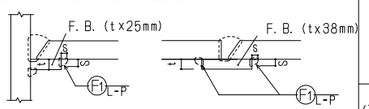
改良スカラップ工法



5．梁フランジの現場溶接は下記の要領による。



6．裏当て金の溶接及び板厚は下記の要領による。



- 片面溶接に用いる裏当て金の溶接は断続隅肉溶接とする。また、フランジ両端およびウェブフィレット始端から5～10mmは溶接を避ける。

裏当て金の板厚　単位（mm）

溶接工法	t
手溶接	6 以上
半自動溶接	9 以上
自動溶接	12 以上

すみ肉溶接のサイズ　単位（mm）

裏あて金の寸法	S
t≤9	5
t>9	9

7．余盛

- 突合せ継手、T継手、隅肉溶接の余盛の高さは下表による。

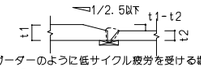
（単位　mm）

溶接継手	形　状	余盛りの限度
突合せ継手	B h B	B<15　0≦h≦3 15≦B<25　0≦h≦4 25≦B　0<h≦(4/25)B
T継手	Δh	t≦40 (h=t/4)　0≦Δh≦7mm t>40 (h=10)　0≦Δh≦t/4-3
隅肉溶接	S　Δa	0≦Δa≦0.4S かつΔa≦4

- 部分溶け込み溶接の余盛は完全溶け込み溶接の場合に準ずる。

8．板厚の異なる突合せ溶接

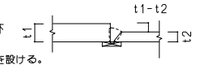
(1) 傾斜加工



- クレーンガーダーのように低サイクル疲労を受ける場合は厚い方の板を1／2.5以下の傾斜に加工して開先部分で薄い方の板と同一の高さにする。

(2) T継手に準じた余盛

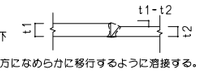
t1-t2>t1/4かつ10mm以下



- T継手に準じた高さの余盛を設ける。

(3) なめらかに溶接

t1-t2<t1/4かつ10mm以下



- 溶接表面が薄い方から厚い方になめらかに移行するように溶接する。

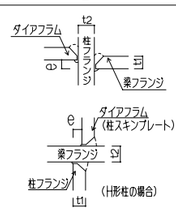
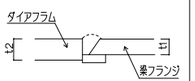
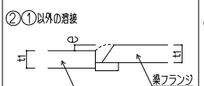
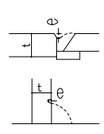
9.隅肉溶接

- 溶接する相互の板は十分に密着させる。充分な密着が充分に確保できない場合には隅肉溶接のサイズをすき間の大きさだけます。
- 隅肉溶接の端部は、滑らかに回し溶接を行う。

10.エレクトロスラグ溶接

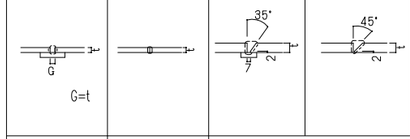
- エレクトロスラグ溶接を行う場合は施工実績や溶接施工試験を実施し、事前に監理者の承諾を受けること。

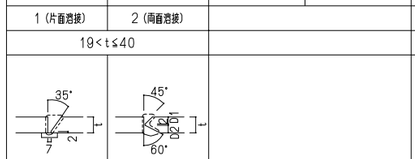
外観検査における重要管理項目（建告第1464号による。）

名　称	図	受入れ検査合否判定基準
(1) 仕口のずれ （ダイアフラムとフランジのずれ） e		t1≧t2　e≦t1/5　かつe≦4mm t1<t2　e≦t1/4　かつe≦5mm
(2) 突合せ継手の食違い e	①通しダイアフラムと梁フランジとの溶接  ②①以外の溶接 	①通しダイアフラムと梁フランジとの溶接 梁フランジ（t1）は通しダイアフラムを構成する鋼板の厚み（t2）の内部で溶接されていること。(注1) ②①以外の溶接 t1≦15mm　e≦1.5mm t1>15mm　e≦t1/10　かつe≦3mm
(3) アンダーカット e		完全溶込み溶接　e≦0.3mm 前面隅肉溶接　e≦0.3mm 側面隅肉溶接　e≦0.5mm ただし、上記の数値を超え0.7mm以下の場合、溶接長30cmあたり総長さが30mm以下かつ1箇所の長さが3mmは許容できる。

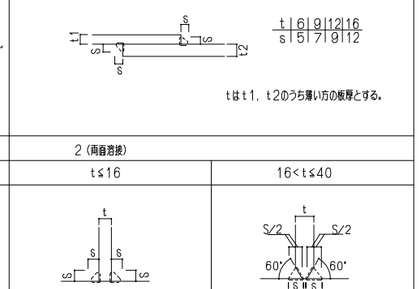
溶接記号

完全溶込み溶接・突合せ継手　(HB)　（単位　mm）

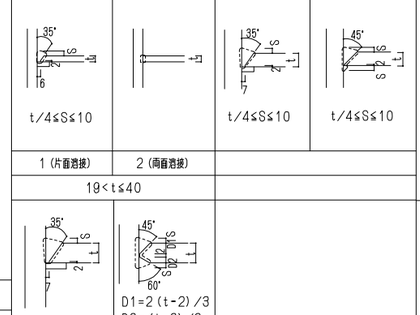




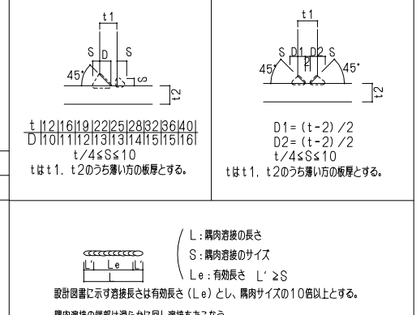
隅肉溶接　(F)　（単位　mm）



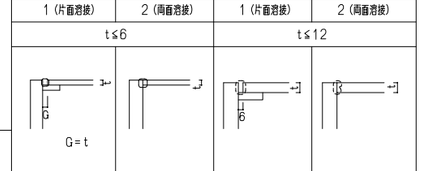
完全溶込み溶接・T形継手　(HT)　（単位　mm）

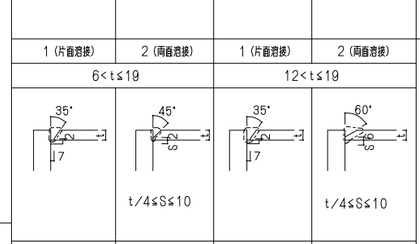


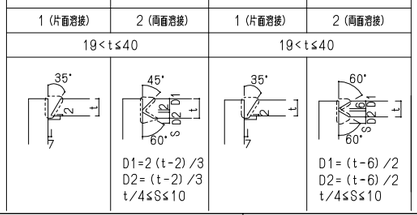
部分溶込み溶接　(P)　（単位　mm）



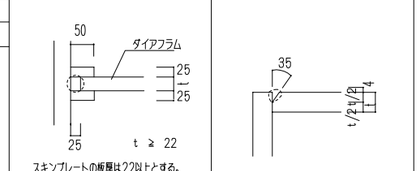
完全溶込み溶接・かど継手　(L)　（単位　mm）







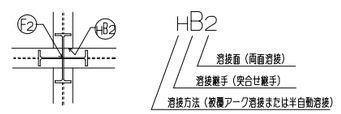
組立箱形断面溶接



スキンプレートの板厚は22以上とする。
裏当て金の材質はダイアフラムと同材とする。

- Hは被覆アーク溶接・ガスシールドアーク半自動溶接およびセルフシールドアーク半自動溶接を示す。
- Aはサブマージアーク自動溶接を示す。
- 原則として、被覆アーク溶接、ガスシールドアーク半自動溶接およびセルフシールドアーク半自動溶接とする。片面溶接においては、原則として開先をとらない側にも補強隅肉溶接を行う。（Sは補強隅肉溶接のサイズ）

記載方法の例

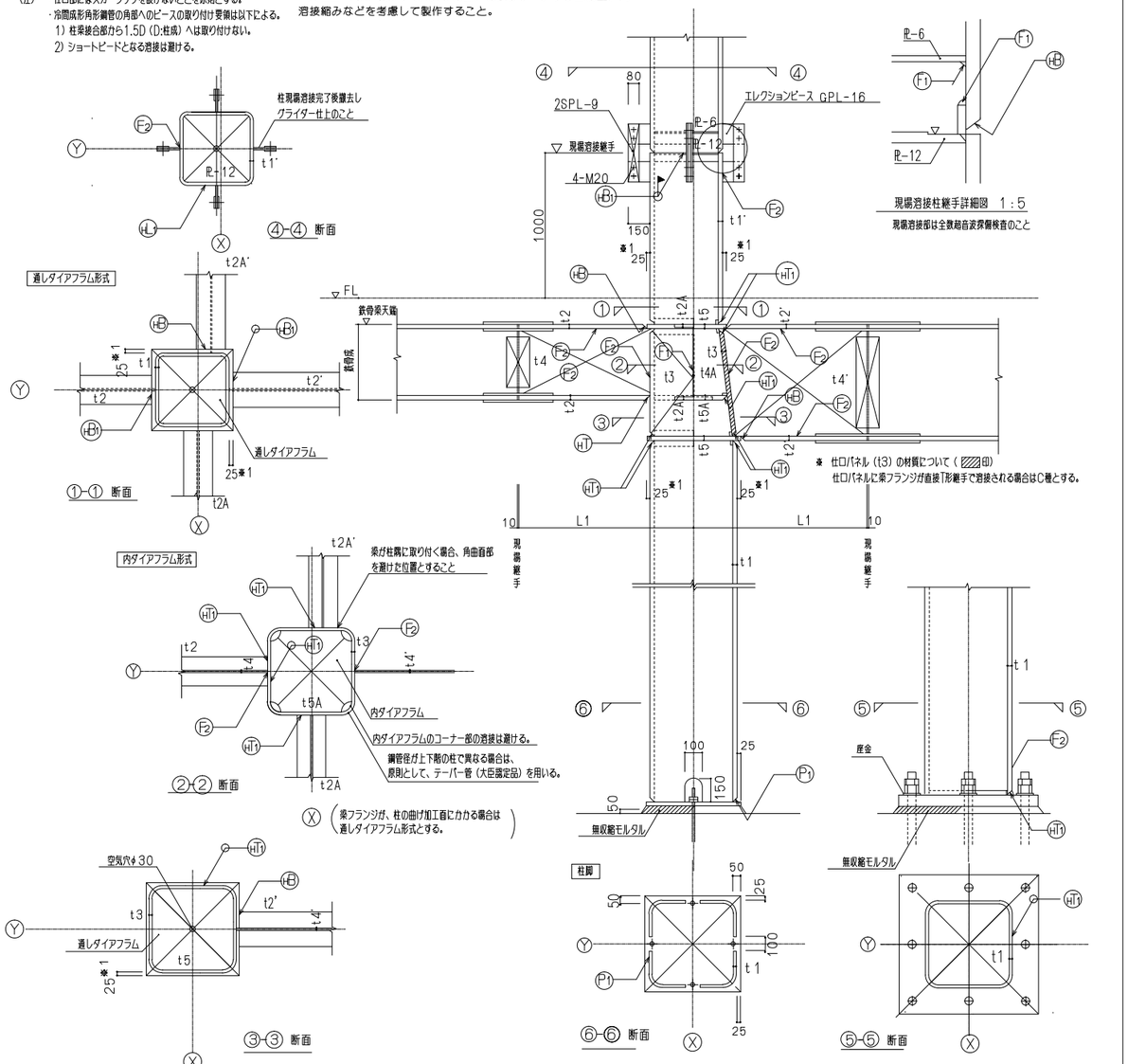


安井・太陽設計共同体	新潟市建築部公共建築第1課	工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎　庁舎棟建設工事	図名 鉄骨規準図（1）	
管理建築士一級建築士第129267号　高田　茂			年月日 2012.11.12	縮尺	図面番号 B-05

仕口部の溶接　1：20

(注)　・仕口部にはスカーラップを設けないことを原則とする。
・冷間成形角形鋼管の角部へのピースの取り付け要領は以下による。
1) 柱梁接合部から1.5D（D:柱成）へは取り付けない。
2) ショートピードとなる溶接は避ける。

・柱梁仕口部の成は取付く大梁成の公差およびダイアフラムの笠折れ・溶接縮みなどを考慮して製作すること。



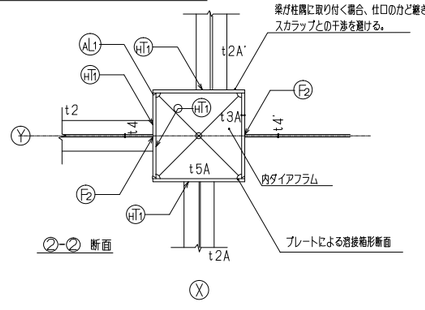
仕口部分　の　材質・板厚

ダイアフラム材質・強度　材質は◎種とする。ただし、内ダイアフラムとなる場合は日種とする。強度は柱梁の鋼材のうち、最も高強度の材料と同じとする。
t5：通しダイアフラムに取り合う梁フランジ（t2，t2A，t2'，t2A'）のうち最大の板厚の2サイズ（6mm以上）アップとする。
t5A:内ダイアフラムに取り合う梁フランジ（t2，t2A，．．．．）のうち最大の板厚の2サイズ（6mm以上）アップとする。

仕口パネル部の材質・強度　上下の柱鋼管と同じB種とする。また、強度は高強度のものを用いる。
ただし、仕口パネルに段違い梁のフランジが直接取り付く場合は、材種はC種とする。
t3：上下の柱鋼管厚（t1，t1'）の厚い方とし、かつ、かつ寄り合う梁のウェブ板厚（t4，t4A，．．．．）以上とする。
ただし、仕口パネルを4面プレート加工により製作する場合の板厚は以下による。
1) 柱鋼管がBCR材の場合は上下の柱鋼管厚（t1，t1'）の厚い方の1サイズ以上とする。
2) 柱鋼管がBCP材の場合は上下の柱鋼管厚（t1，t1'）の厚い方の2サイズ以上とする。

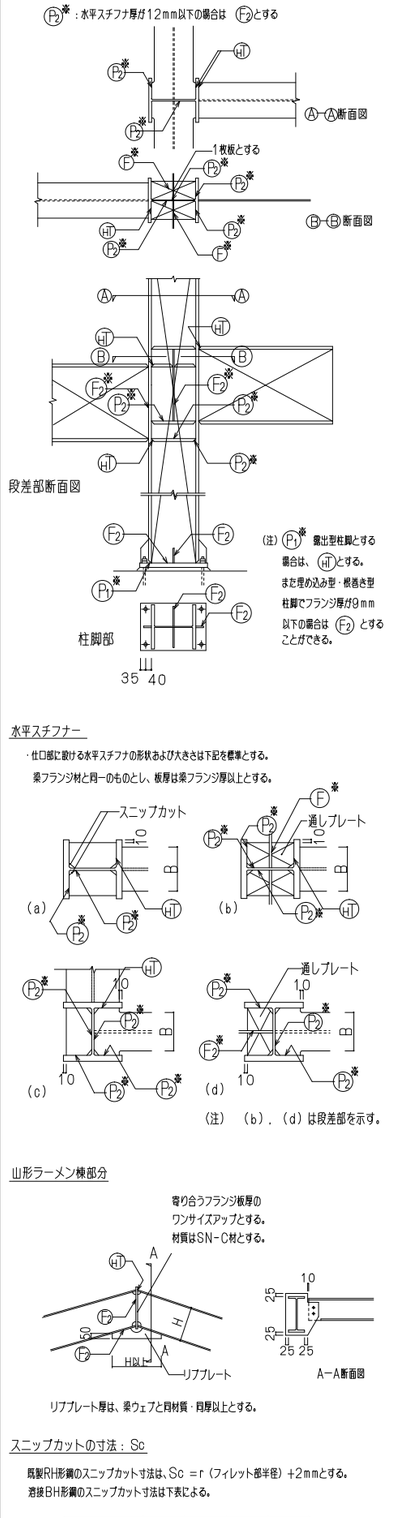
(注)　＊1.　通しダイアフラムの出寸法は25mmを標準とし、角形鋼管厚が28mm以上の場合は30mmとする。
＊2.　上下の柱鋼管径が異なる場合は原則として大臣認定取得したテーパー管（大臣認定品）を用いること。
＊3　ダイアフラム、仕口パネル共に板厚が40mmを超える場合はTMCP鋼（大臣認定品）を用いること。

仕口部をプレート溶接加工する場合



仕口部の溶接　（H形柱）

(注)Ⓕ2＊：ウェブ厚が16mm以上のものについては Ⓟ2とする
Ⓟ2＊：水平スチフナ厚が12mm以下の場合は Ⓕ2とする



水平スチフナー

・仕口部に設ける水平スチフナの形状および大きさは下記を標準とする。
梁フランジ材と同一のものとし、板厚は梁フランジ厚以上とする。

(注)　(b)，(d) は段差部を示す。

山形ラーメン棟部分

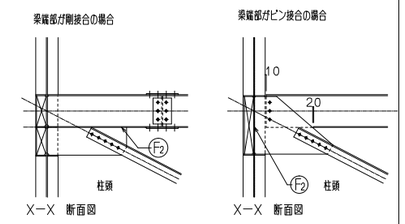
リブプレート厚は、梁ウェブと同材質・同厚以上とする。

スニップカットの寸法：Sc

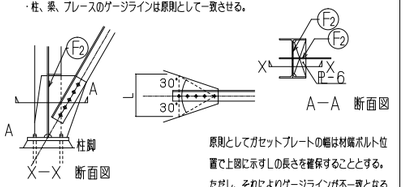
既製RH形鋼のスニップカット寸法は、Sc ＝r（フィレット部半径）＋2mmとする。
溶接BH形鋼のスニップカット寸法は下表による。

ウェブ板厚　tw	6	9	12	16以上
スニップカット Sc	10	12	14	15

鉛直ブレース仕口

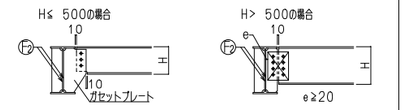


・柱、梁、ブレースのゲージラインは原則として一致させる。



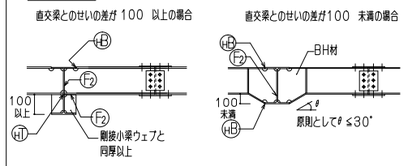
原則としてガセットプレートの幅は材端ボルト位置で上図に示すLの長さを確保することとする。
ただし、それによりゲージラインが不一致となる場合はこの限りではない。

小梁仕口



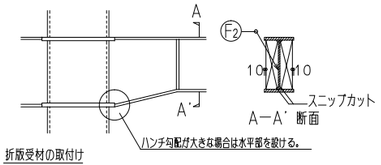
・ピン接合の大梁の仕口においても上図を準用する。
・小梁の取り付かないリブの板厚はGPL板厚の1サイズダウンかつ6mm以上とする。

剛接小梁仕口

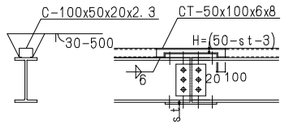


梁ハンチ要領

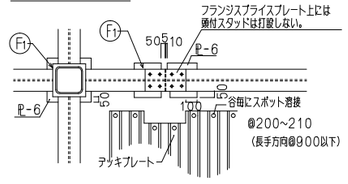
・梁にハンチを設ける場合は、リブプレートを設ける。　材質、板厚は、梁ウェブに同じとする。



折版受材の取付け



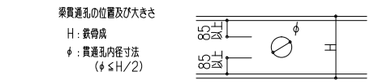
デッキプレートの取付け



・デッキプレート（合成床版および一方向鉄板幹床版）の床開口について
構造図に表示のない、位置での床開口は原則として不可とする。
開口を設ける場合には監理者の承諾を受けて、小梁などにより適切な補強を行う。
・合成床版用デッキプレートの取付方法は、認定条件（構造用および耐火構造用）を遵守する。

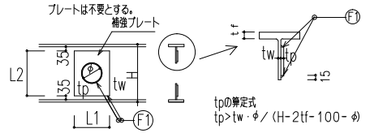
梁貫通孔の補強

1. 梁貫通孔の限度
・梁貫通孔の内径寸法は、鉄骨成Hの1／2以下とする。



・スリーブピッチは、隣り合うスリーブ平均の2倍以上とする。
・梁端に貫通孔を設ける場合は、原則として、梁端部から貫通孔の中心まで1．5H以上離し、かつ梁継手部のウェブスプライスプレート端部より1．0H以上離すこと。

2. 梁貫通孔の補強要領
・梁貫通孔の補強方法は、補強プレート法とする。
・原則として、「1. 梁貫通孔の限度」以内にあるφ≦H／5かつφ≦100の貫通孔は補強プレートは不要とする。

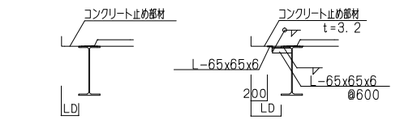


(1)　補強プレートは、
φ≦0.4Hの場合、梁ウェブと同厚、同材質
φ＞0.4Hの場合、梁ウェブの1サイズアップの板厚、同材質
とし、補強プレートが16mm以上となるものについては、必要な厚さの1／2以上の補強プレートを、ウェブ両面から溶接する。
(2)　L1≧3φまたは、L2の小さい方とする。
(3)　L2≧3φまたは図示寸法のうち小さい方とする。
(4)　小梁ガセットや補強プレート同士が干渉する場合は監理者の指示による。

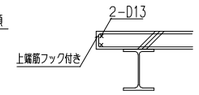
(注) 梁貫通補強は上記のほか、監理者の承認により既製品（公的機関による性能評価取得品）を、用いることが出来る。

デッキ床端部コンクリート止めについて

デッキ床の端部が梁フランジ縁部より外側にくる場合は下記要領でコンクリート止め部材、及び、補強部材を設けること。

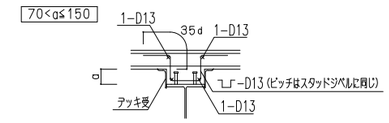


スラブの小口配筋要領

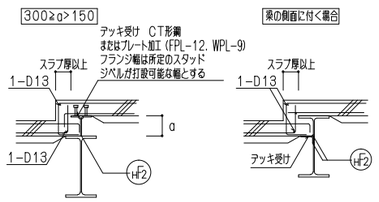


梁天端補強要領

・鉄骨梁天端とスラブ下端とに段差が生じる場合は、下記の補強を行う。
・かさ上げ部材の鋼材種はSS400とする。
・ジョイント部はかさ上げ部材を優先し、スプライスプレートを分割するものとする。



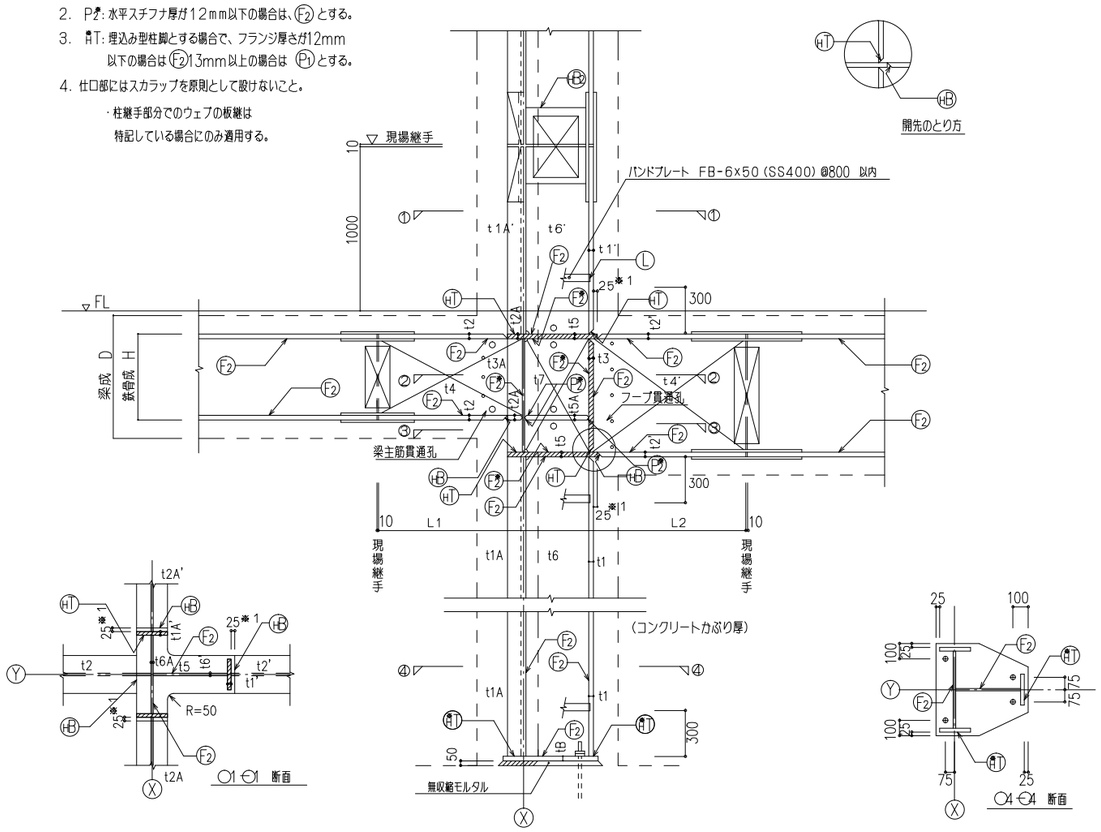
a≦70の場合、補強筋は不要とする。



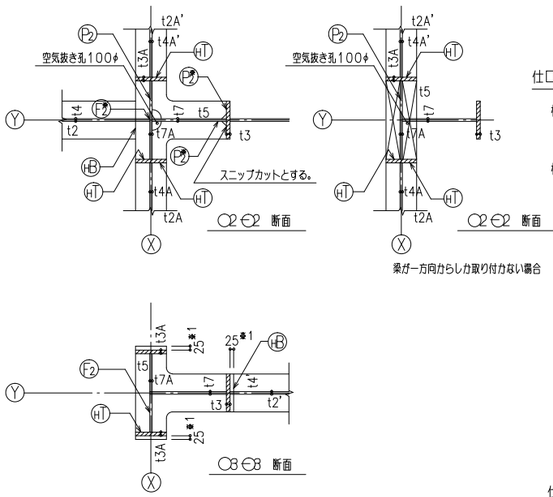
鉄骨規準図　（2）　［SRC造］

仕口部の溶接　1：50

（注）1. F: 仕口パネル厚が16mm以上の板厚については、P2とする。
2. P: 水平スチフナ厚が12mm以下の場合は、F2とする。
3. HT: 埋込み型柱脚とする場合で、フランジ厚さが12mm以下の場合はF2、13mm以上の場合はP1とする。
4. 仕口部にはスカラップを原則として設けないこと。
・柱継手部分でのウェブの板継は特記している場合にのみ適用する。



図示なき場合：ベースプレート板厚（tB）は、寄り合う柱フランジ板厚（t1）の最大板厚とする。また材質は柱材と同材質とする。



仕口部の溶接　1：50

材質　SN490C（図中▨印の通しダイアフラムおよび仕口部すべての柱スキンプレート）
ただし寄り合う柱、梁が全てSN400Bの場合のみSN400Cとする。

材厚　t3：上下柱フランジ板厚、板幅（t1，t1'）以上とする。
段違い梁フランジが、取り付く場合は、上記事項を満足し、かつ段違い梁フランジ板厚の2サイズダウン以上とする。

t5：ダイアフラムに取り合う梁フランジ板厚（t2，t2'，t2A，t2A'）のうち最大の板厚の2サイズ（6mm以上）アップで、かつt3，t3A以上とする。板厚が40mmを超える場合の鋼材種は特記による。但し、t5Aは取り合う梁フランジ板厚と同厚とする。

t7：下表を満足し、かつ上下柱ウェブ板厚（t6，t6'）以上とする。
（取り付く梁ウェブt4，t4'のうち大きい方をt4Wとする。）

t4W	6	9	12	16
t7	9	12	16	19

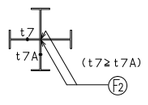
注）直交方向のt7Aは上記の記号に右添字Aをつけて読み替えること。

t7A：T型柱で段違い梁フランジ（t2）が取り付く場合は、上記に定めた板厚以上でかつ、t2の2サイズダウン以上とする。

仕口部の溶接　1：50

・仕口部において通しダイアフラムを設ける位置は原則として柱に集まる梁フランジの最も外側となる上下の梁フランジ位置とする。

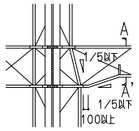
・十型柱のウェブは、板厚の大きい方を通しプレートとする。

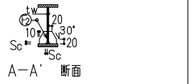


（注）※1. ダイアフラムの出寸法は25mmを標準とし、柱フランジ板厚が28mm以上の場合は30mmとする。

梁ハンチ要領

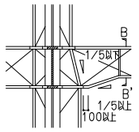
・梁に鉛直ハンチを設ける場合は、下図に示すようなリブプレートを設ける。
リブプレートは梁ウェブと同厚・同材質とする。

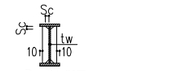




Sc：スニップカットの寸法
既製RH形鋼のスニップカット寸法は
Sc=r（フィレット部半径）＋2mmとする。
溶接BH形鋼のスニップカット寸法は下表による。

ウェブ板厚 tw	6	9	12	16以上
スニップカット Sc	10	12	14	15





鉛直ハンチ1/5以上の場合
リブプレート形状は上図による。

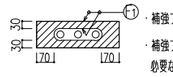
鉄筋貫通孔

・鉄筋貫通孔位置は、工作図作成の上、係員の承諾を得ること。

鉄筋径	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32
孔径	21.0φ	24.0φ	28.0φ	31.0φ	35.0φ	38.0φ	43.0φ	46.0φ

埋込み柱脚ウェブの梁主筋貫通補強要領

・貫通鉄筋が水平に3個以上並ぶ場合、下配の補強をする。

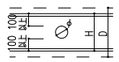


・補強プレートは柱ウェブと同厚・同材質とする。
・補強プレートが16mm以上となる場合は、必要な厚さの1/2以上の補強プレートを柱ウェブの両面に溶接する。

梁貫通孔の補強

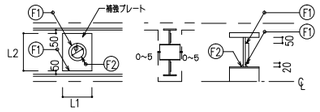
1. 梁貫通孔の限度
・梁貫通孔の内径寸法は、鉄骨成Hの1/2以下かつ鉄筋コンクリート部分の梁成Dの1/3以下とする。

梁貫通孔の位置及び大きさ
H：鉄骨成
D：鉄筋コンクリート部分の梁成
φ：貫通孔内径寸法
（φ≦H/2かつφ≦D/3）



・スリーブピッチは、隣り合うスリーブ平均の3倍以上とする。
・梁端に貫通孔を設ける場合は、原則として、梁端部から貫通孔の中心まで1．2D以上離し、かつ梁継手部のウェブスプライスプレート端部より1．0H以上離すこと。

2. 梁貫通孔の補強要領
・梁貫通孔の補強方法は、補強プレート法とする。また、補強プレートのほかに、補強鋼管スリーブを溶接する。
・原則として、「1. 梁貫通孔の限度」以内にあるφ≦H/5かつφ≦100の貫通孔は補強プレートは不要とし、補強鋼管スリーブのみ溶接する。



・鉄筋コンクリート部分の補強要領は・「鉄筋コンクリート配筋規準図（2）」による。
（1）補強プレートは、梁ウェブと同厚、同材質とし、補強プレートが16mm以上となるものについては、必要な厚さの1／2以上の補強プレートを、ウェブ両面から溶接する。
（2）L1は3φまたは、L2の小さい方とする。
（3）L2は3φまたは図示寸法のうち小さい方とする。
（4）補強鋼管スリーブは下表による。

貫通孔φ	補強鋼管スリーブ（STK400）
100	φ－101．6x3．2
125	φ－139．8x3．6
150	φ－165．2x4．5
175	φ－190．7x4．5
200	φ－216．3x4．5
250	φ－267．4x6．0
300	φ－318．5x7．0
350	φ－355．6x8．0
400	φ－406．4x9．0
450	φ－457．2x9．0

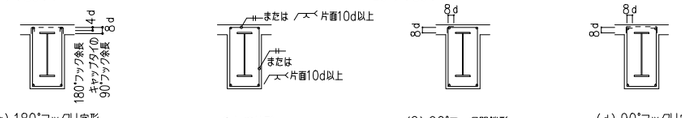
SRC造の配筋要領

（注）SRC造の配筋要領として、鉄筋コンクリート配筋規準図以外に下図による。

1. 大梁のあばら筋

原則として、鉄筋コンクリート配筋規準図（1）、3. 梁・あばら筋によるが、下図によってもよい。

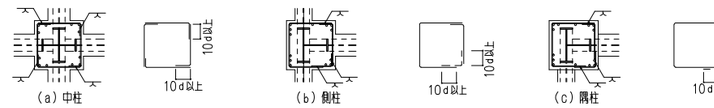
（1）柱コンクリート面より梁成の1．2Dまでの範囲は（a）または（b）によってもよい。
（2）柱コンクリート面より梁成の1、2D以外の範囲は（c）または（d）によってもよい。



（a）180°フックU字形キャップタイ付　（b）溶接形　（C）90°フック閉鎖形　（d）90°フックU字形キャップタイ付

2. 柱梁接合部の帯筋

柱梁接合部の帯筋は割フープとして、片側10d以上のフレア溶接とする。
（注）梁の取付かない側には原則として溶接継手箇所を設けないこと。

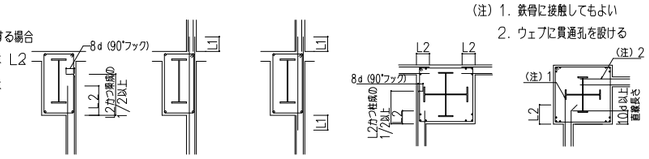


（a）中柱　（b）側柱　（c）隅柱

3. 壁筋の定着

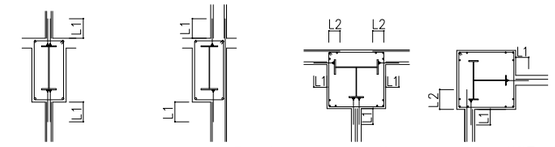
（1）コンクリート断面に定着する場合
柱または梁内へ定着する場合はL2
壁内で重ね継手を設ける場合はL1とする。

（注）1. 鉄骨に接触してもよい
2. ウェブに貫通孔を設ける



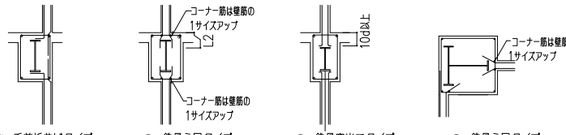
㋑定着長さの取り方（梁）　㋺通し筋タイプ　㋩ジョイント筋の使用　㋥定着長さの取り方（柱）　㋭一般定着

（2）鉄骨に接合する場合
壁筋と鉄骨フランジとが干渉する場合（壁筋の直線部分定着長さが15d確保できない場合）は、右図のように鉄筋工事用スタッドを鉄骨フランジにスタッド溶接の上、重ね継手（L1）とする。スタッドは干渉する壁筋と同材種で同径・同ピッチとする。



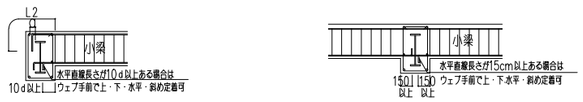
㋑スタッドタイプ　㋺スタッド併用タイプ　㋩スタッド　㋥スタッド併用タイプ

（3）その他
非耐力壁などにおいて、係員の承諾を得た場合は右図の定着を採用してもよい。



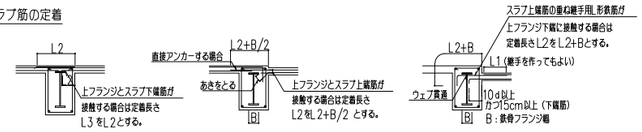
㋑手前折曲げタイプ　㋺鉄骨う回タイプ　㋩鉄骨突当てタイプ　㋥鉄骨う回タイプ

4. 小梁筋の定着

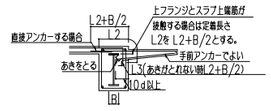


㋑不連続端（フランジ側面と梁筋のあきαが必要）　㋺連続端（連梁の下端筋は手前アンカーでもよい）

5. スラブ筋の定着



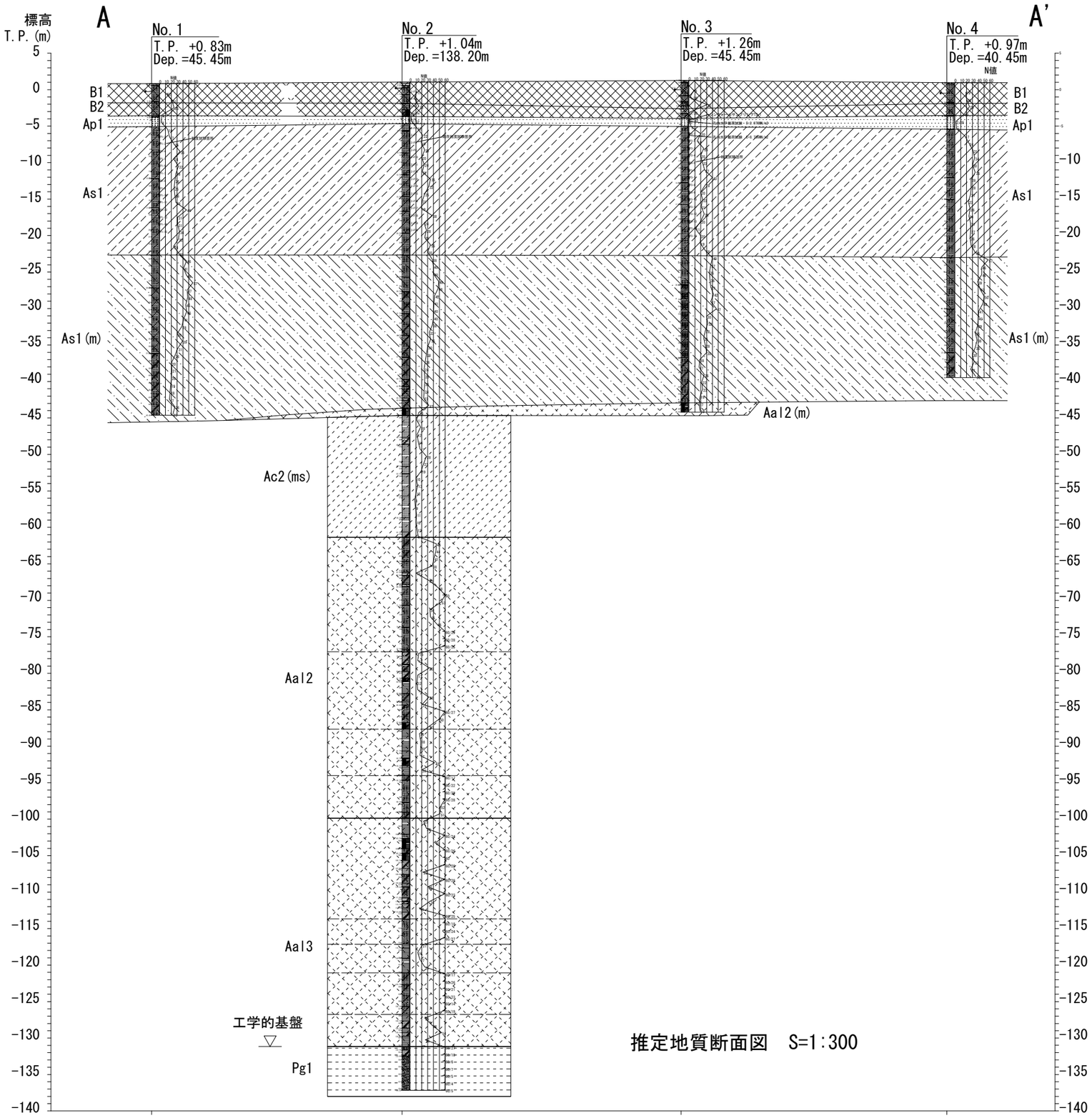
㋑一般のスラブ　㋺スラブに段差のある場合（1）　㋩スラブに段差のある場合（2）



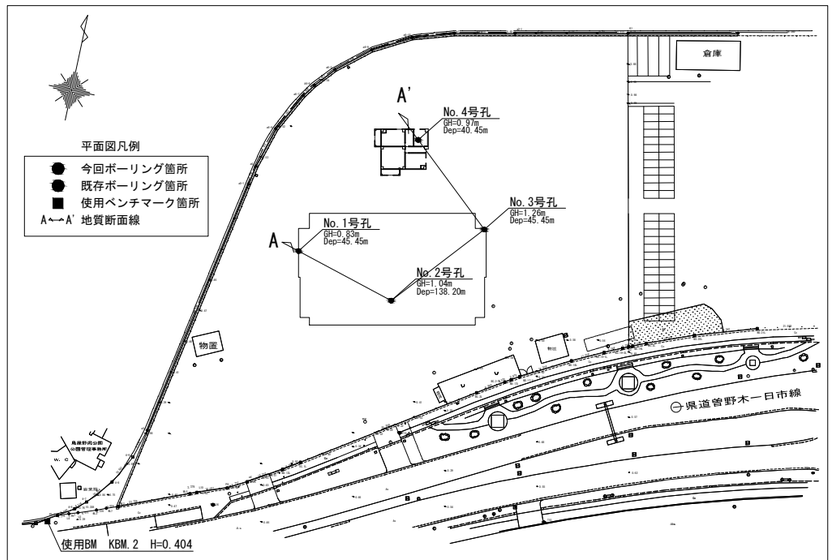
㋥片持スラブ（段差のある場合）

（注）スラブ筋が鉄骨フランジと接触したり、コンクリート充てん性に懸念のある箇所で定着する場合は、鉄筋の付着性能が劣るため、上記のように定着長さを変更すること。

安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第129267号　高田　茂	新潟市建築部公共建築第1課	工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎　庁舎棟建設工事	図名 鉄骨規準図（3） 年月日 2013.03.01	縮尺	図面番号 B－07



推定地質断面図　S=1:300

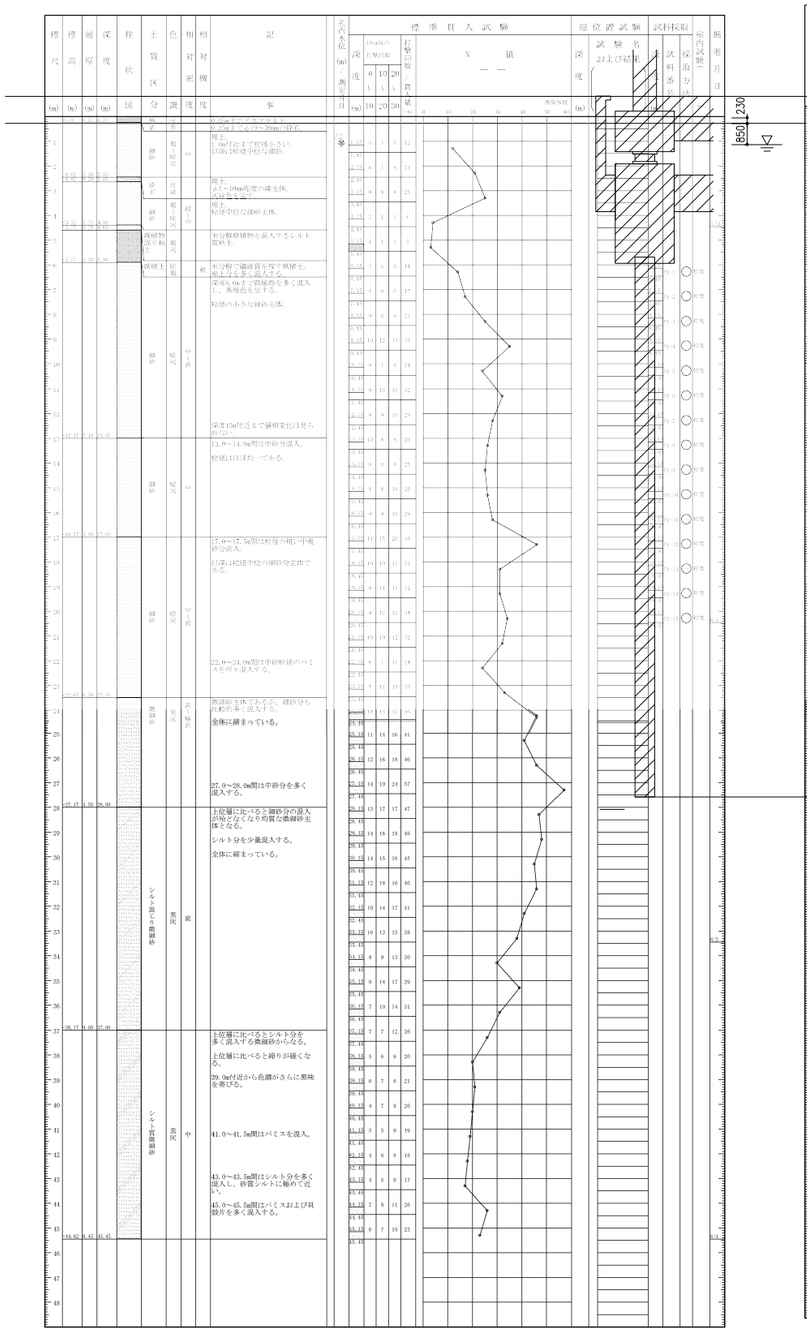


調査地点位置図　S=1:1,000

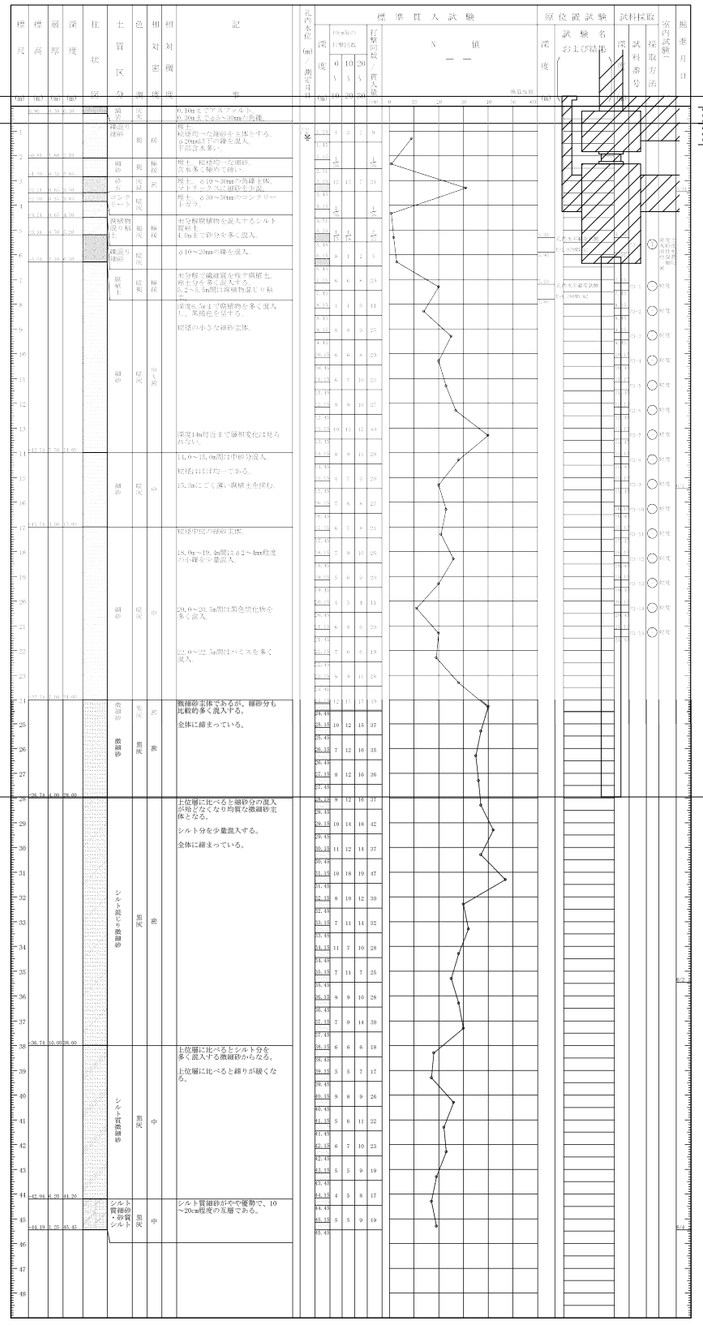
調査地の地層区分

年代			地層名	記号	主な土質名	N値(平均値)	記事
第四紀	現世		盛土層	B1	アスファルト 砕石 細砂 礫混じり細砂	1～31 (9.4)	現産業振興センター駐車場の盛土。深度0.0～0.30m付近まではアスファルトおよびφ5～30mm程度の砕石主体である。以深は、細砂およびφ20mm程度の礫を混入する礫混じり細砂などからなる。
	現世		盛土層	B2	細砂 腐植物混り粘土	1～25 (12.5)	B1層との境界部に灰緑色の砕石が敷いてあり、B1層とは盛土時期が異なると考えられることから区分した。旧湿地帯上に施工された盛土と考えられる。
	沖積層	上部層A1	第1泥炭層	Ap1	腐植土 腐植物混り粘土	2～3 (2.3)	未分解で繊維質を残す腐植土で粘土分を多く混入する。下位ほど分解が進む傾向にある。
			第1砂質土層	As1	細砂	11～43 (25.9)	主に粒径均一～不均一な細砂より構成され、層相はほぼ一定している。深度12～14m付近までは粒径均一な細砂が分布、以深は中砂分や粗砂分の混入や挟在が見られる。 深度21～24m間は、所々パミスを混入。
			第1海成砂層	As1(m)	微細砂 シルト混り細砂 シルト質細砂	17～57 (34.4)	粒径均一な微細砂が主体であるが、下位に従いシルト分の混入が多くなる。 全体に締まっている層であるが、深度32m程度以深は、徐々にN値が低下する傾向にある。
		中部層A2	第2海成の砂・粘土の互層	Aal2(m)	シルト質細砂・砂質シルト互層	15～19 (17.0)	10～20cm厚程度の互層で、既存No.2号孔では貝殻片および腐植物を少量混入する。
			第2海成シルト層	Ac2(ms)	シルト	8～28 (14.1)	所々細砂を少量混入する。また深度53.7～56.7m間は所々、貝殻片をごく少量混入する。深度51～53m間は、上下に比べて固くなる。
			第2砂質土・粘性土の互層	Aal2	細砂・シルト質細砂・粘土・シルトなど	10～60 (37.8)	粒径均一な細砂主体で薄いシルト等を挟む箇所砂質土・粘性土互層箇所(砂質土はシルト質細砂、粘性土は粘土～粘土質シルト)、粘性土優勢箇所(粘土主体で一部シルト質細砂を挟在)、砂質土優勢箇所(細砂、シルト質細砂)からなる。
		下部層A3	第3砂質土・粘性土の互層	Aal3	粘土・シルト・シルト質細砂・礫混り細砂・砂質シルトなど	13～60 (44.4)	砂質土・粘性土互層(粘土、シルト質細砂の互層)、砂質土優勢箇所(少量の小礫や粗砂を混入する細砂)、粘性土優勢箇所(粘土主体)、砂質土優勢箇所(φ10mm以下の礫を混入。最大φ70mm)粘性土優勢箇所(粘土、砂質シルト)からなる。
	洪積層	上部更新統	砂礫層	Pg1	砂礫	60 (60.0)	φ10～15mm程度の礫を主体とするが、所々φ100mm程度の玉石を混入する。マトリックスは細砂である。

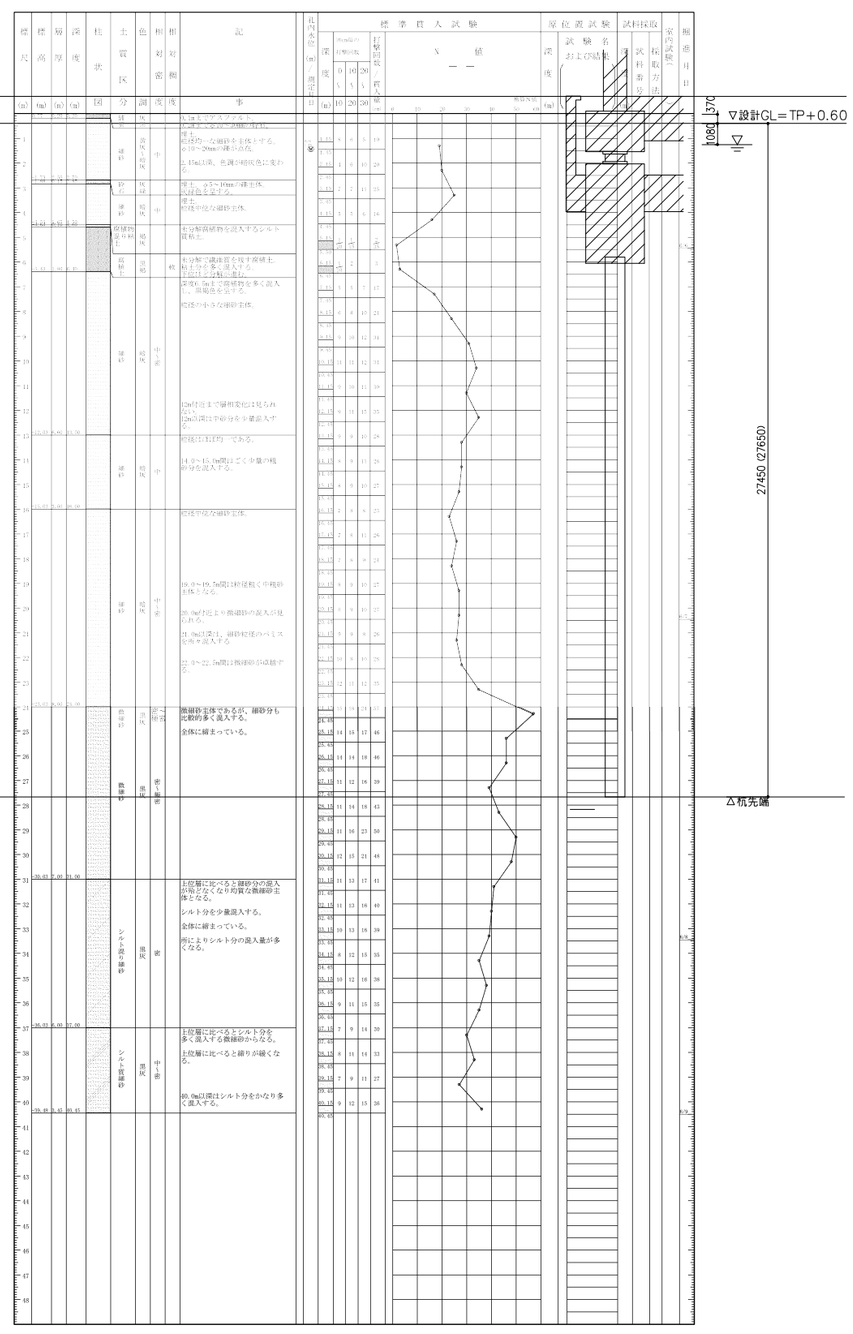
安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第129267号 高田 茂	新潟市建築部公共建築第1課	工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟建設工事	図名 想定地層断面図、ボーリング調査位置図	
			年月日 2013.03.01	縮尺 1:600、1:2000(A3) 1:300、1000(A1)
			図面番号	B-08



No.1

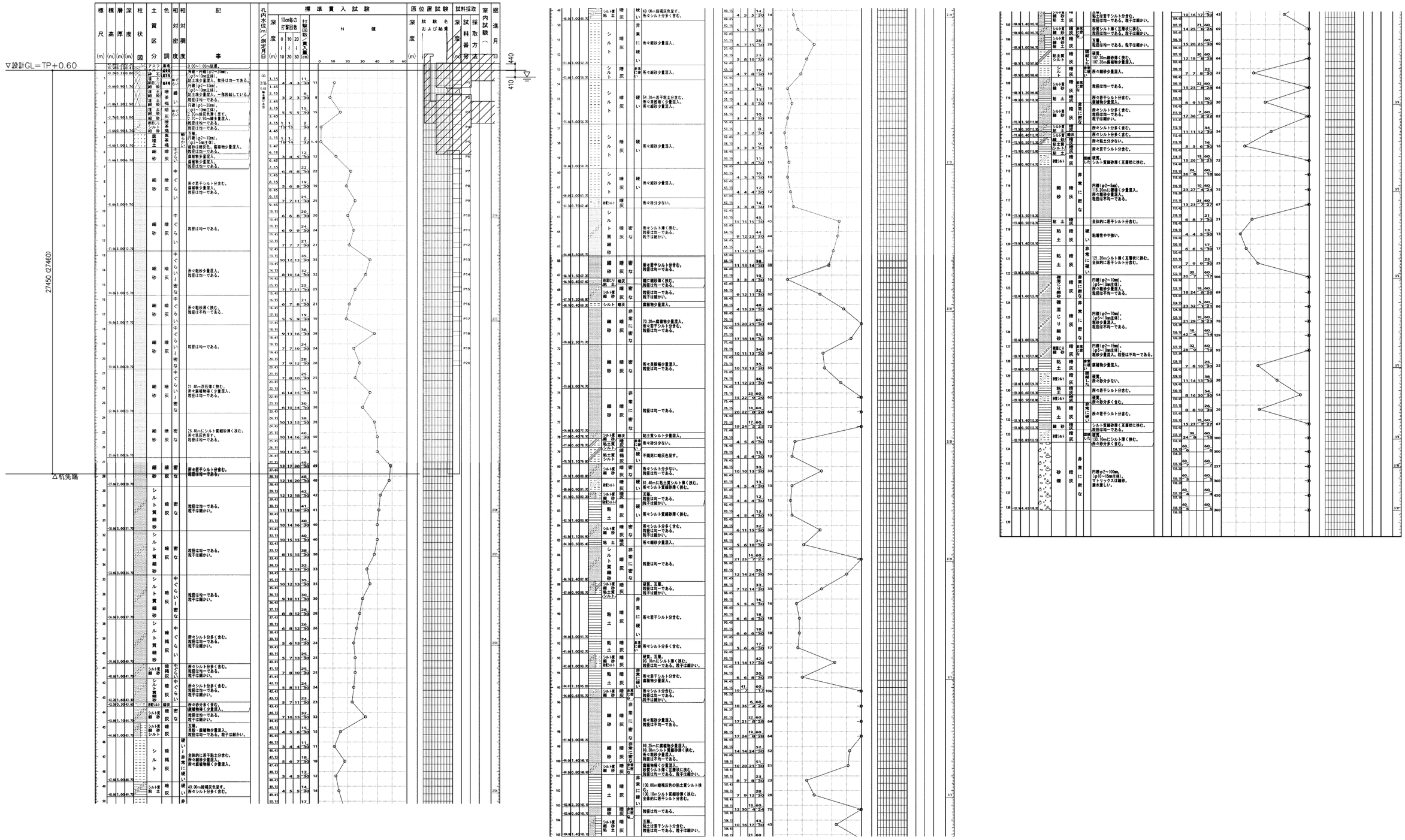


No.3



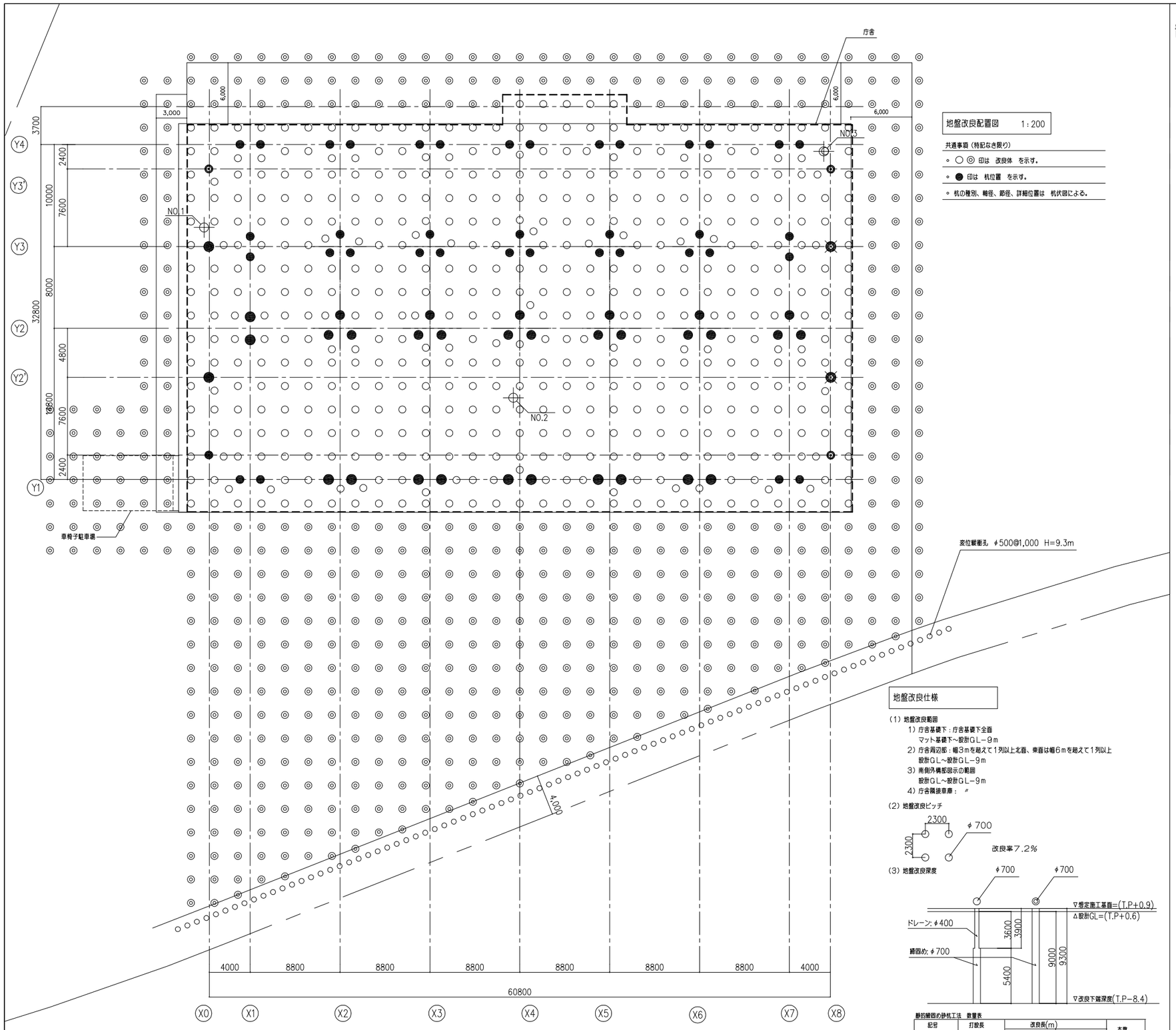
No.4

安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第129267号 高田 茂	新潟市建築部公共建築第1課	工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟建設工事	図名 ボーリング柱状図（1）				
			年月日 2013.03.01	縮尺 1:250(A3) 1:125(A1)	図面番号 B-09		



No.2

安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第129267号 高田 茂	新潟市建築部公共建築第1課	工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟建設工事	図名 ボーリング柱状図（2） 年月日 2013.03.01　縮尺 1:250(A3) 1:125(A1)　図面番号 B-10



地盤改良配置図　1：200

共通事項（特記なき限り）

- ○ ◎ 印は　改良体　を示す。
- ● 印は　杭位置　を示す。
- 杭の種別、軸径、節径、詳細位置は　杭伏図による。

地盤改良仕様

（1）地盤改良範囲

1）庁舎基礎下：庁舎基礎下全面
マット基礎下～設計GL－9m

2）庁舎周辺部：幅3mを越えて1列以上北面、東面は幅6mを越えて1列以上
設計GL～設計GL－9m

3）南側外構部図示の範囲
設計GL～設計GL－9m

4）庁舎隣接車庫：　〃

（2）地盤改良ピッチ

（3）地盤改良深度

静的締固め砂杭工法　数量表

記号	打設長 H(m)	改良長(m) H1(φ400mm)	改良長(m) H2(φ700mm)	本数
○	9.3	3.9	5.4	498
◎	9.3	0.0	9.3	556
合計				1,054

（4）敷地境界変位緩衝孔

変位緩衝孔(φ500mm)数量表

深度(m)	本数(本)
9.3	82

静的締固め砂杭工法特記仕様書

1.工事概要

本地業は、液状化対策を目的とした静的締固め砂杭（φ700mm）工法による地盤改良工事である。静的締固め砂杭工法は、強制昇降装置を用いてケーシングパイプ（中空の単管）を回転圧入することにより、振動エネルギーを用いずに静的な圧入力によって地盤中に締め固められた砂杭を造成するものである。

2.一般事項

本工事は、本特記仕様書によるほか液状化判定に際しては、「建築基礎構造設計指針」（2001年10月　日本建築学会）による。

3.特記事項

(1)静的締固め砂杭工の改良深度、本数、配置等は地盤改良仕様によるものとする。ただし、施工条件、地盤条件により変更が適切と判断された場合は監督員と協議の上、変更する。

(2)静的締固め砂杭工法による改良地盤の要求性能は以下のとおりとする。

加速度	改良地盤の要求性能
350gal	原則として、全点FL＞1.0

(3)本工法は、振動機を用いずにケーシングパイプの打ち戻しによって砂杭を拡径（打ち戻し施工）して地盤を締め固める工法とし、低振動・低騒音の工法とする。

(4)要求性能を満足する改良仕様の算定方法は、「建築基礎のための地盤改良設計指針案」（2006年11月 日本建築学会）に示される方法Dによるものである。静的締固め砂杭工法は、液状化対策として方法Dに基づいた改良効果が検証されている工法とする。　また免震構造の建築基礎の液状化対策として複数の実績を有し、公的機関の技術審査証明書を取得した工法とする。

4.材　料

締固め砂杭に使用する中詰材には、砂を使用すること。

(1) 中詰材の細粒分含有率は、15%以下とする。

(2) 中詰材の納入に先立ち、ふるい分け試験を実施し、結果を見本とともに監理者に提出し、承認を得る。中詰材は2,000m^{3}に1回の割合でふるい分け試験を行い、結果を監理者に提出する。

5.施工計画

(1) 本工事施工は、本工法の設計および施工技術に精通した施工業者によるものとする。

(2) 施工計画書

工事に先立ち、施工計画書を監督員に提出すること。施工計画書には次の事項を明記すること。

1）工法概要
2）工事内容
3）工程表
4）現場組織表
5）使用機械（施工機・使用機械構成等）
6）施工方法（施工フロー・砂杭造成・施工手順等）
7）施工管理（工程管理・管理システムの概要等）
8）品質出来形管理（品質管理・出来形管理等）
9）環境保全対策
10）安全対策

6.施工管理

（1）当工事は、締め固めを目的とすることから施工に際して排土・排泥を伴う機構（スパイラル）をケーシングに装着してはならない。

（2）砂杭による締固め工法は、所定の深度まで貫入、また、所定の中詰材の投入量を確認することが最も重要であり、これらを以下に示す管理計器を用いて確認すること。

GL計：ケーシングパイプ先端の深度と時間の関係を連続記録する。この記録によってケーシングパイプが所定の深さまで達したことを確認する。

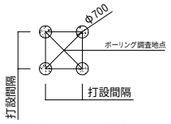
砂面計：ケーシングパイプの中詰材の高さを計測できる装置を有し、押し出された中詰材の量を砂杭圧入比で除した値を 用いることで打戻し量を自動制御でき、単位長さ当たりの中詰材の量を連続的に記録できる機能を有するものとする。

なお、本施工に先立ち、管理計器の作動確認を監督員立会いのもとで行い、承認を得ること。確認方法については別途計画書を提出し、承認を得ること。

7.品質管理

本工事の施工後にボーリング調査を実施して所定の改良効果が得られていることを確認する。

（1）ボーリングの調査位置は下図の位置とする。



（2）調査方法は、機械式ボーリング（孔径66mm）による。

（3）調査項目

標準貫入試験　：φ700mmの造成長に対し、深さ方向に1.0m間隔で行う。
ふるい分け試験：標準貫入試験と同数。
調査箇所　　：監督員と協議の上に決定のこと。
調査箇所数　　：3箇所

（4）合否判定

標準貫入試験によるN値とふるい分け試験による細粒分含有率Fcにより、「建築基礎構造設計指針」に基づく液状化判定を実施して、液状化安全率FL値が設計で要求されている性能を満足することを確認する。ただし、設計時と土層の物性に著しい変化が確認された場合は、上記指標の再評価を行うこととし、この限りではない。

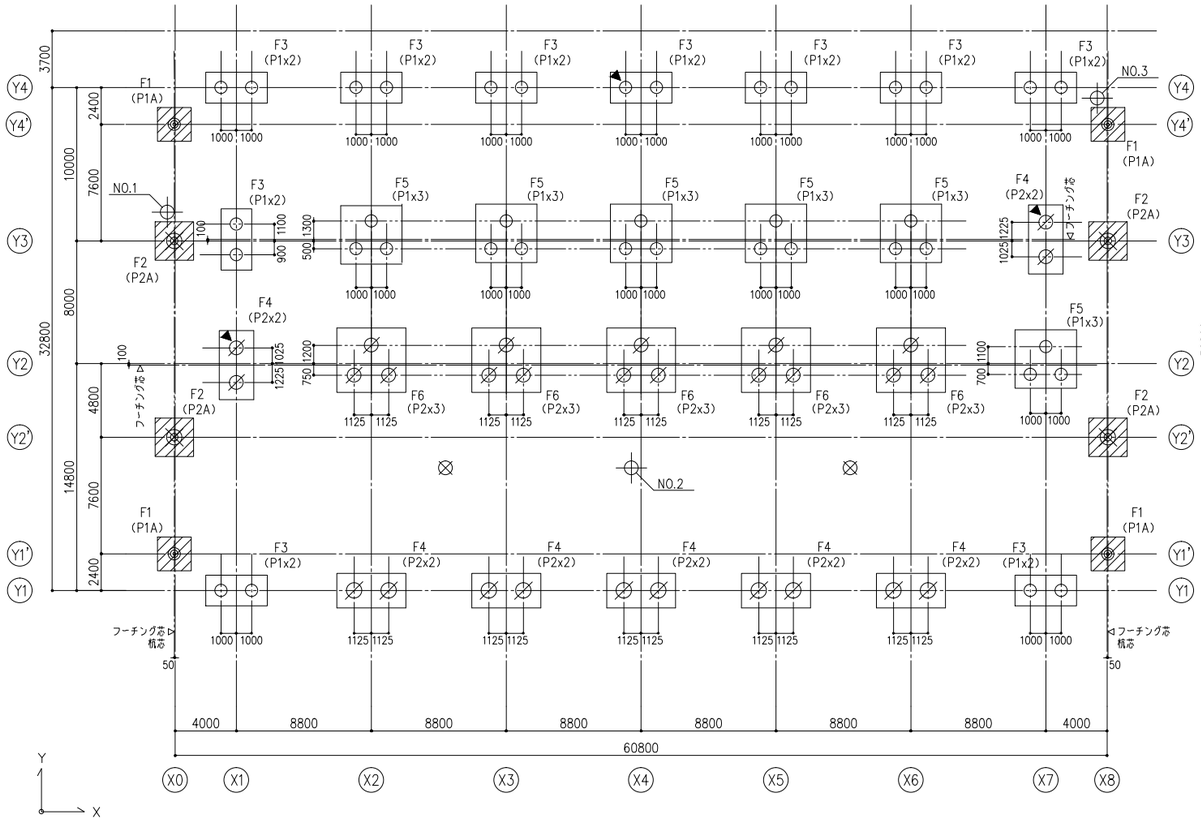
8.その他

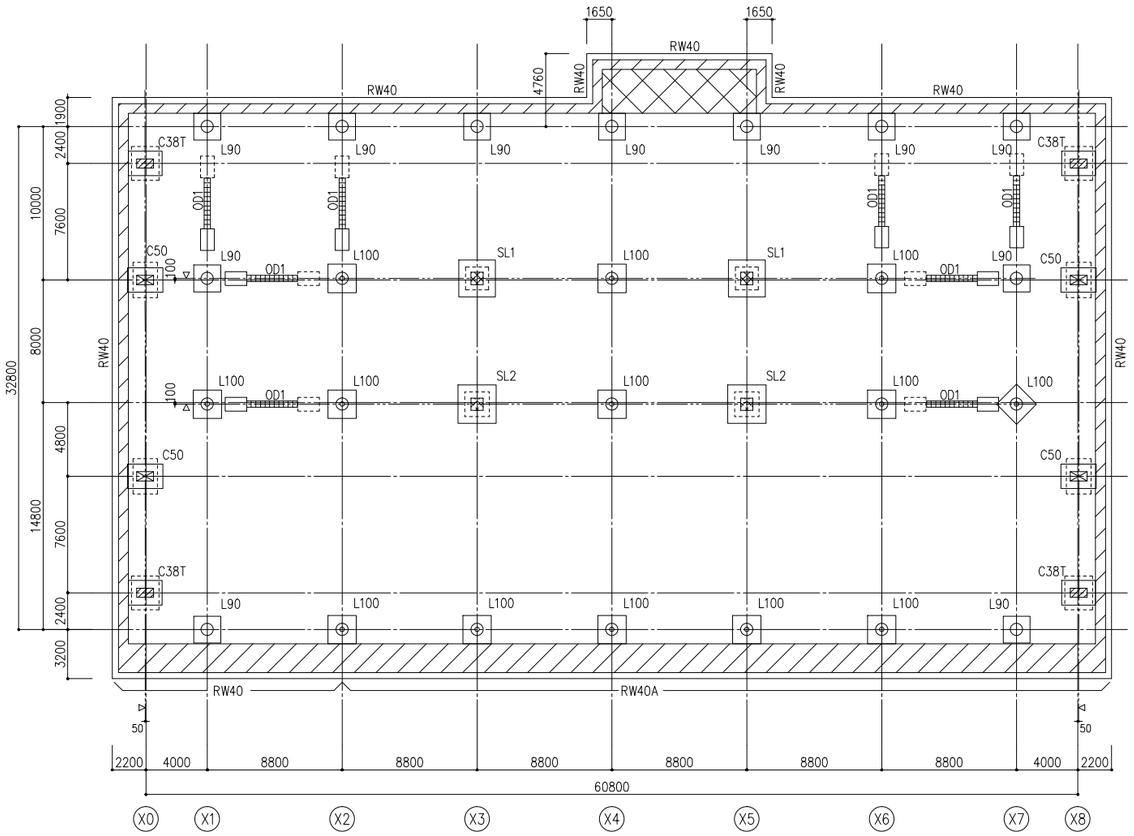
（1）砂杭の本設杭との離隔距離は下図による。

（2）本工法による施工時の周辺地盤への影響については、着工前に、周辺構造物(埋設物含む)等の有無を調査し変位の影響について検討をおこない、対策が必要と判断される場合は、変位対策などの処置を施すものとする。

（3）山留め・杭工事等その他関連工事により、静的締固め砂杭の配置・仕様変更が生じる場合は、監理者の指示と承認を得ること。

安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第129267号　高田　茂	新潟市建築部公共建築第1課	工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎　庁舎棟建設工事	図名 地盤改良配置図、地盤改良特記仕様書
		年月日 2012.11.12	縮尺 1:400(A3) 1:200(A1)
			図面番号 B−11





杭・基礎伏図 1:200

共通事項（特記なき限り）

- 設計GL= TP+0.60m とする。
- 基礎底は GL−5700 とする。
- ▨ 印は 基礎底 GL−3900 を示す。
- ⊕ 印は ボーリング位置 を示す。
- ▽ 印は 杭芯、フーチング芯 を示す。

杭仕様

1.工 法　大臣認定を取得した既製杭埋込み工法で 「SUPERニーディング工法（α=425）」もしくは「Hyper−MEGA工法（ω=1.2）（α=423）」とする。

2.杭 種　支持力表

符号	記号	上杭	中杭	下杭	長期支持力（kN/本）	本数
P1	○	SC杭（t=12） φ800 (L=6000)	PHC（A種） φ800~1000 節付杭 (L=8000)	PHC（A種） φ800~1000 節付杭 (L=8000)	5500	38
P2	⌀	SC杭（t=12） φ900 (L=6000)	PHC（A種） φ900~1100 節付杭 (L=8000)	PHC（A種） φ900~1100 節付杭 (L=8000)	6500	29
P1A	◎	SC杭（t=6） φ800 (L=8000)	PHC（A種） φ800~1000 節付杭 (L=8000)	PHC（A種） φ800~1000 節付杭 (L=8000)	5500	4
P2A	⊠	SC杭（t=6） φ900 (L=8000)	PHC（A種） φ900~1100 節付杭 (L=8000)	PHC（A種） φ900~1100 節付杭 (L=8000)	6500	4

- 杭体のコンクリート強度は 105N/mm² とする。
- SC杭鋼管材質は SKK490 とする。
- 杭の継手は 無溶接継手（大臣認定取得工法） とする。
- ▼ 印は 試験杭 を示す。（計 3箇所）
- 試験杭の結果 地盤性状がボーリング結果と整合することを確認すること。
  試験杭の結果により 杭長等を変更することもある。
- 杭施工に伴い偏心が生じた場合は 補強要領に準じて補強を行うこと。

- ⊠ 印は試験杭を示す。（計2箇所）
- 試験杭においては 根固め拡大球根のソイルセメントの未固結資料を
  原位置（杭先端）にて採取し 大臣認定書に定める所定強度の発現を
  確認する。

基礎スラブ伏図・免震材料配置図 1:200

共通事項（特記なき限り）

- 設計GL= TP+0.60 とする。
- 1FL = 設計GL+1100 とする。
- 基礎スラブ天端は 1FL−3200とする。
- 基礎スラブ符号は MS1 とする。
- ▨ 印は MS2、基礎スラブ天端は 1FL−3450 とする。
- ▩ 印は MS3、基礎スラブ天端は 1FL−3200 とする。
- 免震材料芯=通り芯 とする。
- ⊡ 印は 上部フーチング を示す。
- ▽ 印は 免震材料芯 を示す。

免震材料リスト

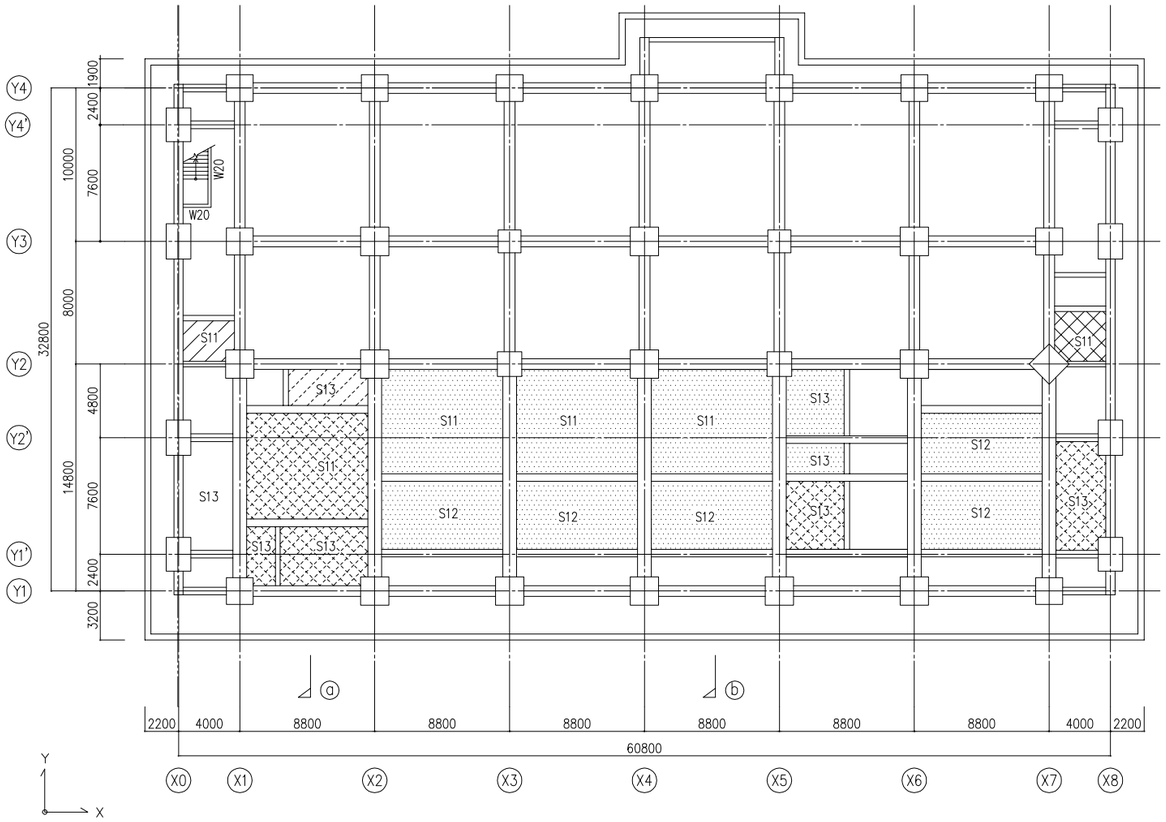
- L は 鉛プラグ入り積層ゴム支承 を示す。
- C は 直動転がり支承 を示す。
- SL は 弾性すべり支承 を示す。

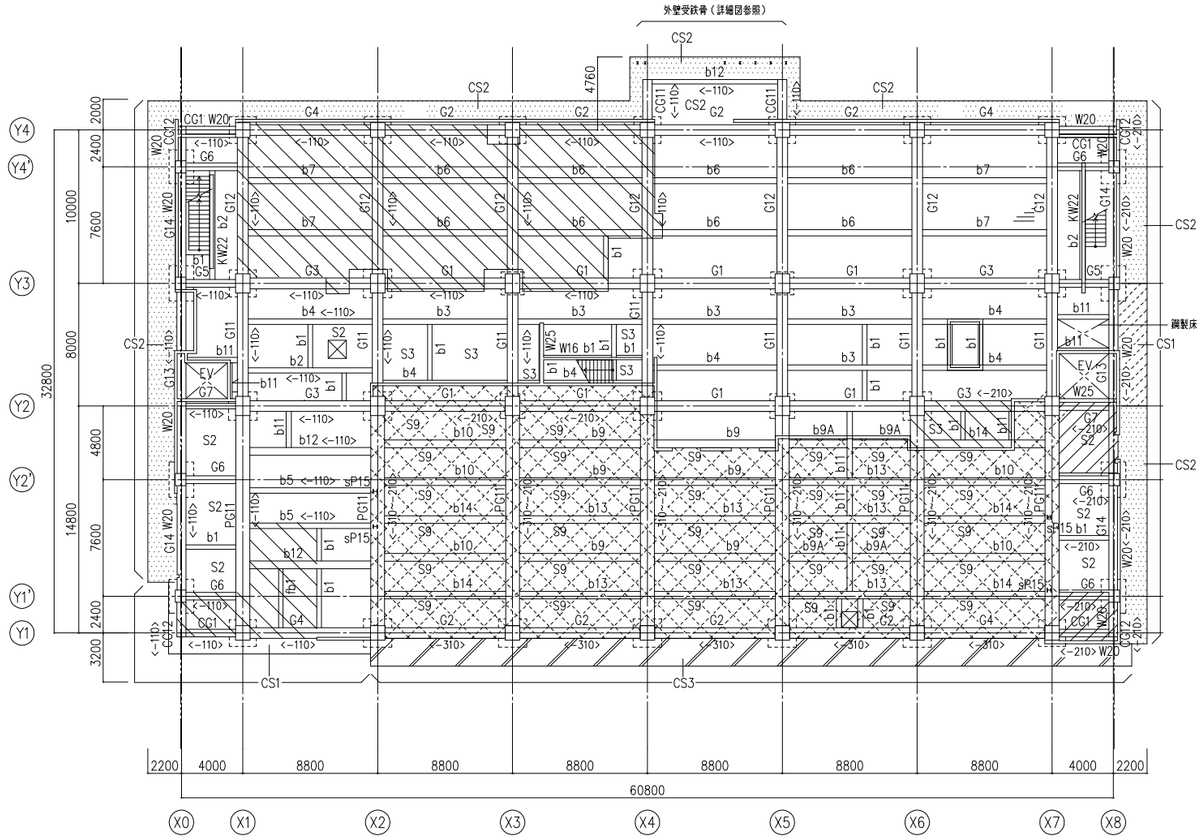
記号	符号	台数
○	L90	11 基
◎	L100	13 基
⊠	SL1	2 基
⊠	SL2	2 基
▨	C38T	4 基
⊠	C50	4 基
合 計		36 基

減衰材料（オイルダンパー）リスト

記号	符号	台数
▭	OD1	8 基

安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第129267号 高田 茂	新潟市建築部公共建築第1課	工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟建設工事	図名 杭・基礎伏図 基礎スラブ伏図・免震材料配置図
		年月日 2013.03.01	縮尺 A1:1/200、A3:1/400
			図面番号 B−12

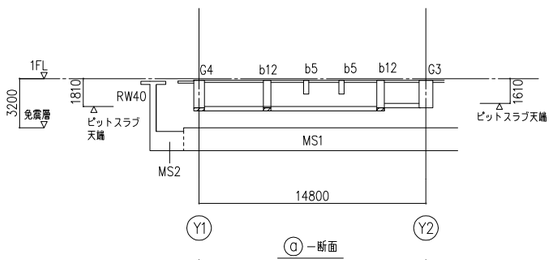




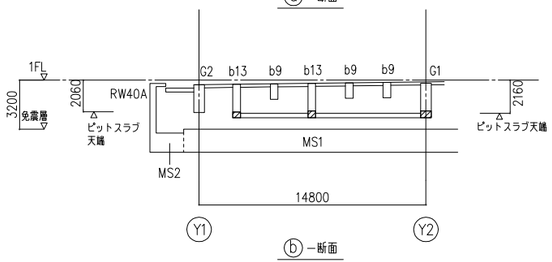
ピット伏図　1:200

共通事項（特記なき限り）

- 設計GL= TP+0.60 とする。
- 1FL = 設計GL+1100 とする。
- ピットスラブ天端は 1FL−2160 とする。（　印範囲）
- 水勾配は意匠図による。
- 印は ピットスラブ天端 FL−1250 を示す。
- 印は ピットスラブ天端 FL−1610 を示す。
- 印は ピットスラブ天端 FL−1810 を示す。
- 印は ピットスラブ天端 FL−1850 を示す。
- スラブ天（下）端と梁天（下）端レベルに差がある場合は、梁上（下）増打を行うものとする。



ⓐ−断面



ⓑ−断面

1階床梁伏図　1:200

共通事項（特記なき限り）

- 設計GL= TP+0.60m とする。
- 1FL = 設計GL+1100 とする。
- スラブは S1 とする。
- 印は RC壁 W18 を示す。
- スラブ、梁天端は FL−10 とする。
- < > 内数値は FLからの梁天レベル を示す。
- 印は スラブ・小梁天端 FL−100 とする。
- 印は スラブ・小梁天端 FL−100〜−300 とする。
- 印は スラブ天端 FL−200 とする。
- 印は スラブ・小梁天端 FL−50 とする。
- 印は スラブ天端 FL−50 とする。
- 印は スラブ天端 FL−150 とする。
- 印は スラブ天端 FL−525 とする。
- スラブ天（下）端と梁天（下）端レベルに差がある場合は、梁上（下）増打を行うものとする。

12.11.16改定

安井・太陽設計共同体
管理建築士一級建築士第129267号 高田 茂

新潟市建築部公共建築第1課

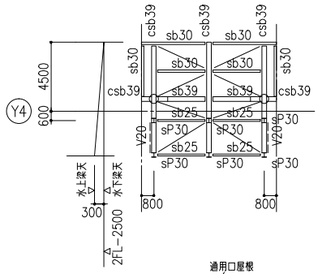
工事名
新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟建設工事

図名
ピット伏図、1階床梁伏図

年月日 2012.11.12
縮尺 A1:1/200、A3:1/400
図面番号 B−13

機器荷重（重量物）

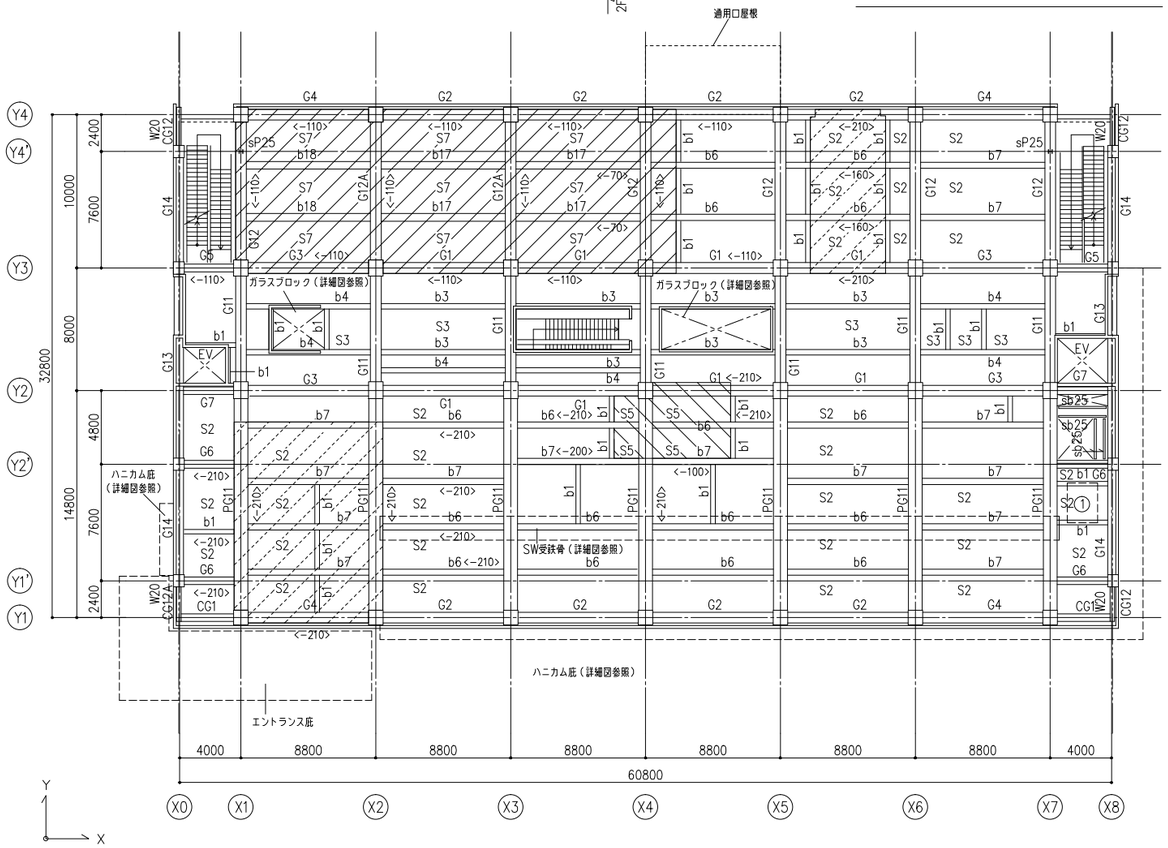
番号	機器荷重（t）
①	8.0

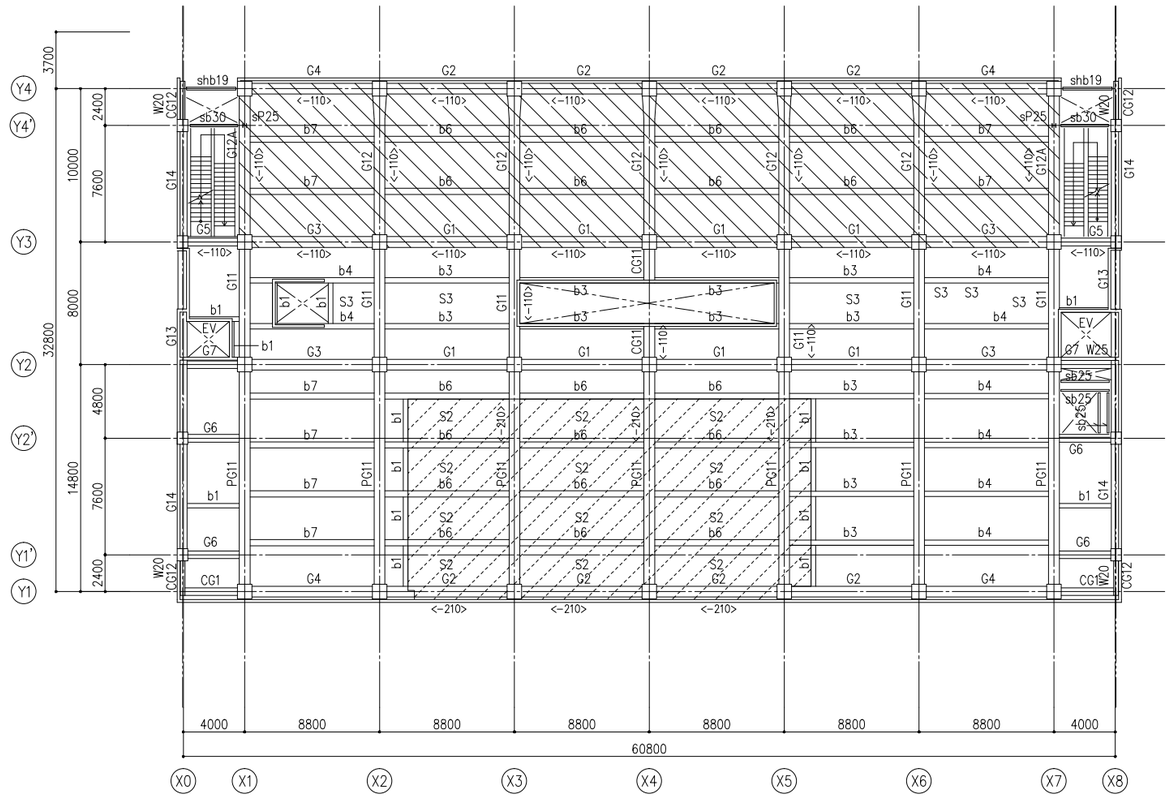


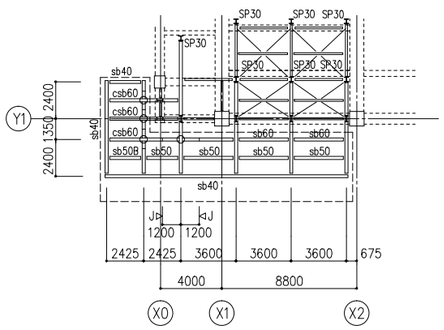
2FL−2500レベル床梁伏図 1:200

共通事項（特記なき限り）

- 梁天端は FL−2500（水下）~FL−2200（水上） とする。
- 床ブレースは V20 とする。
- 屋根受け小梁天端は 大梁天端レベル+50 とする。
- 折版受け大梁天端には 折版受け材 C−100x50x20x2.3（ヨコ使い） を設置する。
- 屋根材は金属パネルとする。







エントランス庇伏図 1:200

共通事項（特記なき限り）

- 梁天端は 2FL−2150 とする。
- 鉄骨梁は sb25 間柱はsP40とする。
- 水平ブレースは V20 とする。
- 屋外露出となる鉄骨は 溶融亜鉛メッキ加工とする。
- 屋外露出となる現場継手部は 現場溶接とする。
- ⊥印は 剛接合 を示す。

2階床梁伏図 1:200

共通事項（特記なき限り）

- スラブは S1 とする。
- ═══ 印は RC壁 W18 を示す。
- スラブ、梁天端は FL−10 とする。
- < > 内数値は FLからの梁天レベル を示す。
- ▨ 印は スラブ・小梁天端 FL−100 とする。
- ▧ 印は スラブ・小梁天端 FL−200 とする。
- ▨ 印は スラブ・小梁天端 FL−160 とする。
- スラブ天（下）端と梁天（下）端レベルに差がある場合は、梁上（下）増打を行うものとする。

3階床梁伏図 1:200

共通事項（特記なき限り）

- スラブは S1 とする。
- ═══ 印は RC壁 W18 を示す。
- スラブ、梁天端は FL−10 とする。
- < > 内数値は FLからの梁天レベル を示す。
- ▧ 印は スラブ・小梁天端 FL−100 とする。
- ▨ 印は スラブ・小梁天端 FL−160 とする。
- スラブ天（下）端と梁天（下）端レベルに差がある場合は、梁上（下）増打を行うものとする。

12.11.16改定

安井・太陽設計共同体
管理建築士一級建築士第129267号 高田 茂

新潟市建築部公共建築第1課

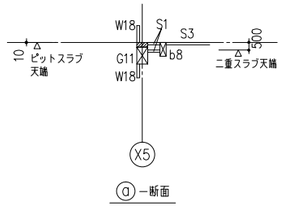
工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟建設工事

図名 2階、3階床梁伏図

年月日 2013.03.01

縮尺 A1:1/200, A3:1/400

図面番号 B−14



ⓐ一断面

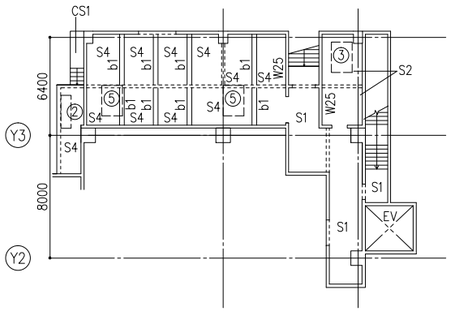
機器荷重（重量物）

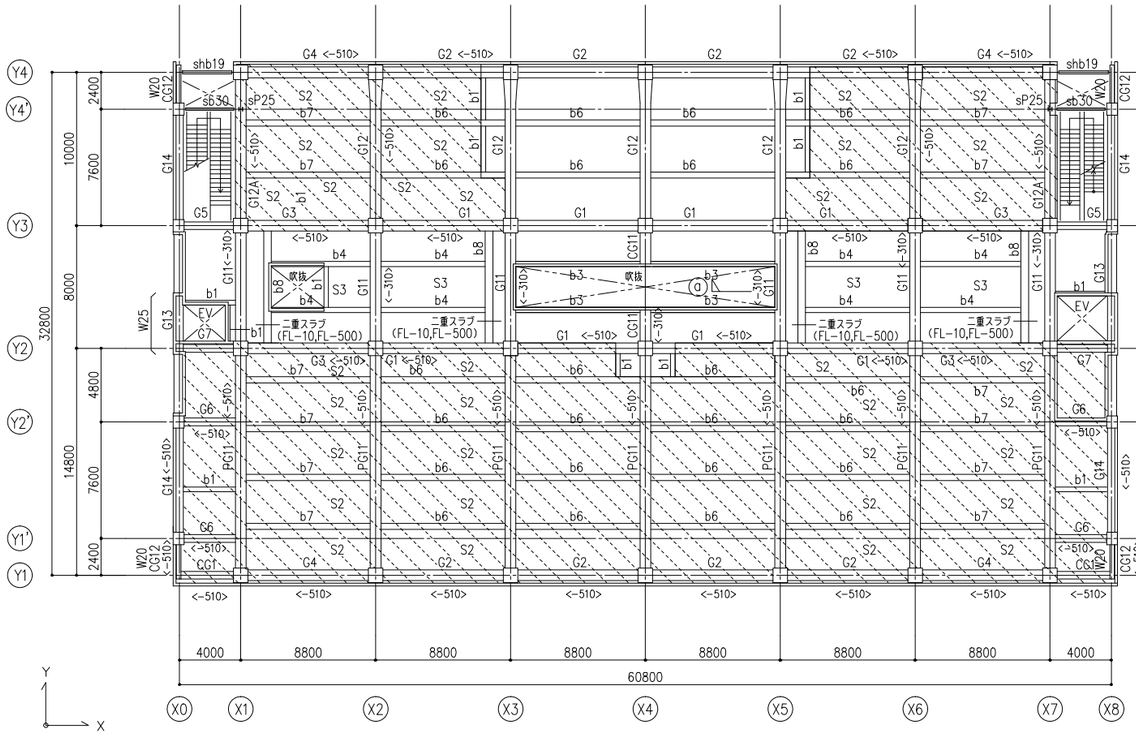
番号	機器荷重（t）
①	17.0
②	4.7
③	5.7
④	6.0
⑤	3.0

5FL+1450レベル（電気室床）床梁伏図 1:200

共通事項（特記なき限り）

- スラブは S1 とする。
- スラブ・梁天端は 5FL+1450 とする。
- 壁符号は W18 とする。

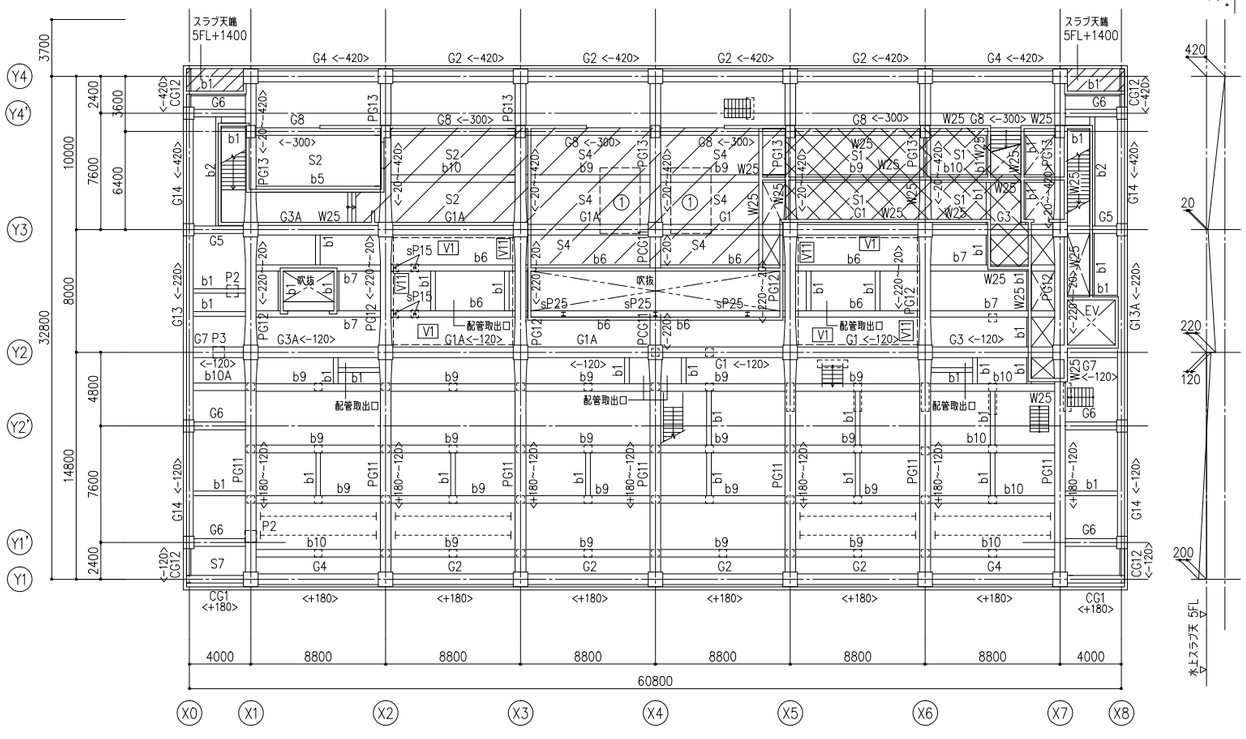




4階床梁伏図 1:200

共通事項（特記なき限り）

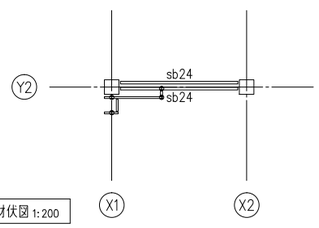
- スラブは S1 とする。
- ▭ 印は RC壁 W18 を示す。
- スラブ、梁天端は FL-10 とする。
- < > 内数値は FLからの梁天レベル を示す。
- ▨ 印は スラブ・小梁天端 FL-500 とする。
- スラブ天（下）端と梁天（下）端レベルに差がある場合は、梁上（下）増打を行うものとする。



5階床梁伏図 1:200

共通事項（特記なき限り）

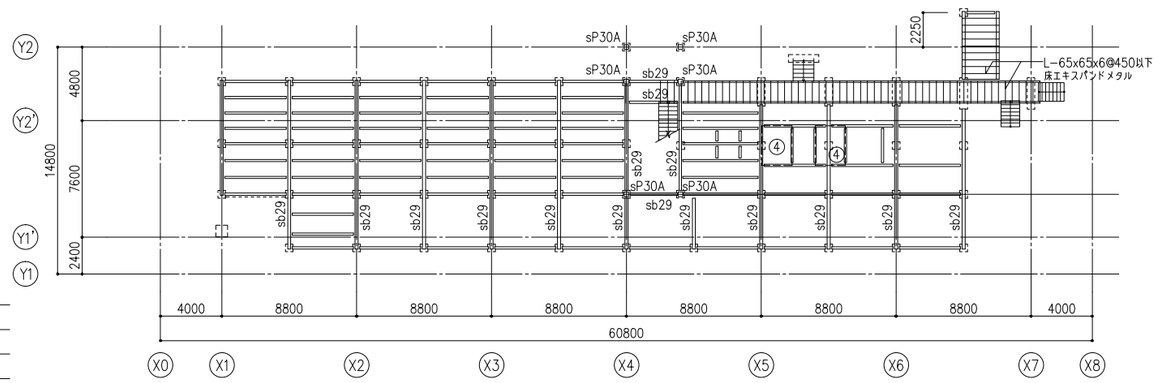
- スラブは S3 とする。
- ▭ 印は RC壁 W18 を示す。
- 梁天端は FL-20 とする。
- < > 内数値は FLからの梁天レベル を示す。
- ⊠ 印は スラブ・小梁天端 FL-10 とする。
- ▨ 印は スラブ・小梁天端 FL-10 とする。
- ⛶ 印は 設備架台柱型基礎 を示す。特記なき限り P1 とする。
- スラブ天（下）端と梁天（下）端レベルに差がある場合は、梁上（下）増打を行うものとする。
- 水勾配は意匠図による。
- ト-イ印はsb29（モニターリブレイス対応）を示す。



SW、シャッター受材伏図 1:200

共通事項（特記なき限り）

- 鉄骨は すべて sb25 とする。
- 鉄骨梁 梁天端 4FL-2700とする。
- 吊り材（O印）は sP15とする。



鉄骨架台伏図 1:200

共通事項（特記なき限り）

- 鉄骨は すべて H-200x200x8x12 とする。
- 鉄骨梁 梁天端 FL+1450とする。
- 鉄骨はすべて溶融亜鉛メッキとする。

12.11.16改定

安井・太陽設計共同体
管理建築士一級建築士第129267号 高田 茂

新潟市建築部公共建築第1課

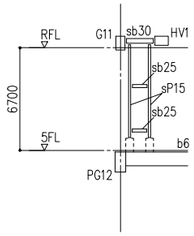
工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟建設工事

図名 4階、5階床梁伏図

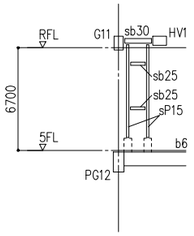
年月日 2012.11.12

縮尺 A1:1/200、A3:1/400

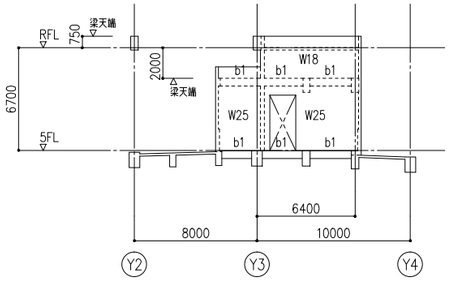
図面番号 B-15



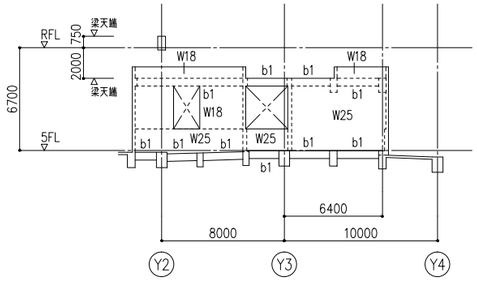
ⓓ－断面



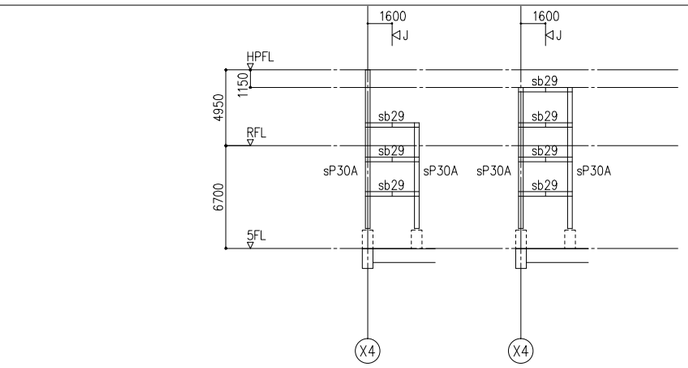
ⓔ－断面



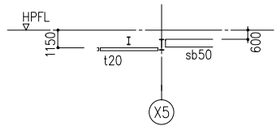
ⓐ－断面



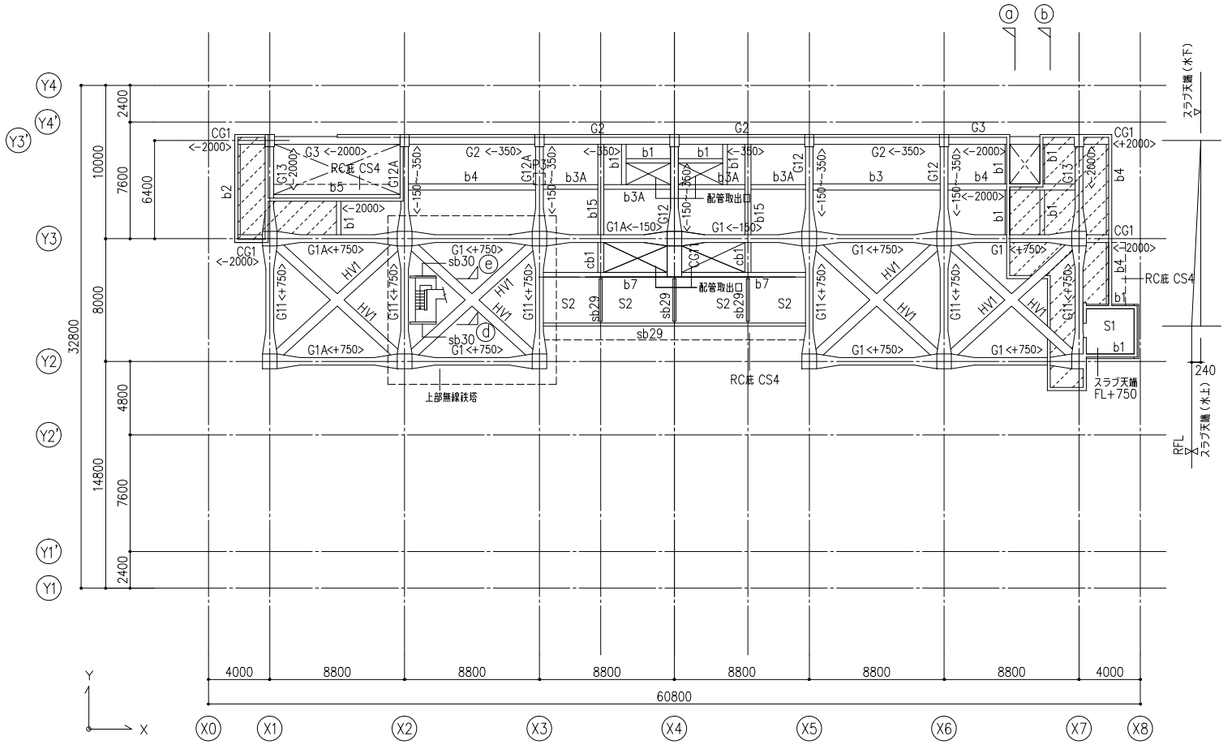
ⓑ－断面

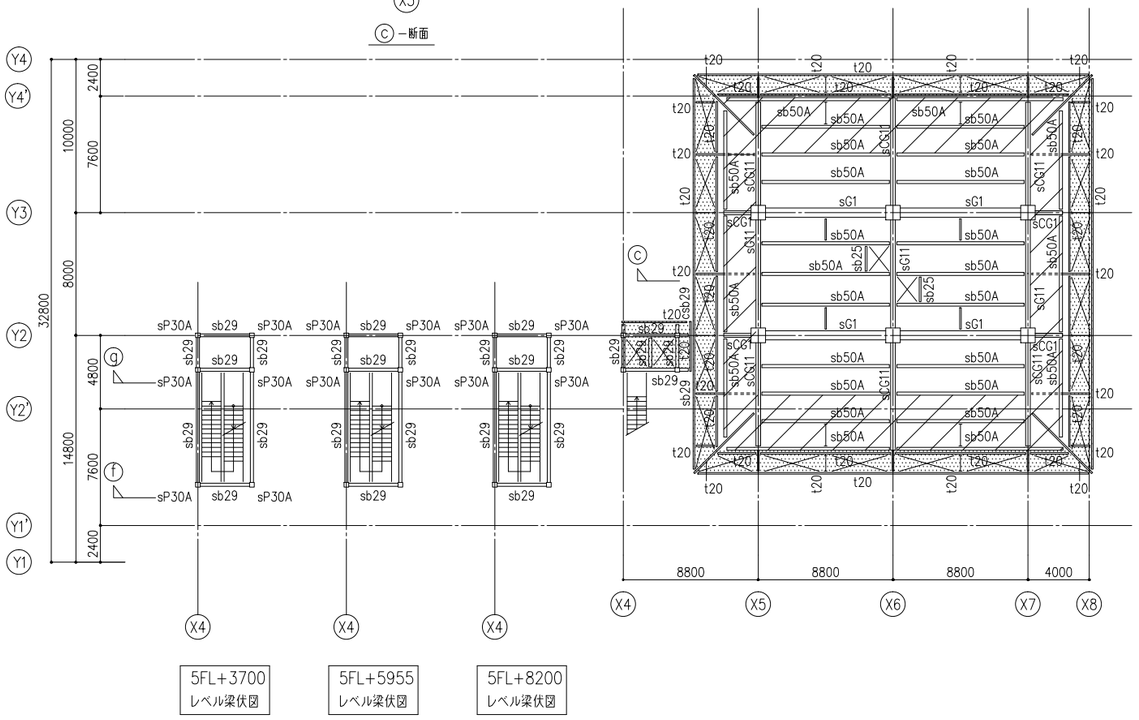


ⓕ－断面　ⓖ－断面



ⓒ－断面





5FL+3700
レベル梁伏図

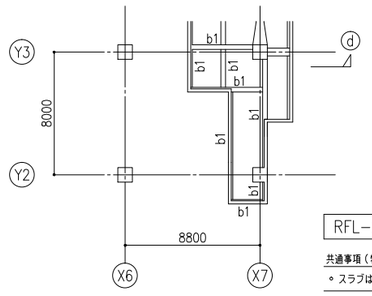
5FL+5955
レベル梁伏図

5FL+8200
レベル梁伏図

R階床梁伏図　1:200

共通事項（特記なき限り）

- スラブは　S1 とする。
- スラブ・小梁天端は　FL±0（水上）~FL−240（水下）とする。
- ＜　＞内数値は　FLからの梁天レベル　を示す。
- 水勾配は意匠図による。
- 印は　スラブ・小梁天端　FL−2000　とする。
- スラブ天（下）端と梁天（下）端レベルに差がある場合は、梁上（下）増打を行うものとする。



RFL−2000レベル床梁伏図　1:200

共通事項（特記なき限り）

- スラブは　S1 とする。
- スラブ・梁天端は　RFL−2000 とする。
- 壁符号は　W18 とする。

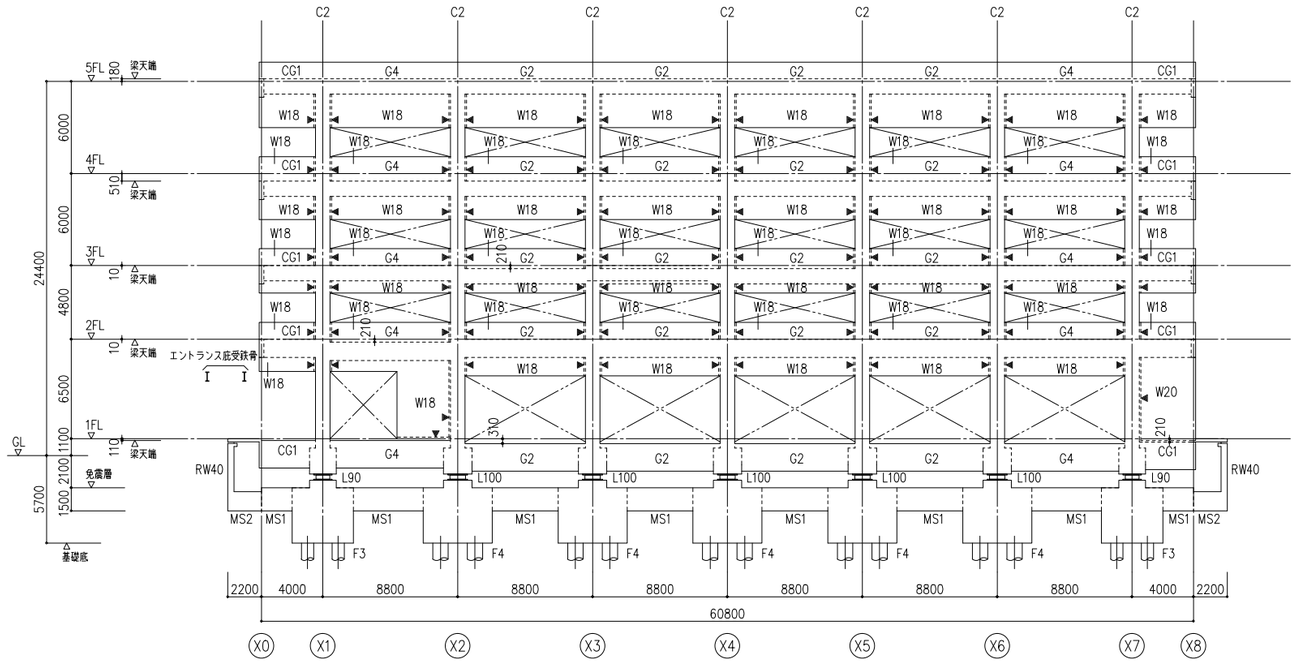
HP 床梁伏図　1:200

共通事項（特記なき限り）

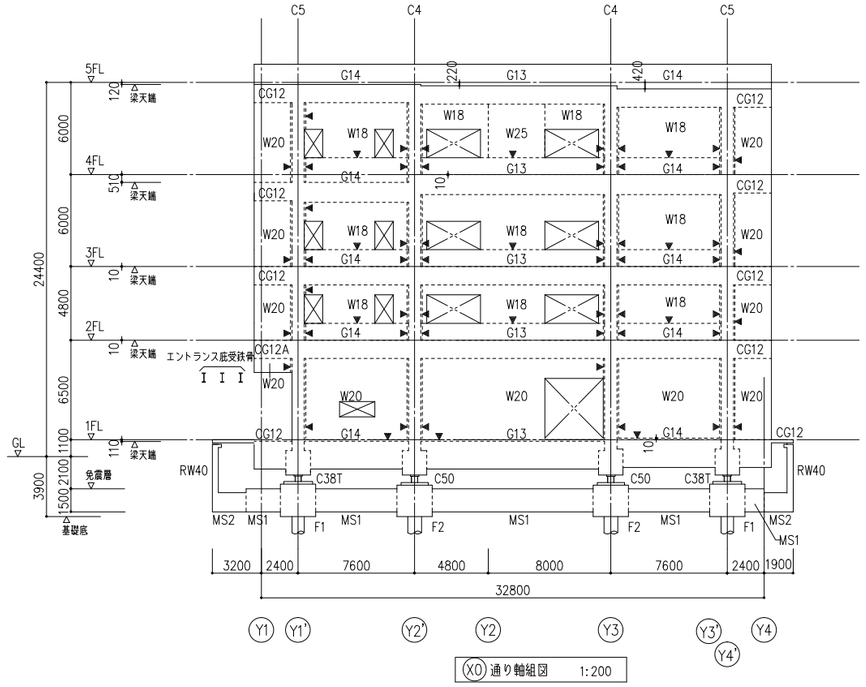
- HPFL=RFL+4950 とする。
- スラブは　S8 とする。
- スラブ天端は　FL−400　とする。
- 梁天端は　FL−600 とする。
- 印は　梁天端　HPFL−1150　とする。
  床材は　エキスパンドメタル（XG22）　とする。
  根太L−65x65x6@450以内
- 印は　スラブ天端　FL−250　とする。
  鉄骨梁天端は　FL−450　とする。

- 水平ブレースは　V20　とする。
- ⊢⊣ 印は　t12　とする。
- 増打コンクリートはFc30とし　仕様は免震下側フーチングコンクリートと同様とする。
- 水勾配はスラブ上増打によるものとし　水勾配は意匠図による。
- 梁天端とスラブ下端に差がある場合は　詳細図に示す梁上かさ上げ材を設ける。

安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第129267号　高田　茂	新潟市建築部公共建築第1課	工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎　庁舎棟建設工事	図名 R階、HR階床梁伏図		
		年月日 2013.03.01	縮尺 A1:1/200、A3:1/400	図面番号 B−16	

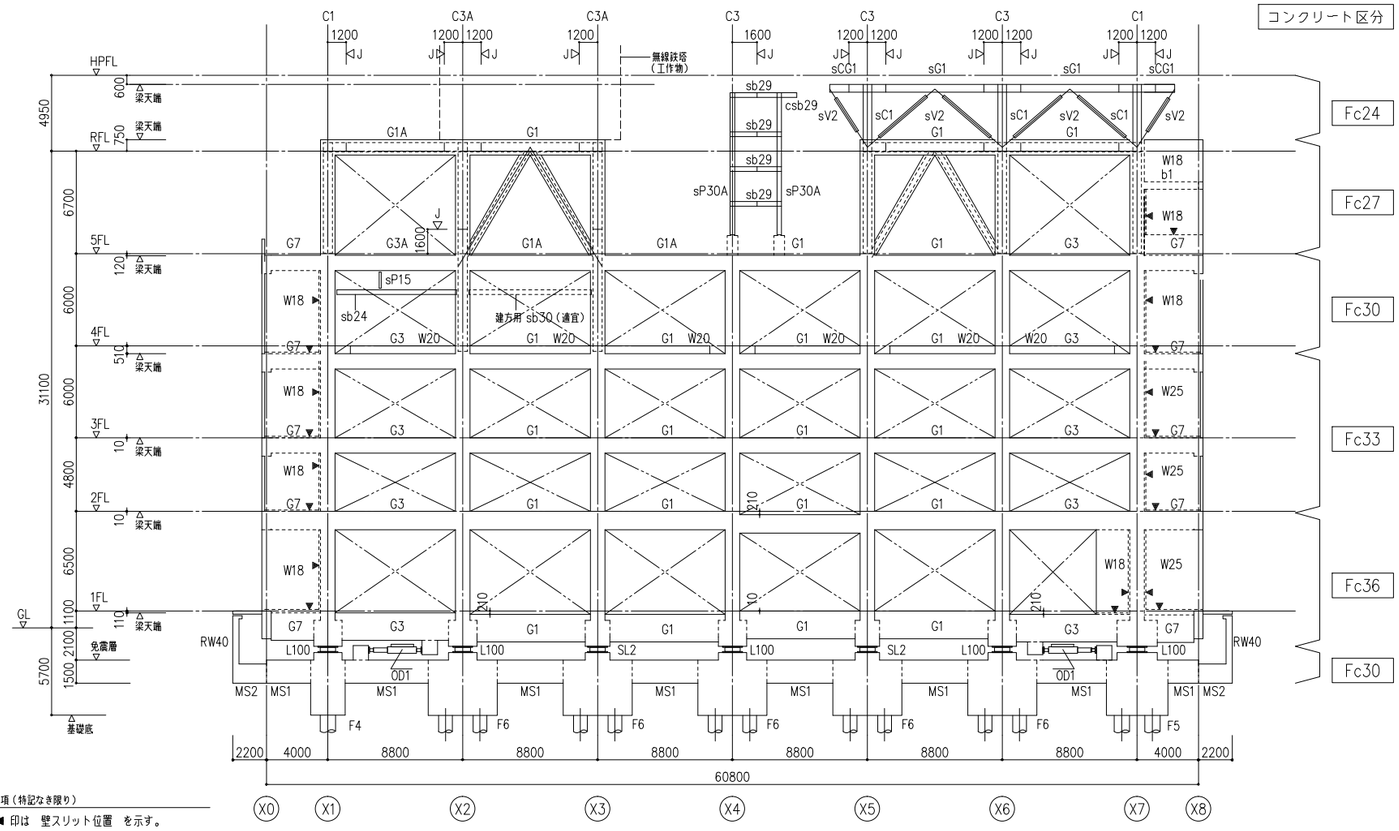


Y1 通り軸組図　1:200

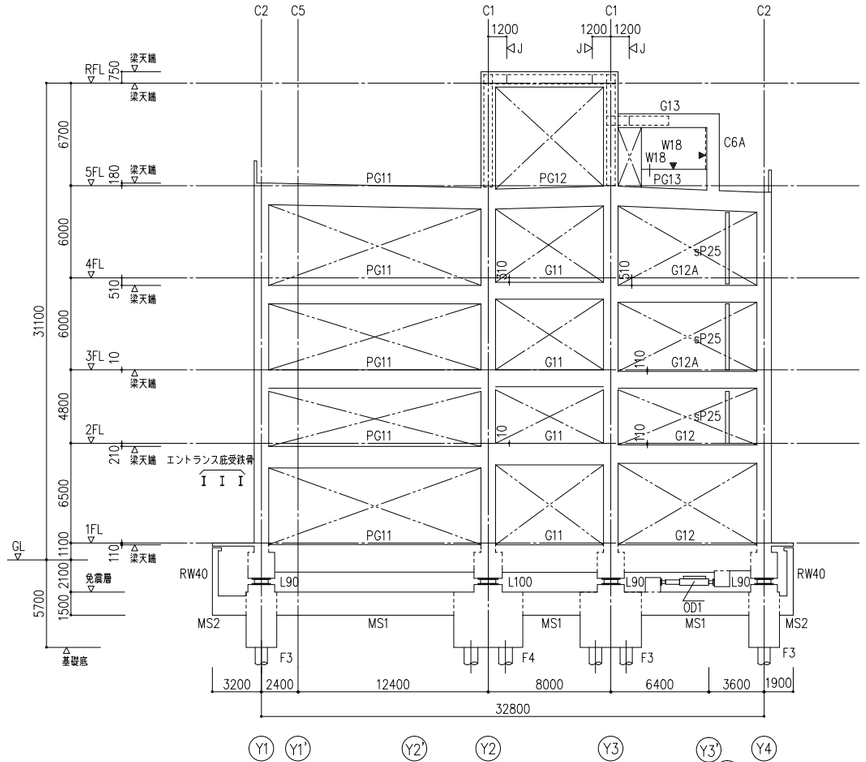


X0 通り軸組図　1:200

コンクリート区分



Y2 通り軸組図　1:200

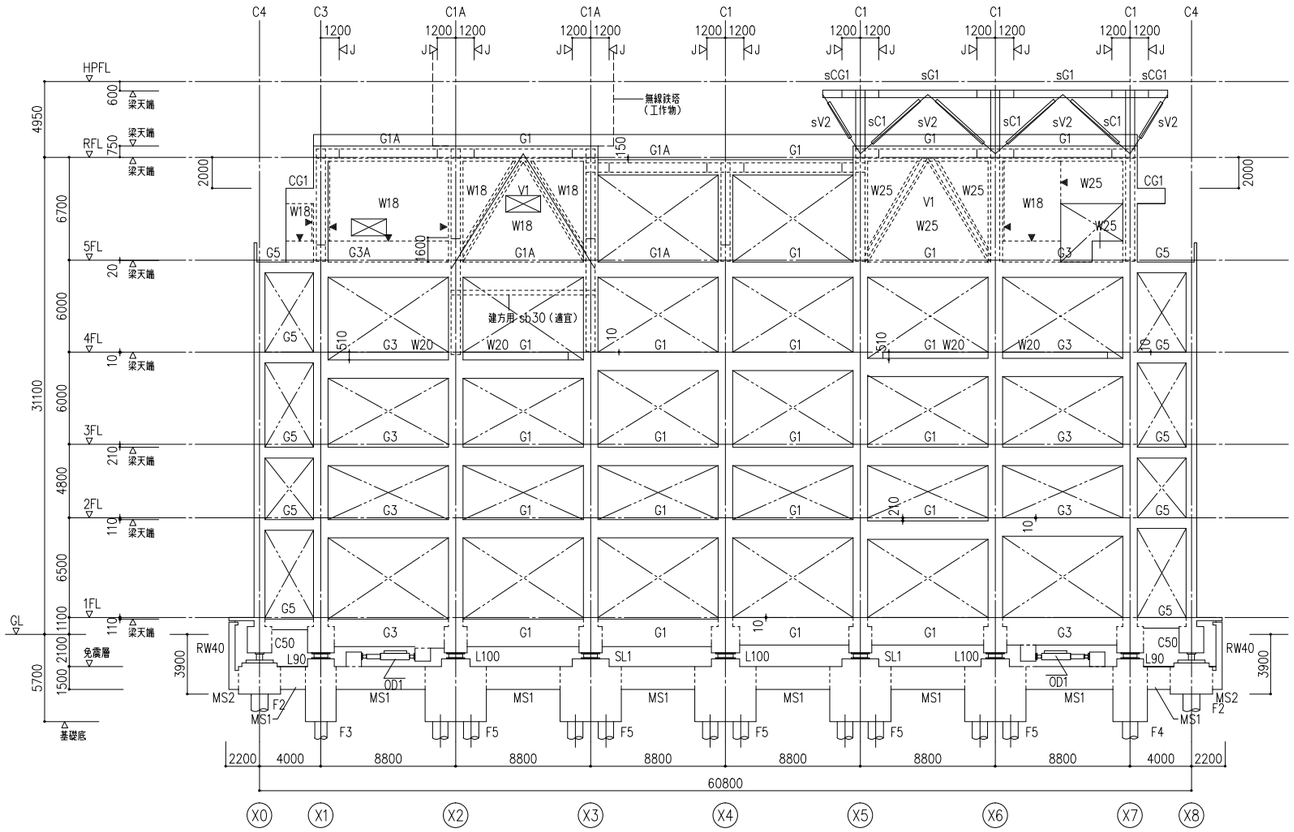


X1 通り軸組図　1:200

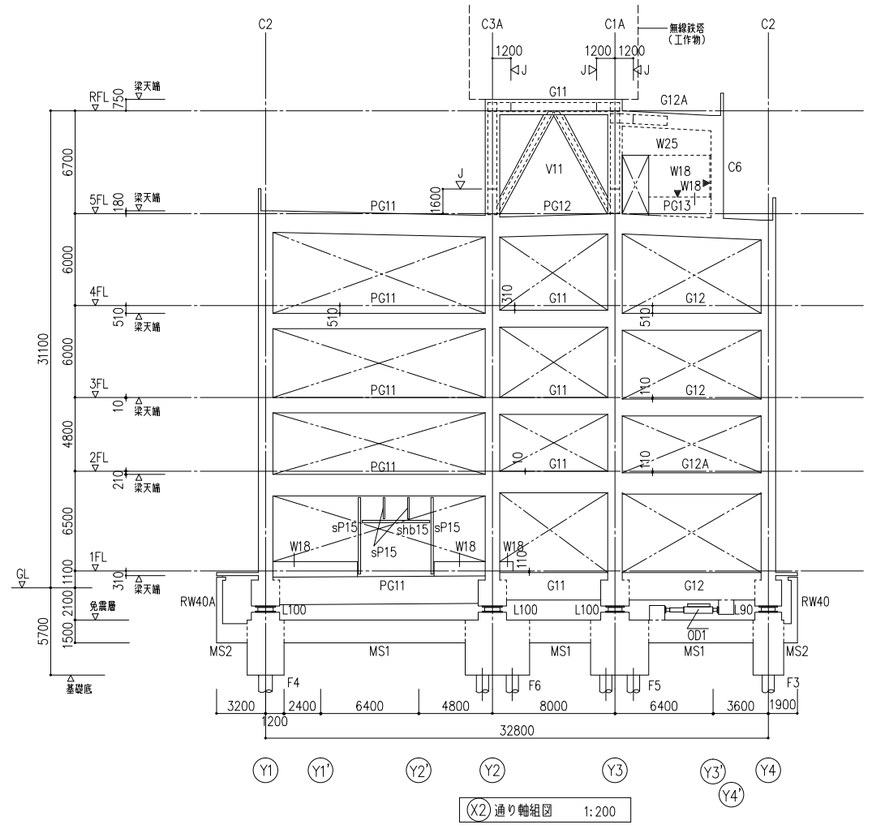
共通事項（特記なき限り）

- ◀ 印は　壁スリット位置　を示す。
- ZZZ 印は　梁増打　を示す。
- ◁ 印は　現場継手位置　を示す。

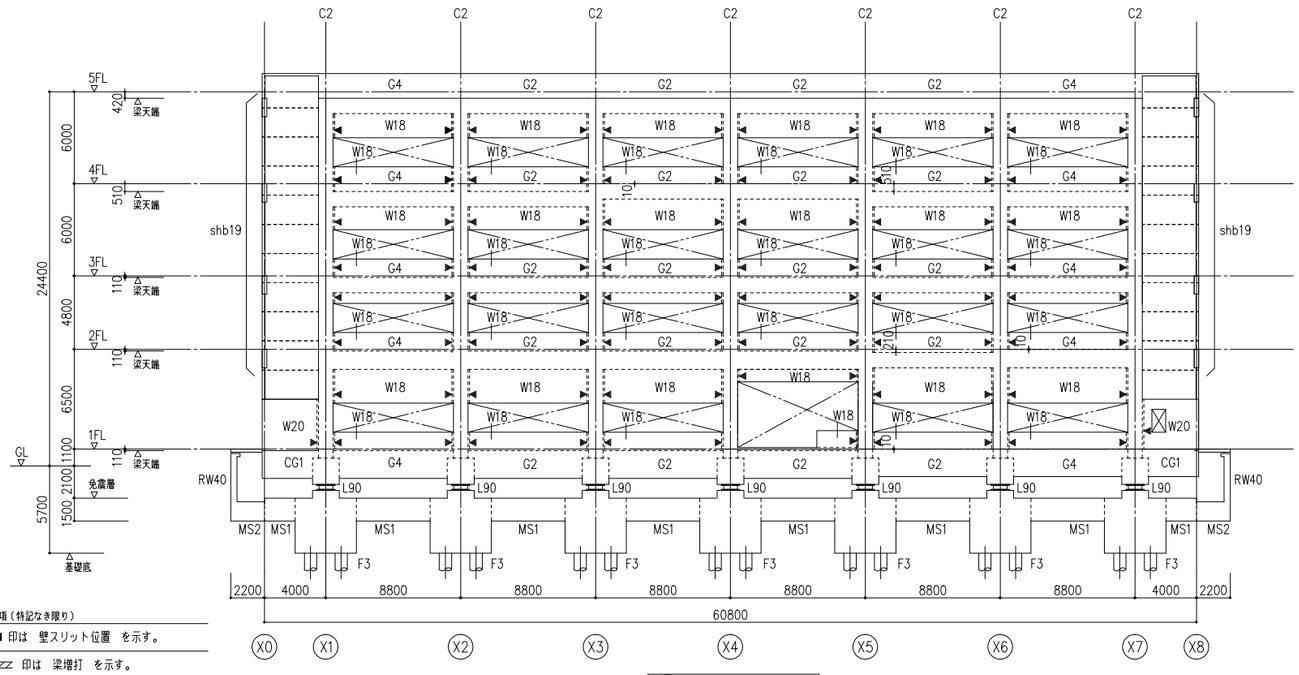
安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第129267号　高田　茂	新潟市建築部公共建築第1課	工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎　庁舎棟建設工事	図名 軸組図（1）	
			年月日 2013.03.01 / 縮尺 A1:1/200, A3:1/400	図面番号 B−17



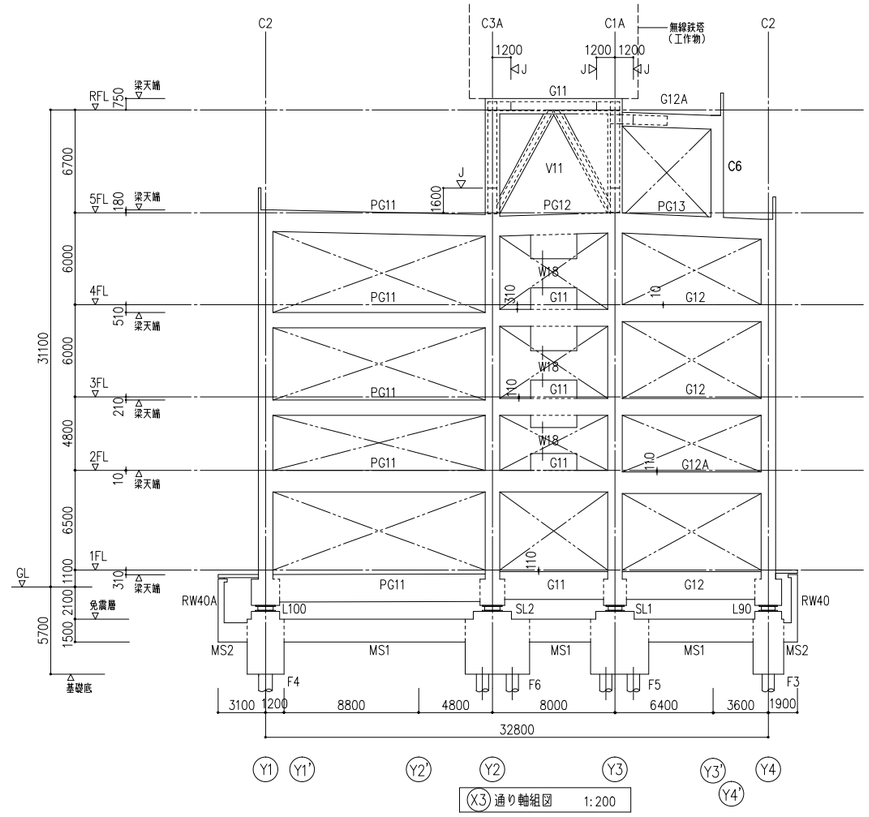
Y3 通り軸組図　1:200



X2 通り軸組図　1:200



Y4 通り軸組図　1:200



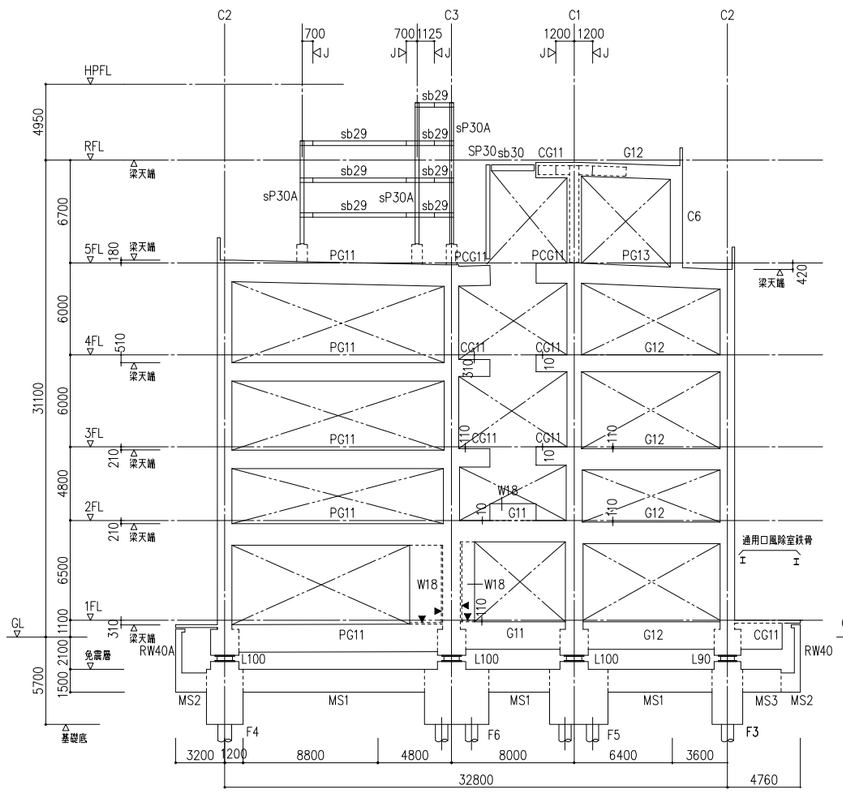
X3 通り軸組図　1:200

共通事項（特記なき限り）

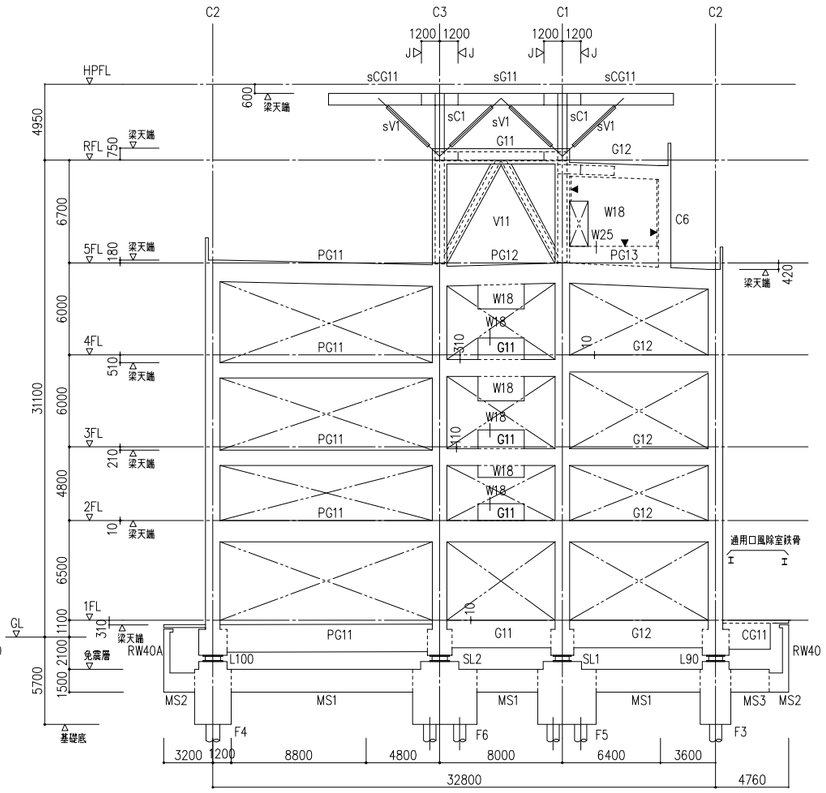
- 印は　壁スリット位置　を示す。
- 印は　梁増打　を示す。
- 印は　現場継手位置　を示す。

12.11.16改定

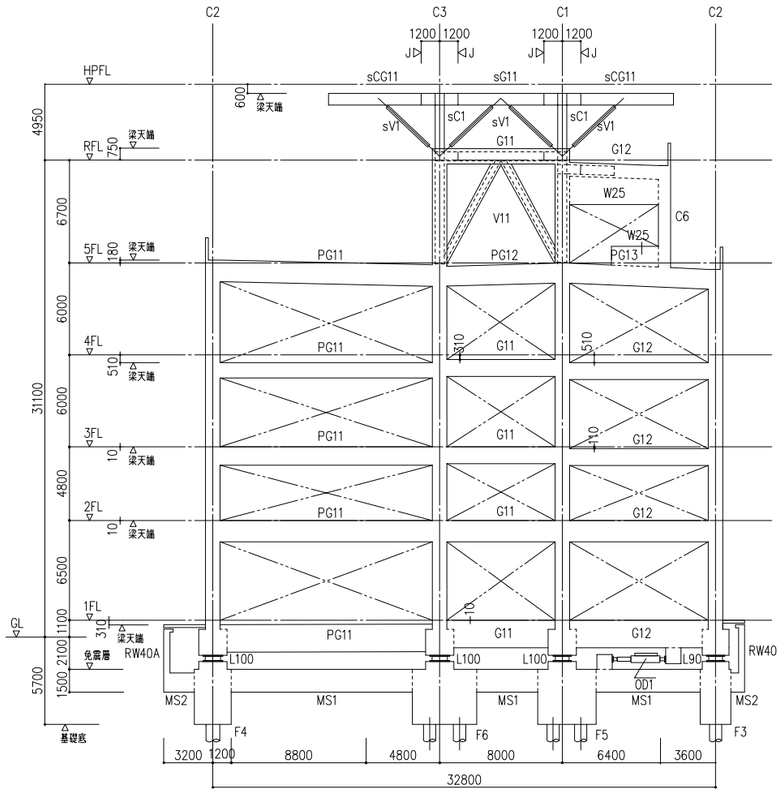
安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第129267号　高田　茂	新潟市建築部公共建築第1課	工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎　庁舎棟建設工事	図名 軸組図（2）	
			年月日 2013.03.01	縮尺 A1:1/200, A3:1/400
			図面番号	B−18



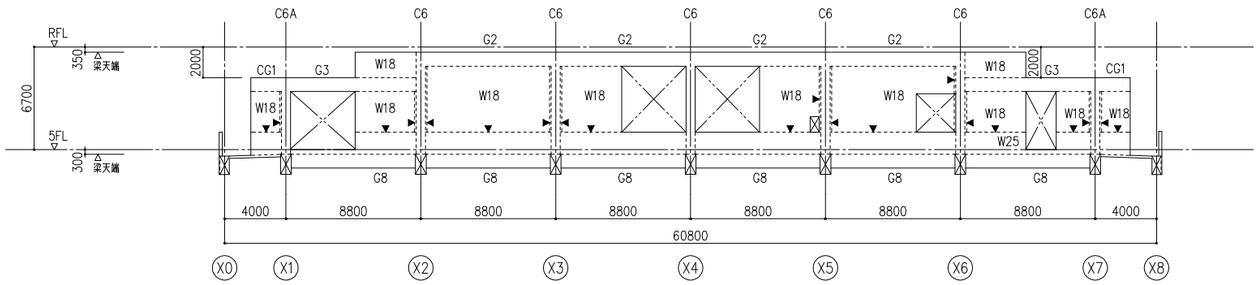
(X4) 通り軸組図 1:200



(X5) 通り軸組図 1:200



(X6) 通り軸組図 1:200

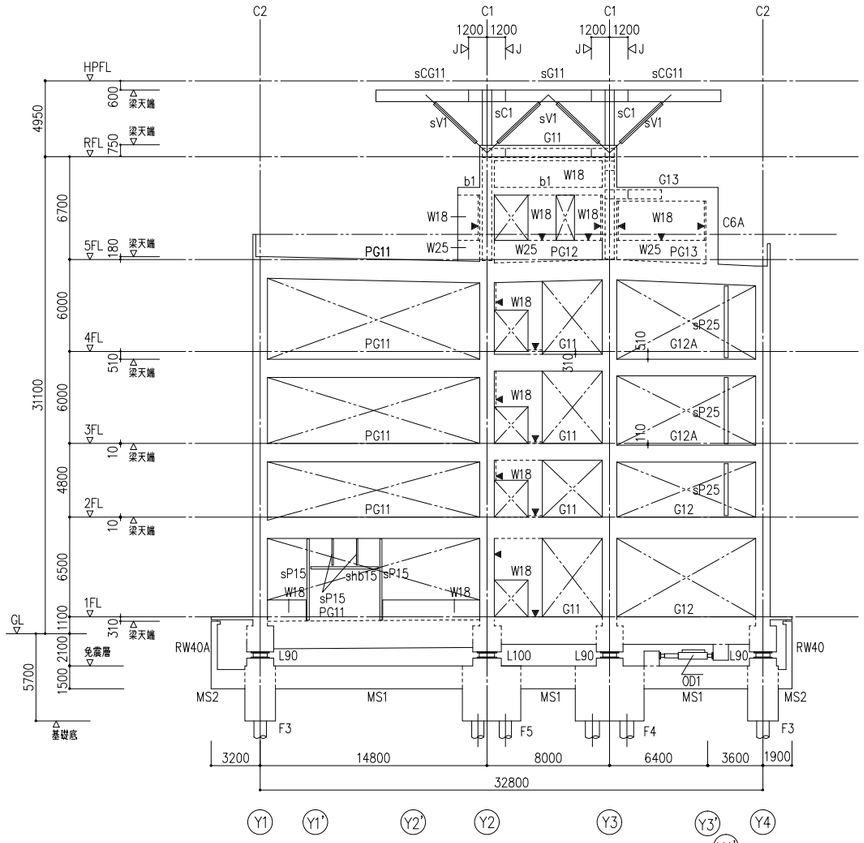


(Y3)+6400 通り軸組図 1:200

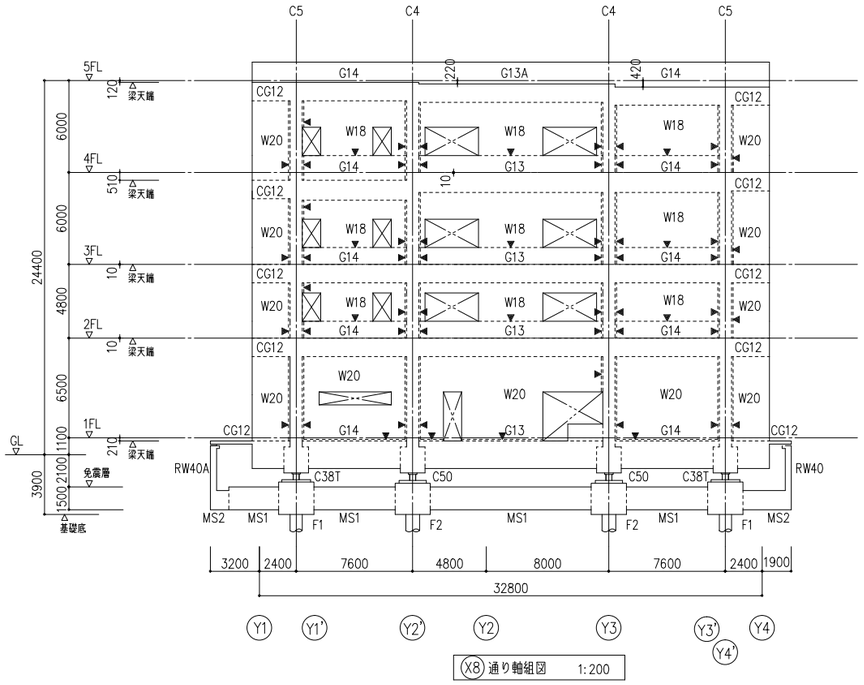
共通事項（特記なき限り）

- ◀ 印は 壁スリット位置 を示す。
- ZZZ 印は 梁増打 を示す。
- ◁ 印は 現場継手位置 を示す。

安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第129267号 高田 茂	新潟市建築部公共建築第1課	工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟建設工事	図名 軸組図（3）	
			年月日 2012.11.12 / 縮尺 A1:1/200、A3:1/400	図面番号 B−19



(X7) 通り軸組図 1:200



(X8) 通り軸組図 1:200

共通事項（特記なき限り）

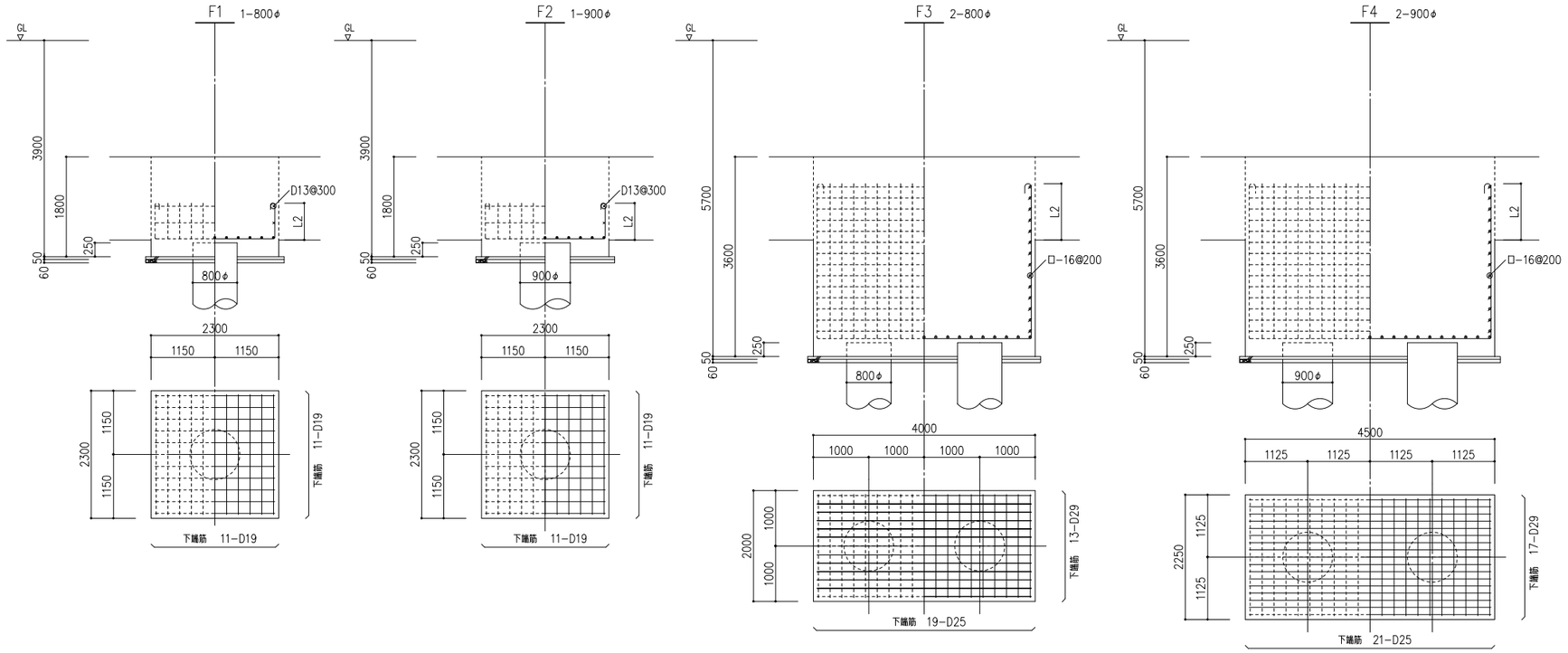
- 印は 壁スリット位置 を示す。
- 印は 梁増打 を示す。
- 印は 現場継手位置 を示す。

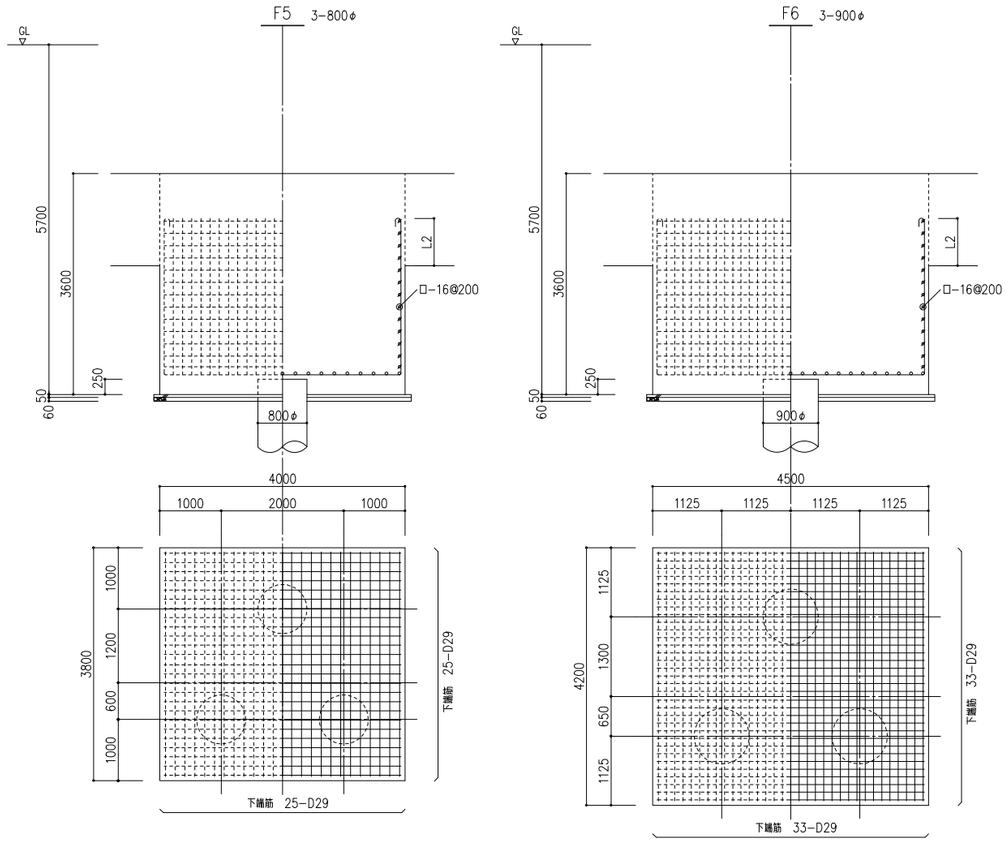
安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第129267号 髙田 茂	新潟市建築部公共建築第1課	工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟建設工事	図名 軸組図（4）	
			年月日 2013.03.01	縮尺 A1:1/200, A3:1/400
			図面番号 B−20	

共通事項（特記なき限り）

- 基礎深さHは 杭・基礎伏図 による。
- 基礎下地業は 捨コンクリート ⑦50，砂利 ⑦60 とする。
- 鉄筋材質は D10~D16 SD295A、D19~D25 SD345 とする。

基礎 リスト 1:50

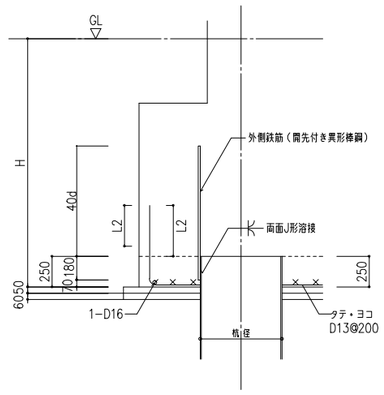




杭頭補強筋 リスト

符 号	杭 径	杭頭補強筋
P1	ø800	18-WD38N
P1A	ø800	12-WD32N
P2	ø900	22-WD38N
P2A	ø900	14-WD32N

杭頭詳細図 1:30

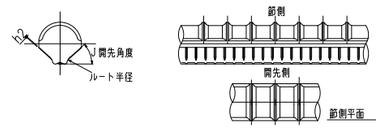


杭頭補強に関する特記

1．使用材料

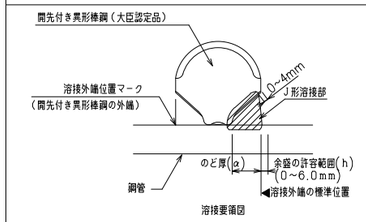
鉄筋

開先付き異形棒鋼（大臣認定品）



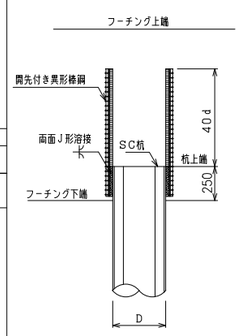
呼び名	種類の記号	J開先角度	J開先ルート半径	J開先 凸部高さ（h2）
WD32N、WD38N	WSD390（SD390相当）	42.5±2.5°	8.0±1.0	0.5±0.2

2．溶接規準



溶接部長さの確認と溶接外端位置のマーキング	溶接部長さの確認と溶接ゲージ等を使用して、溶接外端位置を鋼管にマーキング	溶接縦目	形式 ：部分溶込み溶接 開先形状 ：J形開先
溶接長(L)（有効溶接長＋のど厚の2倍）	WD32N L≧150mm以上 WD38N L≧160mm以上	適用鋼種及び鋼材板厚	鋼材材質 490N/mm²級
余盛（h）（余盛位置マークまで溶接）	開先付き異形棒鋼の外端からの許容範囲（h） 0mm≦h≦6mm		WD32N 6mm以上
有効のど厚（α）	WD32N α=10mm WD38N α=12mm		WD38N 8mm以上

3．杭頭部の標準納まり



4．品質管理

- 溶接長（L）、余盛（h）、有効のど厚（α）寸法を確認のこと。
- カラーチェックにより表面の傷の有無を確認すること。

安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第129267号 高田 茂	新潟市建築部公共建築第1課	工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟建設工事	図名 基礎リスト		
			年月日 2013.03.01	縮尺 A1:1/50, A3:1/100	図面番号 B-21

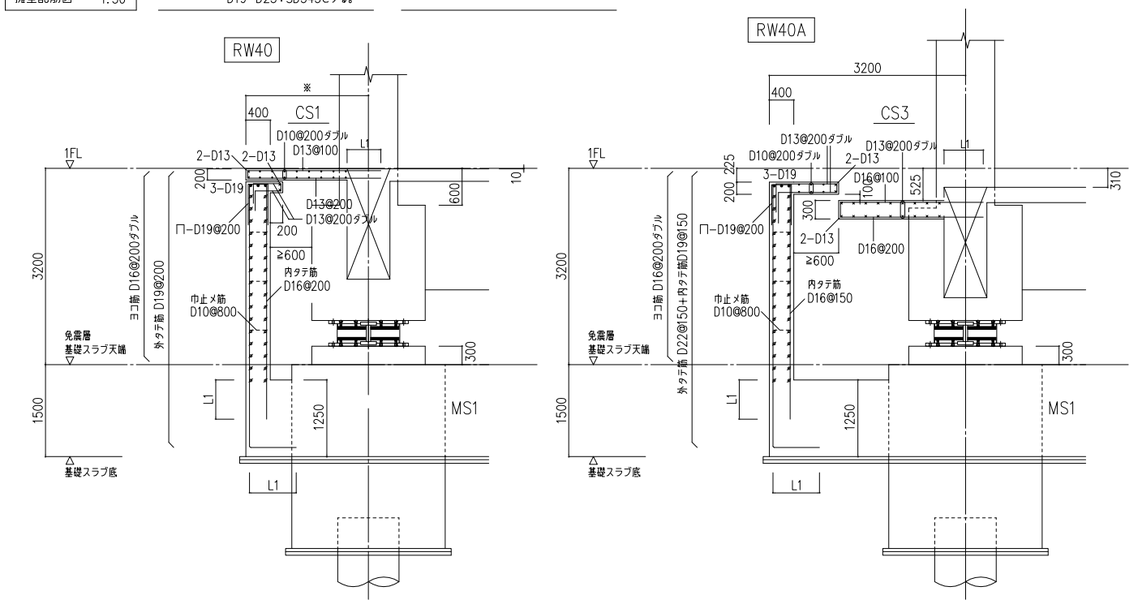
共通事項（特記なき限り）

- 鉄筋材質は、D10~D16：SD295A
  D19~D25：SD345とする。
- 鉄筋継手は　重ね継手　とする。

特記なき限り

- 直押え部分は　スラブ天端増打 ⓕ10　とする。
- 土に接するスラブ下地業は 捨てコンクリート ⓕ50　とする。
- 鉄筋継手は　重ね継手　とする。
- スラブ段差・範囲・寸法は、仕上類、開口、および設備等の取合いを考慮し決定すること。必要に応じて小梁等で補強できるものとする。
  小梁、スラブなどの各種部材の位置、範囲は、監督員の承認を得て軽微変更の扱いとなる対象の範囲内あるいは補強方針に準じて行なうものとする。

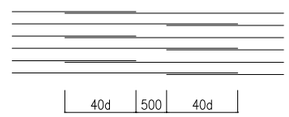
擁壁配筋図　1:50



マットスラブ重ね継手要領

共通事項（特記なき限り）

- 重ね継手は　1ヶ所に集中することなく相互にずらして設けること。
- ずらし方は　下図による。
- 鉄筋量の多い側を所定位置より延長すること。
- 原則として　A・D部範囲、継手範囲では　継手を設けない。
  やむを得えない場合は　監督員と協議し、最終決定すること。

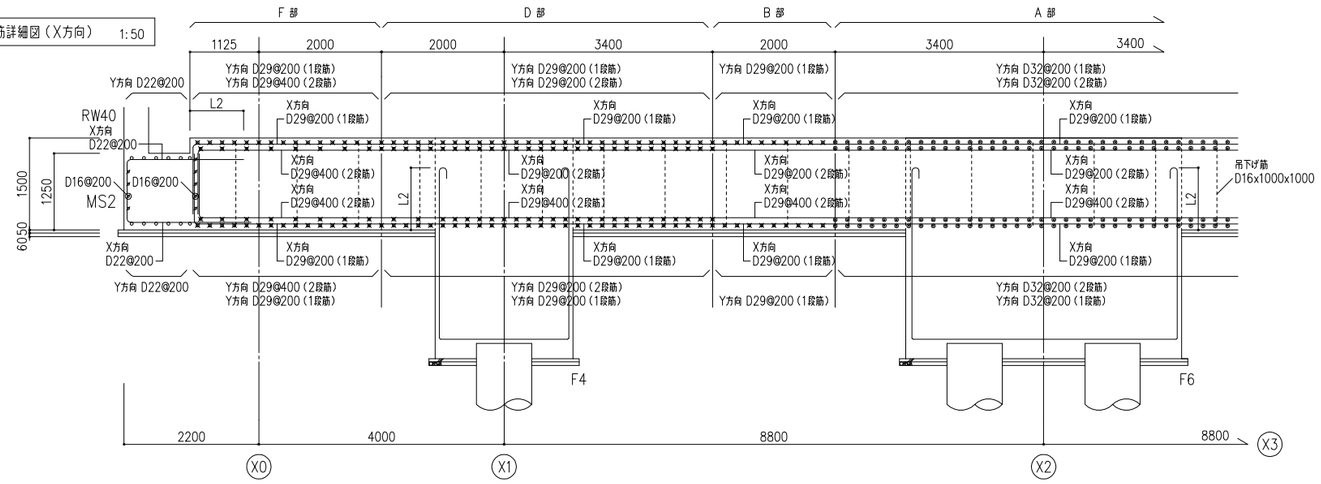


マットスラブリスト

符号	版厚	部位	凡例	層	X方向	Y方向	備考
MS1	1500	A部		上端筋	D29 @200 （一段筋） D29 @200 （二段筋）	D32 @200 （一段筋） D32 @200 （二段筋）	
				下端筋	D29 @200 （一段筋） D29 @400 （二段筋）	D32 @200 （一段筋） D32 @200 （二段筋）	
		B部		上端筋	D29 @200 （一段筋） D29 @200 （二段筋）	D29 @200 （一段筋）	
				下端筋	D29 @200 （一段筋） D29 @400 （二段筋）	D29 @200 （一段筋）	
		C部		上端筋	D25 @200 （一段筋）	D29 @200 （一段筋）	
				下端筋	D25 @200 （一段筋）	D29 @200 （一段筋）	
		D部		上端筋	D29 @200 （一段筋） D29 @400 （二段筋）	D29 @200 （一段筋） D29 @200 （二段筋）	
				下端筋	D29 @200 （一段筋） D29 @400 （二段筋）	D29 @200 （一段筋） D29 @200 （二段筋）	
		E部		上端筋	D29 @200 （一段筋）	D29 @200 （一段筋） D29 @400 （二段筋）	
				下端筋	D29 @200 （一段筋）	D29 @200 （一段筋） D29 @400 （二段筋）	
		F部		上端筋	D29 @200 （一段筋） D29 @400 （二段筋）	D29 @200 （一段筋） D29 @400 （二段筋）	
				下端筋	D29 @200 （一段筋） D29 @400 （二段筋）	D29 @200 （一段筋） D29 @400 （二段筋）	
MS2	1250			上端筋	D22 @200 （一段筋）	D22 @200 （一段筋）	
				下端筋	D22 @200 （一段筋）	D22 @200 （一段筋）	
MS3	1500			上端筋	D25 @200 （一段筋）	D32 @200 （一段筋）	
				下端筋	D25 @200 （一段筋）	D32 @200 （一段筋）	

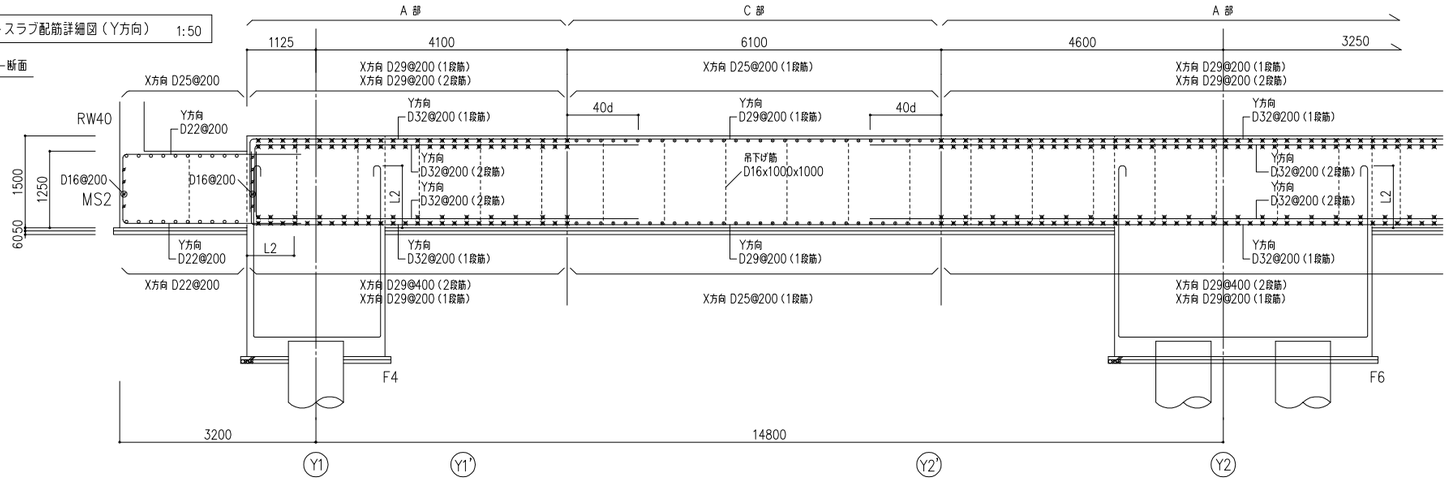
マットスラブ配筋詳細図（X方向）　1:50

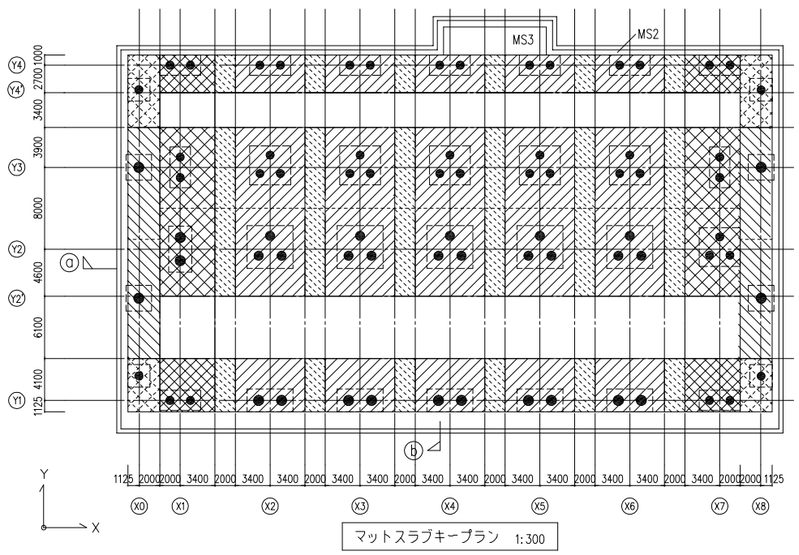
ⓐ－断面



マットスラブ配筋詳細図（Y方向）　1:50

ⓑ－断面





マットスラブキープラン　1:300

杭芯ずれ時のマットスラブ配筋変更要領

- 杭が300mm以下で芯ずれを生じた場合は、下表に従い、マットスラブの配筋を変更する。（杭芯ずれ100mm以下の場合は変更不要とする。）
- 補強範囲は偏心が生じた杭周囲の下記該当部位一帯とする。ただし、範囲が大きい箇所については ---- 印までの範囲とする。

部位	方向	対象梁	杭芯ずれ量（e）　100mm<e≦200mm	杭芯ずれ量（e）　200mm<e≦300mm
A部	X方向	上端筋	－	D29@150（一段筋）+D29@150（二段筋）
		下端筋	D29@200（一段筋）+D29@200（二段筋）	罰左
	Y方向	上端筋	－	D32@150（一段筋）+D32@150（二段筋）
		下端筋	－	D32@150（一段筋）+D32@150（二段筋）
D部	X方向	上端筋	D29@200（一段筋）+D29@200（二段筋）	罰左
	Y方向	上端筋	－	D29@150（一段筋）+D29@150（二段筋）
E部	Y方向	上端筋	D29@200（一段筋）+D29@200（二段筋）	罰左
		下端筋	D29@200（一段筋）+D29@200（二段筋）	罰左
F部	Y方向	上端筋	D29@200（一段筋）+D29@200（二段筋）	罰左

安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第129267号　高田　茂	新潟市建築部公共建築第1課	工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎　庁舎棟建設工事	図名 マットスラブリスト、擁壁リスト
		年月日 2012.11.12	縮尺 A1:1/50, A3:1/100　図面番号 B-22

免震材料仕様書

1. 一般事項

(1) 用語の定義

用語の定義は事業契約書に準じる。

建物所有者	：新潟市
建物設計者	：安井・太陽設計共同体
工事監理者	：未定
建物施工者	：未定
建物管理者	：建物所有者もしくは　建物所有者に委託された者
免震建物点検技術者	：建物所有者により委託された、免震構造に対する深い知識があり免震建物の維持管理経験がある第三者機関

(2) 免震材料

・免震材料は国土交通省大臣認定品とする。

(3) 免震材料製作メーカー

・免震材料の製作メーカーの選定においては、工事監理者の承諾を受けること。

2.免震層クリアランス

・免震層のクリアランスは下記とする。（躯体・仕上げ・設備全共通）
水平方向（全方向）600mm
鉛直方向50mm

3. 設計条件

・各免震材料の特性のばらつきは材料リストに記載する値とする。
※設計に採用するばらつきの値は、各製品の合計値の最大値を上限値、　最小値を下限値とする。

4. 施工・検査（建物竣工までの品質管理体制）

・本建物に使用する免震材料の製造時における品質管理は、免震材料の製造者の責任において自主管理を行い、適宜、建物担当者、工事監理者、建物施工者が確認すること。
・免震材料の製造者は、材料の出荷前に「免震構造施工標準2009（JSSI）」および「新潟市消防局・中央消防署庁舎　構造性能評価資料」に基づく製品検査を実施し、製品の形状・力学的性能について建物設計者の承諾を受ける。更に、材料の寸法形状・外観等について建物施工者の確認等について建物設計者の確認を受けること。
・性能検査は、本工事使用実績による全数検査を原則とする。
・性能検査では、所定のばらつき範囲内である事を確認し、ばらつきに応じ、免震層の偏心率を小さくする配置を提示すること。
・免震材料の現場受入検査は、建物施工者が実施すること。
・免震材料の現場受入後の保管、設置取付け工事の施工管理、材料据え付け後の施工中の養生及び施工中の養生及び維持管理は建物施工者の責任において行い、建物施工者が確認する。
また建物設計者がその状況を確認すること。
・建物竣工時における免震材料及び、その他の免震構造の主要な部分について、本建物が設計意図に沿って竣工したことを建物設計者、工事監理者、建物施工者が確認する。更に、建物所有者の確認も受けること。
・その他免震材料の施工、検査基準等は日本免震構造協会（JSSI）の『免震構造施工標準2009』によること。

5. その他

(1) 注意書きの設置

・免震層及びその周辺部に、「免震建物であり、地震時に建物が可動すること及び可動部分に物を置かないこと」を示した注意書きを設置すること。設置箇所は工事監理者の指示による。

(2) 免震材料の設置

・免震材料据付用ジグ類、鉄骨建て方用ジグ、プレート類は適宜見込むこと。

(3) 計測器具の設置

・地震時の免震層変形および地震後の原点復帰の確認のためけがき変位記録計を計3箇所設置すること。
・地震後には、必要に応じてけがき板の取替えを行うこと。
・地震時の免震作動効果検証のため、小型地震計（応用地震計測（株）Eキャッチャー相当品）を2台設置する。
設置箇所についてはマットスラブ上部（1台）、1階床上部（1台）とする。設置箇所については監理者と協議の上、最終決定すること。

(4) 免震材料の取替え

・何らかの理由で免震材料の改修・取替えを行う場合には、交換する免震材料の数・位置等によりジャッキアップの箇所や上下構造体の応力・変形等の検討を行うこと。
必要に応じて適切な補強を施すこと。

(5) その他

・免震部材の納期等に配慮して、工事工程を計画すること。

免震材料維持管理仕様書

特記なき限り時期、方法、点検箇所、管理値は日本免震構造協会「免震建物の維持管理基準−2010−」による。

1. 建物竣工までの品質管理体制

建物が竣工するまでの免震装置の製造および現場据え付け、建物竣工までの工事中の品質管理および施工監理は以下の体制で実施する。

(1) 設計者、施工者、免震材料製造者
① 建物設計者　：安井・太陽設計共同体
② 工事監理者　：未定
③ 建物施工者　：未定
④ 免震材料製造者：未定

(2) 建物竣工までの品質管理体制

・本建物に使用する免震材料の製造時における品質管理は、免震材料の製造者の責任において自主管理を行い、適宜、建物設計者、工事監理者、建物施工者が確認する。
・免震材料の製造者は材料の出荷前に予め決められた製品検査を実施し、製品の形状・力学的性能について設計者の承認を受ける。さらに、材料の寸法形状・外観等、施工者の確認を受ける。
・免震材料の現場受入検査は、施工者が実施する。
・免震材料の現場受入後の保管、設置取付け工事の施工管理、材料据え付け後の施工中の養生および維持管理は施工者の責任において行い、施工監理者が確認する。また建物設計者はその状況を確認する。
・建物竣工時における免震材料および、その他の免震構造の主要な部分について、本建物が設計意図に沿って竣工したことを建物設計者、工事監理者、建物施工者が確認する。さらに建物所有者の確認も受ける。

2. 建物竣工後の維持管理体制（参考　ただし、aのみは本工事とする）

(1) 点検の種別と実施時期

点検は目的に合わせて以下のように分類され、必要な時期に実施する。各検査において、記録を残し、建物管理者が保管するものとする。

a.竣工時検査
　実施者　：建物施工者

b.定期点検
　定期点検（予備）：異常の早期発見のための目視点検（年1回）
　実施者　：建物管理者（もしくは免震建物点検技術者）
　定期点検　：専門技術者による目視および計測（竣工後5年、10年、以後10年毎）
　実施者　：免震建物点検技術者

c.応急点検　：大きな地震や暴風を受けた場合の点検
　実施者　：免震建物点検技術者
　実施時期
　① 概ね気象庁震度階v強以上の地震。
　② 概ね平均風速30m/sを超える強風。
　③ 水害や火災が免震層に及んだ場合。
　④ 定期点検で異常が発見された場合。

d.詳細点検
　実施者　：免震建物点検技術者

(2) 維持管理体制

維持管理は以下の体制で実施する。

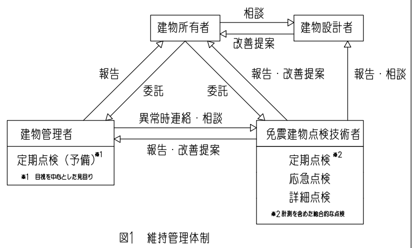


図1　維持管理体制

・建物所有者は、建物設計者あるいは建物施工者から維持管理に関する提案を受け、建物管理者（建物所有者が兼ねる場合もある。以下同様）、免震建物点検技術者へ委託し、『定期点検』異常時の『応急点検』『詳細点検』を行う。建物管理者、免震建物点検技術者からの点検結果の報告を受け、必要に応じて改善などの処置を実施する。
・建物管理者は、地震、火災、水害などの応急点検の必要が生じた場合、免震建物点検技術者に連絡する。
・建物設計者は、建物所有者からの依頼によって、その代理人として相談などを含め維持管理に協力する。
・免震建物点検技術者は、点検を実施した点検結果の判定を行い、結果を建物所有者・建物管理者に報告する。災害発生時には建物管理者からの連絡の有無にかかわらず応急点検の必要性を判断し、建物所有者・建物管理者の承認のもとに応急点検を実施し、必要におぶじて詳細点検を実施し、改善処置を提案する。

3. 残留変形の許容値

・地震等で建物位置が施工時より50mm以上残留変位した場合、必要に応じてジャッキ等より変位復帰させること。

4. 品質管理および製品検査

・免震材料の製造者は、各製作工程において品質・寸法・外観・性能を検査し、検査成績書（各材料の材質証明書も含む）を作成すること。
・設計者及び施工者は、免震・減衰材料製造メーカーに於いて下記の項目の製品検査を行う。
(1) 製品確認検査
(2) 材料確認検査
(3) 寸法検査
(4) 表面処理検査

位置		点検項目		調査方法	箇所	竣工時検査要領		定期検査要領（予備）（1回/年程度）（参考）		定期検査要領（竣工後5・10年、以降10年毎）（参考）	
						管理値	処置	管理値	処置	管理値	処置
免震材料	積層ゴム支承	被覆ゴムの外観	変色	目視	全数	異常がない 異物の付着がない	調査のうえ対処	異常がない 異物の付着がない	調査のうえ対処	異常がない 異物の付着がない	調査のうえ対処
			傷	目視 計測		深さd<被覆ゴム厚さ	管理値以内：補修 管理値以上：調査	長さ、深さとも10mm程度	管理値以内：補修 管理値以上：調査	長さ、深さとも10mm程度	管理値以内：補修 管理値以上：調査
		鋼材部の状況	発錆	目視		浮錆、赤錆が見当たらない	塗装の修復	浮錆、赤錆が見当たらない	塗装の修復	浮錆、赤錆が見当たらない	塗装の修復
			取付部	目視		ボルト、ナットのマーキングにズレがない	締直し 再マーキング	ボルト、ナットのマーキングにズレがない	締直し 再マーキング	ボルト、ナットのマーキングにズレがない	締直し 再マーキング
		積層ゴムの変位	鉛直・水平変位	計測		異常な変位がない(±5mm以下)	調査のうえ対処	－	－	異常な変位がない(鉛直±5mm以下、水平±50mm以下)	計測※1
			水平精度	計測		異常な傾きがない(1/400以下)	初期値計測	－		異常な傾きがない(1/300以下)	
	弾性すべり支承	すべり板	汚れ、異物	目視	全数	摩擦面に有害な汚れ、異物の付着	汚れ、異物の除去	摩擦面に有害な汚れ、異物の付着	汚れ、異物の除去	摩擦面に有害な汚れ、異物の付着	汚れ、異物の除去
			発錆、傷	目視 計測		摩擦に影響を与える錆、傷の有無	錆、傷の除去	摩擦に影響を与える錆、傷の有無	錆、傷の除去	摩擦に影響を与える錆、傷の有無	錆、傷の除去
		装置の変位	鉛直変形	目視		隙間が発生していない	調査のうえ対処 初期値計測	－		浮錆、赤錆が見当たらない	計測※1
			水平変形	目視		異常な変位がない(±5mm以下) ズレがない		－		ボルト、ナットのマーキングにズレがない	
		鋼材部の状況	発錆	計測		浮錆、赤錆が見当たらない	塗装の補修	浮錆、赤錆が見当たらない	塗装の補修	浮錆、赤錆が見当たらない	塗装の補修
			ボルト・ナット	計測		ボルト、ナットのマーキングにズレがない	締め直し 再マーキング	ボルト、ナットのマーキングにズレがない	締め直し 再マーキング	ボルト、ナットのマーキングにズレがない	締め直し 再マーキング
		防塵カバー	損傷・はずれ	目視		損傷・はずれがない	調査のうえ対処	損傷・はずれがない	調査のうえ対処	損傷・はずれがない	調査のうえ対処
	直動転がり支承	転がり面	汚れ・異物付着	目視	全数	異常がない 異物の付着がない	調査のうえ対処	異常がない 異物の付着がない	調査のうえ対処	異常がない 異物の付着がない	調査のうえ対処
			発錆	目視		浮錆、赤錆が見当たらない グリースの充填確認	塗装の修復	浮錆、赤錆が見当たらない グリースの充填確認	塗装の修復 グリースの補充	浮錆、赤錆が見当たらない グリースの充填確認	塗装の修復 グリースの補充
			傷	目視		損傷がない	補修・取替え	損傷がない	補修・取替え	損傷がない	補修・取替え
		装置の変位	鉛直・水平変位	計測		異常な変位がない(±5mm以下) 可動長が600mm以上あること	調査のうえ対処 初期値計測	－	－	異常な変位がない(鉛直±2mm以下、水平±50mm以下)	計測※1
			水平精度	計測		異常な傾きがない(1/500以下)		－		異常な傾きがない(1/300以下)	
			ねじれ角度	計測		異常なねじれ角がない (1/200以下)		－		異常なねじれ角がない (1/200以下)	
		鋼材部の状況	発錆	目視		浮錆、赤錆が見当たらない	塗装の修復	浮錆、赤錆が見当たらない	塗装の修復	浮錆、赤錆が見当たらない	塗装の修復
			ボルト・ナット	目視		ボルト、ナットのマーキングにズレがない	締直し 再マーキング	ボルト、ナットのマーキングにズレがない	締直し 再マーキング	ボルト、ナットのマーキングにズレがない	締直し 再マーキング
		防塵カバー	損傷・はずれ	目視		損傷・はずれがない	調査のうえ対処	損傷・はずれがない	調査のうえ対処	損傷・はずれがない	調査のうえ対処
	オイルダンパー	ピストンロッドの外観	本体	目視	全数	形状の異常または傷が見当たらない	調査のうえ対処	形状の異常または傷が見当たらない	調査のうえ対処	形状の異常または傷が見当たらない	調査のうえ対処
			発錆	目視		浮錆、赤錆が見当たらない	調査のうえ塗装の修復	浮錆、赤錆が見当たらない	調査のうえ塗装の修復	浮錆、赤錆が見当たらない	調査のうえ塗装の修復
			取付部	目視		ボルト、ナットのマーキングにズレがない	調査のうえ、締直し、再マーキング	ボルト、ナットのマーキングにズレがない	調査のうえ、締直し、再マーキング	ボルト、ナットのマーキングにズレがない	調査のうえ、締直し、再マーキング
		ピストンロッドの変位	鉛直・水平変位	計測		異常な変位がない(±5mm以下)	調査のうえ対処 初期値計測	－	－	異常な変位がない(鉛直±5mm以下、水平±50mm以下)	計測※1
			水平精度	計測		異常な傾き・反りがない 傾き1/300以下 反り1/400以下かつ4mm以下		－		異常な傾き・反りがない 傾き1/200以下 反り1/300以下かつ5mm以下	
		オイル	油漏れ	目視		滴下がない	メーカーへ問い合わせ	滴下がない	メーカーへ問い合わせ	滴下がない	メーカーへ問い合わせ
		減衰	減衰係数	確認		製品検査時に数値確認		書類による数値確認	必要に応じて計測	製品検査時に数値確認	必要に応じて計測
免震層・建物外周部	建物	周辺環境	クリアランス	計測 目視	外周免震層	規定の寸法(水平600mm以上、鉛直50mm以上)を確保している 可動範囲内に障害物がない エキスパンション状況確認	整備.除去 初期値計測	規定の寸法(水平600mm以上、鉛直50mm以上)を確保している 可動範囲内に障害物がない エキスパンション状況確認	整備.除去	規定の寸法(水平600mm以上、鉛直50mm以上)を確保している 可動範囲内に障害物がない エキスパンション状況確認	整備.除去
			位置標識	確認	建物	位置確認	位置確認	－	－	位置確認	位置確認
			建物位置	計測		位置確認	初期値計測	－		施工時より±50mm以下	計測※1
			不同沈下	計測		レベル確認		－		施工時より1/500以下	必要に応じて計測※1
	設備配管 配線免震材料	周辺状況	障害物	目視	免震層	可動範囲内に障害物がない	整備.除去	可動範囲内に障害物がない	整備.除去	可動範囲内に障害物がない	整備.除去
			可燃物	目視		可燃物がない		可燃物がない		可燃物がない	
			排水状況	目視		排水状況がよい	調査のうえ対処	排水状況がよい	調査のうえ対処	排水状況がよい	調査のうえ対処
設備配管・配線可撓部	設備配管	可撓	液体漏れ	目視	免震層	異常がない	管理者に報告	異常がない	管理者に報告	異常がない	管理者に報告
		継手部	傷.亀裂	目視		傷.亀裂がない		傷.亀裂がない		傷.亀裂がない	
	電気配線	変位	余長	確認		十分な余長がある		十分な余長がある		十分な余長がある	
		吸収部	アース	確認		設置確認		－		－	
その他	表示	表示板		確認	建物	設置確認	設置	設置確認	設置	設置確認	設置

※1　定期検査での計測は10%かつ3台以上とする。必要に応じてジャッキ等による変位復帰させること。
※2　弾性すべり支承の積層ゴム部は、積層ゴム支承の項に準ずる。
※3　上記規定の中で著しく不合理である場合は、日本免震構造協会「免震建物の維持管理基準−2010−」等規定の範囲内で監督員の承認を得た上で変更可とする。

免震材料リスト（支承材）

共通事項（特記なき限り）

・Khは積層ゴムの水平剛性、Kdは鉛プラグ入り積層ゴムの降伏後剛性（二次剛性）、Qdは鉛プラグ入り積層ゴムの降伏荷重およびμは摩擦係数を示す。
・製品のばらつきは、免震材料個々のばらつきとする。（　）内数値は免震層全体の平均の変動率とする。
・経年変化は、60年相当経過した場合の変動率とする。
・温度変化は基準温度（20℃）に対する0℃〜30℃を想定した場合の変化率とする。
・ばらつきの合計値は免震層全体を示す。
・表記する免震材料以外の採用は原則不可とする。やむ終えず特性値の異なる材料を使用する時は、監督員、工事監理者（設計者）の承諾を得ること。
・免震材料取付け部材（アンカーボルトなど）は、施工者や各免震材料製造メーカーの材料調達その他を考慮して決定するものとする。ただし、免震層および免震材料の仕様を満足し、監督員、工事監理者（設計者）の承諾を得て最終決定すること。
・認定範囲内で、屋外仕様とする。（亜鉛めっき相当）

鉛プラグ入り積層ゴム			
免震材料	記号	L90	L100
	ゴム種別	G4	G4
	ゴム外径（mm）	900φ	1000φ
	ゴム総高さ（mm）	200mm程度	200mm程度
	鉛径（mm）	180φ	200φ
	製品総高さH（mm）	400mm程度	400mm程度
取付部		取付部は、変形量600mm 引張強度1N/mm²対応とする。	
備考			

弾性すべり支承			
免震材料	記号	SL1	SL2
	ゴム種別	G4またはG6またはG8	G4またはG6またはG8
	ゴム外径（mm）	800φ、800□、900φ	900φ、900□、1000φ
	ゴム総高さ（mm）	40mm程度	40mm程度
	摩擦係数	0.01〜0.02	0.01〜0.02
	製品総高さH（mm）	200mm程度	200mm程度
取付部		取付部は、変形量600mm	
備考			

直動転がり支承			
免震材料	記号	CL38T	CL50
	呼称	CLB385H	CLB500
	静定格圧縮強度（kN）	3775	4903
	短期引張強度（kN）	1366（短期引張対応）	588
	限界変形量	600mm	
	製品総高さH（mm）	600mm程度	670mm程度
取付部		取付部は、変形量600mm対応とする。	
備考			

免震材料リスト（オイルダンパー）

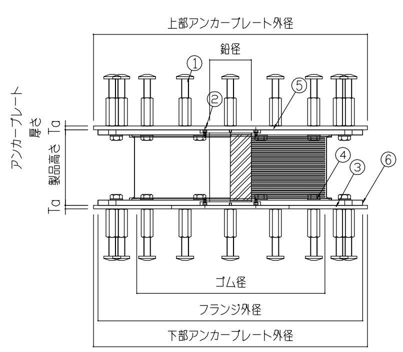
共通事項（特記なき限り）

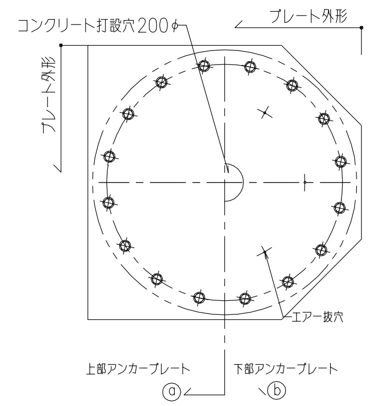
・免震材料取付け部材（アンカーボルトなど）は、施工者や各免震材料製造メーカーの材料調達その他を考慮して決定するものとする。
ただし、免震層および免震材料の仕様を満足し、監督員、工事監理者（設計者）の承諾を得て最終決定すること。
・認定範囲内で、屋外仕様とする。別途、ボルト部にシリコンを塗布すること。

オイルダンパー		
減衰材料	記号	OD1
	種別	オイルダンパー
	減衰力	1000kN
	ストローク	1200mm以上
備考		製造ばらつき　±15%

鉛プラグ入り積層ゴム支承（L90、L100）　※下記のいずれかを使用すること。

認定番号：MVBR−0447



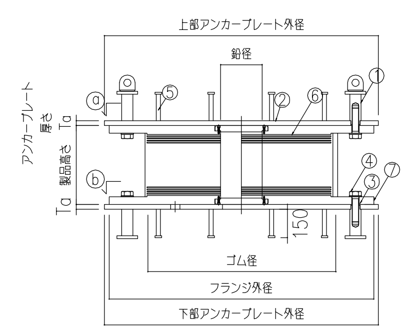


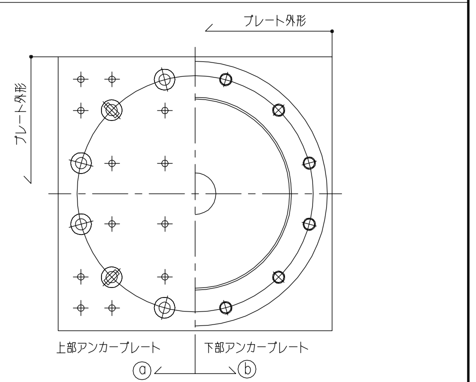
アンカープレート材料表

番号	名称	材質	備考
1	定着ボルト	SS400	
2	上部アンカープレート	SS400	
3	下部アンカープレート	SS400	
4	アンカーボルト	−	強度区分6.8
5	上部フランジプレート	SM490A	
6	下部フランジプレート	SM490A	

記号			L90		L100	
製品番号			LH90G4A		LH100G4A	
上部アンカープレート	プレート外形	(mm)	1300×1300		1450×1450	
	プレート厚さ	(mm)	19		19	
	アンカースタッド	(mm)	−		−	
	アンカーボルト	(mm)	16−M30		16−M36	
	定着ボルト	(個)	16（M30用）		16（M36用）	
下部アンカープレート	プレート外形	(mm)	1300×1300		1450×1450	
	プレート厚さ	(mm)	19		19	
	アンカースタッド	(mm)	−		−	
	アンカーボルト	(mm)	16−M30		16−M36	
	定着ボルト	(個)	16（M30用）		16（M36用）	
ばらつき			Kd（+側）	Kd（−側）	Qd（+側）	Qd（−側）
	製造ばらつき		+15.0%（+10%）	−15.0%（−10%）	+15.0%（+10%）	−15.0%（−10%）
	経年変化		+10.0%			
	温度変化		+6.0%	−3.0%	+23.0%	−11.0%
	合計		+26.0%	−13.0%	+33.0%	−21.0%

認定番号：MVBR−0355





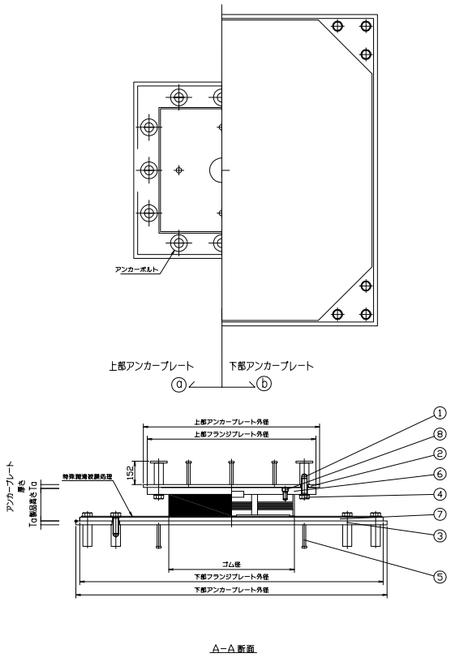
アンカープレート材料表

番号	名称	材質	備考
1	袋ナット	SS400	
2	上部アンカープレート	SS400	
3	下部アンカープレート	SS400	
4	アンカーボルト	−	強度区分6.8
5	アンカースタッド	SS400相当	
6	上部フランジプレート	SS400	
7	下部フランジプレート	SS400	

記号			L90		L100	
製品番号			LRB−R−4090180200−H		LRB−R−4100200200−H	
上部アンカープレート	プレート外形	(mm)	1350×1350		1450×1450	
	プレート厚さ	(mm)	25		25	
	アンカースタッド	(mm)	24−22φ		28−22φ	
	アンカーボルト	(mm)	12−M30		12−M36	
	袋ナット	(個)	12（M30用）		12（M36用）	
下部アンカープレート	プレート外形	(mm)	1350×1350		1450×1450	
	プレート厚さ	(mm)	25		25	
	アンカースタッド	(mm)	24−22φ		28−22φ	
	アンカーボルト	(mm)	12−M30		12−M36	
	袋ナット	(個)	12（M30用）		12（M36用）	
ばらつき			Kd（+側）	Kd（−側）	Qd（+側）	Qd（−側）
	製造ばらつき		+15.0%（+10%）	−15.0%（−10%）	+15.0%（+10%）	−15.0%（−10%）
	経年変化		+10.0%		+5.0%	
	温度変化		+5.6%	−2.7%	+19.2%	−8.4%
	合計		+25.6%	−12.7%	+34.2%	−18.4%

弾性すべり支承（SL1、SL2）＊下記のいずれかを使用すること。

認定番号：MVBR−0399



A−A 断面

アンカープレート材料表

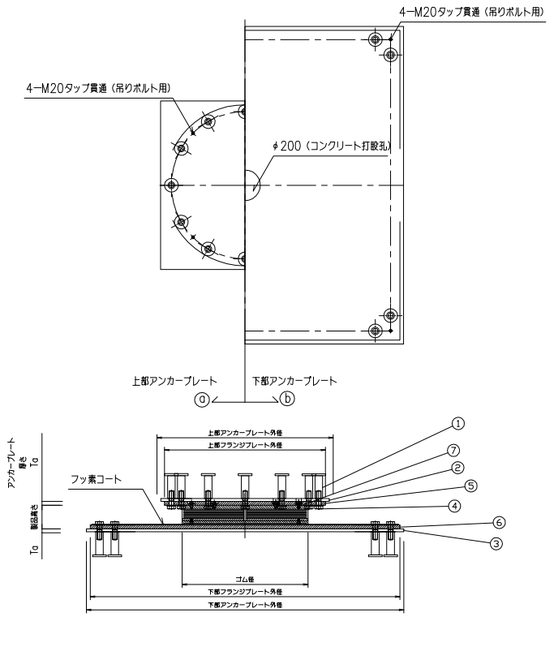
番号	名称	材質	備考
1	袋ナット	SS400	
2	上部アンカープレート	SS400	
3	下部アンカープレート	SS400	
4	アンカーボルト	−	強度区分6.8
5	アンカースタッド	SS400相当	
6	上部フランジプレート	SS400	
7	下部フランジプレート	SS400	
8	セットボルト	−	強度区分12.9

仕様

積層ゴム	G6 ゴム層総厚36mm
摩擦係数	μ＝0.01（定格の荷重，速度時）
移動量（ストローク）	±600mm

記号		SL1	SL2
製品番号		SSR−H−6080S36	SSR−H−6090S36
上部アンカープレート	プレート外形 (mm)	1150×1150	1250×1250
	プレート厚さ (mm)	19	19
	アンカースタッド (mm)	4−22φ	4−22φ
	アンカーボルト (mm)	12−M36	12−M36
	袋ナット (個)	12（M36用）	12（M36用）
下部アンカープレート	プレート外形 (mm)	2030×2030	2130×2130
	プレート厚さ (mm)	25	25
	アンカースタッド (mm)	4−22φ	4−22φ
	アンカーボルト (mm)	12−M36	12−M36
	袋ナット (個)	12（M36用）	12（M36用）
ばらつき		K1（＋側） / K1（−側） / μ（＋側） / μ（−側）	
	製造ばらつき	+30.0% / −30.0% / +30.0% / −30.0%	
	経年変化	+15.0%	
	温度変化	+6.0% / −3.0%	
	その他ばらつき	+17.0% / −11.0%	
	合計	+51.0% / −33.0% / +47.0% / −41.0%	

認定番号：MVBR−0435



アンカープレート材料表

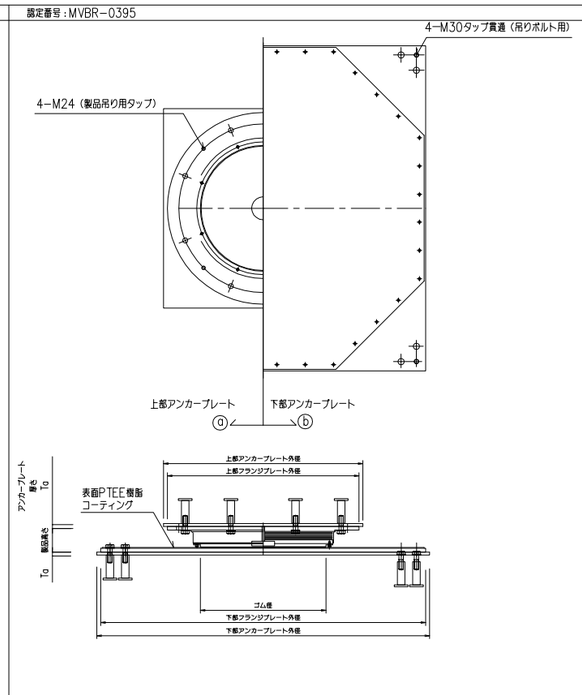
番号	名称	材質	備考
1	袋ナット	SS400	
2	上部アンカープレート	SS400	
3	下部アンカープレート	SS400	
4	アンカーボルト	−	強度区分6.8
5	上部フランジプレート	SS400	
6	下部フランジプレート	SS400	
7	セットボルト	SUS304	

仕様

積層ゴム	G8 ゴム層総厚40mm程度
摩擦係数	μ＝0.011（定格の荷重，速度時）
移動量（ストローク）	±600mm

記号		SL1	SL2
製品番号		SC80−800−6×7	SC80−900−8×5
上部アンカープレート	プレート外形 (mm)	1100×1100	1200×1200
	プレート厚さ (mm)	19	19
	アンカースタッド (mm)	−	−
	アンカーボルト (mm)	12−M27	12−M30
	袋ナット (個)	12（M27用）	12（M30用）
下部アンカープレート	プレート外形 (mm)	2070×2070	2170×2170
	プレート厚さ (mm)	19	19
	アンカースタッド (mm)	−	−
	アンカーボルト (mm)	8−M30	12−M30
	袋ナット (個)	8（M30用）	12（M30用）
ばらつき		K1（＋側） / K1（−側） / μ（＋側） / μ（−側）	
	製造ばらつき	+20.0% / +20.0% / +30.0% / +30.0%	
	経年変化	+10.0%	
	温度変化	+15.0% / −5.0%	
	その他ばらつき		
	合計	+45.0% / −25.0% / +35.0% / −35.0%	

認定番号：MVBR−0395



アンカープレート材料表

番号	名称	材質	備考
1	袋ナット	SS400	
2	上部アンカープレート	SS400	
3	下部アンカープレート	SS400	
4	アンカーボルト	−	強度区分6.8
5	アンカースタッド	SS400相当	
6	上部フランジプレート	SS400	
7	下部フランジプレート	SS400	

仕様

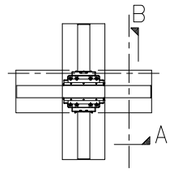
積層ゴム	G4 ゴム層総厚40mm程度
摩擦係数	μ＝0.02（定格の荷重，速度時）
移動量（ストローク）	±600mm

記号		SL1	SL2
製品番号		SP090G4	SP100G4
上部アンカープレート	プレート外形 (mm)	1300×1300	1400×1400
	プレート厚さ (mm)	19	19
	アンカースタッド (mm)	−	−
	アンカーボルト (mm)	8−M33	8−M36
	袋ナット (個)	8（M33用）	8（M36用）
下部アンカープレート	プレート外形 (mm)	2170×2170	2270×2270
	プレート厚さ (mm)	19	19
	アンカースタッド (mm)	−	−
	アンカーボルト (mm)	8−M36	8−M36
	袋ナット (個)	8（M36用）	8（M36用）
ばらつき		K1（＋側） / K1（−側） / μ（＋側） / μ（−側）	
	製造ばらつき	+30.0% / +30.0% / +30.0% / +30.0%	
	経年変化	+10.0%	
	温度変化	+6.0% / −3.0%	
	合計	+46.0% / −33.0% / +30.0% / −30.0%	

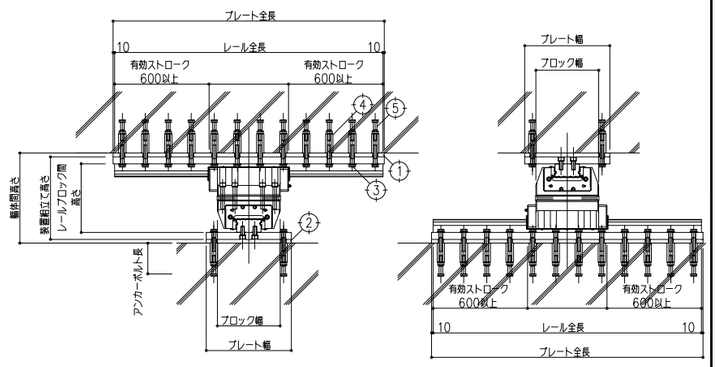
直動転がり支承（C38T、C50）

認定番号：MVBR−0372、MVBR−0373、MVBR−0374

番号	部材名・規格
①	＊上アンカープレート
②	＊下アンカープレート
③	プレート固定ボルト（強度区分10.9 JIS規格品）
④	＊長丸ナット ＊栓ボルト（C38Tは定着板＋アンカーボルトとする。）
⑤	＊アンカーボルト（強度区分10.9 JIS規格品）



KEY PLAN



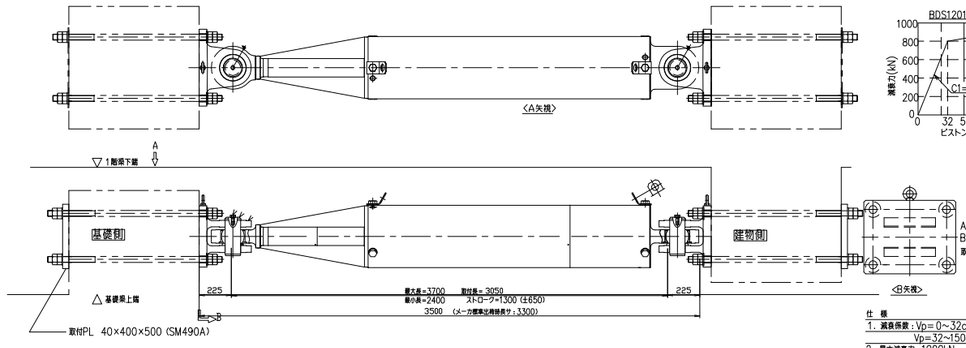
A矢視　　B矢視

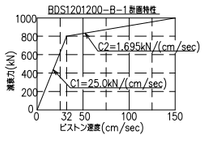
記号		C38T	C50
製品番号		CLB385H＋型	CLB500＋型
上部アンカープレート	プレート外形 (mm)	1770×555	1870×630
	プレート厚さ (mm)	25	32
	アンカースタッド (mm)	−	−
	アンカーボルト (mm)	24−M24@150（L＝400mm以上）	24−M27@150
	定着板	PL−19×60×60（SS400）	−
下部アンカープレート	プレート外形 (mm)	1770×555	1870×630
	プレート厚さ (mm)	25	32
	アンカースタッド (mm)	−	−
	アンカーボルト (mm)	24−M24@150	24−M27@150
	定着板	PL−19×60×60（SS400）	−
ばらつき		μ（＋側） / μ（−側）	
	製造ばらつき	+20.0% / −20.0%	
	経年変化	+20.0%	
	温度変化		
	その他ばらつき	+35.0% / −5.0%	
	合計	+75.0% / −25.0%	

オイルダンパー（OD1）

＊下記のいずれかを使用すること。

認定番号：MVBR−0326　　記　号：OD1　　製品番号：BDS1201200−B−1

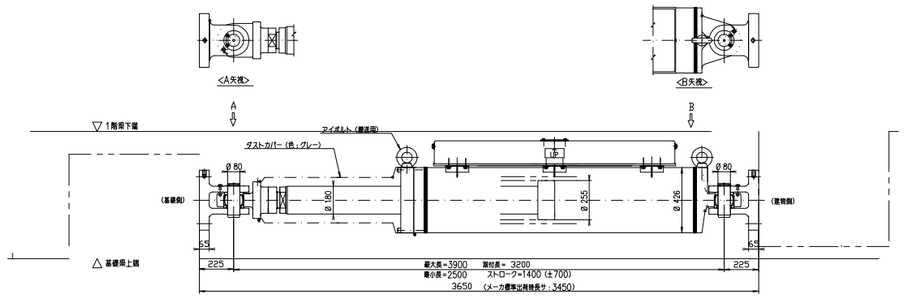


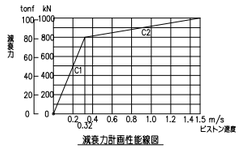


仕様

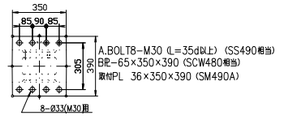
1. 減衰係数：Vp＝0〜32cm/sec範囲C1＝25.0kN/(cm/sec)
   Vp＝32〜150cm/sec範囲C2＝1.695kN/(cm/sec)
2. 最大減衰力：1000kN
3. リリーフ減衰力：800kN
4. 最大ピストン速度：Vp＝150cm/sec
5. 作動油：新日本石油(有)製ダンパオイルN10
6. 塗　装：フタル酸樹脂塗料(標準)

認定番号：MVBR−0407　　記　号：OD1　　製品番号：BM250−4C





減衰力速度性能線図



仕様

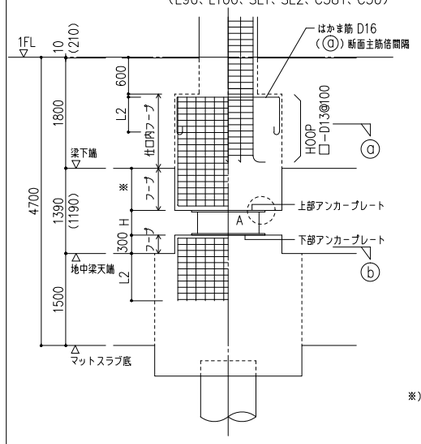
1. 減衰係数：Vp＝0〜32cm/sec範囲C1＝25.0kN/(cm/sec)
   Vp＝32〜150cm/sec範囲C2＝1.695kN/(cm/sec)
2. 最大減衰力：1000kN
3. リリーフ減衰力：800kN
4. 最大ピストン速度：Vp＝150cm/sec
5. 作動油：添加剤入精製鉱物油（ダンパオイル）
6. 塗　装：下塗 JIS K5674 鉛・クロムフリー錆止めペイント
   ：上塗 JIS K5572 フタル酸樹脂エナメル

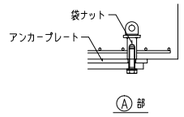
安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第129267号 高田 茂	新潟市建築部公共建築第1課	工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟建設工事	図名 免震材料リスト（2）	
			年月日 2012.11.12 / 縮尺 1:40（A3） 1:20（A1）	図面番号 B−24

免震材料基礎リスト　1:50

※ 印寸法は　増打コンクリート寸法を示し　免震部材の高さに応じて微調整を行うものとする。
※ フープは　溶接閉鎖型とする。
※ Ｈは　免震材料の高さ（目安）を示す。

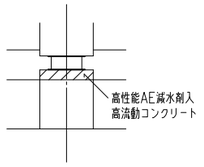
（L90、L100、SL1、SL2、C38T、C50）



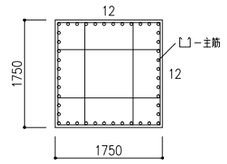
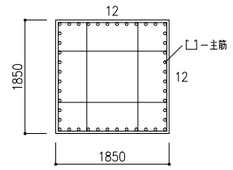
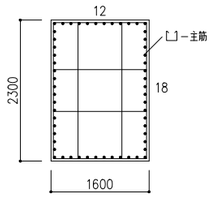
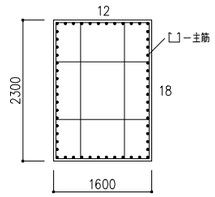
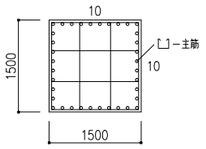
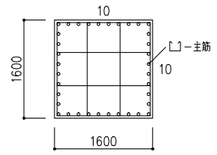
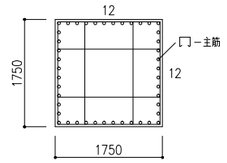
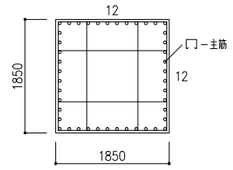
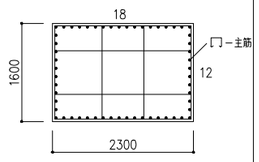
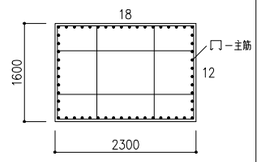
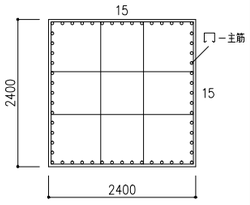
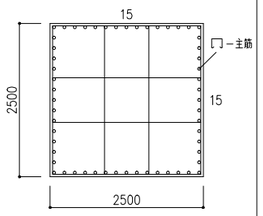


※）アイソレータの袋ナットおよびアンカーボルトは、
基礎フーチング鉄筋内にあり、かぶり厚さを十分に
確保できるよう、施工上の配慮を行うこと。

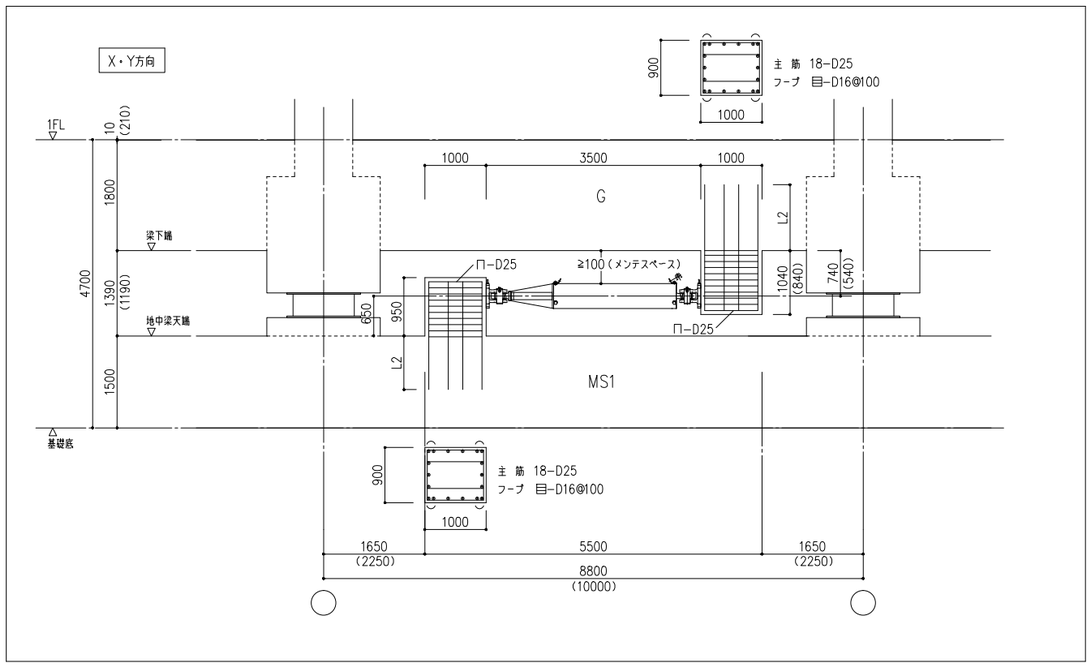
フーチングコンクリート区分



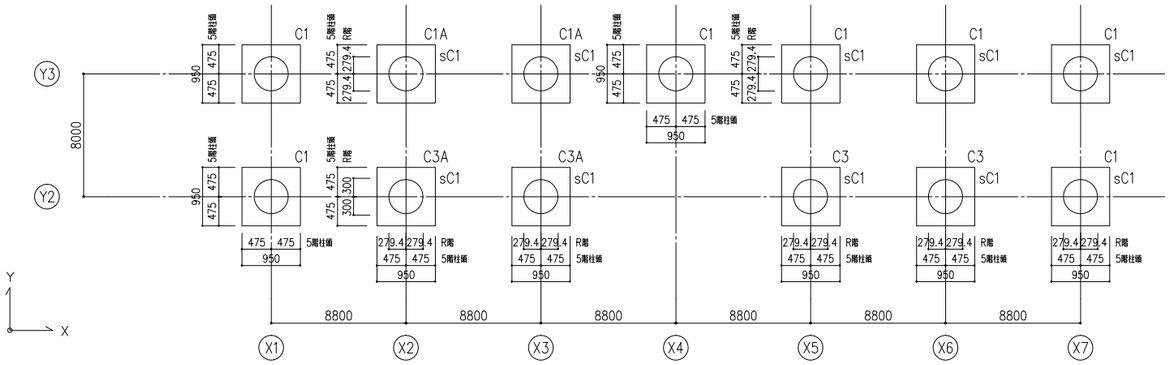
※）強度は　Fc36以上とし　コンクリート充填施工性
プラント実績を考慮し、試し練りによりは配合を決定する。

免震符号	L90	L100	C38T	C50	SL1	SL2
断面（B x D）(mm)	1750x1750	1850x1850	1600x2300	1600x2300	1500x1500	1600x1600
免震部材外径 (mm)	900φ	1000φ	630x1770	630x1870	800~900φ, 900□	900~1000φ, 1000□
H (mm)	400	400	600	670	260	260
ⓐ 断面						
主筋	44-D22	44-D22	56-D19	56-D19	36-D22	36-D22
フープ	田-D16@100	田-D16@100	田-D16@100	田-D16@100	田-D16@100	田-D16@100
仕口フープ	□-D16@100	□-D16@100	□-D16@100	□-D16@100	□-D16@100	□-D16@100
ⓑ 断面						
主筋	44-D22	44-D22	56-D19	56-D19	56-D22	56-D22
フープ	田-D16@100	田-D16@100	田-D16@100	田-D16@100	田-D16@100	田-D16@100
備考						

オイルダンパー基礎リスト　1:50



安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第129267号 高田 茂	新潟市建築部公共建築第1課	工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟建設工事	図名 免震材料基礎リスト		
			年月日 2013.03.01	縮尺 A1:1/50, A3:1/100	図面番号 B-25

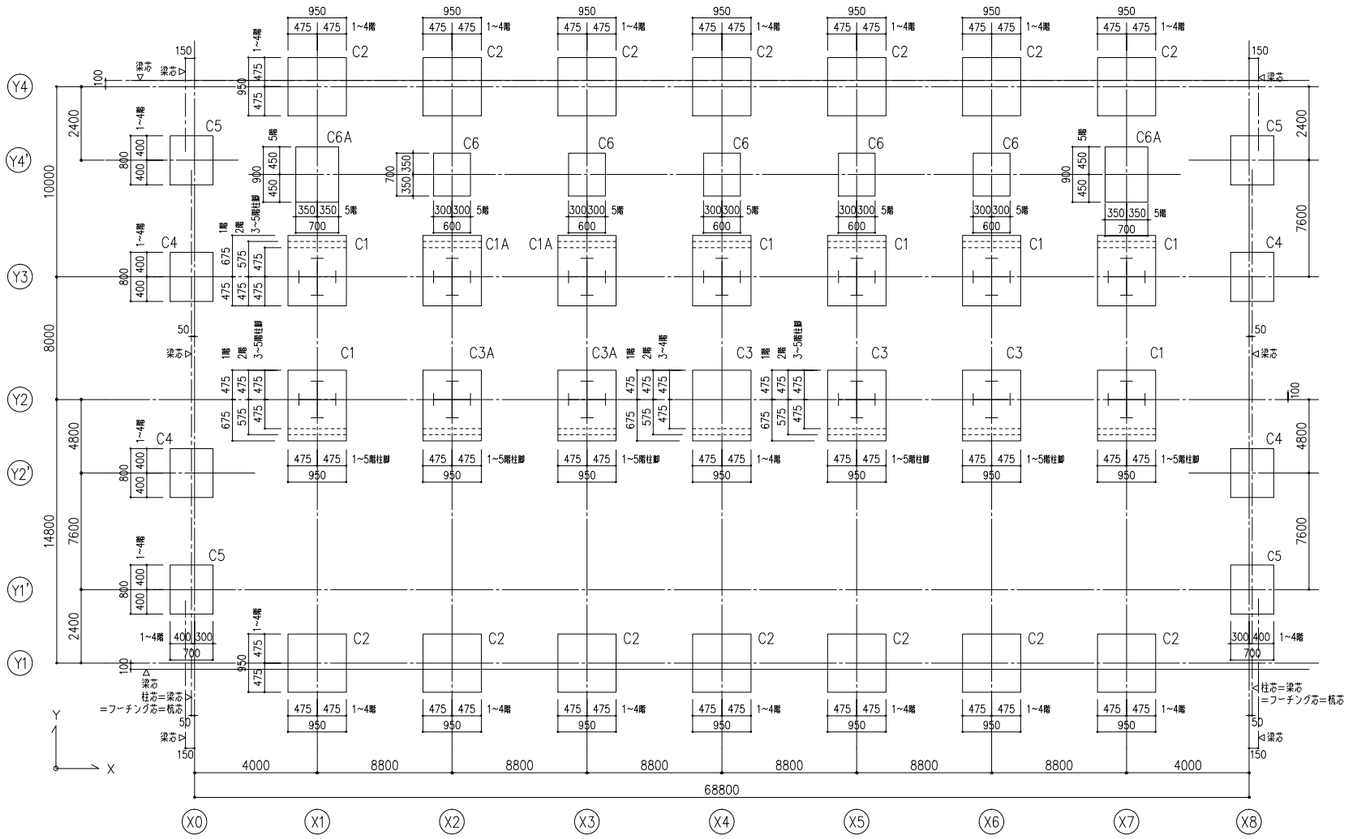


柱芯線図（5階柱頭～R階） 1:200 1:50

共通事項（特記なき限り）

・通り芯＝柱芯＝梁芯 とする。

・R階 を示す。



柱芯線図（1階～5階柱脚） 1:200 1:50

共通事項（特記なき限り）

・通り芯＝柱芯＝梁芯 とする。

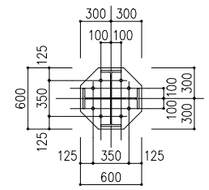
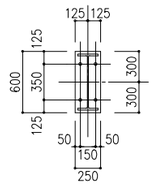
・1~4階、5階 を示す。

共通事項（特記なき限り）

◦ ベースプレートの鋼材種別は SN490B とする。

◦ アンカーボルト材質は SS400，二重ナット締め とする。

柱脚リスト 1:30

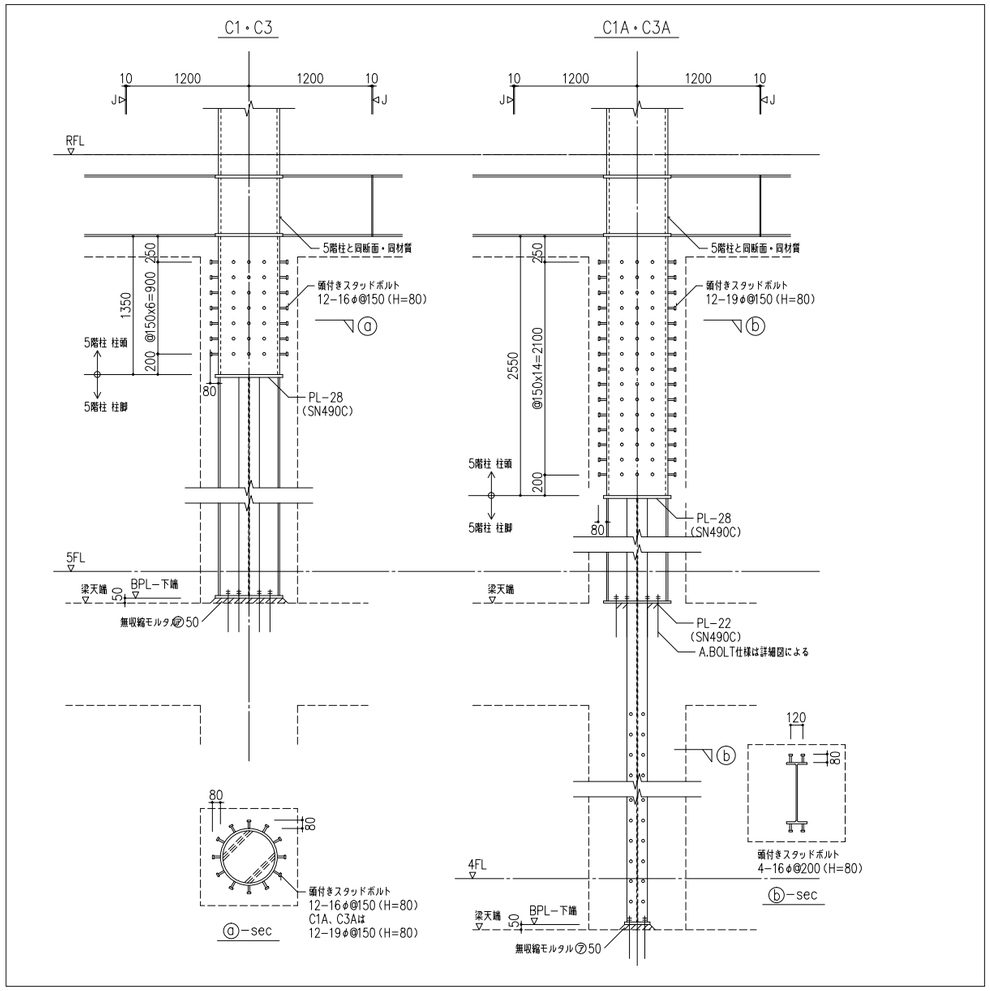
鉄骨柱符号	C1・C3	C1A・C3A	
柱 脚			
ベースプレート	BPL−25	BPL−25	
アンカーボルト	8−M24（定着長さ 960）	4−M24（定着長さ 960）	
備 考			

5階 柱頭頭付きスタッド打設要領

共通事項（特記なき限り）

◦ 頭付スタッドは JIS B 1198 による。

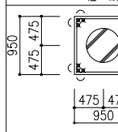
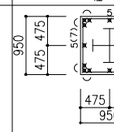
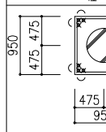
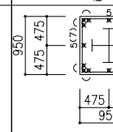
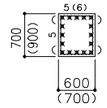
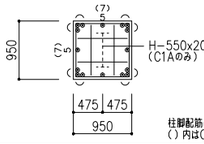
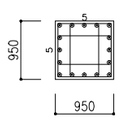
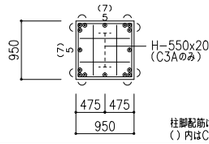
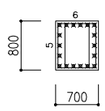
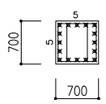
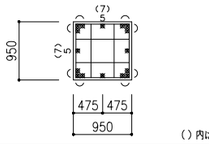
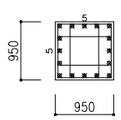
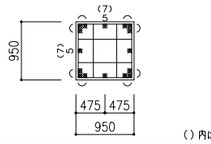
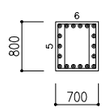
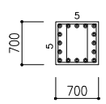
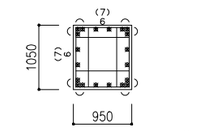
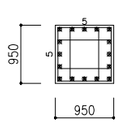
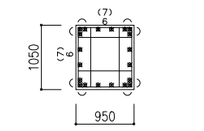
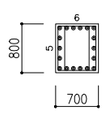
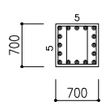
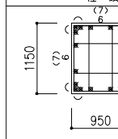
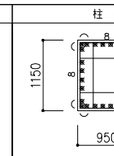
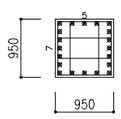
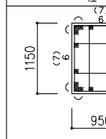
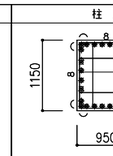
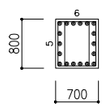
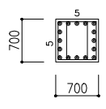
◦ J ▷ 印は 鉄骨継手位置 を示す。



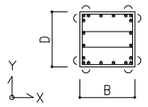
安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第129267号 高田 茂	新潟市建築部公共建築第1課	工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟建設工事	図名 柱芯線図、柱脚リスト	
			年月日 2013.03.01	縮尺 A1:1/50、A3:1/100
			図面番号 B−26	

柱リスト　1:50

共通事項（特記なき限り）
1. フープは、溶接閉鎖型（既製品）とする。パネル内フープは、2−D13@100　とする。
2. 鉄筋材質は　D10−D16：SD295A、D19−D25：SD345、D29以上：SD390　とする。
3. 柱に機械式継手を用いる場合は、　遮音床体と兼用できるもの　（電通性のあるもの、グラウト材を用いないものなど）とする。あるいは、電通性のある補助筋を別途考慮する。
4. 鉄骨材質は　SN490B　鋼管はSTK490とする。
5.RFL柱頭部鋼管柱内は梁天端＋300までコンクリートを充填とする。（5FLコンクリート種別と同様とする。）

階	符号	C1（C1A）		C2	C3（C3A）		C4	C5	C6（C6A）
5F	断面	柱頭 	柱脚 	――	柱頭 	柱脚 	――	――	
	B×D	950x950	950x950		950x950	950x950			600x700（700x900）
	方向	X　Y	X　Y		X　Y	X　Y			
	鉄骨	φ−558.8x25（φ−558.8x28）	H−550x200x12x19　H−550x200x12x19		φ−558.8x25（φ−558.8x28）	H−550x200x12x19　H−550x200x12x19			
	主筋	12−D29（12−D32）	16−D29（24−D32）		12−D29（12−D32）	16−D29（24−D32）			16−D29（18−D29）
	帯筋	□−D13 @100	□−D13 @100		□−D13 @100	□−D13 @100			□（Ⅲ）−D13 @100
	接合部帯筋								
4F	断面								
	B×D	950x950		950x950	950x950		700x800	700x700	
	方向	X　Y			X　Y				
	鉄骨	――　（H−550x200x12x19）			――　（H−550x200x12x19）				
	主筋	16−D32（24−D32）		16−D32	16−D32（24−D32）		18−D29	16−D29	
	帯筋	田−D13 @100（田−D13 @100）		田−D13 @100	田−D13 @100（田−D13 @100）		Ⅲ−D13 @100	Ⅲ−D13 @100	
	接合部帯筋								
3F	断面								
	B×D	950x950		950x950	950x950		700x800	700x700	
	方向	X　Y			X　Y				
	主筋	16−D35（24−D35）		16−D35	16−D35（24−D35）		18−D32	16−D32	
	帯筋	田−D13 @100（田−D13 @100）		田−D13 @100	田−D13 @100（田−D13 @100）		Ⅲ−D13 @100	Ⅲ−D13 @100	
	接合部帯筋								
2F	断面								
	B×D	950x1050		950x950	950x1050		700x800	700x700	
	主筋	20−D35（24−D35）		16−D35	20−D35（24−D35）		18−D32	16−D32	
	帯筋	田−D13 @100		田−D13 @100	田−D13 @100		Ⅲ−D13 @100	Ⅲ−D13 @100	
	接合部帯筋								
1F	断面	柱頭 	柱脚 		柱頭 	柱脚 			
	B×D	950x1150	950x1150	950x950	950x1150	950x1150	700x800	700x700	
	主筋	20−D35（24−D35）	28−D35	20−D35	20−D35（24−D35）	28−D38	18−D32	16−D32	
	帯筋	田−D13 @100	田−D13 @100	田−D13 @100	田−D13 @100	田−D13 @100	Ⅲ−D13 @100	Ⅲ−D13 @100	
	接合部帯筋								

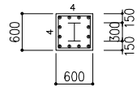
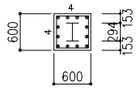
凡例
フープ　目−D13@100
X方向：4−D13@100
Y方向：2−D13@100



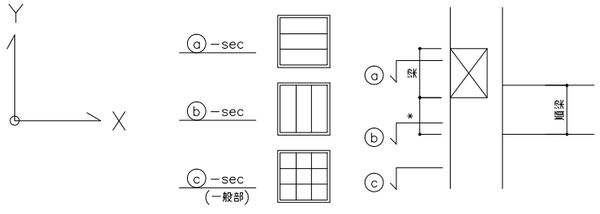
⌒ 印は　主筋間隔　2.7d　を示す。

SRCブレースリスト　1:50

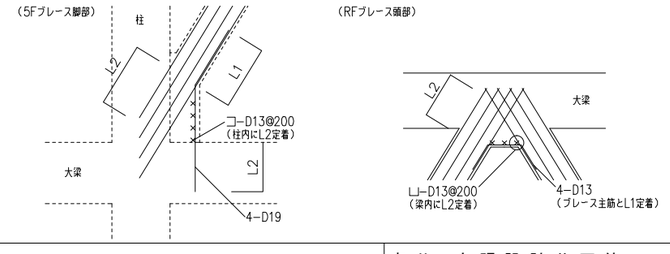
共通事項（特記なき限り）
4. 鉄骨材質は　SN490B とする。

V1,V11	HV1
	
600x600	600x600
X　Y	X　Y
――　BH−300x200x12x19	――　H−294x200x8x12
12−D25	12−D25
□−D13 @100	2−D13 @200

段差梁部仕口部フープ配筋要領図　1:50

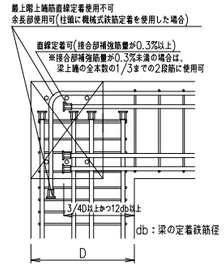


SRCブレース仕口部配筋要領図　1:50



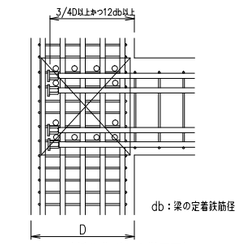
大梁部分

最上階



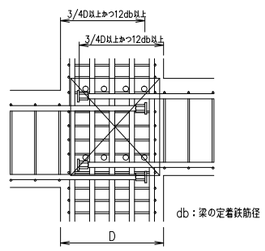
（在来型）

中間階　RC梁筋の定着



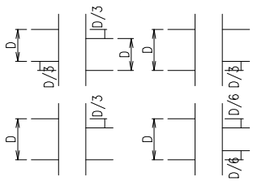
（折り曲げとの併用可）

中間階　段差梁の定着



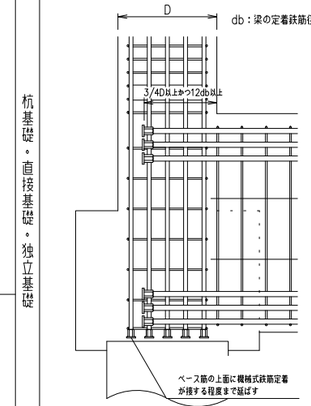
段差梁の条件

左右の梁の立面的な重なりが、
大きい梁せいの2/3以上とする



基礎梁部分

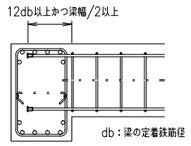
杭基礎・直接基礎・独立基礎



その他部分

小梁

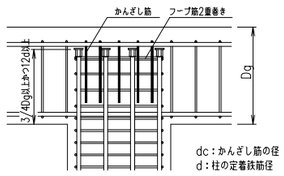
大梁への定着

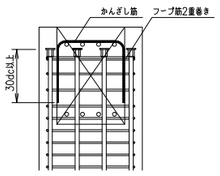


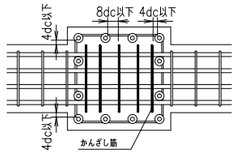
注）直交梁主筋の内側に定着筋を配筋する

柱部分

十字型架構部



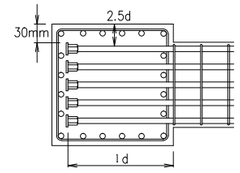


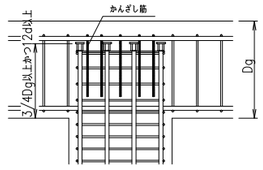


- 柱梁接合部をかんざし筋で補強を施す。
- 直交梁が付いている場合、かんざし筋は梁のスターラップと同径・同本数以上をスターラップのピッチ以下で配筋する。
- 終局定着耐力の算定を行い、定着強度を確認する。
- 定着長さは12dかつ梁せい(D)の3/4以上とする。
（但し、側面剥離破壊耐力式で定着耐力を評価する場合、定着長さは14d以上が望ましい）
- 機械式鉄筋定着の端部にフープ筋を2重巻きにする。
（納まり上配置が困難な場合は、設計施工指針12条による）

構造規定

- 機械式鉄筋定着の梁主筋定着長さ（ld）は、12db以上とする。
（定着耐力式を側面剥離破壊の耐力式で検討する場合には、柱せい（D）の3/4以上とする）
- 機械式鉄筋定着の柱主筋定着長さ（ld）は、12d以上かつ梁せい（D）の3/4とする。
- 機械式鉄筋定着を使用した定着鉄筋の定着部かぶり厚さは2.5d以上とし、プレートナット定着板の側面かぶり厚さは定着板側面より30mm以上とする。
- 機械式鉄筋定着を使用した隣接する定着鉄筋の最小間隔は、ＪＡＳＳ５の規定値による。
- 機械式鉄筋定着を柱頭部で使用する場合は、機械式鉄筋定着の端部にフープ筋を2重巻きにする。



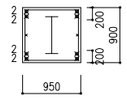
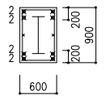
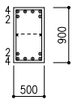
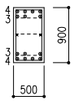
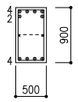
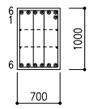
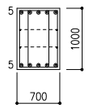
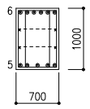
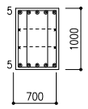
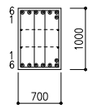
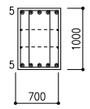
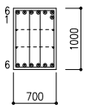
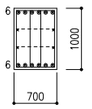
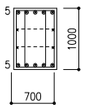
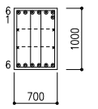
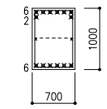
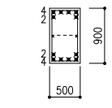
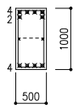
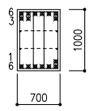
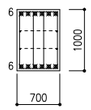
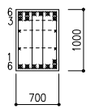
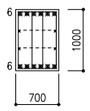
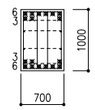
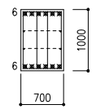
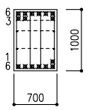
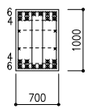
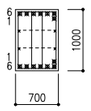
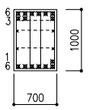
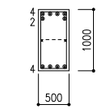
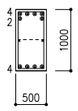
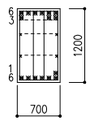
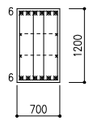
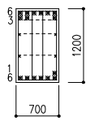
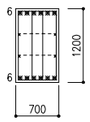
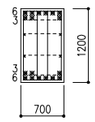
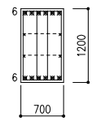
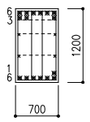
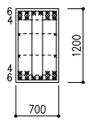
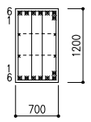
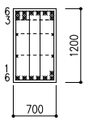
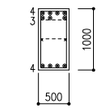
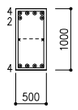
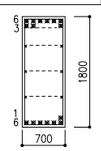
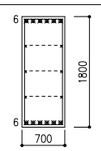
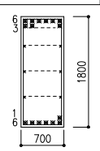
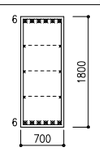
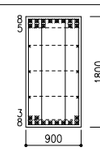
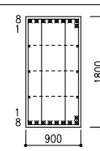
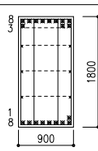
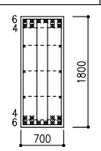
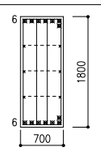
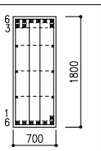
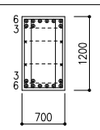
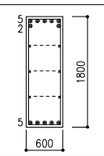
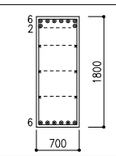
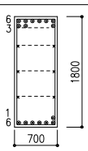


安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第129267号　高田　茂	新潟市建築部公共建築第1課	工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎　庁舎棟建設工事	図名 柱リスト	
		年月日 2012.11.12	縮尺 A1:1/50、A3:1/100	図面番号 B−27

大梁リスト（1）　1:50

共通事項（特記なき限り）

1. スラブ段差・範囲・寸法は、仕上類、開口、および設備等の取合いを考慮し決定すること。必要に応じて小梁等で補強できるものとする。小梁、スラブなどの各種部材の位置、範囲は、監督員の承認を得て軽微変更の扱いとなる対象の範囲内あるいは補強方針に準じて行なうものとする。
2. スターラップは　2−D13@200　とする。
3. 腹筋は　4−D10、幅止筋は　D10@1000以内　とする。
4. 鉄筋材質は　D10~D16：SD295A、D19~D25：SD345、D29以上：SD390　とする。
5. 鋼材材質は　SN490B　とする。

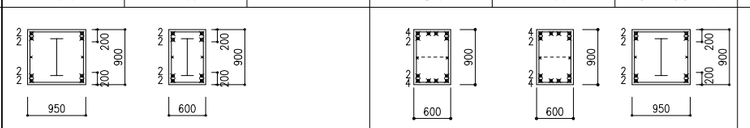
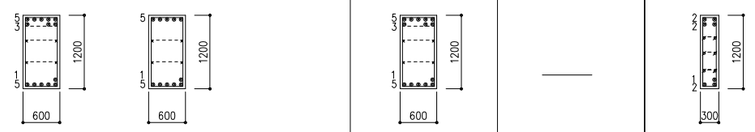
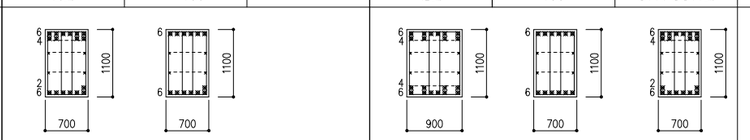
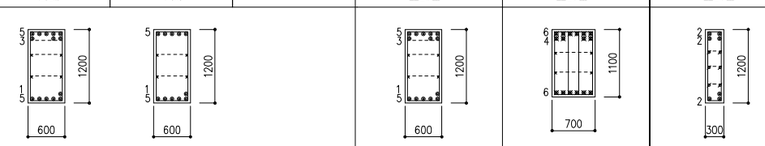
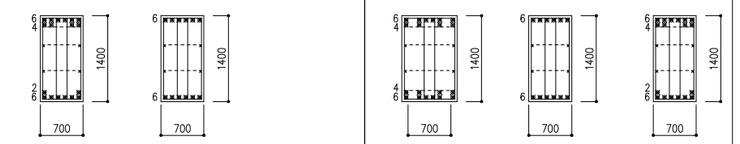
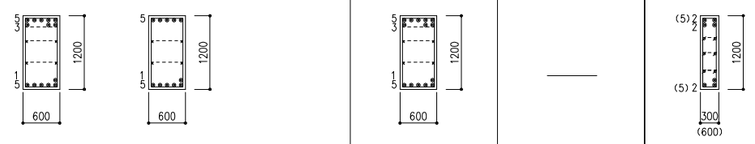
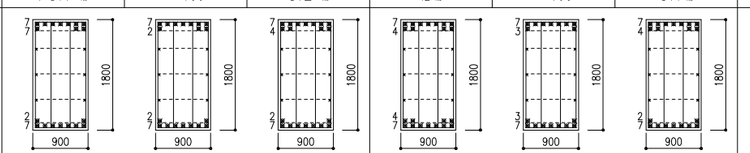
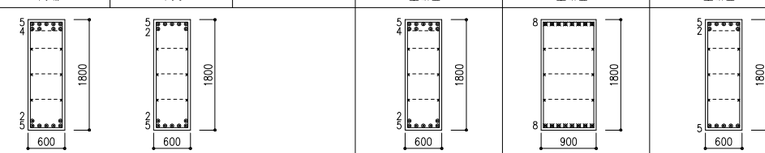
階	符号	G1（G1A）			G2			G3（G3A）			G4			G5	G6	G7	G8	CG1
RF	位置	他端	中央	X4端		全断面			全断面									全断面
	断面			（）内はC1Aを示す														
	B×D	950x900	600x900		500x900			500x900										500x900
	鉄骨	H−600x200x12x22（H−600x200x12x28）																
	上端筋	4−D29（4−D32）	4−D29（4−D32）			6−D25			7−D25									6−D25
	下端筋	4−D29（4−D32）	4−D29（4−D32）			6−D25			7−D25									4−D25
	肋筋	2−D13@150			2−D13@200			2−D13@200										2−D13 @200
	腹筋	2−D13			2−D13			2−D13										2−D13
	備考																	
5F	位置	両端	中央		両端	中央		両端	中央	G1端	他端	中央	G2端	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面
	断面																	
	B×D	700x1000			700x1000			700x1000			700x1000			700x700	600x700	700x1000	500x900	500x1000
	上端筋	7−D32（8−D32）	5−D32（6−D32）		6−D32	5−D32		7−D32（8−D32）	5−D32	7−D32（8−D32）	6−D32	5−D32	6−D32	6−D29	5−D29	8−D32	6−D29	6−D29
	下端筋	6−D32	5−D32（6−D32）		5−D32	5−D32		7−D32（8−D32）	5−D32	6−D32	6−D32	5−D32	5−D32	6−D29	5−D29	6−D32	6−D29	4−D29
	肋筋	4−D13@200			4−D13@200			4−D13 @150			4−D13 @150			4−D13 @150	2−D13 @150	2−D13 @150	2−D13 @200	2−D13 @200
	腹筋	4−D10			4−D13			4−D10			4−D13			2−D13	2−D13	2−D13	2−D13	2−D13
	備考																	
4F ~ 3F	位置	両端	中央		両端	中央		他端	中央	G1端	他端	中央	G2端	全断面	全断面	全断面		全断面
	断面																	
	B×D	700x1000			700x1000			700x1000			700x1000			700x700	600x700	500x1000		500x1000
	上端筋	9−D35	6−D35		9−D35	6−D35		9−D35	6−D35	9−D35	10−D35	7−D35	9−D35	6−D32	7−D32	6−D32		6−D32
	下端筋	7−D35	6−D35		7−D35	6−D35		9−D35	6−D35	7−D35	10−D35	7−D35	7−D35	6−D32	5−D32	4−D32		4−D32
	肋筋	4−D13@200			4−D13@200			4−D13 @150			4−D13 @150			4−D13 @150	2−D13 @150	2−D13 @150		2−D13 @200
	腹筋	4−D10			4−D13			4−D10			4−D13			2−D13	2−D13	2−D13		2−D13
	備考																	
2F	位置	両端	中央		両端	中央		他端	中央	G1端	他端	中央	G2端	全断面	全断面	全断面		全断面
	断面																	
	B×D	700x1200			700x1200			700x1200			700x1200			700x800	600x800	500x1000		500x1000
	上端筋	9−D35	6−D35		9−D35	6−D35		9−D35	6−D35	9−D35	10−D35	7−D35	9−D35	7−D32	7−D32	7−D32		6−D32
	下端筋	7−D35	6−D35		7−D35	6−D35		9−D35	6−D35	7−D35	10−D35	7−D35	7−D35	7−D32	5−D32	4−D32		4−D32
	肋筋	4−D13@200			4−D13@200			4−D13@150			4−D13@150			4−D13 @150	2−D13 @150	2−D13 @150		2−D13 @200
	腹筋	4−D13			4−D13			4−D13			4−D13			2−D13	2−D13	2−D13		2−D13
	備考																	
1F	位置	両端	中央		両端	中央		他端	中央	G1端	他端	中央	G2端	全断面	全断面	全断面		全断面
	断面																	
	B×D	700x1800			700x1800			900x1800			700x1800			700x1200	600x1800	700x1800		700x1800
	上端筋	9−D35	6−D35		9−D35	6−D35		13−D35	9−D35	11−D35	10−D35	7−D35	9−D35	9−D32	7−D32	8−D32		9−D32
	下端筋	7−D35	6−D35		7−D35	6−D35		11−D35	9−D35	9−D35	10−D35	7−D35	7−D35	9−D32	5−D32	6−D32		7−D32
	肋筋	2−D16@200			2−D16@200			4−D16@200			4−D16@200			4−D16 @150	2−D16 @150	2−D16 @150		2−D16 @200
	腹筋	6−D13			6−D13			6−D13			6−D13			4−D13	6−D13	6−D13		6−D13
	備考																	

安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第129267号　高田　茂	新潟市建築部公共建築第1課	工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎　庁舎棟建設工事	図名 大梁リスト（1） 年月日 2012.11.12　縮尺 A1:1/50、A3:1/100　図面番号 B−28

共通事項（特記なき限り）

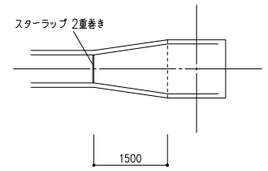
1. スラブ段差・範囲・寸法は、付上類、開口、および設備等の取合いを考慮し決定すること。
必要に応じて小梁等で補強できるものとする。小梁、スラブなどの各種部材の位置、範囲は、監督員の承認を得て軽微変更の扱いとなる対象の範囲内あるいは補強方針に準じて行なうものとする。
2. スターラップは 2−D13@200 とする。
3. 腹筋は 4−D10、幅止筋は D10@1000以内 とする。
4. 鉄筋材質は D10~D16：SD295A、D19~D25：SD345、D29以上：SD390 とする。
5. 鋼材材質は SN490B とする。

大梁リスト（2） 1:50

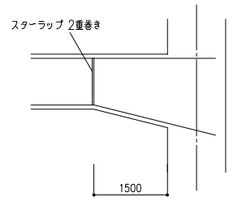
階	符号	G11			G12			G12A			G13（G13A）			G14	CG11	CG12（CG12A）
RF	位置	両端	中央		他端	中央	G11、CG11端	他端	中央	G11、CG11端	他端	中央	G11端		全断面	全断面
	断面													—		—
	B×D	950x900	600x900		600x900		950x900	600x900		950x900	600x1200	600x900	950x900		950x900	
	鉄骨	H−600x200x12x22			G11端 H−600x200x12x22			G11端 H−600x200x12x28			G11端 H−600x200x12x22				H−600x200x12x28	
	上端筋	4−D29	4−D29		6−D29	6−D29	4−D29	6−D32	6−D32	4−D32	7−D29	7−D29	4−D29		8−D32	
	下端筋	4−D29	4−D29		6−D29	6−D29	4−D29	6−D32	6−D32	4−D32	7−D29	7−D29	4−D29		4−D32	
	肋筋	2−D13@150			2−D13@150			2−D13@150			2−D13@150				2−D13 @200	
	腹筋	2−D13			2−D13			2−D13			2−D13				2−D13	
	備考															
5F	位置										両端	中央		全断面		全断面
	断面	—			—			—							—	
	B×D										600x1200			600x1200		300x1200
	上端筋										8−D32	5−D32		8−D32		4−D32
	下端筋										6−D32	6−D32（9−D32）		6−D32		3−D32
	肋筋										2−D13 @200			2−D13 @200		2−D13 @200
	腹筋										4−D13			4−D13		6−D16
	備考															
4F ~ 3F	位置	両端	中央		他端	中央	G11、CG11端	他端	中央	G11端	両端	中央		全断面	全断面	全断面
	断面															
	B×D	700x1100			900x1100	700x1100		700x1100			600x1200			600x1200	700x1100	300x1200
	上端筋	10−D35	6−D35		10−D35	6−D35	10−D35	8−D35	6−D35	10−D35	8−D32	5−D32		8−D32	10−D35	4−D32
	下端筋	8−D35	6−D35		10−D35	6−D35	8−D35	8−D35	6−D35	8−D35	6−D32	6−D32		6−D32	6−D35	3−D32
	肋筋	4−D13@150			4−D13@150			4−D13@150			2−D13 @200			2−D13 @200	4−D13 @200	2−D13 @200
	腹筋	4−D13			4−D13			4−D13			4−D13			4−D13		6−D16
	備考															
2F	位置	両端	中央		他端	中央	G11端	他端	中央	G11端	両端	中央		全断面		全断面
	断面														—	
	B×D	700x1400			700x1400			900x1400			600x1200			600x1200		300（600）x1200
	上端筋	10−D35	6−D35		10−D35	6−D35	10−D35	12−D35	8−D35	14−D35	8−D32	5−D32		8−D32		4−D32（5−D32）
	下端筋	8−D35	6−D35		10−D35	6−D35	8−D35	12−D35	10−D35	10−D35	6−D32	6−D32		6−D32		3−D32（5−D32）
	肋筋	4−D13@150			4−D13@150			4−D13@150			2−D13 @200			2−D13 @200		2−D13 @200
	腹筋	4−D13			4−D13			4−D13			4−D13			4−D13		6−D16
	備考															
1F	位置	PG11 端	中央	G12 端	他端	中央	G11端	他端	中央	CG11端	両端	中央		全断面	全断面	全断面
	断面															
	B×D	900x1800			900x1800			900x1800			600x1800			600x1800	900x1800	600x1800
	上端筋	14−D35	9−D35	11−D35	11−D35	9−D35	11−D35	11−D35	9−D35	13−D35	9−D32	7−D32		9−D32	8−D35	7−D32
	下端筋	9−D35	9−D35	9−D35	11−D35	9−D35	9−D35	9−D35	9−D35	9−D35	7−D32	7−D32		7−D32	8−D35	5−D32
	肋筋	4−D16@200			4−D16@200			4−D13@200			2−D13@200			2−D13@200	2−D16@200	2−D13 @200
	腹筋	6−D13			6−D13			6−D13			6−D13			6−D13	6−D13	6−D10
	備考															

梁ハンチ要領図

水平ハンチ



鉛直ハンチ



安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第129267号 高田 茂	新潟市建築部公共建築第1課	工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟建設工事	図名 大梁リスト（2） 年月日 2012.11.12 / 縮尺 A1:1/50、A3:1/100	図面番号 B−29

プレストレストコンクリート(PC)工事特記仕様書

1. 一般事項

1）本仕様書は本工事の内、現場打ちプレストレストコンクリート造（以下ＰＣ造）に適用する。
2）本仕様書ならびに設計図書に指示されていない事項は下記による。

。「建築物の構造関係技術基準解説書」	2007 年版：同左編集委員会
。「プレストレストコンクリート造技術基準解説及び設計・計算例」	2009 年版：同左編集委員会
。「プレストレストコンクリート設計施工規準・同解説」	1998 年版：日本建築学会
。「プレストレスト鉄筋コンクリート（Ⅲ種ＰＣ）構造設計・施工指針・同解説」	2003 年版：日本建築学会
。「建築工事標準仕様書鉄筋コンクリート工事（ＪＡＳＳ５）」	2009 年版：日本建築学会

3）ＰＣ工事に先立ち「ＰＣ工事施工計画書」を提出し、工事監理者の承認を受けなければならない。
4）ＰＣ工事施工業者は、（株）建 研、ｵﾘｴﾝﾀﾙ白石（株）、（株）ﾋﾟｰｴｽ三菱 の内、一社の責任施工とする。

2. PC鋼材及び定着工法

工法名		VSL 工法 又は 同等品
ＰＣ鋼より線		12-SWPR7BL-12.7mm
断面積	(mm²)	1184.5
単位重量	(kg/m)	9.288
シース径	(mm)	65/68
引張荷重	Pu (kN)	2196
降伏荷重	Py (kN)	1872
許容荷重	導入時 (kN)	1591
	定着時 (kN)	1498
作業時緊張力	Po (kN)	1498

※　作業中やむを得ない場合は、一時的に 0.9Ｐyまで許容するものとする。

3. 型枠工事

ＰＣ工事は、ＰＣ鋼材配線、高強度コンクリートの打設、緊張、グラウト工事等があるため下記の点に注意する。

1）ケーブル配線を行う目的で、梁の側枠の片側を開放する。
2）固定定着具を挿入する目的で、柱梁接合部の固定定着具の背面型枠を開放する。
3）シース内にモルタル等の流入がないようにする。
4）セパレーターの位置は、シースに当たらない様に事前に計画する。
5）緊張端のアンカープレート取付板にＰＣ鋼線の貫通孔（ 80φ程度）を開ける。
6）シースに穴を開けない様にし、開けたら直ちに粘着テープで補修する。
7）柱型枠締め付け時に金物・バタ角・単管等がシースに当たらないようにする。
8）プレストレスの導入が完了するまでは無筋コンクリートに近い状態であるから絶対にサポートを外してはならない。
9）型枠の在置期間は全てプレストレス導入完了までとする。
10）型枠及びサポートは必ず 2 階分のサポートを使用し、コンクリート打設荷重を 2 層の梁で支持すること。

4. 鉄筋工事

ＰＣケーブル配置作業により、すでに組立られた鉄筋を移動する場合は、作業完了後所定の位置に戻し結束する。但し、鉄筋はあらかじめケーブルにぶつからないよう検討し、その施工には十分注意する。

1）スターラップはシース落し込みのため上部を開放する。
2）小梁・スラブ筋の組立はＰＣケーブル配線後とする。
3）ＰＣ梁と柱頭部分はシース及び定着端と複雑に関係するので、柱筋との関係を事前に十分検討する。
4）ＰＣ梁と直行する梁の配筋は、シース及び定着端に当たって支障をきたさないか施工図で検討する。
5）ケーブル配線作業中及び配線後は原則として電気溶接及び溶断の作業は行わない。やむを得ず行う場合は十分養生を行う。

5. ＰＣ鋼材の配線工事

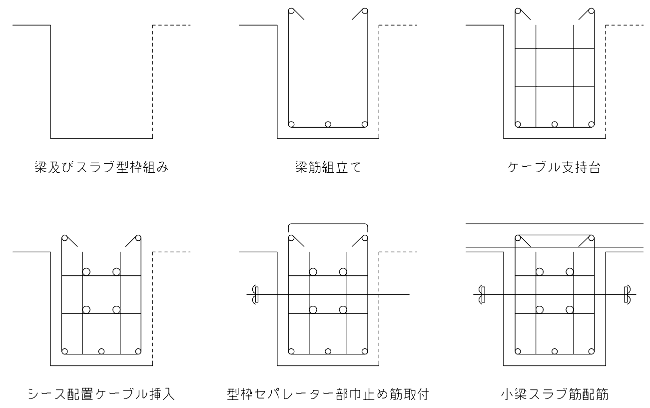
ＰＣ鋼材の配線順序

1）型枠に墨出しを行いケーブル支持台のセットをする。
2）緊張端アンカープレートを取り付ける。
3）ケーブル支持台にシースを配置し結束する。
4）ＰＣケーブルをシースの中に挿入する。
5）固定端定着具を固定する。この時、各定着具の位置を記録する。
6）シースの破損、接続部を再点検する。
7）緊張端より突出したＰＣケーブルは保護する。
8）グラウト注入管及び排気管の口元を粘着テープで蓋をする。
9）シースジョイント部はコンクリート流入を防ぐためテーピングを行う。

10）ＰＣ鋼材位置の許容誤差は下記寸法とする。

部材の最小寸法が 20 cm未満の部分	± 0.7 cm
部材の最小寸法が 20 cm以上 60 cm未満の部分	± 1.0 cm
部材の最小寸法が 60 cm以上の部分	± 1.5 cm

6. ＰＣ工事作業順序



7. コンクリート工事

品質：
設計基準強度‥‥ 36 N/mm²（１階～２階床）、 33 N/mm²（２階柱～4階床）、 30 N/mm²（4階柱～５階床）
導入時強度‥‥‥ 27 N/mm²

ＰＣ部分のコンクリート圧縮強度試験用試験体は、次の本数を一組として採取する。

	現場養生	標準養生
１。材令 7 日試験用	3 本	3 本
２。プレストレス導入日試験用	3 本	──
３。材令 28日試験用	3 本	3 本
４。予備	3 本	──

プレストレストコンクリートに用いるコンクリートは、富調合堅練りで粘性が高く密実なコンクリートにする為、バイブレーターを使用して確実に締め固めを行なう事とする。又、コンクリートを効果的に締め固めるには、バイブレータを 40 cm～ 50 cm垂直に挿入し、一回に 5 秒～15 秒位かけるのがよい。

コンクリート打設注意事項

1）ＰＣ梁のコンクリートは原則として打ち継ぎをしてはならない。
2）シースにはバイブレータが直接当らない様注意する。
3）ＰＣ鋼材、定着具、鉄筋、型枠が損傷しない様注意する。
4）排気管やグラウト孔にペーストが詰まらない様注意する。
5）スラブも梁の一部であり、T型梁として算定されている為、スラフ゛にもバイブレーターを十分に使用して締め固めなければならない。
6）緊張端、固定端は特に入念にバイブレータをかける。
7）ＰＣ梁に低強度のコンクリートが混ざらない様に、打設順序及び養生などを考える。

8. 緊張工事

1）緊張順序：
プレストレス導入は局部的に緊張を完了してしまうことなく、建物全体にわたって進めなければならない。
2）緊張力：
現場におけるＰＣ鋼材端部作業時緊張力は、「2. PC鋼材及び定着工法」に示す作業時緊張力 Po に、定着具の摩擦損失を加算して決定する。
3）緊張計算書の作成：
プレストレストコンクリートは、設計計画されたプレストレスを与える緊張作業が終わって、初めて構造部材として計画された機能が生まれる。従って、緊張作業は所定の導入力が得られる様十分な管理を行うものとする。本工事においては、別に緊張計算書を作成しＰＣ鋼材の伸び量を計算する。
4）緊張導入力とＰＣケーブルの伸びの管理：
設計上指定された所定のプレストレスが完全に導入される様、現場において緊張計算書に基づいた緊張力とＰＣ鋼材の伸び量を、グラフ作成を行いつつ緊張管理を行うものとする。

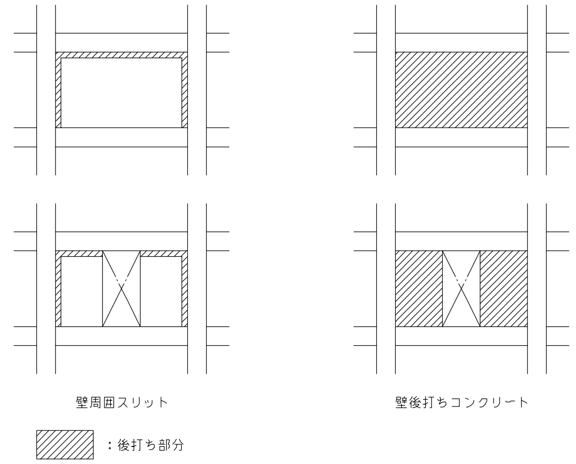
9. グラウト工事

グラウトはＰＣ鋼線を錆びさせない様に保護すると共に、ＰＣ鋼線とコンクリートの付着を得ることを目的とするものであり、非常に重要な工事なので、工事監理者立会いの下に行う。グラウトの作業は下記により行うこと。

1）シース内の閉塞の有無を確認する。
2）最初にいれたグラウトが他端より流出したグラウトと同じ濃度になるまで注入を続け、同じ濃度になったら水栓などで孔を塞ぐ。
3）混和材はノンブリージングタイプとし、水セメント比は 45 %を標準とする。
4）グラウト注入がわかる作業写真を提出のこと。
5）グラウトの配合計画書及びグラウト機械の性能を工事監理者に提出する。
6）冬期のグラウト注入は　硬化前のグラウトの凍結防止に万全を期すこと。
部材周辺温度が5℃未満の場合は　グラウト注入を中止するか　保温養生などの処置を講じること。

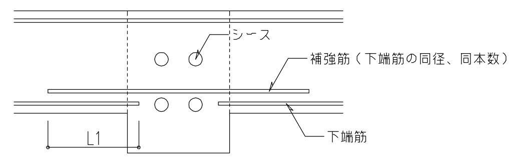
10. 壁の取り扱い

ＰＣ梁を含む場合あるいはＰＣ梁に平行な耐震壁・雑壁がある場合は、所定の軸方向圧縮力が導入されるよう以下のような配慮を施す。



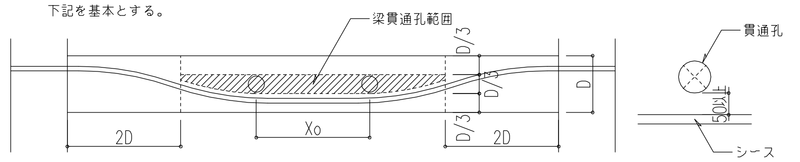
11. ＰＣ梁に取り付く小梁の配筋要領

ＰＣ鋼材と小梁主筋が干渉する場合、下記のようにする。



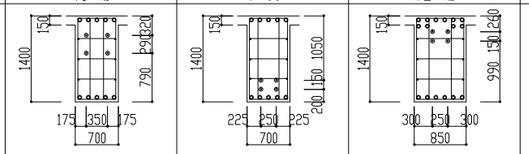
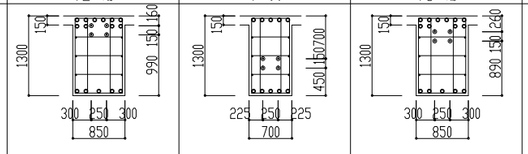
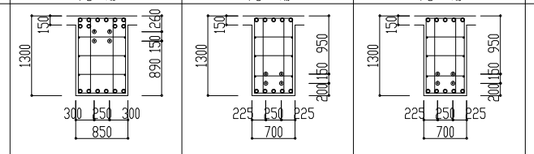
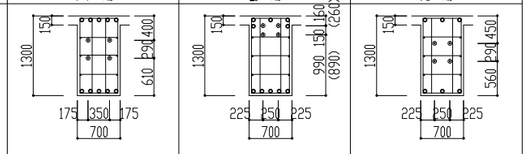
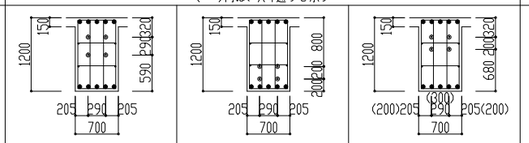
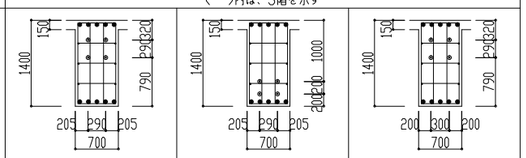
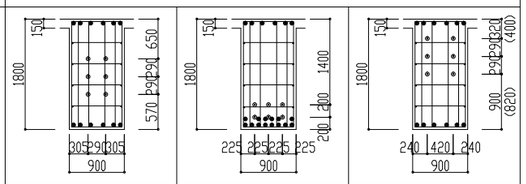
12. 貫通スリーブ要領

下記を基本とする。



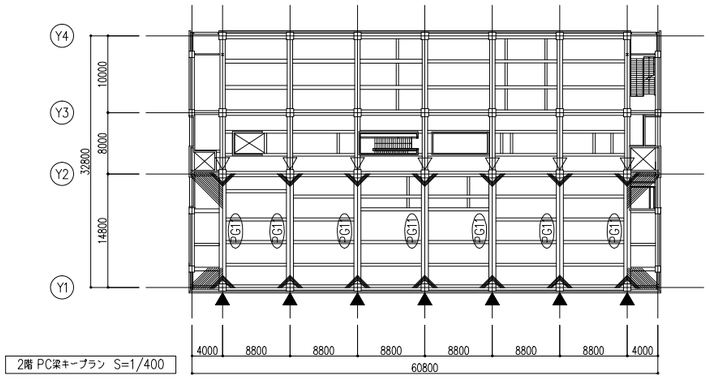
間隔：Xo>D とする。
径　：最大D/4 とし、貫通孔の外面とシースの外面は50mm以上離す。
原則としてD/10を超える梁貫通孔は梁貫通伏図記載のものに限る。
D/10以下の小径開口については　上記の限りではないが　監督員の承諾を得ること。
※ただし、日本建築学会「プレストレストコンクリート設計施工規準・同解説」に従い断面検討・補強筋の算出を行うこと。

PC梁リスト S=1/40

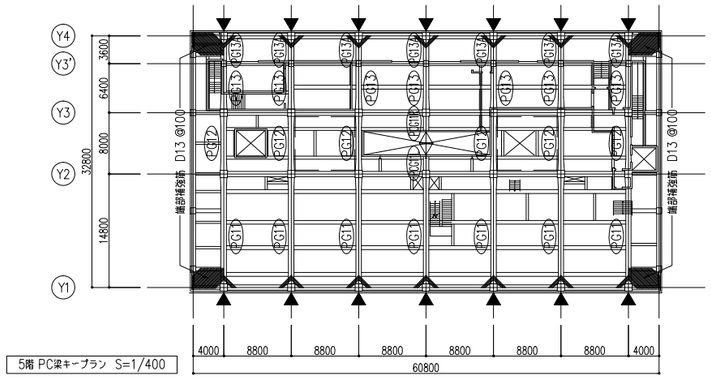
符号	PG11			PG12			PG13		PG13A		PCG11L, PCG11R	
位置	Y1 端	中央	Y2 端	Y2 端	中央	Y3 端	Y3 端	Y3′ 端	Y3′ 端	Y4 端	基端	先端
5 階												
上端筋	5-D32	5-D32	6/4(5/2)-D32	6/4-D32	5-D32	6/4-D32	6/4(5/2)-D32	5-D32	5-D32	5-D32	3/2(5/2)-D32	3-D32
下端筋	5-D32	5-D32	6(5)-D32	5-D32	5-D32	5-D32	6(5)-D32	5-D32	5-D32	5-D32	5-D32	3-D32
スターラップ	Ⅲ-D13@100	Ⅲ-D13@100	Ⅲ-D13@100	Ⅲ-D13@100	Ⅲ-D13@100	Ⅲ-D13@100	Ⅲ-D13@100	Ⅲ-D13@100	Ⅲ-D13@100	Ⅲ-D13@100	Ⅲ-D13@100	Ⅲ-D13@100
腹筋	6-D10			6-D10			6-D10		6-D10		6-D10	
PC鋼材	4c-12-SWPR7BL-12.7mm			4c-12-SWPR7BL-12.7mm			4c-12-SWPR7BL-12.7mm		4c-12-SWPR7BL-12.7mm		4c-12-SWPR7BL-12.7mm	
備考	(　)内は、X4通りを示す						(　)内は、X4通りを示す				(　)内は、PCG11Rを示す	
3,4 階												
上端筋	5-D35	5-D35	5-D35									
下端筋	5-D35	5-D35	5-D35									
スターラップ	Ⅲ-D13@100	Ⅲ-D13@100	Ⅲ-D13@100									
腹筋	4-D10											
PC鋼材	4c-12-SWPR7BL-12.7mm											
備考	(　)内は、3階を示す											
2 階												
上端筋	5-D35	5-D35	5-D35									
下端筋	5-D35	5-D35	5-D35									
スターラップ	Ⅲ-D13@100	Ⅲ-D13@100	Ⅲ-D13@100									
腹筋	6-D10											
PC鋼材	4c-12-SWPR7BL-12.7mm											
備考												
1 階												
上端筋	6-D35	6-D35	6-D35									
下端筋	6-D35	8/6-D35	6-D35									
スターラップ	Ⅲ-D13@100	Ⅲ-D13@100	Ⅲ-D13@100									
腹筋	8-D10											
PC鋼材	6c-12-SWPR7BL-12.7mm											
備考	(　)内は、X1通りを示す											

使用材料

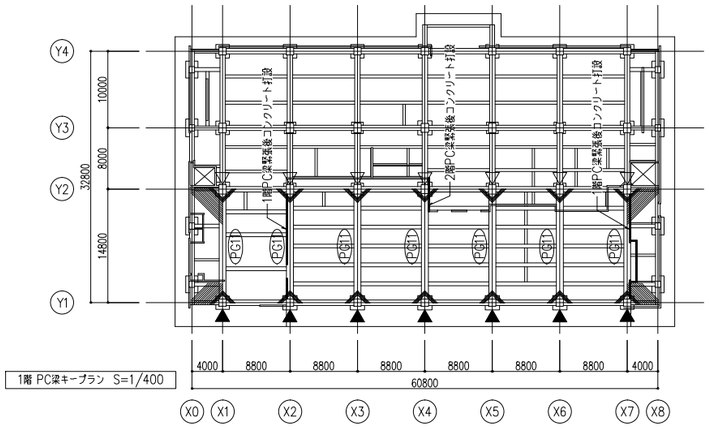
コンクリート	設計基準強度		Fc = 36 N/mm^2 (1階~2階床)、33 N/mm^2 (2階柱~4階床)、30 N/mm^2 (4階柱~5階床)
	導入時強度		Fci = 27 N/mm^2
PC鋼材	名称		12-SWPR7BL-12.7mm
	引張強度		Pu = 2196 kN/ケーブル
	降伏強度		Py = 1872 kN/ケーブル
	許容引張強度		
		導入時	1591 kN/ケーブル
		定着時	1498 kN/ケーブル
	緊張作業時緊張力		Po = 1498 kN/ケーブル
鉄筋	SD295A (~D16) ,SD345 (D19~D25) ,SD390 (D29~D38)		



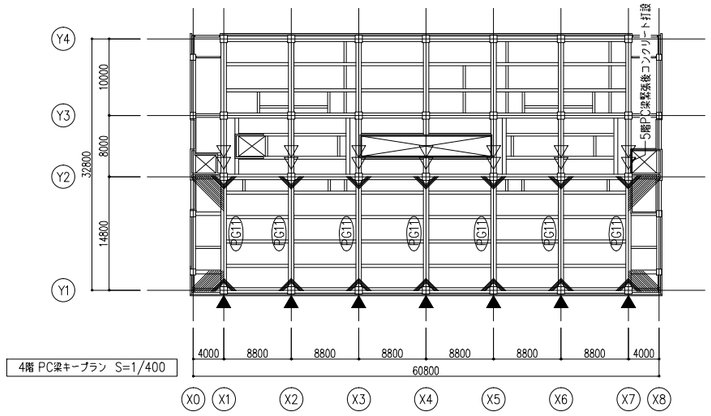
2階 PC梁キープラン S=1/400



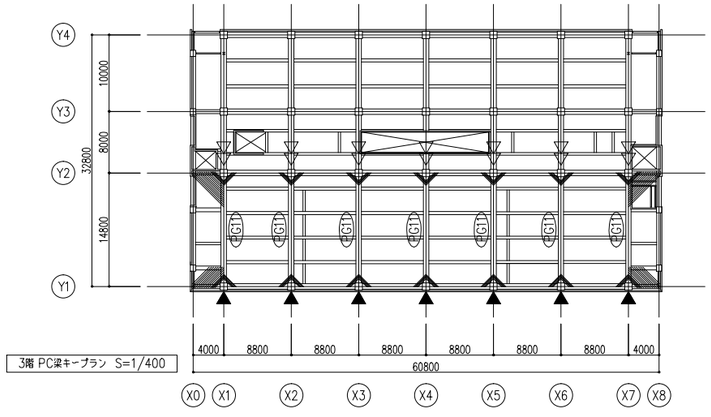
5階 PC梁キープラン S=1/400



1階 PC梁キープラン S=1/400

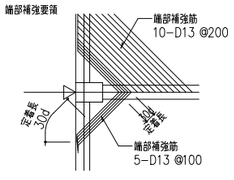


4階 PC梁キープラン S=1/400



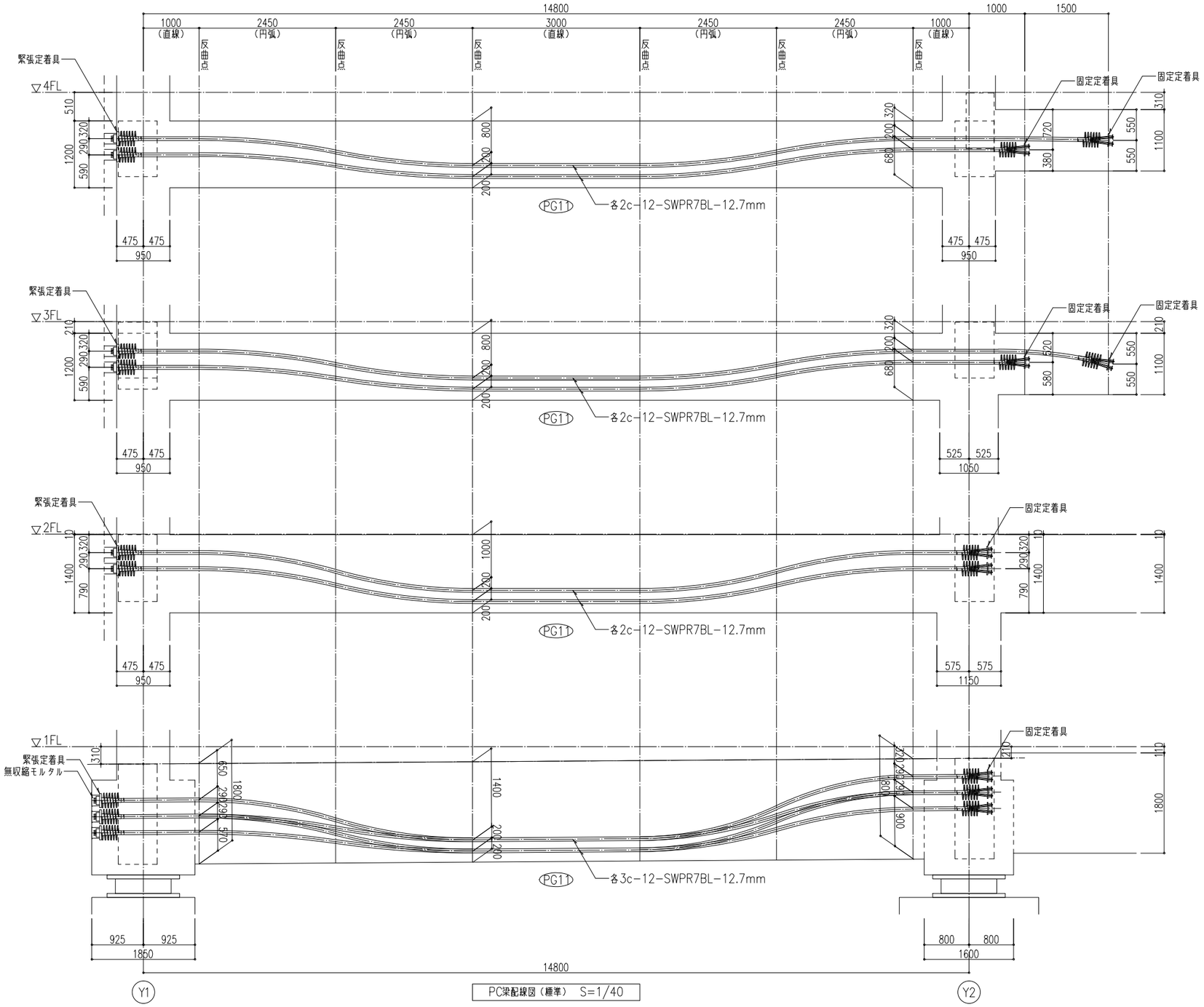
3階 PC梁キープラン S=1/400

特記なき限り下記とする。
(各階共通)
1. ▶ 表示は、緊張端を示す。
2. ▷ 表示は、固定端を示す。
3. ▨ 部分は、緊張後コンクリート打設
4. 端部補強要領



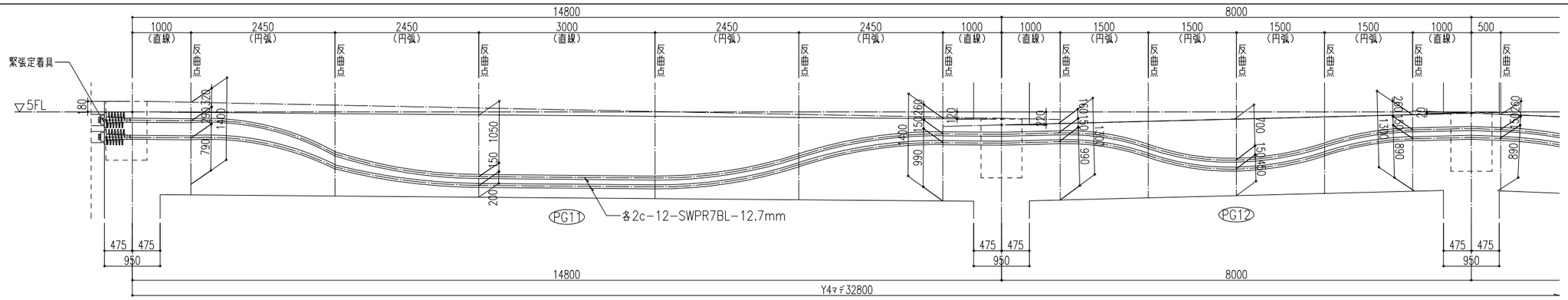
緊張・固定端 注記) スラブ補強筋はスラブ中央近辺に配置する

安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第129267号 高田 茂	新潟市建築部公共建築第1課	工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟建設工事	図名 PC梁リスト、PCキープラン	
			年月日 2013.03.01	縮尺 1:50, 1:100 / 図面番号 B-31

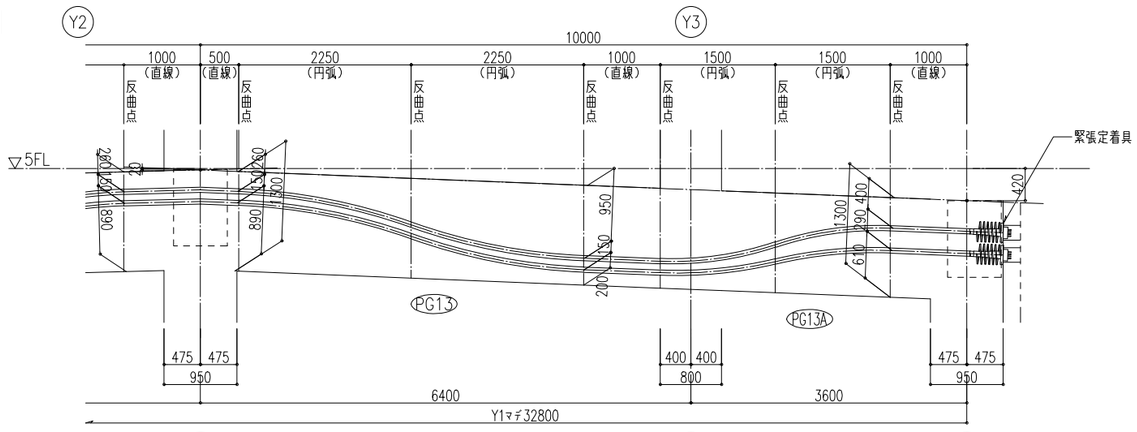


PC梁配線図（標準） S=1/40

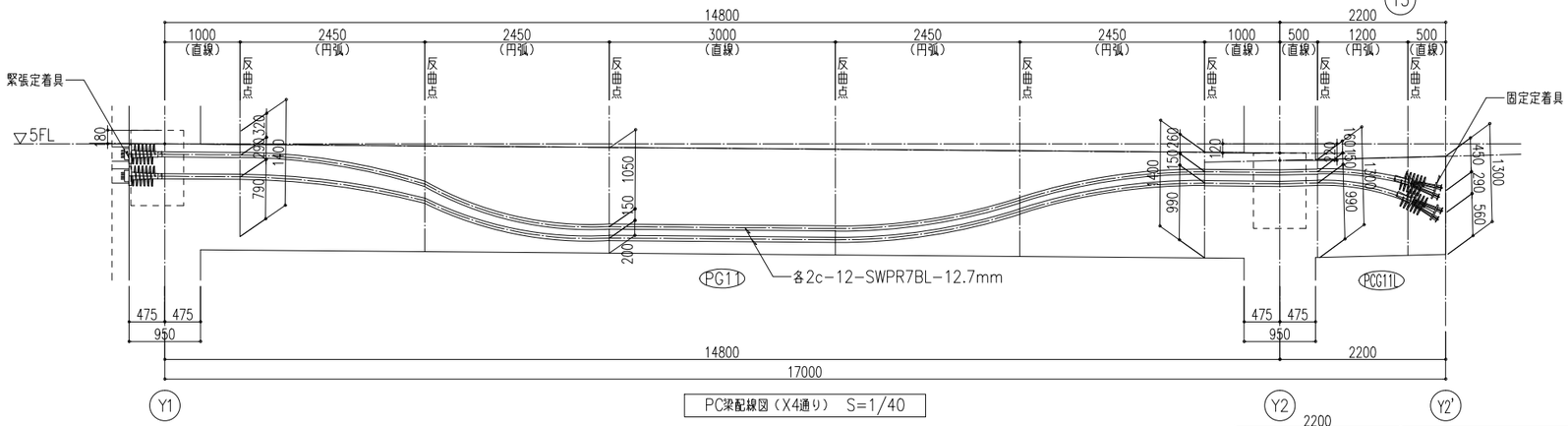
安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第129267号 高田 茂	新潟市建築部公共建築第1課	工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟建設工事	図名 PC梁配線図(1)	
			年月日 2013.03.01	縮尺 1:40, 1:80 図面番号 B-32



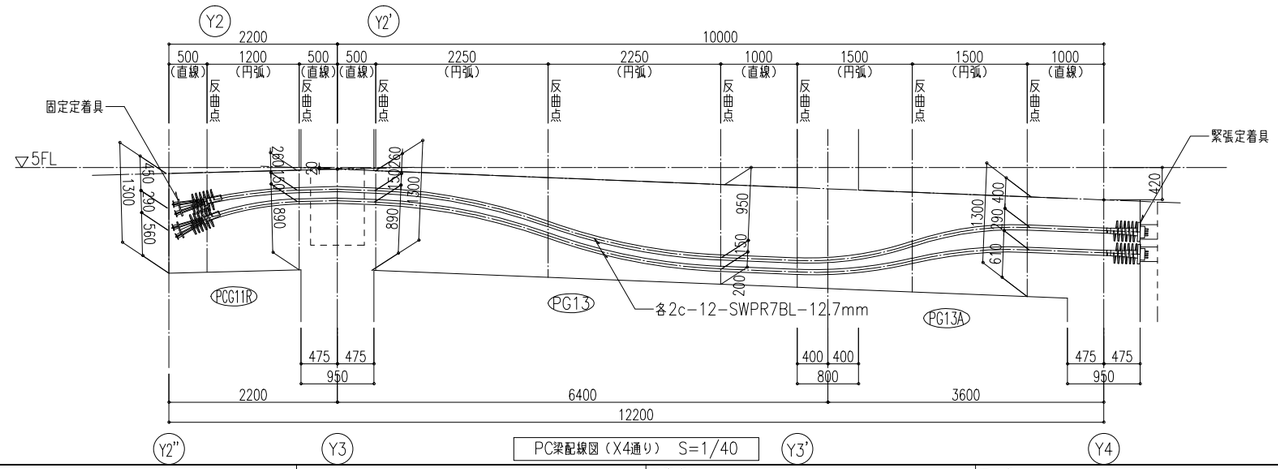
PC梁配線図（X6通り） S=1/40



PC梁配線図（X6通り） S=1/40

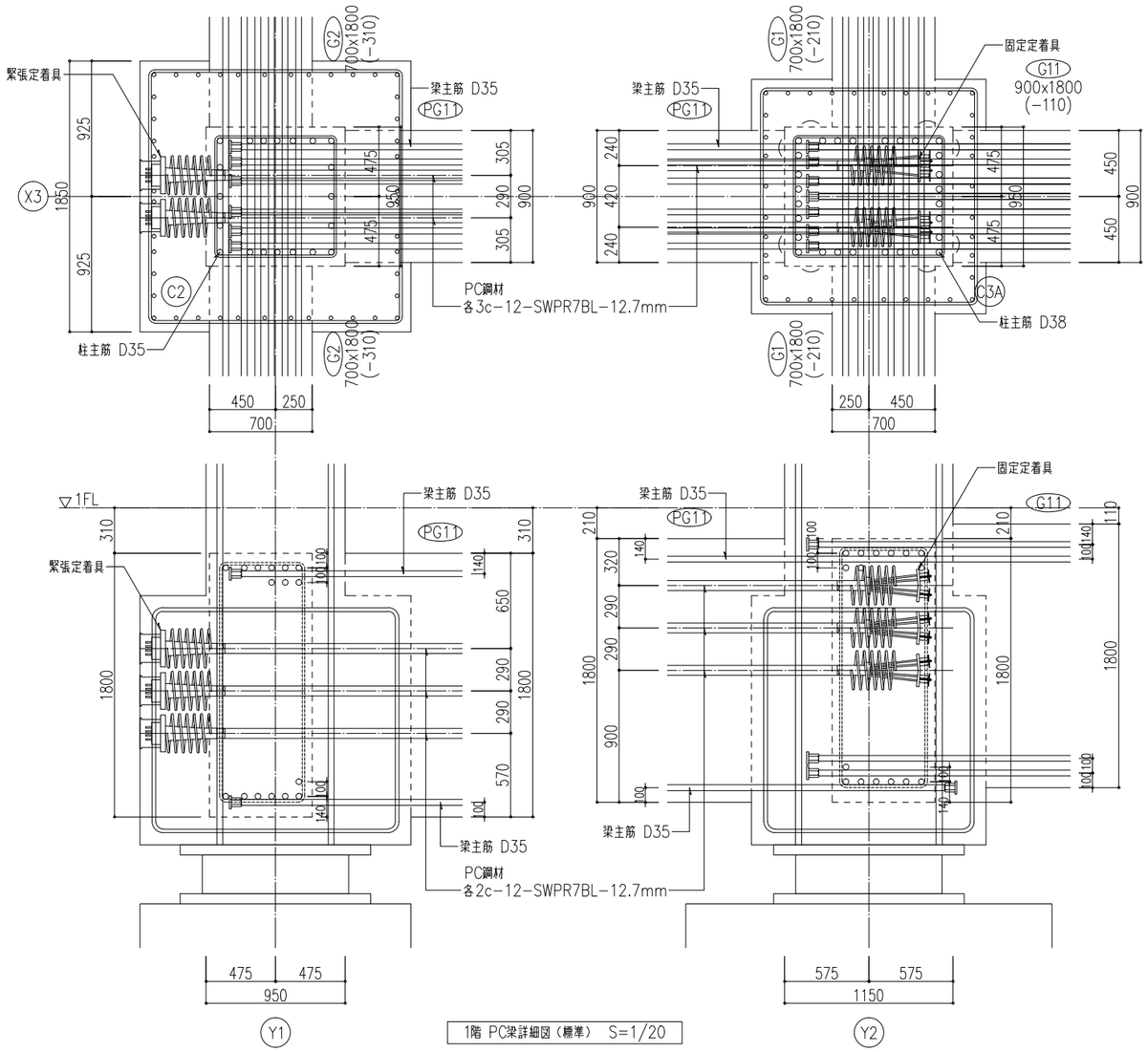


PC梁配線図（X4通り） S=1/40

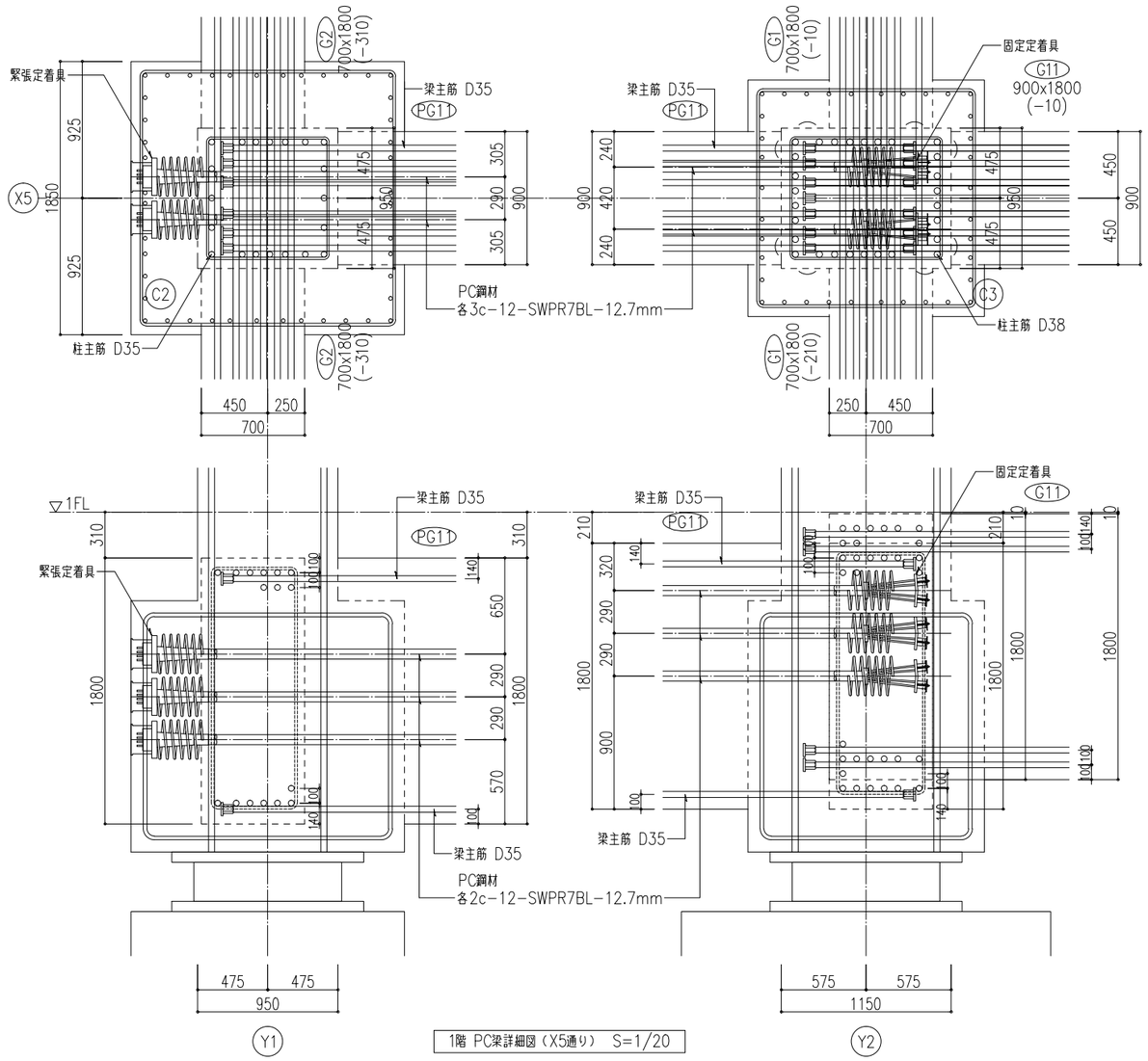


PC梁配線図（X4通り） S=1/40

安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第129267号 高田 茂	新潟市建築部公共建築第1課	工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟建設工事	図名 PC梁配線図(2)	
			年月日 2013.03.01	縮尺 1:40, 1:80 / 図面番号 B-33

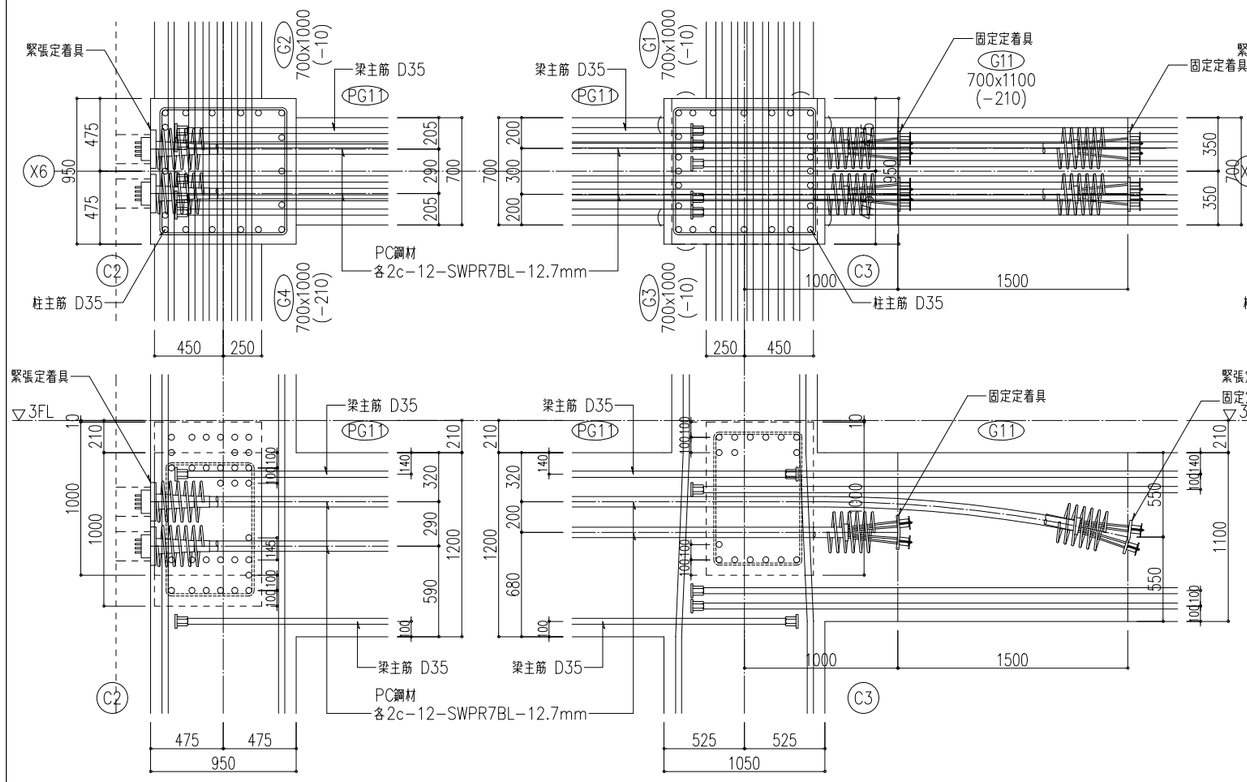


1階 PC梁詳細図（標準） S=1/20

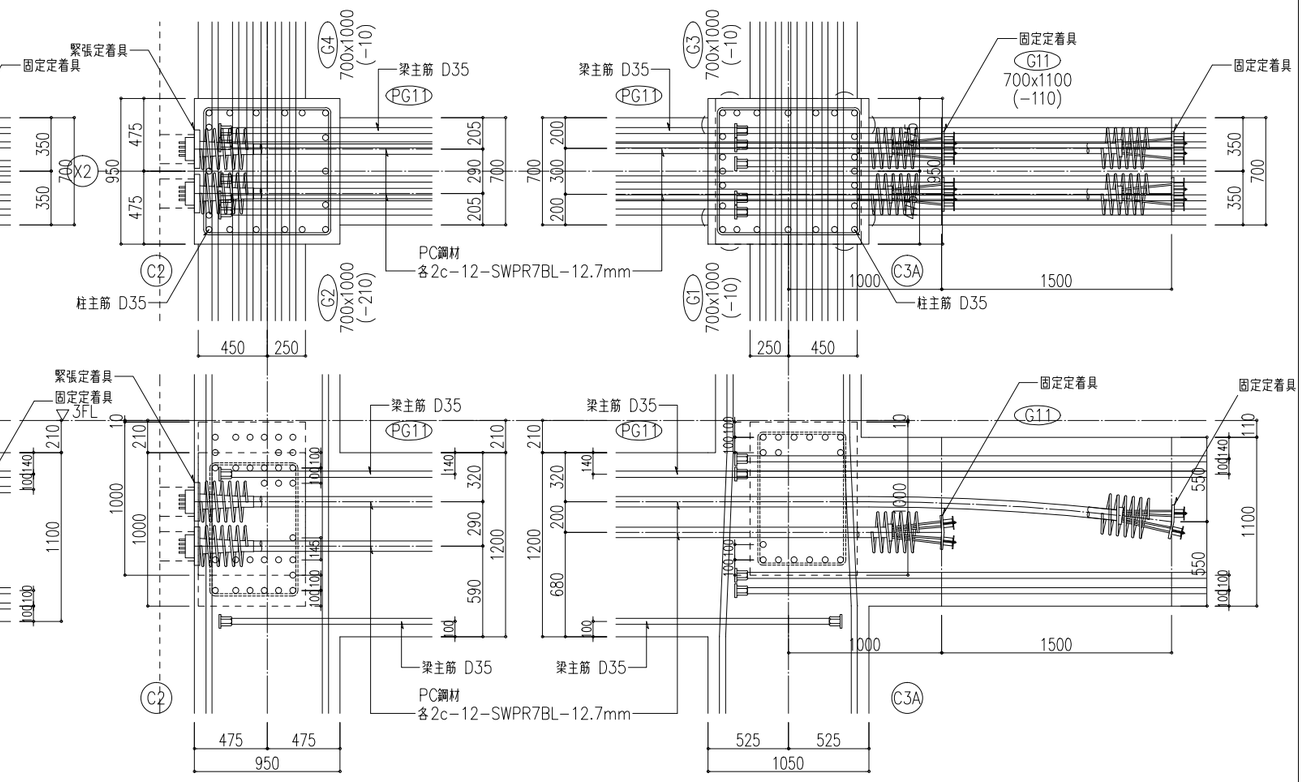


1階 PC梁詳細図（X5通り） S=1/20

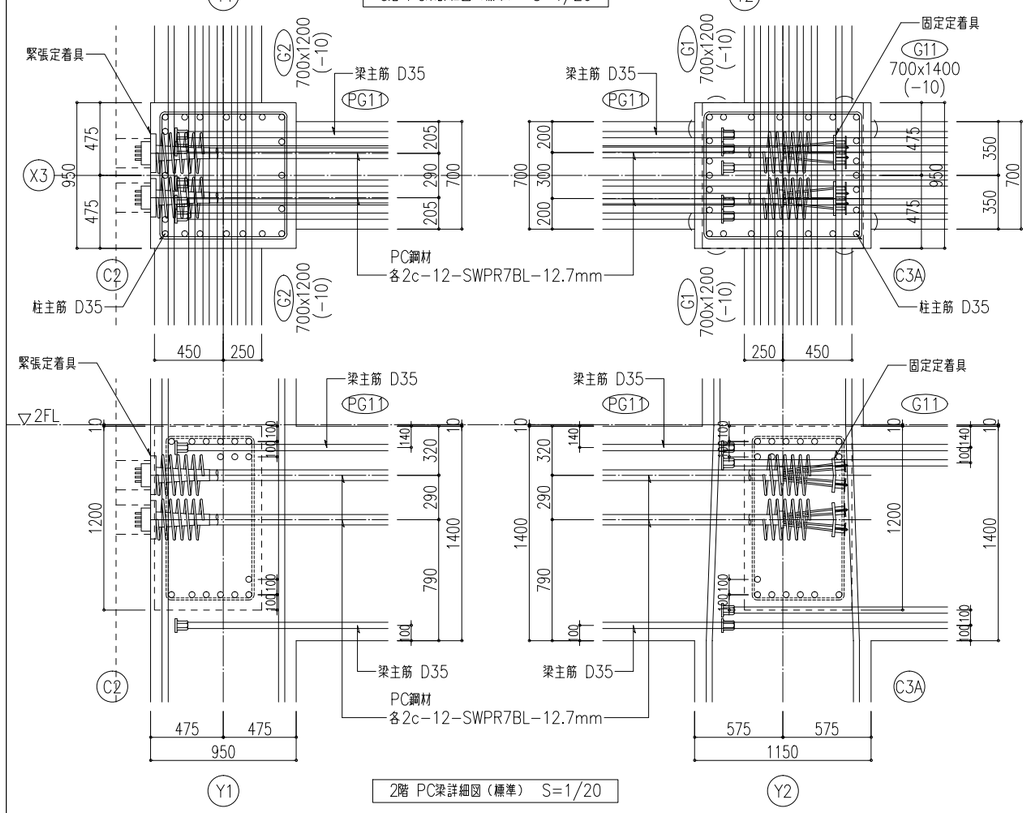
安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第129267号 高田 茂	新潟市建築部公共建築第1課	工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟建設工事	図名 PC梁詳細図(1)	
			年月日 2013.03.01	縮尺 1:20, 1:40 / 図面番号 B-34



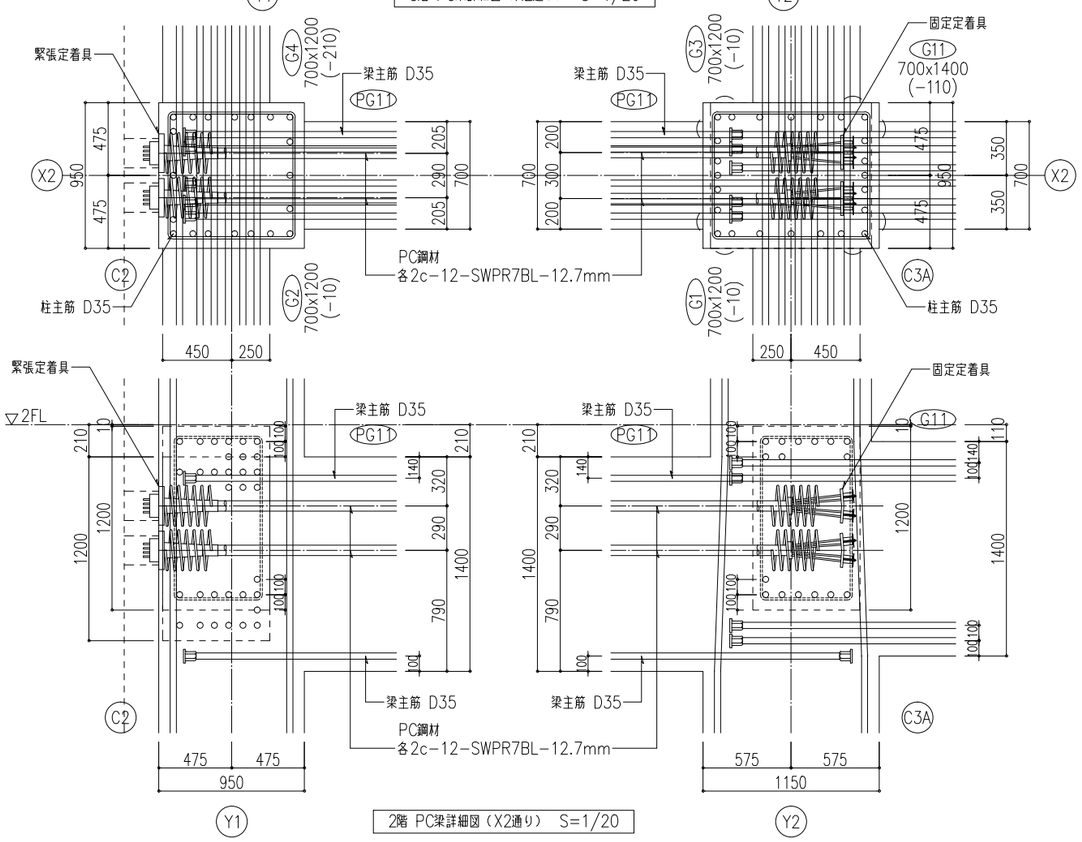
3階 PC梁詳細図（標準） S=1/20



3階 PC梁詳細図（X2通り） S=1/20

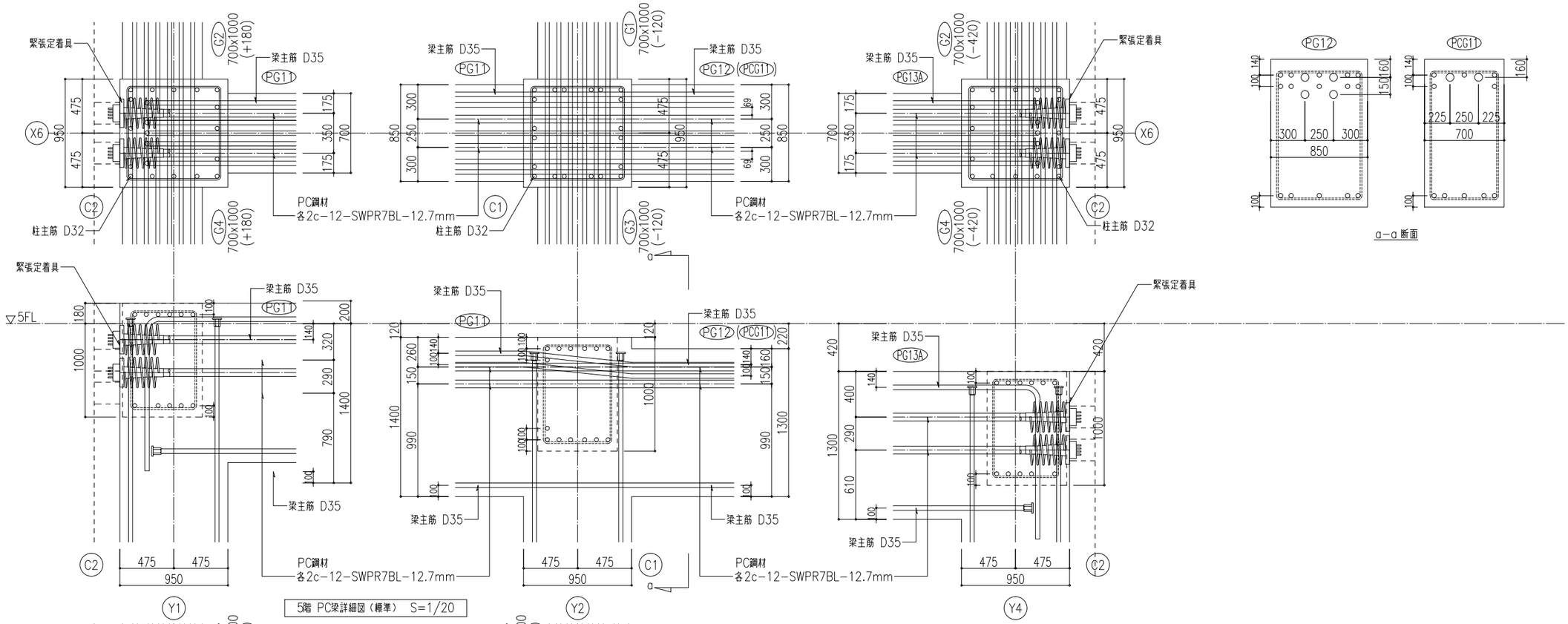


2階 PC梁詳細図（標準） S=1/20

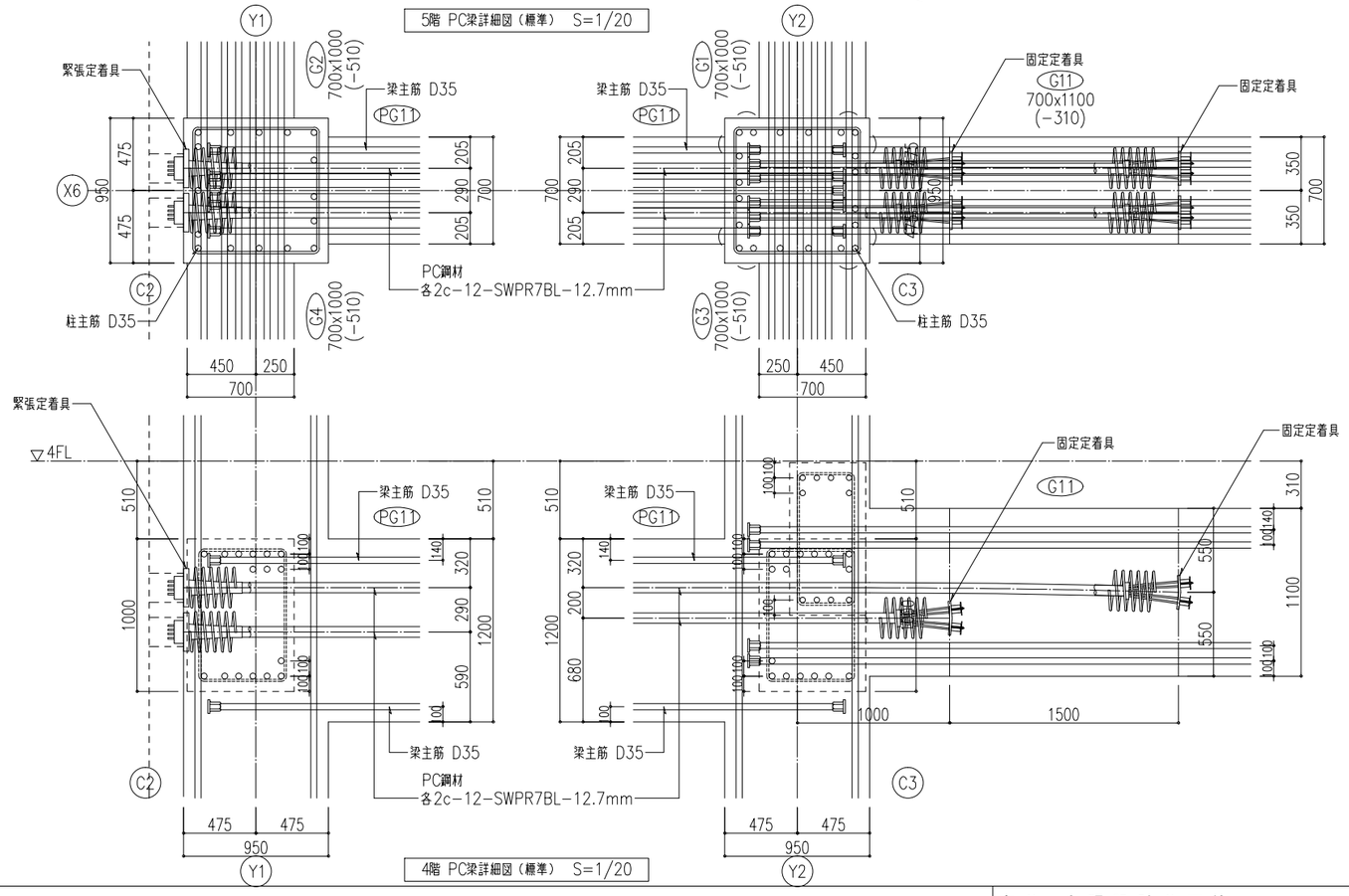


2階 PC梁詳細図（X2通り） S=1/20

安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第129267号 高田 茂	新潟市建築部公共建築第1課	工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟建設工事	図名 PC梁詳細図(2)	
			年月日 2013.03.01	縮尺 1:20, 1:40 / 図面番号 B-35



5階 PC梁詳細図（標準） S=1/20



4階 PC梁詳細図（標準） S=1/20

安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第129267号 高田 茂	新潟市建築部公共建築第1課	工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟建設工事	図名 PC梁詳細図(3) 年月日 2013.03.01	縮尺 1:20, 1:40 / 図面番号 B-36

特記なき限り

- スターラップは 2-D10@200 とする。
- 腹筋は 2-D10，幅止筋は D10@1000以内 とする。
- 土に接する梁下地業は 捨てコンクリート ⑦50，砕石 ⑦60 とする。
- スラブ段差・範囲・寸法は、仕上類、開口、および設備等の取合いを考慮し決定すること。

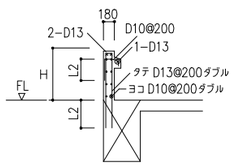
小梁リスト 1:50

符号	b1	b2	b3		b3A	b4			b5	b6		b7			b8	b9（b9A）			b10			b10A
位置	全断面	全断面	端部	中央	全断面	他端	中央	b6・b4・b3A端	全断面	端部	中央	他端	中央	b6・b7端	全断面	端部	中央	（全断面）	他端	中央	b9・b12・b13端	全断面
断面	500×300	900×350	900×350		900×350	900×350			900×400	900×400		900×400			1000×500	1000×500			1000×500			1000×500
上端筋	3-D19	4-D22	5-D22	4-D22	5-D22	4-D22	4-D22	5-D22	4-D25	5-D25	4-D25	4-D25	4-D25	5-D25	5-D25	7-D25	5-D25	(7-D25)	5-D25	5-D25	7-D25	7-D25
下端筋	3-D19	5-D22	4-D22	5-D22	4-D22	5-D22	5-D22	4-D22	5-D25	4-D25	5-D25	5-D25	5-D25	4-D25	7-D25	5-D25	7-D25	(5-D25)	7-D25	7-D25	5-D25	5-D25
スターラップ									2-D13@200	2-D13@200		2-D13@200			2-D13@200	2-D13@200			2-D13@200			2-D13@200
腹筋	——														4-D10	4-D10			4-D10			4-D10

符号	b11	b12	b13		b14			b15,cb1	b16	b17		b18		
位置	全断面	全断面	端部	中央	他端	中央	b9,b13端	全断面	全断面	端部	中央	他端	中央	b17端
断面	1800×300	1800×500	1800×500		1800×500			900×500	1200×500	1200×500		1200×500		
上端筋	3-D22	5-D25	8-D25	5-D25	5-D25	5-D25	8-D25	6-D29	5-D25	7-D25	5-D25	5-D25	5-D25	7-D25
下端筋	3-D22	9-D25	5-D25	7-D25	7-D25	7-D25	5-D25	4-D29	7-D25	5-D25	7-D25	7-D25	7-D25	5-D25
スターラップ	2-D13@200	2-D16@200	2-D16@200		2-D16@200			2-D13@200	2-D13@200	2-D13@200		2-D13@200		
腹筋	6-D10	6-D10	6-D10		6-D10			4-D10	4-D10	4-D10		4-D10		

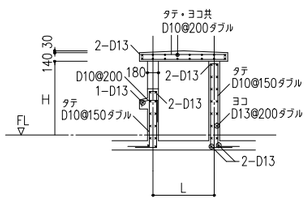
パラペット配筋図

H寸法は 意匠図 による。



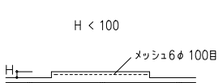
屋上配管取出口配筋図

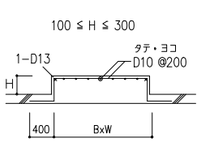
H，L寸法は 意匠図 による。

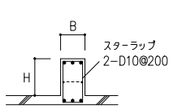


機械基礎配筋図

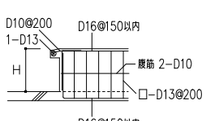
B，W，H寸法は 意匠図 による。







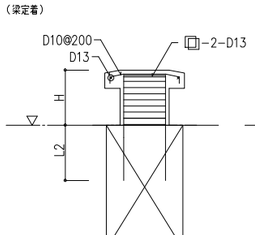
主筋	B<300の場合	上下共 2-D19
	B≧300の場合	上下共 D16@150
腹筋	H<600の場合	不要
	H≧600の場合	2-D10



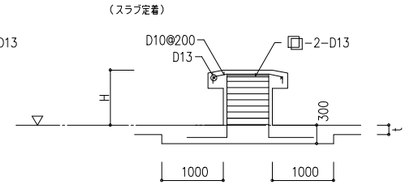
屋上鉄骨架台等受け柱型配筋図

- H 寸法は意匠図による。
- 柱型主筋は躯体にL2定着とする。

（梁定着）



（スラブ定着）



柱型リスト 1:50

符号	P1		P2		P3	
断面	500×500		1000×1000		800×800	
方向	X	Y	X	Y	X	Y
主筋	12-D16		20-D16		16-D16	
フープ	□-D10@100		□-D13@100		□-D10@100	

安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第129267号 高田 茂	新潟市建築部公共建築第1課	工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟建設工事	図名 RC小梁リスト、各部配筋図	
			年月日 2013.03.01	縮尺 A1:1/50, A3:1/100
			図面番号	B-37

特記なき限り

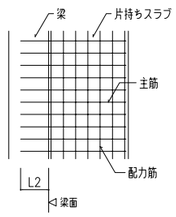
- 直押え部分は　スラブ天端増打 ⑦10　とする。
- 土に接するスラブ下地業は 捨てコンクリート ⑦50　とする。
- 鉄筋継手は　重ね継手　とする。
- スラブ段差・範囲・寸法は、仕上類、開口、および設備等の取合いを考慮し決定すること。必要に応じて小梁等で補強できるものとする。小梁、スラブなどの各種部材の位置、範囲は、監督員の承認を得て軽微変更の扱いとなる対象の範囲内あるいは補強方針に準じて行なうものとする

床版リスト

符　号	版　厚	層	短 辺 方 向（主筋方向）	長 辺 方 向（配力筋方向）	備　考
S1	150	上	D10・D13 @200	D10 @200	モチアミ配筋
		下	D10・D13 @200	D10 @200	
S2	150	上	D13 @200	D10・D13 @200	モチアミ配筋
		下	D13 @200	D10・D13 @200	
S3	150	上	D10・D13 @200	D10・D13 @200	モチアミ配筋
		下	D10・D13 @200	D10・D13 @200	
S4	180	上	D13 @200	D10 @200	モチアミ配筋
		下	D13 @200	D10 @200	
S5	180	上	D13 @200	D13 @200	モチアミ配筋
		下	D13 @200	D13 @200	
S6	180	上	D10・D13 @200	D10・D13 @200	モチアミ配筋
		下	D10・D13 @200	D10・D13 @200	
S7	200	上	D13 @150	D13 @200	モチアミ配筋
		下	D13 @150	D13 @200	
S8	200	上	D16 @125	D13 @150	モチアミ配筋
		下	D16 @125	D13 @150	
S9	250	上	D16 @200	D13 @200	モチアミ配筋
		下	D16 @200	D13 @200	
S10	250	上	D16 @150	D16 @150	モチアミ配筋
		下	D16 @150	D16 @150	
S11	300	上	D19 @200	D19 @200	モチアミ配筋
		下	D19 @200	D19 @200	
S12	300	上	D19 @200	D16 @200	モチアミ配筋
		下	D19 @200	D16 @200	
S13	300	上	D16 @200	D16 @200	モチアミ配筋
		下	D16 @200	D16 @200	
		上			
		下			
		上			
		下			
CS1	150	上	D13 @100	D10 @200	
		下	D13 @200	D10 @200	
CS2	250	上	D16 @100	D13 @200	
		下	D16 @200	D13 @200	
CS3	300	上	D16 @100	D13 @200	
		下	D16 @200	D13 @200	
CS4	180~150（先細）	上	D13 @100	D10 @200	
		下	D13 @200	D10 @200	

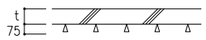
片持ちスラブの定着要領　1:50

- 短変方向鉄筋は　梁面から40d以上定着すること。



フラットデッキ付スラブ要領

コンクリート厚 t mmは　床版リストによる。



- ヘリポートスラブおよび吹抜上部屋根スラブは　フラットデッキ　とする。
- フラットデッキ厚は　t=1.2　を基本とし、施工図作成段階で作業時の安全性を確保できるよう再検討すること。
- 亜鉛メッキ付着量は　屋外露出部Z27、屋内部はZ12　とする。

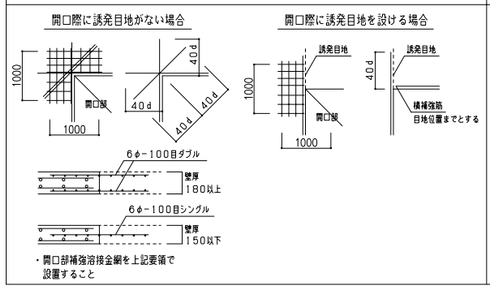
特記なき限り

- 巾止筋は　タテヨコ共　D10@1000以下　とする。
- 外壁の W18 ヨコ筋は　D13@200ダブル とする。
- 鉄筋継手は　重ね継手　とする。

壁　リスト　1:50

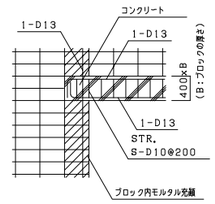
符　号		W12	W16	W18	W20	W25	KW22	W30	CB15
壁　厚（mm）		120	160	180	200	250	220	300	150
断　面（鉛直断面）		120	160	180	200	250	220	300	150
縦　筋		D10 @75 シングル	D10 @150 ダブル	D10・D13 @200 ダブル	D13 @200 ダブル	D13 @200 ダブル	D13 @150 ダブル	D16 @150 ダブル	D10 @400
横　筋		D10 @75 シングル	D10 @150 チドリダブル	D10・D13 @200 ダブル	D13 @200 ダブル	D13 @200 ダブル	D13 @150 ダブル	D16 @200 ダブル	D10 @400
壁開口部補強筋	縦筋	2-D13	2-D13	4-D13	4-D16	4-D16	4-D16	4-D16	——
	横筋	2-D13	2-D13	4-D13	4-D16	4-D16	4-D16	4-D16	——
	斜筋	6φ-100目シングル	6φ-100目シングル	6φ-100目シングル	6φ-100目ダブル	6φ-100目ダブル	6φ-100目ダブル	6φ-100目ダブル	——
備　考									h=3.5m以下とする。（h：支点間距離）

壁開口隅角部補強筋



・開口部補強溶接金網を上記要領で設置すること

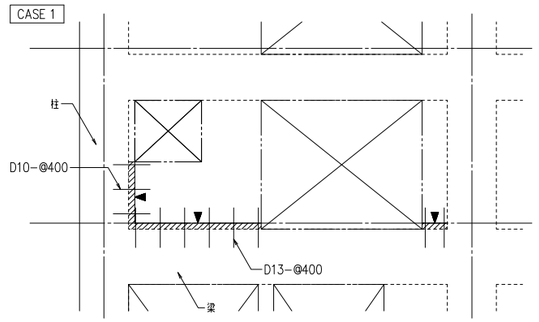
コンクリートブロック壁開口部補強筋



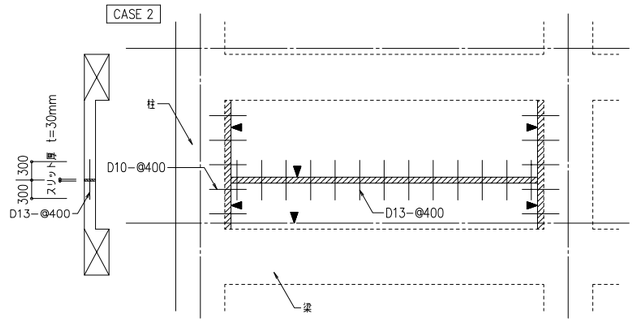
耐震スリット要領図

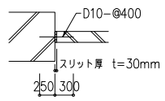
- 耐震スリット設置箇所は軸組図による。
- 耐震スリット材は全貫通タイプとする。
- 耐震スリット材は耐火性能を有し、かつ、二次防水処理が施しているものとする。
- スリット厚t=30mmとし、スリット巾Wは設置壁厚とする。
- 振れ止め筋は下図による。
- 遮音性能はD-50（1級）以上とする。
- ホースタワー、ELVシャフトのスリット壁の振れ止め筋は　ピッチ200とする。

CASE 1

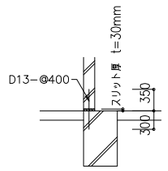


CASE 2



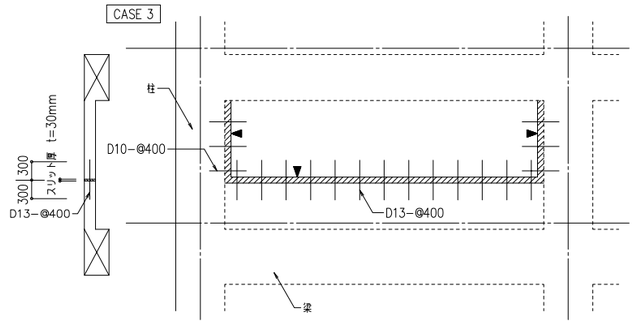


鉛直スリット

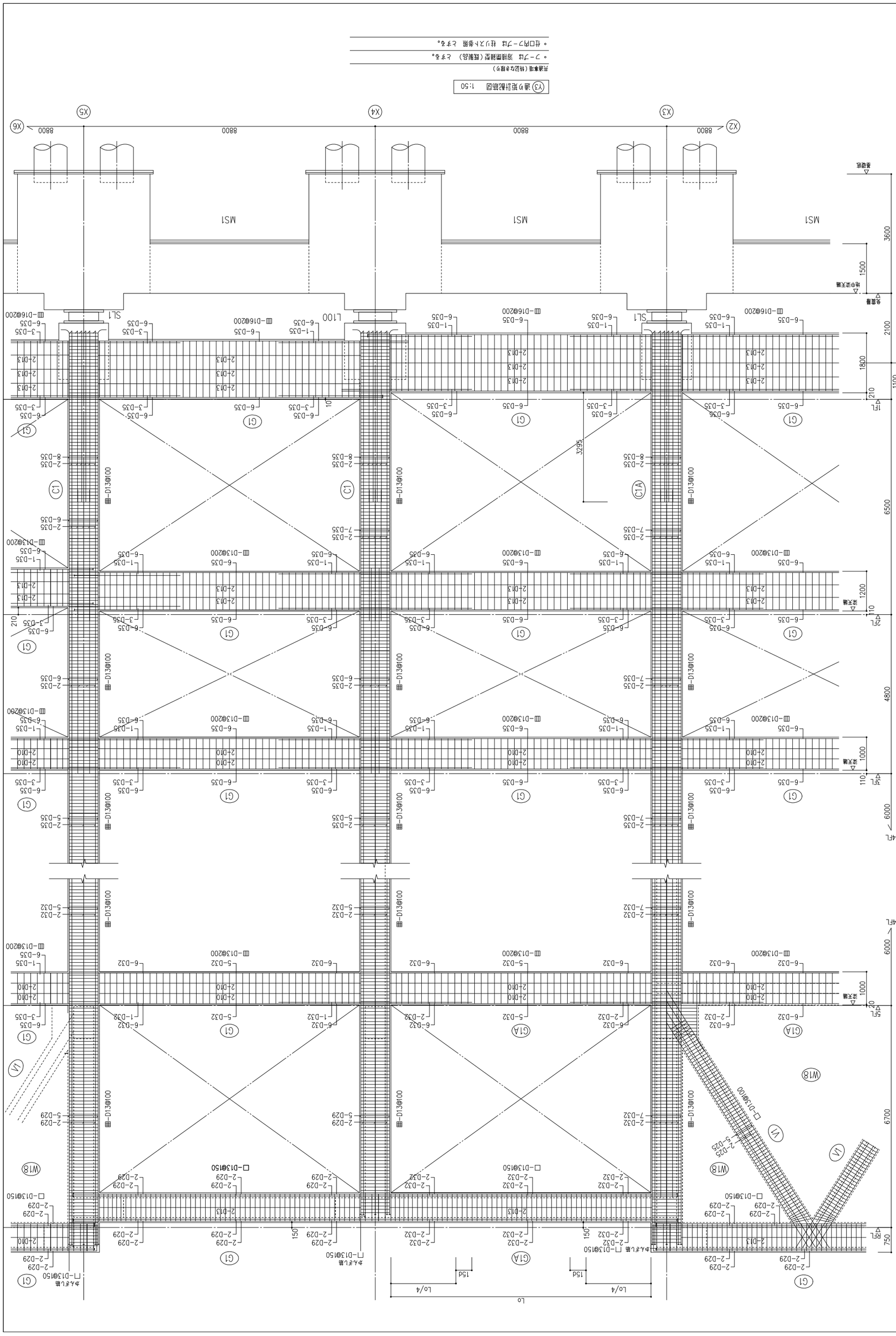


水平スリット

CASE 3



安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第129267号　高田　茂	新潟市建築部公共建築第1課	工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎　庁舎棟建設工事	図　名 床版リスト、壁リスト	
			年月日 2012.11.12	縮　尺 A1:1/50, A3:1/100
			図面番号	B-38

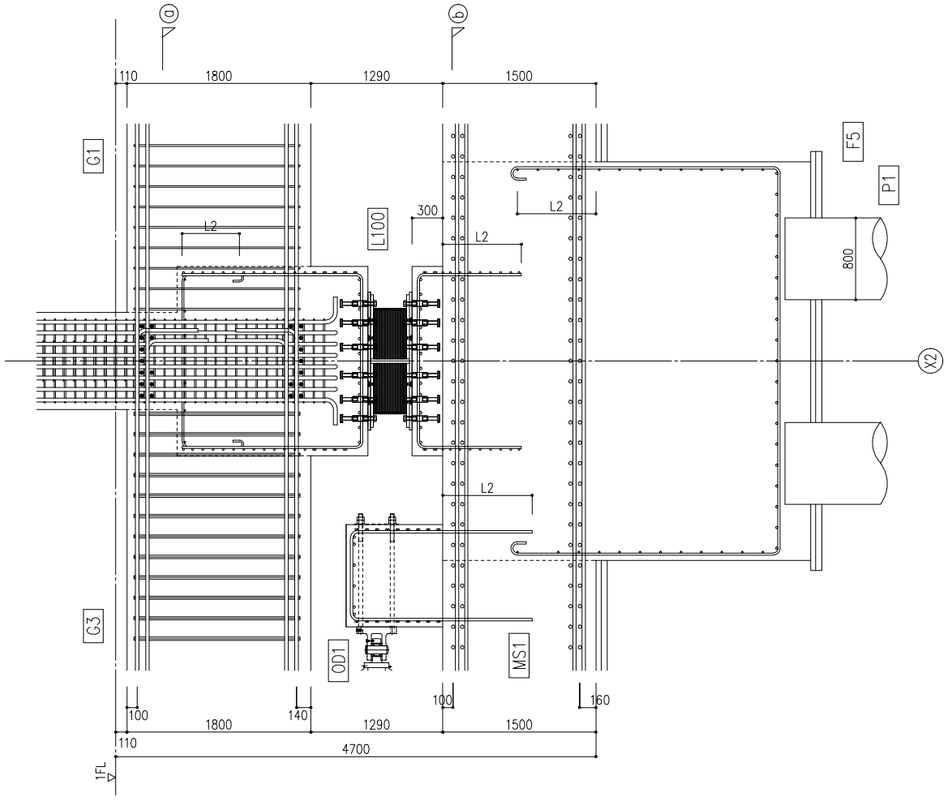


工事名	新潟市建築部公共建築第1課
新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟建設工事	

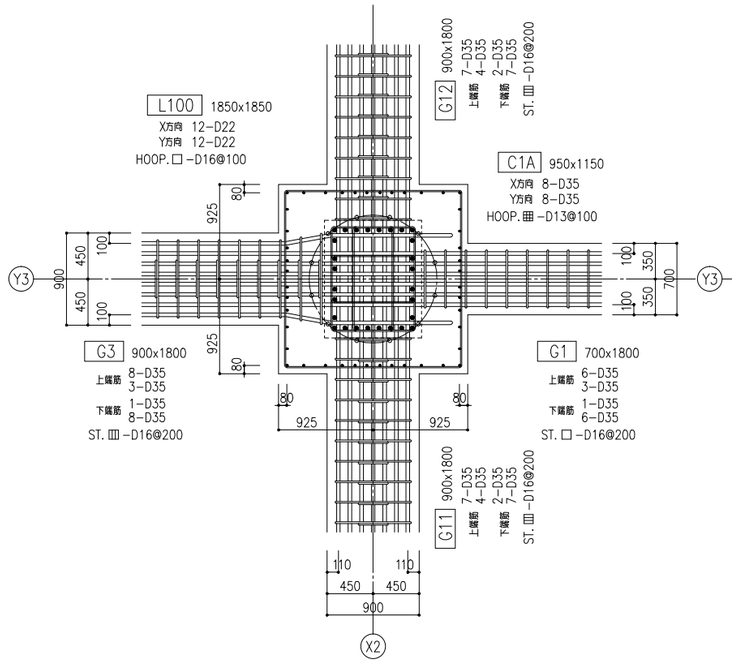
図名	矩形配筋詳細図
年月日 2012.11.12	縮尺 A1:1/50, A3:1/100
図面番号 B-39	

安井・太陽設計共同体
管理建築士一級建築士第129267号 高田 茂

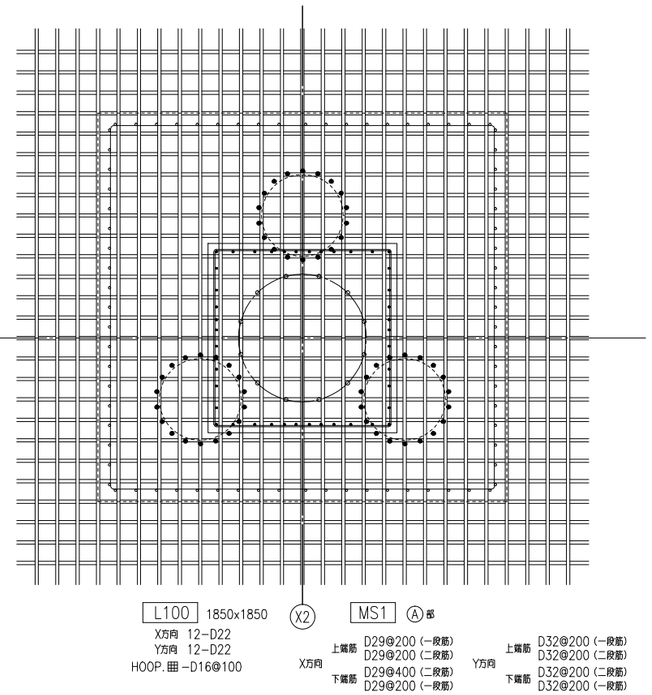
L100 X2. Y3 通り 配筋要領 1:30



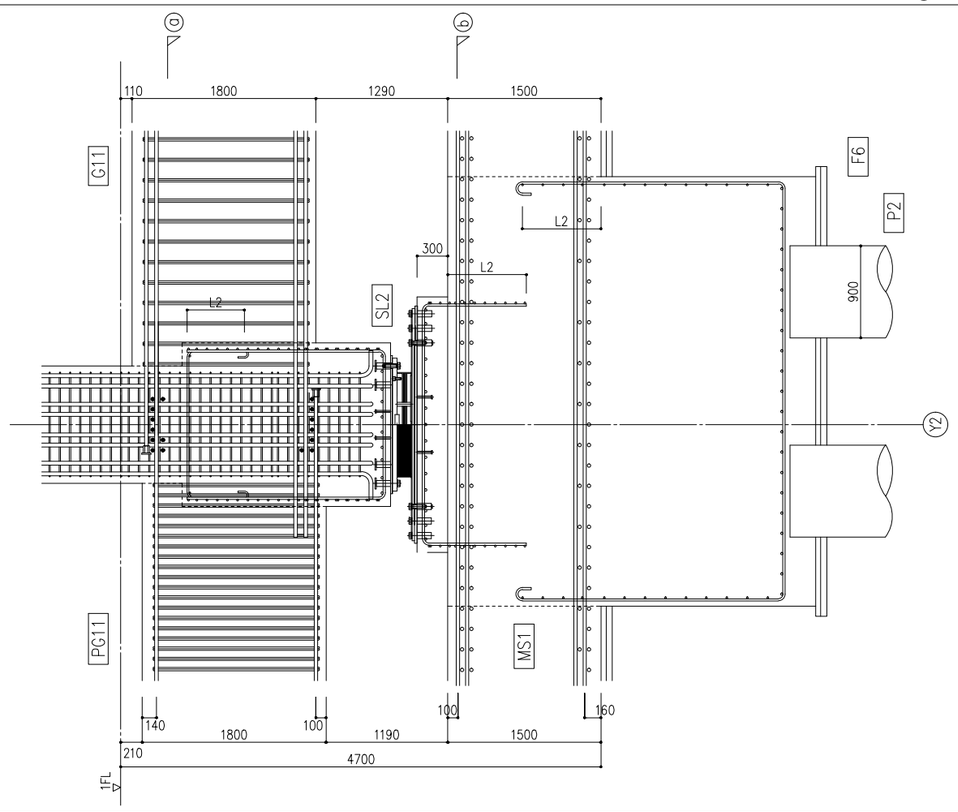
ⓐ 矢視図 1:30



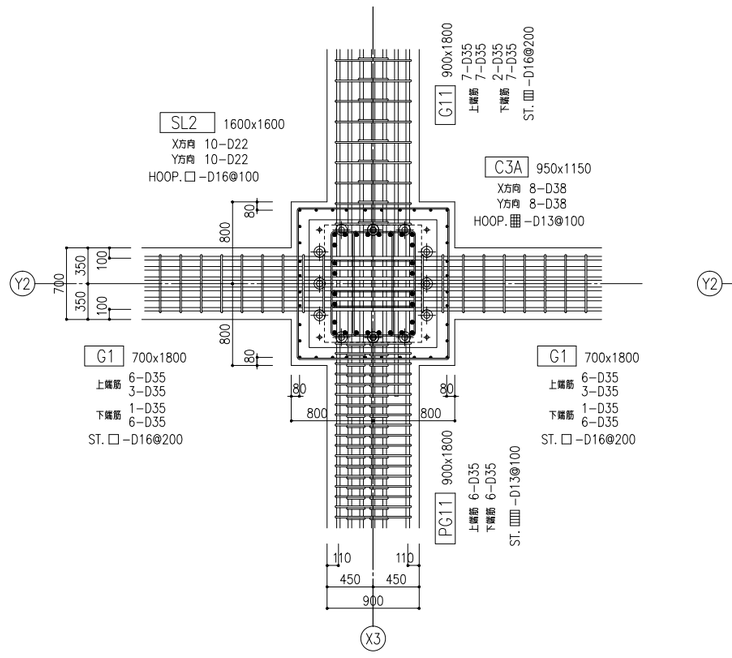
ⓑ 矢視図 1:30



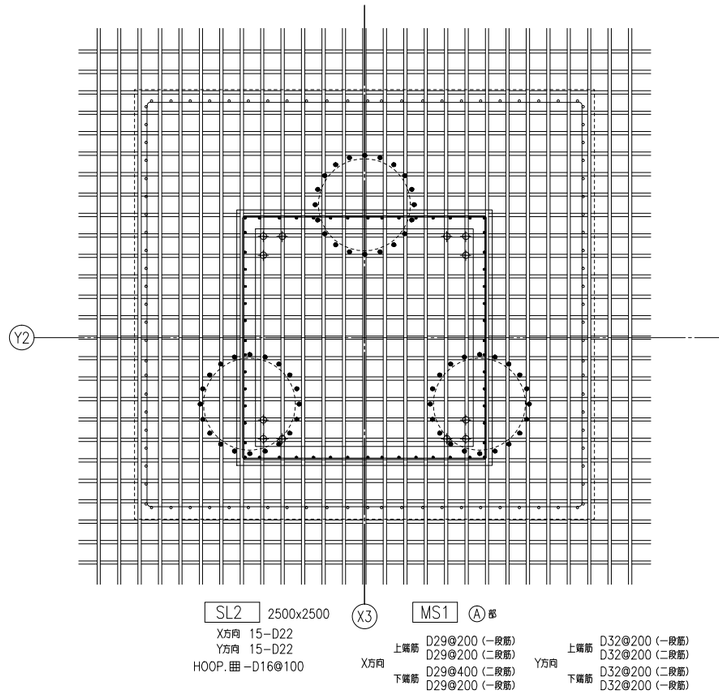
SL2 X3. Y2 通り 配筋要領 1:30



ⓐ 矢視図 1:30

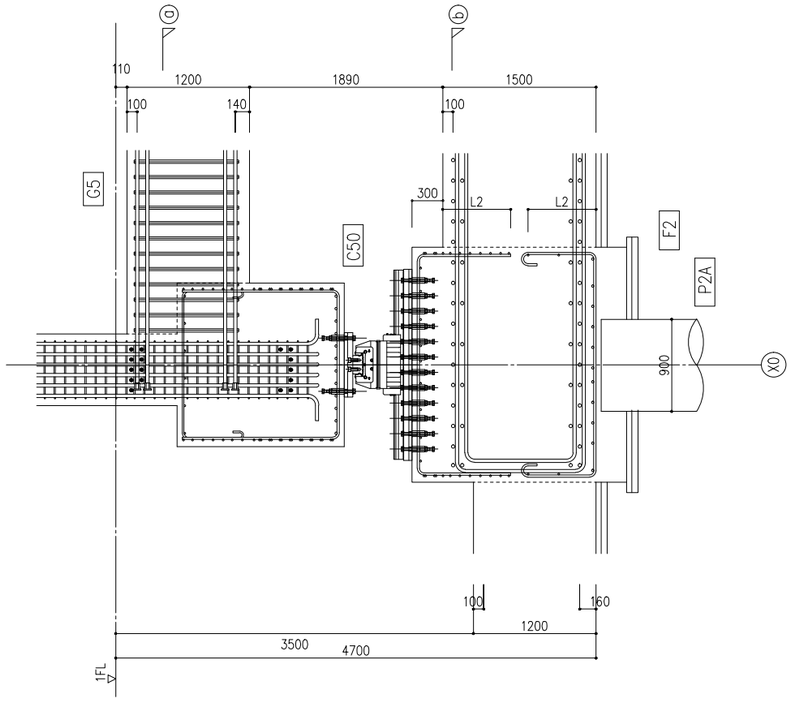


ⓑ 矢視図 1:30

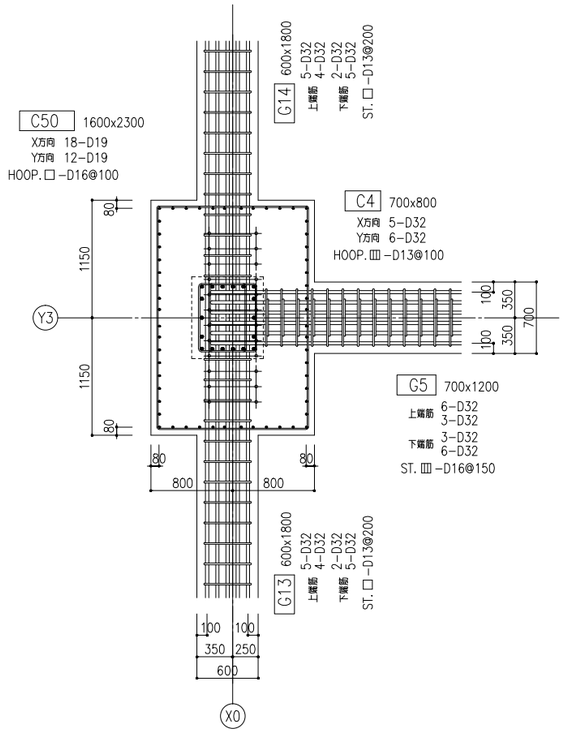


安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第129267号 高田 茂	新潟市建築部公共建築第1課	工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟建設工事	図名 柱梁接合部配筋詳細図（1） 年月日 2013.03.01　縮尺 A1:1/30, A3:1/60　図面番号 B-40

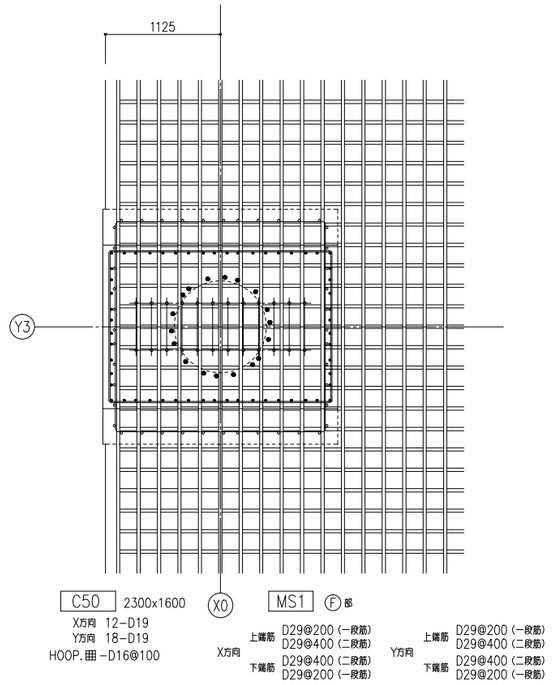
C50 X0. Y3 通り 配筋要領 1:30



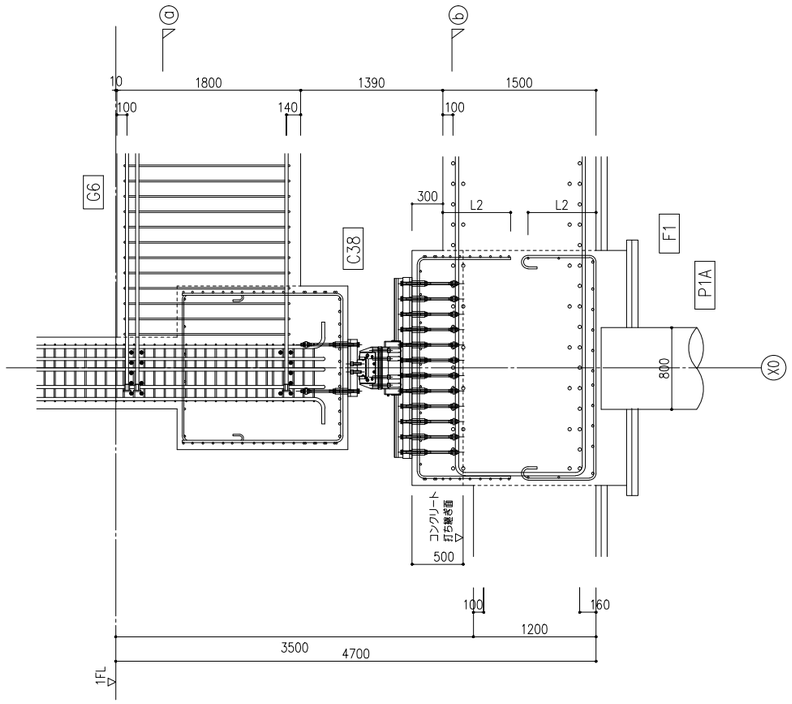
ⓐ 矢視図 1:30



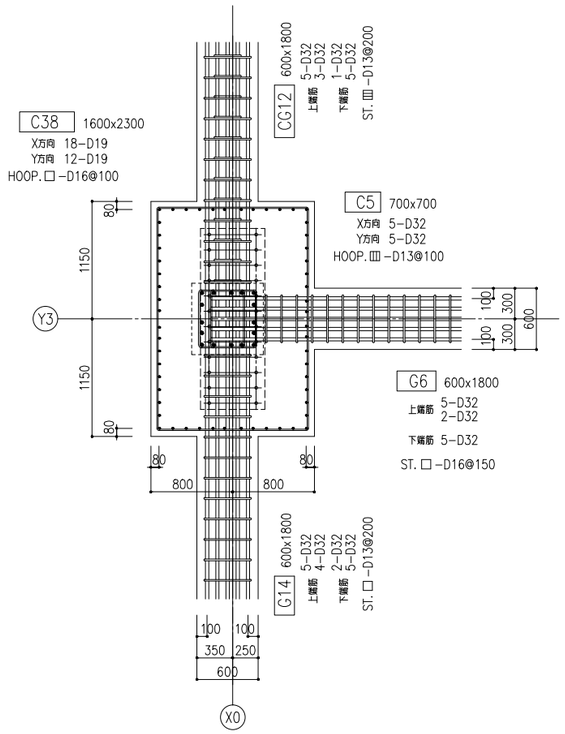
ⓑ 矢視図 1:30



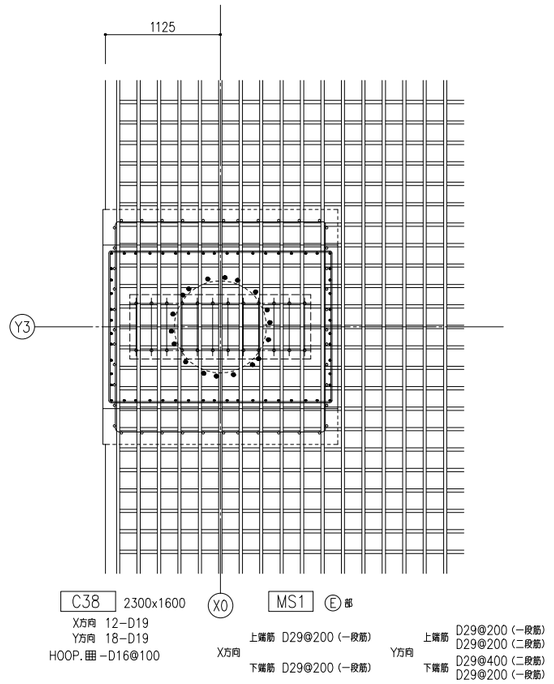
C38T X0. Y3+7600 通り 配筋要領 1:30



ⓐ 矢視図 1:30

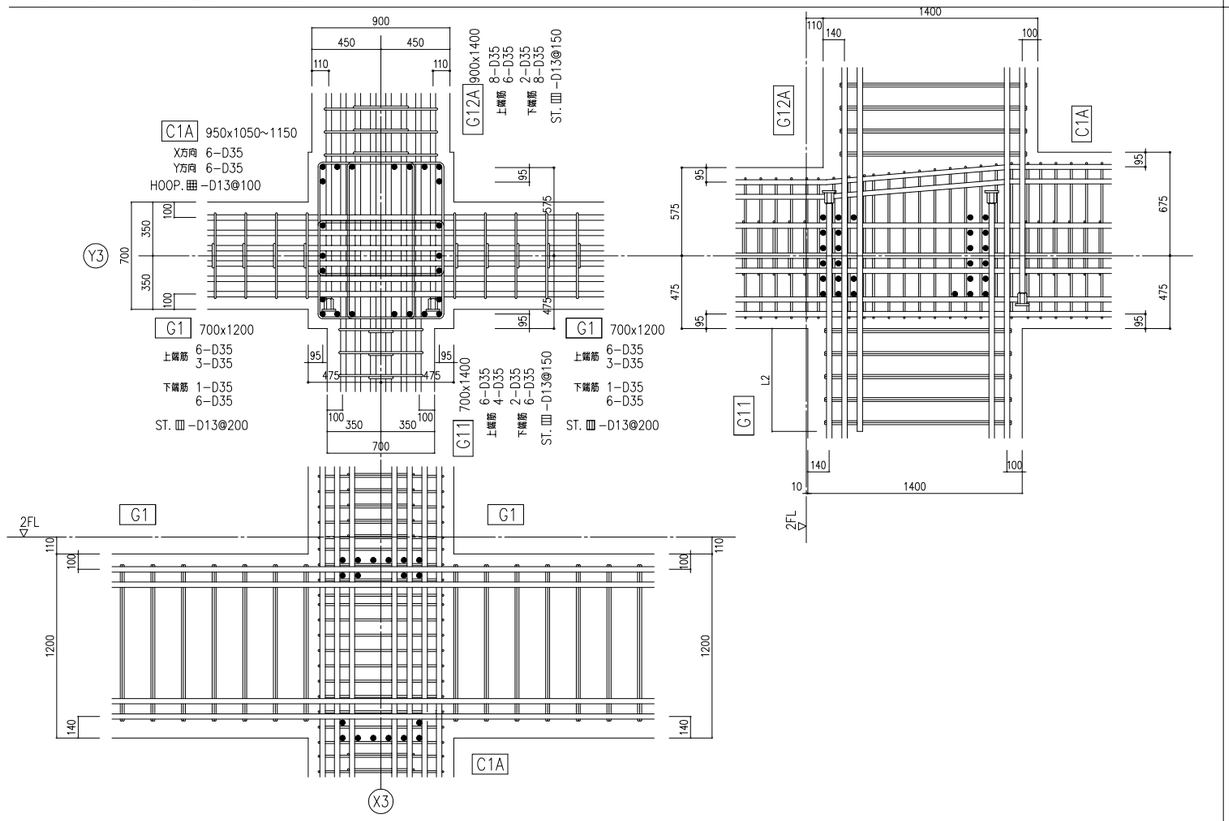


ⓑ 矢視図 1:30

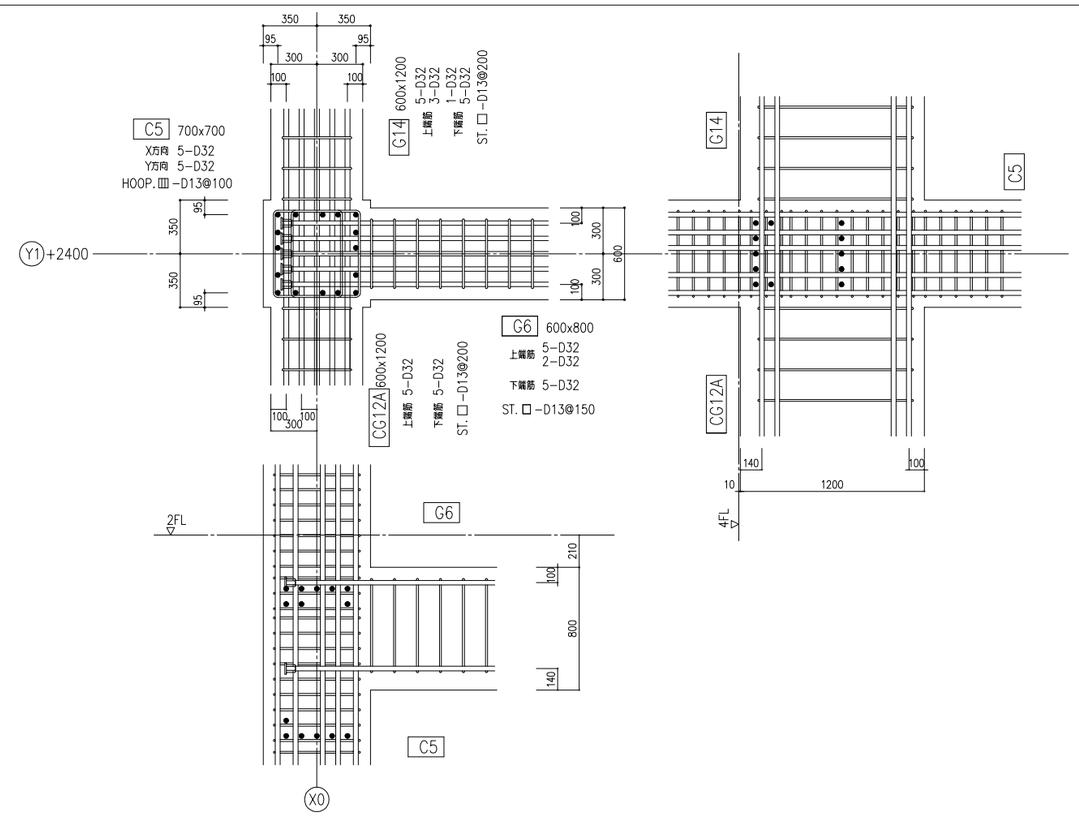


安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第129267号 高田 茂	新潟市建築部公共建築第1課	工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟建設工事	図名 柱梁接合部配筋詳細図（2）		
			年月日 2013.03.01	縮尺 A1:1/30, A3:1/60	図面番号 B-41

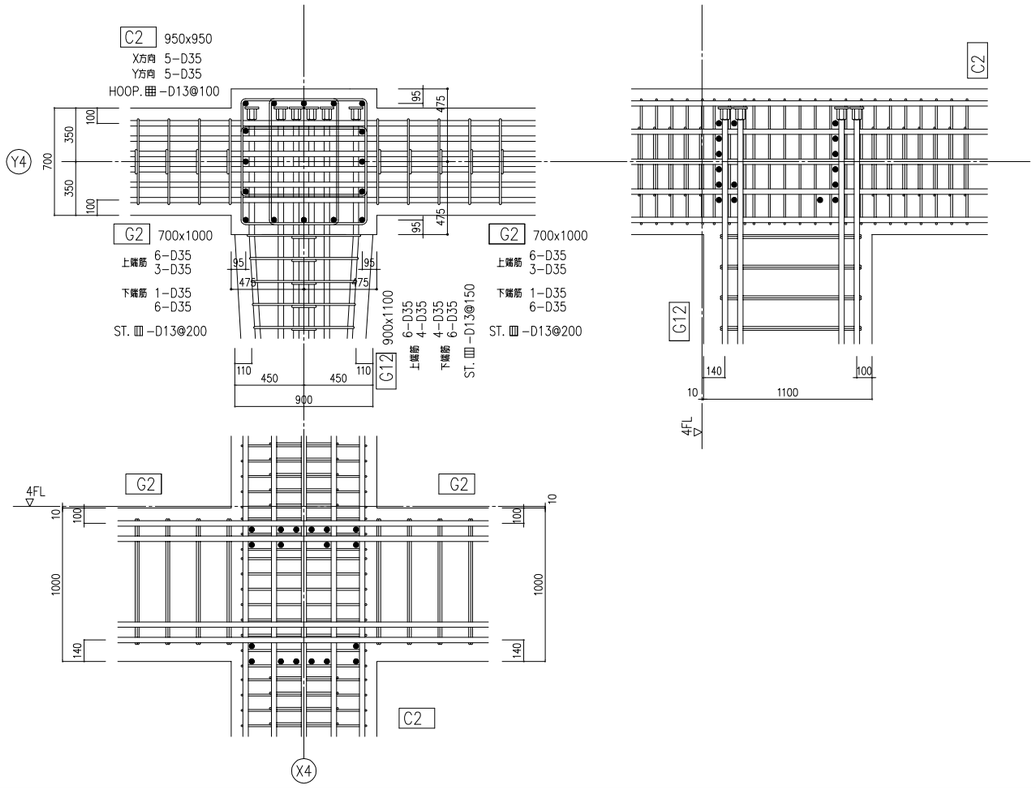
C1A (X3. Y3通り 2F) 配筋要領 1:20



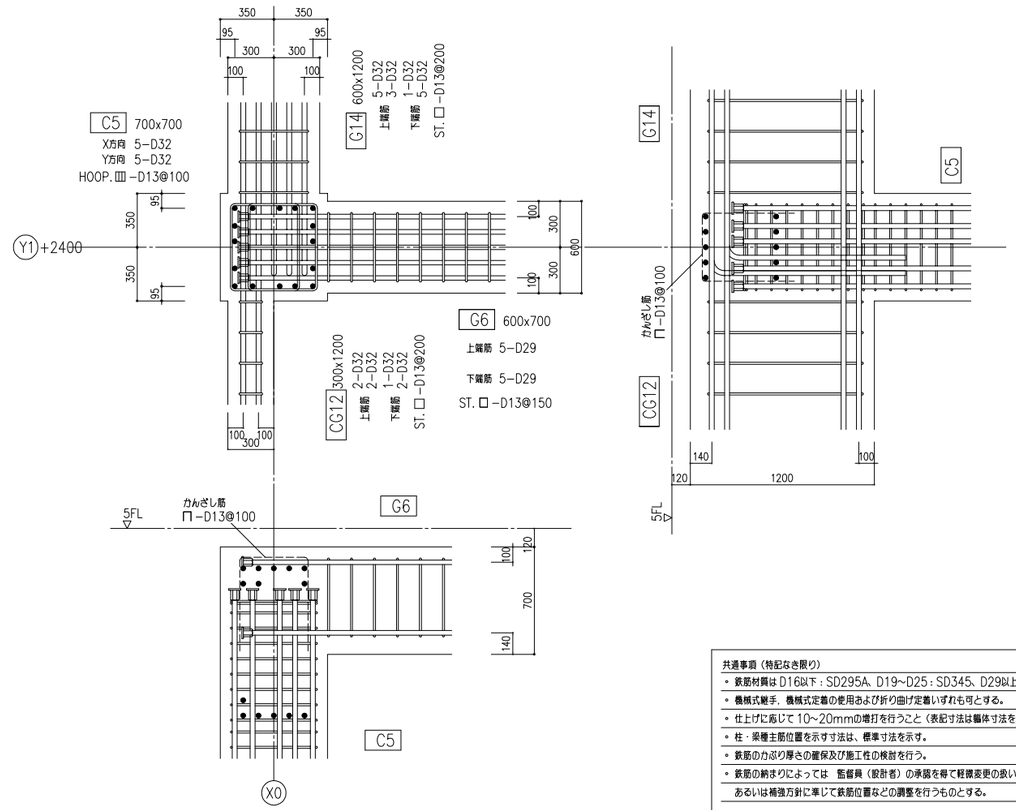
C5 (X0. Y1+2400通り 2F) 配筋要領 1:20



C2 (X4. Y4通り 4F) 配筋要領 1:20



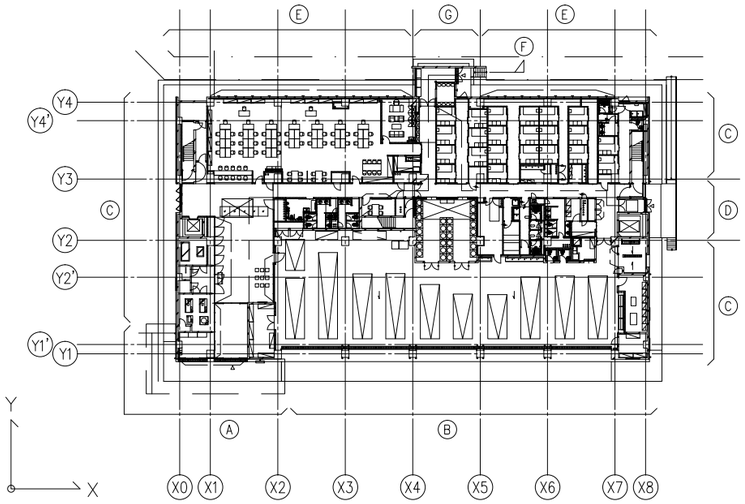
C5 (X0. Y1+2400通り 5F) 配筋要領 1:20



共通事項（特記なき限り）

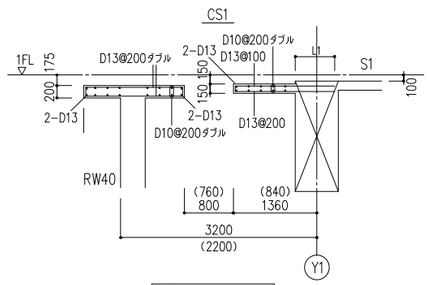
- 鉄筋材質はD16以下：SD295A、D19~D25：SD345、D29以上：SD390とする。
- 機械式継手，機械式定着の使用および折り曲げ定着いずれも可とする。
- 仕上げに応じて10~20mmの増打を行うこと（表記寸法は躯体寸法を示す）。
- 柱・梁種主筋位置を示す寸法は、標準寸法を示す。
- 鉄筋のかぶり厚さの確保及び施工性の検討を行う。
- 鉄筋の納まりによっては 監督員（設計者）の承諾を得て軽微変更の扱いの対象範囲あるいは補強方針に準じて鉄筋位置などの調整を行うものとする。

安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第129267号 高田 茂	新潟市建築部公共建築第1課	工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟建設工事	図名 柱梁接合部配筋詳細図（3）	
			年月日 2012.11.12 / 縮尺 A1:1/20, A3:1/40	図面番号 B-42



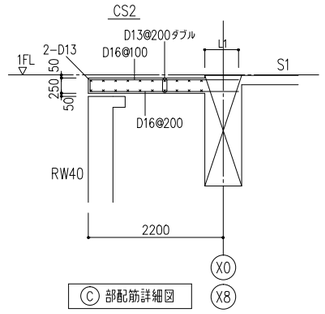
キープラン

共通事項
水平方向クリアランス　600mm以上を確保すること
鉛直方向クリアランス　50mm以上を確保すること。

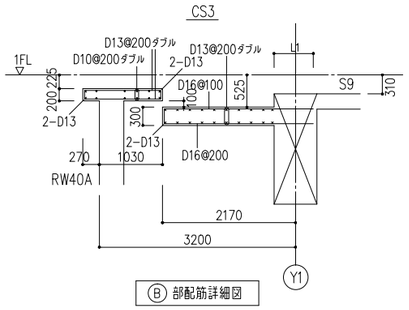


Ⓐ 部配筋詳細図

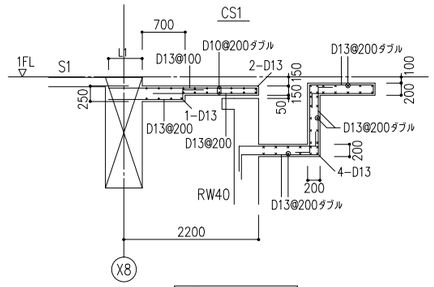
( )内数値は X0通 を示す。



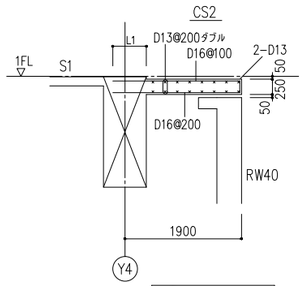
Ⓒ 部配筋詳細図



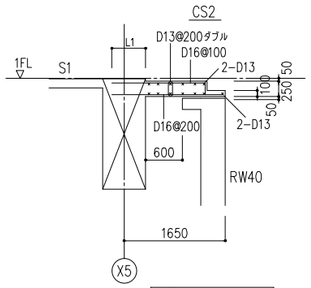
Ⓑ 部配筋詳細図



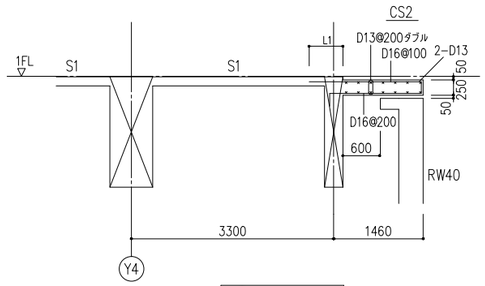
Ⓓ 部配筋詳細図



Ⓔ 部配筋詳細図



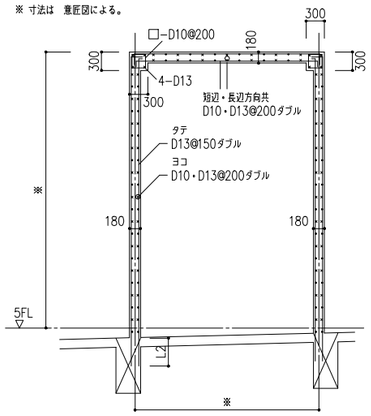
Ⓕ 部配筋詳細図



Ⓖ 部配筋詳細図

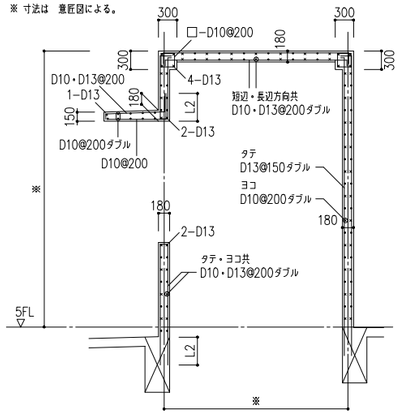
OA、EA塔配筋要領図

※ 寸法は 意匠図による。

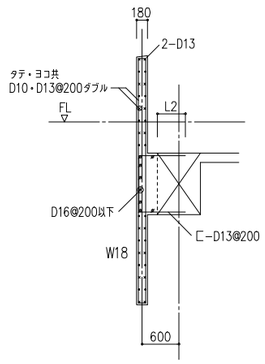


吹抜 2 上部屋根架構配筋要領図

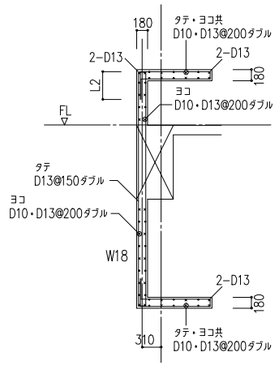
※ 寸法は 意匠図による。



Y1、Y4通りサッシ受け立上り配筋要領図

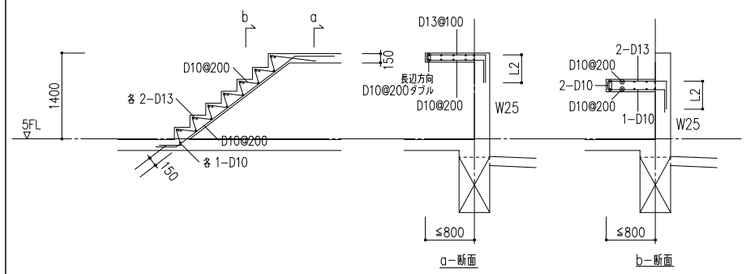


X0、X8通りサッシ受け立上り配筋要領図



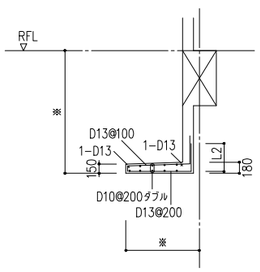
5階 発電機室階段要領図

※ 配置はおよび諸寸法は意匠図による。

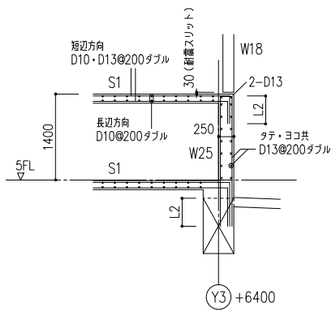


R階 庇配筋要領図

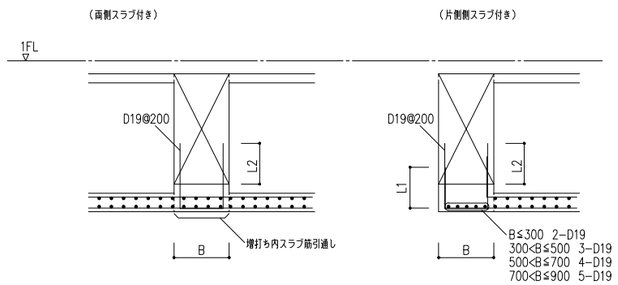
※ 寸法は 意匠図による。



5階 二重床配筋要領図



ピットスラブ受増打ち部配筋要領



121116改定

安井・太陽設計共同体
管理建築士一級建築士第129267号 高田 茂

新潟市建築部公共建築第1課

工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟建設工事

図名 各部配筋詳細図

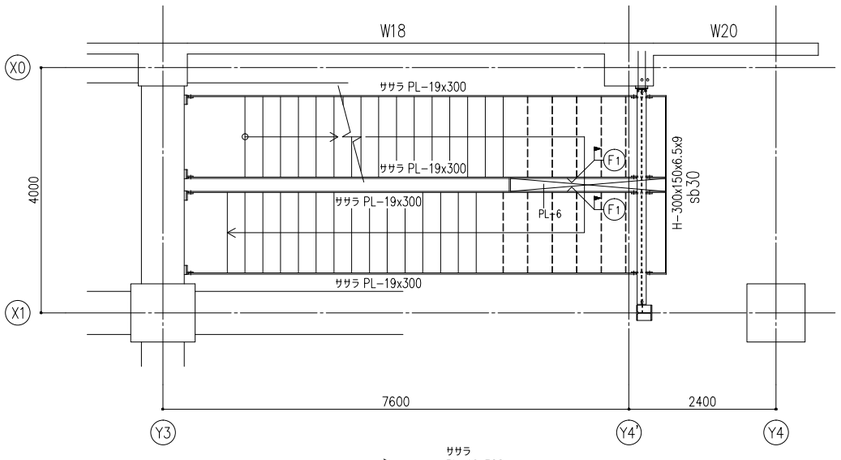
年月日 2013.03.01

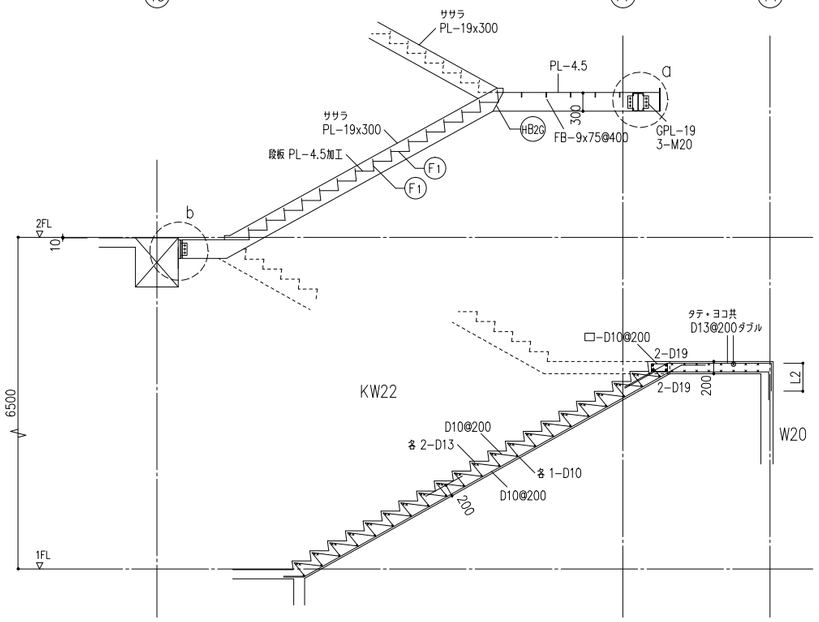
縮尺 A1:1/50, A3:1/100

図面番号 B-43

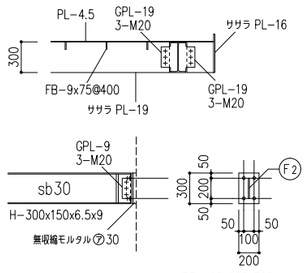
階段（1）詳細図　1:50, 1:30

共通事項（特記なき限り）
- 鋼材種別は SS400 とする。
- 高力ボルトは S10T とする。



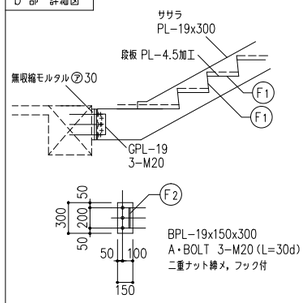


a 部　詳細図



BPL-16x200x300
A・BOLT 4-M20（L=30d）
二重ナット締め，フック付

b 部　詳細図

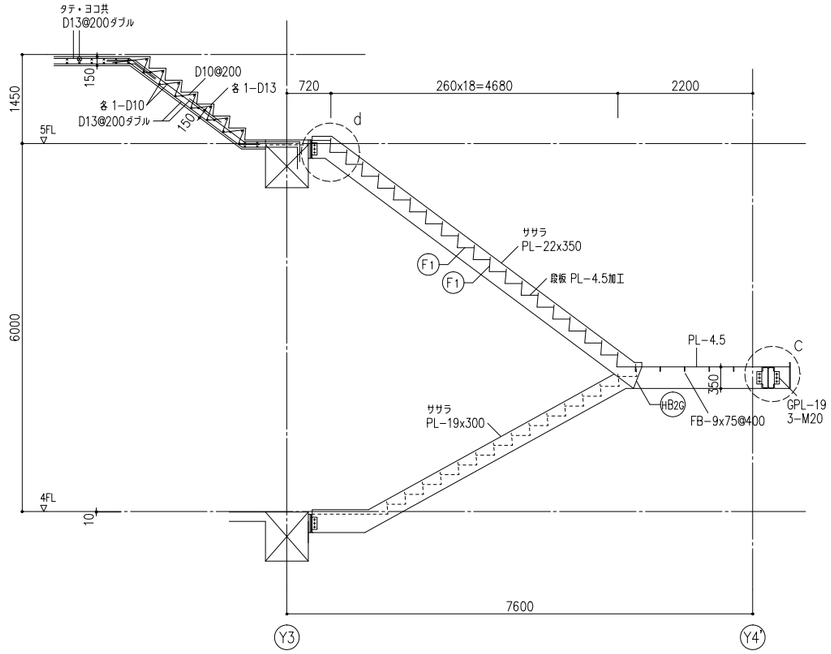


BPL-19x150x300
A・BOLT 3-M20（L=30d）
二重ナット締め，フック付

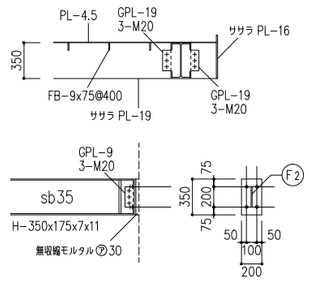
階段（2）詳細図　1:50, 1:30

1階～4階は 階段（1）に倣う。

共通事項（特記なき限り）
- 鋼材種別は SS400 とする。
- 高力ボルトは S10T とする。

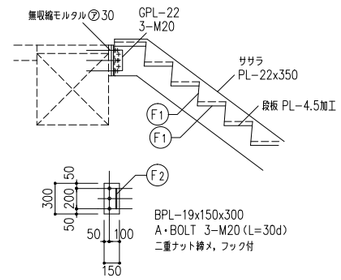


c 部　詳細図



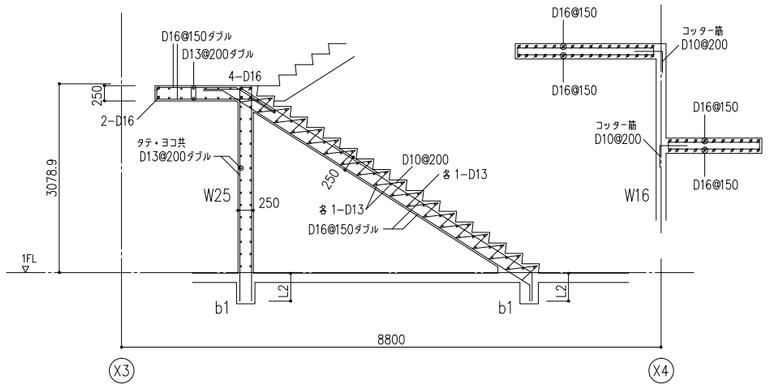
BPL-16x200x350
A・BOLT 4-M20（L=30d）
二重ナット締め，フック付

d 部　詳細図



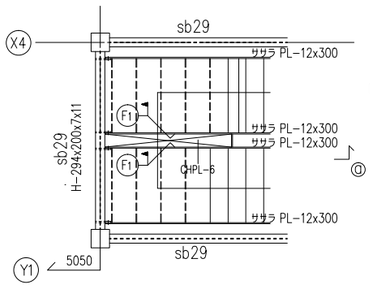
BPL-19x150x300
A・BOLT 3-M20（L=30d）
二重ナット締め，フック付

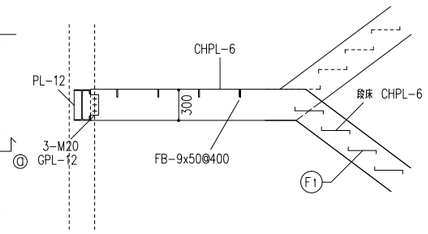
階段（3）詳細図　1:50



階段（5）詳細図　1:50

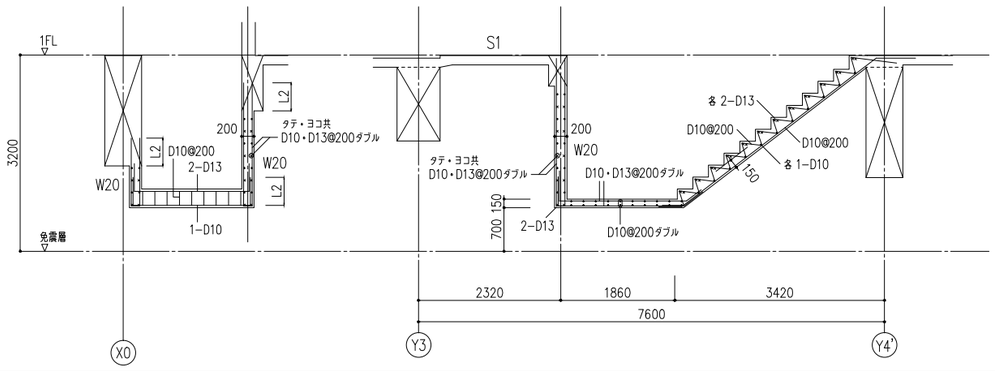
共通事項（特記なき限り）
- 鋼材種別は SS400 とする。
- 高力ボルトは S10T，メッキボルトは F8T とする。
- 屋外露出となる部材は すべて溶融亜鉛メッキ加工 とする。





ⓖ部　断面　1:30

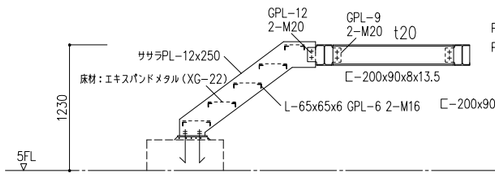
免震層～1階 階段配筋図　1:50



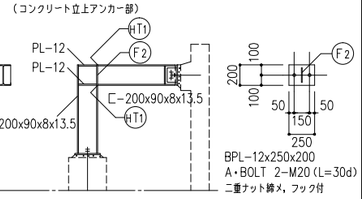
屋外階段詳細図　1:30

共通事項（特記なき限り）
- 鋼材種別は SS400 とする。
- 高力ボルトは S10T，メッキボルトは F8T とする。
- 屋外露出となる部材は すべて溶融亜鉛メッキ加工 とする。
- 屋外階段位置は意匠図による。

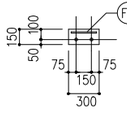
（一般部）



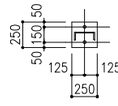
（コンクリート立上アンカー部）



BPL-12x250x200
A・BOLT 2-M20（L=30d）
二重ナット締め，フック付



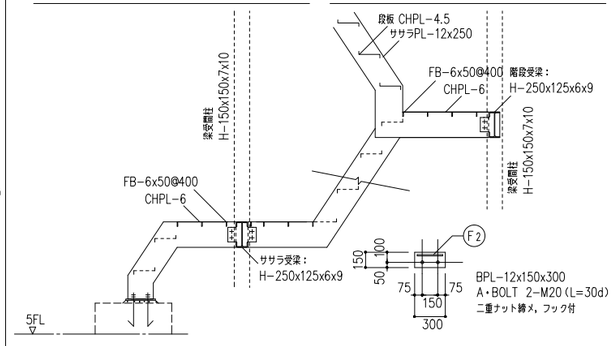
BPL-12x150x300
A・BOLT 2-M20（L=30d）
二重ナット締め，フック付



BPL-12x250x250
A・BOLT 2-M20（L=30d）
二重ナット締め，フック付

階段（9）詳細図　1:30

共通事項（特記なき限り）
- 鋼材種別は SS400 とする。
- 高力ボルトは S10T，メッキボルトは F8T とする。
- 屋外露出となる部材は すべて溶融亜鉛メッキ加工 とする。



BPL-12x150x300
A・BOLT 2-M20（L=30d）
二重ナット締め，フック付

121116改定

安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第129267号 高田 茂	新潟市建築部公共建築第1課	工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟建設工事	図名 階段詳細図
		年月日 2013.03.01	縮尺 A1:1/50, A3:1/100　図面番号 B-44

鉄骨梁・柱　各共通事項

- 鋼材質　SS400（ガセットプレートも　SS400）、完全溶込み溶接を行う場合はSN400Bとする。
- ボルト　特記なき限り　高力ボルト（HTB）S10T，メッキボルトは　F8T　　アンカーボルトは　SS400　とする。
- 屋外露出となる部材は　溶融亜鉛メッキ　550g／m² 以上とする。
- 雨水のたまるおそれのある部分には　水抜き穴を設ける事。
- GPL は母材と同材質とする。

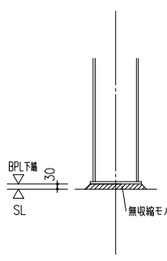
鉄骨部材リスト

符号	部材メンバー	接合ボルト	ガセットプレート	2-SPL	備考
sC1	φ-558.8x25　　(STK490)	——	——		
sCG1・sG1	H-500x250x12x25 (SN490B)	——	——		剛接合
sCG11・sG11	H-500x250x12x28 (SN490B)	——	——		剛接合
sb25	H-250x125x 6 x 9	2-M20	PL- 6		
sb29	H-294x200x 8 x 12	3-M20	PL-9		
sb30	H-300x150x6.5 x 9	3-M20	PL-9		
sb39	H-390x300x 10x 16 (SN400B)	4-M20	PL-12		
sb40	H-400x200x 8 x 13	4-M20	PL-9		
sb45	H-450x200x 9 x 14	4-M20	PL-9		
sb50	H-500x200x 10x 16	5-M20	PL-12		
sb50A	H-500x200x 10x 16 (SM490A)	5-M20	PL-12		
sb50B	BH-500~400x200x12x16	4-M20	PL-12		
sb60	H-600x200x 11x 17	5-M20	PL-12		
csb39	H-390x300x 10x 16 (SN400B)	——	——		剛接合
csb60	B-600x200x12x25 (SN400B)	——	——		剛接合
shb15	H-150x150x 7x10	2-M20	PL-9		横使い
shb19	H-194x150x 6x 9	2-M20	PL-6		横使い
sV1	φ-355.6x9.5　　(STK400)	16-M20		PL-12	
sV2	φ-267.4x9.3　　(STK400)	16-M20		PL-12	
sV16	1-M16（ターンバックルブレース）	1-M16		PL-6	
sV20	1-M20（ターンバックルブレース）	1-M20		PL-9	
t12	[-125x65x 6 x 8	2-M20	PL-9		
t20	[-200x90x 8 x13.5	2-M20	PL-9		
sP15	H-150x150x 7x10	2-M20	PL-9		
sP24	H-244x175x 7x11	——	——		目隠し壁　詳細図による
sP25	H-250x250x 9 x 14	4-M20	PL-9		柱脚は図示
sP29	H-294x200x 8 x 12	——	——		柱脚は図示
sP30	H-300x300x 10x 15	4-M20	PL-12		
sP30A	□-300x300x12　　(BCR295)	——	——		柱脚は図示
sP40	H-400x200x12x22 (SN400B)	——	——		詳細図による

柱脚リスト　1:30

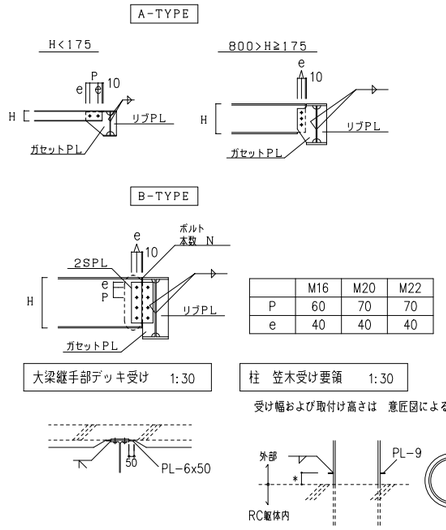
特記なき限り
- ベースプレート材質は、柱材質に同じ。

断面	符号	sP15	sP25	sP29	sP30A
	部材	H-150x150x7x10	H-250x250x9x14	H-294x200x8x12	□-300x300x12
	断面				
	ベースプレート	PL-16x200x250	PL-19x300x300	PL-19x250x350	PL-19x500x500 (SM490A)
	アンカーボルト	2-M20　L=600	4-M20　L=600	4-M20　L=600	8-M30　L=900 (SS490)
	備考				リブPL-6　H=100



小梁継手要領図

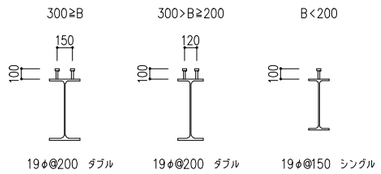
（リブプレートは　GPLと同材質・同厚とする）



	M16	M20	M22
P	60	70	70
e	40	40	40

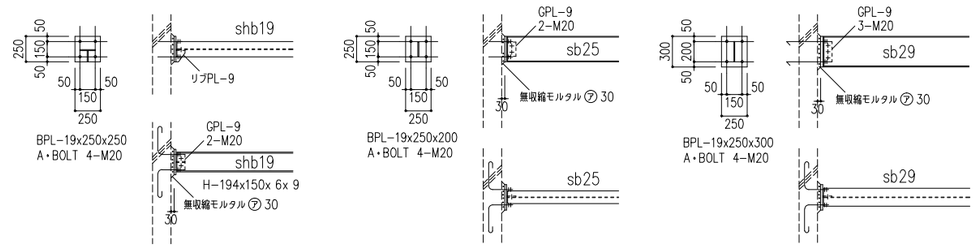
梁上スタッドジベル要領　1:30

（注）コンクリート床を受ける鉄骨梁共通（SRC梁を除く）



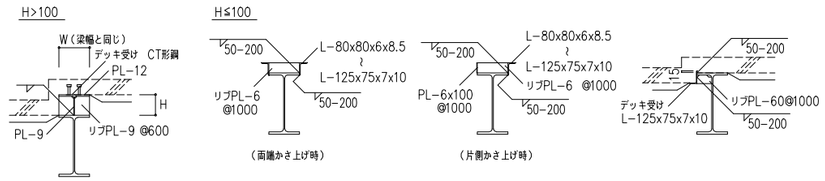
共通事項（特記なき限り）
- 鋼材質　SS400　とする。
- アンカーボルトは　SS400　L=30d フック付き　2重ナット締め　とする。

RC躯体取合要領　1:30



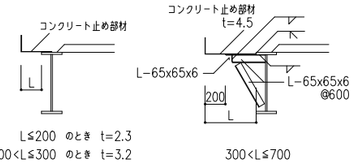
スラブ段差とデッキ受け　1:30

- H はかさ上げ寸法



デッキ床端部コンクリート止め要領　1:30

※）デッキ床の端部が梁フランジ端部より外側にくる場合は
下記要領でコンクリート止め部材及び補強部材を設ける事。
コンクリート止め部材は　亜鉛メッキZ12　とする。
建物外周CS1の床型枠は本図による。

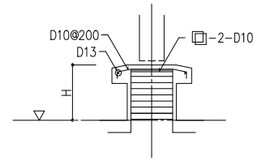


柱型リスト　1:50

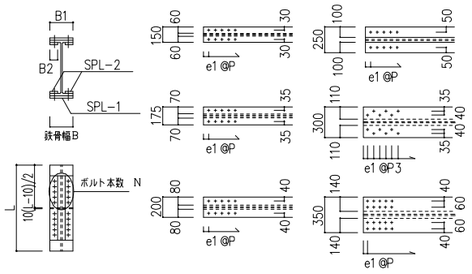
符号	sP15，sP24		sP30A	
断面				
方向	X	Y	X	Y
主筋	8-D16		12-D16	
フープ	□-D10@100		□-D10@100	

柱型配筋要領

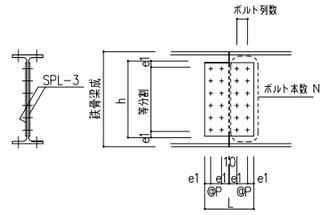
- H 寸法は意匠図による。



柱・梁フランジ継手



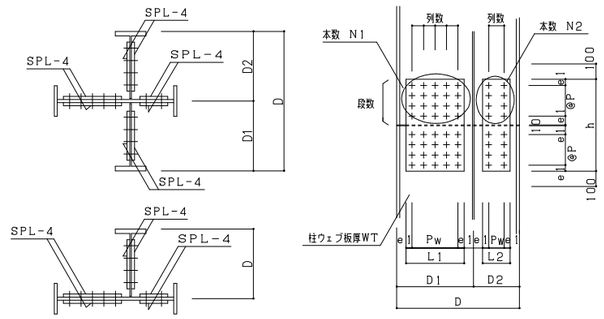
S・SRC梁　ウェブ継手



柱・梁・フランジ・ウェブ　共通

	e1	P	P3
M16	40	60	45
M20	40	60	45
M22	40	60	45

SRC柱・ウェブ継手



共通事項（特記なき限り）
- スプライスプレートは　母材と同材質　とする。
- 高力ボルトは　S10T，メッキ部材については　メッキボルト F8T　とする。
- 継手は　原則として「鉄骨構造標準接合部 SCSS-H97」による。
- フィラープレートは　SS400　とする。

柱・梁継手リスト（フランジ・ウェブ）

材質	部材メンバー（中央断面）	フランジ継手 ボルト 径	列	本数N	SPL-1 板厚	B1	SPL-2 板厚	B2	L	ウェブ継手 ボルト 径	列	本数N	SPL-3 板厚	h	L	備考
SN400B	H-294x200x8x12	M20	2	6	9	200	9	80	410	M20	1	3	9	200	170	
	H-390x300x10x16	M20	ﾁﾄﾞﾘ4	8	12	300	12	110	440	M20	1	4	9	260	170	
	H-600x200x12x25	M20	2	8	16	200	19	80	530	M20	2	8	9	440	290	
SN490B SM490A	H-500x200x10x16	M20	2	8	12	200	12	80	530	M20	1	6	9	380	170	
	H-500x250x12x25	M20	2	14	16	250	19	100	890	M20	2	10	12	320	290	
	H-500x250x12x28	M20	2	16	19	250	19	100	1010	M20	2	10	12	320	290	
	H-600x200x12x22	M20	2	10	16	200	16	80	650	M20	2	12	12	380	290	
	H-600x200x12x28	M20	2	12	19	200	19	80	770	M20	2	12	12	380	290	
	H-294x200x8x12	M20	2	6	9	200	9	80	410	M20	2	6	9	200	290	
	BH-300x200x12x19	M20	2	10	16	200	16	80	650	M20	2	6	12	200	290	

共通事項（特記なき限り）
- スプライスプレートは　母材と同材質　とする。
- 高力ボルトは　S10T，メッキ部材については　メッキボルト F8T　とする。

SRC柱　フランジ　継手リスト

柱フランジ 材質	フランジプレート	ボルト 径	列	本数N	SPL-1 板厚	B1	SPL-2 板厚	B2	L	備考
SN490B	PL-19x200	M22	2	10	16	200	16	80	650	

SRC柱　ウェブ　継手リスト

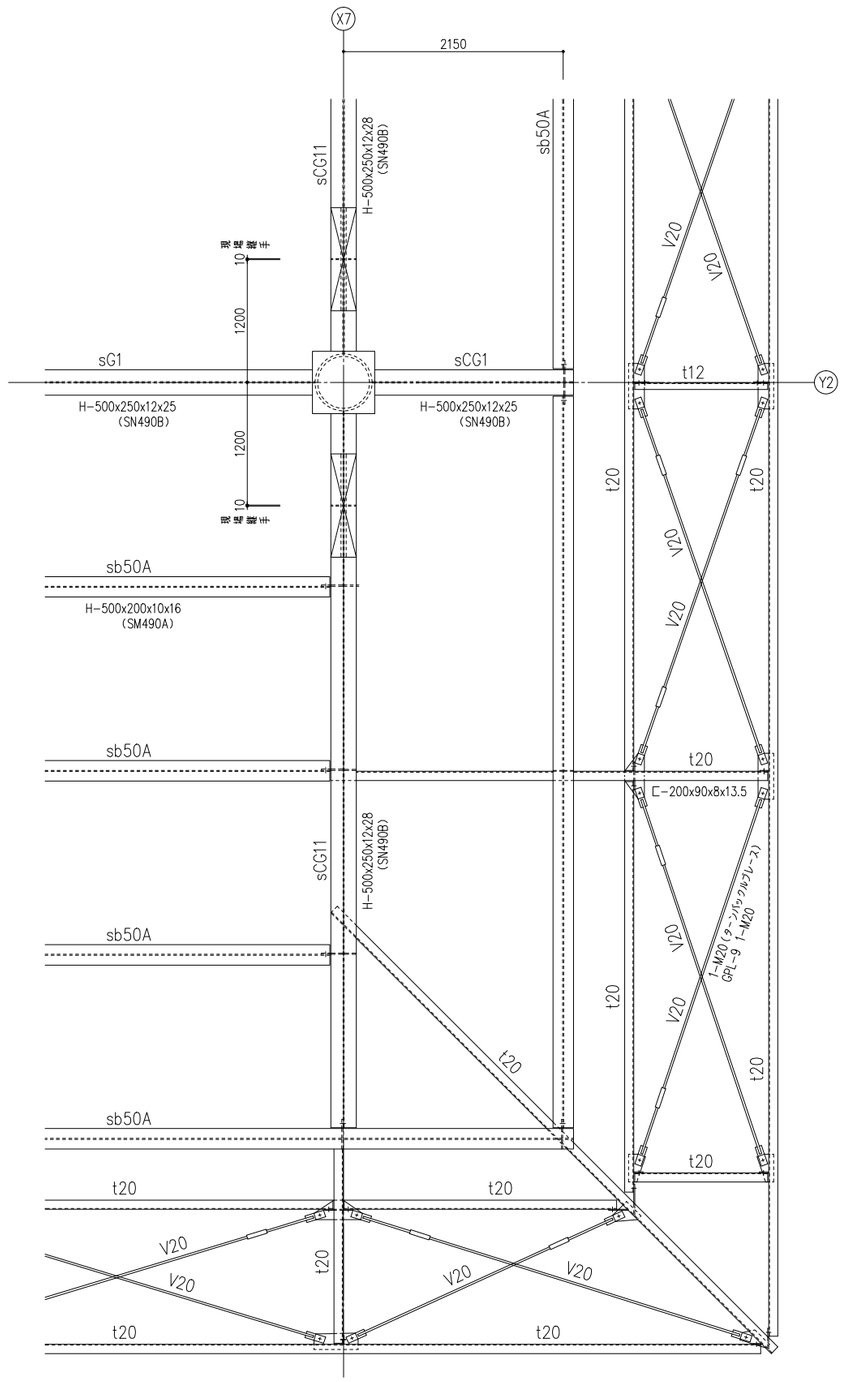
柱ウェブ 材質	鉄骨柱成 D	ウェブ厚 WT	D1 / D2	ボルト 径	段	列	本数 N1 N2	PW	SPL-4 板厚	h	L1 L2	備考
SN490B	550	12	275	M22	3	3	10	60	12	410	200	
			275	M22	3	3	10	60	12	410	200	

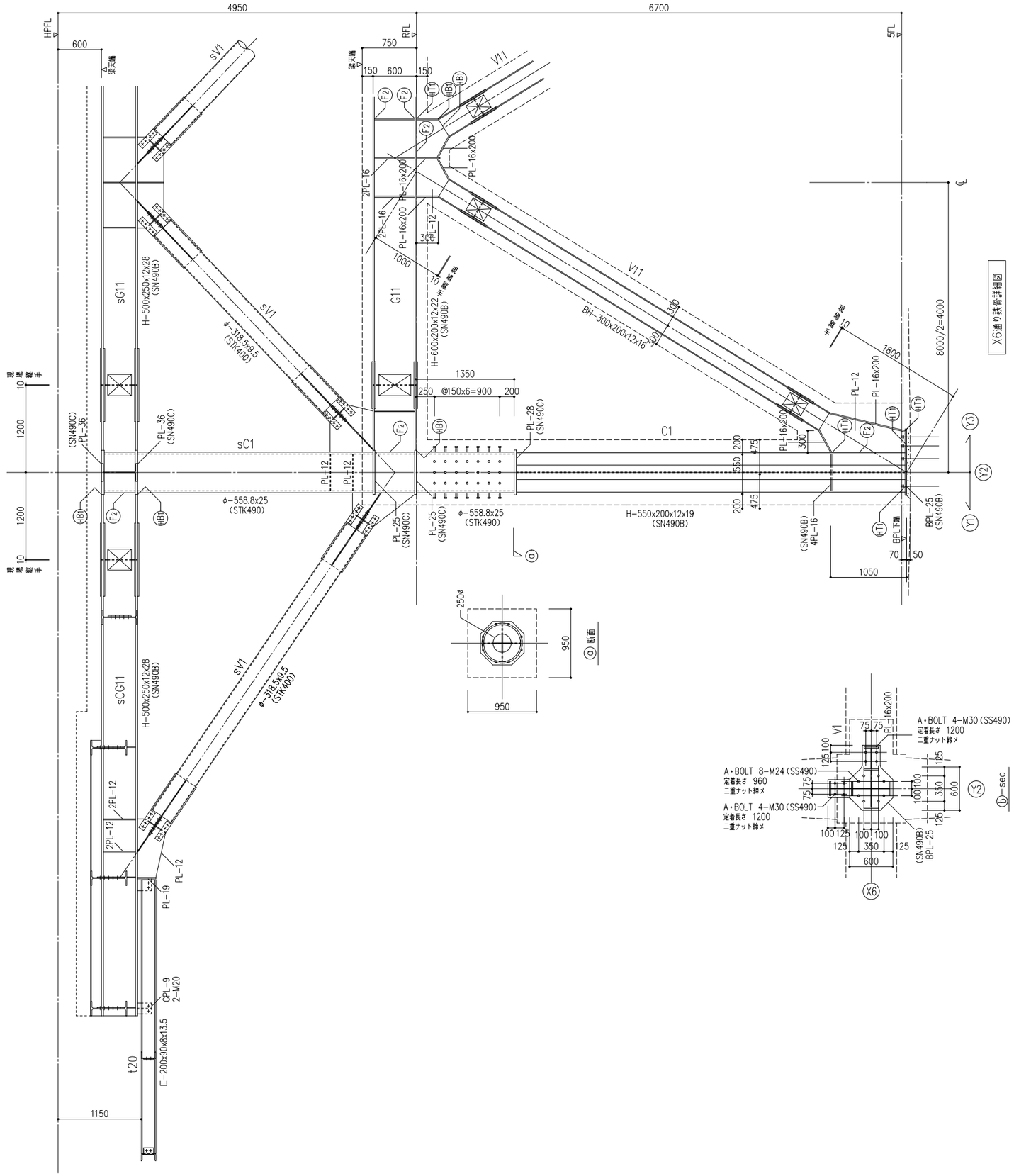
安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第129267号　高田　茂	新潟市建築部公共建築第1課	工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎　庁舎棟建設工事	図名 鉄骨部材リスト、鉄骨各部要領図	
		年月日 2013.03.01	縮尺 A1:1/30, A3:1/60	図面番号 B-45

ヘリポート詳細図（2）　1:30

共通事項（特記なき限り）

- 鉄骨材質は　SS400，HTB−S10T　とする。
- GPL・リブPLは　母材と同材質とする。
- 柱・梁仕口部の鉄骨材質は　通しダイアフラム　SN490C，内ダイアフラム、ベースプレートは　SN490B とする。
- バンドプレートは　FB−6x50（SS400）@800　とする。



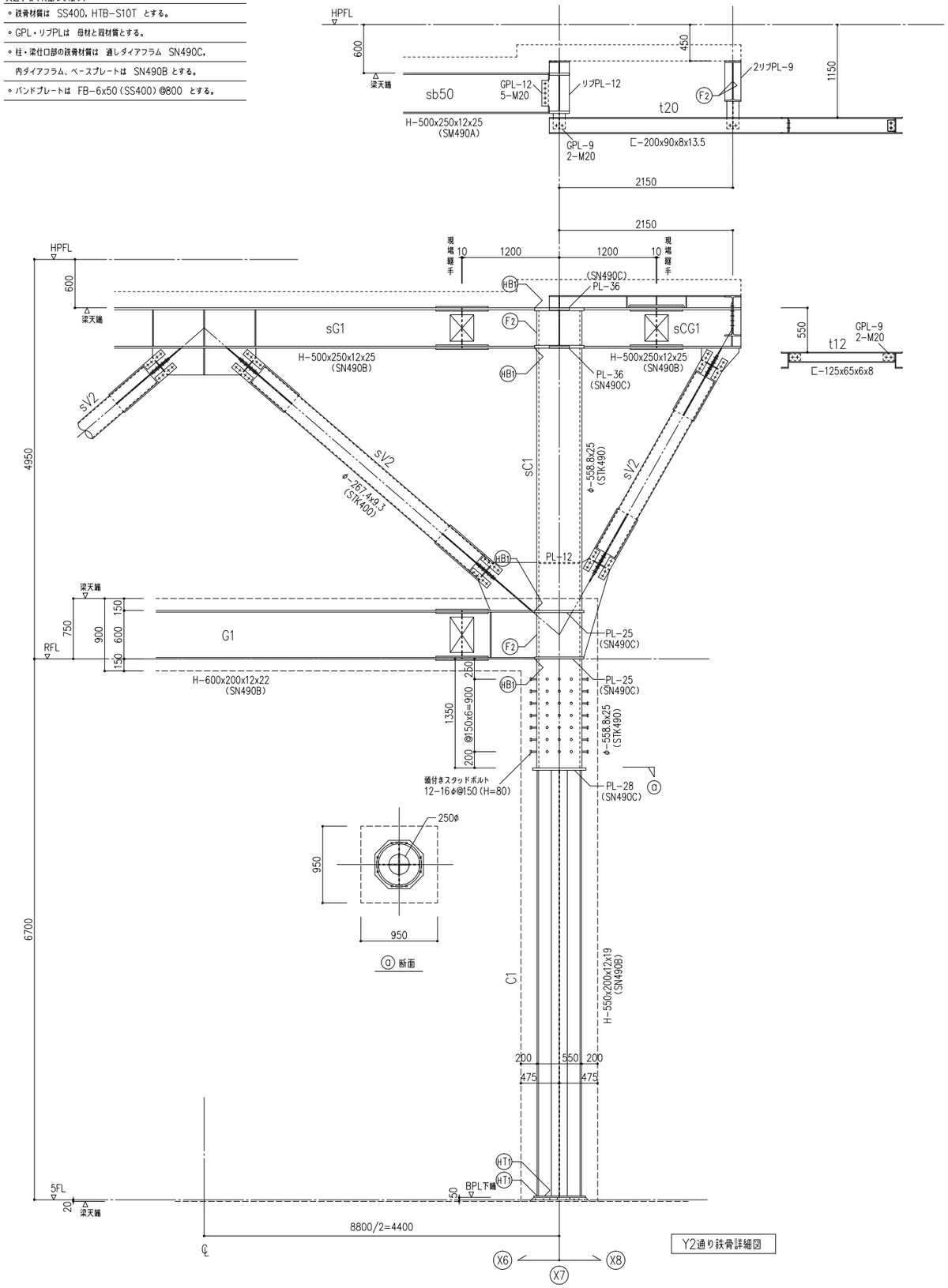


安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第129267号 高田 茂	新潟市建築部公共建築第1課	工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟建設工事	図名 鉄骨詳細図（1）	
			年月日 2013.03.01	縮尺 A1:1/30, A3:1/60
			図面番号 B−46	

ヘリポート詳細図（2）　1:30

共通事項（特記なき限り）

- 鉄骨材質は　SS400，HTB−S10T　とする。
- GPL・リブPLは　母材と同材質とする。
- 柱・梁仕口部の鉄骨材質は　通しダイアフラム　SN490C，内ダイアフラム、ベースプレートは　SN490B とする。
- バンドプレートは　FB−6x50（SS400）@800　とする。

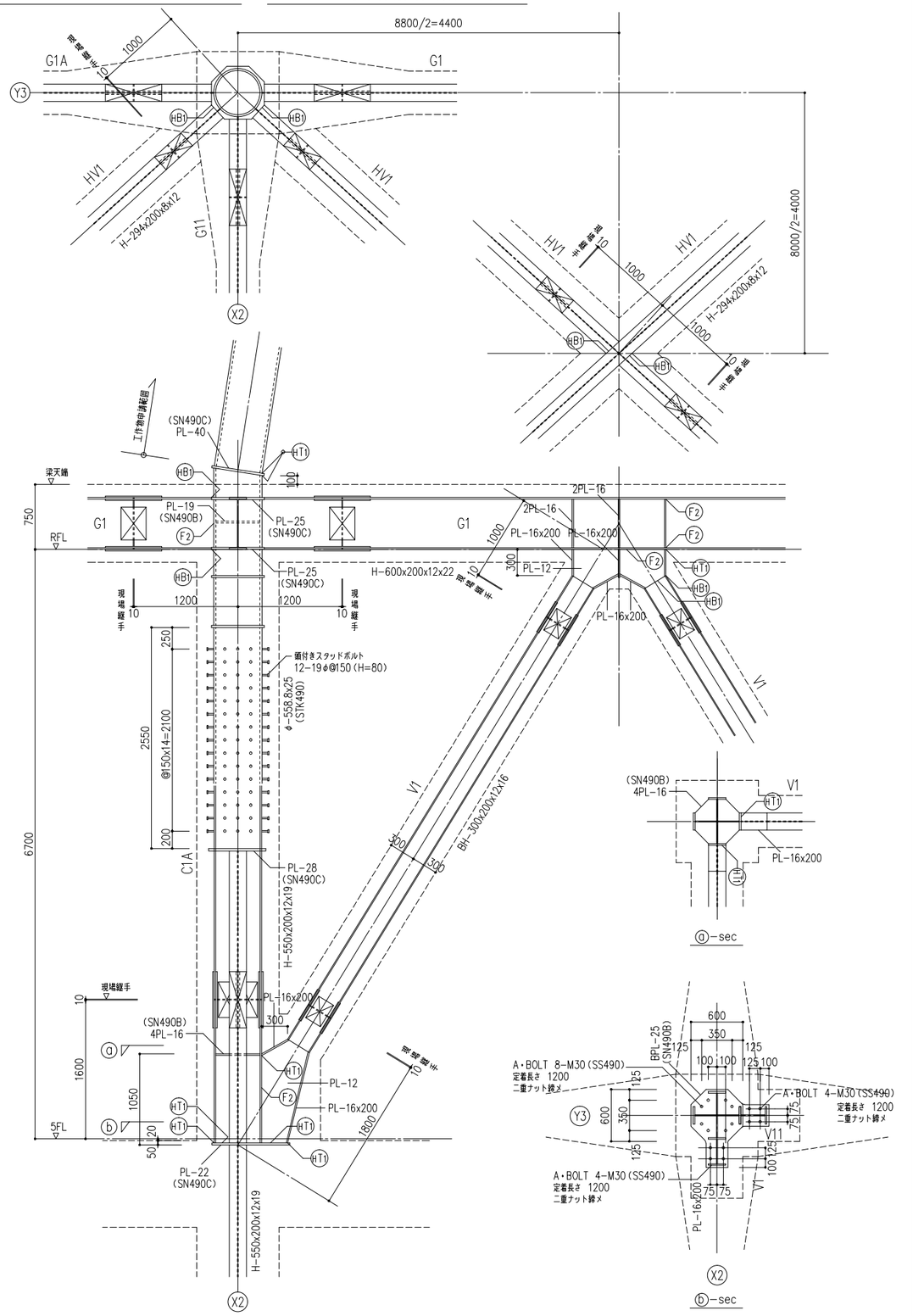


Y2通り鉄骨詳細図

鉄塔接合部詳細図　1:30

共通事項（特記なき限り）

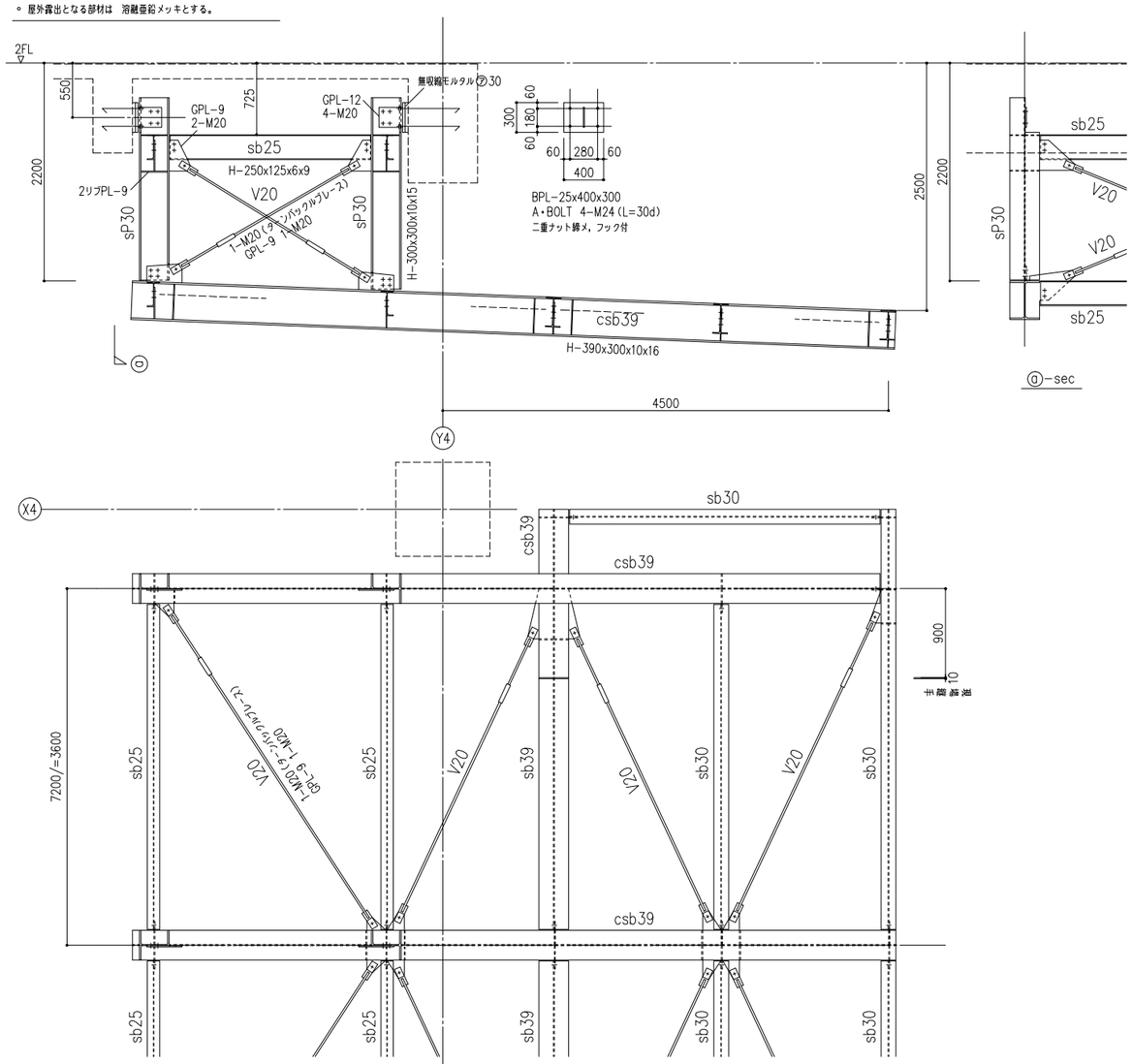
- 鉄骨材質は　SS400，HTB−S10T　とする。
- GPL・リブPLは　母材と同材質とする。
- 柱・梁仕口部の鉄骨材質は　通しダイアフラム　SN490C，内ダイアフラム、ベースプレートは　SN490B とする。
- バンドプレートは　FB−6x50（SS400）@800　とする。



安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第129267号　高田　茂	新潟市建築部公共建築第1課	工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎　庁舎棟建設工事	図名 鉄骨詳細図（2）		
		年月日 2013.03.01	縮尺 A1:1/30，A3:1/60	図面番号 B−47	

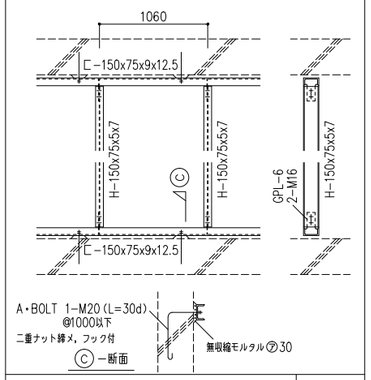
通用口風除室上部底詳細図　1:30

共通事項（特記なき限り）
- 鉄骨材質は　SS400　とする。
- HTBは　S10T，メッキボルトは　F8T　とする。
- 屋外露出となる部材は　溶融亜鉛メッキとする。



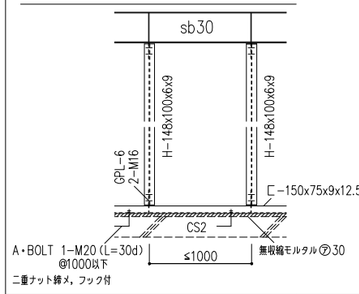
ガラスブロック受け取付要領　1:30

共通事項（特記なき限り）
- 鉄骨材質は　SS400　とする。
- HTBは　S10T　とする。



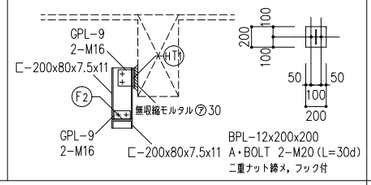
通用口外壁受け鉄骨詳細図　1:30

共通事項（特記なき限り）
- 鉄骨材質は　SS400　とする。
- HTBは　S10T　とする。



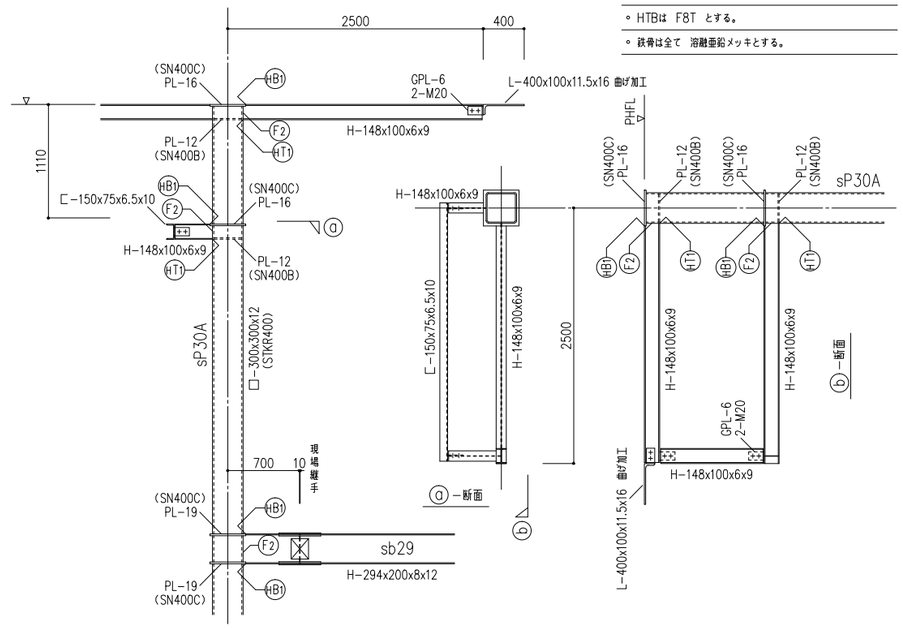
オーバースライダー受け鉄骨詳細図　1:30

共通事項（特記なき限り）
- 鉄骨材質は　SS400　とする。
- HTBは　S10T　とする。
- 3000ピッチ以下に設けること。



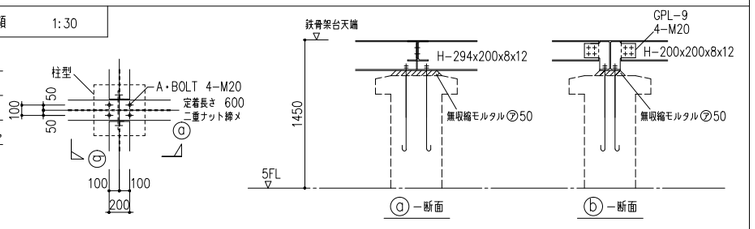
風向指示器 鉄骨詳細図　1:30

共通事項（特記なき限り）
- 鉄骨材質は　SS400　とする。
- HTBは　F8T　とする。
- 鉄骨は全て　溶融亜鉛メッキとする。



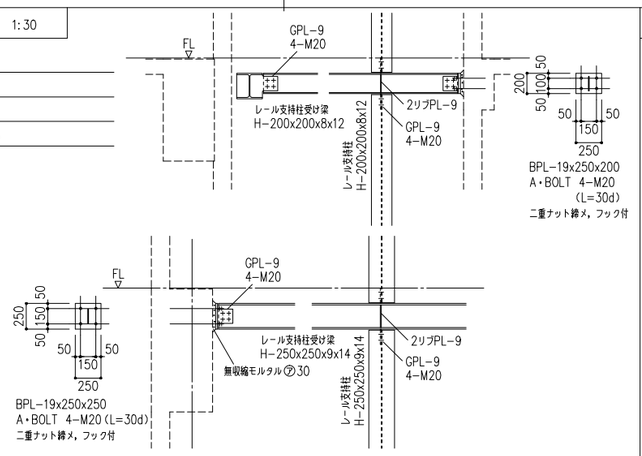
機械等鉄骨架台基礎取付要領　1:30

共通事項（特記なき限り）
- 鉄骨材質は　SS400　とする。
- HTBは　S10T　とする。
- 鉄骨は全て　溶融亜鉛メッキとする。



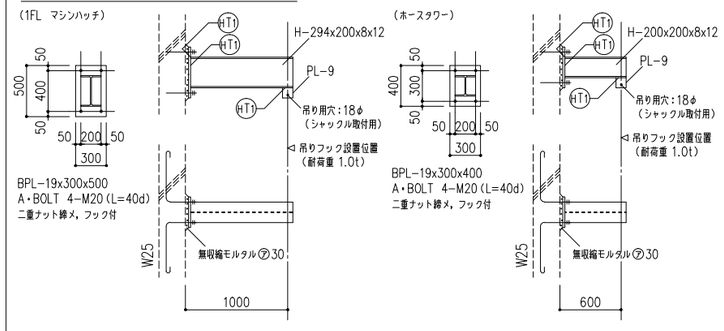
EVレール支持材取付要領　1:30

共通事項（特記なき限り）
- 鉄骨材質は　SS400　とする。
- HTBは　S10T　とする。
- レール支持材位置は　意匠図による。



吊りフック取付要領　1:30

共通事項（特記なき限り）
- 鉄骨材質は　SS400　とする。
- 取付位置は　意匠図による。



12.11.16改定

安井・太陽設計共同体
管理建築士一級建築士第129267号　高田　茂

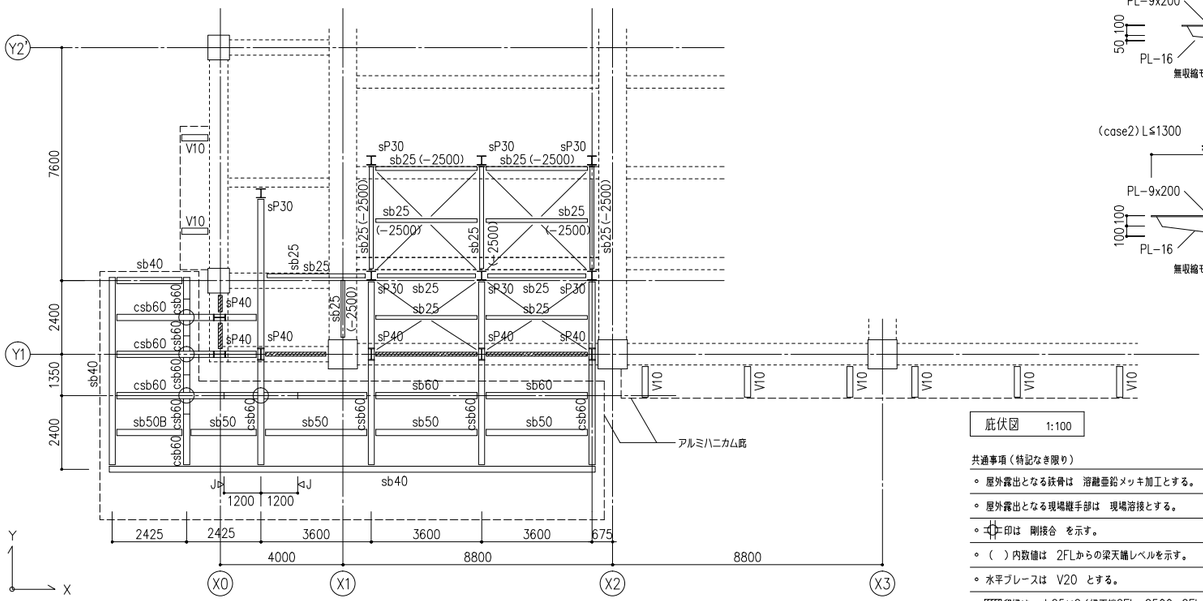
新潟市建築部公共建築第1課

工事名	図名	年月日	縮尺	図面番号
新潟市消防局・中央消防署庁舎　庁舎棟建設工事	鉄骨詳細図（3）	2012.11.12	A1:1/30, A3:1/60	B-48

エントランス庇　詳細図

共通事項（特記なき限り）

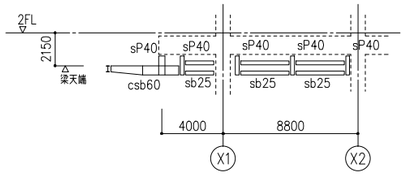
- ボルト　特記なき限り　高力ボルト（HTB）S10T，メッキボルトは　F8T　とする。
- 屋外露出となる部材は　全て溶融亜鉛メッキとする。
- GPL は母材と同材質とする。
- 屋外露出部分の現場継手部分は現場溶接とする。仮ボルト止めは現場溶接後撤去する。



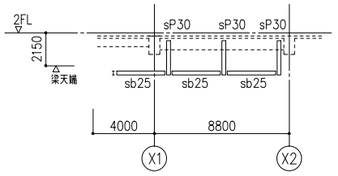
庇伏図　1:100

共通事項（特記なき限り）

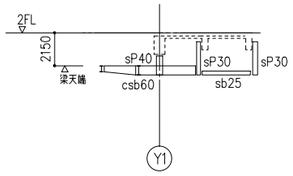
- 屋外露出となる鉄骨は　溶融亜鉛メッキ加工とする。
- 屋外露出となる現場継手部は　現場溶接とする。
- ⊥印は　剛接合　を示す。
- （　）内数値は　2FLからの梁天端レベルを示す。
- 水平ブレースは　V20　とする。
- ▨印梁は　sb25×2（梁天端2FL−2500、2FL−1850）を示す。



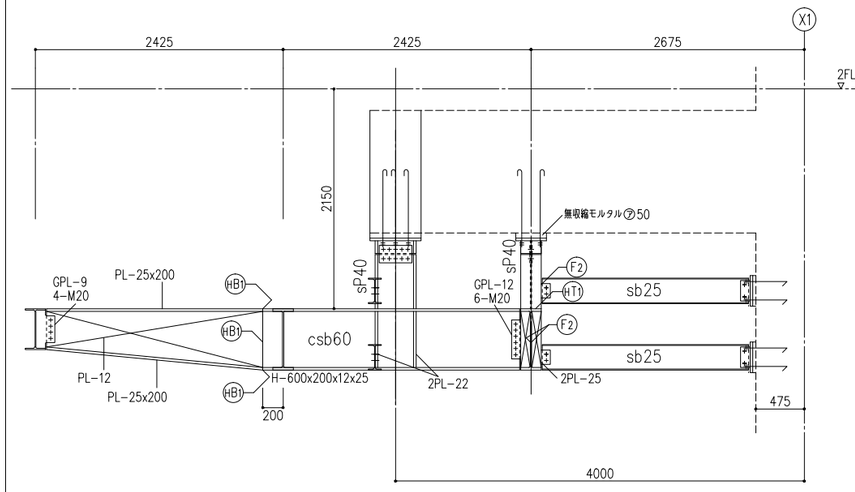
Y1 通り軸組図　1:200

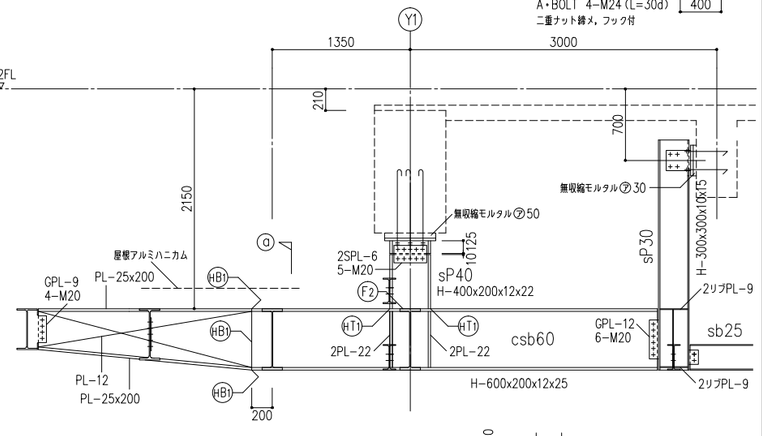


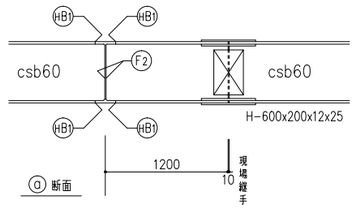
Y1+2400 通り軸組図　1:200



X0+925 通り軸組図　1:200





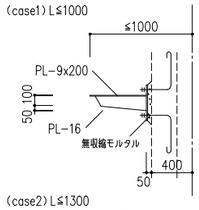


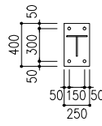
ⓐ 断面

V10 詳細図　1:30

V10は　@3500以下とする。

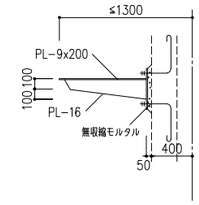
(case1) L≦1000



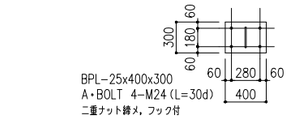


BPL−19x250x350
A・BOLT　4−M20 (L=30d)
二重ナット締め，フック付

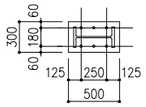
(case2) L≦1300



BPL−19x250x400
A・BOLT　4−M20 (L=30d)
二重ナット締め，フック付

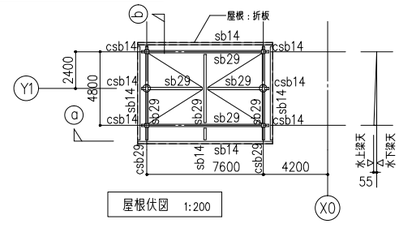


BPL−25x400x300
A・BOLT　4−M24 (L=30d)
二重ナット締め，フック付



BPL−25x300x500
A・BOLT　6−M27 (L=30d)
二重ナット締め，フック付

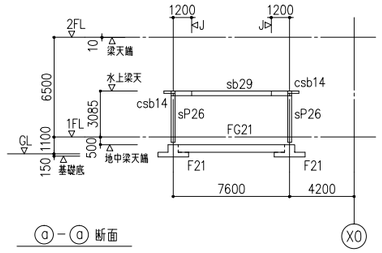
車いすP庇　詳細図



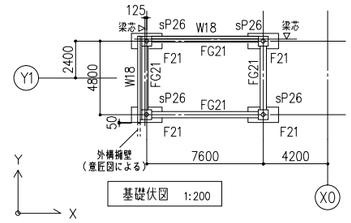
屋根伏図　1:200

共通事項（特記なき限り）

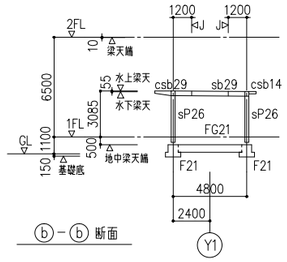
- 屋根面ブレースは　V20　とする。
- ⊥印は　剛接合　を示す。
- 梁天端には、折版受（C−100x50x20x2.3）を設置する。



ⓐ−ⓐ 断面



基礎伏図　1:200



ⓑ−ⓑ 断面

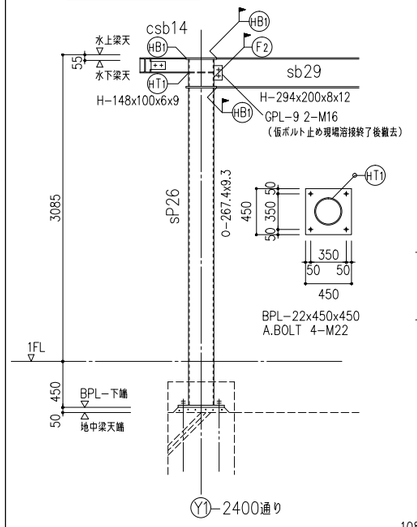
（特記なき限り）

- 鋼材質　SS400　とする。
- ボルト　特記なき限り　高力ボルト（HTB）S10T，メッキボルトは　F8T　とする。
- 全て溶融亜鉛メッキとする。
- GPL は母材と同材質とする。

鉄骨部材リスト

符 号	部材メンバー	接合ボルト	GPL	備 考
sb29	H−294x200x 8 x12	3−M20	PL−9	
sb14、csb14	H−148x100x 6x 9	2−M20	PL−9	
csb29	BH−294~148x100x 9 x 12	——	——	
sP26	O−267.4x9.3 (STK400)	——	——	
V20	1−M20（ターンバックルブレース）	1−M20	PL−9	

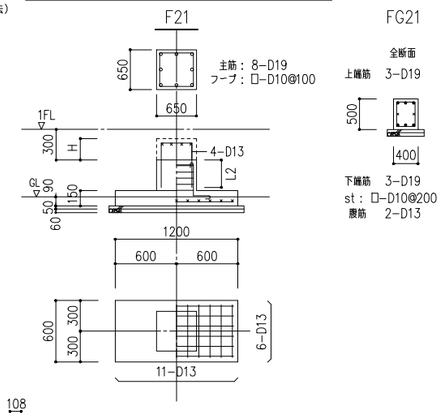
鉄骨詳細図　1:30



基礎リスト　1:50

共通事項（特記なき限り）

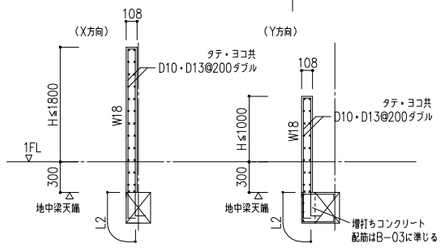
- 基礎下地業は　捨コンクリート ⑦50，砂利 ⑦60　とする。
- 鉄筋材質は　D10~D16 SD295A、D19~D25 SD345　とする。
- 目標地耐力　50kN/m²　（長期）とする。
- H 寸法は意匠図による。



手すり壁要領　1:50

共通事項（特記なき限り）

- 手すり壁高さ、長さ寸法は意匠図による。



12.11.16改定

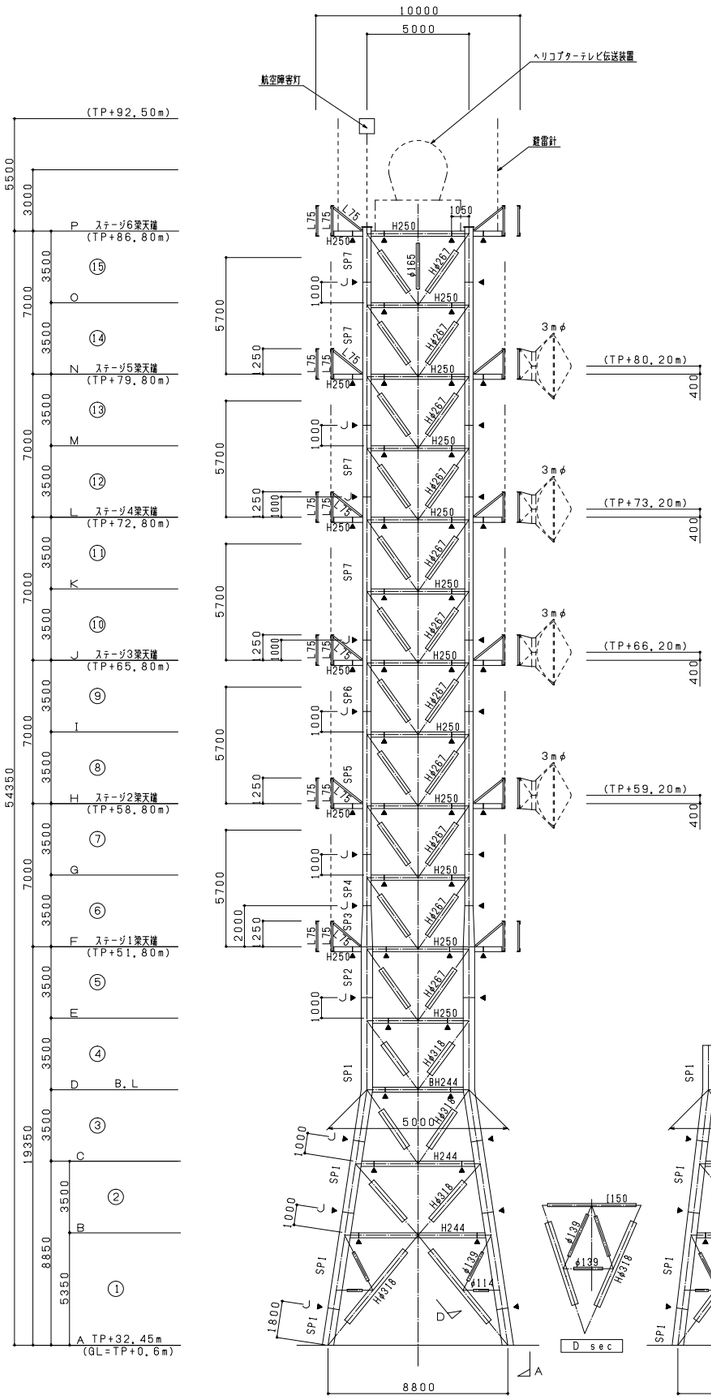
安井・太陽設計共同体
管理建築士一級建築士第129267号　高田　茂

新潟市建築部公共建築第1課

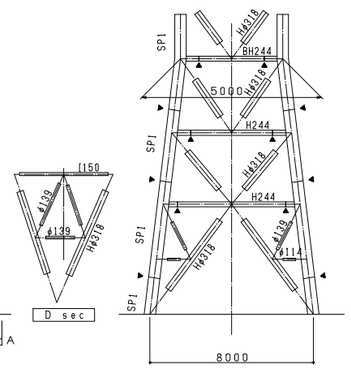
工事名　新潟市消防局・中央消防署庁舎　庁舎棟建設工事

図名　鉄骨詳細図（4）

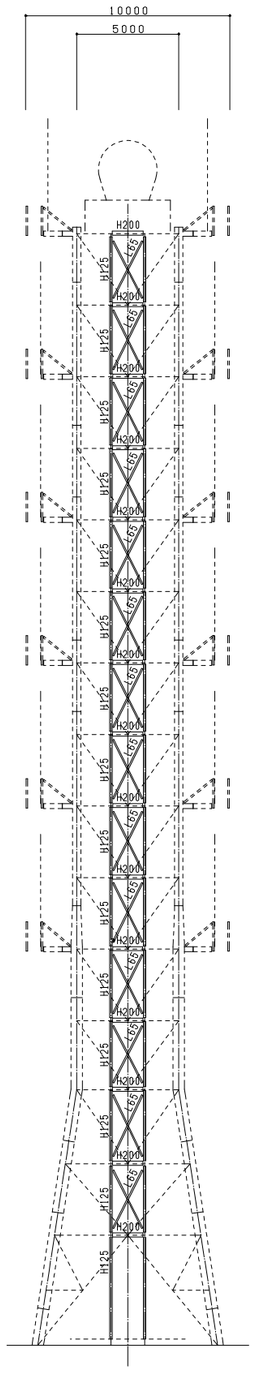
年月日　2013.03.01　縮尺　A1:1/100、A3:1/200　図面番号　B−49



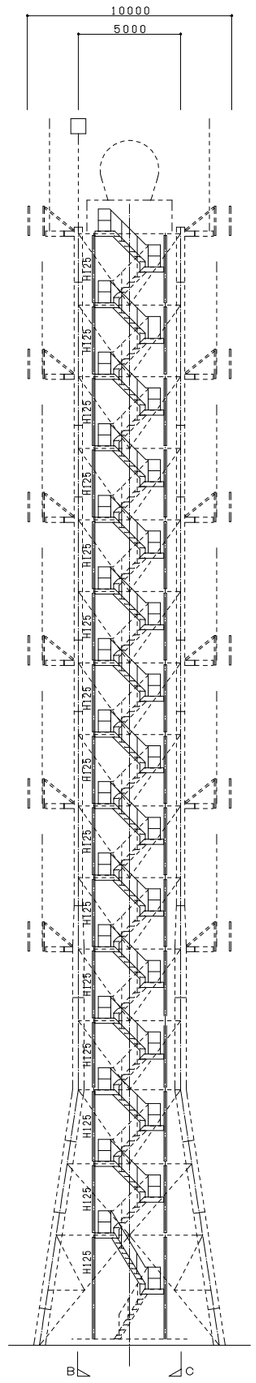
軸 組 図



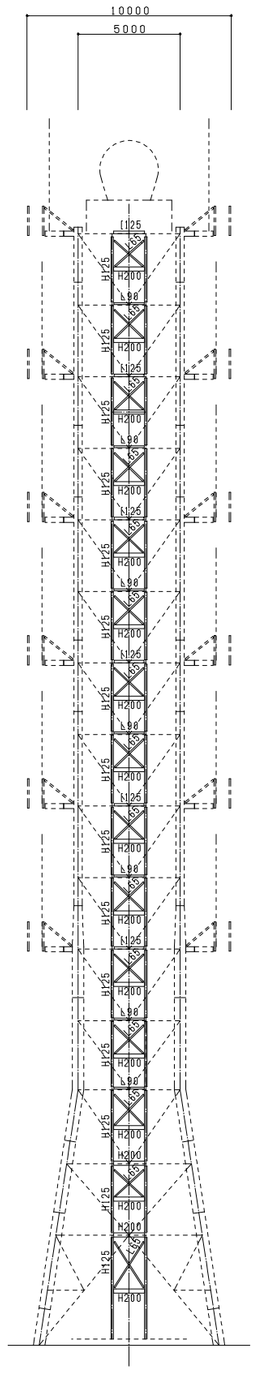
A断面軸組図



B断面軸組図



階段軸組図



C断面軸組図

材 質		
山 形 鋼	SS400	L-100x100x7以下
	SS540	HL-120x120x8以上
溝 形 鋼、H 鋼	SS400	
鋼 管	STK400	φ165.2x4.5以下
	STK490	Hφ267.4x6.6以上
鋼 板	SS400	一般部分
	SM490A	図中特記
	SN490C	通しダイヤフラム
高力 ボルト	F8T	メッキボルト
普通 ボルト	4.6	M16以下
皿 ボルト	4.6	
アンカーボルト		
	SNR400	ラック・階段柱脚

ボルト記号

種類＼径	M12	M16	M20	M22	M24
HTB		✳	✱	+	⊕
普通ボルト（B）	●	○			

（1）特記なきプレートは　t=9mmとする。
（2）普通ボルトの内 M16以下は スプリングワッシャー付きとする。
（3）コンクリート内部を除き 溶融亜鉛めっき（りん酸処理）を施す。
（4）めっき作業は標準仕様書7章12節による。
（5）高力ボルトは溶融亜鉛めっき高力ボルト（F8T）とし、国土交通大臣の認定品とする。
（6）めっき試験はJIS H0401（溶融亜鉛めっき試験方法）による。
（7）高力ボルトの摩擦面処理は、薬品処理とする。
（8）（B）は普通ボルト、BUTTはバットアングル、FPLはフィラーPLを表す。
（9）▼はJointを表す。
（10）各部材に取り付けるプレート材質は特記無き限り母材同等とする。
（11）現場溶接部はZRC処理とする。
（12）アンテナ取付け部の耐震強度はステージL以上は水平震度2.0、J以下は水平震度1.5とする。
（13）鉄塔製作者はメッキ仕様の鉄塔製作実績を有すること。

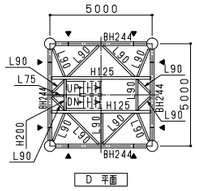
柱 材

符 号	サイズ	GPL	高力ボルト	
SP1	Hφ558.8X28.0			
SP2	Hφ558.8X22.0			
SP3	テーパー管 Hφ558.8~Hφ406.4X22.0			
SP4	Hφ406.4X21.4			
SP5	Hφ406.4X19.0			
SP6	Hφ406.4X12.7			
SP7	Hφ406.4X9.5			

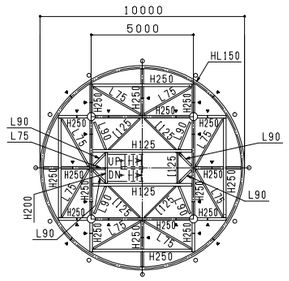
斜材　水平材等　その他　GPL材質で○ 印はSM490Aとする。

符 号	サイズ	GPL	高力ボルト	
Hφ318	Hφ318.5X6.9	16	16-M24	
Hφ267	Hφ267.4X6.6	12	12-M24	
φ165	φ165.2X4.5	12	8-M24	
φ139	φ139.8X4.0	12	8-M22	
φ114	φ114.3X3.5	9	6-M22	
H244	H244X175X7X11			
BH244	BH244X175X9X12			
H250	H250X125X6X9			
H200	H200X100X5.5X8	9	2-M20	
H125	H125X125X6.5X9	9	2-M20	
HL150 リング材	HL150X150X12		4-M22	
L90	L90X90X7	9	2-M20	
L75	L75X75X6	9	2-M20	
L65	L65X65X6	9	2-M20	
L50	L50X50X6	9	1-M16(B)	
2L75	2L75X75X6	9	2-M20	手摺
[150	[150X75X6.5x10	12	3-M20	
[125	[125X65X6x8	9	2-M20	

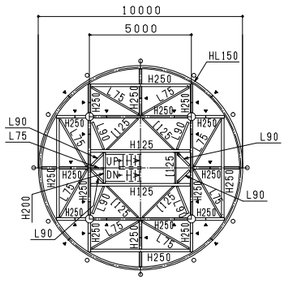
安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第129267号 高田 茂	新潟市建築部公共建築第1課	工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟建設工事	図名 （無線鉄塔）軸組図
		年月日 2013.03.01	縮尺 A1:1/150, A3:1/300
		図面番号	B-50



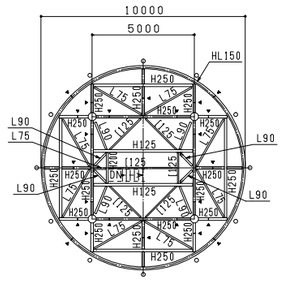
D 平面



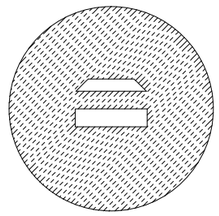
H 平面



L 平面



P 平面

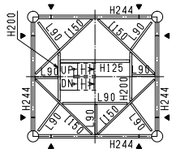


P 平面縞模

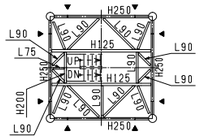
はエキスパンドメタル（XG22）を示す。

柱 材				
符 号	サイズ	GPL	高力ボルト	
SP1	Hφ558.8X28.0			
SP2	Hφ558.8X22.0			
SP3	テーパー管 Hφ558.8~Hφ406.4X22.0			
SP4	Hφ406.4X21.4			
SP5	Hφ406.4X19.0			
SP6	Hφ406.4X12.7			
SP7	Hφ406.4X9.5			

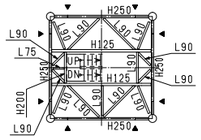
斜材 水平材等 その他 GPL材質で○ 印はSM490Aとする。				
符 号	サイズ	GPL	高力ボルト	
Hφ318	Hφ318.5X6.9	16	16-M24	
Hφ267	Hφ267.4X6.6	12	12-M24	
φ165	φ165.2X4.5	12	8-M24	
φ139	φ139.8X4.0	12	8-M22	
φ114	φ114.3X3.5	9	6-M22	
H244	H244X175X7X11			
BH244	BH244X175X9X12			
H250	H250X125X6X9			
H200	H200X100X5.5X8	9	2-M20	
H125	H125X125X6.5X9	9	2-M20	
HL150 リング材	HL150X150X12		4-M22	
L90	L90X90X7	9	2-M20	
L75	L75X75X6	9	2-M20	
L65	L65X65X6	9	2-M20	
L50	L50X50X6	9	1-M16（B）	
2L75	2L75X75X6	9	2-M20	手摺
[150	[150X75X6.5x10	12	3-M20	
[125	[125X65X6x8	9	2-M20	



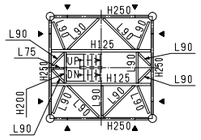
C 平面



G 平面



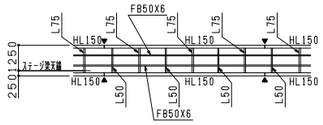
K 平面

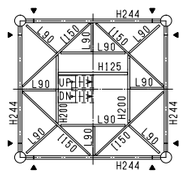


O 平面

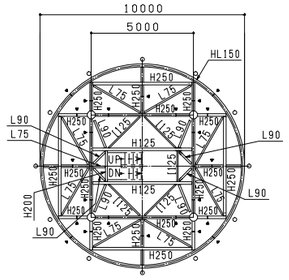
a sec

b sec

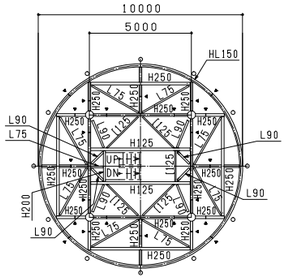




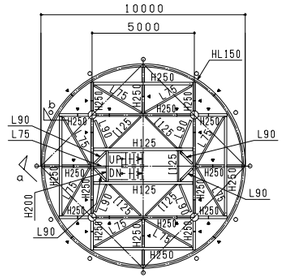
B 平面



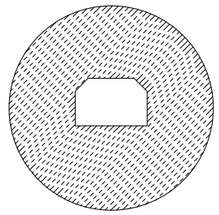
F 平面



J 平面

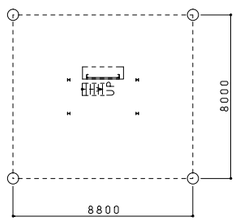


N 平面

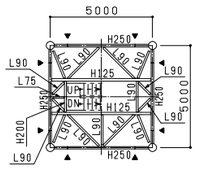


F, H, J, L, N 平面縞模

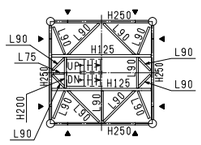
はエキスパンドメタル（XG22）を示す。



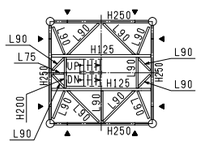
A 平面



E 平面



I 平面



M 平面

安 井・太 陽 設 計 共 同 体
管理建築士一級建築士第129267号 高田 茂

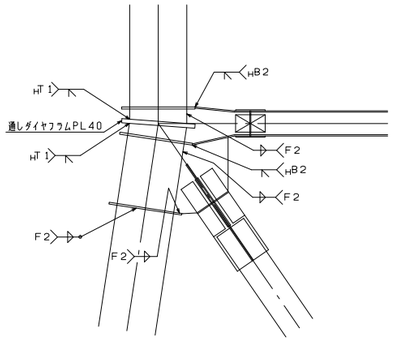
新潟市建築部公共建築第1課

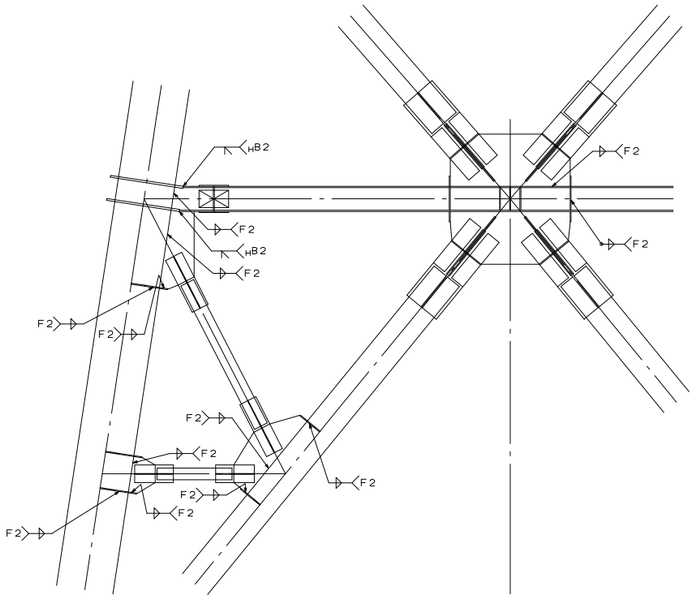
工事名
新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟建設工事

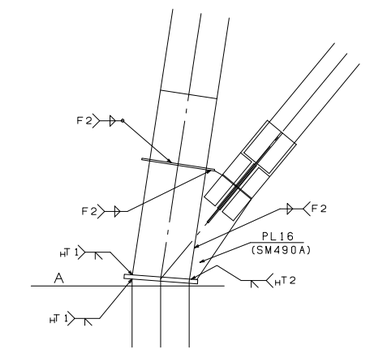
図 名
〈無線鉄塔〉伏図、部材リスト

年月日 2013.03.01
縮 尺 A1:1/150, A3:1/300
図面番号 B-51

溶接凡例図

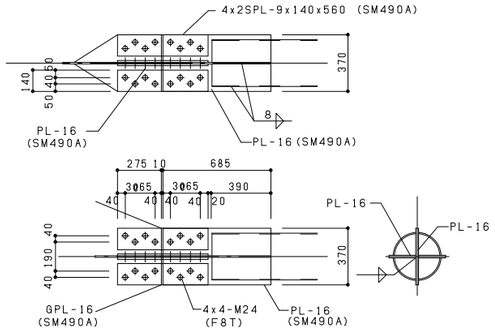




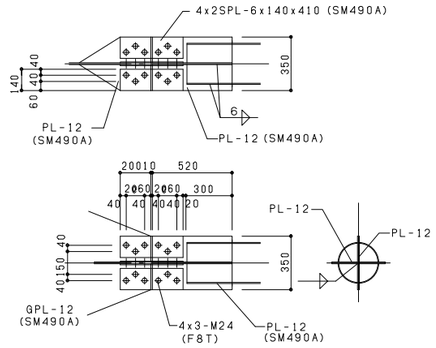


継手リスト

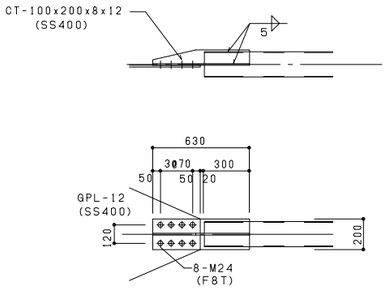
φ318.5x6.9 STK490



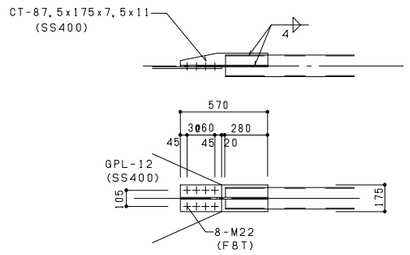
φ267.4 x 6.6 STK490



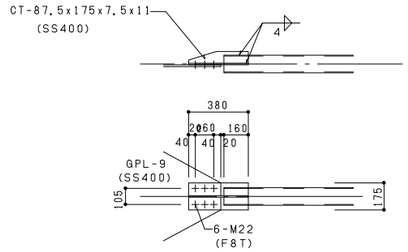
φ165.2 x 4.5 STK400



φ139.8 x 4.0 STK400

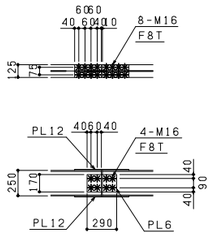


φ114.3 x 3.5 STK400

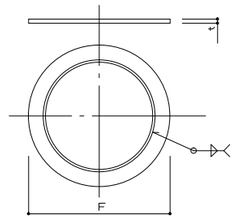


塔体外片持梁継手

H250X125X6X9 SS400

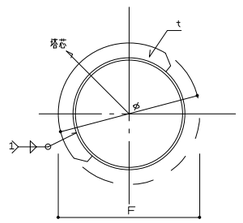


スティフナーリング SS400



適用調管径 ＼ 使用区分	主柱材 水平材（鉛材の交点部） F	t
φ 558.8	720	16
φ 406.4	580	16

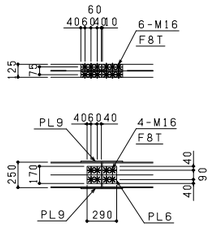
半円スティフナーリング SS400



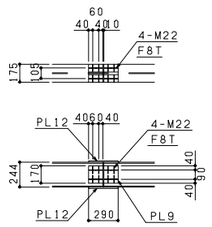
適用調管径	φ	t
φ 558.8	720	9
φ 318.5	490	9

塔体内水平材継手

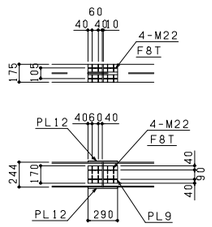
H250X125X6X9 SS400



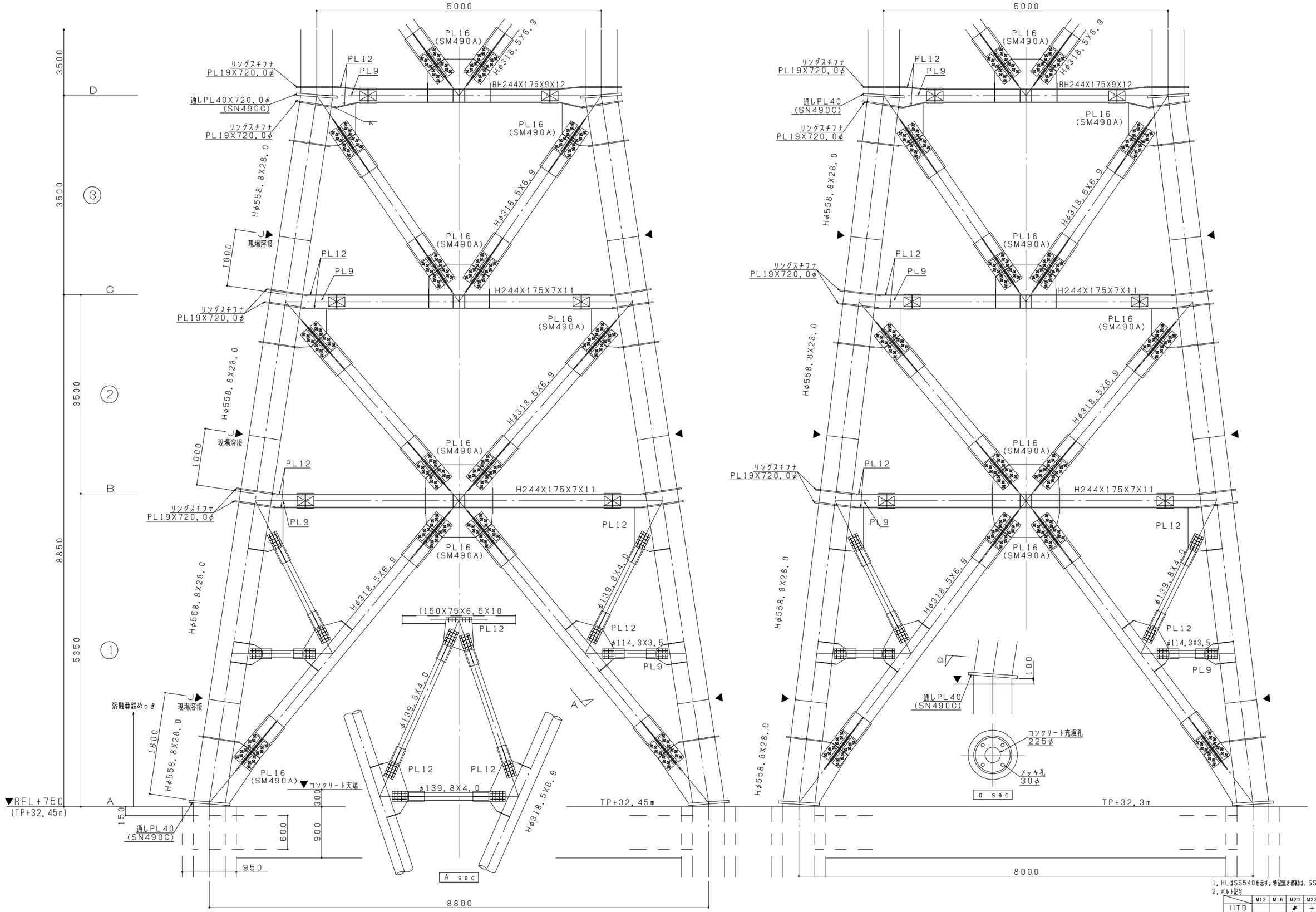
BH244X175X9X12 SS400



H244X175X7X11 SS400



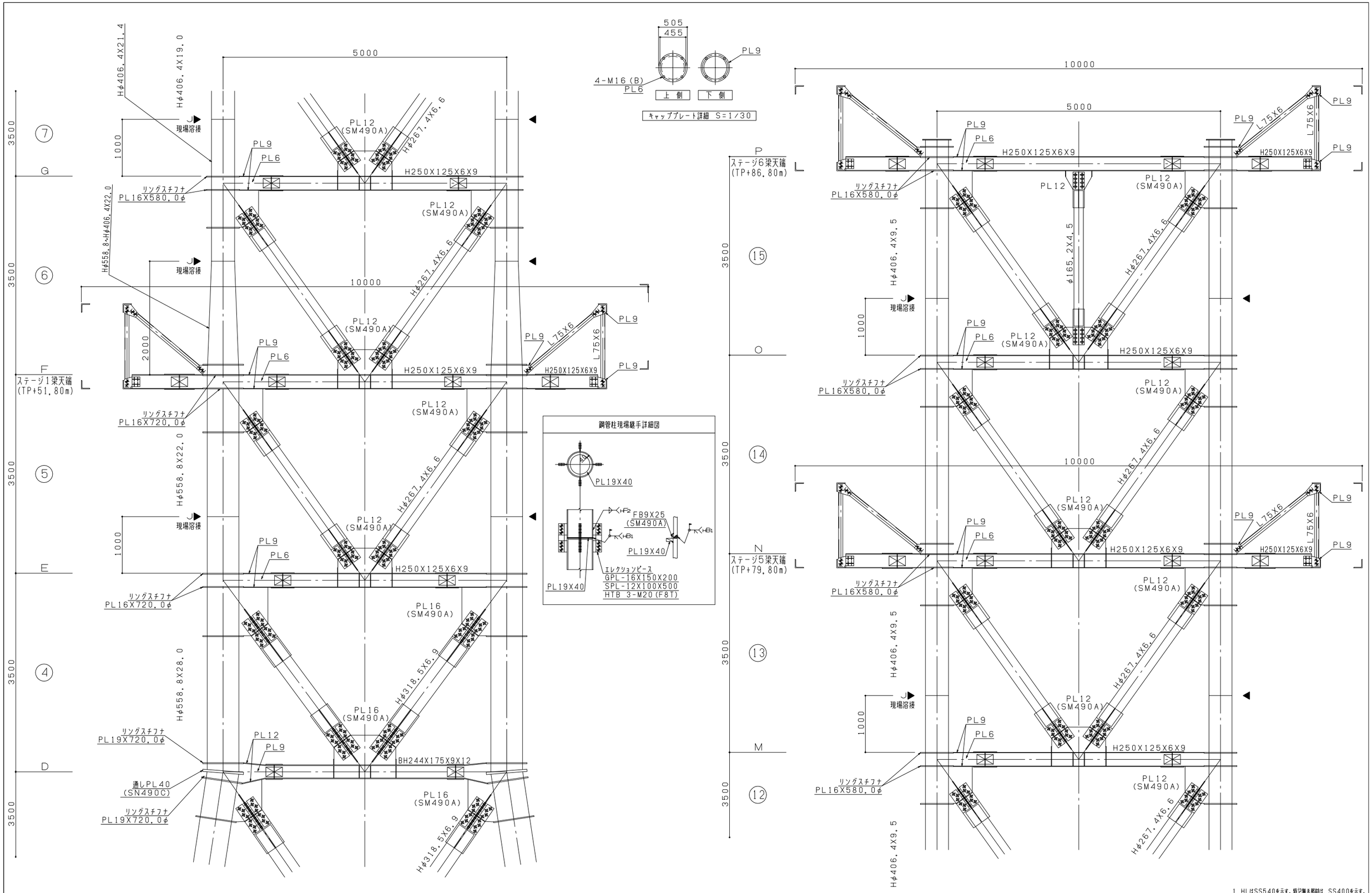
安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第129267号 高田 茂	新潟市建築部公共建築第1課	工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟建設工事	図名 （無線鉄塔）溶接標準図、継手詳細図	
			年月日 2013.03.01	縮尺
			図面番号 B-52	



1. HLはSS540を示す。特記無き部材は、SS400を示す。
2. ボルト記号

	M12	M16	M20	M22	M24
HTB			✱	＋	✚
中ボルト	●	○			

安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第129267号 高田 茂	新潟市建築部公共建築第1課	工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟建設工事	図名 (無線鉄塔) 鉄骨詳細図 (脚部) 年月日 2013.03.01 / 縮尺 A1:1/30, A3:1/60 / 図面番号 B-53

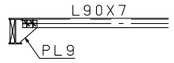


1. HLはSS540を示す。特記無き部材は、SS400を示す。
2. ボルト記号

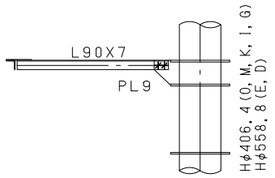
	M12	M16	M20	M22	M24
HTB			✱	+	✚
中ボルト	●	○			

安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第129267号 高田 茂	新潟市建築部公共建築第1課	工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟建設工事	図名 (無線鉄塔)鉄骨詳細図(中間～頂部) 年月日 2012.11.12 縮尺 A1:1/30, A3:1/60 図面番号 B-54

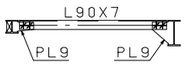
A sec



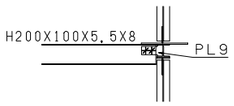
B sec



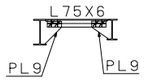
C sec



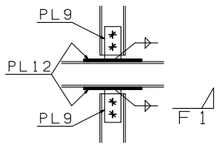
D sec



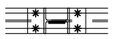
E sec

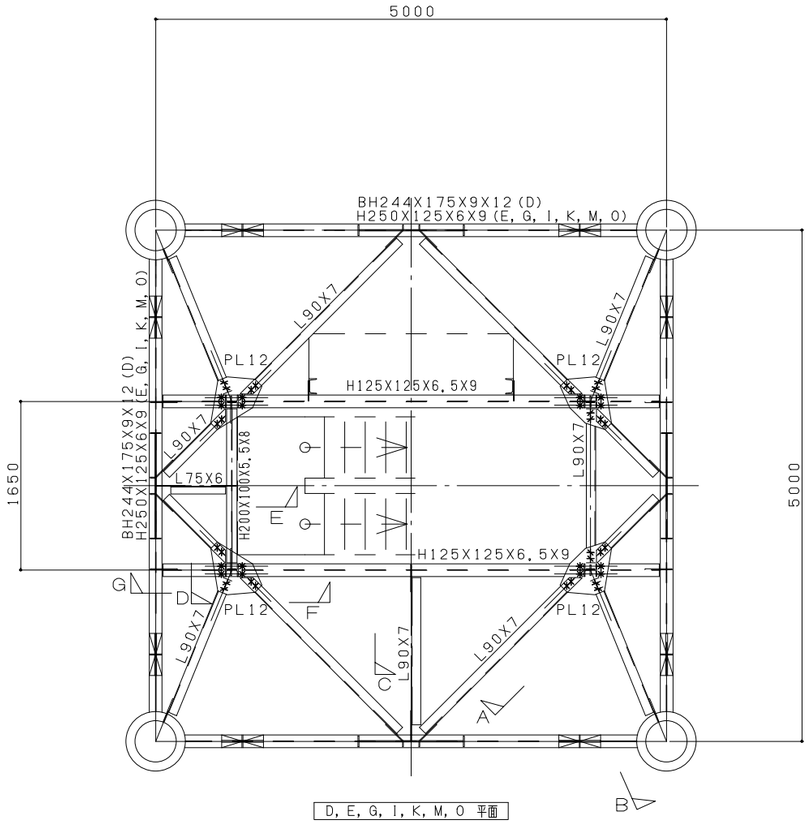


F sec S=1/15

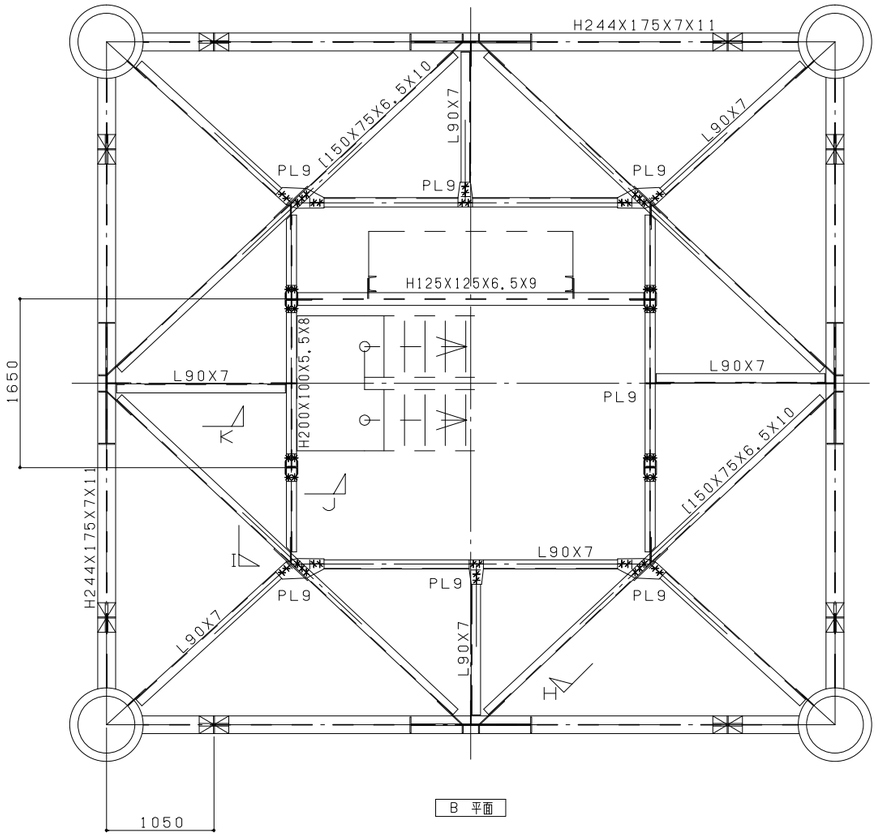


F1 sec S=1/15



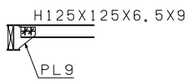


D, E, G, I, K, M, O 平面

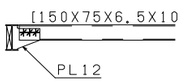


B 平面

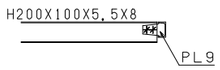
G sec



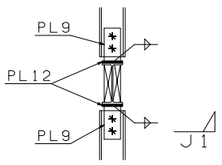
H sec



I sec

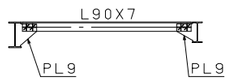


J sec S=1/15



J1 sec S=1/15

K sec

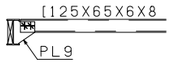


1. HLはSS540を示す。特記無き部材は、SS400を示す。
2. ボルト記号

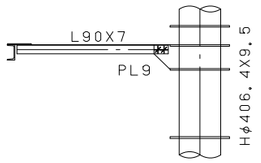
	M12	M16	M20	M22	M24
HTB			✱	＋	✚
中ボルト	●	○			

安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第129267号 高田 茂	新潟市建築部公共建築第1課	工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟建設工事	図名 (無線鉄塔) 鉄骨平面詳細図 (1) (伏詳細)	
			年月日 2013.03.01	縮尺 A1:1/30, A3:1/60	図面番号 B-55

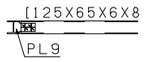
A sec



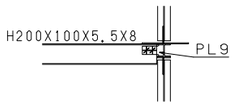
B sec



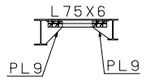
C sec

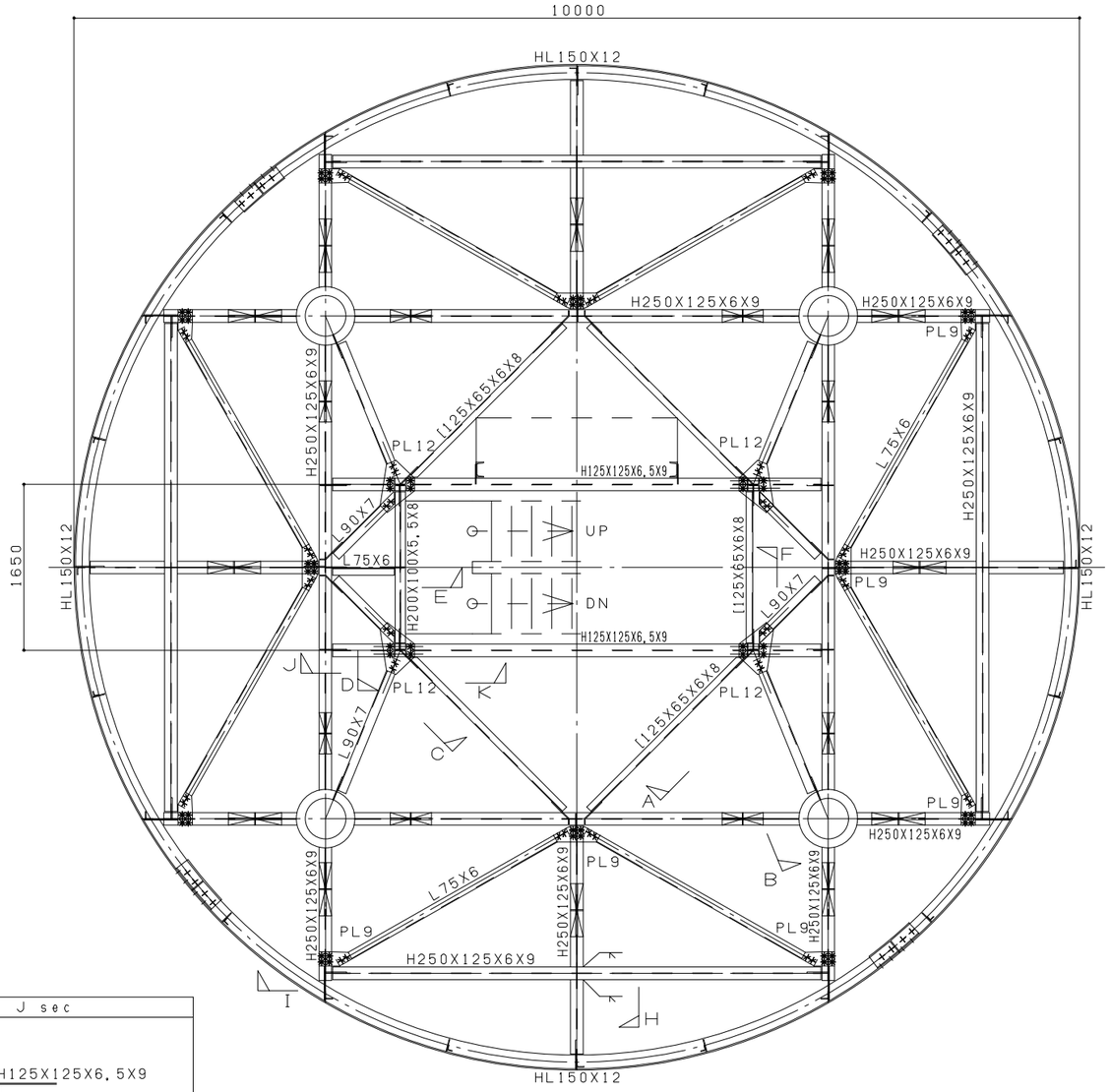


D sec

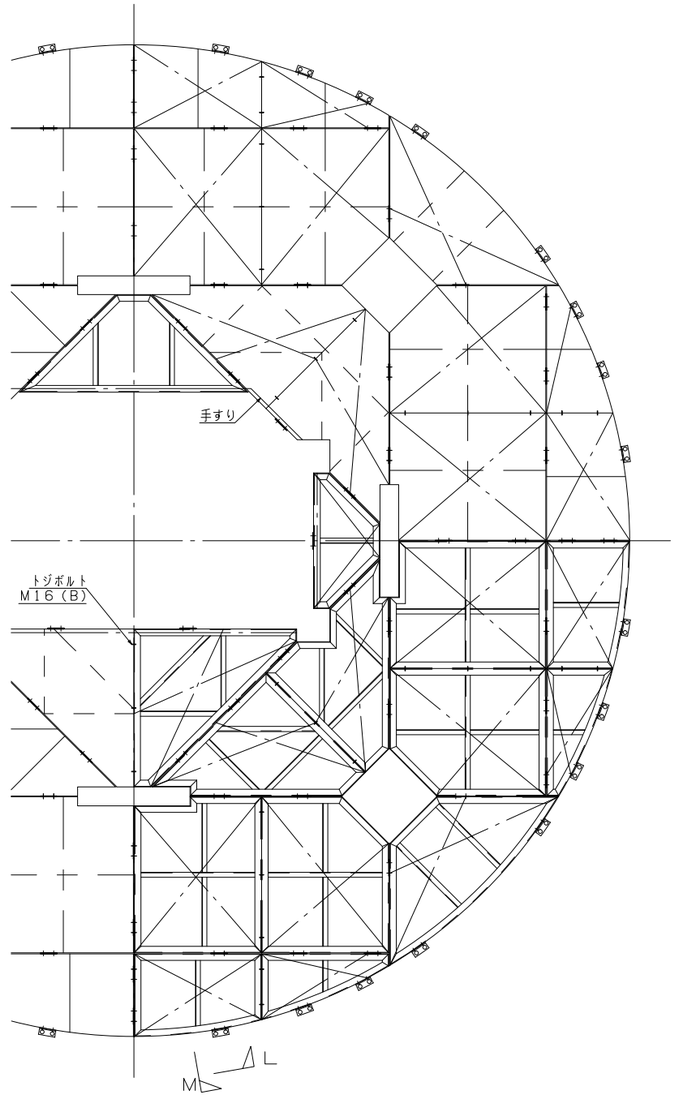


E sec

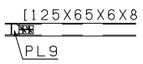




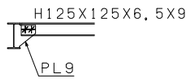
N, L, J, H, F 平面



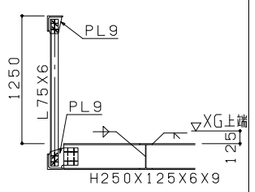
F sec



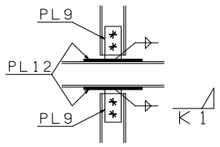
J sec



H sec

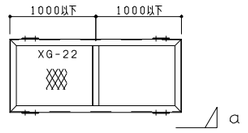


K sec S=1/15

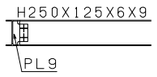


踊場枠詳細

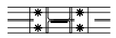
特記無き踊場枠材は、L65X6



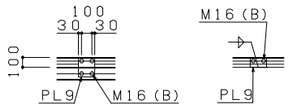
I sec



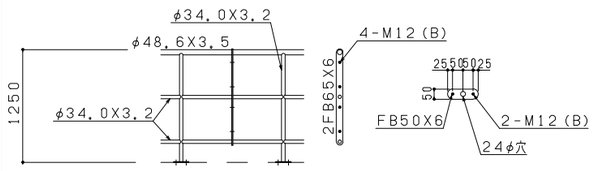
K1 sec S=1/15



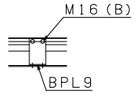
a sec



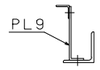
手摺詳細図



L sec



M sec S=1/15

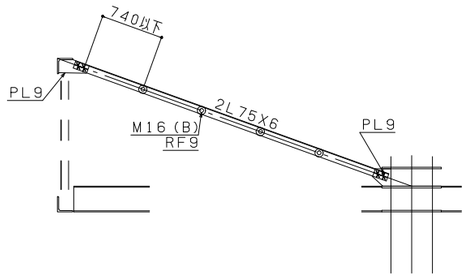


1. HLはSS540を示す。特記無き部材は、SS400を示す。
2. ボルト記号

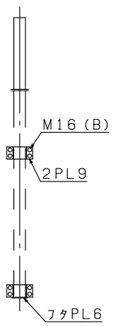
	M12	M16	M20	M22	M24
HTB			✱	＋	◆
中ボルト	●	○			

安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第129267号 高田 茂	新潟市建築部公共建築第1課	工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟建設工事	図名 (無線鉄塔)鉄骨平面詳細図 (2)	
			年月日 2013.03.01	縮尺 A1:1/30, A3:1/60
			図面番号	B-56

A sec

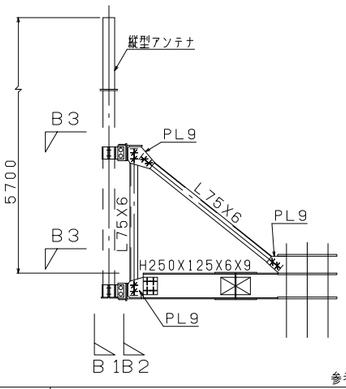


B1 sec



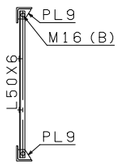
参考

B sec

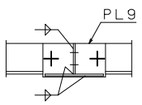


参考

C sec

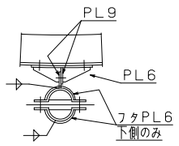


B2 sec　S=1/15



参考

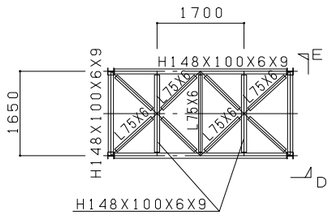
B3 sec　S=1/15



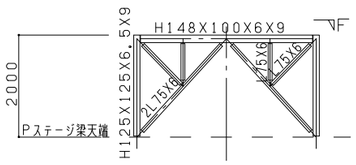
参考

ヘリコプターテレビ伝送装置架台軸伏図（P平面）　S=1/60

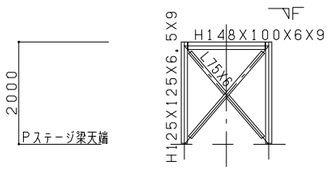
*下記を参考とし、ヘリコプターテレビ伝送装置詳細決定時に、適宜見直しを行うこと。



F sec（P平面）



D sec（P平面）

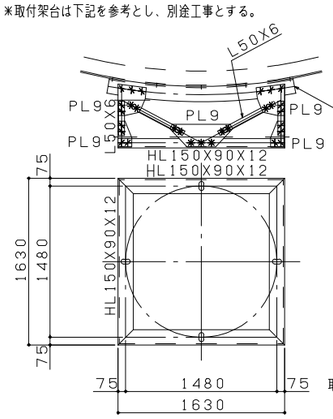


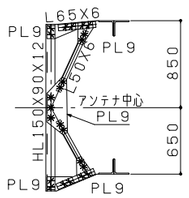
E sec（P平面）

参考

バラボラ架台詳細

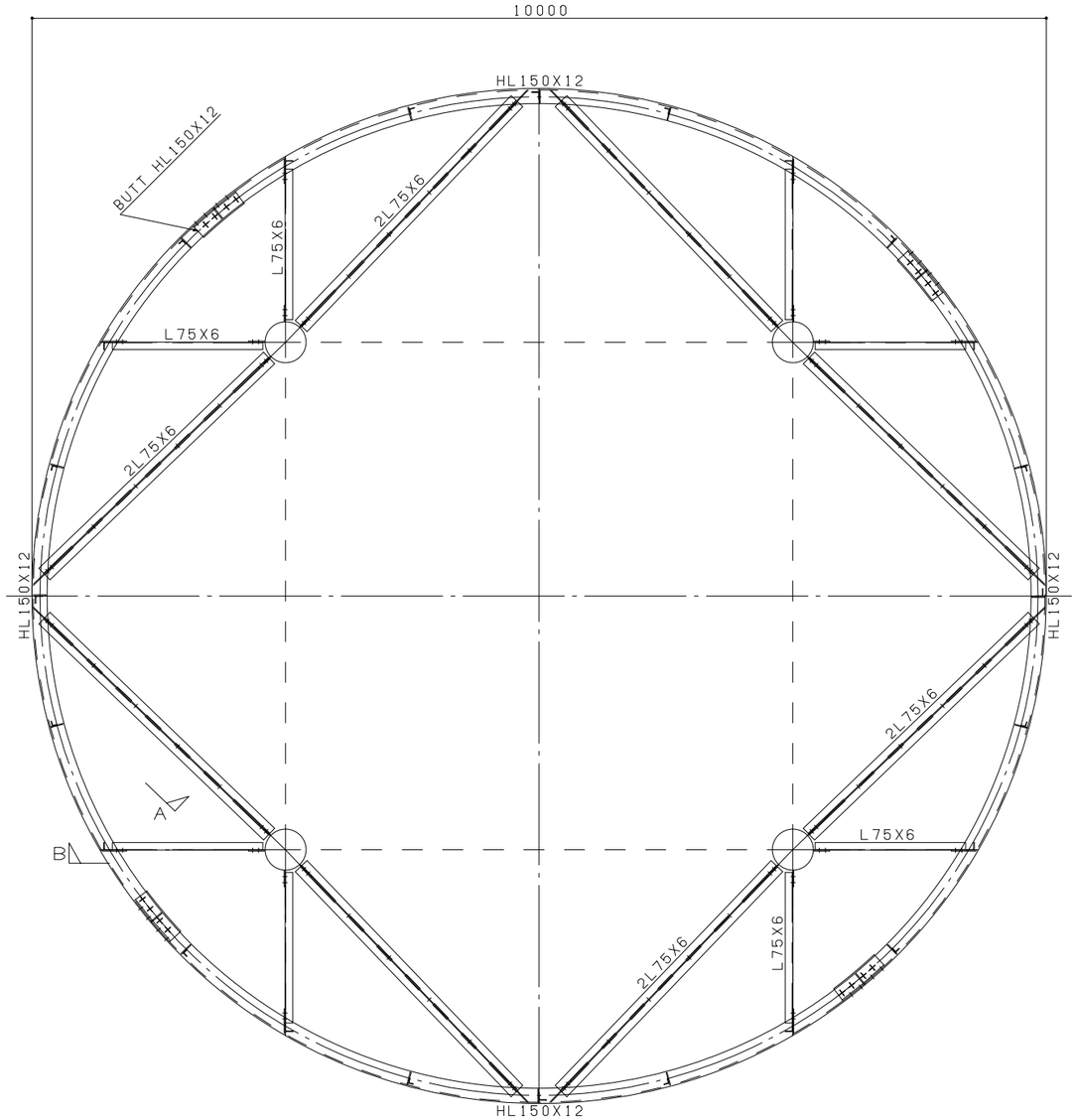
*本工事における、パラボラアンテナ、縦型アンテナ設置想定位置は意匠図による。
*取付架台は下記を参考とし、別途工事とする。

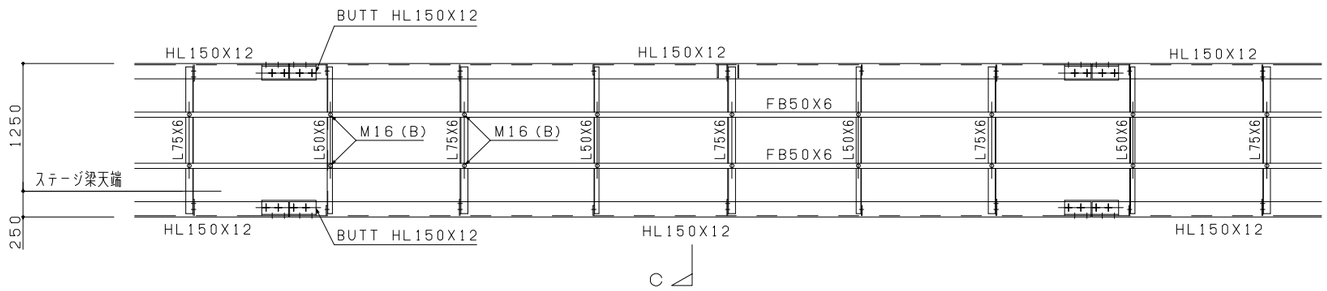




取り付け位置、アンテナ向きは調整すること。

参考





1. HLはSS540を示す。特記無き部材は、SS400を示す。
2. ボルト記号

	M12	M16	M20	M22	M24
HTB			✱	＋	✚
中ボルト	●	○			

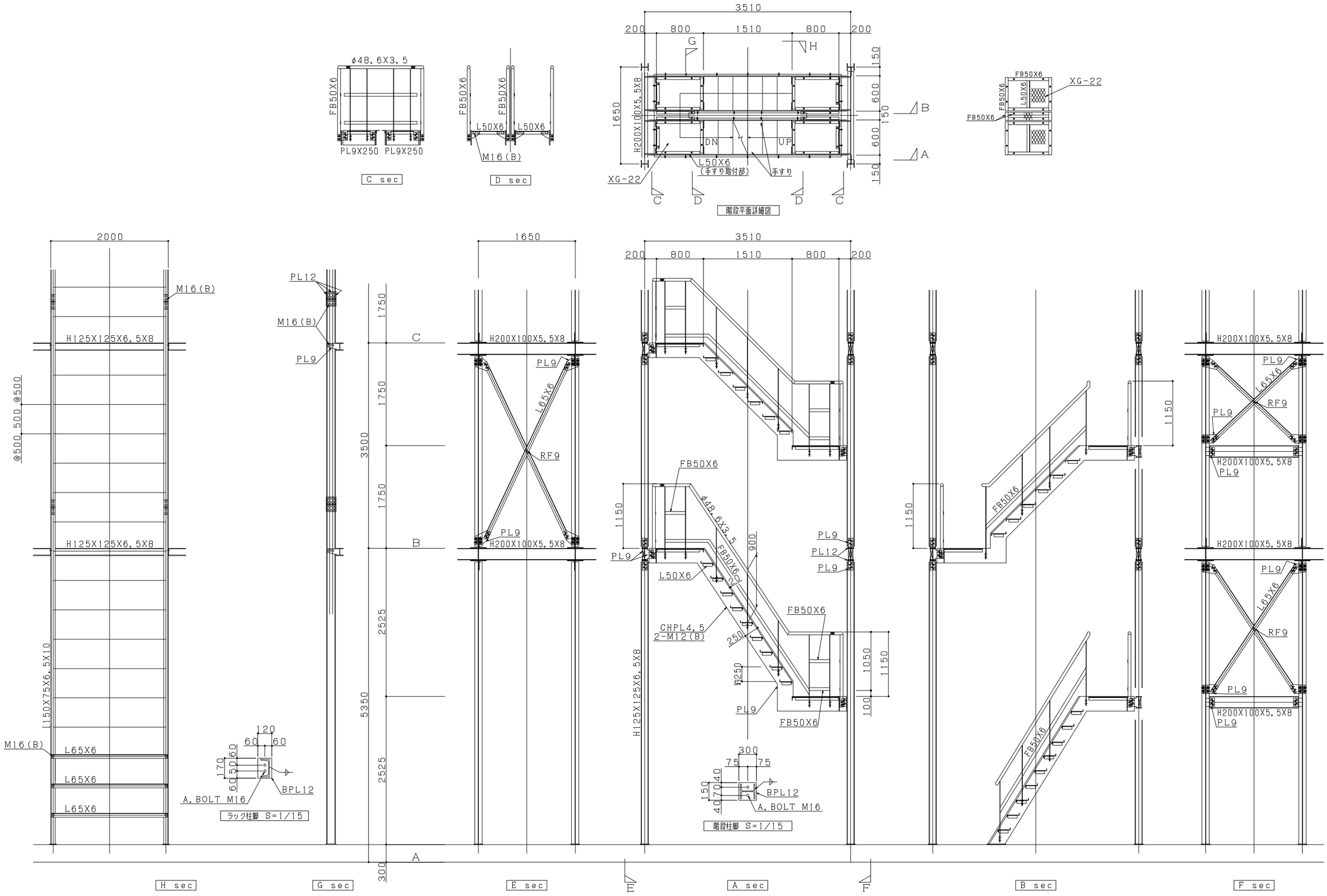
安井・太陽設計共同体
管理建築士一級建築士第129267号 高田 茂

新潟市建築部公共建築第1課

工事名
新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟建設工事

図名
（無線鉄塔）鉄骨平面詳細図（3）

年月日 2013.03.01
縮尺 A1:1/30, A3:1/60
図面番号 B-57



ラック詳細図

階段詳細図

1. HLはSS540を示す。特記無き部材は、SS400を示す。
2. ボルト記号

	M12	M16	M20	M22	M24
HTB			✱	+	✚
中ボルト	●	○			

安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第129267号 高田 茂	新潟市建築部公共建築第1課	工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟建設工事	図名 (無線鉄塔)階段・ラック詳細図
		年月日 2013.03.01	縮尺 A1:1/30, A3:1/60
			図面番号 B-58

梁貫通孔補強要領

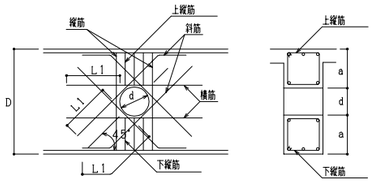
共通事項（特記なき限り）

- 梁貫通孔補強は下記要領に従い、行うこととする。
- 鉄筋コンクリート梁貫通孔補強は　監督員の承諾を受け、既製品（大臣認定品）による補強も使用可とする。
  ただし、既製品による補強が現補強同等以上であることを提示し　監督員の承諾を得ること。
- 連通管は意匠図による。ただし、プレストレストコンクリート梁には設けない。

(a) 鉄筋コンクリート部分の梁貫通孔補強

(1) 梁貫通孔位置　補強対象孔については　B-03　に準じる。

(2) 特記なき限りは　d≦150の補強は　H1とする。



500≦D<700　a≧175

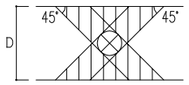
700≦D<900　a≧200

900≦D　a≧250

H形配筋

配筋種類	補強筋 斜筋	縦筋	横筋	上下縦筋	配筋図
H1	2-2-D13	—	—	—	
H2		2-2-D13			
H3	4-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	
H4	4-2-D16				
H5	4-2-D16	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	
H6	4-2-D19				
H7	4-2-D22				
H8	6-2-D22	4-2-D16	2-2-D13	4-2-D13	
H9	6-2-D25				

（注）――――は、一般部分のあばら筋を示す。



他の開孔を設けない範囲

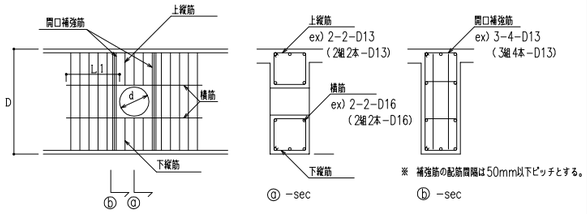
鉄筋コンクリート梁貫通孔補強リスト								
1階梁						4階梁		
符号	サイズ	配筋種類	符号	サイズ	配筋種類	符号	サイズ	配筋種類
G1、G2	200Φ	H6	b3、b4	200Φ	H2	G1	200Φ	H5
	300Φ	H6		250Φ	H2		250Φ	H5
G3	200Φ	H8	b6、b7	200Φ	H2		300Φ	H5
	250Φ	H8		250Φ	H2	G3	200Φ	H6
G4	200Φ	H8	b12~b14	200Φ	H6		250Φ	H6
	250Φ	H8		300Φ	H6		300Φ	H6
G11、G12	200Φ	H8		600Φ	H7	G11	150Φ	H6
	250Φ	H8						
	300Φ	H9						
G13	200Φ	H4						
	350Φ	H5						

(b) プレストレストコンクリート部分の梁貫通孔補強

(1) 梁貫通孔位置については　B-30　に準じる。

(2) 下記補強筋適用範囲は　d≧150　とする。

(3) d≦100の場合は　スターラップと同本数・同径の鉄筋を孔際に2組設ける。（鉄筋間隔は50mm以下）

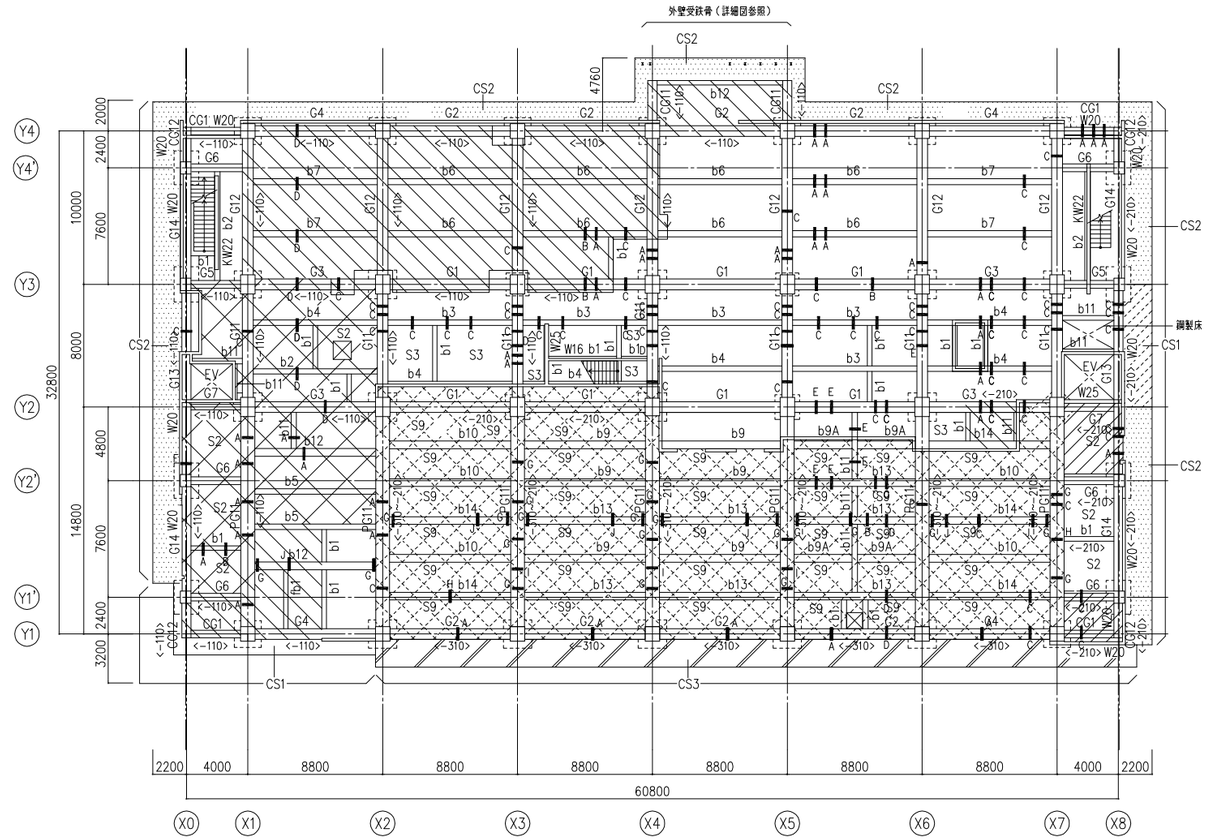


※　補強筋の配筋間隔は50mm以下ピッチとする。

プレストレストコンクリート梁貫通孔補強リスト					
階	符号	サイズ	開口補強筋	横筋	上下縦筋
1階	PG11	200Φ	6-6-D13	2-6-D16	1-6-D13
		450Φ	6-6-D13	2-6-D19	2-6-D13
2階	PG11	150Φ	6-4-D13	2-4-D16	1-4-D13

(C) 鉄骨部分の梁貫通孔補強

(1) B-06による。



1階床梁伏図　1:200

共通事項（特記なき限り）

- 設計GL= TP+0.60m　とする。
- 1FL = 設計GL+1100　とする。
- スラブは　S1 とする。
- ――― 印は　RC壁 W18　を示す。
- スラブ、梁天端は　FL-10 とする。
- < > 内数値は　FLからの梁天レベル　を示す。
- 印は　スラブ・小梁天端　FL-100　とする。
- 印は　スラブ・小梁天端　FL-100~-300　とする。
- 印は　スラブ天端　FL-200　とする。
- 印は　スラブ・小梁天端　FL-50　とする。
- 印は　スラブ天端　FL-50　とする。
- 印は　スラブ天端　FL-150　とする。
- 印は　スラブ天端　FL-525　とする。
- スラブ天（下）端と梁天（下）端レベルに差がある場合は、
  梁上（下）増打を行うものとする。

梁貫通リスト	
記号	サイズ
A	100Φ
B	150Φ
C	200Φ
D	250Φ
E	300Φ
F	350Φ
G	50Φ
H	125Φ
I	450Φ
J	600Φ

安井・太陽設計共同体
管理建築士一級建築士第129267号　高田　茂

新潟市建築部公共建築第1課

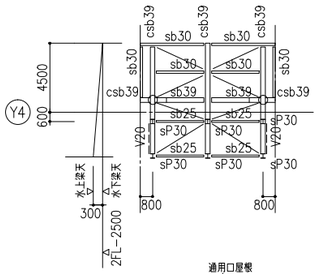
工事名　新潟市消防局・中央消防署庁舎　庁舎棟建設工事

図名　梁貫通孔補強要領、1階梁貫通伏図

年月日　2012.11.12　縮尺　A1:1/200、A3:1/400　図面番号　B-59

機器荷重（重量物）

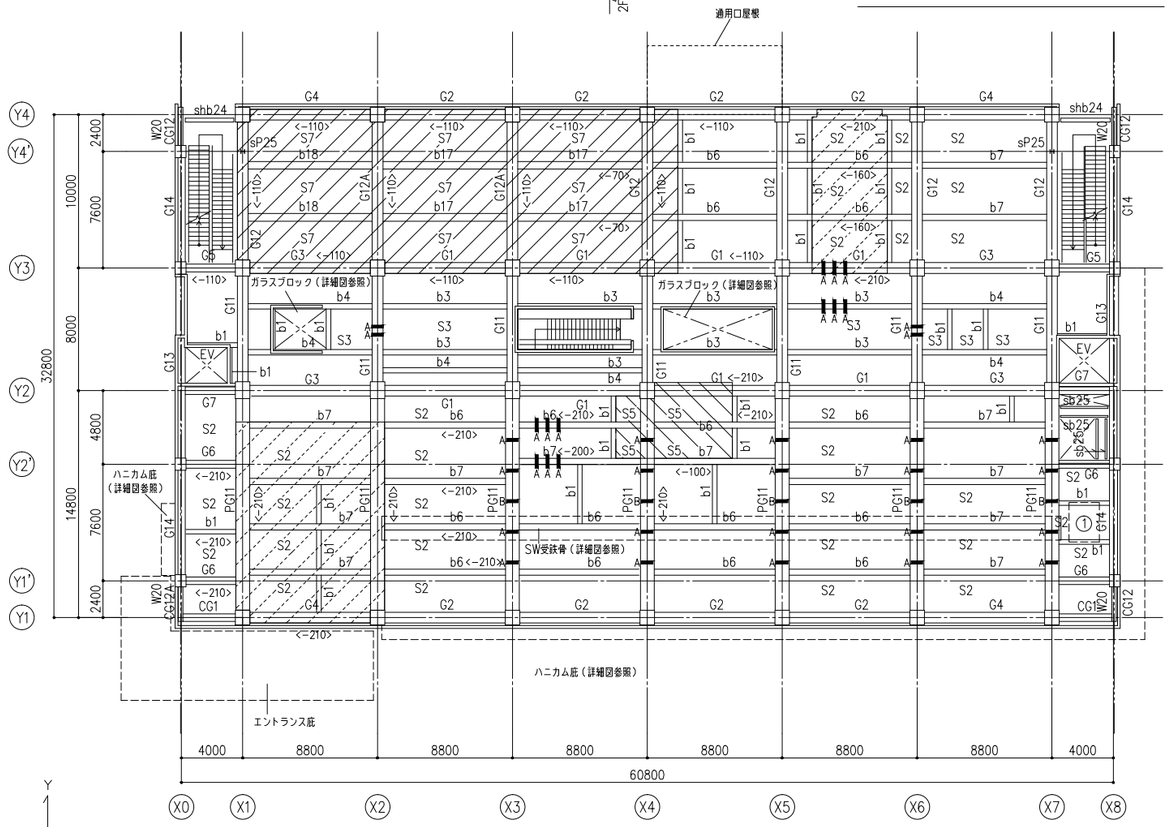
番号	機器荷重（t）
①	8.0

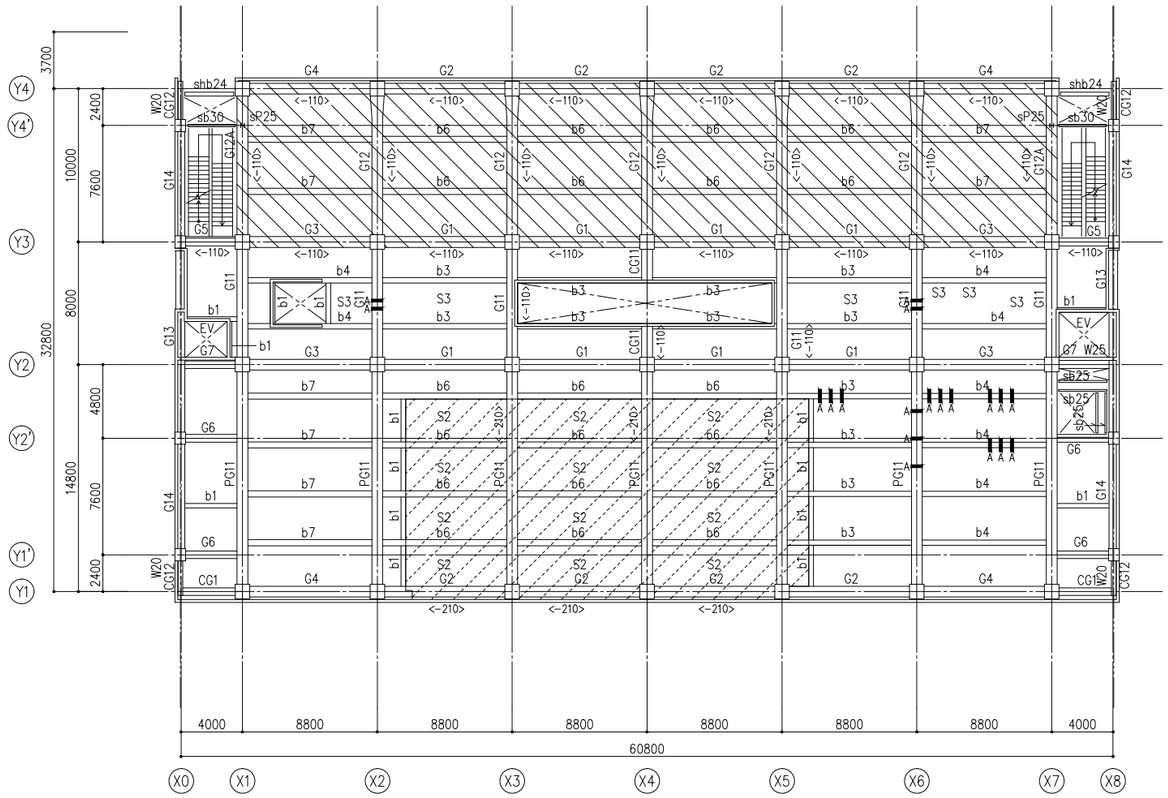


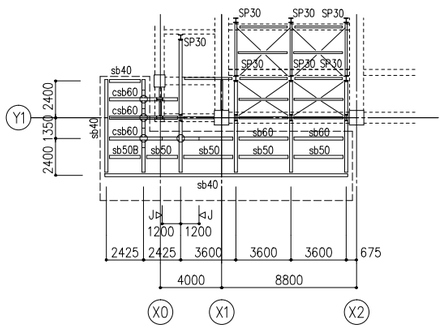
2FL−2500レベル床梁伏図 1:200

共通事項（特記なき限り）

- 梁天端は FL−2500（水下）~FL−2200（水上） とする。
- 床ブレースは V20 とする。
- 屋根受け小梁天端は 大梁天端レベル+50 とする。
- 折版受け大梁天端には 折版受け材 C−100x50x20x2.3（ヨコ使い） を設置する。
- 屋根材は金属パネルとする。







エントランス庇伏図 1:200

共通事項（特記なき限り）

- 梁天端は 2FL−2150 とする。
- 鉄骨梁は sb25 間柱はsP40とする。
- 水平ブレースは V20 とする。
- 屋外露出となる鉄骨は 溶融亜鉛メッキ加工とする。
- 屋外露出となる現場縦手部は 現場溶接とする。
- ⊥ 印は 剛接合 を示す。

2階床梁伏図 1:200

共通事項（特記なき限り）

- スラブは S1 とする。
- ═ 印は RC壁 W18 を示す。
- スラブ、梁天端は FL−10 とする。
- < > 内数値は FLからの梁天レベル を示す。
- ▨ 印は スラブ・小梁天端 FL−100 とする。
- ▧ 印は スラブ・小梁天端 FL−200 とする。
- ▨ 印は スラブ・小梁天端 FL−160 とする。
- スラブ天（下）端と梁天（下）端レベルに差がある場合は、梁上（下）増打を行うものとする。

梁貫通リスト	
記号	サイズ
A	100Φ
B	150Φ
C	200Φ
D	250Φ
E	300Φ
F	350Φ

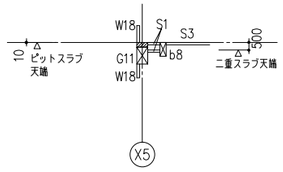
3階床梁伏図 1:200

共通事項（特記なき限り）

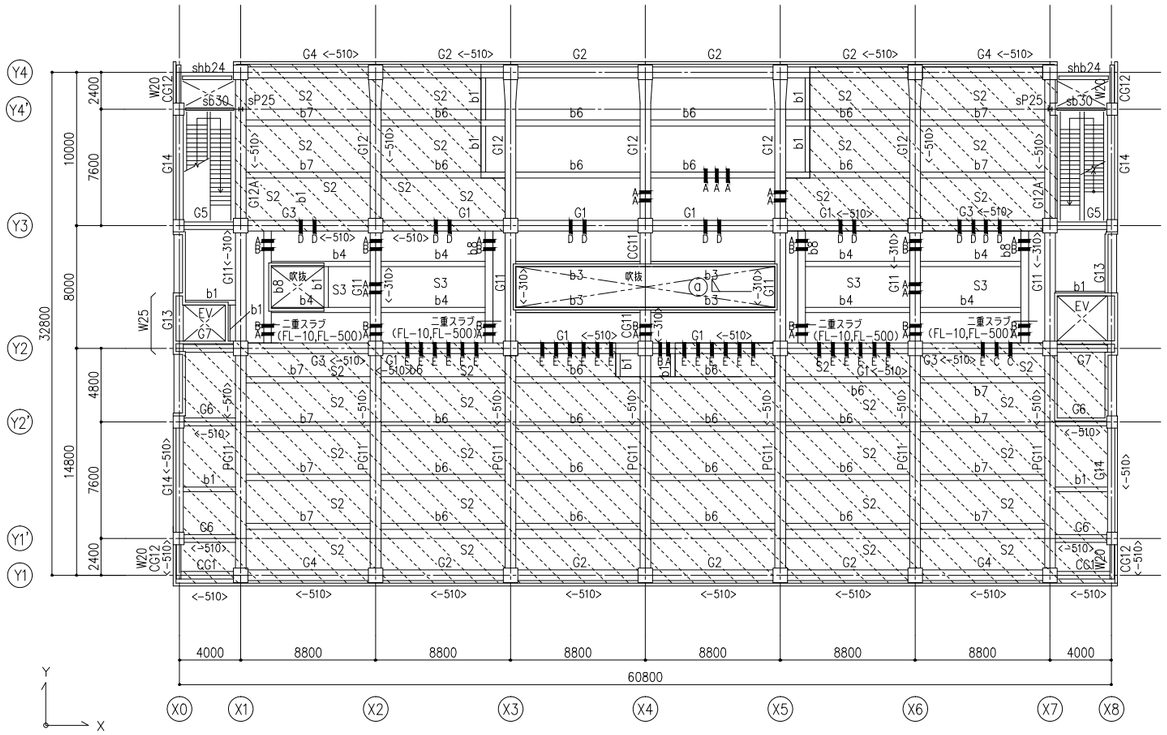
- スラブは S1 とする。
- ═ 印は RC壁 W18 を示す。
- スラブ、梁天端は FL−10 とする。
- < > 内数値は FLからの梁天レベル を示す。
- ▧ 印は スラブ・小梁天端 FL−100 とする。
- ▨ 印は スラブ・小梁天端 FL−160 とする。
- スラブ天（下）端と梁天（下）端レベルに差がある場合は、梁上（下）増打を行うものとする。

梁貫通リスト	
記号	サイズ
A	100Φ
B	150Φ
C	200Φ
D	250Φ
E	300Φ
F	350Φ

安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第129267号 高田 茂	新潟市建築部公共建築第1課	工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟建設工事	図名 2階、3階梁貫通伏図	
		年月日 2013.03.01	縮尺 A1:1/200, A3:1/400	図面番号 B−60



ⓐ一断面

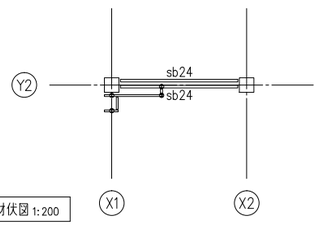


4階床梁伏図 1:200

共通事項（特記なき限り）

- スラブは S1 とする。
- ＿＿ 印は RC壁 W18 を示す。
- スラブ、梁天端は FL−10 とする。
- ＜ ＞内数値は FLからの梁天レベル を示す。
- ▨ 印は スラブ・小梁天端 FL−500 とする。
- スラブ天（下）端と梁天（下）端レベルに差がある場合は、梁上（下）増打を行うものとする。

梁貫通リスト	
記号	サイズ
A	100Φ
B	150Φ
C	200Φ
D	250Φ
E	300Φ
F	350Φ



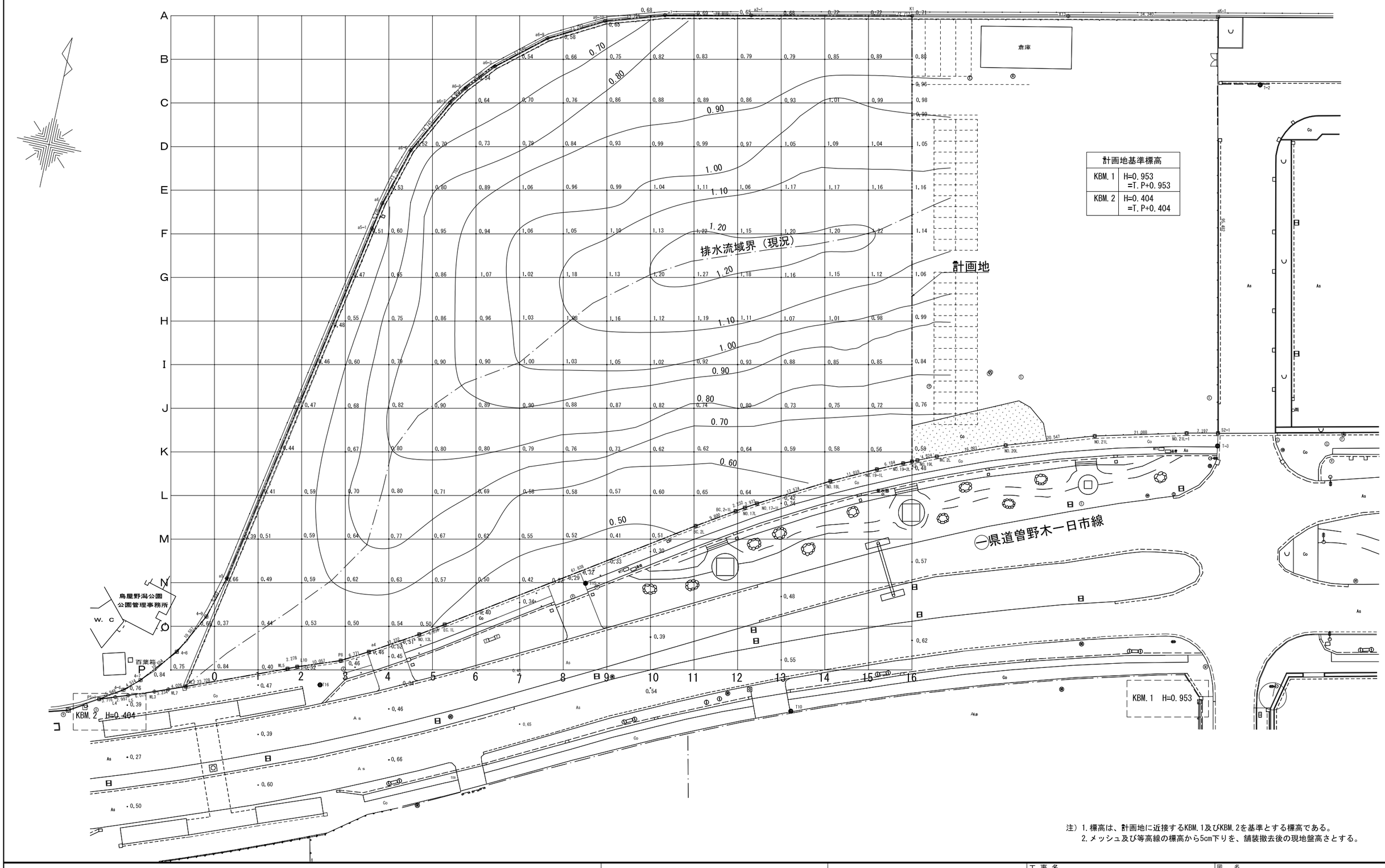
SW、シャッター受材伏図 1:200

共通事項（特記なき限り）

- 鉄骨は すべて sb25 とする。
- 鉄骨梁 梁天端 4FL−2700とする。
- 吊り材（O印）は sP15とする。

安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第129267号 高田 茂	新潟市建築部公共建築第1課	工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟建設工事	図名 4階梁貫通伏図		
			年月日 2013.03.01	縮尺 A1:1/200, A3:1/400	図面番号 B−61

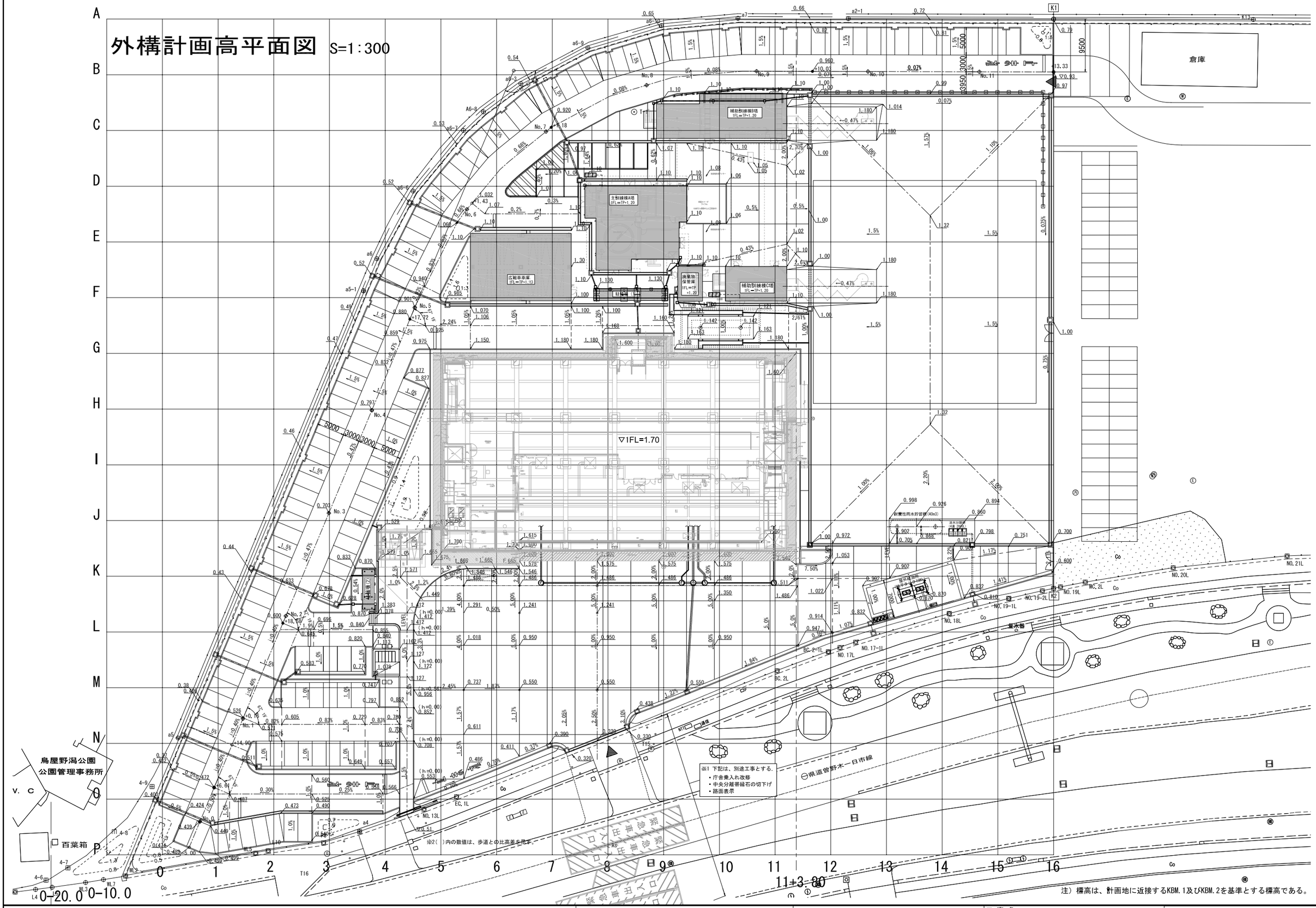
現況平面図 S=1:400



注）1.標高は、計画地に近接するKBM.1及びKBM.2を基準とする標高である。
2.メッシュ及び等高線の標高から5cm下りを、舗装撤去後の現地盤高さとする。

安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第129267号 高田 茂	新潟市建築部公共建築第１課	工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟 建設 工 事	図名 現況平面図	
			年月日 2012.11 / 縮尺 S=1:400(A1),1:800(A3)	図面番号 G-01

外構計画高平面図 S=1:300



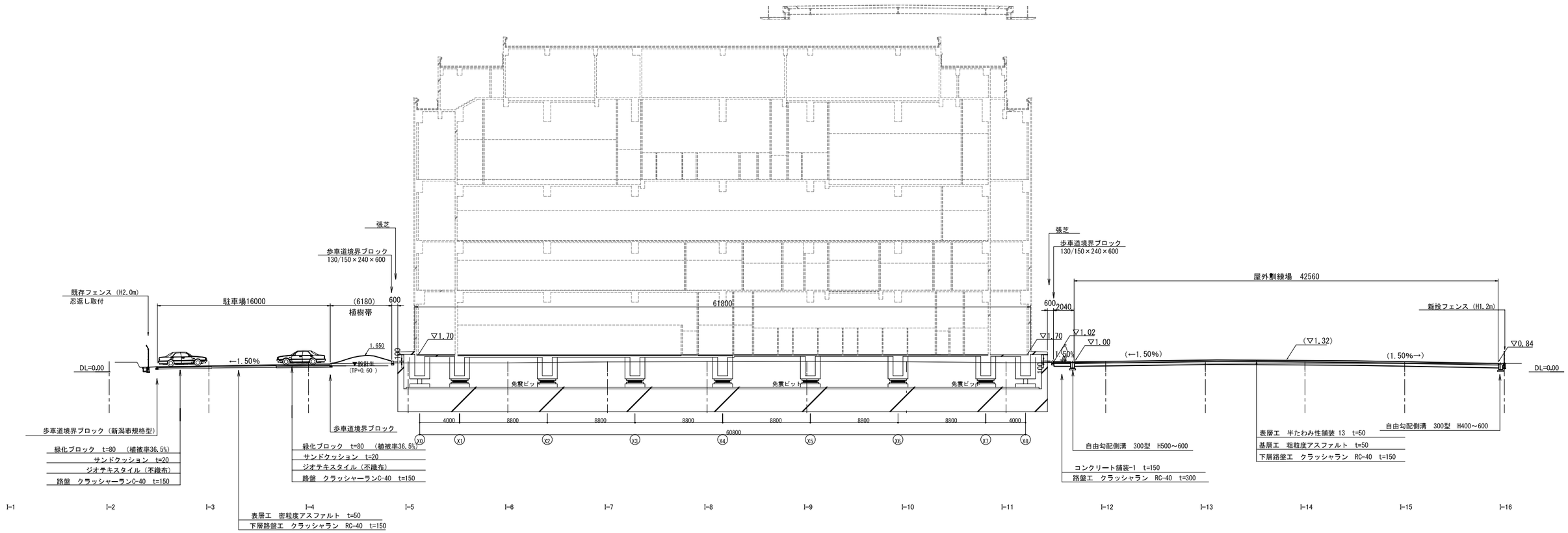
注）標高は、計画地に近接するKBM.1及びKBM.2を基準とする標高である。

安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第129267号　高田　茂	新潟市建築部公共建築第１課	工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎　庁舎棟　建設　工　事	外構計画高平面図 年月日 2012.11　縮尺 S=1:300(A1), 1:600(A3)　図面番号 G-02

外構標準断面図-1　S=1:200

（ I 断面 ）

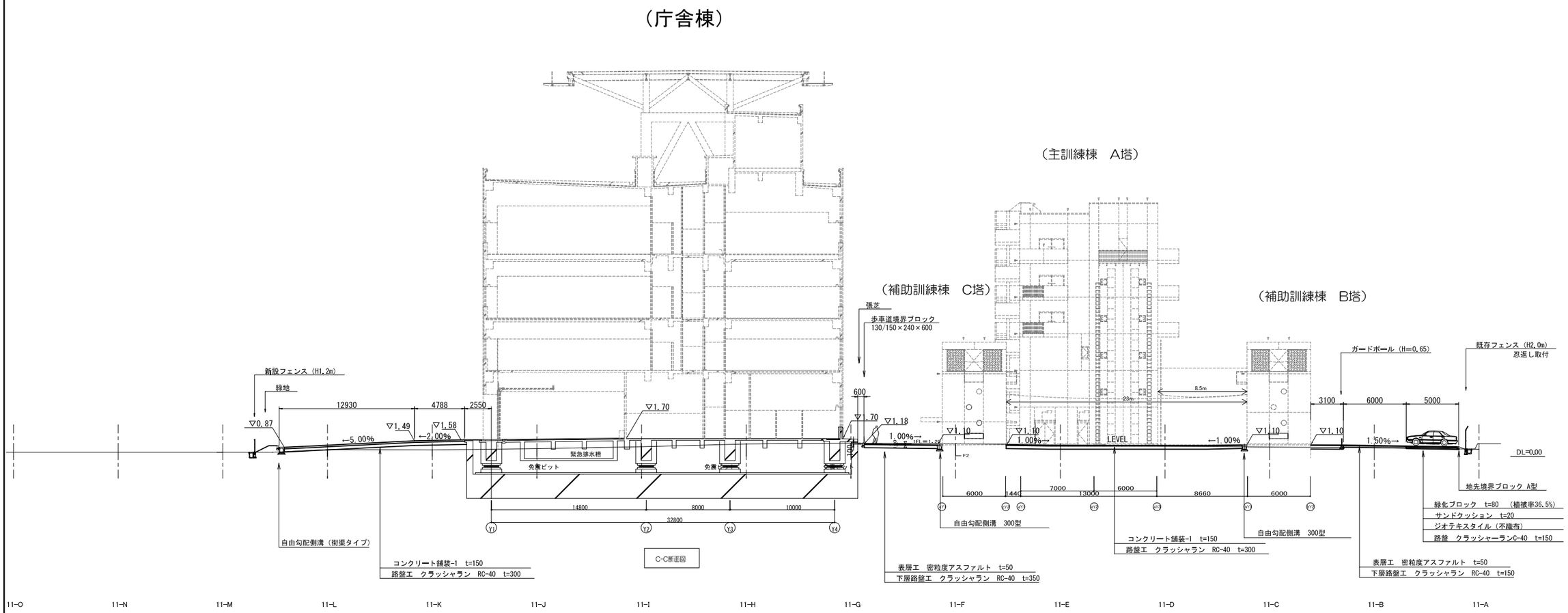
（庁舎棟）



安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第129267号　高田　茂	新潟市建築部公共建築第１課	工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎　庁舎棟　建設　工　事	外構標準断面図-1 年月日 2012.11　縮尺 S=1:200(A1),1:400(A3)　図面番号 G-03	

外構標準断面図-2　S=1:200

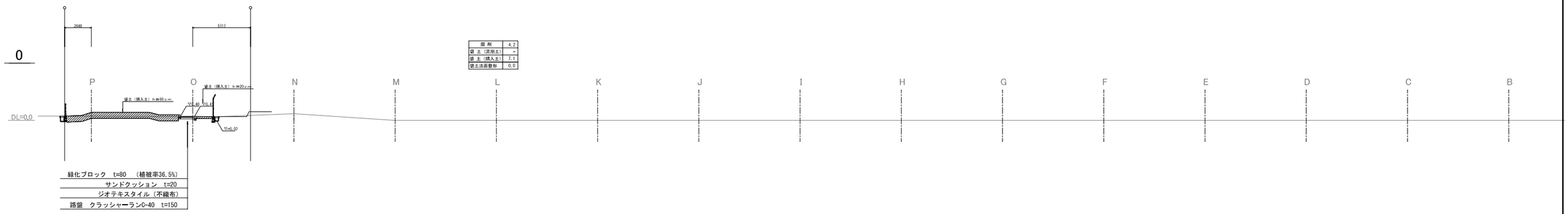
（ 11断面 ）



安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第129267号　高田　茂	新潟市建築部公共建築第１課	工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎　庁舎棟　建設　工　事	外構標準断面図-2		
			年月日 2012.11	縮　尺 S=1:200(A1),1:400(A3)	図面番号 G-04

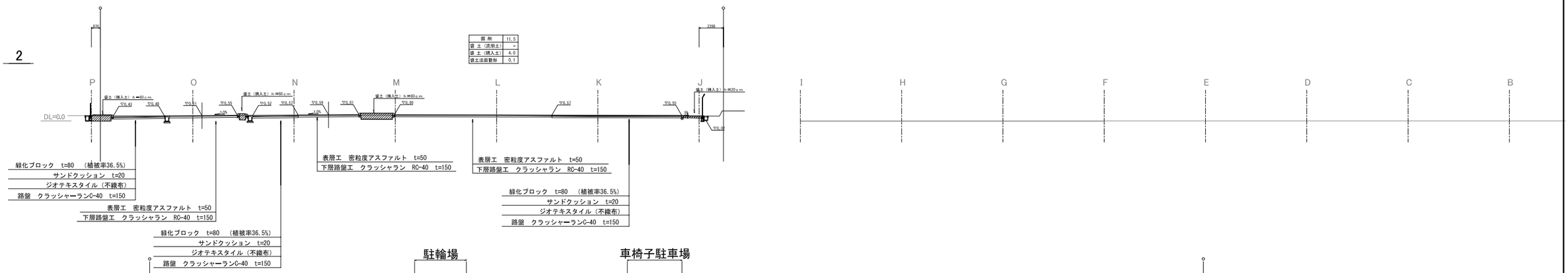
横断面図-1　S=1:200

0



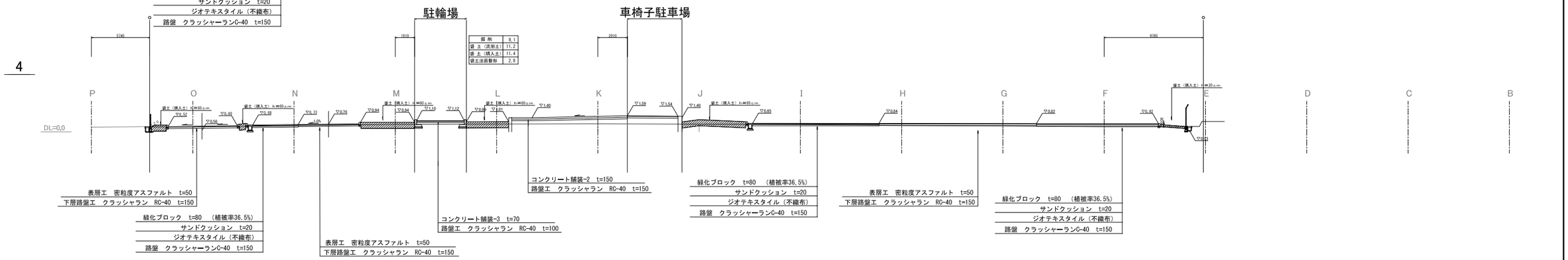
掘 削	4.2
盛 土（流用土）	-
盛 土（購入土）	7.1
盛土法面整形	0.0

2



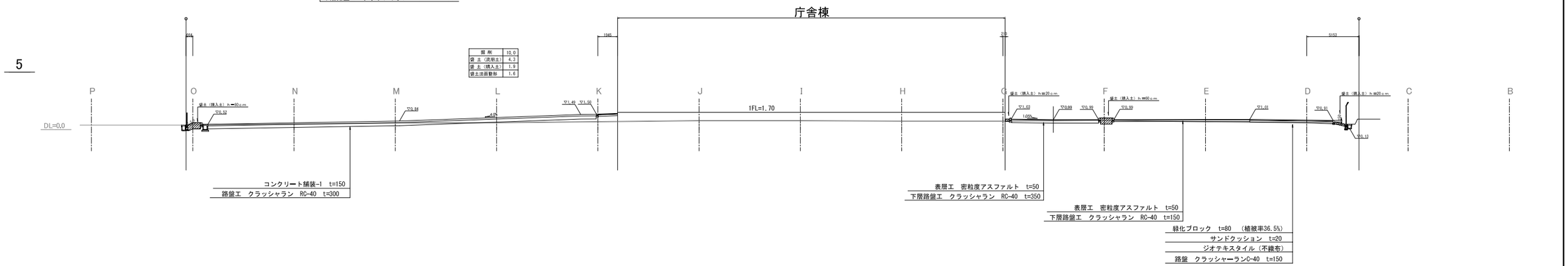
掘 削	11.5
盛 土（流用土）	-
盛 土（購入土）	4.0
盛土法面整形	0.1

4



掘 削	9.1
盛 土（流用土）	11.2
盛 土（購入土）	11.4
盛土法面整形	2.8

5

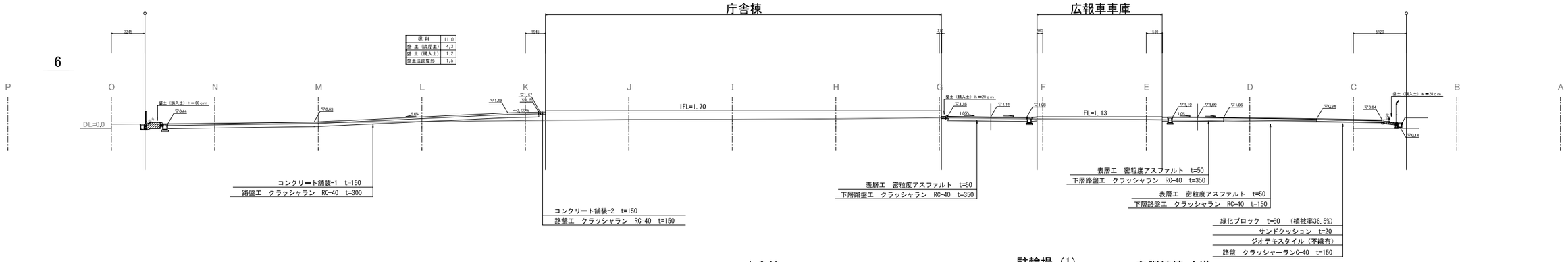


掘 削	10.0
盛 土（流用土）	4.3
盛 土（購入土）	1.9
盛土法面整形	1.6

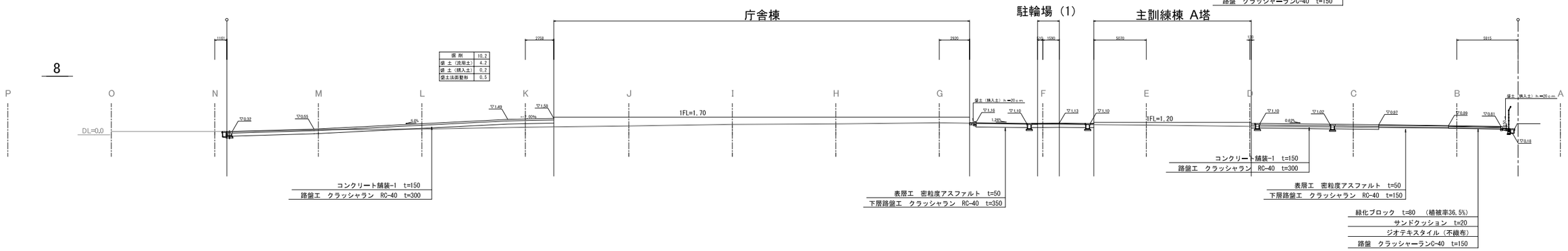
安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第129267号　高田　茂	新潟市建築部公共建築第１課	工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎　庁舎棟　建設　工　事	横断面図-1 年月日 2012.11　縮尺 S=1:200 (A1)S=1:400(A3)　図面番号 G-05

横断面図-2　S=1:200

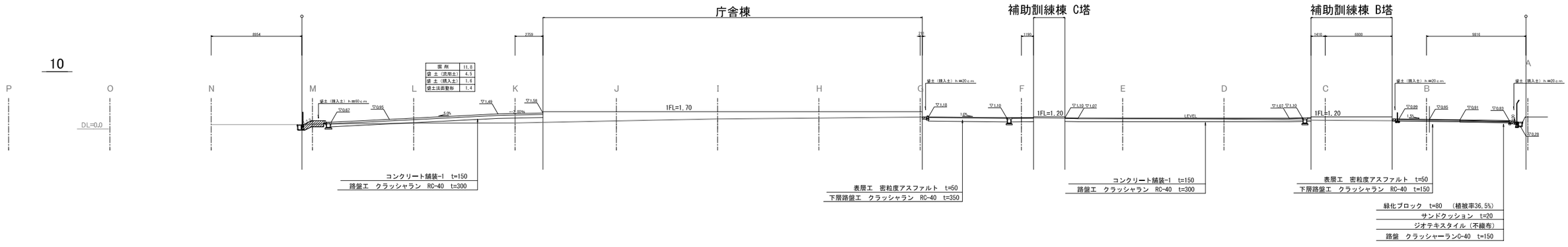
6



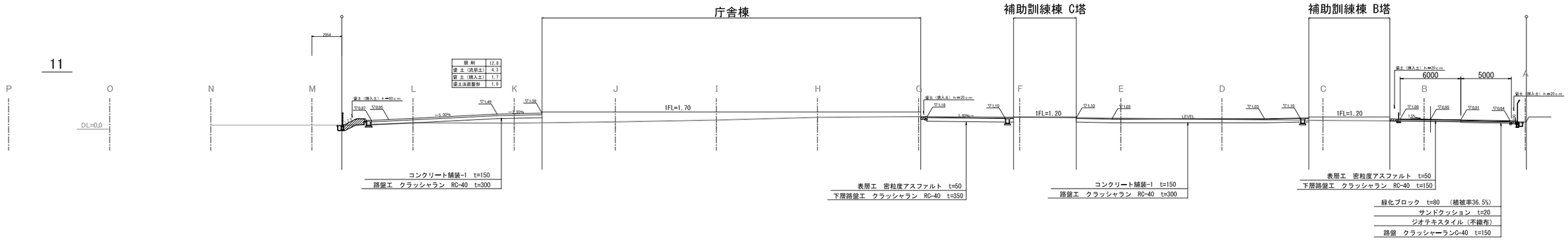
8



10



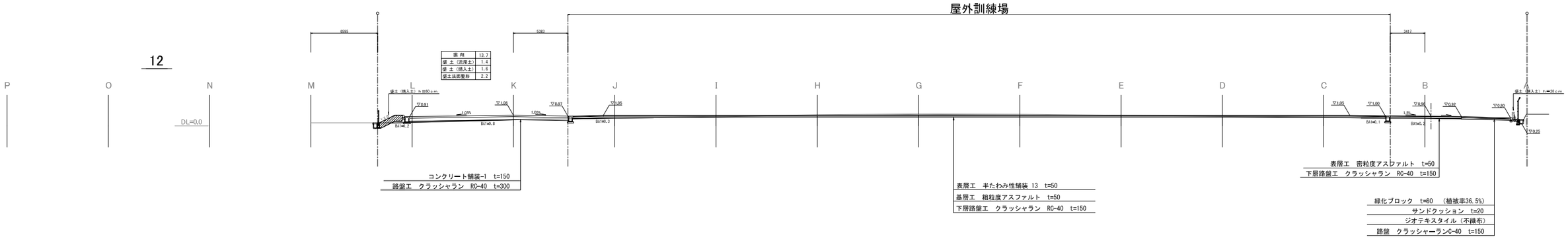
11



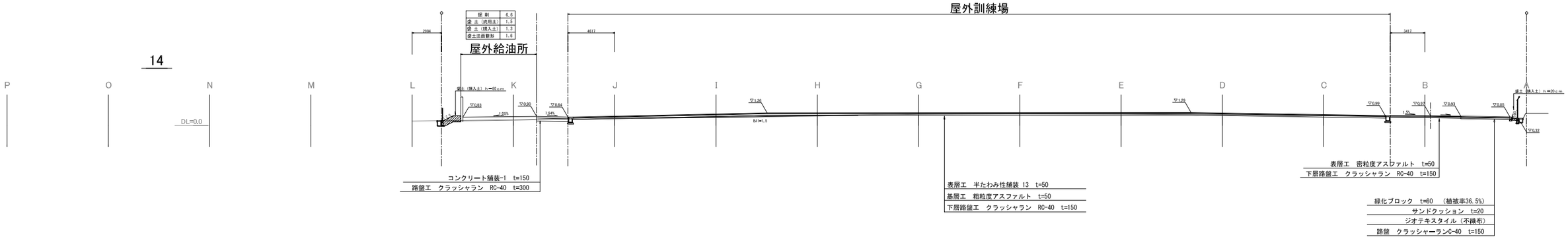
安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第129267号　髙田　茂	新潟市建築部公共建築第１課	工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎　庁舎棟　建設　工　事	横断面図-2 年月日 2012.11　縮尺 S=1:200(A1)S=1:400(A3)　図面番号 G-06

横断面図-3　　S=1:200

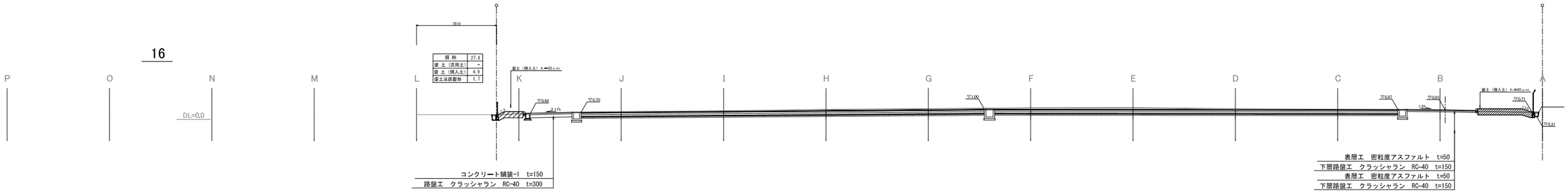
12



14



16



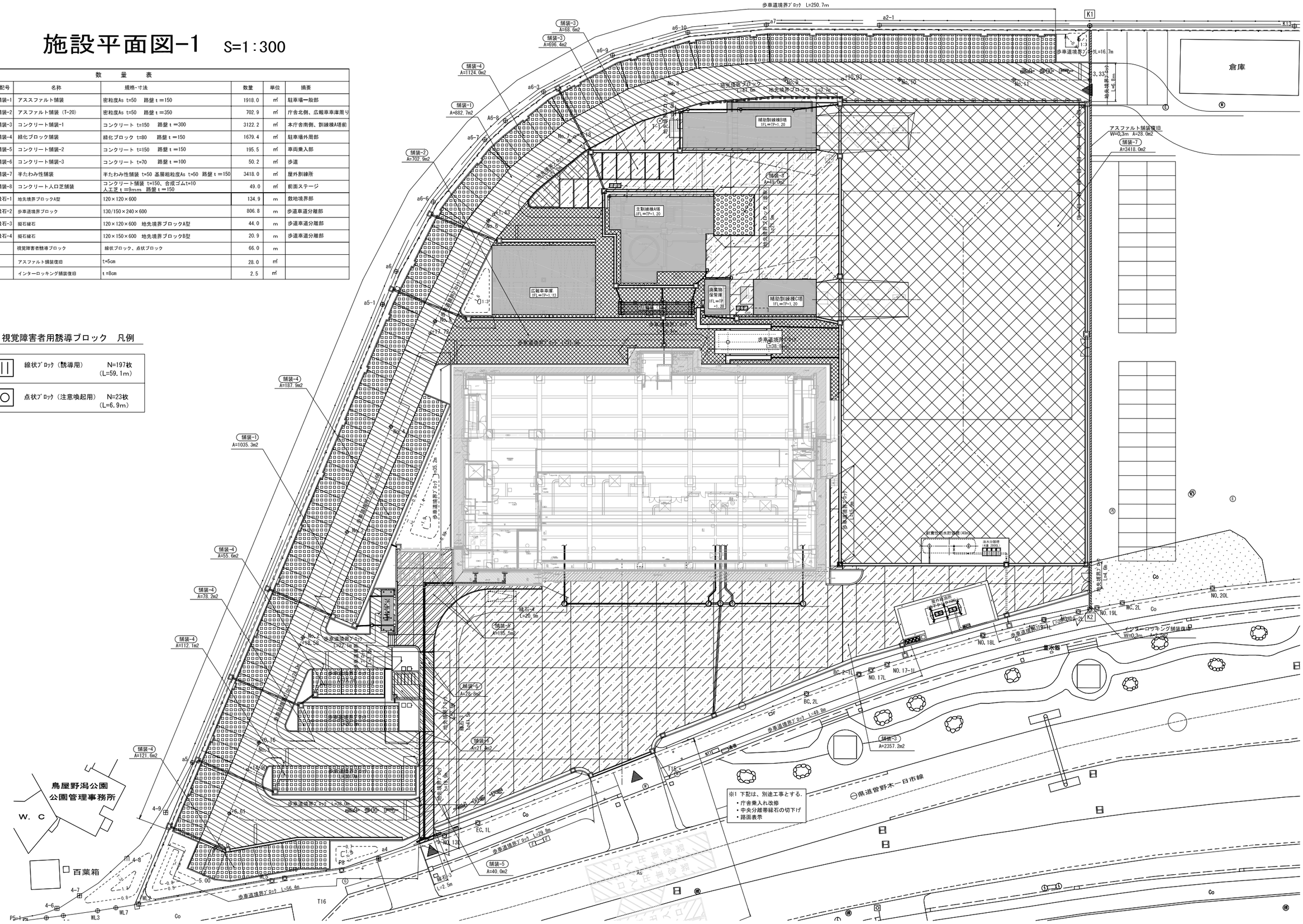
安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第129267号　高田　茂	新潟市建築部公共建築第１課	工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎　庁舎棟　建設　工　事	横断面図-3 年月日 2012.11　縮尺 S=1:200 (A1)S=1:400 (A3)　図面番号 G-07

施設平面図-1　S=1:300

凡例	記号	名称	規格・寸法	数量	単位	摘要
	舗装-1	アススファルト舗装	密粒度As t=50　路盤 t＝150	1918.0	㎡	駐車場一般部
	舗装-2	アスファルト舗装（T-20）	密粒度As t=50　路盤 t＝350	702.9	㎡	庁舎北側、広報車車庫周り
	舗装-3	コンクリート舗装-1	コンクリート t=150　路盤 t＝300	3122.2	㎡	本庁舎南側、訓練棟八塔前
	舗装-4	緑化ブロック舗装	緑化ブロック t=80　路盤 t＝150	1679.4	㎡	駐車場外周部
	舗装-5	コンクリート舗装-2	コンクリート t=150　路盤 t＝150	195.5	㎡	車両乗入部
	舗装-6	コンクリート舗装-3	コンクリート t=70　路盤 t＝100	50.2	㎡	歩道
	舗装-7	半たわみ性舗装	半たわみ性舗装 t=50 基層粗粒度As t=50　路盤 t＝150	3418.0	㎡	屋外訓練所
	舗装-8	コンクリート人口芝舗装	コンクリート舗装 t=150、合成ゴムt=10 人工芝 t＝9mm　路盤 t＝150	49.0	㎡	前面ステージ
	縁石-1	地先境界ブロックA型	120×120×600	134.9	m	敷地境界部
	縁石-2	歩車道境界ブロック	130/150×240×600	806.8	m	歩道車道分離部
	縁石-3	縦石縁石	120×120×600　地先境界ブロックA型	44.0	m	歩道車道分離部
	縁石-4	縦石縁石	120×150×600　地先境界ブロックB型	20.9	m	歩道車道分離部
		視覚障害者誘導ブロック	線状ブロック、点状ブロック	66.0	m	
		アスファルト舗装復旧	t=5cm	28.0	㎡	
		インターロッキング舗装復旧	t =8cm	2.5	㎡	

視覚障害者用誘導ブロック　凡例

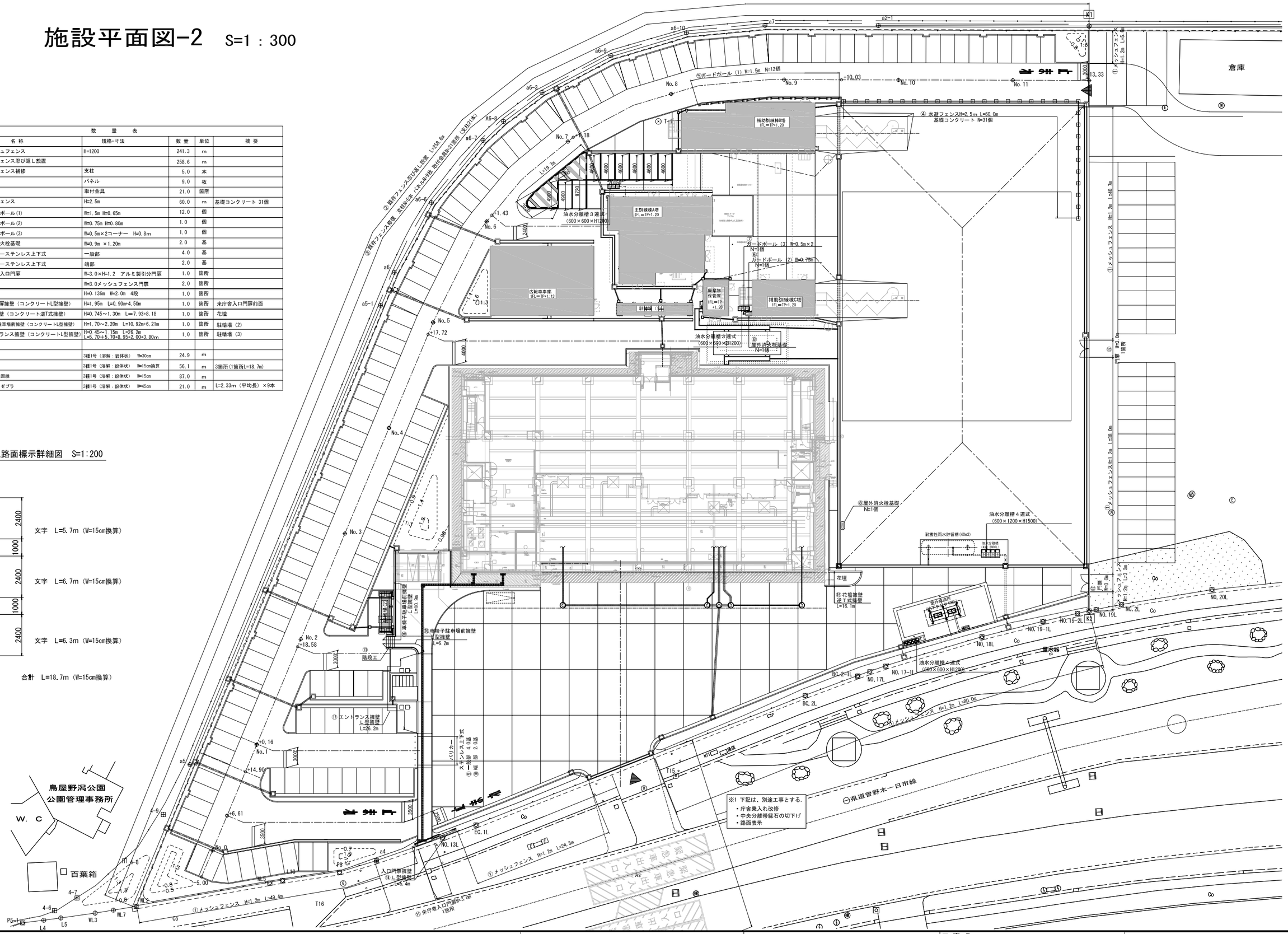
‖	線状ﾌﾞﾛｯｸ（誘導用）	N=197枚 （L=59.1m）
○	点状ﾌﾞﾛｯｸ（注意喚起用）	N=23枚 （L=6.9m）



安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第129267号　高田　茂	新潟市建築部公共建築第１課	工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎　庁舎棟　建設　工　事	施設平面図-1 年月日 2012.11　尺 S=1:300(A1),1:600(A3)　図面番号 G-08

施設平面図-2　S=1：300

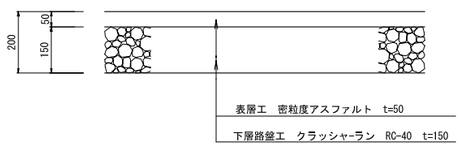
数　量　表					
記号	名 称	規格・寸法	数 量	単位	摘 要
①	メッシュフェンス	H=1200	241.3	m	
②	既存フェンス忍び返し設置		258.6	m	
③	既存フェンス補修	支柱	5.0	本	
		パネル	9.0	枚	
		取付金具	21.0	箇所	
④	水避フェンス	H=2.5m	60.0	m	基礎コンクリート 31個
⑤	ガードポール(1)	W=1.5m H=0.65m	12.0	個	
⑥	ガードポール(2)	W=0.75m H=0.80m	1.0	個	
⑦	ガードポール(3)	W=0.5m×2コーナー　H=0.8m	1.0	個	
⑧	屋外消火栓基礎	W=0.9m ×1.20m	2.0	基	
⑨	バリカーステンレス上下式	一般部	4.0	基	
⑩	バリカーステンレス上下式	端部	2.0	基	
⑪	来庁者入口門扉	W=3.0×H=1.2　アルミ製引分門扉	1.0	箇所	
⑫	門扉	W=3.0メッシュフェンス門扉	2.0	箇所	
⑬	階段工	H=0.136m　W=2.0m　4段	1.0	箇所	
⑭	入口門扉擁壁（コンクリートL型擁壁）	H=1.95m　L=0.90m+4.50m	1.0	箇所	来庁舎入口門扉前面
⑮	花壇擁壁（コンクリート逆T式擁壁）	H=0.745~1.30m　L=7.93+8.18	1.0	箇所	花壇
⑯	車椅子駐車場前擁壁（コンクリートL型擁壁）	H=1.70~2.20m　L=10.92m+6.21m	1.0	箇所	駐輪場（2）
⑰	エントランス擁壁（コンクリートL型擁壁）	H=0.45~1.15m　L=26.2m L=5.70+5.70+8.95+2.00+3.80m	1.0	箇所	駐輪場（3）
	停止線	3種1号（溶解：紛体状）　W=30cm	24.9	m	
	止まれ	3種1号（溶解：紛体状）　W=15cm換算	56.1	m	3箇所(1箇所L=18.7m)
	駐車場区画線	3種1号（溶解：紛体状）　W=15cm	87.0	m	
	区画線　ゼブラ	3種1号（溶解：紛体状）　W=45cm	21.0	m	L=2.33m（平均長）×9本



安井・太陽設計共同体	新潟市建築部公共建築第１課	工事名	施設平面図-2	
管理建築士一級建築士第129267号　高田　茂		新潟市消防局・中央消防署庁舎　庁舎棟　建設　工　事	年月日 2012.11	縮尺 S=1:300(A1),1:600(A3)	図面番号 G-09

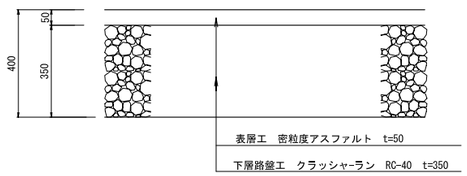
舗装-1　アスファルト舗装-1　標準断面図　S=1:10

駐車場　(一般車対応)

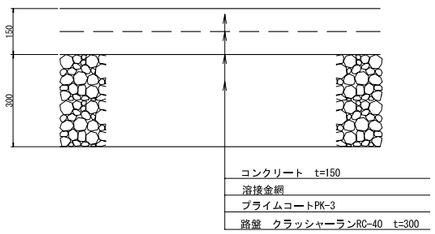


舗装-2　アスファルト舗装-2　標準断面図　S=1:10

駐車場　(大型車対応)



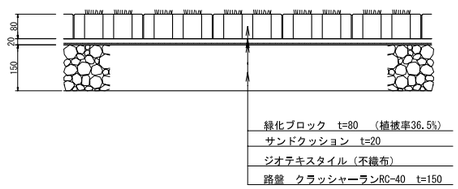
舗装-3　コンクリート舗装-1　標準断面図　S=1:10



※目地位置は、平面図を参照のこと。
目地構造は、目地部詳細図を参照のこと。

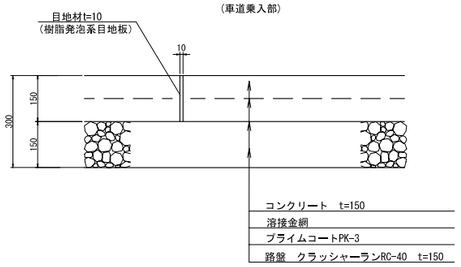
舗装-4　緑化ブロック舗装-2　標準断面図　S=1:10

駐車場　(一般車対応)



舗装-5　コンクリート舗装-2　標準断面図　S=1:10

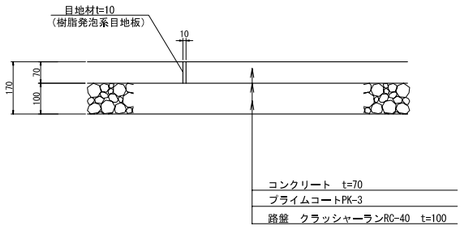
(車道乗入部)



※目地位置は、平面図を参照のこと。

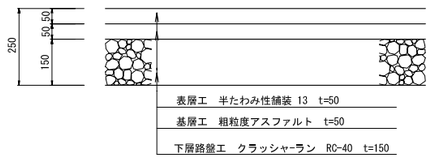
舗装-6　コンクリート舗装-3　標準断面図　S=1:10

(歩道)

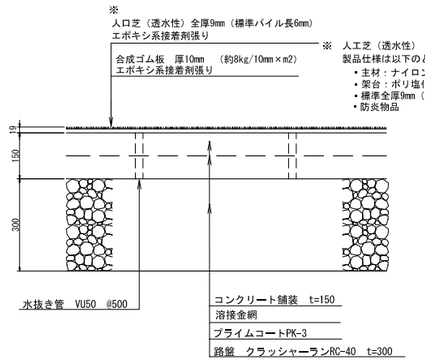


※目地位置は、平面図を参照のこと。

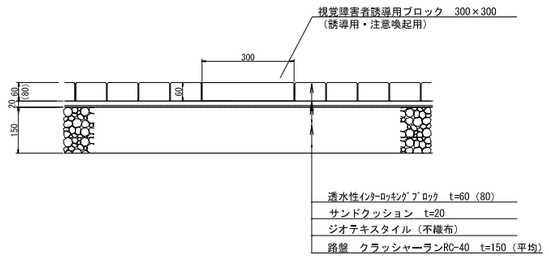
舗装-7　半たわみ性舗装　標準断面図　S=1:10



舗装-8　コンクリート人工芝舗装　標準断面図　S=1:10

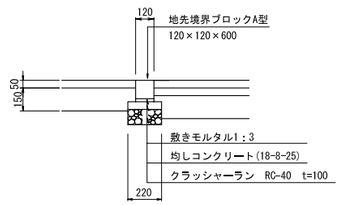


視覚障害者誘導用ブロック　S=1:10

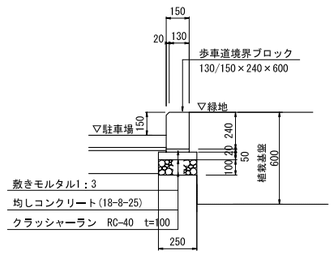


縁石-1　地先境界ブロック　標準断面図　S=1:10

※　歩道車道分離

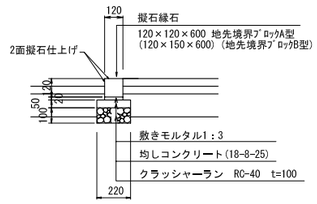


縁石-2　歩車道境界ブロック 標準断面図　S=1:10



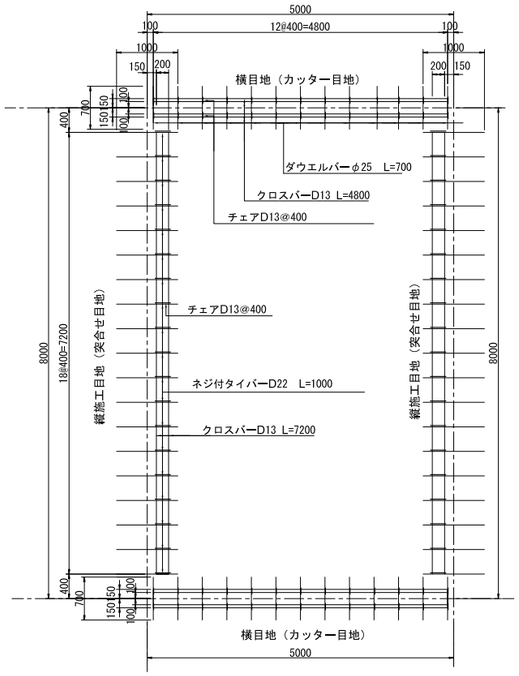
縁石-3
縁石-4　擬石縁石 標準断面図　S=1:10

※　歩道車道分離

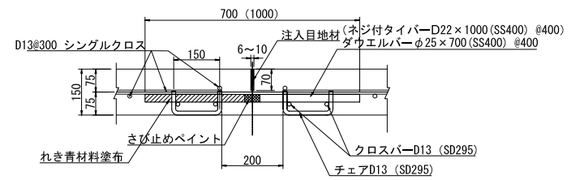


※(　)は縁石-4の寸法を示す。

コンクリート舗装-1　目地部詳細図　S=1:50

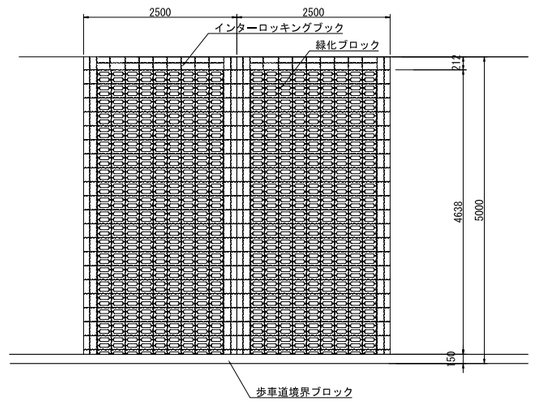


目地工 (収縮目地) 断面図　S=1:10



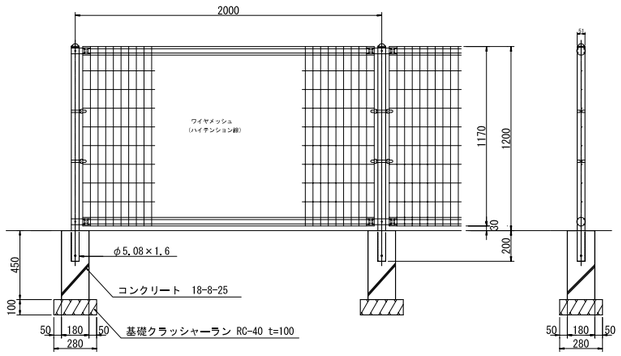
緑化ブロック舗装　割付図 (参考図)　S=1:50

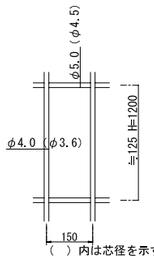
車道側



メッシュフェンス（H=1200）　S=1:20

立面図　S=1:20　　側面図　S=1:20





（　）内は芯径を示す．

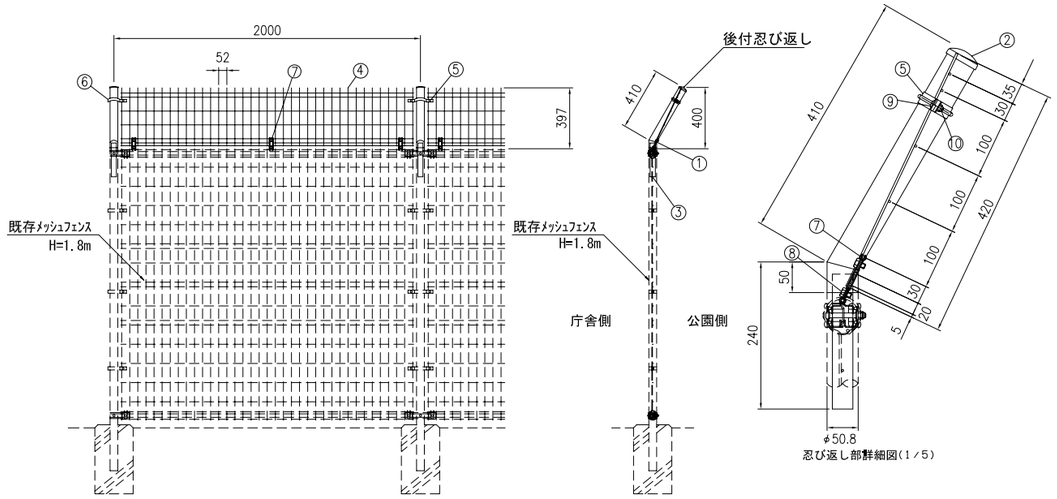
備考（外装について）

・主柱、ジョイント、押え金具
・ワイヤメッシュ
・バ　ン　ド
・ボルト、ナット類

（門扉）
・門柱、枠体、ジョイント、バンド
・ワイヤメッシュ
・U型金具
・ボルト、ナット類

後付忍び返し　S=1：20

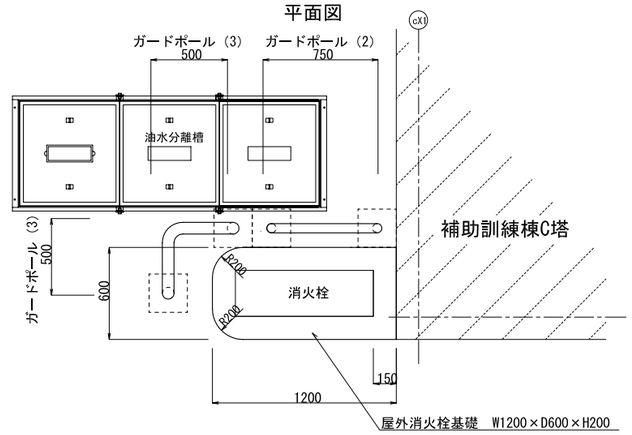
立面図　S=1:20　　側面図　S=1:20



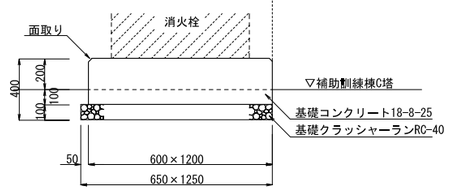
部番	部　材　名	形格（mm）	材　質	摘　　要
1	GO後付け忍び返し	φ50.8	STK 400	静電粉体塗装（下地亜鉛めっき）
2	支柱キャップ	t 1.6	SGH・Z27	〃
3	インサート部	t 1.6	〃	〃
4	忍び返しパネル	φ3.6	SWMGH-3	流動浸漬塗装（下地亜鉛めっき）
5	中　間　金　具	t 1.6	SGH・Z27	静電粉体塗装（下地亜鉛めっき）
6	中間金具端末用	〃	〃	〃
7	パネル連結金具	〃	〃	〃
8	十字穴付六角ボルト	M8×12	4.6相当	溶融亜鉛めっき
9	角 根 ボ ル ト	M8×20	〃	〃
10	ナ　　ッ　　ト	M8	〃	〃

屋外消火栓(模擬)基礎図　S-1:20

平面図

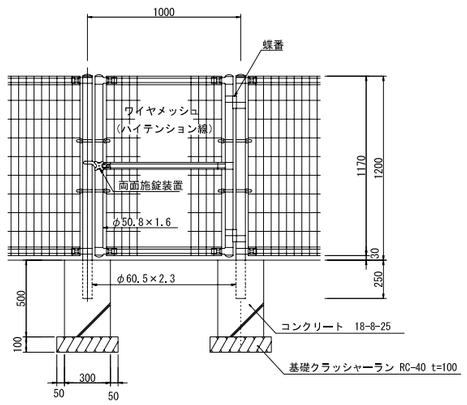


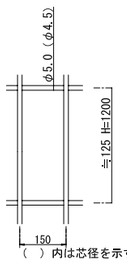
断面図



メッシュフェンス門扉（H=1200　W=3.0m）　S=1:20

立面図　S=1:20





（　）内は芯径を示す．

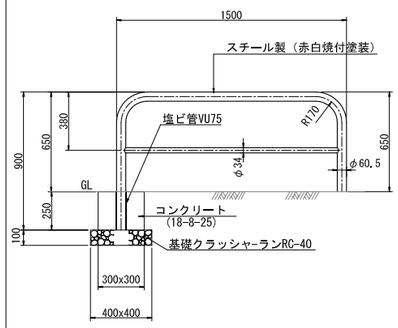
備考（外装について）

・主柱、ジョイント、押え金具
・ワイヤメッシュ
・バ　ン　ド
・ボルト、ナット類

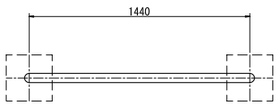
（門扉）
・門柱、枠体、ジョイント、バンド
・ワイヤメッシュ
・U型金具
・ボルト、ナット類

ガードポール（1）　S=1:20

立面図

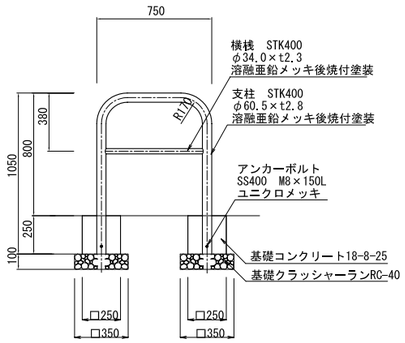


平面図

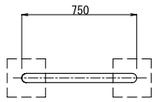


ガードポール（2）　S=1:20

立面図

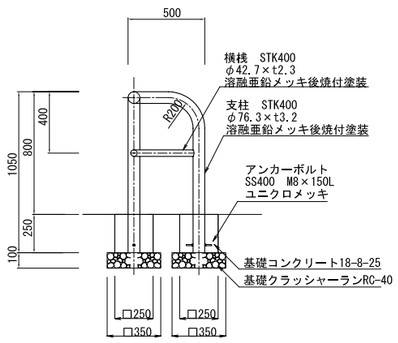


平面図

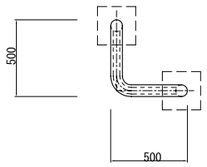


ガードポール（3）　S=1:20

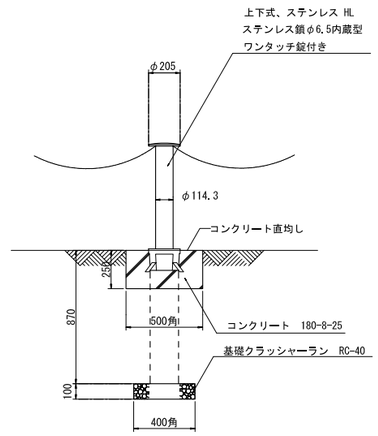
立面図



平面図



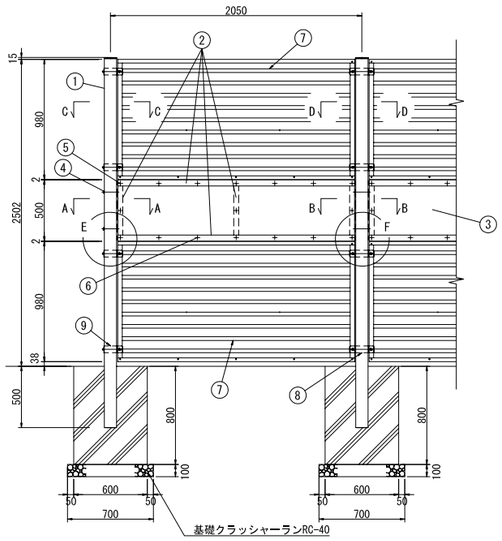
車止め（バリカー）　S=1:20



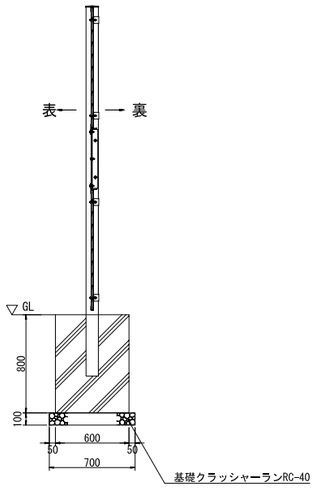
安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第129267号　高田　茂	新潟市建築部公共建築第１課	工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎　庁舎棟　建設　工　事	施設構造図-2 年月日 2012.11　縮尺 図示　図面番号 G-11

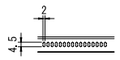
水避フェンス（H=1200）　S=1:25

立面図

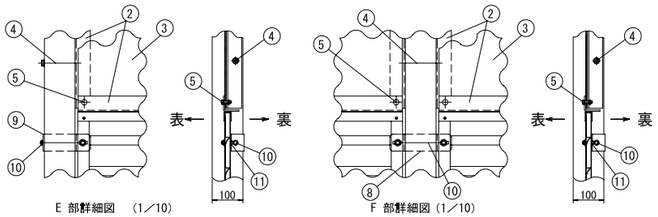


側面図

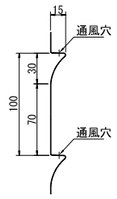




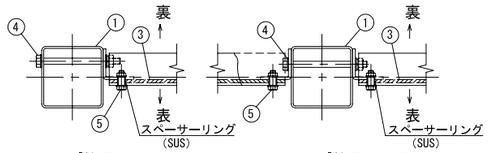
通風穴詳細図（1／3）



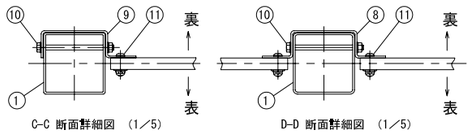
E 部詳細図　(1／10)　　F 部詳細図（1／10）



めかくし塀V型面材断面詳細図（1／3）



A-A 断面詳細図　(1／5)　　B-B 断面詳細図　(1／5)



C-C 断面詳細図　(1／5)　　D-D 断面詳細図　(1／5)

※設計強度は平成12年改正の建築基準法施行令第87条の風圧力による。
（　設計風速：30m／sec　、　地表面粗度区分Ⅱの条件と仮定する　）
※採光パネルは現地組立とする。

部番	部　材　名	形格（mm）	材　質	摘　要
1	支柱	□100×100×t3.2	STKR400	亜鉛めっき+静電粉体塗装
2	縦　横　枠	L50×50×ｔ4.5	SGH	亜鉛めっき+静電粉体塗装
3	目　隠　板	ｔ5.0	ﾎﾟﾘｶｰﾎﾞﾈｰﾄ	
4	取付ボルト	M10×130	4.6相当	亜鉛めっき＋焼付塗装
5	取付ボルト	M8×30（U-ナット）	4.6相当	亜鉛めっき＋焼付塗装
6	取付ボルト	M8×25（U-ナット）	4.6相当	亜鉛めっき＋焼付塗装
7	V型#1000パネル	面材：t0.5／枠：t1.6	SGH	亜鉛めっき+静電粉体塗装
8	固定金具	ｔ3.2	SGH	亜鉛めっき+静電粉体塗装
9	固定端末金具	ｔ3.2	SGH	亜鉛めっき+静電粉体塗装
10	取付ボルト	M8×120	4.6相当	亜鉛めっき＋焼付塗装
11	角根丸頭ボルト	M8×35	4.6相当	亜鉛めっき＋焼付塗装

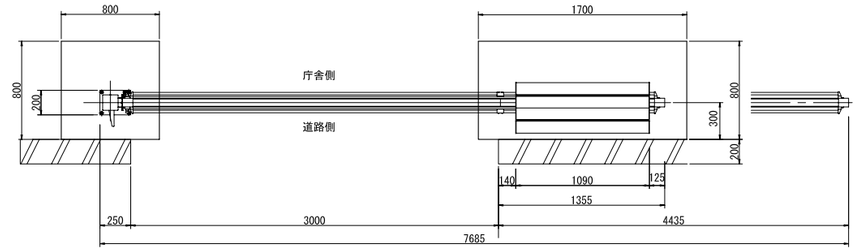
※ ポリカーボネート板の仕様は事前打合せを行うものとする。

特記事項

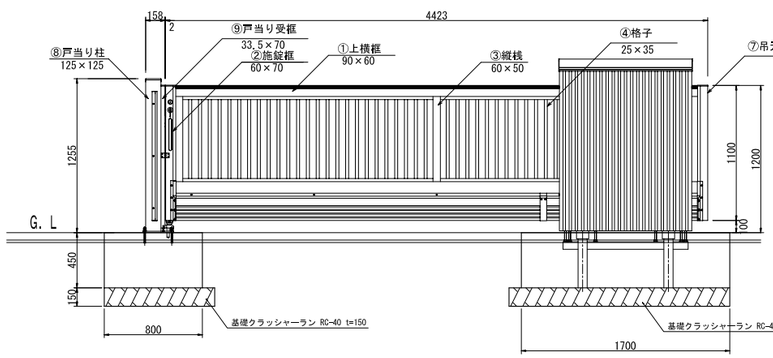
1	ボルト類は塗装
2	ポリカ縦枠固定穴トク

門扉詳細図　S=1：25

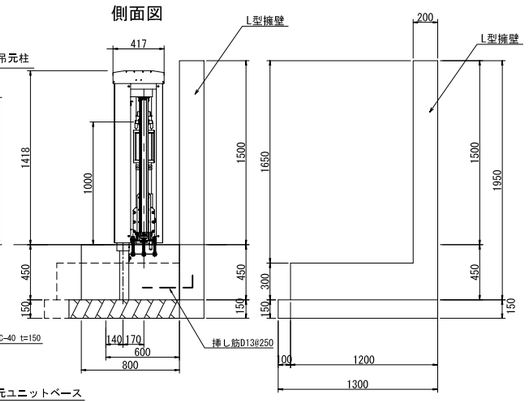
平面図



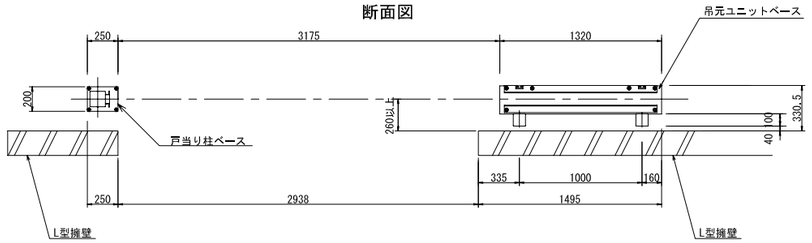
立面図



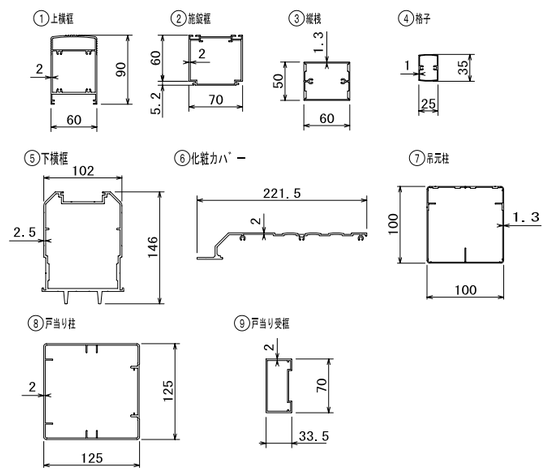
側面図



断面図



主要部材断面図



ボルト・ナット類	ステンレス（SUS）
⑨ 戸当り受框	アルミ押出形材（A6063S）陽極酸化・塗装複合皮膜
⑧ 戸当り柱	アルミ押出形材（A6063S）陽極酸化・塗装複合皮膜
⑦ 吊元柱	アルミ押出形材（A6063S）陽極酸化・塗装複合皮膜
⑥ 化粧カバー	アルミ押出形材（A6063S）陽極酸化・塗装複合皮膜
⑤ 下横框	アルミ押出形材（A6063S）陽極酸化・塗装複合皮膜
④ 格子	アルミ押出形材（A6063S）陽極酸化・塗装複合皮膜
③ 縦桟	アルミ押出形材（A6063S）陽極酸化・塗装複合皮膜
② 施錠框	アルミ押出形材（A6063S）陽極酸化・塗装複合皮膜
① 上横框	アルミ押出形材（A6063S）陽極酸化・塗装複合皮膜

安井・太陽設計共同体
管理建築士一級建築士第129267号　高田　茂

新潟市建築部公共建築第１課

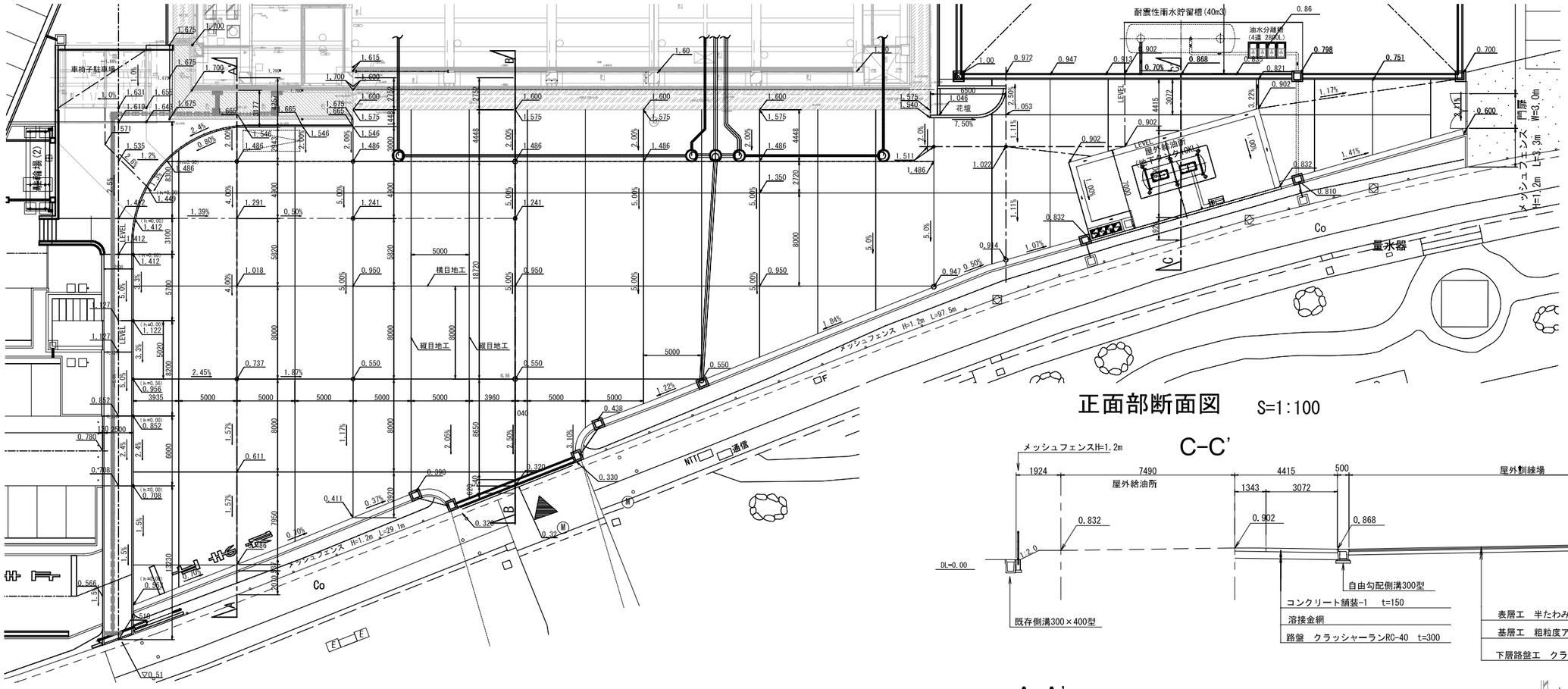
工事名
新潟市消防局・中央消防署庁舎　庁舎棟　建設　工　事

施設構造図-3

年月日	縮尺	図面番号
2012.11	図示	G-12

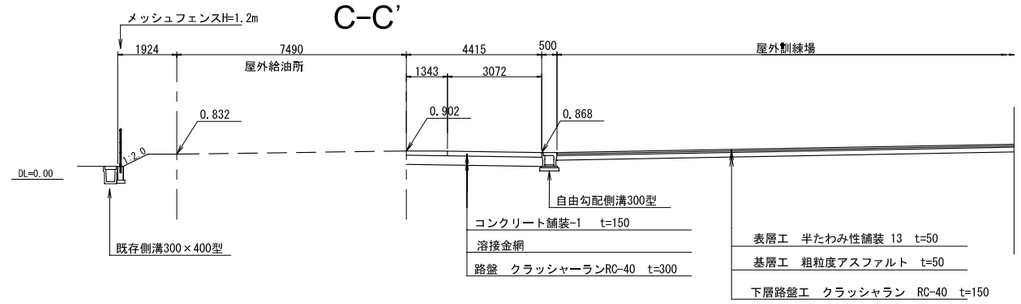
庁舎棟正面部詳細図

平 面 図 S=1:200

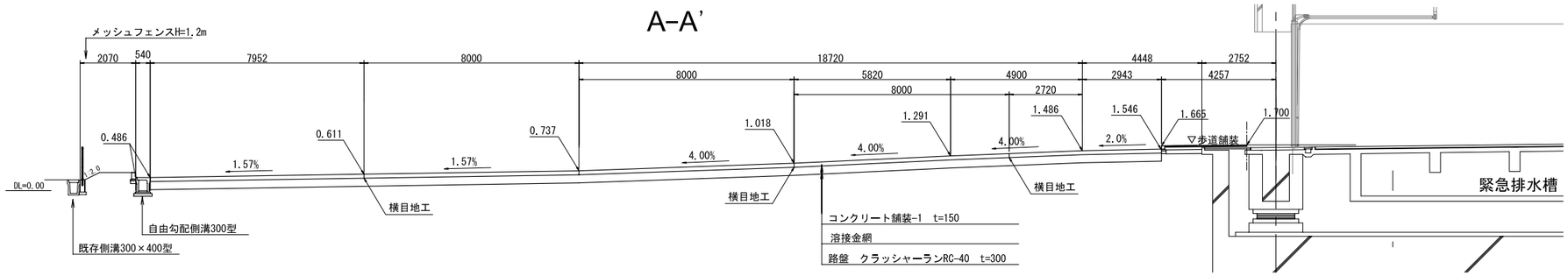


正面部断面図 S=1:100

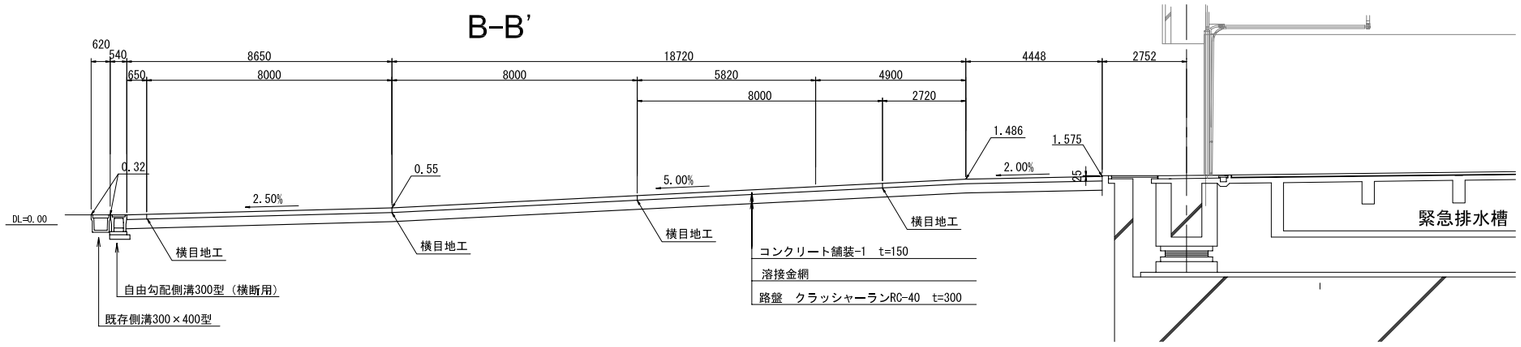
C-C'



A-A'



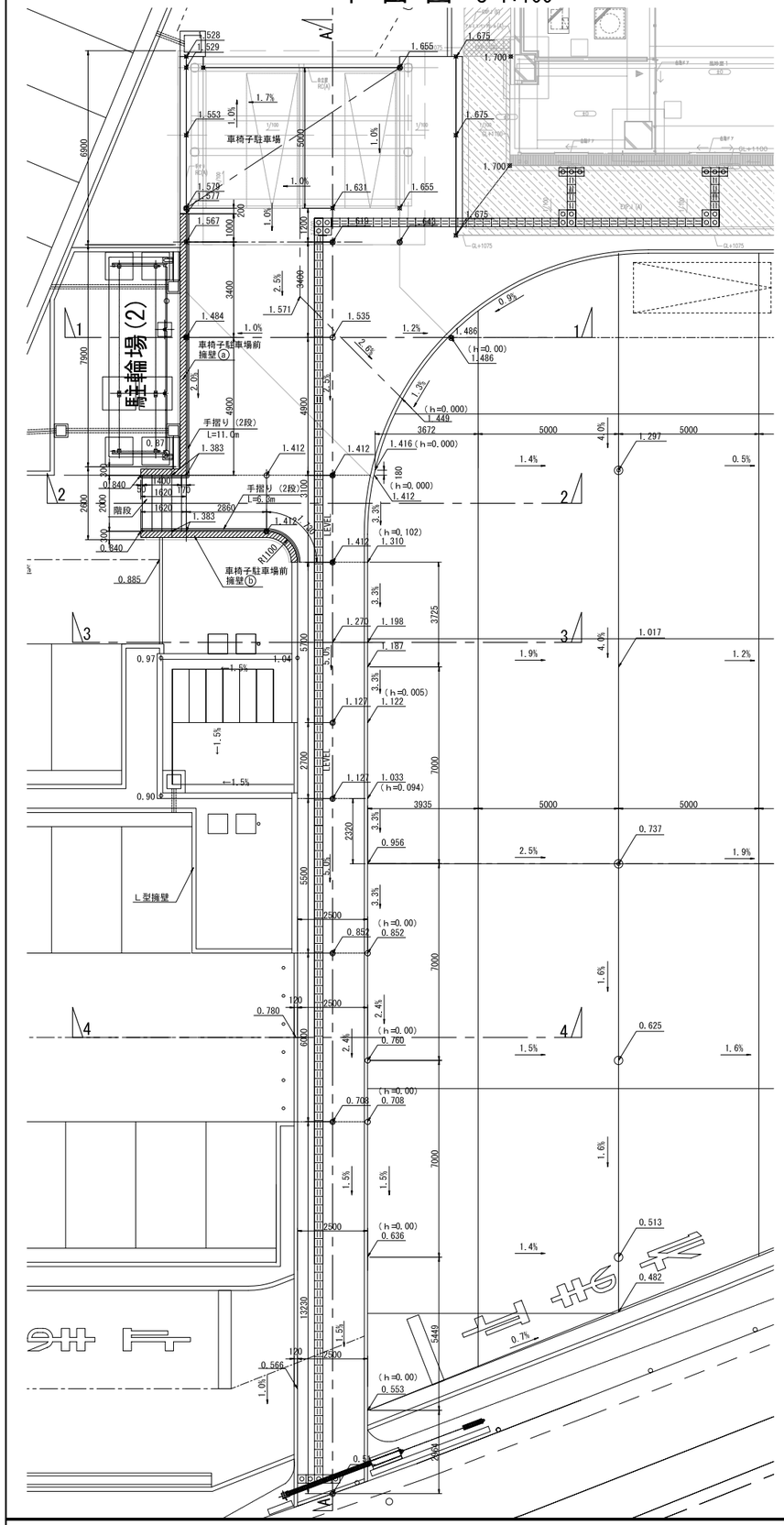
B-B'



安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第129267号 高田 茂	新潟市建築部公共建築第１課	工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟 建設 工 事	庁舎棟正面部詳細図	
		年月日 2012.11	縮尺 S=1:300(A1),1:600(A3)	図面番号 G-13

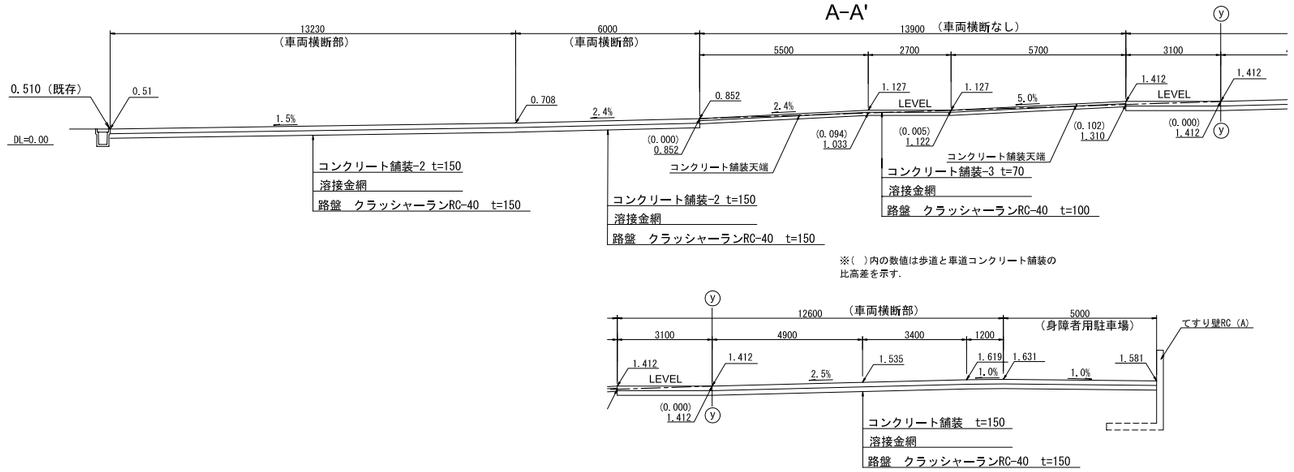
入口歩道部詳細図

平 面 図 S=1:100



歩道縦断面図 S=1:100

A-A'

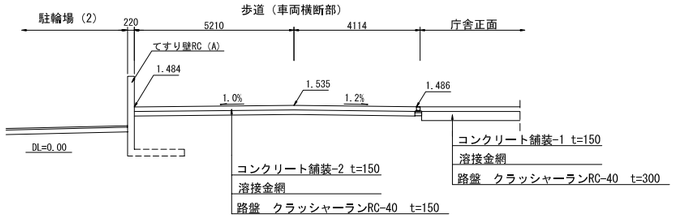


※( )内の数値は歩道と車道コンクリート舗装の比高差を示す.

歩道横断面図 S=1:100

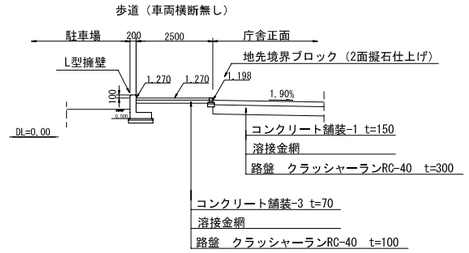
1-1

歩道 (車両横断部)



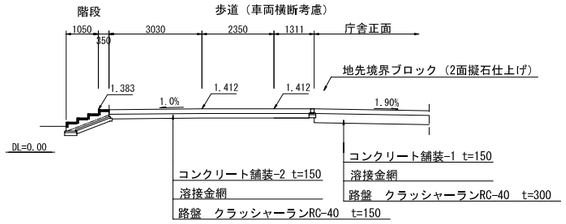
3-3

歩道 (車両横断無し)



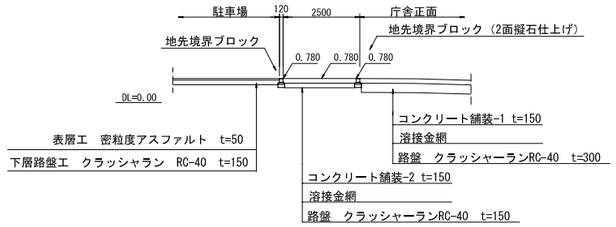
2-2

歩道 (車両横断考慮)



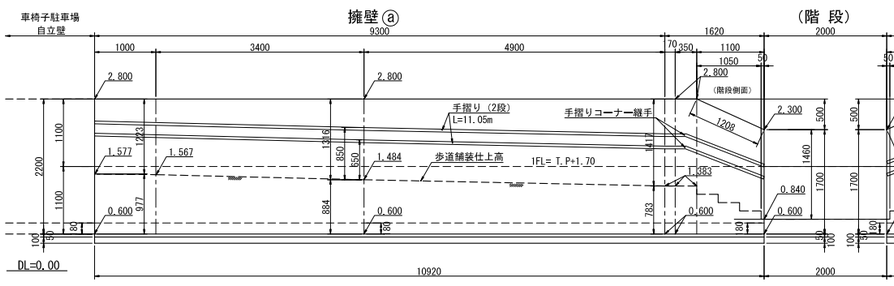
4-4

歩道 (車両横断部)

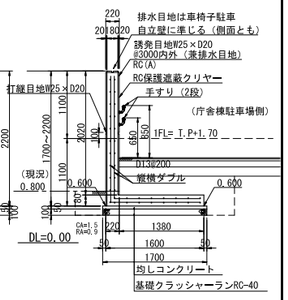


車椅子駐車場前擁壁

展開図 S=1:50



断面図 S=1:50



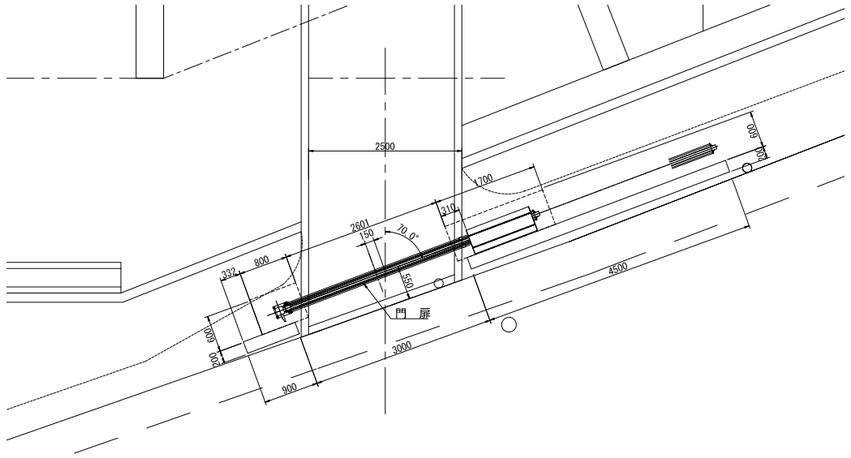
※1.目標地耐力 50kN/m2 (長期)
※2.建築擁壁図面も参照のこと

安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第129267号 高田 茂	新潟市建築部公共建築第１課	工 事 名 新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟 建設 工 事	入口歩道部詳細図		
			年 月 日 2012.11	縮 尺 図示	図面番号 G-14

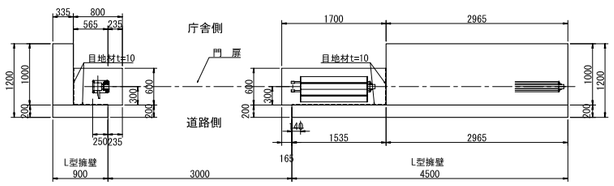
庁舎棟正面部擁壁詳細図

来庁舎入口門扉擁壁詳細図 S=1:50

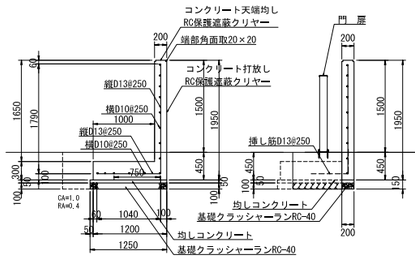
位 置 図



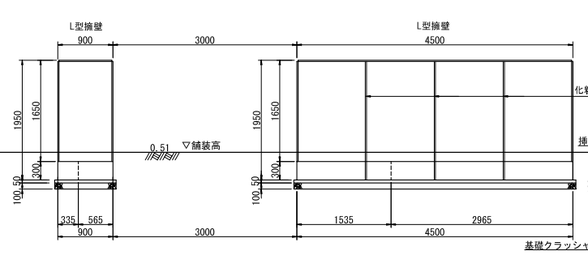
平 面 図 S=1:50



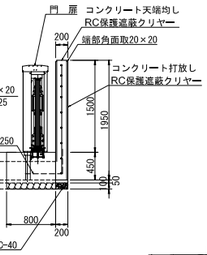
断 面 図 S=1:50



立 面 図 S=1:50

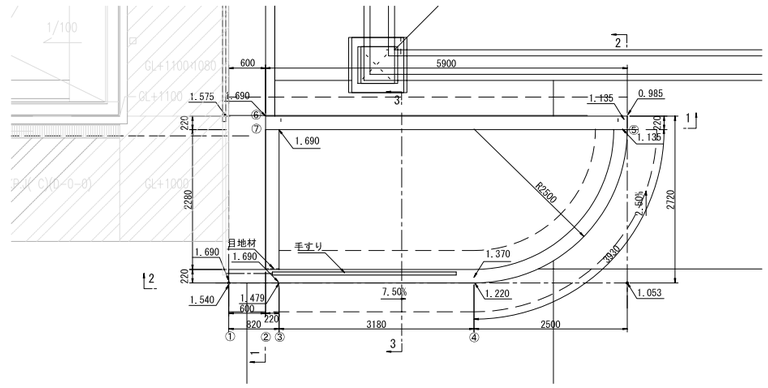


断 面 図 S=1:50

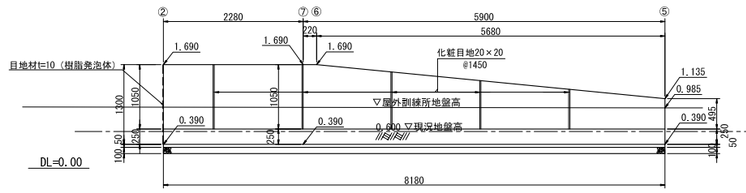


花壇擁壁詳細図 S=1:50

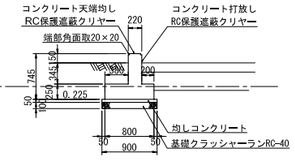
平 面 図



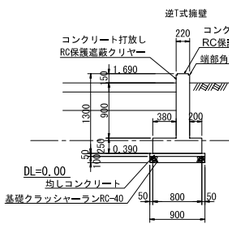
立 面 図 S=1:50
(1-1)



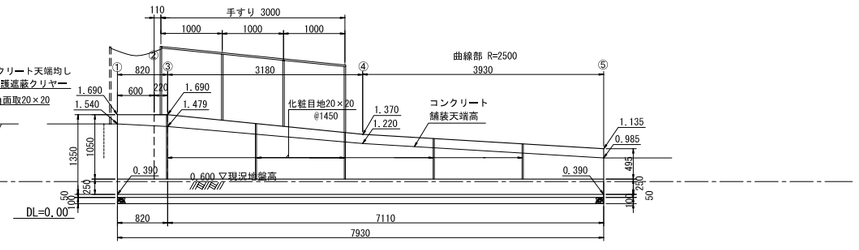
断 面 図 S=1:50



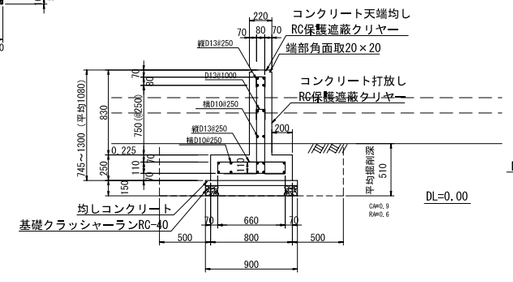
断 面 図 S=1:50



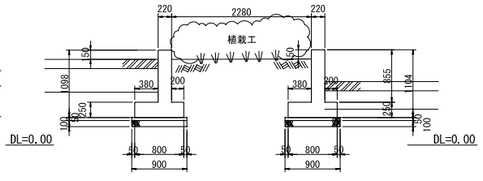
立 面 図 S=1:50
(2-2)



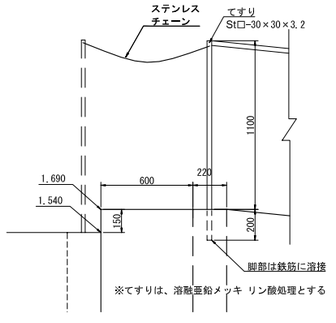
擁壁標準断面図 S=1:30



断 面 図 S=1:50
(3-3)



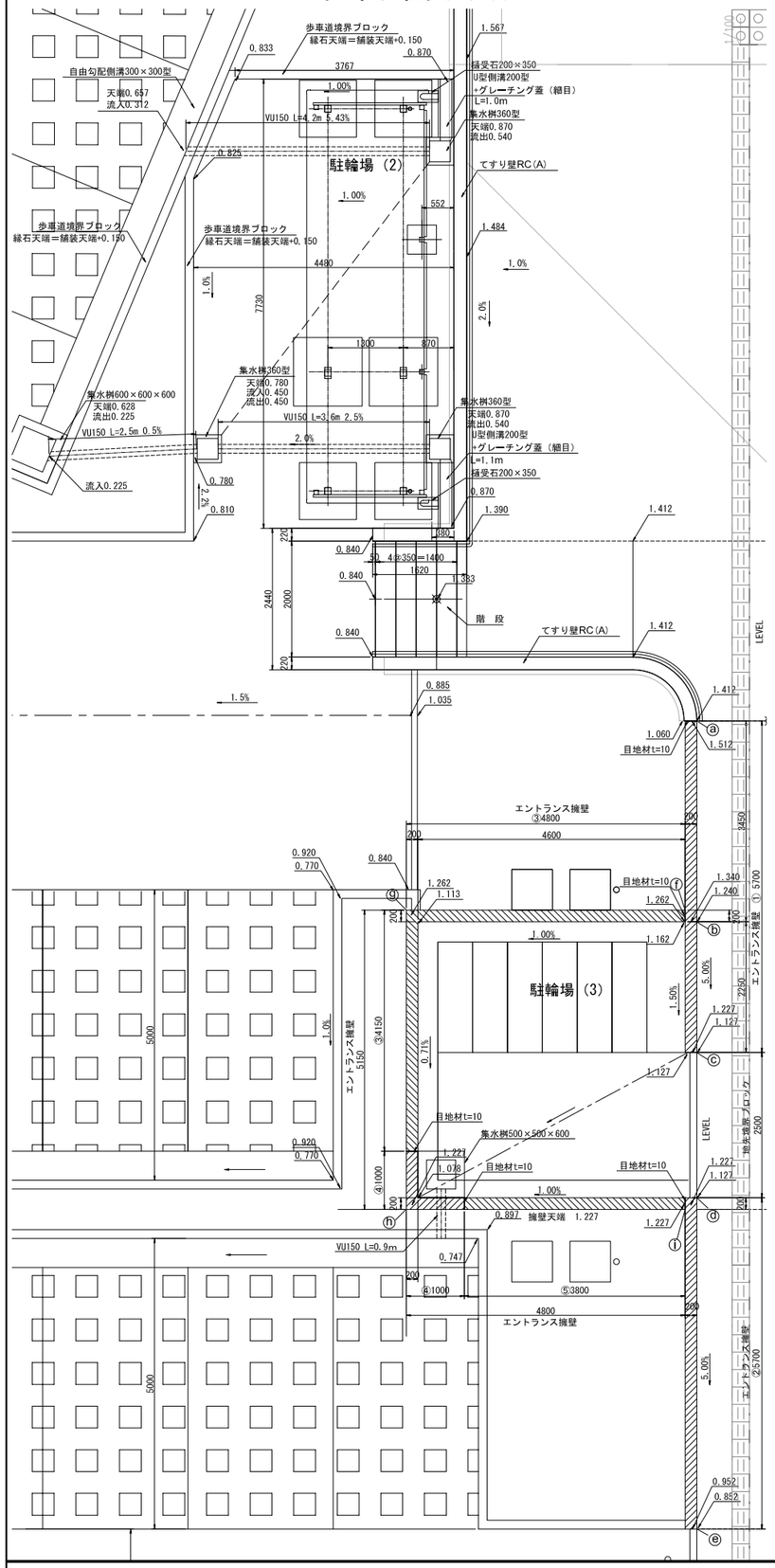
手摺り端部詳細図 S=1:20



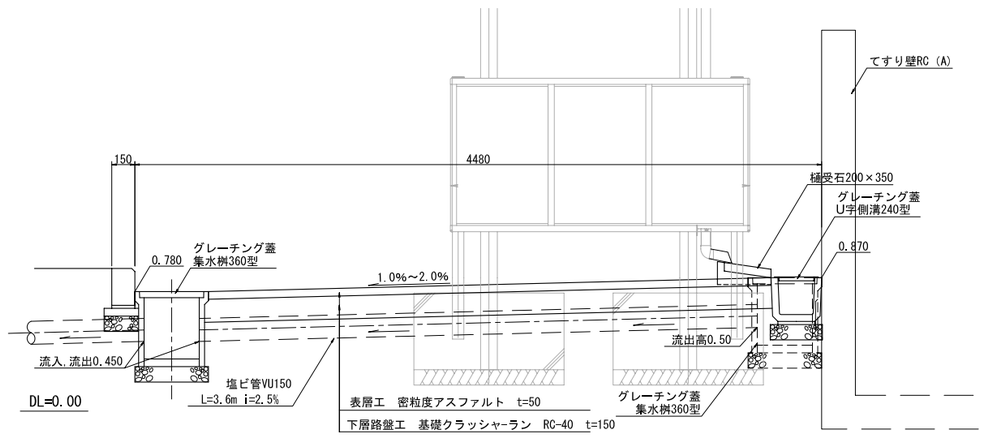
安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第129267号 高田 茂	新潟市建築部公共建築第１課	工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟 建設 工 事	庁舎棟正面部擁壁詳細図 年月日 2012.11　縮尺 図示　図面番号 G-15

駐輪場(2)駐輪場(3)周辺詳細図

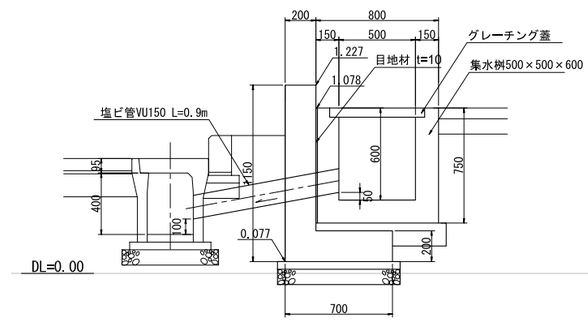
平 面 図 S=1:50



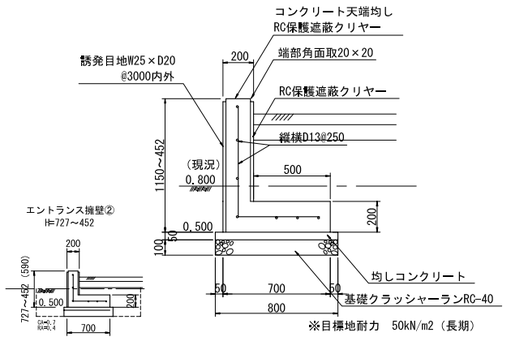
駐輪場 (2) 断面図 S=1:20



駐輪場 (3) 排水詳細図 S=1:20

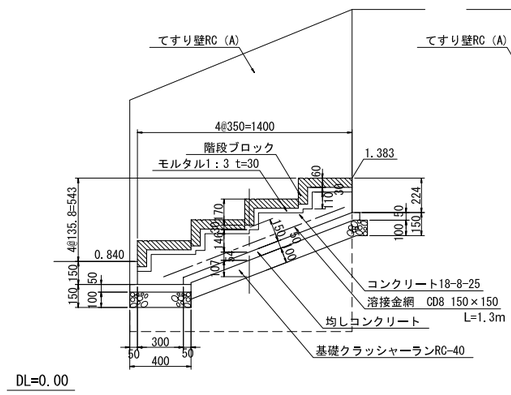


L型擁壁断面図 S=1:20

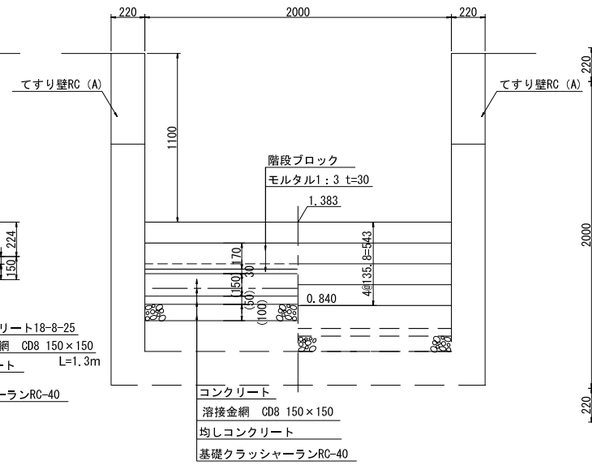


階段詳細図 S=1:20

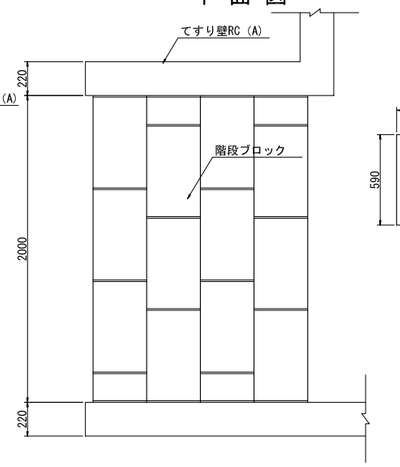
断 面 図



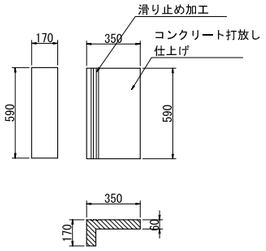
立 面 図



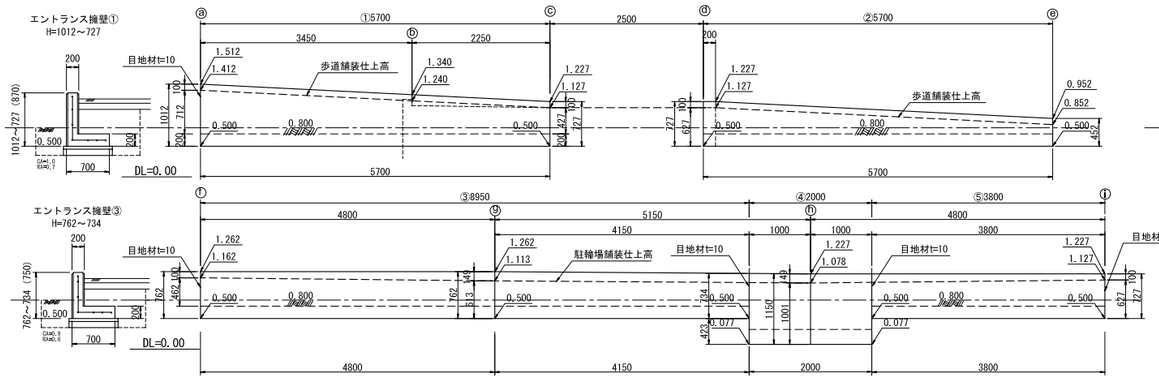
平 面 図

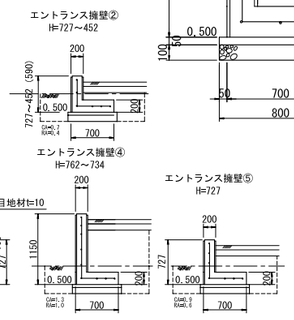


階段ブロック



エントランス擁壁展開図 S=1:50



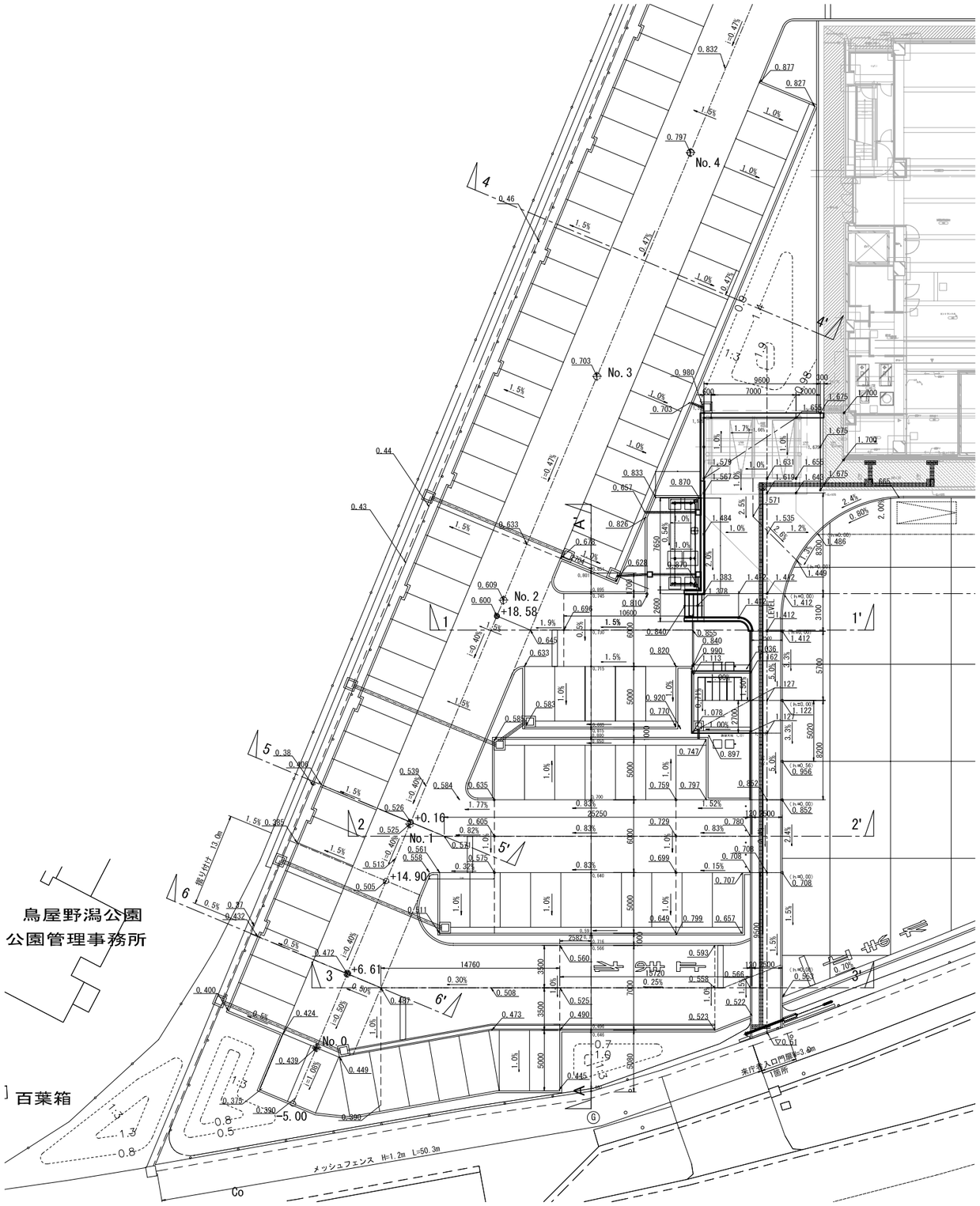


※1.（ ）は平均高さを示す。
※2.目地材（膨張収縮目地）は、樹脂発泡体目地板を用いる。

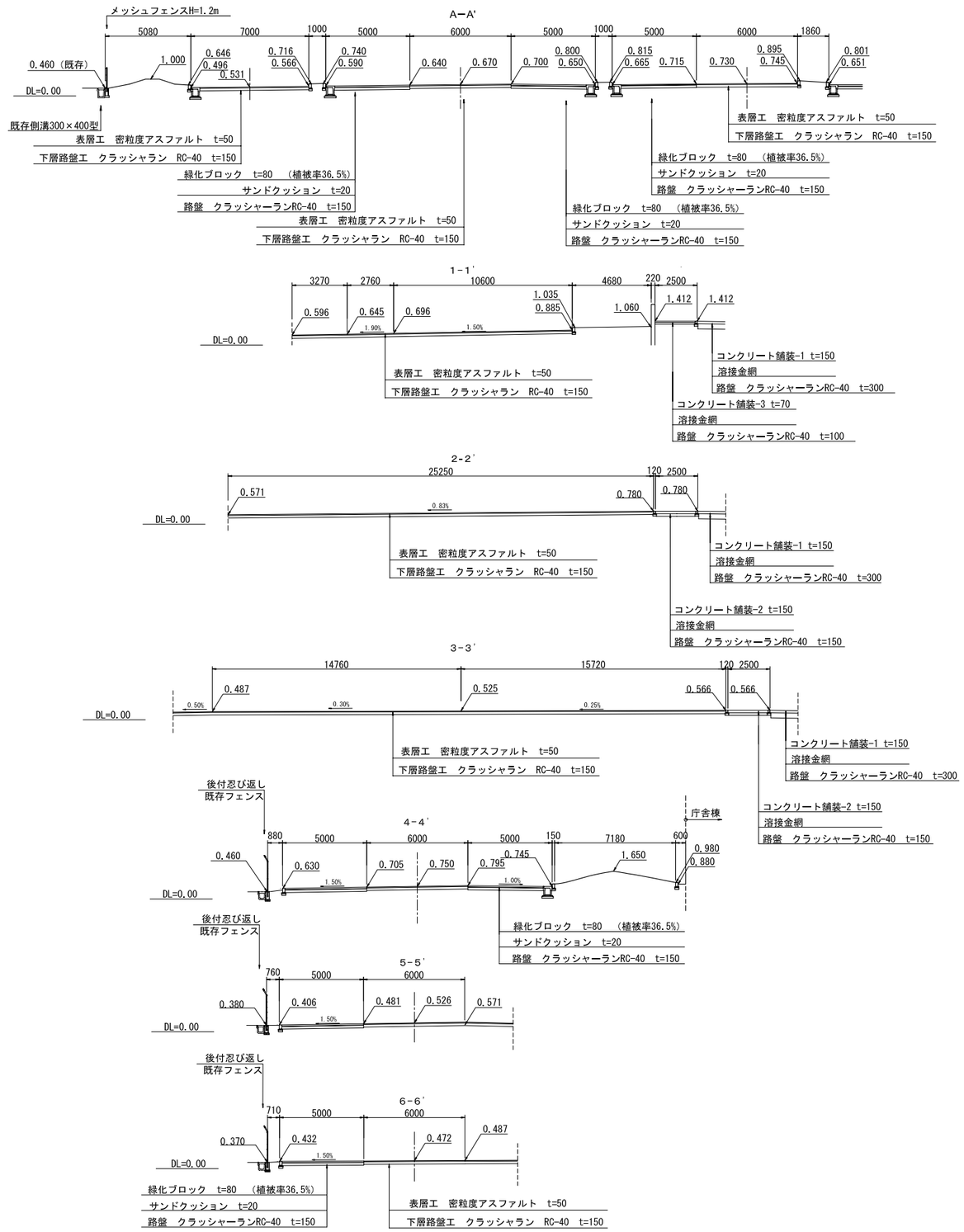
安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第129267号 高田 茂	新潟市建築部公共建築第１課	工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟 建設 工 事	駐輪場(2)(3)周辺詳細図
		年月日 2012.11 / 縮尺 図示	図面番号 G-16

西駐車場部詳細図

平 面 図　S=1:200



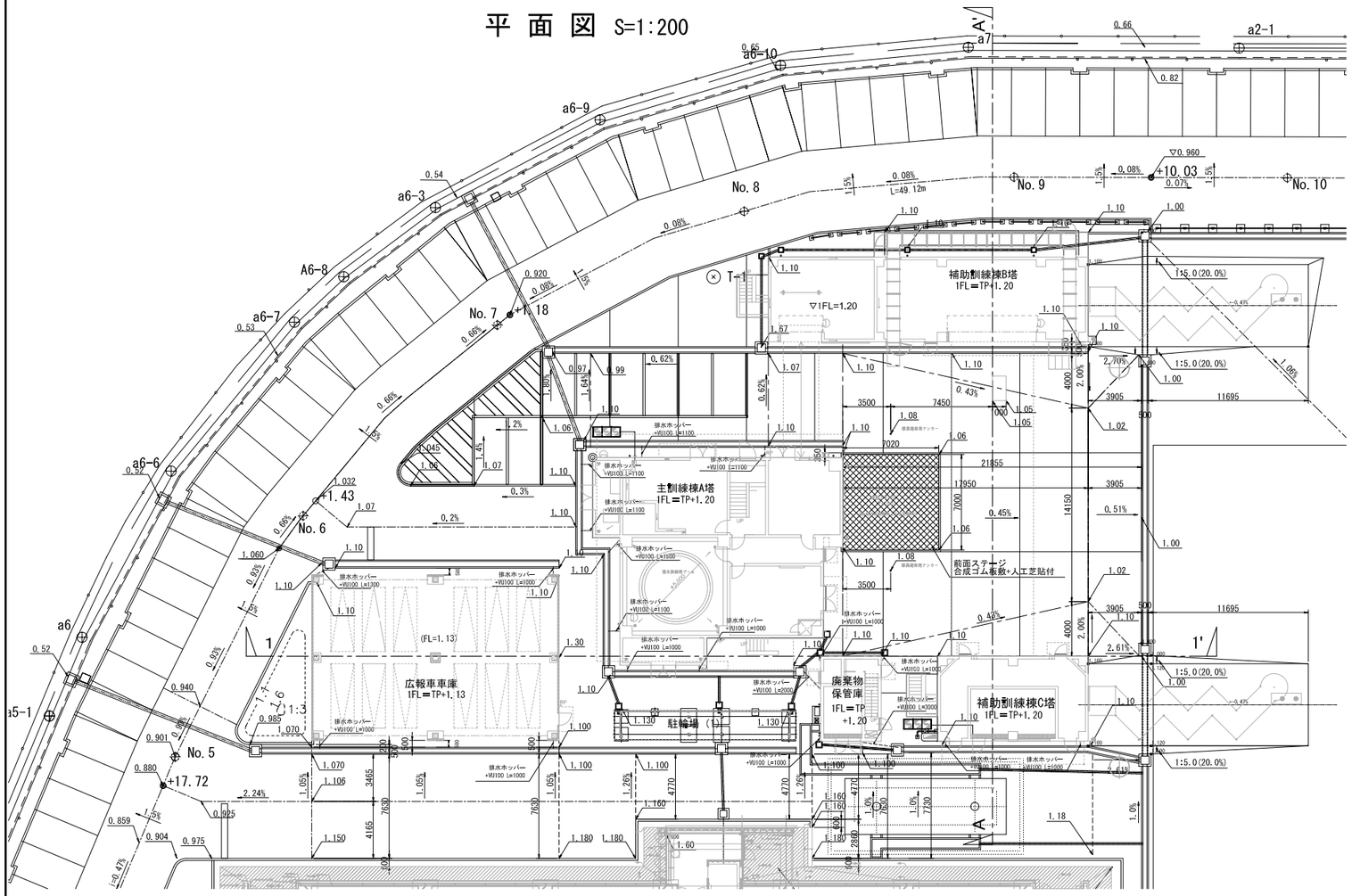
断 面 図　S=1:150



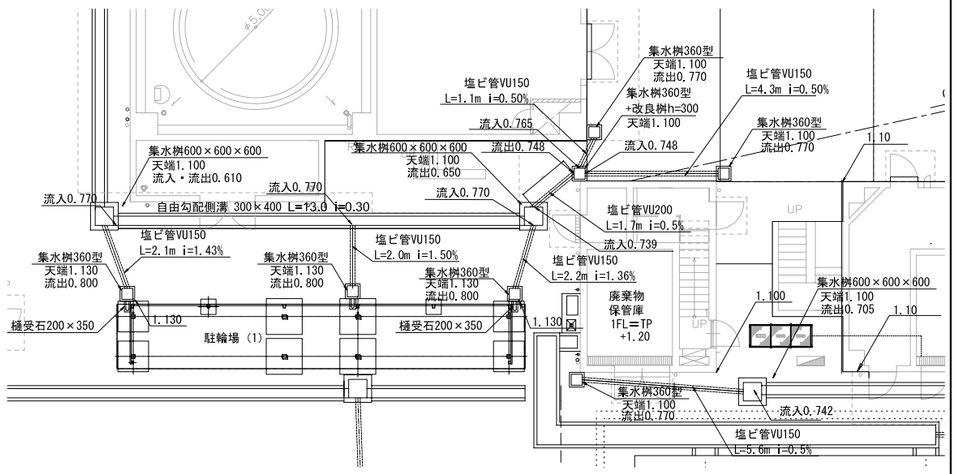
安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第129267号　高田　茂	新潟市建築部公共建築第１課	工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎　庁舎棟　建設　工　事	西駐車場部詳細図 年月日 2012.11　縮尺 図示　図面番号 G-17

訓練棟周辺部詳細図

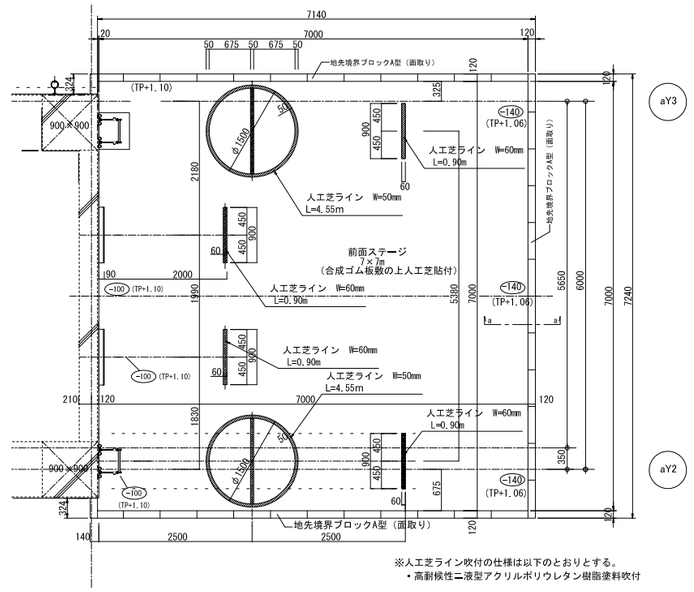
平 面 図 S=1:200



駐輪場（1）周辺平面図 S=1:100



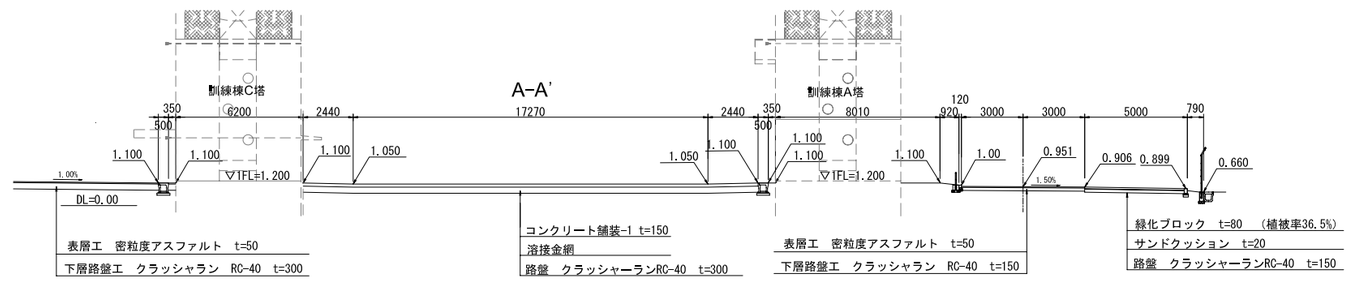
前面ステージ平面詳細図 S=1:50

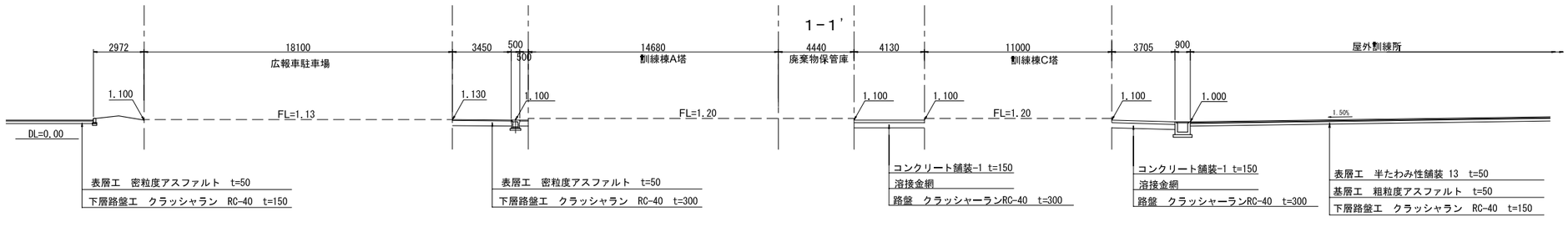


数量集計表
コンクリート人工芝舗装 A=7.00×7.00=49.0m2
地先境界ブロックA型（面取り） L=（0.32+7.14）×2+7.000=21.9m
人工芝ライン W=50mm A=0.05×4.55×2=0.46m2 W=60mm A=0.06×0.90×4=0.22m2 合計 A=0.68m2

※人工芝ライン吹付の仕様は以下のとおりとする。
・高耐候性二液型アクリルポリウレタン樹脂塗料吹付

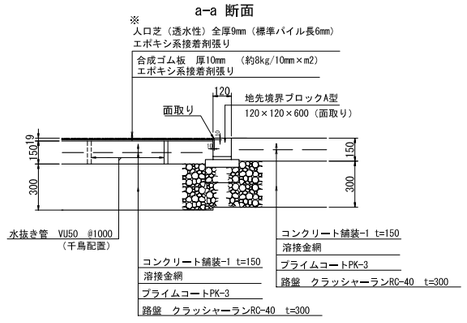
訓練棟周辺部断面図 S=1:150





前面ステージ舗装詳細図 S=1:20

a-a 断面

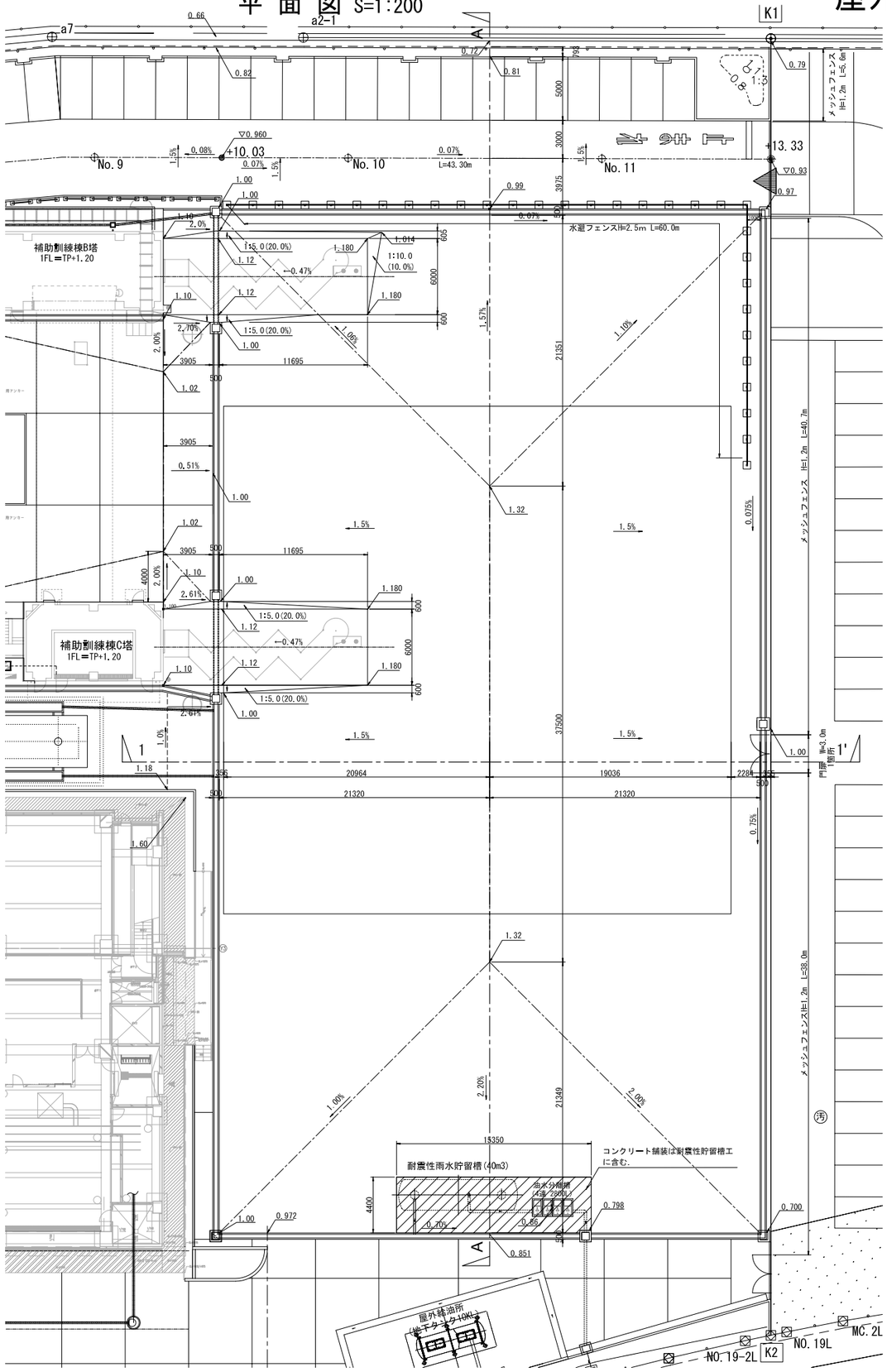


※ 人工芝（透水性）
製品仕様は以下のとおりである。
・主材：ナイロン/カール糸タイプ
・架台：ポリ塩化ビニール
・標準全厚9mm（標準パイル長6mm）
・防炎物品

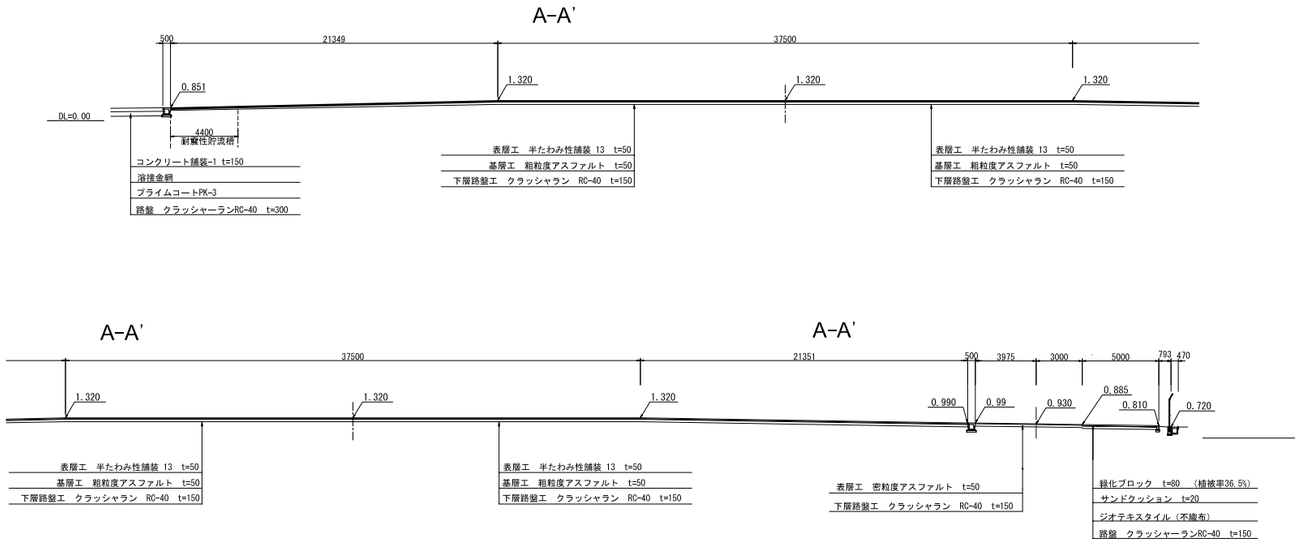
安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第129267号 高田 茂	新潟市建築部公共建築第１課	工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟 建設 工 事	訓練棟周辺部詳細図	
		年月日 2012.11	縮尺 図示	図面番号 G-18

屋外訓練場詳細図

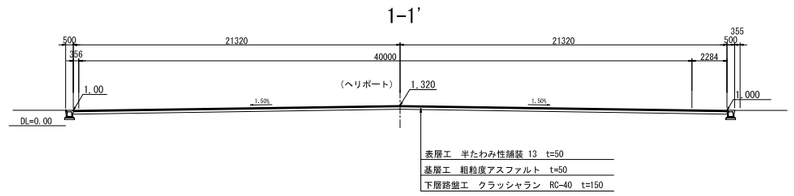
平 面 図 S=1:200



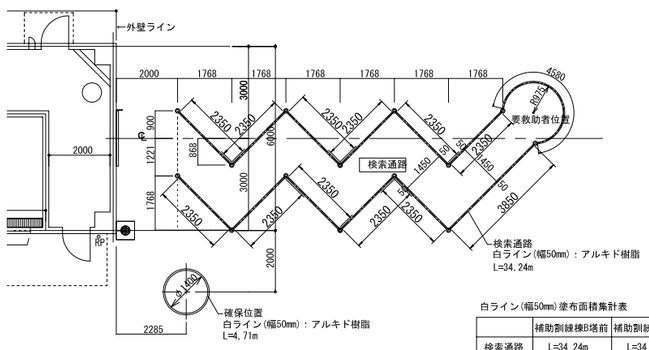
縦断面図 S=1:200



横断面図 S=1:200



訓練用路面表示詳細図 S=:100



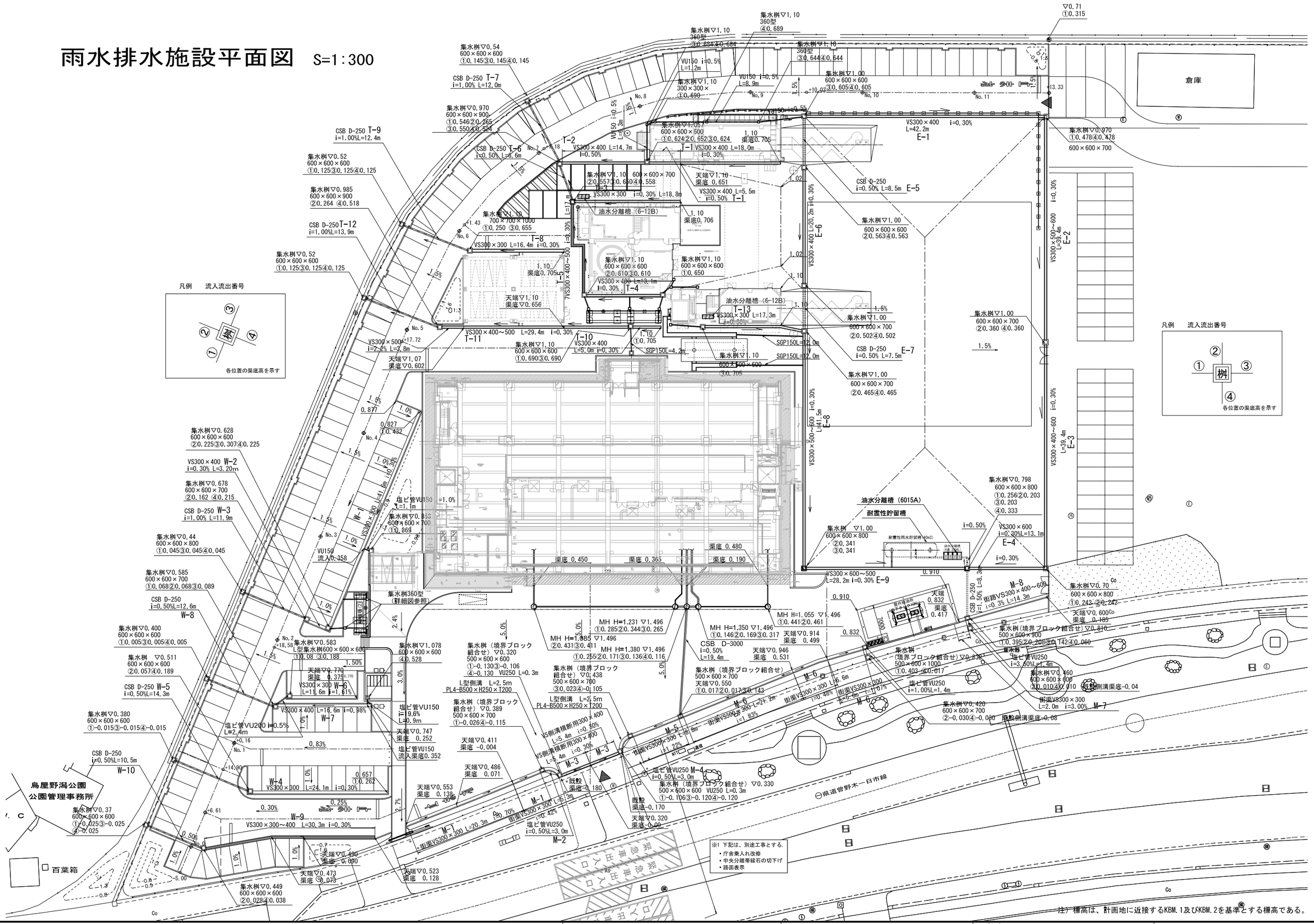
白ライン(幅50mm)塗布面積集計表

	補助訓練棟B塔前	補助訓練棟C塔前	計
検索通路	L=34.24m	L=34.24m	L=68.48m
確保位置	L=4.71m	L=4.71m	L= 9.42m
合 計			L=77.90m

※平面図は、補助訓練棟C塔前である。ライン形状はB塔、C塔同等である。

安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第129267号 高田 茂	新潟市建築部公共建築第１課	工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟 建設 工 事	屋外訓練場詳細図 年月日 2012.11 / 縮尺 図示 / 図面番号 G-19

雨水排水施設平面図　S=1:300

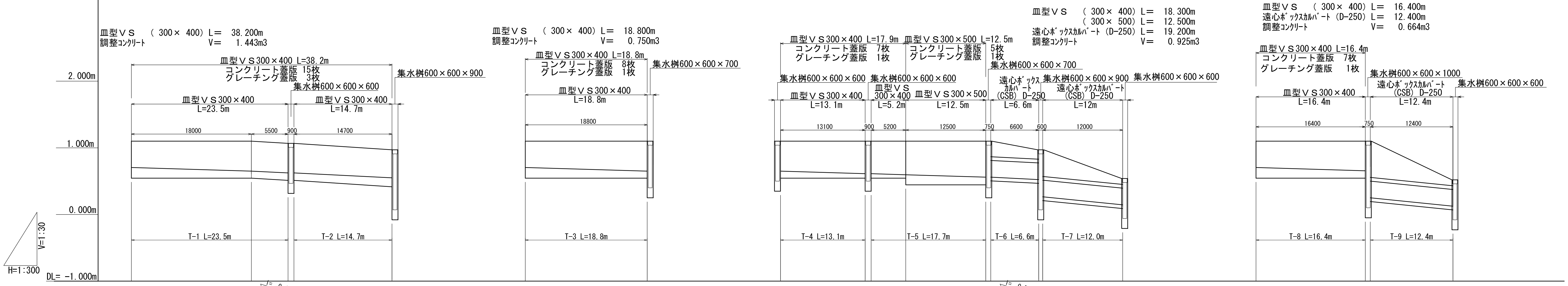


注）標高は、計画地に近接するKBM.1及びKBM.2を基準とする標高である。

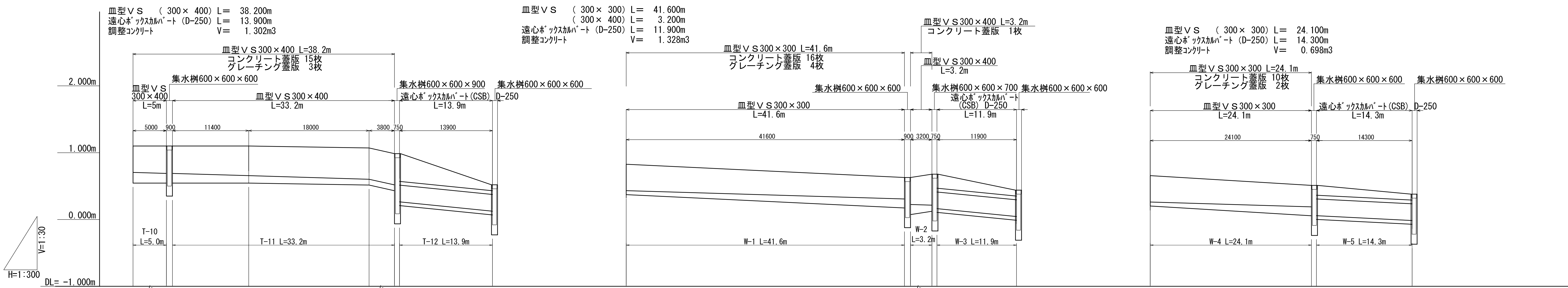
安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第129267号　高田　茂	新潟市建築部公共建築第１課	工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎　庁舎棟　建設　工　事	雨水排水施設平面図
		年月日 2012.11 / 縮尺 S=1:300(A1), 1:600(A3)	図面番号 G-20

雨水排水施設展開図-1 V=1:30 H=1:300

自由勾配側溝　縦断展開図（１）



	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
水路底勾配	0.705	0.651	0.624 / 0.624	0.550	0.706	0.650	0.651	0.612 / 0.612		0.557 / 0.557	0.524 / 0.265	0.145	0.705	0.655 / 0.250	0.125
勾配	i= 0.3% L= 18.000m	i= 0.491% L= 5.500m	i= 0.503% L= 14.700m		i= 0.300% L= 18.800m		i= 0.300% L= 13.100m	i= 0.300% L= 17.700m		i= 0.5% L= 6.600m	i= 1.00% L= 12.000m		i= 0.305% L= 16.400m	i= 1.008% L= 12.400m	
調整コンクリート量(m3)	0.000	0.718	0.180	0.545	0.000	0.750	0.000	0.340	0.092	0.493			0.000	0.664	
調整コンクリート厚(m)	0.160	0.106	0.112 / 0.112	0.135	0.161	0.105	0.106	0.067 / 0.067	0.051 / 0.151	0.112			0.160	0.110	
側溝天端高	1.100	1.100	1.067 / 1.067	0.970	1.100	1.100	1.100	1.100 / 1.100	1.100	1.100 / 1.100	0.970 / 0.970	0.540	1.100	1.100 / 1.100	0.520
側溝管底高	0.705	0.651	0.624 / 0.624	0.550	0.705	0.650	0.651	0.612 / 0.612	0.596	0.557 / 0.557	0.524 / 0.265	0.145	0.705	0.655 / 0.250	0.125
追加距離	0.000	18.000	23.500 / 24.400	39.100	0.000	18.800	0.000	13.100 / 14.000	19.200	31.700 / 32.450	39.650 / 40.250	52.250	0.000	16.400 / 17.150	29.550
単距離	0.000	18.000	5.500 / 0.900	14.700	0.000	18.800	0.000	13.100 / 0.900	5.200	12.500 / 0.750	7.200 / 0.600	12.000	0.000	16.400 / 0.750	12.400



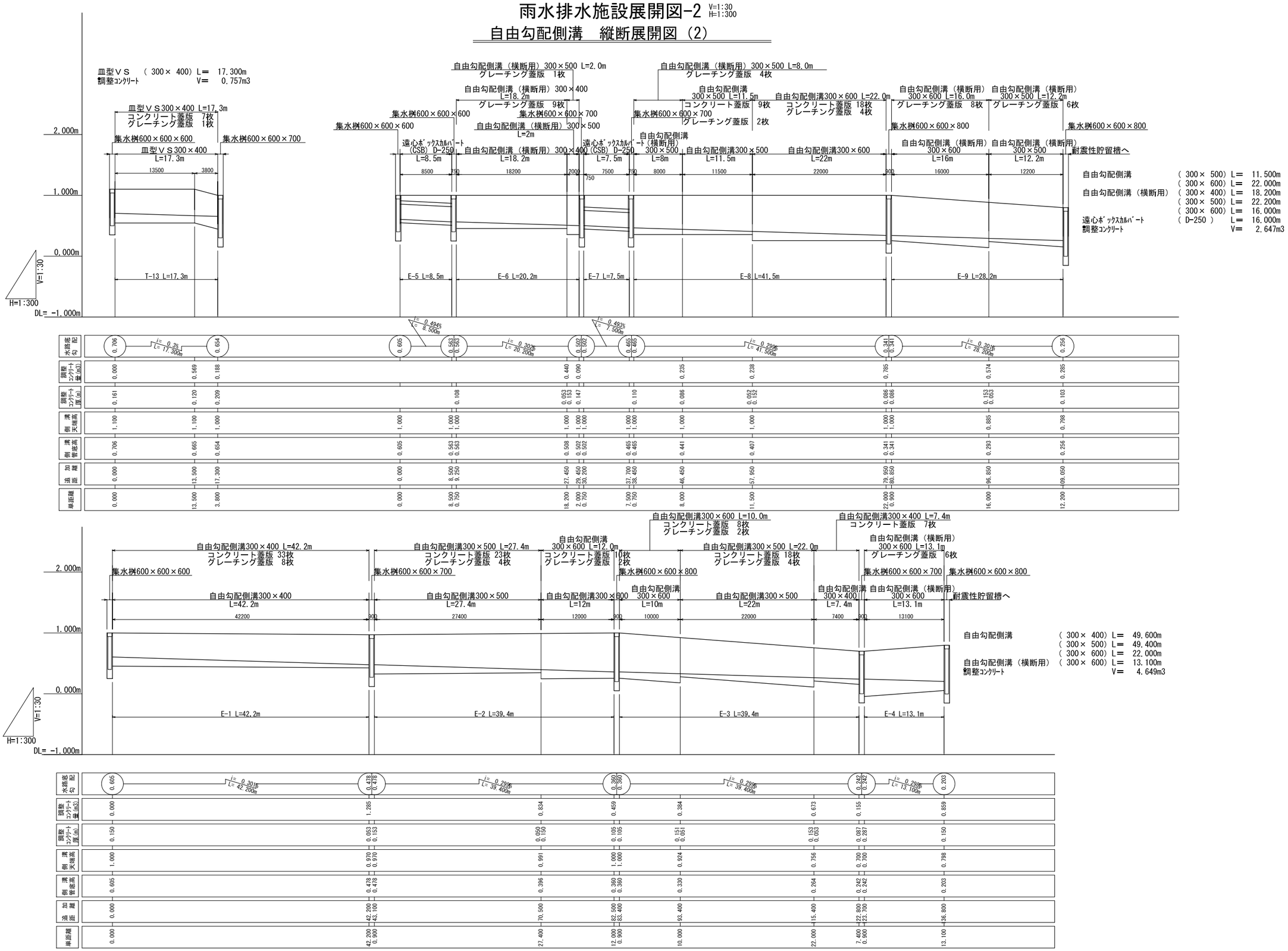
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
水路底勾配	0.705	0.690 / 0.690		0.602	0.518 / 0.264	0.125	0.432	0.307 / 0.225	0.215 / 0.162	0.045	0.262	0.189 / 0.057	-0.015
勾配	i= 0.3% L= 5.000m	i= 0.299% L= 29.400m		i= 2.211% L= 3.800m	i= 1% L= 13.900m		i= 0.3% L= 41.600m	i= 0.312% L= 3.200m	i= 0.983% L= 11.900m		i= 0.303% L= 24.100m	i= 0.503% L= 14.300m	
調整コンクリート量(m3)	0.000	0.229	0.438	0.535	0.100		0.000	1.211	0.117		0.000	0.698	
調整コンクリート厚(m)	0.160	0.145 / 0.145	0.111	0.087	0.088		0.060	0.134 / 0.152	0.092		0.060	0.133	
側溝天端高	1.100	1.100 / 1.100	1.100	1.070	0.985 / 0.985	0.520	0.827	0.628 / 0.628	0.678 / 0.678	0.440	0.657	0.511 / 0.511	0.380
側溝管底高	0.705	0.690 / 0.690	0.656	0.602	0.518 / 0.264	0.125	0.432	0.307 / 0.225	0.215 / 0.162	0.045	0.262	0.189 / 0.057	-0.015
追加距離	0.000	5.000 / 5.900	17.300	35.300	39.100 / 39.850	53.750	0.000	41.600 / 42.500	45.700 / 46.450	58.350	0.000	24.100 / 24.850	39.150
単距離	0.000	5.000 / 0.900	11.400	18.000	3.800 / 0.750	13.900	0.000	41.600 / 0.900	3.200 / 0.750	11.900	0.000	24.100 / 0.750	14.300

安井・太陽設計共同体
管理建築士一級建築士第129267号　高田　茂
新潟市建築部公共建築第１課
新潟市消防局・中央消防署庁舎　庁舎棟　建設 工 事
図名　雨水排水施設展開図-1
年月日　2012.11
縮尺　図示
図面番号　G-21

雨水排水施設展開図-2

V=1:30
H=1:300

自由勾配側溝　縦断展開図（2）



安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第129267号　高田　茂	新潟市建築部公共建築第１課	新潟市消防局・中央消防署庁舎　庁舎棟　建設　工　事	図名 雨水排水施設展開図-2	年月日 2012.11	縮尺 図示	図面番号 G-22

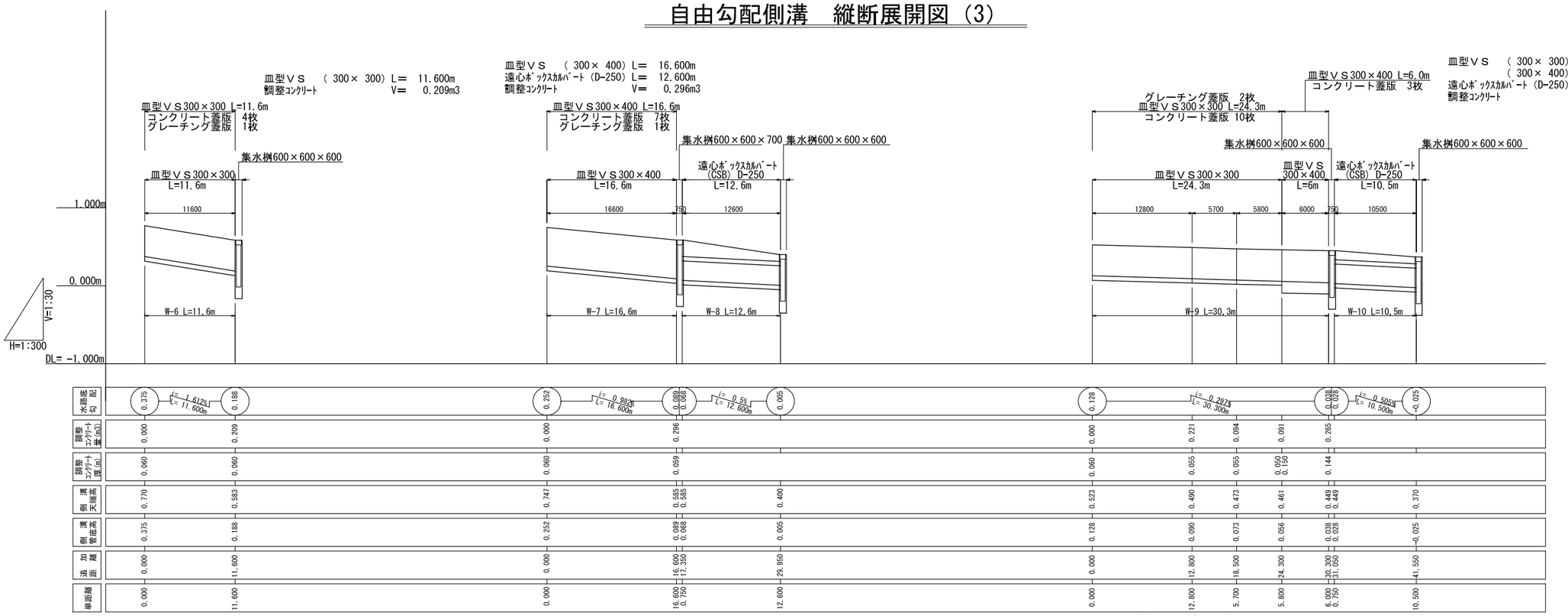
雨水排水施設展開図-3 V=1:30 H=1:300

自由勾配側溝　縦断展開図（3）

皿型ＶＳ　（ 300× 300）L=　11.600m
調整ｺﾝｸﾘｰﾄ　V=　0.209m3

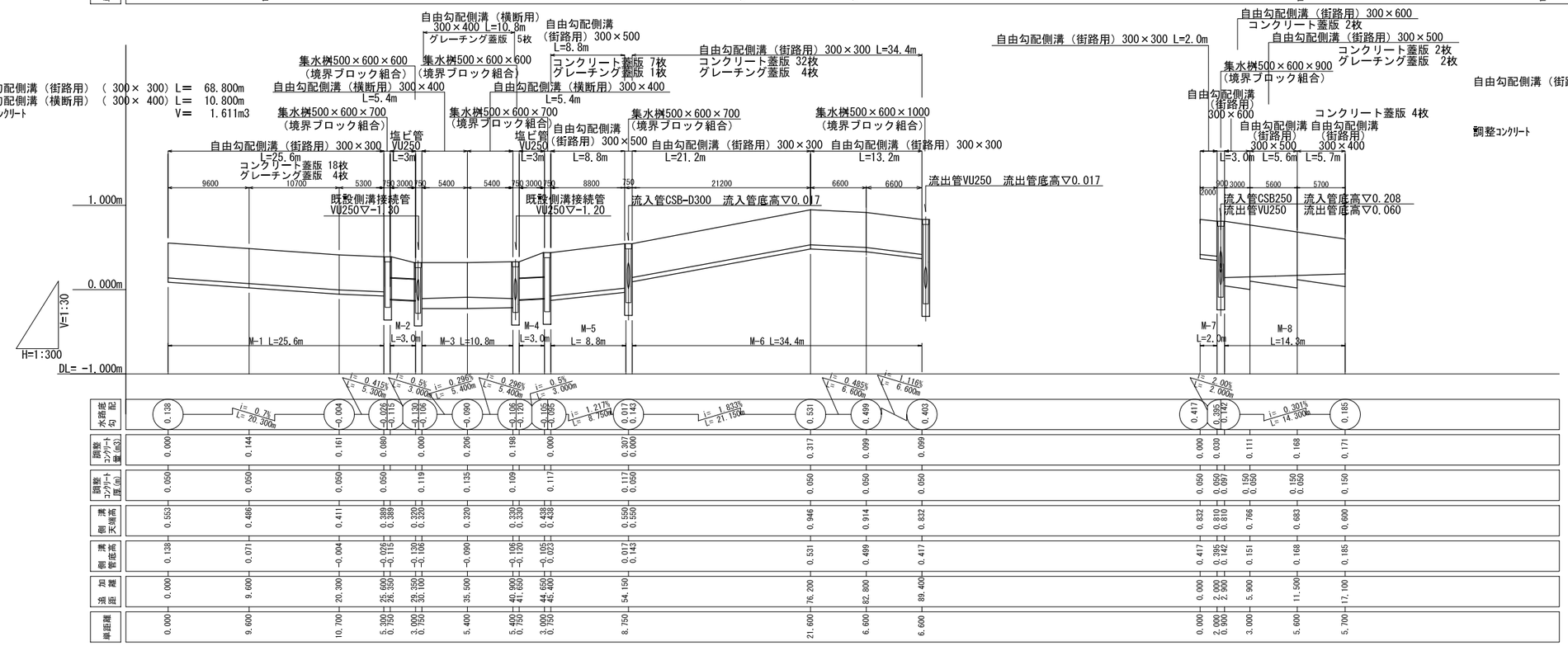
皿型ＶＳ　（ 300× 400）L=　16.600m
遠心ﾎﾞｯｸｽｶﾙﾊﾞｰﾄ（D-250）L=　12.600m
調整ｺﾝｸﾘｰﾄ　V=　0.296m3

皿型ＶＳ　（ 300× 300）L=　24.300m
（ 300× 400）L=　6.000m
遠心ﾎﾞｯｸｽｶﾙﾊﾞｰﾄ（D-250）L=　10.500m
調整ｺﾝｸﾘｰﾄ　V=　0.671m3



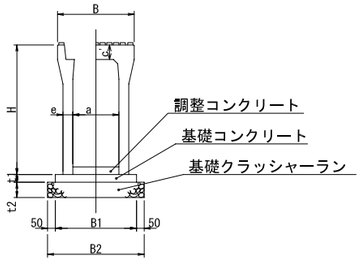
自由勾配側溝（街路用）（ 300× 300）L=　68.800m
自由勾配側溝（横断用）（ 300× 400）L=　10.800m
調整ｺﾝｸﾘｰﾄ　V=　1.611m3

自由勾配側溝（街路用）（ 300× 300）L=　1.100m
（ 300× 400）L=　5.700m
（ 300× 500）L=　5.600m
（ 300× 600）L=　3.000m
調整ｺﾝｸﾘｰﾄ　V=　0.480m3



安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第129267号　高田　茂	新潟市建築部公共建築第１課	新潟市消防局・中央消防署庁舎　庁舎棟　建設　工　事	図名：雨水排水施設展開図-3 年月日：2012.11　縮尺：図示　図面番号：G-23

自由勾配側溝詳細図　S=1:20



寸法表及び数量表

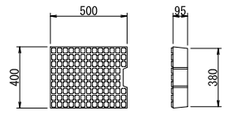
呼び名（巾×深）	寸法 B	B1	B2	H	a	c'	e	t1	t2
300× 300	500	500	600	445	300	95	50	50	100
× 400		510	610	545			55		
× 500				645					
× 600		530	630	745			65		
× 700				845					
× 800		550	650	945			75		
× 900				1045					
×1000		570	670	1145			85		
×1100				1245					

（mm）

自由勾配側溝蓋詳細図　S=1:20

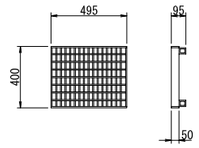
コンクリート蓋版

（車道用）

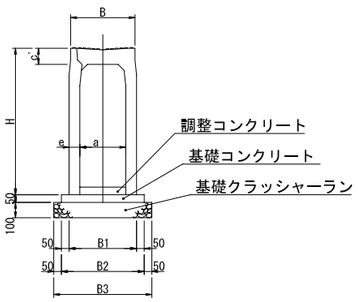


グレーチング蓋版
ノンスリップ型

（車道用）



皿型ＶＳ側溝詳細図　S=1:20



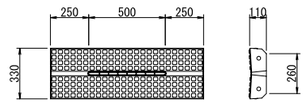
寸法表及び数量表

呼び名（巾×深）	寸法 B	B1	B2	B3	H	a	c'	e
300× 300	420	420	520	620	455	300	105	60
× 400					555			
× 500					655			
× 600		440	540	640	755			70
× 700					855			
× 800					955			
× 900		470	570	670	1055			85
×1000					1155			
×1100					1255			

（mm）

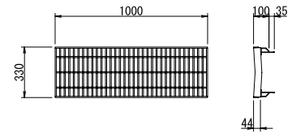
皿型ＶＳ側溝蓋詳細図　S=1:20

皿型ＶＳ皿形タイプ蓋版
コンクリート蓋版

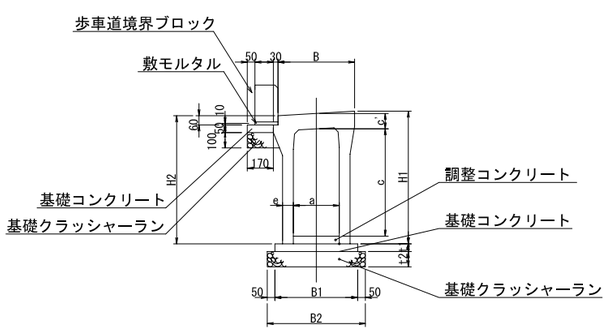


皿型ＶＳ皿形タイプ蓋版
グレーチング蓋版

（車道用）



自由勾配側溝（街路用）詳細図　S=1:20



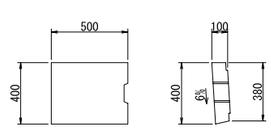
寸法表及び数量表

呼び名（巾×深）	寸法 B	B1	B2	H1	H2	a	c	c'	e	t1	t2
300× 300	500	510	610	465	435	300	300	100	55	50	100
× 400		520	620	565	535		400		60		
× 500				665	635		500				
× 600		540	640	765	735		600		70		
× 700				865	835		700				
× 800		560	660	965	935		800		80		
× 900				1065	1035		900				
×1000		580	680	1165	1135		1000		90		
×1100				1265	1235		1100				

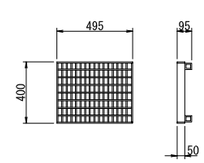
（mm）

自由勾配側溝（街路用）蓋詳細図　S=1:20

コンクリート蓋版

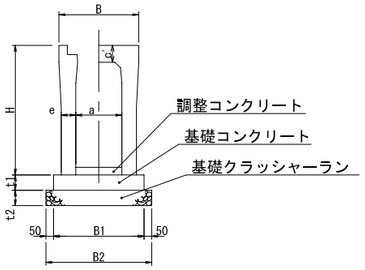


グレーチング蓋版



安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第129267号　高田　茂	新潟市建築部公共建築第１課	工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎　庁舎棟　建設　工　事	雨水排水施設詳細図-1 2012.11　縮尺 S=1:20(A1) S=1:40(A3)　図面番号 G-24	

自由勾配側溝（横断用）詳細図　S=1:20

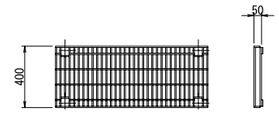


寸法表及び数量表

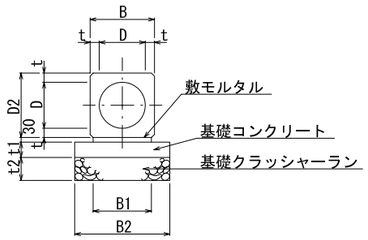
呼び名（巾×深）	寸法 (mm) B	B1	B2	H	a	c'	e	t1	t2
300× 300	520	560	660	445	300	110	80	100	100
× 400				545					
× 500				645					
× 600		590	690	745			95		
× 700				845					
× 800				945					
× 900		620	720	1045			110		
×1000				1145					
×1100				1245					

自由勾配側溝（横断用）蓋 詳細図　S=1:20

（横断用）



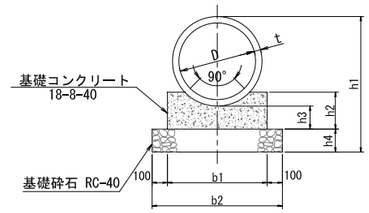
遠心ボックスカルバート詳細図　S=1:20



寸法表及び数量表

呼び名（内径）	寸法（mm） D	D2	B	B1	B2	t	t1	t2
250	250	362	362	322	560	56	100	150
300	300	420	420	380	620	60	100	150

ヒューム管 90° 固定基礎 詳細図　S=1:20



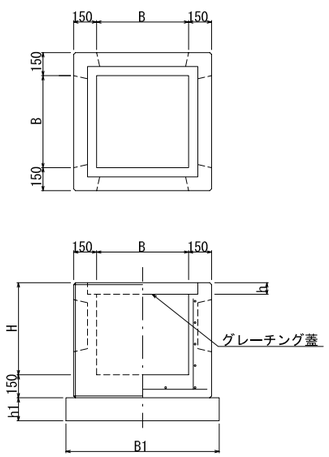
寸法表　単位mm

呼び名	D	t	b1	b2	h1	h2	h3	h4
P1-D200	200	27	400	600	504	140	100	150
P1-D300	300	30	500	700	610	160	100	150

材料表　10m当り

名称	基礎材 RC-40 t=10cm (m2)	コンクリート 18-8-40 (m3)	型枠 (m2)	管渠 コンクリート管本数 (本)
P1-D200	6.00	0.509	2.80	5.00
P1-D300	7.00	0.688	3.20	5.00

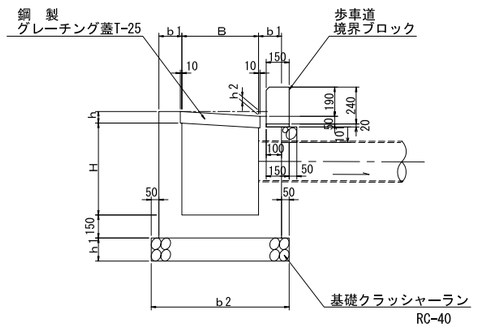
集水桝（プレキャスト）詳細図　S=1:20



寸法表及び数量表

グレーチング種別	呼び名 (B×B)	H	寸法（mm） h	h1	B1
T-25	500 × 500	600	65	150	900
	600 × 600	600	75	150	1000
		700			
		800			
		900			
		1000			

集水桝構造図（境界ブロック組合せタイプ）　S=1:20



排水桝寸法表

桝内寸法 (mm) B	L	寸法表 (mm) H	b1	b2	I	h1	h2	h
500	600	600	150	900	1000	150	31	75
500	600	700	150	900	1000	150	31	75
500	600	900	150	900	1000	150	31	75
500	600	1000	150	900	1000	150	31	75

安井・太陽設計共同体
管理建築士一級建築士第129267号　高田　茂

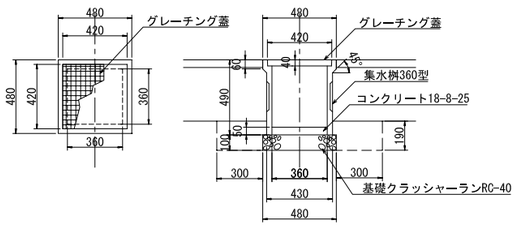
新潟市建築部公共建築第１課

工事名
新潟市消防局・中央消防署庁舎　庁舎棟　建設　工　事

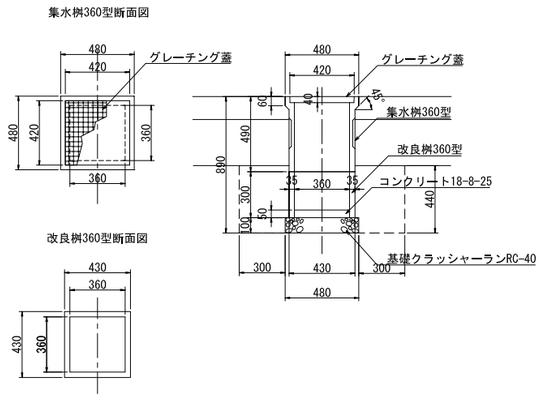
雨水排水施設詳細図-2

2012.11　縮尺 S=1:20(A1) S=1:40(A3)　図面番号 G-25

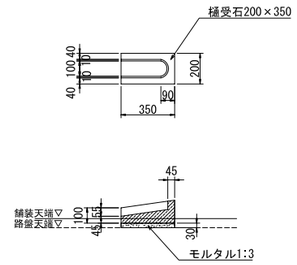
集水桝 360型 詳細図　S=1:20



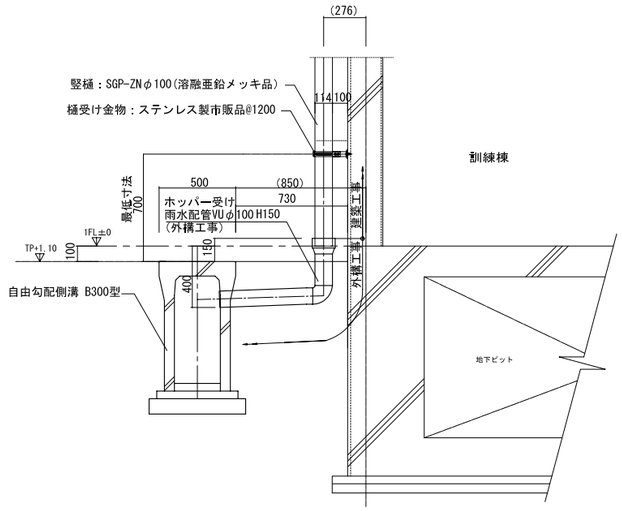
集水桝 360型+改良桝360型 詳細図　S=1:20



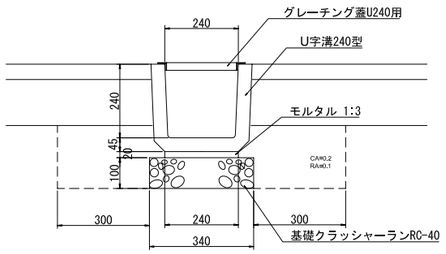
樋 受 石　200×350 詳 細 図　S=1:20



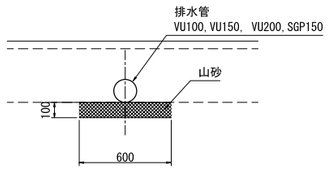
雨水竪樋配管詳細図　S=1:20



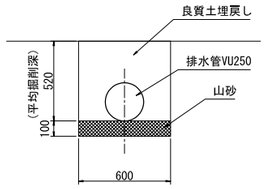
U字溝 240型 詳細図　S=1:10



排 水 管（VU100,VU150,VU200,SGP150）　埋設図　S=1:20

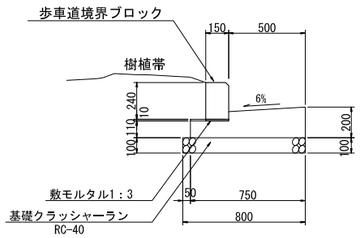


排 水 管（VU250）　埋設図　S=1:20



L型側溝　詳細図　S=1:20

PL4-B500×H200×T200



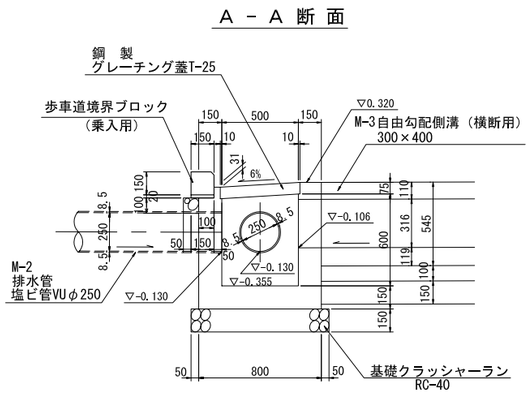
L型側溝(PL4-B500xH200xT200)材料表　10m当り

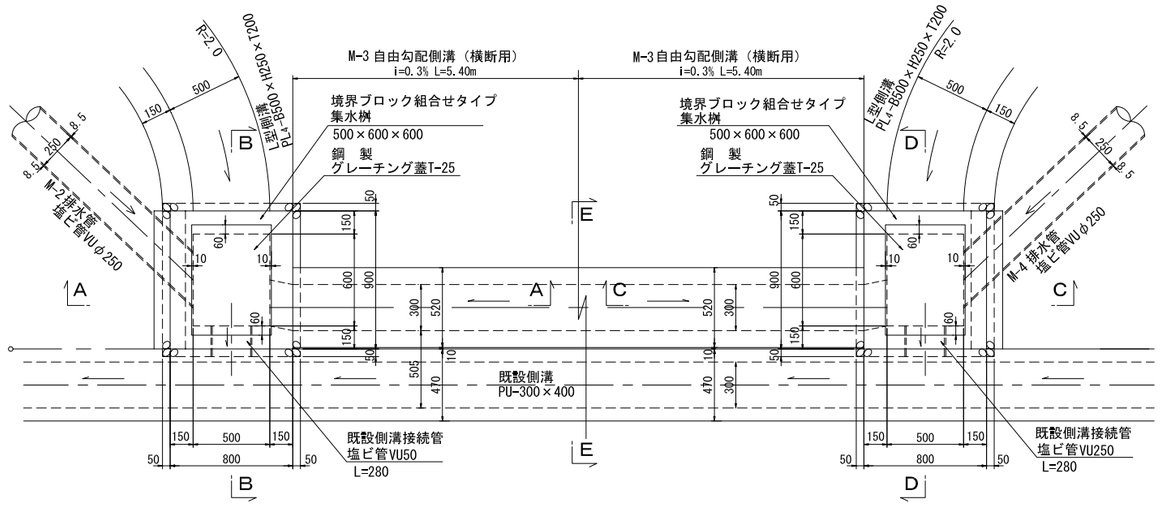
名　称	基 礎 材	コンクリート	型　枠	ブロック
	RC-40 t=10cm (m2)	18-8-40 (m3)	(m2)	歩車道境界ブロック L=0.6m (個)
PL4-B500xH200xT200	8.0	1.20	3.1	4.99

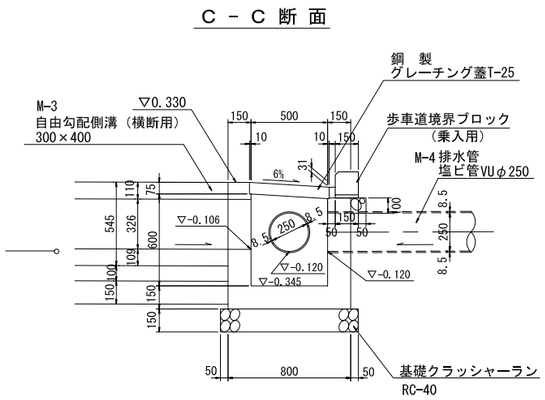
安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第129267号　髙田　茂	新潟市建築部公共建築第１課	工 事 名 新潟市消防局・中央消防署庁舎　庁舎棟　建設 工　事	雨水排水施設詳細図-3 2012.11　縮尺 図示　図面番号 G-26

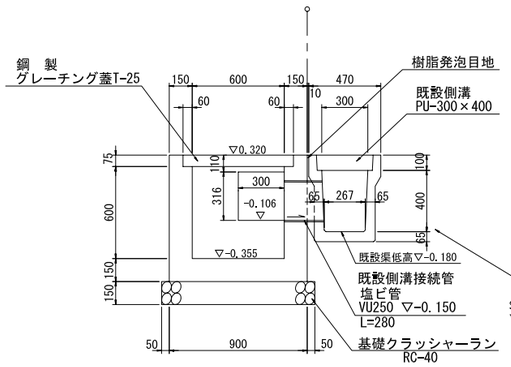
雨水排水施設構造図-1

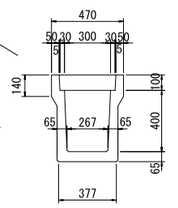
（南側既設接続部構造図）

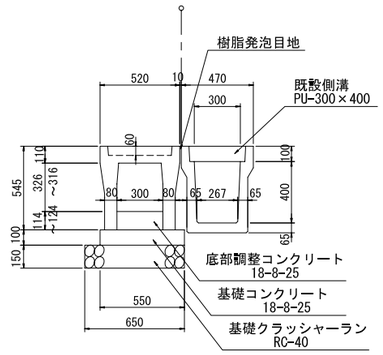






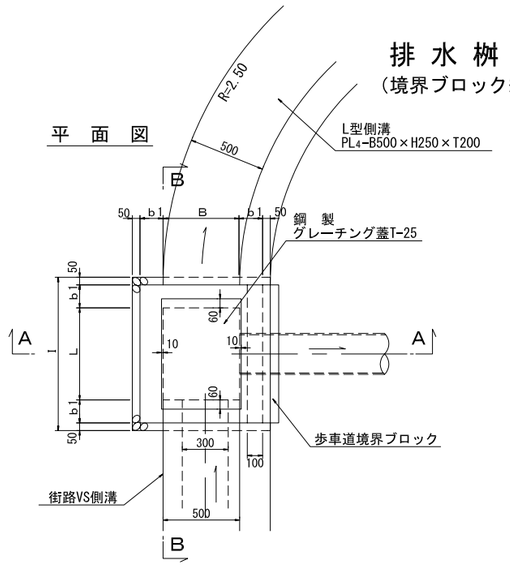


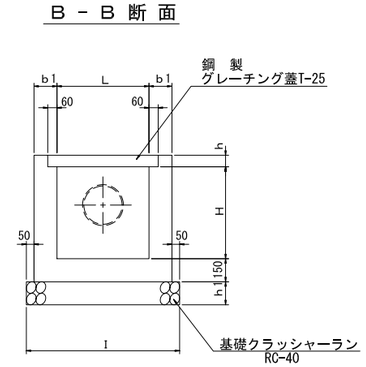


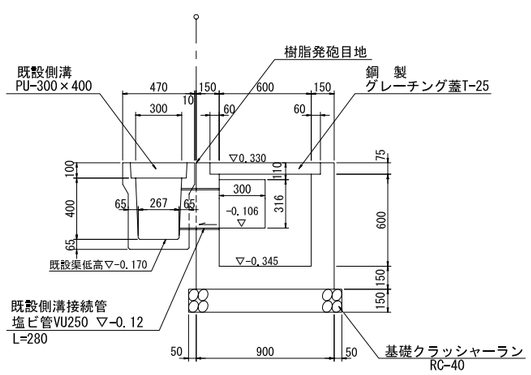


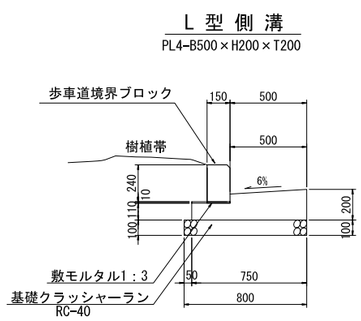
排 水 桝 構 造 図 S=1:20

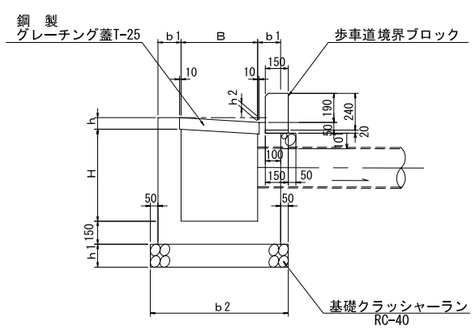
（境界ブロック組合せタイプ）











排 水 桝 寸 法 表

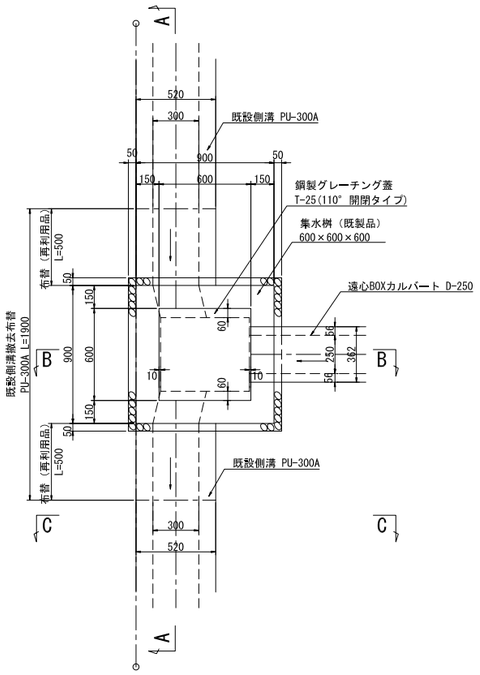
桝 内 寸 法 (mm)		寸 法 表 (mm)						
B	L	H	b1	b2	I	h1	h2	h
500	600	600	150	900	1000	150	31	75
500	600	700	150	900	1000	150	31	75
500	600	900	150	900	1000	150	31	75
500	600	1000	150	900	1000	150	31	75

安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第129267号 高田 茂	新潟市建築部公共建築第１課	工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟 建設 工 事	雨水排水施設構造図-1 年月日 2012.11 / 縮尺 図示	図面番号 G-27

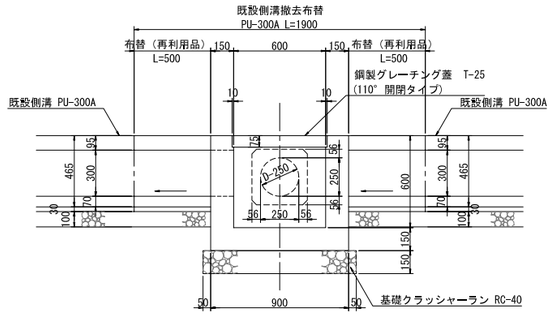
雨水排水施設構造図-2

（西側既設接続部構造図）

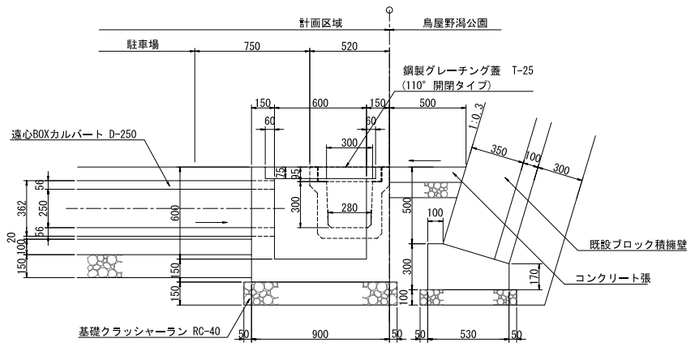
平面図 S=1:20



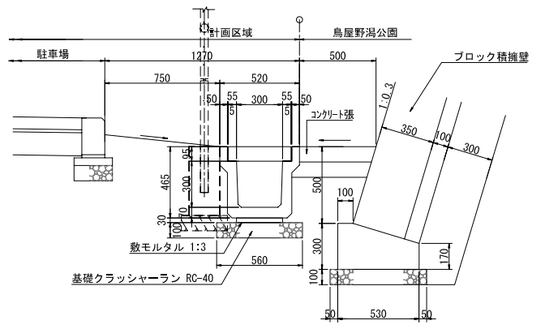
A-A断面 S=1:20



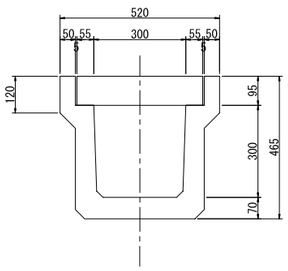
B-B断面 S=1:20



C-C断面 S=1:20



既設側溝 PU-300A S=1:10

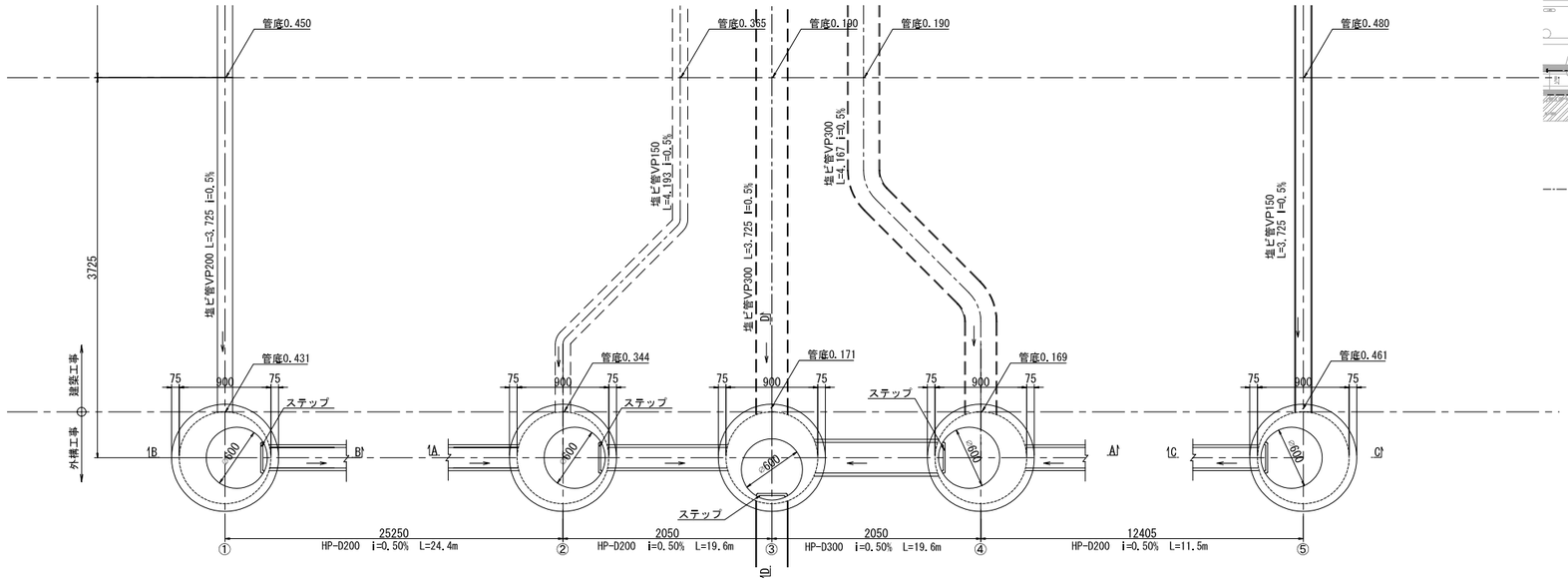


安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第129267号　高田　茂	新潟市建築部公共建築第１課	工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎　庁舎棟　建設　工　事	雨水排水施設構造図-2
		年月日 2012.11	縮尺 図示
		図面番号	G-28

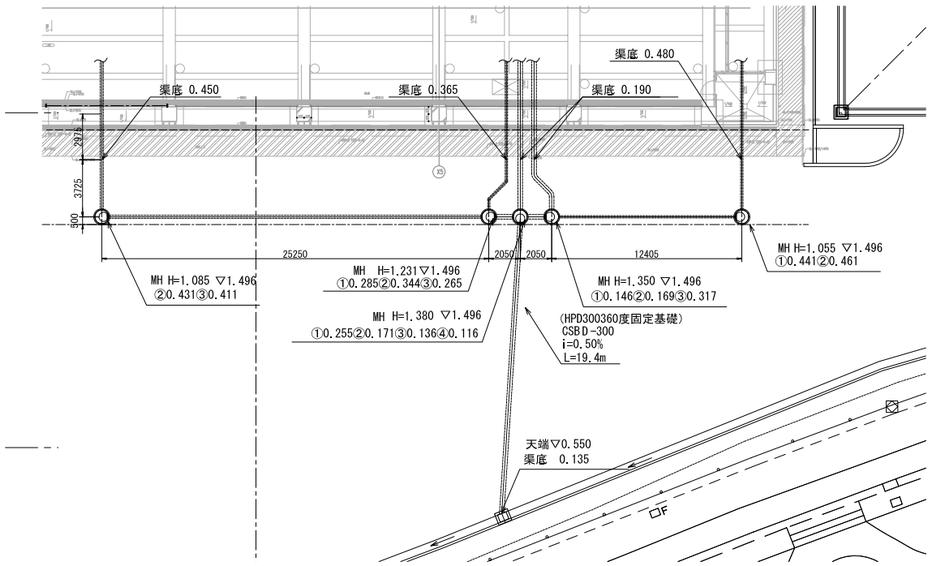
雨水排水施設構造図-3

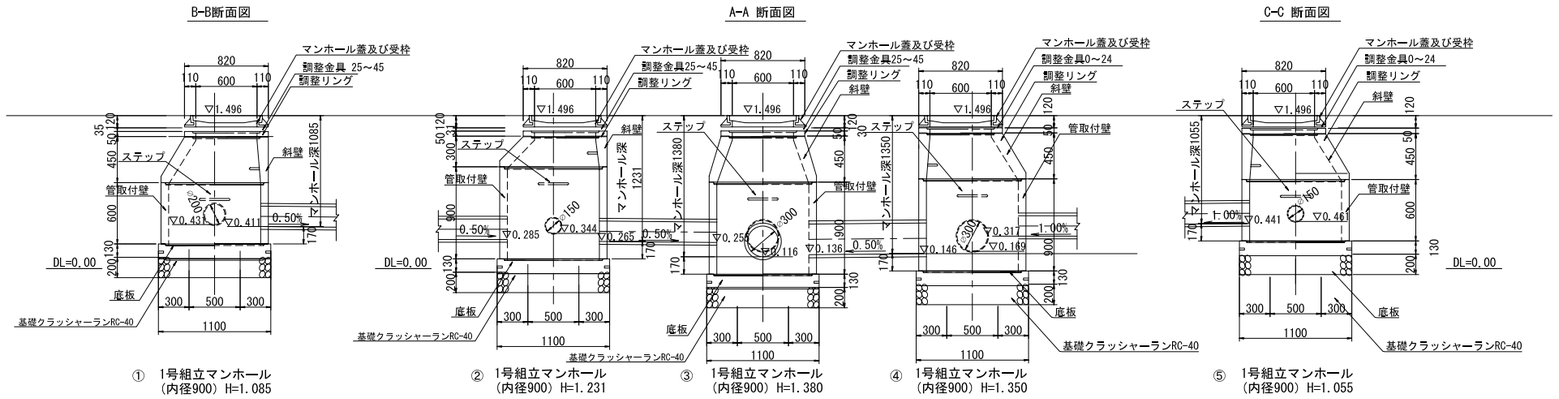
（庁舎棟排水取り付け構造図）

平 面 図 S=1:30

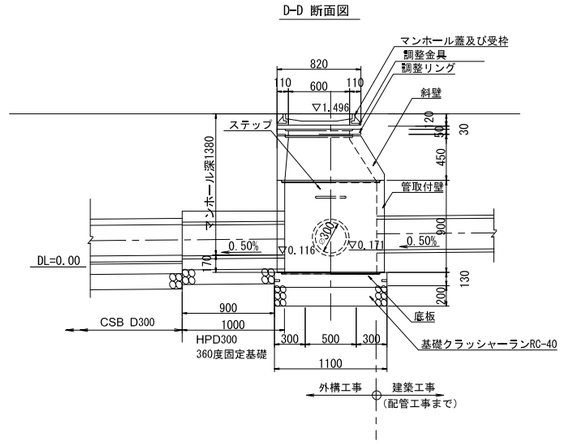


位 置 図 S=1:200

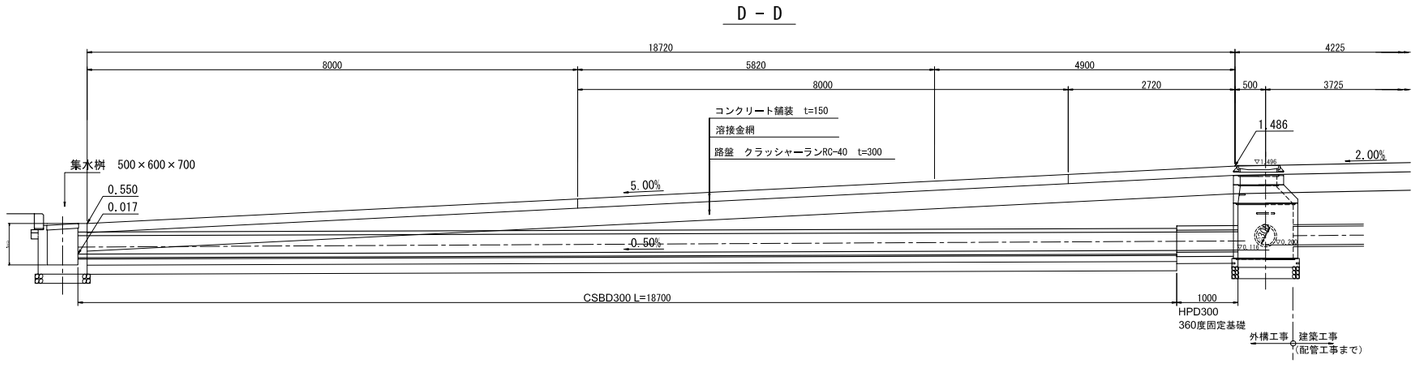


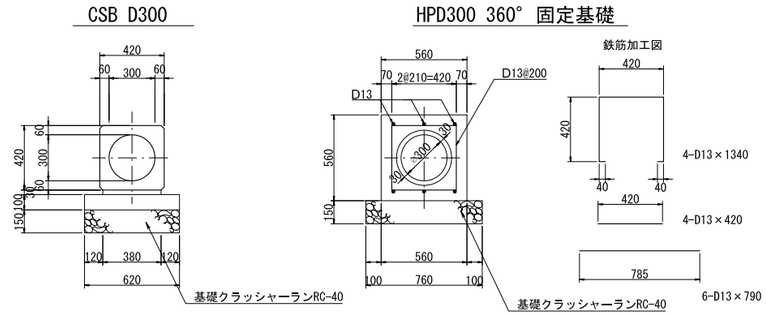


縦 断 図 S=1:50



排水管 構造図 S=1:20



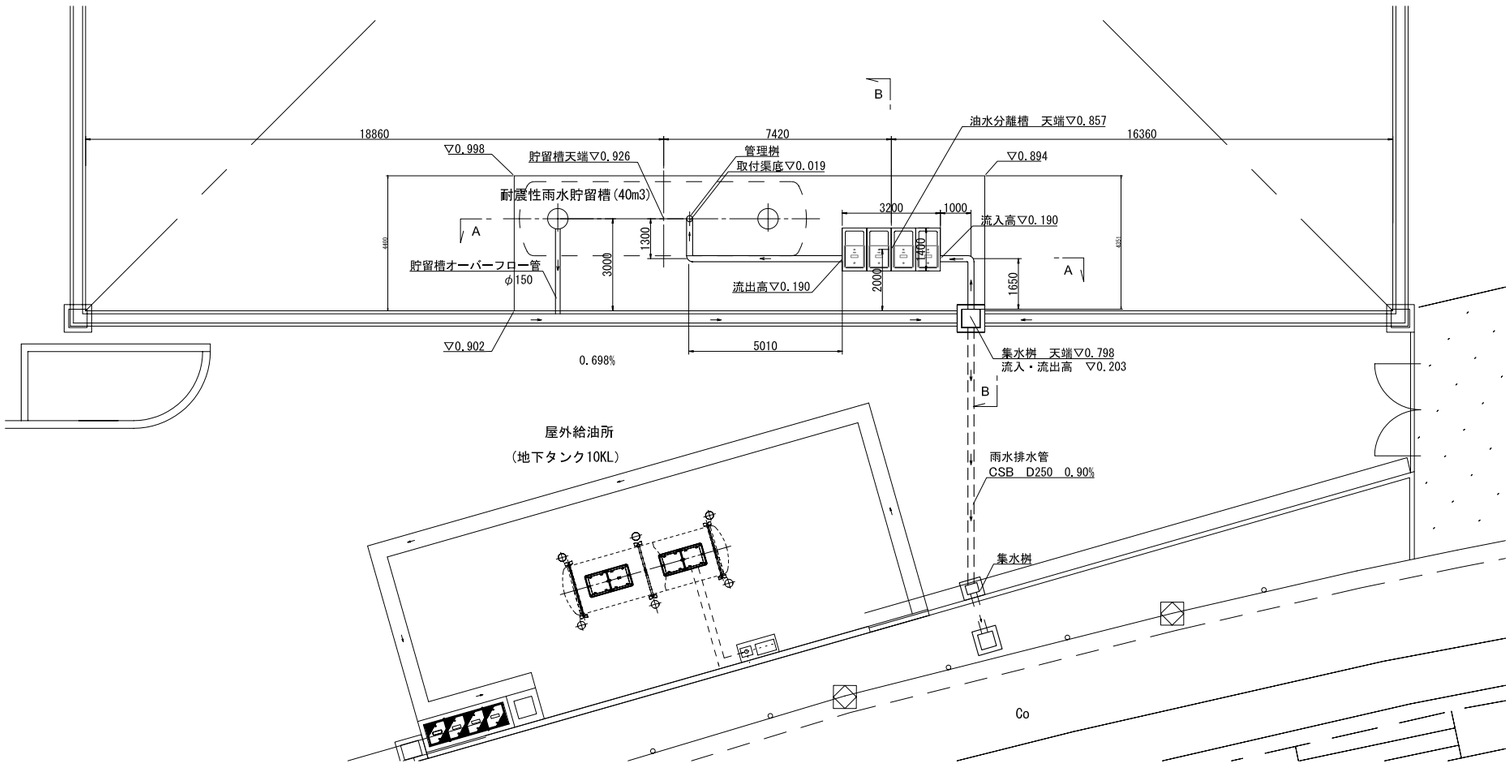


安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第129267号 高田 茂	新潟市建築部公共建築第１課	工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟 建設 工 事	雨水排水施設構造図-3 年月日 2012.11 / 縮尺 図示 / 図面番号 G-29

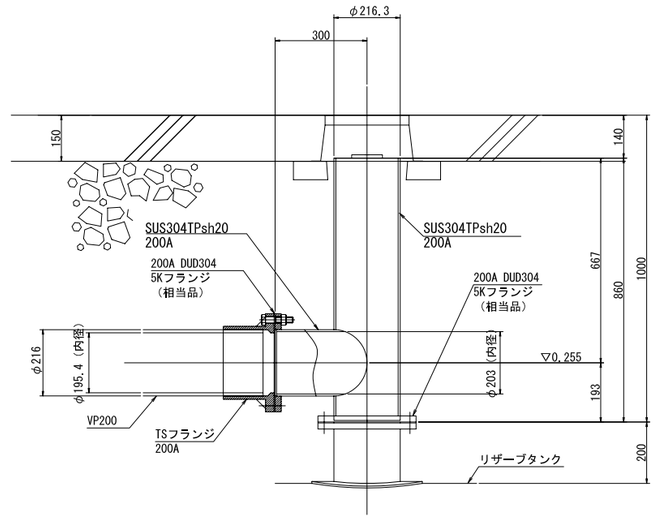
貯留槽・油水分離槽配置計画図

（油水分離槽H=1500）

平　面　図　S=1:100

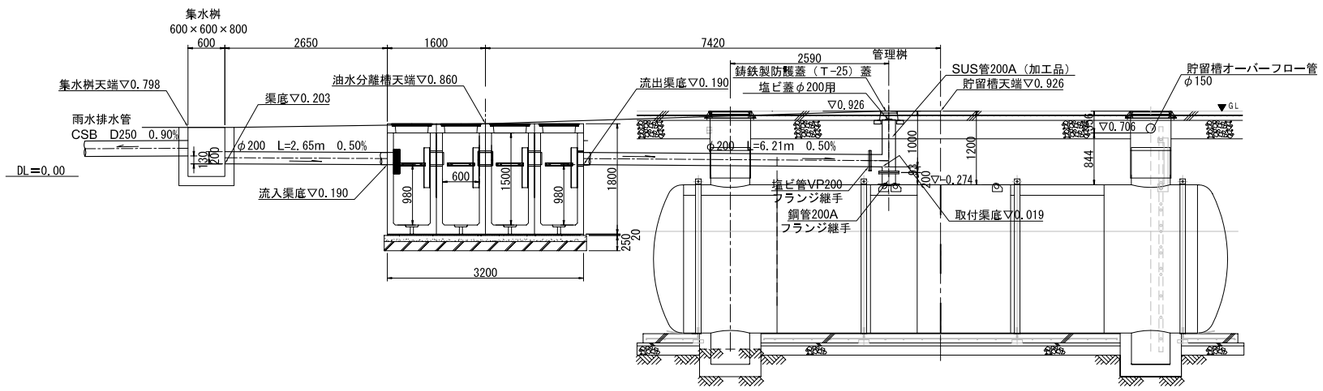


管理桝　SUS管詳細図　S=1:10



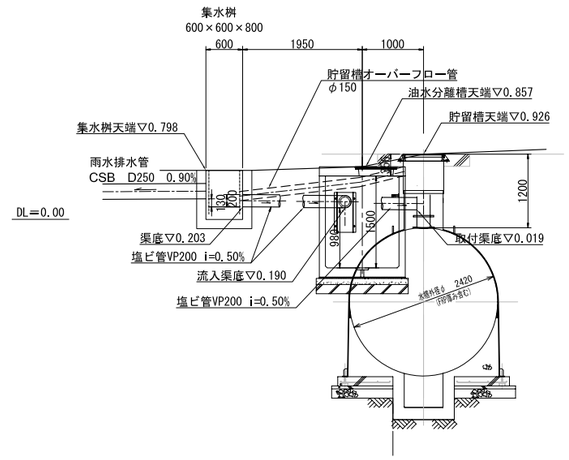
断　面　図　S=1:50

（A-A）



断　面　図　S=1:50

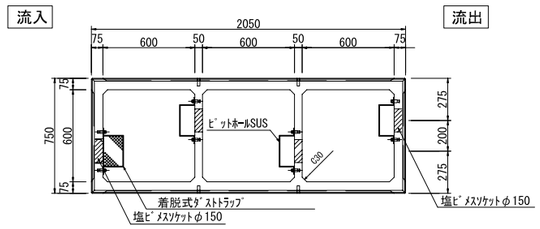
（B-B）

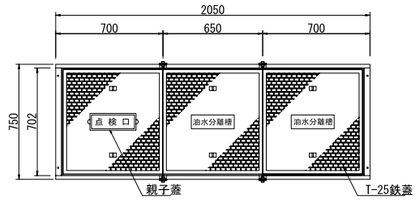


安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第129267号　高田　茂	新潟市建築部公共建築第１課	工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎　庁舎棟　建設　工　事	貯留槽・油水分離槽配置計画図 年月日 2012.11　縮尺 図示	図面番号 G-30

油水分離槽 3連式（600×600×H1200）構造図　S=1:20

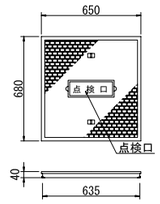
槽内平面図





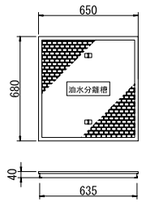
親子鋳鉄蓋

FCD500
簡易防水・防臭・防音ﾀｲﾌﾟ

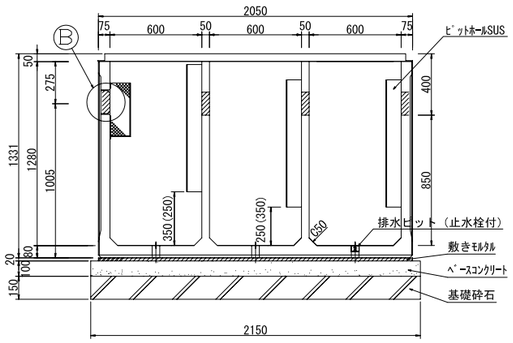


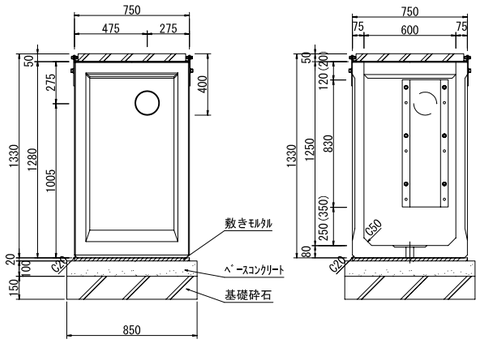
T-25鋳鉄蓋

FCD500
簡易防水・防臭・防音ﾀｲﾌﾟ

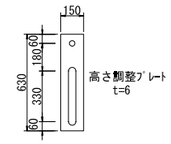


正面断面図

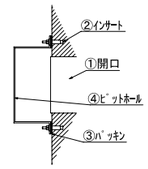




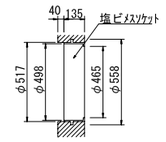
Ａ部鮮細図 S=1:5



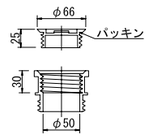
ﾋﾟｯﾄﾎｰﾙ取付鮮細図 S=1:5



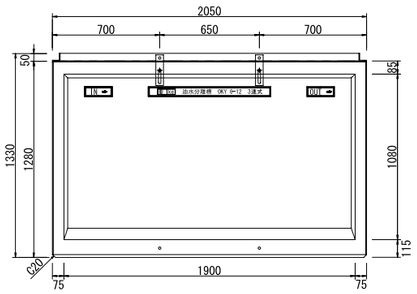
Ｂ部鮮細図(埋込み部) S=1:5



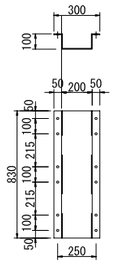
排水ﾋﾟｯﾄ(止水栓)鮮細図 S=1:5



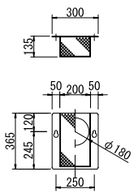
正　面　図



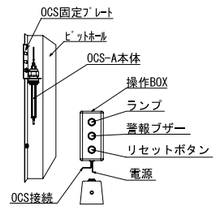
ﾋﾟｯﾄﾎｰﾙ SUS t=1



ﾀﾞｽﾄﾄﾗｯﾌﾟ SUS t=1



OCS-A ｵｲﾙﾁｪｯｸｾﾝｻｰ



※防水処理及び、接続される管材は製品に含まない。

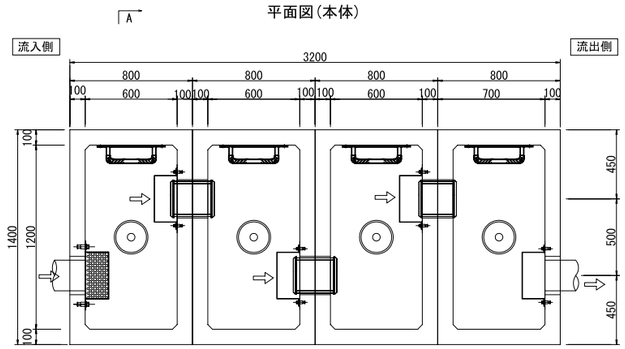
※主訓練棟A塔北側及び補助訓練棟C塔西側に設置する。

安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第129267号　高田　茂	新潟市建築部公共建築第１課	工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎　庁舎棟　建設　工　事	油水分離槽 3連式（600×600×H1200）構造図	
			年月日 2012.11	縮尺 図示	図面番号 G-31

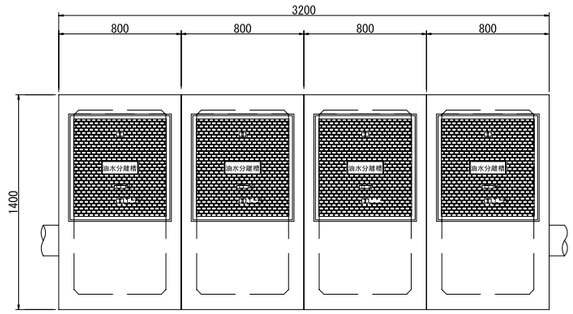
油水分離槽 4連式（600×1200×1500）構造図　S=1:20

（有効容量　2，880ﾘｯﾄﾙ）

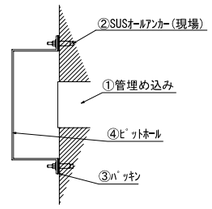
平面図(本体)



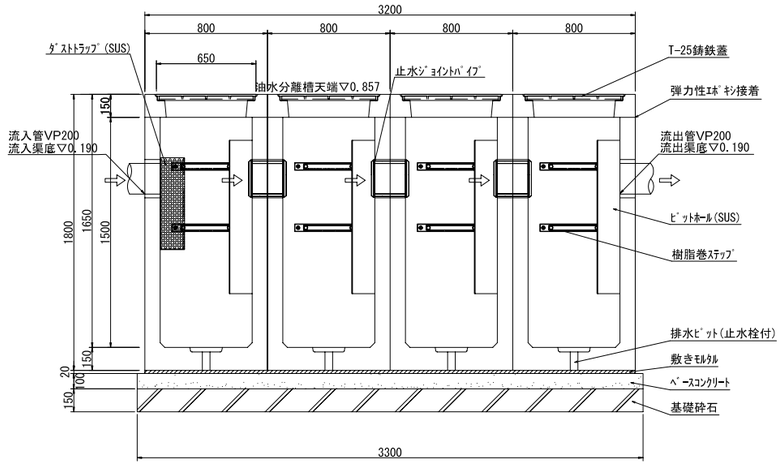
平面図(スラブ)



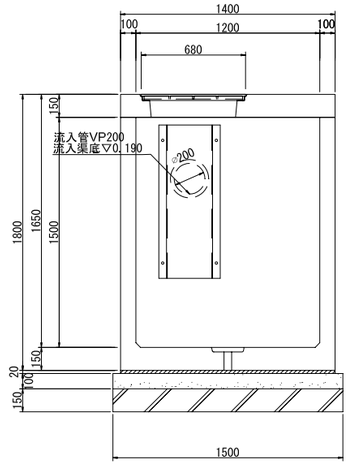
ﾋﾟｯﾄﾎｰﾙ取付詳細図



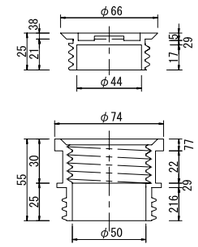
正面断面図

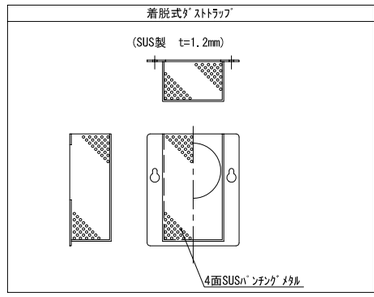
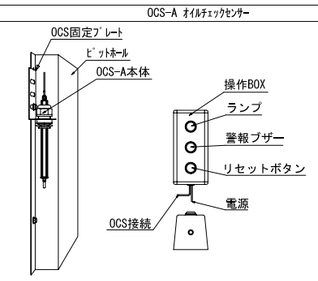
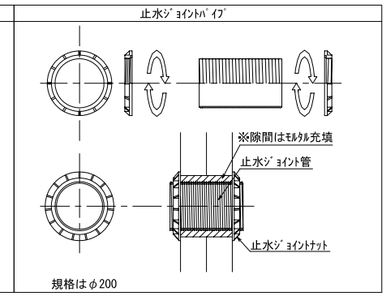


A-A断面図



排水ﾋﾟｯﾄ(止水栓付)詳細図



着脱式ﾀﾞｽﾄﾄﾗｯﾌﾟ	OCS-A ｵｲﾙﾁｪｯｸｾﾝｻｰ	止水ｼﾞｮｲﾝﾄﾊﾟｲﾌﾟ
		

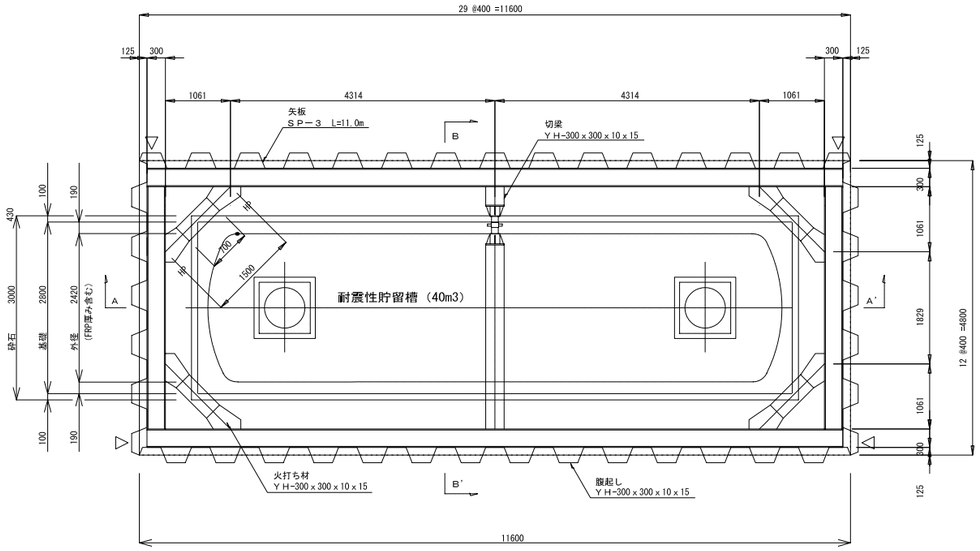
※ﾋﾟｯﾄﾎｰﾙ、ﾀﾞｽﾄﾄﾗｯﾌﾟのｱﾝｶｰ打ちは、現場施工とする。

	参考重量(1基)	数　量
ｽﾗﾌﾞ800×1400×150	280kg	4基
下部600×1200×1500	1920kg	4基
合　計	2200kg	4組

【　備　考　】
※防水処理に関しては含まない。
※管材に関しては含まない。

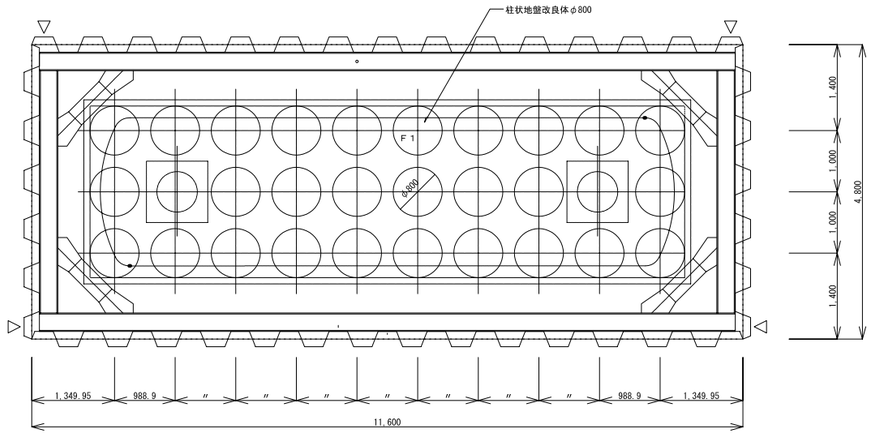
※屋外訓練場耐震性雨水貯留槽の東側に設置する。

安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第129267号　高田　茂	新潟市建築部公共建築第１課	工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎　庁舎棟　建設　工　事	油水分離槽4連式（600×1200×1500）構造図		
			年月日 2012.11	縮　尺 図　示	図面番号 G-32



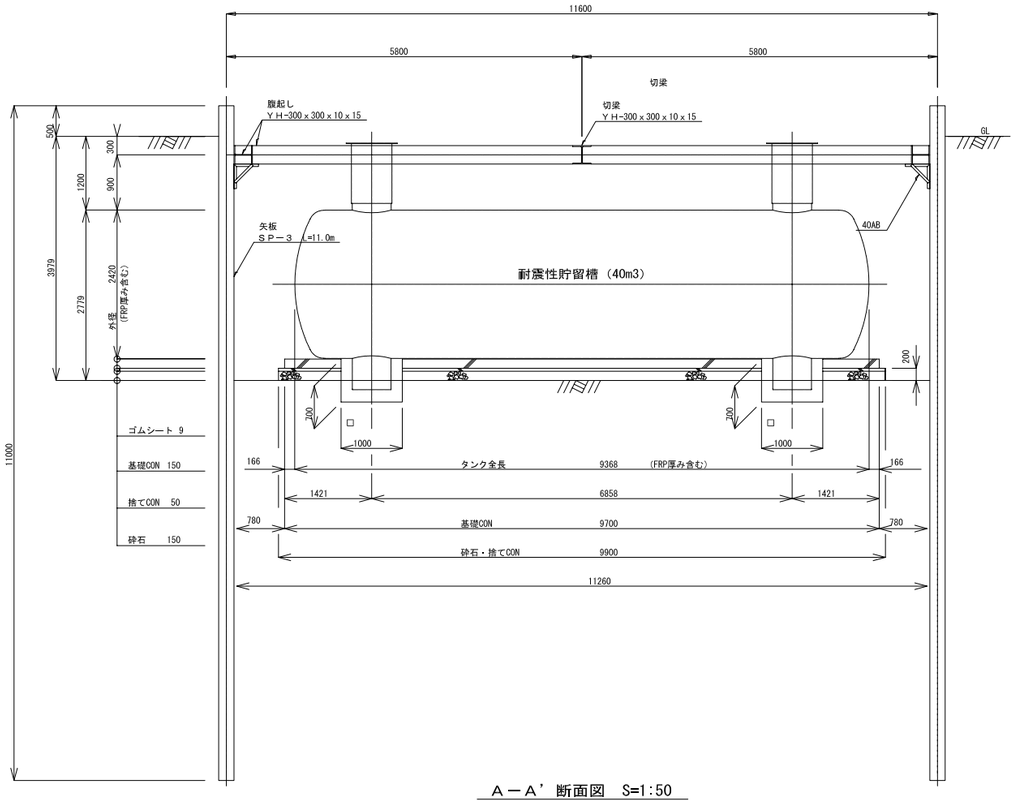
平面図　S=1:50

はコーナー矢板を示す

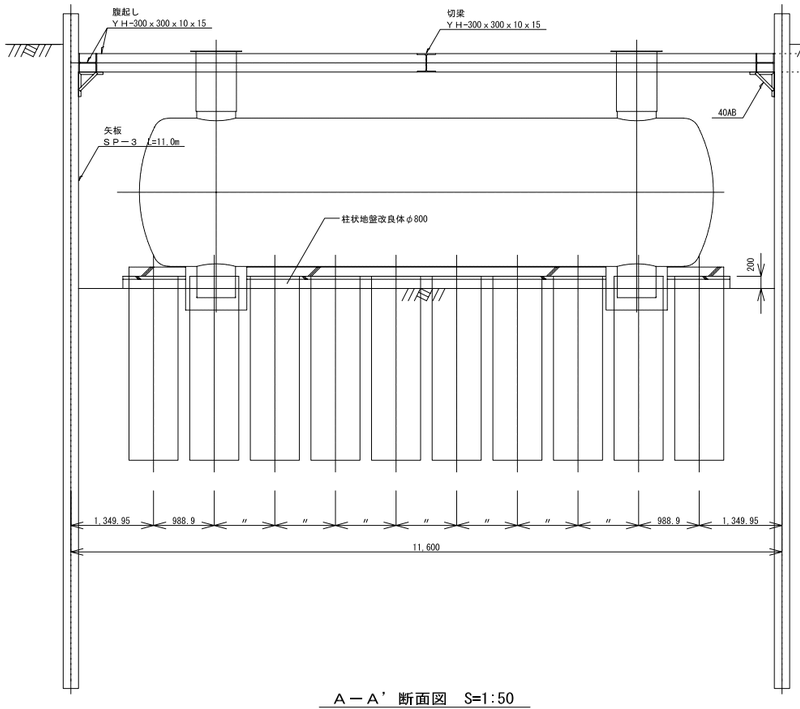


平面図　S=1:50
（柱状改良図）

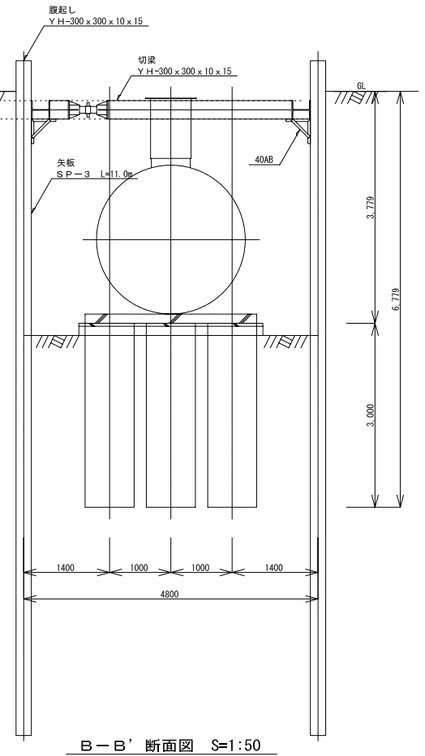
はコーナー矢板を示す



Ａ－Ａ’断面図　S=1:50



Ａ－Ａ’断面図　S=1:50
（柱状改良図）



Ｂ－Ｂ’断面図　S=1:50
（柱状改良図）

仮設資材条件

土被り	Ｈ＝１．２０ｍ，ウェットバージョン
矢板	Ｕ型鋼矢板（400巾）
腹起こし材・火打	Ｈ３００×３００
切梁無、水中ポンプ×2台	

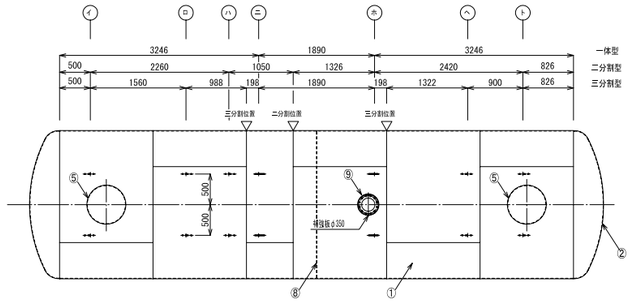
※上記資材は参考とする。施工にあたっては施工業者において、再度構造計算を行い支持力の安全性を確認した上で適宜、山留め資材を選定し行うこと。

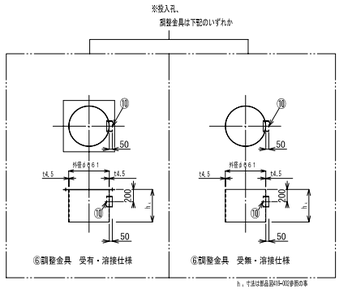
柱状改良仕様表「深層混合処理工法（六価クロム溶出量低減型）」

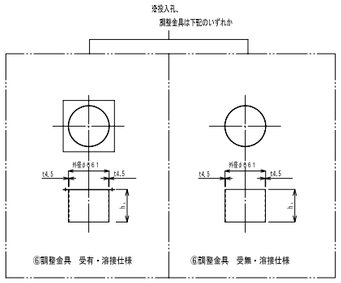
改良箇所	改良体径[m]	改良長[m]	改良地盤					改良率ap[-]
			改良体本数［本］	短辺長 Bb[m]	長辺長Lb[m]	周長Ls[m]	底面積Ab[㎡]	
Ｆ１	0.8	3.0	28	2.8	9.7	24.31	27.02	0.559

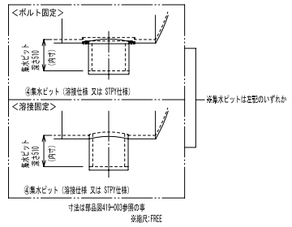
設計基準強度 Fc	600KN/㎡

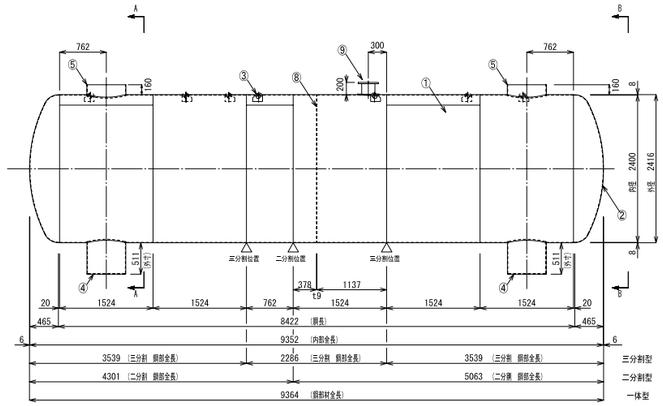
安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第129267号　高田　茂	新潟市建築部公共建築第１課	工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎　庁舎棟建設　工　事	図名 耐震性貯留槽　根切り図	
			年月日 2012.11	縮尺 1:50(A1),1:100(A3)	図面番号 G-34

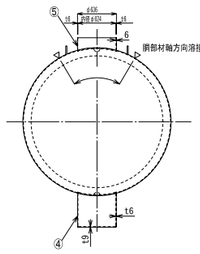




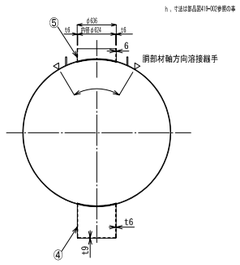








B-B矢視図（1:50）



A-A矢視図（1:50）

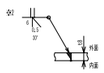
※1 304巾の板×2枚、1524巾の板×1枚、762巾の板×1枚でも製造可能とする。

※2 溶接棒は、以下の相当品を使用する事。
SS400仕様でアーク溶接の場合：JIS Z3211 E4316J
又は E4316G
SS400仕様で半自動溶接の場合：JIS Z3312 YGA11
又は JIS Z3313 T49J0T1-1CA-U
SS400仕様でサブマージの場合：JIS Z3183 S501-H
及び JIS Z3352 SF451

No.	名　称	材　質	数 量	仕　様	参 照 図 番	備　考
1	胴板	SS400	5,5	t8	――	JIS公差　※1
2	鏡板	SS400	2	t6	――	JIS公差
3	吊り金具	SS400	4~12	t19	419-001	
4	集水ピット	SS400	2	φ 600以上	419-003	
5	吸管投入孔	SS400	2	φ 600以上	419-002	
6	類整金具	SS400	2		419-002	
7	梯子取付金具	SUS304(SS400)	2	t6(t9)	419-001	
8	補強リング	SS400	1	FB-125×t9	419-001	
9	流入管	SUS304	1	200A		JIS10Kフランジ
10	オーバーフロー	SUS304	1	150A		ソケット

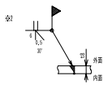
吊金具の位置

分割方法	取付位置					
一体型	ニ		ホ			
二分割	イ	ハ	ホ	ト		
三分割	イ	ロ	ニ	ホ	ヘ	ト

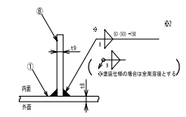


胴部溶接部　（1：2）

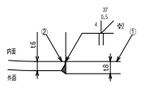
胴部材軸方向溶接継手部　（1：2）



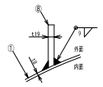
胴部溶接部（現場接合部分）　（1：2）



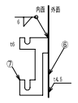
補強リング溶接部　（1：4）



鏡部溶接部（1：2）



吊金具溶接部　（1：10）



梯子取付金具溶接部　（1：20）

寸法・取付位置等詳細は、
図番：419-007を参照の事

安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第129267号　高田　茂	新潟市建築部公共建築第１課	工 事 名 新潟市消防局・中央消防署庁舎　庁舎棟建設　工　事	図　名 耐震性貯留槽　本体組立図	
			年 月 日 2012. 11	縮　尺 1:20(A1), 1:40(A3) 1:50(A1), 1:100(A3)
				図面番号 G-35

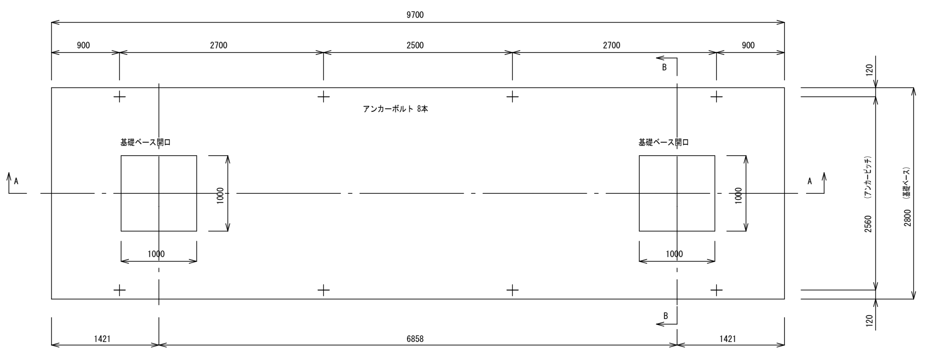
鉄 筋 重 量 表

記 号	径	長 さ	本 数	単位重量	一本当り重量	質 量 (kg)	重 量 (N)	摘 要
1	D13	2700	25	0.995	2.687	67.175	658.32	---
2	D13	800	16	0.995	0.796	12.736	124.81	---
3	D13	9600	6	0.995	9.552	57.312	561.66	---
4	D13	5760	4	0.995	5.731	22.924	224.66	---
5	D13	830	8	0.995	0.826	6.608	64.76	---
6	D13	700	8	0.995	0.697	5.576	54.64	---
7	D13	2010	8	0.995	2.000	16.000	156.80	---
8	D13	910	8	0.995	0.905	7.240	70.95	---
合 計	D13				195.571	kg	(1916.60	N)
総重量					195.571	kg	(1916.60	N)

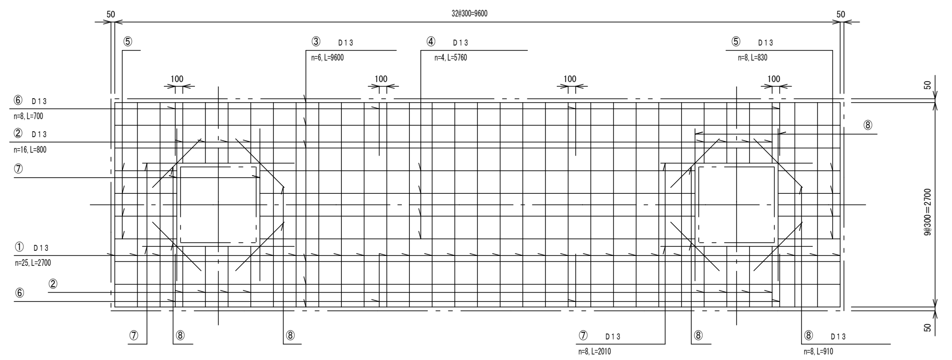
※ D13、SD295以上を使用
※ 鉄筋重量表は継手を考慮しない場合の重量としている。

No.	名 称	材 質	数 量	仕 様	備 考
1	本体	SS400	1	t8×φ2400	ＳＦ二重殻タンク
2	吸管投入孔鉄蓋	鋳鉄	2	φ600	客先仕様による
3	調整リング	ｺﾝｸﾘｰﾄ	0~2	φ600	オプション
4	ﾏﾝﾎｰﾙ高さ調節ﾎﾞﾙﾄ、ﾅｯﾄ	メッキ, SS400	0~8組	M16	寸切りﾎﾞﾙﾄ及びﾅｯﾄ、HASS規格ﾏﾝﾎｰﾙ取付のときに使用
5	保護ゴムシートA	ゴム	4	W120×t3	固定バンド用
6	固定バンド	SS400	4	————	
7	保護ゴムシートB	ゴム	1式	W400×t9	
8	アンカーボルト	SS400	8	M24	内作品
9	梯子	FRP又はアルミ	1	————	オプション、全長は埋設深さにより変わる
10	調整金具	SS400	2	————	
11	流入管	SUS304	1	200A	JIS10Kフランジ
12	オーバーフロー	SUS304	1	150A	ソケット

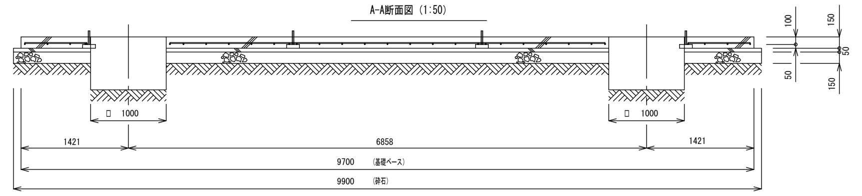
底盤平面図 (1:50)

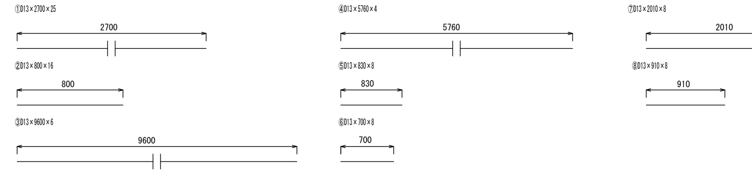


底盤配筋図 (1:50)

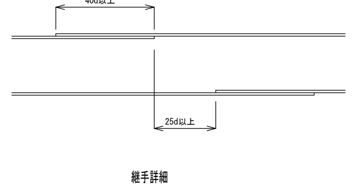


A-A断面図 (1:50)



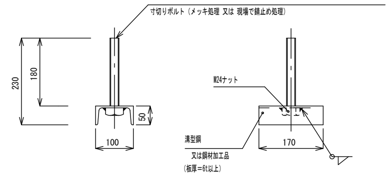


鉄筋加工図



継手詳細

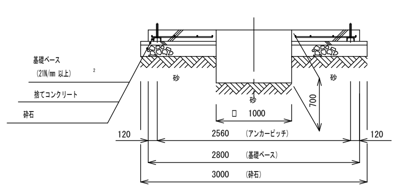
※継手長さは40d以上、隣合う継手の位置は25d以上とする。

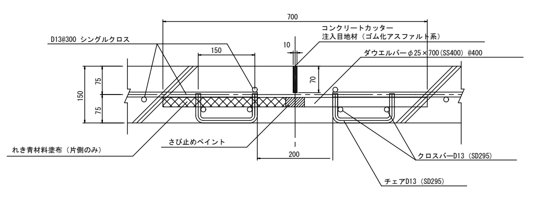


アンカーボルト詳細図 (1：10)

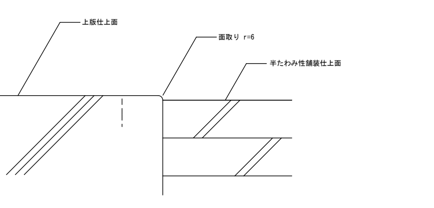
※鉄筋に結束のこと

B-B断面図

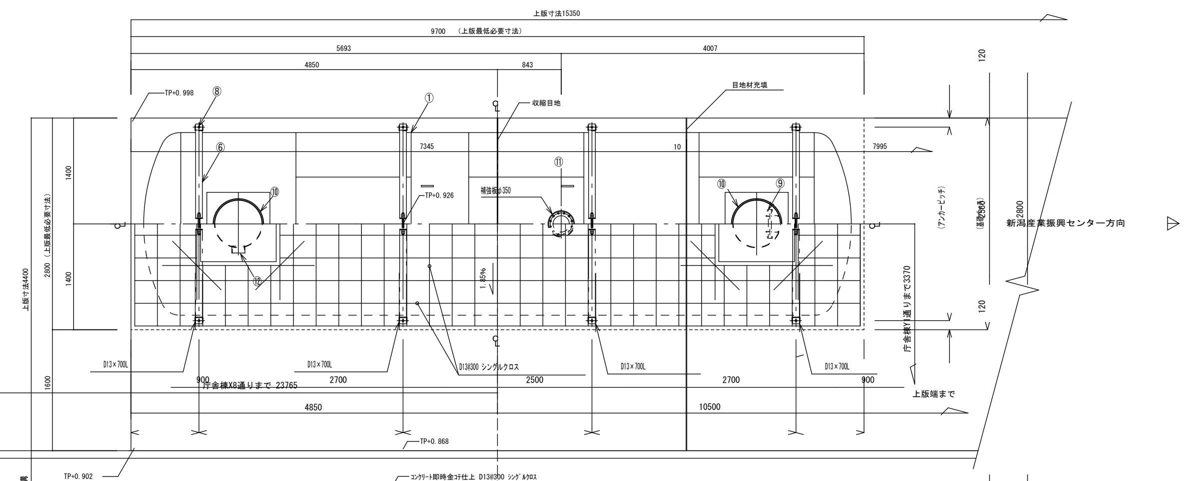


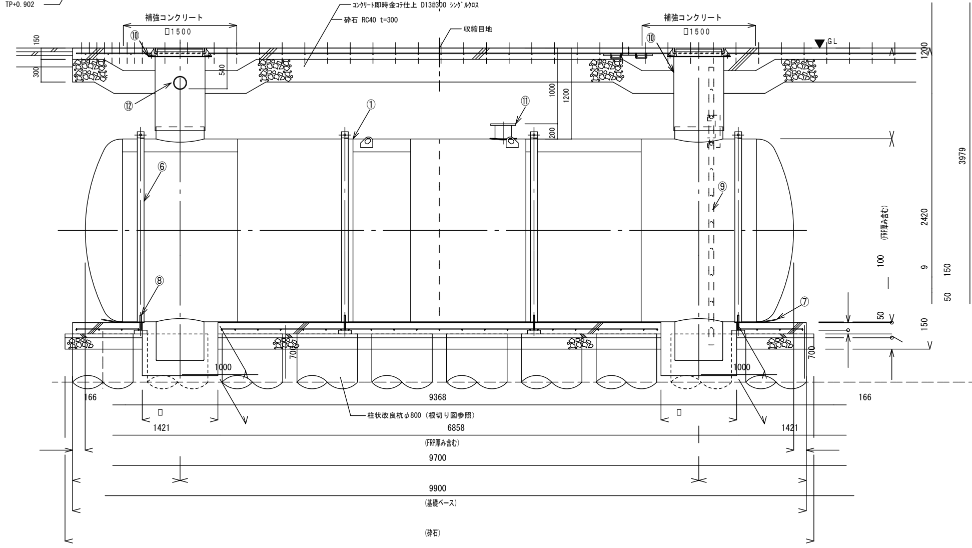


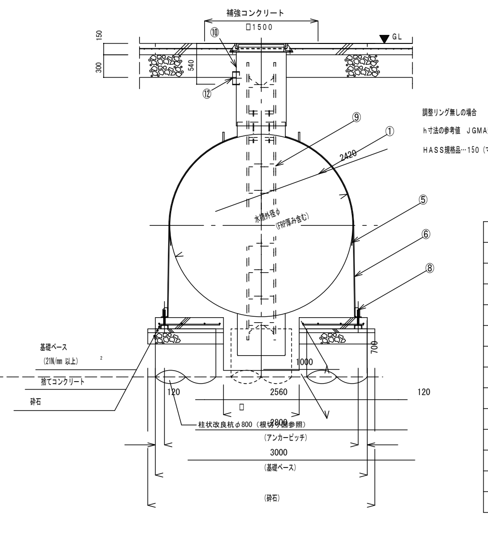
目地工 (収縮目地) 詳細図 S=1:10



上版端部詳細図 S=1:5



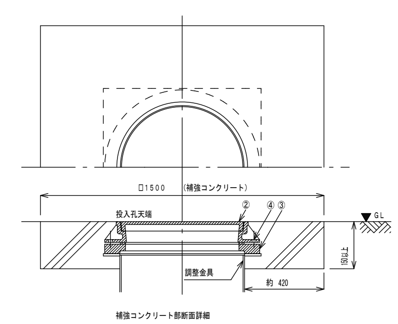




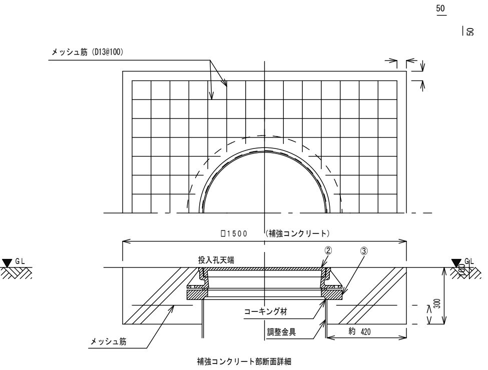
調整リング無しの場合
h寸法の参考値 JGMA規格品…200 (マンホール高さ110の時)
HASS規格品…150 (マンホール高さ50の時)

本紙使用条件 (標準仕様)

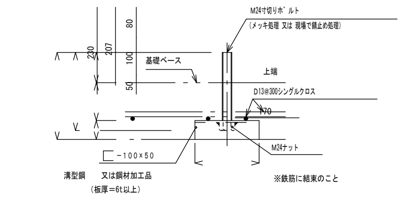
土被り (m)	地下水位 (m)
0.35	0.35 以上
0.4	0.30 以上
0.5	0.15 以上
0.6	0.05 以上
0.7	0 以上
0.8	0 以上
0.9	0 以上
1.0	0 以上
1.1	0 以上
1.2	0 以上
1.3	0 以上
1.4	0 以上
1.5	0 以上



補強コンクリート部断面詳細
(マンホール受け有仕様 参考図)
(1:20)

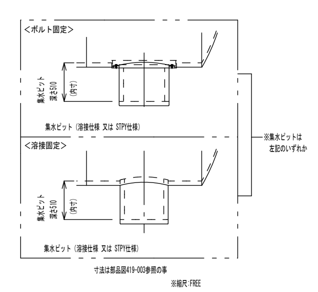


補強コンクリート部断面詳細
(マンホール受け無仕様 参考図)
(1:20)



※鉄筋に結束のこと

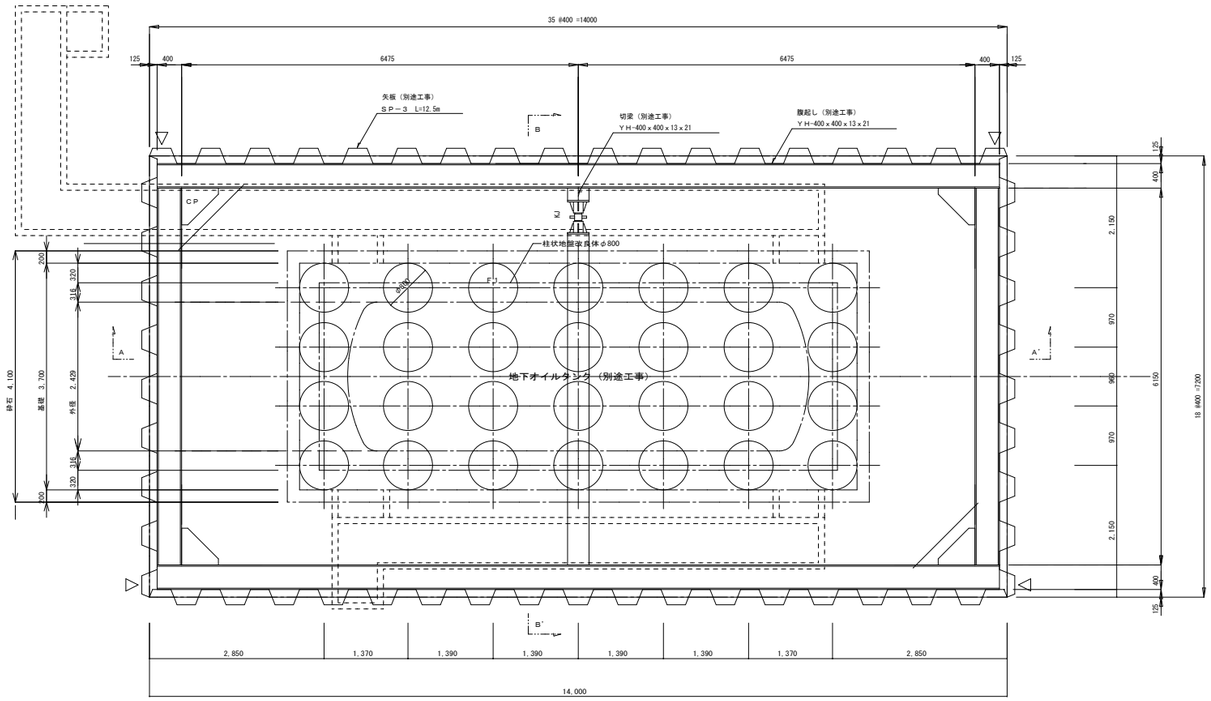
アンカーボルト詳細図
(1:10)



寸法は部品図419-003参照の事
※縮尺:FREE

※埋設深さは、各行政機関等の打合せにより決定すること。
※マンホール種類、天端レベル、補強コンクリートは
　打ち合わせにより決定すること
※基礎ベース寸法は、浮力条件及び客先仕様により決定する。
　(基礎ベースは 浮力>地盤反力時のみ必要となる)
※コンクリート (上盤、底盤) の設計基準強度は特記無き限り
　24N/mm2とする。

安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第129267号 高田 茂	新潟市建築部公共建築第１課	工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟建設 工 事	図名 耐震性貯留槽 埋設図 年月日 2012.11 縮尺 1:20(A1), 1:40(A2) 1:50(A1), 1:100(A2) 図面番号 G-36



平面図　S=1:50

はコーナー矢板を示す

仮設資材条件（別途工事）

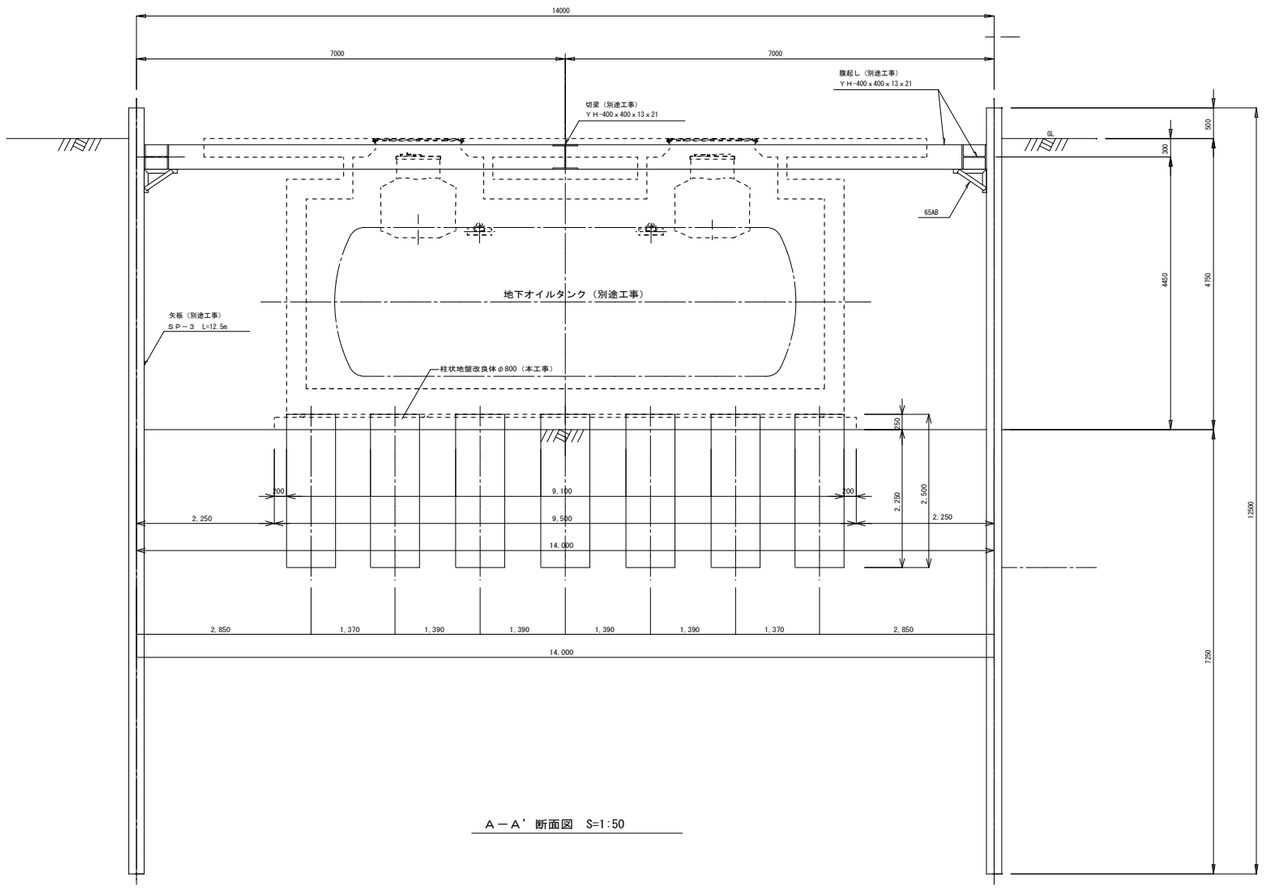
矢板	Ｕ型鋼矢板（400巾）
腹起こし材・火打	Ｈ４００×４００
切梁、水中ポンプ×2台	

※上記資材は参考とする。施工にあたっては施工業者において、再度構造計算を行い支持力の安全性を確認した上で適宜、山留め資材を選定し行うこと。

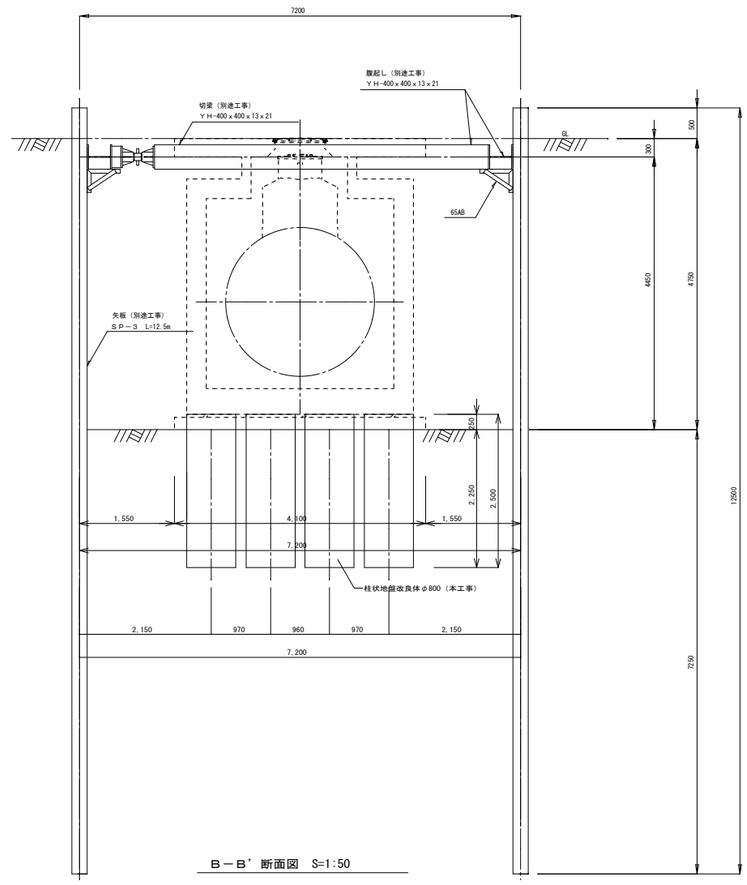
柱状改良仕様表　「深層混合処理工法（六価クロム溶出量低減型）」（本工事）　※仮設、掘削、躯体、オイルタンク本体及び付帯設備は別途工事とする。

改良箇所	改良体径[m]	改良長[m]	改良地盤					改良率ap[-]
			改良体本数［本］	短辺長 Bb[m]	長辺長Lb[m]	周長Ls[m]	底面積Ab[m²]	
Ｆ１	0.8	2.5	28	3.7	9.1	25.6	33.67	41.8

設計基準強度 Fc	600KN/m²

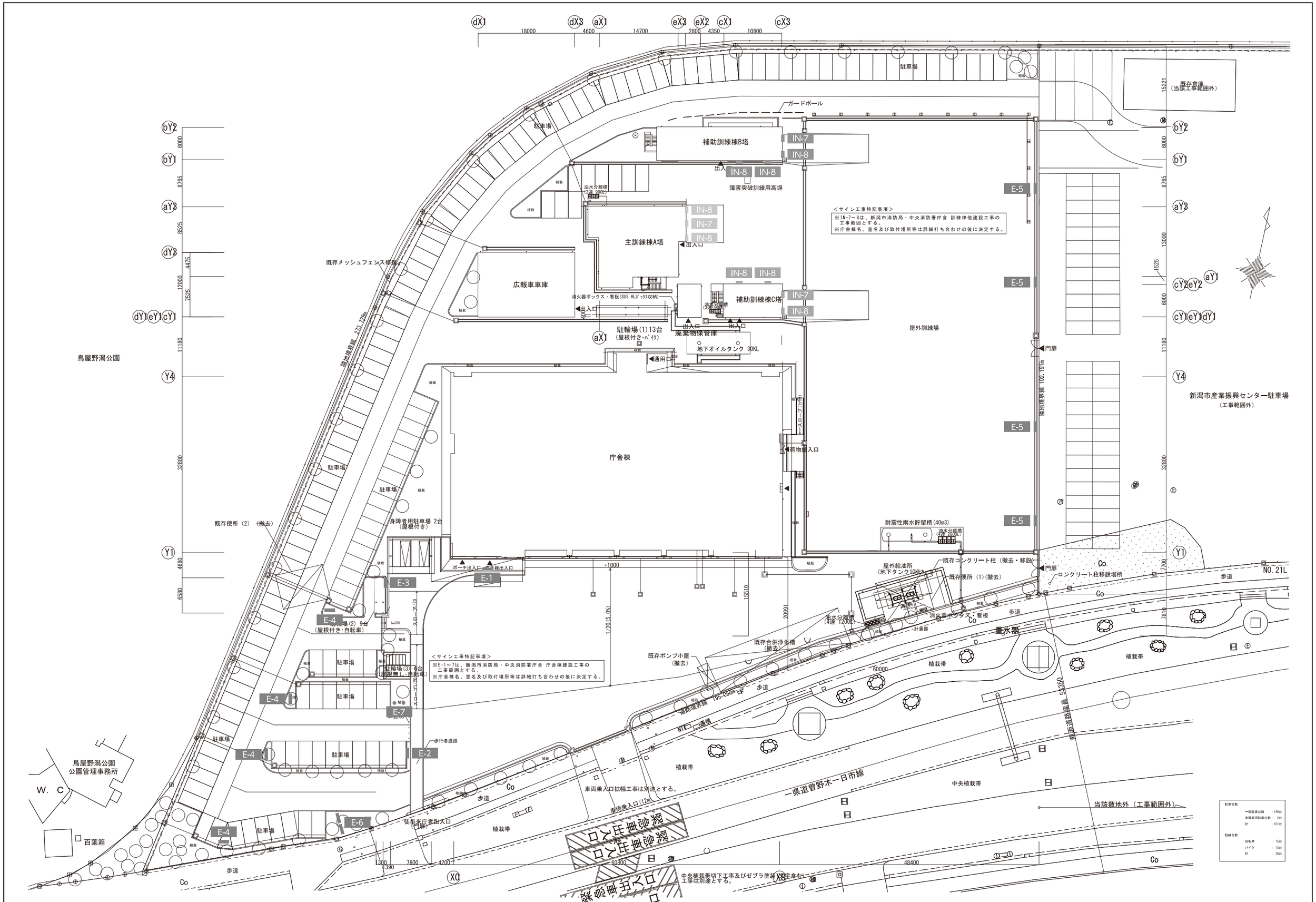


Ａ－Ａ’断面図　S=1:50



Ｂ－Ｂ’断面図　S=1:50

安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第129267号　高田　茂	新潟市建築部公共建築第１課	工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎　庁舎棟建設　工事	図名 非常発電機用　地下オイルタンク地盤改良図	
			年月日 2012.11	縮尺 1:50(A1), 1:100(A3)　図面番号 G-39



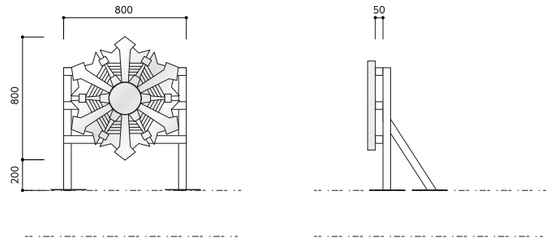
安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第129267号 高田 茂	新潟市建築部公共建築第1課	工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎 庁舎棟 建設工事	図名 外部サイン(1) 年月日 2012.11 縮尺 S=1:300(A1), 1:600(A3) 図面番号 G-41

サインリスト

■ 外構サイン

	アイテム名	サイズ	計	
E-1	消防章	H800×W800	1	
E-2	車両誘導サイン	H1,500×W450	1	
E-3	車いす優先サイン	H200×W600	1	
E-4	駐車場免責サイン	H1,700×W1,000	4	
E-5	放水注意サイン	H200×W450	4	
E-6	懸垂幕掲示塔	H10,000×W1,100	2	
E-7	旗竿	H9,000	2	

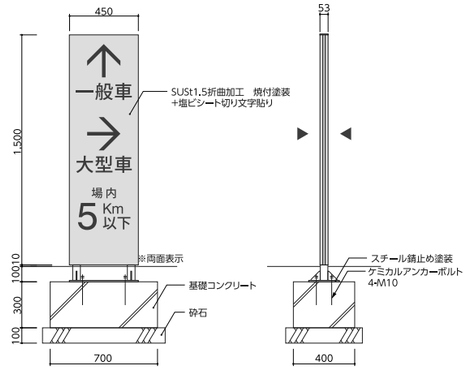
E-1 消防章　S=1/40



<消防紋章>
・本　体 ／ 関西型 セラミックス製、総体面純金焼成

<文字>
・架台 ／ SUSアングル組　焼付塗装(外壁近似色)
・本　体 ／ SUSHL箱文字D50

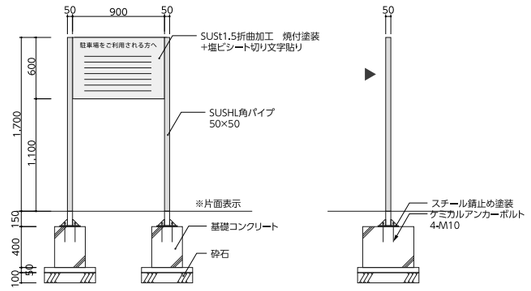
E-2 車両誘導サイン　S=1/20



E-3 車いす優先サイン　S=1/5

S＝1/5

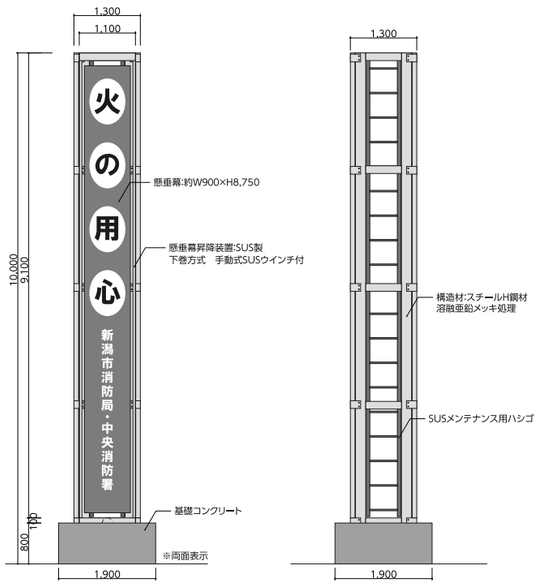
E-4 駐車場免責サイン　S=1/30

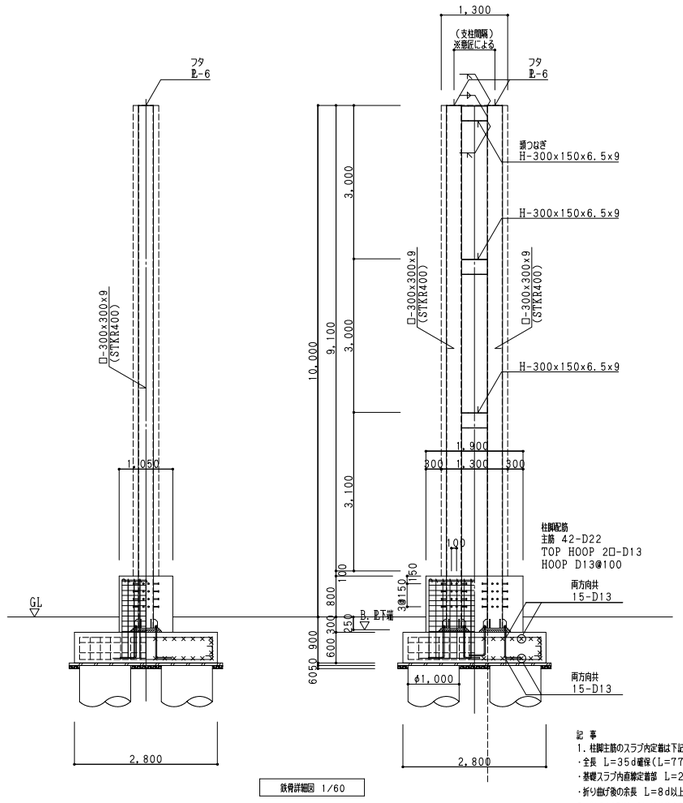


E-5 放水注意サイン　S＝1/5

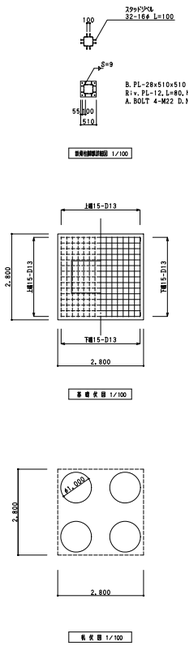
S＝1/5

E-6 懸垂幕掲示塔　S=1/60,100





鉄骨詳細図 1/60



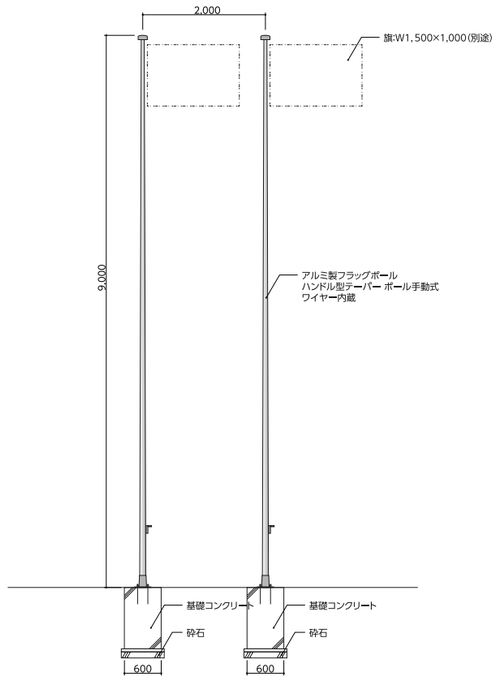
改良杭仕様

・実 改 良 長 ：6.10m(GL-0.900~-7.000m)
・改　良　径 ：φ1,000×4本
・設計基準強度　：Fc=450.0kN/㎡
・配合量　：400.0kgf/m³（六番クロムフリー系改質剤）
※上記配合量は計画であり、最終的な配合量はサンプル採取後の配合試験により決定するものとする。

・必要地耐力(杭状改良杭上盤にて)
(長 期) 50kN/㎡(5tf/㎡)
(短 期)100kN/㎡(10tf/㎡)

記 事
1. 柱脚主筋のスラブ内定着は下記による事。
・全長 L=35d確保(L=770mm以上)。
・基礎スラブ内直線定着部 L=20d以上確保。
・折り曲げ後の余長 L=8d以上確保。
2. 特記なき限り，鋼材はSS400，コンクリート強度はFc21とする。

E-7 旗竿　S=1/50



安井・太陽設計共同体 管理建築士一級建築士第129267号　高田　茂	新潟市建築部公共建築第1課	工事名 新潟市消防局・中央消防署庁舎　庁舎棟　建設工事	図名 外部サイン(2)
		年月日 2012.11	縮尺 図示 / 図面番号 G-42